PNC TM[illegible] 94-[illegible] (1)

2

[illegible]

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅰ分冊：定置式モニタ

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

放射線管理用機器点検整備技術要領書改訂の履歴

改訂No.	改訂年月日	改訂の理由
制定	昭和59年	－
改訂1	平成2年12月24日	臨界警報装置のγ検出器（回路試験）に「異物の確認」を追加した。
改訂2	平成4年3月25日	定置式モニタの点検頻度を見直し、γ線エリアモニタ、n線エリアモニタ、β線ダストモニタ、Puダストモニタ、排気モニタ、ダストガスモニタ、非常退避警報の月例検査を削除した。
改訂3	平成4年5月20日	Puダストモニタの校正用線源（PuからAm）の変更に伴い、関連する項目の見直しを行った。
改訂4	平成4年6月1日	臨界警報装置の全面見直しを行った。
改訂5	平成5年1月11日	点検方法や基準値の見直し、点検対象機器の追加及び様式の変更を行うとともに、第Ⅰ分冊：定置式モニタ、第Ⅱ分冊：臨界警報装置、第Ⅲ分冊：放射能測定装置類、第Ⅳ分冊：サーベイメータ類とした。
改訂6	平成8年6月4日	第Ⅰ分冊～第Ⅳ分冊の点検方法や基準値の見直しを行った。また、第Ⅱ分冊：臨界警報装置へ予防保全に係わる部品交換、第Ⅲ分冊：放射能測定装置類へモジュール等の単体検査及びαチェッカーの総合検査を追加した。

PNC TN8520 96-001 (1)

社内資料

本資料は　年　月　日付けで登録区分、
変更する。　13.6.20
[技術情報室]

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅰ分冊：定置式モニタ

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184　茨城県那珂郡東海村大字村松4番地49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部　技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki, 319-1184
Japan

ⓒ核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2001

放射線管理用機器点検整備技術要領書

東海事業所の各施設で使用している放射線管理用機器の定期点検の実施については、再処理施設保安規定、核燃料物質使用施設保安規定、放射線保安規則、放射線障害予防規定、再処理施設放射線管理基準、核燃料物質使用施設放射線管理基準に定められている。

この要領書は、これらの保安規定、放射線管理基準等に規定されている放射線管理用機器の定期点検に関する技術的な方法等を具体的に記述したものであり、放射線管理第一課員が、この内容を熟知することにより放射線管理用機器の定期点検業務の円滑な遂行を目的に作成したものである。

本要領は、第Ⅰ分冊：定置式モニタ、第Ⅱ分冊：臨界警報装置、第Ⅲ分冊：放射能測定装置類、第Ⅳ分冊：サーベイメータ類により構成されている。また、それぞれの分冊において点検整備技術要領書一覧、点検整備構成表、点検項目及び点検頻度、点検整備技術要領、点検整備記録書について記載してある。

この要領書の記載内容は、必要に応じて随時追補変更される。

以上

放射線管理用機器点検整備技術要領書

（総　　目　　次）

第Ⅰ分冊　定置式モニタ

第Ⅱ分冊　臨界警報装置

第Ⅲ分冊　放射能測定装置類

第Ⅳ分冊　サーベイメータ類

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅰ分冊：定置式モニタ

1．点検整備技術要領書一覧

2．点検整備構成表

3．点検項目及び点検頻度

4．点検整備技術要領書

5．点検整備記録書

1．　点検整備技術要領書一覧

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	γ線エリアモニタ	―――	東芝	CB, MP, AAF	11AAA01
2	γ線エリアモニタ	―――	東芝	E, Z, UO3, C, IF	11AAA02
3	γ線エリアモニタ	―――	東芝	2ASP-ST, 2HS	11AAA03
4	γ線エリアモニタ	―――	東芝	ST, DN, HAW, Pu-con	11AAA04
5	γ線エリアモニタ	―――	東芝	ASP, ASP-ST, Kr	11AAA05
6	γ線エリアモニタ	―――	東芝	WS	11AAA06
7	γ線エリアモニタ	―――	東芝	CPF	11AAA07
8	γ線エリアモニタ	―――	東芝	Pu-3	11AAA08
9	γ線エリアモニタ	―――	東芝	PWSF	11AAA09
10	γ線エリアモニタ	―――	東芝	校正室	11AAA10

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	中性子線エリアモニタ	―――	東芝	MP	11AAB01
2	中性子線エリアモニタ	―――	東芝	Pu-con	11AAB02
3	中性子線エリアモニタ	―――	東芝	CPF	11AAB03
4	中性子線エリアモニタ	―――	東芝	Pu-3	11AAB04
5	中性子線エリアモニタ	―――	東芝	校正室	11AAB05
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成８年３月

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α線用空気モニタ	―――	東芝	CPF	１１ＡＡＣ０１
2	α線用空気モニタ	―――	東芝	Pu-2	１１ＡＡＣ０２
3	α線用空気モニタ	―――	東芝	Pu-3	１１ＡＡＣ０３
4	α線用空気モニタ	―――	東芝	PWTF	１１ＡＡＣ０４
5	α線用空気モニタ	―――	東芝	Pu-1	１１ＡＡＣ０５
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	β（γ）線ダストモニタ	―――	東芝	CB, MP, AAF	１１ＡＡＤ０１
2	β（γ）線ダストモニタ	―――	東芝	ST, DN, HAW	１１ＡＡＤ０２
3	β（γ）線ダストモニタ	―――	東芝	ASP	１１ＡＡＤ０３
4	β（γ）線ダストモニタ	―――	東芝	C, 2ASP-ST, 2HS, IF	１１ＡＡＤ０４
5	β（γ）線ダストモニタ	―――	東芝	CPF	１１ＡＡＤ０５
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	プルトニウムダストモニタ	―――	東芝	CB, MP	11AAE01
2	プルトニウムダストモニタ	―――	東芝	Pu-con	11AAE02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気モニタ	―――	東芝	MP No.1	11AAF01
2	排気モニタ	―――	東芝	MP No.2	11AAF02
3	排気モニタ	―――	東芝	CB, AAF	11AAF03
4	排気モニタ	―――	東芝	ASP, ASP-ST	11AAF04
5	排気モニタ	―――	東芝	ASP(付排)	11AAF05
6	排気モニタ	―――	東芝	2ASP-ST	11AAF06
7	排気モニタ	―――	東芝	2HS	11AAF07
8	排気モニタ	―――	東芝	Kr	11AAF08
9	排気モニタ	―――	東芝	ST, HAW	11AAF09
10	排気モニタ	―――	東芝	DN	11AAF10

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
11	排気モニタ	―――	東芝	E,Z	11AAF11
12	排気モニタ	―――	東芝	Pu-con	11AAF13
13	排気モニタ	―――	東芝	C, IF	11AAF14
14	排気モニタ	―――	東芝	CPF	11AAF15
15	排気モニタ	―――	東芝	Pu-3	11AAF16
16	排気モニタ	―――	東芝	PWTF	11AAF17
17	排気モニタ	―――	東芝	A, B, F, J, G棟	11AAF18
18	排気モニタ	―――	富士電機	(Pu-1)RMO	11AAF19
19	排気モニタ	―――	富士電機	(Pu-1)R-125	11AAF20
20	排気モニタ	―――	富士電機	(Pu-1)ﾓｯｸｱｯﾌﾟ	11AAF21

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
21	排気モニタ	―――	東芝	(Pu-1)新ウラン	11AAF22
22	排気モニタ	―――	富士電機	(Pu-2)RMO	11AAF23
23	排気モニタ	―――	アロカ	PWSF	11AAF24
24	排気モニタ	―――	富士電機	M棟, 2U03	11AAF25
25	排気モニタ	―――	アロカ	L棟	11AAF26
26	排気モニタ	―――	アロカ	応用試験棟	11AAF27
27					
28					
29					
30					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ダストガスモニタ	―――	東芝	MP	11AAG01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	定置式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	HPパネル，RMパネル	―――	東芝	全施設共通	11IAA01
2	HPデスク，RMデスク	―――	東芝	全施設共通	11IAB01
3	警報表示盤	―――	東芝	全施設共通	11IAC01
4	非常退避警報	―――	東芝	全施設共通	11IMAK1
5	ドア警報	―――	東芝	全施設共通	11IAAK1
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	γ線エリアモニタ検出器	RD212G1/G4	東芝	全施設共通	１４ＪＡＡ０１
2	γ線エリアモニタ検出器	ＲＤ２２５	東芝	全施設共通	１４ＪＡＡ０２
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	中性子線エリアモニタ検出器	ＲＤ４０２	東芝	CPF	１４ＪＡＢ０１
2	中性子線エリアモニタ検出器	ＲＤ４０５	東芝	MP, Pu-con, Pu-3	１４ＪＡＢ０２
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α線ダストモニタ検出器	RD622B	東芝	CPF,PWTF,Pu-2/3	14JAC01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	β線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	再処理施設，CPF	14JAD01
2	β線ダストモニタ検出器	RD372	東芝	再処理施設	14JAD02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	プルトニウムダストモニタ検出器	RD622B	東芝	CB, MP, Pu-con	14JAE01
2	プルトニウムダストモニタ検出器	RM344	東芝	Pu-con	14JAE02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	全施設共通	14JAF01
2	ZnSシンチレーション検出器	ZD-1005B	アロカ	L棟	14JAF02
3	前置増幅器	PAM1024	アロカ	L棟	14JAF03
4	排気α線ダストモニタ検出器	NFL11001	富士電機	Pu燃，濃縮施設	14JAF04
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気β線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	再処理施設	14JAG01
2	排気β線ダストモニタ検出器	RD372	東芝	E, Z, C, IF, TVF	14JAG02
3	GM管検出器	―――	アロカ	応用試験棟	14JAG03
4	前置増幅器	PAM1025	アロカ	応用試験棟	14JAG04
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気よう素（129）モニタ検出器	RD361I	東芝	再処理施設	14JAH01
2	排気よう素モニタ検出器	RD361IG2	東芝	再処理施設	14JAH02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成８年３月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気よう素（１３１）モニタ検出器	ＲＤ３６１Ｎ	東芝	再処理施設	１４ＪＡＩ０１
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気クリプトン（低）モニタ検出器	ＲＤ２１４	東芝	再処理工場，CPF	１４ＪＡＪ０１
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気クリプトン（高）モニタ検出器	RD361N	東芝	再処理工場，CPF	14JAK01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気クリプトン（広帯域）モニタ検出器	RD381	東芝	E，Z，TVF	14JAL01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ガスモニタ検出器	RD1309	大倉電気	ASP, ASP-ST	14JAM01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　検出器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	定電圧低圧電源	D－３０２／A	ＮＡＩＧ	全施設共通	１４KAA０１
2	定電圧低圧電源	D－３０９／A	ＮＡＩＧ	全施設共通	１４KAA０２
3	定電圧低圧電源	D－３１０	ＮＡＩＧ	全施設共通	１４KAA０３
4	定電圧低圧電源	ＮＦＶ	富士電機	全施設共通	１４KAA０４
5	定電圧低圧電源	AM－８３０１	アロカ	L棟，応用試験棟	１４KAA０５
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	低圧電源ユニット	RU813/RU814	東芝	全施設共通	１４KAB０１
2	低圧電源ユニット	RU817/RU818	東芝	全施設共通	１４KAB０２
3	低圧電源ユニット	ＲＵ８２５	東芝	全施設共通	１４KAB０３
4	低圧電源ユニット	NMO11960-G1-G2	東芝	再処理施設	１４KAB０４
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	高圧電源	D－152A	NAIG	全施設共通	14KAC01
2	高圧電源	D－503	NAIG	全施設共通	14KAC02
3	高圧電源	D－504	NAIG	全施設共通	14KAC03
4	高圧電源	NFV210	富士電機	Pu燃料工場，濃縮	14KAC04
5	高圧電源	AM-81M52B	アロカ	L棟	14KAC05
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	線形増幅器	D－129	NAIG	全施設共通	14KAD01
2	線形増幅器	D－129A	NAIG	全施設共通	14KAD02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	波高分析器	D－１０４	ＮＡＩＧ	全施設共通	１４ＫＡＥ０１
2	波高分析器	D－５２１	ＮＡＩＧ	全施設共通	１４ＫＡＥ０２
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	直線ゲート	D－１１６	ＮＡＩＧ	Pu-con, Pu-2	１４ＫＡＦ０１
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成８年３月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	対数計数率計	Ｄ－３０４	ＮＡＩＧ	再処理施設	１４ＫＡＧ０１
2	線形計数率計	ＮＦＲ－１	富士電機	Pu燃料工場，濃縮	１４ＫＡＧ０２
3	リニアカウントレートメータ	AM-43M10	アロカ	応用試験棟	１４ＫＡＧ０３
4	電位計モジュール	―――	ＪＲＥＣ	再処理施設	１４ＫＡＧ０４
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デジタルレートメータ	Ｄ－３２１	ＮＡＩＧ	再処理施設，CPF	１４ＫＡＨ０１
2	デジタルレートメータ	RU738A/RU738B	東芝	全施設共通	１４ＫＡＨ０２
3	デジタルレートメータ	ＮＦＷ	富士電機	Pu燃料工場	１４ＫＡＨ０３
4	デジタル計数率計モジュール	AM-42M03R	アロカ	L棟	１４ＫＡＨ０４
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	カウンタ	RU742	東芝	全施設共通	14KAI01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デュアルカウンタ	D－542	NAIG	全施設共通	14KAJ01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デュアルカウンタ／タイマ	D－541	NAIG	全施設共通	14KAK01
2	デュアルカウンタ／タイマ	―――	NAIG	再処理施設	14KAK02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	信号切換器	RU718S	東芝	全施設共通	14KAQ02
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	信号変換器	RU717	東芝	全施設共通	14KAR01
2	信号変換器	RU723	東芝	全施設共通	14KAR02
3	信号変換器	RU969	東芝	全施設共通	14KAR03
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	警報変換器	RU740	東芝	全施設共通	14KAS01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	V／F変換器	RU714	東芝	全施設共通	14KAT01
2	V／F変換器	RU734B	東芝	全施設共通	14KAT02(1)
3	V／F変換器	RU734	東芝	全施設共通	14KAT02(2)
4	V／F変換器	RU714,714(OP-1) 714 (OP-2)	東芝	全施設共通	14KAT02(3)
5	V／F変換器	RU734H RU714 (OP-4)	東芝	全施設共通	14KAT02(4)
6	V／F変換器	RU714 (OP-3)	東芝	全施設共通	14KAT02(5)
7	V／F変換器	RU734D ES508	東芝	全施設共通	14KAT02(6)
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ラインドライバ	RU704	東芝	MP	14KAU01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ラインレシーバ	RU119	東芝	安全管理棟	14KAV01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	アラームロジック	D－306A	NAIG	再処理施設，CPF	14KAW01
2	警報出力モジュール	AM-91M01B	アロカ	L棟	14KAW02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ワーニングセット	RU705	東芝	再処理施設	14KAX01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	カウンタスキャナ	D－544	NAIG	全施設共通	14KAY01
2	DRMスキャナ	RU739A/B	東芝	全施設共通	14KAY02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	制御リレーモジュール	RU715A	東芝	全施設共通	14KAZ01(1)
2	制御リレーモジュール	RU715B	東芝	全施設共通	14KAZ01(2)
3	制御リレーモジュール	RU715G1	東芝	全施設共通	14KAZ02(1)
4	制御リレーモジュール	RU715C	東芝	全施設共通	14KAZ02(2)
5	制御リレーモジュール	RU715G2	東芝	CPF	14KAZ03
6	制御リレーモジュール	RU716	東芝	全施設共通	14KAZ04(1)
7	制御リレーモジュール	RU720F・H・G	東芝	全施設共通	14KAZ04(2)
8	制御リレーモジュール	RU720E・J	東芝	全施設共通	14KAZ04(3)
9	制御リレーモジュール	RU720B ES118	東芝	全施設共通	14KAZ04(4)
10	制御リレーモジュール	RU720A	東芝	全施設共通	14KAZ04(5)

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デジタルポート	D－592	NAIG	再処理施設，CPF	14KBA01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	現場警報器	RZ152A/RZ152B	東芝	全施設共通	14KBB01
2	現場警報器	RZ165	東芝	全施設共通	14KBB02
3	現場警報器	NMO11510/RU939	東芝	全施設共通	14KBB03
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	積算流量計	M-694-P-D-2B	東京計装	再処理施設	１４ＫＢＪ０１
2	マスフローメータ	TF3121/TM5123	東京計装	全施設共通	１４ＫＢＪ０２
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排気モニタサンプリングユニット	RM330/RZ133	東芝	再処理施設，CPF	１４ＫＢＫ０１
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ポンプユニット	RZ－116	東芝	Pu-3	14KBL01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	β線ダストモニタサンプリングユニット	RM329	東芝	再処理施設，CPF	14KBM01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α線ダストサンプラ	RD－622B	東芝	全施設共通	14KBN01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ドライポンプ	KRS6/KRS8	オリオン	全施設共通	14KBO01
2	吸引機	―――	――	Pu燃料工場	14KBO02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	線量表示器	RZ350	東芝	Pu-3	14KBP01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	OMライン	RZ139	東芝	全施設共通	14KBQ01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	負圧警報表示盤	―――	東芝	再処理施設	14KBR01
2	警報補助盤	―――	東芝	再処理施設	14KBR02
3	リレー盤	―――	東芝	全施設共通	14KBR03
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	その他モジュール，ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	打点式記録計	ER180 シリーズ	横河電機	全施設共通	１４ＰＡＡ０１
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	定置式モニタ　単体機器類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ハイブリットレコーダ	4081，RD2400	横河電機	全施設共通	１４ＰＡＢ０１
2	ハイブリットレコーダ	μR180シリーズ	横河電機	全施設共通	１４ＰＡＢ０２
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

2. 点検整備構成表

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ガンマ線エリアモニタ		施設名	再処理工場　1		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA01	11AAA01	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD225	東芝	14JAA02	14JAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739A	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	ガンマ線エリアモニタ		施 設 名	再処理工場　2		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA04	11AAA04	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD212	東　芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東　芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号変換器	RU723	東　芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東　芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ガンマ線エリアモニタ		施設名	再処理工場　3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA05	11AAA05	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD212	東芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	低圧電源ユニット	RU813	東芝	14KAB01	14KAB01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	信号変換器	RU969	東芝	14KAR03	14KAR03	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ガンマ線エリアモニタ		施設名	CPF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA07	11AAA07	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD212	東芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号変換器	RU717	東芝	14KAR01	14KAR01	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	記録計	μR180T	横河電機	14PAB02	14PAB02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ガンマ線エリアモニタ		施設名	Pu－3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA08	11AAA08	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD212	東芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	線量表示器	RZ350	東芝	14KBP01	14KBP01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ガンマ線エリアモニタ		施設名	PWSF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA09	11AAA09	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD212	東芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ガンマ線エリアモニタ		施設名	校正室		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAA09	11AAA09	2回／年
回路試験	ガンマ線エリアモニタ検出器	RD212	東芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	ビン電源	E591/502	NAIG	14LAF01	14LAF01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	中性子線エリアモニタ		施設名	MP		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAB01	11AAB01	2回／年
回路試験	中性子線エリアモニタ検出器	RD405	東芝	14JAB02	14JAB02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739A	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	中性子線エリアモニタ		施設名	Pu－con		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAB02	11AAB02	2回／年
回路試験	中性子線エリアモニタ検出器	RD405	東芝	14JAB02	14JAB02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	中性子線エリアモニタ		施設名	CPF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAB03	11AAB03	2回／年
回路試験	中性子線エリアモニタ検出器	RD402	東芝	14JAA01	14JAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号変換器	RU717	東芝	14KAR01	14KAR01	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	記録計	μR180T	横河電機	14PAB02	14PAB02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	中性子線エリアモニタ		施設名	Pu－3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAB04	11AAB04	2回／年
回路試験	中性子線エリアモニタ検出器	RD405	東芝	14JAB02	14JAB02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	線量表示器	RZ350	東芝	14KBP01	14KBP01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	中性子線エリアモニタ		施設名	校正室		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAB05	11AAB05	2回／年
回路試験	中性子線エリアモニタ検出器	RD405	東芝	14JAB02	14JAB02	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	ビン電源	E591/502	NAIG	14LAF01	14LAF01	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	アルファ線用空気モニタ		施設名	CPF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAC01	11AAC01	2回／年
回路試験	アルファ線用空気モニタ検出器	RD622B	東芝	14JAC01	14JAC01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	直線ゲート	D116	NAIG	14KAF01	14KAF01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号切換器	RU718S	東芝	14KAQ02	14KAQ02	1回／年
	信号変換器	RU717	東芝	14KAR01	14KAR01	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ02	14KAZ02	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	α線ダストサンプラ	RD622B	東芝	14KBN01	14KBN01	1回／年
	記録計	μR180T	横河電機	14PAB02	14PAB02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	アルファ線用空気モニタ		施設名	Pu－2		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAC02	11AAC02	2回／年
回路試験	アルファ線用空気モニタ検出器	RD622B	東芝	14JAC01	14JAC01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	直線ゲート	D116	NAIG	14KAF01	14KAF01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号切換器	RU718S	東芝	14KAQ02	14KAQ02	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ02	14KAZ02	1回／年
	現場警報器	RZ152B	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	α線ダストサンプラ	RD622B	東芝	14KBN01	14KBN01	1回／年
	記録計	μR180T	横河電機	14PAB02	14PAB02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	アルファ線用空気モニタ		施設名	Pu－3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAC03	11AAC03	2回／年
回路試験	アルファ線用空気モニタ検出器	RD622B	東芝	14JAC01	14JAC01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ02	14KAZ02	1回／年
	現場警報器	RZ152B	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	α線ダストサンプラ	RD622B	東芝	14KBN01	14KBN01	1回／年
	記録計	ER187	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	アルファ線用空気モニタ		施設名	PWTF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAC04	11AAC04	2回／年
回路試験	アルファ線用空気モニタ検出器	RD622B	東芝	14JAC01	14JAC01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D503	NAIG	14KAC02	14KAC02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ02	14KAZ02	1回／年
	現場警報器	RZ152B	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	記録計	ER187	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ベータ線ダストモニタ		施設名	再処理工場　1		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAD01	11AAD01	2回／年
回路試験	ベータ線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	14JAD01	14JAD01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739A	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ01	14KAZ01	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	β線ダストモニタサンプリングユニット	RM329	東芝	14KBM01	14KBM01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ベータ線ダストモニタ		施設名	再処理工場　2		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAD02	11AAD02	2回／年
回路試験	ベータ線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	14JAD01	14JAD01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ01	14KAZ01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	β線ダストモニタサンプリングユニット	RM329	東芝	14KBM01	14KBM01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ベータ線ダストモニタ		施設名	再処理工場　3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAD03	11AAD03	2回／年
回路試験	ベータ線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	14JAD01	14JAD01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	低圧電源ユニット	RU813	東芝	14KAB01	14KAB01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	信号変換器	RU969	東芝	14KAR03	14KAR03	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	β線ダストモニタサンプリングユニット	RM329	東芝	14KBM01	14KBM01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ベータ線ダストモニタ		施設名	再処理工場　4		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAD04	11AAD04	2回／年
回路試験	ベータ線ダストモニタ検出器	RD372	東芝	14JAD02	14JAD02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739A	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ01	14KAZ01	1回／年
	現場警報器	RZ152A	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	β線ﾀﾞｽﾄﾓﾆﾀｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM329	東芝	14KBM01	14KBM01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ベータ・ガンマ線用空気モニタ		施設名	CPF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAD05	11AAD05	2回／年
回路試験	ベータ線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	14JAD01	14JAD01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号変換器	RU717	東芝	14KAR01	14KAR01	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ01	14KAZ01	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	β線ダストモニタサンプリングユニット	RM329	東芝	14KBM01	14KBM01	1回／年
	記録計	μR180T	横河電機	14PAB02	14PAB02	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	プルトニウムダストモニタ		施設名	CB，MP		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAE01	11AAE01	2回／年
回路試験	Puダストモニタ検出器	RD622B	東芝	14JAE01	14JAE01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D504	NAIG	14KAC03	14KAC03	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739A	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ02	14KAZ02	1回／年
	現場警報器	RZ152B	東芝	14KBB01	14KBB01	1回／年
	α線ダストサンプラ	RD622B	東芝	14KBN01	14KBN01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	プルトニウムダストモニタ		施設名	Pu-con		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAE02	11AAE02	2回／年
回路試験	Puダストモニタ検出器	RM344	東芝	14JAE02	14JAE02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D504	NAIG	14KAC03	14KAC03	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	直線ゲート	D116	NAIG	14KAF01	14KAF01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	信号切換器	RU718S	東芝	14KAQ02	14KAQ02	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU715	東芝	14KAZ02	14KAZ02	1回／年
	現場警報器	NM011510	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	α線ダストサンプラ	RD622B	東芝	14KBN01	14KBN01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	MP		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF01	11AAF01	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361IG2	東芝	14JAH02	14JAH02	1回／年
	排気Kr（低）モニタ検出器	RD214	東芝	14JAJ01	14JAJ01	1回／年
	排気Kr（高）モニタ検出器	RD361N	東芝	14JAK01	14JAK01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	信号切換器	RU718	東芝	14KAQ01	14KAQ01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	ラインドライバ	RU704	東芝	14KAU01	14KAU01	1回／年
	ラインレシーバ	RU119	東芝	14KAV01	14KAV01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739A	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	リレー盤	———	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	CB，AAF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF03	11AAF03	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361IG2	東芝	14JAH02	14JAH02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	ASP，ASP－ST		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF04	11AAF04	2回／年
回路試験	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361I	東芝	14JAH01	14JAH01	1回／年
	ガスモニタ検出器	RD1309	大倉電気	14JAM01	14JAM01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU814	東芝	14KAB01	14KAB01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129	NAIG	14KAD01	14KAD01	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	ｴｱｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ	D307	NAIG	14KAM01	14KAM01	1回／年
	信号変換器	RU969	東芝	14KAR03	14KAR03	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	現場警報器	RU939	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	——	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	ASP付属排気筒		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF05	11AAF05	2回／年
回路試験	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361I	東芝	14JAH01	14JAH01	1回／年
	排気Kr（低）モニタ検出器	RD214	東芝	14JAJ01	14JAJ01	1回／年
	ガスモニタ検出器	RD1309	大倉電気	14JAM01	14JAM01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU814	東芝	14KAB01	14KAB01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	デュアルカウンタタイマ	D110A	NAIG	14KAK02	14KAK02	1回／年
	プリンタコントローラ	D123A	NAIG	14KAL01	14KAL01	1回／年
	ｴｱｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ	D307	NAIG	14KAM01	14KAM01	1回／年
	データコントローラ	P1075	NAIG	14KAN01	14KAN01	1回／年
	デジタルプリンタ	PRT2A	NAIG	14KAO01	14KAO01	1回／年
	デジタルクロック	P1074	NAIG	14KAP01	14KAP01	1回／年
	信号変換器	RU969	東芝	14KAR03	14KAR03	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	現場警報器	RU939	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	2ASP－ST		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF06	11AAF06	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361IG2	東芝	14JAH02	14JAH02	1回／年
	排気Kr（低）モニタ検出器	RD214	東芝	14JAJ01	14JAJ01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	———	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER187	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	2HS		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF07	11AAF07	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	———	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	Kr		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF08	11AAF08	2回／年
回路試験	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361N	東芝	14JAI01	14JAI01	1回／年
	排気Kr（低）モニタ検出器	RD214	東芝	14JAJ01	14JAJ01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU813	東芝	14KAB01	14KAB01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129	NAIG	14KAD01	14KAD01	1回／年
	波高分析器	D104	NAIG	14KAE01	14KAE01	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	ｴｱｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ	D307	NAIG	14KAM01	14KAM01	1回／年
	信号変換器	RU969	東芝	14KAR03	14KAR03	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	現場警報器	RU939	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	——	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	ST, HAW		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF09	11AAF09	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361I	東芝	14JAH01	14JAH01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAB03	14KAB03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU818	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	デュアルカウンタ	D542	NAIG	14KAJ01	14KAJ01	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	デジタルポート	D592	NAIG	14KBA01	14KBA01	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	DN		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF10	11AAF10	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAB03	14KAB03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU818	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	デュアルカウンタ	D542	NAIG	14KAJ01	14KAJ01	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	デジタルポート	D592	NAIG	14KBA01	14KBA01	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	E，Z		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF11	11AAF11	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	RD372	東芝	14JAG02	14JAG02	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361IG2	東芝	14JAH02	14JAH02	1回／年
	排気Kr（広帯域）ﾓﾆﾀ 検出器	RD381	東芝	14JAL01	14JAL01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRA8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	LW2		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF12	11AAF12	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361N	東芝	14JAI01	14JAI01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	低圧電源ユニット	NM011960	東芝	14KAB04	14KAB04	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129	NAIG	14KAD01	14KAD01	1回／年
	波高分析器	D104	NAIG	14KAE01	14KAE01	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	ｴｱｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ	D307	NAIG	14KAM01	14KAM01	1回／年
	信号変換器	RU969	東芝	14KAR03	14KAR03	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	現場警報器	RU939	東芝	14KBB03	14KBB03	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	——	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	C，IF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF14	11AAF14	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	RD372	東芝	14JAG02	14JAG02	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361IG2	東芝	14JAH02	14JAH02	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタサンプリングユニット	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRA8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	4081	横河電機	14PAB01	14PAB01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	CPF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF15	11AAF15	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361I	東芝	14JAH01	14JAH01	1回／年
	排気よう素モニタ検出器	RD361N	東芝	14JAI01	14JAI01	1回／年
	排気Kr（低）モニタ検出器	RD214	東芝	14JAJ01	14JAJ01	1回／年
	排気Kr（高）モニタ検出器	RD361N	東芝	14JAK01	14JAK01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAB03	14KAB03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU814	東芝	14KAB01	14KAB01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	線形増幅器	D129A	NAIG	14KAD02	14KAD02	1回／年
	波高分析器	D521	NAIG	14KAE02	14KAE02	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	デュアルカウンタ	D542	NAIG	14KAJ01	14KAJ01	1回／年
	信号変換器	RU717	東芝	14KAR01	14KAR01	1回／年
	V／F変換器	RU714	東芝	14KAT01	14KAT01	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	デジタルポート	D592	NAIG	14KBA01	14KBA01	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタサンプリングユニット	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	Pu－con		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF13	11AAF13	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	排気β線ダストモニタ検出器	D213	東芝	14JAG01	14JAG01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAB03	14KAB03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU818	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	D321	NAIG	14KAH01	14KAH01	1回／年
	デュアルカウンタ	D542	NAIG	14KAJ01	14KAJ01	1回／年
	信号変換器	RU723	東芝	14KAR02	14KAR02	1回／年
	V／F変換器	RU714	東芝	14KAT01	14KAT01	1回／年
	アラームロジック	D306A	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	カウンタスキャナ	D544	NAIG	14KAY01	14KAY01	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	デジタルポート	D592	NAIG	14KBA01	14KBA01	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	積算流量計	M690－P	東京計装	14KBJ01	14KBJ01	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS6	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ		施設名	Pu－3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF16	11AAF16	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	ポンプユニット	RZ116	東芝	14KBL01	14KBL01	1回／年
	ドライポンプ	KRS 8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	――	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER187	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気モニタ			施設名	PWTF	
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF17	11AAF17	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	定電圧低圧電源	D309A	NAIG	14KAA02	14KAA02	1回／年
	定電圧低圧電源	D310	NAIG	14KAA03	14KAA03	1回／年
	低圧電源ユニット	RU817	東芝	14KAB02	14KAB02	1回／年
	低圧電源ユニット	RU825	東芝	14KAB03	14KAB03	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738A	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	カウンタ	RU742	東芝	14KAI01	14KAI01	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	V／F変換器	RU734B	東芝	14KAT02	14KAT02	1回／年
	DRMスキャナ	RU739	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	現場警報器	RZ165	東芝	14KBB02	14KBB02	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	ドライポンプ	KRS8	オリオン	14KBO01	14KBO01	1回／年
	リレー盤	——	東芝	14KBR01	14KBR01	1回／年
	記録計	ER187	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気ダストモニタ		施設名	A, B, F, J, G棟 (Pu-1) 新ウラン		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF18	11AAF18	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	RD361Z	東芝	14JAF01	14JAF01	1回／年
	ビン電源	D-541/E502	NAIG	14LAF01	14LAF01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	デジタルレートメータ	RU738B	東芝	14KAH02	14KAH02	1回／年
	警報変換器	RU740	東芝	14KAS01	14KAS01	1回／年
	DRMスキャナ	RU739B	東芝	14KAY02	14KAY02	1回／年
	制御リレーモジュール	RU720	東芝	14KAZ04	14KAZ04	1回／年
	マスフローメータ	TF3100/TM5100	東京計装	14KBJ02	14KBJ02	1回／年
	排気モニタｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	RM330/RZ133	東芝	14KBK01	14KBK01	1回／年
	吸引機	———	—	14KBO02	14KBO02	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気ダストモニタ		施設名	（Pu－1）（Pu－2）RMO		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF19	11AAF19	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	NFL11001	富士電機	14JAF04	14JAF04	1回／年
	定電圧低圧電源	NFV	富士電機	14KAA04	14KAA04	1回／年
	高圧電源	NFV210	富士電機	14KAC04	14KAC04	1回／年
	デジタルレートメータ	NFW	富士電機	14KAH03	14KAH03	1回／年
	吸引機	——	—	14KBO02	14KBO02	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気ダストモニタ		施設名	（Pu－1）モックアップ，M棟，2UO3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF21	11AAF21	2回／年
回路試験	排気α線ダストモニタ検出器	NFL11001	富士電機	14JAF04	14JAF04	1回／年
	定電圧低圧電源	NFV	富士電機	14KAA04	14KAA04	1回／年
	高圧電源	NFV210	富士電機	14KAC04	14KAC04	1回／年
	線形計数率計	NFR	富士電機	14KAG02	14KAG02	1回／年
	吸引機	——	—	14KBO02	14KBO02	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	排気ダストモニタ		施設名	PWSF・応用試験棟・L棟		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAF24	11AAF24	2回／年
回路試験	ZnSシンチレーション検出器	ZD-1005B	アロカ	14JAF02	14JAF02	1回／年
	前置増幅器	PAM1024	アロカ	14JAF03	14JAF03	1回／年
	定電圧低圧電源	AM-8301	アロカ	14KAA05	14KAA05	1回／年
	高圧電源	AM-81M52B	アロカ	14KAC05	14KAC05	1回／年
	デジタルレートメータ	AM-42M03R	アロカ	14KAH04	14KAH04	1回／年
	警報出力モジュール	AM-91M01B	アロカ	14KAW02	14KAW02	1回／年
	吸引機	——	—	14KBO02	14KBO02	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ダストガスモニタ		施設名	MP		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査				11AAG01	11AAG01	2回／年
回路試験	ベータ線ダストモニタ検出器	RD213	東芝	14JAD01	14JAD01	1回／年
	定電圧低圧電源	D302A	NAIG	14KAA01	14KAA01	1回／年
	高圧電源	D152A	NAIG	14KAC01	14KAC01	1回／年
	対数計数率計	D304	NAIG	14KAG01	14KAG01	1回／年
	アラームロジック	D306	NAIG	14KAW01	14KAW01	1回／年
	ワーニングセット	RU705	東芝	14KAX01	14KAX01	1回／年
	記録計	ER186	横河電機	14PAA01	14PAA01	1回／年

3．　点検項目及び点検頻度

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．ガンマ線エリアモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④感度試験			○		○	
	⑤内部線源指示値の確認			○		○	
	⑥a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑥b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑦測定モードの確認			○		○	
	⑧指示値の測定			○		○	
2．中性子線エリアモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④感度試験			○		○	
	⑤a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑤b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑥測定モードの確認			○		○	
	⑦指示値の測定			○		○	
3．アルファ線ダストモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④計数効率測定			○		○	
	⑤関連動作の確認			○		○	
	⑥a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑥b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑦測定モードの確認			○		○	
	⑧ノイズレベルの測定			○		○	
	⑨指示値の測定			○		○	
4．ベータ線ダストモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④感度試験			○		○	
	⑤関連動作の確認			○		○	
	⑥a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑥b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑦測定モードの確認			○		○	
	⑧指示値の測定			○		○	
5．プルトニウムダストモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④計数効率測定			○		○	
	⑤関連動作の確認			○		○	
	⑥a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑥b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑦測定モードの確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
5．プルトニウムダストモニタ	⑧ノイズレベルの測定			○		○	
	⑨指示値の測定			○		○	
6．排気モニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④感度試験			○		○	
	⑤関連動作の確認			○		○	
	⑥a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑥b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑦測定モードの確認			○		○	
	⑧指示値の測定			○		○	
7．排気ダストモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④感度試験			○		○	
	⑤a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑤b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑥測定モードの確認			○		○	
	⑦指示値の測定			○		○	
8．ダストガスモニタ	①点検清掃			○		○	
	②点検前の指示値の確認			○		○	
	③指示計と記録計の指示精度				○	○	
	④感度試験			○		○	
	⑤関連動作の確認			○		○	
	⑥a警報系試験（警報設定精度）				○	○	
	⑥b警報系試験（警報動作確認）			○		○	
	⑦測定モードの確認			○		○	
	⑧指示値の測定			○		○	
9．HPパネル，RMパネル	①点検清掃			○		○	
	②盤内照明			○		○	
	③冷却用ファン			○		○	
	④パネル内整線状態の確認			○		○	
10．HPデスク，RMデスク	①点検清掃			○		○	
	②冷却用ファン			○		○	
	③デスク内整線状態の確認			○		○	
11．警報表示盤	①点検清掃			○		○	
	②低圧電源の確認			○		○	
	③警報表示動作の確認			○		○	
12．非常退避警報	①点検清掃			○		○	
	②警報動作の確認			○		○	
13．ドア警報	①点検清掃			○		○	
	②警報動作確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　検出器類	施　　設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．ガンマ線エリアモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③プラトー特性試験				○	○	
	④γ線照射試験				○	○	
	⑤内部線源計数値				○	○	
2．中性子線エリアモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器増幅度の測定				○	○	
	③プラトー特性試験				○	○	
	④中性子線源照射試験				○	○	
	⑤γ線照射試験				○	○	
3．アルファ線用空気モニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③校正試験				○	○	
	④計数効率測定				○	○	
	⑤ノイズレベルの測定				○	○	
4．ベータ線ダストモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③プラトー特性試験				○	○	
	④窒息防止回路の確認				○	○	
	⑤検出効率測定				○	○	
5．プルトニウムダストモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③校正試験				○	○	
	④計数効率測定				○	○	
	⑤ノイズレベルの測定				○	○	
6．排気アルファ線ダストモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③検出効率の測定				○	○	
7．排気ベータ線ダストモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③プラトー特性試験				○	○	
	④窒息防止回路の確認				○	○	
	⑤検出効率測定				○	○	
8．排気よう素検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③校正試験				○	○	
	④計数効率測定				○	○	
9．排気クリプトン（低）モニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	
	③プラトー特性試験				○	○	
	④窒息防止回路の確認				○	○	
	⑤検出感度測定				○	○	
10．排気クリプトン（高）モニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②前置増幅器				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　検出器類	施　設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
10. 排気クリプトン（高）モニタ検出器	③校正試験				○	○	
	④検出感度測定				○	○	
11. ガスモニタ検出器	①点検清掃				○	○	
	②実流試験				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　ﾓｼﾞｭｰﾙ･ﾕﾆｯﾄ類	施　設	全施設共通	1／3

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．定電圧低圧電源	①点検清掃				○	○	
	②出力電圧の確認				○	○	
	③電圧変動率の測定				○	○	
	④リップルノイズの測定				○	○	
	⑤最大容量の確認				○	○	
2．低圧電源ユニット	①点検清掃				○	○	
	②出力電圧測定				○	○	
	③絶縁抵抗の測定				○	○	
3．高圧電源	①点検清掃				○	○	
	②出力電圧の確認				○	○	
	③電圧設定精度の確認				○	○	
	④負荷変動リップルノイズの測定				○	○	
4．線形増幅器	①点検清掃				○	○	
	②利得の測定				○	○	
	③波形整形時定数の測定				○	○	
	④雑音の測定				○	○	
5．波高分析器	①点検清掃				○	○	
	②入力動作範囲の確認				○	○	
	③分解能測定				○	○	
6．直線ゲート	①点検清掃				○	○	
	②直線性				○	○	
	③ディレイタイムの測定				○	○	
	④立上がり立下がり時間の測定				○	○	
	⑤ペデスタブルの測定				○	○	
7．対数計数率計	①点検清掃				○	○	
	②入力レベルの確認				○	○	
	③非直線性の確認				○	○	
	④ＥＸＴ．ＭＥＴＥＲの確認				○	○	
	⑤警報回路の確認				○	○	
8．デジタルレートメータ	①点検清掃				○	○	
	②入力レベルの確認				○	○	
	③非直線性の確認				○	○	
	④警報回路の確認				○	○	
	⑤デジタル出力の確認				○	○	
9．カウンタ	①点検清掃				○	○	
	②ディスクリ電圧の確認				○	○	
	③クロック周波数の確認				○	○	
	④移動平均処理値の確認				○	○	
	⑤GPIB DRM BUS　伝送動作の確認				○	○	
10．デュアルカウンタ	①点検清掃				○	○	
	②ディスクリレベルの確認				○	○	
	③計数動作の確認				○	○	
	④分解能の測定				○	○	
	⑤ゲート動作の確認				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　ﾓｼﾞｭｰﾙ･ﾕﾆｯﾄ類	施　設	全施設共通	2／3

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
10. デュアルカウンタ	⑥操作モードの確認				○	○	
	⑦データ出力動作の確認				○	○	
11. デュアルカウンタタイマ	①点検清掃				○	○	
	②プリセット動作の確認				○	○	
	③ディスクリレベルの確認				○	○	
	④計数動作の確認				○	○	
	⑤クロックパルスの確認				○	○	
	⑥分解能の測定				○	○	
	⑦ゲート動作の確認				○	○	
	⑧操作モードの確認				○	○	
	⑨データ出力動作の確認				○	○	
12. プリンタコントローラ	①点検清掃				○	○	
	②動作の確認				○	○	
	③波形の確認				○	○	
13. エアーサンプリングコントローラ	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
14. データコントローラ	①点検清掃				○	○	
	②電源電圧の確認				○	○	
	③動作の確認				○	○	
15. デジタルプリンタ	①点検清掃				○	○	
	②動作の確認				○	○	
	③印字の確認				○	○	
16. デジタルクロック	①点検清掃				○	○	
	②動作の確認				○	○	
	③基準信号の確認				○	○	
17. 信号切換器	①点検清掃				○	○	
	②信号切換動作の確認				○	○	
18. 信号変換器	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
19. 警報変換器	①点検清掃				○	○	
	②レギュレータ出力の確認				○	○	
	③アラーム動作の確認				○	○	
	④リセット動作の確認				○	○	
	⑤ＴＥＳＴ動作の確認				○	○	
	⑥ＣＨＥＣＫ信号動作の確認				○	○	
	⑦システムテスト入力の確認				○	○	
20. Ｖ／Ｆ変換器	①点検清掃				○	○	
	②直線性の確認				○	○	
	③出力波形の確認				○	○	
21. ラインドライバー	①点検清掃				○	○	
	②入出力の確認				○	○	
	③出力波形の確認				○	○	
22. ラインレシーバ	①点検清掃				○	○	
	②入出力の確認				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　ﾓｼﾞｭｰﾙ･ﾕﾆｯﾄ類	施　設	全施設共通	3／3

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
22. ラインレシーバ	③出力波形の確認				○	○	
23. アラームロジック	①点検清掃				○	○	
	②出力信号の確認				○	○	
	③アラーム表示の確認				○	○	
	④リセット動作の確認				○	○	
24. 警報出力モジュール	①点検清掃				○	○	
	②アラーム動作確認				○	○	
	③リセット信号出力確認				○	○	
25. ワーニングセット	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
26. カウンタスキャナ	①点検清掃				○	○	
	②ＩＢ側入出力動作				○	○	
	③機器側入出力動作				○	○	
	④動作確認				○	○	
27. ＤＲＭスキャナ	①点検清掃				○	○	
	②クロック周波数確認				○	○	
	③電源断検出用比較電圧の設定				○	○	
	④ﾗﾝﾌﾟ/ﾌﾞｻﾞｰﾃｽﾄ動作の確認				○	○	
	⑤GPIB DRM BUS伝送動作の確認				○	○	
28. 制御リレーモジュール	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
29. デジタルポート	①点検清掃				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　単体機器類	施　　設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．現場警報器	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
	③音量可変動作の確認				○	○	
	④絶縁抵抗値の測定				○	○	
2．流量積算計	①点検清掃				○	○	
	②直線性の確認				○	○	
	③流量積算値の確認				○	○	
3．マスフローメータ	①点検清掃				○	○	
	②出力電圧（電流）の直線性				○	○	
	③チェック動作の確認				○	○	
4．排気モニタサンプリングユニット	①点検清掃				○	○	
	②様態の点検				○	○	
	③圧力計の校正				○	○	
	④流量の校正				○	○	
	⑤漏洩の確認				○	○	
5．ポンプユニット	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
	③負圧警報動作				○	○	
6．β線サンプリングユニット	①点検清掃				○	○	
	②様態の点検				○	○	
	③流量の校正				○	○	
	④漏洩の確認				○	○	
7．α線ダストサンプラ	①点検清掃				○	○	
	②様態の点検				○	○	
	③流量の校正				○	○	
	④流量制御の確認				○	○	
	⑤漏洩の確認				○	○	
8．ドライポンプ	①点検清掃				○	○	
	②ベルトの点検				○	○	
	③ポンプの音熱の異常				○	○	
	④動作確認				○	○	
	⑤絶縁抵抗測定				○	○	
	⑥消費電流の測定				○	○	
9．吸引機	①点検清掃				○	○	
	②ベルトの点検				○	○	
	③動作確認				○	○	
	④絶縁抵抗測定				○	○	
	⑤消費電流の測定				○	○	
10．線量表示器	①点検清掃				○	○	
	②電源電圧の確認				○	○	
	③入出力特性の確認				○	○	
	④表示動作の確認				○	○	
	⑤絶縁抵抗の測定				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別・機種	回路試験　単体機器類	施　　設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
11. OMライン	①点検清掃				○	○	
	②導通試験				○	○	
	③絶縁抵抗の測定				○	○	
12. 負圧警報表示盤	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
13. 警報補助盤	①点検清掃				○	○	
	②低圧電源部の確認				○	○	
	③記録計部の確認				○	○	
	④サイレン				○	○	
	⑤エバケーション				○	○	
14. リレー盤	①点検清掃				○	○	
	②動作確認				○	○	
15. 記録計	①点検清掃				○	○	
	②記録機構				○	○	
	③記録紙送り機構				○	○	
	④指示試験				○	○	
16. ハイブリッド記録計	①点検清掃				○	○	
	②各機能動作の確認				○	○	
	③記録紙送り機構				○	○	
	④チャンネル切換機構				○	○	
	⑤指示試験認				○	○	

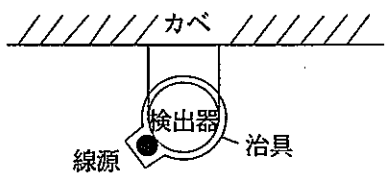
4. 点検整備技術要領書

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA01	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	再処理施設（CB，MP，AAF）		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	※年1回定期検査前に行う。
3．指示計と記録計の指示精度	DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^{3}(cpm)～ 1.9×10^{4}(cpm)	※1：点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、BG値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	DRMモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は数分後の値とする。	1.0×10^{3}(cpm)　※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA01	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ・ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ・ﾃﾞｽｸ ※₂ ・水処理(MP)γ１～３，γ13～15 ※₂ ・現場警報器 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ・ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ・ﾃﾞｽｸ ※₂ ・水処理(MP)γ１～３，γ13～15 ※₂ ・現場警報器 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	※₂ ＣＢ，ＡＡＦ施設ではパネル表示 ＭＰ施設ではディスク表示及びγ－１～３，については水処理パネル表示

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０１	3／3

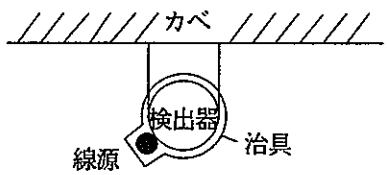
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm）	 ※各施設の設定値
高圧電源モジュール	高圧設定値	450(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA02	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	E，Z，UO_3，$2UO_3$，$3UO_3$，C，IF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^3(cpm)～ 1.9×10^4(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、BG値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	DRMモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した時の値とする。	1.0×10^3(cpm)　※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA02	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤　※₂ ・現場警報器 ・警報表示盤 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤　※₂ ・現場警報器 ・警報表示盤 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	 ※₂　E,C施設のみ表示
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^5 ※₃ ※₄　(cpm)	 ※₃　ＩＦ施設のみ 1×10^4 ※₄　各施設の設定値
高圧電源モジュール	高圧設定値	450(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０２	３／３

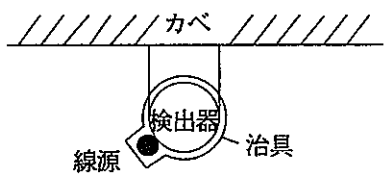
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
８．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０３	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＴＶＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）現場警報器のランプを点検する。 ５）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^{3}(cpm)～ 1.9×10^{4}(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、ＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。
５．内部線源指示値の確認	ＤＲＭモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した時の値とする。	1.0×10^{3}(cpm)　※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA03	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤（TVF G240） ・現場警報器 ・警報表示盤 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤（TVF G240） ・現場警報器 ・警報表示盤 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	ＯＰ(1) 1×10^{4} ※（cpm）	※各施設の設置値
高圧電源モジュール	高圧設定値	450(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０３	３／３

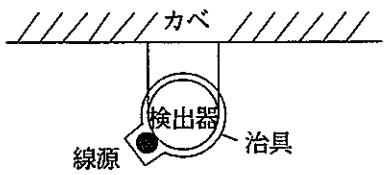
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
８．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA04	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ST，DN，HAW，Pu－con施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、DRMモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45° 方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^3(cpm)～ 1.9×10^4(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、BG値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	DRMモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は数分後の値とする。	1.0×10^3 (cpm) ※1，※2 ±0.24(dec.)以内	※2 Pu-con施設のみ 7.0×10^2(cpm) ±0.24(dec.)以内

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA04	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・現場警報器 ・(MP)ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾃﾞｽｸ ※3 ・ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ ※4 ・中央監視室　※5 ・警報表示盤 ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・現場警報器 ・(MP)ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾃﾞｽｸ ※3 ・ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ ※4 ・中央監視室　※5 ・警報表示盤 Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　音 異常がないこと	※3 ＨＡＷ施設のみ表示 ※4 ＤＮ施設のみ表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA04	3／3

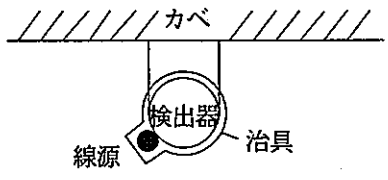
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	470(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０５	1／3

改訂　平成８年３月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｋｒ施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、対数計数率計前面パネルの AMP OUT端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより1×10^{3},1×10^{5},5×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定したときの値とする。	入力に対して 対数計数率計　±0.2(dec.) 記録計　±0.2(dec.）以内	※年１回定期検査前に行う。
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し、感度を求める。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 3.6×10^{3}(cpm)～ 1.9×10^{4}(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、ＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	対数計数率計のＲＡＮＧＥスイッチを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した値とする。	1.0×10^{3}（cpm）※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０５	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しビン背面の入力コネクタを外す。対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。対数計数率計の警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 ＲＭにて±0.2(dec.）以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・現場警報器 ・警報表示盤 ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・現場警報器 ・警報表示盤 Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール ３）リセット動作 ＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA05	3／3

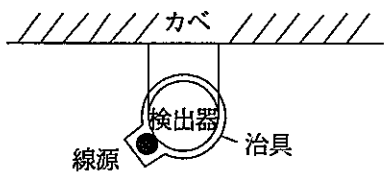
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 RMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 RANGE 警報レベル	 ×　1 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	470(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA06	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ASP,ASP－ST,2ASP－ST,2HS,WS施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，5×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^3(cpm)～ 1.9×10^4(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、ＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	ＤＲＭモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した時の値とする。	1.0×10^3（cpm）※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA06	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設置値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤　※₂ ・現場警報器 ・警報表示盤 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤　※₂ ・現場警報器 ・警報表示盤 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	 ※₂ ＷＳ施設を除く
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^4 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	450(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０６	３／３

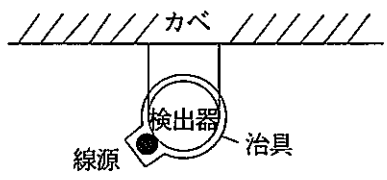
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
８．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０７	1／3

改訂　平成８年３月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＣＰＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより１×10^3，１×10^5，１×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^3(cpm)～ 1.9×10^4(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、ＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	ＤＲＭモジュールのスイッチを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した時の値とする。	1.0×10^3（cpm）※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA07	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・玄関ホール・パネル ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・玄関ホール・パネル Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ０７	３／３

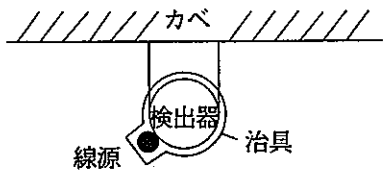
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ ＯＰランプ 警報レベル	 ＯＰ(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	470(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	ＡＵＴＯ	
ＣＲＴ	表示の確認	異常がないこと	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA08	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Pu－3施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器、線量表示器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}, 1×10^{5}, 1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10^{1} ”にすること。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。 下図の様に取りつける。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^{1}(μSv/h) ～ 1.9×10^{2}(μSv/h)	※1 点検前の指示値が 1.0×10^{0}（μSv/h）以上の場合は10のケタを四捨五入しＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA08	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
5．内部線源指示値の確認	ＤＲＭモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した時の値とする。	1.0×10^{1}（μSv/h）※1 ±0.24(dec.)以内	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入した状態において、リレーユニットのＴａｇにピンを挿入する。ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}（cpm）に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10^{1} ”にすること。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回前期に行う。
6.2 警報動作確認	計算機において予め設定された警報設定値の 5.0×10（μSv/h）にてＴａｇ．Ｎｏに対応するγ線エリアモニタ及び中性子線エリアモニタのＤＲＭモジュールの入力コネクタを外し、それぞれにパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータの入力周波数を可変しγ線エリアモニタのＤＲＭの指示値を 2.5×10（μSv/h）に設定する。もう一方のパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時の中性子線エリアモニタのＤＲＭ及びＴａｇに対応する現場の線量表示器の指示値を確認する。同時に警報動作を確認する。尚、この警報動作確認は中性子線エリアモニタにおいても共通する試験項目である。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・警報変換器 ・リレーユニット ・グラフィックパネル	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 音 音 ランプ	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA08	3／3

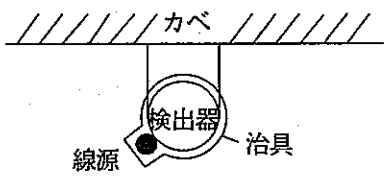
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・中央管理室 ・現場警報器 2）リレーユニットでピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・警報変換器 ・リレーユニット ・グラフィックパネル ・中央管理室 ・現場警報器 3）リセット動作 リレーユニットのリセット及びＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	ランプ　音 ランプ　音 ランプ 音 ランプ　音 音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 乗算係数 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 6.0×10^{-1} ＯＰ(1) 1×10^{2} ※（μSv/h）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	450(V)	
リレーユニット	ピンボードピン	無	
ＣＲＴ	表示の確認	異常がないこと	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA09	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	PWSF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}, 1×10^{5}, 1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
4．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、計数値を記録計の指示値にて確認する。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^{5}(cpm)～ 1.9×10^{5}(cpm)	※1 点検前の指示値が100(cpm)以上の場合は10のケタを四捨五入し、ＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。
5．内部線源指示値の確認	ＤＲＭモジュールのモードを“CHECK”にし、計数値を記録計にて測定する。尚、読み値は安定した時の値とする。	1.0×10^{3}（cpm）※1 ±0.24(dec.)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA09	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・警報変換器 ・現場警報器 ・コントロール室（ＰＷＳＦ） ・ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ（ＰＷＴＦ放管室） ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・警報変換器 ・現場警報器 ・コントロール室（ＰＷＳＦ） ・ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ（ＰＷＴＦ放管室） ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{4} ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	450(V)	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA09	3／3

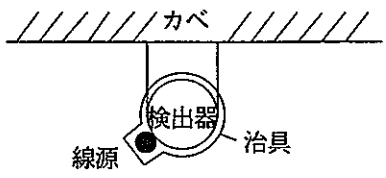
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
警報変換器	ピンボードピン	無	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＡ１０	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	γ線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）現場状況の報告 対象機器 検出器	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10^{1} ”にすること。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
４．計数動作確認試験	γ線源（^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、指示値を記録計に指示値にて確認する。  向かって左45°方向から照射すること	計数値　※1 6.3×10^{1}(μSv/h) ～ 1.9×10^{2}(μSv/h)	※1 点検前の指示値が 1.0×10^{0}（μSv/h）以上の場合は10のケタを四捨五入しＢＧ値を計数値から差し引いた値を記入する。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAA10	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．警報系試験			
5.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10^{1} ”にすること。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回前期に行う。
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて、γ線源(^{137}Cs)を治具を用いて検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ２）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　　音 異常がないこと	
6．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 乗算係数 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 6.0×10^{-1} ＯＰ(1) 1×10^{3} ※（μSv/h）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	470(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	中性子線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	再処理施設（MP）		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．感度試験	検出器並び測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準ずる。 1）検出器のＢＧ値をカウンタにて測定する。 2）規定の中性子線源(Am-Be) を照射し計数値をカウンタにて測定し、感度を求める。	ＢＧ値 10(cpm) 以下 感度 5.1×10^{-5}(mSv/h/cpm) 以上	
5．警報系試験 5.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB01	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。		
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ・プロセスコントロールデスク ・現場警報器 2）警報変換器にピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ・プロセスコントロールデスク ・現場警報器 3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 異常がないこと	
6．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	ＯＰ(1) 1×10⁴ ※（cpm）	※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	2500(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＢ０２	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	中性子線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－ｃｏｎ施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）現場警報器のランプを点検する。 ５）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、ＤＲＭモジュール前面パネルの INPUT端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6} (cpm) の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．感度試験	検出器並びに測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準ずる。 １）検出器のＢＧ値をカウンタにて測定する。　ＢＧ値 10(cpm) 以下 ２）規定の中性子線源(Am-Be,Cf)を照射し計数値をカウンタにて測定し、感度を求める。　感度 5.1×10^{-5}(mSv/h/cpm) 以上		
５．警報系試験 5.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し，ビン背面の入力コネクタを外すＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB02	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	DRMの警報設定値を 2×10^{3}, 2×10^{4}, 2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。		
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてDRMモジュールのスイッチを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤 2）信号変換器でピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・警報論理回路モジュール Tag，ALARMにピン挿入 ・警報論理回路モジュール 3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 音 異常がないこと	
6．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	2350(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＢ０２	３／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
７．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB03	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	中性子線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＣＰＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル全面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．感度試験	検出器並びに測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準ずる。 1）検出器のＢＧ値をカウンタにて測定する。 2）規定の中性子線源(Am-Be,Cf)を照射し計数値をカウンタにて測定し、感度を求める。	ＢＧ値 10(cpm) 以下 感度 1.0(cps/nv) 以上	
5．内部線源動作の確認	ＲＭパネルの線形増幅器の“COARSE GAIN”を大きくした時の計数値をＤＲＭにて測定する。	異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB03	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外すＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＲＭパネルの線形増幅器の“COARSE GAIN”を大きくし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・玄関ホール・パネル ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・警報論理回路モジュール Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ ＯＰランプ 警報レベル	ＯＰ(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	※各施設にて設定
線形増幅器	ＭＯＤＥ(POS) ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ	（ＰＯＳ） （目盛）	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＢ０３	３／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
高圧電源モジュール	高圧設定値	1670(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	ＡＵＴＯ	
ＣＲＴ	表示の確認	異常がないこと	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＢ０４	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	中性子線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－３施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）現場警報器のランプを点検する。 ５）現場状況の報告 対象機器 検出器、現場警報器、線量表示器	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“UPDATE”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10^{1} ”にすること。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
４．感度試験	検出器並び測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準ずる。 １）検出器のＢＧ値をカウンタにて測定する。 ２）規定の中性子線源（Am-Be,Cf）を照射し計数値をカウンタにて測定し、感度を求める。	ＢＧ値 10(cpm) 以下 感度 5.1×10^{-5}(mSv/h/cpm) 以上	
５．警報系試験 5.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入した状態において、リレーユニットのＴａｇにピンを挿入する。ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回前期に行う。

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	(cpm) に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10¹ ”にすること。		
5.2 警報動作確認	計算機において予め設定された警報設定値の 5.0×10（μSv/h）にてＴａｇ．Ｎｏに対応する中性子線エリアモニタ及びγ線エリアモニタのＤＲＭモジュールの入力コネクタを外し、それぞれにパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータの入力周波数を可変し中性子線エリアモニタのＤＲＭの指示値を 2.5×10(μSv/h) に設定する。もう一方のパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のγ線エリアモニタのＤＲＭ及びＴａｇに対応する現場の線量表示器の指示値を確認する。同時に警報動作を確認する。尚、この警報動作確認はγ線エリアモニタにおいても共通する試験項目である。 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・リレーユニット ・グラフィックパネル ・中央管理室 ・現場警報器 2）リレーユニットでピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・リレーユニット 3）リセット動作 リレーユニットのリセット及びＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する	下記により正常動作すると

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB04	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．測定モードの確認	系の測定モード状態を確認する。		
DRMモジュール	乗算係数	2.4×10^{0}	
	OP	OP(1)	
	RANGE	1×10^{3}	
	警報レベル	※（μSv/h）	※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	2500(V)	
リレーユニット	ピンボードピン	無	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAB05	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	中性子線エリアモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場状況の報告 対象機器 検出器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値を確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10^{1} ”にすること。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
4．感度試験	検出器並びに測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準ずる。 1）検出器のＢＧ値をカウンタにて測定する。 2）規定の中性子線源(Am-Be,Cf)を照射し計数値をカウンタにて測定し、感度を求める。	ＢＧ値 10(cpm) 以下 感度 5.1×10^{-5}(mSv/h/cpm) 以上	
5．警報系試験 5.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時の	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回前期に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＢ０５	２／２

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ＤＲＭの指示値を確認する。尚、ＤＲＭモジュールの表面パネルの“ＵＰＤＡＴＥ”部の操作により乗算係数は“ 6.0×10¹ ”にすること。		
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ２）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　　音 異常がないこと	
６．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 乗算係数 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ×10⁰ ＯＰ(1) 1×10³ ※（μSv/h）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	2500(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
７．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０１	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	α線用空気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＣＰＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3, 1×10^5, 1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でＢＧ値を測定する。 2）測定系の接続及び試験方法は回路試験(3)項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたＬＬＤ，ＵＬＤの設定を行う。次に規定線源（^{241}Am）を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}\times100(\%)$	ＢＧ値 10(cpm) 以下 分解能 400(KeV) 以下 効率 10(%) 以上	
5．関連動作の確認 5.1 ＦＣ／モード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＲＭパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯することを確認する。	異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC01	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のTag，ALARMにピンを挿入しDRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。DRMの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。	警報設定精度 DRMにて±5(%)	※年1回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・玄関ホール・パネル 2）信号変換器でピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・玄関ホール・パネル Tag，ALARMにピン挿入 ・警報論理回路モジュール 3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 消音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC01	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	−100(V)	
波高分析器	BASE　LINE値 WINDOW値		
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
サンプリングヘッド	FC／Mスイッチ	測　定	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にシンクロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０２	1／3

改訂　平成８年３月

機器名	α線用空気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－２施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）現場警報器のランプを点検する。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
４．計数効率測定	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 ２）測定系の接続及び試験方法は回路試験(3) 項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたＬＬＤ、ＵＬＤの設定を行う。次に規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ ×100(%)	ＢＧ値 10(cpm) 以下 分解能 400(keV) 以下 効率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０２	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．関連動作の確認 5.1 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯することを確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しビン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・工程管理室グラフィックパネル ・工程管理室アナウンシェータ ・現場警報器 ・Ｐｕ－２ロビーアナウンシェータ ・監視室アナウンシェータ ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・工程管理室グラフィックパネル ・工程管理室アナウンシェータ ・現場警報器 ・Ｐｕ－２ロビーアナウンシェータ ・監視室アナウンシェータ Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消音	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC02	3／3

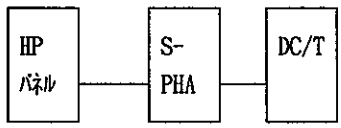
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 　DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
波高分析器	BASE　LINE値 WINDOW値		
信号変換器	ピンボードピン	無	
サンプリングヘッド	FC／Mスイッチ	測　定	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にオシロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC03	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	α線用空気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Pu－3施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3, 1×10^5, 1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回前期に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で波高分析器前面パネルの OUT PUT 端子に下図の測定系を接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 10(cpm) 以下	
	2）測定系の接続及び試験方法は回路試験(3) 項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたＬＬＤ、ＵＬＤの設定を行う。次に規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	分解能 400(keV) 以下 効率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC03	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認 5.1 FC／Mモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のFC／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、DRMモジュールの表示が“OF1”となることを確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のTag，T・ALにピンを挿入し、DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外しパネルジェネレータの出力を接続する。DRMの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。	警報設定精度 DRMにて±5(%)以内	※年1回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報変換器 ・DRMスキャナー ・グラフィックパネル ・中央管理室 ・現場警報器 2）警報変換器にピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報変換器 ・DRMスキャナー ・グラフィックパネル ・中央管理室 ・現場警報器	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 音 消灯 ランプ　音 消灯　消音	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC03	3／3

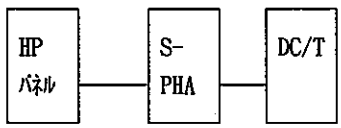
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	Tag，T・ALにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報変換器 ・DRMスキャナー ・中央管理室 ・現場警報器	 ランプ ランプ　音 音 ランプ　消音 消灯　消音	
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 乗算係数 OP RANGE 警報レベル	 6.0 ×10 OP(1) 1 ×10⁴ ※（cpm）	 ※各施設にて設定
波高分析器	BASE LINE値 WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値	−100(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
サンプリングヘッド	FC／Mスイッチ	測　定	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にオシロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC04	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	α線用空気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	PWTF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}, 1×10^{5}, 1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で波高分析器前面パネルの OUT PUT 端子に下図の測定系を接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 10(cpm) 以下	
	2）測定系の接続及び試験方法は回路試験(3)項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたＬＬＤ、ＵＬＤの設定を行う。次に規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	分解能 400(keV) 以下 効率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０４	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認 5.1 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となることを確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外しパネルジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・警報変換器 ・放射線監視装置 ・グラフィックパネル ・現場警報器 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・ＤＲＭスキャナー ・警報変換器 ・放射線監視装置 ・グラフィックパネル ・現場警報器	下記により正常動作すること ランプ 音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ 音 ランプ　音 消　灯　消音 消　灯 消　灯　消音	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０４	３／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 　ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{4} ※（cpm）	 ※各施設にて設定
波高分析器	ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥ値 ＷＩＮＤＯＷ値		
高圧電源モジュール	高圧設定値	－100(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
サンプリングヘッド	ＦＣ／Ｍスイッチ	測　定	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にオシロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０５	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	α線用空気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－１施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）現場警報器のランプを点検する。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
４．計数効率測定	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 ２）測定系の接続及び試験方法は回路試験(3) 項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたＬＬＤ、ＵＬＤの設定を行う。次に規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ ×100(%)	ＢＧ値 10(cpm) 以下 分解能 400(keV) 以下 効率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＣ０５	２／３

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．関連動作の確認 5.1 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯することを確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパネルジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のDRM の指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・現場警報器 ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・現場警報器 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{4} ※（cpm）	 ※各施設にて設定

点検整備技術要領書

整理番号	11AAC05	3／3

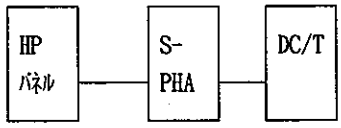
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
波高分析器	BASE LINE値 WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値	−100(V)	
サンプリングヘッド	ピンボードピン	無	
	FC／Mスイッチ	測　定	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にオシロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD01	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	β（γ）線ダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	再処理施設（CB，MP，AAF）		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場警報器のランプを点検する。 6）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット、サンプリング管口、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でパネル前面のチェック端子に下図の測定系を接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V) 2）規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率及び感度を求める。	ＢＧ値 100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＤ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%) 規定線源の強度(Bq/cm³) 計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm)	効率 10(%) 以上 感度 1.11×10^{-2} (Bq/cm³/cpm) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 ＦＣ／Ｍモードの動作確認	現場のサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となることを確認する。	正常に動作すること	
5.2 エアスニッファ・サンプリングユニット	通常の吸引状態において流量調節バルブにより検出部の総流量が可変できることを確認する。	検出部の総流量が 0～80（ℓ/min）まで任意に可変できること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ※・プロセスコントロールパネル・デスク ※・水処理パネル ・現場警報器	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音	※ＣＢ，ＡＡＦ施設ではパネル表示 ＭＰ施設ではデスク表示及びβ－１については水処理パネル表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD01	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ※・プロセスコントロールパネル・デスク ※・水処理パネル ・現場警報器 3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	710(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	ＦＣ／Ｍスイッチ	測　定	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD02	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	β（γ）線ダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ST，DN，HAW施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場警報器のランプを点検する。 6）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット、サンプリング管口、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、DRMモジュール前面パネルの INPUT端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}（cpm）の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でDRMにてBG値を測定する。 2）規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率及び感度を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)}-\text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}\times100(\%)$ $\frac{\text{規定線源の強度(Bq/cm}^2\text{)}}{\text{計数値(cpm)}-\text{BG値(cpm)}}$	BG値 100(cpm) 以下 効率 10(%) 以上 感度 1.11×10^{-2} (Bq/cm²/cpm) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD02	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．関連動作の確認			
5.1 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場サンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点灯し、ＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯することを確認する	異常がないこと	
5.2 エアスニッファ・サンプリングユニット	通常の吸引状態において流量調節バルブにより検出部の総流量が可変できることを確認する。	検出部の総流量が 0～80（ℓ/min）まで任意に可変できること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外すＤＲＭモジュール前面パネルの INPUT端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{3}，2×10^{4}，2×10^{5}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ※1・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ※2・(MP)プロセスコントロールデスク ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ※1・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ※2・(MP)プロセスコントロールデスク ・警報表示盤（放射線監視卓） Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 消　灯 ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯	※1：ＤＮ施設のみ表示 ※2：ＨＡＷ施設のみ表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD02	3／3

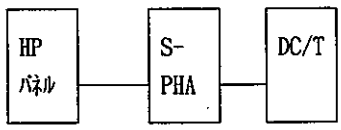
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	710(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	FC／Mスイッチ	測　定	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD03	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	β（γ）線ダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ASP，2ASP－ST，C，2HS，IF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場警報器のランプを点検する。 6）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット、サンプリング管口、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐、接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V) 2）規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率及び感度を求める。	ＢＧ値 100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD03	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －BG値(cpm) / 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	効率 10(%) 以上	
	規定線源の強度(Bq/cm²) / 計数値(cpm) －BG値(cpm)	感度 1.11×10^{-2} (Bq/cm²/cpm) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 FC／Mモードの動作確認	現場のサンプリングユニットのFC／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、DRMモジュールの表示が“OF1”となることを確認する。	正常に動作すること	
5.2 エアスニッファ・サンプリングユニット	通常の吸引状態において流量調節バルブにより検出部の総流量が可変できることを確認する。	検出部の総流量が 0～80（ℓ/min）まで任意に可変できること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のTag，T・ALにピンを挿入し、DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。DRMの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。	警報設定精度 DRMにて±5(%)以内	※年1回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報変換器 ・副受信盤 ※1 （IF施設は除く） ・表示盤（2ASP-ST施設のみ） ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓）	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音	※1 ASP，2ASP-ST，2HS施設はASP制御室 C施設はC制御室

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD03	3／3

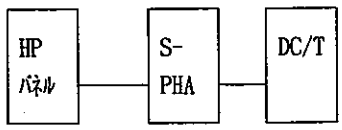
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤　※1（ＩＦ施設は除く） ・表示盤（2ASP-ST施設のみ） ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） 3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^4 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	※2	※2 ASP,C,IF施設は1350(v) 2ASP-ST,2HS施設は710(v)
信号変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	ＦＣ／Ｍスイッチ	測　定	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＤ０４	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	β（γ）線ダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＴＶＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場警報器のランプを点検する。 ６）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット、サンプリング管口、現場警報器	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐、接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V) ２）規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率及び感度を求める。	ＢＧ値 100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD04	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%) 規定線源の強度(Bq/cm²) 計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm)	効率 10(%) 以上 感度 1.11×10^{-2} (Bq/cm²/cpm) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 ＦＣ／Mモードの動作確認	現場のサンプリングユニットのＦＣ／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となることを確認する。	正常に動作すること	
5.2 エアスニッファ・サンプリングユニット	通常の吸引状態において流量調節バルブにより検出部の総流量が可変できることを確認する。	検出部の総流量が 0～80（ℓ/min）まで任意に可変できること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤（TVF G240） ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓）	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD04	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤（TVF G240） ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） 3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{4} ※（cpm）	 ※各施設の設定値
高圧電源モジュール	高圧設定値	1350(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	ＦＣ／Ｍスイッチ	測　定	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD05	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	β（γ）線ダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	CPF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場警報器のランプを点検する。 6）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット、サンプリング管口、現場警報器	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、DRMモジュール前面パネルの INPUT端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}, 1×10^{5}, 1×10^{6} (cpm) の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年一回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でDRMにてBG値を測定する。 2）規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	BG値 100(cpm) 以下 効率 10(%) 以上	
5．関連動作の確認 5.1 FC／モード及び制御リレーモジュール動作確認	現場サンプリングユニットのFC／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点灯し、RMパネルのDRMモジュールのOPランプが消灯することを確認する	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD05	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 エアスニッファ・サンプリングユニット	通常の吸引状態において流量調節バルブにより検出部の総流量が可変できることを確認する。	検出部の総流量が 0～80（ℓ/min）まで任意に可変できること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外すＤＲＭモジュール前面パネルの INPUT端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・現場警報器 ※・プロセスコントロールパネル ※・玄関ホール・パネル ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・現場警報器 ※・プロセスコントロールパネル ※・玄関ホール・パネル Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること。 ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 消　灯 ランプ　音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯 異常がないこと	※β－１１は表示せず

点検整備技術要領書

整理番号	11AAD05	3／3

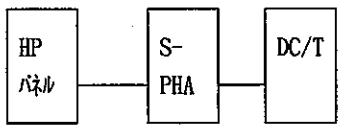
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認	系の測定モード状態を確認する。		
DRMモジュール	OP	OP(1)	
	RANGE	× 1	
	OPランプ	点 灯	
	警報レベル	※（cpm）	※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値	710(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	FC／Mスイッチ	測 定	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAE01	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	プルトニウムダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	CB，MP施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でパネル前面のチェック端子に下図の測定系を接続しカウンタにてBG値を測定する。  ディスクリ 2(V)	BG値 10(cpm) 以下	
	2）測定系の接続及び試験方法は回路試験（3）項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたLLD、ULDの設定を行う。次に規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、計数	分解能 400(keV) 以下 効　率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAE01	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	値を記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認			
5.1 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となることを確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ※・プロセスコントロールパネル，デスク ・現場警報器 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤 ※・プロセスコントロールパネル，デスク ・現場警報器	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音	※ＣＢ施設ではパネル表示 ＭＰ施設ではデスク表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAE01	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE 警報レベル	 OP(1) 1×10^3 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
波高分析器	BASE LINE値 WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値	−100(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
サンプリングヘッド	FC／Mスイッチ	測　定	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にオシロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAE02	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	プルトニウムダストモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Pu－Con施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、DRMモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}, 1×10^{5}, 1×10^{6} (cpm) の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でDRMにてBG値を測定する。 2）測定系の接続及び試験方法は回路試験(3)項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたLLD、ULDの設定を行う。次に規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	BG値 10(cpm) 以下 分解能 400(keV) 以下 効率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAE02	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．関連動作の確認 5.1 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場の検出器本体のＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、ＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯することを確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±5(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(^{241}Am) を検出器に装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消音	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAE02	3／3

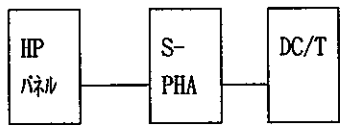
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
波高分析器	BASE　LINE値 WINDOW値		
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
サンプリングヘッド	FC／Mスイッチ	測　定	
8．ノイズレベルの測定	測定状態にて波高分析器前面パネルのINPUT 端子にオシロスコープを接続して検出器のノイズレベルを測定する。	500(mVp-p)以下	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF01	1／6

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	MP施設　No. 1		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/Tにて ＢＧ値を測定する。  ※ディスクリ 2(V) 2）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(129)100(cpm) 以下 よう素(131)100(cpm) 以下 クリプトン（低） 50(cpm) 以下 クリプトン（高） 100(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	※ｸﾘﾌﾟﾄﾝ(低) についてはディスクリ1(V)

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０１	2／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。 次によう素(129) は規定線源(I-129) よう素(131) は規定線源(Mock-Iodine) をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	よう素(129)　2(%) 以上 よう素(131)　2(%) 以上	
	4）クリプトン（低）（高）に関しては、測定系の接続及び試験方法はそれぞれの回路試験(5) 項及び(3),(4) 項に準じ実流試験によって校正定数を求める。また規定線源(^{137}Cs) をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 クリプトン（低） 1.85×10^{-3}(Bq/cm³/cpm) 以上 クリプトン（高）	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を流した時、マスフローメータの動作確認及びＨＰパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認すること。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 主排気筒総流量の測定	現場のＶ／Ｆ変換器背面パネルの入力コネクタを外し、標準電圧発生器の出力を接続する。標準電圧発生器より5(V)を入力した時ＨＰパネルのカウンタにて計数値を測	流量率 F.S(9166.6 m³/min) ±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０１	3／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	測定し流量率を求める。	計算値 45±1.8 ×10²(m³/min) 以内	
5.4 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各ＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＨＰパネルの該当ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となり制御リレーモジュールで該当の“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの各“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。 各負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高、低）を超えた時現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅すること。また制御リレーモジュールで“ＰＩＡ　ＥＲＲＯＲ”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴すること。制御リレーモジュールの“ＢＺ　ＳＴＯＰ／ＲＥＳＥＴ”スイッチによって圧力異常がリセットされることも確認する。 なお、(CB)G220に於いて負圧警報表示盤も確認する。	正常に動作すること	
5.5 データ処理系確認	1）現場のプリアンプボックスの出力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力をそのコネクタに接続する。パルスジェネレータより5(V)、5(μsec)の基準周波数を入力する。同時に安管棟パネル室のラインレシーバ背面パネルの出力コネクタにカウンタを分岐、接続し計数値をカウンタにて測定する。	ラインレシーバ値 入力周波数の±1(%)以内	
	2）主排気筒総流量は、現場のＶ／Ｆ変換器背面パネルの入力コネクタを外し標準電圧発生器の出力を接続する。標準電圧発生器より5(V)を入力した時、ラインレシーバ背面パネルの出力コネクタにカウンタを分岐、接続し計数値をカウンタにて測定する。	流量率 F.S(9166.6 m³/min) ±2(%)以内 計算値 45±1.8 ×10²(m³/min) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０１	４／６

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）サンプリング流量（クリプトン）を70（ℓ/min）に設定し、ラインレシーバ背面パネルの出力コネクタでデジタルボルトメータにて入力電圧を測定する。 測定値(V) 1.0 (V)	70±3(ℓ/min) 以内	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ・プロセスコントロールデスク ・現場警報器 2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ・プロセスコントロールデスク ・現場警報器 3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０１	5／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。		
	αダスト　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{3}	
	警報レベル	※（cpm）	※各施設にて設定
	βダスト　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{5}	
	警報レベル	※（cpm）	
	よう素(129)　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{5}	
	警報レベル	※（cpm）	
	よう素(131)　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{5}	
	警報レベル	※（cpm）	
	クリプトン　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	（低）　ＲＡＮＧＥ	1×10^{5}	
	警報レベル	※（cpm）	
	クリプトン　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	（高）　ＲＡＮＧＥ	1×10^{5}	
	警報レベル	※（cpm）	
線形増幅器	よう素(129)　ＭＯＤＥ(POS)	（ＰＯＳ）	
	ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ		
	ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ		
	よう素(131)　ＭＯＤＥ(POS)	（ＰＯＳ）	
	ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ		
	ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ		
	クリプトン　ＭＯＤＥ(POS)	（ＰＯＳ）	
	（高）　ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ		
	ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ		
波高分析器	よう素(129)　ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥ値		
	ＷＩＮＤＯＷ値		
	よう素(131)　ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥ値		
	ＷＩＮＤＯＷ値		
	クリプトン　ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥ値		
	（高）　ＷＩＮＤＯＷ値		

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF01	6／6

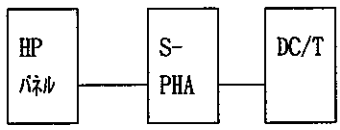
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト	850(V)	
	βダスト	710(V)	
	よう素	700(V)	
	クリプトン（低）	900(V)	
	クリプトン（高）	800(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β	70（ℓ/min）	
	よう素	70（ℓ/min）	
	クリプトン	70（ℓ/min）	
	ＦＣ／Ｍスイッチ	測　定	
	ブロワー使用	Ａ・Ｂ	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０２	１／５

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＭＰ施設　№２		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/TにてＢＧ値を測定する。  ※ディスクリ 2(V) ２）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(129)100(cpm) 以下 よう素(131)100(cpm) 以下 クリプトン（低） 50(cpm) 以下 クリプトン（高） 100(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	※ｸﾘﾌﾟﾄﾝ(低) においては1.0(V)に設定

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０２	２／５

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。 次によう素(129) は規定線源(I-129) よう素(131) は規定線源(Mock-Iodine) をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	よう素(129)　2(%) 以上 よう素(131)　2(%) 以上	
	4）クリプトン（低）（高）に関しては、測定系の接続及び試験方法はそれぞれの回路試験(5) 項及び(3),(4) 項に準じ実流試験によって校正定数を求める。また規定線源(^{137}Cs) をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 クリプトン（低） 1.85×10^{-3}(Bq/cm^3/cpm) 以上 クリプトン（高）	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を流した時、マスフローメータの動作確認及びＨＰパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認すること。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 ＦＣ／Ｍモードの及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各ＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行い	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０２	３／５

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	ＨＰパネルの該当ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となり制御リレーモジュールで該当の“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの各“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。 各負圧計の圧力指示値が警報レベル（高、低）を超えた時、現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅すること。また、制御リレーモジュールで“ＰＩＡ　ＥＲＲＯＲ”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴する。 制御リレーモジュールの“ＢＺ　ＳＴＯＰ／ＲＥＳＥＴ”スイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。尚、(CB)G220において負圧警報表示盤も確認する。		
5.4 データ処理系確認	１）現場のプリアンプボックスの出力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力をそのコネクタに接続する。パルスジェネレータより5(V)、5(μsec)の基準周波数を入力する。同時に安管棟パネル室のラインレシーバ背面パネルの出力コネクタにカウンタを分岐、接続し計数値をカウンタにて測定する。 ２）サンプリング流量（クリプトン）を70（ℓ/min）に設定し、ラインレシーバ背面パネルの出力コネクタでデジタルボルトメータにて入力電圧を測定する。 測定値(V) 1.0 (V)	ラインレシーバ値 入力周波数の±1(%)以内 70±3(ℓ/min) 以内	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF02	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。		
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ・プロセスコントロールデスク ・現場警報器 2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ・プロセスコントロールデスク ・現場警報器 3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報変換器もリセットする。（音）	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル βダスト　ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル よう素(129)　ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル よう素(131)　ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{3} ※（cpm） ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm） ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm） ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm）	※各施設にて設定

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF02	5／5

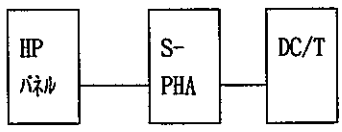
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	クリプトン　OP	OP(1)	
	（低）　RANGE	1×10^5	
	警報レベル	※（cpm）	
	クリプトン　OP	OP(1)	
	（高）　RANGE	1×10^5	
	警報レベル	※（cpm）	
線形増幅器	よう素(129)　MODE(POS)	（POS）	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN		
	よう素(131)　MODE(POS)	（POS）	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN		
	クリプトン　MODE(POS)	（POS）	
	（高）　COARSE GAIN		
	FINE GAIN		
波高分析器	よう素(129)　BASE LINE値		
	WINDOW値		
	よう素(131)　BASE LINE値		
	WINDOW値		
	クリプトン　BASE LINE値		
	（高）　WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト	850(V)	
	βダスト	710(V)	
	よう素	700(V)	
	クリプトン（低）	900(V)	
	クリプトン（高）	800(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β	70（ℓ/min）	
	よう素	70（ℓ/min）	
	クリプトン	70（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチ	測　定	
	ブロワー使用	A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF03	1／4

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	CB，AAF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC／TにてBG値を測定する。  ディスクリ 2(V)	BG値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(131)100(cpm) 以下	
	2）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０３	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。規定線源(Mock-Iodine) をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	よう素(131) 2(%) 以上	
5．関連動作の確認 5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を流した時、マスフローメータの動作確認及びＨＰパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認する。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各ＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＨＰパネルの該当ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となり制御リレーモジュールで該当の“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの各“PURGE”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“REMOTE”“LOCAL”、ポンプ“Ａ”“Ｂ”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０３	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	“A” “B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態でランプ表示すること。各負圧計の圧力指示値が警報レベル設定値（高，低）を超えた時現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅すること。また、制御リレーモジュールで“ＰＩＡ ＥＲＲＯＲ”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴すること。制御リレーモジュールの“ＢＺ　ＳＴＯＰ／ＲＥＳＥＴ”スイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。尚、(CB)G220に於いて負圧警報表示盤も確認する。		
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・現場警報器 ・プロセスコントロールパネル ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・現場警報器 ・プロセスコントロールパネル ・警報表示盤（放射線監視卓）	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０３	４／４

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 　ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報変換器もリセットする。（音）	異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　ＯＰ 　　ＲＡＮＧＥ 　　警報レベル βダスト　ＯＰ 　　ＲＡＮＧＥ 　　警報レベル よう素(131)　ＯＰ 　　ＲＡＮＧＥ 　　警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^{3} ※（cpm） ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm） ＯＰ(1) 1×10^{5} ※（cpm）	 ※各施設にて設定
線形増幅器	よう素(131)　ＭＯＤＥ(POS) 　　ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ 　　ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ	（ＰＯＳ）	
波高分析器	よう素(131)　ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥ値 　　ＷＩＮＤＯＷ値		
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト 　　βダスト 　　よう素(131)	850(V) 710(V) 700(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β 　　よう素(131) ＦＣ／Ｍスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 70（ℓ/min） 測　定 Ｏ　Ｎ Ａ・Ｂ	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF04	1／5

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ASP，ASP－ST施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	1）ビン背面の入力コネクタを外し対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，5×10^{6}（cpm）の基準周波数を入力した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。 2）ガスモニタは、検出部に標準電離箱を装着した時の現場指示計の指示値及びHPパネル記録計の指示値を確認する。 尚、指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して 記録計　±0.3(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態で記録計にてBG値を測定する。	BG値 βダスト　50(cpm) 以下 ※よう素(129)100(cpm) 以下 ガス　×10(Bq/cm³) 以下	※ASP-ST施設はよう素(131)
	2）βダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	効率 βダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０４	２／５

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験（　）項に準ずる。 次によう素(129)は規定線源(I-129)を、よう素(131) は規定線源(Mock-Iodine)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ ×100(%)	よう素(129)　2(%) 以上 よう素(131)　2(%) 以上	
	4）ガスモニタに関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験（　）項に準じ、実流試験によって校正定数を求める。また規定の標準電離箱を検出部に装着し、計数値を記録計にて測定し指示精度を確認する。 $\frac{\text{Ｌｏｇ（計数値(Bq/cm}^3\text{)}-\text{Ｌｏｇ（計算値(Bq/cm}^3\text{)}}{\text{４（ｄｅｃ）}}$ ×100(%)	指示精度 FSの±10(%)以内	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。またガスモニタのサンプリング配管系の流量が最大 20(ℓ/min) まで任意に設定できることも確認する	0 ～100　(ℓ/min) リークのないこと 0 ～20　(ℓ/min)	
5.2 積算流量の測定	一定流量 70(ℓ/min) を30分間流した時積算流量計の動作及び積算値を測定する。同時に記録計値も確認すること。	積算流量計 FSの±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０４	3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3 ＡＣＭの動作確認	ＨＰパネル、現場のＡＣＭのスイッチを“ＬＯＣＡＬ”“ＲＥＭＯＴＥ”、ポンプ“Ａ”“Ｂ”に切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高，低）を超えた時ドライポンプが停止しＨＰパネル及び現場のＡＣＭでランプが点灯しブザーが吹鳴すること。また“ＴＲＯＵＢＬＥ”スイッチにより負圧異常がリセットされることも確認する。	正常に動作すること	
5.4 ガスモニタ濃度積算値の測定	標準電離箱をガスモニタの検出部に装着し、60分間測定した時の積算計の動作及び積算値を測定する。 ×１レンジ $\frac{\text{カウンタ値}\times 3.7\times10^{-4}(\text{Bq/cm}^3\cdot\text{h})-\text{入力値}(\text{Bq/cm}^3)}{3.7\times10^{-4}\times10000}\times100(\%)$ ×100レンジ $\frac{\text{カウンタ値}\times 3.7\times10^{-2}(\text{Bq/cm}^3\cdot\text{h})-\text{入力値}(\text{Bq/cm}^3)}{3.7\times10^{-2}\times10000}\times100(\%)$	FSの±2(%)以内	
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	1）信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外す。対数計数率計前面パネルの AMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する対数計数率計の警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 ＲＭにて±0.2(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF04	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
	2）ガスモニタは、警報設定（高）用ダイヤルにて 2.0×10^{-7}, 2.0×10^{-6}, 2.0×10^{-5} (Bq/cm³) に設定しトリップ入力用ダイヤルにて入力を徐々に可変し測定部の“高”のランプ点灯及び警報論理回路モジュール（ＨＰパネル）で警報音が発生した時の指示計及び記録計の指示値を確認する。		
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて対数計数率計のモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。ガスモニタの警報レベルは 1.0×10^{-6} (Bq/cm³) に設定すること 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＲＭモジュール ・ガスモニタ ・警報論理回路モジュール ・ＨＰデスク ・現場警報器 ・副受信盤 ・警報表示盤（放射線監視卓の） 2）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ガスモニタ ・警報論理回路モジュール ・副受信盤 Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・ガスモニタ ・警報論理回路モジュール 3）リセット動作 ＲＭモジュールのアラームリセットをを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 音 ランプ 音 異常がないこと	
6．測定モードの確認 ＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 βダスト　ＲＡＮＧＥ 警報レベル よう素(129)　ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ×　1 (cpm) ×　1 (cpm)	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF04	5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
線形増幅器	よう素(129) MODE(POS)	(POS)	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN	(目盛)	
波高分析器	よう素(129) MODE(Emax)	(Emax)	
	LLD値	(目盛)	
	ULD値	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 βダスト	710(V)	
	よう素(129)	700(V)	
ガスモニタ	MODE	ログ	
	RANGE	× 1	
	高圧設定値	-300(V)	
	サンプリングガス圧	1.0(Kg/cm)	
	ドライヤー	ON	
	流　量	20 (ℓ/min)	
	エアポンプ動作	ON	
		A・B	
信号変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量	70 (ℓ/min)	
	ドライポンプ動作	ON	
		A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF05	1／5

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ASP施設（付排）		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	1）ビン背面の入力コネクタを外し対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，5×10^{6}（cpm）の基準周波数を入力した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。 2）ガスモニタは、検出部に標準電離箱を装着した時の現場指示計の指示値及びHPパネル記録計の指示値を確認する。 尚、指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して 記録計　±0.3(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態で記録計にてBG値を測定する。 2）βダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\dfrac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	BG値 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(129)100(cpm) 以下 クリプトン　50(cpm) 以下 ガ　ス　×10(Bq/cm³) 以下 効率 βダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０５	2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験（　）項に準ずる。 規定線源(I-129) をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ ×１００　(%)	よう素(129)2(%) 以上	
	4）クリプトンに関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験（　）項に準じ、実流試験によって校正定数を求める。また規定線源（γ）をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 1.85 ×10^{-3}(Bq/cm^3/cpm) 以上	
	5）ガスモニタに関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験（　）項に準じ、実流試験によって校正定数を求める。また規定の標準電離箱を検出部に装着し、計数値を記録計にて測定し指示精度を確認する。 $\frac{\text{Ｌｏｇ（計数値(Bp/cm}^2\text{)} - \text{Ｌｏｇ（計算値(Bp/cm}^2\text{)）}}{4\text{（ｄｅｃ）}}$ ×100(%)	指示精度 FSの±10(%) 以内	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大100(ℓ/min) まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。またガスモニタのサンプリング配管系の流量が最大 20(ℓ/min) まで任意に設定できることも確認する	0 ～100 （ℓ/min) リークのないこと 0 ～20 （ℓ/min)	
5.2 積算流量の測定	一定流量 70(ℓ/min) を30分間流した時積算流量計の動作及び積算値を測定する。同時に記録計値も確認すること。	積算流量計 FSの±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０５	3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3 ＡＣＭの動作確認	ＨＰパネル、現場のＡＣＭのスイッチを“ＬＯＣＡＬ”“ＲＥＭＯＴＥ”、ポンプ“Ａ”“Ｂ”に切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高，低）を超えた時ドライポンプが停止しＨＰパネル及び現場のＡＣＭでランプが点灯しブザーが吹鳴すること。また、“ＴＲＯＵＢＬＥ”スイッチにより負圧異常がリセットされることも確認する。	正常に動作すること	
5.4 ガスモニタ濃度積算値の測定	標準電離箱をガスモニタの検出部に装着し、60分間測定した時の積算計の動作及び積算値を測定する。 ×１レンジ　$\dfrac{\text{カウンタ値}\times 3.7\times10^{-4}(\text{Bq/cm}^3\cdot\text{h})-\text{入力値}(\text{Bq/cm}^3)}{3.7\times10^{-4}\times1000}\times100(\%)$ ×１００レンジ　$\dfrac{\text{カウンタ値}\times 3.7\times10^{-2}(\text{Bq/cm}^3\cdot\text{h})-\text{入力値}(\text{Bq/cm}^3)}{3.7\times10^{-2}\times1000}\times100(\%)$	FSの±2(%)以内	
5.5 データ処理系確認	1）現場のプリアンプボックスの出力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力をそのコネクタに接続する。パルスジェネレータより 1×10^5(cpm)の基準周波数を入力する。ＨＰパネルのマスター用デュアルカウンタ/ タイマのサンプリングタイムを 1(min) に設定し各系3 回づつプリントアウト動作を行い、その時のデュアルカウンタ／タイマ値も確認する。 2）総排気流量は、ＨＰパネル盤内の端子台HP3L-70(+),71(-)にて外部入力を外してパルスジェネレータの出力を接続する。１×10 (cpm)の基準周波数を入力した時デュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	デュアルカウンタ／タイマ値 ±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF05	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	1）信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外す。対数計数率計前面パネルの AMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。対数計数率計の警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。 2）ガスモニタは、警報設定（高）用ダイヤルにて 2.0×10^{-7}，2.0×10^{-5}，2.0×10^{-3}(Bq/cm³)に設定しトリップ入力用ダイヤルにて入力を徐々に可変し測定部の“高”のランプ点灯及び警報論理回路モジュール（ＨＰパネル）で警報音が発生した時の指示計及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 ＲＭにて±0.2(dec.）以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて対数計数率計のモードを”ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。ガスモニタの警報レベルは 1.0×10^{-6}(Bq/cm²) に設定すること 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＲＭモジュール ・ガスモニタ ・警報論理回路モジュール ・ＨＰデスク ・現場警報器 ・副受信盤 ・警報表示盤（放射線監視卓の） 2）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ガスモニタ ・警報論理回路モジュール ・副受信盤 Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・ガスモニタ ・警報論理回路モジュール	下記により正常動作すること ランプ ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 音 表　示　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ 音	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF05	5／5

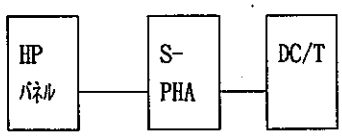
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 RMモジュールのアラームリセットを を押した時、全てリセットされることを 確認する。	異常がないこと	
6．測定モードの確認 RMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 βダスト　RANGE 警報レベル よう素(129)　RANGE 警報レベル クリプトン　RANGE 警報レベル	 ×　1 (cpm) ×　1 (cpm) ×　1 (cpm)	
線形増幅器	よう素(129)　MODE(POS) COARSE　GAIN FINE　GAIN	(POS) (目盛)	
波高分析器	よう素(129)　MODE(Emax) LLD値 ULD値	(Emax) (目盛) (目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値　βダスト よう素(129) クリプトン	710(V) 700(V) 900(V)	
ガスモニタ	MODE RANGE 高圧設定値 サンプリングガス圧力 ドライヤー 流　量 エアポンプ動作	ログ ×　1 -300(V) 1.0(Kg/cm) ON 20（ℓ/min) ON A・B	
信号変換器 ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	ピンボードピン 流　量 ドライポンプ動作	無 70（ℓ/min) ON A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮しモニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０６	１／５

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	２ＡＳＰ－ＳＴ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．計数効率測定	１）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/TにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(129)100(cpm) 以下 ガ　ス　50(cpm) 以下	
	２）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}\times100(\%)$	効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。規定線源(I-129) をろ紙ホルダーに装着し記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	よう素(129)　2(%) 以上	
	4）ガスに関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準じ、実流試験によって校正定数を求める。また規定線源（γ）をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 1.85×10^{-3}(Bq/cm³/cpm) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を流した時、マスフローメータの動作確認及びＨＰパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認する。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各ＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＨＰパネルの該当ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となり制御リレーモジュールで該当の“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの各“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“ＲＥ　ＭＯＴＥ”“ＬＯＣＡＬ”、ポンプ“Ａ”“Ｂ”及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	のスイッチのポンプ“A” “B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。各負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高、低）を超えた時、現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅すること。また、制御リレーモジュールで“ＰＩＡ　ＥＲＲＯＲ”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴すること。制御リレーモジュールの“ＢＺ　ＳＴＯＰ／ＲＥＳＥＴ”スイッチにより負圧異常がリセットされたことも確認する。尚、(CB)G220にて負圧警報表示盤も確認する。		
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤(ASP G218) ・現場警報器 ・ＨＰデスク(Z G204) ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤(ASP G218) ・現場警報器	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF06	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・HPデスク(Z G204)	消　灯　　消音	
	・警報表示盤（放射線監視卓）	消　灯　　消音	
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報変換器もリセットする。（音）	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。		
	αダスト　OP	OP(1)	
	RANGE	1×10^4	
	警報レベル	※（cpm）	※各施設にて設定
	βダスト　OP	OP(1)	
	RANGE	1×10^4	
	警報レベル	※（cpm）	
	よう素(129)　OP	OP(1)	
	RANGE	1×10^4	
	警報レベル	※（cpm）	
	ガ　ス　OP	OP(1)	
	RANGE	1×10^4	
	警報レベル	※（cpm）	
線形増幅器	よう素(129)　MODE(POS)	（POS）	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN		
波高分析器	よう素(129)　BASE LINE値		
	WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト	850(V)	
	βダスト	710(V)	
	よう素(129)	700(V)	
	ガ　ス	900(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β	70（ℓ/min）	
	よう素(129)	70（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチ	測　定	
	ドライポンプ動作	ON	
		A・B	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF06	5／5

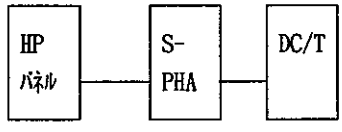
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF07	1／4

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	2HS施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}, 1×10^{5}, 1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/TにてBG値を測定する。  ディスクリ 2(V)	BG値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下	
	2）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF07	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min）に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を流した時、マスフローメータの動作確認及びＨＰパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認する。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min）以内	
5.3 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各ＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＨＰパネルの該当ＤＲＭモジュールの表示が“ＯＦ１”となり制御リレーモジュールで該当の“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの各“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“REMOTE” “LOCAL”、ポンプ“A” “B”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ“A” “B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。各負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高，低）を超えた時現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅し制御リレーモジュールで“ＰＩＡ　ＥＲＲＯＲ”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF07	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	制御リレーモジュールの“ＢＺ　ＳＴＯＰ／ＲＥＳＥＴ”スイッチにより負圧異常がリセットされることも確認する。		
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。 ＤＲＭの警報設定値を 2×10^{2}，2×10^{4}，2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。尚、(CB)G220にて負圧警報表示盤にて確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤 ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・副受信盤 ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報変換器もリセットする。（音）	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF07	4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　OP RANGE 警報レベル βダスト　OP RANGE 警報レベル	 OP(1) 1×10^4 ※（cpm） OP(1) 1×10^4 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト βダスト	850　(V) 710　(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β FC／Mスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 測　定 O　N A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF08	1／4

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Kr施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3, 1×10^5, 5×10^6 (cpm) の基準周波数を入力した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して 記録計　±0.3(dec.) 以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/TにてBG値を測定する。 2）βダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\dfrac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ $\times100(\%)$ 3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペ	BG値 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(131)100(cpm) 以下 クリプトン　50(cpm) 以下 効率 βダスト　10(%) 以上 よう素　2(%) 以上	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	クトル測定で求められたLLD, ULDの設定を行う。次に規定線源(Mock-Iodine) をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ ×100(%)		
	4）クリプトンに関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(5) 項に準じ実流試験によって校正定数を求める。また規定線源（γ）をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 1.85×10^{-3}(Bq/cm³/cpm) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 積算流量の測定	一定流量(70ℓ/min)を30分間流した時積算流量計の動作確認及び積算値を測定する。	積算流量計 FSの±5(%)以内	
5.3 ＡＣＭの動作確認	ＨＰパネル、現場のＡＣＭのスイッチを“ＬＯＣＡＬ”“ＲＥＭＯＴＥ”、ポンプ“A”“B”に切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高、低）を超えた時ドライポンプが停止しＨＰパネル及び現場のＡＣＭでランプが点灯しブザーが吹鳴すること。また、“TROUBLE”のスイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。 尚、(CB)G220の負圧警報表示盤も確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ０８	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	考
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外す。対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。対数計数率計の警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 ＲＭにて±0.2(dec.）以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて対数計数率計のモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・ＨＰデスク ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）信号変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・ＨＰデスク ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール ３）リセット動作 ＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報論理回路モジュールもリセットする。（音）	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 消音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF08	4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認 RMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 βダスト　RANGE 警報レベル よう素(131) RANGE 警報レベル クリプトン　RANGE 警報レベル	 ×　1 ※(cpm) ×　1 ※(cpm) ×　1 ※(cpm)	 ※各施設にて設定
線形増幅器	よう素(131) MODE(POS) COARSE GAIN FINE GAIN	(POS)	
波高分析器	よう素(131) MODE(Emax) LLD値 ULD値	Emax	
高圧電源モジュール	高圧設定値　βダスト よう素(131) クリプトン	710(V) 700(V) 900(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量 ドライポンプ動作	70（ℓ/min) O　N A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF09	1／5

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ST，HAW施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、DRMモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDRMにてBG値を測定する。 2）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\dfrac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ $\times 100(\%)$ 3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3)，(4) 項に準ずる。これによって分解能を求め、またスペクトル測定で求められたLLD，ULD	BG値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(129)100(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上 よう素(129)　2(%) 以上	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	の設定を行う。次に規定線源(I-129)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$		
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min)に設定しサンプリグユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	0～100（ℓ/min） リークのないこと	
5.2 積算流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を30分間流した時積算流量計の動作確認及び積算値を測定する。同時にＨＰパネルのデュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	積算流量 FSの±3(%)以内 流量率 計算値 70±3(ℓ/min)以内	
5.3 総排気流量	ＨＰパネル盤内の端子台※HP3L-71(+)，72(-)にて外部入力を外して標準電流発生器より20(mA)を入力した時、デュアルカウウタにて計数値を測定し流量率を求める。	400±12($\times 10^2 m^3/h$)以内	※ＨＡＷ施設では HP4-22(+) 23(-)
5.4 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅し、同時にパージ動作を行いＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯し、制御リレーモジュールで“PURGE”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの“PURGE”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“ＲＥＭＯＴＥ”“LOCAL”、ポンプ“Ａ”“Ｂ”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ“Ａ”“Ｂ”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF09	3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	その動作状態をランプで表示すること。負圧計の圧力指示が警報設定レベル（高、低）を超えた時“圧力異常”のランプが点滅すること。また、制御リレーモジュールで“PIA ERROR”のランプが点滅しブザーが吹鳴することを確認する。制御リレーモジュールの“RESET”スイッチによって負圧異常がリセットされることを確認する。尚、(CB)G220にて負圧警報表示盤も確認する。		
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入し、ピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のＤＲの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・現場警報器 ※・(MP)プロセスコントロールデスク ・警報表示盤（放射線監視卓） ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報論理回路モジュール ・現場警報器 ※・(MP)プロセスコントロールデスク ・警報表示盤（放射線監視卓） Ｔａｇ，ＡＬＡＲＭにピン挿入 ・警報論理回路モジュール	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消音	※ＨＡＷ施設のみ表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF09	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル βダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル よう素(129)　OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm） OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm） OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	 ※各施設にて設定
線形増幅器	よう素(129)　MODE(POS) COARSE　GAIN FINE　GAIN	（POS）	
波高分析器	よう素(129)　BASE　LINE値 WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト βダスト よう素(129)	850(V) 710(V) 700(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量 FC／Mスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 測　定 O　N A・B	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF09	5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF10	1／4

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	DN施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、DRMモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3, 1×10^5, 1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して DRM　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDRMにてBG値を測定する。 2）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	BG値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	
5．関連動作の確認 5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF10	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 積算流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を30分間流した時積算流量計の動作確認及び積算値を測定する。同時にＨＰパネルのデュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	積算流量 FSの±3(%)以内 流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 総排気流量	ＨＰパネル盤内の端子台HP4L-53(+),54(-) にて外部入力を外して標準電流発生器より20(mA)を入力した時デュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	計数値 300±9(×10²m³/h)以内	
5.4 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯し、制御リレーモジュールで“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にHPパネルの制御リレーモジュールの“PURGE”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“ＲＥＭＯＴＥ”“ＬＯＣＡＬ”、ポンプ“A”“B”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ“A”“B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプで表示すること。負圧計の圧力指示が警報設定レベル（高、低）を超えた時現場で“圧力異常”のランプが点滅すること。また、制御リレーモジュールで“PIAERROR”のランプが点滅しブザーが吹鳴することを確認する。制御リレーモジュールの“RESET”スイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。尚、(CB)G220において負圧警報表示盤も確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10², 2×10⁴, 2×10⁶(cpm)に設定しパルスジェネレータの	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF10	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。		
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてDRMモジュールのモードを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） 2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） Tag，ALARMにピン挿入 ・警報論理回路モジュール 3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、アラームロジックもリセットする。（音）	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル βダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm） OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	※各施設にて設定

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１０	4／4

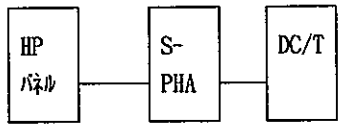
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト βダスト	850(V) 710(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	ＡＵＴＯ	
ＣＲＴ	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量 ＦＣ／Ｍスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 測　定 Ｏ　Ｎ Ａ・Ｂ	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF11	1／5

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	E，Z施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
4．計数効率測定	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/Tにて ＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(131)100(cpm) 以下 Ｋｒ（高）　50(cpm) 以下	
	2）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF11	2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。規定線源(Mock-Iodine) をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	よう素(131)　2(%) 以上	
	4）クリプトン（広）に関しては、測定系の接続及び試験方法はそれぞれの回路試験(3) 項に準じ、実流試験によって校正定数を求める。また規定線源（γ）をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 3.70×10^{-3}(Bq/cm³/cpm) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を流した時、マスフローメータの動作確認及びHPパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認すること。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 FC／Mモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各FC／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いHPパネルの該当DRMモジュールの表示が	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF11	3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	“OF1”となり制御リレーモジュールで該当の“PURGE”ランプが点滅することを確認する。次にHPパネルの制御リレーモジュールの各“PURGE”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“REMOTE”“LOCAL”、ポンプ“A”“B”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ“A”“B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態でランプ表示すること。各負圧計の圧力指示値が警報レベル設定値（高、低）を超えた時、現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅、制御リレーモジュールで“PIAERROR”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴すること。また、制御リレーモジュールの“BZ STOP/RESET”スイッチによって“圧力異常”がリセットされることも確認する。尚、(CB)G220に於いて負圧警報表示盤も確認する。		
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のTag，T・ALにピンを挿入し、DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。DRMの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。	警報設定精度 DRMにて±4(%)以内	※年1回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてDRMモジュールのモードを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ※・副受信盤 ・現場警報器	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音	 ※E施設のみ表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF11	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入		
	・ＤＲＭモジュール	ランプ	
	・警報変換器	ランプ　音	
	・警報表示盤（放射線監視卓）	消　灯　消音	
	・副受信盤　※	消　灯　消音	※Ｅ施設のみ表示
	・現場警報器	消　灯　消音	
	3）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報変換器もリセットする。（音）	異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。		
	αダスト　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{3}	
	警報レベル	※1(cpm)	※1 各施設にて設定
	βダスト　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{6}	
	警報レベル	※1(cpm)	
	よう素(131)　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{5}	
	警報レベル	※1(cpm)	
	Ｋｒ（広）　ＯＰ	ＯＰ(1)	
	ＲＡＮＧＥ	1×10^{5} ※2	※2 Ｅ施設のみ 1×10^{4}
	警報レベル	※1(cpm)	
線形増幅器	よう素(131)　ＭＯＤＥ(POS)	（ＰＯＳ）	
	ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ		
	ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ		
波高分析器	よう素(131)　ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥ値		
	ＷＩＮＤＯＷ値		
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト	850(V)	
	βダスト	1350(V)	
	よう素(131)	700(V)	
	Ｋｒ（高）	−1200(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF11	5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β よう素 ＦＣ／Ｍスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 70（ℓ/min） 測　定 Ｏ　Ｎ	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１３	１／４

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－Ｃｏｎ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．計数効率測定	１）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でＤＲＭにてＢＧ値を測定する。 ２）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	
５．関連動作の確認 5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 100（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリグユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が０に近づき負圧が上昇すること。	０～100 （ℓ/min） リークのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF13	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 積算流量の測定	一定流量（70ℓ/min）を30分間流した時積算流量計の動作確認及び積算値を測定する。同時にＨＰパネルのデュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	積算流量 FSの±3(%)以内 流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 総排気流量	ＨＰパネル盤内の端子台HP9R-72(+),73(-) にて外部入力を外して標準電流発生器より20(mA)を入力した時デュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	計算値 100±3(×10²m³/h)以内	
5.4 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時ランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＨＰパネルのＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯し、制御リレーモジュールで“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅することを確認する。次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチをポンプ“Ａ”“Ｂ”に切り換えそれぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプで表示すること。負圧計の圧力指示が警報設定レベル（高，低）を超えた時ドライポンプが停止し現場で“圧力異常”のランプが点滅し、制御リレーモジュールで“ＰＩＡ　ＥＲＲＯＲ”のランプが点滅しブザーが吹鳴すること。また、制御リレーモジュールの“ＲＥＳＥＴ”スイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。尚、(CB)G220において負圧警報表示盤及び(Pu-con)A224プロセスコントロールパネルも確認する。	正常に動作すること	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	信号変換器のＴａｇ，ＡＬＡＲＭにピンを挿入しピン背面の入力コネクタを外す。ＤＲＭモジュール前面パネルのINPUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10²，2×10⁴，2×10⁶(cpm)に設定しパルスジェネレータの	警報設定精度 ＤＲＭにて±1(%)以内	※年１回定期検査前に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF13	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。		
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてDRMモジュールのモードを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） 2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・警報表示盤（放射線監視卓） Tag，ALARMにピン挿入 ・警報論理回路モジュール 3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、アラームロジックもリセットする。（音）	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 表　示　音 ランプ ランプ　音 消　灯 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音 消音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル βダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル	 OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm） OP(1) ×　1 点　灯 ※（cpm）	※各施設にて設定

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF13	4／4

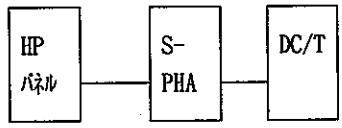
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト βダスト	850(V) 710(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量 FC／Mスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 測　定 O　N A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１４	１／４

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｃ，ＩＦ，LW_2 施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常がないこと	
２．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のDRM及び記録計の指示値を確認する。 指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回定期検査前に行う。
４．計数効率測定	１）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態でDC/TにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V) ２）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　50(cpm) 以下 よう素(131)100(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF14	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
	3）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(3),(4) 項に準ずる。規定線源(Mock-Iodine) をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	よう素(131) 2(%) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	各サンプリング配管系の流量が最大 100 (ℓ/min) まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 (ℓ/min) リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量 (70ℓ/min) を流した時、マスフローメータの動作確認及びHPパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認すること。	流量率 計算値 70±3(ℓ/min) 以内	
5.3 FC／Mモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各FC／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いHPパネルの該当DRMモジュールの表示が“OF1”となり制御リレーモジュールで該当の“PURGE”ランプが点滅することを確認する。次にHPパネルの制御リレーモジュールの各“PURGE”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。 サンプリングユニットのスイッチを“REMOTE” “LOCAL”、ポンプ“A”	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１４	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	“B”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ“A”“B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態でランプ表示すること。各負圧計の圧力指示値が警報レベル設定値（高、低）を超えた時、現場で“圧力異常”の該当ランプが点滅、制御リレーモジュールで“PIAERROR”の該当ランプが点滅しブザーが吹鳴すること。また、制御リレーモジュールの“BZ STOP/RESET”スイッチによって“圧力異常”がリセットされることも確認する。尚、(CB)G220に於いて負圧警報表示盤も確認する。		
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パネル前面のチェック端子にパルスジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ※・副受信盤 ・現場警報器 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・警報表示盤（放射線監視卓） ※・副受信盤 ・現場警報器	下記により正常動作をすること ランプ ランプ　音 表　示　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 消　灯　消音 消　灯　消音 消　灯　消音	※Ｃ施設のみ表示

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF14	4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。尚、警報変換器もリセットする。（音）	異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　OP RANGE 警報レベル βダスト　OP RANGE 警報レベル よう素(131)　OP RANGE 警報レベル	 OP(1) 1×10^{3} ※（cpm） OP(1) 1×10^{5} ※（cpm） OP(1) 1×10^{5} ※（cpm）	※各施設にて設定
線形増幅器	よう素(131)　MODE(POS) COARSE GAIN FINE GAIN	（POS）	
波高分析器	よう素(131)　BASE LINE値 WINDOW値		
高圧電源モジュール	高圧設定値　αダスト βダスト よう素(131)	850(V) 1350(V) 700(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量　α，β よう素 FC／Mスイッチ ドライポンプ動作	70（ℓ/min） 70（ℓ/min） 測　定 O　N	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１５	１／６

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	ＣＰＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュールのスイッチを“TEST”にし、ＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。	ＤＲＭ　1.00×10^{3}(cpm) ±1(%)以内 記録計　1.0×10^{3}(cpm) ±0.2(dec.)以内	
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。	ＢＧ値 クリプトン（低）　50(cpm)以下 クリプトン（高）　100(cpm)以下 αダスト　10(cpm)以下 βダスト　50(cpm)以下 よう素(129)　100(cpm)以下 よう素(131)　100(cpm)以下	
	２）クリプトン（低）（高）に関しては、測定系の接続及び試験方法はそれぞれの回路試験(5)項及び(4)項に準じ、実流試験によって校正定数を求める。また規定線源（γ）をガスサンプラの規定の位置に置き、計数値を記録計にて測定する。	校正定数 クリプトン（低） 1.85×10^{-3}(Bq/cm³/cpm)以上 クリプトン（高） $\times10^{-1}$(Bq/cm³/cpm)以上	
	３）αダスト及びβダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値	効率 αダスト　10(%)以上 βダスト　10(%)以上	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	を記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
	4）よう素に関しては、測定系の接続及び試験方法は回路試験(4) 項に準ずる。 次によう素(129) は規定線源(I-129)を、よう素(131)は規定線源(Mock-Iodine)をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて測定し効率を求める。 計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)	よう素(129)　2(%) 以上 よう素(131)　2(%) 以上	
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量がサンプリングⅠは最大150(ℓ/min) サンプリングⅡは最大 50(ℓ/min) まで任意に設定できることを確認する。次に流量を150(ℓ/min) 及び 50(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	サンプリングⅠ 0 ～150(ℓ/min) サンプリングⅡ 0 ～ 50(ℓ/min) リークのないこと	
5.2 積算流量の測定	サンプリングⅠにおいては一定流量70(ℓ/min) サンプリングⅡにおいては一定流量 30(ℓ/min) を30分間流した時、それぞれの積算流量計の動作確認及び積算値を測定する。同時にRMパネルのデュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	積算流量率 FS± 5(%) 以内 流量率 計算値 サンプリングⅠ 70±4.5(ℓ/min) 以内 サンプリングⅡ 30±1.5(ℓ/min) 以内	
5.3 排気総流量	RMパネル盤内の端子台 RM9L-101 (+), 100(-)にて外部入力を外して標準電流発生器より20(mA)を入力した時、デュアルカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	計算値 15±0.4(×$10^4$$m^3$/h) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF15	3／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.4 定流量弁の動作	サンプリングⅠの流量を変化させた時、サンプリングⅡの流量が変化しないこと。	変化しないこと	
5.5 ＦＣ／モード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットの各ＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時該当のランプが点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いＲＭパネルの該当ＤＲＭモジュールのＯＰランプが消灯し制御リレーモジュールで該当の“ＰＵＲＧＥ”ランプが点滅する。 次にＨＰパネルの制御リレーモジュールの各“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時同じ動作をすること。（サンプリングⅠは“ＡＵＴＯ／ＭＡＮＵＡＬ”スイッチが、いずれの状態でも、またサンプリングⅡではＭＡＮＵＡＬの状態での動作） またサンプリングⅡでは“ＡＵＴＯ／ＭＡＮＵＡＬ”スイッチをＡＵＴＯにした時はデジタルポートからの制御信号のみによってパージ動作を行う。 サンプリングユニットⅡのポンプ“切”スイッチ、ポンプユニットのポンプ“Ａ”“Ｂ”スイッチを切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態を表示すること。 現場のポンプユニットの負圧計の指示が警報設定レベル（高，低）を超えた時ドライポンプが停止し“圧力異常”のランプが点滅すること。また、ＲＭパネルの制御リレーモジュールで“PIA ERRORPUMP ”のランプが点滅しブザーが吹鳴することを確認する。次にサンプリングユニットの負圧計の圧力指示が警報設定レベル（高，低）を超えた時、該当の“圧力異常”ランプが点滅しＲＭパネルの制御リレーモジュールで該当の“PIA ERROR”ランプが点滅しブザーが吹鳴することを確認する。 制御リレーモジュールの“BUZ RESET”及び“ＬＡＭＰ　ＲＥＳＥＴ”スイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF15	4／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報動作確認	予め設定された警報レベルにてDRMモジュールのモードを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報論理回路モジュール ・グラフィックパネル ・プロセスコントロールパネル ・現場警報器 ・玄関ホール・パネル 2）信号変換器でピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・警報論理回路モジュール Tag，ALARMにピン挿入 ・警報論理回路モジュール 3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 DRMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 クリプトン（低）　OP RANGE OPランプ 警報レベル クリプトン（高）　OP RANGE OPランプ 警報レベル αダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル βダスト　OP RANGE OPランプ 警報レベル よう素(129)　OP RANGE OPランプ	 OP(1) ×　1 点　灯 (cpm) OP(1) ×　1 点　灯 (cpm) OP(1) ×　1 点　灯 (cpm) OP(1) ×　1 点　灯 (cpm) OP(1) ×　1 点　灯	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF15	5／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	警報レベル	(cpm)	
	よう素(131) OP	OP(1)	
	RANGE	× 1	
	OPランプ	点 灯	
	警報レベル	(cpm)	
線形増幅器	クリプトン MODE(POS)	(POS)	
	(高) COARSE GAIN		
	FINE GAIN	(目盛)	
	よう素(129) MODE(POS)	(POS)	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN	(目盛)	
	よう素(131) MODE(POS)	(POS)	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN	(目盛)	
波高分析器	クリプトン BASE LINE値	(目盛)	
	(高) WINDOW値	(目盛)	
	よう素(129) BASE LINE値	(目盛)	
	WINDOW値	(目盛)	
	よう素(131) BASE LINE値	(目盛)	
	WINDOW値	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 クリプトン（低）	900(V)	
	クリプトン（高）	800(V)	
	αダスト	900(V)	
	βダスト	710(V)	
	よう素(129)	700(V)	
	よう素(131)	800(V)	
信号変換器	ピンボードピン	無	
スキャナー	スイッチ	AUTO	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流量 サンプリングⅠ	70 (ℓ/min)	
	サンプリングⅡ	30 (ℓ/min)	
	FC／Mスイッチ	測 定	
	ポンプユニットの動作	ON	
		A・B	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１５	6／6

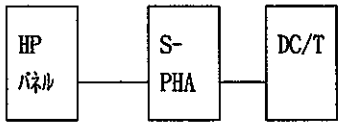
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１６	１／４

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－３施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^{3}，1×10^{5}，1×10^{6}(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 （尚、記録計による測定で時間を長く要する場合はＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐、接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。）  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下	
	２）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率をもとめる。	効率 αダスト　10(%) 以上	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 300（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を300(ℓ/min) に設定し、サンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇する。	0 ～300(ℓ/min) リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量(250ℓ/min) を流した時、マスフローメータの動作確認及びRMパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。同時に記録計値も確認する。	流量率 計算値 250±7(ℓ/min) 以内	
5.3 排気風量	RMパネル盤内の端子台RM8L-7(+),8(-)にて外部入力を外して標準電流発生器より20(mA)を入力した時カウンタにて計数値を測定し流量率を求める。	風量率 計算値 1.75 ±0.05 ($\times 10^6 m^3/h$) 以内	
5.4 FC／Mモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットのFC／Mスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時、ランプ点滅及び“パージ中”のランプが点滅する。同時にパージ動作を行いRMパネルのDRMモジュールの表示が“OF1”となり制御リレーモジュールの“PURGE”ランプが点滅する。次にRMパネルの制御リレーモジュールの“PURGE”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。現場のポンプユニットのスイッチを“現場”“遠隔”、ポンプ“A”“B”及び制御リレーモジュールのスイッチ“REMOTE”“LOCAL”、ポンプ“A”“B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。サンプリングユニットの負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高、低）を超えた時ドライポンプが停止しポンプユニットで“圧力異常”	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF16	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	のランプが点滅し、制御リレーモジュールで“PIA　ERROR”のランプが点滅しブザーが吹鳴すること。また、制御リレーモジュールの“RESET”スイッチによって負圧異常がリセットされること。		
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のTag，T・ALにピンを挿入し、DRMモジュール背面パネルの入力コネクタを外しパネルジェネレータの出力を接続する。DRMの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のDRMの指示値を確認する。	警報設定精度 DRMにて±4(%)以内	※年1回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてDRMモジュールのモードを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・DRMモジュール ・警報変換器 ・グラフィックパネル ・中央管理室 ・現場警報器 2）警報変換器でピンを使用した時の動作 Tagにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報変換器 ・中央管理室 Tag，T・ALにピン挿入 ・DRMモジュール ・警報変換器 3）リセット動作 DRMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 異常がないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF16	4／4

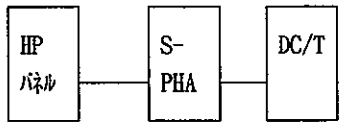
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．測定モードの確認	系の測定モード状態を確認する。		
DRMモジュール	OP	OP(1)	
	RANGE	1×10^4	
	警報レベル	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	850(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量	250 ℓ/min	
	FC／Mスイッチ	測　定	
	ポンプユニット動作	O　N	
		A・B	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
9．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値と流量計の読みを測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF17	1／4

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	PWTF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3, 1×10^5, 1×10^6(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐、接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下	
	2）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	効率 αダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF17	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 300（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。流量を300(ℓ/min）に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0 に近づき負圧が上昇すること。	0 ～300 （ℓ/min） リークのないこと	
5.2 流量の測定	一定流量(250ℓ/min）を流した時、マスフローの動作確認及びＲＭパネルのカウンタにて計数値を測定し流量率を求める。 同時に記録計値も確認する。	流量率 計算値 250±7(ℓ/min）以内	
5.3 総排気風量	ＲＭパネル盤内の端子台RM4L-24(+),25(-）にて外部入力を外して標準電圧発生器より5(V)を入力した時、カウンタにて計数値を測定し風量率を求める。	風量率 計算値 1.00 ±0.03（×$10^5$$m^3$/h）以内	
5.4 ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール動作確認	現場のサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチを“ろ紙交換”に切り換えた時、ランプが点滅し同時にパージ動作を行いRMパネルのＤＲＭモジュールの表示が“0F1”となり制御リレーモジュールで“PURGE”ランプが点滅することを確認する。　次にＲＭパネルの制御リレーモジュールの“ＰＵＲＧＥ”スイッチを切り換えた時、同じ動作をすること。サンプリングユニットのスイッチを“ＲＥＭＯＴＥ”“LOCAL”、ポンプ“A”“B”及び制御リレーモジュールのスイッチのポンプ“A”“B”を切り換え、それぞれにおいて正常に動作し、その動作状態をランプ表示すること。負圧計の圧力指示値が警報設定レベル（高，低）を超えた時ドライポンプが停止し現場で“圧力異常”のランプが点滅すること。また、制御リレーモジュールで“PIA ERROR”	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１７	3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	のランプが点滅しブザーが吹鳴すること。制御リレーモジュールの“ＲＥＳＥＴ”スイッチによって負圧異常がリセットされることも確認する。		
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外しパネルジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回前期に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ・放射線監視装置 ・現場警報器 ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^4 (cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	850(V)	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF17	4／4

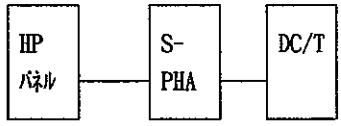
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
警報変換器	ピンボードピン	無	
CRT	表示の確認	異常がないこと	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量 FC／Mスイッチ ドライポンプ動作	250(ℓ/min) 測　定 O　N A・B	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF18	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	A棟、B棟、F棟、J棟、G棟		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6（cpm）の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐、接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下	
	2）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	効率 αダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF18	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －BG値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大80（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。	0 ～80（ℓ/min）	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外しパネルジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6（cpm）に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回前期に行う
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ※・現場居室パネル ※・守衛所パネル ２）警報変換器でピンを使用した時の動作 Ｔａｇにピン挿入 ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 ３）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ ランプ　音 異常がないこと	 ※Ｆ棟は表示せず ※Ｊ、Ｇ棟のみ表示
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　ＯＰ RANGE	ＯＰ(1) 1×10^4	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ１８	３／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	警報レベル	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	850(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量	60(ℓ/min)	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF19	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	(Pu-1)RMO室		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか 5）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＨＶモジュールの印加電圧を0(V)にし、パルスジェネレータの出力をＤＲＭモジュール前面の入力端子に接続する。パルスジェネレータより6×10, 6×10^2, 6×10^3(cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年1回前期に行う
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 2）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}\times100(\%)$	ＢＧ値 αダスト　10(cpm)以下 効率 αダスト　10(%)以上	
5．警報系試験 5.1 警報設定精度	監視盤内のバイパススイッチを“ＯＮ”にし、ＨＶモジュールの印加電圧を0(V)にする。ＤＲＭモジュール前面の入力端子にパルスジェネレータの出力を接続し、	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年1回前期に行う

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF19	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	DRM の警報設定値を 2×10^2, 2×10^4, 2×10^6（cpm）に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、監視盤で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。		
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・放射線監視盤 ・放管室アナウンシェータ ・（Ｐｕ－１）ロビーアナウンシェータ ・（Ｐｕ－２）監視室アナウンシェータ ２）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すると ランプ　表示 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 異常のないこと	
6．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 警報レベル 時定数	 (cpm) ＳＬＯＷ	
高圧電源モジュール	高圧設定値	1050(V)	
監視盤	バイパススイッチ	ＯＦＦ	
ダストサンプラ	流　量 吸引機	250(ℓ/min) Ｏ　Ｎ	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２０	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	α線用空気モニタ	型　名	――――	メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	(Pu-1)Ｒ－１２５		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングヘッド、現場警報器	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＨＶモジュールの印加電圧を０(Ｖ) にし、ＲＭモジュールの前面パネルの入力端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより６×10，６×10^3，６×10^4（cpm）の基準周波数を入力した時のＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	記録計にて Ｆ・Ｓ±10(%) 以内	※年１回前期に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 ２）測定系の接続及び試験方法は回路試験（　）項に準ずる。これによって分解能を求め、また、スペクトル測定で求められたＬＬＤ，ＵＬＤ，ＧＡＩＮの設定を行う。次に規定線源(^{241}Ａｍ）をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定する。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$ ×100(%)	ＢＧ値 10(cpm) 以下 効率 10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF20	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．警報系試験			
5.1 警報設定精度	RMモジュールの警報設定値を3×10^2、及び6×10^3(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報表示パネルで警報音が発生した時のRMモジュール及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 RMにてF.S.±10(%) 以内	※年1回前期に行う。
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてRMモジュールのRANGEスイッチを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・RMモジュール ・警報モジュール 2）リセット動作 RMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　　音 異常がないこと	
6．測定モードの確認	系の測定モード状態を確認する。		
RMモジュール	RANGE	(100)	
	時定数	100(SEC)	
	警報レベル	※(cpm)	※各施設にて設定
AMP & SCA モジュール	MODE	(POS)	
	COARSE GAIN		
	FINE GAIN		
	WINDOW		
	BASELINE		
高圧電源モジュール	高圧設定値	−100(V)	
ダストサンプラ	流　量	60(ℓ/min)	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２１	1／2

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――――	メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	(Pu-1)モックアップ室		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ＨＶモジュールの印加電圧を０(Ｖ) にし、ＲＭモジュールの前面パネルの入力端子にパルスジェネレータの出力を接続するパルスジェネレータより６×10，６×10^2，６×10^3（cpm）の基準周波数を入力した時のRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	記録計にて Ｆ・Ｓ±10(%) 以内	※年１回前期に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 2）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上	
5．警報系試験 5.1 警報設定精度	ＲＭモジュールの警報設定値を３×10^2，及び６×10^3(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報表示パネルで警報音が発生した時のＲＭモジュール及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 ＲＭにてF.S. ±10(%) 以内	※年１回前期に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２１	２／２

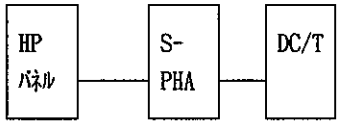
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＲＭモジュールのＲＡＮＧＥスイッチを“TEST”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＲＭモジュール ・警報パネル ２）リセット動作 ＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ 音 異常のないこと	
6．測定モードの確認 ＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＲＡＮＧＥ 時定数 警報レベル	 (100) 100(SEC) (cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	1100(V)	
ダストサンプラ	流　量	60(ℓ/min)	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２２	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	（Ｐｕ－１）新ウラン		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか ５）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3，1×10^5，1×10^6（cpm）の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±4(%)以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態でＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐、接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下	
	２）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。	効率 αダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２２	２／３

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×100(%)		
5．関連動作の確認			
5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大80（ℓ/min）まで任意に設定できることを確認する。	0 ～80（ℓ/min）	
6．警報系試験			
6.1 警報設定精度	警報変換器のＴａｇ，Ｔ・ＡＬにピンを挿入し、ＤＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタを外しパネルジェネレータの出力を接続する。ＤＲＭの警報設定値を 2×10^2，2×10^4，2×10^6（cpm）に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報変換器で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±4(%)以内	※年１回前期に行う
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、警報動作を確認する。 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・警報変換器 リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　　音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　ＯＰ ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＯＰ(1) 1×10^4 (cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	850(V)	
警報変換器	ピンボードピン	無	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF22	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量	70(ℓ/min)	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２３	1／2

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	(Pu-2)ＲＭＯ室		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＨＶモジュールの印加電圧を０(Ｖ) にし、パルスジェネレータの出力をＤＲＭモジュール前面の入力端子に接続する。パルスジェネレータより６×10，６×10^2，６×10^3 (cpm)の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±４(%) 以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 ２）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上	
５．警報系試験 5.1 警報設定精度	監視盤内のバイパススイッチを“ＯＮ”にし、ＨＶモジュールの印加電圧を０(Ｖ) にする。ＤＲＭモジュール前面の入力端子にパルスジェネレータの出力を接続し、	警報設定精度 ＤＲＭにて±４(%) 以内	※年１回前期に行う

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF23	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	DRMの警報設定値を 2×10^{2}, 2×10^{4}, 2×10^{6}(cpm)に設定しパルスジェネレータの出力を徐々に増加させ、監視盤で警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。		
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールのモードを“ＴＥＳＴ”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・ＤＲＭモジュール ・監視盤 ・（Ｐｕ－2）ロビーアナウンシェータ ・（Ｐｕ－2）監視室アナウンシェータ 2）リセット動作 ＤＲＭモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 異常のないこと	
6．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 警報レベル 時定数	 (cpm) ＳＬＯＷ	
高圧電源モジュール	高圧設定値	1050(V)	
監視盤	バイパススイッチ	ＯＦＦ	
ダストサンプラ	流　量 吸引機	250(ℓ/min) Ｏ　Ｎ	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF24	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	アロカ
検査名	総合検査	施設名	（Pu－1）PWSF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	前置増幅器の出力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 6×10^{1}, 6×10^{3}, 6×10^{4}（cpm）の基準周波数を入力した時のRM及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	記録計にて F・S±10(%) 以内	※年1回前期に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態で記録計にてBG値を測定する。 2）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定 一 率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	BG値 αダスト　10(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上	
5．警報系試験 5.1 警報設定精度	RMモジュールの警報設定値を 3×10^{2}, 及び 6×10^{3}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報表示パネルで警報音が発生した時のRM及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 RMにてF.S.±10(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF24	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてRMモジュールのＲＡＮＧＥスイッチを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・RMモジュール ・警報表示パネル 2）リセット動作 RMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　　音 異常が無いこと	
6．測定モードの確認 RMモジュール 高圧電源モジュール ダストサンプラ	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　RANGE 時定数 警報レベル 高圧設定値 サンプリング流量	 1×10^{2} 100(SEC) (cpm) 750(V) 250(ℓ/min)	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２５	1／2

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	M棟，第２ウラン貯蔵庫		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	ＨＶモジュールの印加電圧を０(Ｖ) にし、パルスジェネレータの出力をＲＭモジュール前面の入力端子に接続する。パルスジェネレータより 6×10，6×10^{3}，6×10^{4} (cpm) の基準周波数を入力した時のＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	記録計にて Ｆ・Ｓ±10(%) 以内	※年１回前期に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 ２）αダストは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\dfrac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上	
５．警報系試験 5.1 警報設定精度	ＨＶモジュールの印加電圧を０(Ｖ) にし、パルスジェネレータの出力をＲＭモジュールの入力端子に接続する。ＲＭモジュールの警報設定値を 3×10^{2}，6×10^{3} に設	警報設定精度 ＲＭにてF.S.±10(%) 以内	※年１回前期に行う。

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF25	2／2

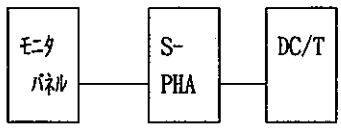
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報表示パネルで警報音が発生した時のRMモジュール及び記録計の指示値を確認する。		
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてRMモジュールのＲＡＮＧＥスイッチを“TEST”にし、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・RMモジュール ・警報パネル ※・現場居室パネル ・守衛所パネル 2）リセット動作 RMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ 音 ランプ　音 ランプ　音 異常のないこと	 ※M棟は表示せず
6．測定モードの確認 RMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＲＡＮＧＥ 時定数 警報レベル	 (30) 100(SEC) (cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	1100(V)	
ダストサンプラ	流　量	60(ℓ/min)	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２６	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	アロカ機
検査名	総合検査	施設名	Ｌ棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	DRM モジュール背面パネルの入力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 6×10^{2}, 6×10^{3}, 6×10^{4} (cpm) の基準周波数を入力した時のＤＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	入力に対して ＤＲＭ　±４(%) 以内 記録計　±0.16(dec.)以内	※年１回前期に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、ろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 （尚、記録計による測定で時間を長く要する場合はＲＭモジュール背面パネルの入力コネクタに下図の測定系を分岐接続しカウンタにてＢＧ値を測定する。）  ディスクリ 2(V)	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下	
	２）規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率をもとめる。	効率 αダスト　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAF26	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	計数値(cpm) －ＢＧ値(cpm) 規定線源の崩壊数(dpm) ×１００（%）		
5．警報系試験			
5.1 警報設定精度	DRM モジュールの警報設定値を3 × 10^2, 及び6 ×10^3(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報表示パネルで警報音が発生した時のＤＲＭの指示値を確認する。	警報設定精度 ＤＲＭにて±1digit以内	
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＤＲＭモジュールに設定値以上のパルスを入力し、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・RMモジュール ・警報表示パネル ・現場居室パネル ・守衛所パネル 2）リセット動作 ＤＲＭのアラームリセットを押した時全てリセットされること。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音 ランプ　音 異常のないこと	
6．測定モードの確認 ＤＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 ＲＡＮＧＥ 警報レベル	 ＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値	＿＿＿＿＿＿（V）	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２７	1／2

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタ	型　名	――――	メーカ名	ア　ロ　カ
検査名	総合検査	施設名	応用試験棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか。 ４）配管系のリークはないか。 ５）現場状況の報告 対象機器 ダストサンプラ	異常のないこと	
２．点検前の指示値の確認	測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
３．指示計と記録計の指示精度	前置増幅器の出力コネクタを外し、パルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより6×10^{1}, 6×10^{3}, 6×10^{4}（cpm）の基準周波数を入力した時のＲＭ及び記録計の指示値を確認する。指示値の確認は入力後安定した時の値とする。	記録計にて Ｆ・Ｓ±10(%) 以内	※年１回前期に行う。
４．感度試験	１）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態で記録計にてＢＧ値を測定する。 ２）αダスト及びβダストでは、規定線源(U_3O_8)をろ紙ホルダーに装着し、計数値を記録計にて測定し効率をもとめる。 $\frac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}\times100(\%)$	ＢＧ値 αダスト　10(cpm) 以下 βダスト　100(cpm) 以下 効率 αダスト　10(%) 以上 βダスト　15(%) 以上	
５．警報系試験 5.1 警報設定精度	ＲＭモジュールの警報設定値を3×10^{2}, 及び6×10^{3}(cpm)に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報表示パネルで警報音が発生した時のＲＭ及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 ＲＭにてF.S.±10(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＡＡＦ２７	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにてＲＭモジュールのＲＡＮＧＥスイッチを“TEST”にし、警報動作を確認する。 １）通常動作 高レベルアラーム ・ＲＭモジュール ・警報表示パネル ・現場居室パネル	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 ランプ　音	
6．測定モードの確認 ＲＭモジュール	系の測定モード状態を確認する。 αダスト　ＲＡＮＧＥ 時定数 警報レベル 高圧設定値 サンプリング流量 βダスト　ＲＡＮＧＥ 時定数 警報レベル 高圧設定値 サンプリング流量	 (30) 100(SEC) (cpm) 700(V) 60(ℓ/min) (300) 100(SEC) (cpm) 700(V) 60(ℓ/min)	
7．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する。	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAG01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ダストガスモニタ	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	MP施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）配管系のリークはないか。 5）現場状況の報告 対象機器 サンプリングユニット	異常のないこと	
2．点検前の指示値の確認	各チャンネルの測定モードにおける記録計の指示値と流量計の読みを確認する。	異常がないこと	
3．指示計と記録計の指示精度	ビン背面の入力コネクタを外し、対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。パルスジェネレータより 1×10^3, 1×10^5, 5×10^6 (cpm) の基準周波数を入力した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。	入力に対して 記録計　±0.3(dec.) 以内	※年1回定期検査前に行う。
4．感度試験	1）サンプリングを停止し、各チャンネルのろ紙を外した状態で、記録計にてBG値を測定する。 2）βダスト及びよう素は、規定線源（U_3O_8）を治具に装着し、計数値を記録計にて測定し効率を求める。 $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源の崩壊数(dpm)}}$	BG値 βダスト　50(cpm) 以下 よう素　50(cpm) 以下 効率 βダスト　10(%) 以上 よう素　10(%) 以上	
5．関連動作の確認 5.1 総流量可変範囲	サンプリング配管系の流量が最大 100 (ℓ/min) まで任意に設定できることを確認する。流量を100(ℓ/min) に設定しサンプリングユニットの入口のバルブを徐々に締めると、流量が0に近づき負圧が上昇すること。	0 ～100 (ℓ/min) リークのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11AAG01	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報系試験 6.1 警報設定精度	ピン背面の入力コネクを外し、対数計数率計前面パネルのAMP OUT 端子にパルスジェネレータの出力を接続する。対数計数率計の警報設定値を 2×10^2, 2×10^4, 2×10^6 (cpm) に設定しパルスジェネレータの入力周波数を徐々に増加させ、警報論理回路モジュールで警報音が発生した時の対数計数率計及び記録計の指示値を確認する。	警報設定精度 RMにて±0.2(dec.) 以内	※年1回定期検査前に行う。
6.2 警報動作確認	予め設定された警報レベルにて規定線源 (U_3O_8) を治具に装着し、警報動作を確認する。 1）通常動作 高レベルアラーム ・RMモジュール ・警報論理回路モジュール（現） ・警報論理回路モジュール（HP） 2）リセット動作 RMモジュールのアラームリセットを押した時、全てリセットされることを確認する。	下記により正常動作すること ランプ ランプ　音 音 異常がないこと	
7．測定モードの確認 RMモジュール	系の測定モード状態を確認する。 βダスト　RANGE 警報レベル よう素　RANGE 警報レベル	 ×1 (cpm) ×1 (cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値　βダスト よう素(131)	710(V) 710(V)	
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	流　量 ドライポンプ動作	60（ℓ/min) OFF	
8．指示値の測定	最後に系を測定状態にして、記録計の指示値を測定する。	読み値より検出部の周辺からの放射線の影響を考慮し、モニタ装置の状態を確認する	

点検整備技術要領書

整理番号	11IAA01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	HPパネル、RMパネル	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。	異常のないこと	
2．盤内照明	各パネル内の照明用スイッチを“ON”とし、パネル上部の白熱電球が点灯することを確認する。	照明が点灯すること	
3．冷却用ファン	ファン用スイッチを“ON”とし、各パネル上部の冷却用ファンが正常に作動することを確認する。	正常に作動すること	
4．パネル内整線状態の確認	各パネル内のケーブル配線に異常の無いことを目視により確認る。また、各パネル毎に異音、異臭及び異常な発熱等の無いことを確認する。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11IAB01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	HPデスク、RMデスク	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。	異常のないこと	
3．冷却用ファン	ファン用スイッチを“ON”とし、各デスク上部の冷却用ファンが正常に作動することを確認する。	正常に作動すること	
4．デスク内整線状態の確認	各デスク内のケーブル配線に異常の無いことを目視により確認る。また、各デスク毎に異音、異臭及び異常な発熱等の無いことを確認する。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	11IAC01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	警報表示盤	型　名	RZ314/RZ315	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	CB		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。	異常のないこと	
2．低圧電源の測定			
2.1 表示ユニット部	表示ユニット内部にあるスイッチング電源ユニットの出力端子にデジタルボルトメータを接続し、低圧電源出力を測定する。 1）＋5V電源 2）＋12V電源	＋ 5.0(V) ± 0.2(V) 以内 +12.0(V) ± 0.5(V) 以内	
2.2 表示コントローラ部	コントローラ部前面扉を開け、電源ユニットの出力端子にデジタルレートメータを接続し、低圧電源出力を測定する。 1）＋5V電源 2）＋24V電源	＋ 5.0(V) ± 0.2(V) 以内 +24.0(V) ± 1.0(V) 以内	
3．警報表示動作の確認	CB，MP，AAFに関しては、各警報変換器の“ALM TEST”ボタンを押して各々の警報表示を確認する。 MP臨界に関しては、ISIM動作により警報表示を確認する。 その他の施設については、CBJB当該端子をジャンパーすることにより警報表示を確認する。	正常に動作すること TAG　表示 警報音　吹鳴	

点検整備技術要領書

整理番号	11IMAK1	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	非常退避警報	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	再処理施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）部品の破損はないか。 5）現場状況の報告 対象機器 エバケーションホーン、サイレン	異常のないこと	
2．警報動作の確認	放射線監視卓の操作盤にて各スイッチを押した時、各現場のランプ及びエバケーションホーンにて警報動作を確認する。 1）操作スイッチ 警報箇所 コントロールパネル　ランプ　音 G220放射線監視卓　ランプ　音 廃棄物処理場　AAF コントロールパネル　ランプ　音 コントロールデスク　ランプ　音 水処理パネル　ランプ　音 2）操作スイッチ 警報箇所 コントロールパネル　ランプ　音 G220放射線監視卓　ランプ　音 AAF コントロールパネル　ランプ　音 コントロールデスク　ランプ　音 全施設　水処理パネル　ランプ　音 高ﾚﾍﾞﾙ 固体廃棄物処理場　サイレン スラッジ貯蔵庫　サイレン ポンピングステーション　サイレン ウラン貯蔵所　サイレン	下記により正常動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11IAAK1	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ドア警報	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	再処理施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか。 4）現場警報器のランプを点検する。 5）現場状況の報告 対象機器　センサー部 現場警報器	異常のないこと	
2．警報動作確認	ドア警報センサーの取りつけられている扉の開閉を行い、警報動作を確認する。	正常に動作すること	

施設名	ドア警報表示盤	現場警報器	プロセスコントロールパネル	副受信盤
M　P	CB　G220	○	MP　G549	――
C　B	〃	○	CB　G117	――
AAF	〃	○	AAFG101	――
Z	Z　G204	○	――	――
C	〃	○	――	――
W　S	〃	○	――	――
LW2	〃	○	――	――
ASP, ASP-ST	〃	○	ASPG218	――
2ASP-ST	2ASP-ST G321	○	〃	Z　G204
K　r	Kr　G206	○	――	KrG206
S　T	ST　G201	○	――	――
D　N	DN　G221	○	DN　G213	――
HAW	HAWG441	○	――	――
2HASWS	2HASWS G062	○	――	ASP G218

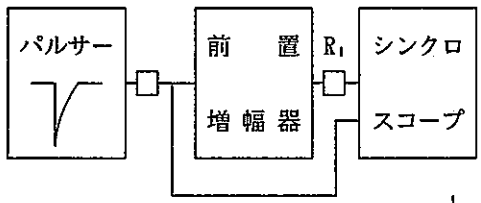
ドア警報表示盤
　ランプ　点滅
　音　吹鳴
現場警報器
　ランプ　点滅
　音　吹鳴
プロセスコントロールパネル
　ランプ　点滅
　音　吹鳴

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＡ０１	１／３

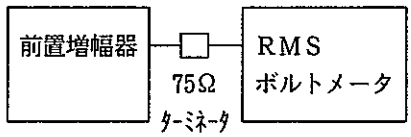
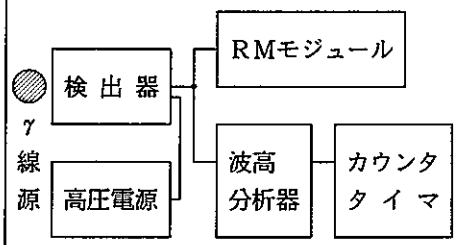
改訂　平成８年３月

機器名	γ線エリアモニタ検出器	型　名	ＲＤ２１２Ｇ１／Ｇ４	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 R1 ： 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 上記の接続にて、パルサより負入力 300(mV)を前置増幅器に加え（C2 1000PFの入力側）、出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	増幅度 10（倍）以上	
2.2 最大出力の測定	2.1の接続でパルサーからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.3 直線性の測定	2.1の接続で入力にそれぞれ 300(mV), 200(mV), 100(mV)を加えたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性 300(mV) 入力時の出力電圧の±3(%)以内	

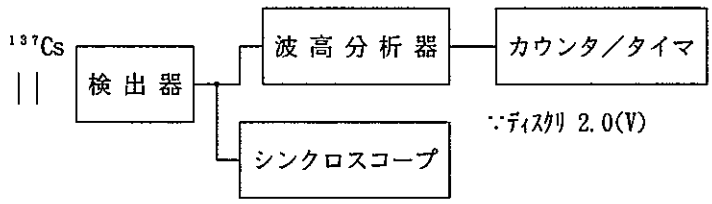
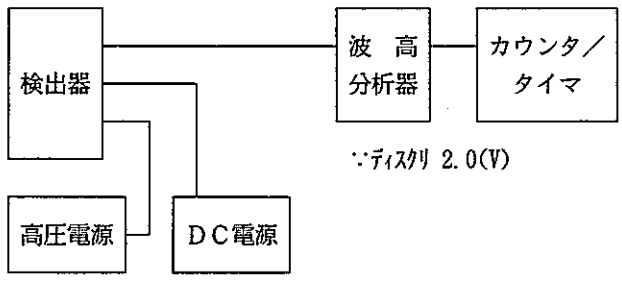
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＡ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とＧＮＤを短絡したとき、出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{ＲＭＳボルトメータの読み（}\mu\text{V RMS)}}{\text{増　幅　度}}$	入力換算雑音 300(μV RMS)以下	
3．プラトー特性試験	 ﾃﾞｨｽｸﾘ 2.0(V)		
3.1 計数開始電圧の測定	上記の接続でγ線源を用い高圧を順次上げていったときカウンタが計数し始める点の電圧を測定する。	計数開始電圧 350(V)以下	
3.2 プラトー領域	3.1の接続で高圧を300(V)から600(V)まで 50(V)毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマにて測定する。 プラトー傾斜 $= \frac{\text{500(V)の計数値(cpm)} - \text{400(V)の計数値(cpm)}}{\text{使用電圧の計数値(cpm)}} \times 100$	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 5(%/100V) 以下	
	最後にγ線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧(470V)におけるＢＧ値をカウンタ／タイマにて測定する。	ＢＧ値 100(cpm) 以下	※Ｇ４は450(V)

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＡ０１	３／３

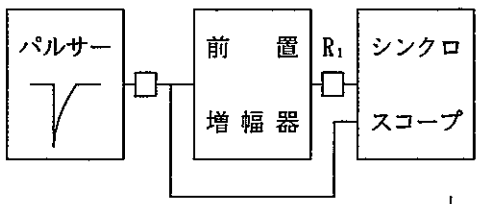
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．γ線照射			
4.1 直線性	上記の接続にて照射線量を変化させ、そのときのカウンタ／タイマにて測定する。（グラフ使用）	直線性 1.0×10^{-5}(mSv/h/cpm) ±0.3(dec)以内	
4.2 再現性	4.１の接続で1(mSv/h)の点において電源(AC)をＯＮ、ＯＦＦ３回以上行い、カウンタ／タイマの指示値を測定する。	再現性 指示値に変化のないこと	
4.3 大線量照射	4.１の接続で 80(mSv/h)を照射したときの指示値をカウンタ／タイマより読み取る 尚、γ線照射時には窒息防止回路の動作確認のため出力波形をシンクロスコープにて観測すること。	大線量照射 10(mSv/h)照射時よりも指示値が大きいこと	
５．内部線源計数値			
5.1 計数値の測定	上記の接続にてＤＣ90(V) を加えロータリーソレノイドを動作させたときの計数値を外部からの放射線の影響を受けないようにしてカウンタ／タイマにて測定する。	計数値 1000±20(cpm) 以内	
5.2 動作確認	ＤＣ電源をＯＮ／ＯＦＦさせたときのカウンタ／タイマの指示値を測定。	動作確認 指示値に変化のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAA02	1／3

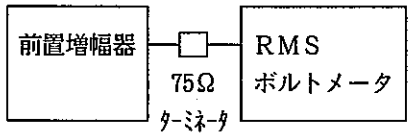
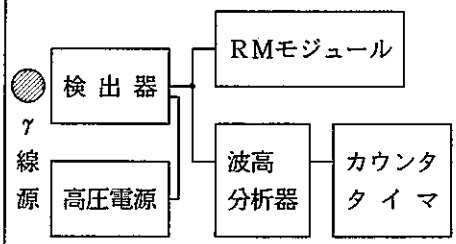
改訂　平成8年3月

機器名	γ線エリアモニタ検出器	型　名	RD225	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 R1 ： 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 上記の接続にて、パルサより負入力 300(mV)を前置増幅器に加え（C2 1000PFの入力側）、出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	増幅度 10（倍）以上	
2.2 最大出力の測定	2.1の接続でパルサーからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.3 直線性の測定	2.1の接続で入力にそれぞれ 300(mV), 200(mV), 100(mV)を加えたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性 300(mV) 入力時の出力電圧の±3(%)以内	

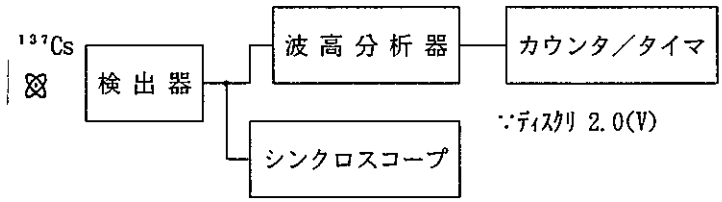
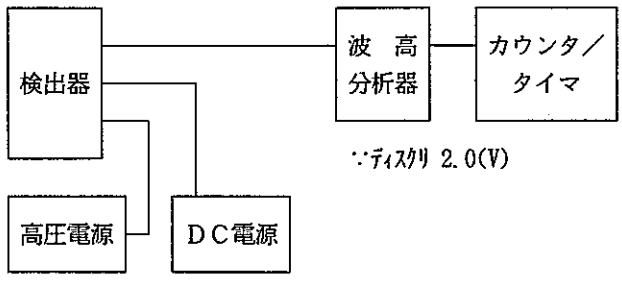
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＡ０２	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とＧＮＤを短絡したとき、出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{ＲＭＳボルトメータの読み（}\mu\text{V RMS）}}{\text{増　幅　度}}$	入力換算雑音 300（μV RMS）以下	
3．プラトー特性試験	 ﾃﾞｨｽｸﾘ 2.0(V)		
3.1 計数開始電圧の測定	上記の接続でγ線源を用い高圧を順次上げていったときカウンタが計数し始める点の電圧を測定する。	計数開始電圧 350(V)以下	
3.2 プラトー領域	3.1の接続で高圧を300(V)から600(V)まで 50(V)毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマにて測定する。 プラトー傾斜 $= \frac{\text{500(V)の計数値(cpm)} - \text{400(V)の計数値(cpm)}}{\text{450(V)の計数値(cpm)}} \times 100$	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 5(%/100V) 以下	
	最後にγ線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧(450V)におけるＢＧ値をカウンタ／タイマにて測定する。	ＢＧ値 100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＡ０２	３／３

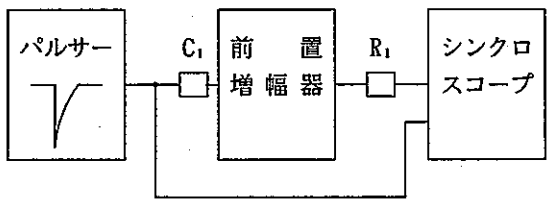
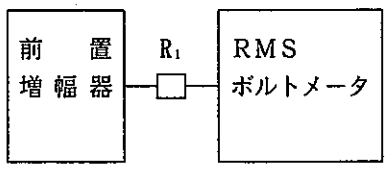
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．γ線照射			
4.1 直線性	上記の接続にて照射線量を変化させ、そのときのカウンタ／タイマにて測定する。（グラフ使用）	直線性 1.0×10^{-5}(mSv/h/cpm) ±0.3(dec)以内	
4.2 再現性	4.1の接続で1(mSv/h)の点において電源(AC)をＯＮ、ＯＦＦ３回以上行い、カウンタ／タイマの指示値を測定する。	再現性 指示値に変化のないこと	
4.3 大線量照射	4.1の接続で 80(mSv/h)を照射したときの指示値をカウンタ／タイマより読み取る 尚、γ線照射時には窒息防止回路の動作確認のため出力波形をシンクロスコープにて観測すること。	大線量照射 10(mSv/h)照射時よりも指示値が大きいこと	
５．内部線源計数値			
5.1 計数値の測定	上記の接続にてＤＣ90(V) を加えロータリーソレノイドを動作させたときの計数値を外部からの放射線の影響を受けないようにしてカウンタ／タイマにて測定する。	計数値 1000±20(cpm) 以内	
5.2 動作確認	ＤＣ電源をＯＮ／ＯＦＦさせたときのカウンタ／タイマの指示値を測定。	動作確認 指示値に変化のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAB01	1／5

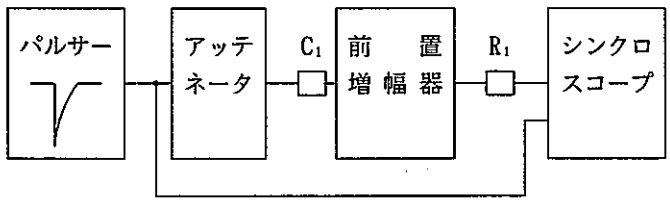
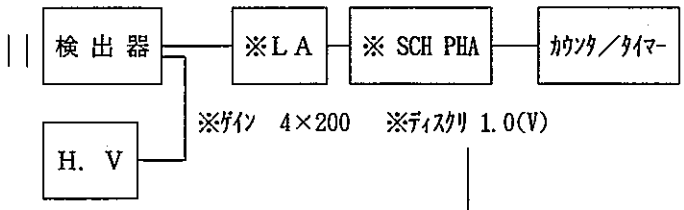
改訂　平成8年3月

機器名	中性子線エリアモニタ検出器	型　名	RD402	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	CPF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃および部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器	 RISE TIME　100(n Sec) DECAY TIME　10(μSec) R_1 = 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ C_1 = 1(pF)ﾀｰﾐﾈｰﾀ		
2.1 最大利得の測定	上記の接続にてパルサーより負入力-100(mV)を前置増幅器のR_1の入力側に加え、点検前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。次にGAINピンをH側にし、利得をＶＲ１にて最大にした時の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 利得＝ 出力波高値（V） / 入力電荷 1×10^{-13}(C)　(V/10^{-13}C)	最大利得 1.5(V/10^{-13}C) 以上	
2.2 最小利得の測定	2.1項と同様に、GAINぴんをＬ側にし、利得をＶＲ１にて最小にした時の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 1.0(V/10^{-13}C) 以下	
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）		R_1 = 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ	

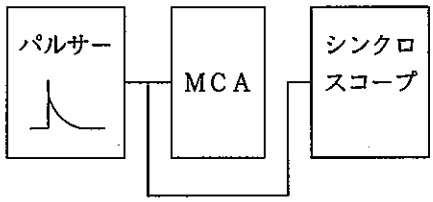
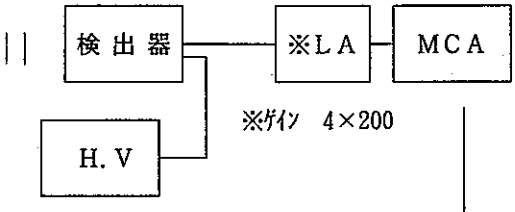
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＢ０１	２／５

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	上記の接続で利得を最大にした時の出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \dfrac{\text{RMSボルトメータの読み（}\mu\text{VRMS）}}{\text{最大利得(V/10}^{-13}\text{C)}}$ （C）	入力換算雑音 5.0×10^{-16}(C)以下	
2.4 最大出力の測定	2.１項の接続でパルスジェネレータからの入力を徐々に上げていき、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力　５（Ｖ）以上	
2.5 直線性の測定	 R_1 = 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ C_1 = 1(pF)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 上記の接続で利得を最小にし、負入力５(Ｖ) を加え出力波高値が５(Ｖ) になるようにアッテネータをＶＲ１を調整した後、入力電圧を４(Ｖ)，３(Ｖ)，２(Ｖ)，１(Ｖ) にした時の出力波高値をそれぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得を点検前の値に戻すこと。	直線性 最大出力の±３（%）	
３．プラトー特性試験	※チェック用内部線源は取り外す  上記の接続で規定の中性子線源（Ａｍ－Ｂｅ）を用い印加電圧を1500(Ｖ) から1800	プラトー領域 200(Ｖ) 以上 プラトー傾斜 5(%) 以下	※以後５項まで外しておくこと

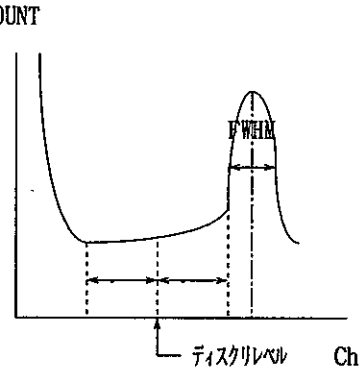
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＢ０１	3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	(V) まで50(V) 毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマーにて測定する。 $\text{プラトー傾斜} = \dfrac{\dfrac{C_2 - C_1}{C_2 + C_1}}{\dfrac{V_2 - V_1}{100}} \times 100\ (\%)$ 但し　C_1 ：1600(V) 時の計数率(cpm) C_2 ：1800(V) 時の計数率(cpm) V_1 ：1600(V) V_2 ：1800(V) とする。		
4．中性子線照射試験 4.1 ディスクリレベル設定	最後に中性子線線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧(1670(V))におけるＢＧ値をカウンタ／タイマーにて測定する。	ＢＧ値　10(cpm) 以下	
	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）  上記の接続でパルサーからの出力波高値(5.0V，4.0V，3.0V，2.0V，1.0V)をシンクロスコープで測定し、それぞれのＭＣＡのｃｈ数を求め電圧直線性を確認する。		
	（スペクトル測定）  		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＢ０１	４／５

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	上記の接続で規定の中性子線源Ａｍ－Ｂｅ及びγ線源^{60}Ｃｏを用いてスペクトル測定を行う。 （ディスクリレベル設定） 求められたスペクトルよりＤＲＭのディスクリレベルは、Ａｍ－Ｂｅによるピークの半値幅のＣｈ数の小さい方と^{60}Ｃｏによるスペクトルの立ち上がり部分との中間とする。		
4.2 感度試験	⊠ 検出器 ― ※ＬＡ ― ※ SCH PHA ― ｶｳﾝﾀ／ﾀｲﾏｰ H. V ※ｹﾞｲﾝ　4×200　※4. 1項で求めた値に設定する		
	上記の接続で規定の中性子線源を用い線源との距離を100(cm) とした時の計数値をカウンタ／タイマーにて測定する。次に線源を外しＢＧ値を測定し、感度を求める。 $感度 = \frac{計数値(cps) - ＢＧ値(cps)}{中性子線束密度\ (n/cm^2 \cdot sec)}\ (cps/nV)$ $中性子線束密度 = \frac{中性子線放出率}{4\pi d^2}$ d＝100(cm)	感度 1.0(cps/nV) 以上 ＢＧ値 10(cpm) 以下	使用線源： Ａｍ－Ｂｅ，Ｃｆ
4.3 直線性	4. 2項の接続で線源との距離を50, 70, 100, 200(cm)とした時の計数値をカウンタ／タイマーにて測定し、直線性を確認する。	直線性 直線上に乗ること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＢ０１	5／5

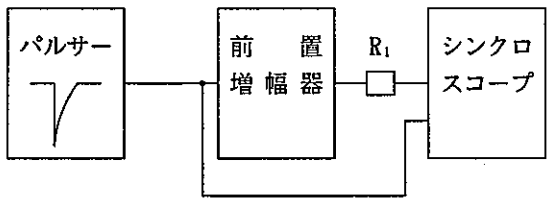
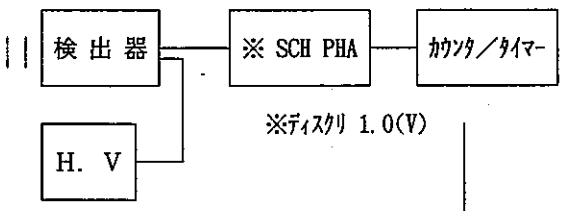
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．γ線照射試験	4.２項の接続で、γ線源 ^{137}Ｃｓにて80(mSv/h) を照射し影響のないことを確認する。	影響のないこと	
6．チェック動作	３項で取り外したチェック用内部線源を取付け、4.２項の接続でリニアアンプのCOARSE GAIN を上げて計数値が500(cpm)以上となる時のCOARSE GAIN とFINE GAIN の値を確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14JAB02	1／3

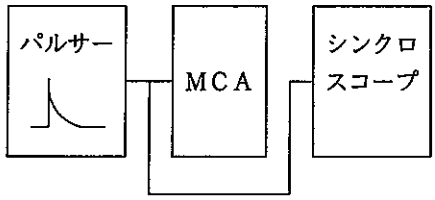
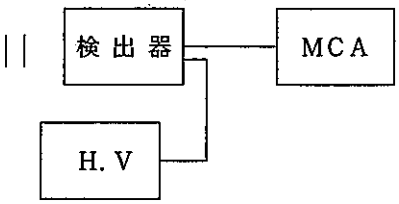
改訂　平成8年3月

機器名	中性子線エリアモニタ検出器	型　名	RD405	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	MP，Pu－con，Pu－3施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃および部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器増幅度の測定	 RISE TIME　　R_1 = 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 100(n Sec) DECAY TIME 10(μSec) 上記の接続にてパルサーより負入力-100(mV)を前置増幅器のＳＩＧ－ＩＮに加えたときの最大利得及び最小利得における出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 （利得可変　ＶＲ１）	最　大　　倍 最　小　　倍 設　定　10.0倍	
3．プラトー測定試験 3.1 プラトー領域 3.2 プラトー傾斜	 ※ﾃﾞｨｽｸﾘ 1.0(V) 上記の接続にて規定の中性子線源（Ａｍ－Ｂｅ）を用い高圧を 50(V)毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマにて測定する。	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%)/100(V)以下	使用電圧 2350(V) 2200(V)～2600(V) 使用電圧 2500(V) 2400(V)～2800(V)

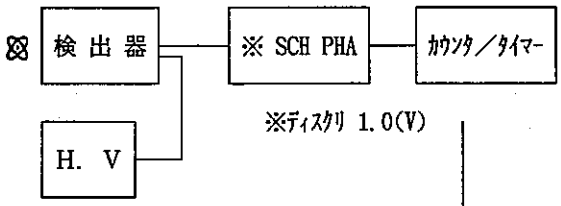
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＢ０２	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	プラトー傾斜：$\frac{C_2-C_1}{C_3} \times \frac{100}{150} \times 100(\%)$ 但し　C_1：使用電圧－50(V) の時の計数率(cpm) C_2：使用電圧+100(V) の時の計数率(cpm) C_3：使用電圧時の計数率(cpm)		
3.3 ＢＧ値の測定	最後に中性子線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧におけるＢＧ値をカウンタ／タイマにて測定する。	ＢＧ値 （cpm）以下	
4．中性子線源照射試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）  上記の接続でパルサーからの出力波高値（5.0V，4.0V，3.0V，2.0V，1.0V）をシンクロスコープで測定し、それぞれのＭＣＡのｃｈ数を求め電圧直線性を確認する。		
4.1 スペクトルの測定	（スペクトル測定）  上記の接続で規定の中性子線源（Ａｍ－Ｂｅ）およびγ線源（^{60}Ｃｏ）を用いてスペクトル測定を行う。		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＢ０２	３／３

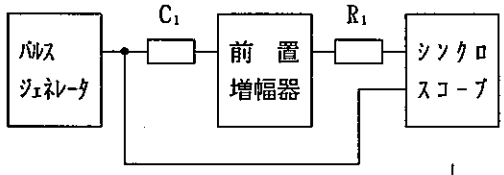
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2 直線性及び感度試験	 上記の接続で規定の中性子線源を用いて照射線量を変化させ、そのときのカウンタ／タイマーの値を読み取る。(グラフ使用) 次に線源を外し、ＢＧ値を測定する。 Ａｍ－Ｂｅ線源による４点の線量と計数値の比を平均し、感度を求める。 $\frac{\text{Ａｍ－Ｂｅ線量当量(mSv/h)}}{\text{計数値(cpm) －B.G値(cpm)}}$	ＢＧ値 10(cpm) 以下	使用線源： Ａｍ－Ｂｅ，Ｃｆ
5．γ線照射試験	4.2項の接続でγ線源(^{137}Ｃｓ)にて0.1(Sv/h) 以上を照射し、影響のないことを確認する。	影響のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAC01	1／4

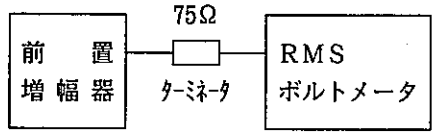
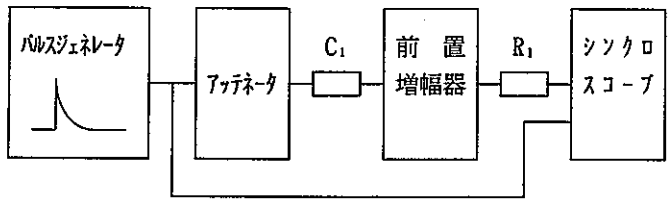
改訂　平成8年3月

機器名	α線ダストモニタ検出器	型　名	RD622B	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	CPF，PWTF，Pu－2，Pu－3		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 R_1：75Ωターミネータ C_1：1pFチャージターミネータ		C_1は絶縁状態で使用すること
	上記の接続で、パルスジェネレータより正入力 100(mV)を前置増幅器に加え（半導体検出器に接続されているコネクタに入力する）、最初に点検前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。次にＧＡＩＮ設定ピンをH側にしＶＲ$_2$を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 $利得 = \frac{出力電圧(V)}{入力電荷(C)} \times 10^{13}(V/C)$	最大利得 2.0×10^{13}(V/C) 以上	点検前の利得を備考欄に記入
2.2 最小利得	2.1項と同様で、ＧＡＩＮ設定ピンをＬ側にしＶＲ$_2$を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 1.5×10^{13}(V/C) 以下	

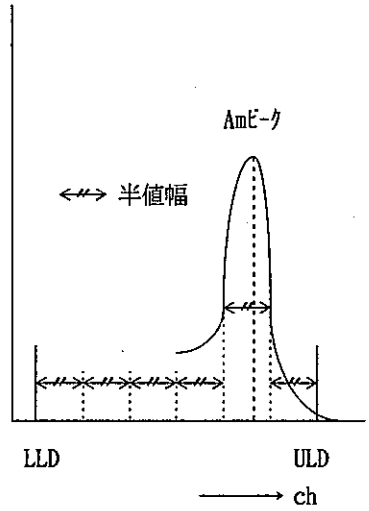
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＣ０１	２／４

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み}(\mu\text{VRMS})}{\text{最大利得}(\text{V}/10^{-13}\text{C})}$ (C)	入力換算雑音 5.0×10^{-16}(C)以下	
2.4 最大出力の測定	2.１項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.5 直線性の測定	 C1:ﾁｬｰｼﾞﾀｰﾐﾈｰﾀ 1PF R1:ﾀｰﾐﾈｰﾀ　　75Ω 上記の接続で利得を最小にし正入力5(V)を加え出力波高が5(V)になるようにアッテネータとＶＲ２を調整した後、入力電圧を4(V)，3(V)，2(V)，1(V)にしたときの出力波高、それぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得を点検前の値に戻しておく。	直線性 最大出力5(V)の±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＣ０１	４／４

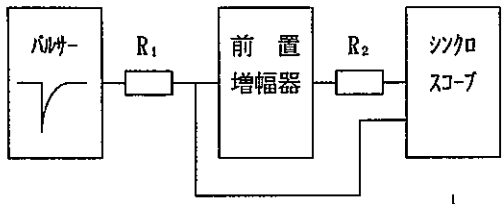
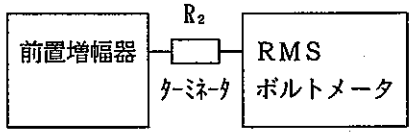
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
	^{244}Cmのエネルギー：5.81×10^{3}(KeV) ^{237}Npのエネルギー：4.79×10^{3}(KeV) ＵＬＤの設定：（Amのピークの半値幅の大きい方のch値)＋(半値幅のch数) ＬＬＤの設定：（Amのピークの半値幅の小さい方のch値)＋(半値幅のch数×4)		
	（エネルギー直線性の確認） 接続方法は、スペクトル測定と同じで、規定のＭＩＸ－α線源（Np,Am,Cm）をろ紙ホルダーに装着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定し、エネルギー直線性を確認する。	エネルギー直線性 直線上にのること	
４．計数効率測定	検出器 ― ※Ｓ－ＰＨＡ ― ＲＭ ※ＵＬＤ，ＬＬＤの設定はスペクトル測定で求めた値にする。		
	上記の接続で、規定のＡｍ線源（１６８Ｂｑ）をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて計数値を測定する。 以上より感度、効率を求める。 $\text{効率}=\dfrac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{線源の崩壊数(dpm)}}\times 100(\%)$	効率　10(%) 以上	
５．ノイズレベルの確認	４項の接線において、検出器出力の雑音をシンクロスコープにて測定する。 線源の崩壊数(dpm)	ノイズレベル 500(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAD01	1／3

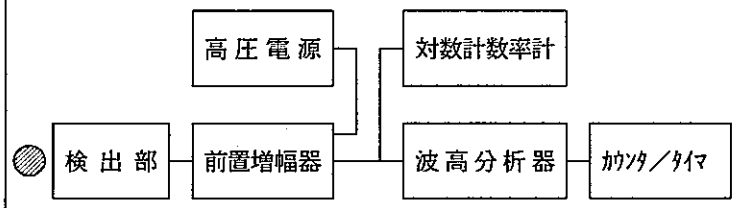
改訂　平成8年3月

機器名	β線ダストモニタ検出器	型　名	RD213	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理、CPF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 R1:100(Ω)ターミネータ R2: 75(Ω)ターミネータ 上記の接続でパルサーより負入力 300(mV)を前置増幅器に加え（C2 1000PFの入力側）、出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	増幅度 10（倍）以上	
2.2 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とGNDを短絡したとき、出力をRMSボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み（}\mu\text{VRMS）}}{\text{増　幅　度}}$	入力換算雑音 300(μVRMS)	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＤ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 最大出力の測定	2.１項の接続でパルサからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.4 直線性	2.１項の接続で入力がそれぞれ300(mV), 200(mV), 100(mV)のときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性 300(mV) 入力時電圧の ±3(%)以内	
3．プラトー特性試験	 ∵ﾃﾞｨｽｸﾘ 2.0(V)		
3.1 計数開始電圧の測定	上記の接続でγ線源を用い、高圧を順次上げていったとき、カウンタが計数し始める点を測定する。	計数開始電圧 650(V)以下	
3.2 プラトー領域 3.3 プラトー傾斜	3.１項の接続で高圧を600(V)から900(V)まで 50(V)毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマにて測定する。 プラトー傾斜 $= \dfrac{\text{750(V)の計数値(cpm)} - \text{650(V)の計数値(cpm)}}{\text{700(V)の計数値(cpm)}} \times 100 \quad (\%/100V)$	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%/100V)以下	
	最後にγ線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧(710V)におけるＢＧ値をカウンタ／タイマにて測定する。	ＢＧ値 100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＤ０１	３／３

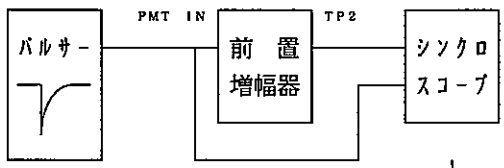
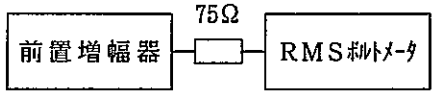
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．窒息防止回路の確認	TP1 前置増幅器 ― 対数計数率計 基準電流発生器		
	上記の接続で基準電流発生器より前置増幅器ＴＰ１に+10(μA)を加えたときの対数計数率計の指示値を読む。	指示値 1.0×10^{6}(cpm)以上	
５．検出効率測定	３．１項の接続で規定のU_3O_8線源と治具を用いて計数値をカウンタ/タイマーにて測定する。次に同条件でＢＧ値を求め効率と感度を求める。		
	効率 $=\dfrac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{崩　壊　数（dpm）}}\times100(\%)$	効率 10(%) 以上	
	感度$=\dfrac{\text{線源の面密度（Bq／cm}^2\text{）}}{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}$	感度 1.1×10^{-2} (Bq/cm²/cpm) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAD02	1／2

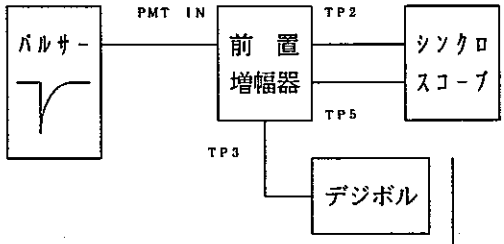
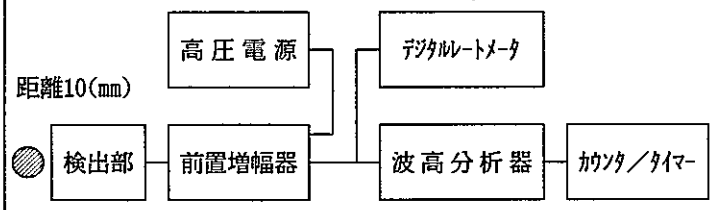
改訂　平成8年3月

機器名	β線ダストモニタ検出器	型　名	RD372	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 上記の接続でパルサーより負入力30(mV)(RISE TIME:250μ，DECAY TIME:100μ）を前置増幅器に加え（フォトマル入力端子⑪,⑫）、初段アンプの増幅度をシンクロスコープにて測定する。（TP2-COM.）	増幅度 最小　10倍以下 最大 100倍以上	VR1にてゲイン調整
2.2 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とGNDを短絡したとき、出力をRMSボルトメータにて測定する。 入換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{増　幅　度}}$ (μVRMS)	入力換算雑音 300(μVRMS) 以下	
2.3 出力波形の測定	2.1項の接続でパルサーより入力30(mV)を加えたときのTP4 出力波形をシンクロスコープにて測定する。（終端抵抗75Ω）	出力波高　約11.5(V) パルス幅　5±2 μsec	
2.4 直線性	2.1項の接続で入力がそれぞれ 30(mV)，20(mV)，10(mV)のときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性　30(mV)入力時 出力±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAD02	2／2

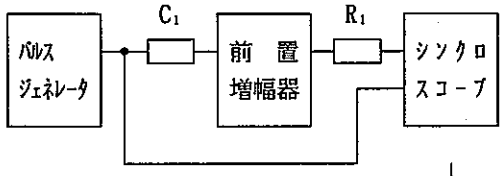
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.5 ディスクリ電圧の測定	 上記の接続にて TP3の電圧を150(mV) にVR2にて設定し、 TP2の波高値（幅５μ）が設定値以上になったとき、 TP5に波形が出力されること。	弁別動作に異常ないこと	
3．検出効率の測定	 上記の接続において規定の線源(U_3O_8)をホルダーに装着して計数値をカウンタ／タイマにて測定する。次に同条件でＢＧ値を測定し、効率を求める。 $$効率=\frac{計数値(cpm)-ＢＧ値(cpm)}{崩壊数(cpm)}\times 100\ (\%)$$	効率　15(%) 以上 (DISC:300(mV),GAIN:90倍)	高圧設定値 1350(V)

点検整備技術要領書

整理番号	14JAE01	1／4

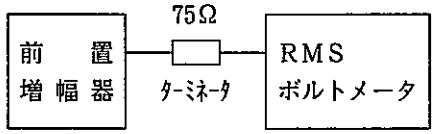
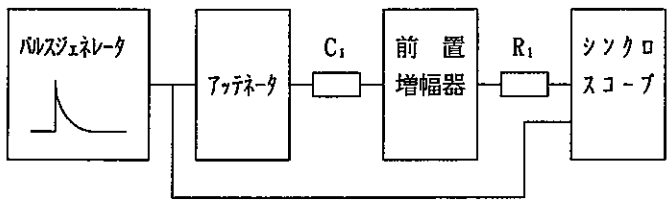
改訂　平成8年3月

機器名	プルトニウムダストモニタ検出器	型　名	RD622B	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	CB，MP，Pu－con		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 R_1:75Ωターミネータ C_1:1pFチャージターミネータ		C_1は絶縁状態で使用すること
	上記の接続で、パルスジェネレータより正入力 100(mV)を前置増幅器に加え（半導体検出器に接続されているコネクタに入力する）、最初に点検前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。次にＧＡＩＮ設定ピンをH側にしＶＲ$_2$を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 $利得 = \frac{出力電圧(V)}{入力電荷(C)} \times 10^{13}(V/C)$	最大利得 2.0×10^{13}(V/C) 以上	点検前の利得を備考欄に記入
2.2 最小利得	2.1項と同様で、ＧＡＩＮ設定ピンをＬ側にしＶＲ$_2$を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 1.5×10^{13}(V/C) 以下	

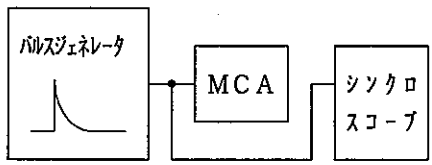
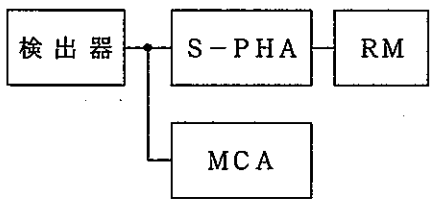
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＥ０１	２／４

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み}(\mu\text{VRMS})}{\text{最大利得}(\text{V}/10^{-13}\text{C})}$ (C)	入力換算雑音 5.0×10^{-16}(C)以下	
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.5 直線性の測定	 C_1:ﾁｬｰｼﾞﾀｰﾐﾈｰﾀ 1PF R_1:ﾀｰﾐﾈｰﾀ　75Ω 上記の接続で利得を最小にし正入力5(V)を加え出力波高が5(V)になるようにアッテネータとVR_2を調整した後、入力電圧を4(V)，3(V)，2(V)，1(V)にしたときの出力波高、それぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得を点検前の値に戻しておく。	直線性 最大出力5(V)の±3(%)以内	

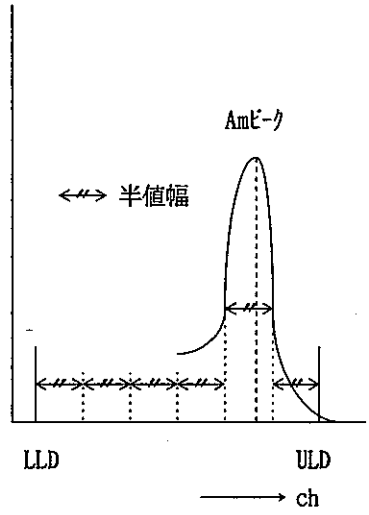
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＥ０１	３／４

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
３．校正試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）  上記の接続でパルサーからの出力波高値をＭＣＡ自動点検装置に従って入力し、それぞれのＭＣＡのｃｈ数を求めＭＣＡ自動点検装置に入力する。 （スペクトル測定）  上記の接続で、規定のＡｍ線源をろ紙ホルダーに装置する。 ＭＣＡにてスペクトルを観測しながら前置増幅器の利得調整用ボリュームＶＲ₂を調整し、Ａｍのピークを3.5Vに合わせスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ，ＬＬＤを求める。但しＵＬＤ，ＬＬＤの電圧値は先に測定した電圧直線性より求める。 分解能(KeV) $= \dfrac{(\text{Cmのエネルギー}) - (\text{Npのエネルギー})}{(\text{Cmのピークｃｈ}) - (\text{Npのピークｃｈ})} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{Amのピークの半値幅} \\ \text{のｃｈ数} \end{array} \right.$	分解能 400(KeV)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＥ０１	４／４

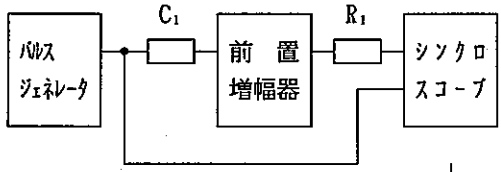
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	^{244}Cmのエネルギー：5.81×10^{3}(KeV) ^{237}Npのエネルギー：4.79×10^{3}(KeV) ＵＬＤの設定：（Amのピークの半値幅の大きい方のch値）＋（半値幅のch数） ＬＬＤの設定：（Amのピークの半値幅の小さい方のch値）＋（半値幅のch数×4）  		
	（エネルギー直線性の確認） 接続方法は、スペクトル測定と同じで、規定のＭＩＸ－α線源（Np, Am, Cm）をろ紙ホルダーに装着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定し、エネルギー直線性を確認する。	エネルギー直線性 直線上にのること	
4．計数効率測定	検出器 ― ※Ｓ－ＰＨＡ ― ＲＭ ※ＵＬＤ，ＬＬＤの設定はスペクトル測定で求めた値にする。		
	上記の接続で、規定のＡｍ線源(168Bq)をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて計数値を測定する。 以上より感度、効率を求める。 $\text{効率} = \dfrac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	効率　10(%) 以上	
5．ノイズレベルの確認	４項の接線において、検出器出力の雑音をシンクロスコープにて測定する。 線源の崩壊数(dpm)	ノイズレベル 500(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAE02	1／4

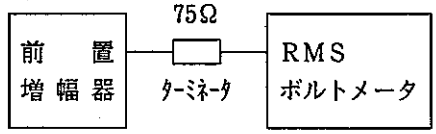
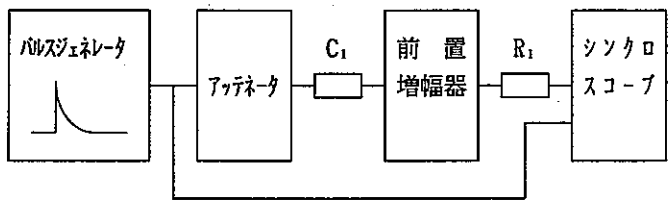
改訂　平成8年3月

機器名	プルトニウムダストモニタ検出器	型　名	RM－344	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	Pu－con		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 R_1:75Ωターミネータ C_1:1pFチャージターミネータ		C_1は絶縁状態で使用すること
	上記の接続で、パルスジェネレータより正入力 100(mV)を前置増幅器に加え（半導体検出器に接続されているコネクタに入力する）、最初に点検前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。次にＧＡＩＮ設定ピンをＨ側にしＶＲ$_1$を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 $利得 = \frac{出力電圧(V)}{入力電荷(C)} \times 10^{13}(V/C)$	最大利得 2.0×10^{13}(V/C) 以上	点検前の利得を備考欄に記入
2.2 最小利得	2.1項と同様で、ＧＡＩＮ設定ピンをＬ側にしＶＲ$_1$を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 1.5×10^{13}(V/C) 以下	

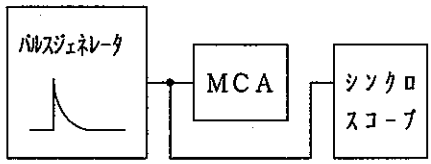
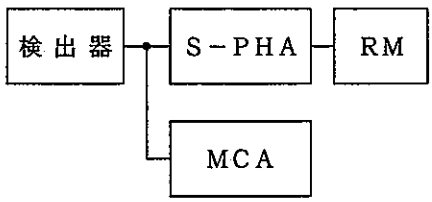
点検整備技術要領書

整理番号	14JAE02	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み}(\mu\text{VRMS})}{\text{最大利得}(\text{V}/10^{-13}\text{C})}$ (C)	入力換算雑音 5.0×10^{-16}(C)以下	
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.5 直線性の測定	 C_1:ﾁｬｰｼﾞﾀｰﾐﾈｰﾀ 1PF R_1:ﾀｰﾐﾈｰﾀ 75Ω 上記の接続で利得を最小にし正入力5(V)を加え出力波高が5(V)になるようにアッテネータとＶＲ$_1$を調整した後、入力電圧を4(V)，3(V)，2(V)，1(V)にしたときの出力波高、それぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得を点検前の値に戻しておく。	直線性 最大出力5(V)の±3(%)以内	

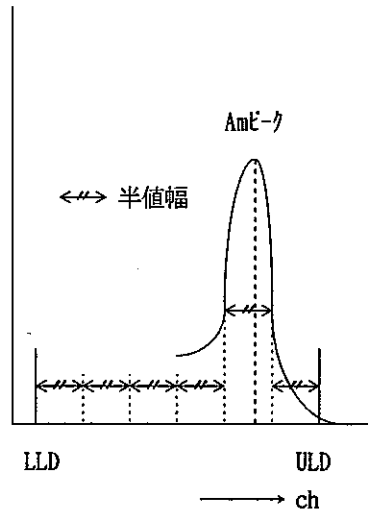
点検整備技術要領書

整理番号	14JAE02	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．校正試験	（MCAの電圧直線性の確認）  上記の接続でパルサーからの出力波高値をMCA自動点検装置に従って入力し、それぞれのMCAのch数を求めMCA自動点検装置に入力する。 （スペクトル測定）  上記の接続で、規定のAm線源をろ紙ホルダーに装置する。 MCAにてスペクトルを観測しながら前置増幅器の利得調整用ボリュームVR1を調整し、Amのピークを3.5Vに合わせスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能及びS－PHAのULD，LLDを求める。但しULD，LLDの電圧値は先に測定した電圧直線性より求める。 分解能(KeV) $= \dfrac{(\text{Cmのエネルギー}) - (\text{Npのエネルギー})}{(\text{Cmのピークch}) - (\text{Npのピークch})} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{Amのピークの半値幅} \\ \text{のch数} \end{array} \right.$	分解能 400(KeV)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAE02	4／4

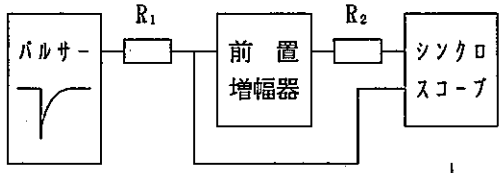
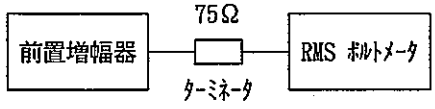
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	^{244}Cmのエネルギー：5.81×10^{3}(KeV) ^{237}Npのエネルギー：4.79×10^{3}(KeV) ＵＬＤの設定：（Amのピークの半値幅の大きい方のch値）＋（半値幅のch数） ＬＬＤの設定：（Amのピークの半値幅の小さい方のch値）＋（半値幅のch数×4）		
	（エネルギー直線性の確認） 接続方法は、スペクトル測定と同じで、規定のＭＩＸ－α線源（Np, Am, Cm）をろ紙ホルダーに装着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定し、エネルギー直線性を確認する。	エネルギー直線性 直線上にのること	
4．計数効率測定	検出器 ― ※Ｓ－ＰＨＡ ― ＲＭ ※ＵＬＤ，ＬＬＤの設定はスペクトル測定で求めた値にする。		
	上記の接続で、規定のＡｍ線源（168Bq）をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて計数値を測定する。 以上より感度、効率を求める。 $\text{効率}=\dfrac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{線源の崩壊数(dpm)}}\times100(\%)$	効率　10(%) 以上	
5．ノイズレベルの確認	４項の接線において、検出器出力の雑音をシンクロスコープにて測定する。	ノイズレベル 500(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＦ０１	１／２

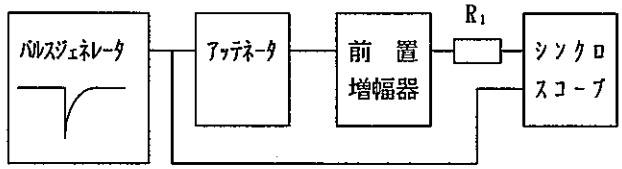
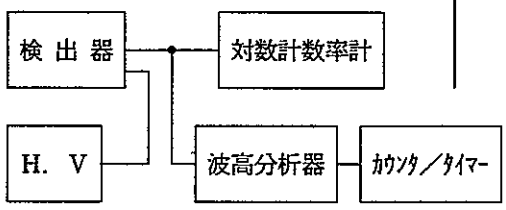
改訂　平成８年３月

機器名	排気α線ダストモニタ検出器	型　名	ＲＤ－３６１Ｚ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．前置増幅器	 R1:100Ωﾀｰﾐﾈｰﾀ R2: 75Ωﾀｰﾐﾈｰﾀ		
2.1 最大利得の測定	上記の接続で、パルサーより負入力100(mV)を前置増幅器に加え（C1 100PFの入力側）、ＧＡＩＮ設定ピンをＨ側にし、ＶＲ1 を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 利得＝ 出力波高値(V) ／ 入力波高値(V)（倍）	最大利得 33倍以上	
2.2 最小利得の測定	2.1項と同様の接続で、ＧＡＩＮ設定ピンをＬ側にしＶＲ1 を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 15倍以下	
2.3 雑音の測定	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。	入力換算雑音 100(μVRMS) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＦ０１	２／２

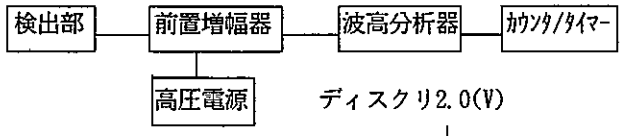
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力換算雑音 $= \dfrac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{最大利得（倍）}}$（μVRMS）		
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次上げて、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.5 直線性の測定	 R_1：75Ωターミネータ 上記の接続で利得を最大にし負入力5(V)を加え出力波高が5(V)になるようにアッテネータとＶＲ$_1$を調整した後、入力電圧を4(V)，3(V)，2(V)，1(V)にしたときの出力波高をそれぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得を点検前の値に戻すこと。 (100(mV)入力時に出力3.0(V))	直線性 最大出力5(V)の ±1(%)以下	
3．検出効率の測定	 ディスクリ 2.0(V) 上記の接続で規定のα線源と治具を用いて計数値をカウンタ／タイマーにて測定する。次に同条件でＢＧ値を求め効率を求める。 $\text{効率} = \dfrac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{崩壊数（dpm）}} \times 100$ (%)	効率　10(%) 以上 ＢＧ値　10(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＦ０２	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	ＺｎＳｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器試験	型　名	ＺＤ－１００５Ｂ	メーカ名	ア　ロ　カ
検査名	回路試験	施設名	Ｌ　棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 ・清掃されていること ・部品の破損がないこと ・ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．増幅器部			
(1)　増幅度確認	パルスジェネレータをUN1 TUP1102CのＩＮＰＵＴに接続し、-1.0(V) 入力した場合の出力電圧を測定し、利得を求める。	約0.95倍	
(2)　直線性確認	(1)項の接続方法にて下記の入力電圧に対する出力電圧を測定する。 入力電圧 -1.0V,-2.0V,-4.0V -6.0V,-8.0V,-10.0V	±５(%)以内	
(3)　最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	-10(V)以上	
(4)　プリアンプの良・否		上記各項目について異常のないこと	
３．検出器出力波形の確認	α線源を用い使用電圧(700V)にて検出器を計数させ、出力波形をシンクロスコープにて測定し、波高値・パルス幅を求める。		
４．バックグラウンド測定	 ディスクリ2.0(V) 上記の接続にてバックグラウンドを測定する。	１cpm以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＦ０２	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．計数効率の測定	４項の接続で規定のα線源を用いて計数値をカウンタ／タイマーにて測定する。４項のＢＧ値を用いて効率を求める。 $$効率=\frac{計数値(cpm)-ＢＧ値(cpm)}{崩壊数(dpm)}\times 100\ (\%)$$	効率　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＦ０３	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	前置増幅器	型　名	ＰＡＭ－１０２４	メーカ名	ア　ロ　カ
検査名	回路試験	施設名	Ｌ　棟		

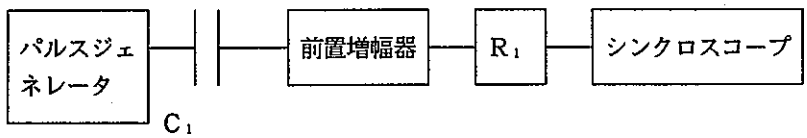
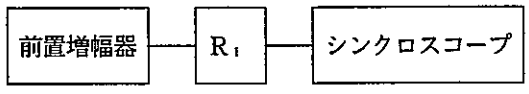
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 ・清掃されていること ・部品の破損がないこと ・ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．増幅度確認	パルスジェネレータを前置増幅器のＩＮＰＵＴに接続し、-0.1(V) 入力した場合のIC2 の⑥番ピンの出力を測定し、利得を求める。	約0.95倍	
３．直線性確認	２項の接続方法にて下記の入力電圧に対する出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.1V,-0.2V,-0.3V -0.4V,-0.5V	±５(%)以内	
４．最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	-９(V)以上	
５．ディスクリレベルの確認	２項の接続において、 IC3の③番ピンでディスクリレベル設定電圧を測定する。 更に OUT PUTに信号が出力されるときのIC3の②番ピンの電圧をシンクロスコープにて測定し、弁別動作を確認する。	-300(mV)±10(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAF04	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	排気α線ダストモニタ検出器	型　名	NFL11001	メーカ名	富士電機
検査名	回路試験	施設名	Pu燃料工場、濃縮施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 ・清掃されていること ・部品の破損がないこと ・ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 C1 ：1pF R1 ：75Ω 上記の接続にてパルスジェネレータより負入力5(V)を前置増幅器に加え、利得切換スイッチ・ボリュームとも最大にした時の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大利得 5(V) ±20(%)	
2.2 利得調整	2.1項と同様の接続にて利得切換スイッチを 1/8に、ボリュームを最大にした時の出力波高値をシンクロスコープにて測定し、1/8±20(%) に変化することを確認する。 また、同様に利得切換スイッチを 1/8、ボリュームを最小にした時の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	粗調スイッチ1, 1/8で変化すること 微調ボリューム1～ 1/8で変化すること	
2.3 雑音	 R1 ：75Ω 上記の接続で利得を最大にした時の出力をシンクロスコープにて測定する。	250(mVp-p)以下	
2.4 最大出力	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を徐々に上げ、出力波形が飽和する	5(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAF04	2／2

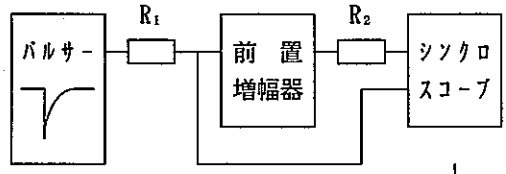
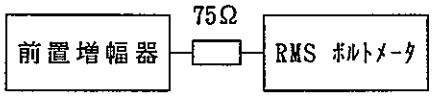
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。		
2.5 直線性	2.1項の接続で、入力電圧を4(V),3(V),2(V),1(V) にした時の出力波高値をそれぞれシンクロスコープにて測定する。	4(V)入力時の出力電圧の±1(%)以内	
3．検出効率測定	実装状態において、ろ紙ホルダーを外した状態で、ＢＧ値を測定する。次に規定のU_3O_8線源を装着し、カウンタ／タイマにて計数値を測定する。 以上により検出効率を求める。 効率＝ $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	効率　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAG01	1／3

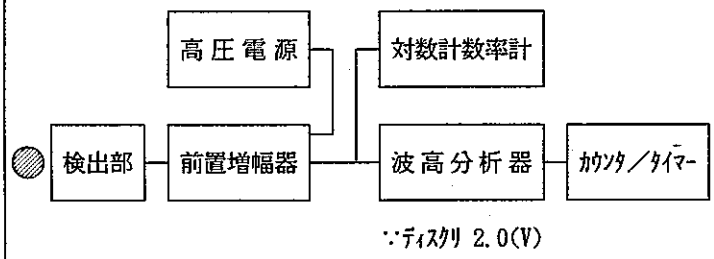
改訂　平成8年3月

機器名	排気β線ダストモニタ検出器	型　名	RD213	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 R1:100Ωターミネータ R2: 75Ωターミネータ 上記接続でパルサーより負入力300(mV)を前置増幅器に加え、（C2 1000ＰＦの入力側）、出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	増幅度 10倍以上	
2.2 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とＧＮＤを短絡したとき、出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み（}\mu\text{VRMS)}}{\text{増　幅　度}}$	入力換算雑音 300(μVRMS)	
2.3 最大出力の測定	2.1項の接続でパルサーからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	

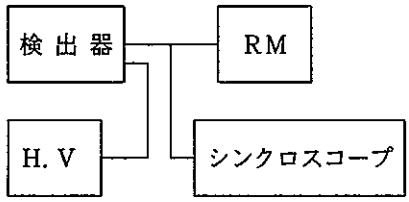
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＧ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4 直線性	2.1項の接続で入力がそれぞれ300(mV), 200(mV), 100(mV)のときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性 300(mV) 入力時電圧の ±3(%)以内	
3．プラトー特性試験			
3.1 計数開始電圧の測定	上記の接続でα線源を用い高圧を順次上げていったとき、カウンタが計数し始める点を測定する。	計数開始電圧 650(V)以下	
3.2 プラトー領域 3.3 プラトー傾斜	3.1項の接続で高圧を600(V)から900(V)まで 50(V)毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマにて測定する。 プラトー傾斜 $= \frac{\text{750(V)の計数値} - \text{650(V)の計数値}}{\text{700(V)の計数値}} \times 100\text{(\%/100V)}$	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%/100V)以下	
	最後にγ線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧（710V）におけるＢＧ値をカウンタ／タイマにて測定する。	ＢＧ値 50(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAG01	3／3

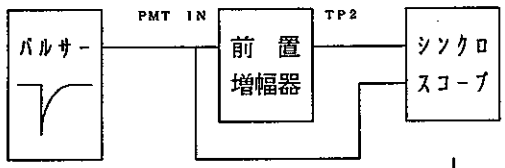
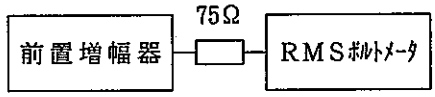
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．窒息防止回路の確認	 上記の接続にて照射線量を変化させ、そのときの対数計数率計の指示値を読みとる（グラフ使用）。尚、10(R/h) を照射したときの指示値を対数計数率計より読みとると共に、窒息防止回路の動作確認のため出力波形をシンクロスコープにて観測する。	5.0×10^{4}(cpm)以上	
5．検出効率の測定	3項の接続において規定の線源(　　)と治具3を用いて計数値をカウンタ／タイマにて測定する。次に同条件でＢＧ値を求め、効率を求める。 $\text{効率}=\dfrac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{崩　壊　数 (cpm)}}\times100$ (%)	効率　10(%) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAG02	1／2

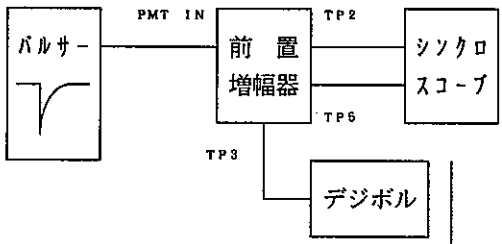
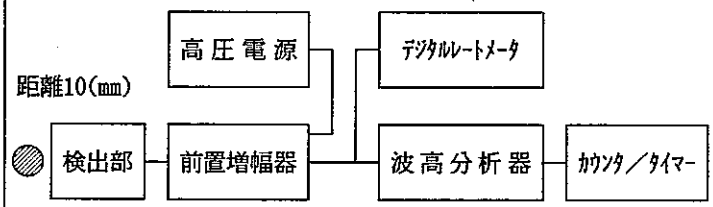
改訂　平成8年3月

機器名	排気β線ダストモニタ検出器	型　名	RD372	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	E，Z，C，IF，TVF施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 上記の接続でパルサーより負入力30(mV)(RISE TIME:250μ，DECAY TIME:100μ)を前置増幅器に加え（フォトマル入力端子⑪，⑫）、初段アンプの増幅度をシンクロスコープにて測定する。（TP2-COM.）	増幅度 最小　10倍以下 最大 100倍以上	VR1 にてゲイン調整
2.2 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とGNDを短絡したとき、出力をRMSボルトメータにて測定する。 入換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{増　幅　度}}$ (μVRMS)	入力換算雑音 300(μVRMS) 以下	
2.3 出力波形の測定	2.1項の接続でパルサーより入力30(mV)を加えたときの TP4出力波形をシンクロスコープにて測定する。（終端抵抗75Ω）	出力波高　約11.5(V) パルス幅　5±2μsec	
2.4 直線性	2.1項の接続で入力がそれぞれ 30(mV)，20(mV)，10(mV)のときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性　30(mV)入力時 出力±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAG02	2／2

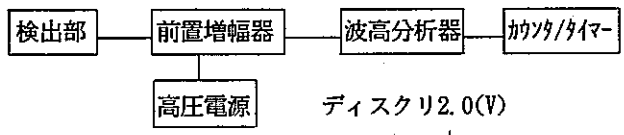
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.5 ディスクリ電圧の測定	 上記の接続にて TP3の電圧を150(mV) に VR2にて設定し、 TP2の波高値（幅５μ）が設定値以上になったとき、 TP5に波形が出力されること。	弁別動作に異常ないこと	
3．検出効率の測定	 上記の接続において規定の線源(U_3O_8)をホルダーに装着して計数値をカウンタ／タイマにて測定する。次に同条件でＢＧ値を測定し、効率を求める。 $$効率=\frac{計数値(cpm)-ＢＧ値(cpm)}{崩壊数(cpm)}\times 100\ (\%)$$	効率　15(%) 以上 (DISC:300(mV),GAIN:90倍)	高圧設定値 1350(V)

点検整備技術要領書

整理番号	14JAG03	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名		メーカ名	アロカ
検査名	回路試験	施設名	応用試験棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 ・清掃されていること ・部品の破損がないこと ・ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．検出器出力波形の確認	β線源を用い使用電圧(700V)にて検出器を計数させ、出力波形をシンクロスコープにて測定し、波高値・パルス幅を求める。		
3．バックグラウンド測定	 ディスクリ2.0(V) 上記の接続にてバックグラウンドを測定する。	100cpm以下	
4．計数効率の測定	3項の接続で規定のβ線源を用いて計数値をカウンタ／タイマーにて測定する。4項のＢＧ値を用いて効率を求める。 $効率=\frac{計数値(cpm)-ＢＧ値(cpm)}{崩壊数(dpm)}\times 100\ (\%)$	効率　25(%) 以上	
5．プラトー特性試験	3項の接続で印加電圧を600(V)から850(V) まで50(V) 毎に上げていき、各電圧での計数値をカウンタ／タイマにて測定する。 プラトー傾斜 $\frac{800(V)\ の計数値(cpm)\ -650(V)の計数値(cpm)}{700(V)の計数値(cpm)}\times 100\ (\%/100V)$	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAG04	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	前置増幅器	型　名	PAM－1025	メーカ名	アロカ
検査名	回路試験	施設名	応用試験棟		

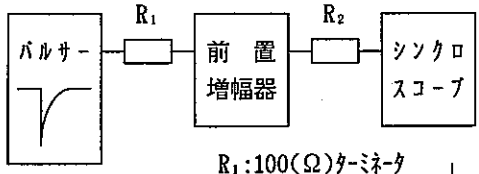
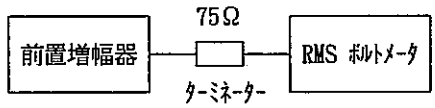
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 ・清掃されていること ・部品の破損がないこと ・ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．増幅度確認	パルスジェネレータを前置増幅器のＩＮＰＵＴに接続し、-1.0(V) 入力した場合の TR2のエミッタの出力を測定し、利得を求める。	約0.95倍	
3．直線性確認	2項の接続方法にて下記の入力電圧に対する出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.2V,-0.4V,-0.6V -0.8V,-1.0V	±5(%)以内	
4．最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	-1(V)以上	
5．ディスクリレベルの確認	2項の接続において、入力電圧を徐々に上げていき、 OUT PUTに信号が出力されるときの IC3の⑦番ピンの電圧をシンクロスコープにて測定し、弁別動作を確認する。	-100(mV)±10(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAH01	1／4

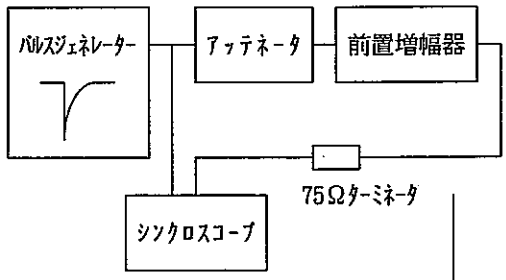
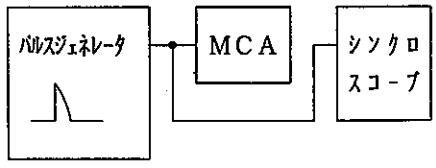
改訂　平成8年3月

機器名	排気よう素（129）検出器	型　名	RD361I	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 R1:100(Ω)ターミネータ R2: 75(Ω)ターミネータ 上記の接続で、パルサーより負入力100(mV)を前置増幅器に加え（C1 2200PFの入力側）利得調整用ボリュームVR1を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 利得＝ 出力波高値(V) / 入力波高値(V) （倍）	最大利得 7.5倍以上	
2.2 最小利得	2.1項と同様の接続で、利得調整用ボリュームVR1を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 0.3倍以下	
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をRMSボルトメータにて測定する。	入力換算雑音 100(μVRTM) 以下	

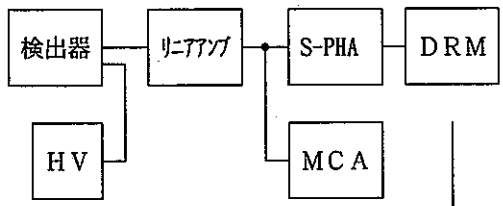
点検整備技術要領書

整理番号	14JAH01	2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	$$\text{入力換算雑音} = \frac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{最大利得（倍）}} \quad (\mu\text{VRMS})$$		
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次上げて、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 2.5(V)以上	
2.5 直線性	 上記の接続で、負入力2.5(V)を加え出力波高が2.5(V)になるようにアッテネータとＶＲ1を調整した後、入力電圧を2.0(V)，1.5(V)，1.0(V)，0.5(V)にしたときの出力波高をそれぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得は最大にしておく。	直線性 最大出力2.5(V)の ±1(%)以内	
3．校正試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）  上記の接続で、パルサーからの出力波高値（4.0(V)，3.5(V)，3.0(V)，2.5(V)，2.0(V)，1.5(V)）をシンクロスコープにて測定し、それぞれのＭＣＡのＣＨ数を求め電圧直線性を求める。		

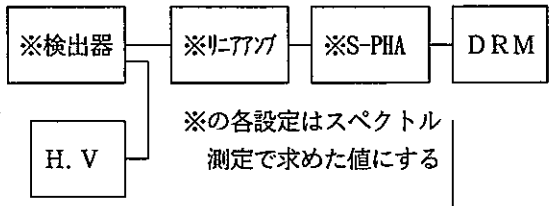
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＨ０１	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	（スペクトル測定）  上記の接続で、規定のγ線源を用いＭＣＡにてスペクトルを観測しながら、リニアアンプを調整し、^{129}Ｉのピークを2.5(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{241}Ａｍのγレファレンスソースを用いてスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ，ＬＬＤを求める。但しＵＬＤ，ＬＬＤの電圧値を先に測定した電圧直線性より求める。 分解能 $\dfrac{(^{241}\text{Amのｴﾈﾙｷﾞｰ})-(^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{241}\text{AmのﾋﾟｰｸCH})-(^{129}\text{Iのﾋﾟｰｸ CH})} \times \left[\begin{array}{l}^{129}\text{Iのピークの}\\ \text{半値幅のCH数}\end{array}\right] \Big/ {}^{129}\text{Iのエネルギー} \times 100(\%)$ ^{241}Ａｍ：59.5(KeV) ^{129}Ｉ　：30.0(KeV) 直線性はグラフより確認する。 （ＵＬＤ及びＬＬＤの設定） ＵＬＤ：(^{129}Ｉ のピークCH数）＋（半値幅のCH数） ＬＬＤ：(^{129}Ｉ のピークCH数）－（半値幅のCH数）	分解能 40(%) 以下 直線性 直線上に乗ること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＨ０１	4／4

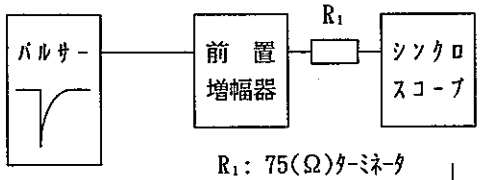
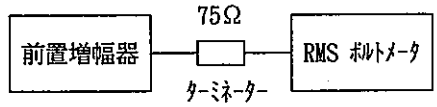
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．計数効率測定	 上記の接続で規定の ^{129}Ｉ線源をろ紙ホルダーに装着しＤＲＭにて計数値を測定する。 同様に線源を外した状態でＢＧ値を測定する。 $$効率＝\frac{計数値(cpm)－ＢＧ値(cpm)}{線源の崩壊数(dpm)}\times 100(\%)$$	効率　2(%) 以上 ＢＧ値　100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAH02	1／4

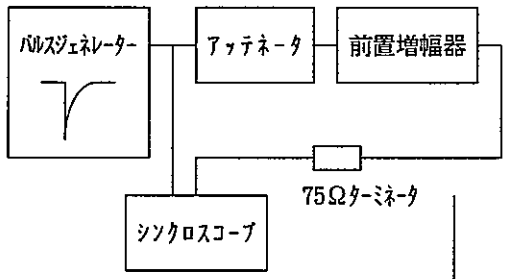
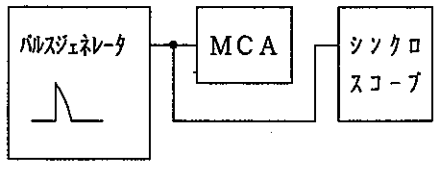
改訂　平成8年3月

機器名	排気よう素検出器	型　名	RD361IG2	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場，CPF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 R_1：75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 上記の接続で、パルサーより負入力100(mV)を前置増幅器に加え（$C_1$2200PFの入力側）利得調整用ボリュームＶＲ$_1$を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 $$利得＝\frac{出力波高値(V)}{入力波高値(V)}\ (倍)$$	最大利得 2.8倍以上	
2.2 最小利得	2.1項と同様の接続で、利得調整用ボリュームＶＲ$_1$を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 0.6倍以下	
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。	入力換算雑音 100(μVRTM) 以下	

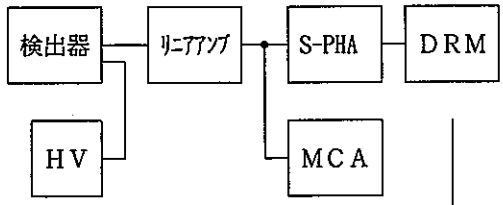
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＨ０２	２／４

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力換算雑音＝ $\frac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{最大利得（倍）}}$（μVRMS）		
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次上げて、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 2.5(V)以上	
2.5 直線性	 上記の接続で、負入力2.5(V)を加え出力波高が2.5(V)になるようにアッテネータとＶＲ１を調整した後、入力電圧を2.0(V)，1.5(V)，1.0(V)，0.5(V)にしたときの出力波高をそれぞれシンクロスコープにて測定する。 最後に利得は最大にしておく。	直線性 最大出力2.5(V)の ±1(%)以内	
3．校正試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）  上記の接続で、パルサーからの出力波高値（4.0(V)，3.5(V)，3.0(V)，2.5(V)，2.0(V)，1.5(V)）をシンクロスコープにて測定し、それぞれのＭＣＡのＣＨ数を求め電圧直線性を求める。		

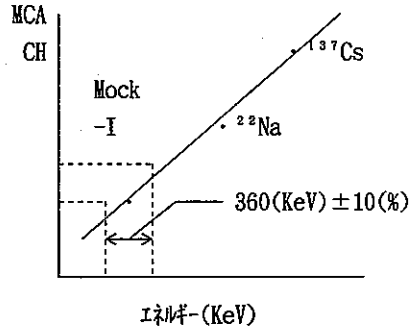
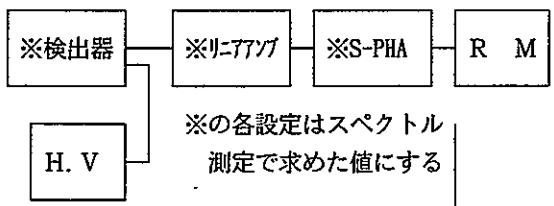
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＨ０２	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	（^{129}Ｉ　スペクトル測定）  上記の接続で、規定のγ線源を用いＭＣＡにてスペクトルを観測しながら、リリニアアンプを調整し、^{129}Ｉのピークを2.5(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{241}Ａｍのγレファレンスソースを用いてスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ，ＬＬＤを求める。但しＵＬＤ，ＬＬＤの電圧値を先に測定した電圧直線性より求める。 分解能 $\dfrac{(^{241}\text{Amのｴﾈﾙｷﾞｰ})-(^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{241}\text{AmのﾋﾟｰｸCH})-(^{129}\text{Iのﾋﾟｰｸ CH})} \times \left\{\dfrac{^{129}\text{Iのピークの}}{\text{半値幅のCH数}}\right\} = \dfrac{}{^{129}\text{Ｉのエネルギー}} \times 100(\%)$ ^{241}Ａｍ：59.5(KeV) ^{129}Ｉ　：30.0(KeV) 直線性はグラフより確認する。 （ＵＬＤ及びＬＬＤの設定） ＵＬＤ：（^{129}Ｉ のピークCH数）＋（半値幅のCH数） ＬＬＤ：（^{129}Ｉ のピークCH数）－（半値幅のCH数）	分解能 40(%) 以下 直線性 直線上に乗ること	
	（^{131}Ｉ　スペクトル測定） さらに上記の接続で、γレファレンスソース ^{137}Ｃｓを用い、ＭＣＡにてスペクトルを観測しながらリニアアンプを調整し、^{137}Ｃｓのピークを4.5(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{22}Ｎａのγレファレンスソース、規	分解能 12(%) 以下 直線性 直線上に乗ること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＨ０２	4／4

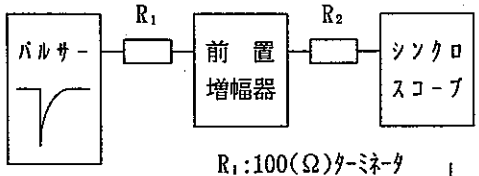
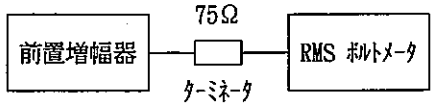
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	定のMock-I線源を用いてそれぞれのスペクトル測定を行う。 　求められたスペクトルより分解能・エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ，ＬＬＤを求める。但しＵＬＤ，ＬＬＤの電圧値は先に測定した電圧直線性より求める。 分解能 $\dfrac{(^{137}\text{Csのｴﾈﾙｷﾞｰ})-(\text{Mock-I のｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{137}\text{CsのﾋﾟｰｸCH})-(\text{Mock-Iのﾋﾟｰｸ CH})} \times \left[\begin{array}{l}^{137}\text{Cs のピーク}\\ \text{の半値幅のCH数}\end{array}\right] = \dfrac{}{^{137}\text{Ｃｓのエネルギー}} \times 100(\%)$ ^{137}Ｃｓ：662(KeV) Mock-I　：360(KeV) ^{22}Ｎａ：511(KeV) 直線性はグラフより確認する。 （ＵＬＤ及びＬＬＤの設定） 　エネルギー直線性のグラフよりMock-Iのエネルギー360(KeV)±10(%) のところのＣＨ数を求めＵＬＤ，ＬＬＤとする。		
4．計数効率測定	 ※の各設定はスペクトル測定で求めた値にする 上記の接続で規定の ^{129}Ｉ線源及びMock-I線源をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて計数値を測定する。 　同様に線源を外した状態でＢＧ値を測定する。 $\text{効率} = \dfrac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	効率　2(%) 以上 ＢＧ値　100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAI01	1／4

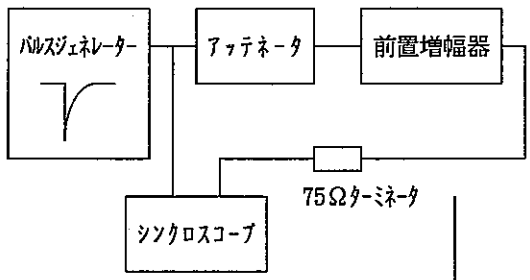
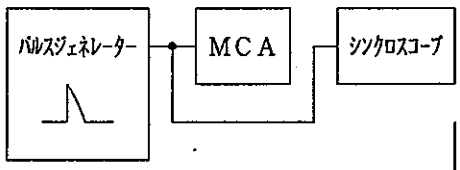
改訂　平成8年3月

機器名	排気よう素（131）検出器	型　名	RD－361N	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	 R1:100(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ R2: 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ		
	上記の接続で、パルサーより負入力100(mV)を前置増幅器に加え（C1000PFの入力側）、ＧＡＩＮ設定ピンをH側にし、ゲイン調整ボリュームＶＲ1を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 利得＝ 出力波高値(V) ／ 入力波高値(V) （倍）	最大利得 15倍以上	
2.2 最小利得	2.1項と同様の接続で、ＧＡＩＮ設定ピンをＬ側にし、ＶＲ1を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 0.6倍以下	
2.3 雑音の測定 （入力換算雑音）			
	上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。	入力換算雑音 100(μVRMS) 以下	

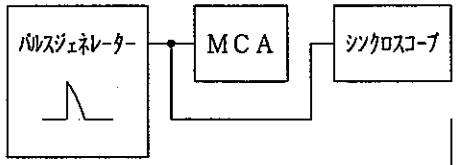
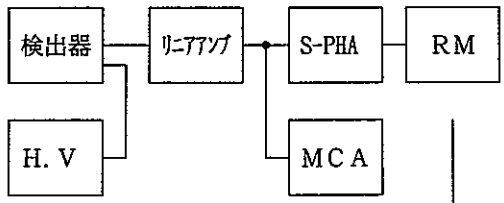
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＩ０１	２／４

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力換算雑音＝ $\frac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{最大利得（倍）}}$（μVRMS）		
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次上げて、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.5 直線性			
	上記の接続で、負入力5(V)を加え出力波高が5.0(V)になるようにアッテネータとＶＲ１を調整した後、入力電圧を4(V)，3(V)，2(V)，1(V)にしたときの出力波高をそれぞれシンクロスコープにて測定する。	直線性 最大出力 5.0(V)の±1(%)以内	
3．校正試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認） 		
	上記の接続で、パルサーからの出力波高値(4.5V，4.0V，3.5V，3.0V，2.5V，2.0V)をシンクロスコープにて測定し、それぞれのＭＣＡのＣＨ数を求め電圧直線性を求める。		

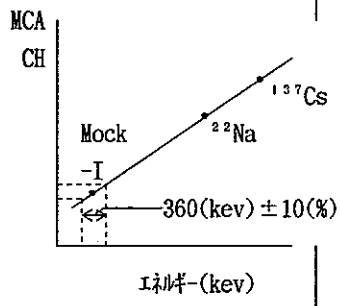
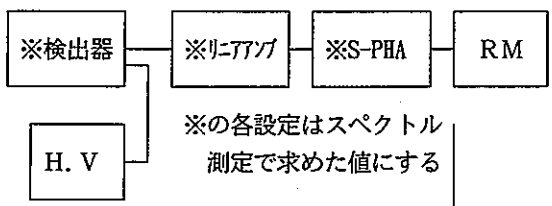
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＩ０１	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．校正試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）  上記の接続で、パルサーからの出力波高値(4.5V，4.0V，3.5V，3.0V，2.5V，2.0V)をシンクロスコープにて測定し、それぞれのＭＣＡのＣＨ数を求め電圧直線性を求める。 （スペクトル測定）  上記の接続で、γレファレンスソース^{137}Ｃｓを用い、ＭＣＡにてスペクトルを観測しながらリニアアンプを調整し、^{137}Ｃｓのピークを4.5(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{22}Ｎａのγレファレンスソース、規定のＭｏｃｋ－Ｉ線源を用いてそれぞれのスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ，ＬＬＤを求める。但しＵＬＤ，ＬＬＤの電圧値は先に測定した電圧直線性より求める。	分解能 12(%) 以下 直線性 直線上に乗ること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＩ０１	4／4

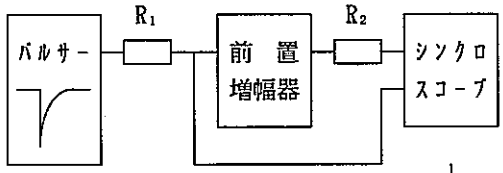
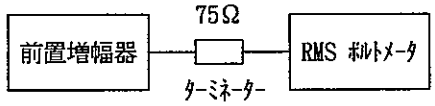
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．計数効率測定	分解能 $\dfrac{(^{137}\text{Csのｴﾈﾙｷﾞｰ})-(\text{Mock-Iのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{137}\text{CsのﾋﾟｰｸCH})-(\text{Mcok-IのﾋﾟｰｸCH})} \times \left[\begin{array}{l}^{137}\text{Cs のピーク}\\ \text{の半値幅のCH数}\end{array}\right]$ $= \dfrac{}{^{137}\text{Ｃｓのエネルギー}} \times 100(\%)$ ^{137}Ｃｓ：662(KeV) Mock-Ⅰ：360(KeV) ^{22}Ｎａ：511(KeV) 直線性はグラフより確認する。 （ＵＬＤ及びＬＬＤの設定） エネルギー直線性のグラフよりMock-Iのエネルギ360(kev)±10(%) のところのＣＨ数を求めＵＬＤ，ＬＬＤとする。   ※の各設定はスペクトル測定で求めた値にする 上記の接続で規定のMock-I線源をろ紙ホルダーに装着し、記録計にて計数値を測定する。 同様に線源を外した状態でＢＧ値を測定する。 効率＝ $\dfrac{\text{計数値(cpm)}-\text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{線源の崩壊数(dpm)}} \times 100(\%)$	効率　2(%) 以上 ＢＧ値　100(cpm) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14JAJ01	1／3

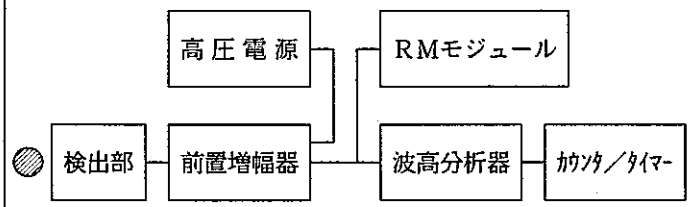
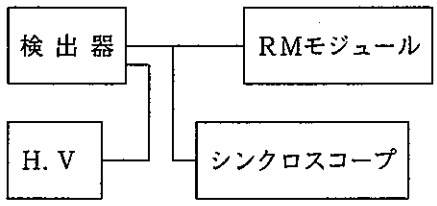
改訂　平成8年3月

機器名	排気クリプトン（低）検出器	型　名	RD214	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場，CPF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．前置増幅器 2.1 増幅度の測定	 R1:100(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ R2: 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 上記の接続でパルサーより負入力300(mV)を前置増幅器に加え（C2 1000ＰＦの入力側）、出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	増幅度 10（倍）以上	
2.2 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続にて前置増幅器の入力部とＧＮＤを短絡したとき、出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。 入力換算雑音 $= \frac{\text{RMSボルトメータの読み（}\mu\text{VRMS）}}{\text{増　幅　度}}$	入力換算雑音 300(μVRMS)	
2.3 最大出力の測定	2.1項の接続でパルサからの入力を順次増加し、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	

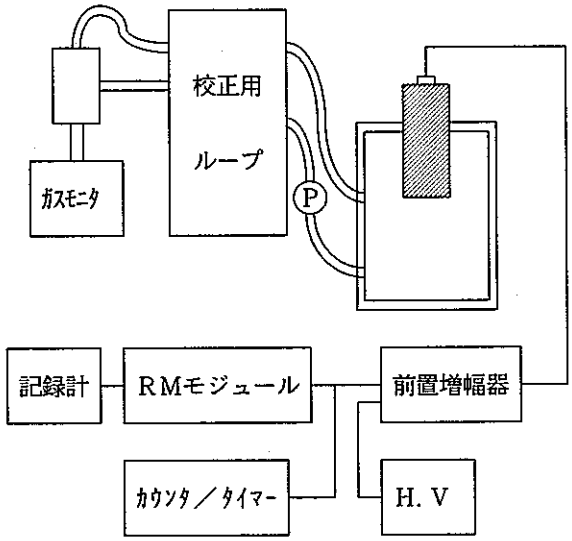
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＪ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4 直線性	2.1項の接続で入力がそれぞれ300(mV), 200(mV), 100(mV)のときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	直線性 300(mV) 入力時電圧の ±3(%)以内	
3．プラトー特性試験	 ∵ﾃﾞｨｽｸﾘ 1.0(V)		
3.1 計数開始電圧の測定	上記の接続で、γ線源を用い高圧を順次上げていったとき、カウンタが計数し始める点を測定する。	計数開始電圧 800(V)以下	
3.2 プラトー領域 3.3 プラトー傾斜	3.1項の接続で高圧を800(V)から1100(V)まで 50(V)毎に上げていき、各電圧での計数値をカウタン／タイマにて測定する。 プラトー傾斜 $= \dfrac{\text{950(V)の計数値(cpm)} - \text{850(V)の計数値(cpm)}}{\text{900(V)の計数値(cpm)}} \times 100\ (\%/100V)$	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 8(%/100V) 以下	
	最後にγ線源を外し、外部の放射線の影響を受けないようにして使用電圧(900V)におけるＢＧ値をカウンタ／タイマにて測定する。	ＢＧ値 50(cpm) 以下	
4．窒息防止回路の確認	 上記の接続にて放射線量を変化させ、そのときのＲＭモジュールの指示値を読みとる。（グラフ使用）		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＪ０１	３／３

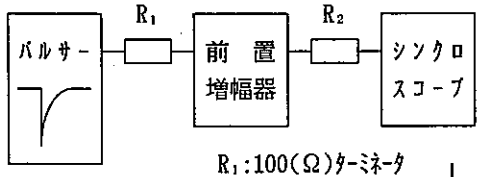
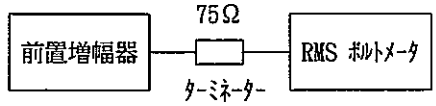
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	尚、80(mSv/h) を照射したときの指示値をＲＭモジュールより読みとるとともに、窒息防止回路の動作確認のため出力波形をシンクロスコープにて観測する。	5.0×10^{5}(cpm)以上	
５．検出感度測定	基準電離箱  		
	上記の接続において、Ｋｒ濃度を順次下げていったときのＲＭモジュール、記録計の指示値及びカウンターの指示値を測定する。	1.85×10^{-3}(Bq/cm³/cpm) 以上	
	感度＝ (ガスモニタより求めた濃度(Bq/cm³)－ガスモニタのＢＧ値(Bq/cm³)) / (計数値(cpm) － ＢＧ値(cpm)) (Bq/cm³/cpm)		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＫ０１	１／４

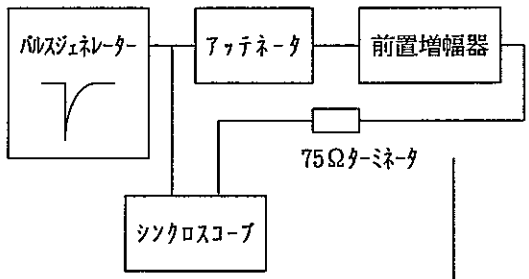
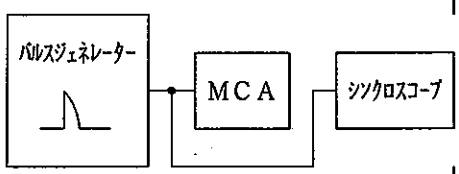
改訂　平成８年３月

機器名	排気クリプトン（高）検出器	型　名	ＲＤ－３６１Ｎ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場，ＣＰＦ		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．前置増幅器 ２.１ 最大利得	 R1:100(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ R2: 75(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾀ 上記の接続でパルサーより負入力100(mV)を前置増幅器に加え（C1 1000ＰＦの入力側）、ＧＡＩＮ設定ピンをＨ側にし、ゲイン調整ボリュームＶＲ1を調整して利得を最大にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。 利得＝ 出力波高値(V) ／ 入力波高値(V)（倍）	最大利得 15倍以上	
２.２ 最小利得	２.１項と同様の接続で、ＧＡＩＮ設定ピンをＬ側にし、ＶＲ1を調整して利得を最小にしたときの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最小利得 0.6倍以下	
２.３ 雑音の測定 （入力換算雑音）	 上記の接続で利得を最大にしたときの出力をＲＭＳボルトメータにて測定する。	入力換算雑音 100(μVRMS) 以下	

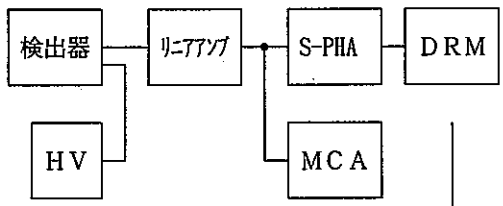
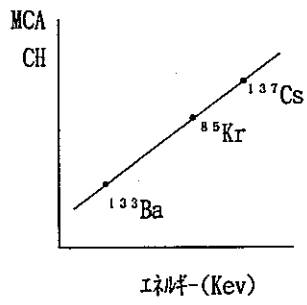
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＫ０１	２／４

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力換算雑音＝ $\frac{\text{RMSボルトメータの読み}}{\text{最大利得（倍）}}$（$\mu$VRMS）		
2.4 最大出力の測定	2.1項の接続でパルスジェネレータからの入力を順次上げて、出力波形が飽和する直前の出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	最大出力 5(V)以上	
2.5 直線性			
	上記の接続で、負入力5(V)を加え出力波高が5(V)になるようにアッテネータとＶＲ1を調整した後、入力電圧を4(V)，3(V)，2(V)，1(V)にしたときの出力波高をシンクロスコープにて測定する。	直線性 最大出力5.0(V)の ±1(%)以内	
3．校正試験	（ＭＣＡの電圧直線性の確認）		
			
	上記の接続で、パルサーからの出力波高値(4.5V，4.0V，3.5V，3.0V，2.5V，2.0V)をシンクロスコープにて測定し、それぞれのＭＣＡのＣＨ数を求め電圧直線性を求める。		

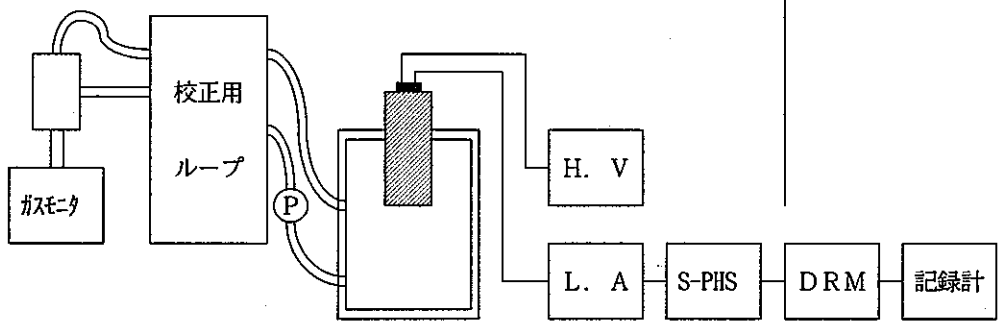
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＫ０１	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	（スペクトル測定）  上記の接続で、γレファレンスソース^{137}Ｃｓを用い、ＭＣＡにてスペクトルを観測しながら、リニアアンプを調整し、^{137}ＣｓのピークをV)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{133}Ｂａのγレファレンスソース規定の^{85}Ｋｒアンプルを用いてそれぞれのスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ，ＬＬＤを求める。但しＵＬＤ，ＬＬＤの電圧値は先に測定した電圧直線性より求める。 分解能 $\dfrac{(^{137}\text{Csのｴﾈﾙｷﾞｰ})-(^{133}\text{Baのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{137}\text{CsのﾋﾟｰｸCH})-(^{133}\text{Baのﾋﾟｰｸ CH})} \times \left\{ \begin{matrix} ^{137}\text{Cs のピーク} \\ \text{の半値幅のCH数} \end{matrix} \right\}$ $= \dfrac{}{^{137}\text{Ｃｓのエネルギー}} \times 100(\%)$ ^{137}Ｃｓ：662(Kev) ^{133}Ｂａ：356(Kev) ^{85}Ｋｒ：514(Kev) 直線性はグラフより確認する。 （ＵＬＤ及びＬＬＤの設定） ＵＬＤ：(^{85}KrのFWHM(H))＋(^{85}Kr FWHM) ＬＬＤ：(^{85}KrのFWHM(L))－(^{85}Kr FWHM)	分解能 12(%) 以下 直線性 直線上に乗ること  	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＫ０１	４／４

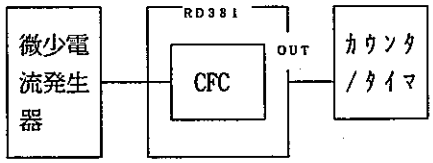
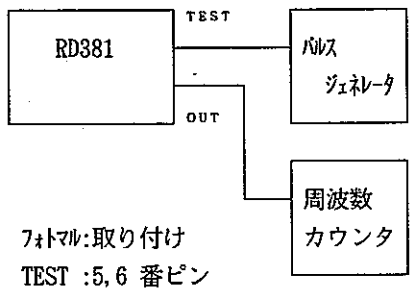
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
４．検出感度測定	基準電離箱  上記の接続において、Ｋｒ濃度を順次下げていったときの対数計数率計、記録計の指示値及びカウンターの指示値を測定する。 $感度 = \frac{ガスモニタより求めた濃度(Bq/cm^3) - ガスモニタのＢＧ値(Bq/cm^3)}{計数値(cpm) - ＢＧ値(cpm)}$ (Bq/cm³/cpm)		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＬ０１	１／２

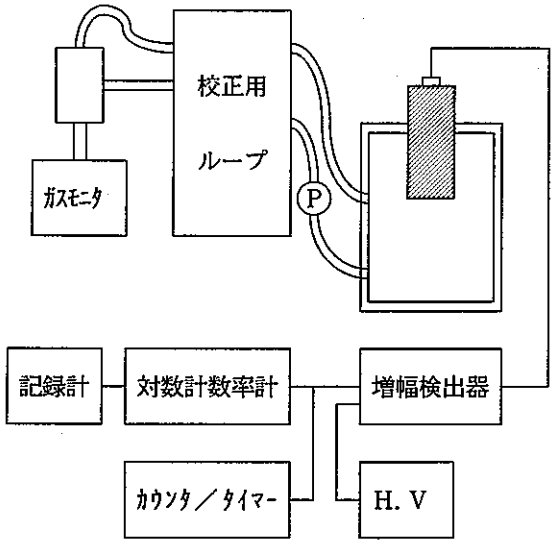
改訂　平成８年３月

機器名	排気Ｋｒ（広帯域）検出器	型　名	ＲＤ３８１	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	Ｅ，Ｚ，ＴＶＦ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．前置増幅器 ２.１ ＣＦＣ部直線性	 高圧　:印加しない ﾌｫﾄﾏﾙ:取り外し 上記の接続で微少電流発生器により下記の模擬電流をＣＦＣ部(PC2-D,GND) に入力し、そのときの出力パルス計数率をカウンタ／タイマにて測定する。 入力電流(A)　出力基準値(cps) -1×10^{-10} ……　1×10^{0} -1×10^{-8} ……　1×10^{2} -1×10^{-6} ……　1×10^{4} -1×10^{-4} ……　1×10^{6}	出力基準値±15（%）以内	
２.２ テストパルス入出力試験	 ﾌｫﾄﾏﾙ:取り付け TEST :5,6 番ピン 上記の接続にて高圧設定を-1000(V)としパルスジェネレータ出力を1(μsec)，5(V)として周波数を下記の値で入力したときの出力パルス計数率を周波数カウンタにて測定する。	出力基準値±15（%）以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＬ０１	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力周波数(Hz)　出力基準値(cps) 1×10^{1} ····· 1×10^{3} 1×10^{2} ····· 1×10^{4} 1×10^{3} ····· 1×10^{5} 1×10^{4} ····· 1×10^{6}		
2.3 出力波形観測	高圧設定を-1200(V)とし、^{137}Cs チェッキングソースによりγ線の計数をさせ、そのときの出力パルスの波形をシンクロスコープにて観測する。（終端抵抗75Ω）	パルス波高：2(V)以上 パルス幅　：参考値 約 500(nsec)	
3．検出感度測定	基準電離箱  上記の接続において、Ｋｒ濃度を順次下げていったときの対数計数率計、記録計の指示値及びカウンターの指示値を測定する。（ 濃度 5～500(Bq/cc)程度にて実施）	3.7×10^{-3}(Bq/cc/cpm) 以上	

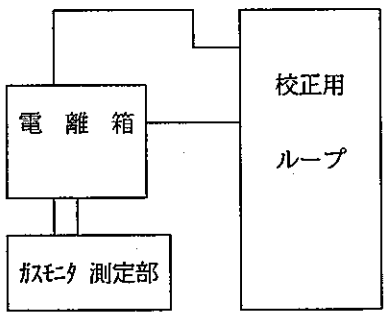
$$感度 = \frac{ガスモニタより求めた濃度(Bq/cm^3) - ガスモニタのＢＧ値(Bq/cm^3)}{計数値(cpm) - ＢＧ値(cpm)} \quad (Bq/cm^3/cpm)$$

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＪＡＭ０１	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	ガスモニタ検出器	型　名	ＲＤ－１３０９	メーカ名	大倉電気
検査名	回路試験	施設名	ＡＳＰ，ＡＳＰ－ＳＴ		

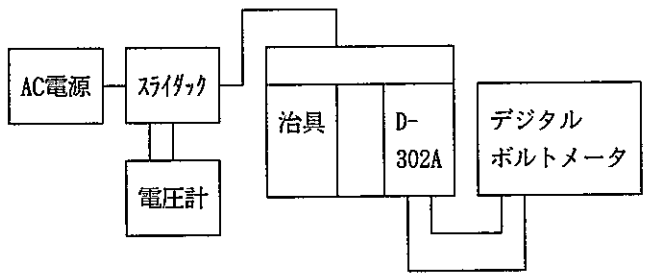
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．実流試験	 上記の接続においてＫｒ濃度を順次下げていき、基準電離箱とガスモニタ検出器の電流値を測定する。（各濃度において検出器を付け替えて測定する） 標準電離箱の電流値より濃度を計算し、校正定数を求める。 $\frac{\text{ガスモニタ検出器電流値（A）}}{\text{濃度（Bq/ cm}^3\text{）}}$		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０１	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	Ｄ－３０２Ａ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．出力電圧の確認	 上記接続にて以下の測定を行う。スライダックを用いてＡＣ入力電圧を100(V)にした時、±12(V) の無負荷時、2(A)負荷時の出力電圧をチェック端子よりデジタルボルトメータにて測定する。 基準値に達しない場合は、基板上のポテンショメータにて調整する。（調整は無負荷時に行う。）	±12(V)±0.5(%)以内 (±11.94(V)～±12.06(V)	+12(V):VR1にて調整 -12(V):VR2にて調整
３．電圧変動率の測定 3.1 ＡＣ入力電圧 90(V)	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) にしたときの無負荷時、2(A)負荷時の出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。	±12(V)±0.5(%)以内	
3.2 ＡＣ入力電圧 110(V)	ＡＣ入力電圧を110(V)にしたときの無負荷時、2(A)負荷時の出力電圧を測定する。		
４．リップルノイズの測定	ＡＣ入力電圧を100(V)にしたとき、±12(V)(2(A)負荷時) のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	3(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０１	２／２

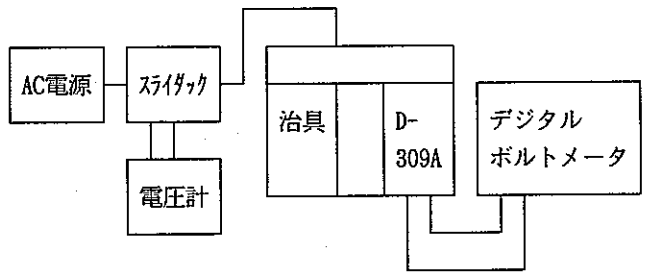
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．最大容量の確認	２項の接続において、治具に電流計を接続し36(W) 負荷時に出力電圧が基準値以内であることを確認する。	±12(V)±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０２	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	Ｄ－３０９Ａ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．出力電圧の確認	 上記の接続にて以下の測定を行う。スライダックを用いてＡＣ入力電圧を100(V)にした時、±24(V)(無負荷時、1(A)負荷時)±12(V)(無負荷時、2(A)負荷時)の出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。 基準値に達しない場合は、基板上の±24(V)±12(V)のポテンショメータにて調整する。（調整は無負荷時に行う。）	±24(V) 電源 ±24(V)±0.5(%)以内 (±23.88(V)～±24.12(V)) ±12(V) 電源 ±12(V)±0.5(%)以内 (±11.94(V)～±12.06(V))	
３．電圧変動率の測定 3.1 ＡＣ入力電圧 90(V)	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V)にしたときの±24(V)(無負荷時、1(A)負荷時)、±12(V)(無負荷時、2(A)負荷時)の出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。	±24(V)±0.5(%)以内 ±12(V)±0.5(%)以内	
3.2 ＡＣ入力電圧 110(V)	ＡＣ入力電圧を110(V)にした時の出力電圧を3.1項と同様に測定する。		
４．リップルノイズの測定	ＡＣ入力電圧を100(V)にしたとき、±24(V)(1(A)負荷時及び±12(V)(2(A)負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	3(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０２	２／２

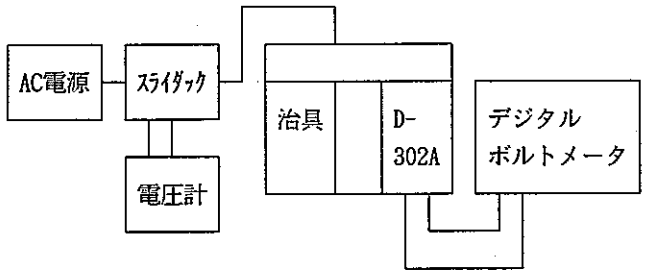
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．最大容量の確認	２項の接続において治具に電流計を接続し、72(W) 負荷時に出力電圧が基準値以内であることを確認する。	±24(V)±0.5(%)以内 ±12(V)±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAA03	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	D－310	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	 上記の接続にて以下の測定を行う。スライダックにてＡＣ入力電圧を100(V)にした時、＋6(V)の無負荷時、5(A)負荷時及び－6(V)の無負荷時、1(A)負荷時のそれぞれの出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。 基準値に達しない場合は、基板上のポテンショメータにて調整する。（調整は無負荷時に行う）	±6.00(V)±0.5(%)以内 (±5.97(V)～±6.03(V))	
3．電源変動試験 3.1 ＡＣ入力電圧 90(V)	スライダックにてＡＣ入力を90(V)にしたときの＋6(V)の無負荷時、5(A)負荷時及び－6(V)の無負荷時、1(A)負荷時の出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。	±6(V)±0.5(%)以内	
3.2 ＡＣ入力電圧 110(V)	同様に、ＡＣ入力を110(V)にしたときの出力電圧を測定する。	±6(V)±0.5(%)以内	
4．リップルノイズの測定	ＡＣ入力を90(V)にしたときの＋6(V)の5(A)負荷時、－6(V)の1(A)負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	3(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０３	２／２

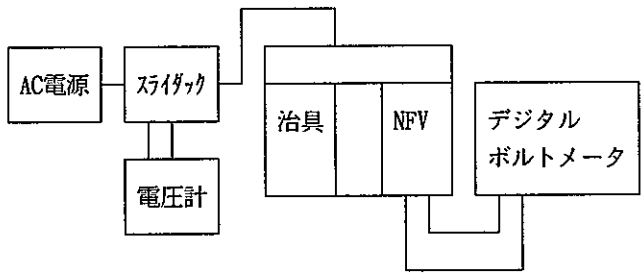
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
５．最大容量の確認	２項の接続において治具に電流計を接続し、36(W) 負荷時に出力電圧が基準値以内であることを確認する。	±６(V)±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAA04	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	NFV	メーカ名	富士電機
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	 上記の接続にて以下の測定を行う。スライダックを用いてＡＣ入力電圧を100(V)にした時、±24(V)(無負荷時、1(A)負荷時)±12(V)(無負荷時、2(A)負荷時）の出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。 基準値に達しない場合は、基板上の±24(V)±12(V) のポテンショメータにて調整する。（調整は無負荷時に行う。）	±24(V) 電源 ±24(V)±0.5(%)以内 (±23.88(V)～±24.12(V)) ±12(V) 電源 ±12(V)±0.5(%)以内 (±11.94(V)～±12.06(V))	
3．電圧変動率の測定 3.1 ＡＣ入力電圧 90(V)	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) にしたときの±24(V)(無負荷時、1(A)負荷時）、±12(V)(無負荷時、2(A)負荷時)の出力電圧をデジタルボルトメータにて測定する。	±24(V)±0.5(%)以内 ±12(V)±0.5(%)以内	
3.2 ＡＣ入力電圧 110(V)	ＡＣ入力電圧を110(V)にした時の出力電圧を3.１項と同様に測定する。		
4．リップルノイズの測定	ＡＣ入力電圧を100(V)にしたとき、±24(V)(1(A)負荷時及び±12(V)(2(A)負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	3(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０４	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．最大容量の確認	２項の接続において治具に電流計を接続し、72(W) 負荷時に出力電圧が基準値以内であることを確認する。	±24(V)±0.5(%)以内 ±12(V)±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＡ０５	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	低圧電源モジュール	型　名	ＡＭ－８３０１ＢＭ	メーカ名	ア　ロ　カ
検査名	回路試験	施設名	Ｌ棟、応用試験棟		

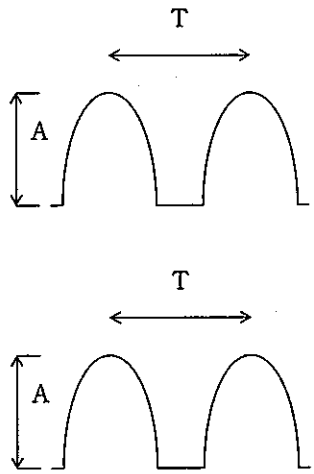
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．出力電圧の確認	チェック端子にデジタルボルトメータを接続し、無負荷時及び実負荷状態にて±24(V)，±12(V)，＋6(V)について出力電圧を測定する。 基準値に達しない場合は、ポテンショメータにて調整する。	±24(V)電源 0.5(A) ±12(V)電源 0.5(A) ＋ 6(V)電源 2.0(A) ±3(%)以内	
３．電圧変動の測定 3.1 ＡＣ入力電圧 90(V)	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) にしたときの±24(V)，±12(V)，±6(V)について無負荷時及び実負荷状態時の出力電圧を測定する。	２項出力電圧±1(%)以内	
3.2 ＡＣ入力電圧 110(V)	ＡＣ入力電圧を110(V)にしたときの出力電圧を3.１と同様に測定する。	２項出力電圧±1(%)以内	
４．リップルノイズの測定	ＡＣ入力電圧を100(V)にしたときの±24(V)，±12(V)，＋6(V)について、負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。 尚、負荷電流は、２項と同様とする。	30(mVp-p) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAB01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	RU813／814	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

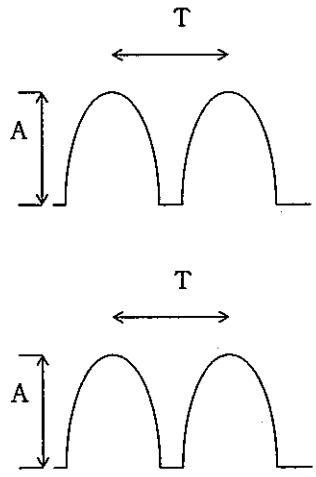
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．出力電圧測定	下記の端子でデジタルボルトメータ及びシンクロスコープを用い、出力電圧リップルを測定する。 TB－1 TN－5 ― TN－6（COM） TN－7 ― TN－8（COM） TN－9 ― TN－10（COM） TN－3 ― TN－4（COM） TN－1 ― TN－2（COM）		
3．絶縁抵抗の測定	AC 100(V) LINEと筐体間の絶縁抵抗を 500(V) メガーにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAB02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	RU817/RU818	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．出力電圧測定	下記の端子でデジタルボルトメータ及びシンクロスコープを用い、出力電圧リップルを測定する。 TB－1 TN－5 — TN－6（COM） TN－7 — TN－8（COM） TN－9 — TN－10（COM） TN－3 — TN－4（COM） TN－1 — TN－2（COM）		
3．絶縁抵抗の測定	AC 100(V) ＬＩＮＥと筐体間の絶縁抵抗を 500(V) メガーにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAB03	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	RU825	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．出力電圧測定	Ｊ2のA，B間でデジタルボルトメータ及びシンクロスコープを用い、出力電圧、リップルノイズを測定する。	出力電圧 12(V)±1.5(%)以内 リップルノイズ 100(mVp-p) 以下	
3．絶縁抵抗の測定	ＡＣ100(V)ラインと筐体間の絶縁抵抗値を500(V)メガーにて測定する。	100(MΩ) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAB04	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	NMO 11960-G_1-G_2	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

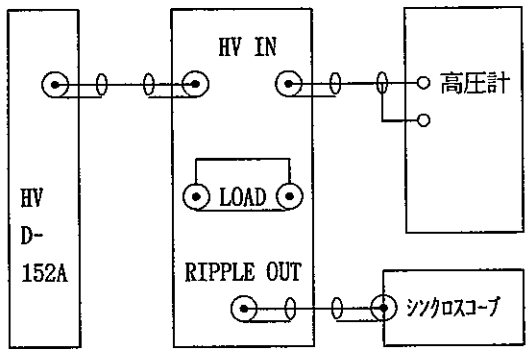
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．出力電圧測定	下記の端子でデジタルボルトメータ及びシンクロスコープを用い、出力電圧、リップルを測定する。 NMO 11960-G1 TN-5 —— TN-4(COM) NMO 11960-G2 TN-5 —— TN-4(COM)	NMO 11960-G1 出力電圧 24(V)±2(V) リップル 0.5(Vp-p)以下 NMO 11960-G2 出力電圧 12(V)±1.5(V) リップル 0.5(Vp-p)以下	
3．絶縁抵抗の測定	ＡＣ100(V)ラインと筐体間の絶縁抵抗値を500(V)メガーにて測定する。	100(MΩ) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAC01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	D－152A	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

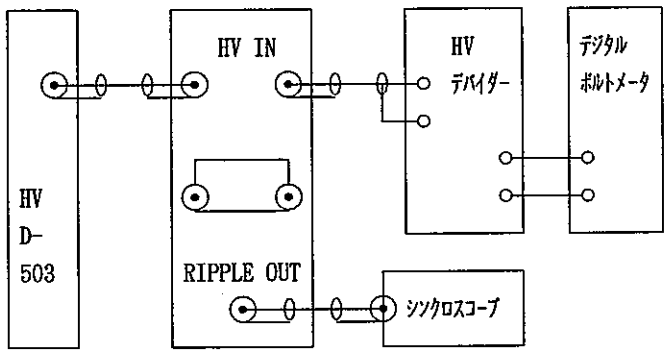
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	 ロードレジスタ（P-1058） 上記接続にて負荷電流 1(mA)時の出力電圧の可変範囲を測定する。	100(V)～2000(V) 以上	
3．電圧設定精度の確認	無負荷状態にて出力電圧を下記の点で設定し、そのときのダイヤル目盛を比較確認する。 測定点 500, 1000, 1500, 2000(V)	F．Sの±1(%)以内	
4．負荷変動リップルノイズの測定	出力電圧を1000(V) に設定し、無負荷時の電圧変動を測定する。同様に出力電圧2000(V) の設定に於いても測定する。 又、1(mA) 負荷時についても同様に電圧変動を測定し、同時にリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	負荷変動(1(mA)負荷時) 無負荷時の±0.2(%)以下 リップルノイズ 1000(V) 1(mA) 時 50(mVp-p) 以下 2000(V) 1(mA) 時 100(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAC02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	D－503	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

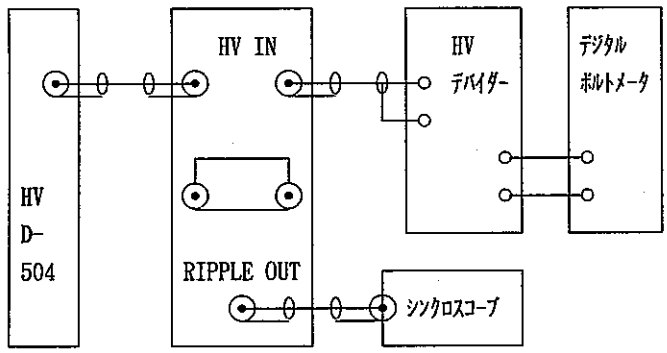
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	 ﾛｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ（P-1058） 上記接続にて負荷電流0.5(mA) 時の出力電圧の可変範囲を測定する。	100(V)～5000(V) 以上	
3．電圧設定精度の確認	ダイアル目盛を下記の点で設定し、そのときの出力電圧を測定する。 測定点 200, 400, 600, 800, 1000（目盛）	F．Sの±0.75(%) 以内	
4．負荷変動リップルノイズの測定	出力電圧を2000(V) に設定し、無負荷時の電圧変動を測定する。同様に出力電圧5000(V) の設定に於いても測定する。 又、0.5(mA) 負荷時についても同様に電圧変動を測定し、同時にリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	負荷変動(0.5(mA)負荷時) 無負荷時の±0.05(%) 以下 リップルノイズ 50(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAC03	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	D－504	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

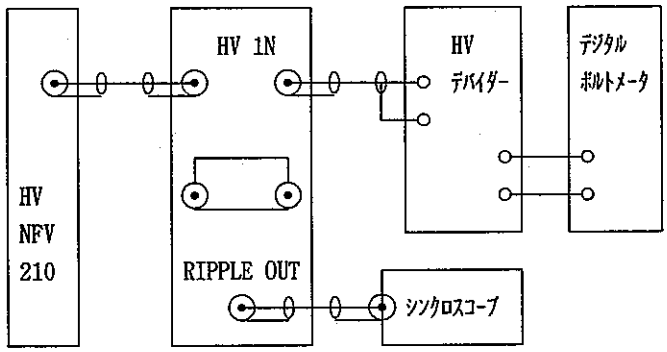
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	 ロードレジスタ（P-1058） 上記接続にて負荷電流 3(mA)時の出力電圧の可変範囲を測定する。	-50(V)～-1000(V)以上	
3．電圧設定精度の確認	出力電圧を下記の点で設定し、そのときのダイヤル目盛を比較確認する。 測定点 -100, -200, -400, -600, -800, -1000(V)	F．Sの±1(%)以内	
4．負荷変動リップルノイズの測定	出力電圧を-1000(V)に設定し、無負荷時及び 3(mA)負荷時の電圧変動を測定する。 又、1(mA) 負荷時においてリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	負荷変動(3(mA)負荷時) 無負荷時の±0.05(%) 以下 リップルノイズ 5(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＣ０４	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	３ＫＶ高圧電源	型　名	ＮＦＶ２１０	メーカ名	富士電機
検査名	回路試験	施設名	Ｐｕ燃、濃縮		

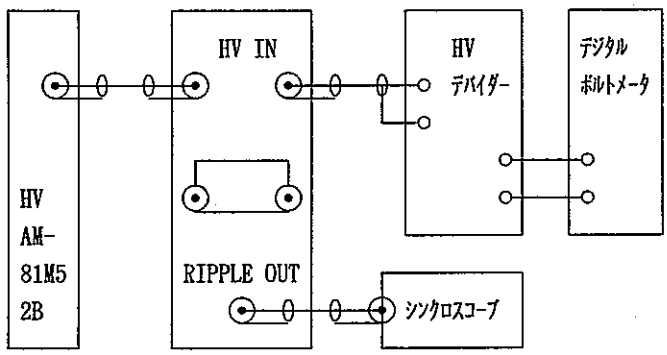
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．出力電圧の確認	 ﾛｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ（P-1058） 上記接続にて負荷電流 0.2(mA)時の出力電圧の可変範囲を測定する。	200(V)～3000(V) 以上	
３．電圧設定精度の確認	ダイヤル目盛を下記の点で設定し、その時の出力電圧を比較確認する。 測定点 50, 100, 150, 200, 250, 300 目盛	50目盛（ 500±20V） 100目盛（1000±20V） 150目盛（1500±30V） 200目盛（2000±40V） 250目盛（2500±50V） 300目盛（3000±60V）	
４．負荷変動リップルノイズの測定	出力電圧を1000(V) に設定し、無負荷時の電圧変動を測定する。同様に出力電圧2000(V) の設定に於いても測定する。又、0.2(mA) 負荷時についても同様に電圧変動を測定し、同時にリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	負荷変動(0.2(mA)負荷時) 無負荷時の±0.1(%)以下 リップルノイズ 2000(V) 0.2(mA) 時 50(mVp-p) 以下 1000(V) 0.2(mA) 時 50(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAC05	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源モジュール	型　名	AM－81M52B	メーカ名	アロカ
検査名	回路試験	施設名	L　棟		

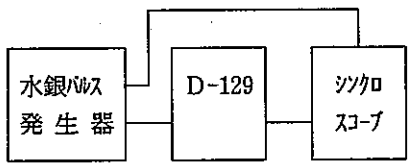
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	 ﾛｰﾄﾞﾚｼﾞｽﾀ（P-1058） 上記接続にて、出力切換スイッチを(500～1500V)にし、ダイアル設定10.0での無負荷時における出力電圧を測定する。	F.S(1500V)±1(%)以内	
3．電圧設定精度の確認	ダイヤル目盛を下記の点で設定し、そのときの出力電圧をデジタルボルトメータで測定する。 レンジ　　設定点 (0 ～1000V)　2.0,6.0,10.0 (500～1500V)　2.0,6.0,10.0 同時にメータ指示値も確認する。	出力電圧 F．S±1(%)以内 メータ指示 F．S±2.5 (%)以内	
4．負荷変動リップルノイズの測定	出力電圧を1500(V) に設定し、負荷電流500(μA)時の出力変動を測定し、同時にリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	負荷変動 無負荷時±0.1(%)以内 リップルノイズ 10(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAD01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	D－129	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．利得の測定			
	1）水銀パルス発生器よりD－129のINPUTに信号［FINE GAIN×1(目盛0.00) のときに40(mV)FINE GAIN×4 (目盛 10.00) のときに10(mV)］を加えたとき、下記のCOARSE GAINレンジでの出力電圧を測定する。 COARSE GAIN 2 8 32 128	±5(%)以内	波形は p-pを読む
	2）D－129のGAINを最大に設定し水銀パルス発生器の信号を増していったとき、出力電圧が飽和する直前の電圧を測定する。	約10(V) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＤ０１	２／２

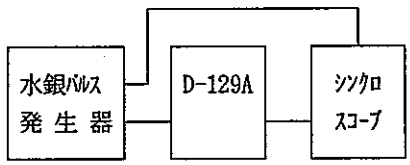
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
３．波形整形時定数の測定	Ｄ－１２９のＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮ１２.８　ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ×１に設定し、水銀パルス発生器の出力を変えて、Ｄ－１２９出力の電圧が5(V)になるようにする。その出力波形の0(V)から5(V)になるまでに要する時間を測定する。	1.2～1.4(μS)	
４．雑音の測定	Ｄ－１２９のＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮを２５６にし、水銀パルス発生器から、入力パルス10(mV)を加える。ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮを調整して出力電圧が 10(V)又は最大になるようにする。次に入力を外しＯＵＴＰＵＴにＲＭＳ電圧計を接続して、出力雑音電圧を測定し、入力換算雑音を求める。	入力換算雑音 $= \frac{\text{出力雑音電圧}}{\text{利　得 (A)}}$ (μV) 3.5(μV)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAD02	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	D－129A	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．利得の測定			
	1）水銀パルス発生器よりD－129AのINPUTに信号〔FINE GAIN×1（目盛0.00）のときに10(mV)、FINE GAIN×4（目盛 10.00）のときに 5(mV)〕を加えたとき、下記のCOARSE GAINレンジでの出力電圧を測定する。 COARSE GAIN 2 8 32 128 256 512	±5(%)以内	波形は p-pを読む
	2）D－129AのGAINを最大に設定し水銀パルス発生器の信号を増していったとき、出力電圧が飽和する直前の電圧を測定する。	約10(V) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAD02	2／2

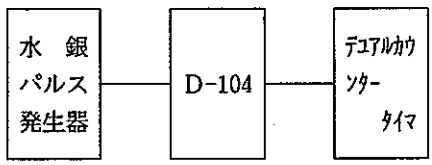
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．波形整形時定数の測定	D－129AのCOARSE GAIN 128 FINE GAIN×1に設定し水銀パルス発生器の出力を変えて、D－129Aの出力が5(V)になるようにする。その出力波形の0(V)から5(V)になるまでに要する時間を測定する。	1.2～1.4(μS)	
4．雑音の測定	D－129AのCOARSE GAINを256にし、水銀パルス発生器から、入力パルス10(mV)を加える。FINE GAINを調整して出力電圧が 10(V)又は最大になるようにする。次に入力を外しOUT PUTにRMSボルトメータを接続して出力雑音電圧を測定し、入力換算雑音を求める。	入力換算雑音 $= \frac{\text{出力雑音電圧}}{\text{利　得 (A)}}$ (μV) 3.5(μV)以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAE01	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	波高分析器	型　名	D－104	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ULD MODE スイッチOFF	 (D-114)　　(D-110A) 水銀パルス発生器（D－114）からの出力パルスがダイアル目盛 10.00のときに正確に10.00(V)になっていることをシンクロスコープにて確認する。 次に、SCAのLLD目盛を下記のごとく設定し、水銀パルス発生器の出力電圧をゆっくり上げ、デュアルカウンターが計数し始める点の水銀パルス発生器電圧を目盛にて読み取る。		D-114の設定 PULSE HEIGHT 10.00 目盛りにてNORMALIZE で10.00(V)に調整 DRIVE　:110Hz POLARITY :＋ RANGE　:10V RISE TIME: 100nsec. ATTENUATION FACTOR:OFF （全て上側）
	SCA　LLD目盛 9.00 7.00 5.00 3.00 .50	F．Sの±1.0(%)以内 9.00(V)±0.10(V) 7.00(V)±0.10(V) 5.00(V)±0.10(V) 3.00(V)±0.10(V) 0.50(V)±0.10(V)	

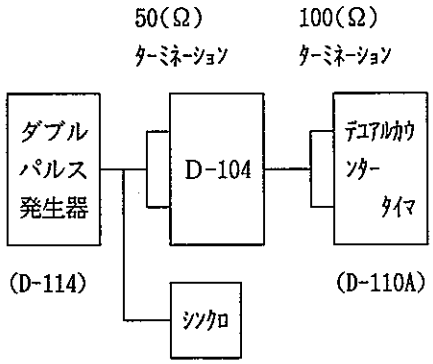
点検整備技術要領書

整理番号	14KAE01	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.2 ULD MODE スイッチEmax	2.1項と同様に、水銀パルス発生器の出力パルス電圧と目盛との対応を確認する。 LLD目盛を0.30に設定し、ULD目盛を下記のごとく設定したとき、ULDの設定値以上に水銀パルス発生器の出力電圧を上げ、そこから電圧をゆっくり下げていきデュアルカウンターが計数し始める点の水銀パルス発生器電圧を目盛にて読み取る。 SCA　LLD目盛 9.00 7.00 5.00 3.00 .50	F．Sの±1.0(%)以内 9.00(V)±0.10(V) 7.00(V)±0.10(V) 5.00(V)±0.10(V) 3.00(V)±0.10(V) 0.50(V)±0.10(V)	
2.3 ULD MODE スイッチ △E	ULD目盛を5.30に設定し、LLD目盛は、下記のごとく設定する。次に水銀パルス発生器の出力パルス電圧を変化してカウンタの計数が行われる範囲を測定する。 SCA　LLD目盛 8.00 6.00 4.00	水銀ﾊﾙｽ発生器、出力目盛 約8.0～8.5(V) 約6.0～6.5(V) 約4.0～4.5(V) の範囲で計数が行われること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＥ０１	３／３

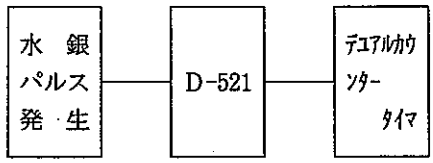
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
３．分解能測定	 ダブルパルス発生器出力を下記のように設定し、ＳＣＡの入力に加える。ＳＣＡは計数が行われるように任意の範囲に設定する。はじめはダブルパルスのパルス間隔を十分大きくとり、計数を測定する。次に、しだいにパルス間隔をせばめ計数値がはじめの計数値の半分となる点を求める。このときのパルス間隔をシンクロスコープで測定し分解時間とする。 ＵＬＤ　ＭＯＤＥスイッチは、ＯＦＦとEmaxについて行い、ＯＦＦの状態でＬＬＤを、Emax の状態でＵＬＤの分解能を求める。 ダブルパルス発生器　　出力設定 繰返し周波数　　約　50(KHz) パルス幅　　約 100(nsec) 立上り、立下り時間　約　5(nsec) 極　性　　正 パルスＭＯＤＥ　　ダブルパルス	パルス間隔 300(nsec) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAE02	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	波高分析器	型　名	D－521，521A	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ＤＩＳＣモード	 (D-114)　　(D-110A) 水銀パルス発生器（Ｄ－１１４）からの出力パルスがダイアル目盛 10.00のときに正確に10.00(V)になっていることをシンクロスコープにて確認する。 次に、ＳＣＡの BASE LINE目盛を下記のごとく設定し、水銀パルス発生器の出力電圧をゆっくり上げ、デュアルカウンターが計数し始める点の水銀パルス発生器電圧を目盛にて読み取る。 ＳＣＡ　ＬＬＤ目盛 900 700 500 300 50	

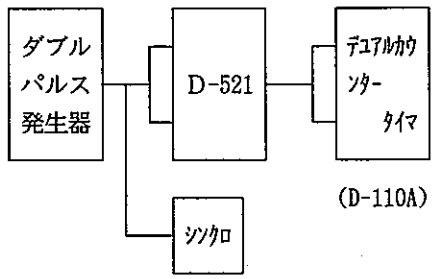
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＥ０２	２／３

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 ＳＣＡモード	DISC,SCA切換スイッチを SCAにする。 2.１項と同様に、水銀パルス発生器の出力パルス電圧と目盛との対応を確認する。BASE LINE 目盛を30に設定し、WINDOW目盛を下記のごとく設定したとき、水銀パルス発生器の出力電圧をゆっくり下げデュアルカウンターが計数し始める点の水銀パルス発生器電圧を目盛にて読み取る。 ＳＣＡ　ＷＩＮＤＯＷ目盛 870 670 470 270 20	Ｆ．Ｓの±10(%) 以内 9.00(V)±0.10(V) 7.00(V)±0.10(V) 5.00(V)±0.10(V) 3.00(V)±0.10(V) 0.50(V)±0.10(V)	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＥ０２	３／３

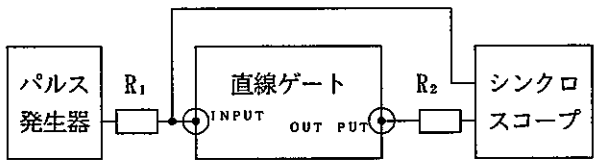
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
３．分解能測定	 ダブルパルス発生器出力を下記のように設定し、ＳＣＡの入力に加える。ＳＣＡは計数が行われるように任意の範囲に設定する。はじめはダブルパルスのパルス間隔を十分大きくとり、計数を測定する。次に、しだいにパルス間隔をせばめ計数値がはじめの計数値の半分となる点を求める。このときのパルス間隔をシンクロスコープで測定し分解時間とする。尚、測定は２項と同様にDISCモード,SCAモードについて行う。 ダブルパルス発生器　　出力設定 繰返し周波数　　約　50(KHz) パルス幅　　約 300(nsec) 立上り、立下り時間　約　5(nsec) 極　性　　正 パルスＭＯＤＥ　　ダブルパルス		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAF01	1／2

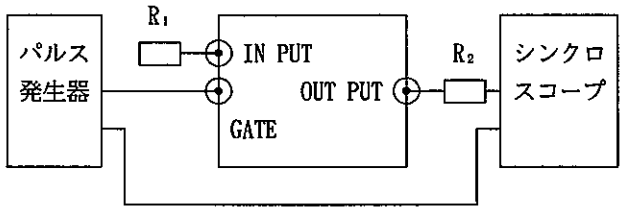
改訂　平成8年3月

機器名	直線ゲート	型　名	D－116	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	Pu－con，Pu－2		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．直線性	 R1、R2:100Ω 上記接続にて直線ゲートのモードを1(NV)にしてパネル面のＩＮ　ＰＵＴへR1（100Ω）を通してパルス発生器よりテストパルス（RISE，DECAY TIME 100(nsec)、パルス幅100(μsec)）を 2(V)，4(V)，6(V) と加えたときの出力波高値を、シンクロスコープにて測定する。	
3．ディレタイムの測定	上記接続にてＩＮ　ＰＵＴとＯＵＴＰＵＴの時間的ズレをシンクロスコープにて測定する。		
4．立ち上がり立ち下がり時間の測定	上記接続にてＯＵＴ　ＰＵＴ波形の立ち上り、立ち下がり時間をシンクロスコープにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＦ０１	２／２

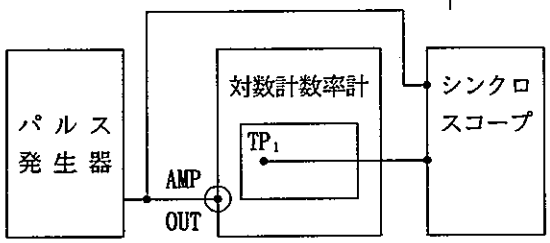
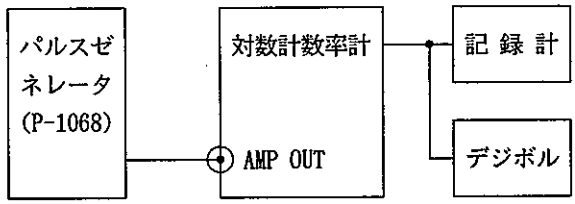
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．ペデスタルの測定	直線ゲート  R_1, R_2:100Ω 上記接続にて直線ゲートのモードをＯＮにしてパネル面のＩＮ　ＰＵＴにＲ₁（100Ω）を接続しパルス発生器よりテストパルス（RISE、DECAY TIME 100(nsec)、パルス幅100(μsec)、パルス波高 3.0(V) 以上、テストパルスのＯＦＦ　ＳＥＴは完全に零とする)をＧＡＴＥに加え、ＯＵＴ　ＰＵＴの信号をシンクロスコープで確認しながらベースライン、ペデスタル、ペデスタルスイッチングノイズを測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG01	1／3

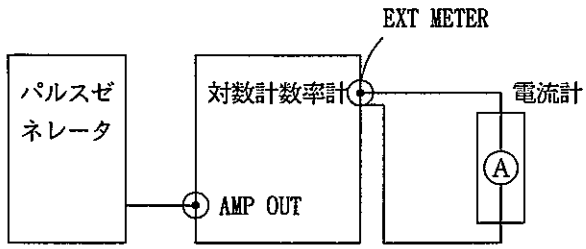
改訂　平成8年3月

機器名	対数計数率計	型　名	D－304	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損などのないことを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．入力レベルの確認	 上記接続にてパネル面のAMP　OUT端子にダブルパルス発生器よりテストパルス（周波数約200(Hz) パルス巾（μsec））を加え基板上のTP1 端子にシンクロスコープを接続し、デスクリ用VRを最大及び最小に回したときにそれぞれTP1 に波形の現われるときの入力波高値をシンクロスコープにて測定し、右記の基準以内であることを確認する。最後にデジボルにてパネル面のディスクリ端子の電圧を任意の値に設定する。	最小レベル　0.2(V) 以下 最大レベル　10.0(V) 以上 設定レベル　任意に設定	
3．非直線性の確認	 上記の接続にてパルスゼネレータより下記に示す値を対数計数率計の前面パネルのAMP　OUT端子に入力し、そのときの指示値及び記録計用出力電圧を測定する。	指示値　±0.2(dec)以内 記録計　±0.5(mV) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＧ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	×100ﾚﾝｼﾞ　10^3, 10^4, 10^5, 10^6, 10^7(cpm) ＴＥＳＴ動作 上記の接続にて対数計数率計のレンジ切換スイッチをＴＥＳＴモードにし、指示値及び記録計への出力電圧を測定し、記録計の指示値を読み取る。（この時指示値は1.0×10^4cpmであること）	ＦＳ　±0.2(dec)以内	
４．ＥＸＴ　ＭＥＴＥＲの確認			
	上記の接続にて、パルスゼネレータより対数計数率計のＡｍｐ　ＯＵＴ端子に1×10^5 ＣＰＭを入力し、レンジスイッチ×１にしたとき、ＥＸＴ　ＭＥＴＥＲ端子に電流計を接続し、1×10^5cpm入力時の記録計出力に対する電流出力を測定する。	1.0(mA)	
５．警報回路の確認	計数率計警報回路治具（以下警報治具と言う）を用いて確認を行う。 ・対数計数率計の低レベル（黄）高レベル（赤）の警報設定値をそれぞれ10^3(cpm)に設定する。 ・対数計数率計のＡｍｐ　ＯＵＴ端子にパルスゼネレータにより信号を加える。 ・加える信号の周波数を徐々に大きくした時以下の動作を確認する。 １）対数計数率計の指示値が低レベル設定値を超えた時パネル前面のオペレートランプが消灯し、警報治具の低レベル用ランプが点灯し警報音が吹鳴すること。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG01	3／3

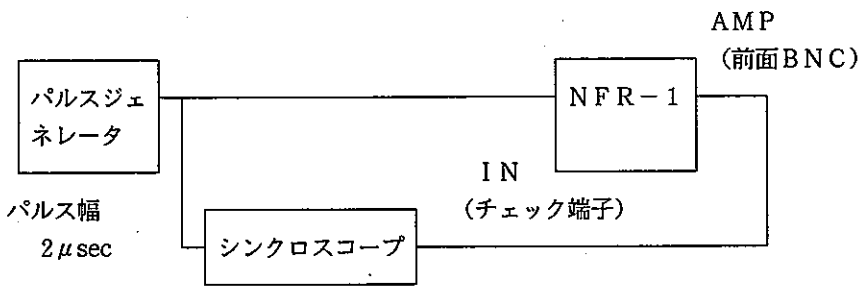
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）対数計数率計の指示値が高レベル設定値を超えたとき警報治具の高レベル1及び2に対応したランプが点灯し、警報が吹鳴すること。 尚、対数計数率計の指示値が低レベル設定値、高レベル設定値以下になったときにリセットスイッチを押すことにより元の状態に復帰することを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＧ０２	１／４

改訂　平成８年３月

機器名	線形計数率計	型　名	ＮＦＲ－１	メーカ名	富士電機
検査名	回路試験	施設名	Ｐｕ燃料工場，濃縮		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．入力レベルの確認	 上記の接続にて、前面の DISボリュームを最大，最小にし、入力波高値を徐々に上げていき、 NFRの指示が上がり出した時の波高値をシンクロスコープにてそれぞれ測定し、最後に各施設の設定値にもどす。		
３．アンプゲインの確認	２項の接続にてユニット03U031のゲインボリュームVR１を最小，最大にする。その時のそれぞれの利得を確認する。また、出力波形が変形する直前の出力を測定する。	最大　　約10倍 最小　　約２倍 最大出力　10Ｖ以上	
４．テストパルスの周波数測定	レートメータの測定レンジ切換スイッチをＣＡＬにし、DIS(チェック端子）にユニバーサルカウンタを接続して測定する。基準値以内でない場合は、ユニット17U014のVR1 を調整する。	499～501(Hz）以内	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．指示校正 5.1 テストパルスによるF.S.とゼロ調整	レンジ切換スイッチを×10^2 にして、前面のZEROボリュームにて指針を0点に調整する。次に前面のFULLボリュームにより、指針をF.S.の赤目盛に合わせる。 上記操作を繰り返し、各位置で指針が合っていることを確認する。	ずれのないこと	可能な限り正確に合わせる
5.2 指示校正	2項の接続にて、DIS(チェック端子）に安定した信号が得られるように入力パルス波高を設定する。レンジ及び入力周波数を下表の通り切り換え、指示値及び記録計出力電圧（基本コネクタ 3,4番ピン）を測定する。	指示値 F.S. ±3(%)以内 記録計出力 ±0.3(mV)以内	記録計出力 前面のREC.ボリュームにて調整 ユニット17U014と05U107は、取り外して行ってもよい

レンジ	入力周波数(cpm)	記録計出力基準値(mV)
10^2	0	0
	0.5×10^2	5.0
	1.0×10^2	10.0
10^3	0.5×10^3	5.0
	1.0×10^3	10.0
10^4	0.5×10^4	5.0
	1.0×10^4	10.0
10^5	0.5×10^5	5.0
	1.0×10^5	10.0

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG02	3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力周波数 (cpm)	記録計出力 基準値(mV)
30	0	0
	1×10	3.33
	2×10	6.66
	3×10	10.00
3×10^2	1×10^2	3.33
	2×10^2	6.66
	3×10^2	10.00
3×10^3	1×10^3	3.33
	2×10^3	6.66
	3×10^3	10.00
3×10^4	1×10^4	3.33
	2×10^4	6.66
	3×10^4	10.00
3×10^5	1×10^5	3.33
	2×10^5	6.66
	3×10^5	10.00

6．時定数の測定

2項の接続にて、任意の測定レンジで各時定数レンジごとに、F.S.を指示させて入力をカットする。指針がF.S.から37(%) に落ちるまでの時間をストップウオッチで測定する。

レンジ	許容範囲(sec.)
100	80 ～250
30	24 ～75

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG02	4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
		レンジ | 許容範囲(sec.) 10 | 8～25 3 | 2.4 ～7.5 1 | 0.8 ～2.5 0.3 | 1以下 0.1 | 1以下	
7．警報動作の確認	2項の接続において、測定レンジ3×10^4、時定数レンジ3（sec.）警報設定値18000(cpm)に設定する。入力周波数を徐々に上げていき、警報ランプが点灯する時の下記の動作を確認する。 ① 基本コネクタNo.19(+),34(COM.）間が0(V) → +24(V)になる。 ② 基本コネクタNo.20(+),34(COM.）間が+24(V) → 0(V)になる。 また、指示を警報設定値以下に落とした時の下記の動作を確認する。 ① 警報ランプの点灯が継続する。 ② 基本コネクタNo.19(+),34(COM.）間が+24(V) → 0(V)になる。 ③ 基本コネクタNo.20(+),34(COM.）間が0(V) → +24(V)になる。 最後にリセットボタンを押した時、警報ランプが消灯すること。	異常のないこと 警報設定精度 F.S. ±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG03	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	リニアカウントレートメータ	型　名	AM－43M10	メーカ名	アロカ
検査名	回路試験	施設名	応用試験棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．ディスクリレベルの確認	UN①53番ピン（PHS　IN）にパルスジェネレータより負電圧を入力し、UN①4番ピンにて設定値をシンクロスコープで測定する。	-1±0.2(V)以内	
3．CAL指示値の確認	レンジ10kにてCALにし、レートメータ指示値を読む。	3000±500(cpm)以内	調整ボリューム:RV_1
4．レートメータ直線性の確認			
4.1 レートメータ指示の確認	OPERATE スイッチをONにしてUN①53番ピンにパルスジェネレータの信号を入力し、各レンジのレートメータの指示値の直線性を確認する。	レートメータ指示 F.S. ±10(%) 以内	
4.2 レコーダ出力電圧の確認	同時にデジタルボルトメータをRV_2 －②とアース間に接続して各レンジのレコーダ出力電圧を測定する。 尚、調整する場合は、CAL値(3000cpm)を合わせてから各レンジにわたりレートメータ指示及びレコーダ出力電圧を調整する。	レコーダ出力電圧 F.S. ±1(mV) 以内	調整ボリューム:RV_2 (モジュール裏面)

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG03	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力信号 (cpm)	RM 指示(cpm)	調整点	レコーダ出力 電圧(mV)
×30	10	10	UN① RV_1	3.3
	30	30		10.0
×100	30	30	UN① RV_2	3.0
	90	90		9.0
×300	100	100	UN① RV_3	3.3
	300	300		10.0
×1k	0.3	0.3	UN① RV_8	3.0
	0.9	0.9		9.0
×3k	1.0	1.0	UN① RV_9	3.3
	3.0	3.0		10.0
×10k	3.0	3.0	UN① RV_{10}	3.0
	9.0	9.0		9.0
×30k	10.0k	10.0k	UN① RV_{11}	3.3
	30.0k	30.0k		10.0
×100k	30.0k	30.0k	UN① RV_{12}	3.0
	90.0k	90.0k		9.0

5．時定数測定	レートメータをフルスケールに振らしておき、入力をカットして指示が 100(%) から37(%) になるまでの時間を測定する。	1(sec.) ±50(%) 以内 10(sec.) ±50(%) 以内 100(sec.) ±50(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAG04	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電位計モジュール	型　名		メーカ名	JREC
検査名	回路試験	施設名	再処理施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	使用機器 ・ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾎﾞﾙﾄﾒｰﾀ ・基準電圧発生器 ・テスタ
2．指示直線性の確認	電位計モジュール背面コネクタJ2-1(+) J2-2(COM) に入力電圧を加えメータ指示値及びレコーダ出力電圧を確認する。	メータ指示値 基準値±F.S. 4％以内 レコーダ出力 基準値±F.S. 4％以内	
3．警報動作試験	2.と同様に模擬信号入力を加え、警報レベルを0.5(pA) に設定し、警報発生時の指示値を確認する。 また、警報動作を確認する。	基準値±ＦＳの５％以内 動作に異常のないこと	

入力電圧(mV)	メータ指示値(pA) 基準値	レコーダ出力(V) 基準値
0	0.0	0.00
200	0.2	0.20
400	0.4	0.40
600	0.6	0.60
800	0.8	0.80
1000	1.0	1.00

入　　力	警報レベル以上	警報レベル以下
警報ランプ	点　　灯	消　　灯

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＧ０４	２／２

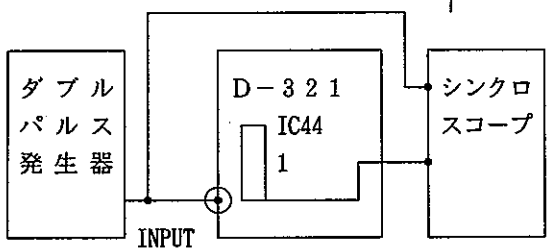
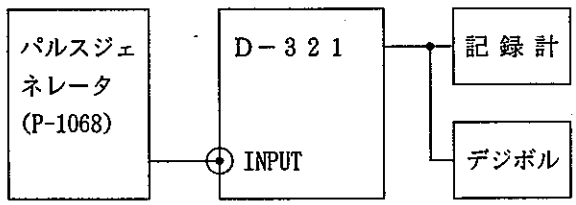
項　　目	点検整備要領		点検整備基準	備　　考
警報出力リレー J3-1～GND 間	開	閉		
警報出力リレー J3-2～GND 間	閉	開		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルレートメータ	型　名	D－321	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	Pu－con，ST，DN，HAW，CPF，Pu－2		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損などのないことを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．入力レベルの確認	 上記接続にてパネル面のＩＮＰＵＴ端子にダブルパルス発生器よりテストパルスを加え基板上のＩＣ４４の１番ピンにシンクロスコープを接続し、ディスクリ用ＶＲ（Ｒ４９）を最大及び最小に回した時にそれぞれＩＣ４４の１番ピンに波形が現れる時の入力波高値をシンクロスコープにて確認する。最後に入力レベルを2.0(V)に設定する。	最小レベル　0.2(V) 以下 最大レベル　12.0(V) 以上 ※設定レベル　2.0(V)	※（CPF)中性子線エリアモニタについては点検前の値に設定する。
3．非直線性の確認	 上記の接続にてパルスジェネレータより下記に示す値を前面の入力端子に入力し、その時の指示値及び記録計出力電圧を測定する。	指示値　±0.1(%)以内 記録計　±0.2(mV) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH01	2／2

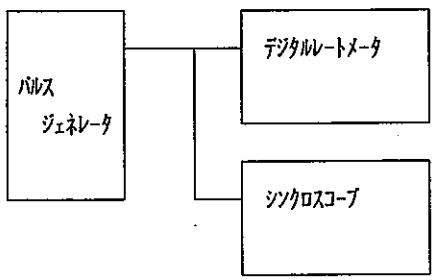
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	×1ﾚﾝｼﾞ　1, 10, 10^2, 10^3, 10^4(cpm) ×10ﾚﾝｼﾞ　10^3, 10^4, 10^5, 10^6, 10^7(cpm)		
	ＴＥＳＴ動作 上記の接続にてデジタルレートメータの切換スイッチをＴＥＳＴモードにし、指示値及び記録計への出力電圧を測定し、記録計の指示値を読み取る。	指示値 1000±1(cpm) 記録計出力 7.5±0.2(mV) 記録計 ±0.16(dec)以内	
4．警報回路の確認	引出し用モジュールを用いて以下の点検を行う。尚12番ピンと13番ピン、32番ピンと34番ピンは短絡した状態で行う。 ・デジタルレートメータの低レベル、高レベルの警報設定値をそれぞれ10^3(cpm)に設定する。 ・デジタルレートメータのＩＮＰＵＴ端子にパルスジェネレータより信号を加える。		
	1）デジタルレートメータの指示値が低レベル設定値より下がった時、パネル前面のオペレートランプが消灯すること。 また、23番ピンの電圧が5(V)から0(V)に変化することを確認する。	正常に動作すること	
	2）デジタルレートメータの指示値が高レベル設定値を超えた時、20番ピンの電圧が5(V)から0(V)に、19番ピンが0(V)から5(V)にそれぞれ変化することを確認する。 尚、指示値が低レベル設定値以上、高レベル設定値以下になった時にリセットスイッチを押すことにより警報が復帰することを確認する。	正常に動作すること	
5．デジタル出力の確認	デジタル出力が正常に出力されることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH02	1／3

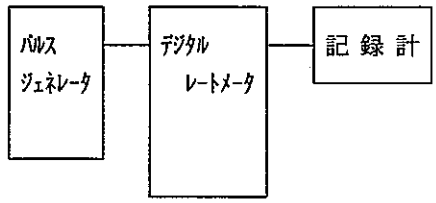
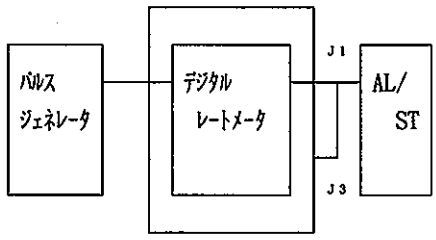
改訂　平成8年3月

機器名	デジタルレートメータ	型　名	RU738A／B	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．アナログ出力用比較電圧の確認	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したDRMをピンより引き出し、デジボルをCPUボードのTP2－TP3(com.)間に接続してアナログ出力用比較電圧を測定する。	TP2: -4.902(V)±0.070(V)	
3．クロック周波数確認	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したDRMをピンより引き出し、周波数カウンタをCPUボードのチェックピンTP7とTP3(com.)間に接続してCPUクロック周波数が分周されていることを確認する。	TP7: 2(Hz)±0.002(Hz)	
4．入力レベルの確認	 上記接続にてDRMのディスクリレベル最小，オペレートモードをスケラーモードに設定し、パルスジェネレータよりテストパルスを加え、波高を除々に上昇させ、0.1(V)以下にてDRMが計数し始めることを確認する。 同様にディスクリレベル最大設定時にも約5.0(V)にてDRMが計数し始めることを確認する。	最小レベル　0.2(V) 以下 最大レベル　5.0(V) 以上 設定レベル付近にて 弁別されること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH02	2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．非直線性の確認	 上記の接続にてＤＲＭの標準偏差を３％に設定し、パルスジェネレータより下記に示す値のテストパルスをＤＲＭに入力し、そのときのレート表示及び記録計用出力電圧を測定する。 レコーダレンジ　　入力値 F1E5 ------> 10 ,10^2,10^3,10^4,10^5 F1E7 ------> 10^3,10^4,10^5,10^6,10^7	レート表示: 入力値±4(%)以内 出力電圧　: 基準値±0.16(dec) 以内	
6．警報回路の確認	 上記の接続にて、ＤＲＭの警報設定値を右記の値に設定し、パルスジェネレータのテストパルス周波数を可変させ、ＤＲＭレート表示がＨＨ及びＨアラームに関しては設定値以上，ＬＯアラームに関しては設定値未満になったとき、各々対応するＬＥＤが点灯すること。 またそのとき、各アラームの外部出力をＡＬ／ＳＴ確認する。	正常に動作すること HH設定値　：U2.0E4(cpm) H設定値　：H2.0E3(cpm) L設定値　：L2.0E1(cpm)	
7．テスト動作の確認	ＤＲＭの動作モードをＴＥＳＴとし、UPボタンを順次押してテスト周波数を可変させたときのレート表示を読み、一連のテスト動作を確認する。	正常に動作すること 周　波　数:(Hz) 1,10,10^2,10^3,10^4,10^5,10^6 周波数×換算乗数になっていること	
8．チェック動作の確認	ＤＲＭの動作モードをチェックにし、チェック動作治具を接続し動作を確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＨ０２	3／3

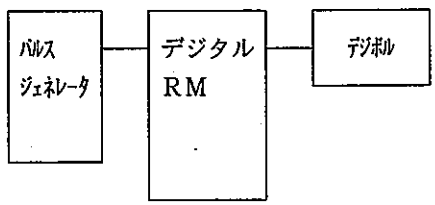
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
9．ＤＲＭBus伝送動作	ＤＲＭを実装状態に復帰した時、ＳＣＮ及び上位計算機とのデータ伝送に異常のないことを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH03	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルレートメータ	型　名	NFW	メーカ名	富士電機
検査名	回路試験	施設名	Pu－1，2		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．アンプゲインの確認	モジュール前面の入力端子にパルスジェネレータを接続し、波高値5(V)のパルスを入力する。ゲイン調整用ボリュームVR1を可変させ、最小及び最大に設定した時のTP6の波高値をシンクロスコープにて測定し、最小・最大の基準値以内であることを確認する。 最後にゲインを各施設の設定値にもどす。	最小 0.5（倍）以下 最大 1.5（倍）以上	
3．ディスクリ直線性の確認	モジュール前面の入力端子にパルスジェネレータを接続する。ディスクリ電圧を0.5,1.0,3.0,5.0(V)に設定し、各設定値において計数し始める時の波高値をシンクロスコープにて測定する。	F.S.±1.0(%)以内	
4．非直線性とレンジマーカ出力の確認	 上記接続にてパルスジェネレータの周波数を下記のごとく変化させ、指示値・記録計出力・レンジマーカ出力を測定する。 入力(cpm)　記録計出力(mV)　レンジマーカ出力(mV) レンジ10 0　0　7.60 3　3.00 6　6.00 9　9.00	指示値　F.S.±1(%)以内 記録計出力 F.S.±1(%)以内 レンジマーカ出力 F.S.±1.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH03	2／2

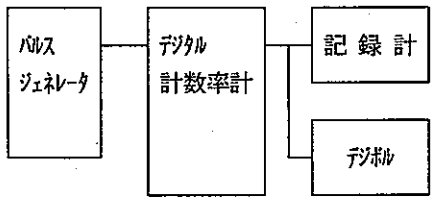
項　　目	点検整備要領			点検整備基準	備　　考
レンジ10^2	3.0×10	3.00	8.40		
	6.0×10	6.00	↓		
	9.0×10	9.00			
レンジ10^3	3.0×10^2	3.00	9.20		
	6.0×10^2	6.00	↓		
	9.0×10^2	9.00			
レンジ10^4	3.0×10^3	3.00	10.00		
	6.0×10^3	6.00	↓		
	9.0×10^3	9.00			
	1.0×10^4	10.00			
レンジ3×10	1×10	3.33	8.00		
	2×10	6.66	8.00		
レンジ3×10^2	1×10^2	3.33	8.80		
	2×10^2	6.66	8.80		
レンジ3×10^3	1×10^3	3.33	9.60		
	2×10^3	6.66	9.60		
5．テスト動作の確認	モジュール前面のパネルスイッチによりテストモードにセットし、"CAL","CHECK","TRIP"にそれぞれに設定した時の動作を確認する。			CAL 6.29×10^7(cpm)表示 TRIP 1.00×10^4(cpm) に設定	
6．EXT. METERの確認	5項と同様にTRIP動作にて1.00×10^4(cpm) を表示させた時のEXT.METER の出力電流をデジタルマルチメータにて測定する。			F.S. ±1.5(%)以内 F.S. 時1.0(mA)	
7．時定数の確認	パルスジェネレータより3×10^3(cpm)を入力し、"SLOW","MIDD","FAST"それぞれの設定にて指示値が370(cpm)に下がるまでの時間を測定する。				
8．警報出力の確認	基本コネクタの18番ピンに24(V) を加え、模擬入力にて各警報を発生させた時の各警報出力をテスターにて確認する。				AL HH 20番ピン AL H 22番ピン AL L 23番ピン

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH04	1／2

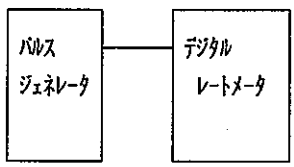
改訂　平成8年3月

機器名	デジタル計数率計モジュール	型　名	AM－42M03R	メーカ名	アロカ
検査名	回路試験	施設名	L　棟，M　棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．オペレート動作の確認	モジュール前面の「OPERATE 」スイッチをONにしたとき、単位表示ランプが点灯し、動作状態になることを確認する。	異常のないこと	
3．入出力直線性試験	 上記の接続にてデジタル計数率計モジュールの標準偏差を3％に設定し、パルスジェネレータより下記に示す値のテストパルスを入力し、そのときのデジタル表示及び記録計用出力電圧を測定する。 入力値（cpm）　記録計出力基準値 1×10^{2} ⟶ 0.0 mV 1×10^{3} ⟶ 2.5 mV 1×10^{4} ⟶ 5.0 mV 1×10^{5} ⟶ 7.5 mV 1×10^{6} ⟶ 10.0 mV 入力パルス：負、記録計出力：J1-3,4	デジタル表示 入力値±(1%＋1digit) 以内 記録計出力 基準値±0.2(mV) 以内	前面パネルの入力接栓より信号を入力する場合は、INPUT SELECTをFRONT にする。 モジュール側面のDIP SWを以下の通りに設定し、F.S.を10^{6} に設定する。 5番　OFF 6番　OFF 7番　ON 8番　ON
4．テスト動作の確認	モジュール前面の「ＴＥＳＴ」スイッチを押すことにより、全ての表示が3秒間点灯し、その後「ＴＲＯＵＢＬＥ」ランプが点灯せず、ERROR CODEを表示しないことを確認する。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAH04	2／2

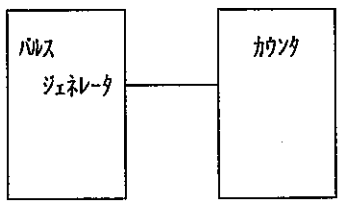
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．レンジマーカ出力の確認	デジタル計数率計モジュールのF.S.レンジを下記の様に変更したときのレンジマーカ出力電圧を測定する。 レンジ　出力電圧基準値 10^4 ⟶ 4.0 mV 10^5 ⟶ 5.0 mV 10^6 ⟶ 6.0 mV 10^7 ⟶ 7.0 mV レンジマーカ出力：J1-12,13	基準値±0.4(mV)以内	モジュール側面のDIP SWの5番をOFFにする。6～8番は以下の通りに二進数に対応しているので任意にF.S.レンジを設定する。 6番　1 7番　2 8番　4
6．時定数の測定	計数率計モジュールの時定数を5％に設定し、パルスジェネレータより信号を入力して各デカード毎にF.S.表示から37％表示に落ちるまでの時間を測定する。 F.S.レンジ　時定数基準値 10^5 ⟶ 1～2 sec 10^4 ⟶ 1～4 sec 10^3 ⟶ 24 sec 10^2 ⟶ 240 sec	基準値±30％以内	
7．警報回路の確認	 上記の接続にて、計数率計の警報設定値を右記の値に設定し、パルスジェネレータのテストパルス周波数を可変させ、デジタル表示がHアラームに関しては設定値以上、Lアラームに関しては設定値未満になったとき、各々対応するＬＥＤが点灯すること。	正常に動作すること H設定値：2.0E4(cpm) L設定値：2.0E1(cpm) 警報設定精度 設定値±1digit 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAI01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	カウンタ	型　名	RU742	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

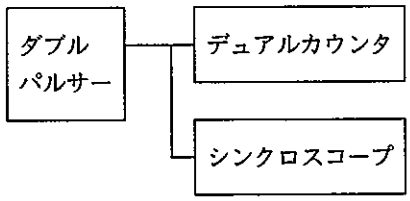
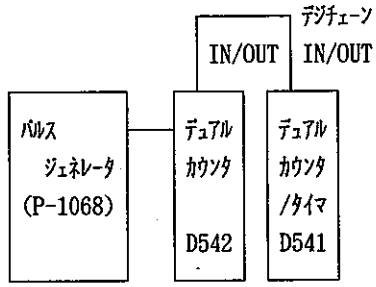
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	使用機器 ・ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾎﾞﾙﾄﾒｰﾀ ・周波数ｶｳﾝﾀ ・ﾌﾟﾛｰﾌﾞ ・ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ
2．ディスクリ電圧の確認	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したカウンタをビンより引き出しデジボルをＣＰＵボードのＴＰ１・ＴＰ１３(com.)間に接続し、ディスクリ設定電圧を確認する。	TP1: 1.00(V)±0.01(V)	VR6にて調整
3．クロック周波数の確認	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したカウンタをビンより引き出し周波数カウンタをＣＰＵボードの右記チェックピンとＴＰ３(com.)に接続してＣＰＵクロック周波数が各々分周されていることを確認する。	TP5: 1(MHz)±1(kHz) TP8: 500(Hz)±0.5(Hz) TP5: 10(Hz)±0.01(Hz) TP7: 2(Hz)±0.002(Hz)	
4．移動平均処理値の確認	 上記の接続にてパルスジェネレータより下記に示す値をカウンタに入力し、そのときの移動平均処理をした表示を確認する。 尚、パルス入力１分以上のちの値を確認すること。 入力値: 100,101,103,105,107(cpm)	正常に動作すること 入力周波数 100(cpm):1.666(Hz) 101(cpm):1.683(Hz) 103(cpm):1.7166(Hz) 105(cpm):1.75(Hz) 107(cpm):1.783(Hz)	
5．GPIB/DRMBus 伝送動作の確認	回路試験終了後、カウンタを実装状態に復帰したとき、ＳＣＮ及び上位計算機とのデータ伝送に異常のないことを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAJ01	1／2

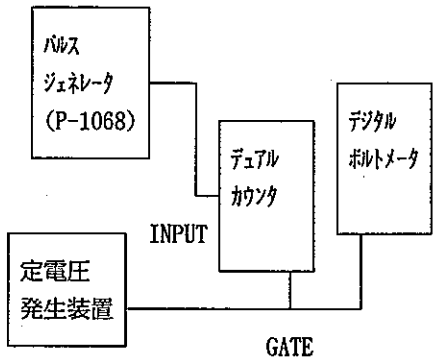
改訂　平成8年3月

機器名	デュアルカウンタ	型　名	D－542	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．ディスクリレベルの確認	 上記接続にてダブルパルサーの出力をAチャンネル及びBチャンネルに接続して出力電圧を徐々に上げ、デュアルカウンタが計数し始める点の波高値をシンクロスコープにて測定する。	設定レベル 2.0(V)±10(%) 以内	
3．計数動作の確認	 上記接続にてパルスジェネレータの出力をAチャンネル及びBチャンネルに接続して入力周波数を1×10，1×10³，1×10⁵(cpm) 入力しAチャンネル、Bチャンネルで1分間計数させ、その時のAチャンネル、Bチャンネルの表示値を読む。	入力に対して±1(%)以内	D-541 の設定条件 RECYCLE/STORAGE/ ONE CYCLE : ONE CYCLE MIN/COUNT/SEC : MIN N ×10ᴹ : N=1, M=2

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＪ０１	２／２

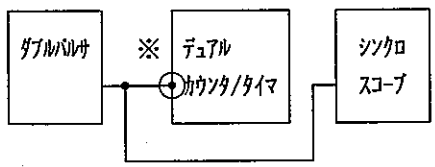
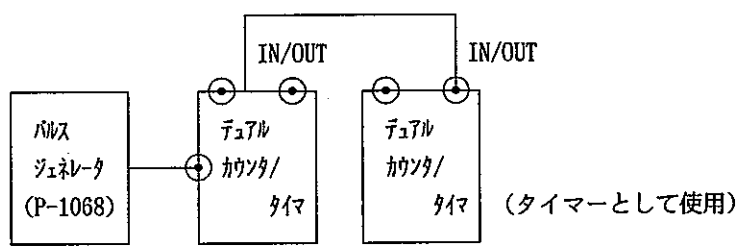
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．分解能の測定	２項の接続においてダブルパルサよりダブルパルスをデュアルカウンタに入力し、パルス間隔を徐々に広げていく。デュアルカウンタのカウント数が２倍になる時のパルス間隔をシンクロスコープにて測定する。	約100(nsec)	
5．ゲート動作の確認	 上記接続にて定電圧発生装置の電圧を徐々に上げ、Ａチャンネルが計数し始める点をデジタルボルトメータにて測定する。また電圧を徐々に下げていき、Ａチャンネルが計数しなくなる点の電圧を測定する。また、Ｂチャンネルにおいても同様に測定する。		
6．操作モードの確認	デュアルカウンタの各モードにて正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
7．データ出力動作の確認	データ出力動作が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAK01	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	デュアルカウンタ／タイマ	型　名	D－541	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．プリセット動作の確認	デュアルカウンタを下記に示す設定条件としてBチャンネルの表示値を読む。 （設定条件） RECYCLE/STORAGE/ONECYCLE : ONECYCLE MIN/COUNT/SEC : SEC N ×10^{M} : N=1 M=0,1,2,3,4	0.1SEC　0.1 ±0.1ｶｳﾝﾄ 1SEC　1.0 ±0.1ｶｳﾝﾄ 10SEC　10.0 ±0.1ｶｳﾝﾄ 100SEC　100.0 ±0.1ｶｳﾝﾄ 1000SEC　1000.0 ±0.1ｶｳﾝﾄ	
3．ディスクリレベルの確認	 上記接続にてダブルパルサの出力をAチャンネル及びBチャンネルのＩＮＰＵＴに接続して出力電圧を徐々に上げ、デュアルカウンタ／タイマが計数し始める点の波高値をシンクロスコープにて測定する。	※MIN/COUNT/SEC : COUNT 設定レベル 2.0(V)±10(%) 以内	
4．計数動作の確認	デジチェーン  （タイマーとして使用）		

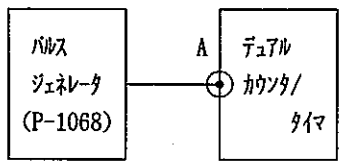
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＫ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	上記接続にてパルスジェネレータの出力をＡチャンネル及びＢチャンネルの INPUT に接続して入力周波数を１×10^1，１×10^3，１×10^5(cpm)入力しＡチャンネル・Ｂチャンネルで１分間計数させ、その時の各チャンネルの表示値を読む。	入力周波数の±0.1(%)以内	

（設定条件）	被測定器側	タイマー側
RECYCLE/STORAGE/	ONECYCLE	ONECYCLE
MIN/COUNT/SEC	COUNT	MIN
N ×10^M	N:任意,M≧6	N=1,M=2

５．クロックパルスの確認



上記接続にて下記に示す設定条件としてパルスジェネレータの入力周波数を１×10^4（cps）としてＡチャンネル、Ｂチャンネルの表示値を読む。

（10Hz分周）

RECYCLE/STORAGE/ONE CYCLE	: ONE CYCLE	Ａチャンネル
MIN/COUNT/SEC	: SEC	100000±100以内
N×10^M	:N=1,M=2	Ｂチャンネル
		10.0

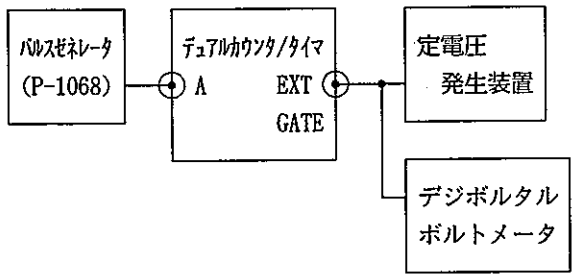
（1/6 分周）

RECYCLE/STORAGE/ONE CYCLE	: ONE CYCLE	Ａチャンネル
MIN/COUNT/SEC	: MIN	600000±600以内
N×10^M	:N=1,M=2	Ｂチャンネル
		1.00

６．分解能の測定	３項の接続においてダブルパルサよりダブルパルスを入力し、パルス間隔を徐々に広げていく。デュアルカウンタ／タイマーのカウント数が２倍になる時のパルス間隔をシンクロスコープにて測定する。	約100(nsec)

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＫ０１	3／3

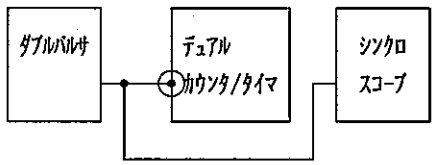
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．ゲート動作の確認	 上記接続にて定電圧発生装置の電圧を徐々に上げ、Aチャンネルが計数し始める点をデジタルボルトメータにて測定する。また電圧を徐々に下げていき、Aチャンネルが計数しなくなる点の電圧を測定する。Bチャンネルについても同様に測定する。		
8．操作モードの確認	デュアルカウンタの各モードにて正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
9．データ出力動作の確認	データ出力動作が正常であることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAK02	1／3

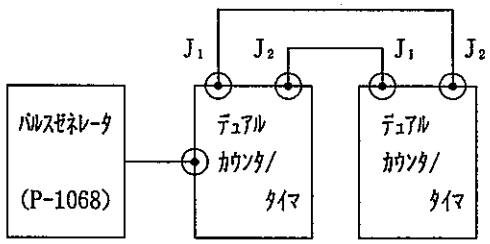
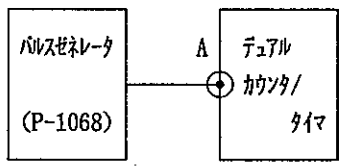
改訂　平成8年3月

機器名	デュアルカウンタ／タイマ	型　名		メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．プリセット動作の確認	デュアルカウンタを下記に示す設定条件としてBカウンタの表示値を読む。 （設定条件） MASTER/SLAVE　：MASTER 0.1MIN/EXT/0.1SEC　：0.1SEC PRESET　：B COUNT/STOP･EXT　：COUNT DISPLAY　：HOLD PRESET DIAL　：1, 10, 100, 1000, 10000	0.1SEC　1±1 ｶｳﾝﾄ 1SEC　10±1 ｶｳﾝﾄ 10SEC　100±1 ｶｳﾝﾄ 100SEC　1000±1 ｶｳﾝﾄ 1000SEC　10000±1 ｶｳﾝﾄ	
3．ディスクリレベルの確認	（MASTER/SLAVE） SLAVE  上記接続にてダブルパルサの出力をAカウンタ及びBカウンタに接続して出力電圧をゆっくり上げデュアルカウンターが計数し始める点のダブルパルサの出力波高値をシンクロスコープにて測定する。	設定レベル 2.0(V)±10(%) 以内	

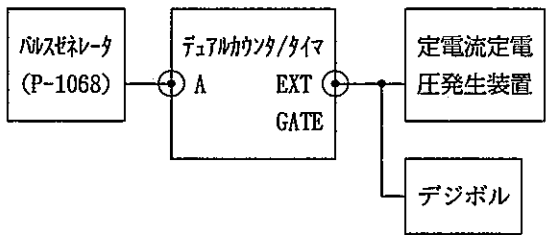
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＫ０２	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．計数動作の確認			
	上記接続にてパルスゼネレータの出力をＡカウンタ及びＢカウンタに接続して入力周波数を 1×10^{1}, 1×10^{3}, 1×10^{5}(cpm)入力し、Ａカウンタ、Ｂカウンタで１分間計数させそのときのＡカウンタ、Ｂカウンタの表示値を読む。 尚タイマとして使用する側をMASTERに、カウンタとして使用する側をＳＬＡＶＥにセットすること。	入力周波数の±0.1(%)以内	
５．クロックパルスの確認			
	上記接続にて下記に示す設定条件としてパルスゼネレータの入力周波数を 1×10^{4} (cps) としてＡカウンタ、Ｂカウンタの表示値を読む。 (10Hz分間) MASTER/SLAVE : MASTER 0.1MIN/EXT/0.1SEC : 0.1SEC PRESET : B COUNT/STOP･EXT : COUNT DISPLAY : 任意設定 PRESET DIAL : 100	セﾚｸﾄA　100000±100 以内 セﾚｸﾄB　100	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＫ０２	３／３

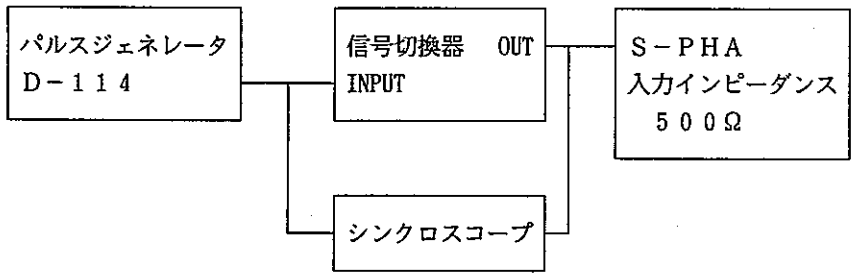
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	(1/6Hz分間) MASTER/SLAVE : MASTER 0.1MIN/EXT/0.1SEC : 0.1MIN PRESET : B COUNT/STOP･EXT : COUNT DISPLAY : 任意設定 PRESET DIAL : 10	ｾﾚｸﾄA 600000±600 以内 ｾﾚｸﾄB 10	
6．分解能の測定	３項と同じ接続にてダブルパルサーよりダブルパルスをデュアルカウンタに入力しパルス間隔を広げていき、デュアルカウンタのカウント数が２倍に数えるパルス間隔をシンクロスコープにて測定する。	約200(nsec)	
7．ゲート動作の確認	 上記接続にてデュアルカウンタを下記に示す設定条件として定電流定電圧発生装置をデュアルカウンタ裏面パネルＥＸＴＧＡＴＥに接続して徐々に電圧を上げて、Ａカウンタが計数し始める点と電圧を下げてＡカウンタが計数しなくなる点の電圧をデジボルにて測定する。 (設定条件) MASTER/SLAVE : MASTER 0.1MIN/EXT/0.1SEC : 0.1SEC COUNT/STOP･EXT : STOP･EXT DISPLAY : HOLD PRESET DIAL : off		
8．操作モードの確認	５項と同じ接続にてデュアルカウンタのＤＩＳＰＬＡＹをＯＮ，ＯＦＦしてＡカウンタ、Ｂカウンタの表示がオートリサイクルしたりホールドしたりすること。	異常ないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAQ02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	信号切換器	型　名	RU718S	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

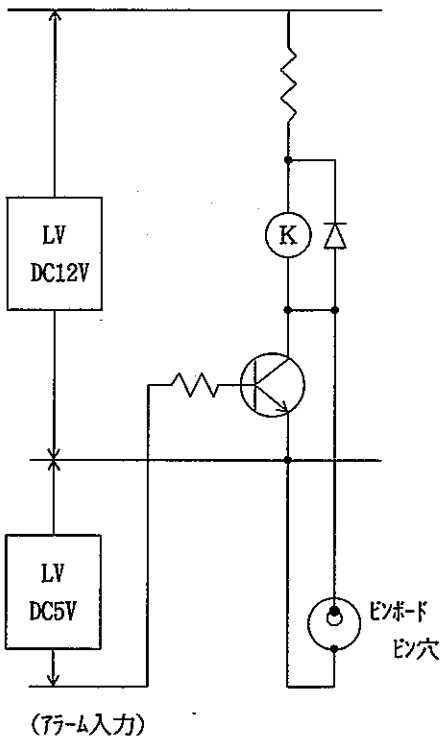
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．信号切換動作の確認			
	上記の接続にて入力コネクタJ_1にパルスジェネレータからの信号を加え前面パネルの切換スイッチをOFF、1～5に切換えた時、下記の動作を確認する。 1）信号切換器INPUT側で波高値が変化しないこと。 2）信号切換器OUTPUT側では切換スイッチ1の所ではINPUT側と同じ波形が、その他では波形が出力してこないこと 同様にINPUT　J_2～J_5についても行う。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAR01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	信号変換器	型　名	RU717	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．動作確認			
2.1 ピンボードピン有	上記接続にて信号変換器にＤＣ12(V) を加え、ピンボードピンを挿入したときアラーム入力が5(V)でも0(V)でもリレーが励磁していることを確認する。		
2.2 ピンボードピン無	ピンボードピン穴のピンを取り外したときアラーム入力が5(V)のとき、リレーが非励磁し、0(V)のときは無励磁になることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAR01	2／2

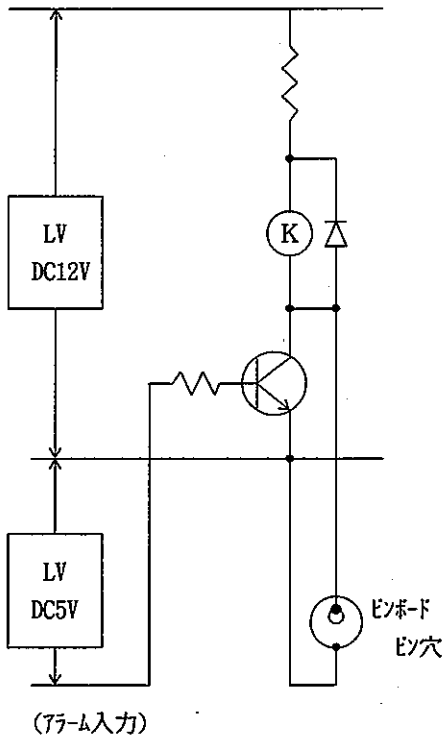
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 アラームピン有無	ピンボードピンの有無と同様にアラーム側についても行う。 ※ピンボードピンだけの信号変換器は、ピンボード（アラーム）ピンにピンを挿入したときそれぞれの該当端子が導通状態となり、ピンを取り外したとき非導通状態となることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAR02	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	信号変換器	型　名	RU723	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．動作確認			
2.1 ピンボードピン有	上記接続にて信号変換器にDC12(V) を加え、ピンボードピンを挿入したときアラーム入力が5(V)でも0(V)でもリレーが励磁していることを確認する。		
2.2 ピンボードピン無	ピンボードピン穴のピンを取り外したときアラーム入力が5(V)のとき、リレーが非励磁し、0(V)のときは無励磁になることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAR02	2／2

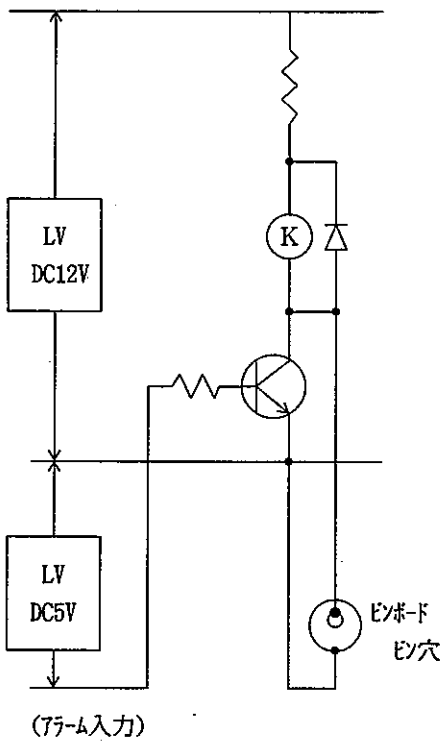
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 アラームピン有無	ピンボードピンの有無と同様にアラーム側についても行う。 ※ピンボードピンだけの信号変換器は、ピンボード（アラーム）ピンにピンを挿入したときそれぞれの該当端子が導通状態となり、ピンを取り外したとき非導通状態となることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAR03	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	信号変換器	型　名	RU969	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．動作確認			
2.1 ピンボードピン有	上記接続にて信号変換器にDC12(V) を加え、ピンボードピンを挿入したときアラーム入力が5(V)でも0(V)でもリレーが励磁していることを確認する。		
2.2 ピンボードピン無	ピンボードピン穴のピンを取り外したときアラーム入力が5(V)のとき、リレーが励磁し、0(V)のときは無励磁になることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAR03	2／2

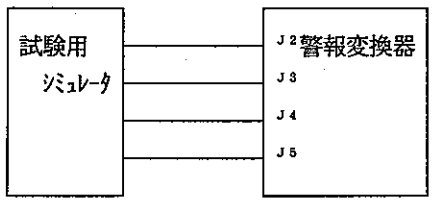
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 アラームピン有無	ピンボードピンの有無と同様にアラーム側についても行う。 ※ピンボードピンだけの信号変換器は、ピンボード（アラーム）ピンにピンを挿入したときそれぞれの該当端子が導通状態となり、ピンを取り外したとき非導通状態となることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＳ０１	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	警報変換器	型　名	ＲＵ７４０	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．レギュレータ出力の確認	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したＡＬ／ＳＴをピンより引き出し、デジボルをＰＣ１ボードのＴＰ１－ＴＰ２(com.)間に接続して＋５(Ｖ) レギュレータの出力電圧を測定する。 また、そのときのリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	TP1: 5.0(V)±0.5(V) 10(mV^{P-P}) 以内	
３．アラーム動作の確認	 上記の接続にて、試験用シミュレータよりＨＨ，Ｈ，Ｌの警報模擬信号を入力したときの警報変換器の動作をアラームバイパスピン有り及び無しについて確認する。 動作の詳細は下記参照	正常に動作すること	

警報信号	バイパスピン				ＬＥＤ			ブザー	接点出力Ｔ			接点出力ＨＨ			接点出力Ｈ			接点出力Ｌ		
	Ｔ	ＨＨ	Ｈ	Ｌ	ＨＨ	Ｈ	Ｌ		Ａ	Ｂ	Ｃ	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ａ	Ｂ	Ｃ
ＨＨ ＡＬＭ	無	無			○			○	○		○	○	○	○						
		有			○			○	○		○									
	有	無			○			○				○	○	○						
		有			○			○												
Ｈ　ＡＬＭ	無		無					○	○		○				○	○				
			有					○	○		○									
	有		無					○							○	○				
			有					○												
Ｌ　ＡＬＭ	無			無				○	○		○							○	○	
				有				○	○		○									
	有			無				○										○	○	
				有				○												

点検整備技術要領書

整理番号	14KAS01	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．リセット動作の確認	3項の試験時、シミュレータよりの警報模擬信号が無くなったとき、AL／ST前面のRESETボタンを押すことにより、各警報出力がリセットされること。	正常に動作すること	
5．TEST動作の確認	3項の接続にてAL／ST前面の LAMP/BUZZER TEST ボタンを押している間の各警報動作を確認する。 動作の詳細は下記参照	正常に動作すること	

警報信号	バイパスピン				LED			ブザー	接点出力T			接点出力HH			接点出力H			接点出力L		
	T	HH	H	L	HH	H	L		A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
HH ALM	無	無			○	○	○	○	○			○			○			○		
		有			○	○	○	○	○			○			○			○		
	有	無			○	○	○	○	○			○			○			○		
		有			○	○	○	○	○			○			○			○		
H ALM	無		無		○	○	○	○	○			○			○			○		
			有		○	○	○	○	○			○			○			○		
	有		無		○	○	○	○	○			○			○			○		
			有		○	○	○	○	○			○			○			○		
L ALM	無			無	○	○	○	○	○			○			○			○		
				有	○	○	○	○	○			○			○			○		
	有			無	○	○	○	○	○			○			○			○		
				有	○	○	○	○	○			○			○			○		

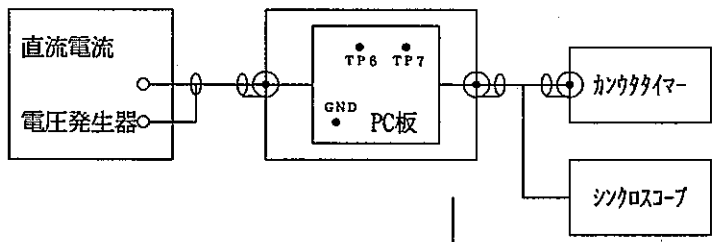
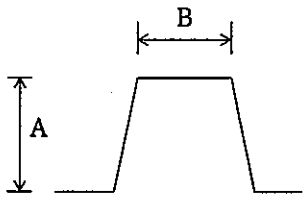
6．CHECK信号動作の確認	3項の接続にて、シミュレータより各チャンネル毎にチェック信号をAL／STに入力したときの接点出力動作を確認する。	正常に動作すること	
7．システムテスト入力の確認	3項の接続にて、シミュレータよりシステムテスト信号をAL／STに入力している間、各接点出力がバイパスされ、アラームテスト信号が出力されること。 また、シミュレータのリセットスイッチにてリセット信号が出力されること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAT01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	V／F変換器	型　名	RU714	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

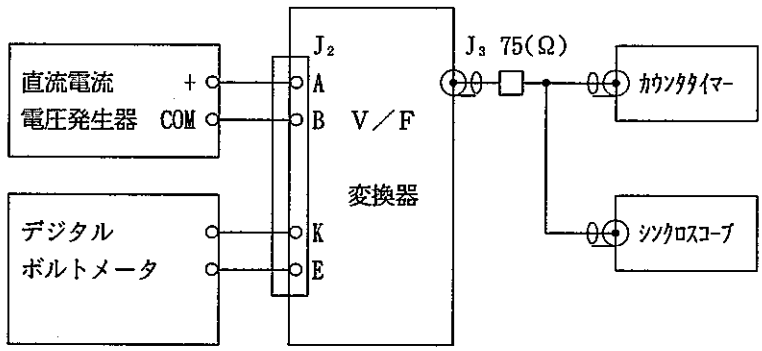
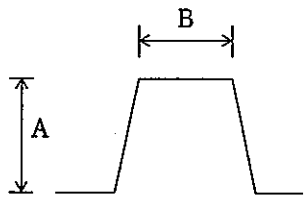
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．V／F変換回路の確認	J_1に直流入力電圧1(V)，5(V)を加え、PC板上のチェック端子（TP6）で0(V)，5(V)になることを確認し、チェック端子（TP7）で0(KHz)，11.1(KHz)になることを確認する。  		
3．分周回路の確認	上記の接続で直流入力電圧5(V)のとき出力が前段（チェック端子TP7）の周波数の$1/10^4$に分周されていることを確認する。	$1/10^4$に分周されていること。	
4．直線性の測定	J_2にカウンタを接続し直流入力電圧を1(V)～5(V)可変し、出力パルスを10分間づつ測定する。	F．S±2(%)以内	
5．出力波形の確認	直流入力電圧5(V)時のJ_2にて下記の出力波形を測定する。  	A）波高電圧　5(V) B）波幅	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＴ０２(1)	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	Ｖ／Ｆ変換器	型　名	ＲＵ７３４Ｂ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

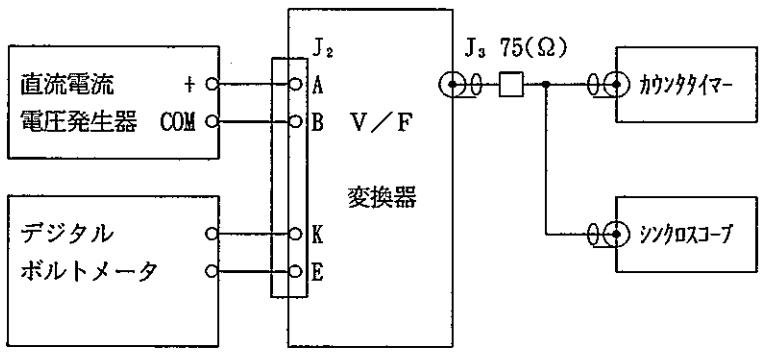
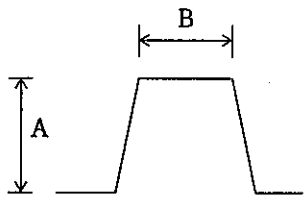
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）異常のないこと ２）清掃されていること ３）部品の破損のないこと ４）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．直線性の確認	 上記の接続でＪ₂のＡ(+)，Ｂ(COM) に直流入力を加え、4，8，12，16，20(mA)と変化させたとき、Ｊ₂のＫ(+)，Ｅ(COM) 間にデジタルボルトメータを接続し、記録計用出力電圧を測定する。Ｊ₃にカウンタを接続し、パルス出力を10分間ずつ測定する。	Ｆ．Ｓ±2(%) 記録計出力電圧 0～10(mV)	
３．出力波形の確認	入力電流20(mA)時パルス出力波形をＪ₃にてシンクロスコープで測定する。 	Ａ）波高電圧　約5(V) Ｂ）波幅　　約4(μsec)	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＴ０２(2)	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	Ｖ／Ｆ変換器	型　名	ＲＵ７３４	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

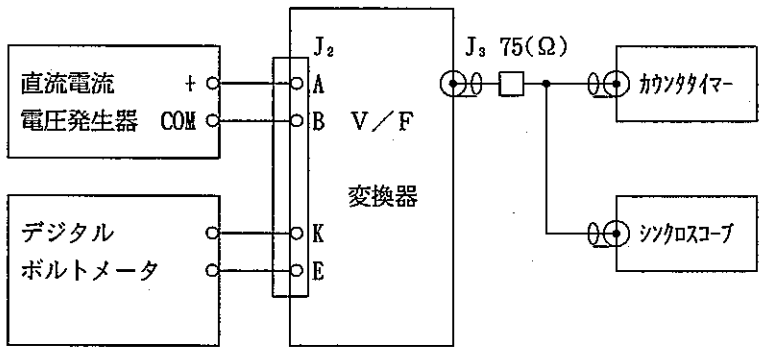
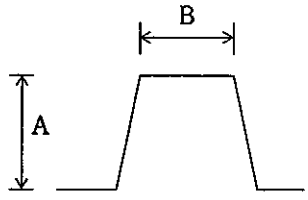
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）異常のないこと ２）清掃されていること ３）部品の破損のないこと ４）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．直線性の確認	 上記の接続でＪ₂のA(+)，B(COM) に直流入力を加え、4，8，12，20(mA)と変化させたとき、Ｊ₂のK(+)，E(COM) 間にデジタルボルトメータを接続し、記録計用出力電圧を測定する。Ｊ₃にカウンタを接続し、パルス出力を10分間ずつ測定する。	Ｆ．Ｓ±2(%) 記録計出力電圧 0～10(mV)	
３．出力波形の確認	入力電流20(mA)時パルス出力波形をＪ₃にてシンクロスコープで測定する。 	Ａ）波高電圧　約2.5(V) Ｂ）波幅　　約20(msec)	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＴ０２(3)	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	Ｖ／Ｆ変換器	型　名	RU714,714 (OP-1) 714 (OP-2)	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

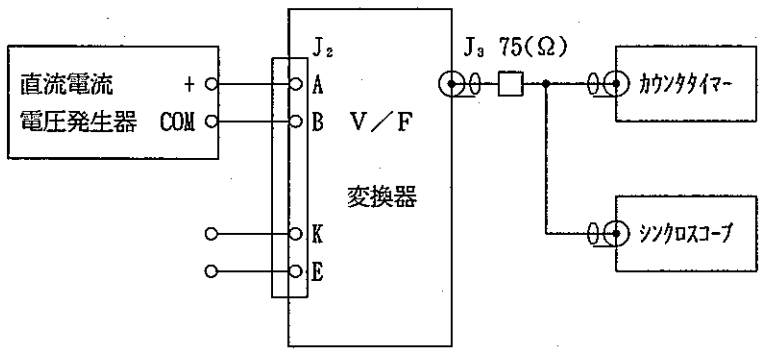
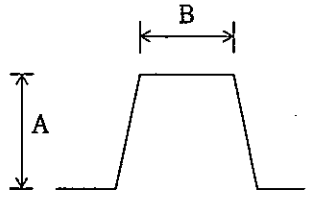
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）異常のないこと ２）清掃されていること ３）部品の破損のないこと ４）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．直線性の確認			
	上記の接続でＪ₂のA(+),B(COM)に直流入力を加え、4, 8, 12, 20(mA)と変化させたとき、Ｊ₂のK(+),E(COM)間にデジタルボルトメータを接続し、記録計用出力電圧を測定する。Ｊ₃にカウンタを接続し、パルス出力を10分間ずつ測定する。	Ｆ．Ｓ±2(%) 記録計出力電圧 714　　0～10(mV) 714 OP-1　0～15(mV) 714 OP-2　0～ 5(mV)	
３．出力波形の確認	入力電流20(mA)時パルス出力波形をＪ₃にてシンクロスコープで測定する。 	Ａ）波高電圧　約2.5(V) Ｂ）波幅　　約20(msec)	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＴ０２(4)	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	Ｖ／Ｆ変換器	型　名	ＲＵ７３４Ｈ ＲＵ７１４（OP-4）	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

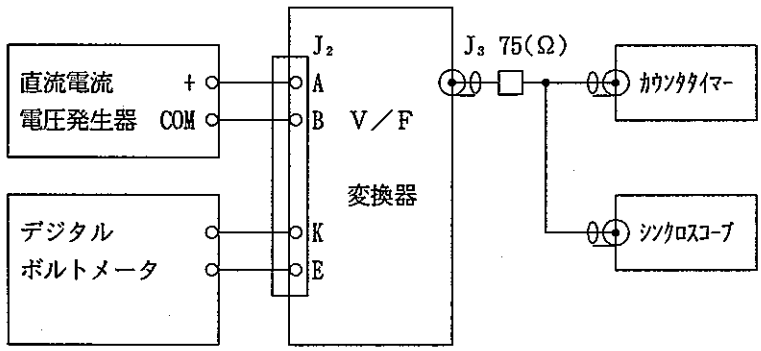
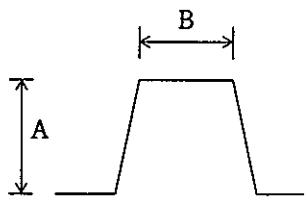
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）異常のないこと ２）清掃されていること ３）部品の破損のないこと ４）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．直線性の確認			
	上記の接続でＪ₂のA(+)，B(COM) に直流入力を加え、1，2，3，4，5(V)と変化させたとき、Ｊ₃にカウンタを接続し、パルス出力を10分間ずつ測定する。	Ｆ．Ｓ±2(%) 出力パルスF.S≒91.7(cpm)	
３．出力波形の確認	入力電流20(mA)時パルス出力波形をＪ₃にてシンクロスコープで測定する。		
		A）波高電圧　約5(V) B）波幅　　約4(μsec)	
４．リレー動作の確認※	ビン電源に挿入時、基板上のリレーが動作すること。	正常に動作すること	※RU734Hのみ

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＴ０２(5)	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	Ｖ／Ｆ変換器	型　名	ＲＵ７１４（OP-3）	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

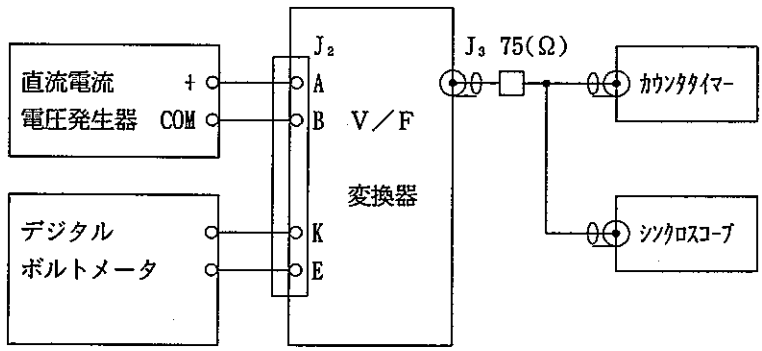
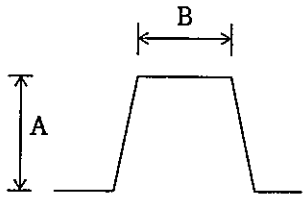
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）異常のないこと ２）清掃されていること ３）部品の破損のないこと ４）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．直線性の確認	 上記の接続でＪ₂のＡ(+)，Ｂ(COM) に直流入力を加え、4，8，12，20(mA)と変化させたとき、Ｊ₂のＫ(+)，Ｅ(COM) 間にデジタルボルトメータを接続し、記録計用出力電圧を測定する。Ｊ₃にカウンタを接続し、パルス出力を10分間ずつ測定する。また、出力電圧切換スイッチを各々切換え各出力について直線性を測定する。	Ｆ．Ｓ±2(%) 記録計出力電圧 0～10(mV) 0～ 5(mV) 0～15(mV)	
３．出力波形の確認	入力電流20(mA)時パルス出力波形をＪ₃にてシンクロスコープで測定する。 	Ａ）波高電圧　約5(V) Ｂ）波幅　　約4(μsec)	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAT02(6)	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	V／F変換器	型　名	RU734D ES508	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

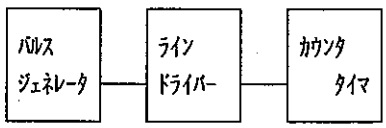
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）異常のないこと 2）清掃されていること 3）部品の破損のないこと 4）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．直線性の確認	 上記の接続でJ₂のA(+)，B(COM) に直流入力を加え、4，8，12，16，20(mA)と変化させたとき、J₂のK(+)，E(COM) 間にデジタルボルトメータを接続し、記録計用出力電圧を測定する。J₃にカウンタを接続し、パルス出力を10分間ずつ測定する。	F．S±2(%) 記録計出力電圧 0～10(mV)	
3．出力波形の確認	入力電流20(mA)時パルス出力波形をJ₃にてシンクロスコープで測定する。 	A）波高電圧　約5(V) B）波幅　　約4(μsec)	
4．リレー動作の確認	ビン電源に挿入時、基板上のリレーが動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAU01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ラインドライバー	型　名	RU704	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	M　P		

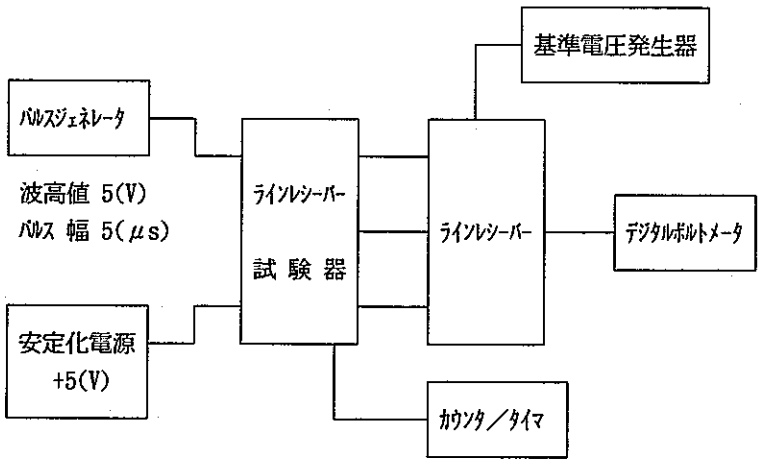
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．入出力の確認	 波高値 5(V) パルス幅　5(μS)		
	上記接続にてパルスジェネレータの入力を 10(cpm)，10^3(cpm)，10^5(cpm)にしたときの出力をカウンタ／タイマにて測定する。	入力周波数に対して ±0.1(%)以内	
3．出力波形の確認	2項の接続にてカウンタ／タイマの代りにシンクロスコープを接続し、パルスジェネレータの入力が10^5(cpm)のときの出力波形を観測する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAV01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ラインレシーバー	型　名	RU119	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	安全管理棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．入出力の確認	 上記接続にてパルスジェネレータの入力を 10(cpm)，10^3(cpm)，10^5(cpm)にしたときの出力をカウンタ／タイマにて測定する。尚、アナログ用は基準電源発生器より5.0(V)を入力したとき出力が1.0(V)であることを確認する。	入力周波数に対して ±0.1(%)以内	
3．出力波形の確認	2項の接続にてカウンタ／タイマの代りにシンクロスコープを接続し、パルスジェネレータの入力が10^5(cpm)のときの出力波形を観測する。		

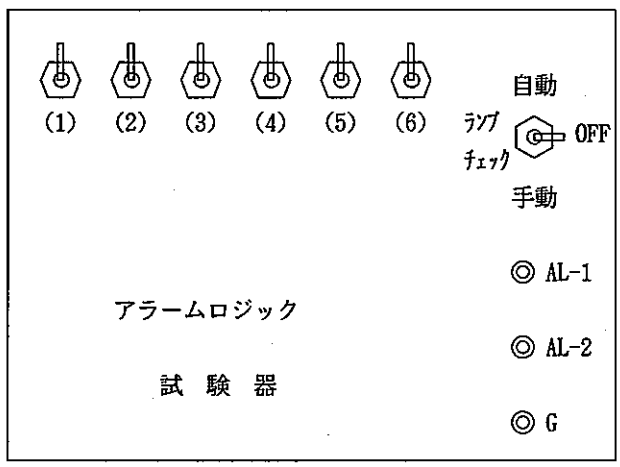
点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＷ０１	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	アラームロジック	型　名	Ｄ－３０６Ａ	メーカ名	ＮＡＩＧ
検査名	回路試験	施設名	再処理工場、ＣＰＦ		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと （注）以下の点検にはアラームロジック試験器を用いる。	異常のないこと	使用機器 ・ｼﾝｸﾛｽｺｰﾌﾟ ・治具（ｱﾗｰﾑﾛｼﾞｯｸ試験器） ・ﾌﾟﾛｰﾌﾞ
２．出力信号の確認	アラームロジック試験器の（ＡＬ－１）－（Ｇ）間及び（ＡＬ－２）－（Ｇ）間の電圧をシンクロスコープで測定する。又、ＡＬＡＲＭ　ＴＥＳＴボタンを押したときの両者の電圧も測定し、（ＡＬ－１）－（Ｇ）間電圧と（ＡＬ－２）－（Ｇ）間電圧が反転することを確認する。	ALARM TEST　OFF (AL-1)-(G)≒ 5(V) (AL-2)-(G)≒ 0(V) ALARM TEST　ON (AL-1)-(G)≒ 0(V) (AL-2)-(G)≒ 5(V)	



点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＷ０１	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．アラーム表示の確認 3.1 音の確認	ｃｈ－１からｃｈ－６に +5(V)→0(V)の切換信号を入力することで各ｃｈが動作し音が発生することを確認する。	動作に異常ないこと	
3.2 光の確認	ランプチェックスイッチを“手動”にしピン番号12（アラームランプ用電圧入力－ピン番号13（ＲＥＴＵＲＮ）間に+24(V)を加えることにより、ランプが点灯することを確認する。	動作に異常ないこと	
4．リセット動作の確認	リセットボタンを押したとき、音と光が解除されることを確認し、又（ＡＬ－１）－（Ｇ）間の電圧が0(V)→5(V)に、（ＡＬ－２）－（Ｇ）間の電圧が5(V)→0(V)にそれぞれ変化することを確認する。	動作に異常ないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＷ０２	１／２

改訂　平成８年３月

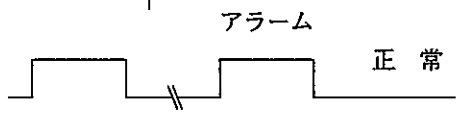
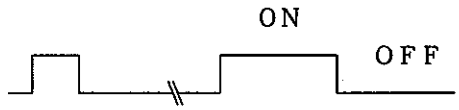
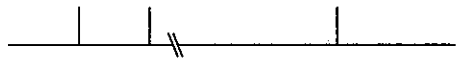
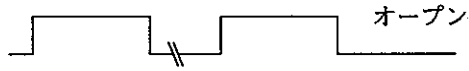
機器名	警報出力モジュール	型　名	ＡＭ－９１Ｍ０１Ｂ	メーカ名	ア　ロ　カ
検査名	回路試験	施設名	Ｌ　棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．アラーム動作確認	アラーム１～８（Ｊ１：21～26,14,15ピン）にアラーム信号を入力して、各種アラームの動作を確認する。 アラームは接点信号である。	下記シーケンス通りの動作を行なうこと	Ｊ１ 1,2番ピンに＋24(V) 入力すること（２番ＧＮＤ）

		UN１
AL-IN	J1	AMC-9104
1	21	2
2	22	3
3	23	4
4	24	5
5	25	6
6	26	7
7	14	8
8	15	J

点検整備技術要領書

整理番号	14KAW02	2／2

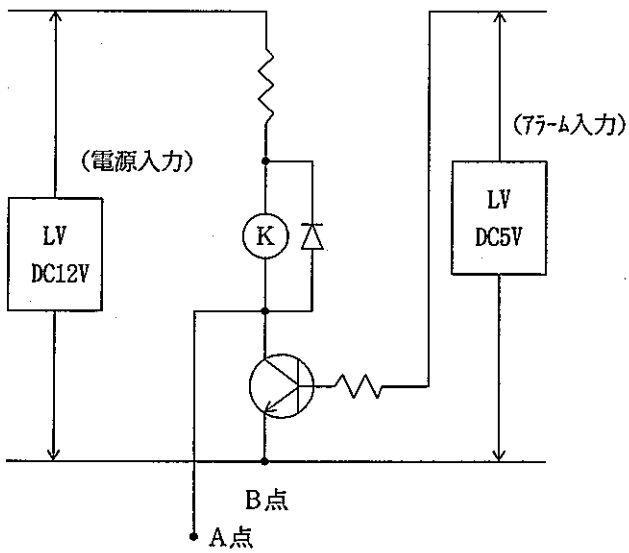
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	各種アラーム入力  ブザー  BUZZER STOP ALARM RESET スイッチ  ALARM ランプ （トータル表示）  ランプ：赤色 アラームOUT J1 18,19  アラームOUT J1 18,20  		
3．リセット信号 出力確認	アラーム動作時にＢＵＺＺＥＲ ＳＴＯＰ／ＡＬＡＲＭ ＲＥＳＥＴスイッチを押し、Ｊ１－35ピンの出力レベルを確認する。 リセット動作 アラーム動作時 Ｌｏ→Ｈｉレベルとなる リセット動作時 Ｈｉ→Ｌｏレベルとなる	正常動作すること	ＵＮ１ Ｊ１　(AMC-9104) 35　　13

点検整備技術要領書

整理番号	14KAX01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ワーニングセット	型　名	RU705	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．動作確認			
2.1 ピンボードピン有	上記接続にてワーニングセットにＤＣ+12(V)を加え、Ａ点とＢ点とを短絡させたときアラーム入力が5(V)でも0(V)でもリレーが励磁していることを確認する。		
2.2 ピンボードピン無	Ａ点とＢ点の短絡を取り外した時アラーム入力が5(V)の時リレーが励磁し、0(V)の時無励磁となることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KAY01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	カウンタスキャナ	型　名	D－544	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．ＩＢ側入出力動作	実装状態にて正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
3．機器側入出力動作	実装状態にて正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
4．動作確認	実装状態にて正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAY02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	DRMスキャナ	型　名	RU739A／B	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．クロック周波数確認	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したDRMスキャナをビンより引き出し周波数カウンタをCPUボードのTP6－TP1(com.)に接続してCPUクロック周波数が1(MHz) に分周されていることを確認する。 次に、周波数カウンタをTP5－TP1に接続し、さらに10(Hz)に分周されていることを確認する。	TP6: 1(MHz)±1(kHz) TP5: 10(Hz)±0.01(Hz)	
3．電源断検出用比較電圧の設定	引き出し用モジュールを用いて左側板を外したDRMスキャナをビンより引き出しデジボルをCPUボードのTP2－TP1(com.)に接続して、電源断検出用比較電圧を測定する。	TP2: 4.50(V)±0.01(V)	
4．ランプ／ブザーテスト動作の確認	DRMスキャナ前面パネルのLAMP／BUZZER　TESTスイッチを押して、モジュール前面パネルの全LEDの点灯及びブザーの吹鳴を確認する。	正常に動作すること	
5．GPIB/DRMBus伝送動作の確認	回路試験終了後、DRMスキャナを実装状態に復帰したとき、下位DRM及び上位計算機とのデータ伝送に異常のないことを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０１(1)	1／1

改訂　平成８年３月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	ＲＵ－７１５Ａ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認 ＦＣ／Ｍモード	β（γ）線のダストモニタサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチボックスの切換スイッチ又はα線用空気モニタ検出器の切換スイッチを“交換”にしたとき、サンプリングユニット又は検出器のろ紙交換中ランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータのオペレートランプが消灯することを確認する。 又、“測定”にしたとき、元の状態に復帰することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０１(2)	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	ＲＵ－７１５Ｂ	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．動作確認 ＦＣ／Ｍモード	β（γ）線のダストモニタサンプリングユニットのＦＣ／Ｍスイッチボックスの切換スイッチを“交換”にしたとき、サンプリングユニットのろ紙交換中ランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータの動作モードが“ＯＦ１”の表示になることを確認する。 又、“測定”にしたとき、元の状態に復帰することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ02(1)	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	Ru－715G1	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認 ＦＣ／Ｍモード	検出器のろ紙交換中／測定中／ＴＥＳＴ切換スイッチをろ紙交換中にしたとき検出器のろ紙交換中ランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータのオペレートランプが消灯することを確認する。又測定中にした時、元の状態に復帰することを確認する。	正常に動作すること	
ＴＥＳＴモード	検出器のろ紙交換中／測定中／ＴＥＳＴ切換スイッチをＴＥＳＴにしたとき検出器のＴＥＳＴランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータのオペレートランプが消灯することを確認する。又測定中にした時元の状態に復帰することも確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ02(2)	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	Ru－715C	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認 FC／Mモード	検出器のろ紙交換中／測定中／TEST切換スイッチをろ紙交換中にしたとき検出器のろ紙交換中ランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータの動作モードが“OF1”の表示になることを確認する。又測定中にした時、元の状態に復帰することを確認する。	正常に動作すること	
TESTモード	検出器のろ紙交換中／測定中／TEST切換スイッチをTESTにしたとき検出器のTESTランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータの動作モードが“OF1”の表示になることを確認する。又測定中にした時元の状態に復帰することも確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ03	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	Ru－715G2	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	CPF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	サンプリングユニットのFC／Mスイッチをろ紙交換にしたとき、ろ紙交換ランプが点滅し、その測定系に該当するデジタルレートメータのオペレートランプが消灯することを確認する。又測定中にしたとき元の状態に復帰することも確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ04(1)	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	RU－716	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	下記の表の如く動作することを確認する。		
3．警報動作	又、通常に復帰したときに動作が正常となり、リセットスイッチを押すことにより警報がリセットされることを確認する。		

項　　目	操　　作	動　　作
PIA ERROR	サンプリングユニットにて圧力異常とする。	(1)サンプリングユニットの圧力異常ランプ点滅 (2) RU－716のPIA ERRORランプ点滅及びブザー吹鳴
	ポンプユニットにて圧力異常とする。	(1)ポンプユニットの圧力異常ランプ点滅 (2) RU－716のPIA ERRORランプ点滅及びブザー吹鳴
ろ紙交換中	サンプリングユニットSU1,SU2 の各FC／Mスイッチを“測定”から“交換”にする。	(1)各サンプリングユニットの入口電磁弁‘閉’。パージ電磁弁‘開’ (2)各サンプリングユニットの‘パージ中’、‘ろ紙交換中’ランプ点滅

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０４(1)	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

項　　目	操　　作	動　　作
	注）SU2 を実施する時はモジュール前面の“AUTO・MANUAL”スイッチをMANUALにする。	(3)ＲＵ－７１６の各 PURGEランプ点滅 (4)該当するデジタルレートメータのオペレートランプ消灯。
ＰＵＲＧＥ （OPEN, CLOSE）	ＲＵ－７１６の各 PURGEスイッチをＯＰＥＮにする。注）同　上	同　上
	上記、ろ紙交換中、PURGE操作時に圧力を変動させる。	圧力異常が出ないこと。
ＲＥＳＥＴ	圧力異常動作中 BUZ.RESET スイッチを押す。	ＲＵ－７１６のブザーがリセットされること。又、圧力異常解除にて自動リセットされること。
	圧力異常動作中 LAMP.RESETスイッチを押す。	ＲＵ－７１６のランプ押している間リセットされること。又、圧力異常解除後にリセットできること。

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ04(2)	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	RU－720F･H･G	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	下記の表の如く動作することを確認する。		
3．警報動作	又、通常に復帰したときに動作が正常となり、リセットスイッチを押すことにより警報がリセットされることを確認する。		

項　　目	操　　作	動　　作
PIA ERROR	サンプリングユニットにて圧力異常とする。	(1)サンプリングユニットの圧力異常ランプ点滅 (2)モジュールの該当するPIA ERRORランプ点滅及びブザー吹鳴
ろ紙交換中	サンプリングユニットの各FC／Mスイッチを“測定”から“交換”にする。	(1)サンプリングユニットの入口電磁弁‘閉’。パージ電磁弁‘開’ (2)サンプリングユニットの‘パージ中’、‘ろ紙交換中’ランプ点滅 (3)モジュールの該当するPURGE ランプ点滅 (4)デジタルレートメータの動作モードが“OF1”とFを表示。

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０４(2)	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

項　　目	操　　作	動　　作
ＰＵＲＧＥ (OPEN, CLOSE)	モジュールの各 PURGE スイッチをＯＰＥＮにする。	同　上
	上記、ろ紙交換中、PURGE 操作時に圧力を変動させる。	圧力異常が出ないこと。
ＰＵＭＰ (REMOTE, LOCAL)	サンプリングユニットのポンプの制御スイッチにより“現場”、“遠隔”に選択する。	(1)“現場”の時、モジュールのＬＯＣＡＬランプ点灯。 (2)“遠隔”の時、モジュールのＲＥＭＯＴＥランプ点灯。
ＰＵＭＰ (A, B 及びRUN STOP)	サンプリングユニットのポンプ制御スイッチを“遠隔”に選択し、ポンプのＡ，Ｂを選択し、ＲＵＮ押し釦スイッチを押す。	(1)モジュールのREMOTEランプ点灯 (2)モジュールのＲＵＮスイッチを押すことにより、ポンプＡ，Ｂの該当ランプ点灯。 (3)該当ポンプ駆動
	サンプリングユニットのポンプ制御スイッチを“現場”に選択したとき	サンプリングユニットにてポンプの駆動が行なえ、モジュールよりは操作できないこと。

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ04(3)	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	RU－720E・J	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	下記の表の如く動作することを確認する。		
3．警報動作	又、通常に復帰したときに動作が正常となり、リセットスイッチを押すことにより警報がリセットされることを確認する。		

項　　目	操　　作	動　　作
PIA ERROR	サンプリングユニットにて圧力異常とする。	(1)サンプリングユニットの圧力異常ランプ点滅 (2)モジュールの該当するPIA ERRORランプ点滅及びブザー吹鳴
ろ紙交換中	サンプリングユニットの各FC／Mスイッチを“測定”から“交換”にする。	(1)サンプリングユニットの入口電磁弁‘閉’。パージ電磁弁‘開’ (2)サンプリングユニットの‘パージ中’、‘ろ紙交換中’ランプ点滅 (3)モジュールの該当するPURGE ランプ点滅 (4)デジタルレートメータの動作モードが“OF1”とFを表示。

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０４(3)	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

項　　目	操　　作	動　　作
ＰＵＲＧＥ (OPEN, CLOSE)	モジュールの各 PURGE スイッチをＯＰＥＮにする。	同　上
	上記、ろ紙交換中、PURGE 操作時に圧力を変動させる。	圧力異常が出ないこと。

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ04(4)	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	RU－720B ES－118	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	下記の表の如く動作することを確認する。		
3．警報動作	又、通常に復帰したときに動作が正常となり、リセットスイッチを押すことにより警報がリセットされることを確認する。		

項　　目	操　　作	動　　作
PIA ERROR	サンプリングユニットにて圧力異常とする。	(1)サンプリングユニットの圧力異常ランプ点滅 (2)RU－720BのPIA ERRORランプ点滅及びブザー吹鳴
ろ紙交換中	サンプリングユニットのFC／Mスイッチを“測定”から“交換”にする。	(1)サンプリングユニットの入口電磁弁‘閉’。パージ電磁弁‘開’ (2)サンプリングユニットの‘パージ中’、‘ろ紙交換中’ランプ点滅 (3)RU－720BのPURGE ランプ点滅 (4)デジタルレートメータの動作モードが“OF1”とFを表示。

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０４(4)	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

項　　目	操　　作	動　　作
ＰＵＲＧＥ (OPEN, CLOSE)	ＲＵ－７２０Ｂの PURGE スイッチをＯＰＥＮにする。	同　上
	上記、ろ紙交換中、PURGE 操作時に圧力を変動させる。	圧力異常が出ないこと。
ＰＵＭＰ (REMOTE, LOCAL)	サンプリングユニットのポンプの制御スイッチにより“現場”、“遠隔”に選択する。	(1)“現場”の時、 RU-720B のＬＯＣＡＬランプ点灯。 (2)“遠隔”の時、 RU-720B のＲＥＭＯＴＥランプ点灯。
ＰＵＭＰ (A, B 及びRUN STOP)	サンプリングユニットのポンプ制御スイッチを“遠隔”に選択し、ポンプのＡ，Ｂを選択し、ＲＵＮ押し釦スイッチを押す。	(1)ＲＵ－７２０ＢのREMOTEランプ点灯 (2)ＲＵ－７２０ＢのＲＵＮスイッチを押すことにより、ポンプＡ，Ｂの該当ランプ点灯。 (3)該当ポンプ駆動
	サンプリングユニットのポンプ制御スイッチを“現場”に選択したとき	サンプリングユニットにてポンプの駆動が行なえ、ＲＵ－７２０Ｂよりは操作できないこと。

点検整備技術要領書

整理番号	14KAZ04(5)	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	制御リレーモジュール	型　名	RU－720A	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	下記の表の如く動作することを確認する。		
3．警報動作	又、通常に復帰したときに動作が正常となり、リセットスイッチを押すことにより警報がリセットされることを確認する。		

項　　目	操　　作	動　　作
PIA ERROR	サンプリングユニットにて圧力異常とする。	(1)サンプリングユニットの圧力異常ランプ点滅 (2)RU－720APIA ERRORランプ点滅及びブザー吹鳴
ろ紙交換中	サンプリングユニットの各FC／Mスイッチを“測定”から“交換”にする。	(1)サンプリングユニットの入口電磁弁‘閉’。パージ電磁弁‘開’ (2)サンプリングユニットの‘パージ中’、‘ろ紙交換中’ランプ点滅 (3)RU－720A の PURGEランプ点滅 (4)デジタルレートメータのオペレートランプ消灯。
PURGE (OPEN, CLOSE)	RU－720A の PURGEスイッチをOPENにする。	同　上

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＡＺ０４(5)	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

項　　目	操　　作	動　　作
	上記、ろ紙交換中、PURGE操作時に圧力を変動させる。	圧力異常が出ないこと。
ＰＵＭＰ（REMOTE, LOCAL）	サンプリングユニットのポンプの制御スイッチにより“現場”、“遠隔”に選択する。	(1)“現場”の時、RU-720AのＬＯＣＡＬランプ点灯。 (2)“遠隔”の時、RU-720AのＲＥＭＯＴＥランプ点灯。
ＰＵＭＰ（A, B 及びRUN STOP）	サンプリングユニットのポンプ制御スイッチを“遠隔”に選択し、ポンプのA，Ｂを選択し、ＲＵＮ押し釦スイッチを押す。	(1)ＲＵ－７２０AのREMOTEランプ点灯 (2)ＲＵ－７２０AのＲＵＮスイッチを押すことにより、ポンプA，Ｂの該当ランプ点灯。 (3)該当ポンプ駆動
	サンプリングユニットのポンプ制御スイッチを“現場”に選択したとき	サンプリングユニットにてポンプの駆動が行なえ、ＲＵ－７２０Ａよりは操作できないこと。

点検整備技術要領書

整理番号	14KAB01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルポート	型　名	D－592	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	再処理工場、CPF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBB01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	SB（現場警報器）	型　名	RZ152A(ｴﾘｱ用) RZ152B(ﾀﾞｽﾄ用)	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃および部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	実際に警報を吹鳴させた時、警報音が発生し、ランプが動作することを確認する。 尚、警報音は最大に設定されていること。		
3．絶縁抵抗値の測定	ＡＣラインと筐体間の絶縁抵抗値を 500(V) メガーにて測定する。	100(MΩ) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBB02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	SB（現場警報器）	型　名	RZ165	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃および部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	実際に警報を吹鳴させた時、警報音が発生し、ランプが動作することを確認する。 尚、警報音は最大に設定されていること。		
3．絶縁抵抗値の測定	ＡＣラインと筐体間の絶縁抵抗値を 500(V) メガーにて測定する。	100(MΩ) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＢ０３	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	ＳＢ（現場警報器）	型　名	NM0011510/RU939	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃および部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．動作確認	実際に警報を吹鳴させた時、警報音が発生し、ランプが動作することを確認する。		
３．絶縁抵抗値の測定	ＡＣラインと筐体間の絶縁抵抗値を 500 (V) メガーにて測定する。	100(MΩ) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＪ０１	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	流量積算計	型　名	M-694-P-D-2B	メーカ名	東京計装
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．直線性の確認	指示メータを0,20,40,60,80,100(ℓ/min)の位置にした時のアナログ出力、デジタル出力をデジタルボルトメータ及びカウンタにて測定する。	直線性 ＦＳ±2(%)以内	
３．流量積算値の確認	排気ポンプを運転し、流量を70(Nℓ/min)に設定し 120分吸排気したときの積算値を測定する。	ＦＳ（12.0㎥） ±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＪ０２	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	マスフローメータ	型　名	ＴＦ-3121／ＴＦ-5123 ＴＦ-3121／ＴＦ-5122	メーカ名	東京計装
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

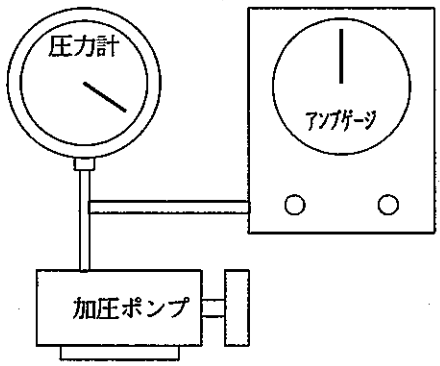
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
２．出力電圧（電流）の直線性	変換器の背面パネルの端子台の１番(+)、２番(-)間にデジタルボルトメータ（直流電流計）を接続した状態でサンプリングユニット内の流量調整バルブにて、流量を０～ 100ℓ/minと変化させた時の出力電圧（電流）を測定する。	FSの±2(%)以内	
３．チェック動作の確認	上記の接続状態で変換器の側面パネルをはずし内部のチェック用スイッチＳ１をＯＮにした時の前面パネルの指示値と出力電圧（電流）を測定する。	(TF-3121／TF-5123) 50.0±2(ℓ/min) 以内 2.5±0.1(V)　以内 (TF-3121／TF-5122) 50.0±2(ℓ/min) 以内 12.0±0.32(mA)　以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＫ０１	１／２

改訂　平成８年３月

機器名	排気モニタサンプリングユニット	型　名	１４ＫＢＫ０１	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場、ＣＰＦ		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．様態の点検	装置内外部の様態を点検する。	異常のないこと	
３．圧力計の校正 ３.１ 指示精度	 上記の接続にてサンプリングを停止し、圧力計校正用の盲プラグを外し±１kg／㎠のアンプゲージと加圧ポンプを接続する。加圧ポンプを負圧側に操作しアンプゲージの指示値が以下の値になったときの圧力計の指示値を読み取る。 ｱﾝﾌﾟｹﾞｰｼﾞ（kg／㎠）　圧力計(cmHg) 0.000 …… 0.0 -0.272 …… 20.0 -0.544 …… 40.0 -0.816 …… 60.0 -0.951 …… 70.0	±2.5(%)Ｆ・Ｓ以内	
３.２ 警報設定精度	３.１項の指示精度試験時に圧力低または圧力高設定値になったときに圧力計の警報用接点出力が正常に作動することをテスターにより確認する。	±2.5(%)Ｆ・Ｓ以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＫ０１	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．流量の校正	排気サンプリングユニットの各パージラインにガスメータを接続する。尚校正は各系統毎に行うこと。 パージモードにてサンプリングを行い各系統ごとの流量計の流量を 60(ℓ/min) に設定し、ガスメータにて３分間積算流量を測定して流量率を求める。 同様に 80(ℓ/min) に設定したときの流量計も求める。	異常のないこと	
５．漏洩の確認	排気モニタサンプリングユニットの吸気側バルブを閉にしてサンプリングしたとき流量計の指示が０となり、圧力計の負圧指示が上昇することを確認する。尚、負圧計指示は40cmHg以上の負圧にはしないこと。	漏洩が無いこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBL01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ポンプユニット	型　名	RZ116	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	Pu－3		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていこること 2）部品の破損ないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	ポンプの起動、停止、切換え動作及び流量の可変動作ができることを確認する。	正常に動作すること	
3．負圧警報動作	負圧警報を出し、警報動作を確認する。	警報が出ること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBM01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	β線サンプリングユニット	型　名	RM329	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場、CPF		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．様態の点検	装置内外部の様態を点検する。	異常のないこと	
3．漏洩の確認	各系統のβ線サンプリングユニット吸引口をふさいで吸引したとき、漏洩が無いことを流量計にて確認する。	漏洩が無いこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBN01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	α線ダストサンプラ	型　名	RD622B	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．様態の点検	装置内外部の様態を点検する。	異常のないこと	
3．流量の校正	α線ダストサンプラ出口配管にガスメータを接続する。尚校正は一系統ごとに行うこと。 各系統ごとの流量計、流量を60(ℓ/min)に設定し、ガスメータにて3分間積算流量を測定して流量率を求める。 同様に 80(ℓ/min) に設定したときの流量計も求める。		
4．流量制御の確認	濾紙ホルダーに濾紙を1枚装着し、ダイアフラム式定流量弁を調整して、流量指示を 60(ℓ/min) に設定する。次にボールバルブを一旦閉とし、濾紙ホルダーの濾紙を2枚にする。この状態でボールバルブを開としたとき、流量計の指示が 60(ℓ/min) に保たれていることを確認する。	異常のないこと	
5．漏洩の確認	各系統のα線ダストサンプラの吸引口をふさいで吸引したとき、漏洩が無いことを流量計にて確認する。	漏洩が無いこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14KB001	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ドライポンプ	型　名	KRA10, KRH10, KRS-5, KRS6, KRA6, KRA8, KRH-8	メーカ名	オリオン
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．ベルトの点検※	モータとポンプの連結Vベルトのたるみ傷の有無、スリップの有無等を点検する。	異常のないこと	※KRH-10, KRA-10のみ
3．ポンプの音熱の異常	ドライポンプを始動させ、異常や異常な発熱がないかを点検する。	異常のないこと	
4．動作確認 4.1 流量可変範囲	ドライポンプを始動させ、バルブを操作し流量が任意に設定可能なことを点検する。	任意設定が可能なこと	
4.2 警報接点動作	負圧警報の低レベルを10(cmHg)高レベルを30(cmHg)に設定し、負圧を変化させた時ドライポンプが停止しブザー及びランプで警報を発することを確認する。	動作に異常のないこと	
5．絶縁抵抗測定	ＡＣラインと筐体間の絶縁抵抗値を 500 (V) メガーにて測定する。	100 (MΩ) 以上	
6．消費電流の測定	ドライポンプを始動させ、負圧を20 (cmHG) 又は流量を70(Nℓ/min) に設定したときの消費電流をＡＣ入力側でクリップオン電流計を用いて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＯ０２	1／1

改訂　平成８年３月

機器名	吸引機	型　名	――――	メーカ名	――――
検査名	回路試験	施設名	Ｐｕ燃施設		

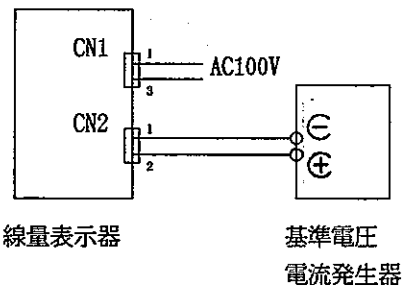
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	吸引機を始動させ、バルブを操作し流量が任意に設定可能なことを点検する。また、異音や異常な発熱がないかを点検する。	40～250（Nℓ/min）以上 任意に設定できること 異常のないこと	
3．絶縁抵抗測定	ＡＣラインと筐体間の絶縁抵抗値を 500 (V) メガーにて測定する。	100（MΩ）以上	
4．消費電流の測定	吸引機を始動させ、流量を70(Nℓ/min)に設定した時の消費電流をＡＣ入力側でクリップオン電流計を用いて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号	14KBP01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	線量表示器	型　名	RZ350	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	Pu－3施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと		
2．電源電圧の確認	現場において、信号入力コネクタ（CN2）を外し、内部のトグルスイッチ（TSW1）をONにした状態で、各電源パックの端子台にデジルボルトメータを接続し出力電圧を測定する。 15V（PW1　15V⊕, ⊖ 端子） 5V（PW2　5V⊕, ⊖ 端子）	15V 15±0.5(V)以内 5V 5±0.5(V)以内	
3．入出力特性の確認	下記の接続で、基準電圧電流発生器より4, 8, 12, 16, 20(mA)と入力した時の表示器の指示値を測定する。  線量表示器　　基準電圧 電流発生器	±0.12(dec) 以内	
4．表示動作の確認 4.1 オーバー入力時	上記の接続で基準電圧電流発生器の出力を21～23(mA)とした時、特殊文字の表示をすること。	「ココ、ココ」と正常に動作すること	
4.2 アンダー入力時	3～1(mA)とした時、及び1(mA)以下にした時、特殊文字の表示をすること。	「ココ、ココ」と正常に動作すること	
5．絶縁抵抗の測定	ＡＣ 100(V) ＬＩＮＥと筐体間の絶縁抵抗を500(V)メガーにて測定する。	100(MΩ) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＱ０１	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	OMライン	型　名	ＲＺ１３９	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部（現場ターミナルＢＯＸ、放管室中継盤）の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
２．導通試験	現場ターミナルＢＯＸと放管室中継盤の間で各端子間の導通を測定する。	異常のないこと	
３．絶縁抵抗の測定	上記同様でＤＣ500(V)を印加し絶縁抵抗を測定する。	100(MΩ)以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBR01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	負圧警報表示盤	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．動作確認	各警報が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBR02	1／3

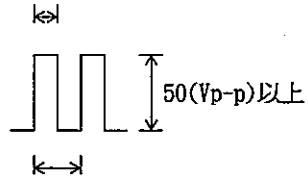
改訂　平成8年3月

機器名	警報補助盤	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	※点検前に下記の準備を実施のこと。 1.KE BOX TB8-39～48 （EVホーン） TB9-47～54 TB10-35～36 （サイレン） 端子台の現場側を外し、絶縁すること。 2.音声発生／リレーユニット コネクタＰ２を抜く。（プロセスランプ） 3.記録計の下限警報レベルをOFFにする。 4.電源の供給はHP22,NFB11(30A)及び警報補助盤内のNFBによって行われる。 5.(CB)G220HPデスクの非常退避警報作動スイッチ部のランプが点灯する為「点検中」の表示をすること。
2．低圧電源部の確認			
2.1 低圧電源部の確認	入力電圧100(V)に於いて、それぞれの電源出力端子にデジタルボルトメータを用いて出力電圧を測定する。（通常状態にて） 出力電圧　測定点　ｹｰﾌﾞﾙ行先 60V　PS1(POS)　EVB1-P3A (COM)　-P3B 24V　PS2(POS)　EVB1-P3K (COM)　-P3L	60(V)±5(%)以内 24(V)±5(%)以内	
2.2 リップルノイズの測定	(mVp-p) 以下 上記の状態でそれぞれのリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。		
3．記録計部の確認			
3.1 入出力特性	入力コネクタＪ４の（A．E）ＣＨ１，（B．F）ＣＨ２，（C．H）ＣＨ３，（D．J）ＣＨ４，（L．S）ＣＨ５，（M．T）ＣＨ６，（N．U）ＣＨ７，（P．V）ＣＨ８，（W．a）ＣＨ９の任意の端子間に基準電源電圧発生器を接続し、1，2，3，4，5(V)と入力した時のデジタル表示及び記録計の指示値を測定する。	デジタル表示 ±0.01(V) 以内 記録計指示 ±　(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＫＢＲ０２	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2 動　作	また打点切換動作、チャート紙送り動作が正常に行われることを確認する。		
	下限警報動作の確認、(1)の接続で入力電圧を徐々に下げた時に「下限」表示ランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。その時の入力電圧も測定する。	設定レベル 1.2(V)±0.1(V)	
4．サイレン	入力コネクタＪ２、出力コネクタＪ４での確認が困難な為、下記の方法で行う。 ＫＥ　ＢＯＸ内端子台の各測定点で抵抗値をデジタルマルチメータで測定する。 出力端子　設置場所　測定点 Ｊ４　KE BOX （a，b）　予備　TB10(35,36) （c，d）　UO_3　TB9 (47,48) （e，f）　ＨＡＷＳ　TB9 (49,50) （g，h）　LW_2　TB9 (51,52) （j，k）　ポンプング　TB9 (53,54)		
5．エバケーション	４項と同様に確認が困難な為、ＫＥ ＢＯＸ内端子台の各測定点で抵抗値をデジタルマルチメータで測定する。	約0.9msec  約1.6msec 約600(Hz)	

点検整備技術要領書

整理番号	14KBR02	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	出力端子 J4 / 短絡箇所 KE BOX / 観測点 KE BOX / 設置場所 （A，B） TB8(51,52) TB8(39,40) MP （C，D） TB8(51,52) TB8(41,42) MP （E，F） TB8(51,53) TB8(43,44) AAF （G，H） TB8(51,54) TB8(45,46) CB （J，K） 上記のいずれか TB8(47,48) CB		
6．モニタ機能動作の確認			
6.1 ヒューズモニタ	上記の状態で 60(V)電源をＯＦＦにした時 24(V)電源によって自動的に動作が切換ることを確認する。	正常に動作すること	
	補助盤内のヒューズ（F_1 ～F_{16}）のいずれかに断線ヒューズを挿入した時、「ヒューズ断」のランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。	正常に動作すること	
6.2 電源モニタ	60(V) 電源、 24(V)電源のいずれかをＯＦＦにした時に対応するランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。	正常に動作すること	
6.3 ランプテスト	ランプテストボタンを押した時にランプが点灯すること。	正常に動作すること	最後に点検前の状態に復帰のこと。

点検整備技術要領書

整理番号	14KBR03	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	リレー盤	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．動作確認	正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＰＡＡ０１	１／１

改訂　平成８年３月

機器名	記録計	型　名	ＥＲ１８０シリーズ	メーカ名	横河北辰電気
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃注油	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
	ＢＭ出力ギヤ、伝達ギヤ、大及び小プーリ、指示部、主軸打点機構に注油する。	異常のないこと	
２．記録機構			
１）インキング部	ペン先摩耗がなく、記録状態に異常がないこと。	異常のないこと	
２）指示部	プーリ、くり糸、網帯、シャフト部に摩耗が無いこと。	異常のないこと	
３）切換スイッチ	汚れ、接点に摩耗が無いこと。	異常のないこと	
４）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損がないこと及びスリップギヤに摩耗が無く、ＢＭの回転に異常がないこと。	異常のないこと	
５）スライド部	スライド抵抗、ブラシ部の摩耗がないこと。	異常のないこと	
３．記録紙送り機構			
１）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤ等の摩耗がないこと。また、ＳＭの回転に異常がないこと。	異常のないこと	
２）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと及びスリップギヤに摩耗がないこと。	異常のないこと	
４．指示試験	記録計裏面の入力端子にＶ／Ｉ発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点（％）　入力電圧(mV) 0　0 25　2.5 50　5.0 75　7.5 100　10.0	±0.5(%)Ｆ・Ｓ以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14PAB01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ハイブリッド記録計	型　名	3081,4081,RD2400	メーカ名	横河電機
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）リボンが交換されていること	異常のないこと	
	各機構部（プリンタキャリジ部、チャートドライブ部）のギヤ及び軸受けに注油をおこなう。	異常のないこと	
2．各機能動作の確認	下記の機能動作に異常のないことを確認する。 1）セットデータリスト印字 2）測定値デジタル印字 3）記録紙送り速度 4）メモリのデータ保護 5）プログラム動作異常の表示 6）電池電圧低下の表示 7）記録紙終了の表示	各動作に異常のないこと	
3．記録紙送り機構	ＣＨＡＲＴ　ＦＥＥＤ及びＳＴＡＲＴ／ＳＴＯＰボタン操作により記録紙送り機構の動作が正常であること。	異常のないこと	
4．チャンネル切換機構	チャンネル切り換え動作が正常であること。	異常のないこと	
5．指示試験	レンジを“０２”±２（Ｖ）とし記録計裏面の入力端子にＶ／Ｉ発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点(%)　入力電圧(mV) 0　0.00 25　0.25 50　0.50 75　0.75 100　1.00	±0.1(%)Ｆ・Ｓ以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14PAB02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ハイブリッド記録計	型　名	μR180T	メーカ名	横河電機
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）リボンが交換されていること	異常のないこと	
	各機構部（プリンタキャリジ部、チャートドライブ部）のギヤ及び軸受けに注油をおこなう。	異常のないこと	
2．各機能動作の確認	下記の機能動作に異常のないことを確認する。 1）セットデータリスト印字 2）ディスプレイ表示切換 3）メモリーのデータ保護 4）パラメータ設定 5）記録速度 6）電池電圧低下の表示	各動作に異常のないこと	
3．記録紙送り機構	CHART　FEED及びSTART／STOPボタン操作により記録紙送り機構の動作が正常であること。	異常のないこと	
4．チャンネル切換機構	チャンネル切り換え動作が正常であること。	異常のないこと	
5．指示試験	レンジを“02”±2（V）とし記録計裏面の入力端子にV／I発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点(%)　入力電圧(mV) 0　0.0 25　2.5 50　5.0 75　7.5 100　10.0	±0.1(%)F・S以内	

5. 点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11AAA01

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（CB, MP, AAF施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　）γ－ SER. No.＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.24 (dec)	(cpm)	(cpm)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	プロセスコントロールパネル　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γー SER. No. ————

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			OP (1)			OP （　）	OP （　）	
			RANGE (1E+5)			RANGE（×）	RANGE（×）	
			警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値 450(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
8．指示値の測定			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA02

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（E, Z, UO_3, C, IF施設）　　1／2

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　）γ－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.24 (dec)	(cpm)	(cpm)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	副受信盤　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γ－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			副受信盤			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
			OP (1)			OP （　）	OP （　）	
DRMモジュール			RANGE (1E+5)			RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
			警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値 450(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン (無)			有・無（　）	有・無（　）	
8．指示値の測定								
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA03

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（2ASP-ST, 2HS施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　）γ－ SER. No.＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.24 (dec)	(cpm)	(cpm)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	副受信盤　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	HPデスク　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γ－ SER. No. ————

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			副受信盤			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			HPデスク			良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7. 測定モードの確認								
DRMモジュール			OP	(1)		OP　（　）	OP　（　）	
			RANGE	(1E+4)		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
			警報レベル	(cpm)		(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値	450(V)		(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン	(無)		有・無（　）	有・無（　）	
8. 指示値の測定								
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA04

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ST, DN, HAW, Pu-con施設）　　

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　）γ－ SER. No.＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.24 (dec)	(cpm)	(cpm)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γ－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	T	DRMモジュール			良・否（　）	良・否（　）	
		A	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
		G	警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			OP		(1)	OP　（　）	OP　（　）	
			RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
			OPランプ		(点灯)	良・否（　）	良・否（　）	
			警報レベル		(cpm)	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値		470(V)	(V)	(V)	
信号変換器			ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー			スイッチ		(AUTO)	良・否（　）	良・否（　）	
CRT			表示の確認			良・否（　）	良・否（　）	
8．指示値の測定			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA05

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ASP，ASP-ST，Kr施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　）γ－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	1E+3(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+5(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	5E+6(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　100(cpm)以下	（cpm）	（cpm）	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	（cpm）	（cpm）	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.3(dec)以内	（cpm）	（cpm）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+4(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+6(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 ピンボード使用	RMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
通常動作 ピンボード使用	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
通常動作 ピンボード使用	HPデスク　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
通常動作 ピンボード使用	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
通常動作 ピンボード使用	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γ－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	RMモジュール			良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			HPデスク			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール			良・否（　）	良・否（　）	
	リセット動作		異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
	RMモジュール		RANGE			RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
			警報レベル　（cpm）			（cpm）	（cpm）	
	高圧電源モジュール		高圧設定値　470(V)			(V)	(V)	
	信号変換器		ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
8．指示値の測定			記録計の指示値			（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11AAA06

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（WS施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　）γ－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.3(dec)以内	(cpm)	(cpm)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 ピンボード使用	RMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報論理回路モジュール　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γ－ SER. No. ————

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	RMモジュール			良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7. 測定モードの確認								
RMモジュール			RANGE			RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
			警報レベル　(cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値　470(V)			(V)	(V)	
信号変換器			ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
8. 指示値の測定								
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

改訂

管理番号	
整理番号	11AAA07

検査名（総合検査）　　設置場所（CPF施設）　　

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（CPF）γ－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目					基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃					異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認					記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度					DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
					記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
					6.3×10^{2} ～1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験					系のBG値　100(cpm)以下	（cpm）	（cpm）	
					計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	（cpm）	（cpm）	
5．内部線源指示値の確認					1.0E+3(cpm)±0.24（dec）	（cpm）	（cpm）	
6．警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			玄関ホールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール			良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（　　）	良・否（　　）	
			ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ			良・否（　　）	良・否（　　）	
			現場警報器					
			玄関ホールパネル					
		TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ		音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作					異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール					OP　(1)	OP　（　　）	OP　（　　）	
					RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
					OPランプ　（点灯）	良・否（　　）	良・否（　　）	
					警報レベル　（cpm）	（cpm）	（cpm）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（CPF）γ－ SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
高圧電源モジュール	高圧設定値　470(V)	(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン（無）	有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー	スイッチ　(AUTO)	良・否（　）	良・否（　）	
CRT	表示の確認	良・否（　）	良・否（　）	
8．指示値の測定	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA08

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－3施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－3）γ－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	線量表示器の指示値	(μSv/h)	(μSv/h)	
4．感度試験	系のBG値 1.7(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
	計数値 6.3E+1～1.9E+2(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
5．内部線源指示値の確認	1.7E+2(μSv/h) ±0.24 (dec) 以内	(μSv/h)	(μSv/h)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認	設定値 50(μSv/h) DRMの指示値（γ－　）	(μSv/h)	(μSv/h)	
	DRMの指示値（n－　）	(μSv/h)	(μSv/h)	
	動作	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－3）γ－ SER. No.＿＿＿＿＿＿

項目			基準			設定値	点検値	備考
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			リレーユニット		音	良・否（　）	良・否（　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			中央管理室	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			リレーユニット		音	良・否（　）	良・否（　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（　）	良・否（　）	
			中央管理室			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認			乗算係数					
DRMモジュール			0P　(1)			0P　（　）	0P　（　）	
			RANGE　(1E+2)			RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
			警報レベル（μSv/h）			（μSv/h）	（μSv/h）	
高圧電源モジュール			高圧設定値　470(V)			(V)	(V)	
リレーユニット			ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
CRT			表示　異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
8．指示値の測定			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA09

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（PWSF施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（PWSF）γ－ SER. No.＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値　5.5E+3～2.2E+4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．内部線源指示値の確認	1.0E+3(cpm)±0.24 (dec)以内	(cpm)	(cpm)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	コントロール室　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（　）γ－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			コントロール室			良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			OP (1)			OP（　）	OP（　）	
			RANGE (1E+4)			RANGE（×）	RANGE（×）	
			警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値 450(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
8．指示値の測定			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAA10

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（計測機器校正施設）

機器名	γ線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（校正室）γ－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（μSv/h）	（μSv/h）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値 6.3E+1～1.9E+2(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通動 高べ	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
常作 レル	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認	乗算計数　6.0×10^{-1}			
	OP　(1)	OP　（　　）	OP　（　　）	
DRMモジュール	RANGE　(1E+3)	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	警報レベル（μSv/h）	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値　470(V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン（無）	有・無（　　）	有・無（　　）	

点検整備記録書

機器名	γ線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（校正室）γ－ SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
7．指示値の測定	記録計の指示値	（μSv/h）	（μSv/h）	

管理番号	
整理番号	11AAB01

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（MP施設）

機器名	中性子線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（MP）n－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　10（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	グラフ添付 使用線源 （　　）
	感度	（mSv/h/cpm）	（mSv/h/cpm）	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	プロセスコントロールデスク　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	中性子線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（MP）n－ SER. No.＿＿＿＿

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
			プロセスコントロールデスク			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作						良・否（　）	良・否（　）	
6．測定モードの確認								
			０Ｐ　(1)			０Ｐ（　）	０Ｐ（　）	
			RANGE　(1E+4)			RANGE（×）	RANGE（×）	
			警報レベル　(cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール			高圧設定値　2500(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
7．指示値の測定			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAB02

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－con施設）　　1／2

機器名	中性子線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－con）n－ SER. No. ＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　　10（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	グラフ添付 使用線源 （　　）
	感度	（mSv/h/cpm）	（mSv/h/cpm）	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	プロセスコントロールパネル　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤　表示　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	中性子線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－con）n－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
6. 測定モードの確認								
			OP (1)			OP （ ）	OP （ ）	
			RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
			OPランプ （点灯）			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報レベル （cpm）			（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール			高圧設定値 2350(V)			(V)	(V)	
信号変換器			ピンボードピン（無）			有・無（ ）	有・無（ ）	
スキャナー			スイッチ （AUTO）			良・否（ ）	良・否（ ）	
CRT			異常がないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
7. 指示値の測定			記録計の指示値			（cpm）	（cpm）	

点検整備記録書

改訂

管理番号	
整理番号	11AAB03

検査名（総合検査）　　設置場所（CPF施設）　　

機器名	中性子線エリアモニタ	承認		年月日	H04. 08. 09
機器No.	TAG. No.（CPF） SER. No. ———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の確認	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	記録計	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　10（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	グラフ添付
	計数値	（cpm）	（cpm）	使用線源（241Am-Be 3.7E+10(Bq)atl(m))
	感度　1.6（cps/n･v）以上	（cps/n･v）	（cps/n･v）	ゲイン（64×200）
5．内部線源動作確認		（cpm）	（cpm）	
6．警報動作確認	高レベル通常動作			
	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報論理回路モジュール　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	グラフックパネル　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	玄関パネル　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	プロセスコントロールパネル　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TAGピンボード使用			
	DRMモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報論理回路モジュール　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	グラフックパネル	良・否（　　）	良・否（　　）	
	玄関パネル　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	プロセスコントロールパネル　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	中性子線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（CPF） SER. No. ―――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	現場警報器		良・否（　）	良・否（　）	
	TAGALARMピンボード使用				
	警報論理回路モジュール	音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認					
	OP	(1)	OP（　）	OP（　）	
	RANGE	(×1)	RANGE（×）	RANGE（×）	
DRMモジュール	OPランプ	(点灯)	良・否（　）	良・否（　）	
	警報レベル	(cpm)	(cpm)	(cpm)	
線形増幅器	COARSE GAIN				
	FINE GAIN		(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	2500(V)	(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン	(無)	有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー		(AUTO)	良・否（　）	良・否（　）	
CRT	表示の確認		良・否（　）	良・否（　）	
8．指示値の測定	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAB04

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－3施設）

機器名	中性子線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－3） SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（μSv/h）	（μSv/h）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	記録計	（cpm）	（cpm）	
	1E+5(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	記録計	（cpm）	（cpm）	
	1E+6(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	記録計	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	DRMの指示値　（γ－1）	（μSv/h）	（μSv/h）	
	DRMの指示値　（n－1）	（μSv/h）	（μSv/h）	
	線量表示器	（μSv/h）	（μSv/h）	
4．感度試験	系のBG値　10（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	グラフ添付 使用線源（241Am-Be 3.7E+10(Bq)）
	感度	(mSv/h/cpm)	(mSv/h/cpm)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	2E+4(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	2E+6(cpm) D R M	（cpm）	（cpm）	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認	設定値 50（μSv/h） DRMの指示値　（γ－1）	（μSv/h）	（μSv/h）	
	DRMの指示値　（n－1）	（μSv/h）	（μSv/h）	
	動作	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	中性子線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－3） SER. No. ――――

項目	基準			設定値	点検値	備考
6．警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	DRMスキャナー		音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	リレーユニット		音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
	中央管理室	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	リレーユニット TAGピンボードピン使用					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	DRMスキャナー		音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	リレーユニット		音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（　　）	良・否（　　）	
	中央管理室			良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器			良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作				良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認	乗算係数					
	OP	(1)		OP（　　）	OP（　　）	
DRMモジュール	RANGE			RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	警報レベル	(μSv/h)		(μSv/h)	(μSv/h)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	2500(V)		(V)	(V)	
リレーユニット	ピンボードピン	(無)		有・無（　　）	有・無（　　）	
CRT	表示の確認			良・否（　　）	良・否（　　）	
8．指示値の測定	記録計の指示値			(μSv/h)	(μSv/h)	

管理番号	
整理番号	11AAB05

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（計測機器校正施設）

機器名	中性子線エリアモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（校正室）n－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（μSv/h）	（μSv/h）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	系のBG値　10（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	グラフ添付 使用線源 （　　）
	感度	（mSv/h/cpm）	（mSv/h/cpm）	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール　ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器　ランプ　音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認	乗算係数	（　　）	（　　）	
DRMモジュール	0P　(1)	0P（　　）	0P（　　）	
	RANGE　(1E+3)	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	警報レベル（μSv/h）	（μSv/h）	（μSv/h）	

点検整備記録書

機器名	中性子線エリアモニタ	機器No.	TAG. No.（校正室）n－ SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
高圧電源モジュール	高圧設定値　2500(V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン　(無)	有・無（　）	有・無（　）	
7．指示値の測定	記録計の指示値	(μSv/h)	(μSv/h)	

管理番号	
整理番号	11AAC01

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（CPF施設）

機器名	アルファ線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（CPF）α－ SER. No.－－－－－－	調査		点検者名	

項目			基準			設定値	点検値	備考
1．点検清掃						良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認			記録計の指示値			（cpm）	（cpm）	
			サンプリング流量			（ℓ/min）	（ℓ/min）	
3．指示計と記録計の対応			DRMの指示値 1.00×10^{3}(cpm)±1(%)以内			（cpm）	（cpm）	
			記録計の指示値 1.0×10^{3}(cpm)±0.16(dec)以内			（cpm）	（cpm）	
4．計数効率測定			系のBG値　10(cpm)以下			（cpm）	（cpm）	使用線源 （^{241}Am 168(Bq)）
			計数値			（cpm）	（cpm）	
			効率　10(%)以上			(%)	(%)	
			分解能　400(KeV)以下			(KeV)	(KeV)	
			BASE LINE 値			(目盛)	(目盛)	
			WINDOW　値			(目盛)	(目盛)	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール			正常に動作すること			良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングヘッド						良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			玄関ホールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ピンボード使用	TAGのみ	DRMモジュール			良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（　　）	良・否（　　）	
			プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			玄関ホールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	アルファ線ダストモニタ	機器No.	TAG. No.（CPF）α－ SER. No.－－－－－－－－

項目	基準	設定値	点検値	備考
ピンボード使用				
TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ　音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作		良・否（　）	良・否（　）	
7. 測定モードの確認				
DRMモジュール	OP (1)	OP（　）	OP（　）	
	RANGE	RANGE（×）	RANGE（×）	
	OPランプ（点灯）	良・否（　）	良・否（　）	
	警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 -100(V)	(V)	(V)	
波高分析器	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
信号変換器	ピンボードピン (無)	有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー	スイッチ (AUTO)	良・否（　）	良・否（　）	
CRT	表示の確認	良・否（　）	良・否（　）	
サンプリングヘッド	FC／Mスイッチ（測定）	良・否（　）	良・否（　）	
8. ノイズレベルの測定	500(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
9. 指示値の測定	サンプリング流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAC02

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－2施設）

機器名	アルファ線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－2）P－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	系のBG値　10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源 (^{241}Am 168(Bq))
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
	分解能　400(KeV)以下	(KeV)	(KeV)	
	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングヘッド		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	アルファ線ダストモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－2）P－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			工程管理室グラフィックパネル	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			工程管理室アナウンシェータ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			Pu－2ロビーアナウンシェータ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			監視室アナウンシェータ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAGのみ	DRMモジュール			良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			工程管理室グラフィックパネル			良・否（　）	良・否（　）	
			工程管理室アナウンシェータ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器路			良・否（　）	良・否（　）	
			Pu－2ロビーアナウンシェータ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			監視室アナウンシェータ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			正常に動作すること			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			OP　(1)			OP（　）	OP（　）	
			RANGE　(×1)			RANGE（×）	RANGE（×）	
			OPランプ（点灯）			良・否（　）	良・否（　）	
			警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
波高分析器			BASE LINE　値			(目盛)	(目盛)	
			WINDOW　値			(目盛)	(目盛)	
信号変換器			ピンボードピン　(無)			有・無（　）	有・無（　）	
サンプリングヘッド			FC／Mスイッチ（測定）			良・否（　）	良・否（　）	
8．ノイズレベルの測定			500(mVp-p) 以下			(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	アルファ線ダストモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－2）P－ SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
9．指示値の測定	サンプリング流量 60(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11AAC03

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－3施設）

機器名	アルファ線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－3）Pu－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	系のBG値　10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源 (^{241}Am 168(Bq))
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
	分解能　400(KeV)以下	(KeV)	(KeV)	
	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール サンプリングヘッド	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	アルファ線ダストモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－3）Pu－ SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			DRMスキャナー		音	良・否（　）	良・否（　）	
			グラフィックパネルクラプ	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			中央管理室	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			DRMスキャナー		音	良・否（　）	良・否（　）	
			グラフィックパネル			良・否（　）	良・否（　）	
			中央管理室	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
		TTAALG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			DRMスキャナー		音	良・否（　）	良・否（　）	
			中央管理室			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作						良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認			乗算係数			×	×	
DRMモジュール			0P　(1)			0P（　）	0P（　）	
			RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
			警報レベル　(cpm)			(cpm)	(cpm)	
波高分析器			BASE LINE　値			(目盛)	(目盛)	
			WINDOW　値			(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール			高圧設定値　－100(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン　(無)			有・無（　）	有・無（　）	
サンプリングヘッド			FC／Mスイッチ（測定）			良・否（　）	良・否（　）	
CRT			表示の確認			良・否（　）	良・否（　）	
8．ノイズレベルの測定			500(mVp-p)以下			(mVp-p)	(mVp-p)	
9．指定値の測定			サンプリング流量			(ℓ/min)	(ℓ/min)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAC04

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（PWTF施設）

機器名	アルファ線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（PWTF）Pu－ SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	系のBG値　10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源 (^{241}Am 168(Bq))
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
	分解能　400(KeV)以下	(KeV)	(KeV)	
	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングヘッド		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	アルファ線ダストモニタ	機器No.	TAG. No.（PWTF）Pu－ SER. No. ＿＿＿＿＿＿

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			放射線監視装置	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			放射線監視装置			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作						良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			0P　(1)			0P（　）	0P（　）	
			RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
			警報レベル　(cpm)			(cpm)	(cpm)	
波高分析器			BASE LINE　値			(目盛)	(目盛)	
			WINDOW　値			(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール			高圧設定値　−100(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン　(無)			有・無（　）	有・無（　）	
サンプリングヘッド			FC／Mスイッチ（測定）			良・否（　）	良・否（　）	
CRT			表示の確認			良・否（　）	良・否（　）	
8．ノイズレベルの測定			500(mVp-p)以下			(mVp-p)	(mVp-p)	
9．指定値の測定			サンプリング流量			(ℓ/min)	(ℓ/min)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（CB, AAF施設）

機器名	β線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-1195） 8.53(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認						
	OP (1)			OP（ ）	OP（ ）	
	RANGE (1E+5)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)			有・無（ ）	有・無（ ）	
エアスニッファサンプリングユニット	FM/Mスイッチ (測定)			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（MP施設）

機 器 名	β線ダストモニタ	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-1195） 8.53(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効 率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感 度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認						
	OP (1)			OP（ ）	OP（ ）	
	RANGE (1E+5)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)			有・無（ ）	有・無（ ）	
エアスニッファサンプリングユニット	FM/Mスイッチ (測定)			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ＳＴ施設）

機器名	β線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭ±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	ＢＧ値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-819） 13.2(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭ±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認						
DRMモジュール	OP (1)			OP（ ）	OP（ ）	
	RANGE (1E+5)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
	OPランプ (点灯)			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン (無)			有・無（ ）	有・無（ ）	
スキャナー	スイッチ (AUTO)			良・否（ ）	良・否（ ）	
CRT	表示の確認			良・否（ ）	良・否（ ）	
エアスニッファ サンプリングユニット	FM/Mスイッチ (測定)			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（DN施設）

機器名	βダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-819） 13.2(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報理論回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール			良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報理論回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGALARMピンボード使用					
	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認	OP (1)			OP（ ）	OP（ ）	
	RANGE (×1)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	OPランプ (点灯)			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン (無)			有・無（ ）	有・無（ ）	
スキャナー	スイッチ (AUTO)			良・否（ ）	良・否（ ）	
CRT	表示の確認			良・否（ ）	良・否（ ）	
エアスニッファ サンプリングユニット	FM/Mスイッチ (測定)			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ＡＳＰ施設）

機器名	βダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	ＢＧ値　100（cpm）以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-819）13.2(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10（%）以上	(%)	(%)	
	感度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) R M	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	RMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HPデスク	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	RMモジュール			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HPデスク			良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGALARMピンボード使用			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認	RANGE （×1）			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	警報レベル （cpm）			（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン（無）			有・無（ ）	有・無（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（HAW施設）

機　器　名	β線ダストモニタ	承認		年 月 日	
機　器　No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設　定　値	点　検　値	備　　考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記　録　計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記　録　計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記　録　計	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-819）） 13.2(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効　率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感　度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	(MP)プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール			良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	(MP)プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGALARMピンボード使用					
	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認	OP (1)			OP （ ）	OP （ ）	
	RANGE (×1)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	OPランプ (点灯)			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン (無)			有・無（ ）	有・無（ ）	
スキャナー	スイッチ (AUTO)			良・否（ ）	良・否（ ）	
CRT	表示の確認			良・否（ ）	良・否（ ）	
エアスニッファ サンプリングユニット	FM/Mスイッチ (測定)			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（C施設）

機器名	β線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRM	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRM	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRM	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-819） 13.2(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRM	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRM	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRM	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認	OP (1)			OP（ ）	OP（ ）	
	RANGE (1E+5)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン（無）			有・無（ ）	有・無（ ）	
エアスニッファサンプリングユニット	FM/Mスイッチ（測定）			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（2ASP-ST施設）

機 器 名	β線ダストモニタ	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-1195） 8.53(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効 率　10 (%) 以上	(%)	(%)	
	感 度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	DRM±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HPデスク	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	副受信盤	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	HPデスク			良・否（ ）	良・否（ ）	
	副受信盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認						
	OP (1)			OP（ ）	OP（ ）	
	RANGE (1E+4)			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
DRMモジュール	警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)			(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン（無）			有・無（ ）	有・無（ ）	
エアスニッファ サンプリングユニット	FM/Mスイッチ（測定）			良・否（ ）	良・否（ ）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ＩＦ施設）

機　器　名	β線ダストモニタ	承認		年 月 日	
機　器　No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設　定　値	点　検　値	備　　考
1．点検清掃	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(l/min)	(l/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記　録　計	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記　録　計	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	記　録　計	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭ±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	ＢＧ値　100 (cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協-1195） 8.53(Bq)
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効　率　15 (%) 以上	(%)	(%)	
	感　度　1.11E-2 (Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	
5．関連動作の確認	正常に動作することFC/Mモード及び制御リレーモジュール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ｴｱｽﾆｯﾌｧｰｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) D R M	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭ±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β線ダストモニタ総合検査	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認	高レベル通常動作					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤	表　示	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TAGピンボード使用					
	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示盤			良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場警報器			良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作				良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認						
	OP　(1)			OP（　　）	OP（　　）	
	RANGE　(1E+4)			RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
DRMモジュール	警報レベル　(cpm)			(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 1350(V)			(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン（無）			有・無（　　）	有・無（　　）	
エアスニッファ サンプリングユニット	FM/Mスイッチ（測定）			良・否（　　）	良・否（　　）	
8．指示値の測定	サンプリング流量			(l/min)	(l/min)	
	記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

改訂

管理番号	
整理番号	11AAD05

検査名（総合検査）　　設置場所（CPF施設）　　

機器名	β（γ）線ダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（CPF）β－ SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目		基準			設定値	点検値	備考
1．点検清掃					良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認		記録計の指示値			（cpm）	（cpm）	
		サンプリング流量			（ℓ/min）	（ℓ/min）	
3．指示計と記録計の指示精度		DRMの指示値			（cpm）	（cpm）	
		記録計の指示値			（cpm）	（cpm）	
		6.3×10^{2} ～1.6×10^{3}(cpm)			良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験		BG値　100(cpm)以下			（cpm）	（cpm）	使用線源 （　　）
		計数値			（cpm）	（cpm）	
		効率　10(%)　以上			（%）	（%）	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール エアスニッファ サンプリングユニット		正常に動作すること			良・否（　　）	良・否（　　）	
					良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報動作確認							
通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
		警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
		現場警報器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ	ランプ	音			
		玄関ホールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
ピンボード使用	TAG	DRMモジュール			良・否（　　）	良・否（　　）	
		警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（　　）	良・否（　　）	
		現場警報器			良・否（　　）	良・否（　　）	
		ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ			良・否（　　）	良・否（　　）	
		玄関ホールパネル			良・否（　　）	良・否（　　）	
	TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ		音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	β（γ）線ダストモニタ	機器No.	TAG. No.（CPF）β－ SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
リセット動作	異常がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認				
DRMモジュール	OP (1)	OP（　）	OP（　）	
	RANGE	RANGE（×）	RANGE（×）	
	OPランプ（点灯）	良・否（　）	良・否（　）	
	警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 710(V)	(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン（無）	・無（　）	有・無（　）	
スキャナー エアスニッファ CRT	スイッチ (AUTO)	良・否（　）	良・否（　）	
	表示の確認 異常がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
サンプリングユニット	FC／Mスイッチ（測定）	良・否（　）	良・否（　）	
8．指定値の測定	サンプリング流量 60（ℓ/min）	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11AAE01

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（CB，MP施設）　　

機器名	プルトニウムダストモニタ	承認		年月日	
機器No	TAG. No.（　　）Pu－ SER. No.＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	系のBG値　10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源 (^{241}Am 168(Bq))
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
	分解能　400(KeV)以下	(KeV)	(KeV)	
	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングヘッド		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	プルトニウムダストモニタ	機器No.	TAG. No.（　）Pu－ SER. No.＿＿＿＿＿＿

項目		基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認							
通常動作 高レベル		DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
		警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
		警報表示盤	表示	音	良・否（　）	良・否（　）	
		プロセスコントロールパネルデスク	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
		現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
ピンボード使用 TAG		DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
		警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
		警報表示盤装置			良・否（　）	良・否（　）	
		プロセスコントロールパネルデスク			良・否（　）	良・否（　）	
		現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作					良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認							
DRMモジュール		0P (1)			0P（　）	0P（　）	
		RANGE			RANGE（×　）	RANGE（×　）	
		警報レベル (cpm)			(cpm)	(cpm)	
波高分析器		BASE LINE 値			(目盛)	(目盛)	
		WINDOW 値			(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール		高圧設定値 −100(V)			(V)	(V)	
警報変換器		ピンボードピン (無)			有・無（　）	有・無（　）	
サンプリングヘッド		FC／Mスイッチ（測定）			良・否（　）	良・否（　）	
8．ノイズレベルの測定		500(mVp-p)以下			(mVp-p)	(mVp-p)	
9．指定値の測定		サンプリング流量			(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAE02

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　設置場所（Pu－con施設）

機器名	プルトニウムダストモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－con）Pu－ SER. No. ＿＿＿＿＿＿	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	系のBG値　10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源 (^{241}Am 168(Bq))
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
	分解能　400(KeV)以下	(KeV)	(KeV)	
	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
5．関連動作の確認 FC／Mモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングヘッド		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRM指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	プルトニウムダストモニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－con）Pu－ SER. No. ＿＿＿＿＿＿＿＿

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤	表示	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAGのみ	DRMモジュール			良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（　）	良・否（　）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM						
			警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ		音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作						良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			OP　(1)			OP（　）	OP（　）	
			RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
			OPランプ　(点灯)			良・否（　）	良・否（　）	
			警報レベル　(cpm)			(cpm)	(cpm)	
波高分析器			BASE LINE　値			(目盛)	(目盛)	
			WINDOW　値			(目盛)	(目盛)	
信号変換器			ピンボードピン　(無)			有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー			スイッチ　(AUTO)			良・否（　）	良・否（　）	
CRT			表示の確認			良・否（　）	良・否（　）	
サンプリングヘッド			FC／Mスイッチ（測定）			良・否（　）	良・否（　）	
8．ノイズレベルの測定			500(mVp-p)以下			(mVp-p)	(mVp-p)	
9．指定値の測定			サンプリング流量			(ℓ/min)	(ℓ/min)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF01

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（主工場No.1）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（MP）No.1 SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量			
	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン（低）	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン（高）	(cpm)	(ℓ/min)	
	流量 α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 クリプトン	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度				
α ダ ス ト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
β ダ ス ト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.1 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
よう素(129)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
よう素(131)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
クリプトン(低)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
クリプトン(高)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.1 SER. No.————

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．感度試験	αダスト	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	βダスト	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(129)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10^{4}(Bq))
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(131)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I)
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	クリプトン(低)	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	
		校正定数 1.85E-3 (Bq/cm³/cpm) 以上	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM)
	クリプトン(高)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	
		校正定数	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM)
5．関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	α，β	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 ( )	良・否 ( )	
		カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
		計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 ( )	良・否 ( )	
		カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
		計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	クリプトン	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 ( )	良・否 ( )	
		記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	主排気筒総流量	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
		計算値	(×10² m³/min)	(×10² m³/min)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	排気モニタ	機 器 No.	TAG No.（MP）No.1 SER. No. ————

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュールデータ処理系確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ラインレシーバー値 ± 0.1(%) 以内　βダスト	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン（低）	(cpm)	(cpm)	
	サンプリング流量（クリプトン）	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	主排気筒総流量　カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計 算 値	(×10² ㎥/min)	(×10² ㎥/min)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
よう素(129)	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
よう素(131)	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
クリプトン（低）	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
クリプトン（高）	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP) No.1 SER. No. ――――

項目			基準				設定値	点検値	備考
警報動作確認									
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				βダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(131)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				クリプトン(低)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				クリプトン(高)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤		表示	音	良・否（　）	良・否（　）	
			プロセスコントロールデスク		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG		αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				βダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(131)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				クリプトン(低)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				クリプトン(高)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤				良・否（　）	良・否（　）	
			プロセスコントロールデスク				良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器				良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作							良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認			αダスト	0P(1)			0P（　）	0P（　）	
				RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
				警報レベル(cpm)			(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（MP）No.1 SER. No. ————

項目	基準		設定値	点検値	備考
DRMモジュール	βダスト	OP(1)	OP（　　）	OP（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	よう素(129)	OP(1)	OP（　　）	OP（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	よう素(131)	OP(1)	OP（　　）	OP（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	クリプトン（低）	OP(1)	OP（　　）	OP（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	クリプトン（高）	OP(1)	OP（　　）	OP（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
線形増幅器	よう素(129)	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	（目盛）	（目盛）	
	よう素(131)	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	（目盛）	（目盛）	
	クリプトン（高）	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	（目盛）	（目盛）	
波高分析器	よう素(129)	BASE LINE 値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW 値	（目盛）	（目盛）	
	よう素(131)	BASE LINE 値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW 値	（目盛）	（目盛）	
	クリプトン（高）	BASE LINE 値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW 値	（目盛）	（目盛）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.1 SER. No.————

項目	基準		設定値	点検値	備考
高圧電源モジュール	高圧設定値	αダスト850 (V)	(V)	(V)	
		βダスト710 (V)	(V)	(V)	
		よう素 700 (V)	(V)	(V)	
		クリプトン(低) 900 (V)	(V)	(V)	
		クリプトン(高) 800 (V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)		有・無( )	有・無( )	
サンプリングユニット	流量	α, β (ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		よう素 (ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		クリプトン(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	ＦＣ／Ｍスイッチ(測定)		良・否( )	良・否( )	
	ブロワー Ａ・Ｂ		( )	( )	
8．指示値の測定		αダスト	(cpm)	(cpm)	
		βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
		よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
		クリプトン(低)	(cpm)	(cpm)	
		クリプトン(高)	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11AAF02

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（主工場No.2）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（MP）No.2 SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン（低）	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン（高）	(cpm)	(ℓ/min)	
	流量 α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 クリプトン	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
αダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（MP）No.2 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
よう素(129)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(131)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
クリプトン（低）	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
クリプトン（高）	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.2 SER. No.————

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．感度試験	αダスト	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	βダスト	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(129)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10^{4}(Bq))
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(131)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I)
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	クリプトン(低)	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	
		校正定数 1.85E-3 (Bq/cm³/cpm) 以上	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM)
	クリプトン(高)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	
		校正定数	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM)
5．関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	α，β	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 ( )	良・否 ( )	
		カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
		計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 ( )	良・否 ( )	
		カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
		計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	クリプトン	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 ( )	良・否 ( )	
		記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュールデータ処理系確認	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（MP）No.2 SER. No. ————

項目	基準		設定値	点検値	備考
	ラインレシーバー値 ±0.1(%)以内	βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
		クリプトン（低）	(cpm)	(cpm)	
		クリプトン（高）	(cpm)	(cpm)	
		サンプリング流量（クリプトン）	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値				
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
よう素(129)	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
よう素(131)	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
クリプトン（低）	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
クリプトン（高）	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.2 SER. No. ――――

項目			基準				設定値	点検値	備考
警報動作確認									
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(131)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				クリプトン(低)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				クリプトン(高)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤		表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールデスク		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG		αダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(131)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				クリプトン(低)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				クリプトン(高)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤				良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールデスク				良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器				良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作							良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認			αダスト	OP(1)			OP（ ）	OP（ ）	
				RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル(cpm)			(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.2 SER. No.————

項目	基準		設定値	点検値	備考
DRMモジュール	βダスト	OP(1)	OP ( )	OP ( )	
		RANGE	RANGE (×)	RANGE (×)	
		警報レベル(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	OP(1)	OP ( )	OP ( )	
		RANGE	RANGE (×)	RANGE (×)	
		警報レベル(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	OP(1)	OP ( )	OP ( )	
		RANGE	RANGE (×)	RANGE (×)	
		警報レベル(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン(低)	OP(1)	OP ( )	OP ( )	
		RANGE	RANGE (×)	RANGE (×)	
		警報レベル(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン(高)	OP(1)	OP ( )	OP ( )	
		RANGE	RANGE (×)	RANGE (×)	
		警報レベル(cpm)	(cpm)	(cpm)	
線形増幅器	よう素(129)	MODE (POS)	( )	( )	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	(目盛)	(目盛)	
	よう素(131)	MODE (POS)	( )	( )	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	(目盛)	(目盛)	
	クリプトン(高)	MODE (POS)	( )	( )	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	(目盛)	(目盛)	
波高分析器	よう素(129)	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
		WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
	よう素(131)	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
		WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
	クリプトン(高)	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
		WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(MP)No.2 SER. No.———

項目	基準		設定値	点検値	備考
高圧電源モジュール	高圧設定値	αダスト850 (V)	(V)	(V)	
		βダスト710 (V)	(V)	(V)	
		よう素 700 (V)	(V)	(V)	
		クリプトン(低) 900 (V)	(V)	(V)	
		クリプトン(高) 800 (V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)		有・無( )	有・無( )	
サンプリングユニット	流量	α, β (ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		よう素 (ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		クリプトン(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		FC／Mスイッチ(測定)	良・否( )	良・否( )	
		ブロワー A・B	( )	( )	
8．指示値の測定		αダスト	(cpm)	(cpm)	
		βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
		よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
		クリプトン(低)	(cpm)	(cpm)	
		クリプトン(高)	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

改　訂

管理番号	
整理番号	11AAF03

検査名（総合検査）　　設置場所（CB，AAF施設）　　

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量			
	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	流量 α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
αダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(131)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	排気モニタ	機 器 No.	TAG. No.（　　） SER. No. ————

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト　計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト　計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131) 計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I　　)
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	α，β　0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素　0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
FC/Mモード及び制御 ﾘﾚｰﾓｼﾞｭｰﾙ動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
よう素(131)	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.———

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認			DRMにて±4(%)以内			良・否（　　）	良・否（　　）	
	通常動作	高レベル	DRM モジュール αダスト	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			DRM モジュール βダスト	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			DRM モジュール よう素(131)	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報表示盤	表示	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			プロセスコントロールパネル	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ピンボード使用	TAG	DRM モジュール αダスト	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			DRM モジュール βダスト	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			DRM モジュール よう素(131)	ランプ		良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　　）	良・否（　　）	
			警報表示盤			良・否（　　）	良・否（　　）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（　　）	良・否（　　）	
			現場警報器			良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作						良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			αダスト	0P(1)		0P　（　　）	0P　（　　）	
				RANGE		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			βダスト	0P(1)		0P　（　　）	0P　（　　）	
				RANGE		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			よう素(131)	0P(1)		0P　（　　）	0P　（　　）	
				RANGE		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
線形増幅器			よう素(131)	MODE　(POS)		（　　）	（　　）	
				COARSE GAIN				
				FINE　GAIN		（目盛）	（目盛）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.————

項目	基準	設定値	点検値	備考
波高分析器	よう素(131) BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	よう素(131) WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 αダスト 850(V)	(V)	(V)	
	高圧設定値 βダスト 710(V)	(V)	(V)	
	高圧設定値 よう素(131)700(V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)	有・無(　　)	有・無(　　)	
サンプリングユニット	α，β (ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素(131)(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	ＦＣ／Ｍスイッチ (測定)	良・否(　　)	良・否(　　)	
	ドライポンプ動作 ON・OFF	(　　)	(　　)	
	ドライポンプ動作 A・B	(　　)	(　　)	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF04

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　設置場所（ASP，ASP－ST施設）　

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量	βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素（　　）	(cpm)	(cpm)	
		ガス	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	流量	サンプリングユニット	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		ガス	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 βダスト	入力値 1E+3(cpm) RMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素（　）	1E+3(cpm) RMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値		(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
ガス	※1（　　）Bq/cm³	指示計（現場）	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	※1標準線源 Bq/cm³の減衰補正した値
		記録計の指示値(HP パネル)	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	※2（　　）Bq/cm³	指示計（現場）	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	※2標準線源 Bq/cm³の減衰補正した値
		記録計の指示値(HP パネル)	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	記録計にて±0.3(dec)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	βダスト	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器 No.	TAG. No.（　　） SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(　) 計数値	(cpm)	(cpm)	(　　)
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	計数値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	基準電離箱 (No.　　)
	計算値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	指示精度F.S. ±10(%) 以内	(%)	(%)	
	校正定数	(A/(Bq/cm³))	(A/(Bq/ cm³))	
5. 関連動作確認 総合流量可変範囲	0 ～ 100 (ℓ/min)	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
ガスモニタ流量可変範囲	0 ～ 20 (ℓ/min)	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
積算流量の測定	70 (ℓ/min) で30分間吸引時 記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	積算流量計	(m³)	(m³)	
	F.S.(3.0m³) ±3(%)以内	(%)	(%)	
ガスモニタ濃度積算値の測定	標準電離箱を用い60分間測定 入力値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	(×1 レンジ) カウンター	(3.7E-4Bq/ cm³/h)	(3.7E-4Bq/ cm³/h)	
	F.S.(10,000)±2(%)以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
	入力値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	(×100 レンジ) カウンター	(3.7E-2Bq/ cm³/h)	(3.7E-2Bq/ cm³/h)	
	F.S.(10,000)±2(%)以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
6. 警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
よう素(　　)	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.＿＿＿＿＿＿

項目			基準			設定値	点検値	備考
ガス			2E+4(cpm) RMの指示値			(cpm)	(cpm)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	
			2E+6(cpm) RMの指示値			(cpm)	(cpm)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	
			RMにて±0.2(dec)以内			良・否（　）	良・否（　）	
			Bq/cm³ 指示計（現場）			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			記録計の指示値			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			Bq/cm³ 指示計（現場）			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			記録計の指示値			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			Bq/cm³ 指示計（現場）			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			記録計の指示値			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			指示計にて0.2(dec)以内			良・否（　）	良・否（　）	
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	βダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			RMモジュール よう素（　）	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			ガスモニタ	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			HPデスク	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			副受信盤	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤	表示	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	βダスト			良・否（　）	良・否（　）	
			RMモジュール よう素（　）			良・否（　）	良・否（　）	
			ガスモニタ	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			HPデスク			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
			副受信盤		音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤			良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM	ガスモニタ	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール		音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作						良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.＿＿＿＿＿＿

項目	基準		設定値	点検値	備考
7．測定モードの確認	βダスト	RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
RMモジュール	よう素（　）	RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	よう素（　）	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
線形増幅器		COARSE GAIN			
		FINE　GAIN	（目盛）	（目盛）	
波高分析器	よう素（　）	BASE LINE　値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW　値	（目盛）	（目盛）	
高圧電源モジュール	高圧設定値	βダスト　710(V)	（V）	（V）	
		よう素（　）（V）	（V）	（V）	
	MODE（ログ）		（　　）	（　　）	
	RANGE(×1)		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	高圧設定値 -300(V)		（V）	（V）	
ガスモニタ	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞｶﾞｽ圧力 1.0(kg/cm²)		（kg/cm²）	（kg/cm²）	
	ドライヤー　ON・OFF		（　　）	（　　）	
	流　量		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	エアポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	
信号変換器	ピンボードピン　（無）		有・無（　　）	有・無（　　）	
サンプリングユニット	流量（ℓ/min）		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	
8．指示値の測定	βダスト		（cpm）	（cpm）	
	よう素（　）		（cpm）	（cpm）	
	ガスモニタ		（Bq/ cm³）	（Bq/ cm³）	

管理番号	
整理番号	11AAF05

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ASP施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（ASP）付排 SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	
	ガス	(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
	流量 サンプリングユニット	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 ガス	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
βダスト	1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(129)	1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
クリプトン	1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	排気モニタ	機 器 No.	TAG. No.（ASP）付排 SER. No. ――――

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
ガ　　ス	※1（　　）Bq/cm³ 指示計（現場）	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	※1 標準電流源 Bq/cm³の減衰補正した値
	記録計の指示値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	※2（　　）Bq/cm³ 指示計（現場）	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	※2 標準電流源 Bq/cm³の減衰補正した値
	記録計の指示値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129) 計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10⁴(Bq))
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン 計数値	(cpm)	(cpm)	(^{137}Cs 3.7×10⁶(Bq))
	校正定数 1.85E-3 (Bq/ cm³/cpm) 以上	(Bq/ cm³/cpm)	(Bq/ cm³/cpm)	カウンタ値
	BG値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
ガ　　ス	計数値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	基準電離箱 (No.　　)
	計算値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	指示精度F.S. ±10(%) 以内	(%)	(%)	
	校正定数	(A/(Bq/cm³))	(A/(Bq/ cm³))	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 100（ℓ/min)	良・否（　　）	良・否（　　）	
ｶｽﾓﾆﾀ流量可変範囲	0 ～ 20（ℓ/min)	良・否（　　）	良・否（　　）	
積算流量の測定	70（ℓ/min）で30分間吸引時 記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	積算流量計	(m³)	(m³)	
	F.S.(3.0m³) ±3(%)以内	(%)	(%)	
ガスモニタ濃度積算値の測定	標準電離箱を用い60分間測定 入 力 値	(Bq/ cm³)	(Bq/ cm³)	
	（×1 レンジ） カウンター	(3.7E-4Bq/ cm³/h)	(3.7E-4Bq/ cm³/h)	
	F.S.(10,000)±2(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器 No.	TAG. No.（ASP）付排 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
データ処理系確認	入力値	(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	P－1068（NAIG）使用
	（×100 レンジ）カウンター	(3.7E-2Bq/cm³/h)	(3.7E-2Bq/cm³/h)	
	F.S.(10,000)±2(%)以内	良・否（　）	良・否（　）	
	ﾃﾞｭｱﾙｶｳﾝﾀﾀｲﾏ 値 ±0.1(%)以内 よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	
	排気総流量	(cpm)	(cpm)	
	プリセットタイム	(min)	(min)	
	時間	良・否（　）	良・否（　）	
	プリンタ値 よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	
	排気総流量	(cpm)	(cpm)	
	プリセットタイム	(min)	(min)	
	時間	良・否（　）	良・否（　）	
6．警報系試験 警報設定精度 βダスト	設定値 2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（　）	良・否（　）	
よう素(129)	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（　）	良・否（　）	
クリプトン	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（ASP）付排 SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
ガス			2E+4(cpm) RMの指示値			(cpm)	(cpm)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	
			2E+6(cpm) RMの指示値			(cpm)	(cpm)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	
			RMにて±0.2(dec)以内			良・否（ ）	良・否（ ）	
			Bq/cm³ 指示計（現場）			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			記録計の指示値			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			Bq/cm³ 指示計（現場）			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			記録計の指示値			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			Bq/cm³ 指示計（現場）			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
			記録計の指示値			(Bq/cm³)	(Bq/cm³)	
警報動作確認			指示計にて0.2(dec)以内			良・否（ ）	良・否（ ）	
	通常動作	高レベル	RMモジュール βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール よう素(129)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール クリプトン	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			ガスモニタ	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			HPデスク	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			副受信盤	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	RMモジュール βダスト			良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール よう素(129)			良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール クリプトン			良・否（ ）	良・否（ ）	
			ガスモニタ	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			HPデスク			良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			副受信盤		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TAG ALARM	ガスモニタ	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（ASP）付排 SER. No. ――――

項目	基準		設定値	点検値	備考
リセット動作			良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認	βダスト	RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
RMモジュール	よう素(129)	RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	クリプトン	RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
線形増幅器	よう素(129)	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE　GAIN	（目盛）	（目盛）	
波高分析器	よう素(129)	BASE LINE　値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW　値	（目盛）	（目盛）	
高圧電源モジュール	高圧設定値	βダスト　710(V)	（V）	（V）	
		よう素(129)700(V)	（V）	（V）	
		クリプトン 900(V)	（V）	（V）	
	MODE（ログ）		（　　）	（　　）	
	RANGE(×1)		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	高圧設定値 -300(V)		（V）	（V）	
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞｶﾞｽ圧力 1.0(kg/cm²)		（kg/cm²）	（kg/cm²）	
	ドライヤー　ON・OFF		（　　）	（　　）	
	流　量		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	エアポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	
信号変換器	ピンボードピン　（無）		有・無（　　）	有・無（　　）	
サンプリングユニット	流量（ℓ/min）		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	
8．指示値の測定	βダスト		（cpm）	（cpm）	
	よう素(129)		（cpm）	（cpm）	
	クリプトン		（cpm）	（cpm）	
	ガスモニタ		（Bq/ cm³）	（Bq/ cm³）	

管理番号	
整理番号	11AAF06

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（2ASP－ST施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（2ASP－ST）局排 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	ガス	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 α ダ ス ト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
β ダ ス ト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よ う 素(129)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（2ASP－ST）局排 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
ガス	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129) 計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10^{4}(Bq))
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	ガス 計数値	(cpm)	(cpm)	(^{137}Cs 3.7×10^{6}(Bq))
	校正定数 1.85E-3 (Bq/cm³/cpm) 以上	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM　　)
5. 関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 100（ℓ/min)	良・否（　　）	良・否（　　）	
流量の測定	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
FC／Mモード及び 制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
6. 警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（2ASP－ST）局排 SER. No. ――――――

項目			基準				設定値	点検値	備考
βダスト			2E+2(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+4(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+6(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			DRMにて±4(%)以内				良・否（ ）	良・否（ ）	
よう素(129)			2E+2(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+4(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+6(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			DRMにて±4(%)以内				良・否（ ）	良・否（ ）	
ガス			2E+2(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+4(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+6(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			DRMにて±4(%)以内				良・否（ ）	良・否（ ）	
警報動作確認									
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				ガス	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			HPデスク		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			副受信盤		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤		表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
				ガス	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			HPデスク				良・否（ ）	良・否（ ）	
			副受信盤				良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器				良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤				良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（2ASP－ST）局排 SER. No. ――――

項目	基準		設定値	点検値	備考
リセット動作			良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認					
DRMモジュール	αダスト	OP(1)	OP　（　　）	OP　（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	βダスト	OP(1)	OP　（　　）	OP　（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	よう素(129)	OP(1)	OP　（　　）	OP　（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	ガス	OP(1)	OP　（　　）	OP　（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
線形増幅器	よう素(129)	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE　GAIN	（目盛）	（目盛）	
波高分析器	よう素(129)	BASE LINE　値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW　値	（目盛）	（目盛）	
高圧電源モジュール	高圧設定値	αダスト　850(V)	（V）	（V）	
		βダスト　710(V)	（V）	（V）	
		よう素(129)　700(V)	（V）	（V）	
		ガス　900(V)	（V）	（V）	
警報変換器	ピンボードピン　（無）		有・無（　　）	有・無（　　）	
サンプリングユニット	流量　70(ℓ/min)		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチ　（測定）		良・否（　　）	良・否（　　）	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	
8．指示値の測定		αダスト	（cpm）	（cpm）	
		βダスト	（cpm）	（cpm）	
		よう素(129)	（cpm）	（cpm）	
		ガス	（cpm）	（cpm）	

点検整備記録書

改　訂

管理番号	
整理番号	11AAF07

検査名（総合検査）　　設置場所（2HS施設）　　

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（2HS）局排 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量	αダスト	(cpm)	(cpm)	
		βダスト	(cpm)	(cpm)	
		流　量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値				
αダスト	1E+3(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	1E+3(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験		BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
		BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲		0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（2HS）局排 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
流量の測定	サンプリング流量 カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気風量 カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 ($\times 10^5$ m^3/h)	($\times 10^5$ m^3/h) ($\times 10^5$ m^3/h)	($\times 10^5$ m^3/h) ($\times 10^5$ m^3/h)	
FC/Mモード及び制御リレーモジュール動作確認	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
αダスト	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否 ( )	良・否 ( )	
βダスト	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否 ( )	良・否 ( )	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール αダスト	ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )
	DRMモジュール βダスト	ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )
	警報変換器	ランプ 音	良・否 ( )	良・否 ( )
	HPデスク	ランプ 音	良・否 ( )	良・否 ( )
	副受信盤	ランプ 音	良・否 ( )	良・否 ( )
	警報表示盤	表示 音	良・否 ( )	良・否 ( )
	現場警報器	ランプ 音	良・否 ( )	良・否 ( )
ピンボード使用 TAG	DRMモジュール αダスト	ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )
	DRMモジュール βダスト	ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )
	警報変換器	ランプ 音	良・否 ( )	良・否 ( )
	HPデスク		良・否 ( )	良・否 ( )
	副受信盤		良・否 ( )	良・否 ( )
	警報表示盤		良・否 ( )	良・否 ( )
	現場警報器		良・否 ( )	良・否 ( )

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（2HS）局排 SER. No. ――――

項目	基準		設定値	点検値	備考
リセット動作			良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認	αダスト	0P(1)	0P　（　　）	0P　（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
DRMモジュール		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	βダスト	0P(1)	0P　（　　）	0P　（　　）	
		RANGE	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値	αダスト　850(V)	（V）	（V）	
		βダスト　710(V)	（V）	（V）	
警報変換器	ピンボードピン　（無）		有・無（　　）	有・無（　　）	
サンプリングユニット	流量　（ℓ/min）		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチ（測定）		良・否（　　）	良・否（　　）	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	
8．指示値の測定	αダスト		（cpm）	（cpm）	
	βダスト		（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11AAF08

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Kr施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Kr） SER. No.——	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 β ダ ス ト	入力値 1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よ う 素(131)	1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
クリプトン	1E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	5E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Kr） SER. No. ———

項目	基準	設定値	点検値	備考
4．感度試験	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131) 計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I)
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン 計数値	(cpm)	(cpm)	(^{137}Cs 3.7×10^{6}(Bq))
	校正定数 1.85E-3 (Bq/cm³/cpm) 以上	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダー値 (レートメータ ×1 レンジ)
5．関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 100（ℓ/min)	良・否（ ）	良・否（ ）	
積算流量の測定	積算流量計	(m³)	(m³)	
	F.S. ±5%以内	(%)	(%)	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
βダスト	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
よう素(131)	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて±0.2(dec)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
クリプトン	2E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Kr） SER. No. ———

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認			2E+6(cpm) RMの指示値			(cpm)	(cpm)	
			記録計の指示値			(cpm)	(cpm)	
			RMにて±0.2(dec)以内			良・否（ ）	良・否（ ）	
	通常動作	高レベル	RMモジュール βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール よう素(131)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール クリプトン	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			HPデスク	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	RMモジュール βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール よう素(131)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			RMモジュール クリプトン	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			HPデスク			良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作						良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認 RMモジュール			βダスト RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
			βダスト 警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
			よう素(131) RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
			よう素(131) 警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
			クリプトン RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
			クリプトン 警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
線形増幅器			よう素(131) MODE (POS)			（ ）	（ ）	
			よう素(131) COARSE GAIN					
			よう素(131) FINE GAIN			(目盛)	(目盛)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Kr） SER. No. ――

項目	基準		設定値	点検値	備考
波高分析器	よう素(131)	MODE (Emax)	(　　)	(　　)	
		LLD 値	(目盛)	(目盛)	
		ULD 値	(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	βダスト 710(V)	(V)	(V)	
		よう素(131)800(V)	(V)	(V)	
		クリプトン 900(V)	(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン	(無)	有・無(　　)	有・無(　　)	
サンプリングユニット	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	(　　)	(　　)	
		A・B	(　　)	(　　)	
8．指示値の測定	βダスト		(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)		(cpm)	(cpm)	
	クリプトン		(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF09

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（ST施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（ST） SER. No. ———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 α ダ ス ト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
β ダ ス ト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よ う 素(129)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ST） SER. No. ———

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．感度試験		BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
		BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
		BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10^{4}(Bq))
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲		0 ～ 100（ℓ/min)	良・否（ ）	良・否（ ）	
積算流量の測定	サンプリング流量		(m³)	(m³)	
		F.S. ±3(%)以内	(%)	(%)	
		デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値(70 ±3(ℓ/min) 以内		(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気総流量 デュアルカウンタ値		(cpm)	(cpm)	
	計算値 (400±12(×10²m³/h) 以内		(×10²m³/h)	(×10²m³/h)	
ＦＣ／Ｍモード及び 制御リレーモジュール	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
よう素(129)	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値		(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ST） SER. No. ――

項目			基準				設定値	点検値	備考
警報動作確認									
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				βダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(129)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤		表示	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	αダスト			良・否（　）	良・否（　）	
				βダスト			良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(129)			良・否（　）	良・否（　）	
			警報論理回路モジュール		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器				良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤				良・否（　）	良・否（　）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール			音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作							良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認									
DRMモジュール			αダスト		0P(1)		0P　（　）	0P　（　）	
					RANGE		RANGE（×）	RANGE（×）	
					OPランプ（点灯）		良・否（　）	良・否（　）	
					警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			βダスト		0P(1)		0P　（　）	0P　（　）	
					RANGE		RANGE（×）	RANGE（×）	
					OPランプ（点灯）		良・否（　）	良・否（　）	
					警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			よう素(129)		0P(1)		0P　（　）	0P　（　）	
					RANGE		RANGE（×）	RANGE（×）	
					警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
					OPランプ（点灯）		良・否（　）	良・否（　）	
線形増幅器			よう素(129)		MODE（POS）		（　）	（　）	
					COARSE GAIN				
					FINE GAIN		（目盛）	（目盛）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ST） SER. No. ——

項目	基準	設定値	点検値	備考
波高分析器	よう素(129) BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	よう素(129) WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 αダスト 850(V)	(V)	(V)	
	βダスト 710(V)	(V)	(V)	
	よう素(129) 700(V)	(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン (無)	有・無(　)	有・無(　)	
スキャナー	スイッチ (AUTO)	良・否(　)	良・否(　)	
CRTの表示	表示の確認	良・否(　)	良・否(　)	
サンプリングユニット	流量 70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	FC／Mスイッチ (測定)	良・否(　)	良・否(　)	
	ドライポンプ動作 ON・OFF	(　)	(　)	
	ドライポンプ動作 A・B	(　)	(　)	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF09

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（HAW施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（HAW） SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
αダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(129)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（HAW） SER. No. ―――

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．感度試験		BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
		BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
		BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10^{4}(Bq))
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲		0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
積算流量の測定	サンプリング流量		(m³)	(m³)	
		F.S. ±3(%)以内	(%)	(%)	
		デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値(70 ±3(ℓ/min) 以内		(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気総流量 デュアルカウンタ値		(cpm)	(cpm)	
	計算値 (400±12(×10² m³/h) 以内		(×10² m³/h)	(×10² m³/h)	
FC／Mモード及び 制御リレーモジュール	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
よう素(129)	2E+6(cpm) DRMの指示値		(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(HAW) SER. No. ———

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRM モジュール αダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRM モジュール βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRM モジュール よう素(129)	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			(MP)プロセスコントロールデスク	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤	表示	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	DRM モジュール αダスト			良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRM モジュール βダスト			良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRM モジュール よう素(129)			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			(MP)プロセスコントロールデスク			良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作						良・否（ ）	良・否（ ）	

7．測定モードの確認				
DRMモジュール	αダスト	OP(1)	OP（ ）	OP（ ）
		RANGE	RANGE（ × ）	RANGE（ × ）
		OPランプ（点灯）	良・否（ ）	良・否（ ）
		警報レベル（cpm）	(cpm)	(cpm)
	βダスト	OP(1)	OP（ ）	OP（ ）
		RANGE	RANGE（ × ）	RANGE（ × ）
		OPランプ（点灯）	良・否（ ）	良・否（ ）
		警報レベル（cpm）	(cpm)	(cpm)
	よう素(129)	OP(1)	OP（ ）	OP（ ）
		RANGE	RANGE（ × ）	RANGE（ × ）
		警報レベル（cpm）	(cpm)	(cpm)
		OPランプ（点灯）	良・否（ ）	良・否（ ）

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（HAW） SER. No.————

項目	基準		設定値	点検値	備考
線形増幅器	よう素(129)	MODE (POS)	( )	( )	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	(目盛)	(目盛)	
波高分析器	よう素(129)	BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
		WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値	αダスト 850(V)	(V)	(V)	
		βダスト 710(V)	(V)	(V)	
		よう素(129) 700(V)	(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン	(無)	有・無( )	有・無( )	
スキャナー	スイッチ	(AUTO)	良・否( )	良・否( )	
CRTの表示	表示の確認		良・否( )	良・否( )	
サンプリングユニット	流量	70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	FC／Mスイッチ	(測定)	良・否( )	良・否( )	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	( )	( )	
		A・B	( )	( )	
8．指示値の測定		αダスト	(cpm)	(cpm)	
		βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素(129)	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF10

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（DN施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（DN） SER. No.——	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 α ダ ス ト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
β ダ ス ト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	αダスト BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
	αダスト 効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	βダスト BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
	βダスト 効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（DN） SER. No. ——

項目					基準	設定値	点検値	備考
積算流量の測定					サンプリング流量	（㎥）	（㎥）	
					F.S. ±3(%)以内	(%)	(%)	
					デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
					計算値(70 ±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
					排気総流量 デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
					計算値 (300± 9(×10²㎥/h) 以内)	(×10²㎥/h)	(×10²㎥/h)	
	ＦＣ／Ｍモード及び 制御リレーモジュール				正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度					設定値 2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	αダスト				2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
					2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	βダスト				2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報動作確認							
	通常動作	高レベル	DRM モジュール	αダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールパネル		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤		表示 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	DRM モジュール	αダスト		良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報論理回路モジュール		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.(DN) SER. No.——

項目	基準		設定値	点検値	備考
リセット動作			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認	αダスト	OP(1)	OP　（　）	OP　（　）	
DRMモジュール		RANGE	RANGE（×）	RANGE（×）	
		OPランプ（点灯）	良・否（　）	良・否（　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	βダスト	OP(1)	OP　（　）	OP　（　）	
		RANGE	RANGE（×）	RANGE（×）	
		OPランプ（点灯）	良・否（　）	良・否（　）	
		警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 αダスト 850(V)		（V）	（V）	
	高圧設定値 βダスト 710(V)		（V）	（V）	
信号変換器	ピンボードピン	（無）	有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー	スイッチ	（AUTO）	良・否（　）	良・否（　）	
CRTの表示	表示の確認		良・否（　）	良・否（　）	
サンプリングユニット	流量	70(ℓ/min)	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチ	（測定）	良・否（　）	良・否（　）	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	（　）	（　）	
		A・B	（　）	（　）	
8．指示値の測定	αダスト		（cpm）	（cpm）	
	βダスト		（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11AAF11

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（E施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（ E ）排気 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	
	流量 α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 αダスト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(131)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ E ）排気 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
クリプトン	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131) 計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I)
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン 計数値	(cpm)	(cpm)	
	校正定数 1.85E-3 (Bq/cm³/cpm) 以上	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM)
5. 関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	α，β 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素(131) 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ E ）排気 SER. No. ――――

項目					基準	設定値	点検値	備考
ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール					正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度					設定値			
αダスト					2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
βダスト					2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
よう素(131)					2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
クリプトン					2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
					ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRM モジュール	αダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(131)	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				クリプトン	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールパネル		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器		ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤		表示 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	DRM モジュール	αダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				βダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				よう素(131)	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
				クリプトン	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ E ）排気 SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤			良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作						良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			αダスト	0P(1)		0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			βダスト	0P(1)		0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			よう素(131)	0P(1)		0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			クリプトン	0P(1)		0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
線形増幅器			よう素(131)	MODE（POS）		（ ）	（ ）	
				COARSE GAIN				
				FINE GAIN		（目盛）	（目盛）	
波高分析器			よう素(131)	BASE LINE 値		（目盛）	（目盛）	
				WINDOW 値		（目盛）	（目盛）	
高圧電源モジュール			高圧設定値 αダスト 850(V)			(V)	(V)	
			βダスト 1350(V)			(V)	(V)	
			よう素(131) 700(V)			(V)	(V)	
			クリプトン -1200(V)			(V)	(V)	
警報変換器			ピンボードピン （無）			有・無（ ）	有・無（ ）	
サンプリングユニット			流量 α，β 70(ℓ/min)			（ℓ/min）	（ℓ/min）	
			流量 よう素 70(ℓ/min)			（ℓ/min）	（ℓ/min）	
			FC／Mスイッチ （測定）			良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ E ）排気 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
	ドライポンプ動作 ON・OFF	（ ）	（ ）	
	ドライポンプ動作 A・B	（ ）	（ ）	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF11

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Z施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（ Z ）排気 SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	
	流量 α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 αダスト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(131)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ Z ）排気 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
クリプトン	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131) 計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I)
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン 計数値	(cpm)	(cpm)	
	校正定数 1.85E-3 (Bq/cm³/cpm) 以上	(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	レコーダ値 (DRM)
5．関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	α，β 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素(131) 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ Z ）排気 SER. No. ＿＿＿＿

項目						基準	設定値	点検値	備考
FC／Mモード及び制御リレーモジュール						正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度						設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト						2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						DRMにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
						2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト						2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						DRMにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
						2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
よう素(131)						2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						DRMにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
						2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
クリプトン						2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
						DRMにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
警報動作確認									
通常動作	高レベル	DRMモジュール	αダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			βダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			よう素(131)	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			クリプトン	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
		警報変換器		ランプ	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
		現場警報器		ランプ	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
		警報表示盤		表示	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	αダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			βダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			よう素(131)	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			クリプトン	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
		警報変換器		ランプ	音		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ Z ）排気 SER. No. ――――

項目		基準		設定値	点検値	備考
ピンボード使用 TAG		現場警報器		良・否（ ）	良・否（ ）	
		警報表示盤		良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作				良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認						
DRMモジュール	αダスト	0P(1)		0P （ ）	0P （ ）	
		RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
		警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
	βダスト	0P(1)		0P （ ）	0P （ ）	
		RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
		警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
	よう素(131)	0P(1)		0P （ ）	0P （ ）	
		RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
		警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
	クリプトン	0P(1)		0P （ ）	0P （ ）	
		RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
		警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
線形増幅器	よう素(131)	MODE (POS)		（ ）	（ ）	
		COARSE GAIN				
		FINE GAIN		（目盛）	（目盛）	
波高分析器	よう素(131)	BASE LINE 値		（目盛）	（目盛）	
		WINDOW 値		（目盛）	（目盛）	
高圧電源モジュール	高圧設定値					
	αダスト	850(V)		(V)	(V)	
	βダスト	1350(V)		(V)	(V)	
	よう素(131)	700(V)		(V)	(V)	
	クリプトン	-1200(V)		(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン		(無)	有・無（ ）	有・無（ ）	
サンプリングユニット	流量	α，β 70(ℓ/min)		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
		よう素 70(ℓ/min)		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチ	（測定）		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（ Z ）排気 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
	ドライポンプ動作 ON・OFF	（ ）	（ ）	
	ドライポンプ動作 A・B	（ ）	（ ）	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF13

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－con施設）　　1／3

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－con） SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
αダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
βダスト	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-819)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5. 関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Pu－con） SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
積算流量の測定	サンプリング流量	（㎥）	（㎥）	
	F.S. ±3(%)以内	(%)	(%)	
	デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値(70 ±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気総流量 デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 (100± 3(×10²㎥/h) 以内)	(×10²㎥/h)	(×10²㎥/h)	
ＦＣ／Ｍモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
αダスト	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
βダスト	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRM モジュール αダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	DRM モジュール βダスト	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	グラフィックパネル	ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル	ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器	ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤	表示 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
ピンボード TAG	DRM モジュール αダスト		良・否（ ）	良・否（ ）	
	DRM モジュール βダスト		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報論理回路モジュール	ランプ 音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	グラフィックパネル		良・否（ ）	良・否（ ）	
	プロセスコントロールパネル		良・否（ ）	良・否（ ）	
	現場警報器		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Pu－con） SER. No. ――――

項目		基準		設定値	点検値	備考
	使用 TAG ALARM	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ	音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作				良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認						
DRMモジュール		αダスト	OP(1)	OP（　）	OP（　）	
			RANGE	RANGE（×）	RANGE（×）	
			OPランプ（点灯）	良・否（　）	良・否（　）	
			警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
		βダスト	OP(1)	OP（　）	OP（　）	
			RANGE	RANGE（×）	RANGE（×）	
			OPランプ（点灯）	良・否（　）	良・否（　）	
			警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール		高圧設定値 αダスト 850(V)		（V）	（V）	
		高圧設定値 βダスト 710(V)		（V）	（V）	
信号変換器		ピンボードピン （無）		有・無（　）	有・無（　）	
スキャナー		スイッチ （AUTO）		良・否（　）	良・否（　）	
CRTの表示		表示の確認		良・否（　）	良・否（　）	
サンプリングユニット		流量 70(ℓ/min)		（ℓ/min）	（ℓ/min）	
		FC／Mスイッチ （測定）		良・否（　）	良・否（　）	
		ドライポンプ動作	ON・OFF	（　）	（　）	
			A・B	（　）	（　）	
8．指示値の測定		αダスト		（cpm）	（cpm）	
		βダスト		（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11AAF14

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（C施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（C）排気 SER. No. ————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	流量 α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
α ダ ス ト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
β ダ ス ト	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
よ う 素(131)	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（C）排気 SER. No. ――

項目	基準	設定値	点検値	備考
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131) 計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I)
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	α，β 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素(131) 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（ ）	良・否（ ）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
ＦＣ／Ｍモード及び 制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	ＤＲＭにて±4(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2E+2(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	
よう素(131)	2E+6(cpm) ＤＲＭの指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（C）排気 SER. No. ———

項目			基準				設定値	点検値	備考
警報動作確認			DRMにて±4(%)以内				良・否（　）	良・否（　）	
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				βダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(131)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			副受信盤		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤		表示	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				βダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
				よう素(131)	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器		ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			副受信盤				良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器				良・否（　）	良・否（　）	
			警報表示盤				良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作							良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認									
DRMモジュール			αダスト	0P(1)			0P（　）	0P（　）	
				RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
				警報レベル（cpm）			（cpm）	（cpm）	
			βダスト	0P(1)			0P（　）	0P（　）	
				RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
				警報レベル（cpm）			（cpm）	（cpm）	
			よう素(131)	0P(1)			0P（　）	0P（　）	
				RANGE			RANGE（×）	RANGE（×）	
				警報レベル（cpm）			（cpm）	（cpm）	
線形増幅器			よう素(131)	MODE（POS）			（　）	（　）	
				COARSE GAIN					
				FINE GAIN			（目盛）	（目盛）	
波高分析器			よう素(131)	BASE LINE 値			（目盛）	（目盛）	
				WINDOW 値			（目盛）	（目盛）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（C）排気 SER. No. ――

項目	基準	設定値	点検値	備考
高圧電源モジュール	高圧設定値 αダスト 850(V)	(V)	(V)	
	高圧設定値 βダスト 1350(V)	(V)	(V)	
	高圧設定値 よう素(131) 700(V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)	有・無(　)	有・無(　)	
サンプリングユニット	流量 α，β 70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	流量 よう素 70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	FC／Mスイッチ (測定)	良・否(　)	良・否(　)	
	ドライポンプ動作 ON・OFF	(　)	(　)	
	ドライポンプ動作 A・B	(　)	(　)	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF14

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（IF施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（IF） SER. No.——	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量	αダスト	(cpm)	(cpm)	
		βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素(131)	(cpm)	(cpm)	
	流量	α，β	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		よう素	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度 α ダスト	入力値				
	1E+3(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
β ダスト	1E+3(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(131)	1E+3(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm)	DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（IF） SER. No. ――

項目	基準	設定値	点検値	備考
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	αダスト BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	αダスト 効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	βダスト BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	βダスト 効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(131) BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131) 計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock-I　(Bq))
	よう素(131) 効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	α，β 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	
流量の測定	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素 0 ～ 100（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値70±3(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	記録計の指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気風量 カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値	($\times 10^3 m^3/h$)	($\times 10^3 m^3/h$)	
FC／Mモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（IF） SER. No. ——

項目			基準				設定値	点検値	備考
よう素(131)			2E+2(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+4(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			2E+6(cpm) DRMの指示値				(cpm)	(cpm)	
			DRMにて±4(%)以内				良・否（ ）	良・否（ ）	
警報動作確認									
	通常動作	高レベル	DRMモジュール αダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRMモジュール βダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRMモジュール よう素(131)	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器	ランプ	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器	ランプ	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤	表示	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール αダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRMモジュール βダスト	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			DRMモジュール よう素(131)	ランプ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器	ランプ	音		良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器				良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報表示盤				良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作							良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認									
DRMモジュール			αダスト	0P(1)			0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
			βダスト	0P(1)			0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
			よう素(131)	0P(1)			0P（ ）	0P（ ）	
				RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				警報レベル（cpm）			(cpm)	(cpm)	
線形増幅器			よう素(131)	MODE (POS)			（ ）	（ ）	
				COARSE GAIN					
				FINE GAIN			(目盛)	(目盛)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（IF） SER. No. ——

項目	基準	設定値	点検値	備考
波高分析器	よう素(131) BASE LINE 値	(目盛)	(目盛)	
	よう素(131) WINDOW 値	(目盛)	(目盛)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 αダスト 850(V)	(V)	(V)	
	高圧設定値 βダスト 1350(V)	(V)	(V)	
	高圧設定値 よう素(131) 700(V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンボードピン (無)	有・無( )	有・無( )	
サンプリングユニット	α，β 70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	よう素 70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	FC／Mスイッチ (測定)	良・否( )	良・否( )	
	ドライポンプ動作 ON・OFF	( )	( )	
	ドライポンプ動作 A・B	( )	( )	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF15

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（CPF施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（CPF） SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 クリプトン（低）	（cpm）	（cpm）	
	クリプトン（高）	（cpm）	（cpm）	
	αダスト	（cpm）	（cpm）	
	βダスト	（cpm）	（cpm）	
	よう素(129)	（cpm）	（cpm）	
	よう素(131)	（cpm）	（cpm）	
	サンプリング　Ⅰ	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	サンプリング　Ⅱ	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
3．指示計と記録計の対応 クリプトン（低）	DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6.3×10^{2} ～ 1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	
クリプトン（高）	DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6.3×10^{2} ～ 1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	
αダスト	DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6.3×10^{2} ～ 1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	
βダスト	DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6.3×10^{2} ～ 1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(129)	DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6.3×10^{2} ～ 1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	
よう素(131)	DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6.3×10^{2} ～ 1.6×10^{3}(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（CPF） SER. No. ————

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．感度試験	クリプトン（低）	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
		計数値	(cpm)	(cpm)	(^{137}Cs 3.7 ×10^{6}(Bq))
		校正定数	(Bq/cm^3/cpm)	(Bq/cm^3/cpm)	
	クリプトン（高）	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(^{137}Cs 3.7 ×10^{6}(Bq))
		校正定数	(Bq/cm^3/cpm)	(Bq/cm^3/cpm)	
	αダスト	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1321)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	βダスト	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1321)
		効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(129)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(^{129}I 1.11×10^{4}(Bq))
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素(131)	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	(Mock I K3/8512 (Bq))
		効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	サンプリングⅠ 0～150(ℓ/min)		良・否（ ）	良・否（ ）	
	サンプリングⅡ 0～50（ℓ/min)		良・否（ ）	良・否（ ）	
積算流量の測定	サンプリングⅠ		(m^3)	(m^3)	
		F.S. ±3(%)以内	(%)	(%)	
		デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 70±4.5(ℓ/min) 以内		(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	サンプリングⅡ		(m^3)	(m^3)	
		F.S. ±3(%)以内	(%)	(%)	
		デュアルカウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 30±1.5(ℓ/min) 以内		(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気総流量デュアルカウンタ値		(cpm)	(cpm)	
	計算値 15±0.4(×10^{4}m^3/h) 以内		(×10^{4}m^3/h)	(×10^{4}m^3/h)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（CPF） SER. No. ———

項目			基準			設定値	点検値	備考
FC／Mモード及び制御リレーモジュール			サンプリングI	ランプ（点滅）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				パージ動作		良・否（ ）	良・否（ ）	
				CRT		良・否（ ）	良・否（ ）	
			サンプリングII	ランプ（点滅）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				パージ動作		良・否（ ）	良・否（ ）	
				CRT		良・否（ ）	良・否（ ）	
パージ動作の確認				AUTO		良・否（ ）	良・否（ ）	
				MANU		良・否（ ）	良・否（ ）	
定流量弁の動作確認						良・否（ ）	良・否（ ）	
ポンプユニットの動作確認						良・否（ ）	良・否（ ）	
6．警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	Kr（低）	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
				Kr（高）	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
				αダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
				βダスト	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
				よう素（129）	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
				よう素（131）	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
			警報論理回路モジュール		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）
			現場警報器		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）
			グラフィックパネル		ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）
			プロセスコントロールパネル		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）
			玄関ホールパネル		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	Kr（低）			良・否（ ）	良・否（ ）
				Kr（高）			良・否（ ）	良・否（ ）
				αダスト			良・否（ ）	良・否（ ）
				βダスト			良・否（ ）	良・否（ ）
				よう素（129）			良・否（ ）	良・否（ ）
				よう素（131）			良・否（ ）	良・否（ ）
			警報論理回路モジュール		ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（CPF） SER. No. ―――

項目			基準			設定値	点検値	備考
	ピンボード使用	TAG	現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
			グラフィックパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
			プロセスコントロールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
			玄関ホールパネル			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TAG ALARM	警報論理回路モジュール		音	良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作						良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認			クリプトン（低）	0P（1）		0P （ ）	0P （ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				OPランプ（点灯）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			クリプトン（高）	0P（1）		0P （ ）	0P （ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				OPランプ（点灯）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			αダスト	0P（1）		0P （ ）	0P （ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				OPランプ（点灯）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
DRMモジュール			βダスト	0P（1）		0P （ ）	0P （ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				OPランプ（点灯）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			よう素(129)	0P（1）		0P （ ）	0P （ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				OPランプ（点灯）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
			よう素(131)	0P（1）		0P （ ）	0P （ ）	
				RANGE		RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
				OPランプ（点灯）		良・否（ ）	良・否（ ）	
				警報レベル(cpm)		（cpm）	（cpm）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（CPF） SER. No. ———

項目	基準		設定値	点検値	備考
線形増幅器	クリプトン（高）	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	（目盛）	（目盛）	
	よう素(129)	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	（目盛）	（目盛）	
	よう素(131)	MODE（POS）	（　　）	（　　）	
		COARSE GAIN			
		FINE GAIN	（目盛）	（目盛）	
波高分析器	クリプトン（高）	BASE LINE　値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW　値	（目盛）	（目盛）	
	よう素(129)	BASE LINE　値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW　値	（目盛）	（目盛）	
	よう素(131)	BASE LINE　値	（目盛）	（目盛）	
		WINDOW　値	（目盛）	（目盛）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 クリプトン（低）900(V)		(V)	(V)	
	クリプトン（高）800(V)		(V)	(V)	
	αダスト　850(V)		(V)	(V)	
	βダスト　710(V)		(V)	(V)	
	よう素(129)　700(V)		(V)	(V)	
	よう素(131)　800(V)		(V)	(V)	
信号変換器	ピンボードピン　（無）		有・無（　　）	有・無（　　）	
スキャナー	スイッチ　（AUTO）		良・否（　　）	良・否（　　）	
CRTの表示	表示の確認		良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングユニット	流量	サンプリング　I	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
		サンプリング　II	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	FC／Mスイッチの確認	サンプリング　I（測定）	良・否（　　）	良・否（　　）	
		サンプリング　II（測定）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ドライポンプ動作	ON・OFF	（　　）	（　　）	
		A・B	（　　）	（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（CPF） SER. No. ―――

項目	基準	設定値	点検値	備考
8．指示値の測定	クリプトン（低）	(cpm)	(cpm)	
	クリプトン（高）	(cpm)	(cpm)	
	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
	よう素(129)	(cpm)	(cpm)	
	よう素(131)	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF16

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－3施設）　　

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－3） SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	流量	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	可変範囲　0 ～ 300（ℓ/min）	良・否（　　）	良・否（　　）	
流量の測定	サンプリング流量 カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 250±7(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	排気風量 カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 1.75 ±0.05 (×10⁵ m³/h)以内	(×10⁵ m³/h)	(×10⁵ m³/h)	
FC/Mモード及び制御リレーモジュール動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG. No.（Pu－3） SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			中央管理室	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ピンボード使用	TAG	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ			良・否（ ）	良・否（ ）	
			中央管理室	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			現場警報器			良・否（ ）	良・否（ ）	
		TTAALG	DRMモジュール	ランプ		良・否（ ）	良・否（ ）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（ ）	良・否（ ）	
			中央管理室			良・否（ ）	良・否（ ）	
リセット動作						良・否（ ）	良・否（ ）	
7．測定モードの確認			乗算係数			×	×	
DRMモジュール			OP(1)			OP（ ）	OP（ ）	
			RANGE			RANGE（ × ）	RANGE（ × ）	
			警報レベル（cpm）			（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール			高圧設定値 850(V)			（V）	（V）	
警報変換器			ピンボードピン （無）			有・無（ ）	有・無（ ）	
CRT			表示の確認			良・否（ ）	良・否（ ）	
サンプリングユニット			流量 250(ℓ/min)			（ℓ/min）	（ℓ/min）	
			FC／Mスイッチ（測定）			良・否（ ）	良・否（ ）	
			ドライポンプ動作 ON・OFF			（ ）	（ ）	
			ドライポンプ動作 A・B			（ ）	（ ）	
8．指示値の測定			記録計の指示値			（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11AAF17

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（PWTF施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（PWTF）排気 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度 αダスト	入力値 1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲 流量の測定	αダスト 0 ～ 300（ℓ/min）	良・否（　）	良・否（　）	
	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
	計算値 250±7(ℓ/min) 以内	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
総排気風量	カウンタ値	(cpm)	(cpm)	
FC／Mモード及び制御リレーモジュール	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
6．警報系試験 警報設定精度 αダスト	設定値 2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（PWTF）排気 SER. No. ――――

項目			基準			設定値	点検値	備考
警報動作確認								
	通常動作	高レベル	DRM　αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			放射線監視装置	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
	ピンボード使用	TAG	DRM　αダスト	ランプ		良・否（　）	良・否（　）	
			警報変換器	ランプ	音	良・否（　）	良・否（　）	
			放射線監視装置			良・否（　）	良・否（　）	
			現場警報器			良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認								
DRMモジュール			αダスト	OP（1）		OP（　）	OP（　）	
				RANGE　1 ×10^4		RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
				警報レベル（cpm）		（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール			高圧設定値　850（V）			（V）	（V）	
警報変換器			ピンードピン（無）			有・無（　）	有・無（　）	
CRT			異常がないこと			良・否（　）	良・否（　）	
サンプリングユニット			流量　250（ℓ/min）			（ℓ/min）	（ℓ/min）	
			FC／Mスイッチ（測定）			良・否（　）	良・否（　）	
			ドライポンプ	ON・OFF		（　）	（　）	
				A・B		（　）	（　）	
8．指示値の測定			αダスト			（cpm）	（cpm）	

点検整備記録書

改　訂

管理番号	
整理番号	11AAF18

検査名（総合検査）　　設置場所（A，B，F，J，G棟）　　

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（　　）排気 SER. No. ————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 80（ℓ/min)	良・否（　）	良・否（　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
α ダ ス ト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　）	良・否（　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール ランプ	良・否（　）	良・否（　）	
	警報変換器 ランプ 音	良・否（　）	良・否（　）	
	現場居室パネル ランプ 音	良・否（　）	良・否（　）	
	守衛所パネル ランプ 音	良・否（　）	良・否（　）	
ピンボード使用 TAG	DRMモジュール ランプ	良・否（　）	良・否（　）	
	警報変換器 ランプ 音	良・否（　）	良・否（　）	
	現場居室パネル	良・否（　）	良・否（　）	
	守衛所パネル	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（　　）排気 SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
リセット動作	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認				
DRMモジュール	0P(1)	0P（　　）	0P（　　）	
	RANGE　1 ×10⁴	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値　850(V)	(V)	(V)	
警報変換器	ピンードピン（無）	有・無（　　）	有・無（　　）	
C R T	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
サンプリングユニット	流量　60(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF19

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－1施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－1）RMO SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	6E+1(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール ランプ 表示	良・否（　　）	良・否（　　）	
	放射線監視盤 ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	放管室ｱﾅｳﾝｼｭｰﾀ ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	(Pu-1)ロビー ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	(Pu-2)監視室 ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認 DRMモジュール	警報レベル（cpm）	(cpm)	(cpm)	
	時定数 (SLOW)	（　　）	（　　）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 1050(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Pu－1）RMO SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
監視盤	バイパススイッチ　OFF	（　　）	（　　）	
ダストサンプラ	流量 250(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	吸引機　ON	（　　）	（　　）	
7．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF20

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－1施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－1）R－125 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 6E+1(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6E+3(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6E+4(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計にてF.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	（cpm）	（cpm）	使用線源
	計数値	（cpm）	（cpm）	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 3E+2(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	6E+3(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	RMにて F.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	RMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報モジュール ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認 RMモジュール	RANGE (100)	（　　）	（　　）	
	時定数 100(SEC)	(SEC)	(SEC)	
	警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
AMP&SCA モジュール	MODE (POS)	（　　）	（　　）	
	COARSE GAIN	（　　）	（　　）	
	FINE GAIN	(目盛)	(目盛)	
	WINDOW	(目盛)	(目盛)	
	BASE LINE	(目盛)	(目盛)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Pu－1）R－125 SER. No. ――――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
高圧電源モジュール	高圧設定値 -100(V)	(V)	(V)	
ダストサンプラ	流量 60(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
7．指示値の測定		(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF21

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－1施設）　　1／1

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－1）モックアップ室 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 6E+1(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6E+3(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	6E+4(cpm) RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計にてF.S.±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	（cpm）	（cpm）	使用線源
	αダスト 計数値	（cpm）	（cpm）	（　　）
	効率 10(%) 以上	（%）	（%）	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 3E+2(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	6E+3(cpm) DRMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	RMにてF.S.±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	RMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報パネル 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認	RANGE (100)	（　　）	（　　）	
RMモジュール	時定数 100(SEC)	（SEC）	（SEC）	
	警報レベル (cpm)	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 1100(V)	（V）	（V）	
ダストサンプラ	流量 60(ℓ/min)	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
7．指示値の測定		（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11AAF22

点検整備記録書

改　訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－1施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－1）新ウラン SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	1E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+5(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	1E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	(協-1195)
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	0 ～ 80 (ℓ/min)	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報変換器 ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常がないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．測定モードの確認	0P(1)	0P（　　）	0P（　　）	
DRMモジュール	RANGE 1 ×10⁴	RANGE（　×　）	RANGE（　×　）	
	警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 850(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Pu－1）新ウラン SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
警報変換器	ピンードピン（無）	有・無（　　）	有・無（　　）	
サンプリングユニット	流量　70(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
8．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF23

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－2施設）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－2）RMO SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	6E+1(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	2E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	2E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	2E+6(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	監視盤 ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	(Pu-2)ロビー ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	(Pu-2)監視室 ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認 DRMモジュール	警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	時定数 (SLOW)	（　　）	（　　）	
高圧電源モジュール	高圧設定値 1050(V)	(V)	(V)	
監視盤	バイパススイッチ OFF	（　　）	（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器No.	TAG No.（Pu－2）RMO SER. No. ――――

項目	基準	設定値	点検値	備考
ダストサンプラ	流量 250(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	吸引機 ON	(　　)	(　　)	
7．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11AAF24

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（PWSF施設）　　1／1

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（Pu－1）PWSF SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 6E+1(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にてF.S.±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 3E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにてF.S.±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	RMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示パネル ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認	RANGE 1×10^2	（　　）	（　　）	
RMモジュール	時定数 100(SEC)	(SEC)	(SEC)	
	警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 750(V)	(V)	(V)	
ダストサンプラ	流量 250(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
7．指示値の測定		(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF25

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（M棟，第2ｳﾗﾝ貯蔵庫施設）　　1／1

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（　　）排気 SER. No. ————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	6E+1(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にてF.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 3E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにて F.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作（高レベル）	RMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報パネル 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場居室パネル ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	守衛所パネル ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認	RANGE (30)	（　　）	（　　）	
RMモジュール	時定数 100(SEC)	(SEC)	(SEC)	
	警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 1100(V)	(V)	(V)	
ダストサンプラ	流量 60(ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
7．指示値の測定		(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF26

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（L棟施設）　　1／1

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（L棟）排気 SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値			
	6E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+4(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±4(%)以内 記録計にて±0.16(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値			
	3E+2(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) DRMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	DRMにて±1digit以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	DRMモジュール ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報表示パネル ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	現場居室パネル ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
	守衛所パネル ランプ 音	良・否（　　）	良・否（　　）	
リセット動作	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．測定モードの確認 DRMモジュール	RANGE	（　　）	（　　）	
	警報レベル（cpm）	(cpm)	(cpm)	
高圧電源モジュール	高圧設定値 (V)	(V)	(V)	
7．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAF27

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　設置場所（応用試験棟）

機器名	排気モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（応用試験棟）排気 SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量 αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値 6E+1(cpm) RMの指示値	(cpm) (cpm)	(cpm) (cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にてF.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	6E+1(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
βダスト	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+4(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にてF.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．感度試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	αダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	
	BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率 15(%) 以上	(%)	(%)	
5．警報系試験 警報設定精度	設定値 3E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
αダスト	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにてF.S. ±10(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	排気モニタ	機器 No.	TAG No.（応用試験棟）排気 SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
βダスト	3E+2(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	6E+3(cpm) RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	RMにてF.S. ±10(%) 以内	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
警報動作確認				
通常動作 高レベル	RM モジュール αダスト ランプ	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
	βダスト ランプ	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
	警報表示パネル ランプ 音	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
	現場居室パネル ランプ 音	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
リセット動作	異常がないこと	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
6．測定モードの確認	αダスト RANGE (30)	(　　)	(　　)	
	αダスト 時定数 (100)	(　　)	(　　)	
	αダスト 警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	αダスト 高圧設定値 700(V)	(cpm)	(cpm)	
	αダスト サンプリング流量(60ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	βダスト RANGE (30)	(　　)	(　　)	
	βダスト 時定数 (100)	(　　)	(　　)	
	βダスト 警報レベル (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	βダスト 高圧設定値 700(V)	(cpm)	(cpm)	
	βダスト サンプリング流量(60ℓ/min)	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
7．指示値の測定	αダスト	(cpm)	(cpm)	
	βダスト	(cpm)	(cpm)	

管理番号	
整理番号	11AAG01

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（再処理工場）

機器名	ダスト・ガスモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（MP） SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．点検前の指示値の確認	記録計の指示値及び流量		(cpm)	(cpm)	
		βダスト	(cpm)	(cpm)	
		よう素	(cpm)	(cpm)	
		流量サンプリングユニット	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
3．指示計と記録計の指示精度	入力値				
βダスト	1×10^3cpm	RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
		RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	1×10^5cpm	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
		RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	5×10^6cpm	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3dec以内		良・否（　）	良・否（　）	
よう素	1×10^3cpm	RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
		RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	1×10^5cpm	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
		RMの指示値	(cpm)	(cpm)	
	5×10^6cpm	記録計の指示値	(cpm)	(cpm)	
	記録計にて±0.3dec以内		良・否（　）	良・否（　）	
	記録計にて±0.3dec以内		良・否（　）	良・否（　）	
4．感度測定	βダスト	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源（協－1220）
		計数値	(cpm)	(cpm)	
		効率 10(%)以上	(%)	(%)	
	よう素	BG値 50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
		計数値	(cpm)	(cpm)	（協－1220）
		効率 10(%)以上	(%)	(%)	
5．関連動作確認 総流量可変範囲	0(ℓ/min) ～100(ℓ/min)		良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	ダスト・ガスモニタ	機器No.	TAG. No.（MP） SER. No. ――

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．警報系試験 警報設定精度	設定値			
βダスト	2×10^{2}cpm RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	2×10^{4}cpm RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	2×10^{6}cpm RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	RMにて±0.2dec以内	良・否（　）	良・否（　）	
よう素	2×10^{2}cpm RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	2×10^{4}cpm RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	2×10^{6}cpm RMの指示値	（cpm）	（cpm）	
	記録計の指示値	（cpm）	（cpm）	
	RMにて±0.2dec以内	良・否（　）	良・否（　）	
警報動作確認				
通常動作 RMアラーム	RMﾓｼﾞｭｰﾙ βダスト ﾗﾝﾌﾟ	良・否（　）	良・否（　）	
	よう素 ﾗﾝﾌﾟ	良・否（　）	良・否（　）	
	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ（現） ﾗﾝﾌﾟ 音	良・否（　）	良・否（　）	
	警報論理回路ﾓｼﾞｭｰﾙ（HP） 音	良・否（　）	良・否（　）	
リセット動作	異常がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
7．測定モードの確認				
RMモジュール βダスト	RANGE （×1）	RANGE （×　）	RANGE （×　）	
	警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
よう素	RANGE （×1）	RANGE （×　）	RANGE （×　）	
	警報レベル（cpm）	（cpm）	（cpm）	
高圧電源モジュール 高圧設定値	βダスト710 （V）	（V）	（V）	
	よう素 710 （V）	（V）	（V）	
サンプリングユニット	流量 （ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	ドライポンプ動作 ON・OFF	（　）	（　）	
8．指示値の測定	βダスト	（cpm）	（cpm）	
	よう素	（cpm）	（cpm）	

管理番号	
整理番号	11IAA01

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所

機器名	HPパネル・RMパネル	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（　　） SER. No.———	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．盤内照明	照明が点灯すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．冷却用ファン	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．パネル内整線状態の確認	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	11IAB01

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所

機器名	HPデスク・RMデスク	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（　　） SER. No.————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．冷却用ファン	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．デスク内整線状態の確認	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	11IAC01

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（CB施設）

機器名	警報表示盤	承認		年月日	
機器No.	TAG No.（CB） SER. No.——	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．低圧電源の測定 1） 表示ユニット部	5.0(V)　±0.2(V)以内	(V)	(V)	
	12.0(V)　±0.5(V)以内	(V)	(V)	
2） 表示コントローラ部	5.0(V)　±0.2(V)以内	(V)	(V)	
	24.0(V)　±1.0(V)以内	(V)	(V)	
3．警報表示動作の確認	正常に動作すること TAG 表示	良・否（　）	良・否（　）	
	警報音 吹鳴	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	11IMAK1

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（再処理工場）

機器名	非常退避警報	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. ―――― SER. No. ――――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．警報動作確認	正常に動作すること			
1）ｴﾚｸﾄﾘｯｸﾎｰﾝ MP.ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾃﾞｽｸ		良・否（　）	良・否（　）	
水処理パネル		良・否（　）	良・否（　）	
CBｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ		良・否（　）	良・否（　）	
G220放射線監視卓		良・否（　）	良・否（　）	
AAF ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ		良・否（　）	良・否（　）	
2）ｻｲﾚﾝ 高ﾚﾍﾞﾙ固体廃棄物処理場		良・否（　）	良・否（　）	
ｽﾗｯｼﾞ貯蔵庫		良・否（　）	良・否（　）	
ﾎﾞﾝﾋﾞﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ		良・否（　）	良・否（　）	
ｳﾗﾝ貯蔵所		良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	11IAAK1

点検整備記録書

改訂

検査名（総合検査）　　設置場所（再処理工場）

機器名	ドアモニタ	承認		年月日	
場所	主工場（MP）	調査		点検者名	

項目 / TAG No.	点検清掃	警報系動作				備考
		表示盤	HPデスク	現場	プロセスコントロールデスク	
1	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
2	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
3	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
4	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
5	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
6	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
7	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
8	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
9	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
10	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
11	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
12	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
13	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
14	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
15	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
16	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
17	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
18	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
19	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
20	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
21	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
22	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
23	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
24	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
25	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	

点検整備記録書

機器名	ドアモニタ	年月日		点検者名		承認		調査	
場所	廃棄物処理場（ＡＡＦ）								

項目 / TAG No.	点検清掃	警報系動作				備考
		表示盤	HPデスク	現場	プロセスコントロールパネル	
1	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
2	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
3	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
4	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
5	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
6	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
7	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
8	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
9	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
10	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
11	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
12	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
13	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
14	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
15	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
16	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	

場所	分析所（ＣＢ）	年月日		点検者名		承認		調査	

項目 / TAG No.	点検清掃	警報系動作				備考
		表示盤	HPデスク	現場	プロセスコントロールパネル	
1	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
2	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
3	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
4	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
5	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
6	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
7	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
8	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	
9	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	良否（　）	

管理番号	
整理番号	14JAA01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	γ線エリアモニタ検出器（RD212）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器				
1）増幅度の測定	入力 300(mV)10倍以上	(倍)	(倍)	
2）最大出力の測定	5(V)以上	(V)	(V)	
3）直線性の測定	入力 100 (mV)	(V)	(V)	
	200 (mV)	(V)	(V)	
	300 (mV)	(V)	(V)	
4）雑音	入力0V 300μVRMS以下	(μVRMS)	(μVRMS)	
3．プラトー特性試験				
1）計数開始電圧の測定	350(V)以下	(V)	(V)	
2）プラトー領域	150(V)以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）プラトー傾斜	5(%)/100(V) 以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．γ線照射				
1）直線性	1.0 ×10^{-5}(mSv/h/cpm) ±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）再現性	指示値に変化のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）大線量照射	10(mSv/h) 照射時よりも指示が大きいこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．内部線源計数値				
1）計数値の測定	1000±200(cpm)以内	(cpm)	(cpm)	
2）動作確認	指示値に変化のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

(V)	(CPM)	(V)	(CPM)
300		300	
350		350	
400		400	
450		450	
500		500	
550		550	
600		600	
使用電圧時のBG	(CPM)		

管理番号	
整理番号	14JAA02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	γ線エリアモニタ検出器（RD225）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器 1）増幅度の測定	入力 300(mV)10倍以上	(倍)	(倍)	
2）最大出力の測定	5(V)以上	(V)	(V)	
3）直線性の測定	入力 100 (mV)	(V)	(V)	
	200 (mV)	(V)	(V)	
	300 (mV)	(V)	(V)	
4）雑音	入力0V 300μVRMS以下	(μVRMS)	(μVRMS)	
3．プラトー特性試験 1）計数開始電圧の測定	350(V)以下	(V)	(V)	
2）プラトー領域	150(V)以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）プラトー傾斜	5(%)/100(V) 以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．γ線照射 1）直線性	1.0×10^{-5}(mSv/h/cpm) ±0.3(dec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）再現性	指示値に変化のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）大線量照射	10(mSv/h) 照射時よりも指示が大きいこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．内部線源計数値 1）計数値の測定	1000±200(cpm)以内	(cpm)	(cpm)	
2）動作確認	指示値に変化のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

(V)	(CPM)	(V)	(CPM)
300		300	
350		350	
400		400	
450		450	
500		500	
550		550	
600		600	
使用電圧時のBG	(CPM)		

管理番号	
整理番号	14JAB01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所（CPF）　　1／1

機器名	中性子線エリアモニタ検出器（RD402）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器				
1）最大利得の測定	1.5(V/10^{-13}C) 以上	(V/10^{-13}C)	(V/10^{-13}C)	
2）最小利得の測定	1.0(V/10^{-13}C) 以下	(V/10^{-13}C)	(V/10^{-13}C)	
3）雑音の測定	5.0(V×10^{-10}C)以下	(C)	(C)	
4）最大出力の測定	5(V) 以上	(V)	(V)	
5）直線性の測定	入力 1 (V)	(V)	(V)	
	2 (V)	(V)	(V)	
	3 (V)	(V)	(V)	
	4 (V)	(V)	(V)	
	5 (V)	(V)	(V)	
	最大出力5Vの±3(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．プラトー特性試験	1）プラトー領域（200%以上）	(V)	(V)	
	2）プラトー傾斜（5%/100V以下）	(%/100V)	(%/100V)	
4．中性子線照射試験	1）ディスクリレベル設定	(V)	(V)	
	2）感度試験 B.G値(10cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	計数値	(cpm)	(cpm)	（　　）
	感度1.0(cps/nV) 以上	(cps/nV)	(cps/nV)	別添グラフ
	3）直線性	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．γ線照射試験	影響のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	使用線源（　　）
6．チェック動作		(cpm)	(cpm)	ゲイン（　×　）

1500		1500	
1550		1550	
1600		1600	
1650		1650	
1700		1700	
1750		1750	
1800		1800	
使用電圧時のBG		(CPM)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14JAB02

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	中性子線エリアモニタ検出器（RD405）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器の増幅度測定	設定 10.0(倍)	最大　(倍) 最小　(倍) 設定　(倍)	最大　(倍) 最小　(倍) 設定　(倍)	
3．プラトー特性試験 1) プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
2) プラトー傾斜	15(%)/100(V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
3) BG値の測定	10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
4．中性子線源照射試験	BG値 10(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源 （　　）
	感度	(mSv/h/cpm)	(mSv/h/cpm)	別添グラフ
	直線性	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．γ線照射試験	影響のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	使用線源 （　　）

(V)	(cpm)	(V)	(cpm)
2200		2200	
2250		2250	
2300		2300	
2350		2350	
2400		2400	
2450		2450	
2500		2500	
2550		2550	
2600		2600	
使用電圧時のBG		(cpm)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14JAC01

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機　器　名	α線ダストモニタ検出器（RD622B）	承認		年 月 日	
機　器　No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設　定　値	点　検　値	備　　考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器				
2.1 最大利得	2.0×10^{13}(V/C) 以上	(V/C)	(V/C)	
2.2 最小利得	1.5×10^{13}(V/C) 以下	(V/C)	(V/C)	
2.3 雑音の測定	5.0×10^{-16}(C)以下	(C)	(C)	
2.4 最大出力の測定	75（Ω）負荷5V以上	(V)	(V)	
2.5 直線性の測定	最大出力5Vの±3%以内			
	入力 1 (V)	(V)	(V)	
	2 (V)	(V)	(V)	
	3 (V)	(V)	(V)	
	4 (V)	(V)	(V)	
	5 (V)	(V)	(V)	
		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	分解能　400keV以下	(keV)	(keV)	
4．計数効率測定	BG値	(cpm)	(cpm)	使用線源
	計数率	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効　率　10(%) 以上	(%)	(%)	
5．ノイズレベルの確認	AMP出力　500(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

管理番号	
整理番号	14JAD01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	β線ダストモニタ検出器（RD213）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器 1）増幅度の測定	入力300mV 10倍以上	(倍)	(倍)	
2）雑音の測定	入力0V 300μVRMS以下	(μVRMS)	(μVRMS)	
3）最大出力の測定	5V以上	(V)	(V)	
4）直線性	入力 100 (mV)	(V)	(V)	
	200 (mV)	(V)	(V)	
	300 (mV)	(V)	(V)	
	300mV 入力時の出力電圧の±3%以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．プラトー特性試験 1）計数開始電圧の測定	650V 以下	(V)	(V)	
2）プラトー領域	150V 以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）プラトー傾斜	15%/100V以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．窒息防止回路の確認	1.0×10^{-6}(cpm) 以上	(cpm)	(cpm)	
	動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．検出効率測定	BG値	(cpm)	(cpm)	使用線源（協一　　）
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率10(%) 以上	(%)	(%)	
	感度 1.1×10^{-2}(Bq/cm²/cpm) 以上	(Bq/cm²/cpm)	(Bq/cm²/cpm)	

(V)	(cpm)	(V)	(cpm)
600		600	
650		650	
700		700	
750		750	
800		800	
850		850	
900		900	
使用電圧時のBG		(CPM)	

管理番号	
整理番号	14JAD02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気β線ダストモニタ検出器（RD372）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないと ネジの緩みがないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器				
1） 増幅度の測定		良・否（　　）	良・否（　　）	
	最小利得：　10倍以下	（倍）	（倍）	
	最大利得：　100倍以上	（倍）	（倍）	
2） 雑音の測定		良・否（　　）	良・否（　　）	
	入力換算：300（μVRMS）以下	（μVRMS）	（μVRMS）	
3） 出力波形の測定		良・否（　　）	良・否（　　）	
	出力波高：約11.5(V)	(V)	(V)	
	パルス幅：5±2(μsec)以内	（μsec）	（μsec）	
4） 直線性	30(mV)入力時出力±3(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	入力 30（mV）	(V)	(V)	
	入力 20（mV）	(V)	(V)	
	入力 10（mV）	(V)	(V)	
5） ディスクリ電圧の測定	弁別動作に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	設定値　150（mV）	（mV）	（mV）	
3．検出効率の測定	U_3O_8線源にて15(%) 以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
	B.G 値	（cpm）	（cpm）	
	計数値	（cpm）	（cpm）	
	検出効率	(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	14JAE01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	Puダストモニタ検出器（RD622B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器				
2.1 最大利得	2.0×10^{13}(V/C) 以上	(V/C)	(V/C)	
2.2 最小利得	1.5×10^{13}(V/C) 以下	(V/C)	(V/C)	
2.3 雑音の測定	5.0×10^{-16}(C)以下	(C)	(C)	
2.4 最大出力の測定	75（Ω）負荷5V以上	(V)	(V)	
2.5 直線性の測定	最大出力5Vの±3%以内			
	入力 1 (V)	(V)	(V)	
	2 (V)	(V)	(V)	
	3 (V)	(V)	(V)	
	4 (V)	(V)	(V)	
	5 (V)	(V)	(V)	
		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	分解能　400keV以下	(keV)	(keV)	
4．計数効率測定	BG値	(cpm)	(cpm)	使用線源
	計数率	(cpm)	(cpm)	（　　）
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
5．ノイズレベルの確認	AMP出力　500(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

管理番号	
整理番号	14JAE02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	Puダストモニタ検出器（RM－344）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	2.0×10^{13}(V/C) 以上	(V/C)	(V/C)	
2.2 最小利得	1.5×10^{13}(V/C) 以下	(V/C)	(V/C)	
2.3 雑音の測定	5.0×10^{-16}(C)以下	(C)	(C)	
2.4 最大出力の測定	75（Ω）負荷5V以上	(V)	(V)	
2.5 直線性の測定	最大出力5Vの±3%以内			
	入力　1　(V)	(V)	(V)	
	2　(V)	(V)	(V)	
	3　(V)	(V)	(V)	
	4　(V)	(V)	(V)	
	5　(V)	(V)	(V)	
		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	分解能　400keV以下	(keV)	(keV)	
4．計数効率測定	BG値	(cpm)	(cpm)	使用線源 （　　）
	計数率	(cpm)	(cpm)	
	効率　10(%) 以上	(%)	(%)	
5．ノイズレベルの確認	AMP 出力　500(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

管理番号	
整理番号	14JAF01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気αダスト検出器（RD－361Z）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器				
1）最大利得の測定	(33倍以上)	(倍)	(倍)	
2）最小利得の測定	(15倍以下)	(倍)	(倍)	
3）雑音の測定	(100μV RMS 以下)	(μV RMS)	(μV RMS)	
4）最大出力の測定	(5V以上)	(V)	(V)	
5）直線性の測定	入力 1 (V)	(V)	(V)	
	2 (V)	(V)	(V)	
	3 (V)	(V)	(V)	
	4 (V)	(V)	(V)	
	5 (V)	(V)	(V)	
	最大出力5(V)の±1%以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．検出効率の測定	BG値 (cpm)	(cpm)	(cpm)	使用線源（　　）
	計数値 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	効率 10(%) 以上	(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	14JAF02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ZnSシンチレーション検出器（ZD1005B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅部 1）増幅度確認	（約0.95倍）	（倍）	（倍）	
2）直線性確認	入力　－1　（V）	（V）	（V）	
	－2　（V）	（V）	（V）	
	－4　（V）	（V）	（V）	
	－6　（V）	（V）	（V）	
	－8　（V）	（V）	（V）	
	－10　（V）	（V）	（V）	
	最大出力の±5%以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）最大出力確認	-10(V)以上	（V）	（V）	
4）プリアンプの良・否	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．検出器出力波形の確認	波高値　（V）	（V）	（V）	
	パルス幅　（μsec）	（μsec）	（μsec）	
4．バックグラウンド測定	1（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	
5．計数効率の測定	計数値（cpm）	（cpm）	（cpm）	
	効率10（%）以上	（%）	（%）	

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＦ０３

点検整備記録書

改　訂

検査名　　設置場所

機器名	前置増幅器 （ＰＡＭ－１０２４）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	(良・否)　良	(良・否)　良	
2．増幅度測定		(倍)	(倍)	
3．直線性の測定	-100mV	(V)	(V)	
	-200mV	(V)	(V)	
	-300mV	(V)	(V)	
	-400mV	(V)	(V)	
	-500mV	(V)	(V)	
4．最大出力の測定	-9(V)以上	(V)	(V)	
5．ディスクリレベルの測定	-300±10mV	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

改訂

管理番号	
整理番号	14JAF04

検査名（回路試験）　　設置場所（Pu工場、濃縮施設）　　

機器名	排気α線ダストモニタ検出器（NFL11001）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器 2.1 最大利得	5(V)±20(%)	(V)	(V)	
2.2 利得調整	粗調スイッチ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	微調スイッチ	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.3 雑音	250(mV_{p-p}) 以下	(mV_{p-p})	(mV_{p-p})	
2.4 最大出力	5(V)以上	(V)	(V)	
2.5 直線性	入力 1(V)	(V)	(V)	
	2(V)	(V)	(V)	
	3(V)	(V)	(V)	
	4(V)	(V)	(V)	
	4(V)入力時出力電圧±1(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．検出効率測定	BG値(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	計数値(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	効率 10(%)以上	(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	14JAG01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気β線ダストモニタ検出器（RD361Z）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．前置増幅器 1） 増幅度の測定	入力300mV 10倍以上	(倍)	(倍)	
2） 雑音の測定	入力0V 300μVRMS以下	(μV RMS)	(μV RMS)	
3） 最大出力の測定	5V以上	(V)	(V)	
4） 直線性	入力 100 (mV)	(V)	(V)	
	200 (V)	(V)	(V)	
	300 (V)	(V)	(V)	
	300mV 入力時の出力電圧の±3%以内	良・否（　）	良・否（　）	
3．プラトー特性試験 1） 計数開始電圧の測定	650V以下	(V)	(V)	
2） プラトー領域	150V以上	良・否（　）	良・否（　）	
3） プラトー傾斜	15%/100V以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．窒息防止回路の確認	80(mSv/h)時5×10⁴(cpm以上)	(cpm)	(cpm)	
	動作	良・否（　）	良・否（　）	
5．検出効率測定	BG値	(cpm)	(cpm)	使用線源 （協－　　）
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	効率10(%) 以上	(%)	(%)	

(V)	(cpm)	(V)	(cpm)
600		600	
650		650	
700		700	
750		750	
800		800	
850		850	
900		900	
使用電圧時のBG		(cpm)	

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＧ０２

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気β線ダストモニタ検出器（ＲＤ３７２）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．前置増幅器		良・否（　）	良・否（　）	
1） 増幅度の測定	最小利得： 10倍以下	（倍）	（倍）	
	最大利得：100倍以上	（倍）	（倍）	
2） 雑音の測定		良・否（　）	良・否（　）	
	入力換算：300（μVRMS）以下	（μVRMS）	（μVRMS）	
3） 出力波形の測定		良・否（　）	良・否（　）	
	出力波高：約11.5(V)	(V)	(V)	
	パルス幅：5±2(μsec)以内	（μsec）	（μsec）	
4） 直線性	30(mV)入力時出力±3(%)以内	良・否（　）	良・否（　）	
	入力 30(mV)	(V)	(V)	
	入力 20(mV)	(V)	(V)	
	入力 10(mV)	(V)	(V)	
5） ディスクリ電圧の測定	弁別動作に異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
	設定値　150(mV)	(mV)	(mV)	
3．検出効率の測定	U_3O_8線源にて15(%) 以上	良・否（　）	良・否（　）	
	B.G 値	(cpm)	(cpm)	
	計数値	(cpm)	(cpm)	
	検出効率	(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	14JAG03

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所（応用試験棟）

機器名	GM管検出器	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．検出器出力波形の確認	波高値　(V)	(V)	(V)	
	パルス幅（μsec.）	（μsec.）	（μsec.）	
3．バックグラウンド測定	100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
4．計数効率の測定	25(%) 以上	(%)	(%)	
5．プラトー特性試験	プラトー領域 150(V) 以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
	プラトー傾斜10(%) 以下	(%)	(%)	

計数開始電圧	(V)	(V)
印加電圧	計数値	計数値
600	(cpm)	(cpm)
650	(cpm)	(cpm)
700	(cpm)	(cpm)
750	(cpm)	(cpm)
800	(cpm)	(cpm)
850	(cpm)	(cpm)

管理番号	
整理番号	14JAG04

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所（応用試験棟）

機器名	前置増幅器（PAM1025）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅度確認	約0.95倍	（倍）	（倍）	
3．直線性確認	入力　-0.2(V)	(V)	(V)	
	-0.4(V)	(V)	(V)	
	-0.6(V)	(V)	(V)	
	-0.8(V)	(V)	(V)	
	-1.0(V)	(V)	(V)	
4．最大出力確認	-1.0(V) 以上	(V)	(V)	
5．ディスクリレベルの確認	-100(mV)±10(mV)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＨ０１

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気よう素(129) 検出器 （ＳＰ－２０）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器 1）最大利得	(7.5倍以上)	(倍)	(倍)	
2）最小利得	(0.3倍以下)	(倍)	(倍)	
3）雑音の測定	(100μV RMS 以下)	(μV RMS)	(μV RMS)	
4）最大出力の測定	(2.5V 以上)	(V)	(V)	
5）直線性	入力 0.5 (V)	(V)	(V)	
	1.0 (V)	(V)	(V)	
	1.5 (V)	(V)	(V)	
	2.0 (V)	(V)	(V)	
	2.5 (V)	(V)	(V)	
	最大出力2.5Vの±1%以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	分解能　40(%) 以下	(%)	(%)	グラフ添付
	直線性　直線上に乗ること	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	ＢＧ値(cpm)　100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	効率　2(%) 以上	(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＨ０２

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気よう素検出器（ＲＤ３６１１Ｇ２）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器 1）最大利得	2.8倍以上	（倍）	（倍）	
2）最小利得	0.6倍以下	（倍）	（倍）	
3）雑音の測定	100（μVRMS）以下	（μV RMS）	（μV RMS）	
4）最大出力の測定	2.5(V)以上	(V)	(V)	
5）直線性	入力 0.5 (V)	(V)	(V)	
	1.0 (V)	(V)	(V)	
	1.5 (V)	(V)	(V)	
	2.0 (V)	(V)	(V)	
	2.5 (V)	(V)	(V)	
	最大出力2.5Vの±1%以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	よう素 129 分解能 40(%)以下	(%)	(%)	グラフ添付 使用線源
	よう素 129 直線性	良・否（　　）	良・否（　　）	（　　）
	よう素 131 分解能 12(%)以下	(%)	(%)	使用線源
	よう素 131 直線性	良・否（　　）	良・否（　　）	（　　）
4．計数効率測定	よう素 129 BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	よう素 129 計数率　(cpm)	(cpm)	(cpm)	（　　）
	よう素 129 効率 2(%) 以上	(%)	(%)	
	よう素 131 BG値100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	使用線源
	よう素 131 計数率　(cpm)	(cpm)	(cpm)	（　　）
	よう素 131 効率 2(%) 以上	(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	14JAI01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気よう素（131）検出器（RD－361N）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器 1）最大利得	15倍以上	(倍)	(倍)	
2）最小利得	0.6倍以下	(倍)	(倍)	
3）雑音の測定	100(μV RMS)以下	(μV RMS)	(μV RMS)	
4）最大出力の測定	5.0(V)以上	(V)	(V)	
5）直線性	入力 1.0 (V)	(V)	(V)	
	2.0 (V)	(V)	(V)	
	3.0 (V)	(V)	(V)	
	4.0 (V)	(V)	(V)	
	5.0 (V)	(V)	(V)	
	最大出力5.0(V)の±1(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	分解能　12(%) 以下	(%)	(%)	グラフ添付
	直線性　直線上に乗ること	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数効率測定	BG値 100(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	計数値 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	効率 2(%) 以上	(%)	(%)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14JAJ01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気クリプトン（低）検出器（RD214）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器 1） 増幅器の測定	入力300mV　10倍以上	（倍）	（倍）	
2） 雑音の測定	入力0V 300μVRMS以下	（μVRMS）	（μVRMS）	
3） 最大出力の測定	5V以上	（V）	（V）	
4） 直線性	入力 100（mV）	（V）	（V）	
	200（mV）	（V）	（V）	
	300（mV）	（V）	（V）	
	300mV 入力時の出力電圧の±3%	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．プラトー特性試験 1） 計数開始電圧	800(V)以下	（V）	（V）	
2） プラトー領域	150(V)以上	（V）	（V）	
3） プラトー傾斜	8(%/100V) 以下	（%/100V）	（%/100V）	
	BG値　50(cpm) 以下	（cpm）	（cpm）	
4．窒息防止回路の確認	5.0×10^{5}(cpm)以上	（cpm）	（cpm）	
	動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．検出感度測定	1.85×10^{-3}(Bq/cm³/cpm)以上	（μci/cm³cpm）	（μci/cm³cpm）	

(V)	(cpm)	(V)	(cpm)
800		800	
850		850	
900		900	
950		950	
1000		1000	
1050		1050	
1100		1100	

使用電圧時のBG	(cpm)

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＫ０１

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気クリプトン（高）検出器 （ＲＤ－３６１Ｎ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器 1）最大利得	15倍以上	(倍)	(倍)	
2）最小利得	0.6倍以下	(倍)	(倍)	
3）雑音の測定	100(μVRMS)以下	(μVRMS)	(μVRMS)	
4）最大出力の測定	5.0(V)以上	(V)	(V)	
5）直線性	入力 1.0 (V)	(V)	(V)	
	2.0 (V)	(V)	(V)	
	3.0 (V)	(V)	(V)	
	4.0 (V)	(V)	(V)	
	5.0 (V)	(V)	(V)	
	最大出力5.0(V)の±1(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．校正試験	分解能　12(%) 以下	(%)	(%)	
	直線性　直線上に乗ること	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．検出感度測定		(Bq/cm³/cpm)	(Bq/cm³/cpm)	

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＬ０１

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	排気クリプトン（広帯域）検出器（ＲＤ３８１）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．前置増幅器 1）ＣＦＣ部直線性	出力基準値±15(%) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
	入力電流 -1×10^{-10}	出力基準 1×10^{0}	(cps)	(cps)
	入力電流 -1×10^{-8}	出力基準 1×10^{2}	(cps)	(cps)
	入力電流 -1×10^{-8}	出力基準 1×10^{4}	(cps)	(cps)
	入力電流 -1×10^{-4}	出力基準 1×10^{6}	(cps)	(cps)
2）テストパルス入出力試験	出力基準値±15(%) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
	入力電流 -1×10^{-10}	出力基準 1×10^{0}	(cps)	(cps)
	入力電流 -1×10^{-8}	出力基準 1×10^{2}	(cps)	(cps)
	入力電流 -1×10^{-6}	出力基準 1×10^{4}	(cps)	(cps)
	入力電流 -1×10^{-4}	出力基準 1×10^{6}	(cps)	(cps)
3）出力波形観測		良・否（　）	良・否（　）	
	パルス波高 2(V) 以上	(V)	(V)	
	パルス幅約500(nsec) 参考値	(nsec)	(nsec)	
3．検出感度測定	1.5×10^{-3}(Bq/cc/cpm) 以下 （詳細は添付実流試験結果参照）	良・否（　） (Bq/cc/cpm)	良・否（　） (Bq/cc/cpm)	

管理番号	
整理番号	１４ＪＡＭ０１

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所（ASP，ASP-ST施設）

機器名	ガスモニタ検出器（ＲＤ１３０９）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．実流試験	校正定数	(A/(Bq/cm²))	(A/(Bq/cm²))	別添グラフ参照

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAA01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	定電圧低圧電源 （D－302）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	（±12V±0.5%以内）			
入力電圧AC100V	無負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
	2A負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
3．電圧変動の測定	（±12V±0.5%以内）			
(1) 入力電圧AC90V	無負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
	2A負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
(2) 入力電圧AC110V	無負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
	2A負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
4．リップルノイズの測定	（3mVp-p以下） ＋12V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	－12V	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．最大容量の確認	36W以上の事	良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KAA02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	定電圧低圧電源（D－309）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	（±0.5%以内）			
(1) ＋24V	無負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
	1A負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
(2) －24V	無負荷時	－　(V)	－　(V)	
	1A負荷時	－　(V)	－　(V)	
(3) ＋12V	無負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
	2A負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
(4) －12V	無負荷時	－　(V)	－　(V)	
	2A負荷時	－　(V)	－　(V)	
3．電圧変動の測定	（±0.5%以内）			
1) ±24V (a) 入力電圧AC90V	無負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
	1A負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
(b) 入力電圧AC110V	無負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
	1A負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
2) ±12V (a) 入力電圧AC90V	無負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
	2A負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
(b) 入力電圧AC110V	無負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	
	2A負荷時	＋　(V)	＋　(V)	
		－　(V)	－　(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	定電圧低圧電源 （D－３０９）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
4．リップルノイズの測定	(3mVp-p以下) ＋24V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	－24V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	＋12V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	－12V	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．最大容量の確認	72W以上の事	良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	１４ＫＡＡ０３

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	定電圧低圧電源 （Ｄ－３１０）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	（±6V±0.5%以内）			
	無負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
		－　　(V)	－　　(V)	
	5A負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
	1A負荷時	－　　(V)	－　　(V)	
3．電圧変動率の測定				
1）AC入力電圧90V				
(1) ＋6V	（＋6V±0.5%以内）			
	無負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
	5A負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
(2) －6V	（－6V, ±0.5%以内）			
	無負荷時	－　　(V)	－　　(V)	
	1A負荷時	－　　(V)	－　　(V)	
2）AC入力電圧110V				
(1) ＋6V	（＋6V±0.5%以内）			
	無負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
	5A負荷時	＋　　(V)	＋　　(V)	
(2) －6V	（－6V, ±0.5%以内）			
	無負荷時	－　　(V)	－　　(V)	
	1A負荷時	－　　(V)	－　　(V)	
4．リップルノイズの測定	（3mVp-p以下） ＋6V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	－6V	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．最大容量の確認	（36W以上の事）	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14KAA04

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	定電圧低圧電源（NFV）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	（±0.5%以内）			
(1) +24V	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
	1A負荷時	+ (V)	+ (V)	
(2) −24V	無負荷時	− (V)	− (V)	
	1A負荷時	− (V)	− (V)	
(3) +12V	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
	2A負荷時	+ (V)	+ (V)	
(4) −12V	無負荷時	− (V)	− (V)	
	2A負荷時	− (V)	− (V)	
3．電圧変動の測定	（±0.5%以内）			
1) ±24V (a) 入力電圧AC90V	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
	1A負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
(b) 入力電圧AC110V	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
	1A負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
2) ±12V (a) 入力電圧AC90V	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
	2A負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
(b) 入力電圧AC110V	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	
	2A負荷時	+ (V)	+ (V)	
		− (V)	− (V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源（NFV）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
4．リップルノイズの測定	(3mVp-p以下) +24V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	−24V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12V	(mVp-p)	(mVp-p)	
	−12V	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．最大容量の確認	72W以上の事	良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KAA05

点検整備記録書

改　訂

検査名　　設置場所

機器名	低圧電源モジュール （AM－8301BM）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		（良・否）　良	（良・否）　良	
2．出力電圧の確認	基準電圧の±3%以内				
	+24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	+12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	+6(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
3．電圧変動の測定	出力電圧の±1%以内 AC入力電圧90(V)				
	+24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	+12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	+6(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	AC入力電圧100(V)				
	+24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	+12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	低圧電源モジュール （AM－８３０１BM）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	-12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
	+6(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
4．リップルノイズの測定	30(mVp-p) 以内	+24(V)	(mV)	(mV)	
		-24(V)	(mV)	(mV)	
		+12(V)	(mV)	(mV)	
		-12(V)	(mV)	(mV)	
		+6(V)	(mV)	(mV)	

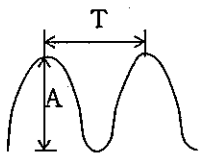
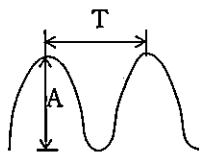
点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14KAB01

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	低圧電源 （Ru813)(Ru814－G2）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧測定 出力端子				
TN－5		A　(V)	(V)	
TN－6		T　(mSec)	(mSec)	
TN－7		(V)	(V)	
TN－8				
TN－9		A　(V)	(V)	
TN－10		T　(mSec)	(mSec)	
TN－3	24(V)	(V)	(V)	
TN－4				
TN－1		(V)	(V)	
TN－2				
3．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

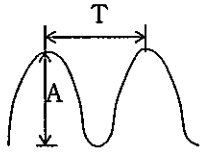
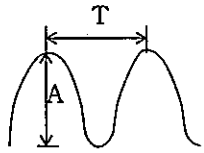
点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAB02

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	低圧電源 （RU－817／818）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧測定 出力端子				
J2	Bℓ24(V)			
3		A　(V)	(V)	
4		T　(mSec)	(mSec)	
	DC24(V)			
1		(V)	(V)	
2				
J3	Bℓ6(V)			
3		A　(V)	(V)	
4		T　(mSec)	(mSec)	
	DC12(V)			
1		(V)	(V)	
2				
5	DC90(V)	(V)	(V)	
6				
3．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAB03

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	低圧電源（RU825）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧測定 出力端子 J2．A．B	出力電圧　12(V)	(V)	(V)	
	リップル	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．絶縁抵抗測定	100MΩ以上	(MΩ)	(MΩ)	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧測定 出力端子 J2．A．B	出力電圧　12(V)	(V)	(V)	
	リップル	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．絶縁抵抗測定	100MΩ以上	(MΩ)	(MΩ)	

管理番号	
整理番号	14KAB04

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	低圧電源 （NM011960－G1－G2）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認 出力電圧	G1 24V±2V	(V)	(V)	
	G2 12V±1.5V	(V)	(V)	
リップル	G1 0.5Vp-p以下	(Vp-p)	(Vp-p)	
	G2 0.5Vp-p以下	(Vp-p)	(Vp-p)	
3．絶縁抵抗測定		(MΩ)	(MΩ)	

機器No.	TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認 出力電圧	G1 24V±2V	(V)	(V)	
	G2 12V±1.5V	(V)	(V)	
リップル	G1 0.5Vp-p以下	(Vp-p)	(Vp-p)	
	G2 0.5Vp-p以下	(Vp-p)	(Vp-p)	
3．絶縁抵抗測定		(MΩ)	(MΩ)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAC01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	高圧電源 （D－152A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧 負荷電流1mA時の出力可変範囲	100V～2000V 以上	～ (V)	～ (V)	
3．電圧設定精度の確認	(F・S の1%以内)			
1） 測定点 0	500V(500±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	1000V(1000±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
2） 測定点1000	1500V(500±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	2000V(1000±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
4．負荷変動リップルノイズの測定				
1） 出力電圧1000V	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷1mA時 (無負荷時±0.2%)	(V)	(V)	
2） 出力電圧2000V	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷1mA時 (無負荷時±0.2%)	(V)	(V)	
3） リップルノイズ	2000V 1mA 時 (100mVp-p以下)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	1000V 1mA 時 (50mVp-p以下)	(mVp-p)	(mVp-p)	

管理番号	
整理番号	14KAC02

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	5KV高圧電源 （D－503）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧	負荷電流0.5mA時の出力可変範囲 100V ～ 5000V 以上	～　　(V)	～　　(V)	
3．電圧設定精度の確認				
	200目盛(1000±37.5V)	(V)	(V)	
	400目盛(2000±37.5V)	(V)	(V)	
	600目盛(3000±37.5V)	(V)	(V)	
	800目盛(4000±37.5V)	(V)	(V)	
	1000目盛(5000±37.5V)	(V)	(V)	
	FS±0.75(%)　　(±37.5V)	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．負荷変動リップルノイズの測定				
1）出力電圧2000V	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷0.5mA時 (無負荷時±0.05%)	(V)	(V)	
2）出力電圧5000V	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷0.5mA時 (無負荷時±0.05%)	(V)	(V)	
3）リップルノイズ	2000V 0.5mA 時 (50mVpp以下)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	5000V 0.5mA 時 (50mVpp以下)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAC03

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	高圧電源 （D－504）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧 負荷電流3(mA) 時の出力可変範囲	−50(V) ～−1000(V) 以上	～ (V)	～ (V)	
3．電圧設定精度の確認	(F・Sの1%以内)			
	100(V)　(100±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	200(V)　(200±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	400(V)　(400±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	600(V)　(600±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	800(V)　(800±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
	1000(V)　(1000±10目盛)	(目盛)	(目盛)	
4．負荷変動及びリップルノイズの測定				
1)　出力電圧-1000(V)	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷3(mA)時 (無負荷時±0.05(%) 以内)	(V)	(V)	
2)　リップルノイズ	1000(V) 1(mA) 時 (5(mVp-p)以内)	(V) (mVp-p)	(V) (mVp-p)	

管理番号	
整理番号	14KAC04

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	3KV高圧電源（NFV210）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧	負荷電流0.2mA時の出力可変範囲 200V～3000V 以上	～ (V)	～ (V)	
3．電圧設定精度の確認	50目盛　(500±20V)	(V)	(V)	
	100目盛　(1000±20V)	(V)	(V)	
	150目盛　(1500±30V)	(V)	(V)	
	200目盛　(2000±40V)	(V)	(V)	
	250目盛　(2500±50V)	(V)	(V)	
	300目盛　(3000±60V)	(V)	(V)	
4．負荷変動リップルノイズの測定				
1)　出力電圧 1000V	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷0.2mA時(無負荷時±0.1%)	(V)	(V)	
2)　出力電圧 2000V	無負荷時	(V)	(V)	
	負荷0.2mA時(無負荷時±0.1%)	(V)	(V)	
3)　リップルノイズ	2000V 0.2mA 時 (50mVpp以下)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	1000V 0.2mA 時 (50mVpp以下)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAC05

改訂

検査名　　設置場所

機器名	高圧電源モジュール （AM－81M52B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		（良・否）　良	（良・否）　良	
2．出力電圧の確認	F.S. ±1(%)以内		(V)	(V)	
3．電圧設定精度の確認	F.S. ±1(%)以内 レンジ0～1000V ダイアル目盛	200目盛	(V)	(V)	
		600目盛	(V)	(V)	
		1000目盛	(V)	(V)	
	レンジ 500～1500V ダイアル目盛	200目盛	(V)	(V)	
		600目盛	(V)	(V)	
		1000目盛	(V)	(V)	
	メータ指示値 F.S. ±2.5(%)以内		（良・否）　良	（良・否）　良	
4．負荷変動リップルノイズの測定	500μA 負荷時 無負荷時±0.1(%)以内		(V)	(V)	
	リップルノイズ10mVp-p以下		(mV)	(mV)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAD01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	線形増幅器（D－129）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．利得の測定 1）出力測定	×1	2	(mV)	(mV)	
		8	(mV)	(mV)	
		32	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
	×4	2	(mV)	(mV)	
		8	(V)	(V)	
		32	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
2）最大出力電圧	正出力	10V以上	(V)	(V)	
	負出力	-10V以上	(V)	(V)	
判定			良・否（　　）	良・否（　　）	
3．波形整形時定数の測定			(μsec)	(μsec)	
4．雑音の測定	入力換算雑音　3.5（μV）以下		(μV)	(μV)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAD02

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	線形増幅器 (D－129A)	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．利得の測定 1） 出力測定	×1	2	(mV)	(mV)	
		8	(mV)	(mV)	
		32	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
		512	(V)	(V)	
	×4	2	(mV)	(mV)	
		8	(V)	(V)	
		32	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
		512	(V)	(V)	
2） 最大出力電圧	正出力	10V以上	(V)	(V)	
	負出力	-10V以上	(V)	(V)	
判定			良・否（　　）	良・否（　　）	
3．波形整形時定数の測定			(μsec)	(μsec)	
4．雑音の測定	入力換算雑音　3.5（μV）以下		(μV)	(μV)	

管理番号	
整理番号	14KAE01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	シングルチャンネル波高分析器（D－104）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認				
LLDモード	LLDモード ダイアル目盛 900目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 700目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 500目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 300目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 50目盛	(V)	(V)	
ULDモード Emax	ULDモード ダイアル目盛 900目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 700目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 500目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 300目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 50目盛	(V)	(V)	
ULDモード ΔE 0.5V	ULDモード ダイアル目盛 800目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 600目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛 400目盛	(V)	(V)	
	判定 FS±1.0 %以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．分解能の測定	LLD	(nsec)	(nsec)	
	300(nsec) 以下 ULD	(nsec)	(nsec)	

管理番号	
整理番号	14KAE02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ユニバーサルシングルチャンネル波高分析器（D－521）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認				
LLDモード	BASE ダイアル目盛　900目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　700目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　500目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　300目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　50目盛	(V)	(V)	
ULDモード	WINDOW（BASE30目盛に設定） ダイアル目盛　870目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　670目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　470目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　270目盛	(V)	(V)	
	ダイアル目盛　20目盛	(V)	(V)	
	判定　FS±10%以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．分解能の測定	DISC	(μsec)	(μsec)	
	0.3(μsec)以下　SCA	(μsec)	(μsec)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAF01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	直線ゲート（D－116）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直線性	入力	2.0V	(V)	(V)	
		4.0V	(V)	(V)	
		6.0V	(V)	(V)	
3．ディレイタイムの測定			(μsec)	(μsec)	
4．立ち上がり立ち下がり時間の測定	立ち上がり時間		(nsec)	(nsec)	
	立ち下がり時間		(nsec)	(nsec)	
5．ペデスタブルの測定	ペデスタブル		(mV)	(mV)	
	ベースライン		(mV)	(mV)	
	ペデスタブルスイッチン	正	＋ (mV)	＋ (mV)	
	グノイズ	負	－ (mV)	－ (mV)	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直線性	入力	2.0V	(V)	(V)	
		4.0V	(V)	(V)	
		6.0V	(V)	(V)	
3．ディレイタイムの測定			(μsec)	(μsec)	
4．立ち上がり立ち下がり時間の測定	立ち上がり時間		(nsec)	(nsec)	
	立ち下がり時間		(nsec)	(nsec)	
5．ペデスタブルの測定	ペデスタブル		(mV)	(mV)	
	ベースライン		(mV)	(mV)	
	ペデスタブルスイッチン	正	＋ (mV)	＋ (mV)	
	グノイズ	負	－ (mV)	－ (mV)	

管理番号	
整理番号	14KAG01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	対数計数率計 （D－304）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力レベルの確認	最小レベル 0.2(V) 以下 最高レベル10.0(V) 以上 設定レベル 1.0(V)	良・否（　　） 良・否（　　） (V)	良・否（　　） 良・否（　　） (V)	
3．非直線性の確認				

レンジ	入力値	設定値	点検値
×1	指示値 10 (cpm) 記録計 0 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^2(cpm) 2.5 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^3(cpm) 5.0 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^4(cpm) 7.5 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^5(cpm) 10.0 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
×100	指示値 10^3(cpm) 記録計 0 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^4(cpm) 2.5 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^5(cpm) 5.0 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^6(cpm) 7.5 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)
	10^7(cpm) 10.0 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)

規定値	指示値±0.2(dec)以内 6.5×10^n ～16.0×10^n(cpm)	良・否（　　）	良・否（　　）
	記録計±0.5(mV) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）
TEST動作	指示値10^4 (cpm)	(cpm)	(cpm)
	出力7.5 ±0.5 (mV)	(mV)	(mV)
	記録計 7.6×10^3～1.3×10^4 (cpm)	(cpm)	(cpm)
4．EXT METER の確認	F・Sの時 1.0(mA)	(mA)	(mA)
5．警報回路の確認	低レベルアラーム	良・否（　　）	良・否（　　）
	高レベルアラーム	良・否（　　）	良・否（　　）

管理番号	
整理番号	１４ＫＡＧ０２

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所（Ｐｕ燃料工場・濃縮施設）

機器名	線形計数率計（ＮＦＲ－１）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
１．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
２．最高入力感度	100(mV) 以下		(mV)	(mV)	
３．アンプゲイン可変範囲	５以上				
４．テストパルスの周波数測定	500±1(Hz) 以内		(Hz)	(Hz)	
５．指示校正 5.1 テストパルスによるF.S.とゼロ調整	ずれのないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
5.2 指示校正	指示値 F.S. ±3(%)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
	記録計出力 ±0.3(mV) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
	レンジ	基準値			
	10^2	指示値 0(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 0.0(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 0.5×10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 5.0(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 1.0×10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.0(mV)	(mV)	(mV)	
	10^3	指示値 0.5×10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 5.0(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 1.0×10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.0(mV)	(mV)	(mV)	
	10^4	指示値 0.5×10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 5.0(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 1.0×10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.0(mV)	(mV)	(mV)	
	10^5	指示値 0.5×10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 5.0(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 1.0×10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.0(mV)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	線形計数率計（NFR－1）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	レンジ	基準値			
	30	指示値 0(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 0.0(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 1×10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 3.33(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 2×10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 6.66(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 3×10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.00(mV)	(mV)	(mV)	
	3×10^2	指示値 1×10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 3.33(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 2×10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 6.66(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 3×10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.00(mV)	(mV)	(mV)	
	3×10^3	指示値 1×10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 3.33(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 2×10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 6.66(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 3×10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.00(mV)	(mV)	(mV)	
	3×10^4	指示値 1×10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 3.33(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 2×10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 6.66(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 3×10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.00(mV)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	線形計数率計（NFR－1）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	レンジ	基準値			
	3×10^5	指示値 1×10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 3.33(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 2×10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 6.66(mV)	(mV)	(mV)	
		指示値 3×10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		記録計 10.00(mV)	(mV)	(mV)	
6．時定数の測定	レンジ	許容範囲(sec)			
	100	80～250	(sec)	(sec)	
	30	24～75	(sec)	(sec)	
	10	8～25	(sec)	(sec)	
	3	2.4～7.5	(sec)	(sec)	
	1	0.8～2.5	(sec)	(sec)	
	0.3	1 以下	(sec)	(sec)	
	0.1	1 以下	(sec)	(sec)	
7．EXT. METERの確認	1.00±0.01(mA)以内		(mA)	(mA)	
8．警報動作の確認	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
	警報設定精度 FS ±5(%)以内		良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	１４ＫＡＧ０３

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所（応用試験棟・ＰＷＳＦ）

機器名	リニアカウントレートメータ（ＡＭ－４３Ｍ１０）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリレベルの確認	-1±0.2(V)以内	(V)	(V)	
3．ＣＡＬ指示値の確認	3000±500(cpm)以内	(cpm)	(cpm)	
4．レートメータ直線性の確認 4.1 レートメータ指示値の確認	F.S. ±10(%) 以内			

レンジ	入力値(cpm)	設定値	点検値
×30	10	(cpm)	(cpm)
	20	(cpm)	(cpm)
	30	(cpm)	(cpm)
×100	30	(cpm)	(cpm)
	60	(cpm)	(cpm)
	90	(cpm)	(cpm)
×300	100	(cpm)	(cpm)
	200	(cpm)	(cpm)
	300	(cpm)	(cpm)
×1k	300	(cpm)	(cpm)
	600	(cpm)	(cpm)
	900	(cpm)	(cpm)
×3k	1000	(cpm)	(cpm)
	2000	(cpm)	(cpm)
	3000	(cpm)	(cpm)
×10k	3000	(cpm)	(cpm)
	6000	(cpm)	(cpm)
	9000	(cpm)	(cpm)
×30k	10000	(cpm)	(cpm)
	20000	(cpm)	(cpm)
	30000	(cpm)	(cpm)

点検整備記録書

機器名	リニアカウントレートメータ（AM－43M10）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	レンジ	入力値(cpm)			
	×100k	30000	(cpm)	(cpm)	
		60000	(cpm)	(cpm)	
		90000	(cpm)	(cpm)	
4.2 レコーダ出力電圧の確認	F.S.±1(mV) 以内				
	レンジ	入力値(cpm)			
	×30	10	(mV)	(mV)	
		20	(mV)	(mV)	
		30	(mV)	(mV)	
	×100	30	(mV)	(mV)	
		60	(mV)	(mV)	
		90	(mV)	(mV)	
	×300	100	(mV)	(mV)	
		200	(mV)	(mV)	
		300	(mV)	(mV)	
	×1k	300	(mV)	(mV)	
		600	(mV)	(mV)	
		900	(mV)	(mV)	
	×3k	1000	(mV)	(mV)	
		2000	(mV)	(mV)	
		3000	(mV)	(mV)	
	×10k	3000	(mV)	(mV)	
		6000	(mV)	(mV)	
		9000	(mV)	(mV)	
	×30k	10000	(mV)	(mV)	
		20000	(mV)	(mV)	
		30000	(mV)	(mV)	
	×100k	30000	(mV)	(mV)	
		60000	(mV)	(mV)	
		90000	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	リニアカウントレートメータ （AM－43M10）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5．時定数測定	1(sec.)±50(%) 以内	(sec)	(sec)	
	10(sec.)±50(%) 以内	(sec)	(sec)	
	100(sec.)±50(%) 以内	(sec)	(sec)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAH01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	デジタルレートメータ（D－321）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力レベルの確認	最小レベル 0.2V 以下 最高レベル12.0V 以上 設定レベル 2.0V		(V) (V) (V)	(V) (V) (V)	
3．非直線性の確認					
	レンジ	入力値	設定値	点検値	
	×1	指示値 1 (cpm) 記録計 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10 (cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^2(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^3(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^4(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
	×10	指示値 10^3(cpm) 記録計 (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^4(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^5(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^6(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		10^7(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
	規定値	指示値 ±0.1(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
		記録計 ±0.2(mV) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TEST動作	指示値 10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		出力 (mV)	(mV)	(mV)	
		記録計630~1600 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
4．警報回路の確認	高レベルアラーム		良・否（　　）	良・否（　　）	
	低レベルアラーム		良・否（　　）	良・否（　　）	
5．デジタル出力の確認			良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAH02

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	デジタルレートメータ（RU738）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．アナログ出力用比較電圧の確認	4.902(V)±0.070(V)	(V)	(V)	
3．クロック周波数確認	2(Hz)±0.002(Hz)	(Hz)	(Hz)	
4．入力レベルの確認	最小レベル 最大レベル 設定レベル　2.00V	良・否（　　） 良・否（　　） (V)	良・否（　　） 良・否（　　） (V)	
5．非直線性の確認	レンジ　入力値	設定値	点検値	
	F1E5　指示値 10 (CPM)　記録計 0 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^2(CPM) 2.5 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^3(CPM) 5.0 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^4(CPM) 7.5 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^5(CPM) 10.0 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	F1E7　指示値 10^3(CPM)　記録計 0 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^4(CPM) 2.5 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^5(CPM) 5.0 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^6(CPM) 7.5 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
	10^7(CPM) 10.0 (mV)	(CPM) (mV)	(CPM) (mV)	
規定値	指示値　±4 (%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	記録計　±0.3(mV) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．TEST動作の確認	正常に動作すると	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．警報回路の確認	HHアラーム	良・否（　　）	良・否（　　）	
	Hアラーム	良・否（　　）	良・否（　　）	
	Lアラーム	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．DRM Bus伝送動作確認		良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KAH03

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所（Pu燃施設）

機器名	デジタルレートメータ（NFW）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．アンプゲインの確認	最小　0.5倍以下 最高　1.5倍以上 設定値　1.0倍		(倍) (倍) (倍)	(倍) (倍) (倍)	
3．ディスクリレベル直線性の確認	0.5(V) 1.0(V) 3.0(V) 5.0(V)				
	F.S. ±1.0(%)　以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．非直線性とレンジマーカ出力の確認	レンジ	入力値			
	10	指示値　0 (cpm) 記録計　0.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		3 (cpm) 3.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		6 (cpm) 6.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		9 (cpm) 9.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力　7.60(mV)	(mV)	(mV)	
	10^2	0.3 $\times 10^2$(cpm) 3.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		0.6 $\times 10^2$(cpm) 6.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		0.9 $\times 10^2$(cpm) 9.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力　8.40(mV)	(mV)	(mV)	
	10^3	0.3 $\times 10^3$(cpm) 3.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		0.6 $\times 10^3$(cpm) 6.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		0.9 $\times 10^3$(cpm) 9.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力　9.20(mV)	(mV)	(mV)	
	10^4	0.3 $\times 10^4$(cpm) 3.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		0.6 $\times 10^4$(cpm) 6.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	

点検整備記録書

機器名	デジタルレートメータ（NFW）	機器No.	TAG. No.（　　） SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
		0.9 ×10⁴(cpm) 9.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		1.0 ×10⁴(cpm) 10.00(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力 10.00(mV)	(mV)	(mV)	
	3 ×10	1 ×10 (cpm) 3.33(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		2 ×10 (cpm) 6.66(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力 8.00(mV)	(mV)	(mV)	
	3 ×10²	1 ×10²(cpm) 3.33(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		2 ×10²(cpm) 6.66(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力 8.80(mV)	(mV)	(mV)	
	3 ×10²	1 ×10³(cpm) 3.33(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		2 ×10³(cpm) 6.66(mV)	(cpm) (mV)	(cpm) (mV)	
		ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力 9.60(mV)	(mV)	(mV)	
	指示値 F.S. ±1(%)以内		良・否（　）	良・否（　）	
	記録計出力 F.S. ±1(%)以内		良・否（　）	良・否（　）	
	ﾚﾝｼﾞﾏｰｶ出力 F.S. ±1.5(%)以内		良・否（　）	良・否（　）	
5．テスト動作の確認	CAL動作		良・否（　）	良・否（　）	CAL 6.29 ×10⁷
	CHECK動作		良・否（　）	良・否（　）	
	TRIP動作		良・否（　）	良・否（　）	TRIP1.00×10⁴
6．EXT. METERの確認	出力電流 1.0±0.015(mA) 以内		(mA)	(mA)	
7．時定数の確認	SLOW		(sec)	(sec)	
	MIDD		(sec)	(sec)	
	FAST		(sec)	(sec)	
8．警報出力の確認	正常に動作すること	HH AL.	良・否（　）	良・否（　）	
		H AL.	良・否（　）	良・否（　）	
		L AL.	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAH04

改訂

検査名　　設置場所

機器名	デジタル計数率計モジュール（AM−42M03R）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		(良・否)　良	(良・否)　良	
2．オペレート動作の確認	異常のないこと		(良・否)　良	(良・否)　良	
3．入出力直線性試験	入力値				
	指示値	1.0E2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	記録計出力	0.0(mV)	(mV)	(mV)	
		1.0E3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		2.5(mV)	(mV)	(mV)	
		1.0E4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		5.0(mV)	(mV)	(mV)	
		1.0E5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		7.5(mV)	mV	(mV)	
		1.0E6(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10.0(mV)	(mV)	(mV)	
	指示値	±1(%)以内	(良・否)　良	(良・否)　良	
	記録計	± 0.2(mV)以内	(良・否)　良	(良・否)　良	
4．テスト動作の確認	異常のないこと		(良・否)　良	(良・否)　良	
5．レンジマーカ出力の確認	レンジ	基準値			
	1.0E4	4.0(mV)	(mV)	(mV)	
	1.0E5	5.0(mV)	(mV)	(mV)	
	1.0E6	6.0(mV)	(mV)	(mV)	
	1.0E7	7.0(mV)	(mV)	(mV)	
	基準値	±0.4(mV) 以内	(良・否)　良	(良・否)　良	
6．時定数の測定	1.0E5	1〜2(sec)	(sec)	(sec)	
	1.0E4	1〜4(sec)	(sec)	(sec)	
	1.0E3	24(sec)±30(%)	(sec)	(sec)	
	1.0E2	240(sec)±30(%)	(sec)	(sec)	
7．警報回路の確認	Hアラーム	2.0E4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Lアラーム	2.0E1(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	正常に動作すること		(良・否)　良	(良・否)　良	

管理番号	
整理番号	14KAI01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	カウンタ（Ru742）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリ電圧の確認	1.0(V)±0.01(V)		(V)	(V)	
3．クロック周波数の確認	1(MHz)±1(KHz)		(Hz)	(Hz)	
	500(Hz)±0.5(Hz)		(Hz)	(Hz)	
	10(Hz)±0.01(Hz)		(Hz)	(Hz)	
	2(Hz)±0.002(Hz)		(Hz)	(Hz)	
4．移動平均処理値の確認	入力	100 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		101 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		103 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		105 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		107 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	判定		良・否（　　）	良・否（　　）	
5．DRM　Bus伝送動作確認			良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KAJ01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	デュアルカウンタ（D－542）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクレベルの確認	設定レベル	Aカウンタ	(V)	(V)	
	2.0(V)±10(%)	Bカウンタ	(V)	(V)	
3．計数動作の確認	入力周波数の±1(%)以内 Aカウンタ	1×10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Bカウンタ	1×10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
4．分解能の測定	100(nsec)	Aカウンタ	(nsec)	(nsec)	
		Bカウンタ	(nsec)	(nsec)	
5．ゲート動作の確認	Aカウンタ	ゲート開	(V)	(V)	
		ゲート閉	(V)	(V)	
	Bカウンタ	ゲート開	(V)	(V)	
		ゲート閉	(V)	(V)	
6．操作モードの確認			良・否（　　）	良・否（　　）	
7．データ出力動作の確認			良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAK01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	デュアルカウンタ／タイマ（D－541）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作の確認					
	1×10^{0}	0.1±0.1			
	1×10^{1}	1.0±0.1			
	1×10^{2}	10.0±0.1			
	1×10^{3}	100.0±0.1			
	1×10^{4}	1000.0±0.1			
3．ディスクリレベルの確認	設定レベル 2.0(T)±10(%) 以内	Aカウンタ	(V)	(V)	
		Bカウンタ	(V)	(V)	
4．計数動作の確認	入力周波数の±0.1(%)以内				
	Aカウンタ	1×10^{1} (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^{3} (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^{5} (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Bカウンタ	1×10^{1} (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^{3} (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^{5} (cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．クロックパルスの確認	10HZの分周	ｾﾚｸﾄA100000			
		ｾﾚｸﾄB10.0			
	1/6HZ の分周	ｾﾚｸﾄA600000			
		ｾﾚｸﾄB1.00			
6．分解能の測定	約100(nsec)	Aカウンタ	(nsec)	(nsec)	
		Bカウンタ	(nsec)	(nsec)	
7．ゲート動作の確認	Aカウンタ	ゲート開	(V)	(V)	
		ゲート閉	(V)	(V)	
	Bカウンタ	ゲート開	(V)	(V)	
		ゲート閉	(V)	(V)	
			良・否（　　）	良・否（　　）	
8．操作モードの確認			良・否（　　）	良・否（　　）	
9．データ出力動作の確認			良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14KAK02

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	デュアルカウンタ／タイマ（D－110A）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　目	基　準		設 定 値	点 検 値	備　考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．プリセット動作の確認	0.1	1±1 カウント	(count)	(count)	
	1	10±1 カウント	(count)	(count)	
	10	100±1 カウント	(count)	(count)	
	100	1000±1 カウント	(count)	(count)	
	1000	10000±1 カウント	(count)	(count)	
3．ディスクリレベルの確認	設定レベル 2.0(V)±10(%) 以内	Aカウンタ	(V)	(V)	
		Bカウンタ	(V)	(V)	
4．計数動作の確認	入力周波数の±0.1(%)以内 Aカウンタ	1×10^1 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Bカウンタ	1×10^1 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		1×10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
5．クロックパルスの確認	10Hzの分周	ｾﾚｸﾄA100000			
		ｾﾚｸﾄB100			
	1/6Hz の分周	ｾﾚｸﾄA600000			
		ｾﾚｸﾄB10			
6．分解能の測定	約200(nsec)	Aカウンタ	(nsec)	(nsec)	
		Bカウンタ	(nsec)	(nsec)	
7．ゲート動作の確認	Aカウンタ	ゲート開	(V)	(V)	
		ゲート閉	(V)	(V)	
			良・否（　）	良・否（　）	
8．操作モードの確認	ディスプレイ	ON	良・否（　）	良・否（　）	
		OFF	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KAQ02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	信号切換器（RU718S）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．入力切換動作の確認	OFF	良・否（　）	良・否（　）	
	1	良・否（　）	良・否（　）	
	2	良・否（　）	良・否（　）	
	3	良・否（　）	良・否（　）	
	4	良・否（　）	良・否（　）	
	5	良・否（　）	良・否（　）	
	6	良・否（　）	良・否（　）	
	7	良・否（　）	良・否（　）	
	8	良・否（　）	良・否（　）	
	9	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAR01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	信号変換器（RU717）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．動作の確認	（　　） ピンボードピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
3．ランプチェック動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．動作の確認	（　　） ピンボードピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
3．ランプチェック動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KAR02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	信号変換器（RU723）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．動作の確認	（　　） ピンボードピン				
		有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン				
		有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
3．ランプチェック動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．動作の確認	（　　） ピンボードピン				
		有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン				
		有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
3．ランプチェック動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAR03

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	信号変換器（RU969）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．動作の確認	PC1（　）				
	ピンボードピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	PC2（　）				
	ピンボードピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	PC3（　）				
	ピンボードピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAS01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	警報変換器（RU740）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
2．レギュレータ出力の確認	5(V)±0.5(V)以内		(V)	(V)	
	10(mVp-p)以内		(mVp-p)	(mVp-p)	
3．アラーム動作の確認	HH，H，L　アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
	T　アラームピン	有	良・否（　）	良・否（　）	
		無	良・否（　）	良・否（　）	
4．リセット動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	
5．TEST動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	
6．CHECK信号動作の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	
7．システムテスト入力の確認	正常に動作すること		良・否（　）	良・否（　）	

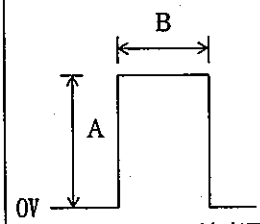
点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAT01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	V／F変換器（RU714）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．V／F変換回路の確認	入力電流　4(mA)　TP6　0(V)		(V)	(V)	
	入力電流 20(mA)　TP6　5(V)		(V)	(V)	
	入力電流　4(mA)TP7　0(KHz)		(KHz)	(KHz)	
	入力電流 20(mA)TP7 11.1(KHz)		(KHz)	(KHz)	
3．分周回路の確認	1/10⁴ に分周されていること		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．直線性の確認	入力電流 （カウンタ出力） （記録計出力）	4(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		8(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		12(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		16(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		20(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
	F・S±2(%) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
5．出力波形の確認	入力20(mA)時  A：波高電圧(V) B：波幅		(V)	(V)	
			(msec)	(msec)	

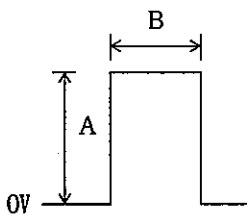
点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAT02

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	V／F変換器（RU734B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直線性の確認	入力電流 （カウンタ出力） （記録計出力）	4(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		8(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		12(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		16(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
		20(mA)	(c/10min)	(c/10min)	
			(mV)	(mV)	
	F・S±2(%) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．出力波形の確認	入力20(mA)時  A：波高電圧 5±2(V) B：波幅 5±1(μsec) (75Ω負荷時)		(V)	(V)	
			(μsec)	(μsec)	

管理番号	
整理番号	14KAU01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ラインドライバー（RU704）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入出力の確認高速用	10^1 cpm	No.2　よう素用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　クリプトン 用	(cpm)	(cpm)	
	10^3 cpm	No.2　よう素用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　クリプトン用	(cpm)	(cpm)	
	10^5 cpm	No.2　よう素用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　クリプトン 用	(cpm)	(cpm)	
低速用	10^1 cpm	No.1　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		No.1　クリプトン 用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		主排気筒流量用	(cpm)	(cpm)	
	10^3 cpm	No.1　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		No.1　クリプトン 用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		主排気筒流量用	(cpm)	(cpm)	
	10^5 cpm	No.1　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		No.1　クリプトン 用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		主排気筒流量用	(cpm)	(cpm)	
	入力に対して　±0.1(%)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．出力波形の確認		No.1　ダスト用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.1　クリプトン 用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.2　ダスト用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.2　よう素用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.2　クリプトン 用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		主排気筒流量用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
	判　定		良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KAV01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ラインレシーバー（RU119）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入出力の確認高速用	10^1 cpm	No.2　よう素用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(cpm)	(cpm)	
	10^3 cpm	No.2　よう素用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(cpm)	(cpm)	
	10^5 cpm	No.2　よう素用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(cpm)	(cpm)	
低速用	10^1 cpm	No.1　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		No.1　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		主排気筒流量用	(cpm)	(cpm)	
	10^3 cpm	No.1　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		No.1　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		主排気筒流量用	(cpm)	(cpm)	
	10^5 cpm	No.1　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		No.1　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(cpm)	(cpm)	
		No.2　ダスト用	(cpm)	(cpm)	
		主排気筒流量用	(cpm)	(cpm)	
	ｱﾅﾛｸﾞ用 1.0V	No.1 ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ流量	(V)	(V)	
		No.2 ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ流量	(V)	(V)	
	入力に対して　±0.1(%)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．出力波形の確認		No.1　ダスト用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.1　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.2　ダスト用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.2　よう素用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		No.2　ｸﾘﾌﾟﾄﾝ用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
		主排気筒流量用	(V)　(μs)	(V)　(μs)	
	判定		良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	１４ＫＡＷ０１

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	アラームロジック（Ｄ－３０６）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．出力信号の確認	AL-1　TEST　OFF	(V)	(V)	
	AL-2　TEST　OFF	(V)	(V)	
	AL-1　TEST　ON	(V)	(V)	
	AL-2　TEST　ON	(V)	(V)	
3．アラーム出力確認 音の確認	CH-1	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-2	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-3	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-4	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-5	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-6	良・否（　）	良・否（　）	
光の確認	動作に異常ないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．リセット動作の確認	動作に異常ないこと	良・否（　）	良・否（　）	

ＴＡＧ No. ＳＥＲ. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．出力信号の確認	AL-1　TEST　OFF	(V)	(V)	
	AL-2　TEST　OFF	(V)	(V)	
	AL-1　TEST　ON	(V)	(V)	
	AL-2　TEST　ON	(V)	(V)	
3．アラーム出力確認 音の確認	CH-1	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-2	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-3	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-4	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-5	良・否（　）	良・否（　）	
	CH-6	良・否（　）	良・否（　）	
光の確認	動作に異常ないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．リセット動作の確認	動作に異常ないこと	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KAW02

点検整備記録書

改　訂

検査名　　設置場所

機器名	警報出力モジュール（AM－91M01B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		(良・否)　良	(良・否)　良	
2．アラーム動作確認	正常に動作すること				
		AL-IN 1	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 2	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 3	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 4	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 5	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 6	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 7	(良・否)　良	(良・否)　良	
		AL-IN 8	(良・否)　良	(良・否)　良	
3．リセット信号出力確認	正常に動作すること		(良・否)　良	(良・否)　良	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAX01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ワーニングセット（RU705）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ピンボードピン			
	有	良・否（　）	良・否（　）	
	無	良・否（　）	良・否（　）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ピンボードピン			
	有	良・否（　）	良・否（　）	
	無	良・否（　）	良・否（　）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ピンボードピン			
	有	良・否（　）	良・否（　）	
	無	良・否（　）	良・否（　）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ピンボードピン			
	有	良・否（　）	良・否（　）	
	無	良・否（　）	良・否（　）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ピンボードピン			
	有	良・否（　）	良・否（　）	
	無	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KAY01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	カウンタ・スキャナー（D－544）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．IB側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．機器側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．動作確認	モード AUTO	良・否（　）	良・否（　）	
	MANU	良・否（　）	良・否（　）	
	EXT	良・否（　）	良・否（　）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．IB側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．機器側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．動作確認	モード AUTO	良・否（　）	良・否（　）	
	MANU	良・否（　）	良・否（　）	
	EXT	良・否（　）	良・否（　）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．IB側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．機器側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．動作確認	モード AUTO	良・否（　）	良・否（　）	
	MANU	良・否（　）	良・否（　）	
	EXT	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KAY02

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	DRMスキャナ（RU739）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．クロック周波数の確認	TP6 1(MHz) ±1(KHz)	(Hz)	(Hz)	
	TP5 10(Hz)±0.01(Hz)	(Hz)	(Hz)	
3．電源断検出用比較電圧の測定	4.5(V)±0.01(V)	(V)	(V)	
4．ランプ／ブザーテスト動作の確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．GPIB/DRM BUS伝送動作の確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAZ01

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	制御リレーモジュール（RU−715A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAZ02

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	制御リレーモジュール（RU－715G1）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	
	TESTモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	
	TESTモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	
	TESTモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	
	TESTモード	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAZ03

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	制御リレーモジュール（RU－715G$_2$）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	測定モード	良・否（　）	良・否（　）	
	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	測定モード	良・否（　）	良・否（　）	
	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	測定モード	良・否（　）	良・否（　）	
	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認	調査	年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	測定モード	良・否（　）	良・否（　）	
	FC／Mモード	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KAZ04

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	制御リレーモジュール（RU－720A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	PIA ERROR	良・否（　）	良・否（　）	
	ろ紙交換中	良・否（　）	良・否（　）	
	PURGE	良・否（　）	良・否（　）	
	PUMP	良・否（　）	良・否（　）	
3．警報動作		良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KAB01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	デジタル・ポート（D－592）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ＩＢ側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．機器側入出力動作	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．押ボタン動作	ランプ表示	良・否（　）	良・否（　）	
	リモート表示	良・否（　）	良・否（　）	
	ローカル復帰	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KBB01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	現場警報器（RZ152）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

管理番号	
整理番号	14KBB02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	現場警報器（RZ165）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．音量可変動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KBB03

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	現場警報器 （NM01150／RU939）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ランプが点滅すること	良・否（　）	良・否（　）	
	音が鳴ることること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ランプが点滅すること	良・否（　）	良・否（　）	
	音が鳴ることること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ランプが点滅すること	良・否（　）	良・否（　）	
	音が鳴ることること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	ランプが点滅すること	良・否（　）	良・否（　）	
	音が鳴ることること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	

管理番号	
整理番号	１４ＫＢＪ０１

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	流量積算計 （Ｍ－６９４－Ｐ－Ｄ－２Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電流の直線性					
	流量率(n ℓ/min)	出力電流(mA)			
	0	4.0	(mA)	(mA)	
	20	7.2	(mA)	(mA)	
	40	10.4	(mA)	(mA)	
	60	13.6	(mA)	(mA)	
	80	16.8	(mA)	(mA)	
	100	20.0	(mA)	(mA)	
	直線性±0.2(mA) 以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．流量積算値の確認	70（ℓ/min）にて 120分間吸引時 Ｆ・Ｓ12.0m³±3(%)以内		(m³)	(m³)	
			(%)	(%)	

管理番号	
整理番号	14KBJ02

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	マスフローメータ （TF3121／TF5122）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電流の確認	流量率(Nℓ/min)	出力電流(mA)	(mA)	(mA)	
	0	4.0	(mA)	(mA)	
	20	7.2	(mA)	(mA)	
	40	10.4	(mA)	(mA)	
	60	13.6	(mA)	(mA)	
	80	16.8	(mA)	(mA)	
	100	20.0	(mA)	(mA)	
	直線性±0.32(mA)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．チェック動作の確認	流量率 50.0±2(Nℓ/min) 以内		(Nℓ/min)	(Nℓ/min)	
	出力電流12.0±0.32(mA)以内		(mA)	(mA)	

管理番号	
整理番号	14KBK01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所（再処理、CPF）

機器名	排気モニタサンプリングユニット（RM330／RZ133）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（　　） SER. No. ―――	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．様態の点検	異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．圧力計の校正 1）　指示精度	ｱﾝﾌﾟｻｰｼﾞ（kg/cm²）	圧力計(cmHg)			
	0.000	0.0	(cmHg)	(cmHg)	
	-0.272	20.0	(cmHg)	(cmHg)	
	-0.544	40.0	(cmHg)	(cmHg)	
	-0.816	60.0	(cmHg)	(cmHg)	
	-0.951	70.0	(cmHg)	(cmHg)	
	F.S. ±2.5(%)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	
2）　警報設定精度	接点出力　正常に作動すること		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．流量の校正		60（ℓ/min）	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
		80（ℓ/min）	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
5．漏洩の確認	漏洩がないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KBL01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ポンプユニット （RZ116）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．負圧警報動作	警報が出ること	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KBM01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	βサンプリングユニット（RM329）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．漏洩の確認	漏洩が無いこと	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．漏洩の確認	漏洩（無）	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正設定流量	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．漏洩の確認	漏洩が無いこと	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．漏洩の確認	漏洩が無いこと	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KBN01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	α線ダストサンプラ（RD622B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．流量制御の確認	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
5．漏洩の確認	漏洩が無いこと	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．流量制御の確認	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
5．漏洩の確認	漏洩（無）	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正設定流量	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．流量制御の確認	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
5．漏洩の確認	漏洩が無いこと	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. SER. No.	承認		調査		年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．様態の点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．流量の校正	60（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
	80（ℓ/min）	（ℓ/min）	（ℓ/min）	
4．流量制御の確認	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
5．漏洩の確認	漏洩が無いこと	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KBO01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ドライポンプ（KRS6／KRS8）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ベルトの点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．ポンプの音熱の異常	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．動作確認	流量可変範囲	良・否（　）	良・否（　）	
	警報接点動作	良・否（　）	良・否（　）	
5．絶縁抵抗測定	500(V)ﾒｶﾞｰ　100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
6．消費電流の測定	20(cmHg)　70(Nℓ/min) の時	(A)	(A)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ベルトの点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．ポンプの音熱の異常	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．動作確認	流量可変範囲	良・否（　）	良・否（　）	
	警報接点動作	良・否（　）	良・否（　）	
5．絶縁抵抗測定	500(V)ﾒｶﾞｰ　100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
6．消費電流の測定	20(cmHg)　70(Nℓ/min) の時	(A)	(A)	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ベルトの点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．ポンプの音熱の異常	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．動作確認	流量可変範囲	良・否（　）	良・否（　）	
	警報接点動作	良・否（　）	良・否（　）	
5．絶縁抵抗測定	500(V)ﾒｶﾞｰ　100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
6．消費電流の測定	20(cmHg)　70(Nℓ/min) の時	(A)	(A)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KBO02

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	吸引機	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ベルトの点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．動作確認	流　量（40～250Nℓ/min）以上	（Nℓ/min）	（Nℓ/min）	
	任意に設定	良・否（　）	良・否（　）	
	動　作	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗測定	100MΩ以上	（MΩ以上）	（MΩ以上）	
5．消費電流の測定		（A）	（A）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ベルトの点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．動作確認	流　量（40～250Nℓ/min）以上	（Nℓ/min）	（Nℓ/min）	
	任意に設定	良・否（　）	良・否（　）	
	動　作	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗測定	100MΩ以上	（MΩ以上）	（MΩ以上）	
5．消費電流の測定		（A）	（A）	

TAG. No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．ベルトの点検	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．動作確認	流　量（40～250Nℓ/min）以上	（Nℓ/min）	（Nℓ/min）	
	任意に設定	良・否（　）	良・否（　）	
	動　作	良・否（　）	良・否（　）	
4．絶縁抵抗測定	100MΩ以上	（MΩ以上）	（MΩ以上）	
5．消費電流の測定		（A）	（A）	

管理番号	
整理番号	14KBP01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所（Pu－3施設）

機器名	線量表示器（RZ350）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源電圧の確認	15(V) 15±0.5(V)以内	(V)	(V)	
	5(V) 5±0.5(V)以内	(V)	(V)	
3．入出力特性の確認	入力値　基準値 4(mA)　0.01　(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	8(mA)　0.10　(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	12(mA)　1.00　(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	16(mA)　10.00　(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	20(mA)　99.99　(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	±0.12(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．表示動作の確認 1）　オーバー入力時	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）　アンダー入力時	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．絶縁抵抗の測定	100MΩ以上	(MΩ)	(MΩ)	

管理番号	
整理番号	14KBQ01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	OMライン（RZ139）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.　施設名（CPF） SER. No.	調査		点検者名	

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
OM　1（2）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　2（2）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　3（2）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　4（2）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　5（3）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　6（3）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　7（3）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KBQ01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	OMライン（RZ139）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.　施設名（CB） SER. No.	調査		点検者名	

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
OM 1（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 7（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 8（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

TAG. No.	施設名（MP）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 7（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 8（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 9（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 10（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 11（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 12（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 13（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 14（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 15（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 16（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 17（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 18（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 19（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	OMライン（RZ139）	機器No.	TAG. No. SER. No.

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
OM 20（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 21（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 22（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 23（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

TAG. No.	施設名（MP）	年月日		点検者名	
OM 1（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

TAG. No.	施設名（MP）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 7（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 8（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
OM 9（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
(322) OM（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施設名	第3低放射性廃液処理施設（Z）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	OMライン（RZ139）	機器No.	TAG. No. SER. No.

施設名	放出廃液油分除去施設（C）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施設名	第2ウラン貯蔵庫（第2UO^3）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施設名	アスファルト固化処理(ASP, ASP-ST)	年月日		点検者名	
OM 1（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 7（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 8（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 9（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

TAG. No.	施設名（2ASP－ST）	年月日		点検者名	
OM 1（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	OMライン（RZ139）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

施 設 名	廃溶媒貯蔵場（Ws）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施 設 名	廃溶媒貯蔵場（Ws）	年月日		点検者名	
OM 1（4）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施 設 名	Kr回収技術開発施設（kr）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施 設 名	Pu転換技術開発施設(Pu-con)	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM CB1（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM CB2（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

施 設 名	廃溶媒処理技術開発施設（ST）	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM CB（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	OMライン（RZ139）	機器No.	TAG. No. SER. No.

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
施設名	Pu転換技術開発施設(Pu-con)	年月日		点検者名	
OM 1（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（3）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 7（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 8（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 9（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 10（2）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM CB（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
施設名	高放射線性廃液貯蔵施設（HAW）	年月日		点検者名	
OM 1（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM CB（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

管理番号	
整理番号	14KBQ01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	OMライン（RZ139）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.　（Pu－2） SER. No.	調査		点検者名	

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
OM　1（2）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	
OM　2（2）	良・否（　）	良・否（　）	（MΩ）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14KBQ01

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	OMライン（RZ139）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－3） SER. No.	調査		点検者名	

点検項目	点検清掃	導通	絶縁	判定	備考
OM 1（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 2（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 3（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 4（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 5（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 6（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 7（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 8（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 9（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 10（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 11（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 12（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 13（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 14（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 15（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 16（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 17（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 18（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 19（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 20（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 21（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 22（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 23（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 24（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 25（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 26（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	
OM 27（1）	良・否（ ）	良・否（ ）	（MΩ）	良・否（ ）	

管理番号	
整理番号	14KBR01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	スニッファ負圧、温度地震警報	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. 警報表示パネル SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

機器名	負圧警報	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. 負圧警報（Z施設） SER. No.	調査		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KBR01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	スニッファ負圧、温度地震警報	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. 警報表示パネル（CB） SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. 負圧警報（Z施設） SER. No.	年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. 負圧警報（Kγ施設） SER. No.	年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

機器No.	TAG. No. 負圧警報（ST施設） SER. No.	年月日		点検者名	

1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KBR01

点検整備記録書

改　訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名		承認		年月日	
機器No.	TAG. No. 負圧警報（DN施設） SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

管理番号	
整理番号	14KBR02

点検整備記録書

改訂

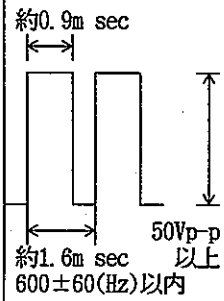
検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	警報補助盤	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．低圧電源部の確認	24V　24V±5%以内	(V)	(V)	
	リップル電圧	(mVp-p)	(mVp-p)	
	60V　60V±5%以内	(V)	(V)	
	リップル電圧	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．記録計部の確認 (1) 入出力特性	入力　使用チャンネル	(V)	(V)	
	1.00V　デジタル表示	(V)	(V)	
	1.00V　記録計	(V)	(V)	
	2.00V　デジタル表示	(V)	(V)	
	2.00V　記録計	(V)	(V)	
	3.00V　デジタル表示	(V)	(V)	
	3.00V　記録計	(V)	(V)	
	4.00V　デジタル表示	(V)	(V)	
	4.00V　記録計	(V)	(V)	
	5.00V　デジタル表示	(V)	(V)	
	5.00V　記録計	(V)	(V)	
	デジタル表示±0.01(V) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
	記録計±　　%以内	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 動作の確認	打点切換動作	良・否（　）	良・否（　）	
	チャート紙送り動作	良・否（　）	良・否（　）	
	下限警報レベル1.2V±0.1V	(V)	(V)	
	動作	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	警報補助盤	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
4．サイレン動作の確認	J4			
	約AC100V (a，b)	(V)	(V)	
	約AC100V (c，d)	(V)	(V)	
	約AC100V (e，f)	(V)	(V)	
	約AC100V (g，h)	(V)	(V)	
	約AC100V (i，k)	(V)	(V)	
5．エバーケーションの動作確認	J4			
	 A，B	(Vp-p)	(Vp-p)	
	A，B	(Hz)	(Hz)	
	C，D	(Vp-p)	(Vp-p)	
	C，D	(Hz)	(Hz)	
	E，F	(Vp-p)	(Vp-p)	
	E，F	(Hz)	(Hz)	
	G，H	(Vp-p)	(Vp-p)	
	G，H	(Hz)	(Hz)	
	J，K	(Vp-p)	(Vp-p)	
	J，K	(Hz)	(Hz)	
	60(V) 電源異常時の切換動作	良・否（　）	良・否（　）	
6．モニタ機能動作の確認 1) ヒューズ断	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
2) 電源モニタ	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
3) ランプテスト	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14KBR01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	リレー盤	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

TAG No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

TAG No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

TAG No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

TAG No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

TAG No. SER. No.		承認		調査		年月日		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

管理番号	
整理番号	14PAA01

点検整備記録書

改訂

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	記録計（ER）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃注油	清掃されていること BM出力ギヤ、伝導ギヤ、大及び小プーリー、指示部、主軸打点機構に注油すること	良・否（　）	良・否（　）	
2．記録機構 1）インキング部	ペン先の摩耗がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2）指示部	プーリー、くり糸、綱帯、シャフト部に摩耗がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3）切換スイッチ	汚れ、接点に摩耗がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損がないこと スリップギヤに摩耗がないこと BMの回転に異常がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
5）スライド部	スライド抵抗、ブラシの摩耗がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．記録紙送り機構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの摩耗がないこと SMの回転に異常がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと スリップギヤに摩耗がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．指示試験	±0.5%以内			

目盛	入力	指示精度	指示精度
%	mV		
0	0.0	(%)	(%)
25	2.5	(%)	(%)
50	5.0	(%)	(%)
75	7.5	(%)	(%)
100	10.0	(%)	(%)

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅱ分冊：臨界警報装置

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

PNC TN8520 96-001 (2)

社内資料

本資料は　年　月　日付けで登録区分、
変更する。　13.6.20
[技術情報室]

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅱ分冊：臨界警報装置

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184　茨城県那珂郡東海村大字村松4番地49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部　技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki, 319-1184
Japan

ⓒ 核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2001

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅱ分冊：臨界警報装置

1．点検整備技術要領書一覧

2．点検整備構成表

3．点検項目及び点検頻度

4．予防保全に係わる部品交換

5．点検整備技術要領書

6．点検整備記録書

1．　点検整備技術要領書一覧

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	臨界警報装置		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	臨界警報装置	―――	東芝	再処理工場	11BAA01
2	臨界警報装置	―――	東芝	Pu-con	11BAA02
3	臨界警報装置	―――	東芝	CPF	11BAA03
4	臨界警報装置	―――	東芝	Pu-1/2	11BAA04
5	臨界警報装置	―――	東芝	Pu-3	11BAA05
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	性能検査	点検機種	臨界警報装置		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
11	臨界警報装置	―――	東芝	再処理工場	12BAA01
12	臨界警報装置	―――	東芝	Pu-con	12BAA02
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	臨界検出器（γ）	RD120	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAA01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	臨界検出器（n）	RD624	東芝	MP	14LAB01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名.	整理番号
1	2／3論理回路モジュール	RU724	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAC01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	テスト回路モジュール	RU725	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAD01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	定電圧低圧電源	RU726	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAE01
2	定電圧低圧電源	RU727	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAE02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ビン電源	D-591/E-502	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAF01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	低圧電源ユニット	RU819	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAG01
2	低圧電源ユニット	RU821	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAG02
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	補助ユニット	RU612	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAH01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	警報発生ユニット	RU613	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAI01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	音声発生／リレーユニット	RU621	東芝	MP	14LAJ01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施・設名	整理番号
1	アイソレータ	TOSMAC357	東芝	Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAK01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	FLB, WFLB	RU618 RU672	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAL01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ホーンブロア	RU617 RU617A	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAM01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	警報音発生装置	———	東亜	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	14LAN01
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ＩＳＩＭ	ＲＵ７３７	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	１４ＬＡＯ０１
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路・単体検査	点検機種	臨界警報装置　モジュール・ユニット類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ハイブリッド記録計	3081, 4081 RD2400	東芝	MP, Pu-con, CPF Pu-1/2, Pu-3	１４ＰＡＢ０１
2	ハイブリッド記録計	μR180T	横河	CPF	１４ＰＡＢ０２
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

2. 点検整備構成表

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	臨界警報装置		施設名	再処理工場		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	臨界警報装置	――	―	11BAA01	11BAA01	2回／年
性能検査	臨界警報装置	――	―	12BAA01	12BAA01	1回／月
回路試験	臨界検出器（γ）	RD120	東芝	14LAA01	14LAA01	2回／年
	臨界検出器（n）	RD624	東芝	14LAB01	14LAB01	2回／年
	2／3論理回路モジュール	RU724	東芝	14LAC01	14LAC01	2回／年
	テスト回路モジュール	RU725	東芝	14LAD01	14LAD01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU726	東芝	14LAE01	14LAE01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU727	東芝	14LAE02	14LAE02	2回／年
	ビン電源	D-541/E-502	NAIG	14LAF01	14LAF01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU819	東芝	14LAG01	14LAG01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU821	東芝	14LAG02	14LAG02	2回／年
	補助ユニット	RU612	東芝	14LAH01	14LAH01	2回／年
	警報発生ユニット	RU613	東芝	14LAI01	14LAI01	2回／年
	音声発生リレーユニット	RU621	東芝	14LAJ01	14LAJ01	2回／年
	ホーンブロア	RU617 RU617A	東芝	14LAL01	14LAL01	1回／年
	FLB，WFLB	RU618 RU672	東芝	14LAM01	14LAM01	1回／年
	警報音発生装置	――	東亜	14LAN01	14LAN01	1回／年
	ISIM	RU737	東芝	14LAO01	14LAO01	2回／年
	ハイブリッド記録計	3081	横河	14PAB01	14PAB01	2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	臨界警報装置		施設名	Pu－con		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	臨界警報装置	――	―	11BAA02	11BAA02	2回／年
性能検査	臨界警報装置	――	―	12BAA02	12BAA02	1回／月
回路試験	臨界検出器（γ）	RD120	東芝	14LAA01	14LAA01	2回／年
	2／3論理回路モジュール	RU724	東芝	14LAC01	14LAC01	2回／年
	テスト回路モジュール	RU725	東芝	14LAD01	14LAD01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU726	東芝	14LAE01	14LAE01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU727	東芝	14LAE02	14LAE02	2回／年
	ビン電源	D-541/E-502	NAIG	14LAF01	14LAF01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU819	東芝	14LAG01	14LAG01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU821	東芝	14LAG02	14LAG02	2回／年
	補助ユニット	RU612	東芝	14LAH01	14LAH01	2回／年
	警報発生ユニット	RU613	東芝	14LAI01	14LAI01	2回／年
	アイソレータ	TOSMAC 357	東芝	14LAK01	14LAK01	2回／年
	ホーンブロア	RU617 RU617A	東芝	14LAL02	14LAL02	1回／年
	FLB，WFLB	RU618 RU672	東芝	14LAM02	14LAM02	1回／年
	警報音発生装置	――	東亜	14LAN01	14LAN01	1回／年
	ISIM	RU737	東芝	14LAO01	14LAO01	2回／年
	ハイブリッド記録計	4081	横河	14PAB01	14PAB01	2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	臨界警報装置		施設名	CPF		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	臨界警報装置	――	―	11BAA03	11BAA03	2回／年
回路試験	臨界検出器（γ）	RD120	東芝	14LAA01	14LAA01	2回／年
	2／3論理回路モジュール	RU724	東芝	14LAC01	14LAC01	2回／年
	テスト回路モジュール	RU725	東芝	14LAD01	14LAD01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU726	東芝	14LAE01	14LAE01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU727	東芝	14LAE02	14LAE02	2回／年
	ビン電源	D-541/E-502	NAIG	14LAF01	14LAF01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU819	東芝	14LAG01	14LAG01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU821	東芝	14LAG02	14LAG02	2回／年
	補助ユニット	RU612	東芝	14LAH01	14LAH01	2回／年
	警報発生ユニット	RU613	東芝	14LAI01	14LAI01	2回／年
	アイソレータ	TOSMAC 357	東芝	14LAK01	14LAK01	2回／年
	ホーンブロア	RU617 RU617A	東芝	14LAL03	14LAL01	1回／年
	FLB, WFLB	RU618 RU672	東芝	14LAL03	14LAL03	1回／年
	警報音発生装置	――	東亜	14LAN01	14LAN01	1回／年
	ISIM	RU737	東芝	14LAO01	14LAO01	2回／年
	ハイブリッド記録計	μR180T	横河	14PAB02	14PAB02	2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	臨界警報装置		施設名	Pu－1／2		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	臨界警報装置	――	―	11BAA04	11BAA04	2回／年
回路試験	臨界検出器（γ）	RD120	東芝	14LAA01	14LAA01	2回／年
	2／3論理回路モジュール	RU724	東芝	14LAC01	14LAC01	2回／年
	テスト回路モジュール	RU725	東芝	14LAD01	14LAD01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU726	東芝	14LAE01	14LAE01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU727	東芝	14LAE02	14LAE02	2回／年
	ビン電源	D-541/E-502	NAIG	14LAF01	14LAF01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU819	東芝	14LAG01	14LAG01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU821	東芝	14LAG02	14LAG02	2回／年
	補助ユニット	RU612	東芝	14LAH01	14LAH01	2回／年
	警報発生ユニット	RU613	東芝	14LAI01	14LAI01	2回／年
	アイソレータ	TOSMAC 357	東芝	14LAK01	14LAK01	2回／年
	ホーンブロア	RU617 RU617A	東芝	14LAL04	14LAL04	1回／年
	FLB，WFLB	RU618 RU672	東芝	14LAL04	14LAL04	1回／年
	警報音発生装置	――	東亜	14LAN01	14LAN01	1回／年
	ISIM	RU737	東芝	14LAO01	14LAO01	2回／年
	ハイブリッド記録計	4081	横河	14PAB01	14PAB01	2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	臨界警報装置		施設名	Pu－3		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	臨界警報装置	――	―	11BAA05	11BAA05	2回／年
回路試験	臨界検出器（γ）	RD120	東芝	14LAA01	14LAA01	2回／年
	2／3論理回路モジュール	RU724	東芝	14LAC01	14LAC01	2回／年
	テスト回路モジュール	RU725	東芝	14LAD01	14LAD01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU726	東芝	14LAE01	14LAE01	2回／年
	定電圧低圧電源	RU727	東芝	14LAE02	14LAE02	2回／年
	ビン電源	D-541/E-502	NAIG	14LAF01	14LAF01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU819	東芝	14LAG01	14LAG01	2回／年
	低圧電源ユニット	RU821	東芝	14LAG02	14LAG02	2回／年
	補助ユニット	RU612	東芝	14LAH01	14LAH01	2回／年
	警報発生ユニット	RU613	東芝	14LAI01	14LAI01	2回／年
	アイソレータ	TOSMAC 357	東芝	14LAK01	14LAK01	2回／年
	ホーンブロア	RU617 RU617A	東芝	14LAL05	14LAL05	1回／年
	FLB，WFLB	RU618 RU672	東芝	14LAL05	14LAL05	1回／年
	警報音発生装置	――	東亜	14LAN01	14LAN01	1回／年
	ISIM	RU737	東芝	14LAO01	14LAO01	2回／年
	ハイブリッド記録計	RD2400	横河	14PAB01	14PAB01	2回／年

3．　点検項目及び点検頻度

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	再処理工場	1／3

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．総合検査	①点検清掃			○			
	②警報音発生装置の動作確認			○			
	③電源ランプの確認			○			
	④各電源電圧の確認			○		○	
	⑤アナログ出力の測定			○		○	
	⑥テスト回路による動作確認			○		○	
	⑦臨界警報動作の確認			○		○	
	⑧回転灯断線チェック動作			○		○	
	⑨ＩＳＩＭによる動作確認			○		○	
	⑩回転灯テスト機能試験			○		○	
	⑪スピーカテスト機能試験			○		○	
	⑫バイパス機能試験			○		○	
	⑬機能モニタ動作の確認			○		○	
	⑭照射試験			○		○	
	⑮警報吹鳴試験			○		○	
	⑯測定モードの確認			○		○	
2．性能検査	①警報音発生装置の動作確認	○					
	②電源ランプの確認	○					
	③各電源電圧の確認	○					
	④アナログ出力の測定	○					
	⑤テスト回路による動作確認	○					
	⑥臨界警報動作の確認	○					
	⑦回転灯断線チェック動作	○					
	⑧測定モードの確認	○					
3．回路試験	①点検清掃			○			
1)臨界検出器（γ）	②点検前の確認			○			
	③低圧電源部の確認			○		○	
	④高圧電源部の確認			○		○	
	⑤直流増幅器の直線性確認			○		○	
	⑥γ線照射試験			○		○	
	⑦高圧電源警報回路の動作確認			○		○	
	⑧プローブチェック回路の確認			○		○	
2)臨界検出器（n）	①点検清掃			○			
	②低圧電源回路の確認			○		○	
	③前置増幅器の増幅度確認			○		○	
	④主増幅器の増幅度確認			○		○	
	⑤波高弁別回路の確認			○		○	
	⑥デジタル積分回路の確認			○		○	
	⑦ドライバー回路の確認			○		○	
	⑧測定系の確認			○		○	
	⑨検出感度の確認			○		○	
3) 2／3論理回路	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③低圧電源の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	再処理工場	2／3

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
3)2／3論理回路	④タイマ用クロック周波数の測定			○		○	
	⑤ロジック動作の確認			○		○	
	⑥リセット機能の確認			○		○	
4)テスト回路	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③低圧電源の確認			○		○	
	④タイマ用クロック周波数の測定			○		○	
	⑤ＰＦＤ設定電圧の確認			○		○	
	⑥機能試験			○		○	
	⑦ブザー動作の確認			○		○	
5)定電圧低圧電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
6)定電圧低圧電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
7)ビン電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
8)低圧電源ユニット	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
	⑤電源モニタ回路の確認			○		○	
	⑥絶縁抵抗測定			○		○	
9)補助ユニット	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③機能試験			○		○	
10)警報発生ユニット	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③ブザー動作の確認			○		○	
	④機能試験			○		○	
11)音声発生リレーユニット	①点検清掃			○			
	②低圧電源電圧の確認			○		○	
	③放送起動の確認			○		○	
	④出力レベルの確認			○		○	
	⑤放送設備起動信号の確認			○		○	
12)ＦＬＢ／ＷＦＬＢ	①点検清掃				○		
	②抵抗値の測定				○	○	
13)ホーンブロア	①点検清掃				○		
	②抵抗値の測定				○	○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	再処理工場	3／3

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
14)警報音発生装置	①点検清掃				○	○	
	②ＰＳＣ－０３１				○		
	③ＥＳＣ－０３１				○	○	
	④ＯＰＣ－０３１				○	○	
	⑤ＳＰＣ－０３１				○	○	
	⑥ＲＹＰ－０３１				○	○	
	⑦ＰＡ－２４４０				○	○	
15)ＩＳＩＭ	①点検清掃			○		○	
	②電池電圧の確認			○		○	
	③クロック動作の確認			○		○	
	④プリント動作の確認			○		○	
	⑤テスト動作の確認			○		○	
16)ハイブリッド記録計	①点検清掃			○			
	②各機能動作の確認			○			
	③記録紙送り機構			○			
	④チャンネル切換機構			○			
	⑤指示試験			○			

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	Pu－con	1／3

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．総合検査	①点検清掃			○			
	②警報音発生装置の動作確認			○			
	③電源ランプの確認			○			
	④各電源電圧の確認			○		○	
	⑤アナログ出力の測定			○		○	
	⑥テスト回路による動作確認			○		○	
	⑦臨界警報動作の確認			○		○	
	⑧回転灯断線チェック動作			○		○	
	⑨ＩＳＩＭによる動作確認			○		○	
	⑩回転灯テスト機能試験			○		○	
	⑪スピーカテスト機能試験			○		○	
	⑫バイパス機能試験			○		○	
	⑬機能モニタ動作の確認			○		○	
	⑭照射試験			○		○	
	⑮警報吹鳴試験			○		○	
	⑯測定モードの確認			○		○	
2．性能検査	①警報音発生装置の動作確認	○					
	②電源ランプの確認	○					
	③各電源電圧の確認	○					
	④アナログ出力の測定	○					
	⑤テスト回路による動作確認	○					
	⑥臨界警報動作の確認	○					
	⑦回転灯断線チェック動作	○					
	⑧測定モードの確認	○					
3．回路試験	①点検清掃			○			
1)臨界検出器（γ）	②点検前の確認			○			
	③低圧電源部の確認			○		○	
	④高圧電源部の確認			○		○	
	⑤直流増幅器の直線性確認			○		○	
	⑥γ線照射試験			○		○	
	⑦高圧電源警報回路の動作確認			○		○	
	⑧プローブチェック回路の確認			○		○	
2)２／３論理回路	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③低圧電源の確認			○		○	
	④タイマ用クロック周波数の測定			○		○	
	⑤ロジック動作の確認			○		○	
	⑥リセット機能の確認			○		○	
3)テスト回路	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③低圧電源の確認			○		○	
	④タイマ用クロック周波数の測定			○		○	
	⑤ＰＦＤ設定電圧の確認			○		○	
	⑥機能試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	Pu－con	2／3

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
3)テスト回路	⑦ブザー動作の確認			○		○	
4)定電圧低圧電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
5)定電圧低圧電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
6)ビン電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
7)低圧電源ユニット	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
	⑤電源モニタ回路の確認			○		○	
	⑥絶縁抵抗測定			○		○	
8)補助ユニット	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③機能試験			○		○	
9)警報発生ユニット	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③ブザー動作の確認			○		○	
	④機能試験			○		○	
10)アイソレータ	①点検清掃			○			
	②入出力直線性の確認			○		○	
11)ＦＬＢ／ＷＦＬＢ	①点検清掃				○		
	②抵抗値の測定				○	○	
12)ホーンブロア	①点検清掃				○		
	②抵抗値の測定				○	○	
13)警報音発生装置	①点検清掃				○	○	
	②ＰＳＣ－０３１				○		
	③ＥＳＣ－０３１				○	○	
	④ＯＰＣ－０３１				○	○	
	⑤ＳＰＣ－０３１				○	○	
	⑥ＲＹＰ－０３１				○	○	
	⑦ＰＡ－２４４０				○	○	
14)ＩＳＩＭ	①点検清掃			○		○	
	②電池電圧の確認			○		○	
	③クロック動作の確認			○		○	
	④プリント動作の確認			○		○	
	⑤テスト動作の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	Pu－con				3／3
点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
15)ハイブリッド記録計	①点検清掃			○			
	②各機能動作の確認			○			
	③記録紙送り機構			○			
	④チャンネル切換機構			○			
	⑤指示試験			○			

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検機種	臨界警報装置	施設	CPF, Pu-1/2, Pu-3	1／2

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．総合検査	①点検清掃			○			
	②警報音発生装置の動作確認			○			
	③電源ランプの確認			○			
	④各電源電圧の確認			○		○	
	⑤アナログ出力の測定			○		○	
	⑥テスト回路による動作確認			○		○	
	⑦臨界警報動作の確認			○		○	
	⑧回転灯断線チェック動作			○		○	
	⑨ＩＳＩＭによる動作確認			○		○	
	⑩回転灯テスト機能試験			○		○	
	⑪スピーカテスト機能試験			○		○	
	⑫バイパス機能試験			○		○	
	⑬機能モニタ動作の確認			○		○	
	⑭照射試験			○		○	
	⑮警報吹鳴試験			○		○	
	⑯測定モードの確認			○		○	
2．回路試験	①点検清掃			○			
1)臨界検出器（γ）	②点検前の確認			○			
	③低圧電源部の確認			○		○	
	④高圧電源部の確認			○		○	
	⑤直流増幅器の直線性確認			○		○	
	⑥γ線照射試験			○		○	
	⑦高圧電源警報回路の動作確認			○		○	
	⑧プローブチェック回路の確認			○		○	
2) 2／3論理回路	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③低圧電源の確認			○		○	
	④タイマ用クロック周波数の測定			○		○	
	⑤ロジック動作の確認			○		○	
	⑥リセット機能の確認			○		○	
3)テスト回路	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③低圧電源の確認			○		○	
	④タイマ用クロック周波数の測定			○		○	
	⑤ＰＦＤ設定電圧の確認			○		○	
	⑥機能試験			○		○	
	⑦ブザー動作の確認			○		○	
4)定電圧低圧電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
5)定電圧低圧電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成８年３月

点検機種	臨界警報装置	施設	CPF, Pu-1/2, Pu-3	2／2

点検種別	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
5)定電圧低圧電源	④リップルノイズの測定			○		○	
6)ビン電源	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
7)低圧電源ユニット	①点検清掃			○			
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電源変動試験			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
	⑤電源モニタ回路の確認			○		○	
	⑥絶縁抵抗測定			○		○	
8)補助ユニット	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③機能試験			○		○	
9)警報発生ユニット	①点検清掃			○			
	②ランプテスト機能の確認			○		○	
	③ブザー動作の確認			○		○	
	④機能試験			○		○	
10)アイソレータ	①点検清掃			○			
	②入出力直線性の確認			○		○	
11)ＦＬＢ／ＷＦＬＢ	①点検清掃				○		
	②抵抗値の測定				○	○	
12)ホーンプロア	①点検清掃				○		
	②抵抗値の測定				○	○	
13)警報音発生装置	①点検清掃				○	○	
	②ＰＳＣ－０３１				○		
	③ＥＳＣ－０３１				○	○	
	④ＯＰＣ－０３１				○	○	
	⑤ＳＰＣ－０３１				○	○	
	⑥ＲＹＰ－０３１				○	○	
	⑦ＰＡ－２４４０				○	○	
14)ＩＳＩＭ	①点検清掃			○		○	
	②電池電圧の確認			○		○	
	③クロック動作の確認			○		○	
	④プリント動作の確認			○		○	
	⑤テスト動作の確認			○		○	
15)ハイブリッド記録計	①点検清掃			○			
	②各機能動作の確認			○			
	③記録紙送り機構			○			
	④チャンネル切換機構			○			
	⑤指示試験			○			

4．　予防保全に係わる部品交換

予防保全に係わる部品交換

臨界警報装置の基本設計及び過去の修理、点検結果に基づき、予め定めた交換部品とその交換サイクルに従って、定期点検時に部品の交換を実施する。

1. 交換部品

   リレー、電解コンデンサー、ヒューズ、ブリーダ抵抗

2. 交換サイクル

   5年

3. 交換対象施設

   1) プルトニウム転換技術開発施設

   2) 再処理・分離精製工場

   3) プルトニウム燃料第一・第二開発室

   4) プルトニウム燃料第三開発室

   5) 高レベル放射性物質研究施設

4. 交換計画

   「表1　臨界警報装置の予防保全に係わる部品交換計画書」に示す。

表１　臨界警報装置の予防保全に係わる部品交換計画書

施設＼年度	H・5	H・6	H・7	H・8	H・9	H・10	H・11	H・12	H・13	H・14
プルトニウム転換技術開発施設（昭和57年度設置）		●(7/25～8/3)					○			
再処理・分離精製工場（昭和58年度設置）				●(7/23～30)					○	
プルトニウム燃料第三開発室（昭和61年度設置）	●(H6.3/12～22)					○				
プルトニウム燃料第一・第二開発室（昭和63年度設置）		●(H7.1/30～2/8)					○			
高レベル放射性物質研究施設（平成２年度設置）			●(9/25～27)					○		

凡例：●（数字）実績

○ 計画

5．　点検整備技術要領書

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０１	1／10

改訂　平成８年３月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	再処理・分離精製工場		

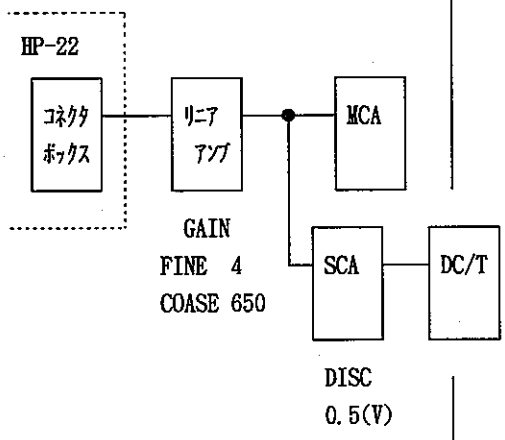
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う 2）ネジのゆるみなどを点検する 3）コネクタの接続は完全であるか 4）現場状況の報告。 対象は別添の機器構成リストによる。	異常のないこと	別紙１を参照
2．警報音発生装置の動作確認			
2.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。	350(Ω)±50(Ω) 以内	ＩＳＩＭの時間を合わせること。
2.2 各電源電圧及びランプの確認	各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。 （必ずＣＯＭを先に接続のこと。）		
(1) ＰＳＣ－０３１	－7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-7(V) ± 1.0(V) 以内 7(V) ± 1.0(V) 以内 -14(V) ± 1.0(V) 以内 14(V) ± 1.0(V) 以内 26(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	－5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-5(V) ± 1.0(V) 以内 5(V) ± 1.0(V) 以内 -12(V) ± 1.0(V) 以内 12(V) ± 1.0(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯していないこと	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
3．電源ランプの確認	下記の電源ランプが正常に点灯していることを確認する。 1）２／３論理回路の電源表示用ランプ 2）検出器用電源の電源表示用ランプ（ＨＰ－２１　３台） 3）テスト回路用電源の電源表示用ランプ（ＨＰ－２１　１台） 4）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ（ＨＰ－２１　２台）	 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯	
4．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。 1）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＨＰ－２１　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V 2）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＨＰ－２１　12V 3）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＨＰ－２１　Ａ　24V 左から　Ｂ　24V	 24.7(V) ± 0.5(V) 以内 12.0(V) ± 0.5(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０１	3／10

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．アナログ出力の測定	各γ線検出器のアナログ出力を警報補助盤のデジタル表示メータにて測定する。 中性子線検出器は、ＨＰ－２２盤内のＢＮＣコネクタボックスの出力端子にＭＣＡを接続しスペクトル測定及びカウンタを接続し計数値を測定する。 接続は下記の方法で行う。 1）スペクトル及び計数測定  	1.4(V)±0.1(V)以内 4000(C/M) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０１	4／10

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．テスト回路による動作確認	ＨＰ－２１のテスト回路を用いて、下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。“テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路及び（放射線監視卓の）警報表示盤の動作を確認する。 2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールの２／３回路選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2，S2 S3，S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット、補助ユニット及び（放射線監視卓の）警報表示盤の動作を確認する。 (2) 非同時性の確認 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールの２／３回路選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2，S2-S3，S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット、補助ユニット及び（放射線監視卓の）警報表示盤の動作を確認する。	正常に動作すること 別紙２の１）を参照 正常に動作すること 別紙２の２）(1)を参照 正常に動作すること 別紙２－２）(2)を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０１	5／10

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．臨界警報動作確認	ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。 ＡＵＸユニット内の“臨界テスト選択”スイッチを各々切換え、ＣＡＵユニット内の臨界テストを押して、下記の動作を確認する。また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
8．回転灯断線チェックの動作確認	ＨＰ－２１盤内“回転灯断線チェック”スイッチを押した時にＣＡＵユニットでブザーが吹鳴、ＡＵＸユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
9．ＩＳＩＭによる動作確認	ＩＳＩＭをＴＥＳＴスタートさせた時、プローブテスト，同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	「ＣＡＵ」内テスト回路選択スイッチを１にする。

臨界テスト選択スイッチ	警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
	2/3 論理回路（ﾗﾝﾌﾟ）	臨界（ﾗﾝﾌﾟ）	遅延リレー（ﾗﾝﾌﾟ）	ブザー（音）	
A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA01	6／10

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10. 回転灯テスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	回転灯 テスト スイッチ	基準	回転灯 テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	遅延 リレー (ﾗﾝﾌﾟ)	現場 回転灯
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること	点滅	順次 点灯	順次 点灯

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
11. スピーカテスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	スピーカ テスト スイッチ	基準	ｽﾋﾟｰｶ テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	モニタ ｽﾋﾟｰｶ (音)	現場 ホーン ブロワ
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること	点滅	吹鳴	吹鳴

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
12. バイパス機能試験	“日常点検”部のキースイッチを点検モードにし、模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続し臨界を発生させ、2／3論理回路モジュール3台の内2台をリセットした時、他の1台がバイパスされることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０１	7／10

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
13. 機能モニタ動作確認		下記の対応するランプが点滅し、故障ブザーが吹鳴すること	
13.1 補助ユニット (1) ヒューズ断	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズ断」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
(2) 回転灯リレー故障	ＣＡＵユニットのＫ１２にコイル断線リレーを挿入した後、“臨界テスト”を押して動作を確認する。	「回転灯リレー故障」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
13.2 警報発生ユニット (1) ヒューズモニタ	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズモニタ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	Ｆ１を除くＦ２、Ｆ３にて確認
(2) ＡＣ電源切換	ＡＣ切換１の場合は盤内端子台 HP21R-1を外す。ＡＣ切換２の場合は HP21R-3を外して動作を確認する。	「ＡＣ電源切換１」又は「ＡＣ電源切換２」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(3) テスト回路電源故障	テスト回路用電源（ＲＵ７２７）のいずれかのスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「テスト回路電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(4) コネクタフェール	ＣＡＵユニット及びＡＵＸユニットいずれかの背面パネルで任意のコネクタを外して動作を確認する。（各１箇所以上）	「ＣＮＮ／ＳＷ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	ＣＡＵ　Ｊ３．４以外で確認 ＡＸＵ　Ｊ３以外で確認
(5) 電源故障１，２	リレーユニット用電源（ＲＵ８１９）のいずれかのスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「電源１故障」又は「電源２故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(6) 音系電源故障	警報音発生装置の低圧電源ＰＳ１とＰＳ２の背面パネルの出力電圧断用スイッチで同一電圧のスイッチを同時に押して動作を確認する。	「音系電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０１	8／10

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
14. 照射試験			
14.1 ガンマ線検出器	^{137}Ｃｓにて検出器に規定の線量を照射し、警報トリップ動作及びアナログ出力電圧を測定する。	（線量） 1.74(mGy/h)±0.3(mGy/h)以内（アナログ出力） 2.84(V)±0.24(V) 以内	
14.2 中性子線検出器	Ａｍ－Ｂｅにて検出器に規定の線量を照射した時カウンタを接続し計数値を測定し感度を求める。接続方法は回路試験要領書(6)項に準ずる。	（感度） 2.0×10^{-5}(cps/nv)以上	
15. 警報吹鳴試験	1）吹鳴試験 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続した後、監視モードにする。全系統の２個の検出系に模擬信号を入力し、警報吹鳴動作を確認する。	下記の箇所で動作を確認 ・２／３論理回路 （対応検出器）ＬＥＤ点滅 （２／３出力）ランプ点滅 ・警報発生ユニット （臨　界）ランプ点滅 音吹鳴 ・警報音発生装置　音吹鳴 ・警報表示盤　表示 音吹鳴 ・プロセスコントロール デスク　ランプ点灯 音吹鳴 ・放送設備　音吹鳴 ・回転灯 施設内外　65ヶ所 ランプ点灯 ・ホーンブロワ　18ヶ所 音吹鳴	
	2）警報ホールド時間設定 上記の任意の１系統の吹鳴試験時に警報音が自動的に停止するまでの時間を測定する。	10分±30秒	
16. 測定モードの確認	最後に臨界警報装置が監視状態になっているかを確認する。		
	1）２／３論理回路	キースイッチ　無	
	2）警報発生ユニット	監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

点検整備技術要領書

別 紙 1

整理番号	11BAA01	9／10

臨界警報装置構成リスト		設置場所	再処理工場	
構成機器		型名	SER No.	
2／3論理回路	HP21 A	RU724		
	B			
	C			
テスト回路	HP21	RU725		
	Kr 1－1	RD120		
	1－2			
	1－3			
	2－1			
	2－2			
	2－3			
	4－1			
	4－2			
	4－3			
臨界検出器（n）	Kn 3－1	RD624		
	3－2			
	3－3			
定電圧低圧電源(24V)	HP21 左	RU726		
	中			
	右			
定電圧低圧電源（12V）	HP21	RU727		
低圧電源ユニット	HP21 左	RU819		
	右			
低圧電源ユニット		RU817		
補助ユニット		RU612A		
警報発生ユニット		RU613		
警報音発生装置		MP－031		
	1 系 統	PSC－031		
	2 系 統			
		ESC－031		
		OPC－031		
		RYP－031		
		SPC－031		
	1 系 統	PA－2440		
	2 系 統			
回 転 灯		RU618A	FLB 1～56	
			WFLB 1～ 9	
ホーンブロワ		RU949	HB 1～18	
ハイブリッド記録計		3081		

点検整備技術要領書

別 紙 2

整理番号	11BAA01	10／10

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

操作＼動作		2／3論理回路モジュール												TEST回路	警報表示盤音表示
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）				TEST 1 ブザー	
		G1	G2	G3	G4	G1	G2	G3	G4	G1	G2	G3	G4		
HP21プローブ	S1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2）2／3論理回路の動作確認

(1) 同時性の確認

操作＼種別		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット	警報表示盤
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）		ユニット	ユニット	表示盤
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ﾌﾞｻﾞｰ&ﾗﾝﾌﾟ	ﾊｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ	音・表示
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1,S2	G1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2,S3	G1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3,S1	G1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

(2) 非同時性の確認

操作＼種別		2／3論理回路モジュール						テスト回路	警報表示盤
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	音・表示
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1-S2	G1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	停止	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2-S3	G1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	停止	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3-S1	G1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	停止	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０２	1／13

改訂　平成８年３月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	プルトニウム転換技術開発施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う 2）ネジのゆるみなどを点検する 3）コネクタの接続は完全であるか 4）現場状況の報告。 対象は別添の機器構成リストによる。	異常のないこと	別紙１を参照
2．警報音発生装置の動作確認			
2.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。	500(Ω)±50(Ω) 以内	ＩＳＩＭの時間を合わせること。
2.2 各電源電圧及びランプの確認	各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。 （必ずＣＯＭを先に接続のこと。）		
(1) ＰＳＣ－０３１	－7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-7(V) ± 1.0(V) 以内 7(V) ± 1.0(V) 以内 -14(V) ± 1.0(V) 以内 14(V) ± 1.0(V) 以内 26(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	－5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-5(V) ± 1.0(V) 以内 5(V) ± 1.0(V) 以内 -12(V) ± 1.0(V) 以内 12(V) ± 1.0(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯していないこと	

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
3．電源ランプの確認	下記の電源ランプが正常に点灯していることを確認する。 1）２／３論理回路の電源表示用ランプ 2）検出器用電源の電源表示用ランプ （ＨＰ－１１ 3台，ＨＰ－１２ 3台） 3）テスト回路用電源の電源表示用ランプ （ＨＰ－１１ 1台，ＨＰ－１２ 1台） 4）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ　（ＨＰ－１２　２台） 5）アイソレータ用電源の電源表示用ランプ　（ＨＰ－１１，ＲＵ８２１）	 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯	
4．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。 1）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＨＰ－１１　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V ＨＰ－１２　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V 2）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＨＰ－１１　12V ＨＰ－１２　12V	 24.7(V) ± 0.5(V) 以内 12.0(V) ± 0.5(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０２	3／13

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＨＰ－１２　Ａ　24V 左から　　Ｂ　24V	24(V) ± 1.0(V) 以内	
	4）アイソレータ用電源（ＲＵ８２１） ＨＰ－１１　＋　24V （アイソレーター用ピン ＴＢ１２　②　③　ＧＮＤ）	24(V) ± 1.0(V) 以内	
5．アナログ出力の測定	各検出器のアナログ出力を臨界記録計盤のデジタル表示メータにて測定する。	1.4(V)±0.1(V)以内	
6．テスト回路による動作確認	ＨＰ－１１，ＨＰ－１２のテスト回路を用いて下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、ＨＰ－１１のテスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路の動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡにし、ＨＰ－１２においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙２の１）を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０２	4／13

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2, S2 S3, S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡにし、ＨＰ－１２においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙２の２）(1)を参照	
	(2) 非同時性の確認 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2, S2-S3, S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡにし、ＨＰ－１２においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙３を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA02	5／13

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．臨界警報動作確認	HP－12のCAUユニット内“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。 AUXユニット内“日常点検”部のスイッチを“HP－11”又は“HP－12”に、“臨界テスト選択”スイッチを各々切換え、CAUユニット内の臨界テストを押して下記の動作を確認する。また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	

臨界テスト選択スイッチ		警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
		2/3 論理（ランプ）	臨界（ランプ）	遅延リレー（ランプ）	ブザー（音）	
HP-11	A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
HP-12	A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴

＊回転灯テスト「ランプ」も確認

8．回転灯断線チェックの動作確認	HP－12盤内“回転灯断線チェック”スイッチを押した時にCAUユニットでブザーが吹鳴、AUXユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
9．ISIMによる動作確認	ISIMをTESTスタートさせた時、プローブテスト，同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA02	6／13

項　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
10. 回転灯テスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	回転灯 テスト スイッチ	基準	回転灯 テスト (ランプ)	遅延 リレー (ランプ)	現場 回転灯
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること	点滅	順次 点灯	順次 点灯

11. スピーカテスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	スピーカ テスト スイッチ	基準	スピーカ テスト (ランプ)	モニタ スピーカ (音)	現場 ホーン ブロワ
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること	点滅	吹鳴	吹鳴

12. バイパス機能試験	“日常点検”部のキースイッチを点検モードにし、模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続し臨界を発生させ、2／3論理回路モジュール3台の内2台をリセットした時、他の1台がバイパスされることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０２	7／13

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
13. 機能モニタ動作確認		下記の対応するランプが点滅し、故障ブザーが吹鳴すること	
13.1 補助ユニット			
(1) ヒューズ断	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズ断」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
(2) 回転灯リレー故障	ＣＡＵユニットのＫ１２にコイル断線リレーを挿入した後、“臨界テスト”を押して動作を確認する。	「回転灯リレー故障」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
13.2 警報発生ユニット			
(1) ヒューズモニタ	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズモニタ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	Ｆ１以外にて確認
(2) ＡＣ電源切換	ＡＣ切換１の場合は盤内端子台HP12L-43を外す。ＡＣ切換２の場合はHP12L-45を外して動作を確認する。	「ＡＣ電源切換１」又は「ＡＣ電源切換２」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(3) テスト回路電源故障	テスト回路用電源（ＲＵ７２７）のスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「テスト回路電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(4) コネクタフェール	ＣＡＵユニット及びＡＵＸユニットいずれかの背面パネルで任意のコネクタを外して動作を確認する。（各１箇所以上）	「ＣＮＮ／ＳＷ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	ＣＡＵ　Ｊ１、３、４、１０以外にて確認 ＡＸＵ　Ｊ１５、１７以外で確認
(5) 電源故障１，２	リレーユニット用電源（ＲＵ８１９）のいずれかのスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「電源１故障」又は「電源２故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(6) 音系電源故障	警報音発生装置の低圧電源ＰＳ１とＰＳ２の背面パネルの出力電圧断用スイッチで同一電圧のスイッチを同時に押して動作を確認する。	「音系電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０２	8／13

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
14. 計算機との接続状態の確認	1）個別警報を出した時に計算機が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
	2）臨界警報を出した時に計算機が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
	3）通常状態における各検出器の出力値を確認する。		
15. 照射試験	^{137}Ｃｓ線源にて検出器に規定の線量を照射し、警報トリップ動作を確認し、アナログ出力電圧を測定する。	（線量） 1.57(mGy/h)±0.3(mGy/h)以内（アナログ出力） 2.70(V)±0.24(V) 以内	
16. 警報吹鳴試験	1）吹鳴試験 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続した後、監視モードにする。全系統の２個の検出系に模擬信号を入力し、警報吹鳴動作を確認する。	下記の箇所で動作を確認 ・２／３論理回路 （対応検出器）ＬＥＤ点灯 （２／３出力）ランプ点滅 ・警報発生ユニット （臨　界）　ランプ点滅 音吹鳴 ・警報音発生装置　音吹鳴 ・グラフィックパネル ランプ点滅 ・Ｐｕ－ｃｏｎ中央監視盤 ランプ点灯 音吹鳴 ・ＣＢ－Ｇ２２０警報表示盤 表示 音吹鳴 ・回転灯 施設内外　40ヶ所 点灯 ・ホーンプロワ　52ヶ所 吹鳴	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０２	9／13

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）警報ホールド時間設定 上記の任意の１系統の吹鳴試験時に警報音が自動的に停止するまでの時間を測定する。	10分±30秒	
17. 測定モードの確認	最後に臨界警報装置が測定状態になっているかを確認する。		
	1）２／３論理回路	キースイッチ　無	
	2）警報発生ユニット	監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

点検整備技術要領書

別　紙　1－1

整理番号	11BAA02	10／13

臨界警報装置構成リスト		設置場所	プル転換施設	
構　成	機　器	型　名	SER No.	
2／3論理回路	HP11　A	RU724		
	B			
	C			
	HP12　A			
	B			
	C			
テスト回路	HP11	RU725		
	HP12			
臨界検出器（γ）	1－1	RD120		
	1－2			
	1－3			
	2－1			
	2－2			
	2－3			
	3－1			
	3－2			
	3－3			
	4－1			
	4－2			
	4－3			
	5－1			
	5－2			
	5－3			
	6－1			
	6－2			
	6－3			
	7－1			
	7－2			
	7－3			
	8－1			
	8－2			
	8－3			
定電圧低圧電源(24V)	HP11　左	RU726		
	中			
	右			
	HP12　左			
	中			
	右			
定電圧低圧電源(12V)	HP11	RU727		
	HP12			

点検整備技術要領書

別 紙 1－2

整理番号	11BAA02	11／13

構成機器		型名	SER No.	
低圧電源ユニット	HP21 左	RU819		
	右			
低圧電源ユニット		RU821		
低圧電源ユニット		RU817		
補助ユニット		RU612		
警報発生ユニット		RU613		
アイソレータ	ISO 1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
警報音発生装置		MP－031		
	1 系統	PSC－031		
	2 系統			
		ESC－031		
		OPC－031		
		RYP－031		
		SPC－031		
	1 系統	PA－2440		
	2 系統			
回転灯		RU618A	FLB 1～56	
ホーンブロワ		RU949	HB 1～18	
ハイブリッド記録計		4081		

点検整備技術要領書

別 紙 2

整理番号	１１ＢＡＡ０２	12／13

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

動作 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール												ＴＥＳＴ回路	
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）				TEST 1	TEST 2
		G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	ブザー	ブザー
ＨＰ１１	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
プローブ	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
テスト	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ＨＰ１２	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
プローブ	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
テスト	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○

2）２／３論理回路の動作確認

(1) 同時性

動作 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ﾌﾞｻﾞｰ&ﾗﾝﾌﾟ	ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ
ＴＳＴ１	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ１	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ１	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ２	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ２	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ２	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

(2) 非同時性

動作 / 操作		2／3論理回路モジュール						テスト回路	警報発生ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ブザー
ＴＳＴ１	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ１	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ１	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ２	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ２	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ＴＳＴ２	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA03	1／9

改訂　平成8年3月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	高レベル放射性物質研究施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う 2）ネジのゆるみなどを点検する 3）コネクタの接続は完全であるか 4）現場状況の報告。 対象は別添の機器構成リストによる。	異常のないこと	別紙1を参照
2．警報音発生装置の動作確認			
2.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。 RM－14のCAUユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。	500(Ω) ± 50(Ω) 以内	ＩＳＩＭの時間を合わせること。
2.2 各電源電圧及びランプの確認	各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。（必ずCOMを先に接続のこと。）		
(1) ＰＳＣ－０３１	－7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	－7(V) ± 1.0(V) 以内 7(V) ± 1.0(V) 以内 -14(V) ± 1.0(V) 以内 14(V) ± 1.0(V) 以内 26(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	－5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	－5(V) ± 1.0(V) 以内 5(V) ± 1.0(V) 以内 -12(V) ± 1.0(V) 以内 12(V) ± 1.0(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯していないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０３	２／９

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
３．電源ランプの確認	下記の電源ランプが正常に点灯していることを確認する。 １）２／３論理回路の電源表示用ランプ ２）検出器用電源の電源表示用ランプ（ＲＭ－１４　３台） ３）テスト回路用電源の電源表示用ランプ（ＲＭ－１４　１台） ４）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ（ＲＭ－１４　２台）	 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯	
４．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。 １）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＲＭ－１４　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V ２）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＲＭ－１４　ＬＶ－４　12V ３）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＲＭ－１４　ＬＶ－５　24V 左から　ＬＶ－６　24V	 24.7(V) ± 0.5(V) 以内 12.0(V) ± 0.5(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内	
５．アナログ出力の測定	各γ線検出器のアナログ出力をＲＭ１０記録計のデジタル表示にて測定する。	1.4(V)±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０３	3／9

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．テスト回路による動作確認	ＲＭ－１４のテスト回路を用いて、下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＲＭ－１４のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。“テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路動作を確認する。	正常に動作すること 別紙２の１）を参照	
	2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＲＭ－１４のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールの２／３回路選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2，S2 S3，S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット、補助ユニットの動作を確認する。	正常に動作すること 別紙２の２）(1)を参照	
	(2) 非同時性の確認 ＲＭ－１４のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールの２／３回路選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2，S2-S3，S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット、補助ユニットの動作を確認する。	正常に動作すること 別紙２の２）(2)を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA03	4／9

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．臨界警報動作確認	RM－14のCAUユニット内“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。 AUXユニット内の“臨界テスト選択”スイッチを各々切換え、CAUユニット内の臨界テストを押して、下記の動作を確認する。また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
8．回転灯断線チェックの動作確認	RM－14盤内“回転灯断線チェック”スイッチを押した時にCAUユニットでブザーが吹鳴、AUXユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
9．ISIMによる動作確認	ISIMをTESTスタートさせた時、プローブテスト、同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	

臨界テスト選択スイッチ	警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
	2/3 論理回路（ランプ）	臨界（ランプ）	遅延リレー（ランプ）	ブザー（音）	
A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA03	5／9

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10. 回転灯テスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	回転灯 テスト スイッチ	基準	回転灯 テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	遅延 リレー (ﾗﾝﾌﾟ)	現場 回転灯
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること	点滅	順次 点灯	順次 点灯

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
11. スピーカテスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	スピーカ テスト スイッチ	基準	ｽﾋﾟｰｶ テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	モニタ ｽﾋﾟｰｶ (音)	現場 ホーン ブロワ
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること	点滅	吹鳴	吹鳴

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
12. バイパス機能試験	“日常点検”部のキースイッチを点検モードにし、模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続し臨界を発生させ、2／3論理回路モジュール3台の内2台をリセットした時、他の1台がバイパスされることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA03	6／9

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
13. 機能モニタ動作確認		下記の対応するランプが点滅し、故障ブザーが吹鳴すること	
13.1 補助ユニット			
(1) ヒューズ断	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズ断」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
(2) 回転灯リレー故障	ＣＡＵユニットのＫ１２にコイル断線リレーを挿入した後、“臨界テスト”を押して動作を確認する。	「回転灯リレー故障」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
13.2 警報発生ユニット			
(1) ヒューズモニタ	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズモニタ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(2) ＡＣ電源切換	ＡＣ切換１の場合は盤内端子台(CAU J8)を外す。ＡＣ切換２の場合は(CAU J9)を外して動作を確認する。	「ＡＣ電源切換１」又は「ＡＣ電源切換２」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(3) テスト回路電源故障	テスト回路用電源（ＲＵ７２７）のスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「テスト回路電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(4) コネクタフェール	ＣＡＵユニット及びＡＵＸユニットいずれかの背面パネルで任意のコネクタを外して動作を確認する。（各１箇所以上）	「CNN/SW」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	ＣＡＵ　Ｊ２、５ ＡＸＵ　Ｊ６
(5) 電源故障１，２	リレーユニット用電源（ＲＵ８１９）のいずれかのスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「電源１故障」又は「電源２故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(6) 音系電源故障	警報音発生装置の低圧電源ＰＳ１とＰＳ２の背面パネルの出力電圧断用スイッチで同一電圧のスイッチを同時に押して動作を確認する。	「音系電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０３	７／９

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
14. 照射試験	Ｃｓ－１３７にて検出器に規定の線量を照射し、警報トリップ動作及びアナログ出力電圧を測定する。	（線量） 3.14(mGy/h)±0.3(mGy/h)以内（アナログ） 3.99(V)±0.24(V) 以内	
15. 警報吹鳴試験	1）吹鳴試験 ＲＭ－１４のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続した後、監視モードにする。次に2個の検出系に模擬信号を入力し、警報吹鳴動作を確認する。	下記の箇所で動作を確認 ・２／３論理回路 （対応検出器）ＬＥＤ点灯 （２／３出力）ランプ点滅 ・警報発生ユニット （臨　界）　ランプ点滅 音吹鳴 ・警報音発生装置　表示 音吹鳴 ・ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ　ランプ点滅 ・TOSBAC7/10 CRT　表示 ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ室　表示 音吹鳴 ・守衛室　表示 音吹鳴 ・回転灯 施設内外　19ヶ所 点灯 ・ホーンブロワ　10ヶ所 吹鳴	
	2）警報ホールド時間設定 上記の吹鳴試験時に警報音が自動的に停止するまでの時間を測定する。	10分±30秒	
16. 測定モードの確認	最後に臨界警報装置が監視状態になっているかを確認する。 1）２／３論理回路 2）警報発生ユニット	キースイッチ　無 監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

点検整備技術要領書

別 紙 1

整理番号	11BAA03	8／9

臨界警報装置構成リスト		設置場所	CPF		
構成機器		型名		SER No.	
2／3論理回路	RM14 A	RU724			
	B				
	C				
テスト回路	RM14	RU725			
臨界検出器（γ）	CR1－1	RD120			
	CR1－2				
	CR1－3				
定電圧低圧電源(24V)	RM14 左	RU726			
	中				
	右				
定電圧低圧電源（12V）	RM14	RU727			
低圧電源ユニット	RM14 左	RU819			
	右				
低圧電源ユニット	RM10	RU817			
補助ユニット	RM14	RU612A			
警報発生ユニット	RM14	RU613			
アイソレータ	ISO1	TOSMAC357			
	ISO2				
	ISO3				
警報音発生装置		MP－031			
	1 系 統	PSC－031			
	2 系 統				
		ESC－031			
		OPC－031			
		RYP－031			
		SPC－031			
	1 系 統	PA－2440			
	2 系 統				
回転灯		RU618/RU672		FLB 1～19	
ホーンブロワ		RU617		HB 1～10	
ハイブリッド記録計		μR180T			

点検整備技術要領書

別 紙 2

整理番号	11BAA03	9／9

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

動作／操作		2／3論理回路モジュール												TEST回路
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）				TEST 1
		G 1	G 2	G 3	G 4	G 1	G 2	G 3	G 4	G 1	G 2	G 3	G 4	ブザー
HP21プローブ	S 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S 3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2）2／3論理回路の動作確認

(1) 同時性の確認

種別／操作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ﾊｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1, S2	G 1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
	G 2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2, S3	G 1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
	G 2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3, S1	G 1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
	G 2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

(2) 非同時性の確認

種別／操作		2／3論理回路モジュール						テスト回路
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）		
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1-S2	G 1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	停止
	G 2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2-S3	G 1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	停止
	G 2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3-S1	G 1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	停止
	G 2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G 4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA04	1／15

改訂　平成8年3月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	プルトニウム燃料第一・第二開発室		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 1）ほこりを払う。 2）ネジのゆるみなどを点検する。 3）コネクタの接続は完全であるか 4）現場状況の報告 対象は別添の機器構成リストによる。	異常のないこと	別紙 1,2,3参照
2．警報音発生装置の動作確認			
2.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。	500(Ω) ± 50(Ω) 以内	
2.2 各電源電圧及びランプの確認	ＣＲＰ１のＣＡＵユニット内の“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。		ＩＳＩＭの時間を合せること
	ＣＲＰ４～５の各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。 （必ずＣＯＭを先に接続のこと。）		
(1) ＰＳＣ－０３１	－7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	－7(V) ± 1.0(V) 以内 7(V) ± 1.0(V) 以内 -14(V) ± 1.0(V) 以内 14(V) ± 1.0(V) 以内 26(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	－5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	－5(V) ± 1.0(V) 以内 5(V) ± 1.0(V) 以内 -12(V) ± 1.0(V) 以内 12(V) ± 1.0(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯してないこと	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
３．電源ランプの確認	ＣＲＰ１～３の下記電源ランプが正常に点灯していることを確認する。		
	１）２／３論理回路の電源表示用ランプ	電源表示ランプ　点灯	
	２）検出器用電源の電源表示用ランプ（CRP1 3 台，CRP2 3台，CRP3 3台）	電源表示ランプ　点灯	
	３）テスト回路用電源の電源表示用ランプ（CRP1 1 台，CRP2 1台，CRP3 1台）	電源表示ランプ　点灯	
	４）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ　（CRP1 2台，CRP3 2台）	電源表示ランプ　点灯	
	５）アイソレータ用電源の電源表示用ランプ　（CRP2 1台）	電源表示ランプ　点灯	
４．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。		
	１）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＣＲＰ１　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V ＣＲＰ２　ＬＶ－５　24V 左から　ＬＶ－６　24V ＬＶ－７　24V ＣＲＰ３　ＬＶ－９　24V 左から　ＬＶ－10　24V ＬＶ－11　24V	24.7(V) ± 0.5(V) 以内	
	２）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＣＲＰ１　ＬＶ－４　12V ＣＲＰ２　ＬＶ－８　12V ＣＲＰ３　ＬＶ－12　12V	12(V) ± 0.5(V) 以内	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＣＲＰ１　　ＬＶ－13　24V 左から　　ＬＶ－14　24V ＣＲＰ３　　ＬＶ－15　24V 左から　　ＬＶ－16　24V 4）アイソレータ用電源（ＲＵ８２１） ＣＲＰ２　　ＬＶ’１ （アイソレーター用ピン ＴＢ１２　②　③　ＧＮＤ）	24(V) ± 1.0(V) 以内	
5．アナログ出力の測定	各γ線検出器のアナログ出力をＣＲＰ２記録計のデジタル表示にて測定する。	1.4(V)±0.1(V)以内	
6．テスト回路による動作確認	ＣＲＰ１～ＣＲＰ３のテスト回路を用いて下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＣＲＰ１のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、ＣＲＰ１のテスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路の動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡ，Ⅲと各々切り替え、ＣＲＰ５～７においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙４を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０４	4／15

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＣＲＰ１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2, S2 S3, S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡ，Ⅲと各々切り替え、ＣＲＰ２～３においても同様に確認する。 (2) 非同時性の確認 ＣＲＰ１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2, S2-S3, S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡ，Ⅲと各々切り替え、ＣＲＰ２～３においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙５を参照 正常に動作すること 別紙６を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA04	5／15

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．臨界警報動作確認	ＣＲＰ１のＣＡＵユニット内の“日常点券”部キースイッチを点検モードにする。 ＣＲＰ１のＡＵＸ１ユニット内“臨界テスト選択”スイッチを“ＣＲＰ１”に切換え、ＣＡＵユニット内の臨界テストを押して下記の動作を確認する。 同様にＣＲＰ３のＡＵＸ２ユニットのスイッチを“ＣＲＰ２”，“ＣＲＰ３”と切換え、実施する。また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	

補助ユニット	臨界テスト選択スイッチ		警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
			2/3 論理回路（ランプ）	臨界（ランプ）	遅延リレー（ランプ）	ブザー（音）	
ＡＵＸ１（ＣＲＰ１）	CRP1	Ａ，Ｂ	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		Ｂ，Ｃ	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		Ｃ，Ａ	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
ＡＵＸ２（ＣＲＰ３）	CRP2	Ａ，Ｂ	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		Ｂ，Ｃ	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		Ｃ，Ａ	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	CRP3	Ａ，Ｂ	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		Ｂ，Ｃ	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		Ｃ，Ａ	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０４	6／15

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．回転灯断線チェックの動作確認	ＣＲＰ１内ＡＵＸ１ユニット裏面の“FLB TEST”を押した時にＣＡＵユニットでブザーが吹鳴、ＡＵＸ１ユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
9．ＩＳＩＭによる動作確認	ＣＲＰ１及びＣＲＰ３のＩＳＩＭをＴＥＳＴスタートさせた時、プローブテスト、同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
10．回転灯テスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	回転灯 テスト スイッチ	基準	回転灯 テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	遅延 リレー (ﾗﾝﾌﾟ)	現場 回転灯
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること。	点滅	順次 点灯	順次 点灯

11．スピーカテスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	スピーカ テスト スイッチ	基準	ｽﾋﾟｰｶ テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	モニタ ｽﾋﾟｰｶ (音)	現場 ホーン ブロワ
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること。	点滅	吹鳴	吹鳴

12．バイパス機能試験	“日常点検”部のキースイッチを点検モードにし、模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続し臨界を発生させ、２／３論理回路モジュール３台の内２台をリセットした時、他の１台がバイパスされることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０４	7／15

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
13. 機能モニタ動作の確認		下記の対応するランプが点滅し、故障ブザーが吹鳴すること	
13.1 補助ユニット			
(1) ヒューズ断	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズ断」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	ＣＲＰ５のみ
(2) 回転灯リレー故障	ＣＡＵユニットのＫ１２にコイル断線リレーを挿入した後、“臨界テスト”を押して動作を確認する。	「回転灯リレー故障」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
13.2 警報発生ユニット			
(1) ヒューズモニタ	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズモニタ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	Ｆ１は除く。
(2) ＡＣ電源切換	ＡＣ切換１の場合は(CAU J8)を外す。ＡＣ切換２の場合は(J9)を外して動作を確認する。	「ＡＣ電源切換１」又は「ＡＣ電源切換２」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(3) テスト回路電源故障	テスト回路用電源（ＲＵ７２７）のスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「テスト回路電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(4) コネクタフェール	ＣＡＵユニット及びＡＵＸユニット背面パネルで任意のコネクタを外して動作を確認する。（各１箇所以上）	「ＣＮＮ／ＳＷ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	ＣＡＵ　Ｊ６、１０を外す。 ＡＵＸ　Ｊ１３、１５２０を外す。
(5) 電源故障１，２	リレーユニット用電源（ＲＵ８１９）のいずれかのスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「電源１故障」又は「電源２故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(6) 音系電源故障	警報音発生装置の低圧電源ＰＳ１とＰＳ２の背面パネルの出力電圧断用スイッチで同一電圧のスイッチを同時に押して動作を確認する。	「音系電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０４	8／15

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
14. 照射試験	Ｃｓ－１３７にて検出器に規定の線量を照射し、警報トリップ動作及びアナログ出力電圧を測定する。	（線量） 0.87(mGy/h)±0.3(mGy/h)以内　（アナログ出力） 2.12(V)±0.24(V) 以内	
15. 遠隔監視装置の機能確認	1）遠隔監視盤表示機能 各故障信号により遠隔監視盤の対応するランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。	各表示機能に異常のないこと	
	2）アナログ出力監視機能 アナログ出力を計算機及びデータレコーダが記録していることを確認する。	データ収集機能に異常のないこと	
16. 警報吹鳴試験	1）吹鳴試験 ＣＲＰ１のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続した後、監視モードにする。次に全系統の２個の検出系に模擬信号を入力し、警報吹鳴動作を確認する。	下記の箇所で動作を確認 ２／３論理回路 （対応検出器）ＬＥＤ点灯 （２／３出力）ランプ点滅 警報発生ユニット （臨　界）　ランプ点滅 音吹鳴 警報音発生装置　音吹鳴 警報表示盤　ランプ点滅 第一，第二開発室ロビー アナンシェータ盤 ランプ 音吹鳴 Ｐｕ工場警備所２階表示盤 表示　音吹鳴 回転灯　２ヶ所 点灯 ホーンブロワ　114ヶ所 遠隔監視盤　表示　音吹鳴	ホーンブロワについては臨界発生施設では連続吹鳴、他施設では断続吹鳴
	2）警報ホールド時間設定 上記の任意の１系統の吹鳴試験時にスピーカー音が自動的に停止するまでの時間を測定する。	10分±30秒	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０４	９／15

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
17. 測定モードの確認	最後に臨界警報装置が測定状態になっているかを確認する。 1）２／３論理回路 2）警報発生ユニット	キースイッチ　無 監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

点検整備技術要領書

別 紙 1

整理番号	11BAA04	10／15

臨界警報装置構成リスト		設置場所	Pu－1／2	
構　成	機　器	型　名	SER No.	備　考
2／3論理回路	CRP1 A	RU724		
	B			
	C			
	CRP2 A			
	B			
	C			
	CRP3 A			
	B			
	C			
テスト回路	CRP1	RU725		
	CRP2			
	CRP3			
ガンマ線検出器	1CR1－1	RD120		
	1CR1－2			
	1CR1－3			
	1CR2－1			
	1CR2－2			
	1CR2－3			
	2CR1－1			
	2CR1－2			
	2CR1－3			
	2CR2－1			
	2CR2－2			
	2CR2－3			
	2CR3－1			
	2CR3－2			
	2CR3－3			
	2CR4－1			
	2CR4－2			
	2CR4－3			
	2CR5－1			
	2CR5－2			
	2CR5－3			
	2CR6－1			
	2CR6－2			
	2CR6－3			
定電圧低圧電源(24V)	CRP1 左	RU726		
	中			
	右			

点検整備技術要領書

別 紙 2

整理番号	11BAA04	11／15

構　成	機　器	型　名	SER No.	備　考
定電圧低圧電源(24V)	CRP2 左			
	中			
	右			
	CRP3 左			
	中			
	右			
定電圧低圧電源(12V)	CRP1	RU727		
	CRP2			
	CRP3			
ビン電源	CRP1	D-591/E-502		
	CRP2			
	CRP3			
低圧電源ユニット	CRP1 左	RU819		
	右			
	CRP3 左			
	右			
低圧電源ユニット	CRP2	RU818		
補助ユニット	CRP1	RU612		
	CRP3			
警報発生ユニット	CRP1	RU613		
アイソレータ	ISO 1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
警報発音発生装置	CRP4 上	PSC−031		
	下			
	CRP5 上			
	下			
	CRP4	ESC−031		
	CRP5			
	CRP4	OPC−031		
	CRP5			
	CRP4	SPC−031		
	CRP5			

点検整備技術要領書

別 紙 3

整理番号	11BAA04	12／15

構成機器	型名	SER No.	備考
CRP4	RYP−031		
CRP5			
CRP4 上	PA−2440		
下			
CRP5 上			
下			
回転灯		FLB1, 2	
ホーンブロワ		1HB1～1HB50, 2HB1～60, MHB1～4	
ハイブリッド記録計	4081		

点検整備技術要領書

別 紙 4

整理番号	11BAA04	13／15

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

操作＼動作		2／3論理回路モジュール												TEST回路		
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）				TST1	TST2	TST3
		G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	ブザー	ブザー	ブザー
CRP1 プローブテスト	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
CRP2 プローブテスト	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－
	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－
CRP3 プローブテスト	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○
	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○

2） 2／3論理回路の動作確認

(1) 同時性

操作＼動作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット	
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			AUX1	AUX2
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ	ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ
ＴＳＴ1	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ＴＳＴ1	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ＴＳＴ1	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ＴＳＴ2	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ2	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ2	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ3	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ3	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ3	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓

(2) 非同時性

動作 / 操作		2／3論理回路モジュール						テスト回路	警報発生ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ブザー
TST1	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST3	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST3	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST3	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０５	１／16

改訂　平成８年３月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	ﾒｰｶ名	東　芝
検査名	総合検査	施設名	プルトニウム燃料第三開発室		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	系全体を下記項目にて行う。 １）ほこりを払う。 ２）ネジのゆるみなどを点検する。 ３）コネクタの接続は完全であるか ４）現場状況の報告 対象は別添の機器構成リストによる。	異常のないこと	別紙1,2,3 参照
２．警報音発生装置の動作確認			
2.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。	500(Ω)±50(Ω) 以内	
2.2 各電源電圧及びランプの確認	ＣＲＰ５のＣＡＵユニット内の“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。		ＩＳＩＭの時間を合せること
	ＣＲＰ１～３の各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。 （必ずＣＯＭを先に接続のこと。）		
(1) ＰＳＣ－０３１	－7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	－5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯してないこと	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
3．電源ランプの確認	ＣＲＰ４～７の下記電源ランプが正常に点灯していることを確認する。 1）２／３論理回路の電源表示用ランプ 2）検出器用電源の電源表示用ランプ (CRP4 3台,CRP5 3台,CRP6 3台,CRP7 3台) 3）テスト回路用電源の電源表示用ランプ (CRP4 1台,CRP5 1台,CRP6 1台,CRP7 1台) 4）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ　(CRP5 2台, CRP7 2台) 5）アイソレータ用電源の電源表示用ランプ　(CRP4 1台, CRP6 1台)	 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯	
4．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。 1）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＣＲＰ4　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V ＣＲＰ5　ＬＶ－５　24V 左から　ＬＶ－６　24V ＬＶ－７　24V ＣＲＰ6　ＬＶ－９　24V 左から　ＬＶ－10　24V ＬＶ－11　24V ＣＲＰ7　ＬＶ－13　24V 左から　ＬＶ－14　24V ＬＶ－15　24V	 CRP4 24.9(V)±0.5(V)以内 CRP5,6,7 24.6(V)±0.5(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０５	3／16

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＣＲＰ４　　ＬＶ－４　12V ＣＲＰ５　　ＬＶ－８　12V ＣＲＰ６　　ＬＶ－12　12V ＣＲＰ７　　ＬＶ－16　12V	12(V)±0.5(V)以内	
	3）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＣＲＰ５　　ＬＶ－17　24V 左から　ＬＶ－18　24V ＣＲＰ７　　ＬＶ－19　24V 左から　ＬＶ－20　24V	24(V)±1.0(V)以内	
	4）アイソレータ用電源（ＲＵ８２１） ＣＲＰ４　　ＬＶ’１ （アイソレーター用ピン ＴＢ１２　②　③　ＧＮＤ）	24(V)±1.0(V)以内	
5．アナログ出力の測定	各検出器のアナログ出力を対応するアイソレータ出力端子にデジボルを接続し測定する。	1.4(V)±0.1(V)以内	
6．テスト回路による動作確認	ＣＲＰ４～ＣＲＰ８のテスト回路を用いて下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＣＲＰ５のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、ＣＲＰ４のテスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路の動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡ，Ⅲ，Ⅳと各々切り替え、ＣＲＰ５～７においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙３を参照	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＣＲＰ５のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2, S2 S3, S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡ，Ⅲ，Ⅳと各々切り替え、ＣＲＰ５～７においても同様に確認する。 (2) 非同時性の確認 ＣＲＰ５のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2, S2-S3, S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡ，Ⅲ，Ⅳと各々切り替え、ＣＲＰ５～７においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙４，５を参照 正常に動作すること 別紙６，７を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA05	5／16

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．臨界警報動作確認	CRP5のCAUユニット内"日常点検"部キースイッチを点検モードにする。 CRP5のAUX1ユニット内の"臨界テスト選択"スイッチをCRP4"，"CRP5"に、各々切換え、CAUユニット内の臨界テストを押して下記の動作を確認する。 同様にCRP7のAUX2ユニットのスイッチを"CRP6"，"CRP7"と切換え、実施する。また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	

補助ユニット	臨界テスト選択スイッチ		警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
			2/3 論理回路（ランプ）	臨界（ランプ）	遅延リレー（ランプ）	ブザー（音）	
AUX1（CRP1）	CRP4	A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	CRP5	A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
AUX2（CRP3）	CRP6	A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
	CRP7	A，B	A，B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		B，C	B，C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
		C，A	C，A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴

点検整備技術要領書

整理番号	11BAA05	6／16

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．回転灯断線チェックの動作確認	ＣＲＰ５内ＡＵＸ１ユニット裏面の“FLB TEST”を押した時にＣＡＵユニットでブザーが吹鳴、ＡＵＸ１ユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
9．ＩＳＩＭによる動作確認	ＣＲＰ５及びＣＲＰ７のＩＳＩＭをＴＥＳＴスタートさせた時、プローブテスト，同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
10．回転灯テスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	回転灯 テスト スイッチ	基準	回転灯 テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	遅延 リレー (ﾗﾝﾌﾟ)	現場 回転灯
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること。	点滅	順次 点灯	順次 点灯

11．スピーカテスト機能試験	下記のモードにおいて正常に動作することを確認する。（但し、吹鳴試験の直前に行うこと。）		

日常点検 点検監視 切換	現場 テスト スイッチ	スピーカ テスト スイッチ	基準	ｽﾋﾟｰｶ テスト (ﾗﾝﾌﾟ)	モニタ ｽﾋﾟｰｶ (音)	現場 ホーン ブロワ
監視	ON	ON	左記スイッチ操作により、右記通り動作すること。	点滅	吹鳴	吹鳴

12．バイパス機能試験	“日常点検”部のキースイッチを点検モードにし、模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続し臨界を発生させ、２／３論理回路モジュール３台の内２台をリセットした時、他の１台がバイパスされることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０５	7／16

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
13. 機能モニタ動作の確認		下記の対応するランプが点滅し、故障ブザーが吹鳴すること	
13.1 補助ユニット			
(1) ヒューズ断	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズ断」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
(2) 回転灯リレー故障	ＣＡＵユニットのＫ１２にコイル断線リレーを挿入した後、“臨界テスト”を押して動作を確認する。	「回転灯リレー故障」ランプ点滅 (AUX) 音吹鳴 (CAU)	
13.2 警報発生ユニット			
(1) ヒューズモニタ	断線を模擬したヒューズを挿入して動作を確認する。	「ヒューズモニタ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	Ｆ１は除く。
(2) ＡＣ電源切換	ＡＣ切換１の場合は(CAU J8)を外す。ＡＣ切換２の場合は(J9)を外して動作を確認する。	「ＡＣ電源切換１」又は「ＡＣ電源切換２」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(3) テスト回路電源故障	テスト回路用電源（ＲＵ７２７）のスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「テスト回路電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(4) コネクタフェール	ＣＡＵユニット及びＡＵＸユニットいずれかの背面パネルで任意のコネクタを外して動作を確認する。（各１箇所以上）	「ＣＮＮ／ＳＷ」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	ＣＡＵ　Ｊ６、１０を外す。 ＡＵＸ（CRP5のみ）Ｊ１３、１５、２０を外す。
(5) 電源故障１，２	リレーユニット用電源（ＲＵ８１９）のいずれかのスイッチをＯＦＦにして動作を確認する。	「電源１故障」又は「電源２故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	
(6) 音系電源故障	警報音発生装置の低圧電源ＰＳ１とＰＳ２の背面パネルの出力電圧断用スイッチで同一電圧のスイッチを同時に押して動作を確認する。	「音系電源故障」ランプ点滅 (CAU) 音吹鳴 (CAU)	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０５	8／16

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
14. 計算機との接続状態の確認	1）個別警報を出した時計算機が正常に動作する事を確認する。 2）臨界警報を出した時に計算機が正常に動作する事を確認する。 3）通常状態における各検出器の出力値を確認する。	正常に動作すること 正常に動作すること	
15. 照射試験	1）ガンマ線検出器 Ｃｓ－１３７にて検出器に規定の線量を照射し、警報トリップ動作及びアナログ出力電圧を測定する。	（線量） 0.87(mGy/h)±0.3(mGy/h)以内　（アナログ出力） 2.12(V)±0.24(V) 以内	
16. 遠隔監視装置の機能確認	1）遠隔監視盤表示機能 各故障信号により遠隔監視盤の対応するランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。 2）アナログ出力監視機能 アナログ出力を計算機及びデータレコーダが記録していることを確認する。	各表示機能に異常のないこと データ収集機能に異常のないこと	
17. 警報吹鳴試験	1）吹鳴試験 ＣＲＰ５のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。模擬信号発生器を盤内の信号分配器に接続した後、監視モードにする。次に全系統の２個の検出系に模擬信号を入力し、警報吹鳴動作を確認する。	下記の箇所で動作を確認 ２／３論理回路 （対応検出器）ＬＥＤ点灯 （２／３出力）ランプ点滅 警報発生ユニット （臨　界）　ランプ点滅　音吹鳴 警報音発生装置　音吹鳴 遠隔監視パネル　表示　音吹鳴 中央監視盤　ランプ　音吹鳴 グラフィックパネル　ランプ 回転灯　１ヶ所　点灯 ホーンブロワ　167ヶ所　音吹鳴	

点検整備技術要領書

整理番号	１１ＢＡＡ０５	9／16

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2）警報ホールド時間設定 上記の任意の１系統の吹鳴試験時にスピーカー音が自動的に停止するまでの時間を測定する。	10分±30秒	
18. 測定モードの確認	最後に臨界警報装置が測定状態になっているかを確認する。		
	1）２／３論理回路	キースイッチ　無	
	2）警報発生ユニット	監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

点検整備技術要領書

別 紙 1

整理番号	11BAA05	10／16

臨界警報装置構成リスト	設置場所	Pu－3

構成	機器	型名	SER No	備考
2／3論理回路	CRP4 A	RU724		
	B			
	C			
	CRP5 A			
	B			
	C			
	CRP6 A			
	B			
	C			
	CRP7 A			
	B			
	C			
テスト回路	CRP4	RU725		
	CRP5			
	CRP6			
	CRP7			
ガンマ線検出器	CR1－1	RD120		
	CR1－2			
	CR1－3			
	CR2－1			
	CR2－2			
	CR2－3			
	CR3－1			
	CR3－2			
	CR3－3			
	CR4－1			
	CR4－2			
	CR4－3			
	CR5－1			
	CR5－2			
	CR5－3			
	CR6－1			
	CR6－2			
	CR6－3			
	CR7－1			
	CR7－2			
	CR7－3			
	CR8－1			
	CR8－2			
	CR8－3			

点検整備技術要領書

別 紙 2

整理番号	１１ＢＡＡ０５	11／16

構成	機器	型名	SER No.	備考
ガンマ線検出器	ＣＲ９－１	ＲＤ１２０		
	ＣＲ９－２			
	ＣＲ９－３			
	ＣＲ10－１			
	ＣＲ10－２			
	ＣＲ10－３			
	ＣＲ11－１			
	ＣＲ11－２			
	ＣＲ11－３			
	ＣＲ12－１			
	ＣＲ12－２			
	ＣＲ12－３			
	ＣＲ13－１			
	ＣＲ13－２			
	ＣＲ13－３			
	ＣＲ14－１			
	ＣＲ14－２			
	ＣＲ14－３			
定電圧低圧電源(24V)	ＣＲＰ４ 左	ＲＵ７２６		
	中			
	右			
	ＣＲＰ５ 左			
	中			
	右			
	ＣＲＰ６ 左			
	中			
	右			
	ＣＲＰ７ 左			
	中			
	右			
定電圧低圧電源(12V)	ＣＲＰ４	ＲＵ７２７		
	ＣＲＰ５			
	ＣＲＰ６			
	ＣＲＰ７			
ビン電源	ＣＲＰ４	D-591/E-502		
	ＣＲＰ７			
低圧電源ユニット	ＣＲＰ５ 左	ＲＵ８１９		
	右			
	ＣＲＰ７ 左			
	右			
低圧電源ユニット	ＣＲＰ４	ＲＵ８１８		

点検整備技術要領書

別 紙 3

整理番号	11BAA05	12／16

構成	機器	型名	SER No.	備考
補助ユニット	CRP5	RU612		
	CRP7			
警報発生ユニット	CRP5	RU613		
警報発音発生装置	CRP1 上	PSC−031		
	下			
	CRP2 上			
	下			
	CRP3 上			
	下			
	CRP1	ESC−031		
	CRP2			
	CRP3			
	CRP1	OPC−031		
	CRP2			
	CRP3			
	CRP1	SPC−031		
	CRP2			
	CRP3			
	CRP1	RYP−031		
	CRP2			
	CRP3			
	CRP1 上	PA−2440		
	下			
	CRP2 上			
	下			
	CRP3 上			
	下			
回転灯			FLB1	
ホーンブロワ			HB1〜HB167	
ハイブリッド記録計	上	RD2400		
	下			

点検整備技術要領書

別 紙 4

整理番号	11BAA05	13／16

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

動作 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール												TEST回路			
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）				TST1	TST2	TST3	TST4
		G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	ブザー	ブザー	ブザー	ブザー
CRP4	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−
プローブテスト	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−
CRP5	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
プローブテスト	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−	−
CRP6	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	−
プローブテスト	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	−
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	−
CRP7	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	○
プローブテスト	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	○
	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	−	−	○

2）2／3論理回路の動作確認

(1) 同時性

動作 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット	
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			AUX1	AUX2
		該当 LED	2/3ランプ	該当 LED	2/3ランプ	該当 LED	2/3ランプ	ブザー	バイパスランプ	バイパスランプ
TST1 同時 テストスイッチ S1, S2	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
TST1 同時 テストスイッチ S2, S3	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
TST1 同時 テストスイッチ S3, S1	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—

動作 / 操作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット	
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			AUX1	AUX2
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ	ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ
ＴＳＴ2	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ＴＳＴ2	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ＴＳＴ2	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	—
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—
ＴＳＴ3	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ3	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ3	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ4	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ4	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ＴＳＴ4	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	—	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	—	↓

(2) 非同時性

操作＼動作		2／3 論理回路モジュール						テスト回路	警報発生ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ブザー
TST1 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1-S2	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2-S3	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3-S1	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1-S2	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2-S3	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3-S1	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST3 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1-S2	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST3 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2-S3	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST3 非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3-S1	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

動作 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール						テスト回路	警報発生ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ランプ	該当 LED	2/3ランプ	該当 LED	2/3ランプ	ブザー	ブザー
TST4 非同時 テストスイッチ S1, S2	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST4 非同時 テストスイッチ S2, S3	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST4 非同時 テストスイッチ S3, S1	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０１	１／６

改訂　平成８年３月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	性能検査	施設名	再処理・分離精製工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．警報音発生装置の動作確認			
1.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。	350(Ω)±50(Ω) 以内	ＩＳＩＭの時間を合わせること。
1.2 各電源電圧及びランプの確認	各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。 （必ずＣＯＭを先に接続のこと。）		
(1) ＰＳＣ－０３１	－7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-7(V) ± 1.0(V) 以内 7(V) ± 1.0(V) 以内 -14(V) ± 1.0(V) 以内 14(V) ± 1.0(V) 以内 26(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	－5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-5(V) ± 1.0(V) 以内 5(V) ± 1.0(V) 以内 -12(V) ± 1.0(V) 以内 12(V) ± 1.0(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯していないこと	
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	

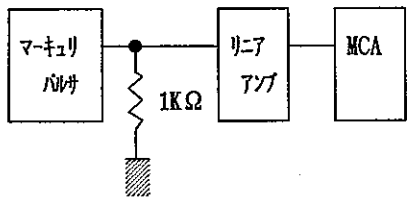
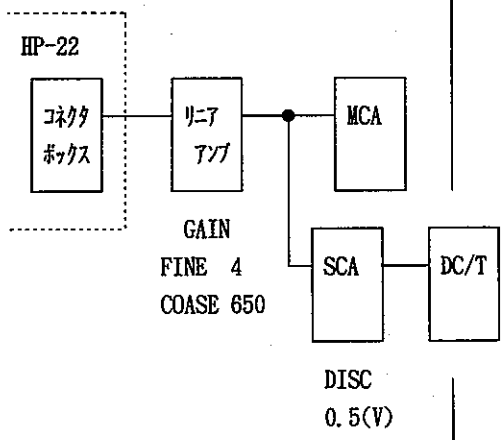
点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０１	２／６

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
２．電源ランプの確認	下記の電源ランプが正常に点灯していることを確認する。 １）２／３論理回路の電源表示用ランプ ２）検出器用電源の電源表示用ランプ （ＨＰ－２１　３台） ３）テスト回路用電源の電源表示用ランプ （ＨＰ－２１　１台） ４）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ　（ＨＰ－２１　２台）	 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯 電源表示ランプ　点灯	
３．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。 １）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＨＰ－２１　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V ２）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＨＰ－２１　12V ３）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＨＰ－２１　Ａ　24V 左から　Ｂ　24V	 24.7(V) ± 0.5(V) 以内 12.0(V) ± 0.5(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０１	３／６

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．アナログ出力の測定	各γ線検出器のアナログ出力を警報補助盤のデジタル表示メータにて測定する。 中性子線検出器は、ＨＰ－２２盤内のＢＮＣコネクタボックスの出力端子にＭＣＡを接続しスペクトル測定及びカウンタを接続し計数値を測定する。 接続は下記の方法で行う。 １）リニアアンプのＧＡＩＮ(4×650)設定  ２）スペクトル及び計数測定  	1.4(V)±0.1(V)以内 4000(C/M) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０１	4／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．テスト回路による動作確認	ＨＰ－２１のテスト回路を用いて、下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。“テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路及び（放射線監視卓の）警報表示盤の動作を確認する。	正常に動作すること 別紙１の１）を参照	
	2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールの２／３回路選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2，S2 S3，S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット、補助ユニット及び（放射線監視卓の）警報表示盤の動作を確認する。	正常に動作すること 別紙１の２）(1)を参照	
	(2) 非同時性の確認 ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをＩにし、テスト回路モジュールの２／３回路選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2，S2-S3，S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット、補助ユニット及び（放射線監視卓の）警報表示盤の動作を確認する。	正常に動作すること 別紙１の２）(2)を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０１	5／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．臨界警報動作確認	ＨＰ－２１のＣＡＵユニット内“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。 ＡＵＸユニット内の“臨界テスト選択”スイッチを各々切換え、ＣＡＵユニット内の臨界テストを押して、下記の動作を確認する。また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
7．回転灯断線チェックの動作確認	ＨＰ－２１盤内“回転灯断線チェック”スイッチを押した時にＣＡＵユニットでブザーが吹鳴、ＡＵＸユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
8．ＩＳＩＭによる動作確認	ＩＳＩＭをＴＥＳＴスタートさせた時、プローブテスト，同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
9．測定モードの確認	最後に臨界警報装置が監視状態になっているかを確認する。 1）２／３論理回路 2）警報発生ユニット	キースイッチ　無 監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

臨界テスト選択スイッチ	警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
	2/3 論理回路（ランプ）	臨界（ランプ）	遅延リレー（ランプ）	ブザー（音）	
Ａ，Ｂ	A, B点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
Ｂ，Ｃ	B, C点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴
Ｃ，Ａ	C, A点灯	点滅	順次点灯	吹鳴	吹鳴

点検整備技術要領書

別 紙 1

整理番号	12BAA01	6／6

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

動作 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール												テスト回路	警報表示盤
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）					
		G1	G2	G3	G4	G1	G2	G3	G4	G1	G2	G3	G4	ブザー	音・表示
HP21プローブ	S1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2）2／3論理回路の動作確認

(1) 同時性の確認

種別 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット	警報表示盤
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）				
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ﾊｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ	音・表示
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1, S2	G1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2, S3	G1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3, S1	G1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

(2) 非同時性の確認

種別 ＼ 操作		2／3論理回路モジュール						テスト回路	警報表示盤
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	音・表示
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S1-S2	G1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	停止	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S2-S3	G1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	停止	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
非同時 ﾃｽﾄｽｲｯﾁ S3-S1	G1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	停止	該当動作
	G2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	G4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	12BAA02	1／7

改訂　平成8年3月

機器名	臨界警報装置	型　名	――――	メーカ名	東　芝
検査名	性能検査	施設名	プルトニウム転換技術開発施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．警報音発生装置の動作確認			
1.1 スピーカラインのインピーダンス測定	監視状態にて、スピーカライン異常検出ユニットパネル面のスイッチを切換え、各々の指示値をパネルメータ上で読みとる。	500(Ω) ± 50(Ω) 以内	
1.2 各電源電圧及びランプの確認	ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 各ユニットの表面パネル上のチェック端子をデジタルボルトメータで測定する。 （必ずＣＯＭを先に接続のこと。）		ＩＳＩＭの時間を合せること
(1) ＰＳＣ－０３１	- 7(V) 7(V) -14(V) 14(V) 26(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-7(V) ± 1.0(V) 以内 7(V) ± 1.0(V) 以内 -14(V) ± 1.0(V) 以内 14(V) ± 1.0(V) 以内 26(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 正常が点灯していること	
(2) ＥＳＣ－０３１	- 5(V) 5(V) -12(V) 12(V) 24(V) 電源ランプ 異常検出ランプ	-5(V) ± 1.0(V) 以内 5(V) ± 1.0(V) 以内 -12(V) ± 1.0(V) 以内 12(V) ± 1.0(V) 以内 24(V) ± 1.0(V) 以内 正常に点灯していること 異常ランプが点灯してないこと	
(3) ＯＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	
(4) ＰＡ－２４４０	電源ランプ	点灯していること	
(5) ＲＹＰ－０３１	異常検出ランプ	点灯していないこと	
(6) ＳＰＣ－０３１	異常検出ランプ	正常が点灯していること	

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０２	２／７

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
２．電源ランプの確認	下記の電源ランプが正常に点灯していることを確認する。		
	１）２／３論理回路の電源表示用ランプ	電源表示ランプ　点灯	
	２）検出器用電源の電源表示用ランプ（ＨＰ－１１ 3台，ＨＰ－１２ 3台）	電源表示ランプ　点灯	
	３）テスト回路用電源の電源表示用ランプ（ＨＰ－１１ 1台，ＨＰ－１２ 1台）	電源表示ランプ　点灯	
	４）リレーユニット用電源の電源表示用ランプ　（ＨＰ－１２　2台）	電源表示ランプ　点灯	
	５）アイソレータ用電源の電源表示用ランプ　（ＨＰ－１１，ＲＵ８２１）	電源表示ランプ　点灯	
３．各電源電圧の確認	各電源電圧をデジタルボルトメータで測定し、基準値以内であることを確認する。		
	１）検出器用電源（ＲＵ７２６） ＨＰ－１１　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V ＨＰ－１２　ＬＶ－１　24V 左から　ＬＶ－２　24V ＬＶ－３　24V	24.7(V) ± 0.5(V) 以内	
	２）テスト回路用電源（ＲＵ７２７） ＨＰ－１１　+12V ＨＰ－１２　+12V	12.0(V) ± 0.5(V) 以内	
	３）リレーユニット用電源（ＲＵ８１９） ＨＰ－１２　Ａ　24V 左から　Ｂ　24V	24(V) ± 1.0(V) 以内	
	４）アイソレータ用電源（ＲＵ８２１） ＨＰ－１１　＋　24V （アイソレーター用ピン ＴＢ１２　②　③　ＧＮＤ）	24(V) ± 1.0(V) 以内	
４．アナログ出力の測定	各検出器のアナログ出力を臨界記録計盤のデジタル表示メータにて測定する。	1.4(V)± 0.1(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０２	3／7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．テスト回路による動作確認	ＨＰ－１１，ＨＰ－１２のテスト回路を用いて下記の項目を試験する。 1）検出器の動作確認 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内の“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、ＨＰ－１１のテスト回路モジュールのプローブテストスイッチS1，S2，S3をそれぞれ押した時、２／３論理回路、テスト回路の動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡにし、ＨＰ－１２においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙１の１）を参照	
	2）２／３論理回路の動作確認 (1) 同時性の確認 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“同時テスト”0.4SECのS1 S2，S2 S3，S3 S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡにし、ＨＰ－１２においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙１の２）(1)を参照	

点検整備技術要領書

整理番号	12BAA02	4／7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	(2) 非同時性の確認 ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内“日常点検”部のキースイッチを点検モードにする。 “テスト回路選択”スイッチをⅠにし、テスト回路モジュールの２／３論理選択スイッチ及び２／３論理回路のグループスイッチを所定の位置に切換え、“非同時テスト”0.6SECのS1-S2, S2-S3, S3-S1をそれぞれ押した時、２／３論理回路、警報発生ユニット及び補助ユニットの動作を確認する。 次に“テスト回路選択”スイッチをⅡにし、ＨＰ－１２においても同様に確認する。	正常に動作すること 別紙２を参照	
６．臨界警報動作確認	ＨＰ－１２のＣＡＵユニット内“日常点検”部キースイッチを点検モードにする。 ＡＵＸユニット内“日常点検”部のスイッチを“ＨＰ－１１”又は“ＨＰ－１２”に、“臨界テスト選択”スイッチを各々切換え、ＣＡＵユニット内の臨界テストを押して下記の動作を確認する。	正常に動作すること	

臨界テスト選択スイッチ		警報発生ユニット				警報音発生装置（音）
		2/3 論理（ﾗﾝﾌﾟ）	臨　界（ﾗﾝﾌﾟ）	遅　延リレー（ﾗﾝﾌﾟ）	ブザー（音）	
HP-11	A，B	A，B点灯	点　滅	順次点灯	吹　鳴	吹　鳴
	B，C	B，C点灯	点　滅	順次点灯	吹　鳴	吹　鳴
	C，A	C，A点灯	点　滅	順次点灯	吹　鳴	吹　鳴
HP-12	A，B	A，B点灯	点　滅	順次点灯	吹　鳴	吹　鳴
	B，C	B，C点灯	点　滅	順次点灯	吹　鳴	吹　鳴
	C，A	C，A点灯	点　滅	順次点灯	吹　鳴	吹　鳴

また、全ての動作を確認後、結果をプリントアウトすること。

点検整備技術要領書

整理番号	１２ＢＡＡ０２	５／７

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
７．回転灯断線チェックの動作確認	ＨＰ－１２盤内“回転灯断線チェック”スイッチを押した時にＣＡＵユニットでブザーが吹鳴、ＡＵＸユニットでランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
８．ＩＳＩＭによる動作確認	ＩＳＩＭをＴＥＳＴスタートさせた時、プローブテスト、同時テスト及び非同時テストを順次実施し、終了後結果をプリントアウトすること。	正常に動作すること	
９．測定モードの確認	最後に臨界警報装置が測定状態になっているかを確認する。 １）２／３論理回路 ２）警報発生ユニット	 キースイッチ　無 監視点検スイッチ　監視 キースイッチ　無	

点検整備技術要領書

別 紙 3

整理番号	12BAA02	6／7

1）検出器の動作確認　　○印の箇所で動作すること

操作＼動作		2／3論理回路モジュール												TEST回路	
		2/3 論理回路（A）				2/3 論理回路（B）				2/3 論理回路（C）				TEST 1	TEST 2
		G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	G_1	G_2	G_3	G_4	ブザー	ブザー
HP11	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
プローブ	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
テスト	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
HP12	S_1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
プローブ	S_2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
テスト	S_3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○

2）2／3論理回路の動作確認

(1) 同時性

操作＼動作		2／3論理回路モジュール						警報発生ユニット	補助ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
操作		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ﾊﾞｲﾊﾟｽﾗﾝﾌﾟ
TST1	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	S1S2点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1, S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	S2S3点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2, S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	S3S1点灯	点滅	吹鳴	該当点灯
同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3, S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

(2) 非同時性

動作 / 操作		2／3論理回路モジュール						テスト回路	警報発生ユニット
		2/3 論理回路（A）		2/3 論理回路（B）		2/3 論理回路（C）			
		該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	該当 LED	2/3ﾗﾝﾌﾟ	ブザー	ブザー
TST1	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST1	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	S1S2点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S1-S2	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	S2S3点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S2-S3	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
TST2	G_1	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	S3S1点灯	消灯	吹鳴	停止
非同時	G_2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ﾃｽﾄｽｲｯﾁ	G_3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
S3-S1	G_4	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＡ０１	１／３

改訂　平成８年３月

機器名	臨界検出器（γ）	型　名	ＲＤ－１２０	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
点検準備	本点検作業は、専用の作業場所を確保するとともに、作業台上をビニールシート等で養生後、実施すること。		
1．点検清掃	検出器の外部及び内部基板、コネクタ等の清掃、部品の破損、ネジの緩みがないことを点検するとともに、プローブ本体、ソケット内部に異物がないことを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）異物のないこと	異常のないこと。	
2．点検前の確認	点検前に基板上の“N，ＴＥＳＴ，T”の配線を“T”側にする。		
2.1 アナログ出力の測定	規定の電圧を供給し、アナログ出力(TP4-TP13)をデジタルボルトメータで測定する。	参考値	
2.2 ^{137}Ｃｓ照射時のアナログ出力測定	2．1項の状態において下記の値を照射して、アナログ出力(TP4-TP13)をデジタルボルトメータで測定する。 照射線量当量率 ・再処理　:1.74(mGy/h) ・Ｐｕ転換技術開発施設:1.57(mGy/h) ・Ｐｕ工場(Pu-1,2,3)　:1.57(mGy/h) ・ＣＰＦ　:3.14(mGy/h)	参考値 アナログ出力 2.84(V)±0.25(V)以内 2.69(V)±0.25(V)以内 2.12(V)±0.25(V)以内 3.99(V)±0.25(V)以内	
3．低圧電源部の確認	低圧電源出力(TP8-TP13)にデジタルボルトメータを接続し、出力電圧を測定する。同時にシンクロスコープを用いてリップル電圧を測定する。	出力電圧 15(V)±0.5 以内 リップル電圧 10(mVp-p) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＡ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
４．高圧電源部の確認			
4.1 可変範囲	ＶＲ５を回しＴＰ１２－ＴＰ１３間にて高圧出力の最低値と最高値をデジタルハイボルトメータで測定。	-950(V)±100(V)以上	
4.2 リップル電圧の測定	通常状態でリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	50(mVp-p) 以内	
５．直流増幅器の直線性確認			
5.1 直線性の確認	基板上の“ＣＣ，Ｉ，Ｏ”の配線切換を“Ｏ”側にし、PJ2-A3より 0, -5, -10, -20(μA)の電流を入力したときのアナログ出力（TP4-TP13）をデジタルボルトメータで測定する。	入力電流　基準出力 0(μA)　1.00(V) -5(μA)　2.00(V) -10(μA)　3.00(V) -15(μA)　4.00(V) -20(μA)　5.00(V) 基準出力±0.01(V) 以内	
5.2 トリップ点の確認	アナログ出力が下記の値の時にトリップするようにＶＲ３を調整する。 トリップ設定値 ・再処理　:2.84(V) ・Ｐｕ転換技術開発施設:2.69(V) ・Ｐｕ工場(Pu-1,2,3)　:2.12(V) ・ＣＰＦ　:3.99(V)	基準設定値±0.01(V) 以内	
６．γ線照射試験			
6.1 高圧電源の設定	１）基板上の“CC,I,O”の配線を“Ｏ”側にし、^{137}Ｃｓ 4.35(mG/h) を照射してアナログ出力（TP4-TP13）が4.6(V)になるように高圧電源を可変する。	4.6(V)±0.1(V)以内	
	２）基板上の“CC,I,O”の配線を“Ｉ”側にし、照射していないときのアナログ出力（TP4-TP13）が1.4(V)になるようにＶＲ７にてＬＥＤバイアスを調整する。	1.4(V)±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＡ０１	3／3

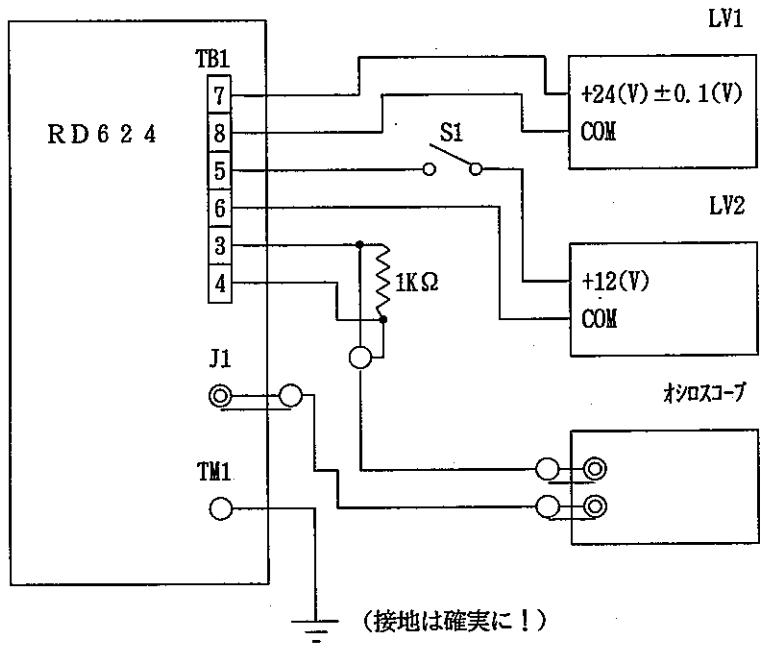
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.2 直線性	^{137}Ｃｓにて0.87,2.61,4.35(mGy/h) 照射時の各々のアナログ出力(TP4-TP13)を測定する。	線量当量率　基準出力 0.87(mSv/h)　2.12 (V) 2.61(mSv/h)　3.56 (V) 4.35(mSv/h)　5.00 (V) 基準出力±0.25(V) 以内	
6.3 トリップ点の確認	^{137}Ｃｓにて下記の値を照射時にトリップ動作が行われることを確認する。 また、このときのアナログ出力(TP4-TP13)を測定する。 照射線量当量率 ・再処理　:1.74(mGy/h) ・Ｐｕ転換技術開発施設:1.57(mGy/h) ・Ｐｕ工場(Pu-1,2,3)　:0.87(mGy/h) ・ＣＰＦ　:3.14(mGy/h)	動作に異常の無いこと アナログ出力 2.84(V)±0.25(V) 以内 2.69(V)±0.25(V) 以内 2.12(V)±0.25(V) 以内 3.99(V)±0.25(V) 以内	
6.4 応答速度の測定	線源駆動時の照射信号とγ線プローブの警報出力信号の時間差をシンクロスコープで観測する。	500(ms) 以内	
7．高圧電源警報回路の動作確認	高圧出力をＶＲ５にて徐々に上げていき高圧設定電圧＋20(V) 以内で高圧電源警報回路が正常に動作し、トリップ動作することを確認する。	使用電圧の+20(V)以内で動作すること	
8．プローブチェック回路の確認	プローブチェックをしたときに警報出力が出ることを確認。 またその時のアナログ出力 (TP4-TP13) の飽和時間をシンクロスコープにて測定し５ (msec) となるように、ＶＲ８にて調整する。	正常に動作すること 5 (msec)±1 (msec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＢ０１	１／５

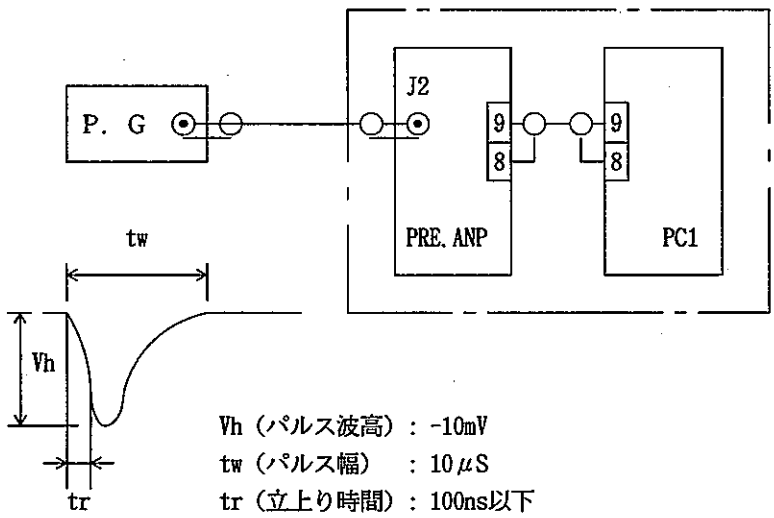
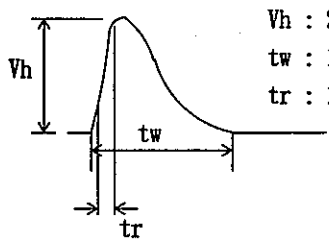
改訂　平成８年３月

機器名	臨界警報用中性子検出器	型　名	ＲＤ６２４	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	再処理施設用		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	検出器内外部の清掃および部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）コネクタ部のピンが正常であること	異常のないこと	
２．低圧電源回路の確認	 電源端子TB1-7･8 にDC 24(V)±0.1(V)を印加し、PC１（主増幅・波高弁別回路基板）をカードエクステンダーを用いて引出し±15(V)(PC1 13-1)，－15(V)(PC1 12-1)，＋６(V)(PC1 14-1) の電圧およびリップルを測定する。	+15(V)±0.15(V) 以内 リップル　50(mVp-p) 以下 -15(V)±0.15(V) 以内 リップル　50(mVp-p) 以下 +6(V)±0.3(V)以内 リップル　5(mVp-p)以下	低圧電源回路基板はＰＣ４

点検整備技術要領書

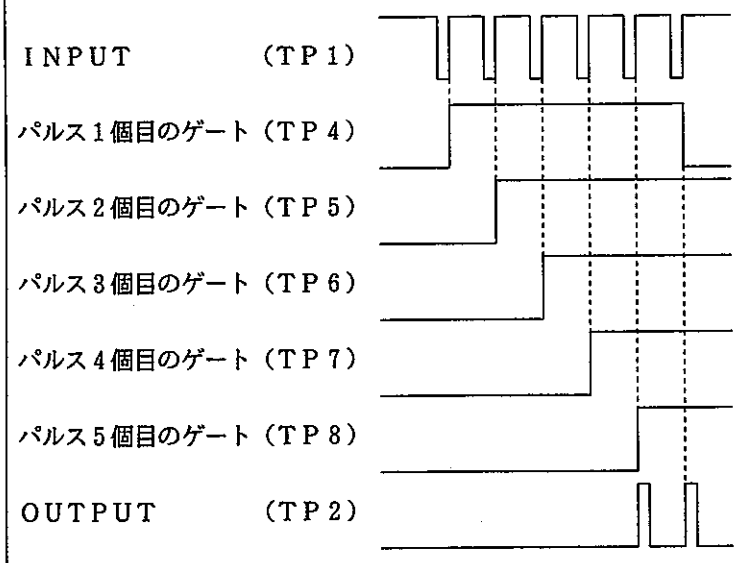
整理番号	１４ＬＡＢ０１	２／５

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
３．前置増幅器の増幅度確認	 Vh（パルス波高）：-10mV tw（パルス幅）　：10μS tr（立上り時間）：100ns以下		
	半導体検出器を取外し、前置増幅器のテスト入力コネクタＪ２に負極性のパルスを入力し、PC１の９（SIG）－８（COM）間をオシロスコープにより出力波形を測定し増幅度を求める。	測定値に異常のないこと 参考値	
４．主増幅器の増幅度確認 4.1 通常時	ＰＣ１の９・８間に下記のパルスを入力し、チェック端子ＴＰ６（ＳＩＧ），ＴＰ５（ＣＯＭ）間をオシロスコープで出力波形を測定し、増幅度を求める。  Vh：20mV tw：10μS tr：100ns以下	16(倍)±0.5(倍) 以内	

点検整備技術要領書

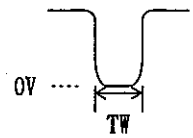
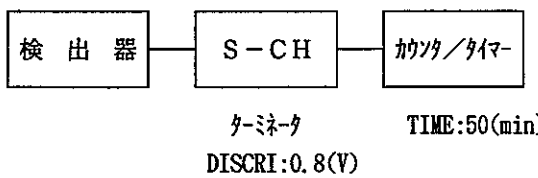
整理番号	１４ＬＡＢ０１	3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2 チェック時	上記の接続でＴＢ１－５－６にＤＣ +12(V) を印加してチェック用リレー（Ｋ１）を動作させたときの出力波形が切替わること。そのときの波形を測定し、増幅度を求める。 ※ＴＢ３－３－５間短絡によりＫ１連続動作。	参考値	
5．波高弁別回路の確認 5.1 設定電圧	ＰＣ１のＴＰ３（ＳＩＧ）－ＴＰ５（ＣＯＭ）間をデジボルにて測定する。	測定値に異常のないこと -0.4(V) ±0.05(V) 以内	
5.2 出力波形	4.1項の接続でＴＰ４(ＳＩＧ)－ＴＰ５（ＣＯＭ）間をオシロスコープにて波形を測定する。	パルス波高 2.3(V)±0.5(V)以内 パルス幅 参考値	
6．デジタル積分回路の確認	ＰＣ１に 4.1項のパルスを入力する。ただし、パルスゼネレータの周波数はSINGLE MODEとし１（Ｃ／Ｓ）で入力すること。このときオシロスコープでＰＣ２（デジタル積分回路基板）のＴＰ２(ＳＩＧ)－ＴＰ３（ＣＯＭ）間の出力を確認する。	5(c/5sec)±1(c/5sec)以内 積分回路の動作に異常のないこと	



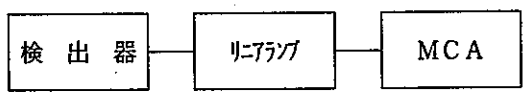
点検整備技術要領書

整理番号	14LAB01	4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．ドライバー回路の確認	上記の出力状態において、ＰＣ３（ドライバー回路基板）の出力ＴＰ１－３（ＳＩＧ）－４（ＣＯＭ）間をオシロスコープにて測定する。	出力波形に異常のないこと パルス幅 3(ms)±0.5(ms) 以内  	
8．測定系の確認 8.1 通常時	半導体検出器を接続し、通常の測定状態として、モニタ出力コネクタＪ１における波形をオシロスコープで測定する。	出力波形に異常のないこと パルス波高 参考値 パルス幅 参考値	
8.2 チェック時	上記の状態よりチェック状態(4.2項参照)としてモニタ出力Ｊ１における波形をオシロスコープで測定し、警報出力動作（７項参照）を確認する。	パルス波高 参考値 パルス幅 参考値 チェック動作 正常に動作すること 警報出力動作 正常に動作すること	
9．検出感度の測定	 		
	上記の接続で、規定の中性子線源 ^{241}Am－Ｂｅ 1(Ci)を用い線源との距離を50(cm)としたときの計数値をカウンタタイマーにて測定する。次に線源を外し、ＢＧ値を測定する。 以上により感度を求める。	計数値 参考値 感度 3.0×10^{-5}～1.0×10^{-4} (cps/nV)	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAB01	5／5

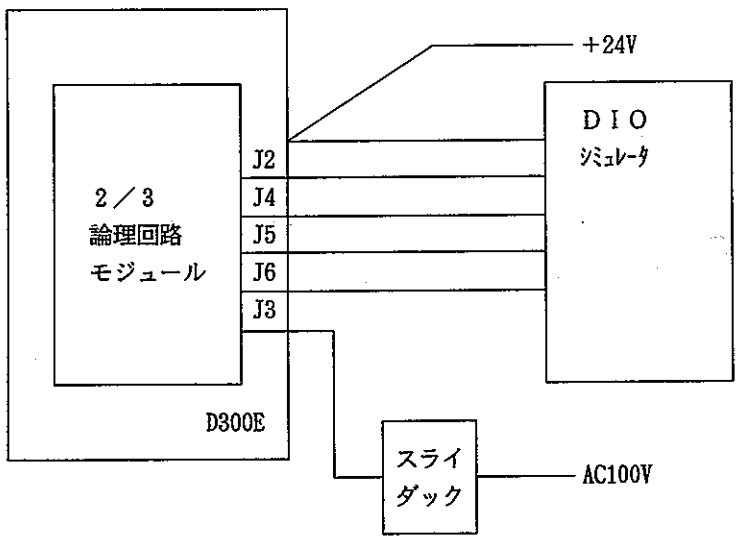
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10. スペクトル測定	 GAIN FAIN 4 COUSE 650 上記の接続でＭＣＡにてスペクトルを測定する。 $感度＝\frac{計数値(cps)－B.G値(cps)}{中性子束密度\ (n/cm^2 \cdot sec)}\ (cps/nV)$ $中性子束密度＝\frac{中性子放出率}{4\pi d^2}$		

点検整備技術要領書

整理番号	14LAC01	1／3

改訂　平成8年3月

機器名	2／3論理回路モジュール	型　名	RU724	メーカ名	㈱ 東 芝
検査名	回 路 試 験	施設名	全 施 設 共 通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．ランプテスト機能の確認			
	上記接続にて、2／3論理回路モジュール前面のランプテストボタンを押して、各ランプLEDが正常に点灯することを確認する。	正常に動作すること	
3．低圧電源の確認 3.1 出力電圧の確認	12V，5V各々出力をAC100V時にデジタルボルトメータで測定する。 また、同時にリップル電圧も測定する。	12.0(V)±0.5(V)以内 ﾘｯﾌﾟﾙ10(mV_{P-P})以下 5.0(V)±0.2(V)以内 ﾘｯﾌﾟﾙ10(mV_{P-P})以下	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＣ０１	２／３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2 ＡＣ電圧変動時の測定	スライダックにてAC電圧とAC90V及びAC110Vにした時の出力電圧を上記と同様に測定する。	12.0(V)±0.5(V)以内 5.0(V)±0.2(V)以内	
4．タイマ用クロック周波数の測定	モジュール内PC2のTP1-COM間に周波数カウンタを接続し、クロック周波数を測定する。	1(MHz)±250(Hz)	
5．ロジック動作の確認	２項の接続にて２／３論理回路モジュールにシミュレータより各々単独，非同時、同時信号を入力し、その時の２／３論理回路モジュールのLEDランプ表示及び出力信号の確認を行なう。 詳細は次頁参照のこと。	正常に動作すること。	
6．リセット機能の確認	シミュレータ信号を解除した場合、２／３論理回路モジュール前面のキースイッチにて警報リセットができることを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAC01	3／3

試験項目	シミュレータ信号		2/3LC G1			2/3LC G2			2/3LC G3			2/3LC G4			2/3 出力	外部出力確認用LED（シミュレータ）												
			S1	S2	S3	S1	S2	S3	S1	S2	S3	S1	S2	S3	ランプ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	ALM
単独	G1	S1	○													○												
		S2		○																○								
		S3			○																			○				
	G2	S1				○											○											
		S2					○														○							
		S3						○																	○			
	G3	S1							○									○										
		S2								○												○						
		S3									○															○		
	G4	S1										○							○									
		S2											○										○					
		S3												○													○	
非同時	G1	S1－S2	○	○												○				○								
		S2－S3		○	○															○				○				
		S3－S1	○		○											○								○				
	G2	S1－S2				○	○										○				○							
		S2－S3					○	○													○				○			
		S3－S1				○		○									○								○			
	G3	S1－S2							○	○								○				○						
		S2－S3								○	○											○				○		
		S3－S1							○		○							○								○		
	G4	S1－S2										○	○						○				○					
		S2－S3											○	○									○				○	
		S3－S1										○		○					○								○	
同時	G1	S1，S2	○	○											○	○				○								○
		S2，S3		○	○										○					○				○				○
		S3，S1	○		○										○	○								○				○
	G2	S1，S2				○	○								○		○				○							○
		S2，S3					○	○							○						○				○			○
		S3，S1				○		○							○		○								○			○
	G3	S1，S2							○	○					○			○				○						○
		S2，S3								○	○				○							○				○		○
		S3，S1							○		○				○			○								○		○
	G4	S1，S2										○	○		○				○				○					○
		S2，S3													○								○				○	○
		S3，S1										○			○				○								○	○

点検整備技術要領書

整理番号	14LAD01	1／3

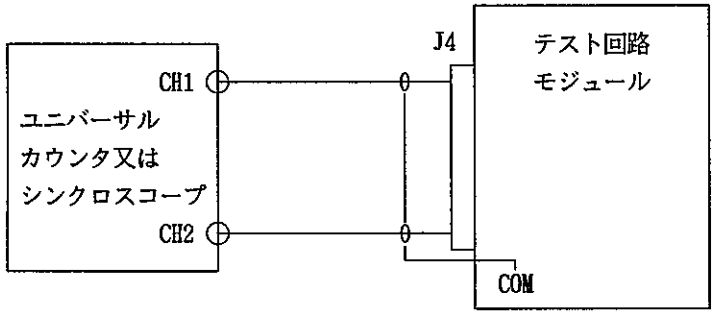
改訂　平成8年3月

機器名	テスト回路モジュール	型　名	RU725	メーカ名	東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．ランプテスト機能の確認	パネル前面のランプテストボタンを押し全てのランプが正常に点灯することを確認する。	正常に動作すること	
3．低圧電源の確認	5(V)出力をデジタルボルトメータで測定する。 また同時にリップル電圧も測定する。	5(V)±0.5(V)以内 リップル10(mV_{p-p})以下	
4．PFD設定電圧の確認	モジュールに供給している＋12Ｖ電源を除々に下げていき、電源異常検出回路の確認を行なう。 確認は、モジュール裏面Ｊ３－Ｃ，Ｄ間またはＥ，Ｆ間の接点動作で行なう。	供給電源　低 11.4(V)±0.2(V)以内 ５Ｖ電源　低 4.75(V)±0.10(V)以内 で動作すること	
5．タイマ用クロック周波数の測定	モジュール内ＰＣ１のＴＰ－１ＣＯＭ間に周波数カウンタを接続し、クロック周波数を測定する。	1,000(Hz)±20(Hz)以内	
6．機能試験 6.1 プローブテスト	モジュール裏面Ｊ３－Ｈ，Ｊ間をジャンパーして以下の試験を行なう。 プローブテストボタンS1，S2及びS3を各々押したとき、J5の下記出力が約 12(V)から0(V)へ変化すること。 S1→A-B間,C-D間,E-F間,H-J間 S2→K-L間,M-N間,P-R間,S-T間 S3→U-V間,W-X間,Y-Z間,AA-BB間	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＤ０１	２／３

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6.2 同時信号			
	上記接続にてモジュール前面の同時テストボタン「S1,S2」「S2,S3」「S3,S1」を各々押した時、J4の下記出力が約5(V)から0(V)へ変化することを確認する。また第１トリップより第２トリップが出力されるまでの時間が0.4(sec)であることを確認する。 信号　J4出力ピン S1 ⟶ K S2 ⟶ L S3 ⟶ M なお、測定用コモンはモジュール前面の２／３回路選択スイッチの選択により以下とすること。 ｽｲｯﾁ　J4COMﾋﾟﾝ OFF　出力なし A ⟶ C B ⟶ D C ⟶ E	正常に動作すること 0.40(S)±0.05(S)以内	
6.3 非同時信号	6.２項と同様にモジュール前面の非同時テストボタン「S1-S2」「S2-S3」「S3-S1」を各々押した時の出力変化を確認する。また第１トリップより第２トリップが出力されるまでの時間が0.6(sec)であることを確認する。	正常に動作すること 0.60(S)±0.05(S)以内	
7．ブザー動作の確認	モジュール裏面のJ4-A1とGND間をショートしたとき、故障ブザーが吹鳴することを確認する。またリセットスイッチを押すことによりブザーが停止することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAD01	3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．選択動作の確認	表面パネルの2／3回路選択スイッチの各位置で選択された出力以外出ないことを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAE01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	RU726	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．設定電圧の確認	実装状態においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧の設定値を確認する。	異常のないこと	
3．出力電圧の確認	ＡＣ入力100(V)においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧を測定する。 1）無負荷時 2）1(A)負荷時	+24.00(V)±1.20(V)以内 負荷変動率　±0.1(%)以内	
4．電源変動試験	スライダックにてＡＣ入力を 90(V)及び110(V)にしたときの出力電圧を2.項と同様に測定する。	出力変動率 ±0.1(%)以内	
5．リップルノイズの測定	ＡＣ入力を 90(V)にし、2(A) 負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	5(mV_{p-p})以内	
6．電圧の設定	実装状態においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し、「2．設定電圧の確認」で設定されていた電圧に調整する。	「2．設定電圧の確認」の設定値　±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAE02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	RU727	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．設定電圧の確認	実装状態においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧の設定値を確認する。	異常のないこと	
3．出力電圧の確認	ＡＣ入力100(V)においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧を測定する。 1）無負荷時 2）2(A) 負荷時	+12.00(V)±0.06(V)以内 負荷変動率　±0.1(%)以内	
4．電源変動試験	スライダックにてＡＣ入力を 90(V)及び110(V)にしたときの出力電圧を2.項と同様に測定する。	出力変動率 ±0.1(%)以内	
5．リップルノイズの測定	ＡＣ入力を 90(V)にし、2(A) 負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	3(mV_{p-p})以内	
6．電圧の設定	実装状態においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し、「2．設定電圧の確認」で設定されていた電圧に調整する。	「2．設定電圧の確認」の設定値　±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAF01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ビン電源	型　名	D－591／E－502	メーカ名	NAIG
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	チェック端子にデジタルボルトメータを接続し、ロードレジスタを用いて、±24V,±12(V),±6(V)について無負荷時、負荷時の出力電圧を測定する。 負荷電流は、 ±24(V)　1(A) ±12(V)　2(A) ± 6(V)　5(A) とする。 基準値に達しない場合は、ポテンショメータにて調整する。	±24(V) 電源 ±24(V)±0.5(%)以内 (±23.88～±24.12) ±12(V) 電源 ±12(V)±0.5(%)以内 (±11.94～±12.06) ± 6(V) 電源 ± 6(V)±0.5(%)以内 (±5.97～±6.03)	
3．負荷変動率の測定 3.1 ＡＣ入力電圧 90(V)	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) にしたときの±24(V),±12(V),±6(V)について無負荷時、負荷時の出力電圧を測定する。 尚、負荷電流は、 ±24(V)　1(A) ±12(V)　2(A) ± 6(V)　5(A) とする。	±24(V)±0.5(%)以内 ±12(V)±0.5(%)以内 ± 6(V)±0.5(%)以内	
3.2 ＡＣ入力電圧 110(V)	ＡＣ入力電圧を110(V)にしたときの出力電圧を3.1と同様に測定する。		
4．リップルノイズの測定	ＡＣ入力電圧を 90(V)にしたとき、±24(V),±12(V),±6(V)について、負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。 尚、負荷電流は、3項と同様とする。	3(mVp-p)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＦ０１	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．絶縁抵抗	ＡＣ100(V)ラインと筐体間の絶縁抵抗を500(V)メガーにて測定する。 このときＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	100(MΩ) 以上	
６．最大容量の確認	72(W)以上の負荷を接続し、各電圧を確認する。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAG01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源ユニット	型　名	RU819	メーカ名	㈱ 東 芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．設定電圧の確認	実装状態においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧の設定値を確認する。	異常のないこと	
3．出力電圧の確認	ＡＣ入力100(V)においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧を測定する。 1）無負荷時 2）6(A) 負荷時	+24.00(V)±0.36(V)以内	
4．電源変動試験	スライダックにてＡＣ入力を 90(V)及び110(V)にしたときの出力電圧を2.項と同様に測定する。	出力変動率 2項の各出力に対して ±1.5(%)以内	
5．リップルノイズの測定	ＡＣ入力を 90(V)にし、6(A) 負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	100(mV_{p-p})以内	
6．電源モニタ回路の確認	24(V) 出力電圧を可変させ、電源モニタ設定値（上限、下限）を超えたとき、警報表示が点灯すること。 1）上限設定値　：　26.4(V) 2）下限設定値　：　21.6(V)	警報設定値±0.1(V)以内	
7．絶縁抵抗測定	1000(V) メガーにて、ＡＣライン一接地間の絶縁抵抗を測定する。	100(MΩ)以上	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＧ０１	２／２

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．電圧の設定	実装状態においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し、「２．設定電圧の確認」で設定されていた電圧に調整する。	「２．設定電圧の確認」の設定値　±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAG02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源ユニット	型　名	RU821	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2．出力電圧の確認	ＡＣ入力100(V)においてパネル前面チェックピンにデジタルボルトメータを接続し出力電圧を測定する。 1）無負荷時 2）6(A) 負荷時	+24.00(V)±0.36(V)以内	
3．電源変動試験	スライダックにてＡＣ入力を 90(V)及び110(V)にしたときの出力電圧を2.項と同様に測定する。	出力変動率 2項の各出力に対して ±1.5(%)以内	
4．リップルノイズの測定	ＡＣ入力を 90(V)にし、6(A) 負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	100(mV_{p-p})以内	
5．絶縁抵抗測定	1000(V) メガーにて、ＡＣラインー接地間の絶縁抵抗を測定する。	100(MΩ)以上	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAH01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	補助ユニット	型　名	RU612, 612B, C, D	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．ランプテスト機能の確認	ユニット前面のランプテストスイッチを押すことにより、全てのランプが点灯または点滅すること。	異常のないこと	
3．機能試験	総合検査時に確認する以下の項目について補助ユニット単体での動作に異常のないこと。 1）テスト回路による動作確認 2）臨界警報動作確認 3）回転灯断線チェック動作の確認 4）ＩＳＩＭによる動作確認 5）バイパス機能試験 6）機能モニタ動作確認 7）警報吹鳴試験	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAI01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	警報発生ユニット	型　名	RU613，A	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．ランプテスト機能の確認	ユニット前面のランプテストスイッチを押すことにより、全てのランプが点灯または点滅すること。	異常のないこと	
3．機能試験	総合検査時に確認する以下の項目について補助ユニット単体での動作に異常のないこと。 1）テスト回路による動作確認 2）臨界警報動作確認 3）回転灯断線チェック動作の確認 4）ＩＳＩＭによる動作確認 5）回転灯テスト機能試験 6）スピーカテスト機能試験 7）機能モニタ動作確認 8）警報吹鳴試験	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAJ01	1／2

改訂　平成8年3月

機器名	音声発生／リレーユニット	型　名	RU－621	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	MP		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．低圧電源電圧の確認	コネクタJ_1のピンNo.A－B間にAC 100(V)を接続して直流電源パックの＋5(V)端子にデジタルボルトメータを接続して、出力電圧を測定する。尚、そのとき前面パネルのモニタ文番号表示部に、ポイント表示灯が点灯することも確認する。	5(V)±0.2(V)	
3．放送起動の確認	コネクタJ_1のピンNo.A－B間にAC 100(V)、コネクタJ_2のピンNo.k－F，r－F間にDC 24(V)を加え、前面パネルのモニタ文番号表示部の“1”と“・”が交互に点灯を繰返えすことを確認する。尚、そのときに前面パネルモニタヘッドホーンジャックにヘッドホーンを接続し、前面パネルのモニタ文番号表示部が“1”のときヘッドホーンより“リンカイケイホウ”の放送文が聞こえ、“・”のとき放送文が聞えないことを確認する。	正常に動作すること	
4．出力レベルの確認 4.1 出力波高の測定	3項の状態でコネクタJ_4のピンNo.A－B間にシンクロスコープを持続して前面パネルの音声出力切換スイッチをMIN，MAXとしたときの波高値を測定する。	MIN 0.24(Vp-p)±0.1(Vp-p) 以内 MAX 1.00(Vp-p)±0.1(Vp-p) 以内	
4.2 出力レベルの良否	音声出力切換スイッチをMIN，MAXのときは規定の波形が出力し、OFFのときは波形が出力してこないことを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAJ01	2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．放送設備起動信号の確認	3項の状態でコネクタJ_5のピンNo.A－B間にテスターを接続し、音声出力切換スイッチをＭＩＮ，ＭＡＸの位置で“閉”、ＯＦＦの位置で“開”となることを、又、ＭＩＸ，ＭＡＸ位置でコネクタJ_1のピンNo.r－F間のＤＣ24(V) をＯＦＦとしたときに“開”となることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAK01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	アイソレータ	型　名	TOSMAC357	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	Pu-con, CPF, Pu-1/2, Pu-3		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．入出力直線性の確認	24(V) を印加した専用のラックシャーシにアイソレータ基板を差し込み、裏面端子台の下記入力端子に基準電圧発生器を接続して、1～5(V) を入力したときの出力電圧をAチャンネル及びBチャンネルについて測定する。 入力端子　出力端子 Aチャンネル：5 (HOT)　7 (HOT) 6 (COM)　8 (COM) Bチャンネル：10 (HOT)　12 (HOT) 11 (COM)　13 (COM) 入 力 電 圧：1，2，3，4，5(V)	出力電圧±0.01(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAL01	1／1

改訂　平成8年3

機器名	ホーンブロア	型　名	RU617, RU617A	メーカ名	㈱　東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．抵抗値の測定	外線ケーブル中継端子または盤内端子台のスピーカライン用該当端子にて、各ホーンブロアの直流抵抗値をデジタルボルトメータ（抵抗レンジ）にて測定する。	短絡、断線等のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAM01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	FLB、WFLB	型　名	RU618, RU672	メーカ名	㈱ 東 芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	FLB，WFLB内外部の清掃及び部品の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、電球の球切れなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）電球の球切れのないこと	異常のないこと	
2．抵抗値の測定	中継端子にて各FLB，WFLBの抵抗値をデジタルボルトメータ（抵抗レンジ）にて測定する。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

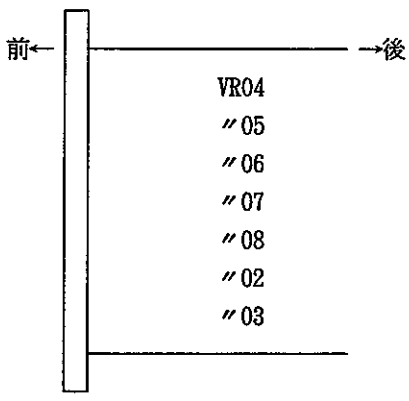
整理番号	１４ＬＡＮ０１	1／14

改訂　平成８年３月

機器名	警報音発生装置	型　名	――――	メーカ名	東亜特殊電機㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
点検前に ・電源投入前に	1）OPC-031 J8, J9及び RYP-031 J14を外し、点検用治具を接続する。 治具のモードは「点検」にしておく。 2）スピーカ切換スイッチボックスのJ3及びJ4を外す。 3）スピーカ切換スイッチを全てOPENにする。 4）項目　1.点検清掃～4.パワーアンプ異常検出部(OPC-031), 4.3発振回路異常検出基盤(OSA)-2)までは、上記1)～3)の状態にしておくこと。		
・電源投入後	1）点検は機器エージング後、行うこと。 （電源投入後約20分待機する） 2）各基板の脱着を行う時は、裏面の該当する電源スイッチを切る。		
・点検を一時中断する時	1）昼休み等点検を一時中断し、その場を離れる時は、 ①　スピーカ切換スイッチボックスのJ3及びJ4を外す。 ②　スピーカ切換スイッチボックスを全てOPENにする。 ③　点検治具のモードを「点検」にする。 以上①～③を確認する。		
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損・ネジのゆるみがないことなどを点検する。 1）清掃されていること。 2）部品の破損がないこと。 3）ネジのゆるみがないこと。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
２．電源部(PSC-031)			
2.1 DC出力電圧の確認	１）PSC-031 前面パネルのチェック端子の各電圧をデジタルボルトメータにて測定する。（１系統及び２系統） 各電圧が規定外の場合、 PSC-031の１系統及び２系統の電圧チェック部パネルを外し、内部の各出力電圧に対応した電源モジュールの電圧調整VR(Vajt)にて調整する。(PSC-031の１系統と２系統の電圧を同一電圧になる様、調整して ESC-031の出力電圧を基準値に合わせる。	±7(V), ±14(V), +26(V) 各々±1(V)以内	
	２）各電源ＬＥＤが正常に点灯することを確認する。	正常に点灯すること	
2.2 電源異常検出基板(PSA)の確認	延長基板にてPSAを引き出す。		
2.2.1 設定値の確認	デジタルボルトメータにて表－１の測定を行う。 表－１ 種別 / 測定点 / 調整点 L / TP-3－TP-C / VR-03 H / TP-2－TP-C / VR-02	1.9(V)±0.05(V) 以内 2.1(V)±0.05(V) 以内	
2.2.2 異常表示ランプの確認	デジタルボルトメータをTP-1－TP-Cに接続し、各基板内の電圧に対応したVRを調整して異常表示を確認する。同時に EAC-031及び RYP-031にても異常表示を確認する。 最後に電圧を2.0(V)にしておく。 *1 PSA VR位置  	(PSA) 2.0(V)にて『正常』が点灯 1.9(V)以下で『L』 〃 2.1(V)以下で『H』 〃 (EAC-031, RYP-031) 『1-電源』又は『2-電源』異常が点灯 *2 電圧とVRの対応 -7(V)→ VR07 +7(V)→ 〃06 -14(V)→ 〃08 +14(V)→ 〃05 +26(V)→ 〃04	

点検整備技術要領書

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.2.3 DC出力テストスイッチによる表示動作確認	ユニット裏面のDC出力テストスイッチを押した時、対応する PSAの警報表示『L』ＬＥＤが点灯すること。	正常に動作すること （全数確認）	
2.2.4 ヒューズ断による表示動作確認	ユニット裏面の警報ヒューズに断線ヒューズを挿入することにより対応する PSAの警報表示『L』ＬＥＤが点灯し、電源ユニット部のヒューズ断表示が点灯すること。	正常に動作すること （全数確認）	
2.3 電源異常出力基板(PSO)の確認	各電源電圧異常時 EAC-031及び RYP-031の異常表示ＬＥＤが点灯すること。	正常に動作すること	
3．異常警報音出力／電源部(ESC-031)			
3.1 DC出力電圧の確認	1）デジタルボルトメータにて ESC-031の の電圧チェック部の各電圧を測定する。 2）各電源ＬＥＤが正常に点灯することを確認する。	±5(V), ±12(V), +24(V) 各々±0.2(V)以内 正常に点灯すること	
3.2 異常警報制御基板(EAC)の確認	ＥＡＣの点検を始める前に 1）SPC-031 裏面のSW１～13を切る。 2）RYP-031 裏面のSW１を切る。 3）ESC-031 裏面のJ3, J4, J5を外す。 ①　延長基板にて EACを引き出す。 ②　表－２に記載の異常表示を確認する。	 正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAN01	4／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

表－2

種　　別	ﾁｪｯｸﾋﾟﾝ短絡No.	動　　作	確　　認　　点
1－OSC	10－48	短絡時『正常』 開放時『異常』	1）『異常』時、ＬＥＤ点灯，音吹鳴 2）『異常』時、リセットにて持続点灯 3）『異常』時、リセットにて音停止 4）『正常』時、リセットにてＬＥＤ消灯 5）J4 G-H間の無電圧接点動作(ﾃｽﾀにて確認) 『正常』時→『開』『異常』時→『閉』 音リセットにて接点『開』
2－OSC	11－48	〃	〃
1－PA	12－48	〃	〃
1－PA	13－48	〃	〃
2－PA	14－48	〃	〃
1－SYNC	15－48	〃	〃
2－SYNC	16－48	〃	〃
SP異常	17－48	〃	〃
短　　絡　※	19－48,18－48	〃	〃
1－電源		PSC-031-1 のDC 出力ＳＷで確認	〃
2－電源		PSC-031-2 のDC 出力ＳＷで確認	〃
AUX電源	21－48	短絡時『正常』 開放時『異常』	〃
1－リレー	22－48	短絡時『異常』 開放時『正常』	〃
2－リレー	23－48	〃	〃
切替リレー	24－48	〃	〃

※19～48(MP)
(予備)
18～48(Pu-con)
(Pu-3)
(Pu-1,2)
(CPF)

EACの点検が終了したら	1）ESC-03裏面のJ3,J4,J5を接続する。 2）RYP-031 裏面のSW１を入れる。 3）SPC-031 裏面のSW１～13を入れる。		
3.3 異常警報音出力基板(ESO)	延長基板にてESOを引き出す。		
3.3.1 周波数測定	TP-1－TP-C間にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。	パルス波高　約 12(V) パルス幅　約0.36(msec) パルス周期　約 1.0(msec)	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAN01	5／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.3.2 出力電圧の確認	1）チェックピンNo.32－34GND にシンクロスコープを接続する。 2）前面パネルの音量調整VRを調整し、シンクロの波形が方形波になる最大音量にする。 3）PSC-031 の任意のDC出力スイッチを押して異常警報を出す。 4）このときのシンクロスコープの測定値がAC2(V)であることを確認する。 規格外の場合はVR2 にて調整する。	AC2.0(Vp-p)±0.2(Vp-p)以内	
4. パワーアンプ異常検出部(OPC-031) 4.1 同期信号発振基板(SYA) 4.1.1 周波数測定	1）延長基板にてSYA を引き出す。 2）TP-1－TP-C間にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。 3）TP-2－TP-C間にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。	パルス波高　約 12(V) パルス幅　約41（μsec） パルス周期　約83（μsec） パルス波高　約 12(V) パルス幅　約 5(msec) パルス周期　約10(msec)	 約160(μsec)Pu-1,2 約263(μsec)Pu-1,2 約16(msec)　Pu-1,2 約33(msec)　Pu-1,2
4.1.2 設定値の確認	デジタルボルトメータにてPu-con以外は表－3，Pu-conは表－4の測定を行う。 表－3(MP)(Pu-3)（予備） 種別 / 測定点 / 調整点 L / TP-4－TP-C / VR-04 H / TP-3－TP-C / VR-03 表－4(Pu-con) 種別 / 測定点 / 調整点 L / TP-3－TP-C / VR-03 H / TP-4－TP-C / VR-04	 DC1.6(V)±0.05(V) 以内 DC2.4(V)±0.05(V) 以内 DC1.6(V)±0.05(V) 以内 DC2.4(V)±0.05(V) 以内	
4.1.3 異常表示ランプの確認	デジタルボルトメータをTP-5－TP-C間に接続し、VR2を調整して異常表示を確認する。同時に ESC-031にても同様に異常表示を確認する。 最後に電圧を2.0(V)にしておく。	(SYA) 2.0(V)にて『正常』が点灯 1.6(V)以下で『L』が点灯 2.4(V)以上で『H』が点灯 (ESC-031) 『1-SYNC』又は『2-SYNC』異常表示が点灯	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＮ０１	6／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2 警報音発振基板 (OSO)			
OSOを始める前に	OSO 基板は、臨界警報音の発振源であるため、この基板を外すときは、 1）スピーカ切換スイッチボックスのJ3及びJ4が外れていること。 2）スピーカ切換スイッチが全てOPENであること。 以上1), 2)を必ず確認すること。		
4.2.1 パイロット信号 周波数の確認	1）延長基板にて OSOを引き出す。 2）TP-1－TP-C間にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。 3）TP-2－TP-C間にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。	パルス波高　約+12(V) パルス幅　約 75(μsec) パルス周期　約156(μsec) パルス波高　約0.4(V) パルス幅　約 10(msec) パルス周期　約 20(msec)	約 60(μsec)Pu-1,2 約0.05(V)　Pu-1,2
4.2.2 パイロット信号 レベルの確認	4.4.2 項と同じ為この時に確認。		
4.3 発振回路異常検出基板(OSA)			
4.3.1 設定値の確認	1）延長基板にて OSAを引き出す。 2）デジタルボルトメータにて表－５の測定を行う。 表－５ 種別 / 測定点 / 調整点 L / TP-3－TP-C / VR-03 H / TP-2－TP-C / VR-02	1.8(V)±0.05(V) 以内 2.2(V)±0.05(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＮ０１	7／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3.2 異常表示ランプの確認	デジタルボルトメータをTP-1－TP-Cに接続し VR1を調整して異常表示を確認する。また同時に ESC-031においても異常表示を確認する。 最後に電圧を2.0(V)に調整する。	(SYA) 2.0(V)にて『正常』が点灯 1.8(V)以下で『L』が点灯 2.2(V)以上で『H』が点灯 (ESC-031) 『1-OSC』又は『2-OSC』 異常表示が点灯	
監視状態における点検	1）4.4以降は装置を監視状態にすることがある。 ① スピーカ切換スイッチボックスのJ3及びJ4を接続する。 ② スピーカ切換スイッチを全てNORMALにする。 ③ 点検用治具のモードは通常『点検』にしておく。 2）①及び②の状態で OSO基板は絶対に外さないこと。（外すことによって警報が吹鳴することはないが，起動回路を短絡することにより吹鳴する。）		
4.4 パワーアンプ異常検出基板(PAA)			
4.4.1 同期信号の確認	1）延長基板にて PAAを引き出す。 2）点検治具のモードを『監視』にする。 3）チェックピンNo.26－48間の波形をオシロスコープにて観測する。	正常に入力されていること	SYA TP-2－TP-C間の波形と同じ（波高値約10(V)）
4.4.2 パイロット信号出力レベルの確認	チェックピンNo.18－20間にテスターを接続し、パイロット信号の出力レベルを測定する。	約AC3(V)であること	
4.4.3 設定値の確認	デジタルボルトメータにてPu-con以外は表－6，Pu-conは表－7の測定を行う。 表－6 (MP)(Pu-1,2)(Pu-3)(CPF)(予備)		

種　別	測　定　点	調 整 点	
L	TP-2－TP-C	VR-06	-1.6(V)±0.2(V)以内
H	TP-3－TP-C	VR-07	-2.8(V)±0.2((V) 以内 (-3.3(V)±0.2((V) 以内)*

*Pu-1,2に適用

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	表－7 (Pu-con) 種別 / 測定点 / 調整点 L / TP-3－TP-C / VR-07 H / TP-2－TP-C / VR-06	1.6(V)±0.2(V)以内 2.6(V)±0.2(V)以内	
4.4.4 異常表示ランプの確認	デジタルボルトメータをTP-1－TP-Cに接続し VR1を調整して異常表示を確認する。同時に ESC-031の異常表示も確認する。 最後に電圧を2.0(V)(-2.0(V)) にしておく。	(PAA) 2.0(V)にて『正常』が点灯 『L』設定値以下で『L』が点灯 『H』設定値以上で『H』が点灯 ESC-031 で『1-PA』又は『2-PA』の異常表示	
4.5 出力リレー制御基板(RYC)	1系統№1 PAA基板にて VR1を調整して『H』警報時に RYP-031のリレーが動作、1～12及びダミーのリレー動作ＬＥＤが点灯、『L』警報時にＬＥＤが点滅することを確認する。 最後に電圧を2.0(V)(-2.0(V)) にする。	『H』警報時　点灯 『L』警報時　点滅	
4.5.1 PAA 測定停止時の基準レベルの確認	PAA チェックピン№24－48を短絡した時TP-1-TP-C 間が2.0(V)(-2.0(V)) になる様に VR4を調整する。		
4.5.2 PAAの基準レベルの確認	1）点検治具のモードを『点検』にする。 2）点検治具の点検起動SWを押し点検起動（連続音）させた時のPAA のTP-1－TP-C間の出力電圧をデジタルボルトメータにて2.0(V)にVR3 にて調整する。	約2.0(V) （1系統目は最後に警報吹鳴時にも確認する）	

点検整備技術要領書

整理番号	14LAN01	9／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．スピーカライン異常検出部(SPC-031) 5.1 インピータンス測定基板(IMP)			
IMPの点検を始める前に	1）SPC-031裏面のSW1～SW13を切る。 2）RYP-031裏面のSW1を切る。		
5.1.1 メータ電流値の確認	1）インピーダンスメータ部のメータ端子より接続コードを外す。 2）デジタルボルトメータを上記の接続コードに接続しSW13のみを入れた時の電圧を測定する。規格外の場合はVR12にて調整する。 3）デジタルボルトメータを外しメータを接続する。SW13のみを入れたとき、メータ指示が最大になる様VR11を調整する。	4.1(V)±0.2(V)以内 メータが最大値を示すこと	
IMPの点検の終了時に	1）RYP-031裏面のSW1を入れる。 2）SPC-031裏面のSW1～SW13を入れる。		
5.2 スピーカライン異常検出基板(SPA)			
5.2.1 同期信号の確認	1）延長基板にてSPAを引き出す。 2）点検治具のモードを『監視』にする。 3）チェックピンNo.26－48間の波形をシンクロスコープにて観測する。	正常に入力されていること	SYA TP-2－TP-C間の波形と同じ(波高値は約10(V))
5.2.2 パイロット出力レベルの確認	4.4にて確認済み。	約AC2.5(V)であること	
5.2.3 設定値の確認	デジタルボルトメータにてPu-con以外は表－8，Pu-conは表－9の測定を行う。 表－8(MP)(Pu-3)(予備)(Pu-1,2)(CPF) 種別／測定点／調整点 L／TP-2－TP-C／VR-06 H／TP-3－TP-C／VR-07 表－9(Pu-con) 種別／測定点／調整点 L／TP-2－TP-C／VR-06 H／TP-3－TP-C／VR-07	-1.8(V)±0.05(V) 以内 -2.8(V)±0.05(V) 以内 1.8(V)±0.05(V) 以内 2.8(V)±0.05(V) 以内	予備の SPA基板は内部デジスイッチが実装と異なっているため、注意

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＮ０１	10／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2.4 異常ランプの確認	デジタルボルトメータをTP-1－TPC 間に接続し VR1を調整し異常表示を確認する。同時に ESC-031においても異常表示を確認する。 最後に電圧を2.0(V)(-2.0(V)) にする。 なお、短絡の場合は、異常時はリセットボタンを押さない限り、リセットされないこと。	(1) (MP)(Pu-3)(予備) (Pu-1,2)(CPF) -2.0(V)にて『正常』が点灯 -1.8(V)以下で『断線』点灯 -2.8(V)以上で『短絡』点灯 (2) (Pu-con) 2.0(V)にて『正常』が点灯 1.8(V)以下で『断線』点灯 2.8(V)以上で『短絡』点灯 (ESC-031) 『SP異常』の異常表示	
5.2.5 測定停止時の基準レベルの確認	1）点検治具のモードを『点検』にする。 2）VR4 を調整し、5.2.4項と同様に異常表示を確認する。 最後に電圧を2.0(V)(-2.0(V)) にする。 3）点検治具のモードを『監視』にする。	同　上	
5.2.6 インピーダンスメータ指示値の確認	スピーカーライン切替スイッチを切替えて、インピーダンスメータの指示値を読みとる。規格外の場合はVR02にて調整する。	(MP) 350(Ω)±50(Ω) (Pu-con),(Pu-3),(予備), (Pu-1,2),(CPF) 500(Ω)±50(Ω)	
5.2.7 点検起動時基準レベルの確認及びインピーダンスメータ指示値の確認	1）点検治具のモードを『点検』にする。 2）点検治具の点検起動SWを押し点検起動（連続音）させたとき、インピーダンスメータが約１(KΩ)(緑の帯の中) にあることを確認する。 規格外の場合は SPA VR5にて調整する。 3）点検治具の点検起動SWを押し点検起動（連続音）させた時、SPA TP-1－TP-C間の出力電圧が2.0(V)(-2.0(V)) であることをデジタルボルトメータで確認する。 規格外の場合は VR3にて調整する。	異常のないこと 2.0(V)±0.2(V)以内 (-2.0(V)±0.2(V)以内)	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＮ０１	11／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3 スピーカライン異常検出基板(SPO)			
5.3.1 スピーカライン異常出力の確認	1）裏面のSW１を切った時 ESC-031の異常表示を確認する。 2）同様にSW２～10も確認する。	正常に動作すること	
5.3.2 スピーカライン測定停止信号の確認	1）延長基板にてSPA(１～５の内任意の１枚）を引き出す。 2）点検治具のモードを『監視』位置から『点検』に切り換えた時、 SPAチェックピンNo.24－49間の出力を確認する。 3）同様にSPA6～10の任意の１枚も行う。 4）最後に点検治具のモードを『点検』にする。	『点検』時　Ｌレベル 『監視』時　Ｈレベル (約12(V))	
5.4 ダミー抵抗制御基板(DRC)	1）延長基板にてDRC を引き出す。 2）表－10の短絡点のチェックピンNo.を各々短絡することにより、対応する確認点がＨからＬへ変化することをデジタルボルトメータを接続し、確認する。 表－10 確認点：27－49／28－49／29－49／30－49／31－49／32－49／33－49／34－49／35－49／36－49 動　作：監視時 Ｈレベル 約 24(V) → Ｌレベル 点検時 3）最後に点検用治具のモードを『点検』にする。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＮ０１	12／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．リレーパネル (RYP-031)			
6.1 パワーアンプ切替リレーの動作確認	裏面パネルのパワーアンプテストスイッチを押すことにより、１系統のパワーアンプを断にする。このとき、前面パネルの表示１～12及びダミーＬＥＤが点灯することを確認する。	正常に動作すること	
6.2 点検時のリレー動作確認	１）点検治具のモードを『点検』にすることにより前面のＬＥＤ『点検』が点灯すること。また治具のモードを『監視』にすれば『点検』が消灯すること。 ２）最後にモードを『点検』にする。	正常に動作すること	
6.3 スピーカライン保護ヒューズの確認	１）SPC-031 裏面のスピーカライン保護用ヒューズの左から１番目を断線ヒューズと交換する。この時、 RYP-031及びESC-031の異常表示を確認する。 ２）同様に２番目から10番目までのヒューズも行う。	RYP-031『回路短絡』点灯 ESC-031『EAC 短絡』点灯	
6.4 電源部異常時のリレー動作の確認			
6.4.1 １系統電源	１系統電源部(PSC-031) 裏面の各DC出力テストスイッチを押した時、リレーパネル(RYP-031) の前面のＬＥＤ『１－電源』が点灯することを確認する。	正常に動作すること	
6.4.2 ２系統電源	２系統電源部も同様に行う。	正常に動作すること	
6.5 AUX電源	点検治具のAUX電源ダミーのSWを押したとき、前面のＬＥＤ『AUX 電源』が点灯すること。またSWを離すと消灯することを確認する。 同時に ESC-031の異常表示を確認する。	正常に動作すること (ESC-031) 『AUX 電源』異常表示すること	

点検整備技術要領書

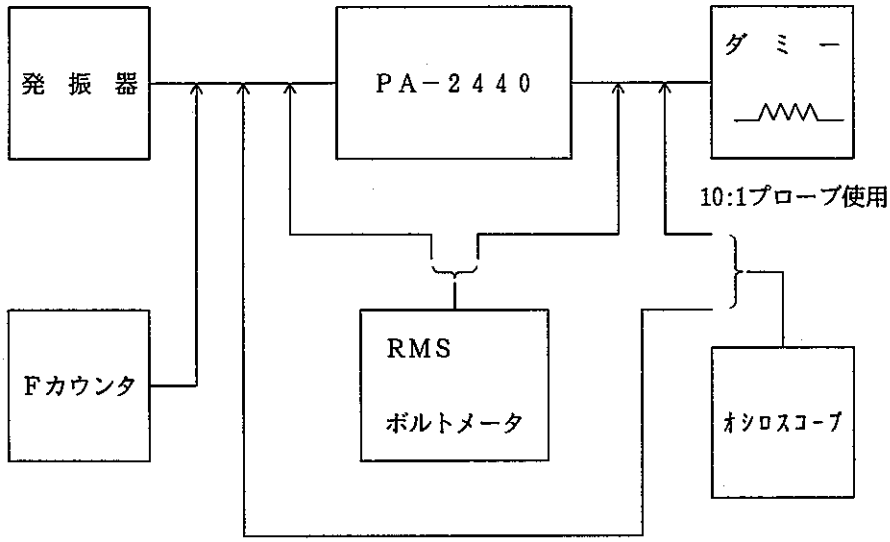
整理番号	１４ＬＡＮ０１	13／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．パワーアンプ (PA-2440)			
7.1 電源ランプ	パワーアンプ(PA-2440) 裏面パネルJ1にAC100(V)を加えた時、前面の電源ランプが上段、下段共に点灯することを確認する。	正常に動作すること	
7.2 警報吹鳴時の出力波形の確認	1）点検用治具の点検起動SWを押し、点検起動（連続音）させる。 2）PAA のチェックピンNo.18－20の出力波形を観測する。 3）観測点は、１系統 PAA２台の内１台及び２系統 PAAの２か所について行い１系統目の波形を記録する。 4）点検治具のモードを「断続音」にして点検起動させたとき、系全体が正常に動作することを確認する。（Pu-1,2のみ）	波形に異常のないこと 異常動作しないこと	
7.3 パワーアンプ増幅度の確認	1）RYP-031 裏の SW1を切る。 2）PA-2440 のJ2及びJ3を外す。 3）J2(A・B-HOT, C・D-COM)に41.7（Ω）240(W) のダミー抵抗を接続する。 4）J3(A-HOT, C-COM)に正弦波発振器を接続し、1(kHz),1(VRMS)の信号を加えたときの出力電圧を測定し、増幅度を求める。 増幅度＝20log $\left[\frac{\text{Eout(VRMS)}}{\text{1(VRMS)}}\right]$ (dB)		

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＬＡＮ０１	14／14

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考



7.4 PAA1系統目の基準レベルの確認	系全体を監視状態とし、警報を吹鳴させ（※臨界テストにて吹鳴させる）、１系統目のPAAのTP-1－TP-C間の電圧をデジタルボルトメータにて2.0(V)であることを確認する。		※このときは吹鳴試験を行うことを放送にて確認すること

点検整備技術要領書

整理番号	14LA001	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ISIM	型　名	RU737	メーカ名	㈱ 東　芝
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと	異常のないこと	
2．電池電圧の確認	デジタルボルトメータをにて電池の電圧を測定する。	3.60(V)以上のこと	
3．クロック動作の確認	前面パネルの設定スイッチにて年・月・日・時刻が任意に設定できることを確認する。	動作に異常のないこと	
4．プリント動作の確認	PRINT FORMAT Ⅰ及びⅡにおいて、それぞれの設定で印字されることを確認する。	動作に異常のないこと	
5．テスト動作の確認	実装状態若しくは連続通電装置において正常にテストが行えることを確認する。	動作に異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号	14PAB01	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ハイブリッド記録計	型　名	3081, 4081, RD2400	メーカ名	横河電機
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）リボンが交換されていること	異常のないこと	
	各機構部（プリンタキャリジ部、チャートドライブ部）のギヤ及び軸受けに注油をおこなう。	異常のないこと	
2．各機能動作の確認	下記の機能動作に異常のないことを確認する。 1）スケール値デジタル印字 2）セットデータリスト印字 3）測定値デジタル印字 4）ロギングモードのデジタル印字 5）アラーム出力の表示 6）プログラム動作異常の表示 7）電池電圧低下の表示 8）記録紙終了の表示	各動作に異常のないこと	
3．記録紙送り機構	ＣＨＡＲＴ　ＦＥＥＤ及びＳＴＡＲＴ／ＳＴＯＰボタン操作により記録紙送り機構の動作が正常であること。	異常のないこと	
4．チャンネル切換機構	マルチプレクサによるチャンネル切り換え動作が正常であること。	異常のないこと	
5．指示試験	レンジを“02”±2（V）とし記録計裏面の入力端子にV／I発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点（%）　入力電圧（V） 0　−2.0 25　−1.0 50　0.0 75　1.0 100　2.0	±0.1(%) F・S以内	

点検整備技術要領書

整理番号	14PAB02	1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ハイブリッド記録計	型　名	μR180T	メーカ名	横河電機
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）リボンが交換されていること	異常のないこと	
	各機構部（プリンタキャリジ部、チャートドライブ部）のギヤ及び軸受けに注油をおこなう。	異常のないこと	
2．各機能動作の確認	下記の機能動作に異常のないことを確認する。 1）スケール値デジタル印字 2）セットデータリスト印字 3）測定値デジタル印字 4）プログラム動作異常の表示 5）電池電圧低下の表示 6）記録紙終了の表示	各動作に異常のないこと	
3．記録紙送り機構	CHART　FEED及びSTART／STOPボタン操作により記録紙送り機構の動作が正常であること。	異常のないこと	
4．チャンネル切換機構	マルチプレクサによるチャンネル切り換え動作が正常であること。	異常のないこと	
5．指示試験	レンジを“10(mV)F・S”とし記録計裏面の入力端子にV／I発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点（%）　入力電圧(mV) 0　0.0 25　2.5 50　5.0 75　7.5 100　10.0	±0.1(%) F・S以内	

6. 点検整備記録書

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11BAA01

検査名（総合検査）　　設置場所　（MP）

機 器 名	臨界警報装置	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. （MP） SER. No. ――	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	清掃されていること ネジの緩みがないこと コネクタの接続が完全であること 施設が点検できる状態であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．警報音発生装置				
2.1 インピーダンスの測定	各系統 350(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	HP13 1系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 2系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 3系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 4系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 5系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 6系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 7系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 8系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 9系統	(Ω)	(Ω)	
2.2 各電源電圧及びﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	-7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	-7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	-14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	-14.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	14.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	26.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	26.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	異常検出ランプ点灯していないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	-5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	-12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (MP) SER. No. ――

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること		良・否 ( )	良・否 ( )	
(5) RYP-031	異常検出ランプ点灯していないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
3．電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU726	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU727	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU819	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU821	良・否 ( )	良・否 ( )	
4．各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
4.1 RU726	24.7(V)±0.5(V)以内	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
		C	(V)	(V)	
4.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内		(V)	(V)	
4.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
5．アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	γ線検出器: 1.4(V)±0.1(V)以内	Kγ1－1	(V)	(V)	
		Kγ1－2	(V)	(V)	
		Kγ1－3	(V)	(V)	
		Kγ2－1	(V)	(V)	
		Kγ2－2	(V)	(V)	
		Kγ2－3	(V)	(V)	
	中性子検出器: 4000(cpm) 以上	Kn3－1	(CH)	(CH)	
			(cpm)	(cpm)	
		Kn3－2	(CH)	(CH)	
			(cpm)	(cpm)	
		Kn3－3	(CH)	(CH)	
			(cpm)	(cpm)	
		Kγ4－1	(V)	(V)	
		Kγ4－2	(V)	(V)	
		Kγ4－3	(V)	(V)	
6．テスト動作確認 6.1 プローブテスト	各機能動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	TST S1	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		G4	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (MP) SER. No. ――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	TST S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
		G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
		G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
		G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
		G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
6.2 2/3論理倫理					
1）同時性の確認	同時性動作に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
		B	良・否（ ）	良・否（ ）	
		C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット		良・否（ ）	良・否（ ）	
	補助ユニット		良・否（ ）	良・否（ ）	
2）非同時性の確認	非同時性動作に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
		B	良・否（ ）	良・否（ ）	
		C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	テスト回路		良・否（ ）	良・否（ ）	
7．臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	A，B		良・否（ ）	良・否（ ）	
	B，C		良・否（ ）	良・否（ ）	
	C，A		良・否（ ）	良・否（ ）	
8．回転灯断線	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
9．ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
10．回転灯テスト	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
11．スピーカテスト	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
12．バイパス機能	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
13．機能モニタ動作					
13.1 補助ユニット	下記項目が正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
	ヒューズ断		良・否（ ）	良・否（ ）	
	回転灯リレー故障		良・否（ ）	良・否（ ）	
13.2 警報発生ユニット	下記項目が正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
	ヒューズモニタ		良・否（ ）	良・否（ ）	
	ＡＣ電源切換		良・否（ ）	良・否（ ）	
	テスト回路電源故障		良・否（ ）	良・否（ ）	
	コネクタフェール		良・否（ ）	良・否（ ）	
	電源故障1，2		良・否（ ）	良・否（ ）	
	音系電源故障		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (MP) SER. No. ———

項目	基準			設定値	点検値	備考
14. 照射試験	線量率 ：1.74±0.3(mGy/h)以内 アナログ：2.84±0.24(V) 以内			良・否（ ）	良・否（ ）	
	Kγ1	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ2	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kn3 感度: 2.0×10^{-6} (cps/nV)以上	－1	カウント	(C/50min)	(C/50min)	
			感度	(cps/nV)	(cps/nV)	
		－2	カウント	(C/50min)	(C/50min)	
			感度	(cps/nV)	(cps/nV)	
		－3	カウント	(C/50min)	(C/50min)	
			感度	(cps/nV)	(cps/nV)	
	Kγ4	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
15. 警報吹鳴試験						
15.1 吹鳴試験	下記箇所での動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生TAGNo.			Kγ	Kγ	
	2／3論理回路		LED	良・否（ ）	良・否（ ）	
			2/3 ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット		臨界ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
			臨界ブザー	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報音発生装置		臨界電子音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報表示盤		Tag表示・音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ		ランプ・音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	放送設備		音声出力			
	回転灯		FLB1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			4	良・否（ ）	良・否（ ）	
			5	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (MP) SER. No. ——

項目	基準		設定値	点検値	備考
	回転灯	FLB6	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9	良・否 ( )	良・否 ( )	
		10	良・否 ( )	良・否 ( )	
		11	良・否 ( )	良・否 ( )	
		12	良・否 ( )	良・否 ( )	
		13	良・否 ( )	良・否 ( )	
		14	良・否 ( )	良・否 ( )	
		15	良・否 ( )	良・否 ( )	
		16	良・否 ( )	良・否 ( )	
		17	良・否 ( )	良・否 ( )	
		18	良・否 ( )	良・否 ( )	
		19	良・否 ( )	良・否 ( )	
		20	良・否 ( )	良・否 ( )	
		21	良・否 ( )	良・否 ( )	
		22	良・否 ( )	良・否 ( )	
		23	良・否 ( )	良・否 ( )	
		24	良・否 ( )	良・否 ( )	
		25	良・否 ( )	良・否 ( )	
		26	良・否 ( )	良・否 ( )	
		27	良・否 ( )	良・否 ( )	
		28	良・否 ( )	良・否 ( )	
		29	良・否 ( )	良・否 ( )	
		30	良・否 ( )	良・否 ( )	
		31	良・否 ( )	良・否 ( )	
		32	良・否 ( )	良・否 ( )	
		33	良・否 ( )	良・否 ( )	
		34	良・否 ( )	良・否 ( )	
		35	良・否 ( )	良・否 ( )	
		36	良・否 ( )	良・否 ( )	
		36	良・否 ( )	良・否 ( )	
		37	良・否 ( )	良・否 ( )	
		38	良・否 ( )	良・否 ( )	
		39	良・否 ( )	良・否 ( )	
		40	良・否 ( )	良・否 ( )	
		41	良・否 ( )	良・否 ( )	
		42	良・否 ( )	良・否 ( )	
		43	良・否 ( )	良・否 ( )	
		44	良・否 ( )	良・否 ( )	
		45	良・否 ( )	良・否 ( )	
		46	良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (MP) SER. No. ――

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	回転灯	FLB47	良・否 ( )	良・否 ( )	
		48	良・否 ( )	良・否 ( )	
		49	良・否 ( )	良・否 ( )	
		50	良・否 ( )	良・否 ( )	
		51	良・否 ( )	良・否 ( )	
		52	良・否 ( )	良・否 ( )	
		53	良・否 ( )	良・否 ( )	
		54	良・否 ( )	良・否 ( )	
		55	良・否 ( )	良・否 ( )	
		56	良・否 ( )	良・否 ( )	
		WFLB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		5	良・否 ( )	良・否 ( )	
		6	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ホーンブロワ	HB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		5	良・否 ( )	良・否 ( )	
		6	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9	良・否 ( )	良・否 ( )	
		10	良・否 ( )	良・否 ( )	
		11	良・否 ( )	良・否 ( )	
		12	良・否 ( )	良・否 ( )	
		13	良・否 ( )	良・否 ( )	
		14	良・否 ( )	良・否 ( )	
		15	良・否 ( )	良・否 ( )	
		16	良・否 ( )	良・否 ( )	
		17	良・否 ( )	良・否 ( )	
		18	良・否 ( )	良・否 ( )	
15.2 警報吹鳴時間	600 (秒) ±30 (秒)		(秒)	(秒)	
16. 測定モード確認	下記の通りであること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	2/3論理回路 キースイッチ無し		良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット 監視モード		良・否 ( )	良・否 ( )	
	キースイッチ無し		良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11BAA02

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－con）

機 器 名	臨界警報装置	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. （Pu－con） SER. No. ――	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	清掃されていること ネジの緩みがないこと コネクタの接続が完全であること 施設が点検できる状態であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．警報音発生装置				
2.1 インピーダンスの測定	各系統 500(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	HP13 1系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 2系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 3系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 4系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 5系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 6系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 7系統	(Ω)	(Ω)	
	HP13 8系統	(Ω)	(Ω)	
2.2 各電源電圧及びﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	HP13 -7.0(V)±1.0(V)以内 上段	(V)	(V)	
	HP13 -7.0(V)±1.0(V)以内 下段	(V)	(V)	
	HP13 7.0(V)±1.0(V)以内 上段	(V)	(V)	
	HP13 7.0(V)±1.0(V)以内 下段	(V)	(V)	
	HP13 -14.0(V)±1.0(V)以内 上段	(V)	(V)	
	HP13 -14.0(V)±1.0(V)以内 下段	(V)	(V)	
	HP13 14.0(V)±1.0(V)以内 上段	(V)	(V)	
	HP13 14.0(V)±1.0(V)以内 下段	(V)	(V)	
	HP13 26.0(V)±1.0(V)以内 上段	(V)	(V)	
	HP13 26.0(V)±1.0(V)以内 下段	(V)	(V)	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	異常検出ランプ点灯していないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	HP13 -5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	HP13 5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	HP13 -12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	HP13 12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	HP13 24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(5) RYP-031	異常検出ランプ点灯していないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu-con) SER. No. ――

項目	基準		設定値	点検値	備考
3. 電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU726	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU727	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU819	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU821	良・否 ( )	良・否 ( )	
4. 各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
4.1 RU726	24.4(V)±0.5(V)以内	HP11 A	(V)	(V)	
		HP11 B	(V)	(V)	
		HP11 C	(V)	(V)	
		HP12 A	(V)	(V)	
		HP12 B	(V)	(V)	
		HP12 C	(V)	(V)	
4.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内	HP11	(V)	(V)	
		HP12	(V)	(V)	
4.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
4.4 RU821	24.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
5. アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	1.4(V)±0.1(V)以内	Kγ1－1	(V)	(V)	
		Kγ1－2	(V)	(V)	
		Kγ1－3	(V)	(V)	
		Kγ2－1	(V)	(V)	
		Kγ2－2	(V)	(V)	
		Kγ2－3	(V)	(V)	
		Kγ3－1	(V)	(V)	
		Kγ3－2	(V)	(V)	
		Kγ3－3	(V)	(V)	
		Kγ4－1	(V)	(V)	
		Kγ4－2	(V)	(V)	
		Kγ4－3	(V)	(V)	
		Kγ5－1	(V)	(V)	
		Kγ5－2	(V)	(V)	
		Kγ5－3	(V)	(V)	
		Kγ6－1	(V)	(V)	
		Kγ6－2	(V)	(V)	
		Kγ6－3	(V)	(V)	
		Kγ7－1	(V)	(V)	
		Kγ7－2	(V)	(V)	
		Kγ7－3	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－con) SER. No. ——

項目	基準			設定値	点検値	備考
	Kγ8－		1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
6．テスト動作確認						
6.1 プローブテスト	各機能動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST1	S1	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST2	S1	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
6.2 2/3論理回路						
1）同時性の確認	同時性動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		警報発生ユニット		良・否（ ）	良・否（ ）	
		補助ユニット		良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－con） SER. No. ――

項目	基準	設定値	点検値	備考
2）非同時性の確認	非同時性動作に異常のないこと	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 2／3論理回路 A	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 2／3論理回路 B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 2／3論理回路 C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 テスト回路	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 2／3論理回路 A	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 2／3論理回路 B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 2／3論理回路 C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 テスト回路	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 A，B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 B，C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11 C，A	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 A，B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 B，C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12 C，A	良・否（ ）	良・否（ ）	
8．回転灯断線	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
10．回転灯テスト	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
11．スピーカテスト	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
12．バイパス機能	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
13．機能モニタ動作				
13.1 補助ユニット	下記項目が正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ヒューズ断	良・否（ ）	良・否（ ）	
	回転灯リレー故障	良・否（ ）	良・否（ ）	
13.2 警報発生ユニット	下記項目が正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ヒューズモニタ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ＡＣ電源切換	良・否（ ）	良・否（ ）	
	テスト回路電源故障	良・否（ ）	良・否（ ）	
	コネクタフェール	良・否（ ）	良・否（ ）	
	電源故障1，2	良・否（ ）	良・否（ ）	
	音系電源故障	良・否（ ）	良・否（ ）	
14．計算機動作	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
15．照射試験	線量率 ：1.57±0.3(mGy/h)以内 アナログ：2.70±0.24(V) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
	Kγ1 －1 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	Kγ1 －1 アナログ	(V)	(V)	
	Kγ1 －2 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	Kγ1 －2 アナログ	(V)	(V)	
	Kγ1 －3 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	Kγ1 －3 アナログ	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－con) SER. No. ――

項目	基準			設定値	点検値	備考
	Kγ2	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ3	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ4	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ5	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ6	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ7	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	Kγ8	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu-con) SER. No. ——

項目	基準		設定値	点検値	備考
16. 警報吹鳴試験					
16.1 吹鳴試験	下記箇所での動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生TAGNo.		Kγ	Kγ	
	2／3論理回路	LED	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2/3 ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット	臨界ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )	
		臨界ブザー	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報音発生装置	臨界電子音	良・否 ( )	良・否 ( )	
	グラフィックパネル	ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	中央監視室		良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報表示盤		良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯	FLB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		5	良・否 ( )	良・否 ( )	
		6	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9	良・否 ( )	良・否 ( )	
		10	良・否 ( )	良・否 ( )	
		11	良・否 ( )	良・否 ( )	
		12	良・否 ( )	良・否 ( )	
		13	良・否 ( )	良・否 ( )	
		14	良・否 ( )	良・否 ( )	
		15	良・否 ( )	良・否 ( )	
		16	良・否 ( )	良・否 ( )	
		17	良・否 ( )	良・否 ( )	
		18	良・否 ( )	良・否 ( )	
		19	良・否 ( )	良・否 ( )	
		20	良・否 ( )	良・否 ( )	
		21	良・否 ( )	良・否 ( )	
		22	良・否 ( )	良・否 ( )	
		23	良・否 ( )	良・否 ( )	
		24	良・否 ( )	良・否 ( )	
		25	良・否 ( )	良・否 ( )	
		26	良・否 ( )	良・否 ( )	
		27	良・否 ( )	良・否 ( )	
		28	良・否 ( )	良・否 ( )	
		29	良・否 ( )	良・否 ( )	
		30	良・否 ( )	良・否 ( )	
		31	良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (Pu-con) SER. No. ——

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
	回転灯 FLB32	良・否 ( )	良・否 ( )	
	33	良・否 ( )	良・否 ( )	
	34	良・否 ( )	良・否 ( )	
	35	良・否 ( )	良・否 ( )	
	36	良・否 ( )	良・否 ( )	
	37	良・否 ( )	良・否 ( )	
	38	良・否 ( )	良・否 ( )	
	39	良・否 ( )	良・否 ( )	
	40	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ホーンブロワ HB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
	2	良・否 ( )	良・否 ( )	
	3	良・否 ( )	良・否 ( )	
	4	良・否 ( )	良・否 ( )	
	5	良・否 ( )	良・否 ( )	
	6	良・否 ( )	良・否 ( )	
	7	良・否 ( )	良・否 ( )	
	8	良・否 ( )	良・否 ( )	
	9	良・否 ( )	良・否 ( )	
	10	良・否 ( )	良・否 ( )	
	11	良・否 ( )	良・否 ( )	
	12	良・否 ( )	良・否 ( )	
	13	良・否 ( )	良・否 ( )	
	14	良・否 ( )	良・否 ( )	
	15	良・否 ( )	良・否 ( )	
	16	良・否 ( )	良・否 ( )	
	17	良・否 ( )	良・否 ( )	
	18	良・否 ( )	良・否 ( )	
	19	良・否 ( )	良・否 ( )	
	20	良・否 ( )	良・否 ( )	
	21	良・否 ( )	良・否 ( )	
	22	良・否 ( )	良・否 ( )	
	23	良・否 ( )	良・否 ( )	
	24	良・否 ( )	良・否 ( )	
	25	良・否 ( )	良・否 ( )	
	26	良・否 ( )	良・否 ( )	
	27	良・否 ( )	良・否 ( )	
	28	良・否 ( )	良・否 ( )	
	29	良・否 ( )	良・否 ( )	
	30	良・否 ( )	良・否 ( )	
	31	良・否 ( )	良・否 ( )	
	32	良・否 ( )	良・否 ( )	
	33	良・否 ( )	良・否 ( )	
	34	良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (Pu－con) SER. No. ——

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	ホーンプロワ	HB35	良・否 ( )	良・否 ( )	
		36	良・否 ( )	良・否 ( )	
		37	良・否 ( )	良・否 ( )	
		38	良・否 ( )	良・否 ( )	
		39	良・否 ( )	良・否 ( )	
		40	良・否 ( )	良・否 ( )	
		41	良・否 ( )	良・否 ( )	
		42	良・否 ( )	良・否 ( )	
		43	良・否 ( )	良・否 ( )	
		44	良・否 ( )	良・否 ( )	
		45	良・否 ( )	良・否 ( )	
		46	良・否 ( )	良・否 ( )	
		47	良・否 ( )	良・否 ( )	
		48	良・否 ( )	良・否 ( )	
		49	良・否 ( )	良・否 ( )	
		50	良・否 ( )	良・否 ( )	
		51	良・否 ( )	良・否 ( )	
		52	良・否 ( )	良・否 ( )	
16.2 警報吹鳴時間	600 (秒) ±30 (秒)		(秒)	(秒)	
17. 測定モード確認	下記の通りであること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	2/3論理回路 キースイッチ無し		良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット 監視モード		良・否 ( )	良・否 ( )	
	キースイッチ無し		良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11BAA03

検査名（総合検査）　　設置場所（CPF）

機器名	臨界警報装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. （CPF） SER. No. ——	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること ネジの緩みがないこと コネクタの接続が完全であること 施設が点検できる状態であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．警報音発生装置				
2.1 インピーダンスの測定	各系統 500(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1系統	(Ω)	(Ω)	
	2系統	(Ω)	(Ω)	
	3系統	(Ω)	(Ω)	
	4系統	(Ω)	(Ω)	
	5系統	(Ω)	(Ω)	
	6系統	(Ω)	(Ω)	
	7系統	(Ω)	(Ω)	
	8系統	(Ω)	(Ω)	
	9系統	(Ω)	(Ω)	
	10系統	(Ω)	(Ω)	
2.2 各電源電圧及びﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	-7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	下段	(V)	(V)	
	7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	下段	(V)	(V)	
	-14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	下段	(V)	(V)	
	14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	下段	(V)	(V)	
	26.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	下段	(V)	(V)	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	異常検出ランプ点灯していないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	-5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	-12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (CPF) SER. No. ——

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること		良・否 ( )	良・否 ( )	
(5) RYP-031	異常検出ランプ点灯していないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
3．電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU726	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU727	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU819	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU821	良・否 ( )	良・否 ( )	
4．各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
4.1 RU726	24.7(V)±0.5(V)以内	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
		C	(V)	(V)	
4.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内		(V)	(V)	
4.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
5．アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	1.4(V)±0.1(V)以内	CR1－1	(V)	(V)	
		CR1－2	(V)	(V)	
		CR1－3	(V)	(V)	
6．テスト動作確認					
6.1 ブローブテスト	各機能動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	TST S1 G1		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.2 2/3論理回路					
1）同時性の確認	同時性動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	2／3論理回路	A	良・否 ( )	良・否 ( )	
		B	良・否 ( )	良・否 ( )	
		C	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット		良・否 ( )	良・否 ( )	
	補助ユニット		良・否 ( )	良・否 ( )	
2）非同時性の確認	非同時性動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	2／3論理回路	A	良・否 ( )	良・否 ( )	
		B	良・否 ( )	良・否 ( )	
		C	良・否 ( )	良・否 ( )	
	テスト回路		良・否 ( )	良・否 ( )	
7．臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
		A，B	良・否 ( )	良・否 ( )	
		B，C	良・否 ( )	良・否 ( )	
		C，A	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (CPF) SER. No. ——

項目	基準	設定値	点検値	備考
8. 回転灯断線	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
9. ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
10. 回転灯テスト	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
11. スピーカテスト	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
12. バイパス機能	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
13. 機能モニタ動作				
13.1 補助ユニット	下記項目が正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ヒューズ断	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯リレー故障	良・否 ( )	良・否 ( )	
13.2 警報発生ユニット	下記項目が正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ヒューズモニタ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ＡＣ電源切換	良・否 ( )	良・否 ( )	
	テスト回路電源故障	良・否 ( )	良・否 ( )	
	コネクタフェール	良・否 ( )	良・否 ( )	
	電源故障１，２	良・否 ( )	良・否 ( )	
	音系電源故障	良・否 ( )	良・否 ( )	
14. 計算機動作	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
15. 照射試験	線量率 ：3.14±0.3(mGy/h)以内 アナログ：3.99±0.24(V) 以内	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ＣＲ１ －１ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ１ －１ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ１ －２ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ１ －２ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ１ －３ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ１ －３ アナログ	(V)	(V)	
16. 警報吹鳴試験				
16.1 吹鳴試験	下記箇所での動作に異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ＴＡＧNo.	ＣＲ	ＣＲ	
	２／３論理回路 ＬＥＤ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	２／３論理回路 2/3 ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット 臨界ランプ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット 臨界ブザー	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報音発生装置 臨界電子音	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報表示盤 Tag表示・音	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ ランプ・音	良・否 ( )	良・否 ( )	
	放送設備 音声出力			
	回転灯 ＦＬＢ１	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯 2	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯 3	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯 4	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯 5	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯 6	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯 7	良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. （CPF） SER. No. ——

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	回転灯	FLB8	良・否（ ）	良・否（ ）	
		9	良・否（ ）	良・否（ ）	
		10	良・否（ ）	良・否（ ）	
		11	良・否（ ）	良・否（ ）	
		12	良・否（ ）	良・否（ ）	
		13	良・否（ ）	良・否（ ）	
		14	良・否（ ）	良・否（ ）	
		15	良・否（ ）	良・否（ ）	
		16	良・否（ ）	良・否（ ）	
		17	良・否（ ）	良・否（ ）	
		18	良・否（ ）	良・否（ ）	
		19	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ホーンブロワ	HB1	良・否（ ）	良・否（ ）	
		2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		3	良・否（ ）	良・否（ ）	
		4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		5	良・否（ ）	良・否（ ）	
		6	良・否（ ）	良・否（ ）	
		7	良・否（ ）	良・否（ ）	
		8	良・否（ ）	良・否（ ）	
		9	良・否（ ）	良・否（ ）	
		10	良・否（ ）	良・否（ ）	
16.2 警報吹鳴時間	600（秒）±30（秒）		（秒）	（秒）	
17. 測定モード確認	下記の通りであること		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2/3論理回路 キースイッチ無し		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット 監視モード		良・否（ ）	良・否（ ）	
	キースイッチ無し		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11BAA04

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－1，2）　　

機器名	臨界警報装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No （Pu－1，2） SER. No ————	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること ネジの緩みがないこと コネクタの接続が完全であること 施設が点検できる状態であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．警報音発生装置				
2.1 インピーダンスの測定	各系統 500(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	CRP4 1系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP4 2系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP4 3系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP4 4系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP4 5系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP4 7系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP4 9系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 1系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 2系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 3系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 4系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 5系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 6系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 7系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 8系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 9系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP5 10系統	(Ω)	(Ω)	
2.2 各電源電圧及びﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	CRP4 -7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	CRP4 -7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	CRP4 7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	CRP4 7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	CRP4 -14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	CRP4 -14.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	CRP4 14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	CRP4 14.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	CRP4 26.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	CRP4 26.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	CRP5 -7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	CRP5 -7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (Pu－1, 2) SER. No. ――――

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	CRP5 7.0(V)±1.0(V)以内	上 段	(V)	(V)	
		下 段	(V)	(V)	
	CRP5 -14.0(V)±1.0(V)以内	上 段	(V)	(V)	
		下 段	(V)	(V)	
	CRP5 14.0(V)±1.0(V)以内	上 段	(V)	(V)	
		下 段	(V)	(V)	
	CRP5 26.0(V)±1.0(V)以内	上 段	(V)	(V)	
		下 段	(V)	(V)	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	各電源ランプが点灯していること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	異常検出ランプ点灯していないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	CRP4 -5.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP4 5.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP4 -12.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP4 12.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP4 24.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP5 -5.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP5 5.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP5 -12.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP5 12.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
	CRP5 24.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること		良・否 ( )	良・否 ( )	
(5) RYP-031	異常検出ランプ点灯していないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
3．電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU726	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU727	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU819	良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU821	良・否 ( )	良・否 ( )	
4．各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
4.1 RU726	24.7(V)±0.5(V)以内 CRP1	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
		C	(V)	(V)	
	24.7(V)±0.5(V)以内 CRP2	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
		C	(V)	(V)	
	24.7(V)±0.5(V)以内 CRP3	A	(V)	(V)	
		B	(V)	(V)	
		C	(V)	(V)	
4.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内	CRP1	(V)	(V)	
		CRP2	(V)	(V)	
		CRP3	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－1, 2) SER. No. ――――

項目	基準			設定値	点検値	備考
4.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内	CRP1	A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
		CRP3	A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
4.4 RU821	24.0(V)±1.0(V)以内			(V)	(V)	
5. アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと			良・否 (　　)	良・否 (　　)	
	1.4(V)±0.1(V)以内	1CR1－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		1CR2－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		2CR1－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		2CR2－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		2CR3－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		2CR4－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		2CR5－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		2CR6－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
6. テスト動作確認 6.1 プローブテスト	各機能動作に異常のないこと			良・否 (　　)	良・否 (　　)	
		TST1	S1	G1 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
				G2 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
			S2	G1 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
				G2 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
			S3	G1 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
				G2 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
		TST2	S1	G1 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
				G2 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
				G3 良・否 (　　)	良・否 (　　)	
				G4 良・否 (　　)	良・否 (　　)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－1，2） SER. No. ――――

項目	基準			設定値	点検値	備考
	TST2	S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST3	S1	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
6.2 2/3論理回路						
1）同時性の確認	同時性動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP1	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		警報発生ユニット		良・否（ ）	良・否（ ）	
		補助ユニット	1	良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP2	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP3	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		補助ユニット	2	良・否（ ）	良・否（ ）	
2）非同時性の確認	非同時性動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP1	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		テスト回路		良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP2	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		テスト回路		良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP3	2／3論理回路	A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		テスト回路		良・否（ ）	良・否（ ）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (Pu－1, 2) SER. No. ―――

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
7. 臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	CRP1	A, B	良・否 ( )	良・否 ( )	
		B, C	良・否 ( )	良・否 ( )	
		C, A	良・否 ( )	良・否 ( )	
	CRP2	A, B	良・否 ( )	良・否 ( )	
		B, C	良・否 ( )	良・否 ( )	
		C, A	良・否 ( )	良・否 ( )	
	CRP3	A, B	良・否 ( )	良・否 ( )	
		B, C	良・否 ( )	良・否 ( )	
		C, A	良・否 ( )	良・否 ( )	
8. 回転灯断線	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
9. ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
10. 回転灯テスト	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
11. スピーカテスト	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
12. バイパス機能	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
13. 機能モニタ動作					
13.1 補助ユニット	下記項目が正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	ヒューズ断		良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯リレー故障		良・否 ( )	良・否 ( )	
13.2 警報発生ユニット	下記項目が正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	ヒューズモニタ		良・否 ( )	良・否 ( )	
	ＡＣ電源切換		良・否 ( )	良・否 ( )	
	テスト回路電源故障		良・否 ( )	良・否 ( )	
	コネクタフェール		良・否 ( )	良・否 ( )	
	電源故障1, 2		良・否 ( )	良・否 ( )	
	音系電源故障		良・否 ( )	良・否 ( )	
14. 計算機動作	正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
15. 照射試験	線量率 ：0.87±0.3(mGy/h)以内 アナログ：2.12±0.24(V) 以内		良・否 ( )	良・否 ( )	
	1CR1	－1 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
		－1 アナログ	(V)	(V)	
		－2 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
		－2 アナログ	(V)	(V)	
		－3 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
		－3 アナログ	(V)	(V)	
	1CR2	－1 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
		－1 アナログ	(V)	(V)	
		－2 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
		－2 アナログ	(V)	(V)	
		－3 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
		－3 アナログ	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－1，2） SER. No. ―――

項目	基準			設定値	点検値	備考
	2CR1	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	2CR2	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	2CR3	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	2CR4	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	2CR5	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	2CR6	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
16. 警報吹鳴試験 16.1 吹鳴試験	下記箇所での動作に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	2／3論理回路		LED	良・否（　　）	良・否（　　）	
			2/3 ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報発生ユニット		臨界ランプ	良・否（　　）	良・否（　　）	
			臨界ブザー	良・否（　　）	良・否（　　）	
	警報音発生装置		臨界電子音	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－1, 2) SER. No. ―――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	遠隔監視盤	ﾗﾝﾌﾟ,ﾌﾞｻﾞｰ,ﾌﾟﾘﾝﾀ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	Pu1ロビー	アナンシェータ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	Pu2ロビー	アナンシェータ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	Pu燃守衛所	アナンシェータ	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯	FLB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
	回転灯	FLB2	良・否 ( )	良・否 ( )	
	ホーンブロワ	1HB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		5	良・否 ( )	良・否 ( )	
		6	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9	良・否 ( )	良・否 ( )	
		10	良・否 ( )	良・否 ( )	
		11	良・否 ( )	良・否 ( )	
		12	良・否 ( )	良・否 ( )	
		13	良・否 ( )	良・否 ( )	
		14	良・否 ( )	良・否 ( )	
		15	良・否 ( )	良・否 ( )	
		16	良・否 ( )	良・否 ( )	
		17	良・否 ( )	良・否 ( )	
		18	良・否 ( )	良・否 ( )	
		19	良・否 ( )	良・否 ( )	
		20	良・否 ( )	良・否 ( )	
		21	良・否 ( )	良・否 ( )	
		22	良・否 ( )	良・否 ( )	
		23	良・否 ( )	良・否 ( )	
		24	良・否 ( )	良・否 ( )	
		25	良・否 ( )	良・否 ( )	
		26	良・否 ( )	良・否 ( )	
		27	良・否 ( )	良・否 ( )	
		28	良・否 ( )	良・否 ( )	
		29	良・否 ( )	良・否 ( )	
		30	良・否 ( )	良・否 ( )	
		31	良・否 ( )	良・否 ( )	
		32	良・否 ( )	良・否 ( )	
		33	良・否 ( )	良・否 ( )	
		34	良・否 ( )	良・否 ( )	
		35	良・否 ( )	良・否 ( )	
		36	良・否 ( )	良・否 ( )	
		37	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－1, 2) SER. No. ————

項目	基準		設定値	点検値	備考
	ホーンブロワ	1HB38	良・否 ( )	良・否 ( )	
		39	良・否 ( )	良・否 ( )	
		40	良・否 ( )	良・否 ( )	
		41	良・否 ( )	良・否 ( )	
		42	良・否 ( )	良・否 ( )	
		43	良・否 ( )	良・否 ( )	
		44	良・否 ( )	良・否 ( )	
		45	良・否 ( )	良・否 ( )	
		46	良・否 ( )	良・否 ( )	
		47	良・否 ( )	良・否 ( )	
		48	良・否 ( )	良・否 ( )	
		49	良・否 ( )	良・否 ( )	
		50	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2HB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		5	良・否 ( )	良・否 ( )	
		6	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9	良・否 ( )	良・否 ( )	
		10	良・否 ( )	良・否 ( )	
		11	良・否 ( )	良・否 ( )	
		12	良・否 ( )	良・否 ( )	
		13	良・否 ( )	良・否 ( )	
		14	良・否 ( )	良・否 ( )	
		15	良・否 ( )	良・否 ( )	
		16	良・否 ( )	良・否 ( )	
		17	良・否 ( )	良・否 ( )	
		18	良・否 ( )	良・否 ( )	
		19	良・否 ( )	良・否 ( )	
		20	良・否 ( )	良・否 ( )	
		21	良・否 ( )	良・否 ( )	
		22	良・否 ( )	良・否 ( )	
		23	良・否 ( )	良・否 ( )	
		24	良・否 ( )	良・否 ( )	
		25	良・否 ( )	良・否 ( )	
		26	良・否 ( )	良・否 ( )	
		27	良・否 ( )	良・否 ( )	
		28	良・否 ( )	良・否 ( )	
		29	良・否 ( )	良・否 ( )	
		30	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－1, 2) SER. No. ――――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	ホーンブロワ	2HB31	良・否 ( )	良・否 ( )	
		32	良・否 ( )	良・否 ( )	
		33	良・否 ( )	良・否 ( )	
		34	良・否 ( )	良・否 ( )	
		35	良・否 ( )	良・否 ( )	
		36	良・否 ( )	良・否 ( )	
		37	良・否 ( )	良・否 ( )	
		38	良・否 ( )	良・否 ( )	
		39	良・否 ( )	良・否 ( )	
		40	良・否 ( )	良・否 ( )	
		41	良・否 ( )	良・否 ( )	
		42	良・否 ( )	良・否 ( )	
		43	良・否 ( )	良・否 ( )	
		44	良・否 ( )	良・否 ( )	
		45	良・否 ( )	良・否 ( )	
		46	良・否 ( )	良・否 ( )	
		47	良・否 ( )	良・否 ( )	
		48	良・否 ( )	良・否 ( )	
		49	良・否 ( )	良・否 ( )	
		50	良・否 ( )	良・否 ( )	
		51	良・否 ( )	良・否 ( )	
		52	良・否 ( )	良・否 ( )	
		53	良・否 ( )	良・否 ( )	
		54	良・否 ( )	良・否 ( )	
		55	良・否 ( )	良・否 ( )	
		56	良・否 ( )	良・否 ( )	
		57	良・否 ( )	良・否 ( )	
		58	良・否 ( )	良・否 ( )	
		59	良・否 ( )	良・否 ( )	
		60	良・否 ( )	良・否 ( )	
		MHB1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4	良・否 ( )	良・否 ( )	
16.2 警報吹鳴時間	600 (秒) ±30 (秒)		(秒)	(秒)	(CR －)
17. 測定モード確認	下記の通りであること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	2/3論理回路　キースイッチ無し		良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット　監視モード		良・否 ( )	良・否 ( )	
	キースイッチ無し		良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11BAA05

検査名（総合検査）　　設置場所（Pu－3）

機器名	臨界警報装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No.（Pu－3） SER. No. ――	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること ネジの緩みがないこと コネクタの接続が完全であること 施設が点検できる状態であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．警報音発生装置				
2.1 インピーダンスの測定	各系統 500(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	CRP1 1系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 2系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 3系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 4系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 5系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 6系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 7系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 8系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 9系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP1 10系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 1系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 2系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 3系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 4系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 5系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 6系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 7系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 8系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 9系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP2 10系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 1系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 2系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 3系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 4系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 5系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 6系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 7系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 8系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 9系統	(Ω)	(Ω)	
	CRP3 10系統	(Ω)	(Ω)	
2.2 各電源電圧及びﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (Pu－3) SER. No. ――

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	CRP1	-7.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		-7.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		7.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		7.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		-14.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		-14.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		14.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		14.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		26.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		26.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
	CRP2	-7.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		-7.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		7.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		7.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		-14.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		-14.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		14.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		14.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		26.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		26.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
	CRP3	-7.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		-7.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		7.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		7.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		-14.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		-14.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		14.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		14.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
		26.0(V)±1.0(V) 以内 上 段	(V)	(V)	
		26.0(V)±1.0(V) 以内 下 段	(V)	(V)	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	各電源ランプが点灯していること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	異常検出ランプ点灯していないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	CRP1	-5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		-12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	CRP2	-5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		-12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	CRP3	-5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		-12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
		24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること		良・否（ ）	良・否（ ）	
(5) RYP-031	異常検出ランプ点灯していないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
3．電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724	良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU726	良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU727	良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU819	良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU821	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
4.1 RU726	24.7(V)±0.5(V)以内	CRP4 A	(V)	(V)	
		CRP4 B	(V)	(V)	
		CRP4 C	(V)	(V)	
		CRP5 A	(V)	(V)	
		CRP5 B	(V)	(V)	
		CRP5 C	(V)	(V)	
		CRP6 A	(V)	(V)	
		CRP6 B	(V)	(V)	
		CRP6 C	(V)	(V)	
		CRP7 A	(V)	(V)	
		CRP7 B	(V)	(V)	
		CRP7 C	(V)	(V)	
4.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内	CRP4	(V)	(V)	
		CRP5	(V)	(V)	
		CRP6	(V)	(V)	
		CRP7	(V)	(V)	
4.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内	CRP5 A	(V)	(V)	
		CRP5 B	(V)	(V)	
		CRP7 A	(V)	(V)	
		CRP7 B	(V)	(V)	
4.4 RU821	24.0(V)±1.0(V)以内		(V)	(V)	
5．アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	1.4(V)±0.1(V)以内	CR1－1	(V)	(V)	
		CR1－2	(V)	(V)	
		CR1－3	(V)	(V)	
		CR2－1	(V)	(V)	
		CR2－2	(V)	(V)	
		CR2－3	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. (Pu－3) SER. No. ――

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	CR3－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR4－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR5－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR6－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR7－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR8－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR9－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR10－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR11－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR12－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR13－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
	CR14－	1	(V)	(V)	
		2	(V)	(V)	
		3	(V)	(V)	
6．テスト動作確認 6.1 プローブテスト	各機能動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	TST1 S1	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
		G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
		G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
		G4	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ――

項目	基準			設定値	点検値	備考
	TST1	S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST2	S1	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST3	S1	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G4	良・否（ ）	良・否（ ）	
	TST4	S1	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3	G1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			G2	良・否（ ）	良・否（ ）	
6.2 2/3論理回路 1）同時性の確認	同時性動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	CRP4 2／3論理回路		A	良・否（ ）	良・否（ ）	
			B	良・否（ ）	良・否（ ）	
			C	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No.　（Pu－3） SER. No.　――

項目	基準			設定値	点検値	備考
2）非同時性の確認	CRP5	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
		警報発生ユニット		良・否（　）	良・否（　）	
		補助ユニット	1	良・否（　）	良・否（　）	
	CRP6	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
	CRP7	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
		補助ユニット	2	良・否（　）	良・否（　）	
	非同時性動作に異常のないことG4			良・否（　）	良・否（　）	
	CRP4	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
		テスト回路		良・否（　）	良・否（　）	
	CRP5	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
		テスト回路		良・否（　）	良・否（　）	
	CRP6	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
		テスト回路		良・否（　）	良・否（　）	
	CRP7	2／3論理回路	A	良・否（　）	良・否（　）	
			B	良・否（　）	良・否（　）	
			C	良・否（　）	良・否（　）	
		テスト回路		良・否（　）	良・否（　）	
7．臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと			良・否（　）	良・否（　）	
	CRP4		A，B	良・否（　）	良・否（　）	
			B，C	良・否（　）	良・否（　）	
			C，A	良・否（　）	良・否（　）	
	CRP5		A，B	良・否（　）	良・否（　）	
			B，C	良・否（　）	良・否（　）	
			C，A	良・否（　）	良・否（　）	
	CRP6		A，B	良・否（　）	良・否（　）	
			B，C	良・否（　）	良・否（　）	
			C，A	良・否（　）	良・否（　）	
	CRP7		A，B	良・否（　）	良・否（　）	
			B，C	良・否（　）	良・否（　）	
			C，A	良・否（　）	良・否（　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界警報装置	機 器 No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ――

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
8．回転灯断線	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
10. 回転灯テスト	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
11. スピーカテスト	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
12. バイパス機能	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
13. 機能モニタ動作				
13.1 補助ユニット	下記項目が正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ヒューズ断	良・否（　　）	良・否（　　）	
	回転灯リレー故障	良・否（　　）	良・否（　　）	
13.2 警報発生ユニット	下記項目が正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ヒューズモニタ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＡＣ電源切換	良・否（　　）	良・否（　　）	
	テスト回路電源故障	良・否（　　）	良・否（　　）	
	コネクタフェール	良・否（　　）	良・否（　　）	
	電源故障１，２	良・否（　　）	良・否（　　）	
	音系電源故障	良・否（　　）	良・否（　　）	
14. 計算機動作	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
15. 照射試験	線量率　：0.87±0.3(mGy/h)以内 アナログ：2.12±0.24(V) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＣＲ１－１ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ１－１ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ１－２ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ１－２ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ１－３ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ１－３ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ２－１ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ２－１ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ２－２ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ２－２ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ２－３ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ２－３ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ３－１ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ３－１ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ３－２ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ３－２ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ３－３ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ３－３ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ４－１ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ４－１ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ４－２ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ４－２ アナログ	(V)	(V)	
	ＣＲ４－３ 線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
	ＣＲ４－３ アナログ	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ――

項目	基準			設定値	点検値	備考
	CR5	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR6	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR7	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR8	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR9	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR10	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR11	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3）
			SER. No. ――

項目	基準			設定値	点検値	備考
	CR12	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR13	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
	CR14	－1	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－2	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
		－3	線量率	(mGy/h)	(mGy/h)	
			アナログ	(V)	(V)	
16. 警報吹鳴試験						
16.1 吹鳴試験	下記箇所での動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路		LED	良・否（ ）	良・否（ ）	
			2/3 ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット		臨界ランプ	良・否（ ）	良・否（ ）	
			臨界ブザー	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報音発生装置		臨界電子音	良・否（ ）	良・否（ ）	
	遠隔監視盤		ﾗﾝﾌﾟ,ﾌﾞｻﾞｰ,ﾌﾟﾘﾝﾀ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	中央管理室		アナンシェータ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	Pu燃守衛所		アナンシェータ	良・否（ ）	良・否（ ）	
	回転灯		FLB1	良・否（ ）	良・否（ ）	
	ホーンプロワ		HB1	良・否（ ）	良・否（ ）	
			2	良・否（ ）	良・否（ ）	
			3	良・否（ ）	良・否（ ）	
			4	良・否（ ）	良・否（ ）	
			5	良・否（ ）	良・否（ ）	
			6	良・否（ ）	良・否（ ）	
			7	良・否（ ）	良・否（ ）	
			8	良・否（ ）	良・否（ ）	
			9	良・否（ ）	良・否（ ）	
			10	良・否（ ）	良・否（ ）	
			11	良・否（ ）	良・否（ ）	
			12	良・否（ ）	良・否（ ）	
			13	良・否（ ）	良・否（ ）	
			14	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ―――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	ホーンブロワ	HB15	良・否（ ）	良・否（ ）	
		16	良・否（ ）	良・否（ ）	
		17	良・否（ ）	良・否（ ）	
		18	良・否（ ）	良・否（ ）	
		19	良・否（ ）	良・否（ ）	
		20	良・否（ ）	良・否（ ）	
		21	良・否（ ）	良・否（ ）	
		22	良・否（ ）	良・否（ ）	
		23	良・否（ ）	良・否（ ）	
		24	良・否（ ）	良・否（ ）	
		25	良・否（ ）	良・否（ ）	
		26	良・否（ ）	良・否（ ）	
		27	良・否（ ）	良・否（ ）	
		28	良・否（ ）	良・否（ ）	
		29	良・否（ ）	良・否（ ）	
		30	良・否（ ）	良・否（ ）	
		31	良・否（ ）	良・否（ ）	
		32	良・否（ ）	良・否（ ）	
		33	良・否（ ）	良・否（ ）	
		34	良・否（ ）	良・否（ ）	
		35	良・否（ ）	良・否（ ）	
		36	良・否（ ）	良・否（ ）	
		37	良・否（ ）	良・否（ ）	
		38	良・否（ ）	良・否（ ）	
		39	良・否（ ）	良・否（ ）	
		40	良・否（ ）	良・否（ ）	
		41	良・否（ ）	良・否（ ）	
		42	良・否（ ）	良・否（ ）	
		43	良・否（ ）	良・否（ ）	
		44	良・否（ ）	良・否（ ）	
		45	良・否（ ）	良・否（ ）	
		46	良・否（ ）	良・否（ ）	
		47	良・否（ ）	良・否（ ）	
		48	良・否（ ）	良・否（ ）	
		49	良・否（ ）	良・否（ ）	
		50	良・否（ ）	良・否（ ）	
		51	良・否（ ）	良・否（ ）	
		52	良・否（ ）	良・否（ ）	
		53	良・否（ ）	良・否（ ）	
		54	良・否（ ）	良・否（ ）	
		55	良・否（ ）	良・否（ ）	
		56	良・否（ ）	良・否（ ）	
		57	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	ホーンブロワ	HB58	良・否（ ）	良・否（ ）	
		59	良・否（ ）	良・否（ ）	
		60	良・否（ ）	良・否（ ）	
		61	良・否（ ）	良・否（ ）	
		62	良・否（ ）	良・否（ ）	
		63	良・否（ ）	良・否（ ）	
		64	良・否（ ）	良・否（ ）	
		65	良・否（ ）	良・否（ ）	
		66	良・否（ ）	良・否（ ）	
		67	良・否（ ）	良・否（ ）	
		68	良・否（ ）	良・否（ ）	
		69	良・否（ ）	良・否（ ）	
		70	良・否（ ）	良・否（ ）	
		71	良・否（ ）	良・否（ ）	
		72	良・否（ ）	良・否（ ）	
		73	良・否（ ）	良・否（ ）	
		74	良・否（ ）	良・否（ ）	
		75	良・否（ ）	良・否（ ）	
		76	良・否（ ）	良・否（ ）	
		77	良・否（ ）	良・否（ ）	
		78	良・否（ ）	良・否（ ）	
		79	良・否（ ）	良・否（ ）	
		80	良・否（ ）	良・否（ ）	
		81	良・否（ ）	良・否（ ）	
		82	良・否（ ）	良・否（ ）	
		83	良・否（ ）	良・否（ ）	
		84	良・否（ ）	良・否（ ）	
		85	良・否（ ）	良・否（ ）	
		86	良・否（ ）	良・否（ ）	
		87	良・否（ ）	良・否（ ）	
		88	良・否（ ）	良・否（ ）	
		89	良・否（ ）	良・否（ ）	
		90	良・否（ ）	良・否（ ）	
		91	良・否（ ）	良・否（ ）	
		92	良・否（ ）	良・否（ ）	
		93	良・否（ ）	良・否（ ）	
		94	良・否（ ）	良・否（ ）	
		95	良・否（ ）	良・否（ ）	
		96	良・否（ ）	良・否（ ）	
		97	良・否（ ）	良・否（ ）	
		98	良・否（ ）	良・否（ ）	
		99	良・否（ ）	良・否（ ）	
		100	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. （Pu－3） SER. No. ――

項目	基準		設定値	点検値	備考
	ホーンプロワ	HB101	良・否（ ）	良・否（ ）	
		102	良・否（ ）	良・否（ ）	
		103	良・否（ ）	良・否（ ）	
		104	良・否（ ）	良・否（ ）	
		105	良・否（ ）	良・否（ ）	
		106	良・否（ ）	良・否（ ）	
		107	良・否（ ）	良・否（ ）	
		108	良・否（ ）	良・否（ ）	
		109	良・否（ ）	良・否（ ）	
		110	良・否（ ）	良・否（ ）	
		111	良・否（ ）	良・否（ ）	
		112	良・否（ ）	良・否（ ）	
		113	良・否（ ）	良・否（ ）	
		114	良・否（ ）	良・否（ ）	
		115	良・否（ ）	良・否（ ）	
		116	良・否（ ）	良・否（ ）	
		117	良・否（ ）	良・否（ ）	
		118	良・否（ ）	良・否（ ）	
		119	良・否（ ）	良・否（ ）	
		120	良・否（ ）	良・否（ ）	
		121	良・否（ ）	良・否（ ）	
		122	良・否（ ）	良・否（ ）	
		123	良・否（ ）	良・否（ ）	
		124	良・否（ ）	良・否（ ）	
		125	良・否（ ）	良・否（ ）	
		126	良・否（ ）	良・否（ ）	
		127	良・否（ ）	良・否（ ）	
		128	良・否（ ）	良・否（ ）	
		129	良・否（ ）	良・否（ ）	
		130	良・否（ ）	良・否（ ）	
		131	良・否（ ）	良・否（ ）	
		132	良・否（ ）	良・否（ ）	
		133	良・否（ ）	良・否（ ）	
		134	良・否（ ）	良・否（ ）	
		135	良・否（ ）	良・否（ ）	
		136	良・否（ ）	良・否（ ）	
		137	良・否（ ）	良・否（ ）	
		138	良・否（ ）	良・否（ ）	
		139	良・否（ ）	良・否（ ）	
		140	良・否（ ）	良・否（ ）	
		141	良・否（ ）	良・否（ ）	
		142	良・否（ ）	良・否（ ）	
		143	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－3) SER. No. ――

項目	基準	設定値	点検値	備考
	ホーンブロワ HB144	良・否 ( )	良・否 ( )	
	145	良・否 ( )	良・否 ( )	
	146	良・否 ( )	良・否 ( )	
	147	良・否 ( )	良・否 ( )	
	148	良・否 ( )	良・否 ( )	
	149	良・否 ( )	良・否 ( )	
	150	良・否 ( )	良・否 ( )	
	151	良・否 ( )	良・否 ( )	
	152	良・否 ( )	良・否 ( )	
	153	良・否 ( )	良・否 ( )	
	154	良・否 ( )	良・否 ( )	
	155	良・否 ( )	良・否 ( )	
	156	良・否 ( )	良・否 ( )	
	157	良・否 ( )	良・否 ( )	
	158	良・否 ( )	良・否 ( )	
	159	良・否 ( )	良・否 ( )	
	160	良・否 ( )	良・否 ( )	
	161	良・否 ( )	良・否 ( )	
	162	良・否 ( )	良・否 ( )	
	163	良・否 ( )	良・否 ( )	
	164	良・否 ( )	良・否 ( )	
	165	良・否 ( )	良・否 ( )	
	166	良・否 ( )	良・否 ( )	
	167	良・否 ( )	良・否 ( )	
16.2 警報吹鳴時間	600 (秒) ±30 (秒)	(秒)	(秒)	(CR －)
17. 測定モード確認	下記の通りであること	良・否 ( )	良・否 ( )	
	2/3論理回路 キースイッチ無し	良・否 ( )	良・否 ( )	
	警報発生ユニット 監視モード	良・否 ( )	良・否 ( )	
	キースイッチ無し	良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	12BAA01

検査名（性能検査）　　設置場所（MP）

機 器 名	臨界警報装置	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. （MP） SER. No. ——	調査		点検者名	

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
1．警報音発生装置				
1.1 インピーダンスの測定	各系統 350(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
	HP22 1系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 2系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 3系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 4系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 5系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 6系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 7系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 8系統	（Ω）	（Ω）	
	HP22 9系統	（Ω）	（Ω）	
1.2 各電源電圧及びﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　）	良・否（　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　）	良・否（　）	
	-7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	-7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	7.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	7.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	-14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	-14.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	14.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	14.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
	26.0(V)±1.0(V) 以内 上段	(V)	(V)	
	26.0(V)±1.0(V) 以内 下段	(V)	(V)	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　）	良・否（　）	
	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　）	良・否（　）	
	-5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	5.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	-12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	12.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	24.0(V)±1.0(V)以内	(V)	(V)	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　）	良・否（　）	
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること	良・否（　）	良・否（　）	
(5) RYP-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　）	良・否（　）	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (MP) SER. No. ———

項目	基準			設定値	点検値	備考
2. 電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724		良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU726		良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU727		良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU819		良・否 ( )	良・否 ( )	
		RU821		良・否 ( )	良・否 ( )	
3. 各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
3.1 RU726	24.7(V)±0.5(V)以内		A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
			C	(V)	(V)	
3.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内			(V)	(V)	
3.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内		A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
4. アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	γ線検出器: 1.4(V)±0.1(V)以内	Kγ1−	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ2−	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
	中性子検出器: 4000(cpm) 以上		3	(V)	(V)	
		Kn3−	1	(CH)	(CH)	
				(cpm)	(cpm)	
			2	(CH)	(CH)	
				(cpm)	(cpm)	
			3	(CH)	(CH)	
				(cpm)	(cpm)	
		Kγ4−	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
5. テスト動作確認						
5.1 プローブテスト	各機能動作に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	TST	S1	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		S2	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		S3	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (MP) SER. No. ——

項目	基準	設定値	点検値	備考
5.2 2/3論理回路				
1）同時性の確認	同時性動作に異常のないこと	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路 A	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路 B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路 C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット	良・否（ ）	良・否（ ）	
	補助ユニット	良・否（ ）	良・否（ ）	
2）非同時性の確認	非同時性動作に異常のないこと	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路 A	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路 B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2／3論理回路 C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	テスト回路	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと	良・否（ ）	良・否（ ）	
	A，B	良・否（ ）	良・否（ ）	
	B，C	良・否（ ）	良・否（ ）	
	C，A	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．回転灯断線	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
8．ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．測定モード確認	下記の通りであること	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2/3論理回路　キースイッチ無し	良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット　監視モード	良・否（ ）	良・否（ ）	
	キースイッチ無し	良・否（ ）	良・否（ ）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	１２ＢＡＡ０２

検査名（性能検査）　　設置場所（Ｐｕ－ｃｏｎ）

機　器　名	臨界警報装置	承認		年 月 日	
機　器　№	ＴＡＧ．№　（Ｐｕ－ｃｏｎ） ＳＥＲ．№　――――	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
１．警報音発生装置				
1.1 インピーダンスの測定	各系統 500(Ω)±50(Ω) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＨＰ１３ 1系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 2系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 3系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 4系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 5系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 6系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 7系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 8系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 9系統	（Ω）	（Ω）	
	ＨＰ１３ 10系統	（Ω）	（Ω）	
1.2 各電源電圧及び ﾗﾝﾌﾟの確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(1) PSC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＨＰ１３ -7.0(V)±1.0(V)以内 上段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ -7.0(V)±1.0(V)以内 下段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 7.0(V)±1.0(V)以内 上段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 7.0(V)±1.0(V)以内 下段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ -14.0(V)±1.0(V)以内 上段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ -14.0(V)±1.0(V)以内 下段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 14.0(V)±1.0(V)以内 上段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 14.0(V)±1.0(V)以内 下段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 26.0(V)±1.0(V)以内 上段	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 26.0(V)±1.0(V)以内 下段	（V）	（V）	
(2) ESC-031	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＨＰ１３ -5.0(V)±1.0(V)以内	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 5.0(V)±1.0(V)以内	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ -12.0(V)±1.0(V)以内	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 12.0(V)±1.0(V)以内	（V）	（V）	
	ＨＰ１３ 24.0(V)±1.0(V)以内	（V）	（V）	
(3) OPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
(4) PA-2440	各電源ランプが点灯していること	良・否（　　）	良・否（　　）	
(5) RYP-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
(6) SPC-031	異常検出ランプの正常が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－con) SER. No. ―――

項目	基準			設定値	点検値	備考
2．電源ランプの確認	各電源モジュール及びユニットの電源ランプが正常に点灯していること	RU724		良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU726		良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU727		良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU819		良・否（ ）	良・否（ ）	
		RU821		良・否（ ）	良・否（ ）	
3．各電源電圧確認	各測定値に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
3.1 RU726	24.7(V)±0.5(V)以内	CRP1	A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
			C	(V)	(V)	
		CRP2	A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
			C	(V)	(V)	
3.2 RU727	12.0(V)±0.5(V)以内	CRP1		(V)	(V)	
		CRP2		(V)	(V)	
3.3 RU819	24.0(V)±1.0(V)以内		A	(V)	(V)	
			B	(V)	(V)	
3.4 RU821	24.0(V)±1.0(V)以内			(V)	(V)	
4．アナログ出力の測定	各測定値に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	1.4(V)±0.1(V)以内	Kγ1－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ2－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ3－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ4－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ5－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ6－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ7－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	
		Kγ8－	1	(V)	(V)	
			2	(V)	(V)	
			3	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu-con) SER. No. ————

項目	基準			設定値	点検値	備考
5. テスト動作確認						
5.1 プローブテスト	各機能動作に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	TST1	S1	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		S2	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		S3	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
	TST2	S1	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		S2	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
		S3	G1	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G2	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G3	良・否 ( )	良・否 ( )	
			G4	良・否 ( )	良・否 ( )	
5.2 2/3論理回路						
1) 同時性の確認	同時性動作に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	HP11	2／3論理回路	A	良・否 ( )	良・否 ( )	
			B	良・否 ( )	良・否 ( )	
			C	良・否 ( )	良・否 ( )	
		警報発生ユニット		良・否 ( )	良・否 ( )	
		補助ユニット		良・否 ( )	良・否 ( )	
	HP12	2／3論理回路	A	良・否 ( )	良・否 ( )	
			B	良・否 ( )	良・否 ( )	
			C	良・否 ( )	良・否 ( )	
	HP12	2／3論理回路	A	良・否 ( )	良・否 ( )	
			B	良・否 ( )	良・否 ( )	
			C	良・否 ( )	良・否 ( )	

点検整備記録書

機器名	臨界警報装置	機器No.	TAG. No. (Pu－con) SER. No. ―――

項目	基準		設定値	点検値	備考
2）非同時性の確認	非同時性動作に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11	2／3論理回路 A	良・否（ ）	良・否（ ）	
		2／3論理回路 B	良・否（ ）	良・否（ ）	
		2／3論理回路 C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		テスト回路	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12	2／3論理回路 A	良・否（ ）	良・否（ ）	
		2／3論理回路 B	良・否（ ）	良・否（ ）	
		2／3論理回路 C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		テスト回路	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．臨界警報動作の確認	臨界テスト動作に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP11	A，B	良・否（ ）	良・否（ ）	
		B，C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		C，A	良・否（ ）	良・否（ ）	
	HP12	A，B	良・否（ ）	良・否（ ）	
		B，C	良・否（ ）	良・否（ ）	
		C，A	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．回転灯断線	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
8．ＩＳＩＭ動作	正常に動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
9．測定モード確認	下記の通りであること		良・否（ ）	良・否（ ）	
	2/3論理回路　キースイッチ無し		良・否（ ）	良・否（ ）	
	警報発生ユニット　監視モード		良・否（ ）	良・否（ ）	
	キースイッチ無し		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAA01

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	臨界検出器（γ）（RD120）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと 異物の無いこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前の確認	通常時アナログ出力を測定（参考値）	(V)	(V)	
	^{137}Cs 照射時アナログ出力を測定（参考値）	(V)	(V)	
3．低圧電源部の確認	各測定値に異常の無いこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	出力電圧　15.0 (V)±0.5 (V) 以内	(V)	(V)	
	リップル　10 (mV^{P-P}) 以内	(mV^{PP})	(mV^{PP})	
4．高圧電源部の確認	各測定値に異常の無いこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	出力電圧　-950 (V)±100 (V) 以上	～　(V)	～　(V)	
	リップル　50 (mV^{P-P}) 以内	(mV^{PP})	(mV^{PP})	
5．直流増幅器の直線性確認	各測定値に異常の無いこと	良・否（　　）	良・否（　　）	トリップ設定値 MP　2.84(V) 1.74(mGy/h) Pu-con 2.69(V) 1.57(mGy/h) Pu燃　2.12(V) 0.87(mGy/h) CPF　3.99(V) 3.14(mGy/h)
	入力電流 0(μA) / 出力基準値 1.00(V)　±0.01 (V)	(V)	(V)	
	入力電流 -5(μA) / 出力基準値 2.00(V)　±0.01 (V)	(V)	(V)	
	入力電流 -10(μA) / 出力基準値 3.00(V)　±0.01 (V)	(V)	(V)	
	入力電流 -15(μA) / 出力基準値 4.00(V)　±0.01 (V)	(V)	(V)	
	入力電流 -20(μA) / 出力基準値 5.00(V)　±0.01 (V)	(V)	(V)	
	トリップ点　設定値±0.01 (V)以内	(V)	(V)	
6．γ線照射試験	各測定値に異常の無いこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	高圧設定値　4.35(mGy/h) 照射にて 4.6(V)出力になる設定	(V)	(V)	
	アナログ値　1.40(V) ±0.1(V)以内	(V)	(V)	
	0.87 (mGy/h) / 出力基準値 2.12(V)　±0.25 (V)	(V)	(V)	
	2.61 (mGy/h) / 出力基準値 3.56(V)　±0.25 (V)	(V)	(V)	
	4.35 (mGy/h) / 出力基準値 5.00(V)　±0.25 (V)	(V)	(V)	
	トリップ点　設定値±0.25 (V)以内	(V)	(V)	
	応答速度　500(msec) 以内	(msec)	(msec)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界検出器（γ） （RD120）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
7．高圧電源警報回路の動作確認	警報出力 正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
	高圧設定値-20(V)以内で動作のこと	(V)	(V)	
8．プローブチェック回路の確認	警報出力 正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
	飽和時間 5(msec) ±1(msec) 以内	(msec)	(msec)	

プローブ応答速度波形

写真張付

撮影条件

時間軸 (msec/div)

上段（臨界警報出力）
電圧軸 (V/div)

下段（センサー通過信号）
電圧軸 (V/div)

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAB01

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	臨界検出器（n） （RD624）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと コネクタのピンが正常であること		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源回路の確認	各測定値に異常の無いこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	+15V	15.0(V)±0.15(V) 以内	(V)	(V)	
		50(mV PP) 以内	(mV PP)	(mV PP)	
	−15V	-15.0(V)±0.15(V) 以内	(V)	(V)	
		50(mV PP) 以内	(mV PP)	(mV PP)	
	+6V	6.0 (V)±0.3 (V) 以内	(V)	(V)	
		5(mV PP) 以内	(mV PP)	(mV PP)	
3．前置増幅器の増幅度確認	測定値に異常のないこと（参考値）		良・否（　　）	良・否（　　）	
	増 幅 度	±　（倍）以内	(倍)	(倍)	
4．主増幅器の増幅度確認	各測定値に異常の無いこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	主増幅 通常時	16.0±0.5(倍) 以内	(V)	(V)	
	主増幅 チェック	55.0±2.0(倍) 以内	(V)	(V)	
5．波高弁別回路の確認	各測定値に異常の無いこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	波高弁別 設定値	-0.3±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	波高弁別 波高値	2.3±0.5 (V) 以内	(V)	(V)	
	波高弁別 パルス幅	±　(μs)以内	(μs)	(μs)	
6．デジタル積分回路の確認	積分回路の動作に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	設定値 5(c/5sec)±1(c/5sec) 以内		(c/5sec)	(c/5sec)	
7．ドライバー回路の確認	出力波形に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	パルス幅　3.0(ms)±0.5(ms) 以内		(ms)	(ms)	
8．測定系の確認 8.1 通常時	各測定値に異常の無いこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	波高値	±　(V) 以内	(V)	(V)	
	パルス幅	±　(μs)以内	(μs)	(μs)	
8.2 チェック時	各測定値に異常の無いこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	波高値	±　(V) 以内	(V)	(V)	
	パルス幅	±　(μs)以内	(μs)	(μs)	
	警報出力	動作に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ﾁｪｯｸ動作	動作に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	臨界検出器（n） （RD624）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
9．検出感度の確認	検出感度に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	計 数 値	(cpm)以上	(cpm)	(cpm)	
	B ・ G		(cpm)	(cpm)	
	検出感度	(cps/nV)以上	(cps/nV)	(cps/nV)	
	中性子束密度＝ $\frac{\text{中性子放出率}}{4\pi d^2}$ 感度(cps/nV)＝ $\frac{\text{計数値(cpm)} - \text{B・G値(cpm)}}{\text{中性子束密度 (n/cm}^2\text{・sec)}}$				

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAC01

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	2／3論理回路モジュール（RU724）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

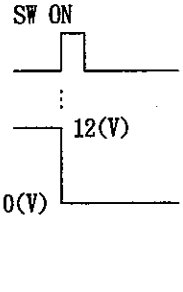
項　目	基　準		設 定 値	点 検 値	備　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと コネクタのピンが正常であること		良・否（　）	良・否（　）	
2．ランプテスト機能の確認	全ランプ，ＬＥＤが点灯すること		良・否（　）	良・否（　）	
3．低圧電源の確認	各測定値に異常の無いこと		良・否（　）	良・否（　）	
3.1 出力電圧の確認	12V	12.0(V)±0.5(V)以内	(V)	(V)	
		10(mV PP) 以内	(mV PP)	(mV PP)	
	5V	5.0(V)±0.2(V)以内	(V)	(V)	
		20(mV PP) 以内	(mV PP)	(mV PP)	
3.2 ＡＣ電圧変動時の測定	AC 90(V)入力	12.0(V)±0.5(V)以内	(V)	(V)	
	AC110(V)入力		(V)	(V)	
4．タイマ用クロック周波数の測定	クロック周波数に異常の無いこと		良・否（　）	良・否（　）	
	1000000(Hz)±250(Hz) 以内		(Hz)	(Hz)	
5．ロジック動作の確認	各動作に異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	
	動作の詳細は次頁の動作表を参照のこと	単独警報動作	良・否（　）	良・否（　）	
		非同時警報動作	良・否（　）	良・否（　）	
		同時警報動作	良・否（　）	良・否（　）	
6．リセット機能の確認	リセット動作に異常のないこと		良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAD01

検査名（回路試験）　　設置場所　　

機器名	テスト回路モジュール（RU725）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと コネクタのピンが正常であること			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ランプテスト機能の確認	全ランプが点灯すること			良・否（　　）	良・否（　　）	
3．低圧電源の確認	各測定値に異常の無いこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	5V	5.0(V)±0.5(V)以内		(V)	(V)	
		20(mV PP) 以内		(mV PP)	(mV PP)	
4．PFD 設定電圧の確認	各測定値に異常の無いこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	供給電源低	+11.4(V)±0.2(V)以内		(V)	(V)	
	出力電圧低	+4.75(V)±0.1(V)以内		(V)	(V)	
5．タイマ用クロック周波数の測定	クロック周波数に異常の無いこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	1000(Hz)±20(Hz)以内			(Hz)	(Hz)	
6．機能試験 6.1 プローブテスト	各動作に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	S1	J5 A-B	S1,S2,S3を各々押した時、左記コネクタ出力がHI→LOへ変化すること 	良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 C-D		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 E-F		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 H-J		良・否（　　）	良・否（　　）	
	S2	J5 K-L		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 M-N		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 P-R		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 S-T		良・否（　　）	良・否（　　）	
	S3	J5 U-V		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 W-X		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 Y-Z		良・否（　　）	良・否（　　）	
		J5 AA-BB		良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	テスト回路（RU725）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目				基準	設定値	点検値	備考
6.2 同時信号	各動作に異常のないこと				良・否（ ）	良・否（ ）	
	A	S1,S2	J4 K,L-C	同時テストスイッチを各々押した時、左記コネクタ出力がHI→LOへ変化すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2,S3	J4 L,M-C		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3,S1	J4 M,K-C		良・否（ ）	良・否（ ）	
	B	S1,S2	J4 K,L-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2,S3	J4 L,M-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3,S1	J4 M,K-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
	C	S1,S2	J4 K,L-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2,S3	J4 L,M-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3,S1	J4 M,K-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
	遅延時間			0.40(S)±0.05(S) 以内	(S)	(S)	
6.3 同時信号	各動作に異常のないこと				良・否（ ）	良・否（ ）	
	A	S1-S2	J4 K,L-C	非同時テストスイッチを各々押した時、左記コネクタ出力がHI→LOへ変化すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2-S3	J4 L,M-C		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3-S1	J4 M,K-C		良・否（ ）	良・否（ ）	
	B	S1-S2	J4 K,L-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2-S3	J4 L,M-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3-S1	J4 M,K-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
	C	S1-S2	J4 K,L-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S2-S3	J4 L,M-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
		S3-S1	J4 M,K-D		良・否（ ）	良・否（ ）	
	遅延時間			0.60(S)±0.05(S) 以内	(S)	(S)	
7. ブザー動作の確認	ブザーの吹鳴動作に異常のないこと（J4 A1-GND 間を短絡）				良・否（ ）	良・否（ ）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAE01

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	定電圧低圧電源 （RU726）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　目	基　準			設 定 値	点 検 値	備　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．設定電圧の確認	異常のないこと			(V)	(V)	
3．出力電圧の確認	各測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	無負荷時	+24.00±0.12(V) 以内		(V)	(V)	
	1(A)負荷時	無負荷時±12(mV)以内		(V)	(V)	
4．電源変動試験	各測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC 90(V)	無負荷時	出力変動率 ±0.1(%) 以内	(V)	(V)	
		1(A)負荷時		(V)	(V)	
	AC110(V)	無負荷時		(V)	(V)	
		1(A)負荷時		(V)	(V)	
5．リップルノイズ の測定	下記測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC90(V),1(A)負荷時　5(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
6．電圧の設定	「2．設定電圧の確認」±0.1(V)以内			(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAE02

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	定電圧低圧電源（RU727）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　目	基　準			設 定 値	点 検 値	備　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．設定電圧の確認	異常のないこと			(V)	(V)	
3．出力電圧の確認	各測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	無負荷時	+12.00±0.06(V) 以内		(V)	(V)	
	2(A)負荷時	無負荷時　　内		(V)	(V)	
4．電源変動試験	各測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC 90(V)	無負荷時	出力変動率 ±0.1(%) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時		(V)	(V)	
	AC110(V)	無負荷時		(V)	(V)	
		2(A)負荷時		(V)	(V)	
5．リップルノイズの測定	下記測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
6．電圧の設定	「2．設定電圧の確認」±0.1(V)以内			(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAF01

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	ビン電源 （D－591／E－502）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目		基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃		清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認		各測定値に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	+24V	無負荷時	+24.00±0.12(V) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時	無負荷時±12(mV)以内	(V)	(V)	
	−24V	無負荷時	-24.00±0.12(V) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時	無負荷時±12(mV)以内	(V)	(V)	
	+12V	無負荷時	+12.00±0.06(V) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時	無負荷時±6(mV) 以内	(V)	(V)	
	−12V	無負荷時	-12.00±0.06(V) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時	無負荷時±6(mV) 以内	(V)	(V)	
	+6V	無負荷時	+ 6.00±0.03(V) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時	無負荷時±3(mV) 以内	(V)	(V)	
	−6V	無負荷時	- 6.00±0.03(V) 以内	(V)	(V)	
		2(A)負荷時	無負荷時±3(mV) 以内	(V)	(V)	
3．電源変動試験		各測定値に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	+24V	AC 90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
		AC110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
	−24V	AC 90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
		AC110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
	+12V	AC 90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
		AC110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
	−12V	AC 90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
		AC110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
	+6V	AC 90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	
		AC110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
			2(A)負荷時	(V)	(V)	

（出力変動率 ±0.5(%) 以内）

点検整備記録書

機器名	ビン電源 （D－５９１／E－５０２）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目		基準			設定値	点検値	備考
	－６Ｖ	AC 90(V)	無負荷時	出力変動率 ±0.5(%) 以内	(V)	(V)	
			2(A)負荷時		(V)	(V)	
		AC110(V)	無負荷時		(V)	(V)	
			2(A)負荷時		(V)	(V)	
4．ﾘｯﾌﾟﾙﾉｲｽﾞ測定		下記測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	＋24Ｖ	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
	－24Ｖ	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
	＋12Ｖ	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
	－12Ｖ	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
	＋６Ｖ	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
	－６Ｖ	AC90(V),2(A)負荷時　3(mV_{PP}) 以内			(mV_{PP})	(mV_{PP})	
5．絶縁抵抗測定		下記測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
		ACライン～接地間　100(MΩ) 以上			(MΩ)	(MΩ)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAG01

検査名（回路試験）　　設置場所　　1／1

機器名	低圧電源ユニット（RU819）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．設定電圧の確認	異常のないこと	(V)	(V)	
3．出力電圧の確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	無負荷時 +24.00±0.36(V) 以内	(V)	(V)	
	6(A)負荷時 +24.00±0.36(V) 以内	(V)	(V)	
4．電源変動試験	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC 90(V) 無負荷時 出力変動率 ±0.5(%) 以内	(V)	(V)	
	AC 90(V) 6(A)負荷時 出力変動率 ±0.5(%) 以内	(V)	(V)	
	AC110(V) 無負荷時 出力変動率 ±0.5(%) 以内	(V)	(V)	
	AC110(V) 6(A)負荷時 出力変動率 ±0.5(%) 以内	(V)	(V)	
5．リップルノイズの測定	下記測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC90(V),6(A)負荷時450(mV_{PP}) 以内	(mV_{PP})	(mV_{PP})	
6．電源モニタ回路の確認	下記測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	上限設定値 26.4(V) ±0.1(V)以内	(V)	(V)	
	下限設定値 21.6(V) ±0.1(V)以内	(V)	(V)	
7．絶縁抵抗測定	下記測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ACライン～接地間 100(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
8．電圧の設定	「2．設定電圧の確認」±0.1(V)以内	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAG02

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	低圧電源ユニット（RU821）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準			設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	各測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	無負荷時	+24.00±0.36(V) 以内		(V)	(V)	
	2.5(A)負荷			(V)	(V)	
3．電源変動試験	各測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC 90(V)	無負荷時	出力変動率 ±0.5(%) 以内	(V)	(V)	
		2.5(A)負荷		(V)	(V)	
	AC110(V)	無負荷時		(V)	(V)	
		2.5(A)負荷		(V)	(V)	
4．リップルノイズの測定	下記測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	AC90(V),2.5(A)負荷 0.1(V_{PP}) 以内			(V_{PP})	(V_{PP})	
5．絶縁抵抗測定	下記測定値に異常のないこと			良・否（　　）	良・否（　　）	
	ACライン～接地間	100(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAH01

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	補助ユニット （RU612，B，C，D）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ランプテスト機能の確認	全てのランプが点灯，点滅すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．機能試験	以下の項目が正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1）テスト回路による動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2）臨界警報動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	3）回転灯断線チェック動作の確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	4）ＩＳＩＭによる動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	5）バイパス機能試験	良・否（　　）	良・否（　　）	
	6）機能モニタ動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	7）警報吹鳴試験	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAI01

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	警報発生ユニット （RU613，A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ランプテスト機能の確認	全てのランプが点灯，点滅すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．機能試験	以下の項目が正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1）テスト回路による動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2）臨界警報動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	3）回転灯断線チェック動作の確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	4）ＩＳＩＭによる動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	5）回転灯テスト機能試験	良・否（　　）	良・否（　　）	
	6）スピーカテスト機能試験	良・否（　　）	良・否（　　）	
	7）機能モニタ動作確認	良・否（　　）	良・否（　　）	
	8）警報吹鳴試験	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAJ01

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	音声発生リレーユニット（RU621）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源電圧の確認	下記測定値に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	出力電圧	+5.0±0.2(V)以内	(V)	(V)	
	表示パネル	ポイント表示点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．放送起動の確認	下記動作に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	表示パネル	(1),(・) 繰り返し表示	良・否（　　）	良・否（　　）	
	音声出力	「リンカイケイホウ」	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．出力レベル確認					
4.1 出力波高測定	下記測定値に異常のないこと		良・否（　　）	良・否（　　）	
	MIN	0.24±0.10(V_{PP}) 以内	(V)	(V)	
	MAX	1.00±0.10(V_{PP}) 以内	(V)	(V)	
4.2 出力レベル	出力可変動作が正常であること		良・否（　　）	良・否（　　）	
5．放送設備起動信号の確認	放送設備起動信号用の接点が正常に動作（ON，OFF）すること		良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	14LAK01

検査名（回路試験）　　設置場所

機 器 名	アイソレータ（TOSMAC357）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　目	基　準					設 定 値	点 検 値	備　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと					良・否（　）	良・否（　）	
2．入出力直線性の確認	直線性に異常のないこと					良・否（　）	良・否（　）	
	A	入力電圧値	1(V)	出力基準値	1.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			2(V)		2.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			3(V)		3.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			4(V)		4.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			5(V)		5.00±0.01(V)	(V)	(V)	
	直線性に異常のないこと					良・否（　）	良・否（　）	
	B	入力電圧値	1(V)	出力基準値	1.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			2(V)		2.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			3(V)		3.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			4(V)		4.00±0.01(V)	(V)	(V)	
			5(V)		5.00±0.01(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAL01

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ホーンブロア（RU617）	承認		年月日	
対象施設	再処理工場	調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考	Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
HB 1	良・否（　）	（Ω）					
HB 2	良・否（　）	（Ω）					
HB 3	良・否（　）	（Ω）					
HB 4	良・否（　）	（Ω）					
HB 5	良・否（　）	（Ω）					
HB 6	良・否（　）	（Ω）					
HB 7	良・否（　）	（Ω）					
HB 8	良・否（　）	（Ω）					
HB 9	良・否（　）	（Ω）					
HB 10	良・否（　）	（Ω）					
HB 11	良・否（　）	（Ω）					
HB 12	良・否（　）	（Ω）					
HB 13	良・否（　）	（Ω）					
HB 14	良・否（　）	（Ω）					
HB 15	良・否（　）	（Ω）					
HB 16	良・否（　）	（Ω）					
HB 17	良・否（　）	（Ω）					
HB 18	良・否（　）	（Ω）					

※並列接続部分

(1) HB7，17

(2) HB12，18

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAM01

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	FLB／WFLB （RU618／RU672）	承認		年月日	
対象施設	再処理工場	調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考	Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
FLB 1	良・否（　）	（Ω）		FLB42	良・否（　）	（Ω）	
FLB 2	良・否（　）	（Ω）		FLB43	良・否（　）	（Ω）	
FLB 3	良・否（　）	（Ω）		FLB44	良・否（　）	（Ω）	
FLB 4	良・否（　）	（Ω）		FLB45	良・否（　）	（Ω）	
FLB 5	良・否（　）	（Ω）		FLB46	良・否（　）	（Ω）	
FLB 6	良・否（　）	（Ω）		FLB47	良・否（　）	（Ω）	
FLB 7	良・否（　）	（Ω）		FLB48	良・否（　）	（Ω）	
FLB 8	良・否（　）	（Ω）		FLB49	良・否（　）	（Ω）	
FLB 9	良・否（　）	（Ω）		FLB50	良・否（　）	（Ω）	
FLB10	良・否（　）	（Ω）		FLB51	良・否（　）	（Ω）	
FLB11	良・否（　）	（Ω）		FLB52	良・否（　）	（Ω）	
FLB12	良・否（　）	（Ω）		FLB53	良・否（　）	（Ω）	
FLB13	良・否（　）	（Ω）		FLB54	良・否（　）	（Ω）	
FLB14	良・否（　）	（Ω）		FLB55	良・否（　）	（Ω）	
FLB15	良・否（　）	（Ω）		FLB56	良・否（　）	（Ω）	
FLB16	良・否（　）	（Ω）		WFLB1	良・否（　）	（Ω）	
FLB17	良・否（　）	（Ω）		WFLB2	良・否（　）	（Ω）	
FLB18	良・否（　）	（Ω）		WFLB3	良・否（　）	（Ω）	
FLB19	良・否（　）	（Ω）		WFLB4	良・否（　）	（Ω）	
FLB20	良・否（　）	（Ω）		WFLB5	良・否（　）	（Ω）	
FLB21	良・否（　）	（Ω）		WFLB6	良・否（　）	（Ω）	
FLB22	良・否（　）	（Ω）		WFLB7	良・否（　）	（Ω）	
FLB23	良・否（　）	（Ω）		WFLB8	良・否（　）	（Ω）	
FLB24	良・否（　）	（Ω）		WFLB9	良・否（　）	（Ω）	
FLB25	良・否（　）	（Ω）					
FLB26	良・否（　）	（Ω）					
FLB27	良・否（　）	（Ω）					
FLB28	良・否（　）	（Ω）					
FLB29	良・否（　）	（Ω）					
FLB30	良・否（　）	（Ω）					
FLB31	良・否（　）	（Ω）					
FLB32	良・否（　）	（Ω）					
FLB33	良・否（　）	（Ω）					
FLB34	良・否（　）	（Ω）					
FLB35	良・否（　）	（Ω）					
FLB36	良・否（　）	（Ω）					
FLB37	良・否（　）	（Ω）					
FLB38	良・否（　）	（Ω）					
FLB39	良・否（　）	（Ω）					
FLB40	良・否（　）	（Ω）					
FLB41	良・否（　）	（Ω）					

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAL02

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ホーンブロア（RU617，RU617A）	承認		年月日	
対象施設		調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
HB 1	良・否（ ）	（Ω）	
HB 2	良・否（ ）	（Ω）	
HB 3	良・否（ ）	（Ω）	
HB 4	良・否（ ）	（Ω）	
HB 5	良・否（ ）	（Ω）	
HB 6	良・否（ ）	（Ω）	
HB 7	良・否（ ）	（Ω）	
HB 8	良・否（ ）	（Ω）	
HB 9	良・否（ ）	（Ω）	
HB 10	良・否（ ）	（Ω）	
HB 11	良・否（ ）	（Ω）	
HB 12	良・否（ ）	（Ω）	
HB 13	良・否（ ）	（Ω）	
HB 14	良・否（ ）	（Ω）	
HB 15	良・否（ ）	（Ω）	
HB 16	良・否（ ）	（Ω）	
HB 17	良・否（ ）	（Ω）	
HB 18	良・否（ ）	（Ω）	
HB 19	良・否（ ）	（Ω）	
HB 20	良・否（ ）	（Ω）	
HB 21	良・否（ ）	（Ω）	
HB 22	良・否（ ）	（Ω）	
HB 23	良・否（ ）	（Ω）	
HB 24	良・否（ ）	（Ω）	
HB 25	良・否（ ）	（Ω）	
HB 26	良・否（ ）	（Ω）	
HB 27	良・否（ ）	（Ω）	
HB 28	良・否（ ）	（Ω）	
HB 29	良・否（ ）	（Ω）	
HB 30	良・否（ ）	（Ω）	
HB 31	良・否（ ）	（Ω）	
HB 32	良・否（ ）	（Ω）	
HB 33	良・否（ ）	（Ω）	
HB 34	良・否（ ）	（Ω）	
HB 35	良・否（ ）	（Ω）	
HB 36	良・否（ ）	（Ω）	
HB 37	良・否（ ）	（Ω）	
HB 38	良・否（ ）	（Ω）	
HB 39	良・否（ ）	（Ω）	
HB 40	良・否（ ）	（Ω）	
HB 41	良・否（ ）	（Ω）	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
HB 42	良・否（ ）	（Ω）	
HB 43	良・否（ ）	（Ω）	
HB 44	良・否（ ）	（Ω）	
HB 45	良・否（ ）	（Ω）	
HB 46	良・否（ ）	（Ω）	
HB 47	良・否（ ）	（Ω）	
HB 48	良・否（ ）	（Ω）	
HB 49	良・否（ ）	（Ω）	
HB 50	良・否（ ）	（Ω）	
HB 51	良・否（ ）	（Ω）	
HB 52	良・否（ ）	（Ω）	

※並列接続部分

(1) HB 1，3，5，7，10，12
(2) HB 13，16，19，24，25，29，32，35
(3) HB 15，18，21，22，26，28，31，36
(4) HB 37，41，44，46，51
(5) HB 2，4，6，8，9，11
(6) HB 14，17，20，23，27，30，33，34
(7) HB 38，40，43，49，52
(8) HB 39，42，45，47，48，50

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAM02

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	FLB／WFLB （RU618／RU672）	承認		年月日	・ ・
対象施設		調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考	Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
FLB 1	良・否（　）	（Ω）					
FLB 2	良・否（　）	（Ω）					
FLB 3	良・否（　）	（Ω）					
FLB 4	良・否（　）	（Ω）					
FLB 5	良・否（　）	（Ω）					
FLB 6	良・否（　）	（Ω）					
FLB 7	良・否（　）	（Ω）					
FLB 8	良・否（　）	（Ω）					
FLB 9	良・否（　）	（Ω）					
FLB10	良・否（　）	（Ω）					
FLB11	良・否（　）	（Ω）					
FLB12	良・否（　）	（Ω）					
FLB13	良・否（　）	（Ω）					
FLB14	良・否（　）	（Ω）					
FLB15	良・否（　）	（Ω）					
FLB16	良・否（　）	（Ω）					
FLB17	良・否（　）	（Ω）					
FLB18	良・否（　）	（Ω）					
FLB19	良・否（　）	（Ω）					
FLB20	良・否（　）	（Ω）					
FLB21	良・否（　）	（Ω）					
FLB22	良・否（　）	（Ω）					
FLB23	良・否（　）	（Ω）					
FLB24	良・否（　）	（Ω）					
FLB25	良・否（　）	（Ω）					
FLB26	良・否（　）	（Ω）					
FLB27	良・否（　）	（Ω）					
FLB28	良・否（　）	（Ω）					
FLB29	良・否（　）	（Ω）					
FLB30	良・否（　）	（Ω）					
FLB31	良・否（　）	（Ω）					
FLB32	良・否（　）	（Ω）					
FLB33	良・否（　）	（Ω）					
FLB34	良・否（　）	（Ω）					
FLB35	良・否（　）	（Ω）					
FLB36	良・否（　）	（Ω）					
FLB37	良・否（　）	（Ω）					
FLB38	良・否（　）	（Ω）					
FLB39	良・否（　）	（Ω）					
FLB40	良・否（　）	（Ω）					

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAL03

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ホーンプロア，FLB／WFLB（RU617，RU618／RU672）	承認		年月日	
対象施設	CPF施設	調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考	Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
FLB 1	良・否（　）	（Ω）					
FLB 2	良・否（　）	（Ω）					
FLB 3	良・否（　）	（Ω）					
FLB 4	良・否（　）	（Ω）					
FLB 5	良・否（　）	（Ω）					
FLB 6	良・否（　）	（Ω）					
FLB 7	良・否（　）	（Ω）					
FLB 8	良・否（　）	（Ω）					
FLB 9	良・否（　）	（Ω）					
FLB10	良・否（　）	（Ω）					
FLB11	良・否（　）	（Ω）					
FLB12	良・否（　）	（Ω）					
FLB13	良・否（　）	（Ω）					
FLB14	良・否（　）	（Ω）					
FLB15	良・否（　）	（Ω）					
FLB16	良・否（　）	（Ω）					
FLB17	良・否（　）	（Ω）					
FLB18	良・否（　）	（Ω）					
FLB19	良・否（　）	（Ω）					
HB 1	良・否（　）	（Ω）					
HB 2	良・否（　）	（Ω）					
HB 3	良・否（　）	（Ω）					
HB 4	良・否（　）	（Ω）					
HB 5	良・否（　）	（Ω）					
HB 6	良・否（　）	（Ω）					
HB 7	良・否（　）	（Ω）					
HB 8	良・否（　）	（Ω）					
HB 9	良・否（　）	（Ω）					
HB 10	良・否（　）	（Ω）					

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAL04

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ホーンプロア，FLB／WFLB （RU617，RU618／RU672）	承認		年月日	
対象施設	Pu燃料第一、第二開発室	調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
1HB 1	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 2	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 3	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 4	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 5	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 6	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 7	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 8	良・否（ ）	（Ω）	
1HB 9	良・否（ ）	（Ω）	
1HB10	良・否（ ）	（Ω）	
1HB11	良・否（ ）	（Ω）	
1HB12	良・否（ ）	（Ω）	
1HB13	良・否（ ）	（Ω）	
1HB14	良・否（ ）	（Ω）	
1HB15	良・否（ ）	（Ω）	
1HB16	良・否（ ）	（Ω）	
1HB17	良・否（ ）	（Ω）	
1HB18	良・否（ ）	（Ω）	
1HB19	良・否（ ）	（Ω）	
1HB20	良・否（ ）	（Ω）	
1HB21	良・否（ ）	（Ω）	
1HB22	良・否（ ）	（Ω）	
1HB23	良・否（ ）	（Ω）	
1HB24	良・否（ ）	（Ω）	
1HB25	良・否（ ）	（Ω）	
1HB26	良・否（ ）	（Ω）	
1HB27	良・否（ ）	（Ω）	
1HB28	良・否（ ）	（Ω）	
1HB29	良・否（ ）	（Ω）	
1HB30	良・否（ ）	（Ω）	
1HB31	良・否（ ）	（Ω）	
1HB32	良・否（ ）	（Ω）	
1HB33	良・否（ ）	（Ω）	
1HB34	良・否（ ）	（Ω）	
1HB35	良・否（ ）	（Ω）	
1HB36	良・否（ ）	（Ω）	
1HB37	良・否（ ）	（Ω）	
1HB38	良・否（ ）	（Ω）	
1HB39	良・否（ ）	（Ω）	
1HB40	良・否（ ）	（Ω）	
1HB41	良・否（ ）	（Ω）	
1HB42	良・否（ ）	（Ω）	
1HB43	良・否（ ）	（Ω）	
1HB44	良・否（ ）	（Ω）	
1HB45	良・否（ ）	（Ω）	
1HB46	良・否（ ）	（Ω）	
1HB47	良・否（ ）	（Ω）	
1HB48	良・否（ ）	（Ω）	
1HB49	良・否（ ）	（Ω）	
1HB50	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 1	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 2	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 3	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 4	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 5	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 6	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 7	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 8	良・否（ ）	（Ω）	
2HB 9	良・否（ ）	（Ω）	
2HB10	良・否（ ）	（Ω）	
2HB11	良・否（ ）	（Ω）	
2HB12	良・否（ ）	（Ω）	
2HB13	良・否（ ）	（Ω）	
2HB14	良・否（ ）	（Ω）	
2HB15	良・否（ ）	（Ω）	
2HB16	良・否（ ）	（Ω）	
2HB17	良・否（ ）	（Ω）	
2HB18	良・否（ ）	（Ω）	
2HB19	良・否（ ）	（Ω）	
2HB20	良・否（ ）	（Ω）	
2HB21	良・否（ ）	（Ω）	
2HB22	良・否（ ）	（Ω）	
2HB23	良・否（ ）	（Ω）	
2HB24	良・否（ ）	（Ω）	
2HB25	良・否（ ）	（Ω）	
2HB26	良・否（ ）	（Ω）	
2HB27	良・否（ ）	（Ω）	
2HB28	良・否（ ）	（Ω）	
2HB29	良・否（ ）	（Ω）	
2HB30	良・否（ ）	（Ω）	
2HB31	良・否（ ）	（Ω）	
2HB32	良・否（ ）	（Ω）	

点検整備記録書

機器名	ホーンブロア，FLB／WFLB （RU617，RU618／RU672）	対象施設	Pu燃料第一、第二開発室

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
2HB33	良・否（　）	（Ω）	
2HB34	良・否（　）	（Ω）	
2HB35	良・否（　）	（Ω）	
2HB36	良・否（　）	（Ω）	
2HB37	良・否（　）	（Ω）	
2HB38	良・否（　）	（Ω）	
2HB39	良・否（　）	（Ω）	
2HB40	良・否（　）	（Ω）	
2HB41	良・否（　）	（Ω）	
2HB42	良・否（　）	（Ω）	
2HB43	良・否（　）	（Ω）	
2HB44	良・否（　）	（Ω）	
2HB45	良・否（　）	（Ω）	
2HB46	良・否（　）	（Ω）	
2HB47	良・否（　）	（Ω）	
2HB48	良・否（　）	（Ω）	
2HB49	良・否（　）	（Ω）	
2HB50	良・否（　）	（Ω）	
2HB51	良・否（　）	（Ω）	
2HB52	良・否（　）	（Ω）	
2HB53	良・否（　）	（Ω）	
2HB54	良・否（　）	（Ω）	
2HB55	良・否（　）	（Ω）	
2HB56	良・否（　）	（Ω）	
2HB57	良・否（　）	（Ω）	
2HB58	良・否（　）	（Ω）	
2HB59	良・否（　）	（Ω）	
2HB60	良・否（　）	（Ω）	
MHB 1	良・否（　）	（Ω）	
MHB 2	良・否（　）	（Ω）	
MHB 3	良・否（　）	（Ω）	
MHB 4	良・否（　）	（Ω）	
FLB 1	良・否（　）	（Ω）	
FLB 2	良・否（　）	（Ω）	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考

※並列接続部分

(1) 1HB 2，9，14，17，38，40，49
(2) 1HB 5，7，19，22，30，34，35
(3) 1HB 3，4，29，39，50
(4) 1HB 6，27，28，31，32，33，36
(5) 1HB 26，37
(6) 1HB 10，11，12，15，20，23，25
(7) 1HB 1，8，13，16，18，21，24
(8) 1HB 41，42，44，2HB 59，MHB 3
(9) 2HB 4，19，35，37，41，43，51，60
(10) 1HB 43，45，46，2HB 23，25，27，28，39
(11) 2HB 12，32，33，46，49，52，55，57
(12) 2HB 2，6，24，26，29，30，40，MHB 4
(13) 2HB 22，50，58
(14) 1HB 48，2HB 3，5，9，13，16，31，38
(15) 2HB 20，42，44，45，47，48，53，56
(16) 2HB 1，10，14，15，17，18，34，36
(17) 1HB 47，2HB 7，8，11 21 54
MHB 1，2

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LAL05

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ホーンブロア，FLB／WFLB （RU617，RU618／RU672）	承認		年月日	
対象施設	Pu燃料第三開発室	調査		点検者名	

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考	Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
HB 1	良・否（ ）	（Ω）		HB 42	良・否（ ）	（Ω）	
HB 2	良・否（ ）	（Ω）		HB 43	良・否（ ）	（Ω）	
HB 3	良・否（ ）	（Ω）		HB 44	良・否（ ）	（Ω）	
HB 4	良・否（ ）	（Ω）		HB 45	良・否（ ）	（Ω）	
HB 5	良・否（ ）	（Ω）		HB 46	良・否（ ）	（Ω）	
HB 6	良・否（ ）	（Ω）		HB 47	良・否（ ）	（Ω）	
HB 7	良・否（ ）	（Ω）		HB 48	良・否（ ）	（Ω）	
HB 8	良・否（ ）	（Ω）		HB 49	良・否（ ）	（Ω）	
HB 9	良・否（ ）	（Ω）		HB 50	良・否（ ）	（Ω）	
HB 10	良・否（ ）	（Ω）		HB 51	良・否（ ）	（Ω）	
HB 11	良・否（ ）	（Ω）		HB 52	良・否（ ）	（Ω）	
HB 12	良・否（ ）	（Ω）		HB 53	良・否（ ）	（Ω）	
HB 13	良・否（ ）	（Ω）		HB 54	良・否（ ）	（Ω）	
HB 14	良・否（ ）	（Ω）		HB 55	良・否（ ）	（Ω）	
HB 15	良・否（ ）	（Ω）		HB 56	良・否（ ）	（Ω）	
HB 16	良・否（ ）	（Ω）		HB 57	良・否（ ）	（Ω）	
HB 17	良・否（ ）	（Ω）		HB 58	良・否（ ）	（Ω）	
HB 18	良・否（ ）	（Ω）		HB 59	良・否（ ）	（Ω）	
HB 19	良・否（ ）	（Ω）		HB 60	良・否（ ）	（Ω）	
HB 20	良・否（ ）	（Ω）		HB 61	良・否（ ）	（Ω）	
HB 21	良・否（ ）	（Ω）		HB 62	良・否（ ）	（Ω）	
HB 22	良・否（ ）	（Ω）		HB 63	良・否（ ）	（Ω）	
HB 23	良・否（ ）	（Ω）		HB 64	良・否（ ）	（Ω）	
HB 24	良・否（ ）	（Ω）		HB 65	良・否（ ）	（Ω）	
HB 25	良・否（ ）	（Ω）		HB 66	良・否（ ）	（Ω）	
HB 26	良・否（ ）	（Ω）		HB 67	良・否（ ）	（Ω）	
HB 27	良・否（ ）	（Ω）		HB 68	良・否（ ）	（Ω）	
HB 28	良・否（ ）	（Ω）		HB 69	良・否（ ）	（Ω）	
HB 29	良・否（ ）	（Ω）		HB 70	良・否（ ）	（Ω）	
HB 30	良・否（ ）	（Ω）		HB 71	良・否（ ）	（Ω）	
HB 31	良・否（ ）	（Ω）		HB 72	良・否（ ）	（Ω）	
HB 32	良・否（ ）	（Ω）		HB 73	良・否（ ）	（Ω）	
HB 33	良・否（ ）	（Ω）		HB 74	良・否（ ）	（Ω）	
HB 34	良・否（ ）	（Ω）		HB 75	良・否（ ）	（Ω）	
HB 35	良・否（ ）	（Ω）		HB 76	良・否（ ）	（Ω）	
HB 36	良・否（ ）	（Ω）		HB 77	良・否（ ）	（Ω）	
HB 37	良・否（ ）	（Ω）		HB 78	良・否（ ）	（Ω）	
HB 38	良・否（ ）	（Ω）		HB 79	良・否（ ）	（Ω）	
HB 39	良・否（ ）	（Ω）		HB 80	良・否（ ）	（Ω）	
HB 40	良・否（ ）	（Ω）		HB 81	良・否（ ）	（Ω）	
HB 41	良・否（ ）	（Ω）		HB 82	良・否（ ）	（Ω）	

点検整備記録書

機器名	ホーンプロア，FLB／WFLB （RU617，RU618／RU672）	対象施設	Pu燃料第三開発室

Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考	Tag. No.	点検・清掃	抵抗値の測定	備考
HB 83	良・否（ ）	（Ω）		HB128	良・否（ ）	（Ω）	
HB 84	良・否（ ）	（Ω）		HB129	良・否（ ）	（Ω）	
HB 85	良・否（ ）	（Ω）		HB130	良・否（ ）	（Ω）	
HB 86	良・否（ ）	（Ω）		HB131	良・否（ ）	（Ω）	
HB 87	良・否（ ）	（Ω）		HB132	良・否（ ）	（Ω）	
HB 88	良・否（ ）	（Ω）		HB133	良・否（ ）	（Ω）	
HB 89	良・否（ ）	（Ω）		HB134	良・否（ ）	（Ω）	
HB 90	良・否（ ）	（Ω）		HB135	良・否（ ）	（Ω）	
HB 91	良・否（ ）	（Ω）		HB136	良・否（ ）	（Ω）	
HB 92	良・否（ ）	（Ω）		HB137	良・否（ ）	（Ω）	
HB 93	良・否（ ）	（Ω）		HB138	良・否（ ）	（Ω）	
HB 94	良・否（ ）	（Ω）		HB139	良・否（ ）	（Ω）	
HB 95	良・否（ ）	（Ω）		HB140	良・否（ ）	（Ω）	
HB 96	良・否（ ）	（Ω）		HB141	良・否（ ）	（Ω）	
HB 97	良・否（ ）	（Ω）		HB142	良・否（ ）	（Ω）	
HB 98	良・否（ ）	（Ω）		HB143	良・否（ ）	（Ω）	
HB 99	良・否（ ）	（Ω）		HB144	良・否（ ）	（Ω）	
HB100	良・否（ ）	（Ω）		HB145	良・否（ ）	（Ω）	
HB101	良・否（ ）	（Ω）		HB146	良・否（ ）	（Ω）	
HB102	良・否（ ）	（Ω）		HB147	良・否（ ）	（Ω）	
HB103	良・否（ ）	（Ω）		HB148	良・否（ ）	（Ω）	
HB104	良・否（ ）	（Ω）		HB149	良・否（ ）	（Ω）	
HB105	良・否（ ）	（Ω）		HB150	良・否（ ）	（Ω）	
HB106	良・否（ ）	（Ω）		HB151	良・否（ ）	（Ω）	
HB107	良・否（ ）	（Ω）		HB152	良・否（ ）	（Ω）	
HB108	良・否（ ）	（Ω）		HB153	良・否（ ）	（Ω）	
HB109	良・否（ ）	（Ω）		HB154	良・否（ ）	（Ω）	
HB110	良・否（ ）	（Ω）		HB155	良・否（ ）	（Ω）	
HB111	良・否（ ）	（Ω）		HB156	良・否（ ）	（Ω）	
HB112	良・否（ ）	（Ω）		HB157	良・否（ ）	（Ω）	
HB113	良・否（ ）	（Ω）		HB158	良・否（ ）	（Ω）	
HB114	良・否（ ）	（Ω）		HB159	良・否（ ）	（Ω）	
HB115	良・否（ ）	（Ω）		HB160	良・否（ ）	（Ω）	
HB116	良・否（ ）	（Ω）		HB161	良・否（ ）	（Ω）	
HB117	良・否（ ）	（Ω）		HB162	良・否（ ）	（Ω）	
HB118	良・否（ ）	（Ω）		HB163	良・否（ ）	（Ω）	
HB119	良・否（ ）	（Ω）		HB164	良・否（ ）	（Ω）	
HB120	良・否（ ）	（Ω）		HB165	良・否（ ）	（Ω）	
HB121	良・否（ ）	（Ω）		HB166	良・否（ ）	（Ω）	
HB122	良・否（ ）	（Ω）		HB167	良・否（ ）	（Ω）	
HB123	良・否（ ）	（Ω）		FLB 1	良・否（ ）	（Ω）	
HB124	良・否（ ）	（Ω）					
HB125	良・否（ ）	（Ω）					
HB126	良・否（ ）	（Ω）					
HB127	良・否（ ）	（Ω）					

※並列接続部分

(1) HB162，164

(2) HB163，165

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	１４ＬＡＮ０１

検査名　　設置場所　　

機　器　名	警報音発生装置	承認		年 月 日	
機　器　№	ＴＡＧ．№ ＳＥＲ．№	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源部(PSC-031)				
2.1 DC出力電圧の確認	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	－7.00(V)±1.00(V) 以内 1系統	(V)	(V)	
	－7.00(V)±1.00(V) 以内 2系統	(V)	(V)	
	＋7.00(V)±1.00(V) 以内 1系統	(V)	(V)	
	＋7.00(V)±1.00(V) 以内 2系統	(V)	(V)	
	-14.00(V)±1.00(V) 以内 1系統	(V)	(V)	
	-14.00(V)±1.00(V) 以内 2系統	(V)	(V)	
	+14.00(V)±1.00(V) 以内 1系統	(V)	(V)	
	+14.00(V)±1.00(V) 以内 2系統	(V)	(V)	
	+26.00(V)±1.00(V) 以内 1系統	(V)	(V)	
	+26.00(V)±1.00(V) 以内 2系統	(V)	(V)	
	電源ランプが正常に点灯すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 電源異常検出基板(PSA)	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
1）設定値の確認	1系統 PSA-1 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	1系統 PSA-1 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	1系統 PSA-2 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	1系統 PSA-2 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	1系統 PSA-3 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	1系統 PSA-3 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	1系統 PSA-4 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	1系統 PSA-4 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	1系統 PSA-5 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	1系統 PSA-5 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	2系統 PSA-1 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	2系統 PSA-1 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	2系統 PSA-2 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	2系統 PSA-2 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	2系統 PSA-3 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	2系統 PSA-3 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	2系統 PSA-4 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	2系統 PSA-4 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	
	2系統 PSA-5 1.9(V)±0.05(V) L	(V)	(V)	
	2系統 PSA-5 2.1(V)±0.05(V) H	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	警報音発生装置	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
2）異常表示ランプの確認	通常時「正常」ＬＥＤ点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1.9(V)以下時「L」ＬＥＤ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2.1(V)以上時「H」ＬＥＤ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）テストスイッチによる確認	DC出力テストスイッチを押したとき対応する「L」ＬＥＤ点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4）ヒューズ断による確認	断線ヒューズ挿入にて対応するPSAの「L」ＬＥＤ点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	電源ユニット部「ヒューズ断」点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.3 電源異常出力基板(PSO)	各電源電圧異常時EAC-031 及びRYP-031 の異常表示が点灯すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．異常警報音出力／電源部	各測定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.1 DC出力電圧の確認	－５Ｖ　-5.00(V) ±0.20(V) 以内	(V)	(V)	
	＋５Ｖ　+5.00(V) ±0.20(V) 以内	(V)	(V)	
	－12Ｖ　-12.00(V) ±0.20(V) 以内	(V)	(V)	
	＋12Ｖ　+12.00(V) ±0.20(V) 以内	(V)	(V)	
	＋24Ｖ　+24.00(V) ±0.20(V) 以内	(V)	(V)	
	電源ランプが正常に点灯すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 異常警報制御基板(EAC)	各項目毎に正常動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1－ＯＳＣ　10-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1－ＯＳＣ　10-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2－ＯＳＣ　11-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2－ＯＳＣ　11-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－ＰＡ　12-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－ＰＡ　12-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－ＰＡ　13-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－ＰＡ　13-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	２－ＰＡ　14-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	２－ＰＡ　14-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－SYNC　15-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－SYNC　15-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	２－SYNC　16-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	２－SYNC　16-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＳＰ異常　17-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＳＰ異常　17-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	短絡　18-48 間　短絡時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	短絡　18-48 間　開放時動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	１－電源　PSC-031 1系統目のDC出力テストスイッチにて確認する。	良・否（　　）	良・否（　　）	
		良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	2 － 電 源	PSC-031 2系統目のDC出力テストスイッチにて確認する。	良・否（ ）	良・否（ ）	
			良・否（ ）	良・否（ ）	
	AUX電源	21-48 間 短絡時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
		21-48 間 開放時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1－リレー	22-48 間 短絡時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
		22-48 間 開放時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2－リレー	23-48 間 短絡時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
		23-48 間 開放時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
	切替リレー	24-48 間 短絡時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
		24-48 間 開放時動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
3.3 異常警報制御基板(ESO)	周波数測定値に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
1）周波数測定	パルス波高	約＋12Vであること	（V）	（V）	
	パ ル ス 幅	約0.36msecであること	（msec）	（msec）	
	パルス周期	約 1.0msecであること	（msec）	（msec）	
2）出力電圧の確認	出力電圧測定値に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	パルス波高	約2 V_{P-P} であること	（V）	（V）	
4．パワーアンプ異常検出部	周波数測定値に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
4.1 同期信号発振基板(SYA)	1系統TP-1	パルス波高	約+12Vであること	（V）	（V）	
1）周波数測定		パ ル ス 幅	約41μsecであること	（μsec）	（μsec）	Pu-1,2のみ 約160 μsec
		パルス周期	約83μsecであること	（μsec）	（μsec）	約263 μsec
	1系統TP-2	パルス波高	約+12Vであること	（V）	（V）	
		パ ル ス 幅	約 5msecであること	（msec）	（msec）	Pu-1,2のみ 約16msec
		パルス周期	約10msecであること	（msec）	（msec）	約33msec
	2系統TP-1	パルス波高	約+12Vであること	（V）	（V）	
		パ ル ス 幅	約41μsecであること	（μsec）	（μsec）	Pu-1,2のみ 約160 μsec
		パルス周期	約83μsecであること	（μsec）	（μsec）	約263 μsec

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準			設 定 値	点 検 値	備 考
	2系統TP-2	パルス波高	約+12Vであること	(V)	(V)	
		パルス幅	約 5msec であること	(msec)	(msec)	Pu-1,2のみ 約16msec 約33msec
		パルス周期	約10msec であること	(msec)	(msec)	
2）設定値の確認	各設定値に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	1系統	L設定値:1.6(V)±0.05(V) 以内		(V)	(V)	
		H設定値:2.4(V)±0.05(V) 以内		(V)	(V)	
	2系統	L設定値:1.6(V)±0.05(V) 以内		(V)	(V)	
		H設定値:2.4(V)±0.05(V) 以内		(V)	(V)	
3）異常表示ランプの確認	通常状態で「正常」が点灯のこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	1.6(V)以下で「L」が点灯のこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
	2.4(V)以上で「H」が点灯のこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
4.2 警報音発振基板(OSO)	周波数測定値に異常のないこと			良・否 ( )	良・否 ( )	
1）パイロット信号周波数の測定	1系統TP-1	パルス波高	約+12Vであること	(V)	(V)	
		パルス幅	約 75μsec であること	(μsec)	(μsec)	Pu-1,2のみ 約60μsec.
		パルス周期	約156μsec であること	(μsec)	(μsec)	
	1系統TP-2	パルス波高	約0.4Vであること	(V)	(V)	Pu-1,2のみ 約0.05(V)
		パルス幅	約10msec であること	(msec)	(msec)	
		パルス周期	約20msec であること	(msec)	(msec)	
	2系統TP-1	パルス波高	約+12Vであること	(V)	(V)	Pu-1,2のみ
		パルス幅	約 75μsec であること	(μsec)	(μsec)	Pu-1,2のみ 約60μsec
		パルス周期	約156μsec であること	(μsec)	(μsec)	
	2系統TP-2	パルス波高	約0.4Vであること	(V)	(V)	Pu-1,2のみ 約0.05(V)
		パルス幅	約10msec であること	(msec)	(msec)	
		パルス周期	約20msec であること	(msec)	(msec)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
2）パイロット信号レベルの確認	各設定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1系統　約AC3（V）であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2系統　約AC3（V）であること	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.3 発振回路異常検出基板（OSA）	各設定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
1）設定値の確認	1系統　L設定値:1.8(V)±0.05(V)以内	（V）	（V）	
	1系統　H設定値:2.2(V)±0.05(V)以内	（V）	（V）	
	2系統　L設定値:1.8(V)±0.05(V)以内	（V）	（V）	
	2系統　H設定値:2.2(V)±0.05(V)以内	（V）	（V）	
2）異常表示ランプの確認	通常状態で「正常」が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1.8(V)以下で「L」が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2.2(V)以上で「H」が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.4 パワーアンプ異常検出基板（PAA）	同期信号が正常入力されていること	良・否（　　）	良・否（　　）	
	パイロット出力レベルが正常のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）設定値の確認	各設定値に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1系-1　L設定値:　(V)±0.2(V)以内	（V）	（V）	Pu-1,2 L：-1.6(V) H：-3.3(V)
	1系-1　H設定値:　(V)±0.2(V)以内	（V）	（V）	
	1系-2　L設定値:　(V)±0.2(V)以内	（V）	（V）	Pu-con L：1.6(V) H：2.6(V)
	1系-2　H設定値:　(V)±0.2(V)以内	（V）	（V）	
	2系統　L設定値:　(V)±0.2(V)以内	（V）	（V）	上記以外の施設 L：-1.6(V) H：-2.8(V)
	2系統　H設定値:　(V)±0.2(V)以内	（V）	（V）	
2）異常表示ランプの確認	通常状態で「正常」が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	(V) 以下で「L」が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
	(V) 以上で「H」が点灯のこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準			設 定 値	点 検 値	備 考
4.5 出力リレー制御基板(RYC)	各リレー動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
1）リレー動作の確認	1-PAA「H」警報時	1～12リレー動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
		ダミーリレー動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
	1-PAA「L」警報時	1～12リレー動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
		ダミーリレー動作すること		良・否（ ）	良・否（ ）	
2）PAA 基準レベルの確認	各設定値に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	通常監視時	約 2.0（V）であること	1-1 系統	（V）	（V）	
			2-1 系統	（V）	（V）	
			2 系 統	（V）	（V）	
	点検動起時	約 2.0（V）であること	1-1 系統	（V）	（V）	
			2-1 系統	（V）	（V）	
			2 系 統	（V）	（V）	
	吹鳴時	約 2.0（V）であること	1-1 系統	（V）	（V）	
			2-1 系統	（V）	（V）	
5．スピーカライン異常検出部	出力電圧測定値に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
5.1 ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ 測定基板(IMP)	＋4.1(V)±0.2(V)以内のこと			（V）	（V）	
	指示計の動作に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
5.2 ｽﾋﾟｰｶﾗｲﾝ 異常検出基板(SPA)	同期信号が正常入力されていること			良・否（ ）	良・否（ ）	
	パイロット出力レベルが正常のこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
1）設定値の確認	各設定値に異常のないこと			良・否（ ）	良・否（ ）	
	SPA-1	短絡:-2.8(V)±0.05(V)以内		（V）	（V）	
		断線:-1.8(V)±0.05(V)以内		（V）	（V）	
	SPA-2	短絡:-2.8(V)±0.05(V)以内		（V）	（V）	
		断線:-1.8(V)±0.05(V)以内		（V）	（V）	
	SPA-3	短絡:-2.8(V)±0.05(V)以内		（V）	（V）	
		断線:-1.8(V)±0.05(V)以内		（V）	（V）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	SPA-4	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	SPA-5	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	SPA-6	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	SPA-7	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	SPA-8	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	SPA-9	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	SPA-10	短絡:-2.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
		断線:-1.8(V)±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
2）異常表示ランプの確認	通常状態で「正常」が点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	-2.8(V) 以上で「短絡」点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	-1.8(V) 以下で「断線」点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
3）測定停止時の基準レベルの確認	リセット動作に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	通常状態で「正常」が点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	-2.8(V) 以上で「短絡」点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	-1.8(V) 以下で「断線」点灯のこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
4）インピーダンスメータ指示確認	各系統の指示値に異常のないこと		良・否（ ）	良・否（ ）	
	(Ω) ±50 (Ω) 以内	1系統	(Ω)	(Ω)	
		2系統	(Ω)	(Ω)	
		3系統	(Ω)	(Ω)	
		4系統	(Ω)	(Ω)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
5）点検起動時の基準レベル及び指示値の確認	(Ω) ±50 (Ω) 以内	5系統	(Ω)	(Ω)	
		6系統	(Ω)	(Ω)	
		7系統	(Ω)	(Ω)	
		8系統	(Ω)	(Ω)	
		9系統	(Ω)	(Ω)	
		10系統	(Ω)	(Ω)	
	各系統の指示値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	約1(kΩ) であること 指針が緑帯内にあること	1系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		2系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		3系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		4系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		5系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		6系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		7系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		8系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		9系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
		10系統	良・否 ( )	良・否 ( )	
	各測定値に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	2.0(V)±0.2(V)以内	1系統	(V)	(V)	
		2系統	(V)	(V)	
		3系統	(V)	(V)	
		4系統	(V)	(V)	
		5系統	(V)	(V)	
		6系統	(V)	(V)	
		7系統	(V)	(V)	
		8系統	(V)	(V)	
		9系統	(V)	(V)	
		10系統	(V)	(V)	
5.3 ｽﾋﾟｰｶｰﾗｲﾝ 異常出力基板 (SPO)	各SPA OFF にて異常出力発生のこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	SPA-1 ～ SPA-5	点検時「L」レベルのこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
		監視時「H」レベルのこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
	SPA-6 ～ SPA-10	点検時「L」レベルのこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
		監視時「H」レベルのこと	良・否 ( )	良・否 ( )	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	警報音発生装置	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
5.4 ダミー抵抗制御基板(DRC)	各確認点で正常に動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
	監視時「H」レベル 点検時「L」レベル	27-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		28-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		29-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		30-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		31-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		32-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		33-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		34-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		35-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
		36-49 間	良・否 ( )	良・否 ( )	
6．リレーパネル 6.1 PA切替リレー動作の確認	各リレー動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	1系統PA断時	1～12リレー動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
		ダミーリレー動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
6.2 点検時リレー動作の確認	各リレー動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	点検時、点検リレーが動作すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.3 ｽﾋﾟｰｶﾗｲﾝ 保護ﾋｭｰｽﾞの確認	各系統ﾋｭｰｽﾞ断動作に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.4 電源部異常時のリレー動作	1系統電源	各電源が異常の場合のリレー動作に異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
	2系統電源		良・否 ( )	良・否 ( )	
	AUX電源		良・否 ( )	良・否 ( )	
7．パワーアンプ	電源用ＬＥＤが正常に点灯すること		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.1 警報吹鳴時の出力波形確認	ＰＡ出力波形に異常のないこと		良・否 ( )	良・否 ( )	
	パルス波高	約350V_{P-P} であること	(V)	(V)	
	パルス幅	約0.30msecであること	(msec)	(msec)	
	パルス周期	約0.60msecであること	(msec)	(msec)	
7.2 パワーアンプ増幅度の確認	各ﾊﾟﾜｰｱﾝﾌﾟの増幅度に異常のないこ		良・否 ( )	良・否 ( )	
	$20\log_{10}\frac{OUT}{IN}$	1系パワーアンプ	(dB)	(dB)	
		2系パワーアンプ	(dB)	(dB)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14LA001

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ISIM （RU737）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電池電圧の確認	異常のないこと	（V）	（V）	
3．クロック動作の確認	動作に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．プリント動作の確認	動作に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．テスト動作の確認	動作に異常のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14PAB01

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ハイブリッド記録計 （3081，4081，RD2400）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと リボンが交換されていること 各部の注油が完了していること	良・否（　）	良・否（　）	
2．各機能動作の確認	下記の機能動作に異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
	1）スケール値デジタル印字機能	良・否（　）	良・否（　）	
	2）セットデータリスト印字機能	良・否（　）	良・否（　）	
	3）測定値デジタル印字機能	良・否（　）	良・否（　）	
	4）ロギングモードデジタル印字	良・否（　）	良・否（　）	
	5）アラーム出力表示機能	良・否（　）	良・否（　）	
	6）プログラム動作異常表示機能	良・否（　）	良・否（　）	
	7）電池電圧低下表示機能	良・否（　）	良・否（　）	
	8）記録紙終了表示機能	良・否（　）	良・否（　）	
3．記録紙送り機構	下記の動作に異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
	1）CHART　FEED動作	良・否（　）	良・否（　）	
	2）START動作	良・否（　）	良・否（　）	
	3）STOP動作	良・否（　）	良・否（　）	
4．チャンネル切換機構	チャンネル切換が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
5．指示試験	入出力直線性：±0.1(%) F・S	良・否（　）	良・否（　）	
	入力電圧値 -2.00 (V) ／ 出力基準・校正点 0.0 (%)	(%)	(%)	
	入力電圧値 -1.00 (V) ／ 出力基準・校正点 25.0 (%)	(%)	(%)	
	入力電圧値 0.00 (V) ／ 出力基準・校正点 50.0 (%)	(%)	(%)	
	入力電圧値 1.00 (V) ／ 出力基準・校正点 75.0 (%)	(%)	(%)	
	入力電圧値 2.00 (V) ／ 出力基準・校正点 100.0 (%)	(%)	(%)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	14PAB02

検査名（回路試験）　　設置場所

機器名	ハイブリッド記録計 （μR180T）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準				設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃されていること 部品の破損がないこと ネジの緩みがないこと リボンが交換されていること 各部の注油が完了していること				良・否（　　）	良・否（　　）	
2．各機能動作の確認	下記の機能動作に異常のないこと				良・否（　　）	良・否（　　）	
	1）スケール値デジタル印字機能				良・否（　　）	良・否（　　）	
	2）セットデータリスト印字機能				良・否（　　）	良・否（　　）	
	3）測定値デジタル印字機能				良・否（　　）	良・否（　　）	
	4）プログラム動作異常表示機能				良・否（　　）	良・否（　　）	
	5）電池電圧低下表示機能				良・否（　　）	良・否（　　）	
	6）記録紙終了表示機能				良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構	下記の動作に異常のないこと				良・否（　　）	良・否（　　）	
	1）CHART　FEED動作				良・否（　　）	良・否（　　）	
	2）START動作				良・否（　　）	良・否（　　）	
	3）STOP動作				良・否（　　）	良・否（　　）	
4．チャンネル切換機構	チャンネル切換が正常であること				良・否（　　）	良・否（　　）	
5．指示試験	入出力直線性：±0.1(%) F・S				良・否（　　）	良・否（　　）	
	入力電圧値	0.00(mV)	出力基準・校正点	0.0 (%)	(%)	(%)	
		2.50(mV)		25.0 (%)	(%)	(%)	
		5.00(mV)		50.0 (%)	(%)	(%)	
		7.50(mV)		75.0 (%)	(%)	(%)	
		10.00(mV)		100.0 (%)	(%)	(%)	

PNC PN3520 90-661 (3)

2

[社内資料]

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅲ分冊：放射能測定装置類

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

PNC TN8520 96-001 (3)

社内資料

本資料は　　年　　月　　日付けで登録区分、
変更する。　13.6.20
[技術情報室]

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅲ分冊：放射能測定装置類

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184　茨城県那珂郡東海村大字村松4番地49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部　技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki, 319-1184
Japan

ⓒ核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2001

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅲ分冊：放射能測定装置類

1．点検整備技術要領書一覧

2．点検整備構成表

3．点検項目及び点検頻度

4．点検整備技術要領書

5．点検整備記録書

1．　点検整備技術要領書一覧

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	環境監視モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	モニタリング・ステーション（空間線量率）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
2	モニタリング・ステーション（βガス）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
3	モニタリング・ステーション（テレメータ）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
4	モニタリング・ステーション（ＳＴ－５）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	環境監視モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	モニタリング・ポスト		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
2	モニタリング・ポスト（ＭＰ－７）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	環境監視モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	高線量率計（ステーション）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
2	高線量率計（ポスト）		Ａｌｏｋａ	周辺監視区域	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	環境監視モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	モニタリング車No.1（空間γ線量率モニタ）		東　芝	安全管理棟	
2	モニタリング車No.1（β（γ）測定系）		東　芝	安全管理棟	
3	モニタリング車No.1（よう素モニタ）		東　芝	安全管理棟	
4	モニタリング車No.2		Ａｌｏｋａ	安全管理棟	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	環境監視モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	排水モニタ		Ａｌｏｋａ	排水モニタ室	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	環境監視モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	一般排水モニタ		Ａｌｏｋａ	排水自動監視室	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α2 系統放射能測定装置	ＪＤＣ－５０１	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	α2 系統放射能測定装置	ＪＤＣ－５０３	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	α2 系統放射能測定装置	JDC-R74-4241	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
11	α・β（γ）2 系統放射能測定装置	ＪＤＣ－５０１	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
12	α・β（γ）2 系統放射能測定装置	ＪＤＣ－５０３	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
13	α・β（γ）2 系統放射能測定装置	JDC-R74-3000	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
14	α・β（γ）2 系統放射能測定装置	R-74-1319	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
15	α・β（γ）2 系統放射能測定装置	６０３Ａ	東洋電子	全施設共通	
16	ライズタイム式2系統放射能測定装置	JDC-R74-3180	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
17					
18					
19					
20					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ピコベータ		富士電機	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ハンディスケーラ（α系）	TDC－104	Aloka	全施設共通	
2	ハンディスケーラ（β（γ）系）	TDC－104	Aloka	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ベーシックスケーラ（α系）	TDC－105	Aloka	全施設共通	
2	ベーシックスケーラ（β（γ）系）	TDC－105	Aloka	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置	LBC－453	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	低バックグラウンド放射能自動測定装置	LBC－481	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α線シンチレーション自動測定装置	JDC-862RI	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	GM自動測定装置	JDC－163	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	多試料放射能同時測定装置	JDC-R74-3493	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	可搬型線量測定装置	MAR-251BR4	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	放射能自動測定装置	JDC-R74-2361	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	放射能自動測定装置	JDC-R74-2722	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	傷モニタ			全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	可搬型ガスモニタ	RD－1200	大倉電気	全施設共通	
2	可搬型ガスモニタ	RD－1210	大倉電気	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	振動容量電位計	RD－5200	大倉電気	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	放射線測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	3″ φ球形NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ測定装置		Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成８年３月

点検種別	総合検査	点検機種	照射装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	^{137}Ｃｓ照射装置		キソー工業	計測機器校正室	
2	γ線照射装置		産業科学	計測機器校正室	
3	中性子線照射装置		キソー工業	計測機器校正室	
4	低エネルギーγ線照射装置		キソー工業	計測機器校正室	
5	Ｘ線発生装置		島津製作所	計測機器校正室	
6	放射性ガスモニタ校正装置		ＪＲＥＣ	計測機器校正室	
7	インターロックシステム		ＪＲＥＣ	計測機器校正室	
8	自動校正台システム		富士電機	計測機器校正室	
9	管理区域境界における線量当量率測定			計測機器校正室	
10					

点検種別	総合検査	点検機種	照射装置		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	テスタ	3008	HIOKI	計測機器校正室	
2	デジタル　テスタ	R6341A	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｽﾄ	計測機器校正室	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デジタル　マルチメータ	TR－6841	タケダ	計測機器校正室	
2	デジタル　マルチメータ	TR－6844	タケダ	計測機器校正室	
3	デジタル　マルチメータ	TR－6851	タケダ	計測機器校正室	
4	デジタル　マルチメータ	R6450	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｽﾄ	計測機器校正室	
5	デジタル　マルチメータ	R6451A	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｽﾄ	計測機器校正室	
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	直流電圧電流計	2012①	横河電機	計測機器校正室	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	直流電流計	2011	横河電機	計測機器校正室	
2	直流電流計	MPFB	横河電機	計測機器校正室	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	直流電圧計	2011	横河電機	計測機器校正室	
2	直流電圧計	MPFB	横河電機	計測機器校正室	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	高電圧デジタルボルトメータ	149－05A	菊水電子	計測機器校正室	
2	高電圧デジタルボルトメータ	149－10A	菊水電子	計測機器校正室	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	安定化出力電源	524B	メトロニクス	計測機器校正室	
2	安定化出力電源	532C	メトロニクス	計測機器校正室	
3	安定化出力電源	5126	メトロニクス	計測機器校正室	
4	安定化出力電源	PW18－2	WAVETEK	計測機器校正室	
5	安定化出力電源	PW36－1	WAVETEK	計測機器校正室	
6	安定化出力電源	PA18－3A	WAVETEK	計測機器校正室	
7	安定化出力電源	PA18-1.2A	WAVETEK	計測機器校正室	
8	安定化出力電源	PA36-1.2A	WAVETEK	計測機器校正室	
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	抵抗減衰器	M215C	安立電気	計測機器校正室	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	パルスジェネレータ	BH－1	BNC	計測機器校正室	
2	パルスジェネレータ	DB－2	BNC	計測機器校正室	
3	パルスジェネレータ	PB－4	BNC	計測機器校正室	
4	パルスジェネレータ	GL－3	BNC	計測機器校正室	
5	パルスジェネレータ	P－1068	NAIG	計測機器校正室	
6	パルスジェネレータ	E－571	NAIG	計測機器校正室	
7	パルスジェネレータ	711371	菊水電子	計測機器校正室	
8	パルスジェネレータ	191	WAVETEK	計測機器校正室	
9	パルスジェネレータ	801	WAVETEK	計測機器校正室	
10	パルスジェネレータ	271	WAVETEK	計測機器校正室	

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	パルスジェネレータ	273	WAVETEK	計測機器校正室	
2	パルスジェネレータ	136A	WAVETEK	計測機器校正室	
3	パルスジェネレータ	1930A	エヌエフ	計測機器校正室	
4	パルスジェネレータ	1940	エヌエフ	計測機器校正室	
5	パルスジェネレータ	SY－118	エヌエフ	計測機器校正室	
6	パルスジェネレータ	8011A	YHP	計測機器校正室	
7	パルスジェネレータ	MXG－101	Aloka	計測機器校正室	
8	パルスジェネレータ	XPG－3	Aloka	計測機器校正室	
9	パルスジェネレータ	G740	E.H リサーチ	計測機器校正室	
10	パルスジェネレータ	139B	E.H リサーチ	計測機器校正室	

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	マーキューリパルサ	448	EG&G	計測機器校正室	
2	マーキューリパルサ	D−114	NAIG	計測機器校正室	
3	マーキューリパルサ	PGM−2P	大阪電波	計測機器校正室	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	一般測定装置類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デジタルクランプテスタ	2343(02)	横河電機	計測機器校正室	
2	デジタルクランプテスタ	2343(04)	横河電機	計測機器校正室	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	低圧電源		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	定電圧低圧電源	AM-8301M・BM	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	定電圧低圧電源	ＡＭ－８３Ｍ０１	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	定電圧低圧電源	ＡＭ－８３Ｍ０２	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
4	定電圧低圧電源	AM-82MR74-2435	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
5	定電圧低圧電源	ＡＡ－８５１	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
6	定電圧低圧電源	Ｅ－５０１	東　芝	全施設共通	
7	定電圧低圧電源	Ｅ－５０２	東　芝	全施設共通	
8	定電圧低圧電源	Ｄ－１０１Ａ	東　芝	全施設共通	
9	定電圧低圧電源	Ｄ－３０９・Ａ	東　芝	全施設共通	
10	低圧電源	Ｄ－１３６Ａ	東　芝	全施設共通	

点検種別	単体検査	点検機種	低圧電源		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
11	定電圧低圧電源	ＢＭ－１２０	東洋電子	全施設共通	
12	低圧電源	１４０Ｓ／８４６	富士電機	全施設共通	
13	定電圧低圧電源	７０１－４	応用光研	全施設共通	
14	定電圧低圧電源	Ｎ－２２０１	アサノ電子	全施設共通	
15	定電圧低圧電源	D-251,(D-101)	東　芝	全施設共通	
16					
17					
18					
19					
20					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	高圧電源		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	高圧電源	AM-81M52B	Aloka	全施設共通	
2	高圧電源	AM-82M52B	Aloka	全施設共通	
3	高圧電源	AM-8251	Aloka	全施設共通	
4	高圧電源	AM-8253B	Aloka	全施設共通	
5	高圧電源	AA-8251	Aloka	全施設共通	
6	高圧電源	E－503	東芝	全施設共通	
7	高圧電源	E－504	東芝	全施設共通	
8	高圧電源	D－112・A	東芝	全施設共通	
9	高圧電源	D－113	東芝	全施設共通	
10	高圧電源	D－152A	東芝	全施設共通	

点検種別	単体検査	点検機種	高圧電源		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
11	高圧電源	714－1B	応用光研	全施設共通	
12	高圧電源	AM-82M52C	Aloka	全施設共通	
13	高圧電源	714－1F	応用光研	全施設共通	
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	線形増幅器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	線形増幅器	AA-1102	Aloka	全施設共通	
2	線形増幅器	D-102	東芝	全施設共通	
3	線形増幅器	D-129A	東芝	全施設共通	
4	線形増幅器	D-130	東芝	全施設共通	
5	線形増幅器	E-511	東芝	全施設共通	
6	線形増幅器	MPS-1221A	大阪電波	全施設共通	
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	前置増幅器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	前置増幅器	PAM-1025R	Aloka	全施設共通	
2	前置増幅器	AA-1109	Aloka	全施設共通	
3	前置増幅器	RU116	東芝	全施設共通	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	増幅波高分析器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	増幅波高分析器	AM-12M01BR	Aloka	全施設共通	
2	増幅波高分析器	AM-12M01CM	Aloka	全施設共通	
3	増幅波高分析器	AM-12M01DM	Aloka	全施設共通	
4	増幅波高分析器	AM-1203R	Aloka	全施設共通	
5	増幅波高分析器	AM-1202M	Aloka	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	エネルギー補償モジュール		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	エネルギー補償モジュール	AM-1152U	Aloka	全施設共通	
2	線量変換器	RU729	東芝	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	スケーラモジュール		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	スケーラモジュール	AM-5301M	Aloka	全施設共通	
2	カウンタモジュール	D-110	東芝	全施設共通	
3	スケーラモジュール	NFS21022	富士電機	全施設共通	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	タイマモジュール		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	タイマモジュール	AM-5353B	Aloka	全施設共通	
2	タイマモジュール	D-111	東芝	全施設共通	
3	タイマモジュール	NFT13022	富士電機	全施設共通	
4	タイマモジュール	AM-5351	Aloka	全施設共通	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	スケーラアンドタイマ		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	スケーラアンドタイマ	AM-5201M	Aloka	全施設共通	
2	スケーラアンドタイマ	AM-52M02M	Aloka	全施設共通	
3	スケーラアンドタイマ	AM-52MR74-2710	Aloka	全施設共通	
4	カウントアンドタイマ	AA-5252	Aloka	全施設共通	
5	デュアルカウンタ／タイマ	D-541	東芝	全施設共通	
6	デュアルカウンタ／タイマ	D-110A	東芝	全施設共通	
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	波高分析器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	波高分析モジュール	AM-11M01R	Aloka	全施設共通	
2	シングルチャンネル波高分析器	AA-1153	Aloka	全施設共通	
3	シングルチャンネル波高分析器	D-104	東芝	全施設共通	
4	波高分析器	NFM01122-A	富士電機	全施設共通	
5	シングルチャンネル波高分析器	706-1C	応用光研	全施設共通	
6	シングルチャンネル波高分析器	D-521	東芝	全施設共通	
7	シングルチャンネル波高分析器	E-521	東芝	全施設共通	
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	入力選択モジュール&チェック端子モジュール		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	入力選択モジュール	AM-0101BM	Aloka	全施設共通	
2	入力選択モジュール	AM-0102	Aloka	全施設共通	
3	入力選択モジュール	AM-0101	Aloka	全施設共通	
4	チェック端子モジュール	AM-01M05	Aloka	全施設共通	
5	チェック端子モジュール	AM-91MR74-2435	Aloka	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	テレメータ出力モジュール		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	テレメータ出力モジュール	AM-03M29	Aloka	全施設共通	
2	テレメータ出力モジュール	AM-03M29BM	Aloka	全施設共通	
3	テレメータ出力モジュール	AM-03M29BUM	Aloka	全施設共通	
4	テレメータ出力モジュール	AM-06MR74-2253	Aloka	全施設共通	
5	テレメータ出力モジュール	AM-03M22R3	Aloka	全施設共通	
6	テレメータ出力モジュール	AM-03M22BR2	Aloka	全施設共通	
7	テレメータ出力モジュール	AM-03M22BVR2	Aloka	全施設共通	
8	テレメータ出力モジュール	AM-03M22BVR4	Aloka	全施設共通	
9					
10					

点検整備 技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	ライズタイムツーハイトコンバータ		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ライズタイムツーハイトコンバータ	AA-3207	Aloka	全施設共通	
2	ライズタイムツーハイトコンバータ	723-1B	応用光研	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	警報表示モジュール		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	警報表示モジュール	AM-93MR74-2253	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	ユニバーサルスケーラ		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	スケーラ	TDC－104	Aloka	全施設共通	
2	スケーラ	TDC－105	Aloka	全施設共通	
3	スケーラ	TDC－513	Aloka	全施設共通	
4	ユニバーサルスケーラ	TDC－511	Aloka	全施設共通	
5	ユニバーサルスケーラ	MAR-202USI	Aloka	全施設共通	
6	スミヤカウンタスケーラ	TDC-R14-215	Aloka	全施設共通	
7	GM/SCINT COUNTER	603A	東洋電子	全施設共通	
8	フィールドモニタ	MAR-202-WS1	Aloka	全施設共通	
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	マルチモードアンプ		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	マルチモードアンプ	704－3B	応用光研	全施設共通	
2	リニアアンプ	704－4B	応用光研	全施設共通	
3	サムディレイアンプ	719－1	応用光研	全施設共通	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	パーソナルチェッカー		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	パーソナルチェッカー	ＰＳＣ－５０１	アロカ	全施設共通	
2	充電器（パーソナルチェッカー用）	CHG-R74-4414	アロカ	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	線量率計		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	線量率計	AM-23M21R3	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	デジタル線量率計	AM-42MR74-2435	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	デジタル線量率計	AM-42M03R ・U3	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
4	デジタル線量率計	AM-22MR74-3857	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
5	デジタル線量率計	AM-42MR74-3857	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
6	対数線量率計	AM-43MR74-1670	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
7	線量率計	ＲＵ７３８Ｂ	東　芝	全施設共通	
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	計数率計		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	デジタル計数率計	AM-42M03R-M2	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	デジタル計数率計	AM-42MR74-2253	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	対数計数率計	AM-43M06DU	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
4	計数率計	ＲＵ７３８Ｂ	東　芝	全施設共通	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	試料自動交換装置機構部		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	試料自動交換装置機構部	SC-756C,B,R	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	波高弁別		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	波高弁別	AM-13M01	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	コインシデンス		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	コインシデンス	13R74-3180	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	加温コントローラ		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	加温コントローラ	AM-06M02M，03M	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	加温コントローラ	TC-3，TC-4	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	リニアゲート		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	リニアゲート	７１０－１	応用光研	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成８年３月

点検種別	単体検査	点検機種	その他		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α・β低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ多ｻﾝﾌﾟﾙ自動測定装置（電源部）	ＬＢＣ－４５３	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	多試料同時放射能測定装置（電源部）	JDC-R74-3493	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					

点検種別	単体検査	点検機種	記録計		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	記録計	ER-186 ｼﾘｰｽﾞ	横河電機		
2	記録計	ER-187 ｼﾘｰｽﾞ	横河電機		
3	記録計	4370	横河電機		
4	記録計	4266	横河電機		
5	記録計	4276	横河電機		
6	記録計	4277	横河電機		
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ＺｎＳシンチレーション検出器	ZD-451・453	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	ＺｎＳシンチレーション検出器	ZDS451・453	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	ＺｎＳシンチレーション検出器	ZD-R74-3493	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
4	ＺｎＳシンチレーション検出器	ＺＤ－４５１ＦＵ	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
5	ＺｎＳシンチレーション検出器	２２３	東洋電子	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	GM管検出器	GP-1027・14V	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	GM管検出器	ＧＰ－１０１	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	GM管検出器（ｻﾝﾌﾞﾙﾁｪﾝｼﾞｬｰ）	ＧＰ－１４Ｖ	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
4	GM管検出器	２１４	東洋電子	全施設共通	
5	GM管検出器	ＧＭ－５００４	東　芝	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ＮａＩシンチレーション検出器	ND-451,-471,-1201B	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2	ＮａＩシンチレーション検出器	ＮＤ－４７１ＣＶ	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
3	ＮａＩシンチレーション検出器（傷モニタ）	ＮＤ－１３ＢＵＲ	応用光研	全施設共通	
4	3φ球形ＮａＩシンチレーション検出器	ＮＤ－３７１Ｃ	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
5	NaI(Tl) シンチ検出器（ヨウ素モニタ）	Ｓ－１２２７	応用光研		
6	NaI(Tl) シンチ検出器（空間γ線量率）	Ｓ－１２２７	応用光研		
7	NaI(Tl) シンチ検出器（傷モニタ）	SP-10AR292	応用光研	全施設共通	
8					
9					

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	βガス検出器	ＢＤ－２３	Ａｌｏｋａ	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ZnS+プラスチックシンチレーション検出器	ZPD-101B	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置検出器	ZD-LBC-453	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	自動試料交換測定装置	SC－511	Aloka	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別		点検機種			
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	モニタリングステーション		施設名	安管棟・役場・長砂・高野		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ（空間線量率系）		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M02 AM-83MR74-2435	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-81M52B	アロカ			2回／年
	増幅波高分析器	AM-12M01DM	アロカ			2回／年
	DBM	AM-1152U	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ND-451F	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計	AM-42M03R-	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	モニタリングステーション		施 設 名	安管棟・役場・長砂・高野		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ（βガス系）		アロカ			2回／年
単体検査	高圧電源	AM-81M52B	アロカ			2回／年
	ログカウントレートメータ	AM-43M06DU	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-03M09BM	アロカ			2回／年
	前置増幅器	PAM-1025R	アロカ			2回／年
	GM管検出器	BD－23	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	モニタリングステーション		施設名	安管棟・役場・長砂・高野		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ(ﾃﾚﾒｰﾀ)		アロカ			2回／年
単体検査						

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	モニタリングステーション		施 設 名	田向南門		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	モニタリングステーション		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M02	アロカ			2回／年
	低圧電源	AM-82MR74-2435	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-81M52B	アロカ			2回／年
	増幅波高分析器	AM-12M01CM	アロカ			2回／年
	DBM	AM-1152U	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計	AM-43M03R-U3	アロカ			2回／年
	デジタル計数率計	AM-42M03R-M2	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-03M29BM	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ND-471BV	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	モニタリングポスト		施 設 名	正門・検査・再処理・Ｐｕ燃・新ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・濃縮		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	モニタリングポスト		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M02	アロカ			2回／年
	低圧電源	AM-82MR74-2435	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-81M52B	アロカ			2回／年
	増幅波高分析器	AM-12M01	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計	AM-42M-	アロカ			2回／年
	デジタル計数率計	AM-42M-	アロカ			2回／年
	ＤＢＭ	AM-1152U	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-03M29BM	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ＮＤ－４７１	アロカ			2回／年
	ＤＢＭ	AM-1152U	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	モニタリングポスト		施 設 名	実規模開発試験室		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	モニタリングポスト		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M02	アロカ			2回／年
	低圧電源	AM-82MR74-2435	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-81M52B	アロカ			2回／年
	増幅波高分析器	AM-12M01CM	アロカ			2回／年
	DBM	AM-1152U	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計	AM-42M03R-U3	アロカ			2回／年
	デジタル計数率計	AM-42M03R-M2	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-03M29BM	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ND-471BV	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	高線量率計		施設名	安管棟・役場・長砂・高野・田向南門		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	モニタリングポスト		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M02	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-82M52	アロカ			2回／年
	線量率計	AM-23M21R3	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計(ST-1,3)	AM-22MR74-3857	アロカ			2回／年
	対数線量率計	AM-43MR74-1670-1	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-03M22	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	高線量率計		施設名	正門・検査・再処理・Pu燃・新グラウンド・濃縮・実規模開発試験室		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	モニタリングポスト		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M02	アロカ			2回／年
	低圧電源	AM-8301BM	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-82M52	アロカ			2回／年
	線量率計	AM-23M21R3	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計	AM-22M74-3857	アロカ			2回／年
	デジタル線量率計	AM-42M74-3857	アロカ			2回／年
	対数線量率計	AM-43MR74-1670-1	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-03M22	アロカ			2回／年
	チェック端子	AM-01M05	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	モニタリング車		施設名	環境安全課観測係		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ車（空間γ線量率）		東芝			2回／年
単体検査	低圧電源	E－502	東芝			2回／年
	高圧電源	D－152	東芝			2回／年
	線形増幅器	D－129	東芝			2回／年
	線量変換器	RU729	東芝			2回／年
	線量率計	RU738B	東芝			2回／年
	計数率計	RU738B	東芝			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	S－1227	東芝			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	モニタリング車		施 設 名	環境安全課観測係		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ車（ヨウ素モニタ）		東 芝			2回／年
単体検査	低圧電源	E－502	東 芝			2回／年
	高圧電源	D－152	東 芝			2回／年
	線形増幅器	D－129	東 芝			2回／年
	波高分析器	D－521	東 芝			2回／年
	計数率計	RU738B	東 芝			2回／年
	ﾃﾞｭｱﾙｶｳﾝﾀ／ﾀｲﾏ	D－541	東 芝			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	S－1227	東 芝			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	モニタリング車		施設名	環境安全課観測係		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ車（βﾀﾞｽﾄﾓﾆﾀ）		東芝			2回／年
単体検査	高圧電源	D－152	東芝			2回／年
	前置増幅器	RU116	東芝			2回／年
	ヂュアルカウンタ／タイマ	D－541	東芝			2回／年
	GM管検出器	GM5004	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	モニタリング車		施設名	環境安全課観測係		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ車（空間γ線量率）		アロカ			2回／年
単体検査	ユニバーサルスケーラ	MAR-202URI	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ND-471CV	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	排水モニタ		施設名	再処理施設（観測係）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	排水モニタ		アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301BM	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-81M52B	アロカ			2回／年
	増幅波高分析器	AM-1202M	アロカ			2回／年
	スケーラ&タイマ	AM-52M02	アロカ			2回／年
	デジタル計数率計	AM-42MR74-2253	アロカ			2回／年
	テレメータ出力	AM-06MR74-2253	アロカ			2回／年
	警報表示器	AM-93MR74-2253	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ND-451FR	アロカ			2回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ND-451F	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成８年３月

装 置 名	一般排水モニタ		施 設 名	再処理施設（観測係）		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	一般排水モニタ	ＴＤＣ－１０５	アロカ			２回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301BM	アロカ			２回／年
	高圧電源	AM-51M52B	アロカ			２回／年
	増幅波高分析器	ＡＭ－１２０２Ｍ	アロカ			２回／年
	デジタル計数率計	AM-42M03R-M2	アロカ			２回／年
	テレメータ出力	AM-03M29BUM	アロカ			２回／年
	NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ＮＤ－１２０１	アロカ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成８年３月

装置名	α・β（γ）２系統放射能測定装置		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α・β２系統放射能測定装置	JDC-501	アロカ			２回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301M	アロカ			２回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			２回／年
	スケーラ	AM-5301	アロカ			２回／年
	タイマ	AM-5353B	アロカ			２回／年
	入力選択	AM-0101BM	アロカ			２回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453EU	アロカ			２回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			２回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453D	アロカ			２回／年
	GM管検出器	GP-1027	アロカ			２回／年
	GM管検出器	GP-14V	アロカ			２回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	α・β（γ）2系統放射能測定装置		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α・β2系統放射能測定装置	JDC-503	アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301M	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			2回／年
	スケーラ&タイマ	AM-5201M	アロカ			2回／年
	入力選択	AM-0102	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453E	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-1027	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-14V	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	α・β（γ）2系統放射能測定装置		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α・β2系統放射能測定装置	JDC-R74-3000	アロカ			2回／年
単体検査	スケーラ	TDC-513	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-1027	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	α・β（γ）2系統放射能測定装置		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α・β2系統放射能測定装置	R74-1319	アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AA-851	アロカ			2回／年
	前置増幅器	AA-8251	アロカ			2回／年
	線形増幅器	AA-1109	アロカ			2回／年
	波高分析器	AA-1102	アロカ			2回／年
	カウンタ&タイマ	AA-5252	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-451FU	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-14V	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	α2系統放射能測定装置		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α2系統放射能測定装置	JDC-501	アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301M	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			2回／年
	スケーラ	AM-5301	アロカ			2回／年
	タイマ	AM-5353B	アロカ			2回／年
	入力選択	AM-0101BM	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453D	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453EU	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	α2系統放射能測定装置		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α2系統放射能測定装置	JDC-503	アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301M	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			2回／年
	スケーラ&タイマ	AM-5201M	アロカ			2回／年
	入力選択	AM-0102	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成８年３月

装　置　名	α２系統放射能測定装置		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α２系統放射能測定装置	JDC-R74-4241	アロカ			２回／年
単体検査	スケーラ	ＴＤＣ－５１３	アロカ			２回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ＺＤ－４５３ＦＵ	アロカ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成８年３月

装　置　名	α・β（γ）２系統放射能測定装置		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α・β２系統放射能測定装置	６０３Ａ	東洋電子			２回／年
単体検査	低圧電源	ＢＭ－１２０	東洋電子			２回／年
	ＧＭ／ＳＣＩＮＴＩ　ＣＯＵＮＴＥＲ	６０３Ａ	東洋電子			２回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	２２３	東洋電子			２回／年
	ＧＭ管検出器	２１４	東洋電子			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	ライズタイム式2系統放射能測定装置		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ﾗｲｽﾞﾀｲﾑ式2系統放射能測定装置	JDC-R74-3180	アロカ			2回／年
単体検査	低圧電源	AM-8301	アロカ			2回／年
	波高分別器	13M01	アロカ			2回／年
	コインシデンス	31R74-3180	アロカ			2回／年
	スケーラ	TDC-513	アロカ			2回／年
	ZnS ＋ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ZPD-101B	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	可搬型ガスモニタ		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型ガスモニタ	RD－1200	大倉電気			2回／年
	可搬型ガスモニタ	RD－1210	大倉電気			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	ピコベータ		施設名	安管棟低レベル放射能測定室（観測係）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ピコベータ		富士電機			2回／年
単体検査	低圧電源	140S/846	富士電機			2回／年
	波高分析器	NFM01122-A	富士電機			2回／年
	スケーラ	NFS21022	富士電機			2回／年
	タイマ	NFT13022	富士電機			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	多試料同時放射能測定装置		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	多試料同時放射能測定装置	JDC-R74-3493	アロカ			2回／年
単体検査	電源部	JDC-R74-3493	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ZD-R74-3493	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	ハンディスケーラ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ハンディスケーラ（α系）	TDC-104	アロカ			2回／年
単体検査	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-451FU ZD-451FU ZD-451B	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	ハンディスケーラ		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ハンディスケーラ（β系）	TDC－104	アロカ			2回／年
単体検査	GM管検出器	GP－14V GP－1027 GP－101	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	ベーシックスケーラ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ベーシックスケーラ（α系）	TDC-105	アロカ			2回／年
単体検査	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-451FU ZDS-451B ZD-453EU	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ベーシックスケーラ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ベーシックスケーラ（β系）	TDC-105	アロカ			2回／年
単体検査	GM管検出器	214 GP-1027 GP-14V	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	αβ低バックグラウンド多サンプル自動装置		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	αβ低バックグラウンド多サンプル自動装置	LBC-453	アロカ			2回／年
単体検査						

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	放射能自動測定装置		施 設 名	TWTF施設		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	放射能自動測定装置	JDC-R74-2361	アロカ			2回／年
単体検査	自動試料交換装置	SC-756R	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成８年３月

装　置　名	放射能自動測定装置		施　設　名	Ｐｕ－３施設		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	放射能自動測定装置	JDC-R74-2722	アロカ			２回／年
単体検査	低圧電源	AM-83M01	アロカ			２回／年
	波高分析器	AM-11M01R	アロカ			２回／年
	自動試料交換装置	SC-756R	アロカ			２回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-453FU	アロカ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	α線ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ自動測定装置		施 設 名	安管棟水処理室（観測係）		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α線ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ自動測定装置	JDC-862RI	アロカ			2回／年
単体検査	ユニバーサルスケーラ	TDC-511	アロカ			2回／年
	自動試料交換装置	SC-756B	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-451FU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	GM自動測定装置		施設名	安管棟水処理室（観測係）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	GM自動測定装置	JDC-163	アロカ			2回／年
単体検査	ユニバーサルスケーラ	TDC-511	アロカ			2回／年
	自動試料交換装置	SC-756B	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-14V	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ放射能測定装置		施設名	安管棟低レベル放射能測定室（環境管理係）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ放射能測定装置	ＬＢＣ－４８１	アロカ			２回／年
単体検査	自動試料交換装置	ＳＣ－５１１	アロカ			２回／年
	ユニバーサルスケーラ	ＴＤＣ－５１１	アロカ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	傷モニタ（No.1）		施　設　名	安管棟放射線保健室（線量計測係）		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	傷モニタ					2回／年
単体検査	低圧電源	701－4	応用光研			2回／年
	高圧電源	714－1F	応用光研			2回／年
	リニアアンプ	704－4B				2回／年
	NaI ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器（薄型）	SP-10AR292	応用光研			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	傷モニタ（No.2）		施 設 名	安管棟放射線保健室（線量計測係）		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	傷モニタ					2 回／年
単体検査	低圧電源（No.1）と共有	701－4	応用光研			2 回／年
	高圧電源	714－1F	応用光研			2 回／年
	リニアアンプ	704－4B				2 回／年
	NaI ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器（薄型）	SP-10AR292	応用光研			2 回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	振動容量型電位計		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	振動容量型電位計	RD-5200	大倉電気			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	可搬型線量測定装置		施設名	安管棟水処理室（観測係）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型線量測定装置	MA-251BR4	アロカ			2回／年
総合検査	3" φ球型NaI（Tl）シンチレーション測定装置		アロカ			2回／年
単体検査	3" φ球型NaI（Tl）シンチレーション検出器	ND-371C	アロカ			2回／年
	フィールドモニタ	MAR-202WSI	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	測定器		施 設 名	計測機器校正室		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	テスタ	3008	HIOKI			2回／年
	デジタルテスタ	R6341A	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｯｸ			2回／年
	デジタルテスタ	2426	横河電機			2回／年
	デジタルマルチメータ	TR-6851	タケダ			2回／年
	デジタルマルチメータ	TR-6841	タケダ			2回／年
	デジタルマルチメータ	TR-6844	タケダ			2回／年
	デジタルマルチメータ	R6450	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｯｸ			2回／年
	デジタルマルチメータ	R6451A	ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｯｸ			2回／年
	高圧デジタルボルトメータ	149-05A	菊水			2回／年
	高圧デジタルボルトメータ	149-10A	菊水			2回／年
	直流電圧電流計	2012①	横河電機			2回／年
	直流電流計	2011	横河電機			2回／年
	直流電流計	MPFB	横河電機			2回／年
	直流電圧計	2011	横河電機			2回／年
	直流電圧計	MPFB	横河電機			2回／年
	直流安定化電源	532C	ﾄﾛﾆｸｽ			2回／年
	直流安定化電源	5126	ﾄﾛﾆｸｽ			2回／年
	直流安定化電源	524B	ﾄﾛﾆｸｽ			2回／年
	直流安定化電源	532C	ﾄﾛﾆｸｽ			2回／年
	直流安定化電源	PW18-2	ｹﾝｳｯﾄﾞ			2回／年
	直流安定化電源	PW36-1	ｹﾝｳｯﾄﾞ			2回／年
	直流安定化電源	PW18-3A	ｹﾝｳｯﾄﾞ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	測定器		施設名	計測機器校正室		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	直流安定化電源	PW36-1.2A	ｹﾝｳｯﾄﾞ			2回／年
	直流安定化電源	PW18-1.2A	ｹﾝｳｯﾄﾞ			2回／年
	クリップオン電流計	2343(02)	横河電機			2回／年
	クリップオン電流計	2343(04)	横河電機			2回／年
	抵抗減衰器	M215C	安立電機			2回／年
	パルスジェネレータ	ＢＨ－１	ＢＮＣ			2回／年
	パルスジェネレータ	ＤＢ－２	ＢＮＣ			2回／年
	パルスジェネレータ	ＰＢ－４	ＢＮＣ			2回／年
	パルスジェネレータ	P-1068	ＮＡＩＧ			2回／年
	パルスジェネレータ	Ｅ－５７１	ＮＡＩＧ			2回／年
	パルスジェネレータ	Ｄ－１１４	ＮＡＩＧ			2回／年
	パルスジェネレータ	711371	菊水			2回／年
	パルスジェネレータ	１９１	WAVETEK			2回／年
	パルスジェネレータ	８０１	WAVETEK			2回／年
	パルスジェネレータ	２７１	WAVETEK			2回／年
	パルスジェネレータ	２７３	WAVETEK			2回／年
	パルスジェネレータ	１３６Ａ	WAVETEK			2回／年
	パルスジェネレータ	１９４０	ＮＦ			2回／年
	パルスジェネレータ	１９３０Ａ	ＮＦ			2回／年
	パルスジェネレータ	SY-118	ＮＦ			2回／年
	パルスジェネレータ	8011A	ｈｐ			2回／年
	パルスジェネレータ	MXG-101	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	測定器		施 設 名	計測機器校正室		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	パルスジェネレータ	MXG-101B	アロカ			2 回／年
	パルスジェネレータ	MXG-3	アロカ			2 回／年
	マーキュリーパルサー	PGM-2P	大阪電波			2 回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	照射装置		施設名	計測機器校正室		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	^{137}Cs照射装置		ｷｿｰ 工業			2回／年
	γ線照射装置		産業科学			2回／年
	中性子線照射装置		ｷｿｰ 工業			2回／年
	低エネルギーγ線照射装置		ｷｿｰ 工業			2回／年
	X線発生装置		島津			2回／年
	放射性ガスモニタ校正装置		JREC			2回／年
	インターロックシステム		JREC			2回／年
	自動校正台システム		富士電気			2回／年
	管理区域境界における線量当量率測定					2回／年

2. 点検整備構成表

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．モニタリングステーション（低レベル空間線量率系）（ＳＴ－１～ＳＴ－４）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥異常信号確認			○		○	
2．モニタリングステーション（βガス系）（ＳＴ－１～ＳＴ－４）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③指示値の確認			○		○	
	④測定モードの確認			○		○	
	⑤ガス校正試験			○		○	
	⑥異常信号確認			○		○	
	⑦指示値と記録計の確認			○		○	
	⑧吸引装置点検			○		○	
3．モニタリングステーション（テレメータ出力）（ＳＴ－１～ＳＴ－４）	①点検・清掃			○		○	
	②テレメータ入出力			○		○	
	(1)入出力計数値測定			○		○	
	(2)ＬＶトラブル確認			○		○	
	(3)高圧出力監視回路確認			○		○	
	(4)ＴＥＳＴ確認			○		○	
	③外部表示確認			○		○	
4．モニタリングステーション（低レベル空間線量率系）（ＳＴ－５）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥異常信号確認			○		○	
	⑦テレメータ入出力確認			○		○	
5．モニタリングポスト（低レベル空間線量率系）（ＭＰ－１～ＭＰ－７）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥異常信号確認			○		○	
	⑦テレメータ入出力確認			○		○	
6．高線量率計（ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ）（ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞﾎﾟｽﾄ）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④線量率直線性試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
7．モニタリング車 No.1 （空間γ線量率モニタ）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥異常信号確認			○		○	
8．モニタリング車 （β（γ）測定系）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)ディスクリレベル			○		○	
	(3)ＢＧ値確認			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)外部影響			○		○	
9．モニタリング車 （ヨウ素モニタ）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥異常信号確認			○		○	
	⑦サンプラ動作試験			○		○	
10．モニタリング車 No.2 （空間γ線量率モニタ）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥CD/AC ｲﾝﾊﾞｰﾀ 電圧の確認			○		○	
11．排水モニタ	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥警報動作確認			○		○	
	⑦出力信号の確認			○		○	
	⑧指示精度の確認			○		○	
	⑨ＰＨ計指示確認			○		○	
13．一般排水モニタ	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥テレメータ入出力確認			○		○	
	⑦指示値と記録計の指示確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．α・β2系統放射能測定装置（JDC-501）（JDC-503）（JDC-R74-3000）（R74-1319）（603A）	①点検・清掃			○		○	
	②α系点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)BG測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)β線感度試験			○		○	
	(6)外部影響			○		○	
	③β（γ）系点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)BG測定			○		○	
	(3)計数効率			○		○	
	(4)外部影響			○		○	
	④動作確認			○		○	
2．ﾗｲｽﾀｲﾑ式2系統放射能測定装置（JDC-R74-3180）	①点検・清掃			○		○	
	②検出器印加電圧			○		○	
	③入力感度			○		○	
	④BG測定			○		○	
	⑤計数効率測定			○		○	
	⑥弁別性能試験			○		○	
	⑦外部影響			○		○	
3．α2系統放射能測定装置（JDC-501）（JDC-503）（JDC-R74-4241	①点検・清掃			○		○	
	②α－1点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)BG測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)β線感度試験			○		○	
	(6)外部影響			○		○	
	③α－2点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)BG測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)β線感度試験			○		○	
	(6)外部影響			○		○	
	④動作確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
4．ハンディスケーラ（α系）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)ＢＧ測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)β線感度試験			○		○	
	(6)外部影響			○		○	
	③動作確認			○		○	
5．ハンディスケーラ（β系）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)ＢＧ測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)外部影響			○		○	
	③動作確認			○		○	
6．ベーシックスケーラ（α系）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)ＢＧ測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)β線感度試験			○		○	
	(6)外部影響			○		○	
	③動作確認			○		○	
7．ベーシックスケーラ（β系）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)入力感度			○		○	
	(3)ＢＧ測定			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)外部影響			○		○	
	③動作確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．α・β低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ多ｻﾝﾌﾟﾙ自動装置（ＬＢＣ－４５３）	①点検・清掃			○		○	
	②機能検査			○		○	
	③ＨＶ設定			○		○	
	④ＢＧ測定			○		○	
	⑤計数効率			○		○	
	⑥外部影響			○		○	
2．低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ放射能自動測定装置（ＬＢＣ－４８１）	①点検・清掃			○		○	
	②高圧設定			○		○	
	③ＢＧ測定			○		○	
	④計数効率			○		○	
	⑤外部影響			○		○	
3．放射能自動測定装置（JDC-R74-2361）	①点検・清掃			○		○	
	②計測測定動作確認			○		○	
	③ＨＶ設定			○		○	
	④ＢＧ測定			○		○	
	⑤計数効率			○		○	
	⑥外部影響			○		○	
4．α線シンチレーション自動測定装置（ＪＤＣ－８６２ＲＩ）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)ディスクリレベル			○		○	
	(3)ＢＧ値確認			○		○	
	(4)計数効率			○		○	
	(5)β線感度試験			○		○	
	(6)外部影響			○		○	
5．GM自動測定装置（ＪＤＣ－１６３）	①点検・清掃			○		○	
	②総合点検			○		○	
	(1)検出器印加電圧			○		○	
	(2)ＢＧ値確認			○		○	
	(3)計数効率			○		○	
	(4)外部影響			○		○	
6．放射能自動測定装置（JDC-R74-2722）	①点検・清掃			○		○	
	②計測測定動作確認			○		○	
	③ＨＶ設定			○		○	
	④ＢＧ測定			○		○	
	⑤計数効率			○		○	
	⑥外部影響			○		○	
	⑦ＳＣＡの設定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．多試料同時放射能測定装置（JDC-R74-3493）	①点検・清掃			○		○	
	②ＨＶ設定			○		○	
	③ＢＧ測定			○		○	
	④計数効率			○		○	
	⑤動作確認			○		○	
2．可搬型ガスモニタ（ＲＤ－１２００）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③入力、出力特性試験			○		○	
	④零サンプレッション及び零アジャスト範囲試験			○		○	
	⑤振れ幅試験			○		○	
	⑥電離箱印加電圧試験			○		○	
	⑦気密度試験			○		○	
	⑧動作試験			○		○	
	⑨零ドリフト試験			○		○	
3．可搬型ガスモニタ（ＲＤ－１２１０）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③入力、出力特性試験			○		○	
	④故障・警報動作試験			○		○	
	⑤動作試験			○		○	
	⑥零ドリフト試験			○		○	
4．振動容量型電位計（ＲＤ－５２００）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③印加電圧確認			○		○	
	④ドリフト試験			○		○	
	⑤零調整			○		○	
	⑥メータ指示精度			○		○	
	⑦標準電流電離箱指示確認			○		○	
5．3″φ球形ＮａＩ（Ｔｌ）シンチレーション測定装置	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③測定モードの確認			○		○	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
6．傷モニタ（ＮａＩ薄型タイプ）	①点検・清掃			○		○	
	②測定モードの確認			○		○	
	③エネルギー設定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．可搬型線量測定装置（MAR-251BR4）	①点検・清掃			○		○	
	②指示値の確認			○		○	
	③低圧出力電圧の確認			○		○	
	④高出力電圧の確認			○		○	
	⑤レートメータ指示確認			○		○	
	⑥記録計出力電圧の確認			○		○	
	⑦通過率の確認			○		○	
	⑧3(MeV)カット動作の確認			○		○	
	⑨線量率直線性試験			○		○	
	⑩感度試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／3

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1. ^{137}Cs照射装置	①表面線量当量率の測定			○		○	
	②点検整備			○		○	
	③絶縁抵抗の測定			○		○	
	④本体昇降動作の確認			○		○	
	⑤機側操作盤の表示の確認			○		○	
	⑥インターロック動作の確認			○		○	
	⑦回転シャッター動作の確認			○		○	
	⑧線源選択動作の確認			○		○	
	⑨制御盤表示の確認			○		○	
	⑩ベルト部、ギャー部の整備			○		○	
	⑪表面汚染密度の測定			○		○	
2. ガンマー線照射装置	①表面線量当量率の測定			○		○	
	②点検整備			○		○	
	③絶縁抵抗の測定			○		○	
	④本体昇降動作の確認			○		○	
	⑤本体容器移動・固定動作の確認			○		○	
	⑥照射筒等の確認			○		○	
	⑦シャッター開閉動作の確認			○		○	
	⑧線源選択動作の確認			○		○	
	⑨コンプレッサーの確認			○		○	
	⑩インターロック動作の確認			○		○	
	⑪線源上下動作の確認			○		○	
	⑫制御盤表示の確認			○		○	
	⑬回転歯車・ギャー部の整備			○		○	
	⑭表面汚染密度の測定			○		○	
3. 中性子線照射装置	①表面線量当量率の測定			○		○	
	②点検整備			○		○	
	③絶縁抵抗の測定			○		○	
	④照射筒の確認			○		○	
	⑤コンプレッサーの確認			○		○	
	⑥インターロック動作の確認			○		○	
	⑦線源選択動作の確認			○		○	
	⑧線源上下動作の確認			○		○	
	⑨制御盤表示の確認			○		○	
	⑩回転部ギャー部の整備			○		○	
	⑪表面汚染密度の測定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／3

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
4．低エネルギーガンマ線照射装置	①表面線量当量率の測定			○		○	
	②点検整備			○		○	
	③絶縁抵抗の測定			○		○	
	④本体昇降動作の確認			○		○	
	⑤移動レールの確認			○		○	
	⑥現場操作盤表示の確認			○		○	
	⑦インターロック動作の確認			○		○	
	⑧上下シャッター動作の確認			○		○	
	⑨線源選択動作の確認			○		○	
	⑩制御盤表示の確認			○		○	
	⑪ベルト部・ギャー部の整備			○		○	
	⑫表面汚染密度の測定			○		○	
5．X線発生装置	①点検・清掃			○		○	
	②高圧発生部			○		○	
	③冷却装置			○		○	
	④制御装置			○		○	
	⑤インターロック動作			○		○	
	⑥エージング			○		○	
	⑦シャッター装置			○		○	
	⑧総合動作			○		○	
	⑨漏洩試験			○		○	
6．放射性ガスモニタ校正装置	①点検・清掃			○		○	
	②排気系			○		○	
	(1)フード排気ファンの動作確認			○		○	
	(2)電磁弁の動作確認			○		○	
	(3)リングブロアの動作確認			○		○	
	(4)吸気及び排気換気扇の動作確認			○		○	
	(5)フード風速測定			○		○	
	③測定部			○		○	
	(1)基準電離箱の外観確認			○		○	
	(2)可搬型ガスモニタの動作確認			○		○	
	④校正用ガスループの漏洩試験			○		○	
	(1)真空ポンプの動作確認			○		○	
	(2)循環ポンプの動作確認			○		○	
	(3)電磁弁の動作確認			○		○	
	(4)GM時PUSHスイッチの動作確認			○		○	
	(5)校正用ガスループの漏洩試験			○		○	
7．インターロックシステム	①ドアロック動作の確認			○		○	
	②ドアロック解除動作の確認			○		○	
	③非常時のドアロック解除動作の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	3／3

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
8．自動校正台システム	①点検・清掃			○		○	
	②操作盤の表示確認			○		○	
	③台車トラバース機能動作確認			○		○	
	④校正台動作確認			○		○	
	⑤停止精度検査			○		○	
9．管理区域境界における線量当量率測定	①測定条件			○		○	
	②測定結果			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／4

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．テスタ	①点検・清掃			○		○	
（３００８）	②直流電圧測定の校正			○		○	
2．デジタルテスタ	①点検・清掃			○		○	
（Ｒ６３４１Ａ）	②直流電圧測定の校正			○		○	
3．デジタル	①点検・清掃			○		○	
マルチメータ	②直流電圧測定の校正			○		○	
（ＴＲ－６８４１）							
（ＴＲ－６８４４）							
（ＴＲ－６８５１）							
（Ｒ－６４５０）							
（Ｒ－６４５１Ａ）							
4．直流電圧電流計	①点検・清掃			○		○	
（２０１２①）	②直流電圧測定の校正			○		○	
	③直流電流測定の校正			○		○	
5．直流電流計	①点検・清掃			○		○	
（２０１１）	②直流電流測定の校正			○		○	
6．直流電流計	①点検・清掃			○		○	
（ＭＰＦＢ）	②直流電流測定の校正			○		○	
7．直流電圧計	①点検・清掃			○		○	
（２０１１）	②直流電圧測定の校正			○		○	
8．直流電圧計	①点検・清掃			○		○	
（ＭＰＦＢ）	②直流電圧測定の校正			○		○	
9．ＨＶデジタル	①点検・清掃			○		○	
マルチメータ	②直流電圧測定の校正			○		○	
（１４９－０５Ａ）							
（１４９－１０Ａ）							
10．安定化出力電源	①点検・清掃			○		○	
（５２４Ｂ）	②絶縁試験			○		○	
（５３２Ｃ）	③出力可変電圧の確認			○		○	
（5／２６）	④電圧変動の測定			○		○	
（ＰＷ１８－２）	⑤リップル電圧測定			○		○	
（ＰＷ３６－１）							
（ＰＡ１８－３Ａ）							
（ＰＡ18-1．2Ａ）							
（ＰＡ36-1．2Ａ）							
11．抵抗減衰器	①点検・清掃			○		○	
（Ｍ２１５Ｃ）	②減衰量の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／4

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
12. パルスジェネレータ （BH－1） （DB－2） （PB－4）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④FALL　TIMEの確認			○		○	
	⑤RISE　TIMEの確認			○		○	
	⑥周波数の確認			○		○	
13. パルスジェネレータ （GL－3）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④WIDTHの確認			○		○	
	⑤RISE　TIMEの確認			○		○	
	⑥周波数の確認			○		○	
14. パルスジェネレータ （P－1068）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③周波数の確認			○		○	
	④FINE切換の確認			○		○	
	⑤×1、×3切換の確認			○		○	
	⑥CPM／CPS切換の確認			○		○	
15. パルスジェネレータ （E－571）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④パルス幅の確認			○		○	
	⑤RISE　TIMEの確認			○		○	
	⑥周波数の確認			○		○	
16. パルスジェネレータ （711371）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③パルス波形の確認			○		○	
	④パルス幅の確認			○		○	
	⑤DECAY　TIMEの確認			○		○	
	⑥周波数の確認			○		○	
	⑦×1、×10切換の確認			○		○	
17. パルスジェネレータ （191） （271） （273） （1930A） （1940）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③パルス波形の確認			○		○	
	④周波数の確認			○		○	
18. パルスジェネレータ （801）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④WIDTHの確認			○		○	
	⑤TRANSITIONの確認			○		○	
	⑥周波数の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	3／4

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
19. パルスジェネレータ（136A）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④WIDTHの確認			○		○	
	⑤RAMP TIME／Vの確認			○		○	
	⑥周波数の確認			○		○	
20. パルスジェネレータ（SY－118）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③周波数の確認			○		○	
21. パルスジェネレータ（8011A）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④パルス幅の確認			○		○	
	⑤周波数の確認			○		○	
22. パルスジェネレータ（MXG－101）	①点検・清掃			○		○	
	②マーキュリーパルサー出力			○		○	
	(1)出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	(2)出力極性の確認			○		○	
	(3)RISE TIMEの確認			○		○	
	(4)DECAY TIMEの確認			○		○	
	③クリスタルパルサ出力			○		○	
	(1)出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	(2)出力パルス幅の確認			○		○	
	(3)出力極性の確認			○		○	
	(4)周波数の確認			○		○	
	(5)周波数RANGE 切換え器の確認			○		○	
	(6)操作器の確認			○		○	
23. パルスジェネレータ（XPG－3）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力パルス幅の確認			○		○	
	④出力極性の確認			○		○	
	⑤周波数の確認			○		○	
	⑥周波数RANGE 切換え器の確認			○		○	
	⑦操作器の確認			○		○	
24. マーキュリーパルサ（D－114）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④RISE TIMEの確認			○		○	
	⑤DRIVEの確認			○		○	
25. マーキュリーパルサ（PGM－2P）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認（振幅）			○		○	
	③出力極性の確認			○		○	
	④DECAY TIMEの確認			○		○	
	⑤RISE TIMEの確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	4／4

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
26. デジタルクランプテスタ（２３４３(02)）（２３４３(04)）	①点検・清掃			○		○	
	②交流電流の測定			○		○	
27. デジタル絶縁抵抗計（２４２６）	①点検・清掃			○		○	
	②直流電圧測定の校正			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	1/10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．定電圧低圧電源	①点検・清掃			○		○	
(AM-8301M ・BM)	②絶縁試験			○		○	
(AM-83M01)	③出力電圧の確認			○		○	
(AM-83M02)	④電源変動の測定			○		○	
(AM-82MR74-2435)	⑤リップル電圧測定			○		○	
(AA-851)							
(BM-120)							
(140S/846)							
(N-2201)							
2．定電圧低圧電源	①点検・清掃			○		○	
(E-501)	②絶縁試験			○		○	
(E-502)	③出力電圧の確認			○		○	
(D-252,D-101A)	④電源変動の測定			○		○	
(D-309・ A)	⑤リップル電圧測定			○		○	
	⑥垂下特性試験			○		○	
3．低圧電源	①点検・清掃			○		○	
(D-136A)	②出力電圧の確認			○		○	
(714-4F)	③リップル電圧測定			○		○	
4．定電圧低圧電源	①点検・清掃			○		○	
(701-4)	②絶縁試験			○		○	
	③出力電圧の確認			○		○	
	④電源変動の測定			○		○	
	⑤リップル電圧測定			○		○	
	⑥過負荷保護回路			○		○	
5．高圧電源	①点検・清掃			○		○	
(AM-81M52B)	②出力電圧の確認			○		○	
(E-503)	③負荷変動の測定			○		○	
(E-504)	④リップル電圧測定			○		○	
(D-152A)							
6．高圧電源	①点検・清掃			○		○	
(AM-82M52B)	②絶縁試験			○		○	
(AM-8251)	③出力電圧の確認			○		○	
(AM-8253B)	④電源変動の測定			○		○	
(AA-8251)	⑤リップル電圧測定			○		○	
(D-112・A)							
(D-113)							
(714-1B)							
(714-1F)							
7．線形増幅器	①点検・清掃			○		○	
(AA-1102)	②COARSE GAIN点検			○		○	
(MPS-1221A)	③FINE GAIN点検			○		○	
	④無歪最大出力電圧点検			○		○	
	⑤波形整形確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	2／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
8．線形増幅器 （D－102） （D－130）	①点検・清掃			○		○	
	②COARSE　GAIN点検			○		○	
	③FINE　GAIN			○		○	
	④無歪最大出力電圧点検			○		○	
	⑤パルス整形確認			○		○	
9．線形増幅器 （D－129A）	①点検・清掃			○		○	
	②COARSE　GAIN点検			○		○	
	③FINE　GAIN点検			○		○	
	④無歪最大出力電圧			○		○	
	⑤雑音の測定			○		○	
	⑥PZ調整			○		○	
10．線形増幅器 （E－511）	①点検・清掃			○		○	
	②COARSE　GAIN点検			○		○	
	③FINE　GAIN点検			○		○	
	④無歪最大出力電圧点検			○		○	
	⑤PZ調整			○		○	
11．前置増幅器 （PAM-1025R）	①点検・清掃			○		○	
	②増幅器部			○		○	
	③ディスクリレベルの測定			○		○	
12．前置増幅器 （AA－1109） （RU－116）	①点検・清掃			○		○	
	②利得の測定			○		○	
	③雑音の測定			○		○	
	④最大出力電圧の測定			○		○	
	⑤出力直線性			○		○	
13．アンプディスクリ （AM-12M01BR） （AM-12M01CM） （AM-12M01DM）	①点検・清掃			○		○	
	②増幅器試験			○		○	
	③波高分析器試験			○		○	
	④3(MeV)CUT動作確認			○		○	
14．アンプディスクリ （AM－1203R） （AM－1202M）	①点検・清掃			○		○	
	②増幅器試験			○		○	
	③波高分析器試験			○		○	
15．ｴﾈﾙｷﾞｰ 補償ﾓｼﾞｭｰﾙ （AM－1152U）	①点検・清掃			○		○	
	②内部出力電圧調整			○		○	
	③FG　OUT波形確認			○		○	
	④通過率の確認			○		○	
16．線量変換器 （RU729）	①点検・清掃			○		○	
	②BLR点検			○		○	
	③FUNC　OUT波形確認			○		○	
	④通過率の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成８年３月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	3／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		１ヶ月	３ヶ月	６ヶ月	１ヶ年	受入時	
17. スケーラモジュール（ＡＭ－５３０１Ｍ）	①点検・清掃			○		○	
	②ディスクリレベル設定			○		○	
	③ＰＨインバータ入力点検			○		○	
	④計数動作確認			○		○	
	⑤ＲＥＡＤ　ＯＵＴ出力確認			○		○	
	⑥ＲＥＳＥＴ確認			○		○	
	⑦計数停止確認			○		○	
	⑧ＰＣ　ＯＵＴ確認			○		○	
	⑨計数分解能確認			○		○	
18. カウンタモジュール（Ｄ－１１０）	①点検・清掃			○		○	
	②入力感度測定			○		○	
	③プリセット動作			○		○	
	④オーバーフロー信号間の間隔			○		○	
	⑤外部ゲート信号			○		○	
	⑥分解能測定			○		○	
19. スケーラモジュール（ＮＦＳ２１０２２）	①点検・清掃			○		○	
	②ディスクリレベル設定			○		○	
	③分解能点検			○		○	
	④コントロール点検			○		○	
	⑤プリセット　カウント点検			○		○	
20. タイマモジュール（ＡＭ－５３５３Ｂ）	①点検・清掃			○		○	
	②クロックパルス発生の確認			○		○	
	③スケーラＢの確認			○		○	
	④制御回路確認			○		○	
21. タイマモジュール（Ｄ－１１１）	①点検・清掃			○		○	
	②プリセット動作			○		○	
	③クロックパルスの確認			○		○	
	④操作モードの確認			○		○	
22. タイマモジュール（ＮＦＳ１３０２２）	①点検・清掃			○		○	
	②コントロール点検			○		○	
	③プリセット　タイマ点検			○		○	
	④時間精度確認			○		○	
	⑤時間読み出し信号確認			○		○	
23. スケーラアンドタイマ（ＡＭ－５２０１Ｍ）（ＡＭ－５２Ｍ０２Ｍ）（AM-52MR74-2710）	①点検・清掃			○		○	
	②プリセット動作の確認			○		○	
	③クロックパルス確認			○		○	
	④入力感度測定			○		○	
	⑤ＩＮＴＥＲＶＡＬ測定			○		○	
	⑥計数分解能確認			○		○	
24. スケーラアンドタイマ（ＡＡ－５２５２）	①点検・清掃			○		○	
	②プリセット動作の確認			○		○	
	③クロックパルス確認			○		○	
	④入力感度測定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	4／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
25. ﾃｨｱﾙｶｳﾝﾀ/ﾀｲﾏ（E－541）	①点検・清掃			○		○	
	②入力感度測定			○		○	
	③ゲート動作確認			○		○	
	④プリセット動作確認			○		○	
	⑤計数分解能確認			○		○	
26. ﾃｨｱﾙｶｳﾝﾀ/ﾀｲﾏ（D－110A）	①点検・清掃			○		○	
	②プリセット動作			○		○	
	③ゲート動作確認			○		○	
	④クロックパルス確認			○		○	
	⑤入力感度測定			○		○	
	⑥計数分解能確認			○		○	
27. 波高分析ﾓｼﾞｭｰﾙ（AM－11M01R）	①点検・清掃			○		○	
	②入力動作範囲			○		○	
	③分解能			○		○	
	④出力波形の確認			○		○	
28. シングルチャンネル波高分析器（AA－1153）	①点検・清掃			○		○	
	②入力動作範囲の確認			○		○	
	③分解能			○		○	
	④DELAY確認			○		○	
	⑤WALK調整			○		○	
29. シングルチャンネル波高分析器（D－104）	①点検・清掃			○		○	
	②入力動作範囲の確認			○		○	
	③分解能			○		○	
30. シングルチャンネル波高分析器（E－521）	①点検・清掃			○		○	
	②入力動作範囲の確認			○		○	
	③タイムウォーク調整			○		○	
	④分解能			○		○	
31. 波高分析器（NFM01122-A）	①点検・清掃			○		○	
	②ベースラインリニアティ			○		○	
	③ウインドー幅精度			○		○	
	④ダブルパルス分解能			○		○	
	⑤出力パルス			○		○	
32. シングルチャンネル波高分析器（706－1C）	①点検・清掃			○		○	
	②入力動作範囲の確認			○		○	
	③分解能			○		○	
	④OUT PUT DELAY確認			○		○	
33. 入力選択ﾓｼﾞｭｰﾙ（AM－0101BM）	①点検・清掃			○		○	
	②入力切換動作確認			○		○	
	③TEST出力信号の確認			○		○	
34. 入力選択ﾓｼﾞｭｰﾙ（AM－0102）	①点検・清掃			○		○	
	②ディスクリレベル設定			○		○	
	③出力信号の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	5／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
35. テレメータ出力モジュール（AM-03M29）（AM-03M29BM）（AM-03M29BUM）	①点検・清掃			○		○	
	②テレメータ出力回路			○		○	
	③高圧出力監視回路			○		○	
	④トラブル監視回路			○		○	
36. テレメータ出力モジュール（AM-06MR74-2253）	①点検・清掃			○		○	
	②トラブル監視回路			○		○	
	③高圧出力監視回路			○		○	
	④出力波形確認			○		○	
37. テレメータ出力モジュール（AM-03M22R3）（AM-03M22BR2）（AM-03M22BVR2）	①点検・清掃			○		○	
	②トラブル監視回路			○		○	
	③高圧出力監視回路			○		○	
	④V／F変換回路の調整			○		○	
38. ライズタイムツーハイトコンバーター（AA－3207）	①点検・清掃			○		○	
	②ディスクリ点検			○		○	
	③WALK点検			○		○	
	④ピックオフ点検			○		○	
	⑤レンジ確認			○		○	
39. 警報表示ﾓｼﾞｭｰﾙ（AM-93MR74-2253）	①点検・清掃			○		○	
	②プリセット動作確認			○		○	
	③状態表示動作確認			○		○	
	④リセット信号出力確認			○		○	
40. ハンディスケーラ（TDC－104）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源部試験			○		○	
	④高圧電源試験			○		○	
	⑤計数部試験			○		○	
41. ﾍﾞｰｼｯｸｽｹｰﾗ（TDC－105）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源部試験			○		○	
	④高圧電源試験			○		○	
	⑤計数部試験			○		○	
	⑥HV　LIMIT動作の確認			○		○	
42. スケーラ（TDC－513）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源部試験			○		○	
	④高圧電源試験			○		○	
	⑤計数部試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	6／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
43. ユニバーサルスケーラ（TDC－511）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧出力電圧の確認			○		○	
	④高圧電源部試験			○		○	
	⑤リニアアンプ部試験			○		○	
	⑥総合直線性			○		○	
	⑦機能検査			○		○	
44. ユニバーサルスケーラ（MAR-202USI）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源部試験			○		○	
	④高圧電源部試験			○		○	
	⑤リニアアンプ部試験			○		○	
	⑥総合直線性			○		○	
	⑦エネルギー補償部試験			○		○	
	⑧機能検査			○		○	
45. スミヤカウンタスケーラ（TDC-R14-215）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源部試験			○		○	
	④高圧電源試験			○		○	
	⑤計数部試験			○		○	
46. GM／SCINTI COUNTER（603A）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③高圧電源部試験			○		○	
	④計数部			○		○	
47. フィールドモニタ（MAR-202WS1）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源部試験			○		○	
	④高圧電源部試験			○		○	
	⑤リニアアンプ部試験			○		○	
	⑥総合直線性			○		○	
	⑦エネルギー補償部試験			○		○	
	⑧機能検査			○		○	
48. マルチモードアンプ（704－3B）（704－4B）	①点検・清掃			○		○	
	②COARSE　GAIN点検			○		○	
	③FINE　GAIN点検			○		○	
	④無歪最大出力電圧点検			○		○	
	⑤波形整形確認			○		○	
	⑥PZ点検			○		○	
49. サムディレイアンプ（719－1）	①点検・清掃			○		○	
	②GAIN点検			○		○	
	③最大無歪出力電圧の確認			○		○	
	④ディレイ時間の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成８年３月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	7／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		１ヶ月	３ヶ月	６ヶ月	１ヶ年	受入時	
50. 線量率計	①点検・清掃			○		○	
（ＡＭ－２３Ｍ２１Ｒ３）	②点検前確認			○		○	
	③レンジ切換回路の調整			○		○	
	④非直線性の確認			○		○	
	⑤ﾛｸﾞ－１・２ﾚﾝｼﾞ信号出力確認			○		○	
	⑥時定数測定			○		○	
	⑦アラーム動作確認			○		○	
51. デジタル線量率計	①点検・清掃			○		○	
(AM-42MR74-2345)	②レートメータ非直線性の測定			○		○	
(AM-42M03R・-U3)	③テスト動作確認			○		○	
(AM-22MR74-3857)	④レンジマーカー出力測定			○		○	
(AM-42MR74-3857)	⑤時定数測定			○		○	
	⑥アラーム動作確認			○		○	
52. 直線線量率計	①点検・清掃			○		○	
（ＡＭ－４３Ｍ５２ＢＲ）	②点検前ＣＡＬ値確認			○		○	
	③ﾚｰﾄﾒｰﾀｵﾌｾｯﾄ電圧零調整			○		○	
	④非直線性の確認			○		○	
	⑤時定数			○		○	
	⑥アラーム動作確認			○		○	
	⑦メータ係数調整			○		○	
53. 対数線量率計	①点検・清掃			○		○	
(AM-43MR74-1670-1)	②ディスクリ電圧の確認			○		○	
	③レートメータ非直線性の測定			○		○	
	④自動切換動作の確認			○		○	
	⑤アラーム動作確認			○		○	
	⑥ＣＡＬ確認			○		○	
54. 線量率計	①点検・清掃			○		○	
（ＲＵ７３８Ｂ）	②ディスクリ電圧の確認			○		○	
	③非直線性の確認			○		○	
	④レンジ出力電圧確認			○		○	
	⑤内部設定確認			○		○	
55. デジタル計数率計	①点検・清掃			○		○	
(AM-42M03R-M2)	②レートメータ非直線性の測定			○		○	
(AM-42MR74-2253)	③テスト動作確認			○		○	
	④レンジマーカー出力測定			○		○	
	⑤時定数測定			○		○	
	⑥アラーム動作確認			○		○	
	⑤内部設定確認			○		○	
56. 対数計数率計	①点検・清掃			○		○	
（ＡＭ－４３Ｍ０６ＤＵ）	②ディスクリレベル設定			○		○	
	③レートメータ非直線性の測定			○		○	
	④アラーム動作確認			○		○	
	⑤ＣＡＬ値確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	8／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
57. 計数率計	①点検・清掃			○		○	
（RU738B）	②ディスクリレベル設定			○		○	
	③非直線性の測定			○		○	
	④レンジ出力電圧確認			○		○	
	⑤内部設定確認			○		○	
58. 自動試料交換装置	①点検・清掃			○		○	
（SC－756C・	②動作確認			○		○	
・B・R）	③低圧電源			○		○	
59. 波形分別	①点検・清掃			○		○	
（AM－13M01）	②出力波形確認			○		○	
60. コインシデンス	①点検・清掃			○		○	
（31R74-3180）	②GATE　WIDTH確認			○		○	
	③最小入力電圧確認			○		○	
	④コインシデンス動作確認			○		○	
61. ﾁｪｯｸ端子ﾓｼﾞｭｰﾙ	①点検・清掃			○		○	
（AM－01M05）	②インターフェース精度			○		○	
62. ﾁｪｯｸ端子ﾓｼﾞｭｰﾙ	①点検・清掃			○		○	
（AM-91MR74-2435）	②HV出力の確認			○		○	
	③DISCR　OUT出力の確認			○		○	
	④D．R　OUT出力の確認			○		○	
63. リニアゲート	①点検・清掃			○		○	
（710－1）	②直線性点検			○		○	
	③ゲート幅測定			○		○	
	④ペディスタルの測定			○		○	
64. α・β低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	①点検・清掃			○		○	
多ｻﾝﾌﾟﾙ自動測定装置	②低圧電源			○		○	
（LBC-453 電源部）	③高圧電源			○		○	
	④総合消費電力測定			○		○	
65. 多試料同時放射能	①点検・清掃			○		○	
測定装置（電源部）	②低圧電源			○		○	
（JDC-R74-3493）	③高圧電源			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	9／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
67. ZnS ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	①点検・清掃			○		○	
（ZD-451 型）	②増幅器部			○		○	
（ZD-453 型）	③プラトー測定			○		○	
（ZDS-451型）							
（ZDS-453型）							
（ZD-451FU）							
（223）							
68. ZnS ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	①点検・清掃			○		○	
（ZD-R74-3493）	②プラトー測定			○		○	
69. GM管検出器	①点検・清掃			○		○	
（GP－1027）	②プラトー測定			○		○	
（GP－14V）							
（GP－101）							
（214）							
70. βﾀﾞｽﾄﾓﾆﾀ検出器	①点検・清掃			○		○	
（GM－5004）	②プラトー測定			○		○	
71. NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	①点検・清掃			○		○	
（ND－451型）	②増幅器部			○		○	
（ND－471型）	③プラトー測定			○		○	
（ND-1201B）	④エネルギー分解能測定			○		○	
（ND-471CV）							
72. NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	①点検・清掃			○		○	
（ND-13BUR）	②プラトー測定			○		○	
	③エネルギー分解能測定			○		○	
73. 3φ球型NaI(Tl) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	①点検・清掃			○		○	
（ND－371C）	②プラトー測定			○		○	
	③エネルギー分解能測定			○		○	
74. βガス検出器	①点検・清掃			○		○	
（BD－23）	②プラトー測定			○		○	
75. ZnS+ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	①点検・清掃			○		○	
（ZPD－101B）	②増幅器部			○		○	
	③プラトー測定			○		○	
76. α・β低ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ多ｻﾝﾌﾟﾙ自動測定装置	①点検・清掃			○		○	
（ZD-LBC-453）	②プラトー測定			○		○	
77. 自動試料交換測定装置	①点検・清掃			○		○	
（SC－511）	②低圧電源			○		○	
	③機能検査			○		○	
	④総合消費電力測定			○		○	
	⑤プラトー測定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	単体検査	施設	全施設共通	10／10

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
78. 加温コントローラ TC－3B TC－2 AM－06M02M AM－06M03M	①点検・清掃			○		○	
	②温度変換回路試験			○		○	
	③記録計用出力確認			○		○	
79. パーソナルチェッカー PSC－501	①点検・清掃			○		○	
	②充電機能の確認			○		○	
	③動作確認			○		○	
	④自然計数率の測定			○		○	
	⑤α効率の測定			○		○	
	⑥感度分布の確認			○		○	
	⑦充電池の交換			○		○	
80. 充電器	①点検・清掃			○		○	
	②動作試験器			○		○	
	③充電器			○		○	

3．　点検項目及び点検頻度

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

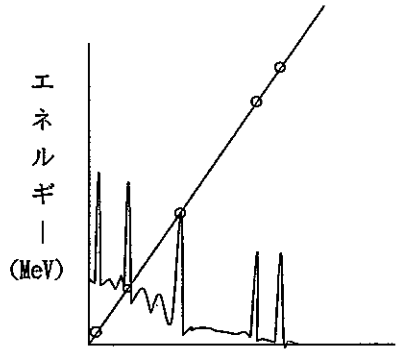
改訂　平成8年3月

機器名	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ（空間線量率系）	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	周辺監視区域		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．指示値の確認	線量率系及び計数率系に於いて指示計、記録計の指示値の確認を点検前及び点検後実施する。 以下の点検においては、出力信号をテスト状態にして時刻を記録する。 点検開始前に^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間計数させる。	読み値	
3．測定モードの確認	①線量率系及び計数率系のＲＭモジュール、ＲＭアラーム設定値及びＨＶ設定値を確認する。 ②印加電圧を 800(V) に設定する。調整は25(V)づつ可変する。 ③^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ④^{137}Cs線源(662keV)によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 ⑤プリアンプを外しＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が④項のピークチャンネル数と同じなるようパルスジェネレータを調整する。 ⑥ＭＣＡを外しシンクロスコープを接続して電圧を測定する。 ④項で設定した入力電圧に於いて、ＡＭＰ　ＯＵＴが -1.32(V) になるようにＡＭＰ　ＧＡＩＮを設定する。 設定不可能の場合は、②～⑤項を繰り返し行う。	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑦^{133}Ba線源(0.08MeV、0.356MeV)、^{137}Cs線源(0.662MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV、1.33MeV)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル ⑧50(KeV)相当のＭＰＧ出力パルス50(Hz)をＡＭＰに入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴの電圧が-100(mV)であることを確認する。同時に、スケーラにてＤＢＭ出力が30±3(cpm)であることを確認する。 ⑨ＳＣＨ　ＰＨＡのＬＬＤを調整し、ログカウントレートメータが計数し始まるＬＬＤの目盛を確認する。 ＳＣＨ　ＩＮＴ　ＭＯＤＥで行う。 ⑩^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間計数させる。		
4．エネルギー直線性確認	3.⑦項のグラフに於いて、^{133}Ba線源(0.356MeV)と^{60}Co線源(1.17MeV)からエネルギー／チャンネルを計算し、計算値と実測値との各エネルギーに於けるチャンネルの誤差を求める。 ディスクリレベル及び^{137}Cs線源によるピーク電圧を確認する。	①直線性：±15(%)以内 誤差の一番大きいのを記載 ②下限値：-0.1(V) ③ピーク電圧(^{137}Cs線源) ：-1.32(V)	＊求める線源 ^{60}Co線源 1.33(MeV) 1.17(MeV) ^{137}Cs線源 0.662(MeV) ^{133}Ba線源 0.356(MeV)

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．感度試験	$^{226}R_a$線源(3.7×10^{6}Bq)により下記の3点で照射試験を行う。そして、平均感度(換算定数)を求める。 測定はＤＢＭ　ＯＵＴにスケーラを接続し、5(分)間行う。 グラフを作成すること。 吸収線量率 1.429　(μGy/h) 0.700　(μGy/h) 0.352　(μGy/h)	計算値	
6．異常信号確認	アラームレベルを任意の値に設定し、内蔵テスト信号によりトリップ動作を行い、警報試験をする。 ・アラームレベルでトリップ ・警報ランプが点灯すること ・リセットにより警報解除されること	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ（βガス系）	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	周辺監視区域		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 点検開始前に出力信号をテストにし、その時刻記録を記入する。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＨＶケーブル（＋・ＧＮＤ間）の絶縁抵抗を測定する。但し、ＧＭ管検出器は外した状態とする。 500（Vメガー）を使用すること。	50(MΩ）以上	
3．指示値の確認	点検前及び点検後の指示計及び記録計のＢＧ値を確認する。	読み値	
4．測定モードの確認	各設定値を確認する。 ・ＲＭモジュールレンジ ・ＲＭアラーム設定値 ・ＨＶ設定値 ＊　ＨＶ設定値は、βガス検出器プラトー試験に於けるプラトー領域内の中央値に設定する。	読み値	
5．ガス校正試験	試験用ループに検出器を接続し、この状態にてＢＧを10(分)間測定する。 ＢＧ測定後^{85}Ｋ，ガス使用して実流試験を実施する。ガス濃度範囲は、約0.1 ～30(Bq/cc)とし、電離電流／デガード3(点)づつ測定する。 ガスループ静止状態及び圧力一定で測定を行うこと。 グラフを作成すること。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	スケーラ及びRMモジュールの計数値はBG値の3σが1(%)以下になるようにする。 電離電流から濃度換算は濃度換算表を用いる。 濃度換算定数（Bq/cc/cpm） 濃度（Bq/cc） ÷（計数値(cpm) － BG(cpm)） 以上から平均感度換算定数を求める。		
6．異常信号確認	アラームレベルを任意の値に設定し、内蔵テスト信号によりトリップ動作を行い、警報試験をする。 1）アラームレベルでトリップすること 2）警報ランプが点灯すること 3）リセットにより警報が解除されること	正常に動作すること	
7．指示値と記録計の指示確認	CALにて指示計と記録計との誤差を測定する。	フルスケールの±5(%)以内	
8．吸引装置点検	サンプラー1及びサンプラー2について、圧力計及び流量計の指示値を記録し、モータ、ポンプ等が正常動作する事を確認する。 点検完了後、リセットしその時刻を記録する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ(ﾃﾚﾒｰﾀ入出力系)	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	周辺監視区域		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 点検開始前に出力信号をテストにし、その時刻を記録する。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．テレメータ入出力 2.1 入出力計数値測定	^{137}Cs線源(3.7×10^{4}(Bq))を各検出器に密着させ、テレメータ入力及び出力の計数値、波高値及びパルス幅を測定する。 a）空間線量率　(線量率計) b）　〃　　(計数率計) c）βガス系		
2.2 ＬＶトラブル確認	ＬＶの±24(V)、±12(V)、6(V)のいずれか又は複数が“断”した場合にランプが消灯することを確認する。	ランプ消灯	
2.3 高圧出力監視回路確認	ＣＨ－１及びＣＨ－２について、ＨＶ断及びＨＶ設定値±100(V)オーバにて、ランプ消灯することを確認する。 確認後、ダイヤルをＨＶ設定値に設定する。	ランプ消灯	
2.4 ＴＥＳＴ確認	ＴＥＳＴ／ＲＥＳＥＴスイッチをＴＥＳＴにしＴＥＳＴランプが点灯すること及びＲＥＳＥＴにし点灯しランプが消灯することを確認する。	ＴＥＳＴ　：ランプ点灯 ＲＥＳＥＴ：ランプ消灯	
3．外部表示確認	ランプ等外部表示を確認する。 点検完了後、リセットしその時刻を記録する。	正常に表示すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

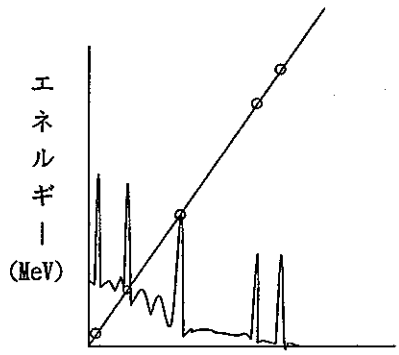
機器名	モニタリングステーション(ST-5)	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	周辺監視区域		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．指示値の確認	現場盤及び中央監視盤の線量率計及び計数率計に於いて、デジタル表示計、記録計の指示値の確認を点検前及び点検後実施する。 但し、中央監視盤については線量率計のみとする。 以下の点検においては、出力信号をテスト状態にして時刻を記録する。 点検開始前に^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間計数させる。	読み値	
3．測定モードの確認	①線量率計及び計数率計のＲＭ　ＬＩＮ－ＬＯＧ切換、ＲＭ　ＡＬＭ（Ｈｉ）設定値、ＲＭ　ＡＬＭ（Ｌｏ）設定値及びレスポンス設定を確認する。 し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ②印加電圧を 800(V) に設定する。調整は25(V)づつ可変する。 ③^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ④^{137}Ｃｓ線源(662keV)によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 ⑤プリアンプを外しＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が④項のピークチャンネル数と同じなるようパルスジェネレータを調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

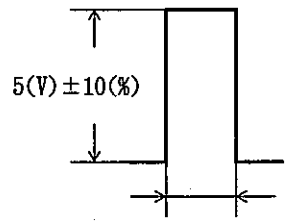
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑥ＭＣＡを外しシンクロスコープを接続して電圧を測定する。 ④項で設定した入力電圧に於いて、ＡＭＰ　ＯＵＴが -1.32(V) になるようにＡＭＰ　ＧＡＩＮを設定する。 ⑦^{133}Ｂａ線源(0.08MeV、0.356MeV)、^{137}Ｃｓ線源(0.662MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV、1.33MeV)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル ⑧50(KeV)相当のＭＰＧ出力パルス50(Hz)をＡＭＰに入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴの電圧が-100(mV)であることを確認する。同時に、スケーラにてＤＢＭ出力が30±3(cpm)であることを確認する。 ⑨ＳＣＨ　ＰＨＡのＬＬＤを調整し、ログカウントレートメータが計数し始まるＬＬＤの目盛を確認する。 ＳＣＨ　ＩＮＴ　ＭＯＤＥで行う。 ⑩^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間計数させる。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．エネルギー直線性確認	3.⑦項のグラフに於いて、^{133}B$_a$線源(0.356MeV)と^{60}C$_o$線源(1.17MeV)からエネルギー／チャンネルを計算し、計算値と実測値との各エネルギーに於けるチャンネルの誤差を求める。 ディスクリレベル及び^{137}C$_s$線源によるピーク電圧を確認する。	①直線性：±15(%)以内 誤差の一番大きいのを記載 ②下限値 ③ピーク電圧(^{137}Cs線源)	＊求める線源 ^{60}Co線源 1.33(MeV) 1.17(MeV) ^{137}Cs線源 0.662(MeV) ^{133}Ba線源 0.356(MeV)
5．感度試験	^{226}R$_a$線源(3.7×10^6Bq)により下記の3点で照射試験を行う。そして、平均感度(換算定数)を求める。 測定はＤＢＭ　ＯＵＴにスケーラを接続し、5(分)間行う。 グラフを作成すること。 吸収線量率 1.429　(μGy/h) 0.700　(μGy/h) 0.352　(μGy/h)		
6．異常信号確認	アラームレベルを任意の値に設定し、内蔵テスト信号によりトリップ動作を行い、警報試験をする。 ・アラームレベルでトリップ ・警報ランプが点灯すること ・リセットにより警報解除されること	正常に動作すること	
7．テレメータ入出力確認 7.1 出力波形確認	^{137}Cs線源(3.7×10^4Bq)を検出器中央に置き、テレメータ出力の波高値及びパルス幅を線量率計及び計数計に於いて測定する。 チェック端子 線量率計　：　1 計数率計　：　2	 Tr= 0.2(μsec)以下 Td= 0.2(μsec)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7.2 ＬＶトラブル確認	ＬＶの±24(V), ±12(V), ±6(V)のいずれか又は複数が「断」した場合ランプが消灯することを確認する。	ランプ消灯	
7.3 高圧出力監視回路確認（ＣＨ－１）	ＣＨ－１について、ＨＶ「断」及びＨＶ設定値±100(V)オーバにて、ランプが消灯することを確認する。 確認後、ダイヤルをＨＶ設定値に設定する。	ランプ消灯	
7.4 ＴＥＳＴ確認	ＴＥＳＴ／ＲＥＳＥＴスイッチをＴＥＳＴにしＴＥＳＴランプが点灯すること及びＲＥＳＥＴにしているランプが消灯することを確認する。	ＴＥＳＴ　：ランプ点灯 ＲＥＳＥＴ：ランプ消灯	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

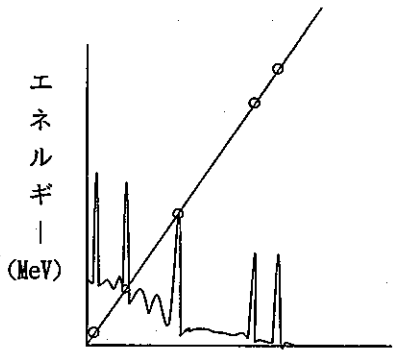
機器名	モニタリングポスト	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	周辺監視区域		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．指示値の確認	現場盤及び中央環視盤の線量率計及び計数率計に於いて、デジタル表示計の指示値の確認を点検前及び点検後実施する。 但し、中央環視盤については線量率計のみとする。 以下の点検においては、出力信号をテスト状態にして時刻を記録する。 点検開始前に^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間計数させる。	読み値	
3．測定モードの確認	①線量率計及び計数率計のＲＭ　ＬＩＮ－ＬＯＧ切換、ＲＭ　ＡＬＭ（Ｈｉ）設定値、ＲＭ　ＡＬＭ（Ｌｏ）設定値及びレスポンス設定を確認する。 し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ②印加電圧を 800(V) に設定する。調整は25(V)づつ可変する。 ③^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ④^{137}Cs線源(662keV)によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 ⑤プリアンプを外しＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が④項のピークチャンネル数と同じくなるようにパルスジェネレータを調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

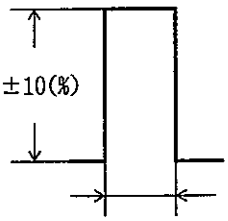
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	⑥ＭＣＡを外しシンクロスコープを接続して電圧を測定する。 ④項で設定した入力電圧に於いて、ＡＭＰ　ＯＵＴが -1.32(V) になるようにＡＭＰ　ＧＡＩＮを設定する。 ⑦^{133}Ｂａ線源(0.08MeV、0.356MeV)、^{137}Ｃｓ線源(0.662MeV)及び^{60}Ｃｏ線源(1.17MeV、1.33MeV)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル ⑧50(KeV)相当のＭＰＧ出力パルス50(Hz)をＡＭＰに入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴの電圧が-100(mV)であることを確認する。同時に、スケーラにてＤＢＭ出力が30±3(cpm)であることを確認する。 ⑨ＳＣＨ　ＰＨＡのＬＬＤを調整し、ログカウントレートメータが計数し始まるＬＬＤの目盛を確認する。 ＳＣＨ　ＩＮＴ　ＭＯＤＥで行う。 ⑩^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間計数させる。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．エネルギー直線性確認	3.⑦項のグラフに於いて、$^{133}B_a$線源(0.356MeV)と$^{60}C_o$線源(1.17MeV)からエネルギー／チャンネルを計算し、計算値と実測値との各エネルギーに於けるチャンネルの誤差を求める。 ディスクリレベル及び$^{137}C_s$線源によるピーク電圧を確認する。	①直線性：±15(%)以内 誤差の一番大きいのを記載 ②下限値 ③ピーク電圧(^{137}Cs線源)	＊求める線源 ^{60}Co線源 1.33(MeV) 1.17(MeV) ^{137}Cs線源 0.662(MeV) ^{133}Ba線源 0.356(MeV)
5．感度試験	$^{226}R_a$線源(3.7×10^6Bq)により下記の3点で照射試験を行う。そして、平均感度(換算定数)を求める。 測定はＤＢＭ　ＯＵＴにスケーラを接続し、5(分)間行う。 グラフを作成すること。 吸収線量率 1.429　(μGy/h) 0.700　(μGy/h) 0.352　(μGy/h)		
6．異常信号確認	アラームレベルを任意の値に設定し、内蔵テスト信号によりトリップ動作を行い、警報試験をする。 ・アラームレベルでトリップ ・警報ランプが点灯すること ・リセットにより警報解除されること	正常に動作すること	
7．テレメータ入出力確認 7.1 出力波形確認	^{137}Cs線源(3.7×10^4Bq)を検出器中央に置き、テレメータ出力の波高値及びパルス幅を線量率計及び計数計に於いて測定する。 チェック端子 線量率計　：　1 計数率計　：　2	 Tr= 0.2(μsec)以下 Td= 0.2(μsec)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

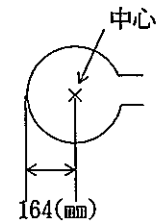
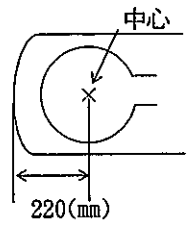
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7.2 ＬＶトラブル確認	ＬＶの±24(V), ±12(V), ±6(V)のいずれか又は複数が「断」した場合ランプが消灯することを確認する。	ランプ消灯	
7.3 高圧出力監視回路確認（ＣＨ－１）	ＣＨ－１について、ＨＶ「断」及びＨＶ設定値±100(V)オーバにて、ランプが消灯することを確認する。 確認後、ダイヤルをＨＶ設定値に設定する。	ランプ消灯	
7.4 ＴＥＳＴ確認	ＴＥＳＴ／ＲＥＳＥＴスイッチをＴＥＳＴにしＴＥＳＴランプが点灯すること及びＲＥＳＥＴにしているランプが消灯することを確認する。	ＴＥＳＴ　：ランプ点灯 ＲＥＳＥＴ：ランプ消灯	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	高線量率計(ｽﾃｰｼｮﾝ・ﾎﾟｽﾄ)	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	周辺監視区域		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジ、コネクタのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品へ破損がないこと 3）サビがでていないこと 4）ネジのゆるみがないこと 5）コネクタの接触不良がないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．指示値の確認	現場盤及び中央監視盤の指示計の指示値の確認を点検前及び点検後実施する。 以下の点検に於いては、出力信号をテスト状態にして時刻を記録する。		
3．測定モードの確認	現場盤及び中央監視盤の各設定値を確認する。 現場盤　：線量率計モジュールレンジ ：線量率計アラーム設定値 中央監視盤：線量率計アラーム設定値 又は、 現場盤及び中央監視盤（ポスト） ：設定切換 ：RM ALM(Hi) ：RM ALM(Lo) ：時定数設定		
4．線量率直線性試験	下記線源を使用して、現場盤及び中央監視盤の指示計の指示値の測定を行う。 現場盤に於いては、指示計の指示値及びチェック端子モジュールのＤＥＴ　ＯＵＴ（Ｊ３）にデジタルボルトメータを接続して、その出力電圧を測定する。 中央監視盤に於いては、指示計及び記録計の指示値を測定する。 但し、ＢＧ値も測定する。	±20(%)以内 但し^{226}Ra線源(0.164m, 0.220m)は参考値とする	 

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	線源　　距離 $^{226}R_a$線源　1(m), 0.164(m) $^{137}C_s$線源　1(m) $^{60}C_o$線源　1(m) 場所 / ステーション 1 2 3 4 5 / ポスト 1 2 3 4 5 6 7 現場　○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 中央監視盤　× × × × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		＊使用線源 3.7 ×10^6(Bq) ＊○は有り ×は無し

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

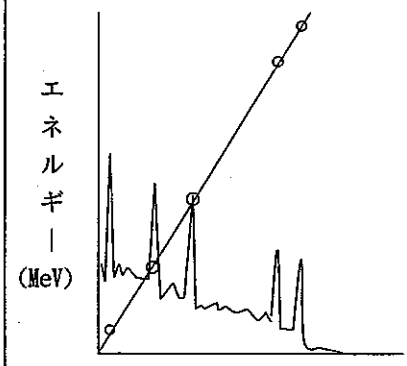
機器名	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ車（空間γ線量率ﾓﾆﾀ）	型　名		メーカ名	東芝
検査名	総合検査	施設名	安全管理棟		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．指示値の確認	線量率系及び計数率系に於いて、デジタル表示、記録計の確認をする。	読み値	
3．測定モードの確認	①　印加電圧を800(V)前後に設定する。調整は25(V) づつ可変する。 ②　^{60}Co線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ③　^{60}Co線源(1.33MeV) によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 ④　プリアンプを外し、ＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が③項のピークチャンネル数と同じになるようにパルスジェネレータを調整する。 ⑤　ＭＣＡを外し、シンクロスコープを接続して電圧を測定する。 ④項で設定した入力電圧に於いて、ＡＭＰ　ＯＵＴが+ 2.2(V)になるように、ＡＭＰ　ＧＡＩＮを設定する。 設定不可能の場合は、①～⑤項を繰り返す。 ⑥　^{133}Ba線源(0.08MeV,0.356MeV),^{137}Cs線源(0.662MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV,1.33MeV)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトル測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。	グラフ作成	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．エネルギー直線性確認	 チャンネル（ＣＨ） ・・・　エネルギー対チャンネル ⑦　⑥項より、50(KeV) 相当のパルスジェネレータの出力パルス(50 Hz) をＡＭＰに入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴが80(mV)であることを確認する。 ⑧　規格外の時は、再度設定を行う。 ⑨　次に、カウントレートメータが数え始める所に、Ｓ・ＣＨ・ＰＨＡのＬＬＤを設定し、目盛を読み取る。 上記の設定が出来たら、^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、ＤＲ　ＯＵＴにスケーラ・タイマに接続し、３分間測定する。 設定前の値も測定する。 3.⑥項グラフにて^{133}Ba線源(0.356MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV) より(KeV/CH)を求め、計算値と実測値との各エネルギーＣＨの最大のズレを比較する。 計算式 $A(KeV/CH)=\dfrac{^{60}Co_{エネルギー}(1170KeV) - ^{133}Ba_{エネルギー}(356KeV)}{^{60}Co_{チャンネル}(1170KeVのCH) - ^{133}Ba_{チャンネル}(356KeVのCH)}$ $B(Kev)= ^{60}Co_{エネルギー}(1170KeV) - ^{60}Co_{チャンネル}(1170KeVのCH) \times A$ $誤差=\dfrac{(求める線源_{チャンネル}\times A+B) - (求める線源_{エネルギー})}{(求める線源_{エネルギー})}\times 100(\%)$		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．感度試験	^{226}Ra線源(3.7×10^{6}Bq:100μCi)により下記の3点で照射試験を行い、3点の平均感度を求める。 1.429(μGy/h)　:　70(cm) 0.700(μGy/h)　:　100(cm) 0.352(μGy/h)　:　141(cm)	グラフ作成	
6．異常信号確認	アラームレベルを設定し、外部信号によりトリップ動作を行い警報試験を行う。	・アラームレベルでトリップ ・警報ランプ点灯 ・リセットにより警報解除	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	モニタリング車（β（γ）測定系）	型　名		メーカ名	東芝
検査名	総合検査	施設名	安全管理棟		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．総合点検			
2.1 検出器印加電圧	GM管検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の下端より1/3 付近の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 ディスクリレベル	デュアルカウンタタイマの入力感度値を記載する。	入力感度値	
2.3 ＢＧ値測定	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、5分ＢＧを測定する。	40(cpm)以下	
2.4 計数効率	U_3O_8線源(2" φアルミ板使用）を用いて5分間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧを減ずる。	15(%)以上	
2.5 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

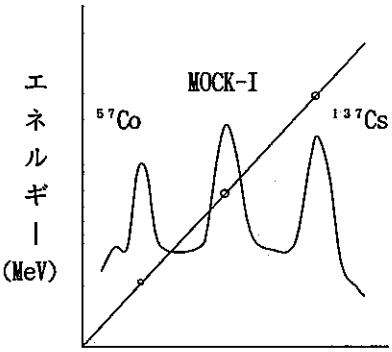
機器名	モニタリング車（よう素モニタ）	型　名		メーカ名	東芝
検査名	総合検査	施設名	安全管理棟		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．指示値の確認	点検前及び点検後のデジタル表示、記録計の確認をする。	読み値	
3．測定モードの確認	① 印加電圧を800(V)前後に設定する。調整は25(V) づつ可変する。 ② MOCK-IODINE 線源を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ③ MOCK-IODINE 線源(360KeV)によるエネルギールギーピークのチャンネル数を読み取る。 ④ プリアンプを外し、ＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が③項のピークチャンネル数と同じになるようにパルスジェネレータを調整する。 ⑤ ＭＣＡを外し、シンクロスコープを接続して電圧を測定する。 ④項で設定した入力電圧に於いて、ＡＭＰ　ＯＵＴが1.8(V)になるようにＡＭＰ　ＧＡＩＮを設定する。 設定不可能の場合は、①～⑤項を繰り返す。 ⑥ ^{57}Co線源(122KeV)、MOCK-IODINE 線源(360KeV)、^{137}Cs 線源(662KeV)、を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトル測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。	グラフ作成	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成８年３月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 チャンネル（ＣＨ） ・・・　エネルギー対チャンネル ⑦　MOCK-I線源のデータより、シングルチャンネルのBASE LINE 及びWINDOWを下記のごとく設定する。 360(KeV) ±10(%)	BASE LINE 設定 WINDOW設定	
４．エネルギー直線性確認	3.⑥項グラフにて^{57}Co線源(122KeV)及び^{137}Cs 線源(662KeV)より(KeV/CH)を求め、計算値と実測値との各エネルギーＣＨの最大のズレを比較する。 計算式 $A(KeV/CH)=\dfrac{^{137}Cs\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(662KeV) - {}^{57}Co\text{ ｴﾈﾙｷﾞ}(122KeV)}{^{137}Cs\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(662KeV\text{のCH}) - {}^{57}Co\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(122KeV\text{のCH})}$ $B(Kev)= {}^{137}Cs\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(662KeV) - {}^{137}Cs\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(662KeV\text{のCH}) \times A$ $\text{誤差}=\dfrac{(\text{求める線源ﾁｬﾝﾈﾙ}\times A+B)-(\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}\times 100(\%)$		
５．感度試験	下記設定にて、MOCK-IODINE 線源を用い、５分間デュアルカウンタタイマにて検出効率及び検出感度を求める。 ３６０(keV) ±１０ (%)	検出効率：2(%)以上 検出感度： 1.85×10^{-6}(Bq/cm^3)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・線源半減期補正の求め方 $N = No \cdot e^{-\frac{0.693 \times t}{T}}$ N　：　現在の崩壊数 No：　最初の崩壊数 T　：　半減期（MOCK-IODINE=10.7y） t　：　経過時間 ・検出効率の求め方 $\eta_e = \frac{N}{A \times 60} \times 100(\%)$ η_e：　検出効率(%) N　：　NET計数率(cpm) A　：　線源の崩壊数(Bq) ・検出感度の求め方 $Im = \frac{0.505 \times \sqrt{2nb}}{t_e \times F \times t \times \eta_e \times \eta_s}$ Im：　検出感度(Bq/cm³) nb：　t_e分間のBG計数率(cpm) t_e：　計数時間（30分） F　：　平均流量（60ℓ/min） t　：　捕集時間（30分） η_e：　検出効率(%) η_s：　捕集効率(90%)		
6．異常信号確認	アラームレベルを任意設定し、外部信号によりトリップ動作を行い警報試験を行う。	・アラームレベールでトリップ ・警報ランプ点灯 ・リセットにより警報解除	
7．サンプラ動作試験	下記の動作に異常のないこと。 ・最大流量 ・真空度-200(mmHg)時流量 （VACUUMメータは、検出器入口をふさいで行う） ・濾紙ホルダ部接続時流量	 100(Nℓ/min) 以上 60(Nℓ/min) 以上 60(Nℓ/min) 以上	

4．　点検整備技術要領書

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成８年３月

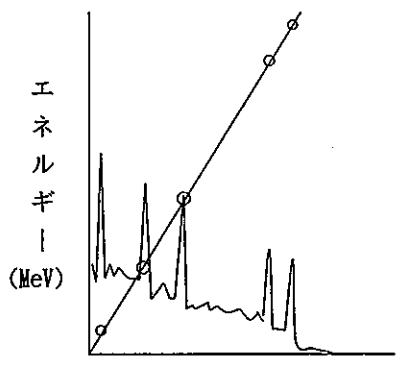
機器名	モニタリング車（No.２）	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	安全管理棟		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
２．指示値の確認	線量率及び計数率において、指示計及び記録計の指示値の確認を点検前及び点検後実施する。 以下の点検においては、スケーラ部の設定が以下の設定値であること。 Pre/Amp;入力条件、アンプの設定 DETECTTOR : SCINT input : Amp Shaping : Gauss Gain : （前回の設定値） Polarity : Neg IN Polarity : Pos OUT SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode : INT LL : 1.0 % dE : % UL : % HV; 高圧出力の設定 HV mode HV : （前回の設定値） LIMIT : 1000 V PRESET; 計数条件の設定 MODE : SCALER PT min : 1.0 REPEAT : 0 REC.OUT : LOG DOSE : E2 COUNT : E6	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

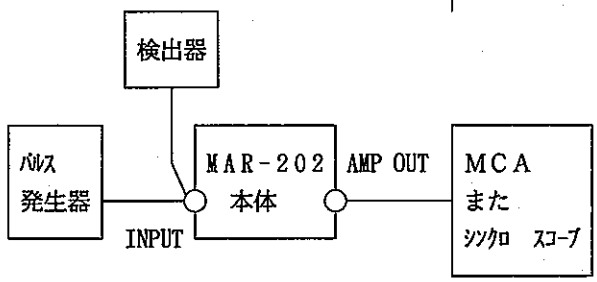
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	RS-232Cの設定 Control　：　Yes bit/sec　：　4800 Code　：　8b, 1sb FACTOR; 演算条件の設定 FACTOR　：　12900		
3．測定モードの確認	①　ＳＣＡをＩＮＴにし、ＬＬの値を13.2(%)に設定する。 ②　パルス発生器からの負信号をIN PUTに入力し、ＰＨＳ　ＯＵＴ（マイナス波形）に出力が出始める所にパルス発生器を設定する。 　この時のＡＭＰ　ＯＵＴをＭＣＡに入力し、ピークチャンネルを読み取る。 ③　パルス発生器を外し検出器を接続する。 　^{137}Cs 線源使用し、ＭＣＡにてスペクトル測定する。 ④　^{137}Cs 線源(0.662MeV)のピークチャンネルが②項のピークチャンネル値になる様に、ＡＭＰ　ＧＡＩＮ及びＨＶを調整する。 ⑤　^{133}Ba線源(0.08MeV,0.356MeV),^{137}Cs線源(0.662MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV,1.33MeV)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトル測定する。 　そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル	グラフ作成	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 MAR－202設定 Pre/Amp;入力条件、アンプの設定 DETECTTOR : SCINT input : Amp Shaping : Gauss Polarity : Neg IN Polarity : Pos OUT SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode : INT LL : 1.0 % dE : % UL : % ⑥ チェックソース(^{137}Cs:3.7×10^{4}Bq)(1μCi)を検出器の上部中央に置きＤＲＯＵＴのカウント数を確認する。		
4．エネルギー直線性確認	3.⑤項グラフにて^{133}Ba線源(0.356MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV)より(KeV/CH)を求め、計算値と実測値との各エネルギーＣＨの最大のズレを比較する。 計算式 $A(KeV/CH)=\dfrac{^{60}Co\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(1170KeV) - ^{133}Ba\text{ｴﾈﾙｷﾞ}(356KeV)}{^{60}Co\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(1170KeV\text{のCH}) - ^{133}Ba\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(356KeV\text{のCH})}$ $B(Kev)= ^{60}Co\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(1170KeV) - ^{60}Co\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(1170KeV\text{のCH}) \times A$ $\text{誤差}=\dfrac{(\text{求める線源ﾁｬﾝﾈﾙ}\times A+B) - (\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}\times 100(\%)$		

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．感度試験	^{226}Ra線源(3.7×10^{6}Bq:100μCi)により下記の3点で照射試験を行い、3点の平均感度を求める。 1.429(μGy/h)　：　70(cm) 0.700(μGy/h)　：　100(cm) 0.352(μGy/h)　：　141(cm)	グラフ作成	
6．DC／ACインバータ電源の確認	バッテリーブレーカ（SW-1）をONにする。（電圧が12(V) ～ 14(V)の範囲にあることを確認する。） インバータブレーカ（SW-2）をONにする。（電圧計が100(V)に振れ、赤ランプ点灯） 商用バッテリー切換スイッチ（SW-3）がインバータ側にあることを確認する。 デジタルボルトメータにより、インバータ本体のコンセントに接続し、AC出力を測定する。	AC 100±10(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／8

改訂　平成8年3月

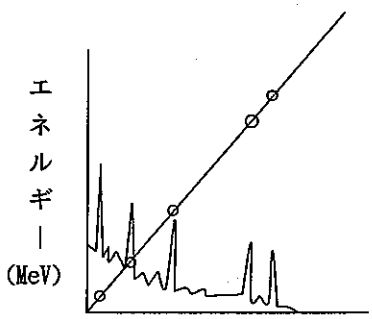
機器名	排水モニタ	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	排水モニタ室		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、サンプラー部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．指示値の確認	Ｎｏ１及びＮｏ２に於いてデジタル表示及び記録計の指示値の確認を点検前及び点検後に実施する。 以下の点検に於いては、出力信号をテスト状態にして時刻を記録する。	読み値	
3．測定モードの確認	①各設定値を確認する。 デジタル計数率計レンジ 〃　ＬＯアラーム設定値 〃　ＨＩアラーム設定値 〃　レスポンス設定 ＨＶ設定値 増巾器（ＣＯＡＲＳＥ／ＦＩＮＥ） ディスクリレベル ②印加電圧を800(V)に設定する。調整は25(V)づつ可変する。 ③^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ④^{137}Cs線源(662KeV)によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 ⑤プリアンプを外しＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が④項のピークチャンネル数と同じになるようにパルスジェネレータを調整する。 ⑥ＭＣＡを外しシンクロスコープを接続して電圧を測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／8

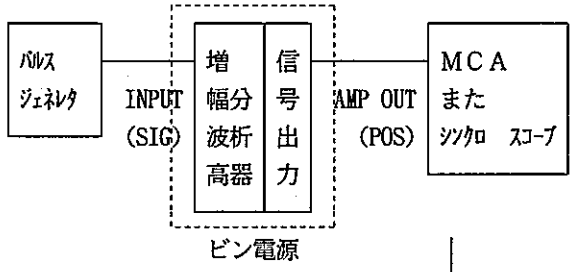
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑤項で設定した入力電圧に於いて、 ＡＭＰ　ＯＵＴが-1.32(V)になるように ＡＭＰＧＡＩＮを設定する。 設定不可能の場合は、②～⑤項を繰り返す。 ⑦^{133}Ｂａ線源(0.08MeV、0.356MeV)、 ^{137}Ｃｓ線源(0.662MeV)及び^{60}Ｃｏ線源 (1.17MeV、1.33MeV)を検出器に密着し、 ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル ⑧50(KeV)相当のパルスジェネレータ出力50(Hz)をＡＭＰに入力し、ＡＭＰ電圧が-100(mV)であることを確認する。 ⑨ＳＣＨ　ＰＨＡのＬＬＤを調整し、デジタルレートメータが計数し始まるＬＬＤの目盛を確認する。 また、ＲＭレンジアラーム等を設定する。 設定値 デジタル計数率計レンジ 〃　　ＬＯアラーム設定値 〃　　ＨＩアラーム設定値 〃　　レスポンス設定 ＨＶ設定値 増巾器（ＣＯＡＲＳＥ／ＦＩＮＥ） ディスクリレベル		

点検整備技術要領書

整理番号		3／8

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑩^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間測定する。  		
4．エネルギー直線性確認	3⑦項のグラフに於いて、^{133}Baエネルギー線源(0.356MeV)と^{60}Co線源(1.17MeV)からエネルギー／チャンネルを計算し、計算値と実測値との各エネルギーに於けるチャンネルの誤差を求める。 計算式 $A(KeV/CH)=\dfrac{^{60}Co\text{エネルギー}(1170KeV) - {}^{133}Ba\text{エネルギー}(356KeV)}{^{60}Co\ \text{チャンネル}(1170KeV\text{のCH}) - {}^{133}Ba\text{チャンネル}(356KeV\ \text{のCH})}$ $B(KeV) = {}^{60}Co\text{エネルギー}(1170KeV) - (^{60}Co\text{チャンネル}(1170KeV\text{のCH}) \times A)$ $\text{誤差}=\dfrac{(\text{求める線源チャンネル} \times A + B) - (\text{求める線源エネルギー})}{(\text{求める線源エネルギー})} \times 100(\%)$	①直線性：±15(%)以内 誤差の一番大きいのを記載 ②下限値 ③ピーク電圧（^{137}Cs線源）	＊求める線源 ^{60}Co線源 1.33(MeV) 1.17(MeV9 ^{137}Cs線源 0.662(MeV) ^{133}Ba線源 0.356(MeV)
	ディスクリレベル及び^{137}Cs線源によるピーク電圧を確認する。		
5．感度試験	①検出器を試験槽に入れる。 ②試験槽に水道水を満たし、5(分)間測定する。 ③水道水を抜きＫＣℓ250(g)/20(ℓ)溶液入れ、5(分)間測定する。 測定後溶液をバイアルビンに採取する。 使用後ＫＣℓ溶液はポリタンクに戻す。		＊^{40}Kを使用する計算式は別添「^{40}Ｋ校正による換算定数算出式」参照

点検整備技術要領書

整理番号		4／8

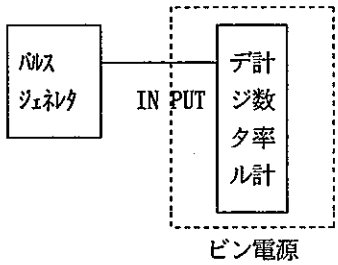
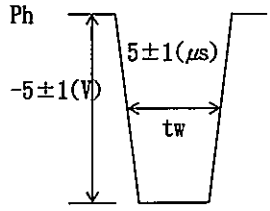
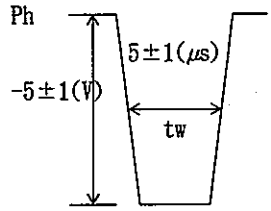
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	④ＫＣℓ1(Kg)/20(ℓ)溶液を試験槽に入れ、5(分)間測定する。 測定後溶液をバイアルビンに採取する。 使用後ＫＣℓ溶液はポリタンクに戻す。 ⑤ＫＣℓ2.5(Kg)/20(ℓ)溶液も同様に行う。 ⑥③～⑤項で採取したＫＣℓ溶液の^{40}Ｋ濃度を環安課に測定依頼する。 ⑦③～⑤項で得られた計数値と⑥項で得られた濃度により単位時間(cpm)当たりの濃度(Bq/cm^3)を求める。 計数値対濃度のクラフを作成し、平均値から換算定数を求める。		
6．警報動作確認 6.1 電源異常	低圧電源モジュールの電源スイッチをＯＦＦにした場合、警報表示モジュールのランプが点滅することを確認する。 警報表示モジュール ＬＶ１（Ｎｏ１系） ＬＶ２（Ｎｏ２系） ＬＶ３（共通部）	正常に動作すること	
6.2 高圧電源異常	①ＨＶ「断」にて、警報表示モジュールのランプが点滅することを確認する。 ②テレメータ出力モジュールのＨＶ設定値を±100(V)に可変し、警報表示モジュールのランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
6.3 漏水警報	漏水ポンプ運転モード切換スイッチを自動にして雑排水口に水道より排水し、ポンプがＯＮしたとき、警報表示モジュールの漏水警報ランプが点滅することを確認する 確認後、制御盤の漏水ランプリセットスイッチにて、漏水ランプをリセットする。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		5／8

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6.4 RMアラーム	RM1（No.1　Hi）及びRM2（No.2 Hi）に於いてRMアラームレベルを任意の値に設定し、パルスジェネレータより信号を入力しトリップ動作を行い警報試験をする。 ・アラームベルでトリップすること ・警報ランプが点灯すること ・リセットにより警報解除されること  	正常に動作すること	
6.5 サンプリング異常	制御盤内の排水加圧ポンプ用ブレーカを切りにし、サンプリング異常を出力し、警報表示モジュールのランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること。	
7．出力信号の確認 7.1 安管棟出力 (1) No.1信号出力	排水モニタ室及びパネル室に於いて、測定部ビン－3のJ_{325}（No 1）にシンクロスコープを接続し、出力波形を測定する。	 	
(2) No.2信号出力	排水モニタ室及びパネル室に於いて、測定部ビン－3のJ_{326}（No 2）にシンクロスコープを接続し、出力波形を測定する。	 	

点検整備技術要領書

整理番号		6／8

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(3) アラーム（漏水）	6項の試験ときに測定部本体裏面端子類の監視情報出力端子のうち安管棟用各出力端子の出力信号をデジボルにて確認する。 また、パネル室に於いても確認する。 排水モニタ室 （安管棟用） 電源異常　ＬＶ１異常　１－２端子 ＬＶ２異常　３－４端子 ＬＶ３異常　５－６端子 高圧電源異常　ＨＶ１異常　７－８端子 ＨＶ２異常　９－10端子 漏水警報　漏　水　17－18端子	正　常　オープン(5V) 異　常　メーク　(0V)	
(4) 放出中信号	測定部本体裏面にある放出テストスイッチをＯＮにした時、下記監視情報出力端子に、信号が出力されてことを排水モニタ室及びパネル室に於いて、デジボルにて確認する。 排水モニタ室 安管棟用　：　放出中　11－12端子	放出無　メーク　(0V) 放出中　オープン(5V)	
(5) ＢＧ測定中	ＢＧ測定中及び放出中信号出力時に下記監視情報出力端子に、信号が出力されることを排水モニタ室及びパネル室に於いて、デジボルにて確認する。 排水モニタ室 安管棟用　：ＢＧ測定中　23－24端子	測定外　オープン(5V) 測定中　メーク　(0V)	
(6) 点検中信号	テスト表示スイッチをＯＮにした時、下記監視情報出力端子に、信号が出力されることを排水モニタ室及びパネル室に於いて、デジボルにて確認する。 排水モニタ室 安管棟用　：　点検中　13－14端子	通　常　オープン(5V) 点検中　メーク　(0V)	
(7) 点検中リセット信号	(6)項状態をテスト表示リセットスイッチによりリセットした時、下記監視情報出力端子に、信号が出力されることを排水モニタ室に於いて、デジボルにて確認する。 排水モニタ室 安管棟用　：トラブル　37－38端子	ﾘｾｯﾄ信号出力以外 オープン(24V) ﾘｾｯﾄ信号出力中オープン メーク　(0V)	

点検整備技術要領書

整理番号		7／8

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(8) RMアラーム（Hiアラーム	デジタル計数率計のアラーム(Hi)をBGより低く設定しアラーム発生状態にした時、下記監視情報出力端子に信号が出力されることを排水モニタ室に於いて、デジボルにて確認する。 排水モニタ室 （安管棟用） No1 Hiｱﾗｰﾑ（RM1）　19－20端子 No2 Hiｱﾗｰﾑ（RM2）　21－22端子	正　常　オープン 異　常　メーク	
(9) サンプリング異常	6.5 項の試験の時に下記監視情報出力端子に信号が出力されてことを排水モニタ室に於いて、デジボルにて確認する。 排水モニタ室 安管棟用　：ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ異常　25－26端子		
7.2 県出力			
(1) No.1信号出力	測定部ビン－3のJ$_{323}$にシンクロスコープを接続し、出力波形を測定する。	Ph 5(±1(V) tw 5±1(μs)	＊ＴＥＳＴになっていることを確認する。
(2) トラブル信号出力	6項全部の試験の時に下記監視情報出力端子に信号が出力されることをデジボルにて確認する。 排水モニタ室 県用　：　トラブル　37－38端子	正　常　オープン(20V) 異　常　メーク　(0V)	
(3) 放出中信号	7.1 (4)項の試験の時に下記監視情報出力端子に信号が出力されることをデジボルにて確認する。 排水モニタ室 県用　：　放出中　39－40端子	放出無　オープン(20V) 放出中　メーク　(0V)	
(4) 点検中信号	テスト表示スイッチをＯＮにした時、下記監視情報出力端子に信号が出力されることをデジボルにて確認する。 排水モニタ室 県用　：　点検中　41-42 端子	通　常　オープン(20V) 点検中　メーク　(0V)	

点検整備技術要領書

整理番号		8／8

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(5)　ＢＧ測定中	7.1 (5)項の試験の時に下記監視情報出力端子に信号が出力されることをデジボルにて確認する。 排水モニタ室 県用　　：ＢＧ測定中　43－44端子	測定外　オープン 測定中　メーク	
8．指示精度の確認	Ｎｏ１及びＮｏ２の入力端子にパルスジェネレータより信号を入力し、デジタル表示と記録計との誤差を求める。 入力　3000(cpm)		
9．ＰＨ計指示確認	ＰＨ計のアナログ表示及び記録計の指示値を確認する。 また、電源箱（R74-2253-10)内にあるＰＨ計電源箱（PW-40121堀場）のＲ１（安管棟出力）、Ｒ２（県出力）及びＲ３（記録計出力）の各出力電圧をデジボルにて測定する。 Ｒ１、Ｒ２（X-R4-62.5Ω） Ｒ３　　（X-R4-0.625Ω）		＊Ｒ１出力 0～1(V) Ｒ２出力 0～1(V) Ｒ３出力 0～10(mV)

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

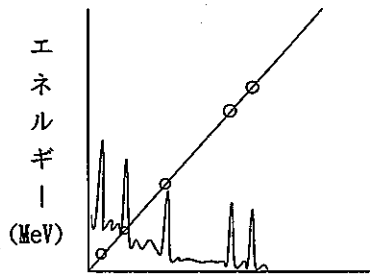
機器名	一般排水モニタ	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	排水自動監視室		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、サンプラー部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．指示値の確認	デジタル表示及び記録計の指示値の確認を点検前及び点検後に実施する。 以下の点検に於いては、出力信号をテスト状態にして時刻を記録する。	読み値	
3．測定モードの確認	①各設定値を確認する。 デジタル計数率計レンジ 〃　ＬＯアラーム設定値 〃　ＨＩアラーム設定値 〃　レスポンス設定 ＨＶ設定値 増巾器｛ＣＯＡＲＳＥ／ＦＩＮＥ｝ Ｓ・ＣＨ｛ＬＬＤ／ＵＬＤ｝ ②印加電圧を800(V)に設定する。調整は25(V)づつ可変する。 ③^{137}Cs線源($3.7\times10^{4}Bq$)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 ④^{137}Cs線源(662KeV)によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 ⑤プリアンプを外しＡＭＰ　ＩＮにパルスジェネレータを接続し、負電圧を入力する。入力電圧が④項のピークチャンネル数と同じになるようにパルスジェネレータを調整する。 ⑥ＭＣＡを外しシンクロスコープを接続して電圧を測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

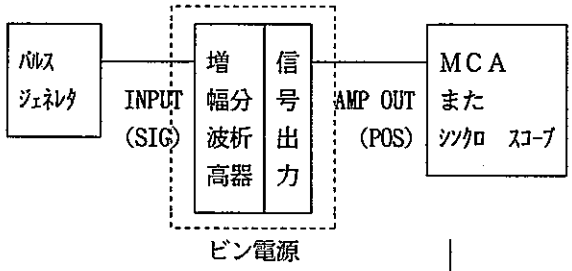
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	⑤項で設定した入力電圧に於いて、 ＡＭＰ　ＯＵＴが-1.32(V)になるように ＡＭＰＧＡＩＮを設定する。 設定不可能の場合は、②～⑤項を繰り返す。 ⑦^{133}Ｂａ線源(0.08MeV、0.356MeV)、 ^{137}Ｃｓ線源(0.662MeV)及び^{60}Ｃｏ線源 (1.17MeV、1.33MeV)を検出器に密着し、 ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル ⑧ＳＣＡを下記のように設定する。 ＤＵＡＬ　ＭＯＤＥ 50(KeV)　～　3(MeV) LLD　　ULD -0.1(V)　　-6.0(V) また、ＲＭレンジアラーム等を設定する。 設定値 デジタル計数率計レンジ 〃　　ＬＯアラーム設定値 〃　　ＨＩアラーム設定値 〃　　レスポンス設定 ＨＶ設定値 増巾器〔ＣＯＡＲＳＥ／ＦＩＮＥ〕 ディスクリレベル		

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑩^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器中央に置き、1(分)間測定する。  		
4．エネルギー直線性確認	3⑦項のグラフに於いて、^{133}Baₐ線源(0.356MeV)と^{60}Co線源(1.17MeV)からエネルギー／チャンネルを計算し、計算値と実測値との各エネルギーに於けるチャンネルの誤差を求める。 計算式 $A(KeV/CH)=\dfrac{^{60}Co\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(1170KeV)-{}^{133}Ba\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(356KeV)}{^{60}Co\text{ ﾁｬﾝﾈﾙ}(1170KeV\text{のCH})-{}^{133}Ba\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(356KeV\text{ のCH})}$ $B(KeV)=\ ^{60}Co\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(1170KeV)-(^{60}Co\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(1170KeV\text{のCH})\times A)$ $\text{誤差}=\dfrac{(\text{求める線源ﾁｬﾝﾈﾙ}\times A+B)-(\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}\times 100(\%)$	①直線性：±15(%)以内 誤差の一番大きいのを記載 ②下限値 ③ピーク電圧（^{137}Cs線源）	＊求める線源 ^{60}Co線源 1.33(MeV) 1.17(MeV9 ^{137}Cs線源 0.662(MeV) ^{133}Ba線源 0.356(MeV)
	ディスクリレベル及び^{137}Cs線源によるピーク電圧を確認する。		
5．感度試験	①検出器を試験槽に入れる。 ②試験槽に水道水を満たし、5(分)間測定する。 ③水道水を抜きＫＣℓ250(g)/20(ℓ)溶液入れ、5(分)間測定する。 測定後溶液をバイアルビンに採取する。 使用後ＫＣℓ溶液はポリタンクに戻す。		＊^{40}Ｋを使用する計算式は別添「^{40}Ｋ校正による換算定数算出式」参照

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	④ＫＣℓ1(Kg)/20(ℓ)溶液を試験槽に入れ、5(分)間測定する。 測定後溶液をバイアルビンに採取する。 使用後ＫＣℓ溶液はポリタンクに戻す。 ⑤ＫＣℓ2.5(Kg)/20(ℓ)溶液も同様に行う。 ⑥③～⑤項で採取したＫＣℓ溶液の^{40}Ｋ濃度を環安課に測定依頼する。 ⑦③～⑤項で得られた計数値と⑥項で得られた濃度により単位時間(cpm)当たりの濃度(Bq/cm^3)を求める。 計数値対濃度のクラフを作成し、平均値から換算定数を求める。		
6．テレメータ出力確認			
6.1 ＬＶトラブル確認	ＬＶの±24(V),±12(V),6(V)のいずれかが及び複数が断した場合にランプが消灯することを確認する。	ランプ消灯	
6.2 高圧出力監視回路確認（ＣＨ－１）	ＨＶ断及びＨＶ設定値±100(V)オーバーにてランプ消灯することを確認する。	ランプ消灯	
6.3 ＴＥＳＴ確認	ＴＥＳＴにてランプ点灯し、ＲＥＳＥＴにてランプ消灯することを確認する。	ＴＥＳＴ　：ランプ点灯 ＲＥＳＥＴ：ランプ消灯	
7．指示値と記録計の指示確認	指示計と記録計の誤差を測定する。	計算値	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	α2系統放射能測定装置	型　名	JDC-501，-503 JDC-R74-4241	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．α－1点検			
2.1 検出器印加電圧	ZnSシンチレーション検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の中央値の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	
2.3 BG測定	2.1項で設定した印加電圧に於いて、10（分）間BGを測定する。	0.5(cpm)以下	
2.4 計数効率測定	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測定台内にU_3O_8線源（2"φ）を入れ5(分）間測定し、計数効率を求める。 但し、BGは減ずる。	25(%)以上	回転式検出器のとき α＝20(%)
2.5 β線感度試験	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測台内にU_3O_8線源（2"φアルミ板使用)を入れβ線による感度がないことを確認する。 また、β線による波高値を測定する。	β線源による感度がないこと	
2.6 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．α－2点検	2項と、同様に点検を実施する。		
4．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	α・β2系統放射能測定装置	型　名	JDC-501，-503 JDC-R74-3000	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．α系点検			
2.1 検出器印加電圧	ＺｎＳシンチレーション検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の中央値の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	
2.3 ＢＧ測定	2.1項で設定した印加電圧に於いて、10（分）間ＢＧを測定する。	0.5(cpm)以下	
2.4 計数効率測定	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測定台内にU_3O_8線源（2"φ）を入れ5(分）間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	25(%)以上	回転式検出器のとき α＝20(%)
2.5 β線感度試験	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測台内にU_3O_8線源（2"φアルミ板使用)を入れβ線による感度がないことを確認する。 また、β線による波高値を測定する。	β線源による感度がないこと	
2.6 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	GM管検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の下端より1/3 付近の電圧に設定する。	使用印加電圧	
3.2 BG測定	鉛遮蔽容器内で3.1 項で設定した印加電圧に於いて5(分) 間BGを測定する。	GM-5004使用機種 40(cpm)以下 GM-H-5001V使用機種 35(cpm)以下	
3.3 計数効率測定	3.1 項で設定した印加電圧に於いて、鉛遮蔽容器内でU_3O_8線源(2"φアルミ板使用)を検出器に最も近づけた状態で5(分) 間測定し、計数効率を求める。 但し、BGは減ずる。	20(%)以上	
3.4 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	
4．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	α・β2系統放射能測定装置	型　名	R74-1319, 603A	メーカ名	Aloka, 東洋電子
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．α系点検			＊設定
2.1 検出器印加電圧	ＺｎＳシンチレーション検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の中央値の電圧に設定する。	使用印加電圧	・R74-1319 AMP GAIN COARSE GAIN: 16(目盛) FINE :2(目盛) S・CHPHA INT:1.0(目盛)
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	・603A GAIN:10.0 10.0(目盛) DISCRI: 1.00(目盛)
2.3 ＢＧ測定	2.1項で設定した印加電圧に於いて、10（分）間ＢＧを測定する。	0.5(cpm)以下	
2.4 計数効率測定	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測定台内にU_3O_8線源（2"φ）を入れ5(分) 間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	25(%)以上	＊回転式検出器の時 α＝20(%)
2.5 β線感度試験	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測台内にU_3O_8線源（2"φアルミ板使用)を入れβ線による感度がないことを確認する。 また、β線による波高値を測定する。	β線源による感度がないこと	
2.6 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	GM管検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の下端より1/3 付近の電圧に設定する。	使用印加電圧	＊設定 ・６０３Ａ GAIN:10.0 7.00(目盛) DISCRI: 1.00(目盛)
3.2 ＢＧ測定	鉛遮蔽容器内で3.1 項で設定した印加電圧に於いて5(分) 間ＢＧを測定する。	40(cpm)以下	
3.3 計数効率測定	3.1 項で設定した印加電圧に於いて、鉛遮蔽容器内でU_3O_8線源(2"φアルミ板使用)を検出器に最も近づけた状態で5(分) 間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	20(%)以上	
3.4 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	
4．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	ﾗｲｽﾀｲﾑ式２系統放射能測定装置	型　名	ＪＤＣ－Ｒ７４－３１８０	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	再処理施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジにゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
２．検出器印加電圧確認	ＨＶ設定ダイヤルにて印加電圧を750(V)に設定し、ＨＶチェック端子に於いて高圧測定器を用いて測定する。	750±15(V) 以内	
３．入力感度	ＩＮＰＵＴにパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の電圧をシンクロスコープにより測定する。	-100±10(mV)以内	
４．ＢＧ値測定	使用電圧において５分間ＢＧを測定する。	α：1(cpm)以下 β:50(cpm)以下	
５．計数効率測定	測定台内にU_3O_8線源（2"φ）を入れ５分間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	α：25(%)以上 β：30(%)以上	
６．弁別性能試験	①α混入率 測定台内に^{90}Ｓｒを入れ１分間測定する。但し、ＢＧは減ずる。 α混入率＝α計数／β計数 ②β混入率 測定台内に^{241}Ａｍを入れ５分間測定する。但し、ＢＧは減ずる。	α混入率：0.1(%)以下 β混入率：1(%)以下	＊^{90}Sr :R-312003 ^{241}Am:AF615
７．外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等による雑音のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	ピコベータ	型　名		メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．高圧電源			
2.1 シンチ系出力電圧確認	高圧電源出力端子（ＳＣＩＮＴ　ＨＶ）にデジタルボルトメータを接続して、出力電圧を測定する。	7000～1200(V) 以内	
2.2 GM系出力電圧確認	高圧電源出力端子（GM　HV）にデジタルボルトメータを接続して、各出力電圧を測定する。 ダイヤル指示値 3.00 (300V)　5.00 (500V) 7.00 (700V)　9.00 (900V) 11.00 (1100V)　13.00 (1300V)	±20(V) 以内	
3．GMガスフロー検出器			
3.1 プラトー測定	アナライザーモジュールのパネル面ＳＣＡＬＥＲ端子にスケーラを接続する。 ガスフラッシングを行い計数値を安定させた後、^{14}C線源を測定台に装着し高圧電源を可変(20V づつ)してプラトー特性を測定する。 グラフを作成すること。 ガスフラッシング ミクロ調整器の指示計のガス流量を約50(cc/min)とし、この流量にて約30(分)放置する。 フラッシングが終ったらガス流量を20(cc/min)に設定する。	プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

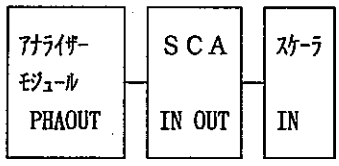
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2 印加電圧設定	3.1項のプラトー領域内の中央値に設定する。		
4．エネルギー規格化 4.1 対数直線性	β線アナライザモジュール(ＮＨＴ０１)のＰＨＡ　ＯＵＴ端子にＳＣＡを接続し、ＳＣＡ出力にスケーラを接続する。 テストパルス1～100まで順に切り換え、スケーラが計数し始めるときのＳＣＡのベースラインのダイヤル目盛を求める。 ＳＣＡのベースラインのダイヤル目盛とエネルギーとのグラフを片対数グラフに記録すること。 ＴＥＳＴ－エネルギー ﾃｽﾄﾊﾟﾙｽ1 ： 35KeV 、ﾃｽﾄﾊﾟﾙｽ3 ： 105KeV ﾃｽﾄﾊﾟﾙｽ10: 350KeV 、ﾃｽﾄﾊﾟﾙｽ30: 1.05MeV ﾃｽﾄﾊﾟﾙｽ100:3.50MeV 、 β線アナライザー設定値 増幅モード　LOG DIRECT-GATED SW　DIRECT ENERGY NORMALIZATION TEST　1-100 ＳＣＡ設定値 ウインド幅トグルスイッチ　×1 ウインド幅可変抵抗器　1000 入力インピーダンス　75(Ω)		
4.2 エネルギー規格化調整	β線アナライザモジュールのＰＨＡ　ＯＵＴ端子にＭＣＡを接続する。 テストパルス1～100まで順に切り換え、ＭＣＡのチャンネルとエネルギーとの直線性を確認する。 グラフ(片対数グラフ)を作成すること。 次にCs^{-137}線源を測定台に装着し、内部転換電子(625KeV)のエネルギーピークがグラフの直線上になるようにＡＭＰ(ＣＯＡＲＳＥ、ＦＩＮＥ)を調整及び設定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	β線アナライザー設定値 増幅モード　　LOG DIRECT-GATED SW　DIRECT		
5．エネルギー分解能測定	4.2項の接続において、^{137}Cs線源を使用して、^{137}Cs-^{137m}Ba内部転換電子線のエネルギースペクトルをＭＣＡにて測定する。そして、分解能を求める。 β線アナライザー設定値 増幅モード　　LINEAR	^{137}Cs-^{137m}Ba内部転換電子にて 100(KeV) 以下 18(%) 以下	
6．同時計数測定 6.1 35keV～1.75MeV	3項で設定した印加電圧に於いて、測定台に^{137}Cs線源を入れ5(分)間測定し、計数効率を求める。 また、^{137}Cs線源を使用しないでＢＧを5(分)間測定する。 ＡＭＰ及びＳＣＡの設定値は、4項より求める。  β線アナライザー設定値 高圧電源　　ON 増幅モード　　LOG DIRECT-GATED SW　　GATED ENERGY NORMALIZATION TEST　　MEAS ＳＣＡ設定値 ウインド幅トグルスイッチ　　×1 (35keV～1.75MeV対応目盛)	効率：15(%)以上 ＢＧ値：2.0(cpm)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.2 35keV～3.5MeV	3.1項の接続において、3項で設定した印加電圧にて、測定台にU_3O_8線源(2"φアルミ板使用)を入れ5(分)間測定し、計数効率を求める。 また、U_3O_8線源を使用しないでBGを5(分)間測定する。 AMP及びSCAの設定値は、4項より求める。β線アナライザーの設定値は、3.1項と同様にする。 測定後、SCAの設定値は3.2項とする SCA設定値 ウインド幅トグルスイッチ　×1 (35keV～3.5MeV対応目盛)	効率：15(%)以上 BG値：6.0(cpm)以下	
7．試料交換部 7.1 動力部電流測定	動作状態及び制止状態に於いて、AC回路に流れる電流を測定する。		
7.2 プリンタ動作確認	印字動作などの動作を確認する。	正常に動作すること	
8．外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ハンディスケーラ　(α系)	型　名	TDC－104	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．総合点検			
2.1 検出器印加電圧	ＺｎＳシンチレーション検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の中央値の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	
2.3 ＢＧ測定	2.1項で設定した印加電圧に於いて、10（分）間ＢＧを測定する。	0.5(cpm)以下	
2.4 計数効率	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測定台内にU_3O_8線源（2"φ）を入れ5(分）間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	25(%)以上	回転式検出器のとき α＝20(%)
2.5 β線感度試験	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測台内にU_3O_8線源（2"φアルミ板使用)を入れβ線による感度がないことを確認する。 また、β線による波高値を測定する。	β線源による感度がないこと	
2.6 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ハンディスケーラ　（β（γ）系）	型　名	TDC－104	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．β（γ）系点検			
2.1 検出器印加電圧	GM管検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の下端より1/3 付近の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	
2.3 ＢＧ測定	鉛遮蔽容器内で2.1 項で設定した印加電圧に於いて5(分) 間ＢＧを測定する。	ＧＭ-5004使用時は40(cpm)以下 ＧＭ－Ｈ－5001Ｖ使用時は35(cpm) 以下	
2.4 計数効率	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、鉛遮蔽容器内でU_3O_8線源(2" φアルミ板使用)を検出器に最も近づけた状態で5(分) 間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	20(%)以上	
2.5 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	
3．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ベーシックスケーラ　（α系）	型　名	TDC－105	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．総合点検			
2.1 検出器印加電圧	ＺｎＳシンチレーション検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の中央値の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	
2.3 ＢＧ測定	2.1項で設定した印加電圧に於いて、10（分）間ＢＧを測定する。	0.5(cpm)以下	
2.4 計数効率	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測定台内にU_3O_8線源（2"φ）を入れ5(分）間測定し、計数効率を求める。 但し、ＢＧは減ずる。	25(%)以上	回転式検出器のとき α＝20(%)
2.5 β線感度試験	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、測台内にU_3O_8線源（2"φアルミ板使用)を入れβ線による感度がないことを確認する。 また、β線による波高値を測定する。	β線源による感度がないこと	
2.6 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ベーシックスケーラ（β（γ）系）	型　名	TDC－105	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．β（γ）系点検			
2.1 検出器印加電圧	GM管検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の下端より1/3 付近の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 入力感度	入力端子にパルスジェネレータより負電圧を入力し、計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにより測定する。	増幅器出力値	
2.3 BG測定	鉛遮蔽容器内で2.1 項で設定した印加電圧に於いて5(分) 間BGを測定する。	GM-5004使用時は40(cpm)以下 GM-H-5001V 使用時は35(cpm) 以下	
2.4 計数効率	2.1 項で設定した印加電圧に於いて、鉛遮蔽容器内でU_3O_8線源(2"φアルミ板使用)を検出器に最も近づけた状態で5(分) 間測定し、計数効率を求める。 但し、BGは減ずる。	20(%)以上	
2.5 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	
3．動作確認	試料の出し入れ、回転等がスムーズに動作すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成８年３月

機器名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置（総合試験）	型　名	ＬＢＣ－４５３	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと ６）ディスプレイ等に異常のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
２．機能試験 ＧＡＳコントロール 動　作	［ＰＯＷＥＲ］釦ＯＮにて、ＧＡＳ［ＳＴＡＲＴ］ランプが点灯し、バルブが開くこと。 ［ＳＴＯＰ］ランプが点灯中に［ＧＡＳ　ＳＴＡＲＴ］釦をＯＮにするとランプが点灯しバルブが開くこと。 ＧＡＳボンベの圧力が約0.3(kg/cm²）以下に低下すると、バルブが閉まって［ＬＯＷ　ＡＬＡＲＭ］ランプが点灯すること。 ［ＧＡＳ　ＳＴＡＲＴ］ランプが点灯して約30分後にＯＫランプが点灯すること。	正常に動作すること	
ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴ 動　作	［ＳＴＯＰ］ランプ点灯中に［ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴ］釦を押すとランプが点灯し、時刻をプリセットできること。 時刻をプリセットした後、再度［ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴ］釦を押すと、ランプが消えてプリセットした時刻から時計が作動を始めること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
PROGRAM SET動作	[STOP] ランプが点灯中に [PROGRAM] 釦を押すと [STOP] ランプが消えて [PROGRAM] ランプが点灯すること。 [PROGRAM] ランプが点灯するとコミュニケーションパネルの発光ダイオードが順次に点灯し、プログラムをプリセットできること。 指定範囲外のデータをプリセットした場合、表示器が点滅すること。 表示器の点滅は、[C] キーにより解除されること。 データをプリセットした後、[E] キーを押せば次の項目に移ること。 ＰＲＯＧＲＡＭ作成中の解除は、[STOP] 釦を押すことにより [PROGRAM] ランプが消えて [STOP] ランプが点灯し、ＳＴＯＰ状態に移行すること。	正常に動作すること	
表示及び表示切換	[DISPLAY] 釦を押す毎に表示内容が CLOCK → αCOUNT → βCOUNT → ΔT → CLOCK と切り替わること。 [PROGRAM] ランプ及び [CLOCK] ランプが点灯中は、それらの表示が優先すること。	正常に動作すること	
プリント動作	プログラムされた内容が印字されること。	正常に動作すること	
演算動作	演算内容に誤りがないこと。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
ＣＹＣＬＥ動作	サイクル設定器で指定した回数の測定が終了すると、サンプルチェンジャーの動作は停止し、［ＡＵＴＯ　ＳＴＡＲＴ］ランプが消えて［ＳＴＯＰ］ランプが点灯すること。 このとき、ＣＹＣＬＥ　ＯＶＥＲの発光ダイオードが点滅すること。 ＣＹＣＬＥ　ＯＶＥＲの解除は［ＳＴＯＰ］釦を押すことにより行われ、発光ダイオードが消えること。	正常に動作すること	
ＡＵＴＯ　ＢＲＥＡＫ動　作	［ＡＵＴＯ　ＢＲＥＡＫ］スイッチをＯＮに設定した場合、ＣＹＣＬＥ　ＯＶＥＲにて、一部の電源を残して電源断となり、ＧＡＳの供給は停止すること。 このとき、表示パネル部はＣＹＣＬＥ　ＯＶＥＲの発光ダイオードが点灯し、その他のランプは消えること。 ＡＵＴＯ　ＢＲＥＡＫの状態は［ＡＵＴＯ　ＢＲＥＡＫ］スイッチをＯＦＦにすることにより解除できること。 このとき、発光ダイオードの点灯が消えて［ＳＴＯＰ］ランプが点灯すること。	正常に動作すること	
停電回復時の動作	時計は停電中も動作を続けること。 回復と同時にＧＡＳの供給が再開すること。 回復と同時に、停電前のモードを継続すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	ＳＴＯＰ状態以外の場合には、停電回復時に停電が開始した時刻と、回復した時刻をプリントすること。		
Ｓ・Ｃ制御動作	各測定モード通りにサンプルの送りを行うこと。 カセットがセットされていない場合は、パスすること。 プログラム設定器が［0］のカセットはパスすること。 αカットフィルターが、測定モード通りに作動すること。	正常に動作すること	
3．ＨＶ設定 α線用ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ＺｎＳシンチレーション検出器プラトー試験に於けるプラトー領域内の中央値に設定する。		
β線用ガスフロー検出器	ガスフロー検出器プラトー試験に於けるプラトー領域内の中央値に設定する。		
4．ＢＧ測定	ＢＧ測定用皿をカセット内に入れ、3項で設定した印加電圧に於いてα系及びβ系のＢＧをそれぞれ5(分)間測定する。 尚、このときのＣＯＵＮＴ　ＭＯＤＥはそれぞれ下記の通りとする。 α系　ＣＯＵＮＴ　ＭＯＤＥ　α(1) β系　ＣＯＵＮＴ　ＭＯＤＥ　β(2)	α系　1.0(cpm)以下 β系　3.0(cpm)以下	
5．計数効率	カセット内で3項にて設定した印加電圧に於いて、U_3O_8線源(2"φ)を用いて5分間測定し、計数効率を求める。 尚、このときのＣＯＵＮＴ　ＭＯＤＥはそれぞれ下記の通りとする。 α系　ＣＯＵＮＴ　ＭＯＤＥ　α(1) β系　ＣＯＵＮＴ　ＭＯＤＥ　β(2)	α系　15(%)以上 β系　25(%)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6．外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等による影響のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低バックグラウンド放射能自動測定装置	型　名	ＬＢＣ－４８１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．高圧設定	ガスフロー検出器プラトー試験に於ける、α系プラトー領域内の中央値に設定する。	α領域の中央値	
3．ＢＧ測定	2項で設定した、検出器印加電圧に於いて、10分間測定する。	0.1(cpm)以下	
4．計数効率	2項で設定した、検出器印加電圧に於い試料台にU_3O_8線源（25㎜φ）をセットし、5分間測定する。	45(%)以上／4π	
5．外部影響	外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

機器名	α線シンチレーション自動測定装置	型　名	ＪＤＣ－８６２Ｒ１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．総合点検	総合点検を始める前に、ユニバーサルスケーラ（ＴＤＣ－５１１）の以下の様に、設定されていること。 Pre/AMP;入力条件、アンプの設定 DETECTOR　：　SCINT INPUT　：　Amp Shaping　：　Gauss Gain　：　100 Polarity　：　Neg IN Polarity　：　Neg OUT *1 （*1：外部機器を接続する場合必要に応じ切換える） SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode　：　INT LL　：　10.0　% dE　：　% UL　：　% COIN mode　：　OFF HV; 高圧出力の設定 HV mode　：　Continue*1 HV　：　（使用印加電圧） LIMIT　：　1200 V （*1：必要に応じ切換える） Changer;ｻﾝﾌﾟﾙﾁｪﾝｼﾞｬｰのｺﾝﾄﾛｰﾙ Sample Changer Control　：　Yes AUTO BG　：　No*1 （*1：必要に応じ切換える）		

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.1 検出器印加電圧	Ｚｎｓシンチレーション検出器プラトー試験に於ける、プラトー領域内の中央値に設定する。	使用印加電圧	
2.2 ディスクリレベル	TDC-511 のSCA;波高分析条件、コインシデンスモードのＬＬが10.0% になつていることを確認する。 ＬＬ:100%　で10(V) ＬＬ:10.0%　で1.0(V)		
2.3 ＢＧ値確認	以下の手順にて、ＢＧ値してください ① サンプルチェンジャーの MAUAL スイッチを押す。 ② サンプルチェンジャーの SAMPLE SET スイッチを押し、任意の位置にセットし、MEASURE ランプが点灯することを確認する。 ③ TDC-511 のPT/PC;計数条件の設定のPTを10.0 minに設定する。 ④ HV ON/OFF スイッチ押し，使用印加電圧を設定する。 ⑤ START STOP スイッチ押す。（測定中ランプが点灯） 測定終了後、計数値を確認する。	0.5(cpm)以下	
2.4 計数効率	以下の手順にて、計数効率を測定する。 ① サンプルチェンジャーの MAUAL スイッチを押す。 ② サンプルチェンジャーの SAMPLE SET スイッチを押し、U_3O_8線源をセットした位置に持っていき、MEASURE ランプが点灯することを確認する。 ③ TDC-511 のPT/PC;計数条件の設定のPTを 5.0 minに設定する。 ④ HV ON/OFF スイッチ押し，使用印加電圧を設定する。 ⑤ START STOP スイッチ押す。（測定中ランプが点灯） 測定終了後、計数値を確認し、計数効率を求める。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	計数効率＝ $\frac{\text{計数効率(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{線源強度(dpm)}}$		
2.5 β線感度試験	2.4 項の手順にて、U_3O_8線源(2φアルミ板使用）を入れβ線による感度がないことを確認する。 また、βによる波高値を測定する。	β線原による感度がないこと	
2.6 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	GM自動測定装置	型　名	ＪＤＣ－１６３	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．総合点検	総合点検を始める前に、ユニバーサルスケーラ（ＴＤＣ－５１１）の以下の様に、設定されていること。 Pre/AMP;入力条件、アンプの設定 DETECTOR　：　GM INPUT　：　Pre(HV) Shaping　： Gain　： Polarity　：　Pos IN Polarity　：　Neg OUT *1 (*1：外部機器を接続する場合必要に応じ切換える) SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode　：　INT LL　：　% dE　：　% UL　：　% COIN mode　：　OFF HV; 高圧出力の設定 HV mode　：　Continue*1 HV　：　(使用印加電圧) LIMIT　：　1200 V (*1：必要に応じ切換える) Changer;ｻﾝﾌﾟﾙﾁｪﾝｼﾞｬｰのｺﾝﾄﾛｰﾙ Sample Changer Control　：　Yes AUTO BG　：　No*1 (*1：必要に応じ切換える)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.1 検出器印加電圧	GM管検出器プラトー試験に於けるプラトー領域の下端より1/3 付近の電圧に設定する。	使用印加電圧	
2.2 BG値確認	以下の手順にて、BG値してください ① サンプルチェンジャーの MAUAL スイッチを押す。 ② サンプルチェンジャーの SAMPLE SET スイッチを押し、任意の位置にセットし、MEASURE ランプが点灯することを確認する。 ③ TDC-511 のPT/PC;計数条件の設定のPTを 5.0 minに設定する。 ④ HV ON/OFF スイッチ押し，使用印加電圧を設定する。 ⑤ START STOP スイッチ押す。（測定中ランプが点灯） 測定終了後、計数値を確認する。	40(cpm)以下	
2.3 計数効率	以下の手順にて、計数効率を測定する。 ① サンプルチェンジャーの MAUAL スイッチを押す。 ② サンプルチェンジャーの SAMPLE SET スイッチを押し、U_3O_8線源(2φアルミ板使用）をセットした位置に持っていき、MEASURE ランプが点灯することを確認する。 ③ TDC-511 のPT/PC;計数条件の設定のPTを 5.0 minに設定する。 ④ HV ON/OFF スイッチ押し，使用印加電圧を設定する。 ⑤ START STOP スイッチ押す。（測定中ランプが点灯） 測定終了後、計数値を確認し、計数効率を求める。 $\text{計数効率} = \dfrac{\text{計数効率(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{線源強度(dpm)}}$	20(%)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4 外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	多試料同時放射能測定装置	型　名	JDC－R74－3493	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．HV設定	各チャンネルのプラトー領域内の中央値付近に、使用印加電圧を設定する。	プラトー領域内の中央値	
3．BG測定	以下の手順にて、BG測定を行う。 ① 前パネルPOWERスイッチをONにする。 ② POWERランプが点灯すること。 ③ システムディスクをFC－9813の「1」ドライブに差し込み、FC－9801V2の電源を入れる。 ④ ソフトウェアが自動起動し、CRTが測定待画面であること。尚、③項まで手順が進んでいて、画面が消えていた場合は、f．10（SC　OFF）を押す。 ⑤ f．9（BG）を押す。 ⑥ 測定時間を5分に設定し、入力する。 ⑦ 測定終了後、各チャンネルの計数値を確認する。	1(cpm)以下	
4．計数効率	以下の手順にて、計数効率測定を行う。 ① CRTが測定待画面であること。 ② f．6（SOURCE）を押す 線源強度の設定 線源1　　Bq 線源2　　Bq 線源3　　Bq 線源4　　Bq 線源5　　Bq 設定する線源の番号を入力して下さい？	25(%)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⇨　線源の番号を入力すると、カソールが指定した場所いくので、線源強度を入力する。 　線源強度の設定が終了したら「99」を入力し、測定画面に戻す。 ③　ｆ．８（ＥＦＦ）を押す ④　変更しますか？Ｙ／Ｎ　⇨　Ｙを入力 ⑤　線源は１個ですか、５個ですか？ １：１個　　２：５個 ⇨　個数選択し入力する。 ⑥　チャンネル番号を指定してください ＣＨの問いには、測定するチャンネル番号を入力し、指定したチャンネル番号の試料台にU_3O_8線源をセットする。 ⑦　測定時間を５分に設定し、入力する。 ⑧　測定終了後、測定したチャンネル番号の計数効率を確認する。又、計数値にて効率を計算し、同じであることを確認する。 ⑨　続けますか？Ｙ／Ｎ　⇨　続ける場合はＹを入力し、⑥項から行う。 ⑩　続けない場合は、Ｎを入力し測定待画面に戻る。		
５．動作確認	以下の動作を確認する。 ①　ｆ．１（ＬＥＦＴ）を押す事により、左半分１５ｃｈだけ計数すること。 ②　ｆ．２（ＲＩＧＨＴ）を押す事により、右半分１５ｃｈだけ計数すること。 ③　ｆ．３（ＡＬＬ）を押す事により、全３０ｃｈ計数すること。 ④　ｆ．５（Ｔ　ＳＥＴ）を押す事により、測定時間が１～６０分の間で、任意に設定できること。 ⑤　計数中に検出限界を越えると計数値の表示が白の反転点滅表示に変わり、プリンタにそのチャンネル番号、日付、測定終了時刻、計数値が出力すること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成８年３月

機器名	可搬型線量率測定装置	型　名	ＭＡＲ－２５１ＢＲ４	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	検出器測定部外部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．指示値の確認	点検前後のＢＧ値を記録する。		
３．低圧出力電圧の確認 (AMP-8019b)	電源ユニットAMP-8019b の下記端子にデジタルボルトメータを接続し、各出力電圧を測定する。 出力電圧　端子番号 +12(V)　ＣＰ$_2$ -12(V)　ＣＰ$_3$ ＋５(V)　ＣＰ$_1$ ＧＮＤ　ＣＰ$_4$	+12(V) +11.5～+12.5(V) -12(V) -11.5～-12.5(V) ＋５(V)　+4.7～+ 5.3(V)	
４．高圧出力電圧の確認 (AMP-8019b)	検出器をつけた状態でAMP-8019b のＪ５－Ｊ６間にデジタルボルトメータ（プローブインピーダンス1000(MΩ) 以上）を接続し、出力電圧を測定する。 調整は(AMP-8019b)内のＲＶ２で行う。	500(V)±10(V) 以内	
５．レートメータ指示値確認 (AMP-1055b)	検出器をはずして、裏パネルのＴＥＳＴＩＮにパルスジェネレーターを接続し、各レンジの指示値を確認する。 AMP-1055b内ディップスイッチSW1の設定 No1　OFF　No4　OFF No2　ON　No5　OFF No3　OFF　No6　OFF	ＦＳ±5(%)以内	終了後は全てＯＦＦにすること。 （低面）

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	入力波形 極　性　　正 ＷＩＤＴＨ　　0.2(μsec) MAR-251BのＡＭＰ　ＯＵＴ波高が約5(V)となるよう調整する。		
	レンジ(μGy/h) / 入力(cps) / 調整ボリ / 指示値(μGy/H) 10^{-1} / 10 / —— / 6.5×10^{-2} 10^{0} / 100 / ＲＶ12 / 6.5×10^{-1} 10^{1} / 1000 / —— / 6.5×10^{0} 10^{2} / 2000 / ＲＶ11 / 1.30×10^{1} 0.1、1及び10(μGy/H)レンジは、調整箇所が共通（ＲＶ12）なので1(μGy/H)レンジにて調整すること。 また、ＲＶ11の調整はＲＶ12調整後行うこと。		
6．記録計出力電圧の確認（AMP-1055b）	5項レートメータ指示値確認において入力を100(cps)としたときの裏パネルＲＥＣＯＵＴ①－②間の出力電圧を測定する。 調整はＲＶ14で行う。	6.5±0.5(mV) 以内	10⁰ レンジにて行う。
7．通過率の確認（AMP-1055b）	検出器をはずして、裏パネルのＴＥＳＴＩＮにパルスジェネレータを接続し、ＡＭＰ　ＯＵＴ波高値が所定の電圧となるよう調整する。そして、通過率精度を確認する。 AMP-1055b内ディップスイッチSW1の設定 No1　OFF　No4　OFF No2　OFF　No5　ON No3　OFF　No6　OFF MAR-251Bをスケーラとして使用する場合 ＰＯＷＥＲ　ＯＦＦにて下記設定した後ＰＯＷＥＲ　ＯＮするとMAR-251Bはスケーラ動作となり、ＭＥＡＳＵＲＥスイッチを押すことにより計数を開始する（計数時間	入力波高 / 通過率 6.00(V) / 100±5.0 (%) 3.00(V) / 50.0±2.5 (%) 0.60(V) / 10.0±0.50(%) 0.30(V) / 5.00±0.25(%) 0.08(V) / 0.1(%)以下	終了後は全てＯＦＦにすること。

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	＝ＰＲＩＮＴ　ＩＮＴＥＲＶＡＬ）。終了後はＰＯＷＥＲ　ＯＦＦ状態で全てＯＦＦにすること。 AMP-0017bu内ディップスイッチSA1の設定 No1　ON　　No3　ON No2　ON　　No4　ON MAR-251B設定 ＬＥＶＥＬ　　0 PRINT INTERVAL　6（1分） パルス波形 周波数　　2(KHz) 極　性　　正 ＡＭＰ　ＯＵＴ波高値(入力波高値) 6.00(V)　　0.30(V) 3.00(V)　　0.08(V) 0.60(V) 通過率 $= \frac{\text{各入力波高での計数値}}{\text{入力波高10(V) での計数値}} \times 100(\%)$ 調　整 AMP-1055b 内の端子Ⓕ-Ⓖ間にデジボルを接続する。 ＳＷ1の1、2のみＯＮとして、-6(V)±0.01(V) になるようAMP-1055b 内ＲＶ5を調整する。 ＳＷ1の2のみＯＮとして-90(mV)±0.1(mV)になるようAMP-1055b 内ＲＶ7を調整する。 調整終了後はＳＷ1の全てをＯＦＦすること。		

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．3(MeV)カット動作の確認（AMP-1055b）	7項と同じ条件で（ただしAMP-1055b 内SW1は全てOFF）にてパルスジェネレータ入力波高を大きくしていったとき、スケーラの計数がストップするときのAMP OUT波高を確認する。 調　整　RV6	6.00±0.12(V) 以内	
9．線量率直線性試験（^{226}Ra使用）	線源（^{226}Ra 3.7×10^{6} Bq）により下記の3点で照射試験を行う。指示値の読み取りは、液晶表示器で行う・ 照射試験を行うとき、裏パネルのAMP OUTにシンクロを接続し、^{137}Cs線源3.7 ×10^{4} ～3.7 ×10^{5} Bq程度）を検出器の中心軸上に設置する。 この状態にて ^{137}Cs線源のエネルギーピーク(662keV)による波高値約1.3(V)であることを確認がしてから照射試験を行う。 調　整 （AMP-1055b 内RV4） 照射線量率 142.9×10^{-2}（μGy/H） 70.0×10^{-2}（μGy/H） 35.2×10^{-2}（μGy/H）	±20(%)以内	
10．感度試験（^{226}Ra使用）	9項の照射試験にて読み取つた、3点の平均感度（換算定数）を求める。 計数値の測定は、DBM OUTにスケーラを接続し、5分間行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成8年3月

機器名	放射能自動測定装置	型　名	JDC-R74-2722	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損などを点検する。筐体、キースイッチ、LEDディスプレイ等に異常のないことを確認する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．計測装置動作確認 CLOCK SET動作	STOPランプ点灯中に［CLOCK SET］スイッチを押し、CLOCK SETランプが点灯することを確認する。 キーボードスイッチの操作により時刻が設定できることを確認する。 時刻を設定した後に再度［CLOCK SET］スイッチを押すとCLOCK SETランプが消灯し、設定した時刻から時計が作動を始めることを確認する。	正常に動作すること	
CONSTANT SET動作	STOPランプ点灯中に［CONSTANT SET］スイッチを押し、CONSTANT SETランプが点灯することを確認する。 CONSTANT SETランプが点灯後、各チャンネル毎にB．G→EFF→FACTOR→UNITの設定ができることを確認する。 設定後再度［CONSTANT SET］スイッチを押すとCONSTANT SETランプが消灯することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
表示内容切換動作	ＣＨＡＮＮＥＬ　ＳＥＬＥＣＴスイッチを押す毎に表示内容が ＣＬＯＣＫ→ＣＨ１→ＣＨ２→ＣＨ３→ ＣＨ４→ＣＨ５→ＣＬＯＣＫ と切り替わることを確認する。 ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプまたはＣＬＯＣＫ　ＳＥＴランプが点灯中はそれらの動作が優先することを確認する。	正常に動作すること	
ＴＥＳＴ動作	計測部（TDC-703U）とプリアンプ（PAM-R74-2108）を接続する。 ＳＴＯＰランプ点灯中にキーボードスイッチの［＊］キーを続けて5(回）押せばＴＥＳＴランプが点灯することを確認する。 ＰＲＥＳＥＮＴ　ＴＩＭＥを1.0（分）に設定し［ＳＴＡＲＴ］スイッチを押し、計数終了時の表示を確認する。 ＴＥＳＴランプが点灯中にＳＴＯＰスイッチを押すとＴＥＳＴランプが消灯し、ＴＥＳＴ状態が解除されることを確認する	ＴＩＭＥ表示　　1.0 ＣＯＵＮＴ表示　3000±1 正常に動作すること	
プリント動作	ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプが点灯中に［ＰＲＩＮＴ］スイッチを押すと各チャンネル毎に下記の定数をプリントすることを確認する。 ・演算結果の単位 ・バックグランド ・効率 ・校正定数（ＦＡＣＴＯＲ） 試料の測定終了毎に下記データをプリントすることを確認する。 ・試料番号 ・計数値（グロス） ・演算データまたはＬＥＶＥＬ判定結果	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

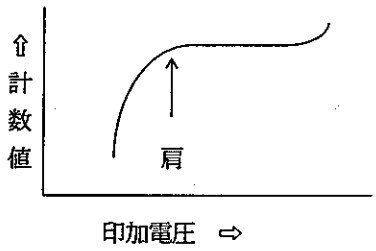
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
演算動作	ＲＳ－２３２Ｃにより測定終了後、日付、測定結果を転送できることを確認する。 ・Ｃｉ値の演算確認 試料の測定が終了する毎に下記の演算式によりＣｉ値を算出し、プリントすること Ｃｉ値（μCi、μCi／cm^2 、μCi／cm^3） $= \dfrac{N}{2.22\times E\times M\times 10^4}$ $N = \dfrac{N_G}{T} - N_B$ Ｎ　：正味計数率　（cpm） N_G ：全計数　（カウント） Ｔ　：計測時間　（分） N_B ：バックグランド（cpm） Ｅ　：検出効率　（%） Ｍ　：校正定数　（m×10^n） （ＦＡＣＴＯＲ） ・検出限界計数率の確認 試料の測定が終了する毎に正味計数率Ｎが、下記の演算式により算出された検出限界計数率N_s 以下の場合、Ｃｉ値ではなくＬＴＤをプリントすること。 （$N \leqq N_s$ の場合） $N_s = \dfrac{3}{2}\times\left\{\dfrac{3}{T} + \sqrt{\left(\dfrac{3}{T}\right)^2 + 4\times N_B\times\left(\dfrac{1}{T}+\dfrac{1}{T_B}\right)}\right\}$ $_s$ ：検出限界計数率（cpm） N_B ：バックグランド（cpm） Ｔ　：試料計測時間　（分） T_B ：バックグランド計測時間（分）	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．HV設定	各ＺｎＳシンチレーション検出器プラトー試験に於けるプラトー領域内の肩値の印加電圧の内一番低い電圧をＨＶ設定値とする。 ＳＣＡの設定は、ＩＮＴ及びＬＬＤ＝１．０とする。 ・AMPゲイン調整 ＳＣＡの設定をＩＮＴ及びＬＬＤ＝９．０にし、本設定で計数開始するようＡＭＰゲインを調整する。  		
4．ＢＧ測定	３項で設定した印加電圧に於いてＢＧ測定用皿をカセットに入れ、ＣＨ１～５それぞれ 10(分) 間測定する。 ＳＣＡの設定は、７項で示す値とする。	0.5(cpm)以下	
5．計数効率	U_3O_8線源（2″ φ）をアダプタを入た上にのせ、ＣＨ１～５それぞれ 10(分) 間測定し計数効率を求める。 ＳＣＡの設定は、７項で示す値とする。	20%以上	
6．外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズがないこと	
7．ＳＣＡ設定	ＣＨ１～５それぞれのＬＬＤ及びＵＬＤを設定する。 ・AMPゲイン調整 ＳＣＡの設定をＩＮＴ及びＬＬＤ＝９．０にし、本設定で計数開始するようＡＭＰゲインを調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	• ^{241}Amスペクトル測定 ＳＣＡの設定をＤＩＦＦ及びΔＥ＝１．０し、ＬＬＤを０．５目盛ずつ可変させスペクトルを測定する。 ・ウインド設定 ＳＣＡの設定をＤＵＡＬ及びＬＬＤ＝０．５とする。ＵＬＤはスペクトル測定に於いて３項設定電圧での計数値の１％以下になる点のうち、ピークより右側の値とする。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	放射能自動測定装置	型　名	JDC-R74-2361	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損などを点検する。筐体、キースイッチ、ＬＥＤディスプレイ等に異常のないことを確認する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．計測装置動作確認 ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴ動作	ＳＴＯＰランプ点灯中に［ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴ］スイッチを押し、ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴランプが点灯することを確認する。 キーボードスイッチの操作により時刻が設定できることを確認する。 時刻を設定した後に再度［ＣＬＯＣＫ　ＳＥＴ］スイッチを押すとＣＬＯＣＫ　ＳＥＴランプが消灯し、設定した時刻から時計が作動を始めることを確認する。	正常に動作すること	
ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴ動作	ＳＴＯＰランプ点灯中に［ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴ］スイッチを押し、ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプが点灯することを確認する。 ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプが点灯後、各チャンネル毎にＢ．Ｇ→ＥＦＦ→ＦＡＣＴＯＲ→ＵＮＩＴの設定ができることを確認する。 設定後再度［ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴ］スイッチを押すとＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプが消灯することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
表示内容切換動作	ＣＨＡＮＮＥＬ　ＳＥＬＥＣＴスイッチを押す毎に表示内容が ＣＬＯＣＫ→ＣＨ１→ＣＨ２→ＣＨ３→ ＣＨ４→ＣＨ５→ＣＬＯＣＫ と切り替わることを確認する。 ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプまたはＣＬＯＣＫ　ＳＥＴランプが点灯中はそれらの動作が優先することを確認する。	正常に動作すること	
ＴＥＳＴ動作	計測部（TDC-703U）とプリアンプ（PAM-R74-2108）を接続する。	ＴＩＭＥ表示　　1.0 ＣＯＵＮＴ表示　3000±1	
	ＳＴＯＰランプ点灯中にキーボードスイッチの ［＊］ キーを続けて5(回) 押せばＴＥＳＴランプが点灯することを確認する。	正常に動作すること	
	ＰＲＥＳＥＮＴ　ＴＩＭＥを 1.0 (分) に設定し ［ＳＴＡＲＴ］ スイッチを押し、計数終了時の表示を確認する。		
	ＴＥＳＴランプが点灯中にＳＴＯＰスイッチを押すとＴＥＳＴランプが消灯し、ＴＥＳＴ状態が解除されることを確認する		
プリント動作	ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＥＴランプが点灯中に ［ＰＲＩＮＴ］ スイッチを押すと各チャンネル毎に下記の定数をプリントすることを確認する。 ・演算結果の単位 ・バックグランド ・効率 ・校正定数（ＦＡＣＴＯＲ）	正常に動作すること	
	試料の測定終了毎に下記データをプリントすることを確認する。 ・試料番号 ・計数値（グロス） ・演算データまたはＬＥＶＥＬ判定結果		

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
演算動作	ＲＳ－２３２Ｃにより測定終了後、日付、測定結果を転送できることを確認する。 ・Ｃｉ値の演算確認 試料の測定が終了する毎に下記の演算式によりＣｉ値を算出し、プリントすること Ｃｉ値（μCi、μCi／cm^2 、μCi／cm^3） $$= \frac{N}{2.22\times E\times M\times 10^4}$$ $$N = \frac{N_G}{T} - N_B$$ N　：正味計数率　　（cpm） N_G ：全計数　　（カウント） T　：計測時間　　（分） N_B ：バックグランド（cpm） E　：検出効率　　（%） M　：校正定数　　（m×10^n） （ＦＡＣＴＯＲ） ・検出限界計数率の確認 試料の測定が終了する毎に正味計数率Nが、下記の演算式により算出された検出限界計数率N_S 以下の場合、Ｃｉ値ではなくＬＴＤをプリントすること。 （$N \leqq N_S$ の場合） $$N_S = \frac{3}{2}\times\left\{\frac{3}{T} + \sqrt{\left(\frac{3}{T}\right)^2 + 4\times N_B\times\left(\frac{1}{T}+\frac{1}{T_B}\right)}\right\}$$ $_S$ ：検出限界計数率（cpm） N_B ：バックグランド（cpm） T　：試料計測時間　（分） T_B ：バックグランド計測時間（分）	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．HV設定	各ZnSシンチレーション検出器プラトー試験に於けるプラトー領域内の中央値の印加電圧の内一番低い電圧をHV設定値とする。		
4．BG測定	3項で設定した印加電圧に於いてBG測定用皿をカセットに入れ、CH1～4それぞれ 10(分) 間測定する。	0.5(cpm)以下	
5．計数効率	U_3O_8線源（2″ φ）をアダプタを入た上にのせ、CH1～4それぞれ 10(分) 間測定し計数効率を求める。	20%以上	
6．外部影響	光、外部電源、その他の雑音による影響のないことを確認する。	外部電源等によるノイズがないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

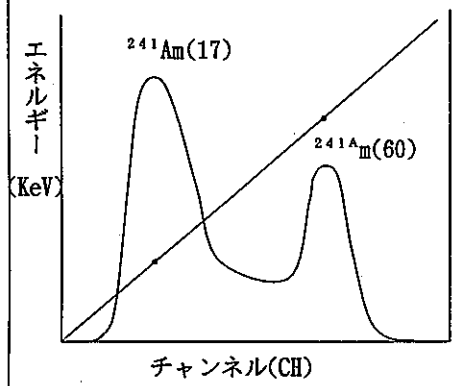
機器名	傷モニタ(NaI薄型ﾀｲﾌﾟ)	型　名		メーカ名	応用光研
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと この時ケーブルは、検出器から取り外すこと。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．測定モード確認	1）印加電圧を800(V)に設定する。 2）リニアアンプ(704-4B)の設定を下記のうにする IN PUT　：NEG OUT PUT　：UNIP 3）^{241}Am 線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着し、AMP　OUTにMCAを接続してスペクトルを測定する。 4）^{241}Am 線源(60KeV) によるエネルギーピークのチャンネル数を読み取る。 5）プリアンプを外しAMP　INにパルスジェネレータを接続し、電圧を入力する。入力電圧が4)項のピークチャンネル数と同じになるようパルスジェネレータを調整する。 6）MCAを外しシンクロスコープを接続して電圧を測定する。 5)項で設定した入力電圧において、AMP　OUTが2.4(V)になるようにAMP　GAINを設定する。 設定不能の場合1)～6)項を繰り返し行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	7）^{241}Am 線源(17KeV,60KeV) を検出器に密着し、ＡＭＰ　ＯＵＴにＭＣＡを接続してスペクトルを測定する。 そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  		
3．エネルギー設定	^{241}Ａm線源(60KeV) のピークが2.4(V)であること。	2.4(V)設定	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成８年３月

機器名	可搬型ガスモニタ	型　名	ＲＤ－１２００	メーカ名	大倉電気
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メーガにて、下記端子間を測定する。 測定箇所：　電源端子　～ G端子間（裏面、外部端子№８）	100(ＭΩ）以上	
3．入力、出力特性試験	下記試験前に必ず№6(-)と№7(+)をショートし、指示計の零点を零アジャスト及び零サプレツションにより合わせてから行う。		
3.1 電圧係数試験	本機外部端子№6(-)と№7(+)間に標準電圧発生器を接続し、電流レンジSHORT で電圧レンジの係数試験をする。 この場合は、電圧レンジ1.0 、標準電圧発生器で100(mV) を入力し、指示計のスパンをSHORT 補正RVにより合わせる。この時に記録計のゼロスパンも調整する。 ＊指示がオーバした時は、標準電圧発生器のダイヤルで読み取ること。	フルスケールの±3(%)以内	
3.2 直線性試験 (1)　リニア目盛	3.1 項の状態で、電圧レンジを1.0 とし標準電圧発生器により、ゼロ～スパン(100 mV) まで入力し、記録計、指示計を読む。 また、外部出力端子にデジボルを接続して測定する。 外部出力端子：　本機裏面外部端子 № 9 (-) №10 (+)	フルスケールの±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

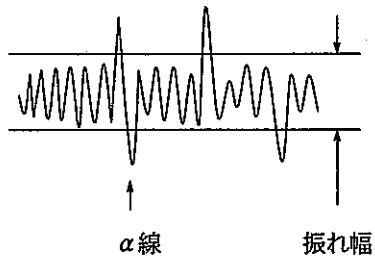
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
(2)　ログ目盛	3.1 項の状態で、電圧レンジをログとし標準電圧発生器により、1(mV) ～10(V) まで入力し、指示値を読む。 外部出力端子 ： 本機裏面外部端子 No. 9 (-) No.10 (+)	フルスケールの±0.16(デガード) 以内 但し外部出力はフルスケールの±2(%)以内	
3.3 標準電流電離箱 電流入力試験	標準電流電離箱により電流を入力する。この場合、零点は標準電流電離箱を取り付けない状態で、零点を取ること。 標準電流電離箱は下記を使用する。 ・使用電流源仕様 製造番号 ： No.90593 出力電流 ： 2.805E-11(A) 核種 ： ^{90}Sr 製造年月日 ： 1990.11.20 ・使用電流源仕様 製造番号 ： No.89166 出力電流 ： 2.874E-12(A) 核種 ： ^{90}Sr 製造年月日 ： 1990.11.20 ・使用電流源仕様 製造番号 ： No.89167 出力電流 ： 2.8590E-13(A) 核種 ： ^{90}Sr 製造年月日 ： 1990.11.20 補正電流値(A) の求め方 $N = No \cdot e^{-\lambda t}$ $= No \cdot e^{-\frac{0.693 \times t}{T}}$ N ： 補正電流値 No： 最初の出力電流値 λ ： 壊変定数 T ： 半減期 (^{90}Sr=28年) t ： 経過時間	±10(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．零サプレッション及び零アジャスト範囲試験 4.1 零サプレッション (1) COARSE	SHORT×0.1 レンジで零点を取り、その位置からダイヤルを右一杯に回して指示を読む。	0.5 $\times 10^{-13}$(A)以上	
(2) FINE	SHORT×1.0 レンジでFINEダイヤルを0.00（目盛）にし、零アジャストダイヤルで零を取る。 次に、FINEダイヤルを10.00（目盛）に回した時の指示を読む。	2.0 $\times 10^{-14}$(A)以上	
4.2 零アジャスト	SHORT×0.1 レンジでアジャストダイヤルを右一杯回して、指示を読む。	フルスケールの±30(%) 以内	
5．振れ幅試験	各レンジの振れ幅を調べる。 測定レンジ SHORT×0.1 10^{-9} (A)×0.1 10^{-11}(A)×0.1 10^{-13}(A)×0.1 ＊振れ幅とはα線の振れは含まないものとする。  α線　　振れ幅	SHORT×0.1 フルスケールの±1(%)以内 10^{-9} (A)×0.1 フルスケールの±2(%)以内 10^{-11}(A)×0.1 フルスケールの±2(%)以内 10^{-13}(A)×0.1 フルスケールの±5(%)以内	
6．電離箱印加電圧試験	測定用端子（M）に、HV用デジボルを接続して測定する。 補償用端子（C側）に、HV用デジボルを接続して測定する。 GNDは裏面№8	測定用電離箱 +330(V) 以上 補償用電離箱 -180(V) 以上	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．気密度試験 （最大到達真空度試験） 試験	系のＳＵＣＴＩＯＮ　ＰＯＲＴに真空ゲージを取付けてポンプＳＷを投入し、真空ゲージの指示を読む。 この場合、ＣＨＡＭＢＥＲ　ＩＮ，ＯＵＴは、ビニールホースでストラップすること。	310(mmHg Abs) 以下 （モニタ圧力計で450mmHg以上）	
8．動作試験	各々の操作部を操作して、各部が正常に動作すること。 （添付の電離箱を取り付けた状態）	使用電離箱：1500(cc)	
8.1 ＭＡＩＮ　ＳＷ投入	ＭＡＩＮランプ点灯し、指示計及び記録計が正常に動作すること。	正常に動作すること。	
8.2 ＳＨＯＲＴ×0.1	ＳＨＯＲＴ×0.1 レンジにおいて、指示計、記録計がともに零点を示すこと。	正常に動作すること。	零点を調整し、零とする。 （アジャスト）
8.3 10^{-13}(A)×0.1	10^{-13}(A)×0.1 レンジにおいて、指示計、記録計がともに零点を示すこと。	正常に動作すること。	零点を調整し、零とする。 （サプレッション）
8.4 ＳＨＯＲＴ×0.1 でＣＨＡＭ（Ｍ）ＳＷ投入	ＳＨＯＲＴ×0.1 レンジにおいて、ＣＨＡＭ（Ｍ）ＳＷを投入すると、ＣＨＡＭ（Ｍ）ランプ点灯すること。	ＣＨＡＭ（Ｍ）ランプ点灯すること。	
8.5 10^{-13}(A)×0.1 （Ｂ．Ｇ測定）	10^{-13}(A)×0.1 レンジで、Ｂ．Ｇ測定する。指示は約 10(μR/h)のＢ．Ｇで、1～2 ×10^{-15}(A)指示すること。	指示：2×10^{-15}(A)以下	
8.6 ＰＵＭＰ　ＳＷ投入	ＰＵＭＰ　ＳＷ投入すると、ＰＵＭＰランプが点灯し、ガス測定（外気を測定すること。）	ＰＵＭＰランプが点灯すること。 流量：10(ℓ/min) 以上 圧力：680(mmHg Abs)以上 指示：2×10^{-15}(A)以下	
8.7 停止 (1) ＰＵＭＰ　ＳＷ再投入	ＰＵＭＰ　ＳＷ再投入すると、ＰＵＭＰが停止し、ＰＵＭＰランプが消灯すること。	ＰＵＭＰランプが消灯すること。 流量：　0(ℓ/min) 以上 圧力：760(mmHg Abs)以上	
(2) ＳＨＯＲＴ　×０．１	レンジをＳＨＯＲＴに切り替える。	零点指示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
(3) CHAM（M）SW再投入	CHAM（M）SWを再投入するとCHAM（M）ランプが消灯し、印加電圧がOFFになること。	CHAM（M）ランプが消灯すること。	
(4) MAIN SW再投入	MAIN SWを再投入するとMAINランプが消灯し、電源がOFFになること。	MAINランプが消灯すること。 記録計、指示計が停止すること。	
9．零ドリフト試験	① 電圧性ドリフト試験 SHORT×0.1 レンジで、12時間記録する。 ② 電流性ドリフト試験 10^{-13}(A)×0.1 レンジで、12時間記録する。 この場合、電離箱は取り付けないこと。	記録を取ること。 ±2(%)/12(h)以下 ±4(%)/12(h)以下	

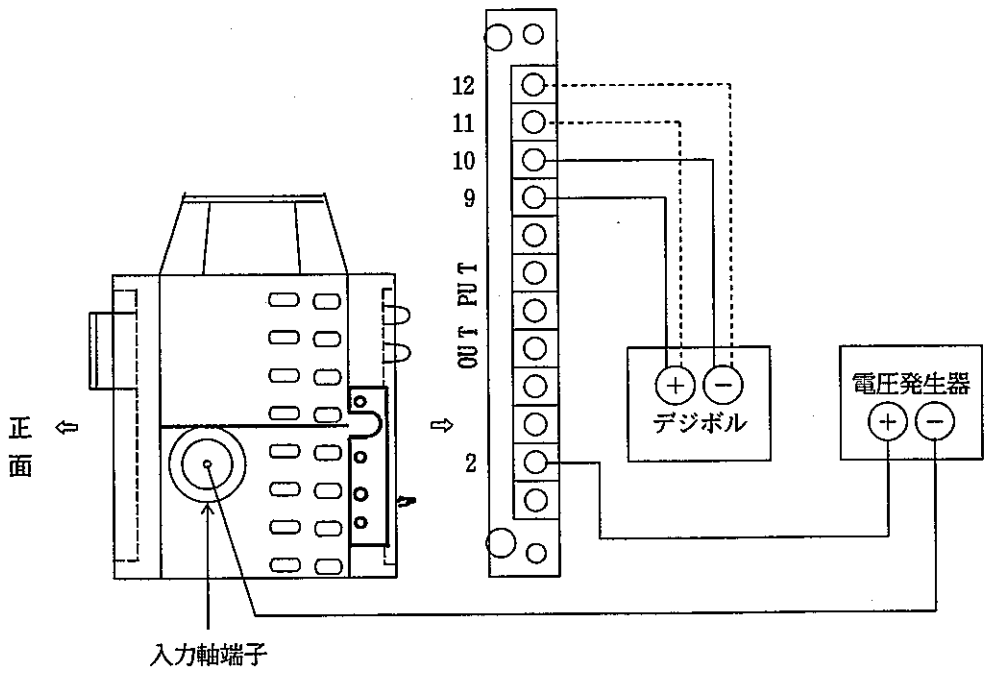
点検整備技術要領書

整理番号		1／13

改訂　平成８年３月

機器名	可搬型ガスモニタ	型　名	ＲＤ－１２１０	メーカ名	大倉電気
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．絶縁試験	電源端子～Ｇ端子間をＤＣ500(V)メガーで測定する。	20(MΩ) 以上	
３．入力、出力特性試験 3.1 電圧入力試験	図－１の様に、標準電流電圧発生器を接続し、入力電圧に対する指示値、外部出力値を測定する。		



点検整備技術要領書

整理番号		2／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

以下の手順に従って行う。

零調整

〔電源投入後充分ウオームアップした後（約30分程度）おこなうこと）

① 下の画面を呼び出す

```
〔MENU〕          ⇨EX
5： CALIBRATION
```

② 電圧入力の場合標準電流電圧発生器を0.0(mV)、電流入力の場合は0.0(fA)を入力するか、ダストキャップを取り付けて行う。

③ EXキーを押し下の画面を呼び出す、⇧ ⇩キーでY側を選択した後 EXキーを押す。

```
CALIB            ⇨EX／K2
ZERO COMP        ■Y：□N
```

④ 約10分後に下の画面になったことを確認し EXキーを押す。

```
CALIB            ⇨EX／K2
ZERO CORRECTED
```

スパン調整

⑤ ⇧ ⇩キーで下の画面を選択する。
（高抵抗 10^{12}(Ω) のスパン校正）

```
CALIB            ⇨EX／K2
RANGE 1.0E12 OHM
```

⑥ EXキー押した後 ⇧ ⇩キー入力電流の整数部をセットして EX キーを押す。

```
CALIB            ⇨EX／K2
INPUT I 1.00E4FAT
```

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	次に、 ⇧ ⇩キーで指数部をセットしEXキーを押す。 （電圧入力の場合は、1.00×10⁴(fA) をセット、電流入力の場合は、標準電流源電離箱の値をセットする） CALIB　⇨EX／K2 SPAN　STAND－BY ⑦ 上記でセットした電流値を入力してから EXキーを押す。 電圧入力試験の場合は、標準電流電圧を10(V) 、電流入力試験の場合は、セットした電流値を加える。 CALIB　⇨EX／K2 SPAN　＊START ⑧ 約10分後、下の画面になる。 CALIB　⇨EX／K2 SPAN　CORRECTED ⑨ EXキーを押した後、⇧ ⇩キーで下画面を選択する。 CALIB　⇨EX／K2 RANGE　1．0E09　OHM ⑩ EXキーを押した後、⇧ ⇩キーで入力電流の整数部をセットして EXキーを押す。 （電圧入力の場合は、1.00×10⁷(fA) をセット、電流入力の場合は、標準電流源電離箱の値をセットする） CALIB　⇨EX／K2 SPAN　STAND－BY		

点検整備技術要領書

整理番号		4／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑪ 上記でセットした電流値を入力してから [EX]キーを押す。 電圧入力試験の場合は、標準電流電圧を10(V)、電流入力試験の場合は、セットした電流値を加える。 CALIB　　⇨EX／K2 SPAN　＊START ⑫ 約10分後、下の画面になる。 CALIB　　⇨EX／K2 SPAN　CORRECTED		
(1) LOG (電圧係数試験)	レンジ切替え (RANGE SET)は「MANUAL RANGE 」にして「1.0E12 OHM」を選択する。 出力(OUT PUT) は「LOG 」を選択する。	指示値：基準値±3(%) 出力1：基準値±0.30(mV) 出力2：基準値±0.12(V)	

入力電圧	基　準　値		規　格
1(mV)	指示値	0.10E1	±0.03E1
	出力1	0.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力2	1.00 (V)	±0.12(V)
10(mV)	指示値	1.00E1	±0.03E1
	出力1	2.50(mV)	± 0.3(mV)
	出力2	2.00 (V)	±0.12(V)
100(mV)	指示値	1.00E2	±0.03E2
	出力1	5.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力2	3.00 (V)	±0.12(V)

点検整備技術要領書

改訂　平成８年３月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

1（V）	指示値	1.00E3	±0.03E3
	出力１	7.50(mV)	± 0.3(mV)
	出力２	4.00（V）	±0.12(V)
10（V）	指示値	1.00E4	±0.03E4
	出力１	10.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力２	5.00（V）	±0.12(V)

＊指示値は入力電圧を示します。

(2) ＬＩＮ
（直線性試験）

3.1 (1)項に続き指示値、外部出力の直線性を確認する。
出力(OUT PUT) は「LIN 」を選択し、「1.00E2 FA 」にセットする。

指示値：基準値±0.3×10^1
出力１：基準値±0.30(mV)
出力２：基準値±0.12(V)

入力電圧	基　準　値		規　格
0.0(mV)	指示値	0.00E1	± 0.3E1
	出力１	0.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力２	1.00（V）	±0.12(V)
20.0(mV)	指示値	2.00E1	± 0.3E1
	出力１	2.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力２	1.80（V）	±0.12(V)
40.0(mV)	指示値	4.00E1	± 0.3E1
	出力１	4.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力２	2.60（V）	±0.12(V)

点検整備技術要領書

整理番号		6／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

60.0(mV)	指示値	6.00E1	± 0.3E1
	出力1	6.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力2	3.40 (V)	±0.12(V)
80.0(mV)	指示値	8.00E1	± 0.3E1
	出力1	8.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力2	4.20 (V)	±0.12(V)
100(mV)	指示値	1.00E2	± 0.3E1
	出力1	10.00(mV)	± 0.3(mV)
	出力2	5.00 (V)	±0.12(V)

3.2 標準電流源電離箱電流入力試験

標準電流源電離箱（型式1-4050-405）を入力源とした指示値を求める。

3.1 項と同様な手順に従って行う。

（標準電流源電離箱の出力電流値は半減期による補正を行う）

標準電流源電離箱は下記を使用する。

・使用電流源仕様
　製造番号　：　ORA624701
　出力電流　：　2.805×10^{-11}(A)
　核種　　：　^{90}Sr
　製造年月日：　1990.11.20

・使用電流源仕様
　製造番号　：　ORA624702
　出力電流　：　2.874×10^{-12}(A)
　核種　　：　^{90}Sr
　製造年月日：　1990.11.20

±10(%)以内

点検整備技術要領書

整理番号		7／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	補正電流値(A) の求め方 $N = No \cdot e^{-\lambda t}$ $= No \cdot e^{-\frac{0.693 \times t}{T}}$ N　：　補正電流値 No：　最初の出力電流値 λ　：　壊変定数 T　：　半減期（^{90}Sr） t　：　経過時間 測定レンジと使用する電流源の値との関係を以下に記す。 測定レンジ ／ 電流値の値 $10^{12}(\Omega)$ ／ 10^{-13}(A)ｵｰﾀﾞｰ以上　10^{-11}(A)ｵｰﾀﾞｰ以下 $10^{9}(\Omega)$ ／ 10^{-11}(A)ｵｰﾀﾞｰ以上　10^{-8} (A)ｵｰﾀﾞｰ以下		
4．故障・警報動作試験	(1)　電源投入 「パワースイッチ」を投入する。 蛍光表示管が下記のような画面になること。 DR1210A　V. 1－01 MFD　BY　OHKURA		

点検整備技術要領書

整理番号		8 ／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

	(2)　零調整異常
	① [EX]キーを2回押し、[⇧] [⇩]キーで下の画面を呼び出す。
	`〔MENU〕　　⇨EX`
	`5：CARIBRATION`
	② [EX]キーを押し下の画面を呼び出すとともに標準電流電圧発生器を用意し、外部端子2番を＋、入力軸をーにして配線する。
	`CALIB　　⇨EX／K2`
	`ZERO　COMP　■Y：□N`
	③ [⇧] [⇩]キーでY側を選択し、[EX]キーを押す。
	ただし、標準電流電圧発生器は0(mV)とする。約5分後標準電流電圧発生器を0.3(V)にする。約5分後下の画面に変わるとともにＦＡＩＬランプが点灯する。
	`CALIB　　⇨EX／K2`
	`ZERO　COMP　＊START`
	`CALIB　　⇨EX／K2`
	`ZERO　FAILED`
	・ＦＡＩＬランプ点灯
	④ [EX]キーを押し、さらに[EX]キーを押すと下の画面になる。
	`ALARM　STATUS　⇨EX`
	`3：　I－ZERO　TRBL`		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	(3) 警報リセット アラームリセットスイッチを投入する。 画面が下のようになる。 ・ＦＡＩＬランプ消灯 ＡＬＡＲＭ　ＳＴＡＴＵＳ　⇨ＥＸ (4) 電流校正異常 ① [Ｋ１]キーを押す [ＥＸ]キーを押す [⇧] [⇩]キーでＮ側を選択する。 ＣＡＬＩＢ　⇨ＥＸ／Ｋ２ ＺＥＲＯ　ＣＯＭＰ　□Ｙ：■Ｎ ＣＡＬＩＢ　⇨ＥＸ／Ｋ２ ＲＡＮＧＥ　１．０Ｅ１２　ＯＨＭ ② [ＥＸ]キーを押す。 標準電流電圧発生器を75(mV)にして、[ＥＸ]キーを下の画面になるまで押す。 ＣＡＬＩＢ　⇨ＥＸ／Ｋ２ ＳＰＡＮ　＊ＳＴＡＲＴ ・ＦＡＩＬランプ点灯 ③ 約10分後ＦＡＩＬランプが点灯し、下の画面になる。 ＣＡＬＩＢ　⇨ＥＸ／Ｋ２ ＳＰＡＮ　ＦＡＩＬＥＤ ④ [Ｋ１]キーを押し、さらに[ＥＸ]キーを押すと下の画面になる。 ＡＬＡＲＭ　ＳＴＡＴＵＳ　⇨ＥＸ ４：ＣＡＲＩＢ　ＴＲＢＬ		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

	(5) 警報リセット
	アラームリセットスイッチを投入。下の画面になる。
	・ＦＡＩＬランプ消灯
	`ALARM STATUS ⇨EX`
	(6) 電源断異常
	① ＡＤＣカード上のバッテリースイッチを「ON」にする。
	標準電流電圧発生器を0(mV) にし、一度電源を「ＯＦＦ」にした後、2秒後再び電源を投入する。
	`RD1210A1V 1−01`
	`MFD BY OHKURA`
	② [Ｋ1]キーを押し、さらに[ＥＸ]キーを押す。下の画面になる。
	・ＦＡＩＬランプ点灯
	`ALARM STATUS ⇨EX`
	`7：POW DOWN ALM`
	(7) 警報リセット
	アラームリセットスイッチを投入。下の画面になる。
	・ＦＡＩＬランプ消灯
	`ALARM STATUS ⇨EX`
	(8) 高警報
	① [ＥＸ]キーを押した後、[Ｋ1]キーを押す。次に、[⇧] [⇩]キーで、下の画面を呼びだす。
	`〔MENU〕 ⇨EX`
	`4：ALARM SET`		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	② [EX]キーを押した後、[⇧] [⇩]キーで整数部1.00をセットする。さらに[EX]キーを押した後、[⇧] [⇩]キーで指数部2をセットし、[EX]キーをおす。 H ALM SET ⇨EX／K2 1.00E2 FA ③ 標準電流電圧発生器を回し、指示を増加させると1.00E2 fAで高警報が動作する。 ・ALMランプ点灯 ・外部端子5～6間ショート ④ [EX]キーを押し、さらに[EX]キーを押す。 ALARM STATUS ⇨EX 1:HIGH ALARM (9) 警報リセット 標準電流電圧発生器を0(mV) にし、リセットスイッチを押す。 ・ALMランプ消灯 ・外部端子5～6間オープン ALARM STATUS ⇨EX (10) 停止操作 パワースイッチ再投入 ・電源断		
5．動作試験	(1) 電源投入 パワースイッチを投入する。 RD1210A1V 1-01 MFD BY OHKURA	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		12／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	(2) 零点調整 ① 下の画面で呼出し、[EX]キーを押す。 〔MENU〕　⇨E ② [⇧] [⇩]キーでY側を選択し、[EX]キーを押す。 CALIB　⇨EX／K2 ZERO COMP　■Y：□N ③ 10分後、下の画面に変わる。[⇧] ＋ [K2]キーを押す。 CALIB　⇨EX／K2 ZERO CORRECTED ・指示が零になること。 (3) H／V電圧印加 ① 「HV SUPPLY」スイッチを投入。 ② H／V用端子電圧の測定 H／V端子（＋）～G端子（－）をデジボルで測定 (4) バックグラウンド測定 外部出力1に記録計を接続し、記録する。 （出力レンジはリニアとし、1.00E1 fAをフルスケールにセットする） (5) ポンプ起動 「ポンプ」スイッチ投入。 この状態で数時間ヒートランする。	・HVランプ点灯 ・約30秒後入力がショートされる。 (単位がこの間(mV)になる) -310±30(V) 指示　：0.20E1 fA以下 (2×10^{-15}A) 外部出力：20(%) 以下 （ただし空間γ線量率＝10 μR/h 以下時） ポンプ動作 最大流量　：10ℓ/min以上 一時間毎にプリンター動作	

点検整備技術要領書

整理番号		13／13

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	(6) 停止操作 ① 「ポンプ」スイッチを再投入。 ② 「HV　SUPPLY」スイッチを再投入 ③ 「POWER」スイッチ再投入	 ポンプ停止 HVランプ消灯 約30秒間入力をショート (単位がこの間(mV)となる) HV端子電圧 0(V) 電圧断	
6．零ドリフト試験	(1) 電圧性ドリフト試験 測定レンジをショート（SHORT SWを投入する）にし、12時間のドリフトを測定する。 （外部出力2に記録計を接続する） BACK　GROUNDで「COMP．NO」を選択する。 (2) 電流性ドリフト試験 ① 測定レンジを「1.0E12 OHM」とし、24時間のドリフトを測定する。 （外部出力2に記録計を接続する） ② 出力はリニアとし、1.00E1 FAに設定する。 ③ BACK　GROUNDで「COMP．YES」を選択する。次に「MAN」を選択した後、「-0.4E1 FA 」をセットする。 ④ 入力軸はダストキャップでおおった状態とする。	フルスケール2(%)／12時間以内 フルスケール3(%)／12時間以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	振動容量型電位計	型　名	RD－5200	メーカ名	大倉電機
検査名	総合検査	施設名	再処理工場		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	機器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	GND端子及びACプラグ間にて測定する。このときPOWER　SWはONとする。 500(Vメガー)を用いること。	500(V)メガーにて 100(MΩ)以上	
3．印加電圧確認	VOLTAGE　SUPPLY　SWを投入して印加電圧出力端子にて確認する。	-240(V)以上	
4．ドリフト試験			
4.1 電圧性ドリフト試験	SHORT－10(mV)レンジで24(H)測定する。	±2(%)/24(h)以下	
4.2 電流性ドリフト試験	SHORT－10(mV)レンジで24(H)測定する。 ・電離箱取りつけ部には、ダストキャップを取り付けること。 ・5(mV)付近を指示させて行うこと。	±3(%)/24(h)以下	
5．零調整	SHORT－1(mV)レンジに於いて零調整を行う。調整後、他レンジについても零調整がなされていることを確認する。	零調整がなされていること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．メータ指示精度	標準電圧電流発生器を用い、各レンジ最大目盛値の50(%)及び100(%)について下記設定に於いて指示精度を確認する。 本体 レンジ　1(mV),3(mV),10(mV),30(mV) 0.1(V),0.3(V),1(V),3(V) 10(V) 電源及び極性切換スイッチ　+POL レジスター 入力　入力軸　－ F端子　＋ レンジ　SHORT	ＦＳ±1.5(%)以内	
7．標準電流源電離箱指示確認	標準電流源電離箱を電離箱取りつけ部に取りつけ、各レンジについて測定を行う。但し、零調整は標準電流源電離箱を取りつけない状態で行うこと。 レンジ　$10^{12}\Omega$,$10^{10}\Omega$,$10^{8}\Omega$ 標準電流源電離箱 製造番号　ORA624702 出力電流　2.874×10^{-12}(A) 核種　Sr-90 製造年月日　1990.11.20	±10(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

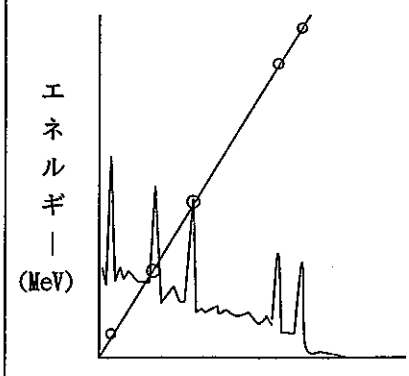
機器名	3"φ 球形NaI(Tl)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ測定装置	型　名		メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．指示値の確認	線量率及び計数率において、指示計及び記録計の指示値の確認を点検前及び点検後実施する。 以下の点検においては、スケーラ部の設定が以下の設定値であること。 Pre/Amp;入力条件、アンプの設定 DETECTTOR : SCINT input : Amp Shaping : Gauss Gain : （前回の設定値） Polarity : Neg IN Polarity : Pos OUT SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾞﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode : INT LL : 1.0 % dE : % UL : % HV; 高圧出力の設定 HV mode HV : （前回の設定値） LIMIT : 1000 V PRESET; 計数条件の設定 MODE : SCALER PT min : 1.0 REPEAT : 0 REC.OUT : LOG DOSE : E2 COUNT : E6	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

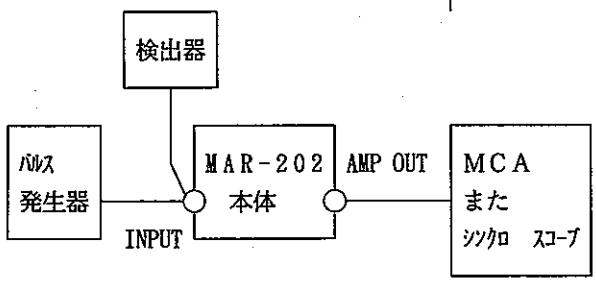
改訂　平成８年３月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	RS-232Cの設定 Control　：　Yes bit/sec　：　4800 Code　：　8b, 1sb FACTOR；演算条件の設定 FACTOR　：　30100		
3．測定モードの確認	①　ＳＣＡをＩＮＴにし、ＬＬの値を13.2(%)に設定する。 ②　パルス発生器からの信号をＩＮ　ＰＵＴに入力し、ＰＨＳ　ＯＵＴに出力が出始める所にパルス発生器を設定する。 　この時のＡＭＰ　ＯＵＴをＭＣＡに入力し、ピークチャンネルを読み取る。 ③　パルス発生器を外し検出器を接続する。 　^{137}Cs 線源使用し、ＭＣＡにてスペクトル測定する。 ④　^{137}Cs 線源(0.662MeV)のピークチャンネルが②項のピークチャンネル値になる様に、ＡＭＰ　ＧＡＩＮ及びＨＶを調整する。 ⑤　^{133}Ba線源(0.08MeV,0.356MeV),^{137}Cs線源(0.662MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV,1.33MeV)を検出器に密着し、ＭＣＡにてスペクトル測定する。 　そして、エネルギー対チャンネルのグラフを作成する。  ・・・　エネルギー対チャンネル	グラフ作成	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 MAR－２０２設定 Pre/Amp;入力条件、アンプの設定 DETECTTOR : SCINT input : Amp Shaping : Gauss Polarity : Neg IN Polarity : Pos OUT SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode : INT LL : 1.0 % dE : % UL : % ⑥ チェックソース(^{137}Cs:3.7×10⁴Bq)（1μCi）を検出器の上部中央に置きＤＲＯＵＴのカウント数を確認する。		
4．エネルギー直線性確認	3.⑤項グラフにて^{133}Ba線源(0.356MeV)及び^{60}Co線源(1.17MeV) より(KeV/CH)を求め、計算値と実測値との各エネルギーＣＨの最大のズレを比較する。 計算式 $A(KeV/CH)=\dfrac{^{60}Co\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(1170KeV) - ^{133}Ba\text{ｴﾈﾙｷﾞ}(356KeV)}{^{60}Co\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(1170KeV\text{のCH}) - ^{133}Ba\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(356KeV\text{のCH})}$ $B(Kev)= ^{60}Co\text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}(1170KeV) - ^{60}Co\text{ﾁｬﾝﾈﾙ}(1170KeV\text{のCH}) \times A$ $\text{誤差}=\dfrac{(\text{求める線源ﾁｬﾝﾈﾙ}\times A+B) - (\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(\text{求める線源ｴﾈﾙｷﾞｰ})}\times 100(\%)$		

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ディスクリレベル及び^{137}Cs線源によるピーク電圧を確認する。		
5．感度試験	^{226}Ra線源(3.7×10^{6}Bq:100μCi)により下記の3点で照射試験を行い、3点の平均感度を求める。 1.429(μGy/h)　：　70(cm) 0.700(μGy/h)　：　100(cm) 0.352(μGy/h)　：　141(cm)	グラフ作成	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	テスタ	型　名	３００８	メーカ名	ＨＩＯＫＩ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	テスタの直流電圧レンジを6(V)レンジに設定する、次に標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを10(V) にする。このときダイヤル目盛は0(V)であること。 次に標準電圧発生器の OUT PUT端子とテスタの端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げて行き5(V)に設定したときのテスタのメータ指示値を読む。 また、各レンジの値も上記の方法にて測定する。	フルスケールの±3(%)以内	

レンジ	標準電圧発生器電圧
6(V)	5(V)
30(V)	25(V)
60(V)	50(V)
300(V)	100(V)

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準電圧発生器電圧}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルテスタ	型　名	R6341A	メーカ名	アドバンテスト
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器の出力端子と被測定器の入力端子に、入力ケーブル(A01001)を接続する。 次に、以下の手順にて、測定及び校正を行う。 ① ファンクションスイッチの⎓ V（直流電圧測定）押し、ディスプレイに⎓が点灯することを確認する。｛注）ＢＡＴＴ表示した時、乾電池(006P)を交換する。｝ ② 標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをVに設定し、ＤＣ／ＡＣスイッチをＤＣに設定する。 ③ ディスプレイ表示を(３ＤＧＴ)モード・スイッチにて$4^{1}/_{2}$桁にする。 ④ レンジを(ＲＡＮＧＥ)モード・スイッチにて、各々のレンジに設定する。 ⑤ ウォームアップを3分以上おこなってから、入力電圧を下記に従って入力し、校正及び校正を行う。		＊電圧を入力した状態で、ファンクションスイッチを切換えないこと。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

設定レンジ	入力電圧
R_0 ：300(mV)	280.00 (mV)
R_1 ： 3(V)	2.8000(V)
R_2 ： 30(V)	28.000 (V)
R_3 ：300(V)	100.00 (V)

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準直流電圧発生器}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルマルチメータ	型　名	TR－6841	メーカ名	タケダ理研
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをVに設定する。次にDC／ACスイッチをDCに設定し、入力ケーブルを被測定信号端子に接続する。 デジタルマルチメータのRUN／HOLDスイッチをRUNに設定し、標準直流電圧発生器からの入力電圧を下記表に従って入力し、測定及び校正を行う。		＊ウォームアップを30分間行ってから実施する。

測定レンジ	入力電圧
20（mV）	±18.000(mV)
200（mV）	±180.00(mV)
2　（V）	±1.8000（V）
20　（V）	±18.000（V）
200　（V）	±180.00（V）

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準電圧発生器}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	①2(V)レンジのゼロ点校正 2(V)レンジに設定し、2VZ ボリュームで校正する。 ②20(mV)レンジのゼロ点校正 20(mV)レンジに設定し、20mVZ ボリュームで校正する。 ③2(V)レンジのフルスケール校正 2(V)レンジに設定し、2VFSボリュームで校正する。		＊2(V)レンジのゼロ点校正は、直流電圧測定のベースとなるレンジのゼロ点校正 ＊2(V)レンジフルスケールの校正は、直流電圧測定のベースとなるフルスケールの校正
デジタルマルチメータの取扱説明			
1．各パネルスイッチ	・AUTO/MANUALスイッチ レンジの切換を自動(AUTO)で行うか、手動(MANUAL)で行うかを選択する。 AUTO ⇨ スイッチが手前に出る MANUAL⇨ スイッチが押し込まれた状態 ・UP,DOWNスイッチ MANUALに設定されている時に限り、このスイッチを押す毎に1レンジづつ測定レンジがUP,DOWN する。 ・RUN/HOLDスイッチ 測定サンプリングを行う(RUN) か、また、行わない(HOLD)かを選択するスイッチ RUN ⇨ 測定動作を繰り返す HOLD⇨ 設定されたデータを表示したまま測定動作は止まる		
2．端子	・2/20μA 端子 微少直流電流測定の入力 「Hi」端子(2μA 、20μA) ・ mA/μA 端子 直流電流及び交流電流測定の入力「Hi」端子 (200μA 、2000μA 、20mA、200mA) ・ＣＯＭ端子 全測定機能の入力「Ｌｏ」端子		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・V／Ω端子 直流電圧、交流電圧、抵抗測定及び導通テスト用の入力「Hi」端子		
3．FUNCTIONスイッチ	・2/20μ 微少直流電流測定(2μA 、20μA) ・mA 直流電流及び交流電流測定(20mA, 200mA) ・μA 直流電流及び交流電流測定 (200μA 、2000μA) ・OHM 抵抗測定及び導通テスト ・V 直流電圧及び交流電圧測定 ・DC／AC 直流／交流の切換 ・((((・ 導通テスト設定		

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルマルチメータ	型　名	ＴＲ－６８４４	メーカ名	タケダ理研
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをVに設定する。次にＤＣ／ＡＣスイッチをＤＣに設定し、入力ケーブルを被測定信号端子に接続する。 デジタルマルチメータのＲＵＮ／ＨＯＬＤスイッチをＲＵＮに設定し、標準直流電圧発生器からの入力電圧を下記表に従って入力し、測定及び校正を行う。 校正定数＝ 標準電圧発生器 ／ 測定値		＊ウォームアップを30分間行ってから実施する。

測定レンジ	入力電圧
20 (mV)	±18.000(mV)
200 (mV)	±180.00(mV)
2 (V)	±1.8000 (V)
20 (V)	±18.000 (V)
200 (V)	±180.00 (V)

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	①2(V)レンジのゼロ点校正 2(V)レンジに設定し、2VZ ボリュームで校正する。 ②20(mV)レンジのゼロ点校正 20(mV)レンジに設定し、20mVZ ボリュームで校正する。 ③2(V)レンジのフルスケール校正 2(V)レンジに設定し、2VFSボリュームで校正する。		＊2(V)レンジのゼロ点校正は、直流電圧測定のベースとなるレンジのゼロ点校正 ＊2(V)レンジフルスケールの校正は、直流電圧測定のベースとなるフルスケールの校正
デジタルマルチメータの取扱説明			
1．各パネルスイッチ	・AUTO/MANUALスイッチ レンジの切換を自動(AUTO)で行うか、手動(MANUAL)で行うかを選択する。 AUTO ⇨ スイッチが手前に出る MANUAL⇨ スイッチが押し込まれた状態 ・UP,DOWNスイッチ MANUALに設定されている時に限り、このスイッチを押す毎に1レンジづつ測定レンジがUP,DOWN する。 ・RUN/HOLDスイッチ 測定サンプリングを行う(RUN) か、また、行わない(HOLD)かを選択するスイッチ RUN ⇨ 測定動作を繰り返す HOLD⇨ 設定されたデータを表示したまま測定動作は止まる		
2．端子	・2/20μA 端子 微少直流電流測定の入力 「Hi」端子(2μA 、20μA) ・ mA/μA 端子 直流電流及び交流電流測定の入力「Hi」端子 (200μA 、2000μA 、20mA、200mA) ・ＣＯＭ端子 全測定機能の入力「Ｌｏ」端子		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	・V／Ω端子 直流電圧、交流電圧、抵抗測定及び導通テスト用の入力「Hi」端子		
3．FUNCTIONスイッチ	・2/20μ 微少直流電流測定(2μA 、20μA) ・mA 直流電流及び交流電流測定(20mA,200mA) ・μA 直流電流及び交流電流測定 (200μA 、2000μA) ・OHM 抵抗測定及び導通テスト ・V 直流電圧及び交流電圧測定 ・DC／AC 直流／交流の切換 ・((((・ 導通テスト設定		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルマルチメータ	型　名	ＴＲ－６８５１	メーカ名	タケダ理研
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをＶに設定する。次にＤＣ／ＡＣスイッチをＤＣに設定し、被測定器のINPUT 端子に付属の入力ケーブル(MI-44) を接続する。入力ケーブルのプラグは、赤色の丸印が有る方を「INPUT 」端子の赤色（「Hi」）端子に接続する。 標準直流電圧発生器からの入力電圧を下記表に従って入力し、測定及び校正を行う。 校正定数＝ 標準電圧発生器 / 測定値	各レンジ フルスケールの±0.02(%) 以内	＊ウォームアップを30分間行ってから実施する。 ＊各レンジ校正ボリューム 20(mV)レンジ: ⑥ボリューム 200(mV)レンジ: ⑫ボリューム 2(V)レンジ: ②ボリューム 20(V)レンジ: ⑪ボリューム 200(V)レンジ: ⑩ボリューム

測定レンジ	入力電圧
20 (mV)	±18.000(mV)
200 (mV)	±180.00(mV)
2 (V)	±1.8000 (V)
20 (V)	±18.000 (V)
200 (V)	±180.00 (V)

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルマルチメータ	型　名	ＴＲ－６８５５	メＸカ名	タケダ理研
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをＶに設定する。次にＤＣ／ＡＣスイッチをＤＣに設定し、被測定器のINPUT 端子に付属の入力ケーブル(MI-44) を接続する。入力ケーブルのプラグは、赤色の丸印が有る方を「INPUT 」端子の赤色（「Hi」）端子に接続する。 標準直流電圧発生器からの入力電圧を下記表に従って入力し、測定及び校正を行う。 標準電圧発生器 校正定数＝ ――――――― 測定値	各レンジ フルスケールの±0.02(%) 以内	＊ウォームアップを30分間行ってから実施する。 ＊各レンジ校正ボリューム 20(mV)レンジ: ⑥ボリューム 200(mV)レンジ: ⑫ボリューム 2(V)レンジ: ②ボリューム 20(V)レンジ: ⑪ボリューム 200(V)レンジ: ⑩ボリューム

測定レンジ	入力電圧
20 (mV)	±18.000(mV)
200 (mV)	±180.00(mV)
2 (V)	±1.8000 (V)
20 (V)	±18.000 (V)
200 (V)	±180.00 (V)

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルマルチメータ	型　名	R6450	メーカ名	アドバンテスト
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器の出力端子と被測定器の入力端子に、入力ケーブル(A01001)を接続する。 次に、以下の手順にて、測定及び校正を行う。 ① ファンクションスイッチの⎓ VDCを押し、LEDが点灯することを確認する。 ② 標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをVに設定し、DC／ACスイッチをDCに設定する。 ③ ファンクションスイッチを(5DGT)を押し、LEDが点灯することを確認する。 ④ レンジスイッチの(AUTO)を押し、LEDが消灯していることを確認する。 ⑤ レンジスイッチの(UP)及び(DOWN)を押し、各々のレンジに設定する。 ⑥ ウォームアップを30分以上おこなってから、入力電圧を下記に従って入力し、測定及び校正を行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力電圧
20(mV)	±18.000(mV)
200(mV)	±180.00(mV)
2 (V)	±1.8000 (V)
20 (V)	±18.000 (V)
200 (V)	±100.00 (V)

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準直流電圧発生器}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルマルチメータ	型　名	R6451A	メーカ名	アドバンテスト
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	標準直流電圧発生器の出力端子と被測定器の入力端子に、入力ケーブル(A01001)を接続する。 次に、以下の手順にて、測定及び校正を行う。 ① ファンクションスイッチのVDCを押し、ディスプレイ表示のDC表示が点灯することを確認する。 ② 標準直流電圧発生器のFUNCTIONスイッチをVに設定し、DC／ACスイッチをDCに設定する。 ③ サンプリングスイッチのRATEを押し、ディスプレイ表示のFMS表示のSが点灯することを確認する。 ④ レンジスイッチのAUTOを押し、ディスプレイ表示のAUTO表示が消灯していることを確認する。 ⑤ レンジスイッチのUP及びDOWNを押し、各々のレンジに設定する。 ⑥ ウォームアップを60分以上おこなってから、入力電圧を下記に従って入力し、測定及び校正を行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力電圧
200(mV)	±180.00(mV)
2000(mV)	±1800.0(mV)
20 (V)	±18.000 (V)
200 (V)	±100.00 (V)

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準直流電圧発生器}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	直流電圧電流計	型　名	２０１２①	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定の校正	直流電圧電流計を50(mV)レンジに設定する。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを100(mV) にする。このときダイヤル目盛は0(mV) であること。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT 端子と直流電圧電流計の端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げていき40(mV)に設定したときの直流電圧電流計のメータ指示値を読む。 また、各レンジの値も上記の方法にて測定する。	フルスケールの±0.5(%)以内	

レンジ	標準電流電圧発生器電圧
50(mV)	40(mV)
3(V)	2.5(V)
10(V)	8.0(V)
30(V)	25.0(V)
100(V)	80.0(V)

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．直流電流測定の校正	標準電流電圧発生器電圧 校正定数＝ ――――――――― 測定値 直流電圧電流計を 1(mA)レンジに設定する。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを 1(mA)にする。このときダイヤル目盛は0(mA)であること。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT 端子と直流電圧電流計の端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げていき0.8(mA) に設定したときの直流電圧電流計のメータ指示値を読む。 また、各レンジの値も上記の方法にて測定する。	フルスケールの±0.5(%)以内	

レンジ	標準電流電圧発生器電流
1(mA)	0.8(mA)
3(mA)	2.5(mA)
10(mA)	8.0(mA)
30(mA)	25.0(mA)
100(mA)	80.0(mA)

標準電流電圧発生器電流
校正定数＝ ―――――――――
測定値

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	直流電流計	型　名	２０１１	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電流測定の校正	直流電流計を10(mA)レンジに設定する。次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを10(mA)にする。このときダイヤル目盛は0(mA)であること。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT 端子と直流電流計の端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げていき8(mA)に設定したときの直流電流計のメータ指示値を読む。 また、各レンジの値も上記の方法にて測定する。 タイプI レンジ / 標準電流電圧発生器電流 10(mA) / 8(mA) 30(mA) / 25(mA) 100(mA) / 80(mA) 校正定数＝ 標準電流電圧発生器電流 ／ 測定値	フルスケールの±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

タイプⅡ

レンジ	標準電流電圧発生器電流
10(μA)	8(μA)
30(μA)	25(μA)
100(μA)	80(μA)
300(μA)	250(μA)

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準電流電圧発生器電流}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	直流電流計	型　名	ＭＰＦＢ	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電流測定	直流電流計を3(μA)レンジに設定する。次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを10(μA)にする。このときダイヤル目盛は 0(μA)であること。 次に、標準電流電圧発生器の OUT PUT端子と直流電流計の端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げて行き2.5(μA)に設定したときの直流電流計のメータ指示値を読む。 $\text{校正定数} = \frac{\text{標準電圧発生器電流}}{\text{測定値}}$	フルスケールの±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	直流電圧計	型　名	２０１１	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定	直流電圧計を3(V)レンジに設定する。次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを10(V) にする。このときダイヤル目盛は0(V)であること。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT 端子と直流電圧計の端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げていき 2.5(V) に設定したときの直流電圧計のメータ指示値を読む。 また、各レンジの値も上記の方法にて測定する。 校正定数＝ 標準電流電圧発生器電圧 ／ 測定値	フルスケールの±0.5(%)以内	

レンジ	標準電流電圧発生器電圧
3(V)	2.5(V)
10(V)	8.0(V)
30(V)	25.0(V)
100(V)	80.0(V)

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	直流電圧計	型　名	MPFB	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定	直流電圧計を1(V)レンジに設定する。次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT SWがOFF であることを確認し、設定モードを 1(V) にする。このときダイヤル目盛は0(V)であること。 次に、標準電流電圧発生器のOUT PUT 端子と直流電圧計の端子を接続し、OUT PUT SWをONにし、出力を徐々に上げていき 0.8(V) に設定したときの直流電圧計のメータ指示値を読む。 また、各レンジの値も上記の方法にて測定する。	フルスケールの±0.5(%)以内	

レンジ	標準電流電圧発生器電圧
1(V)	0.8(V)
3(V)	2.5(V)
10(V)	8.0(V)
30(V)	25.0(V)

$$\text{校正定数} = \frac{\text{標準電流電圧発生器電圧}}{\text{測定値}}$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	高圧ボルトメータ	型　名	１４９－５Ａ，１０Ａ	メーカ名	菊水電子
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電圧測定	1）点検前に標準電圧発生器(2552)の各FUNKUTION SW　が下記の設定にあることを確認する。 POLARITY　0 RANGE　100(mV) OUTPUT　STAND BY VOLTAGE TRIP　12(V) CURRENT LIMIT　5 (mA) デジタル表示　000　000 2）被測定器のINPUT 端子と標準直流電圧発生器の⊕端子を接続し、被測定器のGND 端子と標準直流電圧発生器の⊖端子を接続し標準直流電圧発生器の各FUNKUTION SW　を下記の設定にする。 POLARITY　⊕又は⊖（測定条件） OUTPUT　ＯＮ VOLTAGE TRIP　1200(V) 3）標準直流電流発生器からの入力電圧を下表に従って入力し測定を行う。		

標準入力電圧(V)
0
± ２５０
± ５００
± ７５０
±１０００

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	4）下式により校正定数を求める。 $校正定数 = \frac{標準入力電圧}{測定値}$		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	５２４Ｂ	メーカ名	メトロニクス
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ①　スイッチをＯＵＴＰＵＴ　ＯＮに切換える。 ②　ＶＯＬＴＡＧＥダイヤルをＣＣＷ（反時計回り）一杯からＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 35(V)	＊ＧＮＤ端子と⊖端子間をショートバーで短絡させる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V)，100(V)，110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1)　無負荷時 ①　スイッチをＯＵＴＰＵＴ　ＯＮに切換える。 ②　ＶＯＬＴＡＧＥダイヤルにて 10(V)に設定する。 ③　スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V) に設定した時の値を、デジタルマルチメータにて読み。 ④　上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	(2)　2.5(A)負荷時 ①　出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ②　(1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。		
5．リップル電圧測定	電圧計を10(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で2.5(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	５３２Ｃ	メーカ名	メトロニクス
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ① スイッチをＯＵＴＰＵＴ　ＯＮに切換える。 ② OUTPUT VOLTAGEの０レンジ及びＦＩＮＥダイヤルをＣＣＷ（反時計回り）一杯から３５レンジ及びＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	０ ～ 35(V)	＊ＧＮＤ端子と㊀端子間をショートバーで短絡させる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V)，100(V)，110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1) 無負荷時 ① スイッチをＯＵＴＰＵＴ　ＯＮに切換える。 ② OUTPUT VOLTAGEのレンジ及びＦＩＮＥダイヤルにて20(V) に設定する。 ③ スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V) に設定した時の値を、デジタルマルチメータにて読み。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	④　上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。 (2)　2.0(A)負荷時 ①　出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ②　(1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。		
5．リップル電圧測定	電圧計を20(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で2.0(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	5126	メーカ名	メトロニクス
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ①　スイッチをＯＵＴＰＵＴ　ＯＮに切換える。 ② VOLTAGEツマミを0及びダイヤルをCCW（反時計回り）一杯からツマニを１１０及びダイヤルをＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 120(V)	＊ＧＮＤ端子と㊀端子間をショートバーで短絡させる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V)，100(V)，110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1)無負荷時 ①スイッチをＯＵＴＰＵＴ　ＯＮに切換える。 ②VOLTAGE ツマミ及びダイヤルにて50(V)に設定する。 ③　スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V) に設定した時の値を、デジタルマルチメータにて読み。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	④　上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。 (2)　0.2(A)負荷時 ①　出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ②　(1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。		
5．リップル電圧測定	電圧計を50(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で0.2(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	PW18－2	メーカ名	ケンウッド
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ① DISPLAY/OVER LOAD の＋１８ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ② ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ③ OUTPUT PROTECTが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ④ ①～③以外のＬＥＤが点灯している場合は、消灯させる。 ⑤ VARIABLEが点灯していること。もし、消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ⑥ ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、ロータリーエンコーダをＣＣＷ（反時計回り）一杯からＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 18(V)	＊ＧＮＤ端子とＣＯＭ端子間をショートバーで短絡させる。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V), 100(V), 110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1) 無負荷時 ① DISPLAY/OVER LOAD の＋１８ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ② ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ③ OUTPUT PROTECTが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ④ ①～③以外のＬＥＤが点灯している場合は、消灯させる。 ⑤ VARIABLEが点灯していること。もし、消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ⑥ ロータリーエンコーダを回し、電圧計で 10(V)に設定する。 ⑦ スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V) に設定する。 ⑧ ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、デジタルマルチメータの値を読む。 ⑨ 上記の方法にて、 90(V)時及び110(V)も確認する。 (2) 2(A)負荷時 ① 出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ② (1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
5．リップル電圧測定	電圧計を10(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で2(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	PW36－1	メーカ名	ケンウッド
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ① DISPLAY/OVER LOAD の＋３６ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ② ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ③ OUTPUT PROTECTが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ④ ①～③以外のＬＥＤが点灯している場合は、消灯させる。 ⑤ VARIABLEが点灯していること。もし、消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ⑥ ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、ロータリーエンコーダをＣＣＷ（反時計回り）一杯からＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 36(V)	＊ＧＮＤ端子とＣＯＭ端子間をショートバーで短絡させる。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V), 100(V), 110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1) 無負荷時 ① DISPLAY/OVER LOAD の＋３６ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ② ＶのＬＥＤが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ③ OUTPUT PROTECTが点灯していること。もし消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ④ ①～③以外のＬＥＤが点灯している場合は、消灯させる。 ⑤ VARIABLEが点灯していること。もし、消灯している場合は、キー・スイッチを押し、ＬＥＤを点灯させる。 ⑥ ロータリーエンコーダを回し、電圧計で 20(V)に設定する。 ⑦ スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V) に設定する。 ⑧ ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、デジタルマルチメータの値を読む。 ⑨ 上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。 (2) 1(A)負荷時 ① 出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ② (1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
5．リップル電圧測定	電圧計を20(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で1(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	ＰＡ１８－３Ａ	メーカ名	ケンウッド
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ①　ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、ＬＥＤが点灯していることを確認する。 ②　ＣＵＲＲＥＮＴダイヤルをＣＷ（時計回り）一杯に回し、ＣＶ　ＬＥＤ（緑）が点灯することを確認する。 ③　ＶＯＬＴＡＧＥのＣＯＡＲＳＥ及びＦＩＮＥダイヤルをＣＷＷ（反時計回り）一杯からＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 18(V)	＊ＧＮＤ端子と⊖端子間をショートバーで短絡させる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V)，100(V)，110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1)　無負荷時 ①　ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、ＬＥＤが点灯していることを確認する。 ②　ＣＵＲＲＥＮＴダイヤルをＣＷ（時計回り）一杯に回し、ＣＶ　ＬＥＤ（緑）が点灯することを確認する。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	③　VOLTAGEのCOARSE及びFINEダイヤルで 10(V)に設定する。 ④　スライダックを用いて、AC電源を90(V) に設定した時の値を、デジタルマルチメータにて読み。 ⑤　上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。 (2)　2.5(A)負荷時 ①　出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ②　(1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。		
5．リップル電圧測定	電圧計を10(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で2.5(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	PA18－1．2A	メーカ名	ケンウッド
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ACプラグ～GND端子間をDC500(V)メガーにて測定する。 この時、POWER　SWはONとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ① OUTPUTキー・スイッチを押し、LEDが点灯していることを確認する。 ② CURRENTのCW（時計回り）一杯に回し、CV　LED（緑）が点灯することを確認する。 ③ VOLTAGEをCOARSE及びFINEダイヤルをCWW（反時計回り）一杯からCW（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 18(V)	＊GND端子と⊖端子間をショートバーで短絡させる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、AC電源を90(V)，100(V)，110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1) 無負荷時 ① OUTPUTキー・スイッチを押し、LEDが点灯していることを確認する。 ② CURRENTのCW（時計回り）一杯に回し、CV　LED（緑）が点灯することを確認する。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	③　VOLTAGEのCOARSE及びFINEダイヤルで 10(V)に設定する。 ④　スライダックを用いて、AC電源を90(V) に設定した時の値を、デジタルマルチメータにて読む。 ⑤　上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。 (2)　1.0(A)負荷時 ①　出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ②　(1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。		
5．リップル電圧測定	電圧計を10(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で1.0(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	安定化出力電源	型　名	PA36－1．2A	メーカ名	ケンウッド
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ＡＣプラグ～ＧＮＤ端子間をＤＣ500(V)メガーにて測定する。 この時、ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．出力可変電圧の確認	前面パネルの出力端子とデジタルマルチメータを接続する。 次に、以下の手順にて、出力可変電圧を測定する。 ①　ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、ＬＥＤが点灯していることを確認する。 ②　ＣＵＲＲＥＮＴのＣＷ（時計回り）一杯に回し、ＣＶ　ＬＥＤ（緑）が点灯することを確認する。 ③　ＶＯＬＴＡＧＥをＣＯＡＲＳＥ及びＦＩＮＥダイヤルをＣＷＷ（反時計回り）一杯からＣＷ（時計回り）一杯のデジタルマルチメータの値を読む。 この時、電圧計の値とかわりのないことも合わせて確認する。	0 ～ 36(V)	＊ＧＮＤ端子と㊀端子間をショートバーで短絡させる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V)，100(V)，110(V)変化させた時の、電圧変動を以下の手順にて確認する。 (1)　無負荷時 ①　ＯＵＴＰＵＴキー・スイッチを押し、ＬＥＤが点灯していることを確認する。 ②　ＣＵＲＲＥＮＴのＣＷ（時計回り）一杯に回し、ＣＶ　ＬＥＤ（緑）が点灯することを確認する。	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

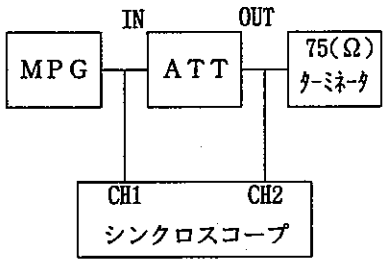
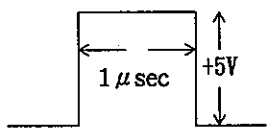
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	③　VOLTAGEのCOARSE及びFINEダイヤルで 20(V)に設定する。 ④　スライダックを用いて、AC電源を90(V) に設定した時の値を、デジタルマルチメータにて読み。 ⑤　上記の方法にて、100(V)時及び110(V)も確認する。 (2)　1.0(A)負荷時 ①　出力端子とデジタルマルチメータ間に負荷電流用の専用治具を接続する。 ②　(1)無負荷時と同様な方法にて電圧変動を確認する。		
5．リップル電圧測定	電圧計を20(V) 設定し、負荷電流用の専用治具で1.0(A)負荷をかけた時の、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	抵抗減衰器	型　名	Ｍ－２１５Ｃ	メーカ名	安立電気
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	異常のないこと	
2 減衰量の確認	 上記の接続によりＭＰＧ出力から＋５(V)をアッテネータの入力に接続し各レンジの測定値においてアッテネータ出力を測定し減衰量を確認する 入力波形  測定点	規格±0.2 (dB)以内	

レンジ	測定点
30 dB×1	30dB
10 dB×5	10dB　30dB　50dB
1 dB×10	3dB　6dB　10dB
0.1 dB×10	0.5dB　1dB

計算式

$$20\mathrm{Log}_{10}\frac{\text{出力}}{\text{入力}}\quad(\mathrm{dB})$$

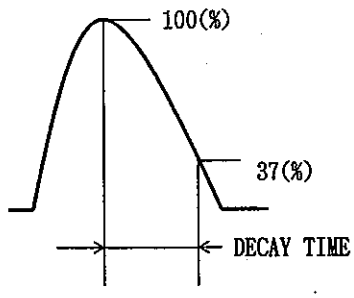
	電圧範囲（V） -0.2dB　+0.2dB
50dB	16.2mV ～ 15.4 mV
30dB	160.9mV ～ 153.8mV
10dB	1.62V ～ 1.54V
6dB	2.57V ～ 2.46V
3dB	3.64V ～ 3.45V
1dB	4.58V ～ 4.38V
0.5dB	4.86V ～ 4.58V

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

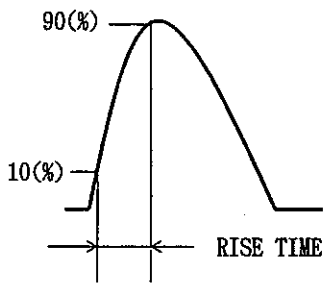
機器名	パルスジェネレータ	型　名	BH－1	メーカ名	BNC
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、出力振幅調整器（AMPLITUDE)をＣＷ（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 ＲＥＦ　：　ＩＮＴ SINGLE/DOUBLE PULSE　：　ＳＩＮＧ ＡＴＴＥＮＵＡＴＯＲ：　ＯＦＦ ＰＯＬＡＲＩＴＹ　：　＋ ＰＵＬＳＥ　ＯＵＴ　：　50Ωﾀｰﾐﾈｰﾄ	50(Ω）ターミネート使用にて、最大出力約 5(V)	
3．出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチを＋にした時、正パルスが出力され、－にした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．ＦＡＬＬ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のDECAY TIMEが FALL TIME切換スイッチを切換えることにより約 50(nsec) ～約 1000(μsec)可変すること。  	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のRISE TIME がRISE TIME 切換スイッチを切換えることにより約 20(nsec) ～約 50(μsec)可変すること。  	可変できること。	
6．周波数の確認	ＦＲＥＱＵＥＮＣＹ切換スイッチ及びノブを切換えることにより、約10(Hz)～約1(Hz) 出力されることをカウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることも合わせて確認する。	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

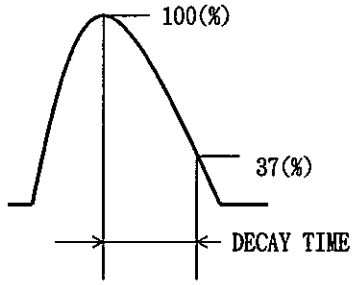
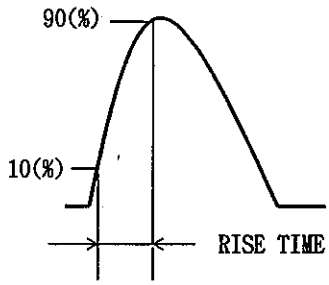
機器名	パルスジェネレータ	型　名	DB－2	メーカ名	BNC
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、出力振幅調整器（AMPLITUDE)をCW（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 MODE　：　REP REF　：　INT RANGE　：　10V ATTEN　：　OFF POLARITY　：　＋ PULSE OUT　：　50Ωﾀｰﾐﾈｰﾄ NORMALIZE　：　CW（時計回り）一杯 RISE TIME　：　0.1(μsec) FALL TIME　：　5.0(μsec)	50(Ω）ターミネート使用にて、最大出力約 5(V)	
3．出力極性の確認	POLARITY切換スイッチを＋にした時、正パルスが出力され、－にした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

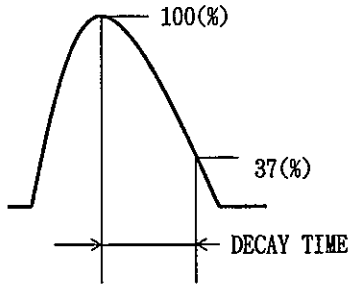
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．ＦＡＬＬ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のDECAY TIMEが FALL TIME切換スイッチを切換えることにより約5(μsec)～約 1000(μsec)可変すること。  	可変できること。	
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のRISE TIME がRISE TIME 切換スイッチを切換えることにより約0.1(nsec) ～約 20(μsec)可変すること。  	可変できること。	
6．周波数の確認	ＦＲＥＱＵＥＮＣＹ切換スイッチ及びノブを切換えることにより、約10(Hz)～約1(Hz) 出力されることをカウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることも合わせて確認する。	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

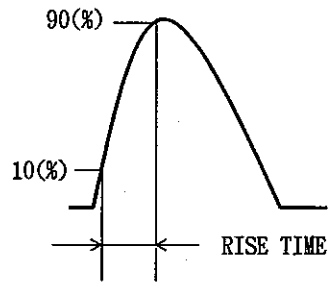
機器名	パルスジェネレータ	型　名	PB－4	メーカ名	BNC
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、出力振幅調整器（AMPLITUDE)の4つのダイヤルをCW（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 REFERENCE　：　INT ATTENUATOR：　OFF POLARITY　：　＋ PULSE　OUT　：　50Ωﾀｰﾐﾈｰﾄ	50(Ω）ターミネート使用にて、最大出力約 5(V)	
3．出力極性の確認	POLARITY切換スイッチを＋にした時、正パルスが出力され、－にした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．FALL　TIMEの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のDECAY TIMEが FALL TIME切換スイッチを切換えることにより約0.5(μsec)～約 1000(μsec)可変すること。  	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のRISE TIME がRISE TIME 切換スイッチを切換えることにより約 50(nsec) ～約 10(μsec)可変すること。  	可変できること。	
6．周波数の確認	ＦＲＥＱＵＥＮＣＹ切換スイッチ及びノブを切換えることにより、約2.5(Hz) ～約250(KHz)出力されることをカウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることも合わせて確認する。	2.5(Hz) ～250(KHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	GL－3	メーカ名	BNC
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＰＵＬＳＥ　ＯＵＴ接栓に、100(Ω)ターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ＭＯＤＥ切換スイッチをＰＲＥＣ　ＰＵＬＳＥに切換える。 ③ ＡＭＰＬＩＴＵＤＥノブをＣＷ（時計回し）一杯に回し、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	100(Ω）ターミネート使用にて最大出力　　約 5(V)	
3．出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチを＋及び－に切換えることにより、正パルス・負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．ＷＩＤＴＨの確認	シンクロスコープにて観測し、ＷＩＤＴＨ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(WIDTH）ノブを切換えることにより、約0.3(μsec)～約100(μsec)に可変すること。	可変できること。	
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥ切換スイッチを切換ることにより、約 0.05(μsec)～約2(μsec)に可変すること。	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．周波数の確認	ＦＲＥＱＵＥＮＣＹ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(Freq)ノブを切換えることにより，約 1(Hz)～約1(MHz) 出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることを合わせて確認する。	1(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	P－1068	メーカ名	NAIG
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	ＣＨ1～ＣＨ4のどれかにシンクロスコープを接続し、出力波高を測定する。	75(Ω）ターミネート使用にて、最大出力3(V)以上	
3．周波数の確認	ＦＩＮＥ切換を 1.0に、×1，×3切換を×1に、ＣＰＭ／ＣＰＳ切換をＣＰＳに設定する。次に 75(Ω）ターミネートしたＣＨ端子にカウンタを接続し、下記の様に周波数レンジを設定した時のカウンタの値を読む。 周波数レンジの設定 1 、10^1 、10^2 、10^3 、10^4 、10^5 、10^6	±0.1(%)以内	
4．ＦＩＮＥ切換の確認	周波数レンジを10^3 に、×1，×3切換を×1に、ＣＰＭ／ＣＰＳ切換をＣＰＳに設定する。次に 75(Ω）ターミネートしたＣＨ端子にカウンタを接続し、下記の様にＦＩＮＥ切換を設定した時のカウンタの値を読む。 ＦＩＮＥ切換の設定 0.2 、0.5 、1.0	±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

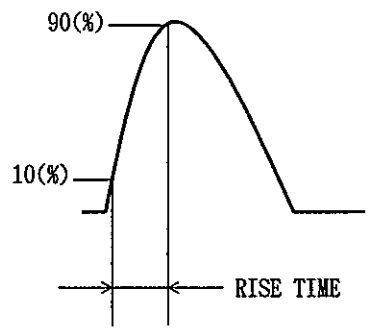
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．×1，×3切換の確認	周波数レンジを10^3に、ＦＩＮＥ切換を1.0に、ＣＰＭ／ＣＰＳ切換をＣＰＳに設定する。次に75(Ω)ターミネートしたＣＨ端子にカウンタを接続し、×1，×3切換を×1又は×3にした時のカウンタの値を読む。	±0.1(%)以内	
6．操作器の確認	操作器をＣＰＳからＣＰＭに切換えることにより、1/60分周されること。	ＣＰＳ・ＣＰＭで出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	E－571	メーカ名	NAIG
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	AMPLITUDE の押しボタンスイッチを全て9に設定し、100(Ω）ターミネートしたＯＵＴＰＵＴ端子にシンクロスコープを接続し、出力波高を測定する。	100(Ω）ターミネート使用にて、最大出力　約 5(V)	
3．出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチをＰＯＳにいた時、正パルスが出力され、ＮＥＧにした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．パルス幅の確認	シンクロスコープにて観測し、ＷＩＤＴＨ切換スイッチ及びＦＩＮＥを調整にて約0.1(μsec)～約100(μsec)に可変すること。	可変できること。	
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のRISE TIME がRISE TIME 切換スイッチを切換えることにより約0.1,0.2,0.5,1.0 可変すること。  	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．周波数の確認	ＦＲＥＱＵＥＮＣＹのＦＩＮＥをＣＣＷ（反時計回し）一杯に回し、ＣＡＬモードにする。次に100(Ω）ターミネートしたＯＵＴＰＵＴ端子にカウンタを接続し、下記の様にＦＲＥＱＵＥＮＣＹを設定した時のカウンタの値を読む。 ＦＲＥＱＵＥＮＣＹを10KHz に設定し、ＦＩＮＥをＣＷ（時計回り）一杯に回した時のカウンタの値が約100(KHz)あることを確認する。 周波数設定値 $10^1, 10^2, 10^3, 10^4$	直線性±0.1(%)以内 ＦＩＮＥにて100(KHz)まで可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	７１１３７１	メーカ名	菊水電子
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、ＡＭＰＬＩＴＵＤＥの３つのダイヤルをＣＷ（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 ＦＵＮＣＴＩＯＮ　：　⎍ 1/10　ＡＴＴ　：　ＯＦＦ １０Ｖ　ＡＤＪ：　出力波高が10(V)ない時に調整する。	75(Ω）ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	
3．パルス波形の確認	シンクロスコープにて観測し、ＦＵＮＣＴＩＯＮ切換スイッチを切換えることにより、正・負の正弦波及び方形波が出力されることを確認する。	正・負の正弦波及び方形波が出力されること。	
4．パルス幅の確認	シンクロスコープにて観測し、ＰＵＬＳＥ　ＷＩＤＴＨノブを可変することにより、約2(μsec)～約 20(μsec)可変することを確認する。 尚、周波数が100(KHz)では、約約2(μsec)～約8(μsec)までしか可変できない。	可変できること。	
5．ＤＥＣＡＹ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、ＤＥＣＡＹ　ＴＩＭＥ切換スイッチを切換えることにより、約1(μsec)～約500(μsec)可変することを確認する。	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．周波数の確認	ＦＲＥＱ　ＲＡＮＧＥの左側の３・１０切換スイッチを１０に設定する。次に右側の切換スイッチを下記の様に、設定した時のカウンタの値を読む。 右側ＦＲＥＱ　ＲＡＮＧＥの設定 0.1, 1, 10, 100, 1K, 10,	±0.1(%)以内	
7．×3、×１０切換の確認	ＦＲＥＱ　ＲＡＮＧＥの右側を１Ｋに設定し、左側の切換スイッチを3及び１０に切換えた時のカウンタの値を読む。	±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

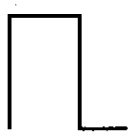
機器名	パルスジェネレータ	型　名	１９１	メーカ名	WAVETEK
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＦＣＴＮ　ＯＵＴ接栓に 50(Ω) をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ＰＵＬＳＥのＮＯＲＭボタンを押す。 ③ ＭＯＤＥ切換スイッチをＦＵＮＣのＣＯＮＴにする。 ④ ＦＵＮＣＴＩＯＮ切換スイッチを方形波にする。 ⑤ ＡＭＰＬＩＴＵＤＥノブをＣＷ（時計回し）一杯に回し、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	50(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 15(V)	*PULSE/SQUARE ボタンを全部OFF にする。
3．パルス波形の確認	ＦＵＮＣＴＩＯＮ切換スイッチをを正弦波、三角波、方形波に切換え、それぞれの波形を観測する。 ① 正弦波 	正弦波、三角波、方形波が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	② 三角波  ③ 方形波 		
4．周波数の確認	ＦＲＥＱ　ＭＵＬＴ（Ｈｚ）切換スイッチ及びFREQUENCY DIALを切換えることにより、約 1(Hz)～約1(MHz)出力されることをカウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることも合わせて確認する。	1(Hz))～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

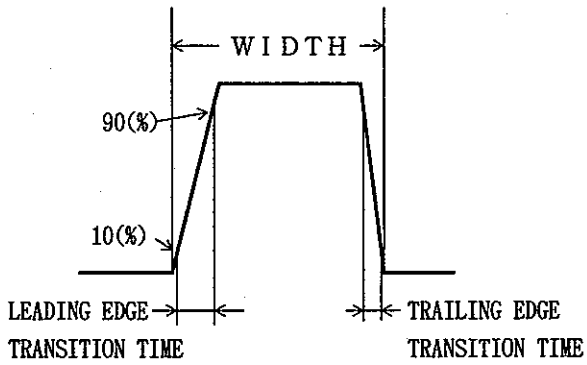
機器名	パルスジェネレータ	型　名	801	メーカ名	WAVETEK
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① 50(Ω) OUT接栓に、50(Ω)をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② MODE切換スイッチをCONTにする。 ③ OUTPUT切換スイッチをNORMにする。 ④ LOWER LEVEL(UPPER LEVEL)を調整し、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	50(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	＊TRANSITION TIME, LEADING EDGE, TRAILING EDGE により出力波高が変わることがある。
3．出力極性の確認	LOWER LEVEL(UPPER LEVEL)を調整することにより、正パルス・負パルスが出力されること。 LOWER LEVEL：下ノブ（負パルス） UPPER LEVEL：上ノブ（正パルス）	正・負パルスが出力されること。	
4．WIDTHの確認	シンクロスコープにて観測し、WIDTH VARIABLEを切換えることにより、約10(nsec)～約100(msec) に可変すること。	可変できること。	
5．TRANSITION TIMEの確認	シンクロスコープにて観測し、TRANSITION TIME を切換えることにより、約5(nsec)～約50(msec)に可変すること。 また、LEADING EDGE及びTRAILING TIME を調整することにより、可変すること。	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
			
6．周波数の確認	ＰＥＲＩＯＤ／ＲＡＴＥ　ＶＡＲＩＡＢＬＥ切換スイッチを切換えることにより、約5(Hz) ～約1(MHz) 出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることを合わせて確認する。	5(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

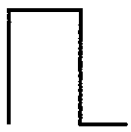
機器名	パルスジェネレータ	型　名	２７１	メーカ名	WAVETEK
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＦＣＴＮ　ＯＵＴ接栓に 50(Ω) をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ＭＡＩＮのＭＱＤＥ（Ｂ）ボタンを押す。 ③ 数字ボタンにて、「０」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。 ④ ディスプレイに「ＭＯＤＥ　ＣＯＮＴＩＮＵＯＵＳ（０）」と表示することを確認する。 ⑤ ＭＡＩＮのＦＲＥＱ（Ｆ）ボタンを押す。 ⑥ 数字ボタンにて、「１０００」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。 ⑦ ディスプレイに「ＦＲＥＱ　１．０ＫＨＺ」と表示することを確認する。 ⑧ ＭＡＩＮのＦＵＮＣ（Ｃ）ボタンを押す。 ⑨ 数字ボタンにて、「２」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。 ⑩ ディスプレイに「ＦＵＮＣ　ＳＱＵＡＲＥ（２）」と表示することを確認する。 ⑪ ＭＡＩＮのＡＭＰＬ（Ａ）ボタンを押す。 ⑫ 数字ボタンにて、「２０」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。	50(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	＊ディスプレイの左端に＊印がある場合は、入力した値が設定されていない。 ＊OFF SETが0(mV)であることを確認する。 ＊UPPER が10(V)、LOWER が-10(V)であることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑬ ディスプレイに「AMPLITUDE 20V」と表示することを確認する。 ⑭ OUTのON（P）ボタンを押す。 ⑮ 数字ボタンにて、「1」を入力し、EXEC（I）ボタンを押す。 ⑯ ディスプレイに「OUTPUT ON（1）」と表示することを確認する。 ⑰ シンクロスコープにて、出力波高を測定する。		
3．パルス波形の確認	MAINのFUNC（C）ボタンを押し、数字ボタンの0～2を押し、以下の波形をシンクロスコープにて観測する。 ① 0ボタン（正弦波）  ② 1ボタン（三角波）  ③ 2ボタン（方形波） 	正弦波、三角波、方形波が出力されること。	
4．周波数の確認	MAINのFREQ（F）ボタンを押し、数字ボタンにて下記の設定値に設定し、カウンタにて値を読む。 周波数設定値 $10^0, 10^1, 10^2, 10^3, 10^4, 10^5, 10^6$	±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

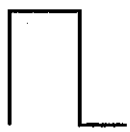
機器名	パルスジェネレータ	型　名	273	メーカ名	WAVETEK
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＦＣＴＮ　ＯＵＴ接栓に 50(Ω) をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ＭＡＩＮのＭＱＤＥ（Ｂ）ボタンを押す。 ③ 数字ボタンにて、「０」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。 ④ ディスプレイに「ＭＯＤＥ　ＣＯＮＴＩＮＵＯＵＳ（０）」と表示することを確認する。 ⑤ ＭＡＩＮのＦＲＥＱ（Ｆ）ボタンを押す。 ⑥ 数字ボタンにて、「１０００」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。 ⑦ ディスプレイに「ＦＲＥＱ　１．０ＫＨＺ」と表示することを確認する。 ⑧ ＭＡＩＮのＦＵＮＣ（Ｃ）ボタンを押す。 ⑨ 数字ボタンにて、「２」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。 ⑩ ディスプレイに「ＦＵＮＣ　ＳＱＵＡＲＥ（２）」と表示することを確認する。 ⑪ ＭＡＩＮのＡＭＰＬ（Ａ）ボタンを押す。 ⑫ 数字ボタンにて、「１０」を入力し、ＥＸＥＣ（Ｉ）ボタンを押す。	50(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	＊ディスプレイの左端に＊印がある場合は、入力した値が設定されていない。 ＊OFF SETが0(mV)であることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑬ ディスプレイに「AMPLITUDE 10V」と表示することを確認する。 ⑭ OUTのON（P）ボタンを押す。 ⑮ 数字ボタンにて、「1」を入力し、EXEC（I）ボタンを押す。 ⑯ ディスプレイに「OUTPUT ON（1）」と表示することを確認する。 ⑰ シンクロスコープにて、出力波高を測定する。		
3．パルス波形の確認	MAINのFUNC（C）ボタンを押し、数字ボタンの0～2を押し、以下の波形をシンクロスコープにて観測する。 ① 0ボタン（正弦波）  ② 1ボタン（三角波）  ③ 2ボタン（方形波） 	正弦波、三角波、方形波が出力されること。	
4．周波数の確認	MAINのFREQ（F）ボタンを押し、数字ボタンにて下記の設定値に設定し、カウンタにて値を読む。 周波数設定値 $10^0, 10^1, 10^2, 10^3, 10^4, 10^5, 10^6$	±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

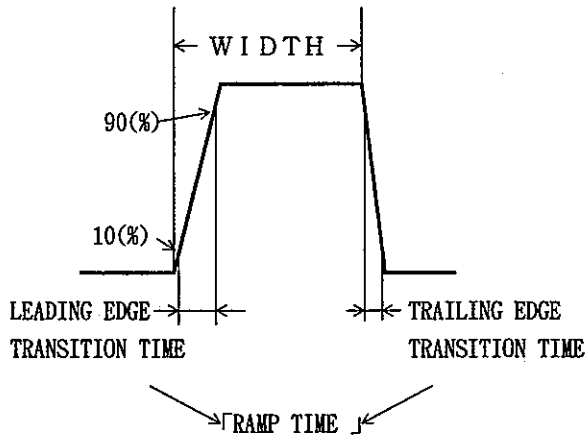
機器名	パルスジェネレータ	型　名	１３６Ａ	メーカ名	ＷＡＶＥＴＥＫ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＯＵＴＰＵＴ 50 Ω接栓に、50(Ω)をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ATTENUATION 切換スイッチを20Ｖにする。 ③ ＯＦＦＳＥＴ切換スイッチをＯＦＦにする。 ④ ＡＭＰＬＩＴＵＤＥノブをＣＷ（時計回し）一杯に回し、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	50(Ω）ターミネート使用にて、最大出力　約 20(V)	＊RAMP TIME/V,LEADING EDGE,TRAILING EDGEにより出力波高が変わることがある。
3．出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹＶＥＬ切換スイッチを＋ＮＯＲＭＡＬ及び－ＮＯＲＭＡＬに切換えることにより、正パルス・負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．ＷＩＤＴＨの確認	シンクロスコープにて観測し、ＷＩＤＴＨ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(WIDTH) ノブを切換えることにより、約10(nsec)～約50(msec)に可変すること。	可変できること。	
5．ＲＡＭＰ　ＴＩＭＥ／Ｖの確認	シンクロスコープにて観測し、RAMP TIME/V を切換えることにより、約0.4(nsec)～約 1000(μsec)に可変すること。 また、LEADING EDGE及びTRAILING TIME を調整することにより、可変すること。	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
			
6．周波数の確認	ＦＲＥＱＵＥＮＣＹ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(Freq)ノブを切換えることにより、約10(Hz)～約1(MHz) 出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることを合わせて確認する。	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

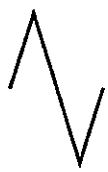
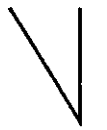
機器名	パルスジェネレータ	型　名	１９３０Ａ	メーカ名	エヌエフ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＦＣＴＮ　ＯＵＴ接栓に 50(Ω) をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ＥＮＴＲＹのＦＲＥＱボタンを押す。 ③ ＤＡＴＡにて[1]、[0]ボタンを押し、次にＥＮＴＥＲの[ＫＨｚ]ボタンを押す。 ④ ディスプレイに「10.000 000 0KHz 」と表示することを確認する。 ⑤ ＥＮＴＲＹの[ＦＣＴＮ]ボタンを押し、次に、ＤＡＴＡの[3]ボタンを押す。 ⑥ ディスプレイに「<⎍_>3 」と表示することを確認する。 ⑦ ＥＮＴＲＹの[ＡＭＰＴＤ]ボタンを押す。 ⑧ ＤＡＴＡにて[3]、[0]ボタンを押し、次に、ＥＮＴＥＲの[ＫＨｚ，ｇｅｇ，Ｖ]ボタンを押す。 ⑨ ディスプレイに「30Ｖｐ－ｐ」と表示することを確認する。 ⑩ ＥＮＴＲＹの[ＭＯＤＥ]ボタンを押す。 ⑪ ＤＥＴＡにて[0]ボタンを押す。 ⑫ ディスプレイに「＜ＣＯＮＴ＞0」と表示することを確認する。 ⑬ FCTN OUT ON/OFF ボタンを押す。 ⑭ シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	50(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 15(V)	＊OFF SETが0(mV)であることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．パルス波形の確認	ＥＮＴＲＹの[ＦＣＴＮ]ボタンを押し、次に、ＤＡＴＡの[1]～[5]ボタンを押し、以下の波形をシンクロスコープにて観測する。 ①　１ボタン（正弦波）  ②　２ボタン（三角波）  ③　３ボタン（方形波）  ④　４ボタン（上りののこぎり波）  ⑤　５ボタン（下りののこぎり波） 		
4．周波数の確認	ＥＮＴＲＹのＦＲＥＱボタンを押し、次に、ＤＡＴＡの０～９ボタンを押し、下記の設定値に設定し、カウンタにて値を読む。 周波数設定値 $10^0, 10^1, 10^2, 10^3, 10^4, 10^5, 10^6$(Hz)	±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

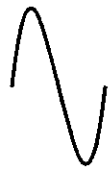
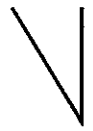
機器名	パルスジェネレータ	型　名	1940	メーカ名	エヌエフ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＦＣＴＮ　ＯＵＴ接栓に 50(Ω) をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ＥＮＴＲＹのＦＲＥＱボタンを押す。 ③ ＤＡＴＡにて1、0ボタンを押し、次にＥＮＴＥＲのＫＨｚボタンを押す。 ④ ディスプレイに「10.000 000 0KHz 」と表示することを確認する。 ⑤ ＥＮＴＲＹのＦＣＴＮボタンを押し、次に、ＤＡＴＡの3ボタンを押す。 ⑥ ディスプレイに「<⎍>3 」と表示することを確認する。 ⑦ ＥＮＴＲＹのＡＭＰＴＤボタンを押す。 ⑧ ＤＡＴＡにて2、0ボタンを押し、次に、ＥＮＴＥＲのＭＨｚ，Ｖボタンを押す。 ⑨ ディスプレイに「20.0 Vp-p/OPEN」と表示することを確認する。 ⑩ ＥＮＴＥＲのＭＯＤＥボタンを押す。 ⑪ ＤＥＴＡにて0ボタンを押す。 ⑫ ディスプレイに「＜ＣＯＮＴ＞0」と表示することを確認する。 ⑬ FCTN OUT ON/OFF ボタンを押す。 ⑭ シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	50(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	＊OFF SETが0(mV)であることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．パルス波形の確認	ＥＮＴＲＹの[ＦＣＴＮ]ボタンを押し、次に、ＤＡＴＡの[1]～[5]ボタンを押し、以下の波形をシンクロスコープにて観測する。 ①　1ボタン（正弦波）  ②　2ボタン（三角波）  ③　3ボタン（方形波）  ④　4ボタン（上りののこぎり波）  ⑤　5ボタン（下りののこぎり波） 		
4．周波数の確認	ＥＮＴＲＹのＦＲＥＱボタンを押し、次に、ＤＡＴＡの0～9ボタンを押し、下記の設定値に設定し、カウンタにて値を読む。 周波数設定値 $10^0, 10^1, 10^2, 10^3, 10^4, 10^5, 10^6$(Hz)	±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	ＳＹ－１１８	メーカ名	エヌエフ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	ＯＵＴＰＵＴ接栓に、シンクロスコープに接続し、ＰＵＳＨ７５（Ω）を押してから出力波高を測定する。	PUSH 75(Ω）にて最大出力約 3(V)	
3．周波数の確認	ＦＲＥＱ　ＭＵＬＴＩＰＬＩＥＲ切換スイッチ及びＦＲＥＱダイヤルを回すことにより、約10(Hz)～約1(MHz)出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることも合わせて確認する。	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	8011A	メーカ名	YHP
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

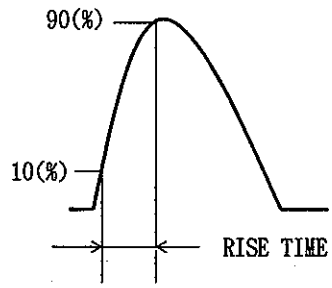
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① OUTPUT接栓に、シンクロスコープに接続する。 ② SINGLE PULSEボタンをおす。 ③ AMPLITUDE（V）の－16ボタンをおす。 ④ INT LOADボタンをす。 ⑤ AMPLITUDE のVERNIER ノブをCW（時計回し）一杯にまわし、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	INT LOADスイッチONにて 最大出力　約 16(V)	
3．出力極性の確認	POSボタンを押した時、正パルスが出力され、NEGボタンを押した時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．パルス幅の確認	シンクロスコープにて観測し、PULSE WIDTHの各ボタンを押し、又、VERIERノブを回すことにより可変すること。	可変できること。	
5．周波数の確認	PULSE PERIOD（s）の各ボタンを押し、又、VERIERノブを回すことにより、約 1(Hz)～約1(MHz)出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることも合わせて確認する。	1(Hz) ～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

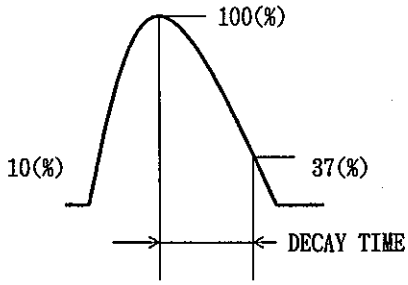
機器名	パルスジェネレータ	型　名	MXG－101	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．マーキュリーパルサ出力			
2.1 出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、出力振幅調整器（AMPLITUDE)をCW（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 RANGE　：　10V POLARITY　：　POS OUTPUT　：　75Ωﾀｰﾐﾈｰﾄ	75(Ω）ターミネート使用にて、最大出力約 10(V)	
2.2 出力極性の確認	POLARITY切換スイッチをPOSにした時、正パルスが出力され、NEGにした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
2.3 RISE TIME の確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のRISE TIME がRISE TIME 切換スイッチを切換えることにより50(nsec)以下、約0.1,0.2,0.3,1(μsec)可変すること。  	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基	備　　考
2.4 DECAY TIMEの確認	シンクロスコープにて観測し、下図パルス波形のDECAY TIMEがDECAY TIME切換スイッチを切換えることにより約1,10,100,500（μsec)可変すること。  	可変できること。	
3．クリスタルパルサ出力			
3.1 出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、出力振幅調整器（AMPLITUDE)をＣＷ（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 モード切換スイッチ　：　ＸＰＧ ＰＯＬＡＲＩＴＹ　：　ＰＯＳ ＡＴＴ　：　０ｄＢ ＯＵＴＰＵＴ　：　75Ωﾀｰﾐﾈｰﾄ	75(Ω）ターミネート使用にて、最大出力5(V)以上	
3.2 出力パルス幅の確認	シンクロスコープにて観測し、出力パルス幅調整器(PULSE WIDTH）を左一杯から右一杯にまわした時パルス幅が、約0.4(μsec)～約 10(μsec)に可変すること。	可変できること。	
3.3 出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチをＰＯＳにした時、正パルスが出力され、ＮＥＧにした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基	備　　考
3.4 周波数の確認	周波数ＲＡＮＧＥ切換器を10に設定し、操作器をＣＰＳ設定する。次に 75(Ω) ターミネートしたOUT PUT 端子にカウンタを接続し、下記の様に周波数切換器(MULTIPLIER)を設定した時のカウンタの値を読む。 周波数切換器(MULTIPLIER)の設定 10^{-1}、1 、10^{1} 、10^{2} 、10^{3} 、10^{4}	±0.1(%)以内	
3.5 周波数ＲＡＮＧＥ切換え器の確認	周波数切換器(MULTIPLIER)を10^{3} に設定し、操作器をＣＰＳ設定する。次に 75(Ω) ターミネートしたOUT PUT 端子にカウンタを接続し、下記の様に周波数ＲＡＮＧＥ切換器　設定した時のカウンタの値を読む。 周波数ＲＡＮＧＥ切換器の設定 .75 、1 、1.5 、2 、3 、6 、10	±0.1(%)以内	
3.6 操作器の確認	操作器をＣＰＳからＣＰＭに切換えることにより、1/60分周されること。	ＣＰＳ・ＣＰＭで出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	XPG－3	メーカ名	Aloka
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、出力振幅調整器（AMPLITUDE)をCW（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 モード切換スイッチ　：　XPG POLARITY　：　POS ATT　：　0dB OUTPUT　：　75Ωﾀｰﾐﾈｰﾄ	75(Ω）ターミネート使用にて、最大出力5(V)以上	
3．出力パルス幅の確認	シンクロスコープにて観測し、出力パルス幅調整器(PULSE WIDTH) を左一杯から右一杯にまわした時パルス幅が、約0.4(μsec)～約 10(μsec)に可変すること。	可変できること。	
4．出力極性の確認	POLARITY切換スイッチをPOSにした時、正パルスが出力され、NEGにした時、負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
5．周波数の確認	周波数RANGE切換器を10に設定し、操作器をCPS設定する。次に 75(Ω）ターミネートしたOUT PUT 端子にカウンタを接続し、下記の様に周波数切換器(MULTIPLIER)を設定した時のカウンタの値を読む。 周波数切換器(MULTIPLIER)の設定 10^{-1}、1 、10^{1} 、10^{2} 、10^{3} 、10^{4}	±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．周波数ＲＡＮＧＥ切換え器の確認	周波数切換器(MULTIPLIER)を10^3 に設定し、操作器をＣＰＳ設定する。次に 75(Ω)ターミネートしたOUT PUT 端子にカウンタを接続し、下記の様に周波数ＲＡＮＧＥ切換器　設定した時のカウンタの値を読む。 周波数ＲＡＮＧＥ切換器の設定 .75 、1 、1.5 、2 、3 、6 、10	±0.1(%)以内	
7．操作器の確認	操作器をＣＰＳからＣＰＭに切換えることにより、1/60分周されること。	ＣＰＳ・ＣＰＭで出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パルスジェネレータ	型　名	G740	メーカ名	E・Hリサーチ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

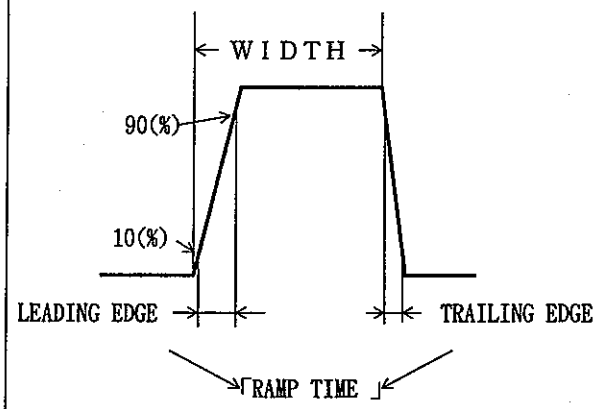
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＯＵＴＰＵＴ接栓に、シンクロスコープに接続する。 ② ＯＦＦＳＥＴノブをＣＣＷ（反時計回り）一杯にまわす。 ③ ＩＮＴ・ＥＸＴＥＲＮＡＬ切換スイッチをＩＮＴに切換える。 ④ ＳＩＮＧＬＥ・ＤＯＵＢＬＥ切換スイッチをＳＩＮＧＬＥに切換える。 ⑤ ＰＵＬＳＥ・ＳＱ，ＷＡＶＥ切換スイッチをＳＱ，ＷＡＶＥに切換える。 ⑥ ＮＯＲＭＡＬ・ＣＯＭＰＬＥＭＥＮＴ切換スイッチをＮＯＲＭＡＬに切換える。 ⑦ ＢＡＣＫＭＡＴＣＨスイッチをＯＮにする。 ⑧ 1-3.3V・3.3-10V 切換スイッチを3.3-10V に切換える。 ⑤ ＡＭＰＬＩＴＵＤＥノブをＣＷ（時計回し）一杯に回し、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	ＢＡＣＫＭＡＴＣＨスイッチをＯＮ（５０Ω）にて 最大出力　　約 5(V)	＊RAMP RANGE, LEADING EDGE, TRAILING EDGE により出力波高が変わることがある。
3．出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチをＰＯＳＩＴＩＶＥ及びＮＥＧＴＩＶＥに切換えることにより、正パルス・負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．ＷＩＤＴＨの確認	シンクロスコープにて観測し、ＷＩＤＴＨ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(WIDTH) ノブを切換えることにより、約10(nsec)～約50(msec)に可変すること。	可変できること。	
5．RAMP　RANGEの確認	シンクロスコープにて観測し、RAMP RANGEを切換えることにより、約 5(nsec)～約20(msec)に可変すること。 また、LEADING EDGE及びTRAILING EDGE ノブを調整することにより、可変すること。	可変できること。	
6．周波数の確認	ＦＲＥＱ　ＲＡＮＧＥ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(Freq)ノブを切換えることにより、約20(Hz)～約1(MHz) 出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることを合わせて確認する。	20(Hz)～1(MHz)が出力されること。	



点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

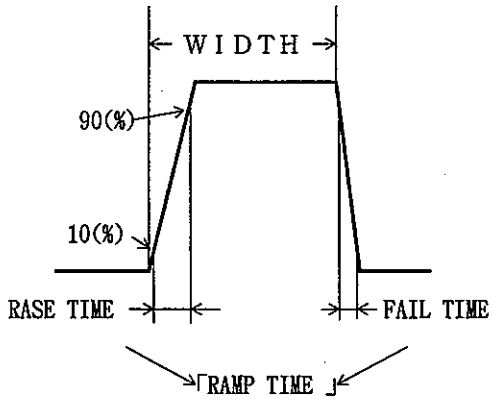
機器名	パルスジェネレータ	型　名	１３９Ｂ	メーカ名	Ｅ・Ｈリサーチ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の手順にて、出力波高をシンクロスコープで測定する。 ① ＯＵＴＰＵＴ 50 Ω接栓に、 50(Ω)をターミネートし、シンクロスコープに接続する。 ② ATTENUATION 切換スイッチを１にする。 ③ ＯＦＦＳＥＴノブを０にする。 ④ ＰＵＬＳＥ　ＭＯＤＥ切換スイッチをＳＩＮＧＬＥにする。 ⑤ ＡＭＰＬＩＴＵＤＥノブをＣＷ（時計回し）一杯に回し、シンクロスコープにて、出力波高を測定する。	50(Ω）ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	＊RAMP TIME/10V, RASE TIME, FAIL TIME により出力波高が変わることがある。
3．出力極性の確認	ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチを＋ＮＯＲＭＡＬ及び－ＮＯＲＭＡＬに切換えることにより、正パルス・負パルスが出力されること。	正・負パルスが出力されること。	
4．ＷＩＤＴＨの確認	シンクロスコープにて観測し、ＷＩＤＴＨ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(WIDTH) ノブを切換えることにより、約10(nsec)～約10(msec)に可変すること。	可変できること。	
5．ＲＡＭＰ　ＴＩＭＥ／１０Ｖの確認	シンクロスコープにて観測し、RAMP TIME/10V を切換えることにより、約 6(nsec)～約 300(msec)に可変すること。 また、RISE及びFAILノブを調整することにより、可変すること。	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
			
6．周波数の確認	ＦＲＥＱ　ＲＡＮＧＥ切換スイッチ及びＦＩＮＥ(Freq)ノブを切換えることにより、約10(Hz)～約1(MHz) 出力されることを、カウンタにて確認する。 尚、各レンジに於いても周波数が、明記された値付近にでることを合わせて確認する。	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	マーキューリーパルサ	型　名	４４８	メーカ名	EG&G
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、ＲＥＳＥＡＲＣＨ　ＰＵＬＳＥＲダイヤルを全部ＣＷ（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 ＮＯＲＭＡＬＩＺＥ　：　ＣＷ一杯 ＰＯＬＡＲＩＴＹ　：　ＰＯＳ ＡＴＴＥＮＵＡＴＩＯＮ　：　全部ＯＦＦ ＯＵＴＰＵＴ　：100(Ω) ﾀｰﾐﾈｰﾄ ＥＸＴ／ＩＮＴ　：　ＩＮＴ （裏パネル）	100(Ω) ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	
3．出力極性の確認	シンクロスコープにて観測し、ＰＯＬＡＲＩＴＹ切換スイッチを、ＰＯＳに切換えると正パルスが出力され、ＮＥＧに切換えると負パルスが出力されることを確認する。	正・負パルスが出力されること。	
4．ＤＥＣＡＹ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、ＤＥＣＡＹ　ＴＩＭＥ切換スイッチを切換えることにより、約5(μsec)～約 1000(μsec)可変することを確認する。	可変できること。	
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	シンクロスコープにて観測し、ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥ切換スイッチを切換えることにより、約20(nsec)～約2000(nsec)可変することを確認する。	可変できること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．PULSE／SEC 動作の確認	RELAY切換スイッチをINT　OSCに切換え、PULSE／SEC切換スイッチを切換えて、下記の様な周波数が出力されることを、カウンタにて確認する。 1 ⇨ 1(Hz) 2 ⇨ 2(Hz) 5 ⇨ 5(Hz) 10 ⇨ 10(Hz) 20 ⇨ 20(Hz) 50 ⇨ 50(Hz) 100 ⇨ 100(Hz)	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	マーキューリーパルサ	型　名	D－114	メーカ名	NAIG
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、AMPLITUDEの3つのダイヤルをCW（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 NORMALIZE　：　CW一杯 DRIVE　：　LINE RANGE　：　10V POLARITY　：　＋ ATTENUATION FACTOR　：　全部OFF	100(Ω）ターミネート使用にて、最大出力　約 10(V)	
3．出力極性の確認	シンクロスコープにて観測し、POLATION切換スイッチを、＋に切換えると正パルスが出力され、－に切換えると負パルスが出力されることを確認する。	正・負パルスが出力されること。	
4．RISE　TIMEの確認	シンクロスコープにて観測し、RISE TIME切換スイッチを切換えることにより、約 5(nsec)～約100(nsec) 可変することを確認する。	可変できること。	
5．DRIVEの確認	DRIVE切換スイッチをLINE(50Hz)及び110Hzに切換えた時、カウンタの値が50Hz及び110Hz出力されていることを確認する。	50(Hz)及び110(Hz) が出力されること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	マーキューリーパルサ	型　名	PGM－2P	メーカ名	大阪電波
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧（振幅）の確認	下記の設定にて、PULSE HEIGHTダイヤルをCW（時計回り）一杯に回した時の出力波高を、シンクロスコープにて測定する。 NORMALIZE　：　CW一杯 POLARITY　：　＋10V ATTENUATION FACTOR　：　全部OFF ATTENUATION OUTPUT　：　50(Ω)ﾀｰﾐﾈｰﾄ	50(Ω）ターミネート使用にて、最大出力　約　5(V)	
3．出力極性の確認	シンクロスコープにて観測し、POLARITY切換スイッチを、+1 又+10 に切換えると正パルスが出力され、-1又-10 に切換えると負パルスが出力されることを確認する。	正・負パルスが出力されること。	
4．DECAY TIMEの確認	シンクロスコープにて観測し、DECAY TIME切換スイッチを切換えることにより、約1(μsec)～約 1000(μsec)可変することを確認する。	可変できること。	
5．RISE TIMEの確認	シンクロスコープにて観測し、RISE TIME切換スイッチを切換えることにより、約10(nsec)～約500(nsec) 可変することを確認する。	可変できること。	

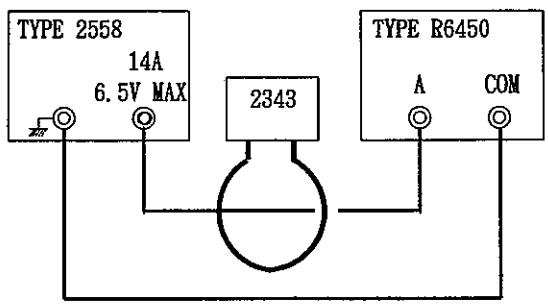
点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	デジタルクランプテスタ	型　名	2343(02),(04)	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直流電流測定の校正	1）標準交流電圧電流発生器(2558)の各FUNKUTION SW　が下記の設定にあることを確認する。 FREQUENCY　50 RANGE　OFF OUTPUT DIVIDER(Xn/m)　1/1 OUTPUT　OFF デジタル表示　00000 2）デジタルマルチメータ（R6450)を用いて下図に示す様に測定ループをセットする。デジタルマルチメータのFUNKUTION SWは(AAC)にする。		



	3）標準交流電圧電流発生器の各FUNKUTION SWを次の設定にする。 RANGE　10A OUTPUT　ON		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	4）次にデジタルクランプテスタを2）項の図の様に HOT　側にセットして標準交流電圧電流発生器から各電流をループに流し測定を行う。(デジタルマルチメータの脱着の際は電源がOFF になっていることを確認する。） 標準入力電流（A） 5 3 1 0．5 ＊0．1 ＊TYPE 2343 02のみ 5）次式より校正定数を求める。 校正定数＝ 標準入力電流 ／ 測定値		

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	^{137}Ｃｓ照射装置	型　名		メーカ名	キソー工業㈱
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．表面線量当量率の測定	電離箱式サーベイメータを用いて照射装置表面の線量当量率を測定する。	放射線管理基準管理目標値（0.5μSv/h）以下であること	
2．点検整備	ピット内及び装置の清掃、装置の破損、ネジのゆるみ等の点検を行う。	・異常のないこと ・清掃されていること	
3．絶縁抵抗の測定	ＡＣ電源ライン（ピット内端子盤内）と照射装置本体との絶縁抵抗を500(V)メガを用いて測定する。	10(MΩ)以上	
4．本体昇降動作の確認	・機側操作盤の上昇及び下降ボタンにより本体を昇降させ、昇降動作がスムーズであることを確認する。 ・上端及び下端に於いて自動停止することを確認する。 ・上昇及び下降中、停止ボタンにより任意の位置で停止できることを確認する。	・昇降動作がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・任意の位置で停止できること	
5．機側操作盤表示の確認	・ランプ切れのないことを確認する。 ・各動作の表示が正常であることを確認する。 確認する点灯ランプ 電源「入」　：　電源ランプ点灯 装置本体上昇中　：　上昇ボタン点灯 装置本体下降中　：　下降ボタン点灯 装置本体上端　：　上端ランプ点灯 装置本体下端　：　下端ランプ点灯	・ランプ切れのないこと ・各動作表示が正常であること	
6．インターロック動作の確認	インターロック装置によりドアーがロックされなければ、照射することができないことを確認する。	インターロックが作動しないと照射できないこと	＊動作及び表示の詳細は「点検整備技術要領書インターロックシステム」参照
7．回転シャッター動作の確認	・操作盤の照射及び格納ボタンを押すことにより回転シャッターがスムーズに回転することを確認する。 線源は格納位置で行う。	・回転がスムーズに行えること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・回転終了後、回転シャッターが照射及び格納位置で自動的に停止すること。	・自動停止動作が正常であること	
8．線源選択動作の確認	・操作盤の線源選択ボタン及び装置本体側面の線源ロータ回転ハンドルにより、線源選択ができることを確認する。 ・装置本体側面のインジケータが設定した線源を示していることを確認する。又、ランプが照射位置に線源がきた時、点灯することを確認する。	・自動及び手動操作により確実に動作すること ・表示が正常であること	
9．制御盤表示の確認	・ランプ切れのないことを確認する。 ・各動作の表示が正常であることを確認する。 確認する点灯ランプ 電源「入」　：　AC200Vランプ点灯 AC100Vランプ点灯 CPU RUN ランプ点灯 格納ランプ(2ヶ)点灯 手動ランプ点灯 貯蔵位置ランプ点灯 機側操作盤操作中 機側盤操作中ランプ点灯 装置本体上昇中：上昇中ランプ点灯 装置本体下降中：下降中ランプ点灯 装置本体上端　：照射位置ランプ点灯 装置本体下端　：貯蔵位置ランプ点灯 自動・手動切換ランプ 自動校正：自動ランプ点灯 手動校正：手動ランプ点灯 照射中　：　照射ボタン点灯 ：　照射中ランプ点灯 格納中　：　格納ボタン点灯 線源選択　：　選択したランプ点灯	・ランプ切れのないこと ・各動作表示が正常であること	
10．ベルト部・ギア部の整備	・昇降装置のグリスを塗りかえる ・装置本体の回転シャッター駆動部にオイルを注入する。	・グリスが塗りかえられていること ・オイルが注入されていること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
11. 表面汚染密度の測定	スミヤ法により照射装置本体表面の表面汚染密度を測定する。 採取試料は放管員に測定を依頼する。	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm²以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm²以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

機器名	γ線照射装置	型　名		メーカ名	産業科学
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．表面線量当量率の測定	電離箱式サーベイメータを用いて照射装置表面の線量当量率を測定する。	放射線管理基準管理目標値（0.5μSv/h）以下であること	
2．点検整備	装置、中継ケーブルの破損、ネジのゆるみ等の点検を行う。	・異常のないこと ・清掃されていること	
3．絶縁抵抗の測定	ＡＣ電源ライン（U_1, V_1, W_1）と照射装置本体との絶縁抵抗を500(V)メガを用いて測定する。	10(MΩ)以上	
4．本体昇降動作の確認	・機側操作盤の上昇及び下降ボタンにより本体を昇降させ、昇降動作がスムーズであることを確認する。 ・上端及び下端に於いて自動停止することを確認する。 ・上昇及び下降中、停止ボタンにより任意の位置で停止できることを確認する。	・昇降動作がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・任意の位置で停止できること	
5．本体容器移動・固定動作の確認	・照射装置本体が昇降台及びレール上をスムーズに移動できることを確認する。 ・固定バー及び固定ピンを用いて昇降台に照射装置本体が固定できることを確認する。又、照射設定位置にてストッパー（２ケ）で照射装置本体が固定できることも確認する。	・移動がスムーズに行えること ・固定が確実に行えること	
6．照射筒等の確認	・照射筒及び照射筒ケーブルに破損、ネジのゆるみ等がないことを確認する。 ・照射筒内外の清掃を行う。 ・照射装置本体の照射口に照射筒を差し込み、銘板に示された方向に回すことにより照射筒が固定されることを確認する。 ・中継ケーブルが照射装置コネクターボックスに接続できることを確認する。	・破損、ネジのゆるみ等がないこと ・清掃されていること ・本体に確実に固定できること ・中継ケーブルが固定できること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．シャッター開閉動作の確認	・照射装置本体側面のシャッターハンドルにより、シャッターの開閉がスムーズに行えることを確認する。この時、シャッターハンドルは必ずゆっくり回すこと。 ・シャッターの開閉により、表示灯が正常に点灯することを確認する。	・スムーズに動作すること。 ・表示灯が正常に動作すること	
8．線源選択動作の確認	・照射装置本体側面の核種選択ハンドルにより、線源選択がスムーズに行えることを確認する。 但し、シャッター開では選択できない。 ・線源選択により、選択核種ランプが正常に点灯することを確認する。 ・核種選択ハンドルを回転させ、ダイヤル目盛と核種が一致していることを確認する。	・線源選択動作がスムーズに行えること ・表示灯が正常に動作すること ・設定位置が変化していないこと	
9．コンプレッサーの確認	コンプレッサーからの空気もれ及びオイルもれがないことを確認する。	・空気もれのないこと ・オイルもれのないこと	
10．インターロック動作の確認	インターロック装置によりドアーがロックされなければ、照射することができないことを確認する。	・インターロックが作動しないと照射できないこと	＊動作及び表示の詳細は「点検整備技術要領書インターロックシステム」参照
11．線源上下動作の確認	・照射ボタンを押すことにより、線源がエアーで吹き上げられ、照射筒マグネットに保持されることを確認する。又、格納ボタンを押すことにより、線源が落下し、照射装置本体の格納位置に格納されることを確認する。	・照射位置で線源が保持されること	

ダイヤル目盛	核　　種
0	模擬線源
9	^{60}Co
18	^{226}Ra
27	^{137}Cs

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・線源の上昇及び下降動作がスムーズに行えることを確認する。	・上昇及び下降動作がスムーズに行えること。	
12. 制御盤表示の確認	・ランプ切れがないことを確認する。 ・各動作の表示が正常であることを確認する。 確認する点灯ランプ 電源「入」 電源　：電源ランプ点灯 使用線源　：選択核種ランプ点灯 シャッター：開ランプ点灯*1 線源位置　：貯蔵位置ランプ点灯 エアー圧力：圧力ＯＫランプ点灯*2 照射ボタン：格納ランプ点灯 照射中 照射ボタン：照射ランプ点灯 線源位置　：照射位置ランプ点灯 照射中ランプ点灯	・ランプ切れのないこと ・各動作表示が正常であること	*1シャッター開時は、シャッター開ランプ点灯 *2エアー圧力不十分時は、点灯せず
13. 回転歯車・ギア部の整備	昇降装置及びレールのグリスを塗りかえること。	グリスが塗りかえられていること	
14. 表面汚染密度の測定	スミヤ法により照射装置本体及び照射筒の表面汚染密度を測定する。 採取試料は放管員に測定を依頼する。	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm^{2}以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm^{2}以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	中性子線照射装置	型　名		メーカ名	キソー工業㈱
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．表面線量当量率の測定	電離箱式サーベイメータ及び中性子線サーベイメータを用いて照射装置表面の線量当量率を測定する。	放射線管理基準管理目標値（0.5μSv/h）以下であること	
2．点検整備	ピット内及び装置の清掃、装置の破損、ネジのゆるみ等の点検を行う。	・異常のないこと ・清掃されていること	
3．絶縁抵抗の測定	ＡＣ電源ライン（U，V，W）と照射装置本体との絶縁抵抗を500(V)メガを用いて測定する。	10(MΩ)以上	
4．照射筒等の確認	・照射筒に破損、ネジのゆるみ等がないことを確認する。 ・照射筒内外の清掃を行う。 ・照射装置本体の照射口に照射筒を差し込み，回すことにより照射筒が固定されることを確認する。	・破損、ネジのゆるみ等がないこと ・清掃されていること ・本体に確実に固定できること	
5．コンプレッサーの確認	コンプレッサーからの空気もれ及びオイルもれがないことを確認する。	・空気もれのないこと ・オイルもれのないこと	
6．インターロック動作の確認	インターロック装置によりドアーがロックされなければ、照射することができないことを確認する。	インターロックが作動しないと照射できないこと	＊動作及び表示の詳細は「点検整備技術要領書インターロックシステム」参照
7．線源選択動作の確認	操作盤の線源選択ボタンにより、線源選択ができることを確認する。	・線源選択動作がスムーズに行えること	
8．線源上下動作の確認	・照射ボタンを押すことにより、線源がエアーで吹き上げられ、照射筒マグネットに保持されることを確認する。又、格納ボタンを押すことにより、線源が落下し、照射装置本体の格納位置に格納されることを確認する。 ・線源の上昇及び下降動作がスムーズに行えることを確認する。	・照射位置で線源が保持されること ・上昇及び下降動作がスムーズに行えること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．制御盤表示の確認	・ランプ切れがないことを確認する。 ・各動作の表示が正常であることを確認する。 確認する点灯ランプ 電源「入」 電源　：電源ランプ点灯 照射ボタン　：格納ランプ点灯 線源選択ボタン：線源選択ランプ点灯 使用線源　：格納ランプ点灯 照射位置　：貯蔵位置ランプ点灯 準備完了時 ：準備完了ランプ点灯 ：圧空ランプ(2ヶ)点灯 ：ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ ランプ点灯 照射中 使用線源　：選択核種ランプ点灯 照射ボタン　：照射ランプ点灯 線源位置　：照射位置ランプ点灯 照射中ランプ点灯	・ランプ切れがないこと ・各動作表示が正常であること	
10．回転ギア部整備	線源選択回転ギア及びギア部のグリスを塗りかえること。	グリスが塗りかえられていること	
11．表面汚染密度の測定	スミヤ法により照射装置本体表面の表面汚染密度を測定する。 採取試料は放管員に測定を依頼する。	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm²以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm²以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	低エネルギーγ線照射装置	型　名		メーカ名	キソー工業㈱
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．表面線量当量率の測定	電離箱式サーベイメータを用いて照射装置表面の線量当量率を測定する。	放射線管理基準管理目標値（0.5μSv/h）以下であること	
2．点検整備	ピット内及び装置の清掃、装置の破損、ネジのゆるみ等の点検を行う。	・異常のないこと ・清掃されていること	
3．絶縁抵抗の測定	ＡＣ電源ラインと照射装置本体との絶縁抵抗を500(V)メガを用いて測定する。	10(MΩ)以上	
4．本体昇降動作の確認	・機側操作盤の上昇及び下降ボタンにより本体を昇降させ、昇降動作がスムーズであることを確認する。 ・上端及び下端に於いて自動停止することを確認する。 ・上昇及び下降中、停止ボタンにより任意の位置で停止できることを確認する。	・昇降動作がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・任意の位置で停止できること	
5．移動レールの確認	・移動レールが低エネルギーγ線照射装置用レールに専用治具を用いて固定できることを確認する。 ・照射装置本体が昇降台及びレール上をスムーズに移動できることを確認する。 ・固定バーを用いて、昇降台に照射装置本体が固定できることを確認する。又、照射設定位置にてストッパーで照射装置本体が固定できることを確認する。	・移動レールの固定が確実に行えること ・移動がスムーズに行えること ・照射装置本体の固定が確実に行えること	
6．現場操作盤表示の確認	・ランプ切れのないことを確認する。 ・各動作の表示が正常であることを確認する。 確認する点検ランプ 電源「入」　：　電源ランプ点灯 装置本体上昇中　：　上端ランプ点滅 下降中　：　下端ランプ点滅 上端　：　上端ランプ点灯 下端　：　下端ランプ点灯	・ランプ切れのないこと ・各動作表示が正常であること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．インターロック動作の確認	インターロック装置によりドアーがロックされなければ、照射することができないことを確認する。	・インターロックが作動しないと照射できないこと	＊動作及び表示の詳細は「点検整備技術要領書インターロックシステム」参照
8．上下シャッター動作の確認	・操作盤の照射・格納ボタンを押すことにより、シャッターがスムーズに上下することを確認する。 線源は格納位置で行うこと。	・表示灯が正常に動作すること	
	・シャッターが照射及び格納位置で照射すること。	・自動停止動作が正常であること	＊準備ボタンを押してから、線源選択ボタンを押す。
	・タイマーを任意の時間にセットし、シャッターを開にする。照射時間がプリセットタイマに達すると、シャッターが閉になることを確認する。	・時間照射ができること	
9．線源選択動作の確認	・操作盤の線源選択ボタン及び装置本体側面の線源ロータ回転ハンドルにより、線源選択ができることを確認する。	・自動及び手動操作により確実に動作すること	
	・装置本体側面のインジケータが設定した線源を示していることを確認する。又、ランプが、照射位置に線源がきた時、点灯することも確認する。	・表示が正常であること	
10．制御盤表示の確認	・ランプ切れのないことを確認する。 ・各動作の表示が正常であることを確認する。 確認する点灯ランプ 電源「入」 電源　：電源ランプ点灯 使用線源　：模擬線源ランプ点灯 シャッター位置：照射完了ランプ点灯 照射容器位置　：照射ランプ点灯 準備完了 シャッター位置：準備完了ランプ点灯 照射中 シャッター位置：照射中ランプ点灯	・ランプ切れのないこと ・各動作表示が正常であること	＊照射容器位置 下降端 ：照射装置本体が下端にある 昇降端 ：照射装置本体が上端にある 照射 ：照射装置本体が照射位置にある ＊室内作業中 機側操作盤を操作中点灯する
11．ベルト部・ギア部の整備	・昇降装置のグリスを塗りかえる。	・グリスを塗りかえられていること	
	・照射装置本体の上下シャッター駆動部にオイルを注入すること。	・オイルが注入されていること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
12. 表面汚染密度の測定	スミヤ法により照射装置本体及び照射筒の表面汚染密度を測定する。 採取試料は放管員に測定を依頼する。	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm^{2}以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm^{2}以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	X線発生装置	型　名		メーカ名	島津製作所
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等の点検を行う。	・清掃されていること ・異常のないこと	
2．高圧発生部	高圧発生器の絶縁油容器からの油漏れの有無を確認する。又、絶縁油がパキソリン支持器の上にあることを目視により確認する。	容器よりの油漏れのないこと異常のないこと	
3．冷却装置	・湿気除去用筒を取り出し、冷却油が冷却油容器上端まであることを目視により確認するとともに、湿気除去用筒の乾燥剤（シリカゲル）の交換を行う。 ・フィルターエレメントのゴミ等による目詰まりを目視により確認する。 ・冷却装置とX線管球を接続している冷却ホース及びホース両接続部よりオイルの漏れがないことを目視により確認する。	・冷却油量が規定値に達していること ・乾燥剤が新品に交換されていること ・フィルターエレメントにゴミ等のないこと ・冷却ホースの両接続部よりオイルの漏れがないこと	＊フィルターエレメントの交換については、ＰＮＣに連絡する。 ・圧力７０psi
4．制御装置	制御装置内の電気部品等を目視点検し、異常のないことを確認する。	異常のないこと	
5．インターロック動作の確認	インターロック装置によりドアーがロックされなければ、照射することができないことを確認する。	・インターロックが作動しないと照射できないこと	＊動作及び表示の詳細は「点検整備技術要領書インターロックシステム」参照
6．エージング (1)　手動 (2)　自動	・手動にてエージングを行い、異常のないことをメータ等で確認する。 ・自動にてエージングを行い、異常のないことをメータ等で確認する。 る。	・異常なく動作すること ・異常なく動作すること	＊動作及び表示の詳細は「エージング操作手順書」参照 ・リミッタ設定 ３９５KV ・最大出力 手動３８０KV
7．シャッター装置	・照射ボタンを押すことによりシャッターがスムーズに開閉することを確認する。	・シャッターがスムーズに開閉すること	

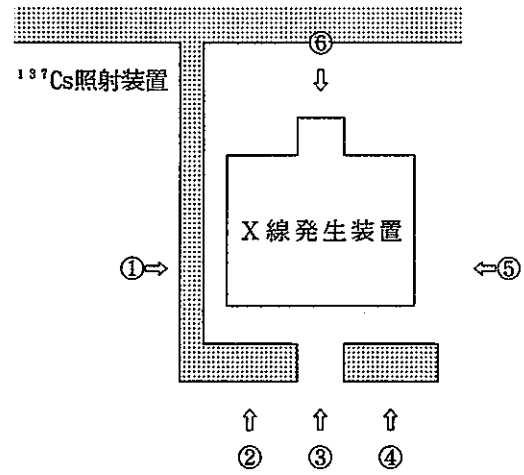
点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・シャッター開閉時間をストップウォッチで開閉毎に１０回測定し、その平均値を求め、開閉とも２秒以内であることを確認する。	・開閉とも２秒以内のこと	
8．総合動作	X線管電圧、管電流の安定度を大焦点300(KV)、10(mA)の条件で20秒毎のデータを30分間測定し、変動率を求める。	管電圧、管電流の安定度が０．１%以下であること	
9．漏洩試験	管電圧 380(KV)、管電流10(mA)の条件にてX線発生装置を作動させ、シャッター閉の状態にて下図の測定箇所を、電離箱式サーベイメータにて測定する。	測定値を記載	

測定点



測定条件

測定高さ　：　１．２ｍ

測定距離　：　ａｔ１．０（⑥についてはａｔ０．５ｍ）

注）　漏洩試験は、X線発生装置を作動させた状態で行う為、以下のことに留意し行うこと。

① 管電圧 380(KV)に上げてから、照射室A内のX線発生装置行く。そのため、インターロック装置によりドアーがロックが出来ない様に処置する。

② 漏洩試験中シャッターが開にならない様に、操作盤に一人監視要員として置く。

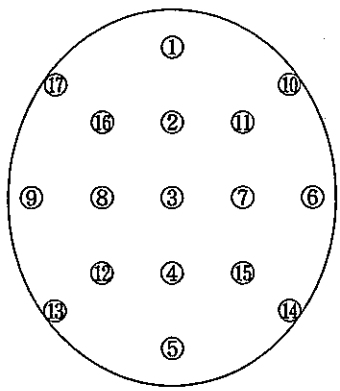
③ X線発生装置に行く際、電離箱式サーベイメータにてサーベイしながら行き、異常値が検出された場合は直ちに戻る。

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

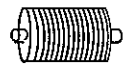
機器名	放射性ガスモニタ校正装置	型　名		メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検整備	装置の清掃及び装置に著しい破損、傷、ネジのゆるみ等がないことを確認する。	・異常のないこと ・清掃されていること	
2．換気系 (1) フード排気ファン動作確認	フード排気ファンの起動及び停止動作を行い、正常に動作することを確認する。又、フード排気ファーンの出口の風速を風速計を用いて測定する。又、平均値に於いて基準値を満足すること。 フード排気風量率測定記録紙に測定値を記載する。 測定箇所  	・正常に動作すること ・風速9.4m/s以上	
(2) 電磁弁の動作確認	電磁弁スイッチＢＯＸのスイッチをＯ側及びＣ側にした時、電磁弁の指針がそれぞれＯ側及びＣ側に動作することを確認確認する。又、スイッチを停止にした時、任意に位置で停止することを確認する。	正常に動作すること	
(3) リングブロアの動作確認	リングブロア起動ＢＯＸのスイッチを起動及び停止にした時、正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	
(4) 吸気及び排気換気扇の動作確認	吸気換気扇及び排気換気扇が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(5) フード風速測定	フード排気ファンを起動させ、フードを30cm開き、その開口部3ケ所（上端・下端・中央）の風速を風速計を用い測定する。 すべての測定箇所に於いて基準値を満足すること。	開口部密着 風速0.5m/s以上	
3．測定部			
(1) 基準電離箱の外観確認	基準電離箱に著しい破損、傷、ネジのゆるみ等がないことを確認する。	異常のないこと	
(2) 可搬型ガスモニタの動作確認	点検整備技術要領書「可搬型ガスモニタ」に従い、点検を実施する。	正常に動作すること	
4．校正用ガスループの動作確認試験	ループから基準電離箱を取り外しSV2,3を直結する。		
(1) 真空ポンプの動作確認	SV17,20 を治具を用いて直結する。 SV2,3,4,6,7,9,17,20 をNOにする。 真空ポンプのSWをONにして、マメノータの指示値が1分以内で000 ～001 TORRを表示すること。	マノメータの指示値が000～001 TORRであること 治具 	
(2) 循環ポンプの動作確認	(1)のSV動作方法にて、循環ポンプをONにして、流量計でガスが流れていることを確認すると共にポンプの音を確認する。	正常に動作すること	
(3) 電磁弁の動作確認	・SV1 ～20のスイッチをＯＮにして、音及び鉄片を近づける確認する。 ・SV1 ～20の全てのスイッチをＯＮにし系内を大気開放し、次に全てＯＦＦ（SV5 を除く）にして、真空ポンプをＯＮにし、SV 4 → 6→ 7→ 3→ 2→11→ 9→15、18→16、19→17、20→ 8→12→13→14→1(約1秒ＯＮ）→10(約1秒ＯＮ）の順でＯＮとし、マノメータで真空度を見て確認する。	正常に動作すること	＊自動運転モードの動作確認を行う時はCs照射装置又はＸ線発生装置を使用状態にて確認を行うこと
(4) ＧＭ時ＰＵＳＨスイッチの動作確認	ＧＭ時ＰＵＳＨスイッチをＯＮにし、SV 4,7,9,3,2,11及び15、18、16、19、17、20の内いずれか1組をＯＮにし、真空ポンプの負圧が300 TORR前後になった時SV9,11がＯＦＦになることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(5) 校正用ガスループの漏洩試験	校正用ガスループに基準電離箱、被測定器用タンクに盲板を取りつけてループを作成し、真空ポンプを起動させる。次に、ループ以外のバルブを閉としたら真空ポンプを停止する。その状態で10分間放置し、マノメータの指示値が000 ～010 TORRを表示していることを確認する。	マノメータの指示値が000 ～010 TORRであること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	インターロックシステム	型　名		メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．ドアーロック動作の確認	ドアーロックの動作条件がそろった場合のみ、ドアーロックされることを確認する。		
(1) 準備室コントロール	ドアーロック動作条件 ① 管理区域に入室者がいない（出退管理表示盤が全て消灯していること）。 ② インターロックコントロール場所が、「準備室」に選択されていること。 ③ 使用する照射装置が選択されていること。 照射室Ａ　：　^{137}Ｃｓ又は、Ｘ線 照射室Ｂ　：　γ線　又は、ｎ線 ④ 管理区域のドアーが閉じていること。 ⑤ 非常時「開」が、操作されていないこと。 ⑥ ①～⑤項を満足し、インターロックを「入」としたとき。 ⑦ ⑥項の後電気鍵より、ＯＫ信号がフィードバックされたとき。 ⑧ 準備室インターロック「入」ランプが点灯すること。	正常に動作すること	
(2) 照射室コントロール	ドアーロック動作条件 ① インターロックコントロール場所が、「照射室」に選択されていること。 ② 照射室内に入室者がいること（出退管理表示盤が点灯していること）。 ③ 管理区域ドアーが閉じていること。 ④ 非常時「開」が、操作されていないこと。 ⑤ ①～④項を満足し、操作ＢＯＸ「入」としたとき。 ⑥ ⑤項の後電気鍵より、ＯＫ信号がフィードバックされたとき。 ⑦ 準備室インターロック「入」ランプが点灯すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(3) 表示灯等の確認	ドアーロック時表示及び回転灯がそれぞれ点灯及び回転点灯することを確認する。	点灯及び回転点灯すること	
2．ドアーロック解除動作の確認	ドアーロック解除動作が正常であることを確認する。		
(1) 準備室コントロール	インターロック「切」を押すことによりドアーロックが解除されること。	正常に動作すること	
(2) 照射室コントロール	出入口ドアーのノブを回転することによりドアーロックが解除されること。	正常に動作すること	
(3) 表示灯等の確認	ドアーロック解除時、表示灯及び回転灯がそれぞれ消灯及び回転停止消灯することを確認する。	消灯及び回転停止消灯すること	
3．非常時のドアーロック解除動作の確認	ドアーロックされている時「非常時開」ボタンを押す。そして、以下の動作を確認する。 ・ランプが点灯し、警報音が鳴る。 ・ドアーロックができない。 ・リセット後、ドアーロックができる。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	自動校正台システム	型　名		メーカ名	富士電機
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検整備	校正台、操作盤、装置及びレール等の清掃、装置の破損、ネジのゆるみ等の点検を行う。	・異常のないこと ・清掃されていること	
2．操作盤の表示確認	準備室及び照射室Ａの操作盤の表示の確認を行う。		
(1) 表示ランプの確認	操作盤のランプテストを押し、各ランプが点灯することを確認する。	ランプ切れのないこと	
(2) 動作ランプ表示の確認	・台車運転モードを「運転」にし、操作場所モードを切り替えた時、下記ランプが点灯することを確認する。 ・照射室Ａの出退表示スイッチを押し、「照射室Ａ入室者有」ランプが点灯することを確認する。 ・校正台車の非常停止スイッチを押し、「非常停止」ランプが点灯することを確認する。	動作表示が正常であること	
3．台車トラバース機能動作確認	校正台車をトラバース移動位置に停止し、各線路への移動がスムーズに移動できることを確認する。又、各線路に移動した時、下記ランプが点灯することを確認する。	・正常に動作すること ・動作表示が正常であること	

操作場所モード	確認ランプ
「準備室」	「準備室操作」
「照射室」	「照射室操作」

台車位置	確認ランプ
「Cs線路」	「Cs線路ﾄﾗﾊﾞｰｽﾋﾟﾝ 位置」
「Ｘ線路」	「Ｘ線路ﾄﾗﾊﾞｰｽﾋﾟﾝ 位置」

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．校正台動作確認 (1) テーブル上下移動動作確認	校正台車の動作を確認する。 校正台車背部にある上下移動用ハンドルを回転させ、テーブルが上下にスムーズに移動できることを確認する。	正常に動作すること	
(2) 手動運転モードの動作確認	・運転モードスイッチを「手動」にし、校正台車操作モードスイッチを「低速」・「中速」・「高速」に切り替え、前進及び後退動作がスムーズにでき、各表示ランプが点灯することを確認する。又、移動時に台車回転灯が点灯することを確認する。 ・校正台車を前進させ、前進限の位置で校正台車が停止し「台車前進限」ランプが点灯すること及び校正台車を後退させ、後退限の位置で校正台車が停止し「校正後退限」ランプが点灯することを確認する。 ・テーブル操作モードスイッチを「低速」・「高速」に切り替え、右移動及び左移動がスムーズにでき、各表示ランプが点灯することを確認する。 ・テーブルを右移動させ、右端限の位置でテーブルが停止し「テーブル右端限」ランプが点灯すること及びテーブルを左移動させ、左端限の位置でテーブルが停止し「テーブル左端限」ランプが点灯することを確認する。	・正常に動作すること ・動作表示が正常であること ・回転灯が回転点灯すること	
(3) 自動運転モードの動作確認	・運転モードスイッチを「自動」にし、パーソナルコンピュータの電源を投入する。線源校正モードの手動校正処理にて任意の距離を入力し、台車を前進及び後退させ動作がスムーズにでき、各表示ランプが点灯することを確認する。 ・運転モードスイッチを「自動」にし、パーソナルコンピュータの電源を投入する。線源校正モードの手動校正処理にて任意の距離において、テーブルを右移動及び左移動させ動作がスムーズにでき、各表示ランプが点灯することを確認する。	・正常に動作すること ・動作表示が正常であること	＊自動運転モードの動作確認を行う時はCs照射装置又はX線発生装置を使用状態にて確認を行うこと

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．停止精度検査	線源校正モードの手動校正処理にて台車の距離を2000㎜, 2500㎜, 3000㎜, 4000㎜, 5000㎜に設定し、各々の停止時の距離を台車位置（エンコーダ）及び台車位置（距離計）にて確認する。	台車を2000㎜, 2500㎜, 3000㎜, 4000㎜, 5000㎜に設定し、各々の停止時の距離誤差が±1㎜ 以内であること	

点検整備技術要領書

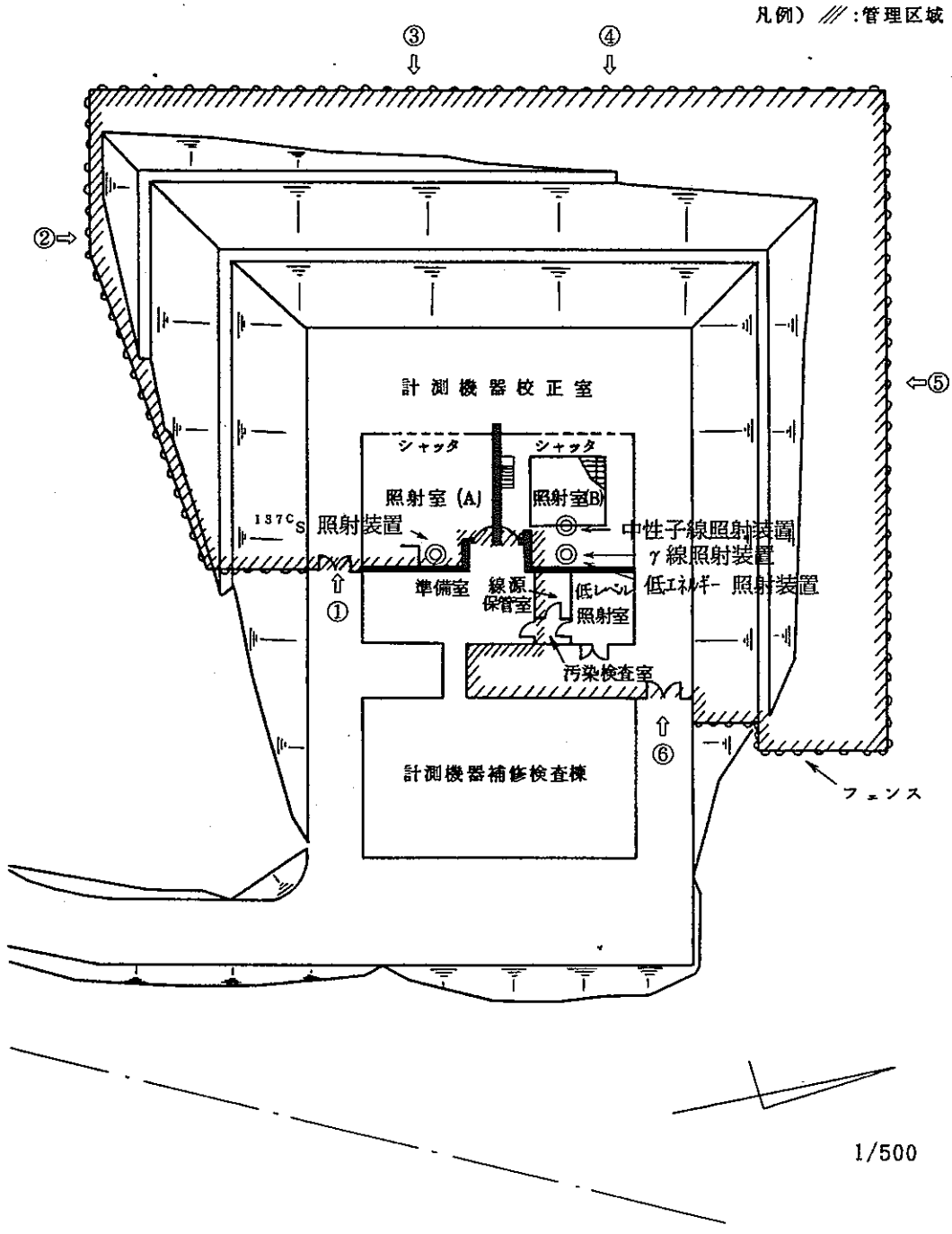
整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	管理区域境界における線量当量率測定	型　名		メーカ名	
検査名	総合検査	施設名	計測機器校正施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．測定条件	照射装置が照射状態にての、管理区域境界における線量当量率を、電離箱式サーベイメータ及び中性子線用サーベイメータにて測定する。 測定場所は、別紙「管理区域境界における線量当量率測定点図」参照	電離箱式サーベイメータ及び中性子線用サーベイメータの型式・ＳＥＲ　Noおよびバックグラウンドを記載する。	
２．測定結果	１項の測定条件にて、下記照射装置の照射時において測定する。 ①^{137}Cs 照射装置(1.11TBq) のγ線 ②γ線照射装置(^{226}Ra:1.85GBq) のγ線 ③低エネルギー照射装置(^{241}Am:296Bq) ののγ線 ④中性子線照射装置(^{252}Cf:999MBq)のγ線及びｎ線 ⑤^{137}Cs 照射装置(1.11TBq) 及び中性子線照射装置(^{252}Cf:999MBq)のγ線及びｎ線	測定値を記載する。	

別添



管理区域境界における線量当量率測定点図

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	AM-8301M,AM-8301BM	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWをONとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ +24(V)　0.5(A)　RV1 -24(V)　0.5(A)　RV2 +12(V)　0.5(A)　RV3 -12(V)　0.5(A)　RV4 +6(V)　2.0(A)　RV5	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧}-\text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧}-\text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	30(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	ＡＭ－８３Ｍ０１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP 端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWをONとする。	50(MΩ)以上	
３．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ +24(V)　1.5(A)　RV1 -24(V)　1.0(A)　RV2	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	
４．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。－	30(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	AM－83M02	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWをONとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ボリューム +24(V)　1.0(A)　RV1 -24(V)　0.5(A)　RV2 +12(V)　0.6(A)　RV3 -12(V)　0.5(A)　RV4 +6(V)　0.5(A)　RV5	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧－全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。－	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	AM-82MR74-2435	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWをONとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 出力電圧　負荷電流 +6(V)　1.5(A)	出力偏差：±1.0(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	
5．リップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	5(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	ＡＡ－８５１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。部首	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ +24(V)　1.0(A) -24(V)　1.0(A) +12(V)　2.0(A) -12(V)　2.0(A)	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 又はAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．ルップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	30(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	E－501，E－502	メーカ名	NAIG
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基板内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 R7 －24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 R15 ＋12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 R5 －12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 R11 ＋ 6(V)　5.0(A)　± 6(V) PC板 R5 － 6(V)　5.0(A)　± 6(V) PC板 R12	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	＊±6(V)はE-502のみ
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		
5．リップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	
6．垂下特性試験	各々の出力端子にて負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まることを確認する。	負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	D－101A	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 VR3 －24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 VR6 ＋12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 VR3 －12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 VR6	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		
5．ルップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	
6．垂下特性試験	各々の出力端子にて負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まることを確認する。 基準値外の場合、半固定抵抗を調整する。 ±24(V) PC板 + 24(V)　　ＶＲ１ - 24(V)　　ＶＲ４ ±12(V) PC板 + 12(V)　　ＶＲ１ - 12(V)　　ＶＲ４	負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	D－309A	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 VR3 －24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 VR6 ＋12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 VR3 －12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 VR6	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V)及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)及びAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷出力電圧}}{\text{全負荷出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．ルップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	
6．垂下特性試験	各々の出力端子にて負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まることを確認する。 基準値外の場合、半固定抵抗を調整する。 ±24(V) PC板 + 24(V)　　ＶＲ１ - 24(V)　　ＶＲ４ ±12(V) PC板 + 12(V)　　ＶＲ１ - 12(V)　　ＶＲ４	負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	D－136A	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなど点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP 端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはONとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメーターを接続し、出力電圧を測定する。 出力電圧 ＋6(V) －6(V)	±0.5(%)以内	
4．リップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、リップル電圧を測定する。 ＋6(V) －6(V)	30(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	BM－１２０	メーカ名	東洋電子
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基板内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　VR101 －24(V)　1.0(A)　VR401 ＋12(V)　1.0(A)　VR201 －12(V)　1.0(A)　VR200 ＋ 6(V)　5.0(A)　VR601 － 6(V)　5.0(A)　VR701	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	＊但し、±24(V) が無負荷状態においては、±12(V) 負荷は2(A)まで取れる。
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V)及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)及びAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±1.0(%)以内 負荷変動：±1.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・負荷変動率 $= \dfrac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		
5．ルップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	30(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	１４０Ｓ／８４６	メーカ名	富士電機
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	マグネット付プレートを取り外し、内部にあるチェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基板内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　ＶＲ1 －24(V)　1.0(A)　ＶＲ4 ＋12(V)　1.0(A)　ＶＲ2 －12(V)　1.0(A)　ＶＲ3 ＋ 5(V)　5.0(A)　ＶＲ6	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動： ±24(V) 及び±12(V) ±0.1(%)以内 ＋ 5(V) ±0.2(%)以内	
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)及びAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動： ±24(V) 及び±12(V) ±0.1(%)以内 ＋ 5(V) ±0.2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		
5．ルップル電圧測定	上記チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	±24(V) 及び±12(V) 3(mVp-p)以下 ＋ 5(V) 5(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	７０１－４	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷時及び無負荷時にて測定する。 基準値外の場合は、基板内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　PC1　R12 －24(V)　1.0(A)　PC1　R25 ＋12(V)　2.0(A)　PC2　R12 －12(V)　2.0(A)　PC2　R25	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.1(%)以内	
4．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用い測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)及びAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号	１４ＮＡＡ１３	２／２

改訂　平成８年３月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
５．ルップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	30(mVp-p)以下	
６．過負荷保護回路	各々の出力端子にて負荷150(%)を超える値にて垂下現象が始まることを確認する。	負荷150(%)を超える値にて垂下現象が始まること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	N－2201	メーカ名	アサノ電子
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	コントロールパネルにあるチェック端子の電圧をデジタルマルチメータを用い測定する。 基準値外の場合は、基盤内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流 ＋24(V)　0.5(A) －24(V)　0.5(A) ＋12(V)　0.5(A) －12(V)　0.5(A) ＋ 6(V)　0.5(A)	出力偏差：±1.0(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)及びAC110(V)時の出力電圧}-\text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧}-\text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±1.0(%)以内 負荷変動：±2.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．ルップル電圧測定	上記チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	30(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	定電圧低圧電源	型　名	D－２５１（D－１０１）	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．絶縁試験	500(V)メガーにてＡＣプラグと筐体間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
３．出力電圧の確認	パネル面チェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷状態にて測定する。 基準値外の場合は、基板内の調整ボリュームにて調整する。 出力電圧　負荷電流　調整ﾎﾘｭｰﾑ ＋24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 VR3 －24(V)　1.0(A)　±24(V) PC板 VR6 ＋12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 VR3 －12(V)　2.0(A)　±12(V) PC板 VR6	出力偏差：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
４．電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V) 及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を上記端子にデジタルマルチメータを用いて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V)又はAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	AC100(V)時出力電圧に対して 電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．ルップル電圧測定	上記パネル面チェック端子にシンクロスコープを接続して、負荷状態でのリップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	
6．垂下特性試験	各々の出力端子にて負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まることを確認する。 基準値外の場合、半固定抵抗を調整する。 ±24(V) PC板 + 24(V)　　ＶＲ１ - 24(V)　　ＶＲ４ ±12(V) PC板 + 12(V)　　ＶＲ１ - 12(V)　　ＶＲ４	負荷100(%)を超える値にて垂下現象が始まること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	AM－81M52B	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧の確認	出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 下記の電圧について行う。 0(V)，500(V)，1000(V)，1500(V) 負荷電流 100(μA)　15(MΩ) 基準外の場合は、下記の調整ボリュームにて調整を行う。 0 ～ 1000(V)：VR4 1(KΩ) 500 ～ 1500(V)：500(V) VR24 1(KΩ) 1500(V) VR25 1(KΩ)	フルスケールの±2.5(%)以内	
3．負荷変動の測定	1000(V) 時の負荷及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 $\text{負荷変動率} = \dfrac{\text{無負荷出力電圧} - \text{負荷出力電圧}}{\text{負荷出力電圧}} \times 100(\%)$	フルスケールの±0.1(%)以内	
4．リップル電圧測定	1000(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用いリップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	高圧電源	型　名	ＡＭ－８２Ｍ５２Ｂ	メーカ名	アロカ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
３．出力電圧の確認	負荷電流100(μA)時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 基準値外の場合は、プリント基板ＵＮ１(AMC-8156U)のＶＲ１にて調整する。	-1000(V)±2(%)以内	
４．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V),100(V),110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及びAC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧－全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}}$	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
５．リップル電圧測定	全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	高圧電源	型　名	AM-8251，AM-8253B	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ目盛(AM-8253B)の場合はダイヤル値と比較する。 負荷電流 AM-8251 : 100(μA) AM-8253B: 1(mA) AM-8251 〔0 ～ 1500(V)〕 0(V), 500(V), 1000(V), 1500(V) AM-8253B 〔500 ～ 3000(V)〕 500(V), 1000(V), 2000(V), 3000(V) 以上４点づつ、基準外の場合は下記のリオームを調整する。 AM-8251 電　圧　調　整　：RV2 〔10(KΩ)〕 メータ指示調整　：RV1 〔50(KΩ)〕 AM-8253B 電　圧　調　整　：RV1 電圧　微調整　：RV3 〔500(Ω)〕	フルスケールの±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V),100(V),110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 下記電圧にて測定する。 AM-8251　1000(V) AM-8253B　2000(V) 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及AC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧－全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	電源変動：フルスケールの±0.5(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.5(%)以内	
5．リップル電圧測定	全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。 下記電圧にて測定する。 AM-8251　1000(V) AM-8253B　2000(V)	100(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	AA－8251	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ目盛(AM-8253B)の場合はダイヤル値と比較する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＶＲ１にて調整する。 負荷電流 200(μA) 測定電圧 0(V)，　500(V)，1000(V)，1500(V) 2000(V)	フルスケールの±0.4(%)以内	
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V),110(V)に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 1000(V) にて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及AC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$	電源変動：フルスケールの±0.4(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.4(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	・負荷変動率 $= \dfrac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		
5．リップル電圧測定	1000(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	100(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	E－503	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＲ４にて調整する。 負荷電流 500(μA) 測定電圧 100(V)，2000(V)，4000(V)，5000(V)	フルスケールの±0.75(%)以内	
3．負荷変動の測定	4000(V) 時の負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める にて測定する。 ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	±0.05(%) 以内	
4．リップル電圧測定	4000(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	E－504	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．出力電圧の確認	出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＲ４にて調整を行う。 下記の電圧について行う。 50(V)，500(V)，800(V)，1000(V) 負荷電流 3(mA)	フルスケールの±0.75(%)以内	
3．負荷変動の測定	800(V)時の負荷及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 $\text{負荷変動率} = \dfrac{\text{無負荷出力電圧} - \text{負荷出力電圧}}{\text{負荷出力電圧}} \times 100(\%)$	±0.05(%) 以内	
4．リップル電圧測定	800(V)時全負荷接続状態にてシンクロスコープ用い、リップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	高圧電源	型　名	Ｄ－１１２・Ａ	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
３．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＶＲ１にて調整する。 負荷電流 1(mA) 測定電圧 0(V), 500(V), 1000(V), 1500(V)	フルスケールの±0.5(%)以内	
４．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V), 100(V), 110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 1000(V) にて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及AC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧－全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	電源変動：フルスケールの±0.5(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	1000(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	D－113	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＶＲ１にて調整する。 負荷電流 1(mA) 測定電圧 600(V)，1000(V)，2000(V)，3000(V)	フルスケールの±0.5(%)以内	
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V)，100(V)，110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 2500(V) にて測定する。	電源変動：フルスケールの±0.5(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.5(%)以内	
	尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及AC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	2500(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	高圧電源	型　名	Ｄ－１５２Ａ	メーカ名	東芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．出力電圧の確認	出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＶＲ１にて調整を行う。 下記の電圧について行う。 0(V), 500(V),1500(V), 2000(V) 負荷電流 1(mA)	フルスケールの±1.0(%)以内	
３．負荷変動の測定	1500(V) 時の負荷及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 $\text{負荷変動率} = \dfrac{\text{無負荷出力電圧} - \text{負荷出力電圧}}{\text{負荷出力電圧}} \times 100(\%)$	±0.2(%)以内	
４．リップル電圧測定	1500(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープ用い、リップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	７１４－１Ｂ	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 基準外の場合は、基板内の調整ボリュームＶＲ１にて調整する。 負荷電流 2(mA) 測定電圧 0(V), 500(V), 1000(V),2000(V)	フルスケールの±3.0(%)以内	
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V),100(V),110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 1000(V) にて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及AC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧－全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$	電源変動：フルスケールの±0.1(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	1000(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	高圧電源	型　名	ＡＭ－８２Ｍ５２Ｃ	メーカ名	アロカ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損のないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
３．出力電圧の確認	負荷電流100(μA)時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 基準値外の場合は、プリント基板ＵＮ１(AMC-8156U)のＶＲ１にて調整する。	-1000(V)±2(%)以内	
４．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V),100(V),110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及びAC110(V)時の出力電圧} - \text{AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧} - \text{全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}}$	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
５．リップル電圧測定	全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	７１４－１Ｆ	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	500(V)メガーにてケース ⇔ AMP端子27、41間にて測定する。 この時POWER SWはＯＮとする。	50(MΩ)以上	
3．出力電圧の確認	下記負荷電流時の、出力端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、メータ指示値と出力電圧を測定する。 負荷電流 5(mA) 測定電圧 0(V), 500(V), 1000(V),2000(V)	フルスケールの±0.5(%)以内	
4．電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を90(V),100(V),110(V) に変化させた時、負荷時及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 1000(V) にて測定する。	電源変動：フルスケールの±0.1(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.1(%)以内	
	尚、変動率は下記式にて求める。 ・電源電圧変動率 $= \frac{\text{AC90(V) 及AC110(V)時の出力電圧－AC100(V)時の出力電圧}}{\text{AC100(V)時の出力電圧}} \times 100(\%)$ ・負荷変動率 $= \frac{\text{無負荷時出力電圧－全負荷時出力電圧}}{\text{全負荷時出力電圧}} \times 100(\%)$		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．リップル電圧測定	1000(V) 時全負荷接続状態にてシンクロスコープを用い、リップル電圧を測定する。	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	AA－1102	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．COARSE GAIN点検	レンジスイッチ1、FINEダイヤル2にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて、増幅度及び波形を確認する。 パルスジェネレータ設定 パルス幅　：300(nsec) パルス立上り　：10(nsec) パルス立上り　：10(nsec) 周波数　：10^4(cps) AA－1102設定 SHAPING　：0.8	±1(dB)以内	

GAINﾚﾝｼﾞ	利　得
1	6(dB)
2	12(dB)
4	18(dB)
8	24(dB)
16	30(dB)
32	36(dB)
64	42(dB)

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

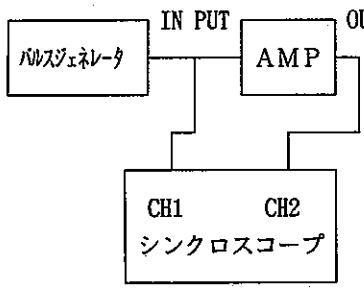
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	$利得=20\log_{10}\frac{出力電圧}{入力電圧}$		
3．ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ点検	２項の接続にて、レンジスイッチ１にてＦＩＮＥダイヤル２～５に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。	9.5 ±0.5(dB) 以内	
4．無歪最大出力電圧点検	ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮを可変し、その出力パルスの頭が平になり始める時の電圧をシンクロスコープにて測定する。 正出力及び負出力電圧について行う。	±10(v) 以上	
5．波形整形確認	パルスジェネレータより下記条件にて入力し、ＳＨＡＰＩＮＧ　ＴＩＭＥを 0.4 、0.8 、1.6 に可変した場合のＡＭＰ　ＯＵＴをシンクロスコープにて観測する。 パルスジェネレータ設定 パルス波高　：　100(mV) パルス幅　：　10(msec) 周波数　：　300(cps)		

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	D－102	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

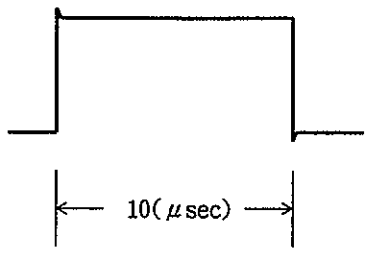
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．COARSE GAIN点検	 上記の接続にて、レンジスイッチ1、FINEダイヤル0.00にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。	各±2dB	

GAINﾚﾝｼﾞ	利　得
1	6(dB)
2	12(dB)
4	18(dB)
8	24(dB)
16	30(dB)
32	36(dB)
64	42(dB)
128	48(dB)
256	54(dB)

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	利得＝$20\log_{10}\frac{\text{出力電圧}}{\text{入力電圧}}$ パルスジェネレータ設定 パルス幅　：300(nsec) パルス立上り　：10(nsec) パルス立上り　：10(nsec) 周波数　：10^4(cps) 極性　：正 D－102設定 DIFF、INT　:OUT FINE GAIN:0.00 POLARITY　:NON INV		
3．FINE GAIN	2項の接続にて、レンジスイッチ1にてFINEダイヤル0.00～10.00 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。 利得が約6(dB) ～14.0(dB)変化することを確認する。	可変範囲 6(dB) ～14.0(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	2項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V)以上	
5．パルス整形確認	2項の接続にて、OUT PUTからの出力波形が下記図の様な、波形が観測されること。 (1) 外部パルス DIFF及びINT　:OUT  	波形に異常がないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

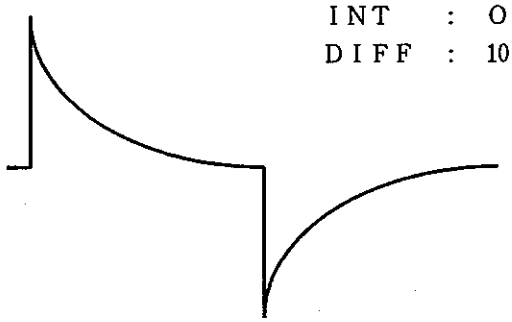
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

(2) ＤＩＦＦ

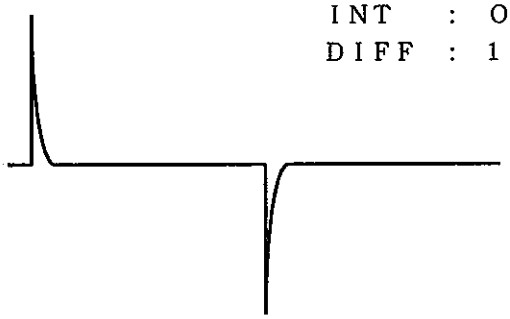
① TIME CONSTANT　10μS

ＩＮＴ　：　ＯＵＴ
ＤＩＦＦ　：　10



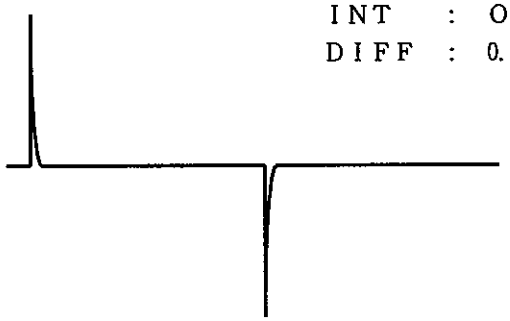
② TIME CONSTANT　1μS

ＩＮＴ　：　ＯＵＴ
ＤＩＦＦ　：　1



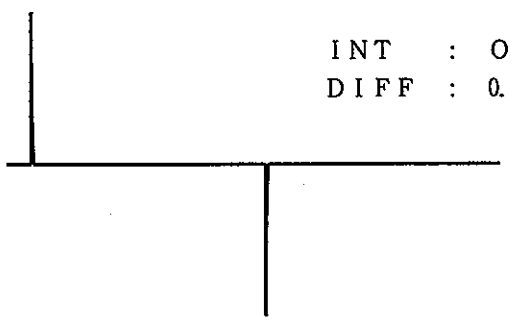
③ TIME CONSTANT 0.5μS

ＩＮＴ　：　ＯＵＴ
ＤＩＦＦ　：　0.5



④ TIME CONSTANT 0.1μS

ＩＮＴ　：　ＯＵＴ
ＤＩＦＦ　：　0.1



点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

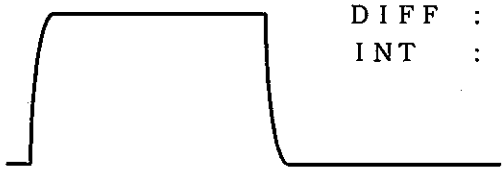
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

(2)　INT

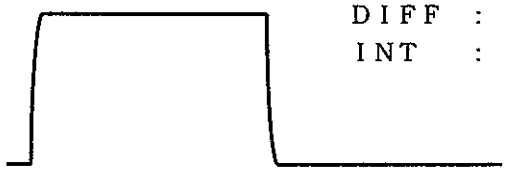
① TIME CONSTANT　10μS



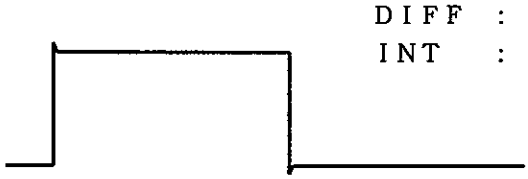
② TIME CONSTANT　1μS



③ TIME CONSTANT 0.5μS



④ TIME CONSTANT 0.1μS

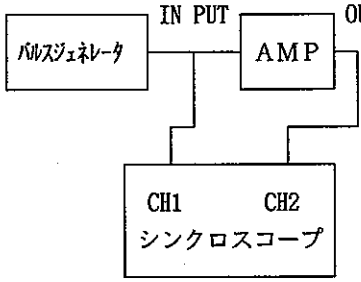


点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	D－129A	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

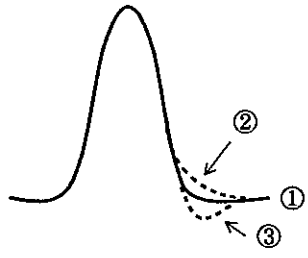
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．COARSE GAIN点検	 上記の接続にて、レンジスイッチ2、FINEダイヤル0.00にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。	各±2dB	

GAINﾚﾝｼﾞ	利　得
2	6(dB)
4	12(dB)
8	18(dB)
16	24(dB)
32	30(dB)
64	36(dB)
128	42(dB)
256	48(dB)
512	54(dB)

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

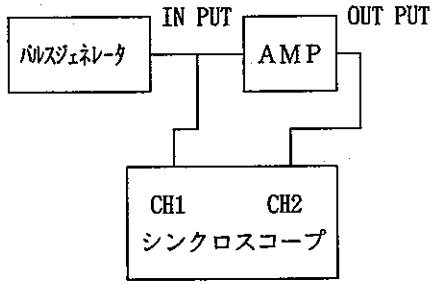
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	利得$=20\log_{10}\frac{\text{出力電圧}}{\text{入力電圧}}$ D－129A設定 波形整形　：0.5(μsec)標準 RATEスイッチ　：LO MODEスイッチ　：UNI		
3．FINE　GAIN	2項の接続にて、レンジスイッチ2にてFINEダイヤル0.00～10.00 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。 利得が約6(dB) ～18.0(dB)変化することを確認する。	可変範囲 6(dB) ～18.0(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	2項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V)以上	
5．雑音の測定	2項の接続にて、GAINを最大にし、OUT　PUTにRMS電圧計を接続して出力雑音電圧を測定し、入力換算雑音を求める。 入力換算雑音$=\frac{\text{出力雑音電圧}}{\text{利得}}$(μV)	入力換算雑音 10(μV)RMS以下	
6．PZ調整	表面パネルにあるPZ調整用可変抵抗（ポールゼロキャンセル時定数調整）にて出力波形をシンクロスコープで観測しながら調整する。  ① PZ調整　最良点 ② PZ調整　過補正　（反時計方向に回し調整） ③ PZ調整　未補正　（時計方向に回し調整）	適正補正	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	D－130	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．COARSE GAIN点検	 上記の接続にて、レンジスイッチ2、FINEダイヤル0.00にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。	各±2dB	

GAINﾚﾝｼﾞ	利　得
2	0(dB)
5	8(dB)
10	14(dB)
20	20(dB)
50	28(dB)
100	34(dB)
200	40(dB)
500	48(dB)
1000	54(dB)

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	利得$=20\log_{10}\frac{\text{出力電圧}}{\text{入力電圧}}$ D－130設定 SHAPING TIME:OUT FINE GAIN:0.00 OUTPUT MODE:+UNI		
3．FINE GAIN	2項の接続にて、レンジスイッチ1にてFINEダイヤル0.00～10.00 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。 利得が約9.5(dB) 変化することを確認する。		
4．無歪最大出力電圧点検	2項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V)以上	
5．パルス整形確認	2項の接続にて、OUT PUTからの出力波形が下記図の様な、波形が観測されること。 ① TIME CONSTANT 0.2μS OUTPUT MODE : +UNI SHAPING TIME : 0.2  ② TIME CONSTANT 0.5μS OUTPUT MODE : +UNI SHAPING TIME : 0.5 	波形に異常がないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

③ TIME CONSTANT 1.0μS



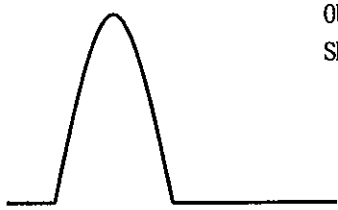
OUTPUT MODE　: +UNI
SHAPING TIME : 1.0

④ TIME CONSTANT 2.0μS



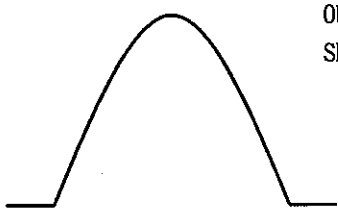
OUTPUT MODE　: +UNI
SHAPING TIME : 2.0

⑤ TIME CONSTANT 5.0μS



OUTPUT MODE　: +UNI
SHAPING TIME : 5.0

⑥ TIME CONSTANT10.0μS



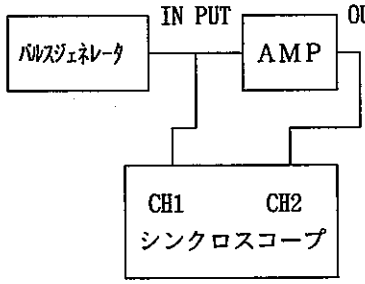
OUTPUT MODE　: +UNI
SHAPING TIME : 10.0

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	線形増幅器	型　名	E－511	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

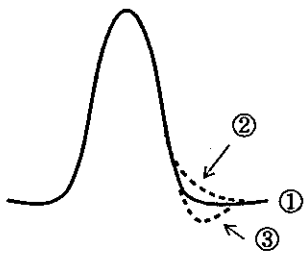
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．COARSE GAIN点検	 [E-511：　入力インピーダンス　1KΩ] 上記の接続にて、レンジスイッチ2、FINEダイヤル0.00にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。	各±2(dB) 以内	

GAINﾚﾝｼﾞ	利　得
2	6(dB)
4	12(dB)
8	18(dB)
16	24(dB)
32	30(dB)
64	36(dB)
128	42(dB)
256	48(dB)
512	54(dB)

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

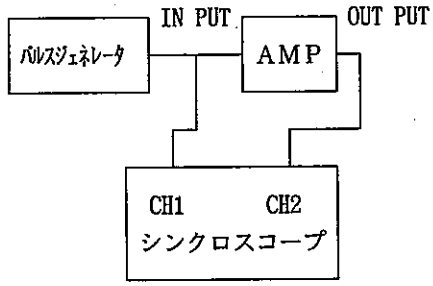
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	利得＝$20\log_{10}\frac{\text{出力電圧}}{\text{入力電圧}}$ E－511設定 波形整形　：2(μsec) RATEスイッチ　：LO MODEスイッチ　：UNI OUTPUT端子　：UNI		
3．FINE GAIN点検	2項の接続にて、レンジスイッチ2にてFINEダイヤル0.00～10.00 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。 利得が約6(dB) ～18.0(dB)変化することを確認する。		
4．無歪最大出力電圧点検	2項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V)以上	
5．PZ調整	表面パネルにあるPZ調整用可変抵抗（ポールゼロキャンセル時定数調整）にて出力波形をシンクロスコープで観測しながら調整する。  ① PZ調整　最良点 ② PZ調整　過補正　（反時計方向に回し調整） ③ PZ調整　未補正　（時計方向に回し調整）	適正補正	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	直線増幅器	型　名	MPS－1221A	メーカ名	大阪電波
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．COARSE GAIN点検	 上記の接続にて、レンジスイッチ1、FINEダイヤル0.00にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。 パルスジェネレータの設定 周波数　10^4(cps) パルス幅　300(nsec) 立上り立下り　10(nsec) 極性　正 MPS-1221A の設定 入力インピーダンス　500(Ω) 出力インピーダンス　0(Ω) FINE GAIN　最小 POLARITY　ON 1	±2 (dB)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

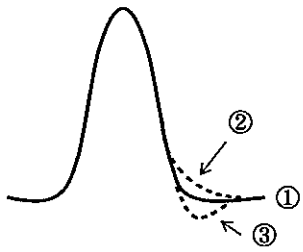
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	GAINﾚﾝｼﾞ / 利　得 1 / 0(dB) 2 / 6(dB) 4 / 12(dB) 8 / 18(dB) 16 / 24(dB) 32 / 30(dB) 64 / 36(dB) 128 / 42(dB) 256 / 48(dB) 512 / 54(dB) $利得=20\log_{10}\frac{出力電圧}{入力電圧}$		
3．FINE GAIN 点検	2項の接続にて、レンジスイッチ2にてＦＩＮＥダイヤル0.00～10.00 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。 利得が約9(dB) 変化することを確認する。	可変範囲　約9(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	2項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年　3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．波形整形確認	表面パネルにあるＰＺ調整用可変抵抗（ポールゼロキャンセル時定数調整）にて出力波形をシンクロスコープで観測しながら調整する。  ①　ＰＺ調整　最良点 ②　ＰＺ調整　過補正　（反時計方向に回し調整） ③　ＰＺ調整　未補正　（時計方向に回し調整）	パルスアンダーシュートの除去	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	前置増幅器	型　名	PAM－1025R	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

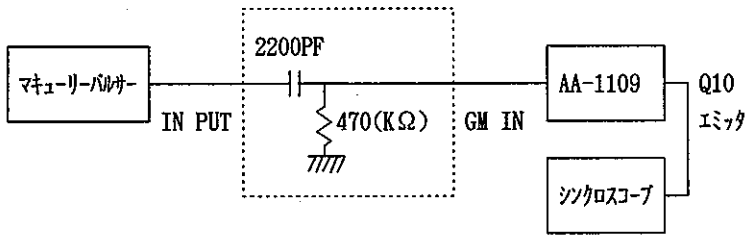
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器部			
2.1 増幅度測定	検出器を取り外し、マキューリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴ（⑫番端子）に接続し、-1(V) を入力した場合ＴＲ２エミッタからの出力電圧をシンクロスコープにて測定する。そして、利得をもとめる。	利得　約1.0(倍)	
2.2 直線性の測定	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対する出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 入力電圧 -0.2(V),-0.4(V),-0.6(V),-0.8(V), -1.0(V)		
2.3 最大出力電圧の確認	2.1 項の接続方法にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）をシンクロスコープにて測定する。		
3．ディスクリレベルの測定	ＩＮ　ＰＵＴ（⑫番端子）にマキューリーパルサーからの負信号を入力し、ＴＲ２エミッタにシンクロスコープを接続する。次に、マキューリーパルサーからの入力信号を可変し、ＯＵＴ　ＰＵＴから波形がでる点のＴＲ２エミッタ出力電圧を確認する。 基準外の場合は、ＲＶ１にて調整する。	-100±10(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	前置増幅器	型　名	AA－1109	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．利得の測定	 上記の接続にて、マキューリパルサーの入力電圧を下記の様に、入力した場合の出力電圧を確認する。 入力電圧　出力電圧 -10(mV)　-200(mV) -50(mV)　-1000(mV) -100(mV)　-2000(mV)		
3．雑音の測定	2項の接続にて、入力オープン時の出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 入力換算＝雑音÷利得（2項の点検時、求める）	入力換算 5(mVp-p)以下	
4．最大出力電圧の測定	2項の接続にて、マキューリーパルサーからの入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力電圧を測定する。 無負荷にて行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．出力直線性	2項の接続にて、マキューリーパルサーからの入力電圧を下記の様に設定した時の出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 入力電圧 -10(mV),-20(mV),-30(mV)		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	前置増幅器	型　名	RU116	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

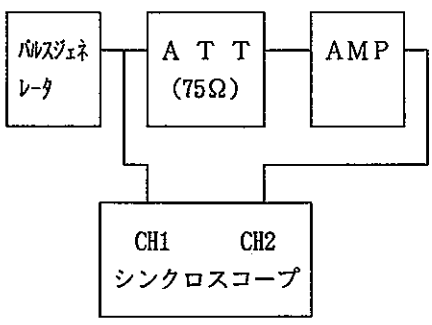
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．利得の測定	マキューリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴ端子に接続し、ＯＵＴ　ＰＵＴ端子にシンクロスコープを接続する。次に、下記の入力電圧を入力した場合の出力電圧を確認する。 入力電圧　　出力電圧 -100(mV)　　約　4(V) -50(mV)　　約　2(V) -10(mV)　　約 0.4(V)	約32(dB)	7ピンコネクタ D　=-12V C　= 12V BE=GND A　=OUT
3．雑音の測定	2項の接続にて、入力オープン時の出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 入力換算＝雑音÷利得（2項の点検時、求める）	5(mVp-p)以下	
4．最大出力電圧の確認	2項の接続にて、マキューリーパルサーからの入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力電圧を測定する。 無負荷及び 75(Ω) 負荷時にて行う。	無負荷 ： 6(V)以上 75(Ω) 負荷 ： 3(V)以上	
5．出力直線性	2項の接続にて、マキューリーパルサーからの入力電圧を下記の様に設定した時の出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 入力電圧 -10(mV),-20(mV),-30(mV)	非直線性±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	増幅波高分析器	型　名	AM-12M01BR・AM-12M01CM AM-12M01DM	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器			
2.1 ベースライン確認	J_1の40ピンに何も接続しない状態でＣＰ４にデジタルマルチメータを接続し、電圧を測定する。 規格外は、ＲＶ５にて調整する。	0±0.01(V)以内	
2.2 ＰＺ　ＡＤＪ	下記の設定にてパルスジェネレータからＩＮ　ＰＵＴ(J_2)に信号を入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴ(ＮＥＧ)(J_4)の出力波形をシンクロスコープで測定する。適正補償でない場合は、最も早くベースラインに戻る様に裏面パネルのＰＺ　ＡＤＪ(ＲＶ３)を調整する。 パルスジェネレータ設定 ＤＥＣＡＹ　ＴＩＭＥ　100(μs) ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥ　0.1(μs) ＰＯＬＡＲＩＴＹ　負	適正補償であること	
2.3 増幅度確認		20～26±2(dB)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	上図の接続にてパルスジェネレータ出力を -5(V)、ＧＡＩＮダイヤルを 0.00(目盛)にしたとき、増幅器出力 -5(V)となるときのＡＴＴの値を測定する。また、5.00（目盛）の場合のＡＴＴの値も測定する。 ＡＭＰ　ＩＮ　　Ｊ２ ＡＭＰ　ＯＵＴ　　Ｊ１ 5 規格外の場合は、下記の調整ボリュウムにて調整する。 ＮＥＧ　　ＲＶ６ ＰＯＳ　　ＲＶ７ 注）オフセット調整 ＩＮ　ＰＵＴ（Ｊ２）に何も接続しない状態で、下記端子の電圧が0(V)となっていることを確認する。 端子 / 調整 / 規格 J101-D / RV1 / 0±1(mV) J101-F / RV3 / 0±1(mV) J101-K / RV4 / 0±1(mV)		
2. 4 直線性測定	2. 3項の接続に於いてＧＡＩＮダイヤルを 5.00(目盛）にし、ＡＭＰ　ＩＮＰＵＴに下記電圧を入力した時のＡＭＰ　ＯＵＴからの出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 入力電圧　出力電圧 -100(mV)　-2(V) -200(mV)　-4(V) -300(mV)　-6(V)	±0.3(V)以内	
2. 5 最大無歪電圧測定	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	-10(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

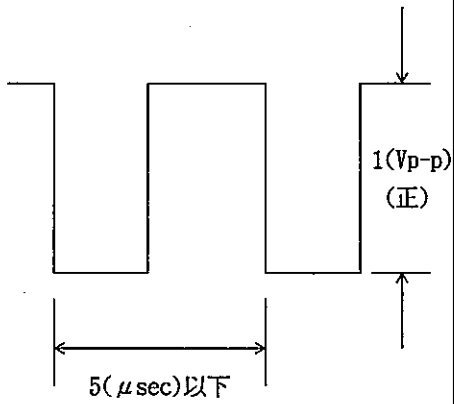
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.6ノイズ測定	ＧＡＩＮを最大にし、入力オープン時のＡＭＰ　ＯＵＴの出力電圧を測定する。	100(mVp-p)以下	
3．波高分析器			
3.1 ディスクリレベル測定	下記のディスクリレベルダイヤル目盛に於いて、パルスジェネレータから負電圧をＰＨＳ　ＩＮ（J_1-40）に入力し、ＤＩＳＣＲ　ＯＵＴ(J_1-7)に波形が出力されたときのパルスジェネレータからの入力電圧を測定する。 ダイヤル目盛　電圧(V) 6.0　6.00 3.0　3.00 1.0　1.00 0.5　0.50 規格外の場合は、下記の要領にて調整する。 ディスクリレベルダイヤル目盛を 6.0にする。 パルスジェネレータから6.0(V)を入力しＣＰ10の出力電圧が-5±0.01(V) になる様にＲＶ９を調整する。 ディスクリレベルダイヤル目盛を 6.0に設定し、パルスジェネレータから-6(V)を入力したとき、ＣＰ５に出力波形が出るぎりぎりの所にＲＶ８を調整する。	±0.1(V)以内	
3.2 分解能	ダブルパルサー下記の様に設定しＰＨＳＩＮ(J_1 40)に入力し、ＤＥＬＡＹダイヤルを可変する。そして、ＤＩＳＣＲ　ＯＵＴ(J_1 7)に接続したシンクロスコープにて出力波形を測定し、出力波形が重なる直前の入力波形の間隔を読み取る。	1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

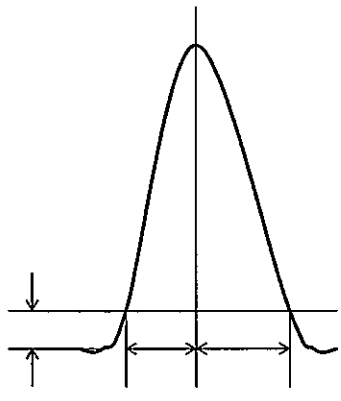
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 周波数　1(KHz)		
4．3MeV　CUT 動作調整	パルスジェネレータからPHS　IN（J₁ 40)に6.0(V)を入力し、CP11の出力電圧が-5±0.01(V) になる様にRV10を調整する。 ディスクリレベルダイヤル目盛を 0.1に設定し、パルスジェネレータから-6(V)を入力したとき、DISCR　OUT（J₁ 7)に出力波形が出るぎりぎりの所に裏面パネルの3MeV　ADJ(RV4)を調整する。	-6(V)±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

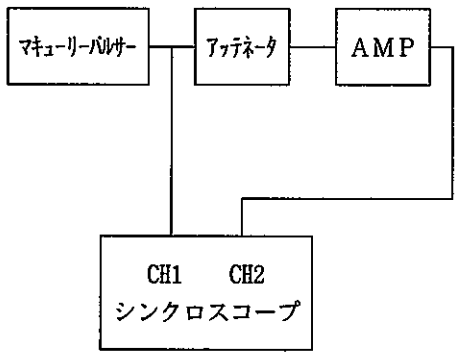
機器名	増幅波高分析器	型　名	AM－1203R	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器試験	下記条件にてAMP　INOPUTに加え、AMP　OUTPUTにシンクロスコープを接続し、出力波形を確認する。 MODE設定 GAIN　5.00 マキューリーパルサー設定 DICAY TIME　100(μsec) RISE　TIME　0.1(μsec) POLAITY　負 PULSE HEIGHT　6(V) 出力波形  10(%)　1(μsec)　6(μsec)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

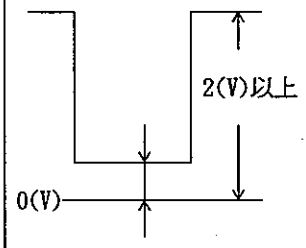
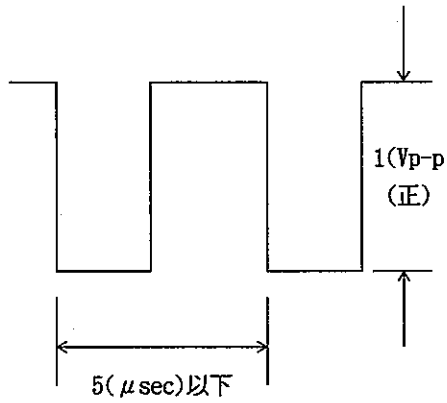
改訂　平成８年３月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.1 増幅度確認			
	上図の接続にて、マキューリーパルサーを -5(V)、ＧＡＩＮダイヤルを0.00目盛にした時、増幅器出力が -5(V)となる時のアッテネータの読みを記録する。及び5.00目盛にした時のアッテネータの読み値も記録する。 規格外の場合は、ＲＶ２(AMC-1107)で調整する。	20～26(db)±2(db)	正出力はＲＶ１(AMC-1107)
2.2 直線性測定	2.1 項の接続にて、ＧＡＩＮダイヤルを5.00目盛にし、AMP　INPUTに下記入力値を入力した時、AMP　OUTの出力をシンクロスコープにて測定する。 入力（ＩＮ）　出力（ＯＵＴ） -100(mV)　2(V) -200(mV)　4(V) -300(mV)　6(V)		
2.3 最大無歪電圧測定	2.1 項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高をシンクロスコープにて測定する。	10(V)以上	
2.4 ノイズ測定	ＧＡＩＮを最大にし、入力オープン時の出力を測定する。	100(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

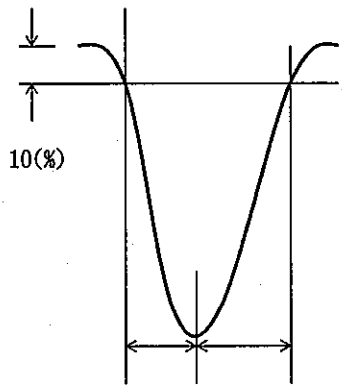
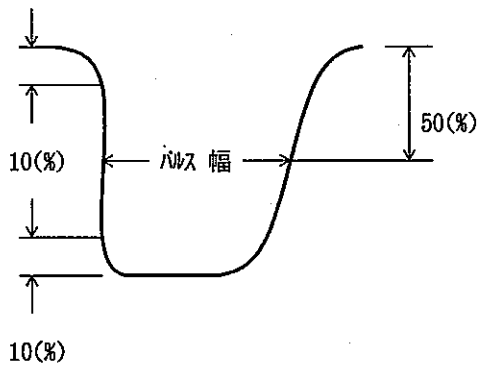
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．波高分析器試験 3.1 ディスクリレベル測定	波高分析器のディスクリレベル目盛を各測定点に設定し、マキューリーパルサーからの出力電圧を可変した場合に、ＤＩＳＣＲ　ＯＵＴにシンクロスコープを接続し、波形の出る点を確認し、直線性を見る。 ＩＮ　ＰＵＴ AMP42ピンコネクタの40番 （ＰＨＳ　ＩＮ） 測定点（ダイヤル目盛） 0.5 、1.0 、3.0 、6.0	各±0.1(V)以内 ＤＩＳＣＲ　ＯＵＴ波形  0.8(V)以下	DISCR OUT AMP42ﾋﾟﾝｺﾈｸﾀ 6番 (PHS OUT +)
3.2 分解能	ダブルパルサーを下記の様に設定しＰＨＳ　ＩＮに接続し、ＤＩＳＣＲ　ＯＵＴ（ＰＨＳ　ＯＵＴ+）にシンクロスコープを接続し、その出力波形を観測しながら、ダブルパルサーのＤＥＬＡＹダイヤルを可変して、出力波形が重なる直前の入力波形の間隔を読み取る。  周波数　1(Kcps)	1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成８年３月

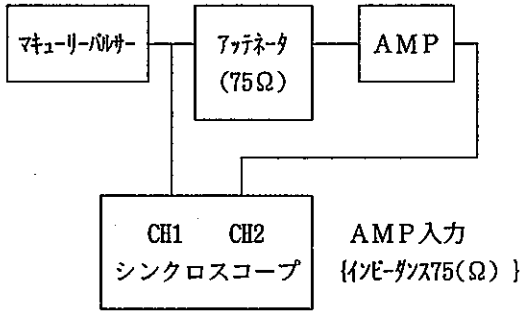
機器名	増幅波高分析器	型　名	AM－１２０２M	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．増幅器試験 ２.１ 出力波形の確認	下記条件にてAMP　IN　PUTに加え、AMP　OUTPUTにシンクロスコープを接続し、出力波形を確認する。 MODE設定 COARSE GAIN ：　1 FINE　GAIN ：　右回し一杯 マキューリーパルサー設定 DICAY TIME　100(μsec) RISE　TIME　0.1(μsec) POLAITY　負 PULSE HEIGHT　10.00 調整 DL　：　RV１，RV２ RC　：　RV３	(1)　RC  (2)　DL　　立上り　：　0.3(μsec) 以下 パルス幅　：　約0.8(μsec)  	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

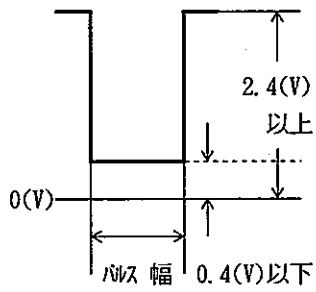
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 増幅度確認	 上記の接続にて、ＧＡＩＮ(1)、ＦＩＮＥ(5.00)にてマキューリパルサーからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、マキューリパルサーの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 以下各レンジに於いて、増幅度を確認する。 ＭＯＤＥ　ＲＣ及びＤＬ ＧＡＩＮ：利得 1：60(dB) 1/5：46(dB) 1/10：40(dB) 1/50：26(dB) FINE (5.00 ～0.00)：20(dB) $利得=20\log_{10}\frac{出力電圧}{入力電圧}$	各レンジに対して ±2(dB)以内	
2.3 直線性測定	2.2 項の接続にて、ＧＡＩＮ最大ＭＯＤＥ　ＲＣ、入力-1(V) にし、下記アッテネータ条件の場合の出力をシンクロスコープにて測定する。 ＡＴＴ：出　力 60(dB)：-1 (V) 48(dB)：-4 (V) 40(dB)：-10(V)	フルスケールの±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

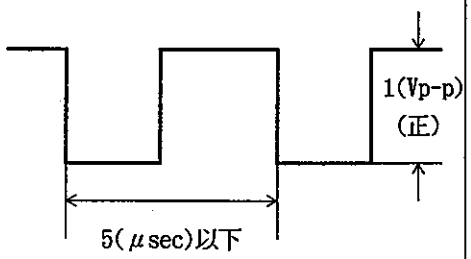
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.4 最大無歪電圧測定	2.2 項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高をシンクロスコープにて測定する。	ＲＣ及びＤＬとも -10(V)以上	
2.5 ノイズ測定	ＧＡＩＮを最大にし、入力オープン時の出力を測定する。	100(mVp-p)以下	
3．波高分析器試験			
3.1 ＬＬＤダイヤル	シングルチャンネル波高分析器のＬＬＤ目盛を各測定点に設定し、マキューリーパルサーからの出力電圧を可変した場合にシングルチャンネル出力（ＰＨＳ　ＯＵＴ（－））にシンクロスコープを接続し、波形の出る点を確認し、直線性を見る。 マキューリーパルサー　： 10.0～0.0(負) ＩＮ　ＰＵＴ　＝ＰＨＳ　ＩＮ ＰＨＳ　ＭＯＤＥ＝ＩＮＴ 測定点（ＬＬＤダイヤル目盛） 7.00、5.0 、3.0 、1.0 、0.5	±0.1(V)以内 出力波形  パルス幅:0.5± 0.15(μsec)	
3.2 ＵＬＤダイヤル	3.1 項と同様の方法にて、波形の消える点を確認し、直線性を見る。 ＰＨＡ　ＭＯＤＥ＝ＤＵＡＬ ＬＬＤ　　＝0.2 測定点（ＵＬＤダイヤル目盛） 7.00、5.0 、3.0 、1.0 、0.5	±0.1(V)以内	
3.3 ΔE ダイヤル	3.1 項と同様の方法にて、精度を確認する。 ＰＨＡ　ＭＯＤＥ＝ＤＵＡＬ ＬＬＤ　　＝1.0 測定点（ＵＬＤダイヤル目盛） 1.0、2.0 、3.0 、4.0 、8.0	フルスケール±１(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

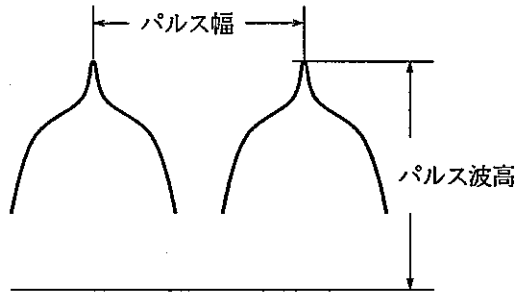
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	基準外の場合の調整法 (1)ダイヤルの電圧設定 ＰＨＳ　ＭＯＤＥをＩＮＴにする。 ＵＬＤの目盛を10.0とし、ＰＣ板Ⓡの電圧は4(V)±0.12(V) であること。ＬＬＤについてもるⓉ (4±0.12(V))にて測定する。 (2)ＲＶ２、ＲＶ３の設定（ΔＥ） ＰＨＡ　ＭＯＤＥをＤＩＦＦにする。 ＬＬＤ＝0.00、ＵＬＤ＝10.0としⓇの電圧が2.0(V)となる様にＲＶ１を調整する。 次にＵＬＤ＝0.00、ＬＬＤ＝10.0とし、Ⓣの電圧が(1)の記録した電圧値となる様にＲＶ２を調整する。		
3.4 分解能測定	ダブルパルサーを下記の様に設定しＰＨＳ　ＩＮに接続し、ＰＨＳ　ＯＵＴ（－）にシンクロスコープを接続し、その出力波形を観測しながら、ダブルパルサーのＤＥＬＡＹダイヤルを可変して、出力波形が重なる直前の入力波形の間隔を読み取る。  周波数　1(Kcps) ＰＨＳ　ＭＯＤＥ　＝　ＩＮＴ ＬＬＤ　＝　0.50 ＰＨＳ　ＭＯＤＥ　＝　ＤＩＦＦ ＬＬＤ　＝　0.50 ＵＬＤ　＝　2.00	パルス間隔 1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	エネルギー補償モジュール	型　名	ＡＭ－１１５２Ｕ	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

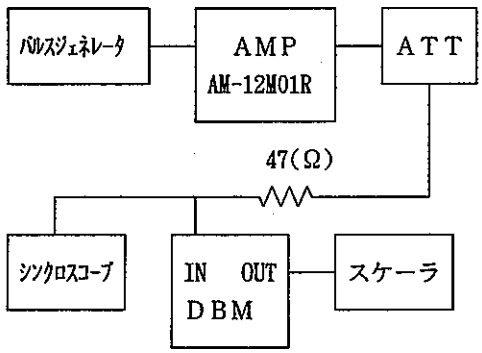
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．内部出力電圧調整	・6(V) パネル面Ｆ．Ｇ　ＯＵＴにデジタルマルチメータを接続し、ユニット内デジスイッチＳＷ１－１をＯＦＦ、ＳＷ１－２をＯＦＦにした時の出力電圧を測定する。 基準外の場合はＲＶ４にて調整する。	6 ±0.006(V)以内	＊ＳＴ－５においてデジスイッチを以下の様に設定する。 ・6(V) SW1-1　ON SW1-2　OFF
	・100(mV) パネル面Ｆ．Ｇ　ＯＵＴにデジタルマルチメータを接続し、ユニット内デジスイッチＳＷ１－１をＯＦＦ、ＳＷ１－２をＯＮにした時の出力電圧を測定する。 基準外の場合はＲＶ２にて調整する。	100 ±0.1(mV) 以内	・100(mV) SW1-1　ON SW1-2　ON
３．Ｆ．Ｇ　ＯＵＴ波形確認	パネル面Ｆ．Ｇ　ＯＵＴにシンクロスコープを接続し、ＳＷ１－１をＯＮにし観測する。 	パルス幅　： 40±8(msec) 以内 パルス波高： 6±0.3(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．通過率の確認	下記接続及び入力波高にて通過率を測定し、規格内であることを確認する。		



パルスジェネレータ設定
　極性　　：　負
　周波数　：　約20(kcps)

$$\text{通過率} = \frac{\text{各入力電圧の計数値}}{\text{入力電圧}-10(\text{V})\ \text{の計数値}} \times 100(\%)$$

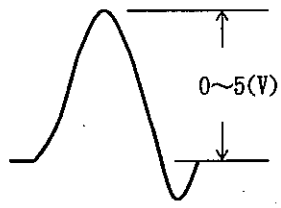
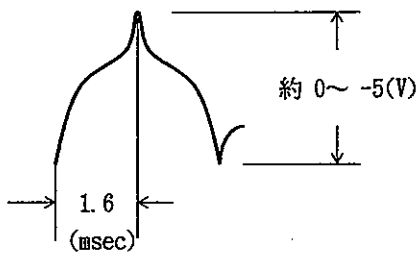
入力波高	通過率規格(%)
-6(V)	103 ～ 97
-3(V)	69.93 ～ 65.86
-1(V)	17.42 ～ 16.40
-0.4(V)	3.525 ～ 3.319
-0.12(V)	1.174 ～ 0.960
-0.1(V)	1.290 ～ 1.056
-0.095(V)	0

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	線量変換器	型　名	RU729	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

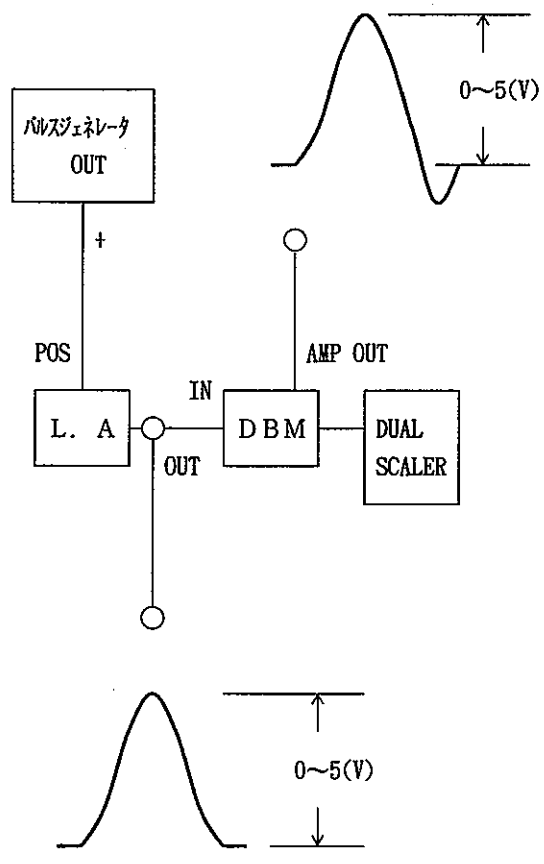
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．BLR点検	パルスジェネレータより、下記設定にてIN PUTに入力した時の、BLR OUTからの波形をシンクロスコープにて測定する。 パルスジェネレータ設定 ・正のユニポーラ ・パルス立上り　：　1(μsec) ・パルス立下り　：1.5(μsec) ・パルス波高　　：　0～5(V) BLR OUT調整はGAIN用微調整トリマーで行う。 3(Mev) ⇨ 5(V)	無入力時 BLR DCレベル 0±0.01(V) 以内 BLR OUT  	
3．FUNC OUT 波形確認	FUNC OUTにシンクロスコープを接続し、下記波形を確認する。  	周期：1.6±0.2(msec) 振幅：　約 0～ -5(V)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．通過率の確認	下記の様に接続し、入力電圧を可変し、その時の通過率が理想値の規定内であることを確認する。 上記点検を行う時、リニアアンプの出力をシンクロスコープにて観測し、ＰＯＬＥ ＺＥＲＯ　ＤＣ　ＺＥＲＯを調整する。 ＤＢＭのＧＡＩＮ調整トリマーで横のチェック端子に3(Mev)＝5(V)のバイポーラ出力波形がでる様に調整する。 ＤＢＭ　ＬＬＤは最低レベル（0(mV）付近）にセットしてから行う。	50(KeV）～100(KeV) ±10(%) 100(KeV)～3(MeV) ±3(%)	



点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

ｴﾈﾙｷﾞｰ(KeV)	ﾊﾟﾙｽ 波高(V)	通過率規格(%)
3000	5.000	97.00 ～103.00
1500	2.500	66.96 ～71.10
500	0.833	16.40 ～17.42
300	0.500	6.34 ～6.74
200	0.333	3.32 ～3.52
150	0.250	2.26 ～2.40
50	0.083	1.05 ～1.29

通過率確認後、ＤＢＭ　ＬＬＤは83(mV)に設定する。

（上記通過率が規格に入らない場合）

(1) Ic13の３番ピンに 160(Kcps)±10(%)の周波数がでる様にＶＲ５を調整する。

(2) ＵＬＤをＯＮにし、入力に3(MeV)相当の入力波形を入れ、通過率が50(%) になる様にＰＣ－２のＶＲ１を調整する。

ＰＣ－２のIc12番ピンの電圧が3(V)が3(MeV)に対応している。

(3) 600(KeV)相当の入力波形を入れ、通過率が理想値の2.5(%)～3(%)になるようにＶＲ３にて調整する。

(4) 100(KeV)相当の入力波形を入れ、通過率が理想値の 0(%) ～2(%)になるようにＶＲ４にて調整する。

(5) (2)、(3)項を繰り返して、通過率が入る様に調整する。

(6) 50(KeV) ～3(MeV)のパルス通過率が規格内であることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	スケーラモジュール	型　名	AM－5301M	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ディスクリレベル確認	コネクタJ(AMP-A)のGM　IN（AMP㊴ピン）にパルスジェネレータから負信号を入力する。そして、計数し始めるときのパルスジェネレータの電圧を測定する。	-100±10(mV)以内	
3．PHインバータ確認	パルスジェネレータ（パルス波高-3(V)）をPHA　INに入力した時、計数することを確認する。	入力：-3(V)	
4．計数動作確認	入力感度測定状態にて計数動作を確認する。この時、AMP㉑ピンGATE　INはOPENで、AMP㉟ピンのRESET　INをアースにおとすと計数状態となる。 次に、パルスジェネレータの周波数を切換10^0 ～10^5 桁まで正常な計数を行うことを表示管にて確認する。	正常に動作すること	
5．READ　OUT出力確認	READ　OUT①～⑳端子にシンクロスコープを接続し、それぞれの出力波形が図の様に分周されていることを確認する。 出力電力 Lレベル　+0.4(V)以下 Hレベル　+2.4(V)以上	正常に動作すること	

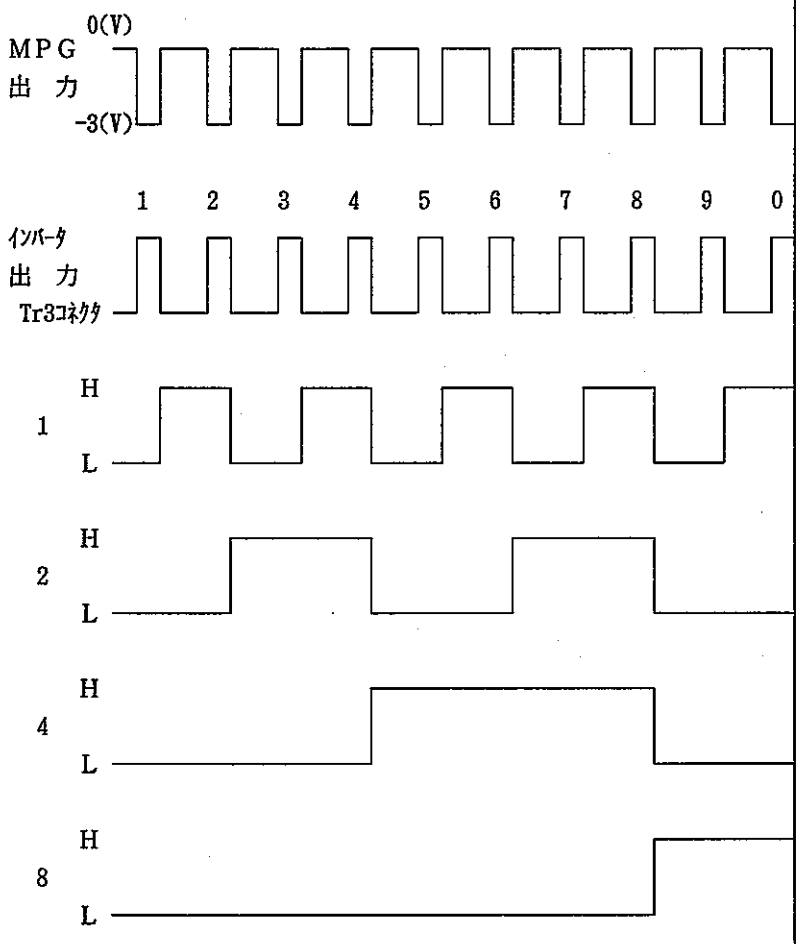
点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

ＩＣ7～ＩＣ12の10進カウンタ（ＳＮ7490Ｎ）の入出力波高



Ｊ２(READ OUT)端子ピン

	1	2	4	8
10^0	①	②	③	④
10^1	⑤	⑥	⑦	⑧
10^2	⑨	⑩	⑪	⑫
10^3	⑬	⑭	⑮	⑯
10^4	⑰	⑱	⑲	⑳
10^5	㉑	㉒	㉓	㉔

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．RESET確認	AMP㉟ピンRESET　INをOPENにした時、表示が零リセットされることを確認する。	正常に動作すること	
7．計数停止確認	計数状態でAMP㉑ピンGATE　INをアースに落とすと、計数が停止することを確認する。	正常に動作すること	
8．PC　OUT確認	INT　PC　STOP　IN㉜端子に接続されているピンをEXT　PC　STOP　IN㉞端子にに差し換える。この時㉜端子はアースに落としておき、PRSET　COUNT設定スイッチの各設定値に対し、計数させ各設定値の時AMP㉒ピンPCSTOP　OUTが H/L ⌐ になることを確認する。 尚、確認後もとに戻しておくこと。	正常に動作すること	
9．計数分解能確認	ダブルパルサーの出力をAMP㊴ピンのGM　INに接続する。 SEPALATIONを10(μsec)としSEPALATIONを調整して、第一パルスを第二パルスの間隔を1(μsec)まで近づけて、IN7の⑫の出力(10°の1出力①端子）をシンクロスコープで見て正常動作していることを確認し、さらにパルス間隔を近づけて正常動作するパルス間隔を読みとる。次に、パルス繰り返し、周波数を1(cps)とすると分解能1(μsec)で確実に動作している場合、数字表示管は偶数順あるいは、奇数順に飛び越して計数していくことを確認する。 ダブルパルサー（第一、第二） 波高値　-5(V) パルス幅　0.5(μsec) 周波数　10（cps）	分解能：1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

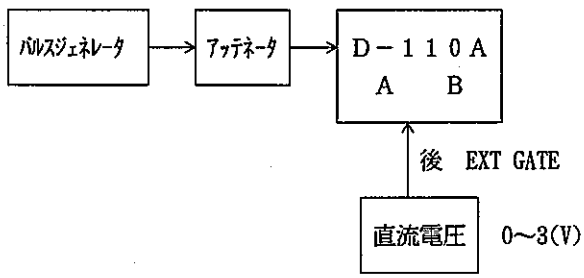
機器名	カウンタモジュール	型　名	D－１１０	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力感度測定	パルスジェネレータを±10(V) にし、アッテネータを通してＩＮＰＵＴに接続し、アッテネータからの出力電圧を可変し、カウンタが計数し始める時のアッテネータからの出力電圧を測定する。 （ＭＡＳＴＥＲ），（ＣＯＵＮＴ）	計数開始電圧 1±0.2(V)以内 -1±0.2(V)以内	
3．プリセット動作	パルスジェネレータを下記条件でＩＮＰＵＴに入力し、プリセットダイヤルを各々に設定(10,100,1K,10K) し、ＲＥＳＥＴスイッチを押し、計数させ各々の設定で計数値が停止することを確認する。 （ＣＯＵＮＴ） パルスジェネレータ設定値 パルス波高　3(V) パルス幅　1(μsec) 周波数　100(Kcps)	±1(カウント) 以内	
4．オーバーフロー信号間の間隔	パルスジェネレータを下記条件でＩＮＰＵＴに入力し、裏面オーバーフロー出力端子にシンクロースコープを接続し、オーバーフロー信号の間隔が5(div)になることを確認する。 パルスジェネレータ設定値 パルス波高　3(V) パルス幅　40(nsec) 周波数　10(Mcps)	20(msec/div)にて5(div)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

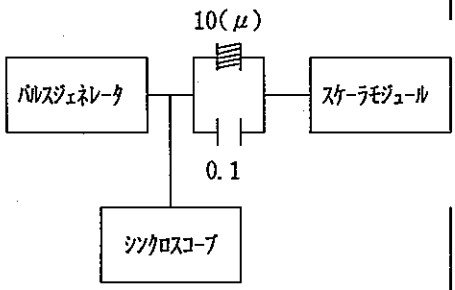
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．外部ゲート信号	D－１１０設定値 入力信号極性選択　：ＰＯＳ プリセットダイヤル：ＯＦＦ 裏面パネルスイッチ：ＭＡＳＴＥＲ ゲートスイッチ　　：ＣＯＵＮＴ シンクロスコープ設定値 20(msec/div) パルスジェネレータを10(V) にし、アッテネータを通してゲート端子に接続し、アッテネータからの出力電圧を可変し、カウンタが計数し始める時のアッテネータからの出力電圧を測定する。  D－１１０設定値 入力信号極性選択　：ＰＯＳ プリセットダイヤル：ＯＦＦ 裏面パネルスイッチ：ＭＡＳＴＥＲ ゲートスイッチ　　：ＳＴＯＰ／ＥＸＴ パルスジェネレータ設定値 周波数　　100(Kcps)	計数開始電圧 3±0.2(V)以内	
6．分解能測定	ＩＮ　ＰＵＴにダブルパルサーからアッテネータを介して下記信号を入力する。 パルス間隔を変化し、計数表示が偶数順あるいは奇数順に飛び越す時のパルス間隔を求める。 ダブルパルサー設定値 パルス幅　　：40(nsec) パルス立ち上がり：5(nsec) パルス立ち下がり：5(nsec) 周波数　　：10(Mcps)	0.2（μsec)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

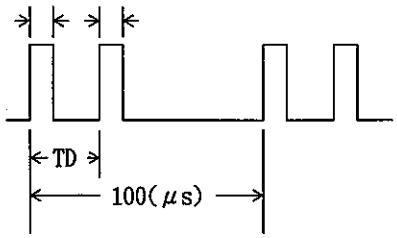
機器名	スケーラモジュール	型　名	NFS21022	メーカ名	富士電気
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ディスクリレベル設定及び直線性	 上図の様に接続し、パルスジェネレータから下記信号を入力する。 パルスジェネレータ設定値 パルス幅　：2(μsec) パルス立ち上がり：0.1(μsec)以下 パルス立ち下がり：0.1(μsec)以下 周波数　：10(Kcps)		
2.1 03U031 AMP GAIN 調整	パルスジェネレータから5(V)入力し、ディスクリレベルを最高にし、スケーラの計数がハーフトリガになるよう03U031のアンプゲインを調整する。	5(V)　3.00(目盛)	
2.2 直線性減数	パルスジェネレータからの入力を4(V)、3(V)、2(V)、1(V)、0.5(V)、0.1(V)にし、各々についてスケーラのディスクリダイヤルを回し、ハーフトリガの状態になる時の目盛を読む。	フルスケール±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．分解能点検	2項の接続にて、パルスジェネレータの入力信号を下記の如くいれる。 0.5(μs)　0.5(μs)  TD（パルス間隔）=1(μs)にし、カウンタが2つおくに計数することを確認する。 入力パルス波高はディスクリレベルの2倍とする。	パルス間隔　1(μsec)以下	
4．コントロール点検	前面パネルのＣＯＮＴＲＯＬ　ＭＯＤＥスイッチをＣＯＵＮＴ側にしＲＥＳＥＴをおす。 ＣＯＵＮＴ－ＳＴＯＰと切り換えてみる。 ＣＯＮＴＲＯＬ　ＭＯＤＥスイッチをＳＴＯＰ／ＥＸＴにし、次にチェックを行う。 背面基本コネクタ（Ｚ３０１－３０）を +1.5(V) ⇨ +3.0(V)にする。 +3.0(V) ⇨ +1.5(V)にする。 同様に基本コネクタ（Ｚ３０１－３１）を +1.5(V) ⇨ +3.0(V)にする。 前面パネルのＧＡＴＥコネクタに +1.5(V) ⇨ +3.0(V)の電圧を加える。	正常に動作すること。 計数はリセットすること。 ＣＯＵＮＴのとき計数し、ＳＴＯＰのとき停止すること 計数開始すること。 計数停止すること。 リセットすること。 +3(V) にした時のみ計数すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	背面CONTROL　INコネクタ（Z303－Z）を +2.4(V) ⇨ +0.4(V)にする。 +0.4(V) ⇨ +2.4(V)にする。 同様に（Z303－4）を +2.4(V) ⇨ +0.4(V)にする。	 計数開始すること。 計数停止すること。 リセットすること。	
5．プリセットカウント点検	基本コネクタ（Z301－35）を 0.0(V) ⇨ +3.0(V)にし、再び+3.0(V) ⇨ 0.0(V) にする。 プリセットカウントを10に設定し、計数状態にする。 同様にプリセットカウント800000に設定し計数を行う。	 10(C) 800000(C)	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	タイマモジュール	型　名	AM－5353B	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などの異常のないこと	
2．クロックパルスの確認	AMC-0252(UN1) のＪ３の(L) を接地し(X) にシンクロスコープを接続し確認する。 ・Ｓ－３＝(sec) にて1000(cps) の出力がでていることを確認する。 ・Ｓ－３＝(min) にて1000(cpm) の出力がでていることを確認する。	S-3 sec:1000(cps) S-3 min:1000(cpm)	
3．スケーラＢの確認	AMC-5202(UN2) のＪ４の㉑を接地し、S3を(sec) にする。下記の箇所にて出力をシンクロスコープで確認する。 シンクロ接続　　出力 Ｊ４－８　　100(cps) Ｊ４－Ｌ　　10(cps) Ｊ４－Ｒ　　1(cps)		
4．制御回路確認 4.1 ＦＲＥＥ確認	CONTROL をMAN　OPERATEをFREEにする。 PT、PCに無関係にタイマが歩進することを確認する。	正常に動作すること	
4.2 ＰＴの確認	OPERATE をPTにする、PRESET TIME を8888にすると、約15分後に8888を表示し、PTランプの点灯することを確認する。	正常に動作すること (888設定)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3 ＰＣの確認	スケーラ(AM-5301M)を接続し、パルス発生器より1000(cps) を入力する、OPREATEをPCにし、スケーラのPRESET COUNTを10(Kcps)にした時、同カウンタに達した時タイマが停止し、PCランプが点灯することを確認する。	正常に動作すること (10K設定)	
4.4 ＰＴＣの確認	4.3 項の接続にて、OPERATE を PCTにするタイマ、スケーラを任意の時間、カウンタにセットし、時間経過の早いものよりタイマが停止し、それぞれPC、PTランプが点灯することを確認する。	正常に動作すること	
4.5 ＡＵＴＯ確認	CONTROL をAUTOにしＪ1-35を接地した時、表示がリセットすることを確認する。 次に、Ｊ1-35を開放し、Ｊ1-37を接地した時、計数を開始することを確認する。	正常に動作すること	
4.6 ＲＥＰＥＡＴ確認	CONTROL をREPEAT、OPERATをPTにする。タイマを任意にセットにしセット時間に達すると、リセットに再び計数を開始。 この動作を繰り返すことを確認する。	正常に動作すること	
4.7 ＳＴＯＰ確認	CONTROL 、OPERATにかかわらず、タイマ動作中STOPボタンを押すと、タイマが停止することを確認する。	正常に動作すること	
4.8 ＲＥＳＥＴ確認	CONTROL 、OPERATにかかわらず、RESETボタンを押すと、タイマが停止し計数をクリアーし、離すと再びタイマが動作、計数することを確認する。	正常に動作すること	
4.9 ＴＥＳＴ確認	Ｊ1-⑬TEST信号(1000cps) が出ていることをシンクロスコープにて確認する。	正常に動作すること (1000cps)	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	タイマモジュール	型　名	D－１１１	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などの異常のないこと	
2．プリセット動作	タイマを下記の様にセットし、各プリセットダイヤル設定に於ける動作を、確認する。 タイマを ディスプレイダイヤル：（ホールド） 時間切換スイッチ　：（ＳＥＣ） にし、ゲート切換スイッチをＣＯＵＮＴにした時の表示を確認する。 プリセットダイヤル　表示 0.01　1(カウント) 0.3　30(カウント) 10　1000(カウント) 300　30000(カウント)	±1(カウント)	
3．クロックパルスの確認			
3.1　100(Hz)の分周	タイマの100(KHz)端子をカウンタの入力端子に接続し、 タイム　：（ＭＡＳＴＥＲ） プリセットダイヤル(1) 時間切換スイッチ（ＳＥＣ） カウンタ：（ＳＬＡＶＥ） プリセットダイヤル(OFF) 入力極性（ＮＥＧ） に設定し、ゲート切換スイッチをＣＯＵＮＴにしてタイマとカウンタの表示を確認する。	タイム　：100(カウント) カウンタ： 100000(カウント)±0.5(%)	タイマとカウンタの裏面パネルにあるＧＡＴＥ，ＲＥＳＥＴ，ＲＲＥＳＥＴコネクタを各々つなぐ

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2 10/6(Hz)の分周	3.1 項と同様に、タイマのプリセットダイヤル(0.1) 時間切換スイッチ（ＭＩＮ）に設定し、ゲート切換スイッチをＣＯＵＮＴにしてタイマとカウンタの表示を確認する。	タイム　：10(ｶｳﾝﾄ) カウンタ： 600000(ｶｳﾝﾄ)±0.5(%)	
4．操作モードの確認	ディスプレイタイマのツマミを任意にセットし、一定周期でディスプレイ動作が行われることを確認する。又、ツマミをホールドした時、表示がホールドされることを確認する。	ディスプレイのＯＮ・ＯＦＦ動作 正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	タイマモジュール	型　名	NFT13022	メーカ名	富士電機
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などの異常のないこと	
2．コントロール点検	前面パネルのＩＮＴ－ＥＸＴ切換スイッチをＩＮＴにし、ＳＴＡＲＴ，ＳＴＯＰ，ＲＥＳＥＴボタンを押す	スタート、ストップ、リセットすること。	
	ＩＮＴ－ＥＸＴ切換スイッチをＥＸＴにする。 背面ＣＯＮＴＲＯＬ　ＩＮピン2を0(V)にする。	スタートすること。 背面CONTROL OUT ピン2が0(V)になること。 背面基本コネクタピン30が0 →10(V) になること。	
	背面ＣＯＮＴＲＯＬ　ＩＮピン3を0(V)にする。	ストップすること。 背面CONTROL OUT ピン3が0(V)になること。 背面基本コネクタピン30が0(V)になること。	
	背面ＣＯＮＴＲＯＬ　ＩＮピン4を0(V)にする。	リセットすること。 背面CONTROL OUT ピン4が0(V)になること。 背面基本コネクタピン31が0 →10(V) になること。	
3．プリセットタイム点検	前面パネルＳＥＣ－ＭＩＮ切換スイッチをＳＥＣにし、プリセットを1秒にし、スタートさせる。1秒後に停止することを確認する。同様に、100秒にても行う。 次にスイッチをＭＩＮにし、1分、10分に設定し、設定時間に達した時に停止することを確認する。	設定時間で停止すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．時間精度確認	前面パネルＳＥＣ－ＭＩＮ切換スイッチをＳＥＣにし、プリセットタイムを100.0秒に設定し、カウンタにより時間精度を測定する。 次にスイッチをＭＩＮにし、設定時間を1分にし、カウンタにより時間精度を測定する。	ＳＥＣ設定： 100 ±0.05秒以内 ＭＩＮ設定： 1 ±0.0005秒以内	
5．時間読み出し信号確認	背面ＣＯＮＴＲＯＬ　ＩＮピン11を0(V)にし、ＤＡＴＡ　ＯＵＴ　の信号を確認する。 ＬＯＧＩＣＡＬ「1」の信号は 0～0.4(V) ＬＯＧＩＣＡＬ「0」の信号は 2.4～5(V)	表示とＢＣＤ　ＯＵＴが一致すること。	表示：パネル面の表示 BDC OUT ：背面の出力信号

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	タイマモジュール	型　名	AM－5351	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などの異常のないこと	
2．クロックパルスの確認	水晶発振器の端子にてクロックパルスをシンコロスコープにて確認する。	×1　　1000(Hz) ×10　　100(Hz)	
3．制御回路確認			
3.1 FREE確認	OPERATEスイッチをFREEにする。 PT，PCに無関係にタイマーが歩進することを確認する。		
3.2 PTの確認	OPERATEスイッチをPTにする。PRESET TIMEを4(min),10(min)にすると同時間にタイマが停止すること。		
3.3 PCの確認	OPERATEスイッチをPCにし、スケーラを接続し、スケーラのPRESET COUNTを1(K),10(K) にする。同カウントに達しないときにタイマが停止すること。		
3.4 PCTの確認	OPERATEスイッチをPCTにする。スケーラを接続し各々1(min),1(Kｶｳﾝﾄ) にセットし、時間経過の早いものにより、タイマが停止するこ。		
3.5 STOPの確認	タイマが動作中、PRESET TIMEの途中にてもタイマが停止すること。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

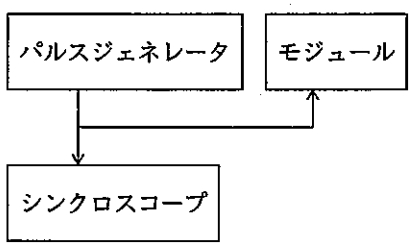
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3.6 ＰＲＥＳＥＴ確認	ＰＲＥＳＥＴ釦をおすことによりタイマのＰＲＥＳＥＴ値をクリアーし、再びタイマが動作し始まることを確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	スケーラアンドタイマ	型　名	AM-5201M,AM-52M02M AM-52MR74-2710	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プリセット動作確認	制御方式切換スイッチを ＭＡＮＵＡＬ"、ＴＩＭＥＲ－ＳＣＡＬＡＲ切換スイッチを 0.1S"にしプリセットタイムを10(sec)に設定する。 ＲＥＳＥＴ　ＣＯＵＮＴスイッチを押すと計数が開始し、計数時間がプリセットタムに達すると終了する。	プリセットタイマ:10(sec)	
3．クロックパルス確認	下記接続及び設定に於いてプリセットタイムを10(sec)及び1(min)とし、経過時間及び計数値を測定する。  入力極性切換スイッチ ＰＯＳ チャンネル ＣＨ－１　タイマ ＣＨ－２　カウンタ(信号入力) 信号入力ピン ＣＨ－１　39番ピン ＣＨ－２　38番ピン	経過時間： 計数値　：±1(%)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

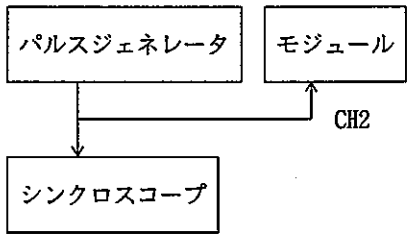
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	パルスジェネレータ設定 波高値　　+5(V) パルス幅　　1(μsec) 周波数　　10^4(cps) ①プリセットタイム　10(sec) 切換スイッチ　　0.1(sec) ②プリセットタイム　1(min) 切換スイッチ　　0.1(min)	①：CH-1　　100 CH-2　100000±1(%)以内 ②：CH-1　　10 CH-2　600000±1(%)以内	
4．入力感度測定	アッテネータ(パルスジェネレータ出力電圧±10V)をＣＨ－１(39番ピン)及びＣＨ－２(38番ピン)に接続する。 アッテネータからの出力電圧を可変し、カウンタが計数し始めるときのアッテネータからの出力電圧を測定する。 入力極性切換スイッチ ＰＯＳ　ＮＥＧ	ＰＯＳ　1±0.1(V)以内 ＮＥＧ　-1±0.1(V)以内	
5．ＩＮＴＥＲＶＡＬ測定	制御方式切換スイッチをＲＥＰＥＡＴにしてＩＮＴＥＲＶＡＬ調整用ツマミを最小から最大に連続可変し、ＰＲＥＳＥＴ値に達してから再びリセット、スタートする迄の時間をそれぞれ測定する。	約１秒～10秒連続可変	
6．計数分解能確認	ダブルパルサーの出力をＣＨ－１又は、ＣＨ－２に接続する。 Ｓｅｐａｒａｔｉｏｎを5(μsec)とし、Ｓｅｐａｒａｔｉｏｎを調整して、第一と第二パルス間隔を1(μsec)まで近づけて、数字表示が偶数順あるいは奇数順に飛び越して計数することを確認する。 ダブルパルサー設定 波高値　　+5(V) 周波数　　1(kcps)	1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	カウントアンドタイマ	型　名	AA－5252	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プリセット動作確認	プリセットを10にし、正常に計数し停止すること。 計数時間：(sec)	10(sec)	
3．クロックパルス確認	下記接続にてタイマ用のディバイダの分周機能動作を確認する。  ・CH－1　タイマ ・CH－2　信号入力 パルスジェネレータ設定 波高値　+5(V) パルス幅　約10(μsec) 周波数　10^5(cps) ①プリセットタイム　0.1(sec) ②プリセットタイム　0.1(min)	経過時間： 計数値　：±1(%) ①：CH-1　100 CH-2　100000±1(%)以内 ②：CH-1　10 CH-2　600000±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

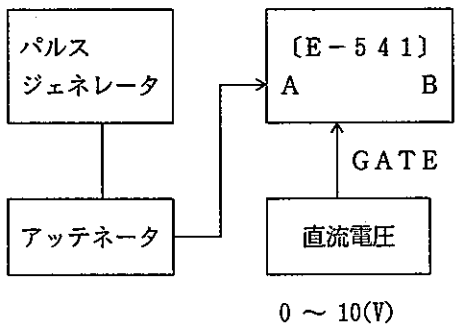
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．入力感度測定	パルスジェネレータ出力電圧±10(V) にし、アッテネータを通しＣＨ２に接続する。次に、アッテネタからの出力電圧を可変し、計数し始める時のアッテネタからの出力電圧を測定する。	ＰＯＳ： 0.5(V)～1.0(V)以内 ＮＥＧ： -0.5(V)～ -1.0(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

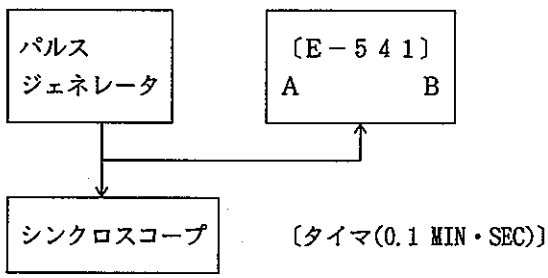
機器名	ディアルカウンタ／タイマ	型　名	E－541	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力感度測定	マーキュリーパルサーを10(V) にし、アッテネータを通してチャンネルA又Bに接続する。次に、アッテネタからの出力電圧を可変し、計数し始める時のアッテネタからの出力電圧を測定する。 調整用ＶＲ チャンネルA　：　Ｒ6 チャンネルB　：　Ｒ16	チャンネルA・Bともに 2.0±0.1(V)以内	
3．ゲート動作確認	下記の外部信号のでにより、ゲート動作確認をする。  ・パルスジェネレータ設定 パルス波高　：　3(V) 以上 ・E－541設定 RECYCLE	チャンネルA・Bともに 正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	1）直流電圧を可変することにより2.5(V)付近でゲートが開き、計数することを確認する。 又、10(V) 位まで電圧を上げてもゲートが開かれたままになっていることを確認する。 2）10(V) 位から電圧を下げ0.5(V)付近でゲートが閉じ、計数が停止することを確認する。		
4．プリセット動作確認	下記接続にて、タイマ用のデバイスの分周機能動作及びカウントプリセット動作を確認する。		
			
	パルスジェネレータ設定 パルス波高　：　5(V) パルス幅　　：　約1(μsec) 周波数　　：　10(Kcps)		
4.1 タイマ動作 （チャンネルB）	Ｅ－５４１のプリセットをＳＥＣ及びＯＮＥ　ＣＹＣＬＥにし、 Ｎ　＝　1 Ｍ　＝　2	10.0(sec)	
4.2 プリセット　ＣＯＵＮＴ動作 （チャンネルB）	Ｅ－５４１のプリセットをＣＯＵＮＴ及びＯＮＥ　ＣＹＣＬＥにし、ＣＨＢにパルスジェネレータからの信号を入力する。 Ｎ　＝　1 Ｍ　＝　5	100000(COUNT)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

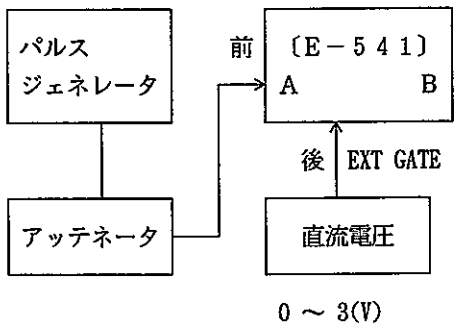
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3 プリセットＳＥＣ動作	プリセットをＳＥＣ及びＲＥＣＹＣＬＥにし、チャンネルＡにパルスジェネレータから信号を入力して動作を確認する。 Ｎ　＝　1 Ｍ　＝　2	入力周波数10(Kcps)設定 タイマ10(sec) 設定 100000(COUNT)±0.5(%)以内	
4.4 プリセットＭＩＮ動作	プリセットをＭＩＮ及びＲＥＣＹＣＬＥにし、チャンネルＡにパルスジェネレータから信号を入力して動作を確認する。 Ｎ　＝　1 Ｍ　＝　1	入力周波数10(Kcps)設定 タイマ 1(MIN) 設定 600000(COUNT)±0.5(%)以内	
5．計数分解能確認	ダブルパルサーの出力をチャンネルＡ又、チャンネルＢに接続する。Ｓｅｐａｒｅｔｉｏｎを1(μsec)とし、Ｓｅｐａｒｅｔｉｏｎを調整して、第一と第二パルスの間隔を0.1(μsec)まで近づけて、数字表示が偶数順あるいは奇数順に飛び越して計数することを確認する。 ダブルパルサー設定 パルス波高　：　5(V) 周波数　　：　1(Kcps)	0.1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

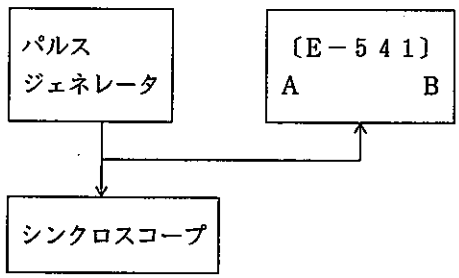
機器名	ディアルカウンタ／タイマ	型　名	D－１１０A	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プリセット動作	下記にセットし、プリセットを10にし、正常に計数し停止すること。 ・ディスプレイ　：ホールド ・計数時間　：ＳＥＣ ・プリセットの切換スイッチ：B ・プリセット　：10 ・ゲート切換　：COUNT	10(sec) ±1(ｶｳﾝﾄ)	
3．ゲート動作確認	下記の外部信号のでにより、ゲート動作確認をする。  ・パルスジェネレータ設定 パルス波高　：　1(V) 以上 周波数　　：　1(Kcps)	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	D－１１０Aの各モード ＳＴＯＰ／ＥＸＴ プリセットダイヤル　：　ＯＦＦ 計数時間　　：　ＳＥＣ 1）直流電圧を可変することにより2(V)付近でゲートが開き、計数することを確認する。 又、10(V) 位まで電圧を上げてもゲートが開かれたままになっていることを確認する。 2）10(V) 位から電圧を下げ0.4(V)付近でゲートが閉じ、計数が停止することを確認する。		
4．クロックパルス確認	下記接続にて、タイマ用のデバイスの分周機能動作を確認する。  ・Aカウンタ　：　信号入力 ・Bカウンタ　：　タイマ(0.1 MIN・SEC) ・パルスジェネレータ設定 パルス波高　：　5(V) パルス幅　　：　約10(μsec) 周波数　　：　10(Kcps)		
	a）プリセット、セレクタスイッチ：A プリセット値　：　100(K) Bカウンタ　　：　0.1(sec)	A：100000 B：000100	
	b）プリセット、セレクタスイッチ：B プリセット値　：　100 Bカウンタ　　：　0.1(sec)	A：100000±0.5(%) B：000100	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	c）プリセット、セレクタスイッチ：B Bカウンタ　：　0.1(MIN) [1/6HZ]	A：600000±0.5(%) B：000010	プリセット値 10
5．入力感度測定	パルスジェネレータを10(V) にし、アッテネータを通して、チャンネルA又はBに接続する。次に、アッテネータを可変して、計数し始める時のアッテネータ出力電圧を測定する。 入力インピーダンス 2(KΩ)	2(V)以上	
6．計数分解能確認	ダブルパルサーの出力をチャンネルA又、チャンネルBに接続する。Ｓｅｐａｒｅｔｉｏｎを1(μsec)とし、Ｓｅｐａｒｅｔｉｏｎを調整して、第一と第二パルスの間隔を0.1(μsec)まで近づけて、数字表示が偶数順あるいは奇数順に飛び越して計数することを確認する。 ダブルパルサー設定 パルス波高　：　5(V) 周波数　　：　1(Kcps)	0.1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	波高分析モジュール	型　名	AM－11M01R	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力動作範囲 2.1 ＬＬＤ	パルスジェネレータを裏パネルの入力コネクタに接続し、ＰＨＡ　ＭＯＤＥ切換スイッチをＩＮＴにする。ＬＬダイヤルを下記の様に設定し、マキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＳＣＡ　ＯＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 パルスジェネレータ設定 周波数　：　10（kcps ） RISE TIME　：　0.1(μsec) FULL TIME　：　1.0(μsec) 極性　：　負 ＬＬダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00		
2.2 ＵＬＤ	2.1 項と同様に接続し、ＰＨＡ　ＭＯＤＥ切換　スイッチをＤＵＡＬにする。ＵＬダイヤルを下記の様に設定し、パルスジェネレータからの入力電圧を変化させ、ＳＣＡ　ＯＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ULダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00		
2.2 ΔE	2.1 項と同様に接続し、PHA MODE切換 スイッチをDUALにし、LLダイヤル1.00目盛に設定する。次に、ΔEダイヤルを下記の様に設定し、パルスジェネレータからの入力電圧を変化させ、SCA OUTに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ULダイヤル　電圧(V) 1.0(目盛)　1.00 ～ 1.50(V) 2.0(目盛)　1.00 ～ 2.00(V) 4.0(目盛)　1.00 ～ 3.00(V) 8.0(目盛)　1.00 ～ 5.00(V)		
3．分解能	ダブルパルサーを下記の様に設定し、SCA OUTからの出力信号をシンクロスコープにて測定し、2つのパルス出力された時のパルス間隔を求める。 ダブルパルサー設定 周波数　10(Kcps) パルス幅　1000(nsec) 立上り立下り時間　5(nsec) 極性　正	300(nsec) 以内	
4．出力波形の確認	SCA OUTからの出力信号の波高値及びパルス幅をシンクロスコープにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

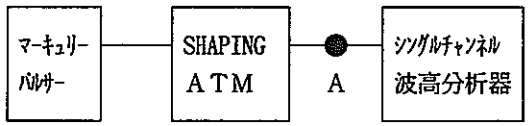
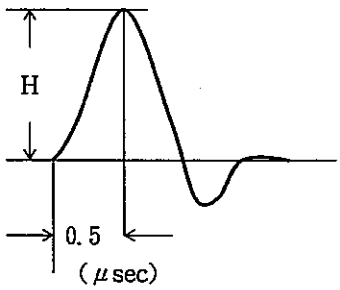
機器名	シングルチャンネル波高分析器	型　名	ＡＡ－１１５３	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．入力動作範囲の確認 ２.１ＭＯＤＥ　ＳＷ ＩＮＴ	マーキュリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴに接続する。ＬＬＤダイヤルを下記の様に設定し、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ＬＬＤダイヤル　　電圧(V) 0.5(目盛)　　0.50 3.0(目盛)　　3.00 5.0(目盛)　　5.00 7.0(目盛)　　7.00		
２.２ＭＯＤＥ　ＳＷ ＤＩＦＦ	２.１項と同様に接続し、ＬＬＤダイヤルを1.00目盛に設定し、ＵＬＤダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ＵＤＬダイヤル　　電圧(V) 1.0(目盛)　　1.00 ～ 2.00(V) 2.0(目盛)　　1.00 ～ 3.00(V) 4.0(目盛)　　1.00 ～ 5.00(V) 8.0(目盛)　　1.00 ～ 9.00(V)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	尚、信号波形は下記の様に、  A点波形　　バイポーラ  		
3．分解能	ダブルパルサーを下記の様に設定し、ＳＣＡ　ＯＵＴからの出力信号をシンクロスコープにて測定し、2つのパルス出力された時のパルス間隔を求める。 ＭＯＳＥ　ＳＷ　ＩＮＴ及びＤＩＦＦにて行う。 ダブルパルサー設定 周波数　10(Kcps) パルス幅　2(μsec) 立上り立下り時間　0.5(μsec) 極性　正	1(μsec)以内	
4．ＤＥＬＡＹ確認	シンクロスコープにてＤＥＬＡＹ　ＶＲを可変し確認する。	1(μsec)以上	
5．ＷＡＬＫ調整	2項の接続にて、入力パルスが零クロスした時にＰＨＡ出力パルスが出る様にＷＡＬＫ　ＶＲにて調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	シングルチャンネル波高分析器	型　名	D－104	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力動作範囲の確認 2.1 MODE　SW OFF	マーキュリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴに接続する。ＬＬＤダイヤルを下記の様に設定し、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、カウンタ及びシンクロスコープにて測定する。 ＬＬＤダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00	±0.1(V)以内	
2.2 MODE　SW Emax	2.1 項と同様に接続し、ＵＬＤダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、カウンタ及びシンクロスコープにて測定する。 ＵＬＤダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00	±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.3 MODE　SW ΔE	2.1 項と同様に接続し、ＬＬＤダイヤルを1.00目盛に設定し、ＵＬＤダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、カウンタ及びシンクロスコープにて測定する。 ＵＤＬダイヤル　　電圧(V) 1.0(目盛)　　1.00 ～ 1.10 2.0(目盛)　　1.00 ～ 1.20 4.0(目盛)　　1.00 ～ 1.40 8.0(目盛)　　1.00 ～ 1.80	各±0.05(V)以内	
3．分解能	ダブルパルサーを下記の様に設定し、ＳＣＡ　ＯＵＴからの出力信号をカウンタにて測定し、2カウントづつ計数することを確認する。 ＭＯＳＥ　ＳＷ　ＯＦＦ及びＥｍａｘ.ΔＥについて行う。 ダブルパルサー設定 周波数　　10(Kcps) パルス幅　　1000(nsec) 立上り立下り時間　　5(nsec) 極性　　正 パルス間隔　　300(nsec)		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

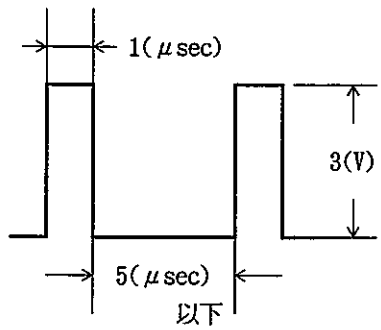
機器名	シングルチャンネル波高分析器	型　名	E－521・D－521	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ベースライン	マーキュリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴに接続する。ベースラインダイヤルを下記に様に設定し、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、カウンタ及びシンクロスコープにて測定する。 ＬＬＤダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00 入力波形 正のウニポーラパルス又は、正が先行するバイポーラパルス Ｅ－５２１設定 ・ウインド　10.00 目盛 ・ＦＵＮＣＴＩＯＮ　ＳＣＡ ・ＴＩＭＩＮＧ　ＯＦＦ	フルスケールの±1(%)以内	＊Ｅ－５２１入力インピーダンスはＤＣ結合にて500（Ω）

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 ウインド	2.1 項と同様に接続し、ベースラインダイヤルを1.00目盛に設定し、ウインドダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、カウンタ及びシンクロスコープにて測定する。 ＵＤＬダイヤル　　電圧(V) 1.0(目盛)　　1.00 ～ 2.00(V) 2.0(目盛)　　1.00 ～ 3.00(V) 4.0(目盛)　　1.00 ～ 5.00(V) 8.0(目盛)　　1.00 ～ 9.00(V)	フルスケールの±1(%)以内	
3．タイムウォーク調整	ＴＩＭＩＮＧスイッチをＬＥに設定し、入力波高10(mV)を入力し基板のＴＰ４にシンクロスコープを接続し、パルスが観測されるかされないかの境目のＷＡＬＫポテンショメータを合わせる。	10±1(mV) 以内	
4．分解能	ダブルパルサーにて下記の波形に設定した波形を入力し、出力にシンクロスコープを接続し、その出力波形を観測しながらダブルパルサーのＤＥＬＡＹを可変して出力波形同志が重なる前の入力波形の間隔を読みとる。  ダブルパルサー設定 周波数　　10(Kcps)	1(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

機器名	波高分析器	型　名	ＮＦＭ０１１２２－Ａ	メーカ名	富　士
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．ベースラインリニアリティ	マーキュリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴに接続する。ＢＡＳＥ　ＬＩＮＥダイヤルを下記の様に設定し、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＯＵＴ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ＬＬＤダイヤル　電圧(V) 800(目盛)　4.00 600(目盛)　3.00 400(目盛)　2.00 200(目盛)　1.00 100(目盛)　0.50 マーキュリーパルサー設定 ・周波数　50(cps) ・デケイタイム　3(μsec)以上 ・極性　正 Ｅ－５２１設定 ＷＩＮＤＯＷ　ＡＭＰ　ＧＡＩＮ×１ で最大に設定ＴＩＯＮ　ＳＣＡ 規格外の場合は、パネル正面のＡＴＴ可変抵抗器を調整する。	フルスケールの ±0.5(%)以内	＊ダイヤル1000が5(V)に相当

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．ウインドー幅精度 3.1 WINDOW AMP GAIN ×1	2項の接続にて、WINDOW AMP GAIN×1、BASE LINEダイヤルを 100目盛に設定し、ウインドー ダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、OUT PUTに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ｳｲﾝﾄﾞｰﾀﾞｲﾔﾙ　電圧(V) 1.0(目盛)　0.50 ～ 1.00(V) 2.0(目盛)　0.50 ～ 1.50(V) 4.0(目盛)　0.50 ～ 2.50(V)	±3(%)以内	
3.2 WINDOW AMP GAIN ×5	2項の接続にて、WINDOW AMP GAIN×5、BASE LINEダイヤルを 100目盛に設定し、ウインドー ダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、OUT PUTに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ｳｲﾝﾄﾞｰﾀﾞｲﾔﾙ　電圧(V) 1.0(目盛)　0.50 ～ 0.60(V) 2.0(目盛)　0.50 ～ 0.70(V) 4.0(目盛)　0.50 ～ 0.90(V)	±1(%)以内	
4．ダブルパルス分解能	ダブルパルサーを下記の様に設定し、OUT PUTからの出力信号をシンクロスコープにて測定し、2つのパルス出力された時のパルス間隔を求める。 ダブルパルサー設定 ・周波数　10(kcps) ・パルス幅　1(μsec) ・立上り立下り　5(nsec) ・極性　正	3(μsec)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5、出力パルス	出力パルスのパルス波高及びパルス幅をシンクロスコープにて測定する。	パルス波高　：5(V) 以上 パルス幅　： 0.5 ～ 2(μsec)	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	シングルチャンネル波高分析器	型　名	７０６－１Ｃ	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ＬＬＤダイヤル	マーキュリーパルサーをＩＮ　ＰＵＴに接続する。ＬＬＤダイヤルを下記の様に設定し、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＳＣＡ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ＬＬＤダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00 ７０６－１Ｃ設定 ・ＵＬＤ／ΔＥ　：　ΔＥ ・ＩＮＴ／ＤＩＦＦ　：　ＩＮＴ ・ＩＮＴ／ＥＸＴ　：　ＩＮＴ マーキュリーパルサー設定 正ユニポーラ又は正先行バイポーラパルス 出力波形 パルス波高　：　5 ±1(V) パルス幅　：　0.5±0.1(μsec)	±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

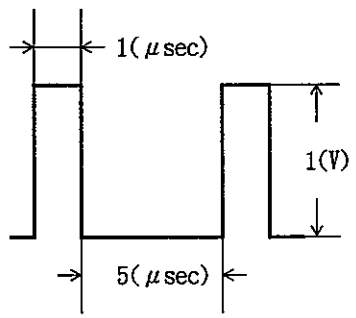
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 ＵＬＤダイヤル	2.1 項の接続にて、ＵＬＤダイヤルを下記の様に設定し、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＳＣＡ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ＵＬＤダイヤル　電圧(V) 0.5(目盛)　0.50 3.0(目盛)　3.00 5.0(目盛)　5.00 7.0(目盛)　7.00 ７０６－１Ｃ設定 ・ＵＬＤ／ΔＥ　：　ＵＬＤ ・ＩＮＴ／ＤＩＦＦ　：　ＤＩＦＦ ・ＩＮＴ／ＥＸＴ　：　ＩＮＴ マーキュリーパルサー設定 正ユニポーラ又は正先行バイポーラパルス 出力波形 パルス波高　：　5 ±1(V) パルス幅　：　0.5±0.1(μsec)	±0.1(V)以内	
2.3 ΔＥダイヤル	2.1 項の接続にて、ＬＬＤダイヤルを1.00目盛に設定し、ΔＥダイヤルを下記の様に設定する。次に、マーキュリーパルサーからの入力電圧を変化させ、ＳＣＡ　ＰＵＴに信号が出力される直前の入力電圧を測定する。 出力信号は、シンクロスコープにて測定する。 ΔＥダイヤル　電圧(V) 1.0(目盛)　0.50 2.0(目盛)　3.00 4.0(目盛)　5.00 8.0(目盛)　7.00	フルスケールの±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	７０６－１C設定 ・ＵＬＤ／ΔＥ　　：　ΔＥ ・ＩＮＴ／ＤＩＦＦ　：　ＤＩＦＦ ・ＩＮＴ／ＥＸＴ　　：　ＩＮＴ マーキュリーパルサー設定 正ユニポーラ又は正先行バイポーラパルス 出力波形 パルス波高　：　5 ±1(V) パルス幅　　：　0.5±0.1(μsec) ＊上記2.2 項、2.3 項の点検において、設定以外の信号入力の場合ＵＬＤ　ＯＵＴに出力する。 基準外の場合 ・ＬＬＤ　：　ＶＲ４ ・ＵＬＤ　：　ＶＲ３ ・ΔＥ　　：　ＶＲ２		
３．分解能	ダブルパルサーにて下記の様に設定した波形をＩＮ　ＰＵＴに接続し、ＳＣＡ　ＯＵＴにシンクロスコープを接続し、その波形を観測しながらダブルパルサーのＤＥＬＡＹを可変して出力波形同志が重なる前の入力波形の間隔を読みとる。  周波数　　10(Kcps)		

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

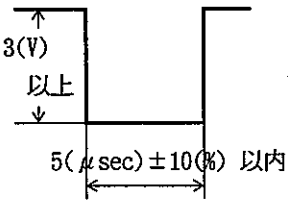
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	MODE（INT MODE） ・ULD／ΔE　：ΔE ・INT／DIFF　：INT ・INT／EXT　：INT	1(μsec)以内	
	MODE（ULD MODE） ・ULD／ΔE　：ULD ・INT／DIFF　：DIFF ・INT／EXT　：INT	1(μsec)以内	
	MODE（ΔE MODE） ・ULD／ΔE　：ΔE ・INT／DIFF　：DIFF ・INT／EXT　：INT	1(μsec)以内	
4．OUT PUT DEFAY確認	トリマ抵抗を左方向一杯及び右方向一杯に回した時の遅延範囲を確認する。	約0.2 ～1.0(μsec)	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	入力選択モジュール	型　名	AM－0101BM	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．入力切換動作確認	①　FRONTパネル面のIN　PUT切換SWをGMに設定して、-100(mV)信号をJ1の㊵番ピンに入力し、シンクロスコープにてJ1の⑦番ピンで出力を確認する。 ②　IN　PUT切換SWをSCINTに設定して、-100(mV)信号をJ1の㊴番ピンに入力し、シンクロスコープにてJ1の⑦番ピンで出力を確認する。 ③　IN　PUT切換SWをTESTに設定して、EXT TEST IN ⑬ピンにパルス波高5V、パルス幅5(μsec)の信号を入力しシンクロスコープにてJ1の⑦番ピンで出力を確認する。	正常に動作すること	
3．TEST出力信号の確認	IN　PUT切換SWをTESTに設定し、シンクロスコープにてJ1の⑦番ピンで出力を確認する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	入力選択モジュール	型　名	AM－0102	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

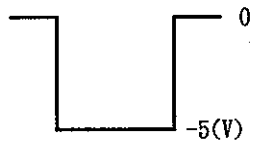
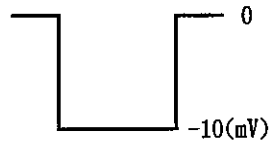
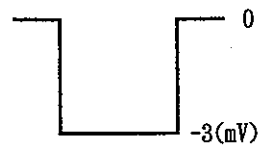
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ディスクリレベル測定	GM　IN又はSCINT　INにパルスジネレータを接続し、パルスジェネレータから負電圧を入力し、下記ピンに於いて出力波形をシンクロスコープにて測定する。そして、波形が現れる直前の入力電圧を求める。 ピン　CH－1　5番ピン CH－2　38番ピン	-100±10(mV)以内	入力 CH－1 SCINT：7番ピン GM　：6番ピン CH－2 SCINT：40番ピン GM　：39番ピン
3．出力波形確認	2項の接続に於いて、それぞれパルスジェネレータから負電圧を入力し、下記ピンに於いて出力波形をシンクロスコープにて測定する。 ピン　CH－1　5番ピン CH－2　38番ピン	波高値　3.5(V)以上 パルス幅　0.5±0.05 （μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	入力選択モジュール	型　名	AM－0101	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．GM入力点検	AMP-40にパルスジェネレータを接続しAMP-7(S-IG OUT) に出力波形が出始めるときの入力電圧を確認する。 ・パルスジェネレータ　負1(V) ・周波数　1(KHz) ・入力インピーダンンス 100(KΩ)	・S・IG OUT波形  ・入力感度 負 100(mV)以上	
3．SCINT IN 点検(AMP-39)	1）入力負1(mV) 以上の場合、内部スイッチを1(mV) に切り換え、パルスジェネレータ出力（負1(mV) 以上）にし、SCINT OUT (AMP-5) に負1(mV) 以上のパルスが出始めるときの出力電圧を読む。 2）入力負10(mV)以上の場合、内部スイッチを10(mV)に切り換え、パルスジェネレータ出力（負10(mV)以上）にし、SCINT OUT にお出力波形ができることお確認する。	・入力感度　負1(mV)以上 SCINT OUT 負5 (mV) ・入力感度　負10(mV)以上 ・SCINT OUT 波形  	
4．PHA IN 点検	外部または内部のPHA 切換し、パルスジェネッレータ出力（負10(V) 、アッテネータ可変）をPHA IN(AMP-38)に入れ、SIG OUT に波形が出始めるときの電圧を読む。	・入力感度　負3(V) 以上 ・SCINT OUT 波形  	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．テスト信号入力点検	パルスジェネレータ出力（負10(V) アッテータ可変）をEXIT TEST IN（AMP-13）に入れSIG OUT に波形が出始めるときのアッテネータ出力を読む。	・入力感度 負3(V) 以上 ・SCINT OUT 立上り0.5(μs)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	チェック端子モジュール	型　名	AM－01M05	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．インターフェース精度	各レンジに於いて、下記電圧をそれぞれ電圧発生器より前面パネルＩＮ　ＰＵＴ接栓に入力し、前面パネルＯＵＴ　ＰＵＴ接栓に接続したデジタルマルチメータにて、出力電圧を測定する。	各入力に対し±2(%)以内	

レンジ	入力電圧	出力電圧	調整
ＬＯ	0.06(V)	49 ～ 51(mV)	ＲＶ３
	0.12(V)	98 ～ 102(mV)	
	1.20(V)	0.98～1.02 (V)	
	12.0 (V)	9.8 ～10.2 (V)	
ＭＥＤ	0.12(V)	98 ～ 102(mV)	ＲＶ２
	1.20(V)	0.98～1.02 (V)	
	12.0 (V)	9.8 ～10.2 (V)	
ＨＩ	0.12(V)	98 ～ 102(mV)	ＲＶ１
	1.20(V)	0.98～1.02 (V)	
	12.0 (V)	9.8 ～10.2 (V)	

注）入力電圧は入力電圧補正式参照

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

・入力電圧補正式

実際に入力する電圧(V)

$$= \text{代表値} \times \frac{\text{感度 (V/}\mu\text{Gy/h)}}{\text{A}} \text{ (V)}$$

レンジ	A　A値
LO	1.20　(V/μGy・h^{-1})
MED	1.20×10^{-2} (V/μGy・h^{-1})
HI	1.20×10^{-4} (V/μGy・h^{-1})

レンジを切り換える場合は、ミックスコネクタ(J1)の下記端子に+24(V)を印加する。

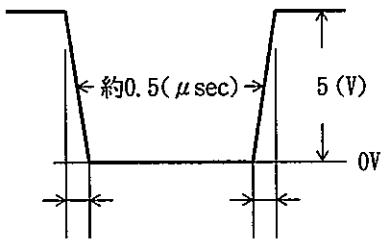
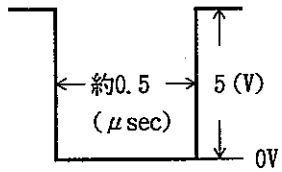
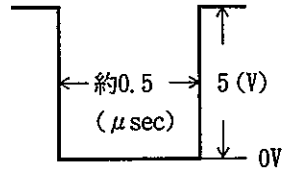
レンジ	J1ｺﾈｸﾀ	J101ｺﾈｸﾀ
LO	⑭ピン	Ⓔピン
MED	⑬ピン	④ピン
HI	⑫ピン	Ⓓピン

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	チェック端子モジュール	型　名	AM-91MR74-2435	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

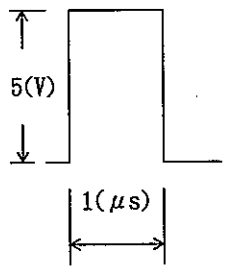
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．HV出力の確認	チェック端子モジュール裏面のHV接栓に600(V)を入力した時、HVチェック端子からの出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。	600(V)	
3．DISCR　OUT出力の確認	AMPピンの40番から、パルスジェネレータにて下記の様な信号を入力した時、DISCR　OUTチェック端子からの信号をシンクロスコープにて測定する。 入力信号  0.2(μsec)以内　　0.2(μsec)以内	パルス波高：約-5(V) パルス幅　：約0.5(μsec)  	
4．D．R　OUT出力の確認	AMPピンの38番から、パルスジェネレータにて3項の様な信号を入力した時、D．R　OUTチェック端子からの信号をシンクロスコープにて測定する。	パルス波高：約-5(V) パルス幅　：約0.5(μsec)  	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成8年3月

機器名	テレメータ出力モジュール	型　名	AM－03M29	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前にAMPコネクタの①ピンに24(V) を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．テレメータ出力回路 AMC-6112CW（J104） 2.1 内部電源確認	PC板AM-6112CW のⓋにデジタルマルチメータを接続し、5(V)が出ていることを確認する。	Ⓥ 5.00±0.25(V)以内	
2.2 出力波形確認	パルスジェネレータから各チャンネルのINPUTに下記の信号を入力する。そして、OUTPUTにシンクロスコープを接続し、75（Ω）終端にて出力波形を測定する。 パルスジェネレータ設定値 パルス波高値　-3(V) パルス幅　0.3(μs)	波高値　5±0.5(V)以内 パルス幅 1±0.1(μs)以内 Tr　0.2(μs) 以下 Td　0.2(μs) 以下 	

	INPUT (AMPコネクタ)	OUTPUT (AMPコネクタ)
CH－1	38ピン	5ピン
CH－2	39ピン	6ピン
CH－3	40ピン	7ピン

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．高圧出力監視回路 AMC-7101D 3.1 ＣＨ－１（Ｊ102）	・ＨＶ500(V)時 ＨＶ端子ＣＨ－１に500(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(0.40 ～0.60) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 24－26　　ブレーク 24－25　　メーク 及び ランプ消灯 ・ＨＶ 1000(V)時 ＨＶ端子ＣＨ－１に 1000(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(0.90 ～1.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 24－26　　ブレーク 24－25　　メーク 及び ランプ消灯 ・ＨＶ 2000(V)時 ＨＶ端子ＣＨ－１に 2000(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(1.90 ～2.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 24－26　　ブレーク 24－25　　メーク 及び ランプ消灯	正常に動作すること 500(V)時 UPPER　600(V)±50(V) LOWER　400(V)±50(V) 1000(V)時 UPPER　1100(V)±50(V) LOWER　900(V)±50(V) 2000(V)時 UPPER　2100(V)±50(V) LOWER　1900(V)±50(V)	（Ｊ１）（Ｊ102） 24 ― 19 25 ― 13 26 ― 12

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2 CH－2 （J103）	・HV500(V)時 HV端子CH－2に500(V)を加えた場合、HV　REF　ADJのマルチダイヤル(0.40 ～0.60) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 35－37　　ブレーク 35－36　　メーク 及び ランプ消灯 ・HV 1000(V)時 HV端子CH－2に 1000(V)を加えた場合、HV　REF　ADJのマルチダイヤル(0.90 ～1.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 35－37　　ブレーク 35－36　　メーク 及び ランプ消灯 ・HV 2000(V)時 HV端子CH－2に 2000(V)を加えた場合、HV　REF　ADJのマルチダイヤル(1.90 ～2.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 35－37　　ブレーク 35－36　　メーク 及び ランプ消灯	正常に動作すること 500(V)時 UPPER　600(V)±50(V) LOWER　400(V)±50(V) 1000(V)時 UPPER　1100(V)±50(V) LOWER　900(V)±50(V) 2000(V)時 UPPER　2100(V)±50(V) LOWER　1900(V)±50(V)	（J 1）（J103） 35 ― 19 36 ― 13 37 ― 12

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

改訂　平成８年３月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	3.1項及び 3.2項にて規格外の場合は、下記要領にて調整する。ＵＮ２とＵＮ３(AMC-7101D基板)とは、同様に行う。 ①前面パネルのＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルをＭＡＸ(3.0×1000V)にしてＵＮ２のＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して出力電圧を10.33(V)に調整する。 ②ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルをＭＩＮ(0V)にしてＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ５を可変して出力電圧を0.33(V)に調整する。 ③ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルをＭＡＸ(3.0×1000V)にしてＵＮ３のＣＰ－６にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して出力電圧を9.67(V)に調整する。 ④裏面パネルのＪ２へ高圧電源より3000(V)を印加してＵＮ３のＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ１を可変して出力電圧を10.0(V)に調整する。 ⑤ＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続した状態で高圧電源より1400(V)印加する。同時にＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルを1.5×1000(V)に設定した状態で前面パネルのＨＶ　ＮＯＲＭランプが消灯するようにＲＶ１を調整する。 ⑥ＵＮ３内のＲＶ２、ＲＶ３は上記微調整用である。		

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

改訂　平成8年3月

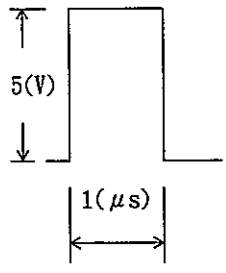
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．トラブル監視回路 AMC-7102C （J-101） 4.1 テスト動作確認	①ＴＥＳＴ ＴＥＳＴ　ONスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（AMP42ピンコネクタ　Ｊ１） 18－19　　メーク 18－20　　ブレーク ＴＥＳＴ表示ランプ　点灯 ②ＲＥＳＥＴ ＲＥＳＥＴスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（AMP42ピンコネクタ　Ｊ１） 18－19　　ブレーク 18－20　　メーク ＴＥＳＴ表示ランプ　　消灯	正常に動作すること	（Ｊ１）（Ｊ101） 18 ― V 19 ― U 20 ― W
4.2 ＬＶトラブル動作確認	ＬＶの±24(V)、±12(V)、6(V)、非安定24(V)及びＡＣ100(V)のいずれか又は複数が〝断〟した場合に下記の状態になることを確認する。 端子（AMP42ピンコネクタ　Ｊ１） 21－22　　メーク ＬＶ　ＮＯＲＭランプ　消灯	正常に動作すること	（Ｊ１）（Ｊ101） 21 ― 4 22 ― 5

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成8年3月

機器名	テレメータ出力モジュール	型　名	AM-03M29BM・BUM	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前にＡＭＰコネクタの①ピンに24(V) を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．テレメータ出力回路			
(1)内部電源確認	ＰＣ板AM-6112EW の⑱にデジタルマルチメータを接続し、5(V)が出ていることを確認する。 又、⑪についても-12(V)が出ていることを確認する。	⑱　5.00±0.25(V)以内 ⑪ -12.0±0.6(V)以内	AMC-6112(EW)(J104) (MP-1) (MP-2)
(2)出力波形確認	パルスジェネレータから各チャンネルのＩＮＰＵＴに下記の信号を入力する。そして、ＯＵＴＰＵＴにシンクロスコープを接続し、75(Ω) 終端にて出力波形を測定する。 パルスジェネレータ設定値 パルス波高値　-3(V) パルス幅　0.3(μs)	波高値　5±0.5(V)以内 パルス幅 1±0.1(μs)以内 Ｔｒ　0.2(μs) 以下 Ｔｄ　0.2(μs) 以下 	AMC-6112(GW)(J104) (MP-3) (MP-4) AMC-6112(F) (ST-2) (ST-3) (ST-4)

	ＩＮＰＵＴ (AMPｺﾈｸﾀ)	ＯＵＴＰＵＴ (AMPｺﾈｸﾀ)
ＣＨ－１	38ピン	5ピン
ＣＨ－２	39ピン	6ピン
ＣＨ－３	40ピン	7ピン

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．高圧出力監視回路			
3.1 ＣＨ－１(J102)	・ＨＶ500(V)時 ＨＶ端子にＣＨ－１に500(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(0.40 ～0.60) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 24－26　ブレーク 24－25　メーク 及び ランプ消灯 ・ＨＶ 1000(V)時 ＨＶ端子にＣＨ－１に 1000(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(0.90 ～1.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 24－26　ブレーク 24－25　メーク 及び ランプ消灯 ・ＨＶ 2000(V)時 ＨＶ端子にＣＨ－１に 2000(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(1.90 ～2.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 24－26　ブレーク 24－25　メーク 及び ランプ消灯	正常に動作すること 500(V)時 UPPER　600±50(V) LOWER　400±50(V) 1000(V)時 UPPER　1100±50(V) LOWER　900±50(V) 2000(V)時 UPPER　2100±50(V) LOWER　1900±50(V)	AMC-7101E(J102) (MP-1) (MP-2) (MP-3) (MP-4) (ST-2) (ST-3) (ST-4) (J1)　(J102) 24 — 19 25 — 13 26 — 12

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3.2 ＣＨ－２（Ｊ103）	・ＨＶ500(V)時 ＨＶ端子にＣＨ－２に500(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(0.40 ～0.60) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 35－37　ブレーク 35－36　メーク 及び ランプ消灯 ・ＨＶ 1000(V)時 ＨＶ端子にＣＨ－２に 1000(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(0.90 ～1.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 35－37　ブレーク 35－36　メーク 及び ランプ消灯 ・ＨＶ 2000(V)時 ＨＶ端子にＣＨ－２に 2000(V)を加えた場合、ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤル(1.90 ～2.10) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子 (AMP42P ｺﾈｸﾀ　J1) 35－37　ブレーク 35－36　メーク 及び ランプ消灯	正常に動作すること 500(V)時 UPPER　600±50(V) LOWER　400±50(V) 1000(V)時 UPPER　1100±50(V) LOWER　900±50(V) 2000(V)時 UPPER　2100±50(V) LOWER　1900±50(V)	（Ｊ１）（Ｊ103） 35 ― 19 36 ― 13 37 ― 12

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3.1項及び 3.2項にて規格外の場合は、下記要領にて調整する。ＵＮ２とＵＮ３(AMC-7101E基板)とは、同様に行う。 ①前面パネルのＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルをＭＡＸ(3.0×1000V)にしてＵＮ２のＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して出力電圧を10.33(V)に調整する。 ②ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルをＭＩＮ(0V)にしてＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ５を可変して出力電圧を0.33(V)に調整する。 ③ＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルをＭＡＸ(3.0×1000V)にしてＵＮ３のＣＰ－６にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して出力電圧を9.67(V)に調整する。 ④裏面パネルのＪ２へ高圧電源より3000(V)を印加してＵＮ３のＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ１を可変して出力電圧を10.0(V)に調整する。 ⑤ＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続した状態で高圧電源より1400(V)印加する。同時にＨＶ　ＲＥＦ　ＡＤＪのマルチダイヤルを1.5×1000(V)に設定した状態で前面パネルのＨＶ　ＮＯＲＭランプが消灯するようにＲＶ１を調整する。 ⑥ＵＮ３内のＲＶ２、ＲＶ３は上記微調整用である。		

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．トラブル監視回路 AMC-7108BR （J-101） 4.1 テスト動作確認	①ＴＥＳＴ ＴＥＳＴ　ＯＮスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（ＡＭＰ42ピンコネクタ　Ｊ１） 18－19　　メーク 18－20　　ブレーク ＴＥＳＴ表示ランプ　点灯 ②ＲＥＳＥＴ ＲＥＳＥＴスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（ＡＭＰ42ピンコネクタ　Ｊ１） 18－19　　ブレーク 18－20　　メーク ＴＥＳＴ表示ランプ　消灯	正常に動作すること	AMC-7108BR (MP-1) (MP-2) （Ｊ１）（Ｊ101） 18 ― Ｖ 19 ― Ｕ 20 ― Ｗ AMC-7118CM (MP-3) (MP-4) (ST-2) (ST-4) AMC-7108B (ST-3)
4.2 ＬＶトラブル動作確認	ＬＶの±24(V)、±12(V)、6(V)、非安定24(V)及びＡＣ100(V)のいずれか又は複数が　断”した場合に下記の状態になることを確認する。 端子（ＡＭＰ42ピンコネクタ　Ｊ１） 21－22　　メーク ＬＶ　ＮＯＲＭランプ　消灯	正常に動作すること	（Ｊ１）（Ｊ101） 21 ― 4 22 ― 5

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	テレメータ出力モジュール	型　名	AM-06MR74-2253	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．トラブル監視回路 AMC-7118BR			
2.1 ＬＶ－１トラブル (J103　UN3)	±24(V)、±12(V)、6(V)、ＡＣのいずれか、又は複数を断にした場合、下記状態を確認する。		
	端子（Ｊ１） ２１－ＧＮＤ間	２１－ＧＮＤ間が導通 ランプ消灯	(J1) － (J103) 21 － 5
2.2 ＬＶ－２トラブル (J104　UN4)	±24(V)、±12(V)、6(V)、ＡＣのいずれか、又は複数を断にした場合、下記状態を確認する。		
	端子（Ｊ１） ２２－ＧＮＤ間	２２－ＧＮＤ間が導通 ランプ消灯	(J1) － (J104) 22 － 5
2.3 ＬＶ－３トラブル (J105　UN5)	±24(V)、±12(V)、6(V)、ＡＣのいずれか、又は複数を断にした場合、下記状態を確認する。		
	端子（Ｊ１） ２３－ＧＮＤ間	２３－ＧＮＤ間が導通 ランプ消灯	(J1) － (J105) 23 － 5

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4 テスト確認 (J105　UN5)	・ＴＥＳＴ 本体をＴＥＳＴ状態にした場合、下記状態を確認する。		
	端子（Ｊ１） １２－ＧＮＤ間	１２－ＧＮＤ間が導通 ランプ点灯	(J1) － (J105) 12 －　U
	・ＲＥＳＥＴ 本体をＲＥＳＥＴ状態にした場合、下記状態を確認する。		
	端子（Ｊ１） １２－ＧＮＤ間	１２－ＧＮＤ間がオープン	
3．高圧出力監視回路 (AMC-7101E)			
3.1 ＨＶ－１ (J101 UN1)	ＨＶ端子　ＨＶ－１に1000(V) を加えた場合、HV REF ADJダイヤルを1000(V) に設定し、高圧電源を1000(V) から上昇及び下降させる。 端子（Ｊ１） ２４－ＧＮＤ間	ＨＶ　ＮＯＲＭランプが消える時の電圧 ＵＰＰＥＲ 1100(V) ±50(V) ＬＯＷＥＲ 900(V) ±50(V) ランプ消灯時 ２４－ＧＮＤ間が導通	J101 Ｍ　→　24(V) Ｌ　→ -24(V) 上記供給 (J1) － (J101) 24 －　13
3.2 ＨＶ－２ (J102 UN2)	ＨＶ端子　ＨＶ－１に1000(V) を加えた場合、HV REF ADJダイヤルを1000(V) に設定し、高圧電源を1000(V) から上昇及び下降させる。 端子（Ｊ１） ２５－ＧＮＤ間	ＨＶ　ＮＯＲＭランプが消える時の電圧 ＵＰＰＥＲ 1100(V) ±50(V) ＬＯＷＥＲ 900(V) ±50(V) ランプ消灯時 ２５－ＧＮＤ間が導通	J102 Ｍ　→　24(V) Ｌ　→ -24(V) 上記供給 (J1) － (J102) 25 －　13

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

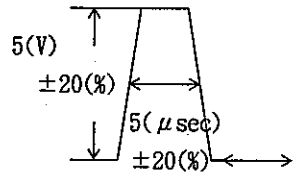
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3.1 項及び3.2 項にて基準外の場合、下記要領にて調整する。 ①前面パネルのHV REF ADJのマルチダイヤルをＭＡＸ(3.0×1000V)にして基板(UN1及びUN2)の内のCP-7にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して出力電圧を10.33(V)になるように調整する。 ②前面パネルのHV REF ADJのマルチダイヤルをＭＩＮ(0V)にしてUN2 のCP-7にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ５を可変して 0.33(V)になるように調整する。 ③再度上記を繰り返し調整し、所定の電圧になるようにする。 ④前面パネルのHV REF ADJのマルチダイヤルをＭＡＸ(3.0×1000V)にしてUN2 のCP-6にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して、9.67(V) になるように調整する。 ⑤裏面パネルのＪ３へ高圧電源より3000(V)を印加して UN2のCP-1にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ１を可変し10.0(V)になるように調整する。 ⑥ UN2のCP-1にデジタルマルチメータを接続した状態にてJ3への高圧電源より1400(V) 印加する。同時にHV REF ADJのマルチダイヤルを 1.5×1000(V) に設定した状態で前面パネルのＨＶ　ＮＯＲＭランプが消灯するようにUN2 のＲＶ１を可変して調整する。 ⑦ UN2のCP-1へのデジタルマルチメータを外してHV REF ADJマルチダイヤルを1.5×1000(V) に設定した状態でＨＶ　ＮＯＲＭランプが消灯するようにＪ３への入力高圧電源を可変する。再度UN2 のCP-1へのデジタルマルチメータを接続し、その電圧値を測定する。 ⑧Ｊ３への高圧電源を1400(V) 印加して、上記CP-1の電圧値になるようにUN2 内のＲＶ１を可変して調整する。 ⑨ UN2内のＲＶ２、ＲＶ３はそれぞれ上記の設定の微調整用とする。		UN1 、UN2 は同じ基板 ＵＮ１－ＨＶ１ ＵＮ２－ＨＶ２ Ｊ２－ＨＶ１ Ｊ３－ＨＶ２

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．出力波形確認	パルスジェネレータより、入力端子(AMP 42Pｺﾈｸﾀ 38,39,40ﾋﾟﾝ)に下記信号を入力した時、出力端子(AMP 42Pｺﾈｸﾀ 5,6,7ﾋﾟﾝ) に 75(Ω) を終端し、表パネルＣＨＥＣＫの波形をシンクロスコープで観測する。 パルスジェネレータ設定 入力極性　：　負 パルス波高　：　3(V)	 Ｔｒ：0.5(μsec)以下 Ｔｄ：0.5(μsec)以下	

出力場所	入力端子	出力端子	出力極性
県用出力 (No.1)	38ﾋﾟﾝ	5ﾋﾟﾝ	正
安管棟用出力 (No.2)	39ﾋﾟﾝ	6ﾋﾟﾝ	負
安管棟用出力 (No.3)	40ﾋﾟﾝ	7ﾋﾟﾝ	負

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成８年３月

機器名	テレメータ出力モジュール	型　名	AM-03M22R3,AM-03M22BR2	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前に、ＡＭＰコネクタの①ピンに+24(V)(U)、②ピンに+24(V)(RET)を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
２．トラブル監視回路 2.1 テスト動作確認	①ＴＥＳＴ ＰＵＳＨ　ＯＮスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（ＡＭＰコネクタ　Ｊ１） 18－19　メーク 18－20　ブレーク ＴＥＳＴ　ＯＮランプ　点灯	正常に動作すること	＊ AM-03M22R3 UN_1 ： AMC-7102CR （Ｊ101） （Ｊ１）（Ｊ101） 18　－　V 19　－　U 20　－　W
	②ＲＥＳＥＴ ＲＥＳＥＴスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（ＡＭＰコネクタ　Ｊ１） 18－19　ブレーク 18－20　メーク ＴＥＳＴ　ＯＮランプ　消灯	正常に動作すること	＊ AM-03M22BR2 UN_1 ： AMC-7118BR （Ｊ101） （Ｊ１）（Ｊ101） 18　－　V 19　－　U 20　－　W

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 ＬＶトラブル動作確認	ＬＶの±24(V)、非安定24(V)及びＡＣ100(V)のいずれか又は複数が　断”した場合に下記の状態になることをに確認する。 端子（ＡＭＰコネクタ　Ｊ１） 21－23　メーク ＬＶ　ＮＯＲＭランプ　消灯	正常に動作すること	（Ｊ１）（Ｊ101） 21　－　4 22　－　3 23　－　5
3．高圧出力監視回路	裏面パネルのＨＶ入力端子(J2)から高圧を入力し、-900(V) ～ -1100(V) 以外は、下記の状態になることを確認する。 端子（ＡＭＰコネクタ　Ｊ１） 24－25　ブレーク 24－26　メーク ＨＶ　ＮＯＲＭランプ　消灯	正常に動作すること UPPER　-1100(V)±50(V) LOWER　-900(V)±50(V)	＊ AM-03M22R3 UN_2 ： AMC-7101C （Ｊ102） （Ｊ１）（Ｊ102） 24　－　19 25　－　12 26　－　13
	規格外の場合は、下記要領にて調整する ①ＵＮ２のＣＰ－４にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して-10.52(V)になるように調整する。 ②ＵＮ２のＣＰ－５にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ５を可変して0.35(V)になるように調整する。 ③ＵＮ２のＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して-3.63(V)になるように調整する。 ④ＵＮ２のＣＰ－６にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して-2.97(V)になるように調整する。 ⑤裏面パネルのＪ２へ-1000(V)を印加し、ＵＮ２のＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して-3.3(V)になるように調整する。但し、入力インピーダンス10(MΩ) のデジタルマルチメータを使用した場合は-3.24(V)となる。 ⑥Ｊ２へ高圧電圧を印加し、可変する。そして、ＨＶ　ＮＯＲＭランプが消灯するときの電圧が規格内であることを確認する。		＊ AM-03M22BR2 UN_2 ： AMC-7101E （Ｊ102） （Ｊ１）（Ｊ102） 24　－　19 25　－　12 26　－　13

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．V／F変換回路確認	ＲＶ２及びＲＶ３は上記設定の微調整用ボリュームである。 各レンジに於いて、下記電圧をそれぞれ電圧発生器より入力端子（Ｊ１－39）に入力し、ＯＵＴＰＵＴ(CP-6)に接続した周波数カウンタで出力周波数を測定する。 入力端子：J_1－39ﾋﾟﾝ レンジ／電圧(V)／周波数(Hz)／ボリューム Ｌｏ(ログ1)／0.105／10^1 ±0.5／ＲＶ３ Ｌｏ(ログ1)／10.5／10^3±1／ＲＶ② Ｍｅｄ(ログ1)／1.05／10^4 ±10^2／ＲＶ① Ｈｉ(ログ2)／10.5／10^4 ±10／ＲＶ③ 注）電圧は入力電圧補正式参照 ボリュームの○数字は、裏面パネル取付けボリュームを示す。 入力電圧補正式 実際に入力する電圧(V) ＝代表値×（感度(V/μGy/H)／A）(V) レンジ／A値 Ｌｏ／1.21(V/μGy/H) Ｍｅｄ／1.21×10^{-2}(V/μGy/H) Ｈｉ／1.21×10^{-4}(V/μGy/H) レンジ切換(+24V) レンジ／J_1ｺﾈｸﾀ／J103ｺﾈｸﾀ Ｌｏ／14／17 Ｍｅｄ／13／14 Ｈｉ／12／16	フルスケールの ±0.1(%)以内	＊別添代表値（感度一覧表）参照 ＊ AM-03M22R3 UN_3 ： AMC-6115R3 （J103） ＊ AM-03M22BR2 UN_3 ： AMC-6112EW （J104）

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	規格外の場合は、下記要領にて調整する。 ・Ｌｏレンジ ①裏面パネルＪ１の14ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で10.5(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－６に周波数カウンタを接続して、 $10^3 \pm 1$ (Hz)となる様裏面ネルのＲＶ２を調整する。 ②電圧発生器からの入力電圧を105(mV) とし、ＵＮ３のＣＰ－６に接続した周波数カウンタの値が10±0.5(Hz) となる様ＵＮ３のＲＶ３を調整する。 ・Ｍｅｄレンジ 裏面パネルＪ１の13ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で10.5(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－６に周波数カウンタを接続して、100±0.1 (Hz)となる様裏面ネルのＲＶ１を調整する。 ・Ｈｉレンジ 裏面パネルＪ１の12ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で10.5(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－６に周波数カウンタを接続して、 $10^4 \pm 10$ (Hz)となる様裏面ネルのＲＶ３を調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	テレメータ出力モジュール	型　名	AM-03M22BVR2	メーカ名	Aloka
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前に、AMPコネクタの①ピンに+24(V)(U)、②ピンに+24(V)(RET)を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．トラブル監視回路 2.1 テスト動作確認	①TEST PUSH　ONスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（AMPコネクタ　J1） 18－19　メーク 18－20　ブレーク TEST　ONランプ　点灯	正常に動作すること	UN1：AMC-7118BM（J101） （J1）（J101） 18　－　V 19　－　U 20　－　W
	②RESET RESETスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（AMPコネクタ　J1） 18－19　ブレーク 18－20　メーク TEST　ONランプ　消灯	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 ＬＶトラブル動作確認	ＬＶの±24(V)、非安定24(V)及びＡＣ100(V)のいずれか又は複数が　断”した場合に下記の状態になることをに確認する。 端子（ＡＭＰコネクタ　Ｊ１） 21－23　メーク ＬＶ　ＮＯＲＭランプ　消灯		（Ｊ１）（Ｊ101） 21　－　4 22　－　3 23　－　5
3．高圧出力監視回路	裏面パネルのＨＶ入力端子（Ｊ２）に高圧電圧を-1000(V)を印加し、次に高圧電圧を上昇及び下降させた時、下記の状態になることを確認する。 端子 （ＡＭＰ　４２ピンコネクタ　Ｊ１） 24-26 ピン　メーク 24-25 ピン　ブレーク 及び HV NORM ランプ　消灯 規格外の場合は、下記要領にて調整する ①ＵＮ２のＣＰ－４にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して-10.52(V)になるように調整する。 ②ＵＮ２のＣＰ－５にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ５を可変して0.35(V)になるように調整する。 ③ＵＮ２のＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して-3.63(V)になるように調整する。 ④ＵＮ２のＣＰ－６にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して-2.97(V)になるように調整する。 ⑤裏面パネルのＪ２へ-1000(V)を印加し、ＵＮ２のＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して-3.3(V)になるように調整する。但し、入力インピーダンス10(MΩ）のデジタルマルチメータを使用した場合は-3.24(V)となる。	正常に動作すること。 -1000(V) 時 UPPER:-1100±50(V) LOWER: -900±50(V)	UN_2 ： AMC-7101E （Ｊ102） （Ｊ１）（Ｊ102） 24　－　19 25　－　12 26　－　13

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>点検整備要領</th><th>点検整備基準</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td></td><td>⑥Ｊ２へ印加する高圧を可変した時、ＨＶ
ＮＯＲＭランプが消灯する所が低い方で-900±50(V)、高い方で -1100±50(V)であることを確認する。
（ＲＶ２及びＲＶ３は上記設定の微調整用である）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4．Ｖ／Ｆ変換回路確認</td><td>各レンジに於いて、下記電圧をそれぞれ電圧発生器より入力端子（Ｊ１－39）に入力し、ＣＰ－６に接続した周波数カウンタで出力周波数を測定する。

入力端子：J_1 －39ピン
<table><tr><th>レンジ</th><th>電圧（V）</th><th>周波数(Hz)</th></tr><tr><td rowspan="2">Ｌｏ</td><td>※0.0873</td><td>10^1±0.5</td></tr><tr><td>8.73</td><td>10^3± 1</td></tr><tr><td>ＭＥＤ</td><td>0.873</td><td>10^4± 10</td></tr><tr><td>Ｈｉ</td><td>8.73</td><td>10^4± 10</td></tr></table>
レンジ切換(+24V)
<table><tr><th>レンジ</th><th>J_1ｺﾈｸﾀ</th><th>J103ｺﾈｸﾀ</th></tr><tr><td>Ｌｏ</td><td>14</td><td>17</td></tr><tr><td>Ｍｅｄ</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>Ｈｉ</td><td>12</td><td>16</td></tr></table>
規格外の場合は、下記要領にて調整する。
・Ｌｏレンジ
①裏面パネルＪ１の14ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で0.873(V)を入力し、ＵＮ３のＣＰ－６に周波数カウンタを接続して、 10^3±1(Hz)となる様、裏面パネルＲＶ１を調整する。</td><td>フルスケールの
±0.1(%)以内
※F.S ±５(%)以内</td><td>＊別添代表値（感度一覧表）参照

UN_3 ： AMC-6115DVS
（J103）</td></tr>
</table>

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	②電圧発生器からの入力電圧を87.3(mV)とし、ＵＮ３のＣＰ－６に接続した周波数カウンタの値が10±1(Hz) であることを確認する。 ・Ｍｅｄレンジ 裏面パネルＪ１の13ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で8.73(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－６に周波数カウンタを接続して、100±0.1(Hz)であることを確認する。 ・Ｈｉレンジ 裏面パネルＪ１の12ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で8.73(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－６に周波数カウンタを接続して、 10^4 ±10(Hz)であることを確認する。		

テレメータ出力感度一覧表

モニタリングステーション　　平成６年２月１日

場所 / レンジ	ＳＴ－１ (V/μGy/h)	ＳＴ－２ (V/μGy/h)	ＳＴ－３ (V/μGy/h)	ＳＴ－４ (V/μGy/h)	ＳＴ－５ (V/μGy/h)
ログ１　Ｌｏ	1.211	1.187	1.233	1.255	1.238
ログ２　Ｍｅｄ	1.223×10^{-2}	1.166×10^{-2}	1.236×10^{-2}	1.218×10^{-2}	1.181×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.218×10^{-4}	1.176×10^{-4}	1.233×10^{-4}	1.223×10^{-4}	1.166×10^{-4}

注）　ＳＴ－１：安全管理棟屋上、ＳＴ－２：東海村役場、ＳＴ－３：長砂、ＳＴ－４：高野、ＳＴ－５：田向南門

モニタリングポスト

場所 / レンジ	ＭＰ－１ (V/μGy/h)	ＭＰ－２ (V/μGy/h)	ＭＰ－３ (V/μGy/h)	ＭＰ－４ (V/μGy/h)	ＭＰ－５ (V/μGy/h)
ログ１　Ｌｏ	1.211	1.210	1.148	1.156	1.220
ログ２　Ｍｅｄ	1.154×10^{-2}	1.150×10^{-2}	1.224×10^{-2}	1.266×10^{-2}	1.251×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.152×10^{-4}	1.130×10^{-4}	1.218×10^{-4}	1.230×10^{-4}	1.168×10^{-4}

場所 / レンジ	ＭＰ－６ (V/μGy/h)	ＭＰ－７ (V/μGy/h)
ログ１　Ｌｏ	1.214	1.255
ログ２　Ｍｅｄ	1.194×10^{-2}	1.228×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.197×10^{-4}	1.184×10^{-4}

注）　ＭＰ－１：正門前、ＭＰ－２：検査棟前、ＭＰ－３：再処理、ＭＰ－４：ＰＵ燃前、ＭＰ－５：新グラウンド
ＭＰ－６：濃縮、ＭＰ－７：実規模開発試験前

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	テレメータ出力モジュール	型　名	AM－03M22BVR4	メーカ名	Aloka
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前に、AMPコネクタの①ピンに+24(V)(U)、②ピンに+24(V)(RET)を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．トラブル監視回路 2.1 テスト動作確認	①TEST PUSH　ONスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（AMPコネクタ　J1） 18－19　メーク 18－20　ブレーク TEST　ONランプ　点灯	正常に動作すること	UN1：AMC-7118C（J101） （J1）（J101） 18　－　V 19　－　U 20　－　W
	②RESET RESETスイッチを押し、下記の状態を確認する。 端子（AMPコネクタ　J1） 18－19　ブレーク 18－20　メーク TEST　ONランプ　消灯	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.2 ＬＶトラブル動作確認	ＬＶの±24(V)、非安定24(V)及びＡＣ100(V)のいずれか又は複数が　断”した場合に下記の状態になることをに確認する。 端子（ＡＭＰコネクタ　Ｊ１） 21－23　メーク ＬＶ　ＮＯＲＭランプ　消灯		（Ｊ１）（Ｊ101） 21　－　4 22　－　3 23　－　5
3．高圧出力監視回路	裏面パネルのＨＶ入力端子（Ｊ２）に高圧電圧を-1000(V)を印加し、次に高圧電圧を上昇及び下降させた時、下記の状態になることを確認する。 端子 （ＡＭＰ　４２ピンコネクタ　Ｊ１） 24-26 ピン　メーク 24-25 ピン　ブレーク 及び HV NORM ランプ　消灯 規格外の場合は、下記要領にて調整する ①ＵＮ２のＣＰ－４にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して-10.52(V)になるように調整する。 ②ＵＮ２のＣＰ－５にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ５を可変して0.35(V)になるように調整する。 ③ＵＮ２のＣＰ－７にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ４を可変して-3.63(V)になるように調整する。 ④ＵＮ２のＣＰ－６にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して-2.97(V)になるように調整する。 ⑤裏面パネルのＪ２へ-1000(V)を印加し、ＵＮ２のＣＰ－１にデジタルマルチメータを接続し、ＲＶ６を可変して-3.3(V)になるように調整する。但し、入力インピーダンス10(MΩ）のデジタルマルチメータを使用した場合は-3.24(V)となる。	正常に動作すること。 -1000(V) 時 UPPER:-1100±50(V) LOWER: -900±50(V)	UN_2 ： AMC-7101E （Ｊ102） （Ｊ１）（Ｊ102） 24　－　19 25　－　12 26　－　13

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	⑥Ｊ２へ印加する高圧を可変した時、ＨＶ ＮＯＲＭランプが消灯する所が低い方で-900±50(V)、高い方で -1100±50(V)であることを確認する。 （ＲＶ２及びＲＶ３は上記設定の微調整用である）		
4．Ｖ／Ｆ変換回路確認	各レンジに於いて、下記電圧をそれぞれ電圧発生器より入力端子（Ｊ１－39）に入力し、ＣＰ－11に接続した周波数カウンタで出力周波数を測定する。 入力端子：J_1 －39ピン	フルスケールの ±0.1(%)以内 ※F.S ±５(%)以内	＊別添代表値（感度一覧表）参照 UN_3 ：AMC-6127 (J103)

レンジ	電圧（V）	周波数(Hz)
Ｌｏ	※0.0873	10^1±0.5
	8.73	10^3± 1
ＭＥＤ	0.873	10^4± 10
Ｈｉ	8.73	10^4± 10

レンジ切換(+24V)

レンジ	J_1ｺﾈｸﾀ	J103ｺﾈｸﾀ
Ｌｏ	14	17
Ｍｅｄ	13	14
Ｈｉ	12	16

規格外の場合は、下記要領にて調整する。

・Ｌｏレンジ

①裏面パネルＪ１の14ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で0.873(V)を入力し、ＵＮ３のＣＰ－11に周波数カウンタを接続して、 10^3±１(Hz)となる様、裏面パネルＲＶ１を調整する。

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	②電圧発生器からの入力電圧を87.3(mV)とし、ＵＮ３のＣＰ－11に接続した周波数カウンタの値が10±1(Hz) であることを確認する。 ・Ｍｅｄレンジ 裏面パネルＪ１の13ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で8.73(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－11に周波数カウンタを接続して、100±0.1(Hz)であることを確認する。 ・Ｈｉレンジ 裏面パネルＪ１の12ピンに 24(V)を加える。同じくＪ１の39ピンより電圧発生器で8.73(V) を入力し、ＵＮ３のＣＰ－11に周波数カウンタを接続して、 10^4 ±10(Hz)であることを確認する。		

テレメータ出力感度一覧表

モニタリングステーション　　平成８年２月現在

場所 / レンジ	ＳＴ－１ (V/μGy/h)	ＳＴ－２ (V/μGy/h)	ＳＴ－３ (V/μGy/h)	ＳＴ－４ (V/μGy/h)	ＳＴ－５ (V/μGy/h)
ログ１　Ｌｏ	1.222	1.190	1.233	1.255	1.238
ログ２　Ｍｅｄ	1.233×10^{-2}	1.287×10^{-2}	1.236×10^{-2}	1.218×10^{-2}	1.181×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.163×10^{-4}	1.162×10^{-4}	1.233×10^{-4}	1.223×10^{-4}	1.166×10^{-4}

注）　ＳＴ－１：安全管理棟屋上、ＳＴ－２：東海村役場、ＳＴ－３：長砂、ＳＴ－４：高野、ＳＴ－５：田向南門

モニタリングポスト

場所 / レンジ	ＭＰ－１ (V/μGy/h)	ＭＰ－２ (V/μGy/h)	ＭＰ－３ (V/μGy/h)	ＭＰ－４ (V/μGy/h)	ＭＰ－５ (V/μGy/h)
ログ１　Ｌｏ	1.211	1.210	1.148	1.156	1.165
ログ２　Ｍｅｄ	1.154×10^{-2}	1.150×10^{-2}	1.224×10^{-2}	1.266×10^{-2}	1.212×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.152×10^{-4}	1.130×10^{-4}	1.218×10^{-4}	1.230×10^{-4}	1.15×10^{-4}

場所 / レンジ	ＭＰ－６ (V/μGy/h)	ＭＰ－７ (V/μGy/h)
ログ１　Ｌｏ	1.206	1.255
ログ２　Ｍｅｄ	1.181×10^{-2}	1.228×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.19×10^{-4}	1.184×10^{-4}

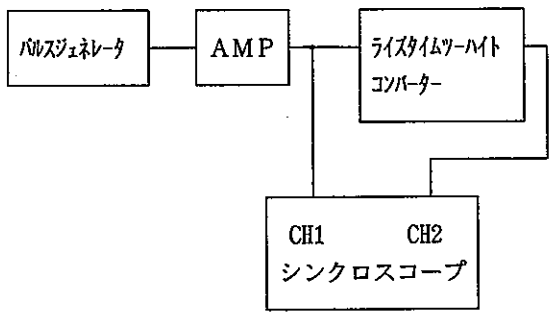
注）　ＭＰ－１：正門前、ＭＰ－２：検査棟前、ＭＰ－３：再処理、ＭＰ－４：ＰＵ燃前、ＭＰ－５：新グラウンド
ＭＰ－６：濃縮、ＭＰ－７：実規模開発試験前

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

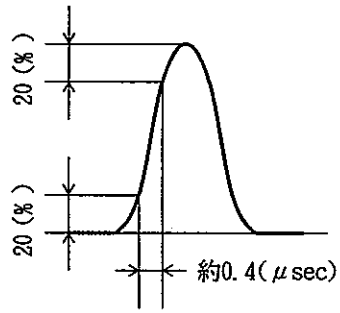
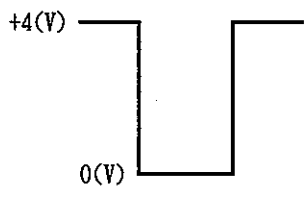
機器名	ﾗｲｽﾞﾀｲﾑﾂｰﾊｲﾄｺﾝﾊﾞｰﾀｰ	型　名	AA-3207 ・ 723-1B	メーカ名	Ａｌｏｋａ，応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ディスクリ点検	 上記の接続にて、本体（ライズタイムツーハイトコンバーター）に信号を入力し、出力にシンクロスコープを接続し、信号が出始める時と、消える時の入力信号を測定する。 測定点 LOWER　UPPER 1.00(目盛)　2.00(目盛) 1.00(目盛)　4.00(目盛) 1.00(目盛)　8.00(目盛) ＡＡ－３２０７設定 ・ＤＥＬＡＹ：　0.3(μsec) ・ＲＮＧＥ　：　0.5(μsec) ・PICKOFF　：LOWER　2.00(目盛) UPPER　8.00(目盛)	±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

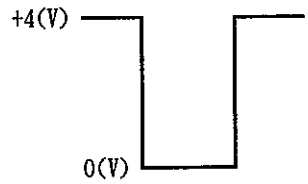
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	パルスジェネレータ設定 ・入力信号：正のユニポーラまたは 正先行のバイポーラ ・入力波形  		
3．WALK調整	2項の接続及び設定にて、増幅器出力波高をシンクロスコープにて観測し、0.8～8(V)変化する様増幅器及びアッテネータを可変する。 増幅器の出力を0.2(V)とし、本体のIc 8のピン⑦の波形をシンコロスコープにて観測し、Ⅰ図の様であるようにＶＲ１を調整する。 増幅器出力を約8(V)として、後線があまり動かない様に更にＶＲ１をまわす。  Ⅰ図 増幅器の出力が0.8(V)←→8(V)になる様にし、本体の出力波形をシンクロスコープで観測し、飽和しないで出る様にＲＡＮＧＥ　ＳＷをまわす。	後線の変動がないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

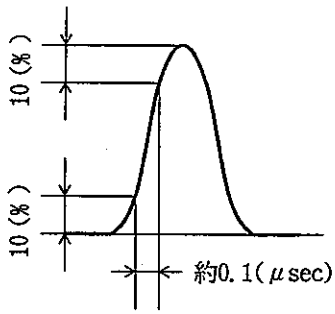
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	増幅器の出力を0.8(V) ⟷8(V) 変化しても本体出力波高が変化しないようWALK（パネル面にあるトリマー抵抗）をまわす。 WALKをまわしてもIc 9のピン⑨の波形が、Ⅱ図の様であること。  Ⅱ図		
4．ピックオフ点検	2項の接続及び設定にて、入力波高(0.8(V) ⟷8(V)) を下記各設定に対して入力した時、出力波高がそれぞれに変動しないことをシンクロスコープにて確認する。 PICKOFF設定 LOWER　UPPER 1.00(目盛)　9.00(目盛) 2.00(目盛)　8.00(目盛) 4.00(目盛)　6.00(目盛)	各±0.5(%)以下	
5．レンジ確認	下記設定にし、ライズタイムツーハイトコンバーター出力波形をシンクロスコープにより観測し、レンジを 0.1～ 10(μsec) まで可変した時、出力波形がだいたいレンジ設定時間の割合で減衰して行くことを確認する。 ライズタイムツーハイトコンバーター設定 ・DISCRI　: LOWER　1.00(目盛) UPPER　10.00(目盛) ・DELAY　:　0.3（目盛） ・PICKOFF: LOWER　1.00(目盛) UPPER　9.00(目盛)		

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	パルスジェネレータ設定 ・入力信号：正のユニポーラまたは 正先行のバイポーラ ・入力波形  		

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

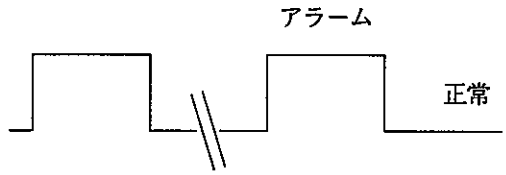
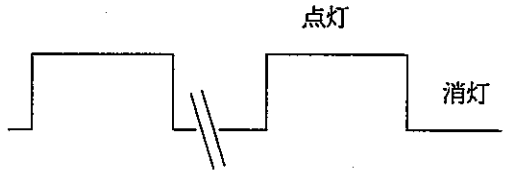
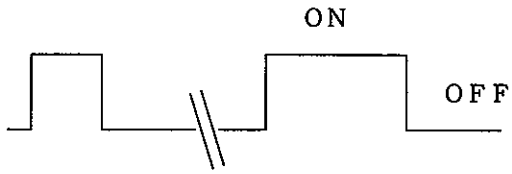
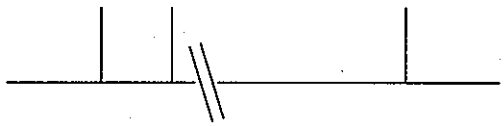
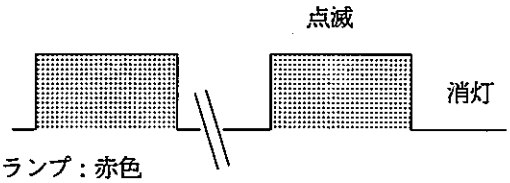
機器名	警報表示モジュール	型　名	AM-93MR74-2253	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．アラーム動作確認	アラーム1～9（J1：18～26ピン）を入力して、各種アラームの動作を確認する。 （アラームは接点信号） AL－IN－1（RM異常－1） 2（RM異常－2） 3（漏水） 4（LV異常－1） 5（LV異常－2） 6（LV異常－3） 7（HV異常－1） 8（HV異常－2） 9（サンプリング異常） RM1～2、LEAKAGE、LV1～3、HV1～3、SAMPLING（計9ch） J1 －（18～26）－ 34 間短絡	下記シーケンス通りの動作を行うこと。 そのとき、各信号がJ2、J3に出力されること。	UN2 AMP-R41 AL　J1　-703W 1　18　1 2　19　2 3　20　3 4　21　4 5　22　5 6　23　6 7　24　7 8　25　8 9　26　9 J2：県出力 J3：安管棟出力

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	各種アラーム入力  		
	各種アラーム入力  		
	ブザー  		
	BUZZER STOP ALARM RESET スイッチ 		
	ALARM ランプ （トータル表示）  ランプ：赤色		

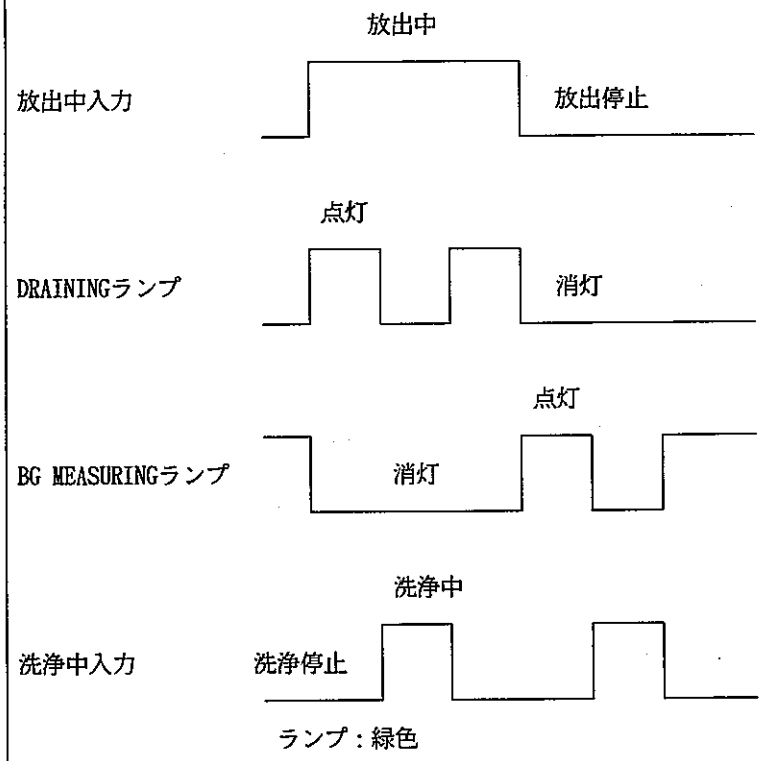
点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．状態表示動作確認	放出中／ＢＧ観測中の動作を確認する。	下記シーケンス通りの動作を行うこと。 そのとき、各信号がＪ２、Ｊ３に出力されること。	
4．リセット信号出力確認	アラーム動作時に、ＳＩ（アラーム兼ブザーストップスイッチ）を押し、Ｊ１－35ピンの出力レベルを確認する。	アラーム動作時 Ｌｏ→Ｈｉレベルとなる。 ＢＵＺＺＥＲ　ＳＴＯＰスイッチを押すと Ｈｉ→Ｌｏレベルとなる。	ＵＮ１ Ｊ１　(AMC-9104) 35　13

B. G MEASURING, DRAINING (計2ch)



ランプ：緑色

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	ハンディスケーラ	型　名	TDC－104	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ケース及びACプラグ間にて測定する。この時POWER　SWはONとする。	500(V)メーガにて 50(MΩ) 以上	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	装置内AMP－8006基板の下記端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。 出力電圧 / 端子番号 12(V) / 10 -12(V) / 5 5(V) / 11 GND / 12,13	12(V): 11.76～ 12.24(V) -12(V):-11.76～-12.24(V) 5(V): 4.80～ 5.20(V)	
3.2 電源変動の測定	スライダックを用いてAC電源を90(V),110(V)に変化させ、それぞれの出力を3.1項の端子にて、デジタルマルチメータにより測定する。		
3.3 リップル電圧測定	3.1 項の端子にて、シンクロスコープを接続して、リップル電圧を測定する。	100(mVp-p)以下	
4．高圧電源試験 4.1 電圧設定精度の確認	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続し、出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 負荷電流　50(μA)	フルスケールの±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ダイヤル指示値 1.0　500(V) 2.0　1000(V) 3.0　1500(V)		
4.2 電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ電源を90(V),110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷時の出力を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 1000(V) にて測定する。	1000(V)時： 950～1050(V)以内	
4.3 リップル電圧測定	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続シ、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 1000(V) にて測定する。 負荷電流　50(μA)	1000(V)時： 100(mVp-p)以内	
5．計数部試験			
5.1 入力感度	・ＳＣＩＮＴ 入力切換スイッチをＳＣＩＮＴにし裏パネル面のＩＮＰＵＴ接栓にパルスジェネレータより負信号を入力し、スケーラが計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにて測定する。	-10±1(mV)	
	・ＧＭ 入力切換スイッチをＧＭにし、プリント基板ＴＤＣ－１０３－１ＣＵの 40 番にパルスジェネレータより負信号を入力し、スケーラが計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにて測定する。	-100±10(mV)	ＧＭの点検を始める前に、ＨＶが0(V)になっていることを確認する。
5.2 波形選別出力波形確認	ＩＮ　ＰＵＴにパルスジェネレータより負信号を入力し、ＰＨＳ　ＯＵＴからの出力波形をシンクロスコープにて測定する。	パルス波高： -4.0～-6.0(V) パルス幅　： 0.5 ～1.5(μsec)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3 クロックパルス確認（ＴＥＳＴ）	入力切換スイッチをＴＥＳＴにし、プリセットタイムを 1.0に設定する。 ＲＥＳＥＴ　ＣＯＵＮＴスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	ＴＳＥＴ：3000(cpm)	
5.4 プリセット動作確認	入力切換スイッチを測定状態にし、プリセットタイムを1.0 及び5.0 に設定する。 ＲＥＳＥＴ　ＣＯＵＮＴスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	正常に動作すること。	
5.5 表示確認	測定及びＴＥＳＴ動作に於いて正常に表示することを確認する。	正常に表示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	ベーシックスケーラ	型　名	ＴＤＣ－１０５	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ケース及びＡＣプラグ間にて測定する。この時ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メーガにて 50(MΩ）以上	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	装置内ＴＤＣ－１０５－２基板の下記端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。 出力電圧／端子番号 12(V)／ＣＰ２ -12(V)／ＣＰ３ 5(V)／ＣＰ１ ＧＮＤ／ＣＰ４	12(V)：11.50～ 12.50(V) -12(V):-11.50～-12.50(V) 5(V)：　4.80～　5.20(V)	
3.2 電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ電源を90(V)，110(V)に変化させ、それぞれの出力を3.1項の端子にて、デジタルマルチメータにより測定する。	±2(%)以内	
4．高圧電源試験 4.1 電圧設定精度の確認	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続し、出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 負荷電流　25(μA) 出力表示 1000　1000(V) 2000　2000(V) 3000　3000(V)	フルスケールの±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4.2 電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ電源を90(V)，100(V)，110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷時の出力を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 2000(V) にて測定する。	±0.5(%)以内	
4.3 リップル電圧測定	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続シ、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 2000(V) にて測定する。 負荷電流　25(μA)	2000(V)時： 100(mVp-p)以内	
5．計数部試験			
5.1 AMP　GAIN	・ＳＣＩＮＴ 入力切換スイッチをＳＣＩＮＴにし、ＩＮ　ＰＵＴ（Ｊ１）にパルスジェネレータの負信号を入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴからの出力波形をシンクロスコープにて測定する。	約30倍	
	・GM 入力切換スイッチをGMにし、プリント基板ＴＤＣ－１０５－２のＪ５①番にパルスジェネレータの負信号を入力し、ＡＭＰ　ＯＵＴからの出力波形をシンクロスコープにて測定する。	約３倍	GMの点検を始める前に、ＨＶが0(V)になっていることを確認する。
5.2 入力感度	・ＳＣＩＮＴ 5.1 項の接続にて、パルスジェネレータの負信号を入力し、スケーラが計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにて測定する。	-10 ± 1(mV)	
	・GM 5.1 項の接続にて、パルスジェネレータの負信号を入力し、スケーラが計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにて測定する。	-100±10(mV)	GMの点検を始める前に、ＨＶが0(V)になっていることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3 PHS　OUT波形確認	IN　PUTにパルスジェネレータより負信号を入力し、PHS　OUTからの出力波形をシンクロスコープにて測定する。	パルス波高： -4.0～-6.0(V) パルス幅　： 0.5 ～1.5(μsec)	
5.4 クロックパルス確認（TEST）	入力切換スイッチをTESTにし、プリセットタイムを 1.0に設定する。 RESET　COUNTスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	TSET：1000(cpm)	
5.5 プリセット動作確認	入力切換スイッチを測定状態にし、プリセットタイムを1.0 及び5.0 に設定する。 RESET　COUNTスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	正常に動作すること。	
5.6 表示確認	測定及びTEST動作に於いて正常に表示することを確認する。	正常に表示すること。	
6．HV　LIMIT動作の確認	HV　LIMIT調整器を右方向に一杯（ダイヤル目盛300 ）に設定する。 入力切換スイッチをSCINTにしHV ADJ調整器を右方向に徐々に回して高圧表示が1000(V) になる点に設定する。 HV　LIMIT調整器を左方向に徐々に回していき1000(V) ±30(V) （ダイヤル目盛97～103)の範囲内でHV　LIMITランプが点滅し、高圧表示で0(V)に向かって降下することを確認する。 上記確認後、HV　ADJ調整器を左方向に一杯に回し、裏パネルのRESETスイッチを押し、LIMIT　OVERランプが消えて解除されることを確認する。	ダイヤル目盛： 100 ±3 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	スケーラ	型　名	TDC－513	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．絶縁試験	ケース及びＡＣプラグ間にて測定する。この時ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	裏パネルのチェック端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。但し、検出器等を接続して、測定状態で測定する。 出力電圧（端子）：　+12(V) -12(V) + 5(V)	+12(V)：11.5 ～ 12.5(V) -12(V)：-11.5 ～-12.5(V) + 5(V)：4.75 ～ 5.25(V)	
3.2 電源変動の測定	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V)及び110(V)に変化させ、それぞれの出力を3.1 項の端子にてデジタルマルチメータを用いて測定する。	AC100(V)時出力電圧に対し±0.1(V)以内	
3.3 リップル電圧の測定	3.1 項の端子にシンクロスコープを接続して、リップル電圧を測定する。	±250(mVp-p)以下	
4．高圧電源試験 4.1 電圧設定精度の確認	高圧出力端子（ＨＶチェック端子）に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続し、出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 負荷電流　50(μA)	300(V)：285～ 315(V) 500(V)：485～ 515(V) 1000(V)：985～1015(V) 1500(V)：1485～1515(V)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2 電圧負荷変動の確認	スライダックを用いて、ＡＣ電源を90(V及び110(V)に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷状態の出力電圧を4.1 項の端子にて高圧用デジタルボルトにて測定する。 1000(V) にて測定する。	1000(V)時 電圧変動：±1.5(V)以内 負荷変動：±7.5(V)以内	
4.3 リップル電圧の測定	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続し、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 1000(V) にて測定する。 負荷電流　50(μA)	50(mVp-p)以内	
5．計数部試験 5.1 入力感度	・ＳＣＩＮＴ 入力切換スイッチをＳＣＩＮＴにし、裏パネルのＩＮＰＵＴ／ＰＨＳ　ＩＮにパルスジェネレータから負信号を入力する。次に、スケーラが計数し始める時のパルスジェネレータの出力電圧を測定する。	-100±10(mV)	
	・ＧＭ 入力切換スイッチをＧＭにし、裏パネルのＧＭにジェネレータから負信号を入力する。次に、スケーラが計数し始める時のパルスジェネレータの出力電圧を測定する。 入力波形 極性　：　負 RISE TIME　：　100(nsec) DECAY TIME　：　50(nsec)	-100±10(mV)	点検前にＨＶが0(V)になっていることを確認する。

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2 条件設定モード確認	(1)モード切換動作 ＳＥＴスイッチを押すことにより、測定モード条件設定モードが変更できることを確認する。	正常に動作すること。	ＰＴ ｜ ＨＶ ｜ ＤＡＴＥ ｜ ＴＩＭＥ ｜ ＲＳ２３２Ｃ ｜ ＰＲＩＮＴＥＲ
	(2)測定条件切替動作 ＳＥＬＥＣＴスイッチを押すことにより、測定条件表示が右記の様に変更できることを確認する。	正常に動作すること。	
	(3)設定変動動作 カーソル及びＳＥＴスイッチによる設定が変更できることを確認する。但し、放管設定値を記録書に記入すること。	正常に動作すること。	
5.3 測定モード表示確認	ＤＩＳＰ－ＳＥＬＥＣＴスイッチを押すことにより、設定条件が確認できること。	正常に動作すること。	
5.4 プリセット動作確認	入力切換スイッチをＴＥＳＴにしプリセットタイムを1.0(min)に設定する。 ＳＴＡＲＴ・ＳＴＯＰスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。 また、ターンテーブル式検出部については、外部信号制御動作も確認する。 スケーラとプローブスタンドを中継ボックスを介してケーブルを接続し、プリセットタイムを1.0(min)に設定する。 ターンテーブルを回すとスケーラが計数を開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	測定時間：1.0(min) 計数値　： 1000±1(count)	
5.5 表示確認	入力モードの選択及び使用電圧の印加が正常に行え、また、各種表示が正常になされること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	ユニバーサルスケーラ	型　名	TDC－511	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．絶縁試験	電源一次側とアース間の絶縁抵抗を測定すること。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．低圧電源部試験	電源出力ライン(J_5)にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。	±24(V)　±1.0(V)以内 ±12(V)　±0.5(V)以内	＊J_5 ①　：　GND ④　：　+12(V) ⑥　：　-24(V) ⑦　：　+24(V) ⑨　：　-12(V)
4．高圧電源部試験 4.1 高圧設定精度の確認	高圧用デジタルボルトメータ（プローブインピーダンス1000(MΩ) 以上のものを使用）を接続してＨＶダイヤルを100(V), 1000(V), 2000(V), 3000(V) に設定し、出力設定精度を測定する。	±10(V)以内	
4.2 ＨＶリミット設定動作の確認	ＨＶリミットを、1000(V) に設定する。ＨＶ値を上げて行く。	1000(V) を超えるとＨＶ値は設定できないこと。	
5．リニアアンプ部試験	ＭＰＧ出力を-10(V)とし、TDC-511 のGAINを1000とした時、アンプ出力(CP-9)波高が10.0(V) となるようにATT の値を読む。SHAPINGIがGauss ,DL の各条件で増幅度を確認する。 ＭＰＧ設定 Tr　：　FAST Td　：　10(μsec)	Gauss ,DL ともATT ダイヤル値が60±1(dB) であること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ＴＤＣ－５１１設定 DETECTOR　:　PROP Input　:　Amp Polarity　:　Neg IN Polarity　:　Pos OUT		
6．総合直線性	LL=100(%)、ＭＰＧのパルスハイトダイヤルを10.0として計数開始するようATT ダイヤル、ＭＰＧのノーマライズを調整する。ＭＰＧのパルスハイトダイヤルを2.0,4.0,6.0,8.0 として計数開始するLLレベルを調べる。 ＭＰＧ設定 Tr　:　FAST Td　:　500(μsec) ＴＤＣ－５１１設定 DETECTOR　:　PROP Input　:　Pre(HV) Shaping　:　Gauss Gain　:　100 Polarity　:　Pos IN Polarity　:　Pos OUT SCA　:　INT	レベルのずれが±1(%)以内であること。	
7．機能検査	・表示器動作 VIEW ANGLEを回すことによりコントラストの調整をする。 ・時計動作 年月日時刻を設定する。	左記動作に問題ないこと。 左記動作に問題ないこと。	 ＊Dateモードにて

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・計数動作		
	PT動作　XPG設定1(Kcpm)　P.T =1.0(min)にて計数させ、時間、計数表示を読み取る。	設定時間（1分）で計数ストップすること。 PT=1.0minにて 1000 ±2 カウント以内	＊TDC-511 設定 Input　: PHS Polarity:Pos IN Polarity:Pos OUT SCA　: INT LL　: 10.0%
	PC動作　XPG設定1(Kcpm)　P.T =1000(Count) にて計数させ、時間、計数表示を読み取る。	設定計数値(1000)で計数ストップすること。 PT=1000(Count)にて 1.00 ±0.01(min)以内	
	データメモリ ＬＩＳＴモードにする。	測定したデータを記録していること。	
	自己診断機能 AMP/SCA AMP/SCA TEST を選択する。	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	
	SCALER SCALER TEST を選択する。	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	
	DISPLY DISPLY TEST を選択する。	表示器にテスト文字パターンを表示すること。	
	ROM ROM TEST を選択する。	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

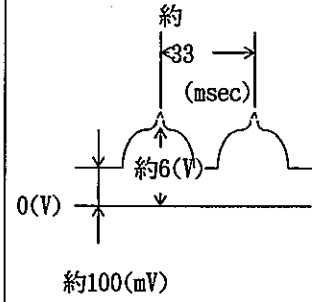
機器名	ユニバーサルスケーラ	型　名	MAR－202USI	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．絶縁試験	電源一次側とアース間の絶縁抵抗を測定すること。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．低圧電源部試験	電源出力ラインにデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。	±24(V)　±1.0(V)以内 ±15(V)　±0.6(V)以内 ±12(V)　±0.5(V)以内	＊J_5 ①　：　GND ③　：　+15(V) ④　：　+12(V) ⑥　：　-24(V) ⑦　：　+24(V) ⑧　：　-15(V) ⑨　：　-12(V)
4．高圧電源部試験 4.1 高圧設定精度の確認	高圧用デジタルボルトメータを接続してＨＶダイヤルを100(V),1000(V), 2000(V), 3000(V) に設定し、出力設定精度を測定する。	±10(V)以内	
4.2 ＨＶリミット設定動作の確認	ＨＶリミットを、1000(V) に設定し、ＨＶ値を上げて行く。	1000(V) を超えるとＨＶ値は設定できないこと。	
5．リニアアンプ部試験	ＭＰＧ出力を-10(V)とし、MAR-202URIのGAINを1000とした時、アンプ出力(CP-9)波高が10.0(V) となる時のATT 値を読む 下記各条件で増幅度を確認する。 ＭＰＧ設定 Tr　：　0.2 Td　：　10(μsec) 極性：　NEG	ATTダイヤル値が60±1(dB)であること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	MAR－202USI設定 DETECTOR　：　SCINT Input　：　Amp Shaping　：　Gauss Polarity　：　Neg IN Polarity　：　Pos OUT		
6．総合直線性	LL=100(%)、MPGのパルスハイトダイヤルを10.0として計数開始するようATT ダイヤル、MPGのノーマライズを調整する。MPGのパルスハイトダイヤルを8.0,6.0,4.0,2.0 として計数開始するLLレベルを調べる。 MPG設定 Tr　：　FAST Td　：　10(μsec) 極性：　NEG MAR－202USI設定 DETECTOR　：　SCINT Input　：　Amp Shaping　：　Gauss Gain　：　20 Polarity　：　Neg IN Polarity　：　Pos OUT SCA　：　INT	レベルのずれが±1(%)以内であること。	
7．エネルギー補償部試験 7.1 FG　OUT波形確認	リアパネル面FG　OUTの出力波形をシンクロスコープにて確認する。	下図の波形であること。  	

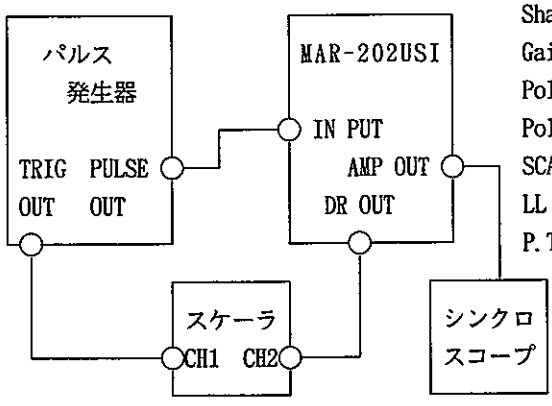
点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7.2 通過率の確認	下記接続により、パルス発生器のAMPLITUDEダイヤルを6.000に設定し、線量率通過率が99.9***(***はどんな数値でも良い、例えば 99.9853や 99.9062等) になるようにパルス発生器を調整する。 以下指定のパルス波高にパルス発生器のAMPLITUDE を合わせて通過率を測定する。 通過率(%) ＝ＣＨ１／ＣＨ２×100(%)		

入力波高(V)	通過率 (%)
-6.2	0
-6.0	103　～　97
-3.0	69.93 ～　65.86
-1.0	17.42 ～　16.40
-0.4	3.525 ～　3.319
-0.12	1.174 ～　0.960
-0.10	1.290 ～1.056
-0.09	0



ＭＡＲ－２０２ＵＳＩ設定

DETECTOR	:	SCINT
Input	:	Amp
Shaping	:	Gauss
Gain	:	20
Polarity	:	Neg IN
Polarity	:	Pos OUT
SCA	:	INT
LL	:	0.5%
P.T	:	0.5MIN

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．機能検査	・表示器動作 VIEW ANGLEを回すことによりコントラストの調整をする。	左記動作に問題ないこと。	
	・時計動作 年月日時刻を設定する。	左記動作に問題ないこと。	＊Dateモードにて
	・計数動作 PT動作：XPG設定1(Kcpm) P.T ＝1.0(min)にて計数させ、時間、計数表示を読み取る。	設定時間（1分）で計数ストップすること。 PT＝1.0minにて 1000 ±2 カウント以内	＊MAR-202USI設定 DETECTOR：SCINT Input　：Amp Shaping：Gauss Polarity:Neg IN Polarity:Pos OUT SCA　　:INT LL　　:1.0% P.T　　:1.0M
	自己診断機能(TEST MODE) SCALER TEST	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	
	DISPLY TEST	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	
	PRINTER TEST	PRINTER にテストパターンを印字すること。 （0～Zまで表示すること）	
	ROM　TEST	「SELF TEST Completed 」を表示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	スミヤカウンタ	型　名	TDC－R14－215	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ケース及びＡＣプラグ間にて測定する。この時ＰＯＷＥＲ　ＳＷはＯＮとする。	500(V)メーガにて 50(MΩ）以上	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	各出力電圧ラインにデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。 出力電圧 12(V) -12(V) 5(V)	±2(%)以内	
3.2 電源変動の測定	スライダックを用いてＡＣ電源を90(V),110(V)に変化させ、それぞれの出力を3.1項の端子にて、デジタルマルチメータにより測定する。	±2(%)以内	
3.3 リップル電圧測定	3.1 項の端子にて、シンクロスコープを接続して、リップル電圧を測定する。	100(mVp-p)以下	
4．高圧電源試験 4.1 電圧設定精度の確認	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続し、出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 負荷電流　100(μA)	フルスケールの±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ダイヤル指示値　出力電圧 0 目盛　0(V) 1.00 目盛　500(V) 2.00 目盛　1000(V) 3.00 目盛　1500(V)		
4.2 電圧変動の測定	スライダックを用いてＡＣ電源を90(V),100(V),110(V) に変化させ、それぞれの負荷及び無負荷時の出力を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 1000(V) にて測定する。	1000(V)時： 950～1050(V)以内	
4.3 リップル電圧測定	高圧出力端子に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続シ、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 1000(V) にて測定する。 負荷電流　100(μA)	1000(V)時： 100(mVp-p)以内	
5．計数部試験 5.1 ディスクリターミネータ確認	パルスジェネレータより負信号をＩＮＰＵＴ接栓に入力する。次に、ディスクリを最小に回し、スケーラが計数し始める時の入力電圧をシンクロスコープにて測定する。又、ディスクリを最大に回した時も同様に測定する。 以上の確認が終了したら、ディスクリを最小に回した所に設定する。	可変範囲 -0.3～-1.5(V) ディスクリ設定値 -0.35(V)	
5.2 クロックパルス確認（ＴＥＳＴ）	入力切換スイッチをＴＥＳＴにし、プリセットタイムを 1.0に設定する。 ＲＥＳＥＴ　ＣＯＵＮＴスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	ＴＳＥＴ：3000(cpm)	
5.3 プリセット動作確認	入力切換スイッチを測定状態にし、プリセットタイムを1.0 及び5.0 に設定する。 ＲＥＳＥＴ　ＣＯＵＮＴスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5.4 表示確認	測定及びＴＥＳＴ動作に於いて正常に表示することを確認する。	正常に表示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

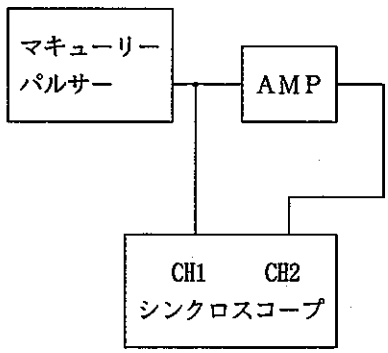
機器名	GM/SCINTI COUNTER	型　名	603A	メーカ名	東洋電子
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．絶縁試験	ケース及び ㉝, ㊶ 番端子間にて測定する。 この時POWER　SWはONとする。	500(V)メーガにて 50(MΩ) 以上	
3．高圧電源部試験 3.1 高圧設定精度の確認	高圧出力接栓に高圧用デジタルボルトメータを接続し、ダイヤル指示値と出力電圧を比較する。 負荷電流　1(mA) 電源切換スイッチ 1100(V)時 ダイヤル指示値　出力電圧 5.0目盛　500(V) 10.0 目盛　1000(V) 電源切換スイッチ 2100(V)時 ダイヤル指示値　出力電圧 5.0目盛　1500(V) 10.0 目盛　2000(V)	フルスケールの±1(%)以内	
3.2 電源変動の測定	スライダックを用いてAC電源を90(V), 100(V), 110(V) に変化させた時、負荷及び無負荷時の出力電圧を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。 500(V) 及び1500(V) 時に於いて測定する。	フルスケールの±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

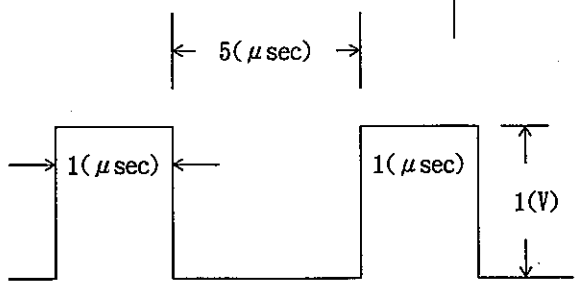
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3.3 リップル電圧測定	高圧出力接栓に負荷電流が、下記の様になるダミーロードを接続シ、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 1500(V) にて測定する。 負荷電流　1(mA)	1500(V)時： 100(mVp-p)以内	
4．計数部 4.1 増幅器 (1) 増幅度確認			
	上図の接続にて、ＧＡＩＮを最大にし、キューリーパルサーからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、マキューリーパルサーの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 $利得=20\log_{10}\frac{出力電圧}{入力電圧}$	20±2(db)	
(2) 直線性測定	4.1(1)項の接続にてＧＡＩＮを最大にし、下記ＡＭＰ　ＩＮ条件の場合の出力をシンクロスコープにて測定する。 ＡＭＰ　ＩＮ　：　10(mV) 50(mV) 100(mV) 200(mV)		
(3) 最大無歪電圧測定	入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(4) ノイズ測定	ＧＡＩＮを最大にし、入力オープン時の出力を測定する。	100(mVp-p)以下	
4.2 ディスクリ (1) ダイヤル目盛試験	ＧＡＩＮを最大にて、ディスクリダイヤル目盛を、各測定点に設定し、マキューリーパルサーからの信号を本体に入力し、チェック端子のアンプ及びディスクリ出力にシンクロスコープを接続し、マキューリーパルサーからの信号を可変し、スケーラが計数を始める時のＡＭＰ　ＯＵＴの信号を読む。 ＩＮＰＵＴ＝ＳＣＩＮＴＩ　ＩＮＰＵＴ ＳＩＧ　＝ＳＣＩＮＴＩ 入力信号　＝ＰＯＳ 測定点（ダイヤル目盛り） 7.0 、5.0 、3.0 、0.5		
(2) 分解能測定	ダブルパルサーにて下記の様に設定した波形をＳＣＩＮＴＩ　ＩＮより入力し、アンプ出力にシンクロスコープを接続し、波形を確認しながら同時にディスクリ出力にもシンクロスコープを接続し、その出力波形を観測しながらダブルパルサーのＤＥＬＡＹを可変して出力波形同志が重なる前の入力波形の間隔を読みとる。  周波数　：　約10(Kcps)	2(μsec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3 スケーラタイマ (1) クロックパルス確認 （ＴＥＳＴ）	ＭＯＤＥをＴＥＳＴにし、プリセットタイムを１（Ｍ）にして測定する。 ＳＴＡＲＴスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	6000(cpm)	
(2) プリセット動作確認	ＰＲＥＳＥＴ　ＴＩＭＥを１（Ｍ）、５（Ｍ）にすると同時間にて、タイマが停止することを確認する。 ＳＴＡＲＴスイッチを押すと計数が開始し、計測時間がプリセットタイムに達すると終了すること。	正常に動作すること。	
(3) 表示確認	測定及びＴＥＳＴ動作に於いて正常に表示することを確認する。	正常に表示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

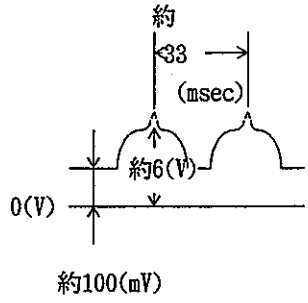
機器名	フィールドモニタ	型　名	MAR－202－WS1	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．絶縁試験	電源一次側とアース間の絶縁抵抗を測定すること。	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	
3．低圧電源部試験	電源出力ラインにデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。	±24(V)　±1.0(V)以内 ±15(V)　±0.6(V)以内 ±12(V)　±0.5(V)以内	＊J_5 ①　：　GND ③　：　+15(V) ④　：　+12(V) ⑥　：　-24(V) ⑦　：　+24(V) ⑧　：　-15(V) ⑨　：　-12(V)
4．高圧電源部試験 4.1 高圧設定精度の確認	高圧用デジタルボルトメータを接続してHVダイヤルを100(V),1000(V), 2000(V), 3000(V) に設定し、出力設定精度を測定する。	±10(V)以内	
4.2 HVリミット設定動作の確認	HVリミットを、1000(V) に設定し、HV値を上げて行く。	1000(V) を超えるとHV値は設定できないこと。	
5．リニアアンプ部試験	MPG出力を-10(V)とし、MAR-202WS1のGAINを1000とした時、アンプ出力(CP-9)波高が10.0(V) となる時のATT 値を読む 下記各条件で増幅度を確認する。 MPG設定 Tr　：　FAST Td　：　10(μsec) 極性：　NEG	ATTダイヤル値が60±1(dB)であること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	MAR－202WS1設定 DETECTOR　：　SCINT Input　：　Amp Shaping　：　Gauss Polarity　：　Neg IN Polarity　：　Pos OUT		
6．総合直線性	LL=100(%)、MPGのパルスハイトダイヤルを10.0として計数開始するようATT ダイヤル、MPGのノーマライズを調整する。MPGのパルスハイトダイヤルを8.0,6.0,4.0,2.0 として計数開始するLLレベルを調べる。 MPG設定 Tr　：　FAST Td　：　10(μsec) 極性：　NEG MAR－202WS1設定 DETECTOR　：　SCINT Input　：　Amp Shaping　：　Gauss Gain　：　20 Polarity　：　Neg IN Polarity　：　Pos OUT SCA　：　INT	レベルのずれが±1(%)以内であること。	
7．エネルギー補償部試験			
7.1 FG　OUT波形確認	リアパネル面FG　OUTの出力波形をシンクロスコープにて確認する。	下図の波形であること。  	

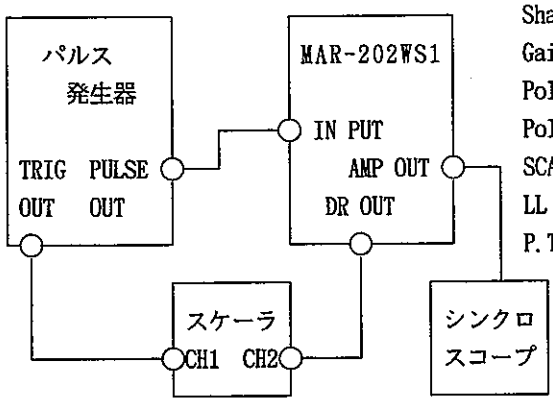
点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7.2 通過率の確認	下記接続により、パルス発生器のAMPLITUDEダイヤルを6.000に設定し、線量率通過率が99.9***(***はどんな数値でも良い、例えば 99.9853や 99.9062等) になるようにパルス発生器を調整する。 以下指定のパルス波高にパルス発生器のAMPLITUDE を合わせて通過率を測定する。 通過率(%) ＝ＣＨ１／ＣＨ２×100(%)		

入力波高(V)	通過率 (%)
-6.2	0
-6.0	103　～　97
-3.0	68.79 ～　64.79
-1.0	16.17 ～　15.23
-0.4	3.325 ～　3.131
-0.17	1.726 ～　0.930
-0.10	2.647 ～1.425
-0.09	0



ＭＡＲ－２０２ＷＳ１設定

DETECTOR	:	SCINT
Input	:	Amp
Shaping	:	Gauss
Gain	:	20
Polarity	:	Neg IN
Polarity	:	Pos OUT
SCA	:	INT
LL	:	0.5%
P.T	:	0.5MIN

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

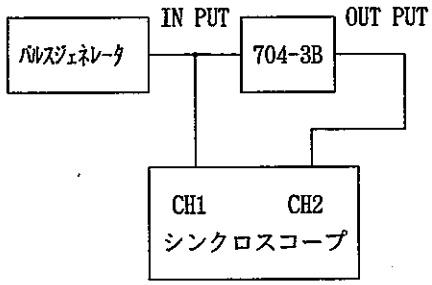
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8．機能検査	・表示器動作 VIEW ANGLEを回すことによりコントラストの調整をする。	左記動作に問題ないこと。	
	・時計動作 年月日時刻を設定する。	左記動作に問題ないこと。	＊Dateモードにて
	・計数動作		
	PT動作　ＸＰＧ設定１(Kcpm) P.T ＝1.0(min)にて計数させ、時間、計数表示を読み取る。	設定時間（１分）で計数ストップすること。 ＰＴ＝1.0minにて 1000 ±2 カウント以内	＊MAR-202WS1設定 DETECTOR : SCINT Input　: Amp Shaping : Gauss Polarity:Neg IN Polarity:Pos OUT SCA　:INT LL　:1.0% P.T　:1.0M
	PC動作　ＸＰＧ設定１(Kcpm) P.T ＝1000(Count) にて計数させ、時間、計数表示を読み取る。	設定計数値(1000)で計数ストップすること。 ＰＴ＝1000(Count)にて 1.00 ±0.01(min)以内	
	データメモリ ＬＩＳＴモードにする。	測定したデータを記録していること。	
	自己診断機能(TEST MODE) SCALER SCALER TEST を選択する。	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	
	DISPLY DISPLY TEST を選択する。	表示器にテスト文字パターンを表示すること。	
	PRINTER PRINTER TESTを選択する。	PRINTER にテストパターンを印字すること。	
	ROM ROM　TEST を選択する。	自動的にテストを行い、「SELF TEST Completed 」を表示すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	マルチモードアンプリファイヤー	型　名	７０４－３Ｂ	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ＣＯＡＲＳＥ ＧＡＩＮ点検	 入力インピーダンス：93(Ω) 出力インピーダンス：1(Ω) 及び 93(Ω) 上記の接続にて、レンジスイッチ１、ＦＩＮＥダイヤル10.0にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。 GAINﾚﾝｼﾞ / 利得 1 / 0(dB) 2 / 6(dB) 5 / 14(dB) 10 / 20(dB) 20 / 26(dB) 50 / 34(dB)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

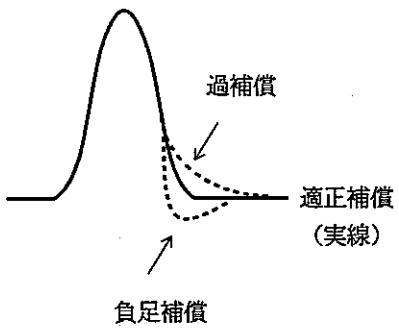
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	利得＝$20\log_{10}\frac{\text{出力電圧}}{\text{入力電圧}}$ パルスジェネレータ設定 ・周波数　：10(Kcps) ・パルス幅　：300(nsec) ・パルス立上り立下り：10(nsec) ・極性　：正 ７０４－３B設定 ・ＩＮ　ＰＵＴ　：ＰＯＳ ・HIGH.C.R/LOW.C.R　：HIGH.C.R ・１ｓｔ　ＤＩＦＦ　：ＯＵＴ ・ＩＮＴ　：ＯＵＴ ・２ｓｔ　ＤＩＦＦ　：ＯＵＴ		
3．ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ点検	２項の接続にて、レンジスイッチ50、ＦＩＮＥダイヤル10.0～4.0 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。	9.5 ±0.5(dB) 以内	
4．無歪最大出力電圧点検	２項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V) 以上	
5．パルス整形確認	下記設定にて外部パルスを入力し、出力パルスをシンクロスコープにて確認する。		
5.1 １ｓｔ　ＤＩＦＦ	・ＩＮＴ　：ＯＵＴ ・２ｓｔ　ＤＩＦＦ　：ＯＵＴ １ｓｔ　ＤＩＦＦ DL (0.8μs),OFF 0.1,0.2,0.5,1,2,5,10(μsec)		
5.2 ＩＮＴ	・１ｓｔ　ＤＩＦＦ　：ＯＵＴ ・２ｓｔ　ＤＩＦＦ　：ＯＵＴ ＩＮＴ OFF 0.1,0.2,0.5,1,2,5,10(μsec)		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

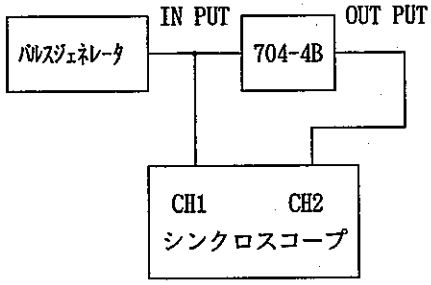
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5.1 1st DIFF	・INT　　：OUT ・1st DIFF　：OUT （BIP OUTのみ） 2st DIFF DL (0.8μs), OFF 0.1, 0.2, 0.5, 1, 2, 5, 10(μsec)		
6. PZ(ポールゼロキャンセル) 点検	パルスジェネレータ ― 704-3B ― シンクロスコープ 上記の接続にて、シンクロスコープにて出力波形を観測し、ベースラインができるだけ速く0 に戻る様リヤパネル中央のVRにて調整する。  パルスジェネレータ設定 ・パルス立上り　　100(nsec) ・パルス立下り　　50(μsec) 704－3B設定 ・CORSE GAIN：5 ・FINE GAIN　：最大 ・1st DIFF　：2(μsec) ・INT　　：2(μsec) ・出力波高　　：10(V)	適正補償	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

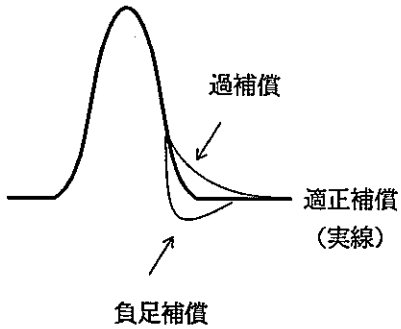
機器名	リニアアンプ	型　名	７０４－４Ｂ	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ＣＯＡＲＳＥ ＧＡＩＮ点検	 上記の接続にて、レンジスイッチ１、ＦＩＮＥダイヤル10.0にてパルスジェネレータからの入力を可変し、増幅器出力が5(V)となる様に調整する。次に、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、下記の計算式にて増幅度の利得を計算する。 下記各レンジに於いて増幅度及び波形を確認する。 GAINﾚﾝｼﾞ　利得 1　12(dB) 2　18(dB) 4　24(dB) 8　30(dB) 16　36(dB) 32　42(dB) 64　48(dB)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	$利得=20\log_{10}\frac{出力電圧}{入力電圧}$ パルスジェネレータ設定 ・RISE TIME　：100(nsec) ・DECAY TIME　：50(μsec) ・極性　：正 ７０４－４B設定 ・ＩＮ　ＰＵＴ　：ＰＯＳ ・ＵＮＩＰ－ＢＩＰ　：ＵＮＩＰ ・ＳＨＡＰＩＮＧ　：０．８		
3．ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮ点検	２項の接続にて、レンジスイッチ50、ＦＩＮＥダイヤル 2.0～5.0 に変化させた時の、パルスジェネレータの入力電圧を測定し、増幅度の利得を計算する。	9.5 ±2.0(dB) 以内	
4．無歪最大出力電圧点検	２項の接続にて、入力電圧を徐々に増していった時、飽和する直前の出力波高を測定する。	10(V) 以上	
5．パルス整形確認	ユニポーラ波形にて、ＳＨＡＰＩＮＧスイッチを0.4,0.8,1.6 に切り換えた時、波形の時定数が0.4,0.8,1.6(μsec)に可変することをシンクロスコープにて観測する。	正常に動作すること。	
6．ＰＺ(ﾎﾟｰﾙｾﾛｷｬﾝｾﾙ)点検	シンクロスコープにて出力波形を観測し、ベースラインができるだけ速く戻る様にポールキャンセルトリマ(PZ)にて調整する。  	適正補償	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

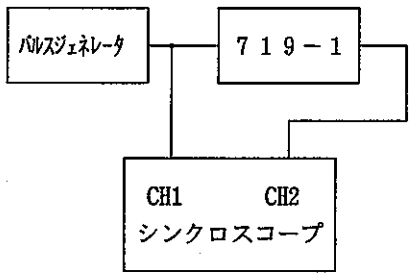
機器名	サムディレイアンプ	型　名	７１９－１	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．GAIN確認 2.1 IN PUT GAIN ADJ (FRONT PANEL)	パルスジェネレータよりIN PUT（FRONT PANEL）に1(V)を入力し、GAIN ADJ VRにより出力電圧を1(V)になる様に調整する。	入力1(V)に対して ±2(%)以内	
2.2 IN PUT1 直線性	パルスジェネレータよりIN PUT1（REAR PANEL）に1(V), 2(V), 4(V)を入力し、出力をシンクロスコープにより測定する。 パルスジェネレータ設定 ・周波数　：100(Kcps) ・パルス幅　：1(μsec) ・パルス立上り立下り：100(nsec)		
2.3 IN PUT2 直線性	パルスジェネレータよりIN PUT2（REAR PANEL）に1(V), 2(V), 4(V)を入力し、出力をシンクロスコープにより測定する。 パルスジェネレータ設定 ・周波数　：100(Kcps) ・パルス幅　：1(μsec) ・パルス立上り立下り：100(nsec)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2.4　サム動作の確認	パルスジェネレータよりＩＮ　ＰＵＴ（ＦＲＯＮＴ　ＰＡＮＥＬ）Ⓐ、ＩＮ　ＰＵＴ1Ⓑ、ＩＮ　ＰＵＴ2Ⓒ にそれぞれ1(V),2(V),3(V)を入力し、出力が Ⓐ+Ⓑ +Ⓒ 値になることを確認する。		
3．最大無歪出力電圧確認	入力電圧を徐々に増していって時、飽和する直前の出力波高を測定する。	±10(V) 以上	
4．ディレイ時間の確認	 上記の接続にて、出力パルスの下記ディレイ時間をシンクロスコープにより測定する。 （ピーク値にて確認） ディレイ時間 0.25(μsec)　、　0.50(μsec) 1.00(μsec)　、　1.00(μsec) 2.00(μsec)　、　2.00(μsec) 6.75(μsec) パルスジェネレータ設定 ・入力波高　：　1(V) ・パルス幅　：　1(μsec) ・周波数　　：　100(Kcps)		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	パーソナルチェッカー	型　名	ＰＳＣ－５０１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．充電機能の確認			
2.1 CHARGEランプの確認（赤色）	フル充電の状態のパーソナルチェッカーを、充電器より１分以上取り外したのちに再び充電器にもどしCHARGEランプが赤色に変わる事を確認する。	正常に点灯すること	
2.2 CHARGEランプの確認（緑色）	約２時間充電の後CHARGEランプが緑色に変わることを確認する。	正常に点灯すること	
3．動作確認			
3.1 計数音の確認	規定線源を用いて計数させ、計数音を発する事を確認する。	正常に動作すること	
3.2 計数ランプの確認	規定線源を用いて計数させ、計数ランプが点滅することを確認する。	正常に動作すること	
4．自然計数率の測定	通常の使用環境において５分間測定する	１ｃｐｍ以内	
5．α効率の測定	充電器に付属の動作試験器、線源を用い１分間の計数値を測定し、次の式にてα効率を求める。 $\alpha\text{効率}=\dfrac{\text{計数値}-\text{ＢＧ値}}{\text{基準値}}\times 100\%$	１０％以上	
6．感度分布の確認	充電器に付属の動作試験器、線源を用い感度分布に異常の無いことを確認する。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．充電値の交換	年1回充電池を交換する。	交換後パーソナルチェカーが正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	充電器	型　名	CHG-R74-4414	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 6）電磁波ノイズの影響がないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．充電器			
2.1 充電機能の確認	パーソナルチェッカー(PSC-501）が充電できること。	赤又は、緑のCHARGEランプが点灯し、パーソナルチェッカが充電できること	
3．動作試験器			
3.1 ﾁｪｯｶｰｼｰｹﾝｽ動作の確認	フロントパネルの下半分のメンテナンスパネル板をはずし、設定器により計数時間(sec,min)を任意設定する。 計数判定値の上限値及び下限値を任意設定し、パーソナルチェッカ（PSC-501)を挿入口に止まるまで軽く押し込み以下の動作を確認する。		
	・パーソナルチェッカ（PSC-501)を挿入した時チェック中ランプが点灯すること。	正常に点灯すること	
	・設定時間で計数が完了し計数結果が設定範囲以内の場合OKランプが点灯し、設定範囲以外であればNGランプが点灯すること。	正常に点灯すること	
3.2 出力信号確認（ＰＨＳ　ＯＵＴ）	シンクロスコープを　ＰＨＳ　ＯＵＴに接続し出力波高を確認する。	ＣＭＯＳレベル	
4．内部線源の確認	放射能測定装置により強度を確認する。	２．３６ｋＢｑ±１０％以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／7

改訂　平成8年3月

機器名	線量率計モジュール	型　名	AM－23M21R3	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前に、AMPコネクタの⑭ピンに24(V) を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．点検前確認	調整前にリニア、ログ1及び2レンジに於いて下記信号を入力したときの指示値及び記録計を確認する。 （ログ1及びログ2について行う場合はUN1(AMC-2112)を抜いてから行うこと。） 入力端子：J_1－39ピン メータ／レンジ／入力電圧(V)／指示値(参考値) リニア／2.5(μGy/h)／2.0／1.65(μGy/h) ログ1／Lo／1.0／0.83(μGy/h) ログ2／Med／1.0／0.083(mGy/h) ログ2／Hi／1.0／8.3(mGy/h)	読み値	＊別添：代表値（感度一覧表）参照 ＊レコーダ出力端子 ・リニア： J_1－③ピン(+) J_1－④ピン(-) ・ログ1： J_1－⑤ピン ・ログ2： J_1－⑦ピン

点検整備技術要領書

整理番号		2／7

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	レンジを切り換える場合は、ミックスコネクタ(Ｊ１)の下記端子に+24(V)を印加する。 メータ／レンジ／Ｊ１／Ｊ101 ログ1／Ｌｏ／23番／Ｊ ログ2／Ｍｅｄ／22番／Ｋ Ｈｉ／21番／10		
3．レンジ切換回路確認	裏面パネルミックスコネクタ(Ｊ１)の39ピンより+11.0(V)を入力し、ＵＮ１のＣＰ３が+24(V)→0(V)となることを確認する。また、Ｊ１の39ピンより +90(mV)を入力し、ＵＮ１のＣＰ４が+24(V)→0(V)となることを確認する。 +24(V)→0(V)とならない場合は、下記のボリュウムを調整する。 ボリュウム +11.0(V)　ＲＶ９(ＵＮ１) +90(mV)　ＲＶ10(ＵＮ１)	正常に動作すること	＊UN1 : AMC-2112
4．非直線性測定 4.1 リニア	ミックスコネクタ(Ｊ１)に電圧発生器より下記の電圧を入力し、各レンジに於いてメータ指示値及びレコーダ出力値を測定する。 ・入力電圧補正式 実際に入力する電圧(V) ＝代表値×（感度 (V/μGy/h) ／ A）(V) メータ／レンジ／A値 リニア／／1.21 (V/μGy/h) ログ1／Ｌｏ／1.21 (V/μGy/h) ログ2／Ｍｅｄ／1.21×10^{-2} (V/μGy/h) Ｈｉ／1.21×10^{-4} (V/μGy/h)	指示値 フルスケールの±3(%)以内 記録計 ±0.3(mV)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		3／7

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

入力端子：J_1－39ピン

レンジ	入力電圧	メータ	レコーダ
(μGy/h)	(V)	(μGy/h)	(mV)
0.25	0.061	0.05	2.00
	0.182	0.15	6.00
	0.303	0.25	10.00
0.5	0.121	0.1	2.00
	0.365	0.3	6.00
	0.605	0.5	10.00
1	0.242	0.2	2.00
	0.726	0.6	6.00
	1.21	1.0	10.00
2.5	0.605	0.5	2.00
	1.815	1.5	6.00
	3.025	2.5	10.00
5	1.21	1.0	2.00
	3.65	3.0	6.00
	6.05	5.0	10.00
10	2.42	2.0	2.00
	7.26	6.0	6.00
	9.68	8.0	8.00

注）入力電圧は入力電圧補正式参照

・レコーダ出力端子：Ｊ１　３・４ピン

規格外の場合は、下記要領にて調整する。

①ＵＮ１の３番端子をＧＮＤに落とし、前面パネルのレンジ切換スイッチＳ２Ａを0.25(μGy/h)、ＺＥＲＯ　ＣＨＥＣＫスイッチＳ１をＺＥＲＯ　ＣＨＥＣＫにする。

②ＲＶ７を調整してＣＰ１の出力を０(V)とした後、ＲＶ８を調整してＣＰ２の出力を０(V)とする。

③Ｊ１の39ピンより下記電圧を入力し、ＣＰ２が10(V)になるようにＵＮ１のＲＶ１～６を調整する。

点検整備技術要領書

整理番号		4／7

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	入力端子: J_1－39ピン レンジ(μGy/h) / 入力電圧(V) / ボリュウム 0.25 / 0.303 / ＲＶ１ 0.5 / 0.605 / ＲＶ２ 1 / 1.21 / ＲＶ３ 2.5 / 3.025 / ＲＶ４ 5 / 6.05 / ＲＶ５ 10 / 12.1 / ＲＶ６ 注）入力電圧は入力電圧補正式参照 ④ＣＰ２が 10(V)のときメータ指示がフルスケールになるようにＲＶ9 を調整する。同時にレコーダ出力が10(mV)となるようにＲＶ2 を調整する。 ＊ＲＶ9 及びＲＶ2 は裏面パネル取付け抵		
4.2 ログ1	ＵＮ１(基板 AMC-2112)を抜いてから以下の点検を行う。 ミックスコネクタ(J1)に電圧発生器より下記の電圧を入力し、各レンジに於いてメータ指示値及びレコーダ出力値を測定する。 入力端子：J_1－39ピン レンジ / 入力電圧(V) / メータ(μGy/h) / レコーダ(mV) Ｌｏ / 0.0121 / 0.01 / 0.00 0.121 / 0.10 / 2.50 1.21 / 1.0 / 5.00 Ｍｅｄ / 0.121 / 10 / 7.50 1.21 / 10^2 / 10.00 注）入力電圧は入力電圧補正式参照 規格外の場合は、下記要領にて調整する。 ・Ｌｏレンジ ①Ｊ１の23ピンに+24(V)を印加し、Ｌｏレンジとする。 ②Ｊ１の39ピンより1.21(V)を入力し、ＣＰ４が5.0(V)になるようにＲＶ15を調整する。	指示値 ±0.16(dec)以内 記録計 ±0.4(mV)以内	＊ログ基板 UN2 ： AMC-2113R3 ＊レコーダ出力端子 J_1－⑤ピン ＊レンジ切換(+24V) ・Ｌｏレンジ J_1－㉓ピン J101－Ｊピン ・Ｍｅｄレンジ J_1－㉒ピン J101－Ｋピン

点検整備技術要領書

整理番号		5／7

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	・Ｍｅｄレンジ ①Ｊ１の22ピンに+24(V)を印加し、Ｍｅｄレンジとする。 ②Ｊ１の39ピンより1.21(V) を入力し、ＣＰ４が 10(V)になるようにＲＶ14を調整する。 　また、メータ指示がフルスケールになるように裏面パネルのＭＥＴＥＲ ＡＤＪ（ＬＯＧ１）ボリウム（ＲＶ14）を調整する。 　同様に、レコーダ出力(Ｊ１の５ピン)が10(mV)になるように裏面パネルの ＲＥＣ　ＡＤＪ（ＬＯＧ１）ボリウム（ＲＶ15）を調整する。 ③0.121(V)を入力し、ＣＰ４の出力が 7.5 (V) になるようにＲＶ14を調整する。 ④1.21(V)を入力し、ＣＰ４の出力が10.0 (V) になるようにＲＶ12を調整する。		

点検整備技術要領書

改訂　平成8年　3月

整理番号		6／7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3 ログ2	ＵＮ１（基板　AMC-2112）を抜いてから以下の点検を行う。 ミックスコネクタ(J1)に電圧発生器より下記の電圧を入力し、各レンジに於いてメータ指示値及びレコーダ出力値を測定する。 入力端子 ： J_1-39ピン 注）入力電圧は入力電圧補正式参照 規格外の場合は、下記要領にて調整する。 ・Ｈｉレンジ ①Ｊ１の21ピンに+24(V)を印加し、Ｈｉレンジとする。 ②Ｊ１の39ピンより12.1(V) を入力し、ＣＰ２が 10(V)になるようにＲＶ３を調整する。 また、メータ指示がフルスケールになるように裏面パネルのＭＥＴＥＲ ＡＤＪ（ＬＯＧ２）ボリュウム(RV10)を調整する。 同様に、レコーダ出力(Ｊ１の７ピン)が10(mV)になるように裏面パネルのＲＥＣ　ＡＤＪ（ＬＯＧ２）ボリュウム（ＲＶ3)を調整する。 ③0.121(V)を入力し、ＣＰ２の出力が5.0(V) になるようにＲＶ３を調整する。 ④12.1(V)を入力し、ＣＰ２の出力が10.0(V) になるようにＲＶ１を調整する。 ・Ｍｅｄレンジ ①Ｊ１の22ピンに+24(V)を印加し、Ｍｅｄレンジとする。 ②Ｊ１の39ピンより1.21(V)を入力し、ＣＰ２が2.5(V)になるようにＲＶ４を調整する。	指示値 ±0.16(dec)以内 記録啓 ±0.4(mV)以内	＊ログ基板 UN2 ： AMC-2113R3 ＊レコーダ出力端子 J_1－⑦ピン ＊レンジ切換(+24V) ・Ｈｉレンジ J_1－㉑ピン J101－⑩ピン ・Ｍｅｄレンジ J_1－㉒ピン J101－Ｋピン

レンジ	入力電圧 (V)	メータ (mGy/h)	レコーダ (mV)
Ｍｅｄ	0.121	0.01	0.00
	1.21	0.10	2.50
Ｈｉ	0.121	1.0	5.00
	1.21	10	7.50
	9.68	80	9.90

点検整備技術要領書

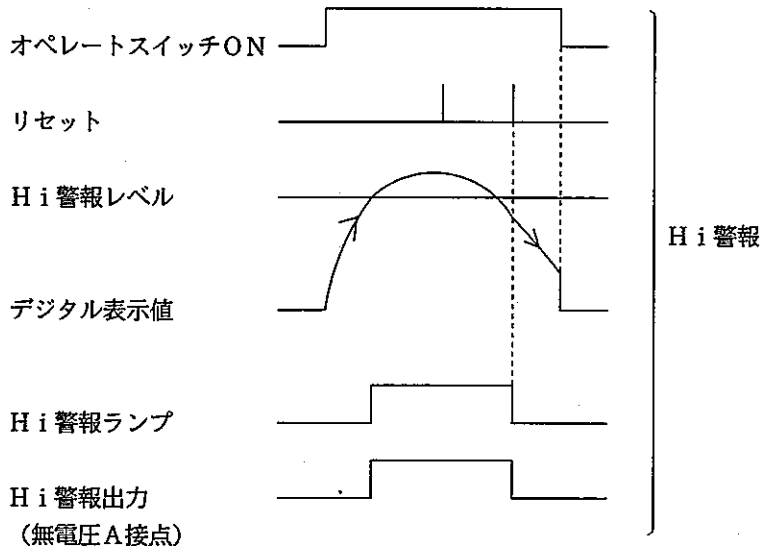
改訂　平成8年　3月

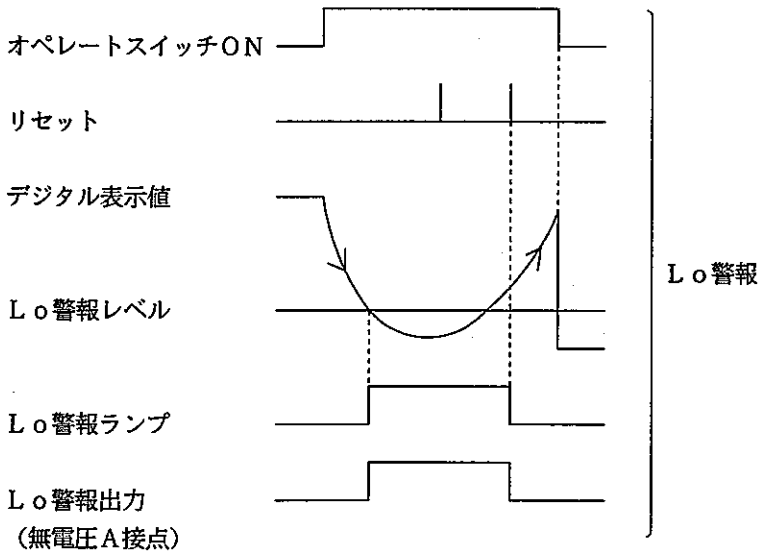
整理番号		7／7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．ログ1、2レンジ信号出力確認	①スイッチをログ1とし、Ｊ1の22ピンに+24(V)印加してＭｅｄレンジにする。 Ｊ1の39から9.9(V)を入力し、ＵＮ3のＫ4の12が 24(V)→0(V)となることを確認する。 規格外の場合は、ＵＮ3のＶＲ1を調整する。 ②スイッチをログ2とし、Ｊ1の21ピンに+24(V)を印加しＨｉレンジにする。 Ｊ1の39から 0.1(V) を入力し、ＵＮ3のＫ4の7が 24(V)→0(V)となることを確認する。 規格外の場合は、ＵＮ3のＶＲ2を調整する。	正常に動作すること	＊UN3 ： AMC-7114
6．時定数測定	リニアでレンジを1(μGy/h)し、メータ指示値がフルスケールになる様に電圧を入力する。 そして、入力信号を切り、指示値がフルスケールから 37(%)まで振れ下がる時間を測定する。 時定数切換スイッチ　ＦＡＳＴ ＳＬＯＷ	ＦＡＳＴ 30±9(秒)以内 ＳＬＯＷ 300±90(秒)以内	
7．アラーム動作確認	①Ｊ1の39ピンに電圧発生器より電圧を入力し、Ｈｉ　ＡＬＡＲＭの設定指針よりメータ指示が上昇したときのＨｉ　ＡＬＡＲＭ動作を確認する。 ②Ｌｏ　ＡＬＡＲＭの設定指針よりメータ指示が下降したときのＬｏ　ＡＬＡＲＭ動作を確認する。	ランプ点灯すること。	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表

警報出力手動リセット





高線量率計感度一覧表

モニタリングステーション

場所 / レンジ	ＳＴ－１ (V/μGy/h)	ＳＴ－２ (V/μGy/h)	ＳＴ－３ (V/μGy/h)	ＳＴ－４ (V/μGy/h)	ＳＴ－５ (V/μGy/h)
リニア　Ｌｏ	1.211	1.187	1.233	1.270	1.238
ログ１　Ｌｏ	1.211	1.187	1.233	1.270	1.238
ログ２　Ｍｅｄ	1.223×10^{-2}	1.166×10^{-2}	1.236×10^{-2}	1.267×10^{-2}	1.181×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.218×10^{-4}	1.176×10^{-4}	1.233×10^{-4}	1.274×10^{-4}	1.166×10^{-4}

注）　ＳＴ－１：安全管理棟屋上、ＳＴ－２：東海村役場、ＳＴ－３：長砂、ＳＴ－４：高野、ＳＴ－５：田向南門

モニタリングポスト

場所 / レンジ	ＭＰ－１ (V/μGy/h)	ＭＰ－２ (V/μGy/h)	ＭＰ－３ (V/μGy/h)	ＭＰ－４ (V/μGy/h)	ＭＰ－５ (V/μGy/h)
リニア　Ｌｏ	1.186	1.232	1.232	1.164	1.220
ログ１　Ｌｏ	1.186	1.232	1.232	1.164	1.220
ログ２　Ｍｅｄ	1.215×10^{-2}	1.244×10^{-2}	1.185×10^{-2}	1.245×10^{-2}	1.251×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.247×10^{-4}	1.251×10^{-4}	1.198×10^{-4}	1.232×10^{-4}	1.168×10^{-4}

場所 / レンジ	ＭＰ－６ (V/μGy/h)	ＭＰ－７ (V/μGy/h)
リニア　Ｌｏ	1.214	1.255
ログ１　Ｌｏ	1.214	1.255
ログ２　Ｍｅｄ	1.194×10^{-2}	1.228×10^{-2}
ログ２　Ｈｉ	1.197×10^{-4}	1.184×10^{-4}

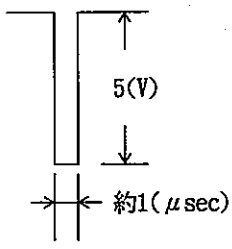
注）　ＭＰ－１：正門前、ＭＰ－２：検査棟前、ＭＰ－３：再処理、ＭＰ－４：ＰＵ燃前、ＭＰ－５：新グラウンド
ＭＰ－６：濃縮、ＭＰ－７：実規模開発試験室前

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	デジタル線量率計	型　名	AM-42MR74-2435	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．レートメータ 非直線性の測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに下記の周波数を入力する。そして、デジタル表示及び記録計出力を測定する。 パルスジェネレータ極性　　負 記録計出力　Ｊ１　3(＋)、4(－) （下表） 記録計出力規格外の場合は、パルスジェネレータ（負）にて5×10^{3}(cpm)を入力し、裏パネルのＲＥＣ　ＡＤＪボリューム（モジュール内ユニット上）にて、記録計出力3.88(mV)に調整する。 パルスジェネレータ入力信号  	デジタル表示 ±4(%)±1digit以内 記録計出力 ±0.2(mV)以内	＊前面パネルの入力接栓より信号を入力する場合は、 INPUT SELECTを FRONT にする。 ＊Ｊ１はＮＩＭ規格コネクタ J_1＝３９番

入力周波数 (cpm)	デジタル表示 (μGy/H)	記録計出力 (mV)
500	3.9×10^{-2}	3.88
5K	38.8×10^{-2}	3.88
50K	388×10^{-2}	3.88
500K	3880×10^{-2}	3.88

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>点 検 整 備 要 領</th><th>点検整備基準</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>3．テスト動作</td><td>テストスイッチをONにし、以下の項目についてテストを行う。

自 己 診 断
<table><tr><th>区分</th><th>確認項目</th><th>判　定　基　準</th></tr><tr><td>1</td><td>表　示</td><td>3(秒)間全点灯</td></tr><tr><td>2</td><td>電　源</td><td>低圧電源入力の断をチェック</td></tr><tr><td>3</td><td>プログラム</td><td>プログラムの破壊のチェック</td></tr><tr><td>4</td><td>メモリー</td><td>メモリーの読み書きのチェック</td></tr><tr><td>5</td><td>カウンター</td><td>内蔵テストパルスの計数チェック</td></tr></table>エラーコード表<table><tr><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th></tr><tr><td>1</td><td>PW</td><td>9</td><td>PW、C</td></tr><tr><td>2</td><td>PR</td><td>10</td><td>PR、C</td></tr><tr><td>3</td><td>PW、PR</td><td>11</td><td>PW、PR、C</td></tr><tr><td>4</td><td>M</td><td>12</td><td>M 、C</td></tr><tr><td>5</td><td>PW、M</td><td>13</td><td>PW、M 、C</td></tr><tr><td>6</td><td>PR、M</td><td>14</td><td>PR、M 、C</td></tr><tr><td>7</td><td>PW、PR、M</td><td>15</td><td>PW、PR、M 、C</td></tr><tr><td>8</td><td>C</td><td></td><td></td></tr></table></td><td>表示が3(秒)間全部点灯した後、TROUBLEが点灯しないこと</td><td></td></tr>
</table>

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	PW：　電　源 PR：　プログラム M　：　メモリー C　：　カウンター		
4．レンジマーカー出力測定	下記端子にデジタルボルトメータを接続し、パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに入力し、入力周波数を変化した時のレンジマーカーの出力電圧が以下に示す電圧にあることを確認する。 レンジマーカー端子 Ｊ１　12(＋)　13(－)	±0.4(mV)以内	ＤＩＳ　ＳW設定 5(ON:固定レンジ)
5．時定数測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力する。 時定数を10、100(sec)に設定し、それぞれについて表示値が 37(%)に落ちるまでの時間を測定する。	各レンジ±30(%)以内	

レンジ	出力電圧
10^{-1}	1(mV)±0.4(mV)
1	2(mV)±0.4(mV)
10	3(mV)±0.4(mV)
10^{2}	4(mV)±0.4(mV)
10^{3}	5(mV)±0.4(mV)
10^{4}	6(mV)±0.4(mV)

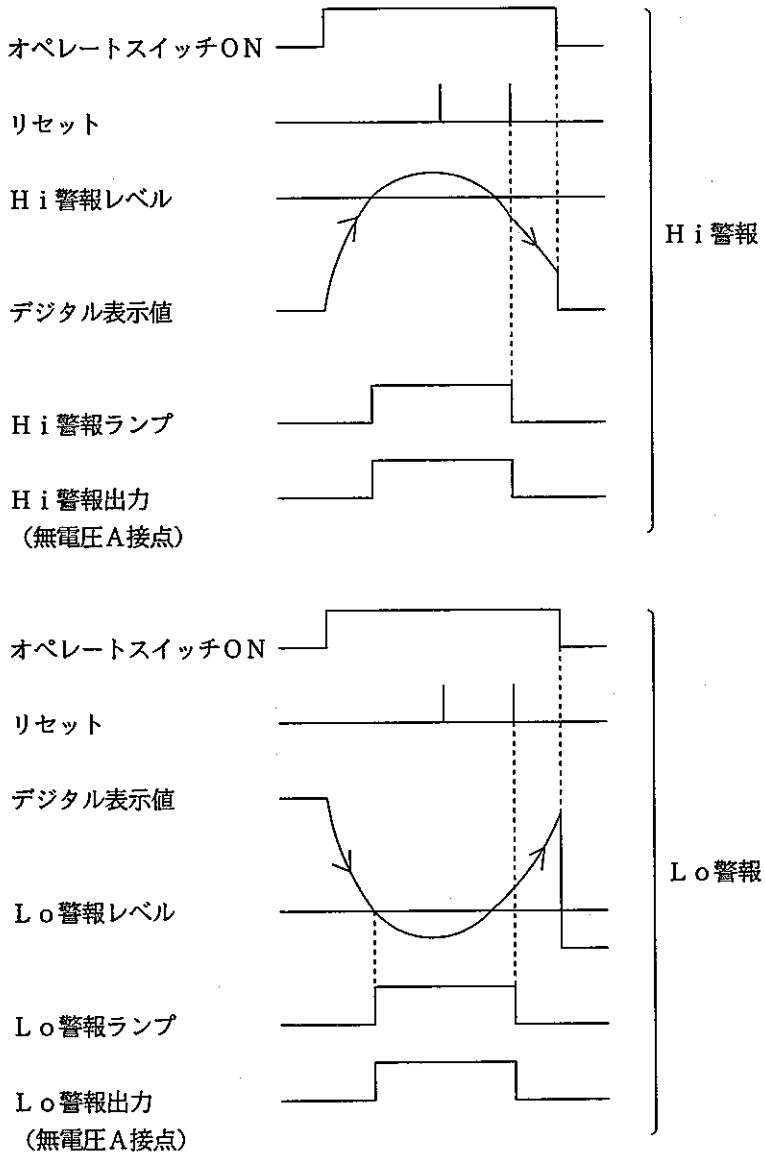
点検整備技術要領書

整理番号		4／4

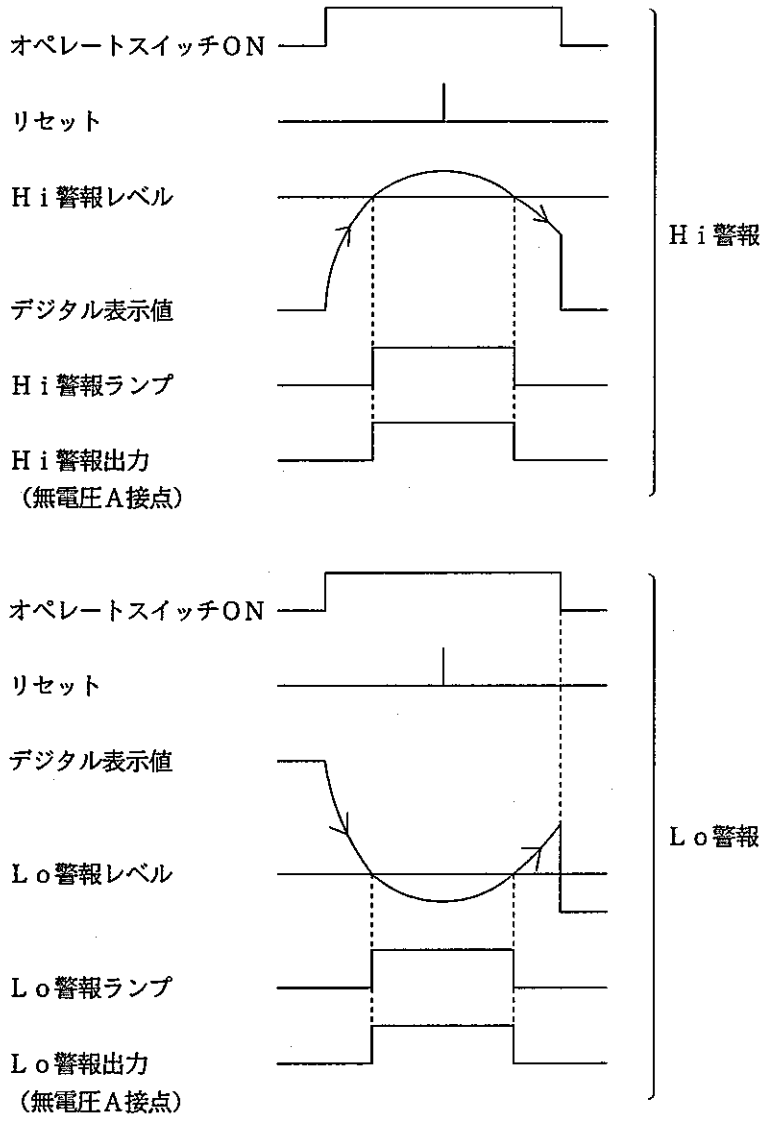
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アラーム動作確認	①パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力し、Ｈｉ警報レベルの設定値にて、Ｈｉ警報動作することを確認する。 ②Ｌｏ警報レベルの設定値にて、Ｌｏ警報動作することを確認する。 ③警報出力手動リセット及び警報出力自動リセット動作を行う。	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表
（警報出力手動リセット）



アラーム動作シーケンス表
（警報出力自動リセット）



注）

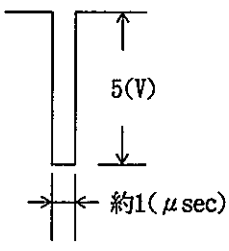
入力周波数から線量率換算定数は 1．29×10⁴（cpm／μGy）で行った。

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	デジタル線量率計	型　名	AM-42M03R,AM-42M03R-U3	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．レートメータ 非直線性の測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに下記の周波数を入力する。そして、デジタル表示及び記録計出力を測定する。 パルスジェネレータ極性　　負 記録計出力　Ｊ１　3(＋)、4(－) （下表） 記録計出力規格外の場合は、パルスジェネレータ（負）にて5×10³(cpm)を入力し、裏パネルのＲＥＣ　ＡＤＪボリューム（モジュール内ユニット上）にて、記録計出力3.88(mV)に調整する。 パルスジェネレータ入力信号  	デジタル表示 ±4(%)±1digit以内 記録計出力 ±0.2(mV)以内	＊前面パネルの入力接栓より信号を入力する場合は、 INPUT SELECTを FRONT にする。 ＊Ｊ１はＮＩＭ規格コネクタ Ｊ１＝３９番

入力周波数(cpm)	デジタル表示(μGy/H)	記録計出力(mV)
500	3.9×10^{-2}	3.88
5K	38.8×10^{-2}	3.88
50K	388×10^{-2}	3.88
500K	3880×10^{-2}	3.88

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>点検整備要領</th><th>点検整備基準</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>3．テスト動作</td><td>テストスイッチをONにし、以下の項目についてテストを行う。

自己診断

<table>
<tr><th>区分</th><th>確認項目</th><th>判定基準</th></tr>
<tr><td>1</td><td>表　示</td><td>3(秒)間全点灯</td></tr>
<tr><td>2</td><td>電　源</td><td>低圧電源入力の断をチェック</td></tr>
<tr><td>3</td><td>プログラム</td><td>プログラムの破壊のチェック</td></tr>
<tr><td>4</td><td>メモリー</td><td>メモリーの読み書きのチェック</td></tr>
<tr><td>5</td><td>カウンター</td><td>内蔵テストパルスの計数チェック</td></tr>
</table>
エラーコード表
<table>
<tr><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>PW</td><td>9</td><td>PW、C</td></tr>
<tr><td>2</td><td>PR</td><td>10</td><td>PR、C</td></tr>
<tr><td>3</td><td>PW、PR</td><td>11</td><td>PW、PR、C</td></tr>
<tr><td>4</td><td>M</td><td>12</td><td>M 、C</td></tr>
<tr><td>5</td><td>PW、M</td><td>13</td><td>PW、M 、C</td></tr>
<tr><td>6</td><td>PR、M</td><td>14</td><td>PR、M 、C</td></tr>
<tr><td>7</td><td>PW、PR、M</td><td>15</td><td>PW、PR、M 、C</td></tr>
<tr><td>8</td><td>C</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td><td>表示が3(秒)間全部点灯した後、 TROUBLE が点灯しないこと</td><td></td></tr>
</table>

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	PW：　電　源 PR：　プログラム M　：　メモリー C　：　カウンター		
4．レンジマーカー出力測定	下記端子にデジタルマルチメータを接続し、パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに入力し、入力周波数を変化した時のレンジマーカーの出力電圧が以下に示す電圧にあることを確認する。 レンジマーカー端子 Ｊ１　12(＋)　13(－) レンジ／出力電圧 10^{-1}：1(mV)±0.4(mV) 1：2(mV)±0.4(mV) 10：3(mV)±0.4(mV) 10^{2}：4(mV)±0.4(mV) 10^{3}：5(mV)±0.4(mV) 10^{4}：6(mV)±0.4(mV)	±0.4(mV)以内	ＤＩＳ　ＳＷ設定 5(ON:固定レンジ)
5．時定数測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力する。 時定数を10、100(sec)に設定し、それぞれについて表示値が 37(%)に落ちるまでの時間を測定する。	各レンジ±30(%)以内	

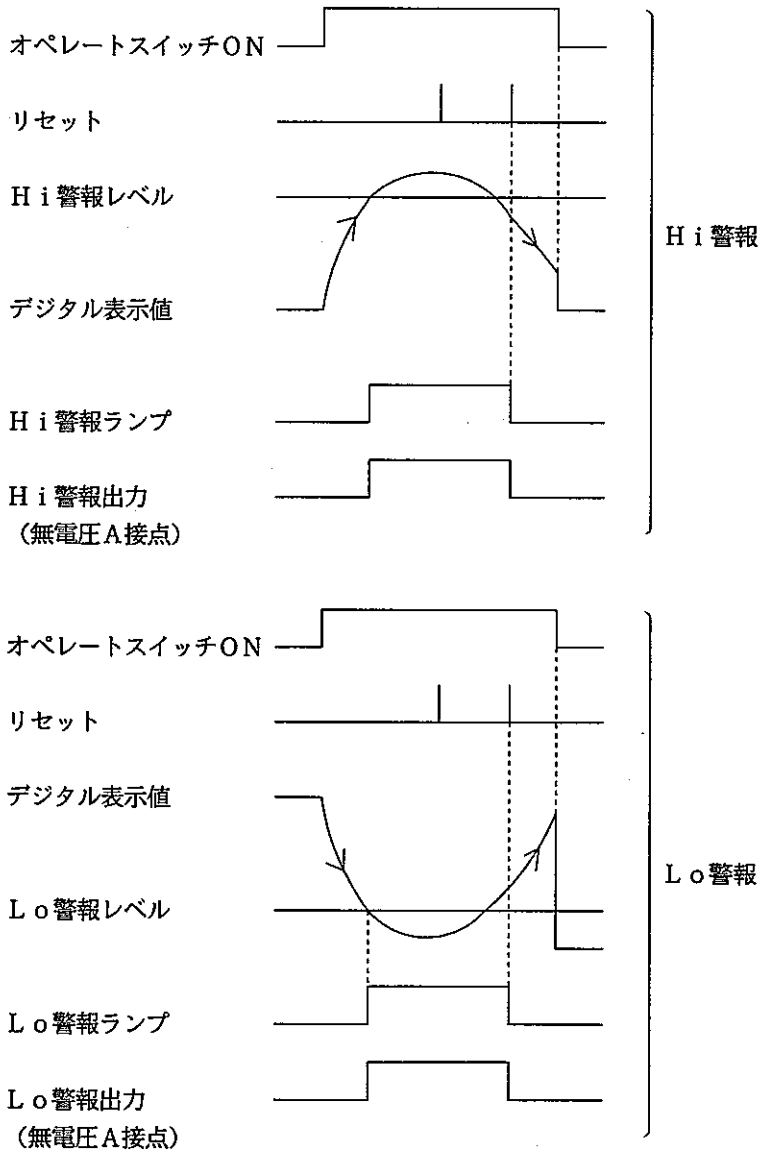
点検整備技術要領書

整理番号		4／4

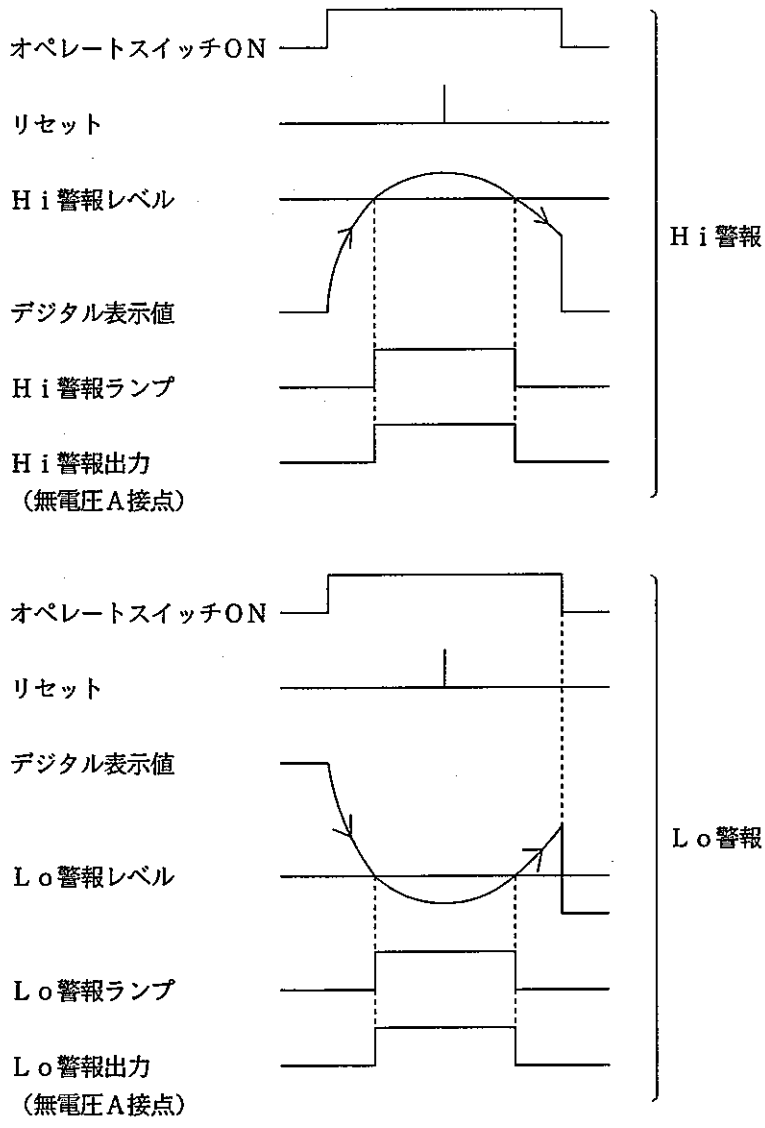
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アラーム動作確認	①パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力し、Ｈｉ警報レベルの設定値にて、Ｈｉ警報動作することを確認する。 ②Ｌｏ警報レベルの設定値にて、Ｌｏ警報動作することを確認する。 ③警報出力手動リセット及び警報出力自動リセット動作を行う。	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表
（警報出力手動リセット）



アラーム動作シーケンス表
（警報出力自動リセット）



注）

入力周波数から線量率換算定数は 1．29×10⁴（cpm／μGy）で行った。

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成8年3月

機器名	デジタル線量率計	型　名	AM-22MR74-3857	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

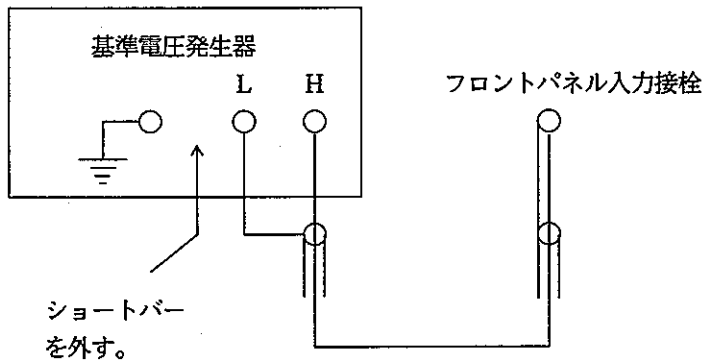
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前にＡＭＰコネクタの⑭ピンに24(V) を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．レートメータ 非直線性の測定	前面パネルの入力接栓より基準電圧発生器にて信号を入力する。 次に、下記表に示す入力電圧での表示値及び記録計出力電圧を読む。 フロントパネルのロータリスイッチを下記表に示す様、Lo,Med,Hi に切換、終了後はＵＳＥにする。 記録計出力　J_1　3番(+)、4番(-)	デジタル表示 ±2(%)±1(digit)以内 記録計出力 ±0.3(mV)以内	＊Ｊ１はＮＩＭ規格コネクタ J_1＝３９番

単　位	ﾚﾝｼﾞ	INPUT	デジタル表示	記録計出力
μGy/h	Lo	0.6(V)	58.0～62.0 ($\times10^{-2}$ μGy/h)	5.7 ～6.3 (mV)
		6 (V)	580 ～620 ($\times10^{-2}$ μGy/h)	5.7 ～6.3 (mV)
	Med	0.3(V)	2800～3200 ($\times10^{-2}$ μGy/h)	2.7 ～3.3 (mV)
		0.6(V)	5800～6200 ($\times10^{-2}$ μGy/h)	5.7 ～6.3 (mV)
		0.9(V)	8800～9200 ($\times10^{-2}$ μGy/h)	8.7 ～9.3 (mV)
mGy/h		3 (V)	28.0～32.0 ($\times10^{-2}$ mGy/h)	2.7 ～3.3 (mV)
		6 (V)	58.0～62.0 ($\times10^{-2}$ mGy/h)	5.7 ～6.3 (mV)
		9 (V)	88.0～92.0 ($\times10^{-2}$ mGy/h)	8.7 ～9.3 (mV)
	Hi	0.6(V)	580 ～620 ($\times10^{-2}$ mGy/h)	5.7 ～6.3 (mV)
		6 (V)	5800～6200 ($\times10^{-2}$ mGy/h)	5.7 ～6.3 (mV)

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ＶＦＣの調整（ＡＭＰ－２０３４） 入力信号　：　基準電圧発生器 （出力フローティングで入力）  1）調整　T．C(sec) は 10 に設定 ・　ＶＦＣ　Ｌ－レンジ　フロントパネルのロータリースイッチをＬにする。 入力信号＝0(V)とする。CP-IN 0(mV)にRV-ZA1で調整、CP-VF1 0(mV) RV-ZA2で調整 入力信号＝0.6(V)とする。CP-VF1 6(V)にRV-2で調整、表示線量率60×10^{-2}（μGy/h）にRV-SPAN を調整 入力信号＝0.01(V) とし、表示線量率1.00×10^{-2}（μGy/h）にRV-OFFSET 調整 RV-SPAN 調整とRV-OFFSET 調整を３回繰り返す。 ・　ＶＦＣ　Ｈ－レンジ　フロントパネルのロータリースイッチをＨにする。 入力信号＝10(V) とする。CP-VF1 10(V)にRV-1調整、表示線量率 $10^{3}\pm10\times10^{-2}$（μGy/h）となること。 2）バイボーラ　オフセットの確認 入力信号＝0(V)とする。フロントパネルのロータリースイッチをUSE → ZERO にする。 表示線量率が 0.0± 0.2×10^{-2}（μGy/h）となるようにRV8 にて調整する。 ロータリースイッチはUSE に戻す。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

改訂　平成8年3月

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>点検整備要領</th><th>点検整備基準</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>3．テスト動作</td><td>テストスイッチをONにし、以下の項目についてテストを行う。

自己診断

<table>
<tr><th>区分</th><th>確認項目</th><th>判定基準</th></tr>
<tr><td>1</td><td>表　示</td><td>3(秒)間全点灯</td></tr>
<tr><td>2</td><td>電　源</td><td>低圧電源入力の断をチェック</td></tr>
<tr><td>3</td><td>プログラム</td><td>プログラムの破壊のチェック</td></tr>
<tr><td>4</td><td>メモリー</td><td>メモリーの読み書きのチェック</td></tr>
<tr><td>5</td><td>カウンター</td><td>内蔵テストパルスの計数チェック</td></tr>
</table>
エラーコード表

<table>
<tr><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>PW</td><td>9</td><td>PW、C</td></tr>
<tr><td>2</td><td>PR</td><td>10</td><td>PR、C</td></tr>
<tr><td>3</td><td>PW、PR</td><td>11</td><td>PW、PR、C</td></tr>
<tr><td>4</td><td>M</td><td>12</td><td>M 、C</td></tr>
<tr><td>5</td><td>PW、M</td><td>13</td><td>PW、M 、C</td></tr>
<tr><td>6</td><td>PR、M</td><td>14</td><td>PR、M 、C</td></tr>
<tr><td>7</td><td>PW、PR、M</td><td>15</td><td>PW、PR、M 、C</td></tr>
<tr><td>8</td><td>C</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td><td>表示が3(秒)間全部点灯した後、 TROUBLE が点灯しないこと</td><td></td></tr>
</table>

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	PW：電　源 PR：プログラム M　：メモリー C　：カウンター		
4．レンジマーカー出力測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに任意のを入力し、レンジマーカーの出力電圧が以下に示す電圧にあることを確認する。 レンジマーカー端子 Ｊ１　12(＋)　13(－) レンジ／出力電圧 25／2(mV)±0.4(mV) 10^2／3(mV)±0.4(mV) 10^3／4(mV)±0.4(mV) 10^4／5(mV)±0.4(mV) 10^5／6(mV)±0.4(mV) 10^6／7(mV)±0.4(mV) 10^7／8(mV)±0.4(mV)	±0.4(V)以内	ＤＩＳ　ＳＷ設定 5(ON:固定レンジ)
5．時定数測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力する。 時定数を10、100(sec)に設定し、それぞれについて表示値が 37(%)に落ちるまでの時間を測定する。	各レンジ±30(%)以内	

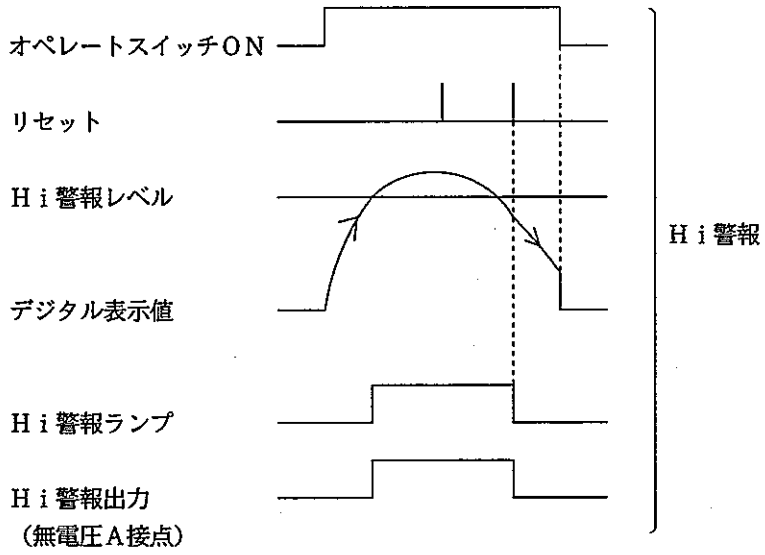
点検整備技術要領書

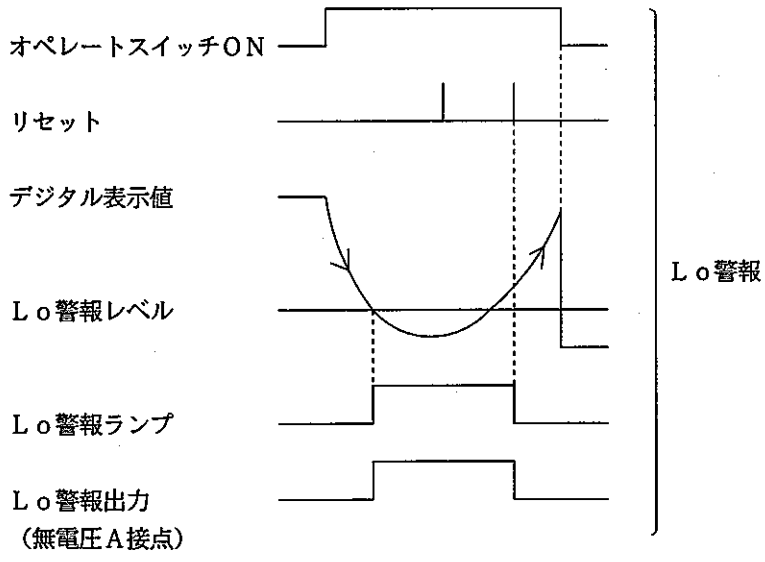
整理番号		5／5

改訂　平成8年3月

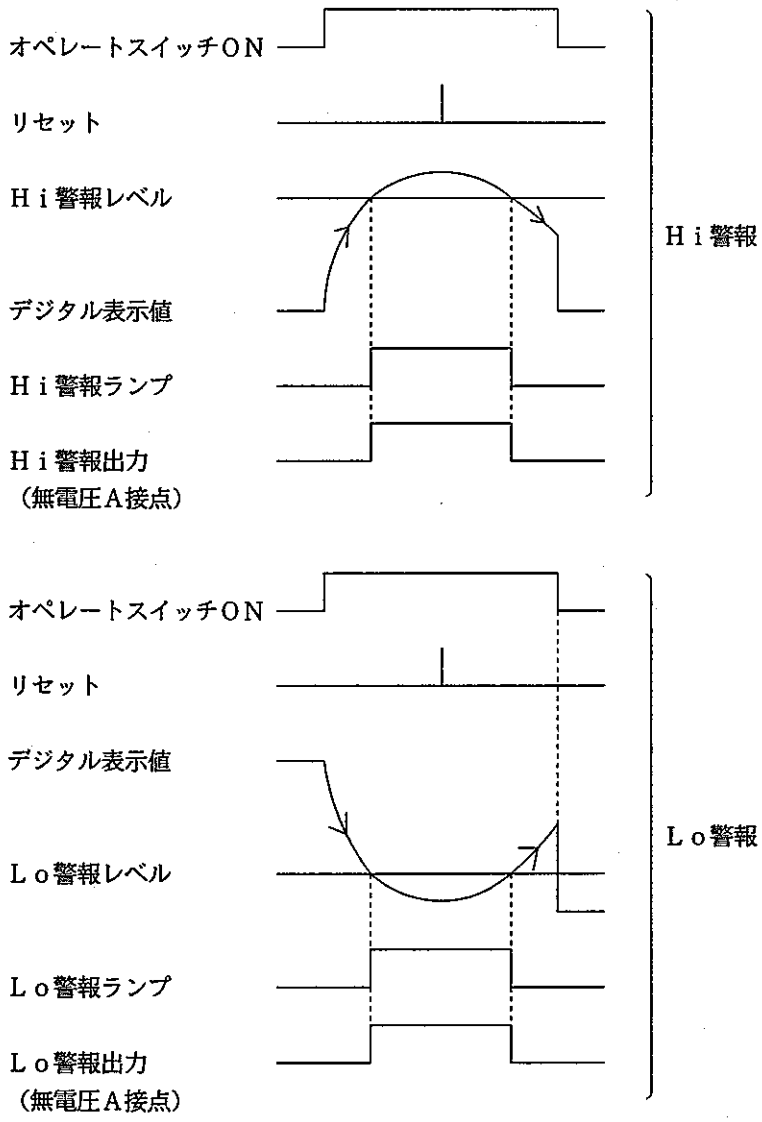
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アラーム動作確認	準備中入力信号（AMP42コネクタJ1⑨ピンをGNDに接続）を入力し、アラーム確認を行う。 ①標準電圧発生器からINPUTに信号を入力し、Hi警報レベルの設定値以上にて、Hi警報動作することを確認する。 ②Lo警報レベルの設定値以下にて、Lo警報動作することを確認する。 ③警報出力手動リセット及び警報出力自動リセット動作を行う。	Hi及びLo　ランプ点灯	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表
（警報出力手動リセット）





アラーム動作シーケンス表
（警報出力自動リセット）



点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	デジタル線量率計	型　名	AM-42MR74-3857	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．レートメータ 非直線性の測定	前面パネルの入力接栓よりパルスジェネレータからの信号を入力する。 次に、下記表に示す周波数での表示値及び記録計出力電圧を読む。 フロントパネルのロータリスイッチを下記表に示す様、μGy/h、mGy/h に切換、終了後　はＵＳＥにする。 パルスジェネレータ極性　　正 記録計出力　Ｊ１　3番(+)、4番(-)	デジタル表示 ±1(%)±1(digit)以内 記録計出力 ±0.2(mV)以内	＊Ｊ１はＮＩＭ規格コネクタ Ｊ１＝３９番

ﾛｰﾀﾘｰｽｲｯﾁ	IN PUT (cps)	表示	記録計出力 (mV)
$\times 10^{-2}$ μGy/h	60	51.4～ 53.4 (μGy/h)	5.04～5.44
	600	514 ～ 534 (μGy/h)	5.04～5.44
	6000	5140 ～5340 (μGy/h)	5.04～5.44
$\times 10^{-2}$ mGy/h	60	51.4～ 53.4 (mGy/h)	5.04～5.44
	600	514 ～ 534 (mGy/h)	5.04～5.44
	6000	5140 ～5340 (mGy/h)	5.04～5.44

記録計出力規格外の場合は、
パルスジェネレータ極性(+) にて600(cps)を入力し、裏面パネルに指示したREC.ADJ ボリューム(モジュール内ユニット上) にて、レコーダ出力を0.6(mV) に調整する。
同様にEXT METER ADJ ボリュームにて、外部メータ出力を0.6(mV) に調整する（但し、モニタリングシステムに組み込む場合

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3．テスト動作	レコーダ及び外部メータがない場合は、本調整は必要ない） テストスイッチをONにし、以下の項目についてテストを行う。	表示が3(秒)間全部点灯した後、TROUBLEが点灯しないこと	

自　己　診　断

区分	確認項目	判　定　基　準
1	表　示	3(秒)間全点灯
2	電　源	低圧電源入力の断をチェック
3	プログラム	プログラムの破壊のチェック
4	メモリー	メモリーの読み書きのチェック
5	カウンター	内蔵テストパルスの計数チェック

エラーコード表

ｺｰﾄﾞ	内　容	ｺｰﾄﾞ	内　容
1	PW	9	PW、C
2	PR	10	PR、C
3	PW、PR	11	PW、PR、C
4	M	12	M 、C
5	PW、M	13	PW、M 、C
6	PR、M	14	PR、M 、C

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	<table><tr><td>7</td><td>PW、PR、M</td><td>15</td><td>PW、PR、M 、C</td></tr><tr><td>8</td><td>C</td><td></td><td></td></tr></table> PW：　電　源 PR：　プログラム M　：　メモリー C　：　カウンター		
4．レンジマーカー出力測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに任意のを入力し、レンジマーカーの出力電圧が以下に示す電圧にあることを確認する。 レンジマーカー端子 Ｊ１　12(＋)　13(－) <table><tr><th>レンジ</th><th>出力電圧</th></tr><tr><td>25</td><td>2(mV)±0.4(mV)</td></tr><tr><td>10^2</td><td>3(mV)±0.4(mV)</td></tr><tr><td>10^3</td><td>4(mV)±0.4(mV)</td></tr><tr><td>10^4</td><td>5(mV)±0.4(mV)</td></tr><tr><td>10^5</td><td>6(mV)±0.4(mV)</td></tr><tr><td>10^6</td><td>7(mV)±0.4(mV)</td></tr><tr><td>10^7</td><td>8(mV)±0.4(mV)</td></tr></table>	±0.4(mV)以内	ＤＩＰ　ＳＷ設定 5(ON:固定レンジ)
5．時定数測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力する。 時定数を10、100(sec)に設定し、それぞれについて表示値が 37(%)に落ちるまでの時間を測定する。	各レンジ±30(%)以内	

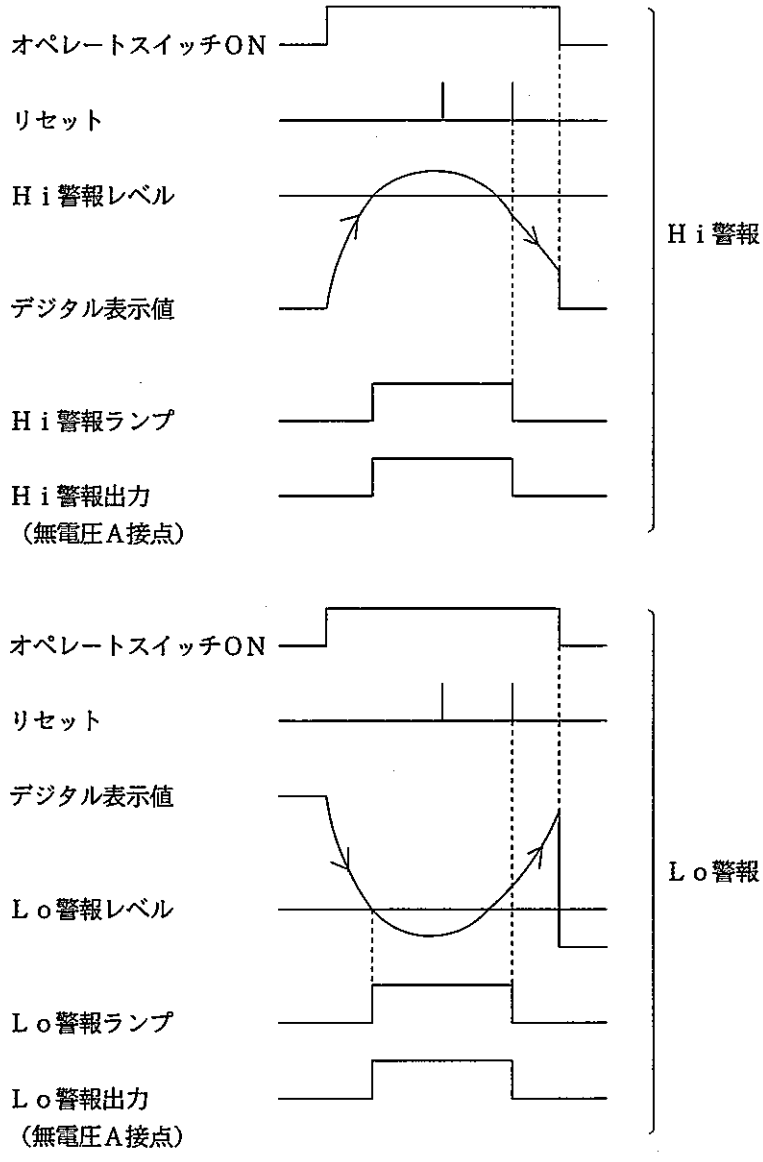
点検整備技術要領書

整理番号		4／4

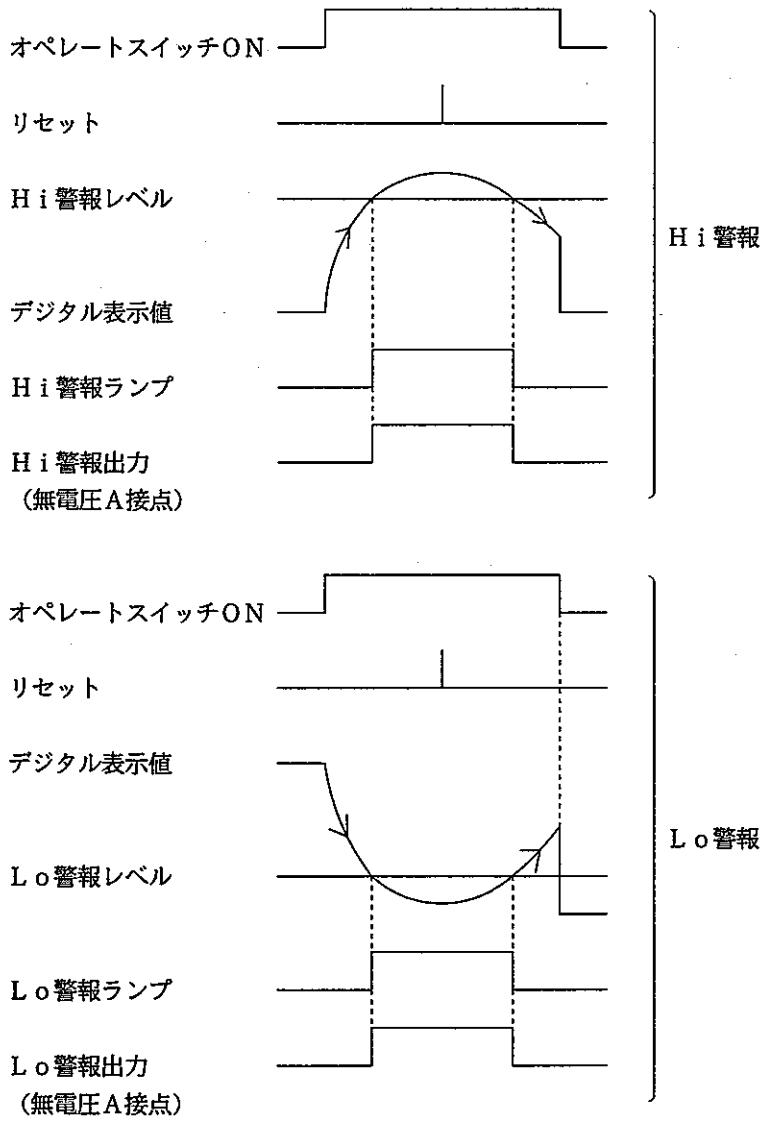
改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アラーム動作確認	①パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力し、Ｈｉ警報レベルの設定値以上にて、Ｈｉ警報動作することを確認する。 ②Ｌｏ警報レベルの設定値以下にて、Ｌｏ警報動作することを確認する。 ③警報出力手動リセット及び警報出力自動リセット動作を行う。	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表
（警報出力手動リセット）



アラーム動作シーケンス表
（警報出力自動リセット）

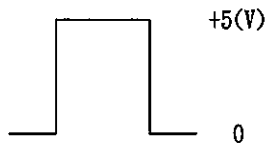


点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

機器名	対数線量率計モジュール	型　名	AM-43MR74-1670-1	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前にＡＭＰコネクタの①番に 24(V)を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．ディスクリレベル設定 ＵＮ２　AMC-4113C （Ｊ102）	Ｊ①42ピンコネクタの40ピン（ＰＨＳＩＮ）にパルスジェネレータより下記信号を入力したとき、ＩＣ１の出力(ＣＰ５)下記波形が現われる直前の入力電圧を測定する。 規格外の場合は、ＲＶ７を調整する。 パルスジェネレータ設定 波高値　-1(V) ＩＣ１（ＣＰ５）出力  	-1±0.2(V)以内	
３．レートメータ非直線性測定 ＵＮ２　AMC-4113C （Ｊ102）	ＲＶ①（Hi CAL）及びＲＶ②（Lo CAL）を中央に合わせ、レンジを（μGy/h）（Ｊ①15ピン開放）に設定する。	指示値 ±0.16(デカード)以内 記録計出力 ±0.4(mV)以内	表面パネル ＲＶ①（Hi CAL） ＲＶ②（Lo CAL）

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	J①40ピン（PHS　IN）にパルスジェネレータ（パルス波高 -3(V)、パルス幅1(μsec)）より、1×10⁴(cps)の信号を入力氏、RV5よりOPアンプIC5の出力（CP9）を10.00(V)に調整。 同じく1(cps)の信号を入力し、RV2によりIC5（CP9）を0.00(V) に合わせる。 10⁴(cps)入力状態でRV④（METER ADJ）でメータを 8.7×10¹(μGy/h)に調整する。 またRV③（REC　ADJ）により、レーコダ出力を9.94(mV)に調整する。		裏面パネル RV③ (REC ADJ) RV④ (METER ADJ)
	同様にレンジ(mGy/h)（J①15ピンGND）についても、下記各点についても確認を行う。		J①15ピン K1　4番

記録計出力　J1　3（+），4（−）

レンジ	入力周波数(cps)	メータ	レコーダ(mV)	調整
μGy/h	10^1	8.7×10^{-2}	2.44	RV2
	10^2	8.7×10^{-1}	4.94	
	10^4	8.7×10^1	9.94	RV5
mGy/h	10^1	8.7×10^{-2}	2.44	RV2
	10^2	8.7×10^{-1}	4.94	
	10^4	8.7×10^1	9.94	RV5

	以上各点におけるメータ指示及びレーコダ出力		
4．自動レンジ切換動作確認	RV1を中間位置に設定し、レスポンスはSLOWとする。次に10⁴(cps)を入力してメータをフルスケール 87(μGy/h) まで振らせる。 そして、レンジを（μGy/h)から(mGy/h)へ切り換える（J①42ピンコネクタの15ピ	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

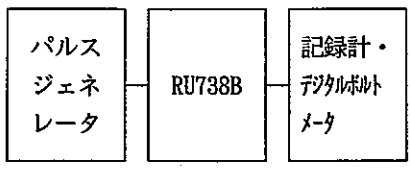
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	ンをＧＮＤに落とす）ろ同時に入力信号も10^4(cps)から10(cps）へ変化させる。 その時、レスポンスも瞬時にＳＬＯＷ ⇨ ＦＡＳＴとなり、約3秒後に再びＳＬＯＷへ戻る。		約11(cps）で 10(μGy/h)
	ＲＶ1により「 *8.7 ×10^{-2}（μGy/h）でＦＡＳＴ⇨ＳＬＯＷに戻る」様に調整する。		* 8.7 ×10^{-2}（μGy/h）±0.3(ﾃﾞｶｰﾄﾞ)
5．アラーム動作確認 ＵＮ１ AMC-7117C （Ｊ101）	裏面パネルのスイッチをＭＡＮにする。	ランプ点灯すること	
	・Ｈｉアラーム 指示をＣＡＬにし、Ｈｉアラーム設定針を下げる。	Ｈｉアラームランプ点灯 Ｊ①の18、19ピン導通	Ｊ①　Ｊ101 　　(UN1) 18　　H 19　　8
	その後、再び上げＨｉアラームボタンを押す。	点灯状態が消灯 Ｊ①の18、19ピン導通状態が開放	
	・Ｌｏアラーム Ｌｏアラーム設定針をメータ針より上げる。	Ｌｏアラームランプ点灯 Ｊ①の21、22ピン導通	Ｊ①　Ｊ101 　　(UN1) 21　　11 22　　12
6．ＣＡＬ値確認	μGy/hレンジのＨｉ及びＬｏに於いて、キャリブレーションスイッイをＣＡＬにしてメータの指示値を確認する。	±0.16(デカード)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	線量率計	型　名	RU738B	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと ＊本モジュール内部スイッチを下記設定にて以下の点検を行う。 CPUボード S_1－1　OFF（レンジ出力　1V） S_1－2　OFF（アナログ出力 1V） I／Oボード S_1－1　ON S_1－2　ON S_1－3　OFF S_1－4　ON S_1－5　OFF S_1－6　OFF S_1－7　OFF S_1－8　OFF（リニア）	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．ディスクリレベル確認	INPUTにマーキュリーパルサーを接続し、計数を開始する時の波高値を測定する。 マーキュリーパルサー設定 POLARITY　＝　正		
3．非直線性確認		指示値：FS±3(%)以内 記録計：±0.03(V)以内	レンジ F　固　定 R　自　動

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

上記の接続によりレンジをＦ１Ｅ２（固定レンジ１×10^2 フルスケール）にし、下記設定にて指示値及び記録計を確認する。

記録計出力

Ｊ３　：　８（＋）

７（ＧＮＤ）

パルスジェネレータ設定値

ＰＯＬＡＲＩＴＹ　：　正

波高値　：　3(V)

パルス幅　：　1(μsec)

入力値 (cpm)	メータ (μGy/H)	記録計 (mV)
0	0	0
1000	7.67×10^{-2}	76.7
2000	15.3×10^{-2}	153.0
5000	38.3×10^{-2}	383.0
10000	76.7×10^{-2}	767.0

規格外の場合

動作モード＝ＴＥＳＴ、テストクロック＝1(MHz)、乗算係数＝1 ×10^0

レコーダ・レンジ＝1 ×10^0 フルスケール・固定に設定し、ＣＰＵボードのＴＰ３（ＧＮＤ）とＴＰ11にデジタルマルチメータを接続する。

ＣＰＵボードのＳ，－２をオフとし、ＶＲ４を回してデジタルマルチメータの指示値を1.000(V)±0.7(%)に合わせる。

ＣＰＵボードのＳ，－２をオフとし、ＶＲ５を回してデジタルマルチメータの指示値を10.00(mV) ±1.5(%)に合わせる。

上記を繰り返し、ＶＲ４、５を回さなくてもそれぞれの誤差範囲内に入る様にする。

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．レンジ出力電圧確認	レンジ出力端子にデジタルマルチメータを接続し、下記レンジ設定における出力電圧を測定する。 レンジ出力端子 Ｊ３　：　15（＋） 7（ＧＮＤ） 規格外の場合 レコーダ・レンジを1×10^{0} フルスケールに設定し、ＣＰＵボードのＴＰ３（ＧＮＤ）及びＴＰ１０にデジタルマルチメータを接続する。 ＣＰＵボードのS_1－１をオフとし、ＶＲ３を回してデジタルマルチメータの指示値を0.950(V)±1(%)に合わせる。 ＣＰＵボードのS_1－１をオンとし、ＶＲ１を回してデジタルマルチメータの指示値を9.500(mV) ±0(%)に合わせる。 上記を繰り返し、ＶＲ１、３を回さなくてもそれぞれの誤差範囲内に入る様にする。	各±1.5(%)以内	
5．内部設定確認	手動操作により各内部設定を下記要領により設定する。 ・Ｓ／Ｒスイッチ 表示モードをアップデートにする。 （Ｓ／Ｒ埋込ＬＥＤの点灯及び数字表示器のうち１桁が点滅することによって確認出来る） ・ＳＥＬ 変更したい表示が出るまでＳＥＬを繰り返し押す。		

レンジ設定	出力電圧
1×10^{-9}	0.050(V)
3×10^{-5}	0.275(V)
1×10^{0}	0.500(V)
3×10^{5}	0.775(V)
3×10^{9}	0.975(V)

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	・ＳＦＴ　ＵＰ ＳＦＴを押して変更したい桁を点滅させ、ＵＰを押してその桁の内容を変更する。現在の内容以外も変更したい場合は、ＳＥＬにより変更する。 上記順序で操作したら、最後にＳ／Ｒスイッチを推してノーマルに戻した時点で初めて新設定値が有効となる。 ＨＨ設定値 Ｈ設定値 Ｌ設定値 換算乗数 （Ｃ４．６－３） レコード出力 （ｒＦ１Ｅ２） ディスクリ電圧 上記以外は 動作モード ０１ 標準偏差 Ｓ３		

注）

入力周波数から線量率換算定数は１１３（ｃｐｍ／μＲ）で行った。又、μＧｙ換算定数は０．００８７３を使用。

ＲＵ７３８の換算定数が有効数字２桁しか入力出来ないため３項非直線性確認の表の様な、メータ指示値になった。

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	デジタル計数率計	型　名	AM-42M03R-M2	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．レートメータ 非直線性の測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに下記の周波数を入力する。そして、デジタル表示及び記録計出力を測定する。 パルスジェネレータ極性　　負 記録計出力　Ｊ１　3(＋)、4(－) （下表） 記録計出力規格外の場合は、パルスジェネレータ（負）にて5×10³(cpm)を入力し、裏パネルのＲＥＣ　ＡＤＪボリューム（モジュール内ユニット上）にて、記録計出力5.0(mV)に調整する。	デジタル表示 ±1(%)±1digit以内 記録計出力 ±0.5(mV)以内	＊前面パネルの入力接栓より信号を入力する場合は、 INPUT SELECTを FRONT にする。 ＊Ｊ１はＮＩＭ規格コネクタ J_1 ＝３９番

入力周波数 (cpm)	デジタル表示 (cpm)	記録計出力 (mV)
5	5	5.0
50	50	5.0
500	500	5.0
5K	5K	5.0
50K	50K	5.0
500K	500K	5.0

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>点検整備要領</th><th>点検整備基準</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>3．テスト動作</td><td>テストスイッチをONにし、以下の項目についてテストを行う。

自己診断

<table>
<tr><th>区分</th><th>確認項目</th><th>判定基準</th></tr>
<tr><td>1</td><td>表　示</td><td>3(秒)間全点灯</td></tr>
<tr><td>2</td><td>電　源</td><td>低圧電源入力の断をチェック</td></tr>
<tr><td>3</td><td>プログラム</td><td>プログラムの破壊のチェック</td></tr>
<tr><td>4</td><td>メモリー</td><td>メモリーの読み書きのチェック</td></tr>
<tr><td>5</td><td>カウンター</td><td>内蔵テストパルスの計数チェック</td></tr>
</table>
エラーコード表
<table>
<tr><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>PW</td><td>9</td><td>PW、C</td></tr>
<tr><td>2</td><td>PR</td><td>10</td><td>PR、C</td></tr>
<tr><td>3</td><td>PW、PR</td><td>11</td><td>PW、PR、C</td></tr>
<tr><td>4</td><td>M</td><td>12</td><td>M 、C</td></tr>
<tr><td>5</td><td>PW、M</td><td>13</td><td>PW、M 、C</td></tr>
<tr><td>6</td><td>PR、M</td><td>14</td><td>PR、M 、C</td></tr>
<tr><td>7</td><td>PW、PR、M</td><td>15</td><td>PW、PR、M 、C</td></tr>
<tr><td>8</td><td>C</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td><td>表示が3(秒)間全部点灯した後、 TROUBLE が点灯しないこと</td><td></td></tr>
</table>

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	PW：　電　源 PR：　プログラム M　：　メモリー C　：　カウンター		
4．レンジマーカー出力測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに任意のを入力し、レンジマーカーの出力電圧が以下に示す電圧にあることを確認する。 レンジマーカー端子 Ｊ１　12(＋)　13(－)	±0.4(mV)	ＤＩＰ　ＳＷ設定 5(ON:固定レンジ)
5．時定数測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力する。 時定数を10、100(sec)に設定し、それぞれについて表示値が 37(%)に落ちるまでの時間を測定する。	各レンジ±30(%)以内	

レンジ	出力電圧
10^1	1(mV)±0.4(mV)
10^2	2(mV)±0.4(mV)
10^3	3(mV)±0.4(mV)
10^4	4(mV)±0.4(mV)
10^5	5(mV)±0.4(mV)
10^6	6(mV)±0.4(mV)

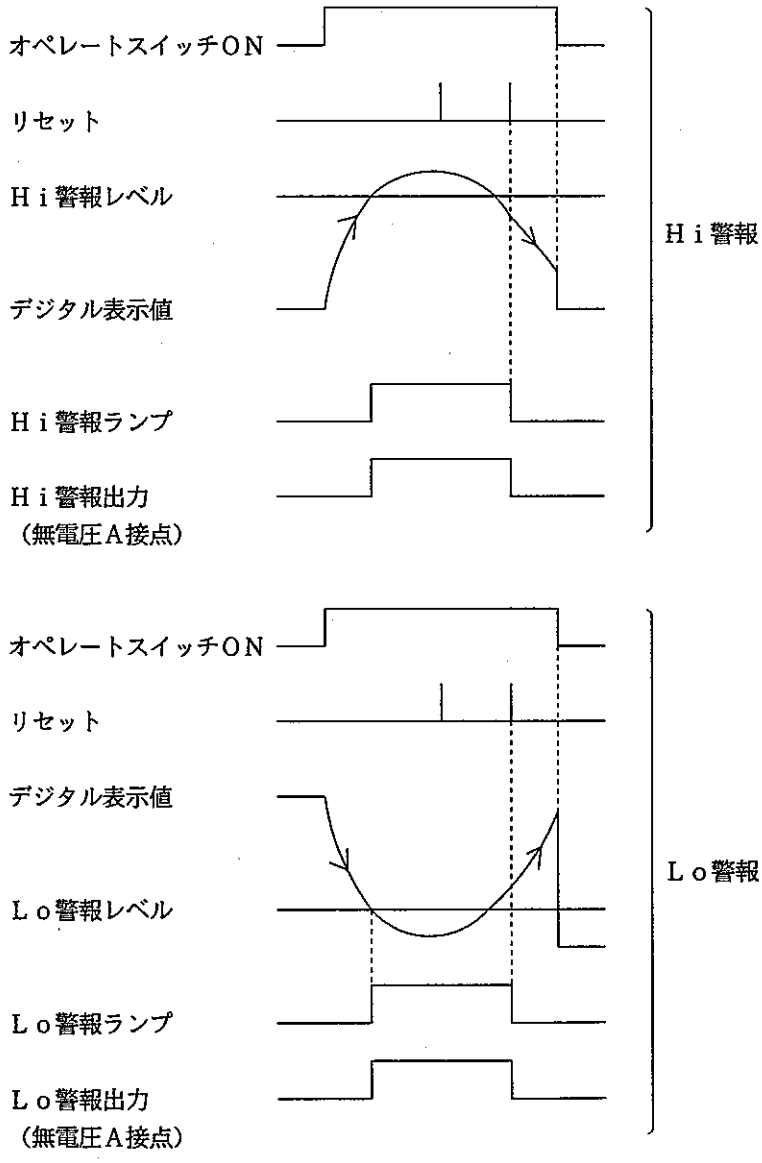
点検整備技術要領書

整理番号		4／4

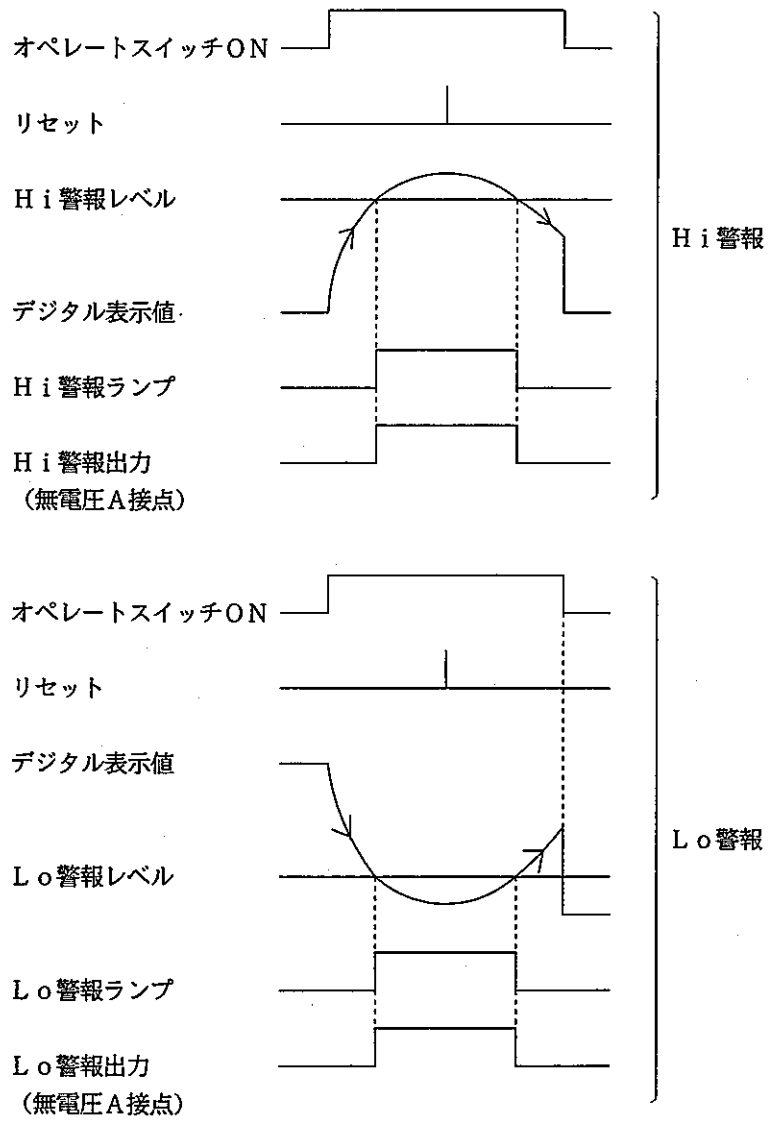
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6．アラーム動作確認	①パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力し、Ｈｉ警報レベルの設定値以上にて、Ｈｉ警報動作することを確認する。 ②Ｌｏ警報レベルの設定値以下にて、Ｌｏ警報動作することを確認する。 ③警報出力手動リセット及び警報出力自動リセット動作を行う。	ＨＩ及びＬｏ　ランプ点灯	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表
（警報出力手動リセット）



アラーム動作シーケンス表
（警報出力自動リセット）



点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成８年３月

機器名	デジタル計数率計	型　名	AM-42MR74-2253	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．レートメータ 非直線性の測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに下記の周波数を入力する。そして、デジタル表示及び記録計出力を測定する。 パルスジェネレータ極性　　負 記録計出力　Ｊ１　3(＋)、4(－) 入力周波数(cpm) / デジタル表示(cpm) / 記録計出力(mV) 5 / 5 / 5.0 50 / 50 / 5.0 500 / 500 / 5.0 5K / 5K / 5.0 50K / 50K / 5.0 500K / 500K / 5.0 記録計出力規格外の場合は、パルスジェネレータ（負）にて５×10^3(cpm)を入力し、裏パネルのＲＥＣ　ＡＤＪボリューム（モジュール内ユニット上）にて、記録計出力5.0(mV)に調整する。	デジタル表示 ±1(%)±1digit以内 記録計出力 ±0.5(mV)以内	＊前面パネルの入力接栓より信号を入力する場合は、 INPUT SELECTを FRONT にする。 ＊Ｊ１はＮＩＭ規格コネクタ J_1＝３９番

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>点検整備要領</th><th>点検整備基準</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>3．テスト動作</td><td>テストスイッチをONにし、以下の項目についてテストを行う。

自己診断
<table><tr><th>区分</th><th>確認項目</th><th>判定基準</th></tr><tr><td>1</td><td>表示</td><td>3(秒)間全点灯</td></tr><tr><td>2</td><td>電源</td><td>低圧電源入力の断をチェック</td></tr><tr><td>3</td><td>プログラム</td><td>プログラムの破壊のチェック</td></tr><tr><td>4</td><td>メモリー</td><td>メモリーの読み書きのチェック</td></tr><tr><td>5</td><td>カウンター</td><td>内蔵テストパルスの計数チェック</td></tr></table>エラーコード表
<table><tr><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th><th>ｺｰﾄﾞ</th><th>内　容</th></tr><tr><td>1</td><td>PW</td><td>9</td><td>PW、C</td></tr><tr><td>2</td><td>PR</td><td>10</td><td>PR、C</td></tr><tr><td>3</td><td>PW、PR</td><td>11</td><td>PW、PR、C</td></tr><tr><td>4</td><td>M</td><td>12</td><td>M 、C</td></tr><tr><td>5</td><td>PW、M</td><td>13</td><td>PW、M 、C</td></tr><tr><td>6</td><td>PR、M</td><td>14</td><td>PR、M 、C</td></tr><tr><td>7</td><td>PW、PR、M</td><td>15</td><td>PW、PR、M 、C</td></tr><tr><td>8</td><td>C</td><td></td><td></td></tr></table></td><td>表示が3(秒)間全部点灯した後、 TROUBLE が点灯しないこと</td><td></td></tr>
</table>

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	PW：　電　源 PR：　プログラム M　：　メモリー C　：　カウンター		
4．レンジマーカー出力測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに任意のを入力し、レンジマーカーの出力電圧が以下に示す電圧にあることを確認する。 レンジマーカー端子 Ｊ１　12(＋)　13(－) レンジ／出力電圧 10／1(mV)±0.4(mV) 10^2／2(mV)±0.4(mV) 10^3／3(mV)±0.4(mV) 10^4／4(mV)±0.4(mV) 10^5／5(mV)±0.4(mV) 10^6／6(mV)±0.4(mV)	±0.4(mV)以内	ＤＩＳ　ＳＷ設定 5(ON:固定レンジ)
5．時定数測定	パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力する。 時定数を10、100(sec)に設定し、それぞれについて表示値が 37(%)に落ちるまでの時間を測定する。	各レンジ±30(%)以内	

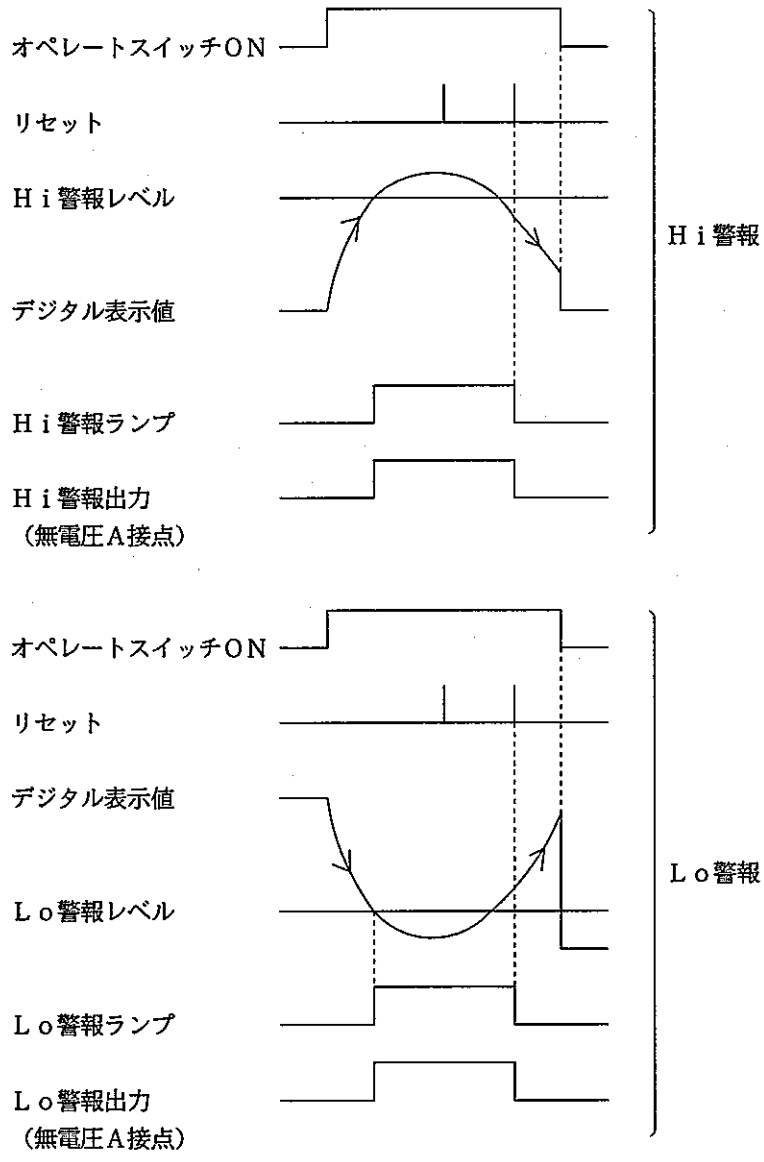
点検整備技術要領書

整理番号		4／4

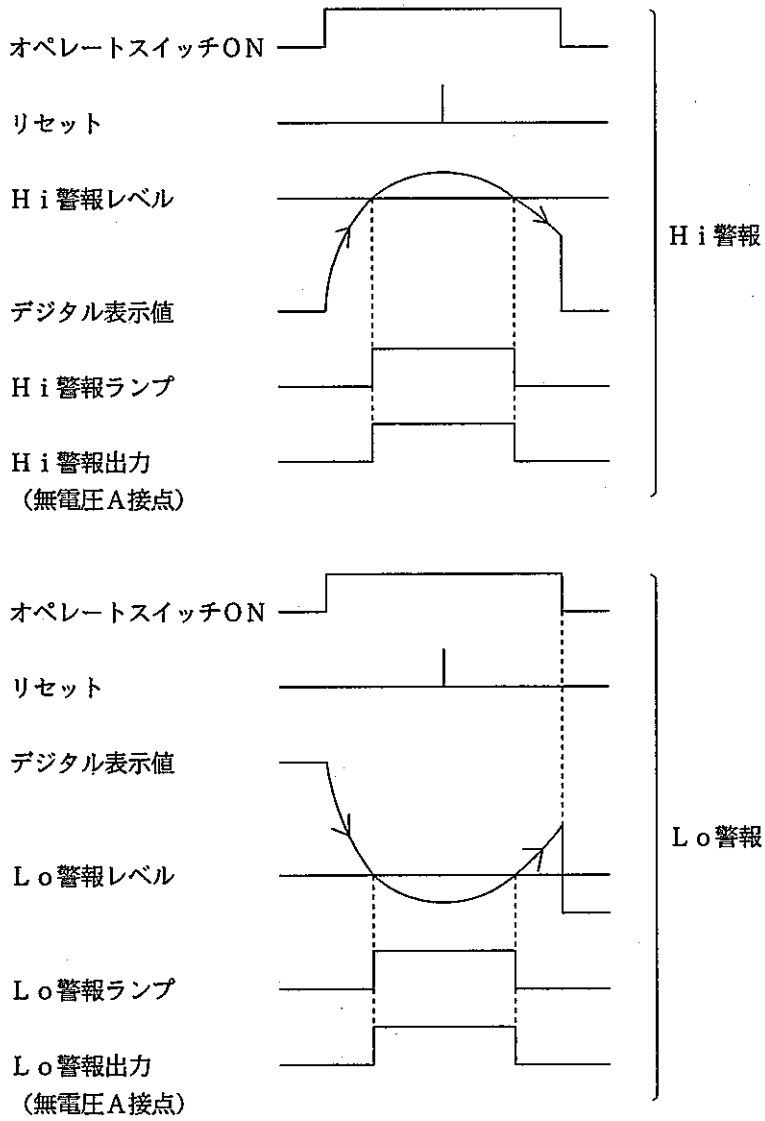
改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6．アラーム動作確認	①パルスジェネレータからＩＮＰＵＴに信号を入力し、Ｈｉ警報レベルの設定値以上にて、Ｈｉ警報動作することを確認する。 ②Ｌｏ警報レベルの設定値以下にて、Ｌｏ警報動作することを確認する。 ③警報出力手動リセット及び警報出力自動リセット動作を行う。	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯	＊アラーム動作シーケンス表参照

アラーム動作シーケンス表
（警報出力手動リセット）



アラーム動作シーケンス表
（警報出力自動リセット）

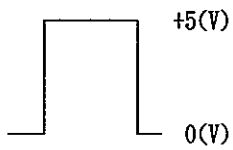


点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

機器名	対数計数率計	型　名	AM－４３M０６DU	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみのないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと 以下の点検項目を始める前にＡＭＰコネクタの①ピンに24(V) を接続してから行う。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
２．ディスクリレベルの設定	Ｊ１ 42ピンコネクタの40ピン(PHS IN)にパルスジェネレータより入力極性(-) 1(V)の信号を入力した時、RV7 を変化させ、ＩＣ１の出力(CP5) に下記波形が現われる点に設定する。 ＩＣ１出力（ＣＰ５）  	-1(V)±0.2(V)以内	
３．レートメータ非直線性の測定	パルスジェネレータからＪ１ 42ピンコネクタの40ピン(PHS IN)に下記の周波数を入力する。そして、メータ指示値及び記録計出力を測定する。 パルスジェネレータ 極性　：　負 パルス波高　：　-3(V) パルス幅　：　3(μsec) 記録計出力　：　Ｊ１ 3(+)、4(-)	指示値：±0.16(dec)以内 記録計出力: ±0.5(mV)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力	メータ指示	調整	記録計出力
×1	10 (cpm)	10 (cpm)	RV1	0.0(mV)
	10^3(cpm)	10^3(cpm)		5.0(mV)
	10^5(cpm)	10^5(cpm)	RV4	10.0(mV)
×10	10^2(cpm)	10^2(cpm)	RV2	0.0(mV)
	10^4(cpm)	10^4(cpm)		5.0(mV)
	10^6(cpm)	10^6(cpm)	RV5	10.0(mV)
×100	10^3(cpm)	10^3(cpm)	RV3	0.0(mV)
	10^5(cpm)	10^5(cpm)		5.0(mV)
	10^7(cpm)	10^7(cpm)	RV6	10.0(mV)

・ＲＶ①（Ｈｉ　ＣＡＬ）及びＲＶ②（Ｌｏ　ＣＡＬ）を中央に合わせ、Ｓ④ＡＲＥＮＧＥ切換器を×10にする。
・Ｊ①42ピンコネクタの40ピン（ＰＨＳＩＮ）にパルスジェネレータ（パルス波高-3(V)、パルス幅3(μsec)）より１×10^3(cpm)の信号を入力し、ＲＶ２によりＯＰアンプＩＣ５の出力（ＣＰ９）2.5(V)に調整する。
・同じく 1×10^6(cpm)の信号を入力し、ＲＶ５によりＩＣ５（ＣＰ９）の出力を10.00(V)に合わせる。
・ 1×10^6(cpm)入力状態でＲＶ④（ＭＥＴＥＲ　ＡＤＪ）でメータを 1×10^6(cpm)に調整する。
・及びモジュールの裏パネルのＲＶ③（ＲＥＣ　ＡＤＪ）によりレコーダ出力を10.00(mV)に調整する。
・同様に×1、×100 レンジについても、上記各点及び各ＲＶにて調整及び確認を行う。

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．アラーム動作確認	①　Ｈｉアラーム ・裏パネルをMAN及びＬ－Ｕモードにする。 ・指示をＣＡＬにし、Ｈｉアラーム設定針を下げる。 ・その後再び上げ、Ｈｉアラームボタンを押す。 ②　Ｌｏアラーム ・Ｌｏアラーム設定針をメータ針より上げる。 ・その後、再び下げる。	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯 ・Ｈｉアラームランプ点灯 ・Ｊ１の⑱、⑲ピン導通 ・点灯状態が消灯 ・Ｊ１の⑱、⑲ピン導通状態が開放 ・Ｌｏアラームランプ点灯 ・Ｊ１の㉑、㉒ピン導通 ・ランプ消灯 ・㉑、㉒ピン開放	
5．ＣＡＬ値確認	動作をＣＡＬにし、指示針を読む。 （各レンジＨｉ、Ｌｏ）	±0.16(dec)以内	

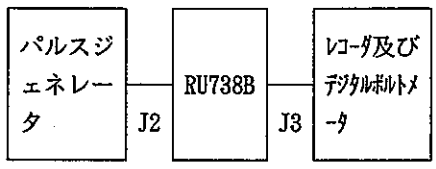
レンジ	設定	指示
×1	Ｌｏ	6×10^{1}(cpm)
	Ｈｉ	6×10^{3}(cpm)
×10	Ｌｏ	6×10^{2}(cpm)
	Ｈｉ	6×10^{4}(cpm)
×100	Ｌｏ	6×10^{3}(cpm)
	Ｈｉ	6×10^{5}(cpm)

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	計数率計	型　名	RU738B	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと ＊本機内部スイッチを下記設定にて以下点検を行う。 ＣＰＵボード S_1－1　OFF〔レンジ出力　1(V)〕 S_1－2　OFF〔アナログ出力 1(V)〕 Ｉ／Ｏボード S_1－1　ＯＮ S_1－2　ＯＮ S_1－3　ＯＦＦ S_1－4　ＯＮ S_1－5　ＯＦＦ S_1－6　ＯＦＦ S_1－7　ＯＦＦ S_1－8　ＯＦＦ（ログ）	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．ディスクリ電圧の確認	ＩＮＰＵＴにマーキュリーパルサーを接続し、計数を開始する時の波高値を測定する。 マーキュリーパルサー設定 入力極性　：　正		
3．非直線性の確認		指示値：±0.12(dec) 以内 記録計：±0.03(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	上記接続により、レンジをＦＩＥ５（固定レンジ１×10^5 フルスケール）にし、下記設定にて指示値及び記録計出力を確認する。 パルスジェネレータ設定 入力極性　：　正 パルス波高　：　3(V) パルス幅　：　1(μsec) 記録計出力 J_3の⑧ピン(+)、⑦ピン(GND) 規格外の場合 ・動作モード＝ＴＥＳＴ、テストクロック＝1(MHz)、乗算係数＝ 1.0×10^0 ・レコーダ・レンジ＝１×10^6 フルスーケル・固定に設定し、ＣＰＵボードのＴＰ３(GND)とＴＰ11にデジタルマルチメータを接続する。 ・ＣＰＵボードのS_1－２をオフとし、ＶＲ４を回してデジタルマルチメータの指示を1.000(V)±0.7(%)に合わせる。 ・ＣＰＵボードのS_1－２をオンとし、ＶＲ５を回してデジタルマルチメータの指示を10.00(mV) ±1.5(%)に合わせる。 ・上記を繰り返し、ＶＲ４，ＶＲ５を回さなくても、それぞれの誤差範囲内に入る様にする。		＊レンジ Ｆ：固定 Ｒ：自動

入力	指示値	記録計出力
10 (cpm)	10 (cpm)	0.00(V)
10^2(cpm)	10^2(cpm)	0.25(V)
10^3(cpm)	10^3(cpm)	0.50(V)
10^4(cpm)	10^4(cpm)	0.75(V)
10^5(cpm)	10^5(cpm)	1.00(V)

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．レンジ出力電圧確認	レンジを下記設定にし、レンジ出力端子にデジタルマルチメータを接続し、出力電圧を測定する。 レンジ出力端子： J_3の⑮ピン(+) 、⑦ピン(GND) レンジ設定 / 出力電圧 1×10^{-9} / 0.05 (V) 1×10^{-5} / 0.25 (V) 1×10^{0} / 0.50 (V) 1×10^{5} / 0.75 (V) 1×10^{9} / 0.95 (V) 規格外の場合 ・レコーダ・レンジを 1×10^{9} フルスケールに設定し、ＣＰＵボードのＴＰ３(GND)とＴＰ10にデジタルマルチメータを接続する。 ・ＣＰＵボードのＳ１－１をオフとし、ＶＲ３を回してデジタルマルチメータの指示を0.950(V)±1(%)に合わせる。 ・ＣＰＵボードのＳ１－１をオフとし、ＶＲ１を回してデジタルマルチメータの指示を9.500(mV) ±2(%)に合わせる。 ・上記を繰り返し、ＶＲ１，ＶＲ３を回さなくても、それぞれの誤差範囲内に入る様にする。	±1.5(%)以内	
5．内部設定確認	手動操作による各内部設定を下記要領により設定する。 ・Ｓ／Ｒスイッチ 表示モードをアップデートにする。 （Ｓ／Ｒ埋込ＬＥＤの点灯及び数字表示器のうち１桁が点滅することによって確認できる。） ・ＳＥＬ 変更したい表示が出るまで、ＳＥＬを繰り返し押す。	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	・ＳＥＴ　ＵＰ ＳＥＴを押し、変更したい桁を点滅させ、ＵＰを押してその桁の内容を変更する。現在の内容以外も変更したい場合は、ＳＥＬにより変更する。 上記順序で操作したら、最後にＳ／Ｒスイッチを押してノーマルに戻した時点で、はじめて新設定値が有効になる。 以下の設定を読む。 ・ＨＨ設定値 ・Ｈ設定値 ・Ｌ設定値 ・換算乗数 （Ｃ６．０Ｅ１） ・レコーダ出力 （ｒＦ１Ｅ５） ・ディスクリ電圧 上記以外は ・動作モード ０１ ・標準偏差 Ｓ３		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	自動試料交換装置機構部	型　名	SC－756C・B・R	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．動作確認 MANUAL動作	・[MANUAL]スイッチを押しMANUALランプが点灯することを確認する。 ・[SAMPLE SET]スイッチを押す毎にINLET側の試料を1個検出部に送り込むことを確認する。	正常に動作すること	
AUTO動作	・[AUTO]スイッチを押すと ・AUTOランプ点灯 ・STOPランプ消灯 ・READYランプ点灯 となり、計測装置からの指令待ちとなることを確認する。 ・計測装置からの指令により（TDC-703Uの[START]スイッチを押す） READYランプが消灯し、INLET側の試料を1個ずつ検出部に送り込むことを確認する ・INLET側に試料がなくなった事を検出した場合の動作を確認する 測定サイクルがCYCLE設定に達していればSTOPランプが点灯し、動作を終了すること。 測定サイクルがCYCLE設定に達していない場合は、OUTLET側の試料をINLET側に戻し、CYCLEが終了するまで測定を続ける。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2．低圧電源	自動試料交換装置の裏パネルの出力端子にデジタルマルチメータを接続し、出力電圧を測定する。 出力端子　　24(V) 5(V)	±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	波形弁別	型　名	AM－１３M０１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．出力波形確認	測定状態において、測定台内にU_3O_8線源を入れ、ＰＨＳ　ＯＵＴα及びＰＨＳ　ＯＵＴβのパルス波高値及びパルス幅を測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	コインシデンス	型　名	13R74－3180	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損のないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．GATE WIDTH確認	GATE WIDTHのダイヤル設定値を確認する。 点検後はもとのダイヤル値に戻すこと。		
3．最小入力電圧確認	J_1（AMP－A）38ピン及び39ピンにパルスジェネレータより同時に負信号を入力する。次に、入力信号を可変し、前パネルのCOINα・βに波形が出力される時の最小入力電圧を測定する。		
4．コインシデンス動作確認	以下に示す、コインシデンスの動作を確認する。 38ピン　信号入力する。　COINα・β 39ピン　信号入力する。　出力する。 38ピン　信号入力せず。　COINα・β 39ピン　信号入力する。　出力せず。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	加温コントローラ	型　名	AM-06M02M, AM-06M03M	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．温度変換回路試験 （UN_2）	1）温度センサーの代わりに基準抵抗器を接続しV_{OUT}にデジタルマルチメータを接続する。 2）１０°Ｃ用１０３．９７Ω±0.１Ωとして４．０±0.1Vとなるようにシフト調整用可変抵抗TM-1(UN_2）で調整する。 3）３０°Ｃ用１１１．８８Ω±0.１Ωとして　６．０±0.1Vとなるようにゲイン調整用可変抵抗TM-2(UN_2）で調整する。 4）2）3）を数回繰返して規格内となるように調整する。	ＦＳ±0.1V以内	

（°Ｃ）	（Ω）	（V）
１０	１０３．９７	４．０
３０	１１１．８８	６．０

3．記録計用出力確認 （UN_1）	1）２項同様、温度センサーの代わりに下記基準抵抗器を接続する。 2）OUT　PUT　Ｊ１－３，４にデジタルマルチメータを接続する。	ＦＳ±0.1mV 以内	Ｊ１－３，４ （+）（－）

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	3）基準抵抗器１１１．８８Ω±０．１Ωを接続しデジタルマルチメータ読み６mVとなるように　REC．ADJ－1 RV_1（本体取付）で調整する。		

接続抵抗（Ω）	出力電圧（mV）
１０３．９７	４．０
１１１．８８	６．０

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	加温コントローラ	型　名	TC－3，TC－4	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．温度変換回路試験 （UN_2）	1）温度センサーの代わりに基準抵抗器を接続しV_{OUT}にデジタルマルチメータを接続する。 2）10°C用103．97Ω±0.1Ωとして4．0±0.1Vとなるようにシフト調整用可変抵抗TM-1(UN_2）で調整する。 3）30°C用111．88Ω±0.1Ωとして　6．0±0.1Vとなるようにゲイン調整用可変抵抗TM-2(UN_2）で調整する。 4）2）3）を数回繰返して規格内となるように調整する。	FS±0.1V以内	
3．記録計用出力確認 （UN_1）	1）2項同様、温度センサーの代わりに下記基準抵抗器を接続する。 2）REC　OUT　J1－9，10にデジタルマルチメータを接続する。	FS±0.1mV 以内	J1－9，10 （+）（－）

（°C）	（Ω）	（V）
10	103．97	4．0
30	111．88	6．0

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

3）基準抵抗器１１１．８８Ω±０．１Ω
を接続しデジタルマルチメータ読み６mV
となるように　ＲＥＣ．ＡＤＪ－１
ＲＶ１（本体取付）で調整する。

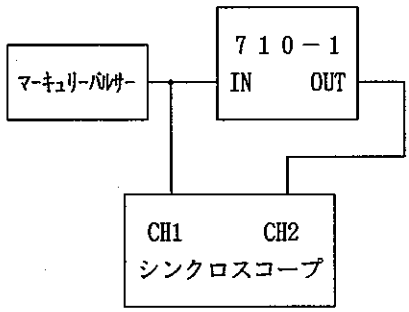
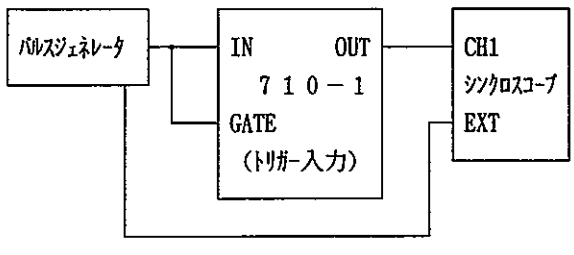
接続抵抗（Ω）	出力電圧（mV）
１０３．９７	４．０
１１１．８８	６．０

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

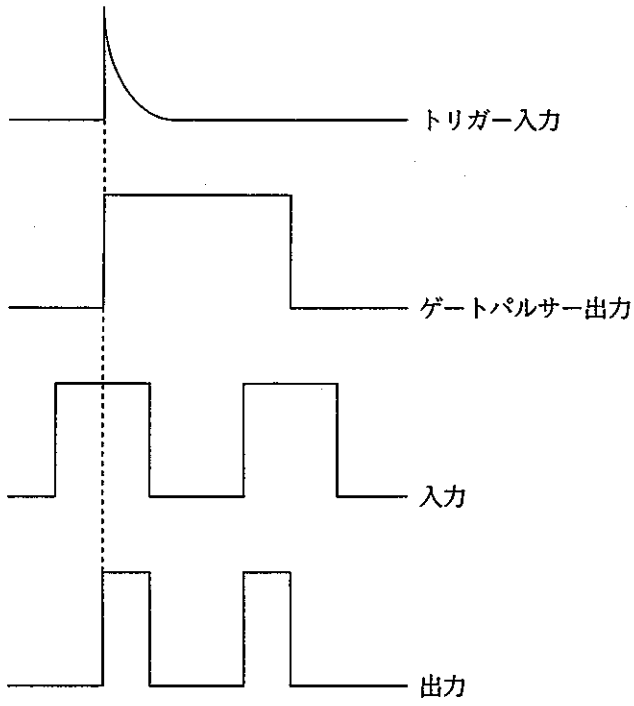
機器名	リニアゲート	型　名	７１０－１	メーカ名	応用光研
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．直線性点検	 入力インピーダンス　1(KΩ）以上 出力インピーダンス　1(Ω）以上 上記の接続にて、ＩＮ　ＰＵＴにマーキュリーパルサーから3(V),5(V),10(V) とそれぞれの入力電圧を入力した時の、ＯＵＴＰＵＴからの出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 マーキュリーパルサーからの入力は、正のユニポーラ及び正先行バイポーラパルス波形とする。	フルスケールの±10(%）以内	
3．ゲート幅測定			

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	上記の接続にて、パルスジェネレータをトリガー入力信号+3(V) 以上に設定し、ゲート幅の範囲を測定する。 尚、ゲート時間はトリガー信号または、ＧＡＴＥ　ＷＩＤＴＨによって設定したパルス幅のうち長い方に依存するために、ＧＡＴＥ　ＷＩＤＴＨによって測定する場合はトリガー信号を(3～10(V))にて、パルス幅を50(nsec)～0.5(μsec)の間にて測定すること。	約 0.5～10.0（μsec）	
			
4．ペディスタルの測定	３項の接続にて、シンクロスコープによりペディスタルが1(mV) 以内になる様ＶＲ16を調整する。（リアーパネル）	1(mV)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置（電源部試験）	型　名	LBC－453	メーカ名	Aloka
検査名	単体試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検清掃	装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみのないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．低圧電源部試験	電源部（TDC-701B-D部）の下記端子にデジタルマルチメータを接続し、各出力電圧を測定する。但し、各部のケーブルを全て接続した状態で［ＳＴＯＰ］ランプが点灯中測定を行うこと。 出力電圧　チェック端子 +24(V)U　J_{21} +24(V)　J_{22} -24(V)　J_{26} +12(V)　J_{23} -12(V)　J_{25} ＧＮＤ　J_{24}	+24(V)U:　約23～約30(V) +24(V) :+23.52～+24.48(V) -24(V) :-23.52～-24.48(V) +12(V) :+11.76～+12.24(V) -12(V) :-11.76～-12.24(V)	
3．高圧電源試験 (1)α検出器用高圧電源 (AMC-8151)	各部のケーブルを全て接続し、出力電圧をデジタルマルチメータにて測定する。 ダイヤル（目盛） 1.0（500(V)） 2.0（1000(V)） 3.0（1500(V)）	ＦＳ±10(%)以内	
(2)β検出器用高圧電源 (AMC-8153)	各部のケーブルを全て接続し、出力電圧をデジタルマルチメータにて測定する。 ダイヤル（目盛） 0.5（500(V)） 1.0（1000(V)） 3.0（3000(V)）	ＦＳ±10(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．総合消費電力測定	動作状態時及び静止状態時の各電流を測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	多試料同時放射能測定装置(電源部)	型　名	JDC-R74-3493	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．低圧電源	装置上部のパネルを開き、中のチェック端子をデジボルにて測定する。	＋24±0.5(V) ±15±0.2(V) ＋ 5±0.2(V)	
3．高圧電源	J_{32}(1ch～10ch)，J_{33}(11ch ～20ch)，J_{34}(21ch ～30ch) のＨＶケーブルを取り外し、ＨＶ　ＯＵＴ端子に高圧用デジタルボルトメータを接続し、下記の３点を測定する。又、その時同時にＨＶチェック端子の出力を高圧用デジタルボルトメータにて測定する。	ＨＶ出力電圧　： ±30(V)以内 チェック端子電圧： ±0.03(V)以内	

ﾍﾘﾎﾟｯﾄ 値	ＨＶ出力値	ﾁｪｯｸ端子電圧
1.00	500(V)	0.5(V)
2.00	1000(V)	1.0(V)
3.00	1500(V)	1.5(V)

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	記録計	型　名	ER180シリーズ	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．記録機構			
1）インキング部	ペン先、チューブの詰まり、磨耗がないこと。	異常のないこと	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯、シャフト部に磨耗が無いこと。	異常のないこと	
2）切換スイッチ	汚れがないこと、接点に磨耗がないこと	異常のないこと	
3）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損がないこと及びスリップギヤに磨耗が無く、BMの回転に異常がないこと。	異常のないこと	
4）スライド部	スライド抵抗、ブラシ部の磨耗がないこと。	異常のないこと	
3．記録紙送り機構			
1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤ等の磨耗がないこと。	異常のないこと	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと及びスリップギヤに磨耗ないこと。	異常のないこと	
4．指示試験	記録計裏面の入力端子にV／1発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点（%）　入力電圧(mV) 0　0．0 25　2．5 50　5．0 75　7．5 100　10．0	±0.5(%) F.S 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	記録計	型　名	4276，4277，他	メーカ名	横河電機
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、装置内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．記録機構			
1）インキング部	ペン先、チューブの詰まり、磨耗がないこと。	異常のないこと	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯、シャフト部に磨耗が無いこと。	異常のないこと	
2）切換スイッチ	汚れがないこと、接点に磨耗がないこと	異常のないこと	
3）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損がないこと及びスリップギヤに磨耗が無く、BMの回転に異常がないこと。	異常のないこと	
4）スライド部	スライド抵抗、ブラシ部の磨耗がないこと。	異常のないこと	
3．記録紙送り機構			
1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤ等の磨耗がないこと。	異常のないこと	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと及びスリップギヤに磨耗ないこと。	異常のないこと	
4．指示試験	記録計裏面の入力端子にV／1発生器を接続し、下記校正点での出力指示値を確認する。 校正点（%）　入力電圧(mV) 0　0．0 25　2．5 50　5．0 75　7．5 100　10．0	±0.5(%) F.S 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．機能検査	各種データを入力しメモリ機能が動作すること。	異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器試験	型　名	ZD-451・ZD-453型	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器部			
2.1 増幅度確認	ＭＰＧを前置増幅器のＲ３とＣ２の間に接続し、-0.1(V) 入力した時の出力ＢＮＣコネクタP_2電圧をシンクロスコープにて測定し利得を求める。	ZD-451：約1.0(倍) ZD-453：約10(倍)	
2.2 直線性確認	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 ZD-451　ZD-453　-0.10V,-0.15V,-0.20V -0.25V,-0.30V		但し、直線性がある範囲
2.3 最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	ZD-451：-10(V)以上 ZD-453：　-3(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．プラトー測定	U_3O_8線源（2"φ）を測定台に装着し、検出器を入力選択モジュール SCINT IN に接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)：使用電圧Ｃｎ－50(V) での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。 (回転式機構部) 線源用カセット使用 (暗箱測定台) スペーサ使用	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 ＢＧ値　：0.5(cpm)以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器試験	型　名	ZDS-451 ・ZDS-453 型	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器部			
2.1 増幅度確認	ＭＰＧを前置増幅器のＲ３とＣ２の間に接続し、-0.1(V) 入力した時の出力ＢＮＣコネクタP_2 電圧をシンクロスコープにて測定し、利得を求める。	ZDS-451 ：約1.0(倍) ZDS-453 ：約10(倍)	
2.2 直線性確認	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 ZD-451　ZD-453　-0.10V,-0.15V,-0.20V -0.25V,-0.30V		
2.3 最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	ZDS-451 ：-10(V)以上 ZDS-453 ：-3(V) 以上	
3．プラトー測定	U_3O_8線源（2"φ）を測定台に装着し、検出器を入力選択モジュール SCINT IN に接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 ＢＧ値　：0.5(cpm)以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：使用電圧Ｃｎ－50(V)　での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳシンチレーション検出器	型　名	ＺＤ－Ｒ７４－３４９３	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	Ｐｕ－３施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定	以下の手順にて、U_3O_8 線源を測定台に装着しプラトー測定を行う。 ① 測定に際しては、必要以外のＨＶ供給は行わない様に、装置上部のパネルを開き、J_{32}(1ch～10ch)、J_{33}(11Ch ～20 ch)、J_{34}(21ch ～30ch) の内の不必要なＨＶケーブルを取り外す。 ② ＣＲＴが測定待画面であること。 ③ ｆ．５（Ｔ　ＳＥＴ）を押し、測定時間を任意に設定する。 ④ 測定するチャンネルの試料台にU_3O_8線源をセットする。 ⑤ ＨＶ設定へリポットにて850(V)に設定する。 ⑥ ｆ．３（ＡＬＬ）を押し、測定を開始し、測定終了後に計数値を確認する。 ⑦ ＨＶ電源を 50(V)毎に可変し、⑥項を繰り返し行い、1250(V) まで実施する。 ⑧ プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V) 以下ならプラトー領域の基準を満す。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Ｃｎ　　：　使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：　使用電圧＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：　使用電圧－50(V) での計数値	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 ＢＧ値　：1(cpm)以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	⑨　他のチャンネルを測定する場合は、④項から行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳシンチレーション検出器	型　名	ＺＤ－４５１ＦＵ	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器部			
2.1 増幅度確認	ＭＰＧを前置増幅器のＲ３とＣ２の間に接続し-0.1(V) 入力した場合の出力ＢＮＣコネクタP_2電圧をシンクロスコープにて測定し、利得求める。	約1.0(倍)	
2.2 直線性確認	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.10V, -0.15V, -0.20V, -0.25V -0.30V		
2.3 最大出力電圧	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	-10(V)以上	
3．プラトー測定	プラトー測定を始める前に、ユニバーサルスケーラ（ＴＤＣ－５１１）の以下の様に、設定されていること。 Pre/AMP;入力条件、アンプの設定 DETECTOR　：　SCINT INPUT　：　Amp Shaping　：　Gauss Gain　：　100 Polarity　：　Neg IN Polarity　：　Neg OUT *1 (*1：外部機器を接続する場合必要に応じ切換える)	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 ＢＧ値　：1(cpm)/10(min)以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode　:　INT LL　:　10.0　% COIN mode　:　OFF HV; 高圧出力の設定 HV mode　:　Continue*1 HV　:　（使用印加電圧） LIMIT　:　1200 V （*1：必要に応じ切換える） Changer;ｻﾝﾌﾟﾙﾁｪﾝｼﾞｬｰのｺﾝﾄﾛｰﾙ Sample Changer Control　:　Yes AUTO BG　:　No*1 （*1：必要に応じ切換える） 次に、以下の手順にて測定を行う。 ① サンプルチェンジャーの MAUAL スイッチを押す。 ② サンプルチェンジャーの SAMPLE SET スイッチを押し、U_3O_8線源をセットした位置に持っていき、MEASURE ランプが点灯することを確認する。 ③ TDC-511 のPT/PC;計数条件の設定のPTを 1.0 minに設定する。 ④ HV ON/OFF スイッチ押し，印加電圧を600(V)付近に設定する。 ⑤ START STOP スイッチ押す。（測定中ランプが点灯） ⑥ 測定終了後計数値を確認し、印加電圧を50(V) 毎に900(V)付近まで測定する。 ⑦ プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V) 以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V)) - (Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　　年　月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	Ｃｎ　　：　使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：　使用電圧＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：　使用電圧－50(V) での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて、測定すること。 グラフを作成すること。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器試験	型　名	２２３	メーカ名	東洋電子
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器部			設定
2.1 増幅度確認	ＭＰＧを前置増幅器のＲ３とＣ２の間に接続し、-0.1(V) 入力した時の出力ＢＮＣコネクタP_2電圧をシンクロスコープにて測定し、利得を求める。	約1.0(倍)	GAIN　5.0（目盛り） DISCRI 0.5（目盛り）
2.2 直線性確認	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.10V,-0.15V,-0.20V,-0.25V,-0.30V		但し、直線性がある範囲
2.3 最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。	-10(V)以上	
3．プラトー測定	U_3O_8線源（2"φ）を測定台に装着し、後面パネルＳＩＧスイッチをＳＣＩＮＴＩに切換え、極性スイッチをＮＥＧに切換える。 又、検出器をＨＶ　ＳＣＩＮＴＩに接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 ＢＧ値　：0.5(cpm)以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

$$\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times 100(\%)$$

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：使用電圧Ｃｎ－50(V) での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	GM管検出器	型　名	GP-1027,GP-14V,	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器、測定部外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定	U_3O_8線源（2"φアルミ板使用）を測定台に装着し、検出器を入力選択モジュールＧＭ　ＩＮに接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：使用電圧Ｃｎ－50(V) での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。 ・回転式機構部 ・線源用カセット使用	設定電圧：プラトー領域の下端より1/3 付近の電圧 ＢＧ値　：※ プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	※ＢＧ値： GM-5004使用機種 40(cpm)以下 GM-H-5001V使用機種 35(cpm)以下

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	GP－101	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器、測定部外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定	U_3O_8線源（1"φアルミ板使用）を測定台に装着し、検出器を入力選択モジュールGM　INに接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Cn　　：使用電圧での計数値 Cn＋100(V)：使用電圧Cn＋100(V)での計数値 Cn－50(V)　：使用電圧Cn－50(V) での計数値 BG値は、使用印加電圧に於いて測定すること。 ・現場線源使用	設定電圧：プラトー領域の下端より1/3 付近の電圧 BG値　：40(cpm) 以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	GP－14V	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	装置内外の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定	プラトー測定を始める前に、ユニバーサルスケーラ（TDC－511）の以下の様に、設定されていること。 Pre/AMP;入力条件、アンプの設定 DETECTOR　：　GM INPUT　：　Pre(HV) Polarity　：　Pos IN Polarity　：　Neg OUT *1 (*1：外部機器を接続する場合必要に応じ切換える) SCA;波高分析条件、ｺｲﾝｼﾃﾞﾝｽﾓｰﾄﾞの設定 SCA mode　：　INT COIN mode　：　OFF HV; 高圧出力の設定 HV mode　：　Continue*1 HV　：　(使用印加電圧) LIMIT　：　V (*1：必要に応じ切換える) Changer;ｻﾝﾌﾟﾙﾁｪﾝｼﾞｬｰのｺﾝﾄﾛｰﾙ Sample Changer Control　：　Yes AUTO BG　：　No*1 (*1：必要に応じ切換える)	設定電圧：プラトー領域の下端より1/3 付近の電圧 ＢＧ値　：40(cpm) 以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成８年３月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	次に、以下の手順にて測定を行う。 ① サンプルチェンジャーの MAUAL スイッチを押す。 ② サンプルチェンジャーの SAMPLE SET スイッチを押し、U_3O_8線源(2φアルミ板使用）をセットした位置に持っていき、MEASURE ランプが点灯することを確認する。 ③ TDC-511 のPT/PC;計数条件の設定のPTを 1.0 minに設定する。 ④ HV ON/OFF スイッチ押し，使用印加電圧を計数開始電圧に設定する。 ⑤ START STOP スイッチ押す。（測定中ランプが点灯） ⑥ 測定終了後計数値を確認し、印加電圧を50(V)毎に1200(V) 付近まで測定する。 ⑦ プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V) 以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Ｃｎ　　：　使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：　使用電圧＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：　使用電圧－50(V) での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて、測定すること。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	214	メーカ名	東洋電子
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器、測定部外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定	U_3O_8線源（2"φアルミ板使用）を測定台に装着し、後面パネルＳＩＧスイッチをＧＭに切換え、検出器をＨＶ　ＧＭに接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：使用電圧Ｃｎ－50(V)　での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。	設定電圧：プラトー領域の下端より1/3 付近の電圧 ＢＧ値　：40(cpm) 以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	設定 GAIN　10.0（目盛） DISCRI　1.00（目盛）

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	βダストモニタ検出器	型　名	GM－5004	メーカ名	東　芝
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器、測定部外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定	U_3O_8線源（2"φアルミ板使用）を測定台に装着し、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Cn　　：使用電圧での計数値 Cn＋100(V)：使用電圧Cn＋100(V)での計数値 Cn－50(V)　：使用電圧Cn－50(V) での計数値 BG値は、使用印加電圧に於いて測定すること。	設定電圧：プラトー領域の下端より1/3 付近の電圧 BG値　：40(cpm) 以下 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ＮａＩ（Ｔｌ）ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	型　名	ND-451、-471、-1201B	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．増幅器部 2.1 増幅度確認	ＭＰＧを前置増幅器のＲ３とＣ２の間に接続し、-0.1(V) 入力した時の出力ＢＮＣコネクタP_2電圧をシンクロスコープにて測定し利得を求める。		
2.2 直線性確認	2.1 項の接続方法にて下記の入力電圧に対する出力電圧を測定する。 入力電圧　-0.1V,-0.2V,-0.4V -0.8V,-1.0V		
2.3 最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。		
3．プラトー測定	^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^4Bq)を検出器前方に置き、次に、高圧電源を可変(50(V)毎)し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。	プラトー領域 300(V)以上 プラトー傾斜 10(%)/100(V)以下	

$$\frac{(Cn+200(V))-(Cn-100(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{300(V)}\times100(\%)$$

Ｃｎ　　：使用電圧での計数値
Ｃｎ＋200(V)：使用電圧Ｃｎ＋200(V)での計数値
Ｃｎ－100(V)：使用電圧Ｃｎ－100(V)での計数値

点検整備技術要領書

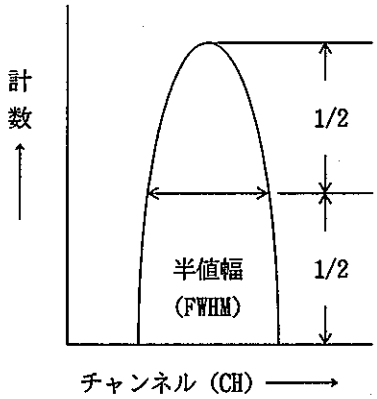
整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	総合試験時の設定電圧を記入すること。尚、AMP　GAIN及びDISCの設定は以下で行う。 AMP　GAIN及びDISC設定		

	ND-471型	ND-451型、ND-1201B
AMP GAIN	0.00目盛	COARSE : 1/50 FINE　: 2.50 目盛
DISC	0.1 目盛	0.1 目盛

4．分解能測定	^{137}Cs 線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、次に、3項に於けるプラトー測定で求めた、使用電圧に於いてエネルギースペクトルを測定し、分解能を求める。 グラフを作成すること。	^{137}Cs 線源にて 2〃φ　：12(%)以下 3〃φ　：10(%)以下 1/2 〃φ：15(%)以下	



$$\text{分解能} = \frac{\text{FWHM(CH)}}{^{137}\text{Csピークチャンネル}} \times 100(\%)$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

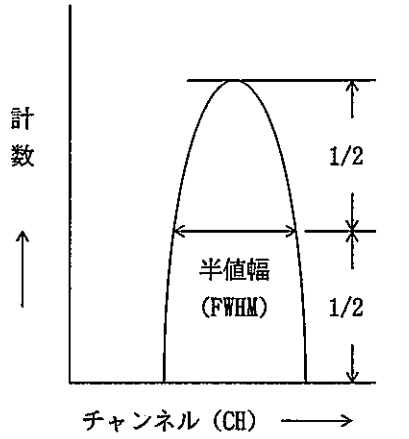
機器名	NaI（Tl）ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	型　名	ND－471CV	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	モニタリング車No.2		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	MPGを前置増幅器のR3とC2の間に接続し、-0.1(V) 入力した時の出力BNCコネクタP_2電圧をシンクロスコープにて測定し、利得を求める。		
2.2 直線性の測定	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.1,-0.2,-0.4,-0.8,-1.0(V)		
2.3 最大出力の確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。		
3．プラトー測定	^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 尚、MAR-202USI設定は下記に示す。 MAR-202USI設定 DETECTOR : SCINT Input : Amp Shaping : Gauss Gain : 20 Polarity : Neg IN Polarity : Pos OUT SCA : INT LL : 10% LL : 10%	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 BG値　：1分値 プラトー領域：300(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	* プラトー測定時の設定 GAIN ： 20(%)設定 DISCR :1.0(%)設定

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+200(V))-(Cn-100(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{300(V)} \times 100(\%)$ Cn　　：使用電圧での計数値 Cn＋200(V)：使用電圧Cn＋200(V)での計数値 Cn－100(V)：使用電圧Cn－100(V)での計数値		
4．分解能測定	^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、次に、3項に於いてプラトー測定で求めた、使用電圧に於いてエネルギースペクトルを測定し、分解能を求める。  $\text{分解能}=\dfrac{FWHM(CH)}{^{137}Cs\ ピークチャンネル}\times100(\%)$	^{137}Cs線源にて 2″ φ　：12(%) 以下 3″ φ　：10(%) 以下 1/2″ φ：15(%) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

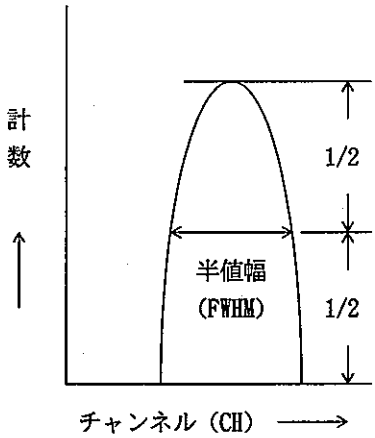
機器名	3″ φ球型NaI(Tl)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	型　名	ＮＤ－３７１Ｃ	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出部、測定内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	パルスジェネレータを前置増幅器のＩＮＰＵＴに接続し、-0.1(V) 入力した時の出力電圧をシンクロスコープにて測定し、利得を求める。		
2.2 直線性の測定	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.1,-0.2,-0.4,-0.8,-1.0(V)		
2.3 最大出力の確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。		
3．プラトー測定	^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、高圧電源を可変（50V 毎）し、プラトー測定を行う。 尚、MAR-20WS1I設定は下記に示す。 MAR-202WS1設定 DETECTOR : SCINT Input : Amp Shaping : Gauss Gain : 20 Polarity : Neg IN Polarity : Pos OUT SCA : INT LL : 1.0%	設定電圧：プラトー領域の下端より 1/3付近の電圧 ＢＧ値　：１分値 プラトー領域：300(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+200(V))-(Cn-100(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{300(V)} \times 100(\%)$ Cn　　：使用電圧での計数値 Cn＋200(V)：使用電圧Cn＋200(V)での計数値 Cn－100(V)：使用電圧Cn－100(V)での計数値		
4．分解能測定	^{137}Cs線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、次に、3項に於いてプラトー測定で求めた、使用電圧に於いてエネルギースペクトルを測定し、分解能を求める。  $\text{分解能}=\dfrac{FWHM(CH)}{^{137}Cs\ ピークチャンネル}\times100(\%)$	^{137}Cs線源にて12(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

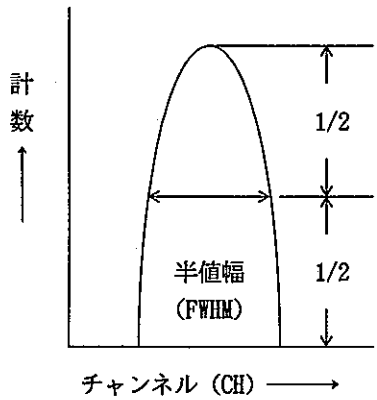
機器名	NaI（Tl）ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	型　名	S－1227 (ヨウ素モニタ)	メーカ名	応用技研
検査名	単体試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．プラトー測定	^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、次に、高圧電源を可変(50(V)毎)し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn+200(V))-(Cn-100(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{300(V)}\times100(\%)$ Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋200(V)：使用電圧Ｃｎ＋200(V)での計数値 Ｃｎ－100(V)：使用電圧Ｃｎ－100(V)での計数値 総合試験時の設定電圧を記入すること。尚、ＡＭＰ　ＧＡＩＮ及びＤＩＳＣの設定は以下で行う。 ・AMP GAIN及びDISC(DC/T)　設定 AMP GAIN：COARSE :128／FINE　: 0.00 目盛 DISC(DC/T)：2.00(V)	プラトー領域 300(V)以上 プラトー傾斜 10(%)/100(V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．分解能測定	^{137}Cs 線源($3.7\times10^{4}Bq$)を検出器前方に置き、次に、3項に於けるプラトー測定で求めた、使用電圧に於いてエネルギースペクトルを測定し、分解能を求める。 グラフを作成すること。  $分解能=\frac{FWHM(CH)}{^{137}Cs\ ピークチャンネル}\times100(\%)$	^{137}Cs 線源にて 2〃φ　：12(%)以下 3〃φ　：10(%)以下 1/2〃φ：15(%)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

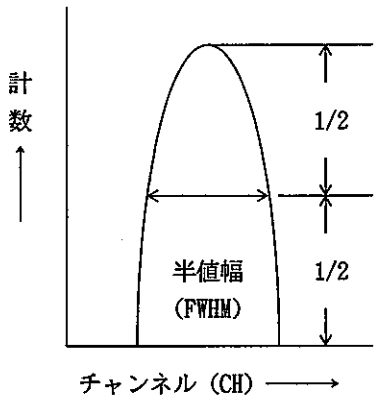
機器名	NaI（Tl）ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	型　名	S－1227 （空間γ線量率モニタ）	メーカ名	応用技研
検査名	単体試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．プラトー測定	^{137}Ｃｓ線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、次に、高圧電源を可変(50(V)毎)し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn+200(V))-(Cn-100(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{300(V)}\times100(\%)$ Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋200(V)：使用電圧Ｃｎ＋200(V)での計数値 Ｃｎ－100(V)：使用電圧Ｃｎ－100(V)での計数値 総合試験時の設定電圧を記入すること。尚、ＡＭＰ　ＧＡＩＮ及びＤＩＳＣの設定は以下で行う。 ・AMP GAIN及びDISC(DC/T)　設定 AMP GAIN：COARSE：128／FINE：0.00 目盛 DISC(DC/T)：2.00(V)	プラトー領域 300(V)以上 プラトー傾斜 10(%)/100(V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

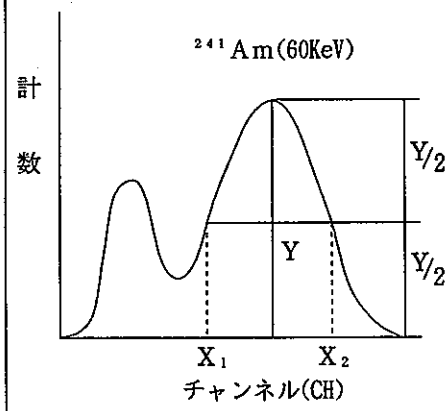
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．分解能測定	^{137}Cs 線源($3.7\times10^{4}Bq$)を検出器前方に置き、次に、3項に於けるプラトー測定で求めた、使用電圧に於いてエネルギースペクトルを測定し、分解能を求める。 グラフを作成すること。  分解能$=\frac{FWHM(CH)}{^{137}Cs\ ピークチャンネル}\times100(\%)$	^{137}Cs 線源にて 2〃ϕ　：12(%)以下 3〃ϕ　：10(%)以下 1/2〃ϕ：15(%)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	薄型NaIｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器（傷モニタ）	型　名	ＳＰ－１０ＡＲ２９２	メーカ名	応用光研
検査名	単体試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器内外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと この時ケーブルは、検出器から取り外すこと。	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	
2．分解能測定	^{241}Am 線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器前方に置き、次に、２項に於けるプラトー測定で求めた、使用電圧に於いてエネルギースペクトルを測定し、分解能を求める。 グラフを作成すること。  半値幅(FWHM)＝X_2 －X_1 $$\text{分解能}=\frac{\text{FWHM(CH)}}{^{241}\text{Am ピークチャンネル}}\times100(\%)$$	^{241}Am 線源(60Kev) 20(%)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成８年３月

機器名	βガス検出器	型　名	ＢＤ－２３	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	検出器、測定部外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 １）清掃されていること ２）部品の破損がないこと ３）ネジのゆるみがないこと ４）サビがでていないこと ５）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
２．プラトー測定	^{137}Cs 線源(3.7×10^{4}Bq)を検出器に密着させ、高圧電源を可変(50V毎) し、下記プローブに対してプラトー測定を行う。 測定プローブ　：　プローブ１ プローブ２ プローブ１、２ プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ－50(V)　：使用電圧Ｃｎ－50(V) での計数値 ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。	設定電圧：プラトー領域の下端より1/3 付近の電圧 ＢＧ値　：１分値 プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 15(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ZnS+ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	型　名	ＺＰＤ－１０１Ｂ	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．増幅器部			
2.1 増幅度確認	ＭＰＧを前置増幅器のＲ３とＣ２の間に接続し、-0.1(V) 入力した時の出力ＢＮＣコネクタP_2電圧をシンクロスコープにて測定し、利得を求める。	約10(倍)	
2.2 直線性確認	2.1 項の接続方法にて、下記の入力電圧に対しての出力電圧を測定する。 入力電圧 -0.1V,-0.2V,-0.3V, -0.4V,-0.5V		但し、直線性がある範囲
2.3 最大出力確認	入力電圧を徐々に増していき、飽和する直前の出力電圧（無歪最大出力電圧）を測定する。		
3．プラトー測定	U_3O_8線源（2"ϕ）を測定台に装着し、検出器を測定装置ＩＮＰＵＴに接続する。次に、高圧電源を可変（50V 毎）し、α系のプラトー測定を行う。 U_3O_8線源（2"ϕアルミ板使用）を測定台に装着し、α系と同様にβ系のプラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+50(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{100(V)} \times 100(\%)$	α系・β系とも 設定電圧：750(V)設定 ＢＧ値： α系 ； 1(cpm)以下 β系 ；50(cpm)以下 プラトー領域：100(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋50(V)　：使用電圧Ｃｎ＋50(V) での計数値 Ｃｎ－50(V)　：使用電圧Ｃｎ－50(V) での計数値		
	ＢＧ値は、使用印加電圧に於いて測定すること。 ・スペーサ使用		

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置（検出器試験）	型　名	ZD－LBC－453	メーカ名	Aloka
検査名	単体検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器、測定部、外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．プラトー測定 2.1 ZnSシンチレーション検出器	U_3O_8線源（2〃φ）をカセット内にセットする。 ［ストップ］ランプが点灯していることを確認し、［PROGRAM］スイッチを押す。使用していないPROGRAM No(1～9)を選択し、［COUNT MODE］を［α(1)］に設定する。 ［PROGRAM］設定が出来たら［ストップ］スイッチを押す。 ストップランプ点灯後［MANUAL］スイッチを押す。 ランプ確認後［ADVANCE］スイッチにより、カセットがエレベータの位置に移動したならば［SAMPLE SET］スイッチを押し、ランプが点灯し、検出部に送り込まれる。 ランプが消えたら［COUNT／STOP］スイッチにより測定が可能になる。 取り出すときは、［SAMPLE SET］スイッチを押し、エレベータの位置にもどる。確認出来たら［ADVANCE］スイッチにより移動する。	プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	［ADVANCE］ カセットテーブルは1ステップだけ回転させる

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
2.1 ガスフロー検出器	本検出器はＰＲガス又はメタンガスを使用し、ガスボンベの圧力が *5(kgw/㎠) 以上あることを確認し、ガスボンベをＩＮＬＥＴに接続しバルブを開く。 システムが [AUTO BREAKE] で停止している時は [AUTO BREAKE] を解除して、[STOP] ランプが点灯したならば流量が 40(mℓ/min) になる様に流量計のツマミを調整する。 [STOP] ランプが点灯し、[LOW ALARM] ランプが点灯している場合は、[GAS START] 釦を押す。 [LOW ALARM] ランプが消え [GAS START] ランプが点灯したら流量を 40(mℓ/min) に調整する。 ガス置換に20～30（分）位かかるので、ガス置換が終了するまではβ線測定モードを含むプログラムでの測定は開始しない様にコントロールされているので、ガス置換が終了し、[OK] ランプが点灯してから以下の測定を開始する。 U_3O_8線源（2〃φアルミ板使用）をカセット内にセットし、前項同様にＣＯＵＮＴ ＭＯＤＥを [β(2)] に設定し測定する。 ＺｎＳシンチレーション検出器及びガスフロー検出器のプラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn+50(V))}{Cn} \times \dfrac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$	プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	*圧力が0.3(kgw/㎠) 以下になるとガスの供給は止まる

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

改訂　平成8年3月

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	Ｃｎ　　：使用電圧での計数値 Ｃｎ＋100(V)：使用電圧Ｃｎ＋100(V)での計数値 Ｃｎ＋50(V)　：使用電圧Ｃｎ＋50(V)　での計数値		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	自動試料交換測定装置	型　名	ＳＣ－５１１	メーカ名	Ａｌｏｋａ
検査名	単体試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器測定部外部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみ、コネクタの接触などを点検する。 1）清掃されていること 2）部品の破損がないこと 3）ネジのゆるみがないこと 4）サビがでていないこと 5）コネクタの接触不良のないこと	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと	
2．低圧電源	裏面出力端子にデジボルを接続し、下記出力電圧を測定する。 24(V) 5(V)	測定値	
3．機能検査	1）試料交換動作 ①　ＭＡＮＵＡＬ動作 自動試料交換装置のＭＡＮＵＡＬＳＷを押す。	SAMPLE SETスイッチを押す毎に、INLET 側の試料を１個検出器部に送り込み、ガスフラッシュすること。	
	②　ＡＵＴＯ動作 自動試料交換装置のＡＵＴＯ　ＳＷを押し、スケーラのＳＴＡＲＴ　ＳＷを押す。	試料を交換し、設定した時間測定し、これを繰り返すこと。	
	2）サイクル動作 前項の試験にてＣＹＣＬＥのディジタルスイッチを「３」に設定する。	測定を３サイクル繰り返すこと。	
	3）オートブレイク 前項の試験にてＡＵＴＯ　ＢＲＥＡＫ　ＳＷをＯＮにする。	一連の測定を終了後、電源断となること。	
4．総合消費電力測定	ＡＣラインを直列に交流電流計を接続し、消費電流を測定する。	動作状態時及び静止状態時とも (1.5A 以下/AC100V)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

改訂　平成8年3月

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．プラトー測定	1）α領域 U_3O_8線源（25ϕ）を測定台に装着し、次に、高圧電源を可変(50V毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\dfrac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ Cn　：使用電圧での計数値 Cn＋100(V)：使用電圧Cn＋100(V)での計数値 Cn－50(V)：使用電圧Cn－50(V)での計数値	プラトー領域：150(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	＊3Hアダプタ使用
	2）$\alpha+\beta$領域 U_3O_8線源（25ϕ）を測定台に装着し、次に、高圧電源を可変(50V毎）し、プラトー測定を行う。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\dfrac{(Cn+50(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\dfrac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ Cn　：使用電圧での計数値 Cn＋50(V)：使用電圧Cn＋50(V)での計数値 Cn－50(V)：使用電圧Cn－50(V)での計数値	プラトー領域：100(V)以上 プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	＊3Hアダプタ使用

5. 点検整備記録書

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	モニタリングステーション （空間線量率系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	線量率計	指示計	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	計数率計	指示計	（cpm）	（cpm）	
		記録計	（cpm）	（cpm）	
3．測定モードの確認	線量率計	RM LIN-LOG　切換			
		RM ALM(Hi)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		RM ALM(Lo)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		時定数設定			
	計数率計	RM LIN-LOG　切換			
		RM ALM(Hi)設定値	（cpm）	（cpm）	
		RM ALM(Lo)設定値	（cpm）	（cpm）	
		標準偏差設定			
	HV設定値		（V）	（V）	
	増幅器		（目盛）	（目盛）	
	ディスクリレベル		－　（V）	－　（V）	
	チェックソース確認 （^{137}Cs　：3.7×10^{4}Bq）		（cpm）	（cpm）	
4．エネルギー直線性確認	直線性　（±15(%)以内）		（%）	（%）	
	下限値		－　（V）	－　（V）	
	ピーク電圧（^{137}Cs）		－　（V）	－　（V）	
5．感度試験	換算定数（^{226}Ra線源使用）		（μGy/h）	（μGy/h）	

点検整備記録書

機器名	モニタリングステーション (空間線量率系)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6. 異常信号確認	RM設定オーバー	良・否(　　)	良・否(　　)	

設置場所		使用線源	ﾘﾚﾌｧﾚﾝｽ：3.7×10⁴(Bq), ²²⁶Ra
点検場所		別添(有・無)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	モニタリングステーション（βガス系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	1000(V)メガーにて 50(MΩ)以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．指示値の確認	指示計	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
4．測定モードの確認	RMモジュールレンジ	×（　　）	×（　　）	
	RMアラーム　設定値	(cpm)	(cpm)	
	HV設定値	㎠　(V)	(V)	
5．ガス校正試験	^{85}Krに於いてスケーラ指示値	(mBq/cm^3/cpm)	(mBq/cm^3/cpm)	
	RM　指示値	(mBq/cm^3/cpm)	(mBq/cm^3/cpm)	
6．異常信号確認	RM設定オーバー	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．指示値と記録計の確認	フルスケールの±5(%)以内			
	指示計	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
	誤差	(%)	(%)	
8．吸収装置点検 8.1 A系統（ダスト）	圧力計指示値	(cmHg)	(cmHg)	
	流量計指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	モータ、ポンプ正常動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
8.2 B系統（ヨウ素）	圧力計指示値	(cmHg)	(cmHg)	
	流量計指示値	(ℓ/min)	(ℓ/min)	
	モータ、ポンプ正常動作	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	モリタリングステーション （テレメータ入出力）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．テレメータ入出力 2.1 入出力計数値測定 (1) 空間線量率（DOSE系）	入力計数値		(cpm)	(cpm)	
	パルス波高値		(V)	(V)	
	パルス幅		(μsec)	(μsec)	
	出力計数値		(cpm)	(cpm)	
	パルス波高値		(V)	(V)	
	パルス幅		(μsec)	(μsec)	
(2) 空間線量率（CPM系）	入力計数値		(cpm)	(cpm)	
	パルス波高値		(V)	(V)	
	パルス幅		(μsec)	(μsec)	
	出力計数値		(cpm)	(cpm)	
	パルス波高値		(V)	(V)	
	パルス幅		(μsec)	(μsec)	
(3) βガス系	入力計数値		(cpm)	(cpm)	
	パルス波高値		(V)	(V)	
	パルス幅		(μsec)	(μsec)	
	出力計数値		(cpm)	(cpm)	
	パルス波高値		(V)	(V)	
	パルス幅		(μsec)	(μsec)	
2.2 LVトラブル確認	±24(V), ±12(V) 6(V)のいずれか、及び複数が断にてランプ消灯		良・否（　　）	良・否（　　）	
2.3 高圧出力監視回路確認	HV設定値±100(V)オーバーにてランプ消灯	CH－1	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH－2	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.4 TEST確認	TEST　ランプ点灯		良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET　ランプ消灯		良・否（　　）	良・否（　　）	
3．外部表示確認	正常に表示すること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	モニタリングステーション（空間線量率系）（ＳＴ－５）	承認		年月日	
機器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	線量率計 現場盤 指示計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	線量率計 現場盤 記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	線量率計 中央監視盤 指示計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	線量率計 中央監視盤 記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	計数率計 現場盤 指示計	（cpm）	（cpm）	
	計数率計 現場盤 記録計	（cpm）	（cpm）	
3．測定モードの確認	線量率計 RM LIN-LOG 切換			
	線量率計 RM ALM(Hi)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	線量率計 RM ALM(Lo)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	線量率計 時定数設定			
	計数率計 RM LIN-LOG 切換			
	計数率計 RM ALM(Hi)設定値	（cpm）	（cpm）	
	計数率計 RM ALM(Lo)設定値	（cpm）	（cpm）	
	計数率計 標準偏差設定			
	ＨＶ設定値	（V）	（V）	
	増幅器	（目盛）	（目盛）	
	ディスクリレベル	－　（V）	－　（V）	
	チェックソース確認（^{137}Cs ：3.7×10^{4}Bq）	（cpm）	（cpm）	
4．エネルギー直線性確認	直線性（±15(%)以内）	（%）	（%）	
	下限値	－　（V）	－　（V）	
	ピーク電圧（^{137}Cs）	－　（V）	－　（V）	

点検整備記録書

機器名	モニタリングステーション （空間線量率系）（ＳＴ－５）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
5．感度試験	換算定数 （^{226}Ra線源使用）		（cpm/μGy/h）	（cpm/μGy/h）	
6．異常信号確認	ＲＭ設定オーバー		良・否（　　）	良・否（　　）	
7．テレメータ入出力確認					
7.1 出力波形確認	線量率計	出力パルス波高値	（V）	（V）	
		出力パルス幅	（μsec）	（μsec）	
	計数率計	出力パルス波高値	（V）	（V）	
		出力パルス幅	（μsec）	（μsec）	
7.2 ＬＶトラブル確認	±24(V)，±12(V)，6(V)のいずれか及び複数が断	ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
7.3 高圧出力監視回路確認	ＣＨ－１ ＨＶ設定値±100(V)オーバーにて	ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
7.4 ＴＥＳＴ確認	ＴＥＳＴ	ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＲＥＳＥＴ	ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	γﾚﾌｧﾚﾝｽ：3.7×10^{4}(Bq)，^{226}Ra
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	モニタリングポスト（空間線量率系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認						
	線量率計	現場盤	指示計	（μGy/h）	（μGy/h）	
			記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
		中央監視盤	指示計	（μGy/h）	（μGy/h）	
			記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	計数率計	現場盤	指示計	（cpm）	（cpm）	
			記録計	（cpm）	（cpm）	
3．測定モードの確認	線量率計	RM LIN-LOG 切換				
		RM ALM(Hi)設定値		（μGy/h）	（μGy/h）	
		RM ALM(Lo)設定値		（μGy/h）	（μGy/h）	
		時定数設定				
	計数率計	RM LIN-LOG 切換				
		RM ALM(Hi)設定値		（cpm）	（cpm）	
		RM ALM(Lo)設定値		（cpm）	（cpm）	
		標準偏差設定				
	HV設定値			（V）	（V）	
	増幅器			（目盛）	（目盛）	
	ディスクリレベル			－　（V）	－　（V）	
	チェックソース確認（^{137}Cs：3.7 ×10^{4}Bq）			（cpm）	（cpm）	
4．エネルギー直線性確認	直線性（±15(%)以内）			（%）	（%）	
	下限値			－　（V）	－　（V）	
	ピーク電圧（^{137}Cs）			－　（V）	－　（V）	

点検整備記録書

機器名	モニタリングポスト （空間線量率系）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
5. 感度試験	換算定数 （^{226}Ra6線源使用）		（μGy/h）	（μGy/h）	
6. 異常信号確認	RM設定オーバー		良・否（　）	良・否（　）	
7. テレメータ入出力確認					
7.1 出力波形確認	線量率計	出力パルス波高値	(V)	(V)	
		出力パルス幅	（μsec）	（μsec）	
	計数系計	出力パルス波高値	(V)	(V)	
		出力パルス幅	（μsec）	（μsec）	
7.2 LVトラブル確認	±24(V), ±12(V), 6(V)のいずれか及び複数が断	ランプ消灯	良・否（　）	良・否（　）	
7.3 高圧出力監視回路確認	CH－1 HV設定値±100(V)オーバーにて	ランプ消灯	良・否（　）	良・否（　）	
7.4 TEST確認	TEST	ランプ点灯	良・否（　）	良・否（　）	
	RESET	ランプ消灯	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	γレファランス：3.7×10^4(Bq), ^{226}Ra
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	高線量率計 （ステーション）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	現場盤	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
3．測定モードの確認	現場盤 線量率計	設定切換	USE	USE	
		RM ALM(Hi) 設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		RM ALM(lo) 設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		時定数設定			
4．線量率直線性試験	B．G	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{226}Ra (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{137}Cs (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{60}Co (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{226}Ra (3.7×10^{6}Bq) 密着	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	

設置場所		使 用 線 源	^{226}Ra, ^{137}Cs, ^{60}Co:3.7×10^{6}(Bq)
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	高線量率計（ポスト）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	現場盤	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	中央監視盤	記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
3．測定モードの確認	現場盤 線量率計	設定切換			
		RM ALM(Hi)設定値	（μGy/h）	（μGy/h	
		RM ALM(lo)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		時定数設定			
	中央監視盤 線量率計	設定切換			
		RM ALM(Hi)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		RM ALM(lo)設定値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		時定数設定			
4．線量率直線性試験	現場盤				
	B．G	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{226}Ra (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{137}Cs (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{60}Co (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{226}Ra (3.7×10^{6}Bq) 密着	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	高線量率計（ポスト）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	中央監視盤				
	B．G	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{226}Ra $(3.7\times10^{6}Bq)$ 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{137}Cs $(3.7\times10^{6}Bq)$ 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{60}Co $(3.7\times10^{6}Bq)$ 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	
	^{226}Ra $(3.7\times10^{6}Bq)$ 密着	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	(V)	(V)	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	高線量率計（MP－7） （モニタリングポスト）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	現場盤　指示計		（μGy/h）	（μGy/h）	
	中央監視盤　記録計		（μGy/h）	（μGy/h）	
3．測定モードの確認	現場盤 線量率計モジュールレンジ		LOG-1	LOG-1	
	線量率計アラーム設定値		（μGy/h）	（μGy/h）	
	中央監視盤 線量率計アラーム設定値		（μGy/h）	（μGy/h）	
4．線量率直線性試験	現場盤				
	B．G	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	^{226}Ra （3.7×10^{6}Bq） 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	^{137}Cs （3.7×10^{6}Bq） 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	^{60}Co （3.7×10^{6}Bq） 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	^{226}Ra （3.7×10^{6}Bq） 密着	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	中央監視盤				
	B．G	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	^{226}Ra （3.7×10^{6}Bq） 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	
	^{137}Cs （3.7×10^{6}Bq） 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（V）	（V）	

点検整備記録書

機器名	高線量率計（MP－7） （モニタリングポスト）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	^{60}Co (3.7×10^{6}Bq) 1m	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（μGy/h）	（μGy/h）	
	^{226}Ra (3.7×10^{6}Bq) 密着	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		出力電圧	（μGy/h）	（μGy/h）	

設置場所		使用線源	^{226}Ra, ^{137}Cs, ^{60}Co:3.7×10^{6}(Bq)
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	モニタリング車 （空間γ線量率モニタ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	線量率計	指示計	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	（μGy/h）	（μGy/h）	
	計数率計	指示計	（cpm）	（cpm）	
		記録計	（cpm）	（cpm）	
3．測定モードの確認	線量率計	RMアラーム(Hi)	（μGy/h）	（μGy/h）	
		RMアラーム(Lo)	（μGy/h）	（μGy/h）	
		ディスクリレベル	（V）	（V）	
	計数率計	RMアラーム(Hi)	（cpm）	（cpm）	
		RMアラーム(Lo)	（cpm）	（cpm）	
		ディスクリレベル	（V）	（V）	
	HV設定値		（V）	（V）	
	増幅器	COARSE			
		FINE	（目盛）	（目盛）	
	チェックソース確認 （^{137}Cs ：3.7×10^{4}Bq ） （1μCi）		（cpm）	（cpm）	
4．エネルギー直線性確認	直線性　（±15(%)以内）		（%）	（%）	
	下限値		（V）	（V）	
	ピーク電圧（^{137}Cs）		（V）	（V）	
5．感度試験	換算定数（^{226}Ra線源使用）		（cpm/μGy/h）	（cpm/μGy/h）	
6．異常信号確認	RM設定オーバー		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	モニタリング車 （β（γ）測定系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	プラトー領域内の中央値	(V)	(V)	
2.2 ディスクリレベル	増幅器出力値	(V)	(V)	
2.3 ＢＧ値確認	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
2.5 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	モニタリング車 （ヨウ素モニタ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認		指示値	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
3．測定モードの確認	計数率計	RMアラーム(Hi)	(cpm)	(cpm)	
		RMアラーム(Lo)	(cpm)	(cpm)	
		ディスクリレベル	(V)	(V)	
	HV設定値		(V)	(V)	
	増幅器	COARSE			
		FINE	(目盛)	(目盛)	
	360(KeV)±10(%	BASE LINE	(目盛)	(目盛)	
		WINDOW	(目盛)	(目盛)	
4．エネルギー直線性確認	直線性		(%)	(%)	
	ピーク電圧（MOCK-I）		(V)	(V)	
5．感度試験	BASE LINE 効率：2(%)以上		(目盛) (%)	(目盛) (%)	
	検出感度 (1×10^{-6}Bq/ cm²)以上		(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	
6．異常信号確認	RM設定オーバー		良・否（　　）	良・否（　　）	
7．サンプラ動作試験	最大流量：100(ℓ/min)以上		良・否（　　）	良・否（　　）	
	真空度　：-200(mmHg)時 60(ℓ/min)以上		良・否（　　）	良・否（　　）	
	ろ紙ホルダ部接続時 60(ℓ/min)以上		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	モニタリング車 （No.2）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（ ）	良・否（ ）	
2. 指示値の確認	線量率	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	計数率	指示値	（cpm）	（cpm）	
		記録値	（cpm）	（cpm）	
3. 測定モードの確認	HV設定値		（V）	（V）	
	増幅ゲイン設定				
	ディスクリレベル（50KeV）		（%）	（%）	
	チェックソース確認（1μCi）（^{137}Cs ：3.7 ×10^{4}Bq）		（cpm）	（cpm）	
4．エネルギー直線性確認	直線性 （±15% 以内）		（%）	（%）	
	下限値		（%）	（%）	
	ピーク電圧（^{137}Cs 線源）		（%）	（%）	
5．感度試験	換算定数（^{226}Ra使用）		（cpm/μGy/h）	（cpm/μGy/h）	
6．DC／ACインバータ電圧の確認	AC100 ±10(V) 以内		（V）	（V）	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	排水モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	No.1	デジタル表示	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
	No.2	デジタル表示	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
3．測定モードの確認	No.1				
	計数率計	レンジ			
		アラーム設定値(LO)	(cpm)	(cpm)	
		アラーム設定値(HI)	(cpm)	(cpm)	
		レスポンス設定			
	HV設定値		(V)	(V)	
	増幅器	COARSE			
		FINE	(目盛)	(目盛)	
	ディスクリレベル		(目盛)	(目盛)	
	No.2				
	計数率計	レンジ			
		アラーム設定値(LO)	(cpm)	(cpm)	
		アラーム設定値(HI)	(cpm)	(cpm)	
		レスポンス設定			
	HV設定値		(V)	(V)	
	増幅器	COARSE			
		FINE	(目盛)	(目盛)	
	ディスクリレベル		(目盛)	(目盛)	
	チェックソース確認 (^{137}Cs: 3.7×10^{4}Bq) (1μCi) No.1 計数値		(cpm)	(cpm)	
	No.2 計数値		(cpm)	(cpm)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	排水モニタ	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
4．エネルギー直線性確認	No.1 直線性（±15(%)以内）	(%)	(%)	
	下限値	(V)	(V)	
	ピーク電圧(^{137}Cs)	(V)	(V)	
	No.2 直線性（±15(%)以内）	(%)	(%)	
	下限値	(V)	(V)	
	ピーク電圧(^{137}Cs)	(V)	(V)	
5．感度試験	No.1 換算定数	(Bq/cc/cpm)	(Bq/cc/cpm)	
	No.2 換算定数	(Bq/cc/cpm)	(Bq/cc/cpm)	
6．警報動作確認	正常に動作すること。			
6.1 電源異常	ＬＶ１（No.1系）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＬＶ２（No.2系）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＬＶ３（共通系）	良・否（　　）	良・否（　　）	
6.2 高圧電源異常	ＨＶ１（No.1）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＨＶ２（No.2）	良・否（　　）	良・否（　　）	
6.3 漏水警報		良・否（　　）	良・否（　　）	
6.4 ＲＭアラーム	ＲＭ１（No1 HI）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＲＭ２（No2 HI）	良・否（　　）	良・否（　　）	
6.5 サンプリング異常		良・否（　　）	良・否（　　）	
7．出力信号の確認				
7.1 安管棟				
(1) No.1信号出力	排水モニタ室 波高値	(V)	(V)	
	排水モニタ室 パルス幅	(μsec)	(μsec)	
	パネル室 波高値	(V)	(V)	
	パネル室 パルス幅	(μsec)	(μsec)	

点検整備記録書

機器名	排水モニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
(2) No.2信号出力					
	排水モニタ室	波高値	(V)	(V)	
		パルス幅	(μsec)	(μsec)	
	パネル室	波高値	(V)	(V)	
		パルス幅	(μsec)	(μsec)	
(3) アラーム（漏水） 電源異常 高圧電源異常 漏水警報					
	排水モニタ室	LV1	良・否（ ）	良・否（ ）	
		LV2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		LV3	良・否（ ）	良・否（ ）	
		HV1	良・否（ ）	良・否（ ）	
		HV2	良・否（ ）	良・否（ ）	
		漏水	良・否（ ）	良・否（ ）	
	パネル室		良・否（ ）	良・否（ ）	
(4) 放出中信号					
	排水モニタ室		良・否（ ）	良・否（ ）	
	パネル室		良・否（ ）	良・否（ ）	
(5) BG測定中					
	排水モニタ室		良・否（ ）	良・否（ ）	
	パネル室		良・否（ ）	良・否（ ）	
(6) 点検中信号					
	排水モニタ室		良・否（ ）	良・否（ ）	
	パネル室		良・否（ ）	良・否（ ）	
(7) 点検中リセット信号	排水モニタ室		良・否（ ）	良・否（ ）	
(8) RMアラーム （HIアラーム）					
	排水モニタ室	RM1	良・否（ ）	良・否（ ）	
		RM2	良・否（ ）	良・否（ ）	
(9) サンプリング信号	排水モニタ室		良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	排水モニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
7.2 県出力 (1) No.1信号出力					
	出力確認	波高値	(V)	(V)	
		パルス幅	(μsec)	(μsec)	
(2) トラブル信号出力					
	出力信号	LV異常	良・否 ( )	良・否 ( )	
		HV異常	良・否 ( )	良・否 ( )	
		漏水	良・否 ( )	良・否 ( )	
(3) 放出中信号	出力信号				
(4) 点検中信号	出力信号		良・否 ( )	良・否 ( )	
(5) BG測定中	出力信号		良・否 ( )	良・否 ( )	
8. 指示精度の確認					
	No.1	デジタル表示	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
		誤差	(%)	(%)	
	No.2	デジタル表示	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
		誤差	(%)	(%)	
9. PH計指示確認					
		デジタル表示			
		記録計			
	出力電圧	安管棟出力	(mv)	(mv)	
		県出力	(mv)	(mv)	
		レコーダ出力	(mv)	(mv)	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添 (有・無)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	一般排水モニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．指示値の確認	デジタル表示	(cpm)	(cpm)	
	記録計	(cpm)	(cpm)	
3．測定モードの確認				
	計数率計 レンジ			
	計数率計 アラーム設定値(LO)	(cpm)	(cpm)	
	計数率計 アラーム設定値(HI)	(cpm)	(cpm)	
	計数率計 レスポンス設定			
	HV設定値	(V)	(V)	
	増幅器 COARSE			
	増幅器 FINE	(目盛)	(目盛)	
	S・CH LLD	(V)	(V)	
	S・CH ULD	(V)	(V)	
	チェックソース確認 (^{137}Cs: 3.7×10^{4}Bq) (1μCi)	(cpm)	(cpm)	
4．エネルギー直線性確認	直線性（±15(%)以内）	(%)	(%)	
	下限値	(V)	(V)	
	ピーク電圧(^{137}Cs)	(V)	(V)	
5．感度試験	換算定数 (^{40}K を使用)	(Bq/cc/cpm)	(Bq/cc/cpm)	
6．テレメータ入出力確認 6.1 LVトラブル確認	±24(V), ±12(V), 6(V)のいずれか及び複数が断、ランプ消灯	良・否（　）	良・否（　）	
6.2 高圧出力監視回路確認	CH－1 HV設定値±100(V)オーバーにて　ランプ消灯	良・否（　）	良・否（　）	
6.3 TEST確認	TEST　ランプ点灯	良・否（　）	良・否（　）	
	RESET　ランプ消灯	良・否（　）	良・否（　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	一般排水モニタ	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
7．指示値と記録計の指示確認	デジタル表示	(cpm)	(cpm)	
	記 録 計	(cpm)	(cpm)	
	誤 差	(%)	(%)	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α２系統放射能測定装置（ＪＤＣ－５０１）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α－１点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．α－２点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
3.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
3.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α２系統放射能測定装置（ＪＤＣ－５０３）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α－１点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．α－２点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
3.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
3.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α２系統放射能測定装置 （ＪＤＣ－Ｒ７４－４２４１）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α－1点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．α－2点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
3.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
3.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α・β2系統放射能測定装置（JDC－501）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α系点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 B．G測定	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.3 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
3.4 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α・β２系統放射能測定装置（ＪＤＣ－５０３）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α系点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 B．G測定	GM-5004　：40(cpm)以下 GM-H-5001V：35(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.3 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
3.4 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α・β2系統放射能測定装置 （JDC−R74−3000）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α系点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 B．G測定	GM-5004　：40(cpm)以下 GM-H-5001V：35(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.3 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
3.4 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α・β2系統放射能測定装置 （R74－1319）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α系点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	AMP GAIN COARSE 16　(目盛) FINE 2　(目盛) HV　調整
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
3.2 B．G測定	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.3 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
3.4 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	α・β２系統放射能測定装置（６０３Ａ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．α系点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	＊設定 GAIN　:10.0(目盛) DISCRI:1.00(目盛)
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．β（γ）系点検 3.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	＊設定 GAIN　:7.00(目盛) DISCRI:1.00(目盛)
3.2 B．G測定	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
3.3 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
3.4 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ライズタイム式2系統放射能測定装置 （JDC－R74－3180）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．検出器印加電圧確認		(V)	(V)	
3．入力感度	-100±10(mV)以内 α系	(mV)	(mV)	
	β系	(mV)	(mV)	
	コインシデンス系	(mV)	(mV)	
4．BG測定	α系　：　1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	β系　：　50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
5．計数効率測定	α系　：　25(%)以上	(%)	(%)	
	β系　：　30(%)以上	(%)	(%)	
6．弁別性能試験	α系　：　0.1(%)以上	(%)	(%)	
	β系　：　1(%)以上	(%)	(%)	
7．外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

管理番号	
整理番号	

点検整備記録書

検査名（総合検査）

機器名	ピコベータ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．高圧電源点検 2.1 シンチ系出力電圧確認	700 ～ 1200(V)以内	(V)	(V)	
2.2 GM系出力電圧確認	3.00（目盛）	(V)	(V)	
	4.00（目盛）	(V)	(V)	
	5.00（目盛）	(V)	(V)	
	6.00（目盛）	(V)	(V)	
	7.00（目盛）	(V)	(V)	
	8.00（目盛）	(V)	(V)	
	9.00（目盛）	(V)	(V)	
	10.00（目盛）	(V)	(V)	
	11.00（目盛）	(V)	(V)	
	12.00（目盛）	(V)	(V)	
	13.00（目盛）	(V)	(V)	
3．GMガスフロー検出器 3.1 プラトー特性	印加電圧 1000(V)	(cpm)	(cpm)	＊別添プラトー曲線参照 使用線源：^{14}C
	1020(V)	(cpm)	(cpm)	
	1040(V)	(cpm)	(cpm)	
	1060(V)	(cpm)	(cpm)	
	1080(V)	(cpm)	(cpm)	
	1100(V)	(cpm)	(cpm)	
	1120(V)	(cpm)	(cpm)	
	1140(V)	(cpm)	(cpm)	
	1160(V)	(cpm)	(cpm)	
	1180(V)	(cpm)	(cpm)	
	1200(V)	(cpm)	(cpm)	
	1220(V)	(cpm)	(cpm)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ピコベータ	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
	1240(V)	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜： (%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
3.2 印加電圧設定	印加電圧	(V)	(V)	
4．エネルギー規格化 4.1 対数直線性	テストパルス　1 [　35(Kev)相当]	(目盛)	(目盛)	＊別添 シングルチャンネル ベースライン目盛 ＶＳエネルギー グラフ参照
	テストパルス　3 [105(Kev)相当]	(目盛)	(目盛)	
	テストパルス　10 [350(Kev)相当]	(目盛)	(目盛)	
	テストパルス　30 [1.05(Mev)相当]	(目盛)	(目盛)	
	テストパルス 100 [3.50(Mev)相当]	(目盛)	(目盛)	
4.2 エネルギ規格化調整	^{137}Cs-^{137m}Ba内部転換電子 [625(Kev)]	(目盛)	(目盛)	
5．エネルギー分解能測定	^{137}Cs-^{137m}Ba内部転換電子 にて　100(KeV)以下	(KeV)	(KeV)	
	^{137}Cs-^{137m}Ba内部転換電子 にて　18(%) 以下	(%)	(%)	
6．同時計数測定 6.1 35(KeV) ～1.75(MeV)	設定値			＊AMP,SCAの設定値は、 (6.2項) とする。
	AMP　COARSE	(目盛)	(目盛)	＊使用線源 ^{137}Cs ：1″ φ
	AMP　FINE	(目盛)	(目盛)	
	SCA　BASE	(目盛)	(目盛)	
	SCA　WINDOW	(目盛)	(目盛)	
	ＢＧ値　：2.0(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	効率　：　(%) 以上	(%)	(%)	
6.1 35(KeV) ～ 3.5(MeV)	設定値			＊使用線源 U_3O_8 ：2″ φ
	AMP　COARSE	(目盛)	(目盛)	
	AMP　FINE	(目盛)	(目盛)	
	SCA　BASE	(目盛)	(目盛)	
	SCA　WINDOW	(目盛)	(目盛)	
	ＢＧ値　：6.0(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	効率　：　(%) 以上	(%)	(%)	

点検整備記録書

機器名	ピコベータ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
7. 試料交換機構部 7.1 動力部電流測定	動作状態	(A)	(A)	
	静止状態	(A)	(A)	
7.2 プリンター動作試験	正常に動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	
8. 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ハンディスケーラ（α系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上 (回転式：20(%)以上)	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ハンディスケーラ（β（γ）系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
2.5 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ハンディスケーラ（β（γ）系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	注：GM-H-5001V使用
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
2.5 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ベーシックスケーラ（α系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	25(%)以上	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ベーシックスケーラ（β（γ）系）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	使用印加電圧	(V)	(V)	
2.2 入力感度	増幅器出力値	(mV)	(mV)	
2.3 B．G測定	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
2.5 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動装置（LBC－453）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．機能検査	GASコントロール動作	良・否（　）	良・否（　）	
	CLOCK SET動作	良・否（　）	良・否（　）	
	PROGRAM SET動作	良・否（　）	良・否（　）	
	表示及び表示切換	良・否（　）	良・否（　）	
	プリント動作	良・否（　）	良・否（　）	
	演算動作	良・否（　）	良・否（　）	
	CYCLE動作	良・否（　）	良・否（　）	
	AUTO BREAKE動作	良・否（　）	良・否（　）	
	停電回復時の動作	良・否（　）	良・否（　）	
	S・C制御動作	良・否（　）	良・否（　）	
3．HV設定	α線用シンチレーション検出器	(V)	(V)	
	β線用ガスフロー検出器	(V)	(V)	
4．BG測定	α系　：　1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	β系　：　3(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
5．計数効率	α系　：　15(%)以上	(%)	(%)	
	β系　：　25(%)以上	(%)	(%)	
6．外部影響	外部電源等によるノイズのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	低バックグラウンド放射能自動測定装置 （ＬＢＣ－４８１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．高圧設定	α領域	(V)	(V)	
3．ＢＧ測定	α領域 0.1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
4．計数効率	α領域 45(%)以上／４π	(%)	(%)	
5．外部影響	外部電源等による ノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α線シンチレーション自動測定装置（ＪＤＣ－８６２ＲＩ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	プラトー領域内の中央値	(V)	(V)	
2.2 ディスクリレベル	増幅器出力値	(V)	(V)	
2.3 ＢＧ値確認	0.5(cpm)以下〔10分測定〕	(cpm)	(cpm)	
2.4 計数効率	15(%)以上	(%)	(%)	
2.5 β線感度試験	β線源による感度のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2.6 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	GM自動測定装置 （JDC－163）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．総合点検 2.1 検出器印加電圧	プラトー領域内の中央値	(V)	(V)	
2.2 BG値確認	40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
2.3 計数効率	20(%)以上	(%)	(%)	
2.4 外部影響	外部電源等によるノイズのないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	多試料同時放射能測定装置 （ＪＤＣ－Ｒ７４－３４９３）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ＨＶ設定	プラトー領域内の中央値		(V)	(V)	
3．ＢＧ測定	1(cpm)以下	ＣＨ－ 1	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 2	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 3	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 4	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 5	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 6	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 7	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 8	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－ 9	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－10	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－11	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－12	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－13	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－14	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－15	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－16	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－17	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－18	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－19	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－20	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－21	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－22	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－23	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－24	(cpm)	(cpm)	
		ＣＨ－25	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	多試料同時放射能測定装置 （JDC－R74－3493）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
		CH－26	(cpm)	(cpm)	
		CH－27	(cpm)	(cpm)	
		CH－28	(cpm)	(cpm)	
		CH－29	(cpm)	(cpm)	
		CH－30	(cpm)	(cpm)	
4．計数効率	25(%)以上				
		CH－ 1	(%)	(%)	
		CH－ 2	(%)	(%)	
		CH－ 3	(%)	(%)	
		CH－ 4	(%)	(%)	
		CH－ 5	(%)	(%)	
		CH－ 6	(%)	(%)	
		CH－ 7	(%)	(%)	
		CH－ 8	(%)	(%)	
		CH－ 9	(%)	(%)	
		CH－10	(%)	(%)	
		CH－11	(%)	(%)	
		CH－12	(%)	(%)	
		CH－13	(%)	(%)	
		CH－14	(%)	(%)	
		CH－15	(%)	(%)	
		CH－16	(%)	(%)	
		CH－17	(%)	(%)	
		CH－18	(%)	(%)	
		CH－19	(%)	(%)	
		CH－20	(%)	(%)	
		CH－21	(%)	(%)	
		CH－22	(%)	(%)	
		CH－23	(%)	(%)	
		CH－24	(%)	(%)	
		CH－25	(%)	(%)	
		CH－26	(%)	(%)	

点検整備記録書

機器名	多試料同時放射能測定装置 （JDC－R74－3493）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
	CH－27	(%)	(%)	
	CH－28	(%)	(%)	
	CH－29	(%)	(%)	
	CH－30	(%)	(%)	
5．動作確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	可搬型線量測定装置 （MAR－２５１BR４）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
3．低圧出力電圧の確認	12(V) ： 11.5 ～ 12.5(V)	(V)	(V)	
	-12(V) ：-11.5 ～-12.5(V)	(V)	(V)	
	5(V) ： 4.7 ～ 5.3(V)	(V)	(V)	
4．高圧出力電圧の確認	500 ± 10(V)以内	(V)	(V)	
5．レートメータ指示確認	フルスケールの±5(%)以内			
	入力値（cps） / 指示値（μGy/h）			
1×10^{-1}（μGy/h）レンジ	1.0×10^{1} / 6.5×10^{-2}	（μGy/h）	（μGy/h）	
1×10^{0}（μGy/h）レンジ	1.0×10^{2} / 6.5×10^{-1}	（μGy/h）	（μGy/h）	
1×10^{1}（μGy/h）レンジ	1.0×10^{3} / 6.5×10^{0}	（μGy/h）	（μGy/h）	
1×10^{2}（μGy/h）レンジ	2.0×10^{3} / 1.30×10^{1}	（μGy/h）	（μGy/h）	
6．記録計出力電圧の確認	入力：100(cps) 出力電圧:6.5±0.5(mV)以内	(mV)	(mV)	
7．通過率の確認				
	入力波高（V） / 通過率（%）			
	6.00 / 100 ±5.0	(%)	(%)	
	3.00 / 50.0±2.5	(%)	(%)	
	0.60 / 10.0±0.5	(%)	(%)	
	0.30 / 5.00±0.25	(%)	(%)	
	0.08 / 0.1以下	(%)	(%)	

点検整備記録書

機器名	可搬型線量測定装置 （MAR－251BR4）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
8．3(MeV)カット動作の確認	6±0.12(V)以内	(V)	(V)	
9．線量率直線性試験 （^{226}Ra線源使用）	吸収線量率：±20(%)以内			
	142.9×10^{-2}(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
	70.0×10^{-2}(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
	35.2×10^{-2}(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
	BG	(μGy/h)	(μGy/h)	
10．感度試験 （^{226}Ra線源使用）		(cpm/μGy/h)	(cpm/μGy/h)	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	放射能自動測定装置 （JDC－R74－2361）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．計測測定動作確認		CLOCK SET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CONSTANT SET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		表示内容の切換動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		TEST動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		プリント動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		演算動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．HV設定	各プラトー領域内の中央値		(V)	(V)	
4．BG測定	0.5(cpm)以下	CH1	(cpm)	(cpm)	
		CH2	(cpm)	(cpm)	
		CH3	(cpm)	(cpm)	
		CH4	(cpm)	(cpm)	
5．計数効率	20(%)以上	CH1	(%)	(%)	＊アダプター使用
		CH2	(%)	(%)	
		CH3	(%)	(%)	
		CH4	(%)	(%)	
6．外部影響		CH1	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH2	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH3	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH4	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	放射能自動測定装置 （JDC－R74－2722）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．計測測定動作確認		CLOCK SET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CONSTANT SET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		表示内容の切換動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		TEST動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		プリント動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		演算動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．HV設定	各プラトー領域内の中央値		(V)	(V)	
4．BG測定	0.5(cpm)以下	CH1	(cpm)	(cpm)	
		CH2	(cpm)	(cpm)	
		CH3	(cpm)	(cpm)	
		CH4	(cpm)	(cpm)	
		CH5	(cpm)	(cpm)	
5．計数効率	20(%)以上	CH1	(%)	(%)	＊アダプター使用
		CH2	(%)	(%)	
		CH3	(%)	(%)	
		CH4	(%)	(%)	
		CH5	(%)	(%)	
6．外部影響		CH1	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH2	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH3	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH4	良・否（　　）	良・否（　　）	
		CH5	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	放射能自動測定装置 （JDC－R74－2722）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
7．SCAの設定					
	CH1	LLD	（目盛）	（目盛）	
		ULD	（目盛）	（目盛）	
	CH2	LLD	（目盛）	（目盛）	
		ULD	（目盛）	（目盛）	
	CH3	LLD	（目盛）	（目盛）	
		ULD	（目盛）	（目盛）	
	CH4	LLD	（目盛）	（目盛）	
		ULD	（目盛）	（目盛）	
	CH5	LLD	（目盛）	（目盛）	
		ULD	（目盛）	（目盛）	

設置場所	Pu－3：放管室	使用線源	
点検場所	Pu－3：放管室	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	傷モニタ （NaI薄型タイプ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．測定モードの確認	HV設定	(V)	(V)	
	AMP GAIN COARSE			
	FINE	(目盛)	(目盛)	
3．エネルギー設定	ピーク電圧 ^{241}Am線源（60KeV）	(V)	(V)	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	可搬型ガスモニタ（RD－1200）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガーにて 100(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．入力、出力特性試験				
3.1 電圧係数試験	±1.5(%)以内			

係数	入力電圧		
0.01	1(mV)	(mV)	(mV)
0.03	3(mV)	(mV)	(mV)
0.1	10(mV)	(mV)	(mV)
0.3	30(mV)	(mV)	(mV)
1.0	100(mV)	(mV)	(mV)
3.0	300(mV)	(mV)	(mV)
10.0	1 (V)	(V)	(V)
30.0	3 (V)	(V)	(V)
100.0	10 (V)	(V)	(V)

3.2 直線性試験
(1) リニア目盛：係数 1.0

フルスケールの±1.5(%)以内

入力電圧	測定箇所	指示値		
0.0(mV)	記録計	0 (%)	(%)	(%)
	指示値	0 (%)	(%)	(%)
	外部出力	0(mV)	(mV)	(mV)
20.0(mV)	記録計	20 (%)	(%)	(%)
	指示値	20 (%)	(%)	(%)
	外部出力	2(mV)	(mV)	(mV)
40.0(mV)	記録計	40 (%)	(%)	(%)
	指示値	40 (%)	(%)	(%)
	外部出力	4(mV)	(mV)	(mV)
60.0(mV)	記録計	60 (%)	(%)	(%)
	指示値	60 (%)	(%)	(%)
	外部出力	6(mV)	(mV)	(mV)

点検整備記録書

機器名	可搬型ガスモニタ（RD－１２００）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
(2) ログ目盛	80.0(mV)	記録計	80 (%)	(%)	(%)	
		指示値	80 (%)	(%)	(%)	
		外部出力	8(mV)	(mV)	(mV)	
	100.0 (mV)	記録計	100 (%)	(%)	(%)	
		指示値	100 (%)	(%)	(%)	
		外部出力	10(mV)	(mV)	(mV)	
	指示値 ：±0.16(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内 外部出力：±2(%) フルスケールの±2(%)以内					
	入力電圧	測定箇所	指示値			
	1(mV)	指示値	0.01(%)	(%)	(%)	
		外部出力	0(mV)	(mV)	(mV)	
	10(mV)	指示値	0.1 (%)	(%)	(%)	
		外部出力	2.5(mV)	(mV)	(mV)	
	100(mV)	指示値	1.0 (%)	(%)	(%)	
		外部出力	5.0(mV)	(mV)	(mV)	
	1 (V)	指示値	10.0 (%)	(%)	(%)	
		外部出力	7.5(mV)	(mV)	(mV)	
	10 (V)	指示値	100.0(%)	(%)	(%)	
		外部出力	10.0(mV)	(mV)	(mV)	
3.3 標準電流電離箱電流入力試験	使用電流原仕様 製造番号： No.90593 出力電流： 2.805E-11(A) 核種 ： ^{90}Sr 製造年月日：1990.11.20			(A)	(A)	
	使用電流原仕様 製造番号： No.89166 出力電流： 2.874E-12(A) 核種 ： ^{90}Sr 製造年月日：1990.11.20			(A)	(A)	
	使用電流原仕様 製造番号： No.89167 出力電流： 2.8590E-13(A) 核種 ： ^{90}Sr 製造年月日：1990.11.20			(A)	(A)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型ガスモニタ（RD－1200）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
4．零サンプレッション及び零アジャスト範囲試験 4.1 零サンプレッション	COARSE： 0.5×10^{-13}(A)以上	(A)	(A)	
	FINE ： 3.0×10^{-14}(A)以上	(A)	(A)	
4.2 零アジャスト	1×SHORT ： 30(%)以上	(%)	(%)	
5．振れ幅試験	測定レンジ / 規格			
	SHORT × 0.1 / 1(%)以下	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1×10^{-9} × 0.1 / 2(%)以下	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1×10^{-11} × 0.1 / 2(%)以下	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1×10^{-13} × 0.1 / 5(%)以下	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．電離箱印加電圧試験	測定用（M）300±20(V) 以内	(V)	(V)	
	補償用（C）300±20(V) 以内	(V)	(V)	
7．気密度試験	最大到達真空度 310(mmHgAbs) 以下	(mmHgAbs)	(mmHgAbs)	
8．動作試験 8.1 MAIN SW 投入	MAINランプ点灯	良・否（ ）	良・否（ ）	
	指示計動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
	記録計動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.2 SHORT ×0.1	記録、指示計ともに零点指示	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.3 1×10^{-13}(A)×0.1	記録、指示計ともに零点指示	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.4 SHORT ×0.1 で CHAM(M) 投入	CHAM（M）ランプ点灯	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.5 1×10^{-13}(A)×0.1	指示：2 $\times10^{-15}$(A)以下	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.6 PUMP SW 投入	PUMPランプ点灯	良・否（ ）	良・否（ ）	
	流量： 10(ℓ/min) 以上	良・否（ ）	良・否（ ）	
	圧力：680(mmHgAbs)以上	良・否（ ）	良・否（ ）	
	指示：2 $\times10^{-15}$(A)以下	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.7 停止 (1) PUMP SW 投入	PUMPランプ点灯	良・否（ ）	良・否（ ）	
	流量： 0(ℓ/min) 以上	良・否（ ）	良・否（ ）	
	圧力：760(mmHgAbs)以上	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	可搬型ガスモニタ （RD－1200）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
(2) SHORT ×0.1	零点指示		良・否（　）	良・否（　）	
(3) CHAM(M) 再投入	CHAM（M）ランプ消灯		良・否（　）	良・否（　）	
(4) MAIN SW 再投入	MAIN（M）ランプ消灯		良・否（　）	良・否（　）	
	記録、指示計停止		良・否（　）	良・否（　）	
9．零ドリフト試験					＊記録紙参照
	測定レンジ	規格			
	SHORT × 0.1	2(%)/12(h)以下	良・否（　）	良・否（　）	
	1 ×10^{-13}(A) × 0.1	4(%)/12(h)以下	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型ガスモニタ （RD－１２１０）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガーにて 100(MΩ)以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．入力、出力特性試験 3.1 電圧入力試験 (1) ＬＯＧ （電圧係数試験）	指示値：基準値±3(%)以内 出力１：基準値±0.30(mV) 出力２：基準値±0.12(V)				
	入力電圧	基 準 値			
	1(mV)	指示値	0.10E1		
		出力１	0.00(mV)	(mv)	(mv)
		出力２	1.00 (V)	(V)	(V)
	10(mV)	指示値	1.00E1		
		出力１	2.50(mV)	(mv)	(mv)
		出力２	2.00 (V)	(V)	(V)
	100(mV)	指示値	1.00E2		
		出力１	5.00(mV)	(mv)	(mv)
		出力２	3.00 (V)	(V)	(V)
	1 (V)	指示値	1.00E3		
		出力１	7.50(mV)	(mv)	(mv)
		出力２	4.00 (V)	(V)	(V)
	10 (V)	指示値	1.00E4		
		出力１	10.00(mV)	(mv)	(mv)
		出力２	5.00 (V)	(V)	(V)

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型ガスモニタ （RD－１２１０）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準			設 定 値	点 検 値	備　　考
(2) ＬＩＮ （直線性試験）	指示値：基準値±3(%)以内 出力１：基準値±0.30(mV) 出力２：基準値±0.12(V)					
	入力電圧	基 準 値				
	0.0(mV)	指示値	0.00E1			
		出力１	0.00(mV)	(mv)	(mv)	
		出力２	1.00 (V)	(V)	(V)	
	20(mV)	指示値	2.00E1			
		出力１	2.00(mV)	(mv)	(mv)	
		出力２	1.80 (V)	(V)	(V)	
	40(mV)	指示値	4.00E1			
		出力１	4.00(mV)	(mv)	(mv)	
		出力２	2.60 (V)	(V)	(V)	
	60(mV)	指示値	6.00E1			
		出力１	6.00(mV)	(mv)	(mv)	
		出力２	3.40 (V)	(V)	(V)	
	80(mV)	指示値	8.00E1			
		出力１	8.00(mV)	(mv)	(mv)	
		出力２	4.20 (V)	(V)	(V)	
	100(mV)	指示値	1.00E2			
		出力１	10.00(mV)	(mv)	(mv)	
		出力２	5.00 (V)	(V)	(V)	
3.2 標準電流電離箱電流 入力試験	使用電　原仕様 製造番号：　No.ORA624701 出力電流：2.805×10^{-11}(A) 核　種　：　^{90}Sr 製造年月日：1990.11.20			(A)	(A)	
	使用電流原仕様 製造番号：　No.ORA624702 出力電流：2.874×10^{-12}(A) 核　種　：　^{90}Sr 製造年月日：1990.11.20			(A)	(A)	
4．故障・警報動作試験	正常に動作すること。			良・否（　　）	良・否（　　）	
5．動作試験	正常に動作すること。			良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	可搬型ガスモニタ （RD－１２１０）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．零ドリフト試験				

測定レンジ	規格			
SHORT 1.00E1FA	2(%)/12(h) 以下	良・否（　　）	良・否（　　）	
1.00E12Ω 1.00E1FA	3(%)/12(h) 以下	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	振動容量型電位計 （RD－5200）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガーにて 100(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．印加電圧確認	-240(V)以上	(V)	(V)	
4．ドリフト試験 4.1 電圧性ドリフト試験	±2(%/24h)以下	(%/24h)	(%/24h)	
4.2 電流性ドリフト試験	±3(%/24h)以下	(%/24h)	(%/24h)	
5．零調整	零調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．メータ指示精度	フルスケールの±1.5(%)以内			

計数レンジ	入力電圧		
1(mV)	0.5(mV)	(mv)	(mv)
	1.0(mV)	(mv)	(mv)
3(mV)	1.5(mV)	(mv)	(mv)
	3.0(mV)	(mv)	(mv)
10(mV)	5.0(mV)	(mv)	(mv)
	10.0(mV)	(mv)	(mv)
30(mV)	15.0(mV)	(mv)	(mv)
	30.0(mV)	(mv)	(mv)
0.1(V)	0.05(V)	(V)	(V)
	0.1 (V)	(V)	(V)
0.3(V)	0.15(V)	(V)	(V)
	0.3 (V)	(V)	(V)
1.0(V)	0.5 (V)	(V)	(V)
	1.0 (V)	(V)	(V)
3.0(V)	1.5 (V)	(V)	(V)
	3.0 (V)	(V)	(V)
10.0(V)	5.0 (V)	(V)	(V)
	10.0 (V)	(V)	(V)

点検整備記録書

機器名	振動容量型電位計 （RD－5200）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
7．標準電流電離箱指示確認	±10(%)以内 レンジ 1×10^{12} (Ω)	(A)	(A)	＊使用電流源仕様 製造番号： No. 8SA508102 出力電流： 0.854×10^{-11}(A) 核種　：^{90}Sr 製造年月日： 1989.2.15
	レンジ 1×10^{10} (Ω)	(A)	(A)	
	レンジ 1×10^{8} (Ω)	(A)	(A)	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	3″ φ球形ＮａＩ（Ｔｌ）シンチレーション測定装置	承認		年月日	
機器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．指示値の確認	線量率	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	計数率	指示値	（cpm）	（cpm）	
		記録値	（cpm）	（cpm）	
3．測定モードの確認	ＨＶ設定値		（V）	（V）	
	増幅ゲイン設定				
	ディスクリレベル（50KeV）		（%）	（%）	
	チェックソース確認（1 μCi）（^{137}Cs ：3.7 ×10^{4}Bq）		（cpm）	（cpm）	
4．エネルギー直線性確認	直線性　（±15% 以内）		（%）	（%）	
	下限値		（%）	（%）	
	ピーク電圧（^{137}Cs 線源）		（%）	（%）	
5．感度試験	換算定数（^{226}Ra使用）		（cpm/μGy/h）	（cpm/μGy/h）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	テスタ （３００８）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	F．Sの±３%以内			

レンジ	入力	設定値	点検値
6 (V)	5 (V)	(V)	(V)
30 (V)	25 (V)	(V)	(V)
60 (V)	50 (V)	(V)	(V)
300 (V)	100 (V)	(V)	(V)

校正定数　レンジ	設定値	点検値
5 (V)		
30 (V)		
60 (V)		
300 (V)		

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルテスタ（R6341A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	レンジ　入力			
	300(mV) (R0) 280.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	3 (V) (R1) 2.8000 (V)	(V)	(V)	
	30 (V) (R2) 28.000 (V)	(V)	(V)	
	300(V) (R3) 100.00 (V)	(V)	(V)	
	校正定数　レンジ			
	300 (mV)			
	3 (V)			
	30 (V)			
	300 (V)			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルマルチメータ（TR－6841）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	レンジ 20(mV)	入力 +18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
		-18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 200(mV)	入力 +180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
		-180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 2(V)	入力 +1.8000 (V)	(V)	(V)	
		-1.8000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 20(V)	入力 +18.000 (V)	(V)	(V)	
		-18.000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 200(V)	入力 +100.00 (V)	(V)	(V)	
		-100.00 (V)	(V)	(V)	
	校正定数	レンジ 20 (mV)			
		200 (mV)			
		2 (V)			
		20 (V)			
		200 (V)			

設置場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	デジタルマルチメータ（TR－6844）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	レンジ 20(mV) 入力 +18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
	-18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 200(mV) 入力 +180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	-180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 2(V) 入力 +1.8000 (V)	(V)	(V)	
	-1.8000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 20(V) 入力 +18.000 (V)	(V)	(V)	
	-18.000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 200(V) 入力 +100.00 (V)	(V)	(V)	
	-100.00 (V)	(V)	(V)	
	校正定数 レンジ 20 (mV)			
	200 (mV)			
	2 (V)			
	20 (V)			
	200 (V)			

設 置 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルマルチメータ（TR－6851）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	レンジ 20(mV) 入力 +18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
	-18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 200(mV) 入力 +180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	-180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 2(V) 入力 +1.8000 (V)	(V)	(V)	
	-1.8000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 20(V) 入力 +18.000 (V)	(V)	(V)	
	-18.000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 200(V) 入力 +100.00 (V)	(V)	(V)	
	-100.00 (V)	(V)	(V)	
	校正定数 レンジ 20 (mV)			
	200 (mV)			
	2 (V)			
	20 (V)			
	200 (V)			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルマルチメータ（R－6450）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	レンジ 20(mV)	入力 +18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
		-18.000 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 200(mV)	入力 +180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
		-180.00 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 2(V)	入力 +1.8000 (V)	(V)	(V)	
		-1.8000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 20(V)	入力 +18.000 (V)	(V)	(V)	
		-18.000 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 200(V)	入力 +100.00 (V)	(V)	(V)	
		-100.00 (V)	(V)	(V)	
	校正定数	レンジ 20 (mV)			
		200 (mV)			
		2 (V)			
		20 (V)			
		200 (V)			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルマルチメータ（R－6451A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	レンジ 200(mV)	入力 +180 (mV)	(mV)	(mV)	
		-180 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 2000(mV)	入力 +1800 (mV)	(mV)	(mV)	
		-1800 (mV)	(mV)	(mV)	
	レンジ 20(V)	入力 +18 (V)	(V)	(V)	
		-18 (V)	(V)	(V)	
	レンジ 200(V)	入力 +100 (V)	(V)	(V)	
		-100 (V)	(V)	(V)	
	校正定数	レンジ 200 (mV)			
		2000 (mV)			
		20 (V)			
		200 (V)			

設置場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	直流電圧電流計 （２０１２①）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	Ｆ．Ｓ±０．５％以内				
	レンジ	入 力			
	50（mV）	40（mV）	（mV）	（mV）	
	3（V）	2.5(V)	（V）	（V）	
	10（V）	8（V）	（V）	（V）	
	30（V）	25（V）	（V）	（V）	
	100（V）	80（V）	（V）	（V）	
	校正定数	レンジ 50（mV）			
		3（V）			
		10（V）			
		30（V）			
		100（V）			
3．直流電流測定の校正	Ｆ．Ｓ±０．５％以内				
	レンジ	入 力			
	1（mA）	0.8（mA）	（mA）	（mA）	
	3（mA）	2.5（mA）	（mA）	（mA）	
	10（mA）	8.0（mA）	（mA）	（mA）	
	30（mA）	25（mA）	（mA）	（mA）	
	100（mA）	80（mA）	（mA）	（mA）	
	校正定数	レンジ 1（mA）			
		3（mA）			
		10（mA）			
		30（mA）			
		100（mA）			

設 置 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	直流電圧計 （２０１１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	F．S±0．3%以内			

レンジ	入力		
3（V）	（V）	（V）	（V）
10（V）	（V）	（V）	（V）
30（V）	（V）	（V）	（V）
100（V）	（V）	（V）	（V）

校正定数　レンジ			
3（V）			
10（V）			
30（V）			
100（V）			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	直流電圧計（MPFB）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	F．S±0．3%以内			

レンジ	入力	設定値	点検値
1（V）	0.8（V）	（V）	（V）
3（V）	2.5（V）	（V）	（V）
10（V）	8.0（V）	（V）	（V）
30（V）	25.0（V）	（V）	（V）

校正定数　レンジ	設定値	点検値
1（V）		
3（V）		
10（V）		
30（V）		

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	直流電流計 （２０１１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	F．S±0．3%以内			

レンジ	入力	設定値	点検値
10(μA)	8 (μA)	(μA)	(μA)
30(μA)	25 (μA)	(μA)	(μA)
100(μA)	80 (μA)	(μA)	(μA)
300(μA)	250 (μA)	(μA)	(μA)

校正定数 レンジ	設定値	点検値
10 (μA)		
30 (μA)		
100 (μA)		
300 (μA)		

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	直流電流計 （２０１１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	F．S±0．3%以内			

レンジ	入力	設定値	点検値
10（mA）	8.0　（mA）	（mA）	（mA）
30（mA）	25.0　（mA）	（mA）	（mA）
100（mA）	80.0　（mA）	（mA）	（mA）

校正定数　レンジ	設定値	点検値
10（mA）		
30（mA）		
100（mA）		

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	直流電流計（MPFB）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	F．S±0．5%以内			
	レンジ　入力			
	3(μA)　2.5(μA)	(μA)	(μA)	
	校正定数　レンジ 3(μA)			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	高圧デジタルボルトメータ （１４９－０５Ａ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	入力 0(V)	(V)	(V)	
	+ 250(V)	(V)	(V)	
	- 250(V)	(V)	(V)	
	+ 500(V)	(V)	(V)	
	- 500(V)	(V)	(V)	
	+ 750(V)	(V)	(V)	
	- 750(V)	(V)	(V)	
	+1000(V)	(V)	(V)	
	-1000(V)	(V)	(V)	
	校正定数			

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	高圧デジタルボルトメータ （１４９－１０Ａ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直流電圧測定の校正	入力 0(V)	(V)	(V)	
	+ 250(V)	(V)	(V)	
	- 250(V)	(V)	(V)	
	+ 500(V)	(V)	(V)	
	- 500(V)	(V)	(V)	
	+ 750(V)	(V)	(V)	
	- 750(V)	(V)	(V)	
	+1000(V)	(V)	(V)	
	-1000(V)	(V)	(V)	
	校正定数			

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	安定化出力電源 （５２４Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 18(V)		(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 10(V)電圧設定にて				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	2.5(A)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(V)電圧設定にて 2.5(A)負荷時 10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	安定化出力電源 （５３２Ｃ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 35(V)		(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 20(V)電圧設定にて				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	20(V)電圧設定にて 2.0(A)負荷時 10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	安定化出力電源 （PW３６－１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 36(V)		(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 20(V)電圧設定にて				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	20(V)電圧設定にて 1.0(A)負荷時 10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	安定化出力電源 （PW１８－３A）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 18(V)		(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 10(V)電圧設定にて				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	2.5(A)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(V)電圧設定にて 2.5(A)負荷時 10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	安定化出力電源 （PW18－1．2A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 18(V)		(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 10(V)電圧設定にて				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(V)電圧設定にて 1.0(A)負荷時 10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	安定化出力電源 （PW３６－１．２A）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 36(V)	(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 20(V)電圧設定にて			
	無負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	20(V)電圧設定にて 1.0(A)負荷時 10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	抵抗減衰器 （M－２１５C）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．減衰量の確認	各±0.2(dB)以内			

レンジ	測定値	設定値	点検値
30(dB)×1	30(dB)	(dB)	(dB)
10(dB)×5	10(dB)	(dB)	(dB)
	30(dB)	(dB)	(dB)
	50(dB)	(dB)	(dB)
1(dB)×10	3(dB)	(dB)	(dB)
	6(dB)	(dB)	(dB)
	10(dB)	(dB)	(dB)
0.1(dB)×10	0.5(dB)	(dB)	(dB)
	1.0(dB)	(dB)	(dB)

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（BH－1）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．FALL TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．RISE TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	パルスジェネレータ（DB－2）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．FALL TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．RISE TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（PB－4）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．FALL TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．RISE TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	2.5(Hz) ～250(KHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（GL－3）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	100(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．WIDTHの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．RISE TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	1(Hz) ～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（P－１０６８）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	75(Ω) ターミネート使用にて最大出力　3(V))以上		(V)	(V)	
3．周波数の確認	±0.1(%)以内	10^0(cps)	(cps)	(cps)	
		10^1(cps)	(cps)	(cps)	
		10^2(cps)	(cps)	(cps)	
		10^3(cps)	(cps)	(cps)	
		10^4(cps)	(cps)	(cps)	
		10^5(cps)	(cps)	(cps)	
		10^6(cps)	(cps)	(cps)	
4．ＦＩＮＥ切換の確認	±0.1(%)以内 周波数レンジ10^3(cps)にて	0.2	(cps)	(cps)	
		0.5	(cps)	(cps)	
		1.0	(cps)	(cps)	
5．×1、×3切換の確認	±0.1(%)以内 周波数レンジ10^3(cps)にて	× 1	(cps)	(cps)	
		× 3	(cps)	(cps)	
6．ＣＰＭ／ＣＰＳ切換の確認	CPS・CPM で出力されること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（E－５７１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	100(Ω)ターミネート使用にて 最大出力　　約 5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．パルス幅の確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	直線性±0.1(%)以内 ＦＩＮＥ　ＣＡＬにて 10^1(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(cps)	(Hz)	(Hz)	
	ＦＩＮＥにて100(KHz)まで可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（７１１３７１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	75(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．パルス波形の確認	正・負の正弦波及び方形波が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．パルス幅の確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．DECAY TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	±0.1(%)以内 10^0(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(Hz)	(Hz)	(Hz)	
7．×3、×１０切換の確認	±0.1(%)以内 周波数レンジ 10^3(Hz)にて ×3	(Hz)	(Hz)	
	×１０	(Hz)	(Hz)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（１９１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 15(V)	(V)	(V)	
3．パルス波形の確認	正弦波、三角波、方形波が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．周波数の確認	1(Hz) ～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（８０１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ＷＩＤＴＨの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ＴＲＡＮＳＩＴＩＯＮの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	5(Hz) ～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（２７１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．パルス波形の確認	正弦波、三角波、方形波が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．周波数の確認	±2(%)以内 10^0(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^6(Hz)	(Hz)	(Hz)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（２７３）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．パルス波形の確認	正弦波、三角波、方形波が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．周波数の確認	±2(%)以内 10^0(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^6(Hz)	(Hz)	(Hz)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ （１３６A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて 最大出力　　約 20(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ＷＩＤＴＨの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ＲＡＭＰ　ＴＩＭＥ／Ｖの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ （１９３０Ａ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 15(V)	(V)	(V)	
3．パルス波形の確認	正弦波、三角波、方形波、のこぎり波が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．周波数の確認	±0.1(%)以内 10^0(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^6(Hz)	(Hz)	(Hz)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（１９４０）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．パルス波形の確認	正弦波、三角波、方形波、のこぎり波が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．周波数の確認	±0.1(%)以内			
	10^0(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(Hz)	(Hz)	(Hz)	
	10^6(Hz)	(Hz)	(Hz)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ （SY－118）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	PUSH 75(Ω) にて 最大出力 約3(V)	(V)	(V)	
3．周波数の確認	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ （８０１１Ａ）	承認		年月日	
機器№	ＴＡＧ．№ ＳＥＲ．№	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	INT LOADスイッチON（50Ω）にて 最大出力　　約 16(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．パルス幅の確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．周波数の確認	1(Hz) ～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（MXG－101 ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．マーキュリーパルサ出力				
2.1 出力電圧（振幅）の確認	75(Ω) ターミネート使用にて 最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
2.2 出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2.3 RISE TIME の確認	可変できること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2.4 DECAY TIMEの確認	可変できること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
3．クリスタルパルサ出力				
3.1 出力電圧（振幅）の確認	75(Ω) ターミネート使用にて 最大出力 5(V)以上	(V)	(V)	
3.2 出力パルス幅の確認	可変できること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
3.3 出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
3.4 周波数の確認	±0.1(%)以内 10^0(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(cps)	(Hz)	(Hz)	
3.5 周波数RANGE切換え器の確認	±0.1(%)以内 MULTIPLIER 10^3(cps)にて 0.75	(Hz)	(Hz)	
	1	(Hz)	(Hz)	
	1.5	(Hz)	(Hz)	
	2	(Hz)	(Hz)	
	3	(Hz)	(Hz)	
	6	(Hz)	(Hz)	
	10	(Hz)	(Hz)	
3.6 操作器の確認	CPS・CPM で出力されること。	良・否（ ）	良・否（ ）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（XPG－3）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	75(Ω) ターミネート使用にて最大出力　5(V)以上	(V)	(V)	
3．出力パルス幅の確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．周波数の確認	±0.1(%)以内 10^0(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^1(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^2(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^3(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^4(cps)	(Hz)	(Hz)	
	10^5(cps)	(Hz)	(Hz)	
6．周波数RANGE切換え器の確認	±0.1(%)以内 MULTIPLIER 10^3(cps) にて 0.75	(Hz)	(Hz)	
	1	(Hz)	(Hz)	
	1.5	(Hz)	(Hz)	
	2	(Hz)	(Hz)	
	3	(Hz)	(Hz)	
	6	(Hz)	(Hz)	
	10	(Hz)	(Hz)	
7．操作器の確認	cps・cpm で出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（G740）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	BACKMATCH スイッチON（50Ω）にて 最大出力 約5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．WIDTHの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．RAMP RANGEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	20(Hz)～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	パルスジェネレータ（１３９Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ＷＩＤＴＨの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ＲＡＭＰ　ＴＩＭＥ／１０Ｖの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．周波数の確認	10(Hz)～1(MHz)が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	安定化出力電源 （５４１C）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 35(V)	(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 20(V)電圧設定にて			
	無負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
	0.35(A)負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	0.35(A)負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	0.35(A)負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	20(V)電圧設定にて 0.35(A)負荷時 10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	安定化出力電源 （５７２Ｃ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて 50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力可変電圧の確認	0 ～ 70(V)		(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 50(V)電圧設定にて				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	50(V)電圧設定にて 1.0(A)負荷時 10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	マーキュリーパルサ（448）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1. 点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2. 出力電圧（振幅）の確認	100(Ω)ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3. 出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4. DECAY TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5. RISE TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6. PULSE／SEC動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	マーキュリーパルサ （D－１１４）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	100(Ω)ターミネート使用にて最大出力 約 10(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ＲＩＳＥ　ＴＩＭＥの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ＤＲＩＶＥの確認	50(Hz)及び110(Hz) が出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	マーキュリーパルサ（PGM－2P）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧（振幅）の確認	50(Ω) ターミネート使用にて最大出力 約 5(V)	(V)	(V)	
3．出力極性の確認	正・負パルスが出力されること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．DECAY TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．RISE TIMEの確認	可変できること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルクランプテスタ（２３４３　０２）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．交流電流の測定	50(Hz) にて			
	入力			
	5 (A)	(A)	(A)	
	3 (A)	(A)	(A)	
	1 (A)	(A)	(A)	
	0.5 (A)	(A)	(A)	
	0.1 (A)	(A)	(A)	
	校正定数			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	デジタルクランプテスタ （2343　04）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．交流電流の測定	50(Hz) にて 入力			
	5 (A)	(A)	(A)	
	3 (A)	(A)	(A)	
	1 (A)	(A)	(A)	
	0.5 (A)	(A)	(A)	
	校正定数			

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	^{137}Cs照射装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

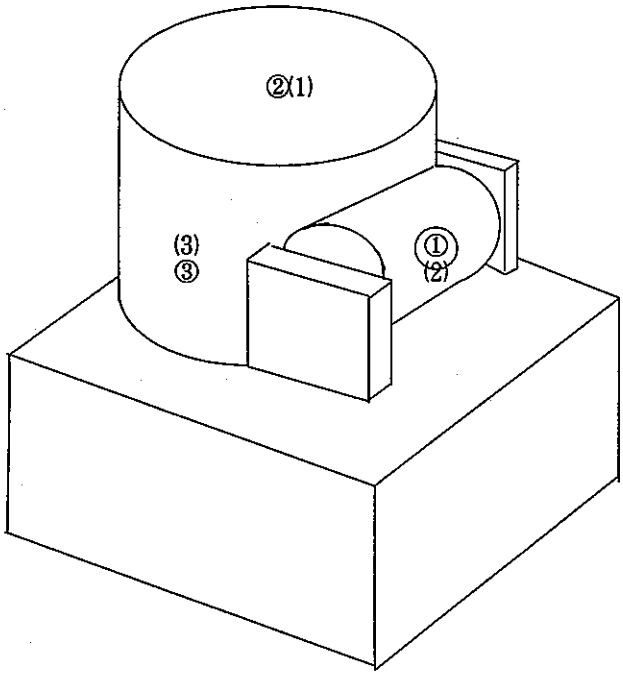
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．表面線量当量率の測定	放射線管理基準管理目標値(50μSv/h)以下であること	良・否（　）	良・否（　）	
2．点検整備	・異常のないこと ・清掃されていること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	500(V)ﾒｰｶﾞにて10(MΩ)以上	良・否（　）	良・否（　）	
4．本体昇降動作の確認	・昇降動作がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・任意に位置で停止できること	良・否（　）	良・否（　）	
5．機側操作盤の表示の確認	・ランプ切れのないこと ・各動作表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
6．インターロック動作の確認	インターロックが作動しないと照射ができないこと	良・否（　）	良・否（　）	
7．回転シャッター動作の確認	・回転がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
8．線源選択動作の確認	・自動及び手動操作により確実に動作すること ・表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
9．制御盤表示の確認	・ランプ切れのないこと ・各動作での表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
10．ベルト部、ギア部の整備	・グリスが塗りかえられていること ・オイルが注入されていること	良・否（　）	良・否（　）	
11．表面密度の測定	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm^{2}以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm^{2}以下	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	^{137}Cs照射装置	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

表面線量当量率及び表面密度測定箇所



1．表面線量当量率測定結果

測定箇所	表面線量当量率（μSv/h）
(1)	
(2)	
(3)	

測定機器　：　電離箱式サーベイメータ
型　名　：
SER　No.：

2．表面密度測定結果
・スミヤ採取箇所
①　：　照射口
②　：　線源格納容器上部
③　：　線源格納容器側面
・測定値は表面密度測定記録（非定常）参照

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	γ線照射装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

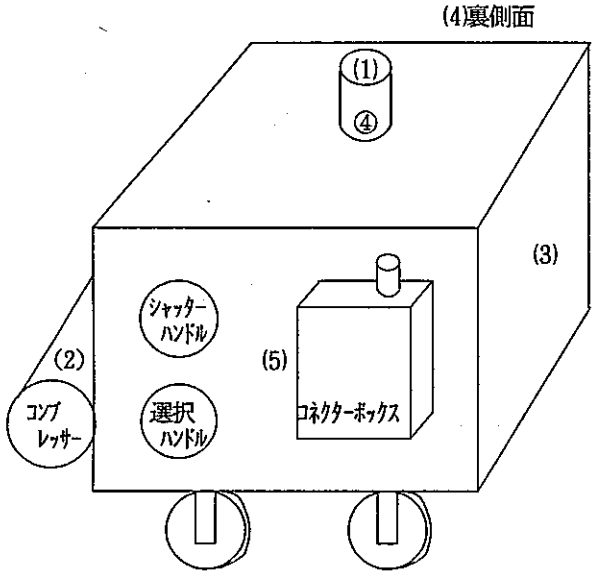
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．表面線量当量率の測定	放射線管理基準管理目標値(50μSv/h)以下であること	良・否（　）	良・否（　）	
2．点検整備	・異常のないこと ・清掃されていること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	500(V)ﾒｰｶﾞにて10(MΩ)以上	良・否（　）	良・否（　）	
4．本体昇降動作の確認	・昇降動作がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・任意に位置で停止できること	良・否（　）	良・否（　）	
5．本体容器移動・固定動作の確認	・移動がスムーズに行えること ・固定が確実に行えること	良・否（　）	良・否（　）	
6．照射筒等の確認	・破損、ネジのゆるみ等がないこと ・清掃されていること ・本体に確実に固定できること ・中継ケーブルが固定できること	良・否（　）	良・否（　）	
7．シャッター開閉動作の確認	・スムーズに動作すること ・表示灯が正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
8．線源選択動作の確認	・線源選択操作がスムーズに行えること ・表示灯が正常に動作すること ・設定位置が変化していないこと	良・否（　）	良・否（　）	
9．コンプレッサーの確認	・空気もれのないこと ・オイルもれのないこと	良・否（　）	良・否（　）	
10．インターロック動作の確認	インターロックが作動しないと照射ができないこと	良・否（　）	良・否（　）	
11．線源上下動作の確認	・照射位置で線源が保持されていること ・上昇及び下降動作がスムーズに行えること	良・否（　）	良・否（　）	
12．制御盤表示の確認	・ランプ切れのないこと ・各動作での表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
13．回転歯車・ギア部の整備	・グリスが塗りかえられていること	良・否（　）	良・否（　）	
14．表面密度の測定	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm²以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm²以下	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	γ線照射装置	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

表面線量当量率及び表面密度測定箇所



1．表面線量当量率測定結果

測定箇所	表面線量当量率（μSv/h）
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

測定機器　：　電離箱式サーベイメータ
型　名　：
SER　No.：

2．表面密度測定結果
・スミヤ採取箇所
④　：　筒の中
⑤　：　照射筒No.1
⑥　：　照射筒No.2
・測定値は表面密度測定記録（非定常）参照

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	中性子線照射装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

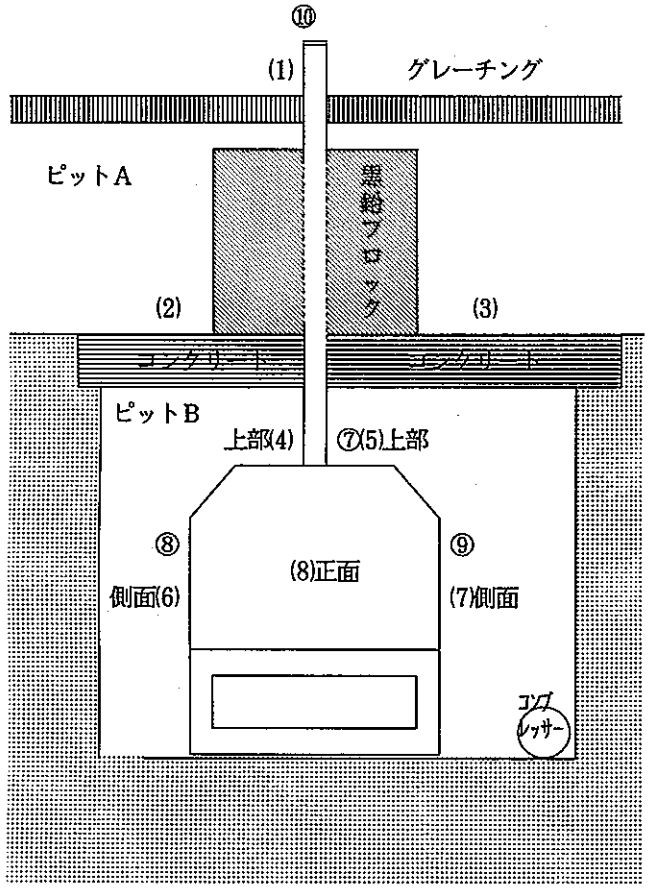
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．空間の線量当量率の測定	放射線管理基準管理目標値(0.5μSv/h)以下であること	良・否（　）	良・否（　）	
2．点検整備	・異常のないこと ・清掃されていること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	500(V)ﾒｰｶﾞにて10(MΩ)以上	良・否（　）	良・否（　）	
4．照射筒の確認	・破損、ネジのゆるみ等がないこと ・清掃されていること ・本体に確実に固定できること	良・否（　）	良・否（　）	
5．コンプレッサーの確認	・空気もれのないこと ・オイルもれのないこと	良・否（　）	良・否（　）	
6．インターロック動作の確認	インターロックが作動しないと照射ができないこと	良・否（　）	良・否（　）	
7．線源選択動作の確認	線源選択動作がスムーズに行えること	良・否（　）	良・否（　）	
8．線源上下動作の確認	・照射位置で線源が保持されること ・上昇及び下降動作がスムーズに行えること	良・否（　）	良・否（　）	
9．制御盤表示の確認	・ランプ切れのないこと ・各動作での表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
10．回転ギア部の整備	・グリスが塗りかえられていること	良・否（　）	良・否（　）	
11．表面密度の測定	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm²以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm²以下	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	中性子線照射装置	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

表面線量当量率及び表面密度測定箇所



1．空間の線量当量率測定結果

測定箇所	空間線量当量率（μSv/h）	
	n線	γ線
(1)		
(2)		
(3)		

測定機器　：　中性子線用サーベイメータ
型　名　：
SER　No.：

測定機器　：　電離箱式サーベイメータ
型　名　：
SER　No.：

2．表面密度測定結果
- スミヤ採取箇所
  - ⑦　：　線源格納容器上部
  - ⑧　：　線源格納容器側面
  - ⑨　：　線源格納容器側面
  - ⑩　：　本体側照射筒内側
- 測定値は表面密度測定記録（非定常）参照

〔参考：線源格納容器表面線量当量率測定結果〕

測定箇所	空間線量当量率（μSv/h）	
	n線	γ線
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		

注）平成6年3月 ^{252}Cf線源(999MBq)更新

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	低エネルギーγ線照射装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

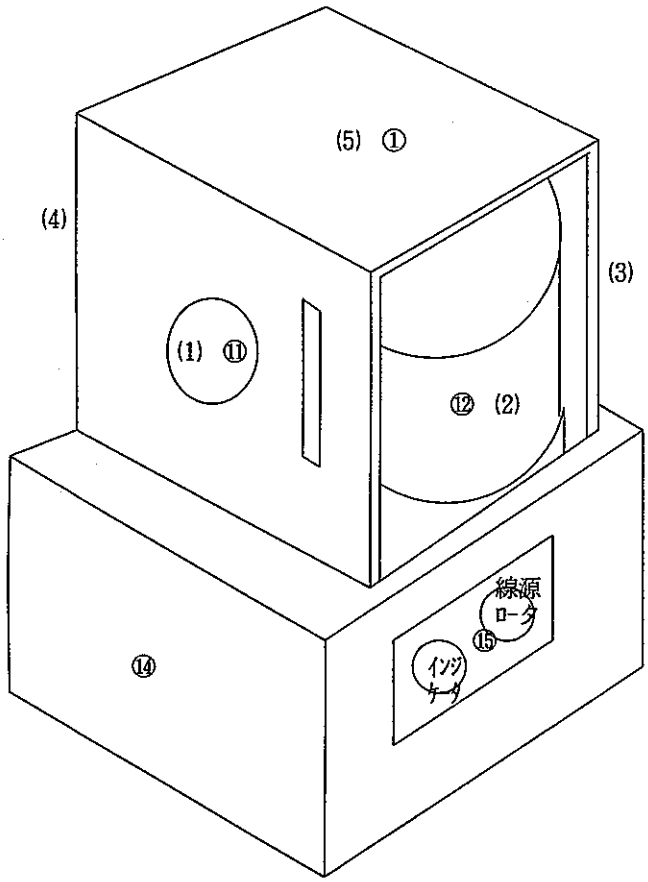
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．表面線量当量率の測定	放射線管理基準管理目標値(50μSv/h)以下であること	良・否（　）	良・否（　）	
2．点検整備	・異常のないこと ・清掃されていること	良・否（　）	良・否（　）	
3．絶縁抵抗の測定	500(V)ﾒｰｶﾞにて10(MΩ)以上	良・否（　）	良・否（　）	
4．本体昇降動作の確認	・昇降動作がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・任意の位置で停止できること	良・否（　）	良・否（　）	
5．移動レールの確認	・移動レールの固定が正確に行えること ・移動動作がスムーズに行えること ・装置本体の固定が正確に行えること	良・否（　）	良・否（　）	
6．現場操作盤表示の確認	・ランプ切れがないこと ・各動作表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
7．インターロック動作の確認	インターロックが作動しないと照射ができないこと	良・否（　）	良・否（　）	
8．上下シャッター動作の確認	・上下がスムーズに行えること ・自動停止動作が正常であること ・時間照射ができること	良・否（　）	良・否（　）	
9．線源選択動作の確認	・自動及び手動操作が確実に動作すること ・表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
10．制御盤表示の確認	・ランプ切れのないこと ・各動作での表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
11．ベルト部・ギア部の整備	・グリスが塗りかえられていること ・オイルが注入されていること	良・否（　）	良・否（　）	
12．表面密度の測定	放射線管理基準管理目標値以下であること ・α線を放出する放射性物質について 4×10^{-2}Bq/cm²以下 ・α線を放出しない放射性物質について 4×10^{-1}Bq/cm²以下	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	低エネルギーγ線照射装置	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

表面線量当量率及び表面密度測定箇所



1．表面線量当量率測定結果

測定箇所	表面線量当量率（μSv/h）
(1)	
* (2)	
(3)	
(4)	
(5)	

* カバー装着時

測定機器 ： 電離箱式サーベイメータ
型 名 ：
SER No.：

2．表面密度測定結果
・スミヤ採取箇所
⑪ ： 照射口
⑫ ： 線源格納容器
⑬ ： 外枠
⑭ ： 装置正面
⑮ ： 手動線源選択装置部
・測定値は表面密度測定記録（非定常）参照

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

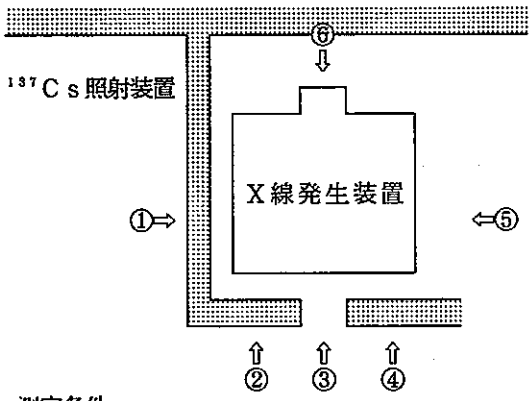
管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	X線発生装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	・清掃されていること ・異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．高圧発生部	容器よりの油漏れのないこと	良・否（　）	良・否（　）	
3．冷却装置	・冷却油量が規定値に達していること ・乾燥剤が新品に交換されていること こと ・フィルターエレメントにゴミ等のないこと ・冷却ホース及び両接続部よりオイルの漏れがないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．制御装置	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
5．インターロック動作の確認	インターロックが作動しないと照射ができないこと	良・否（　）	良・否（　）	
6．エージング (1) 手動	異常なく動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 自動	異常なく動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
7．シャッター装置	・シャッターがスムーズに開閉すること ・開閉とも2秒以内のこと	良・否（　）	良・否（　）	
8．総合動作	・管電圧、管電流の安定度が0．1%以下であること	良・否（　）	良・否（　）	

9．漏洩試験



測定箇所	漏洩線量当量率（μSv/h）
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

測定条件
・測定高さ　：　1．2m
・測定距離　：　at　1．0m
（⑥については　at　0．5m）

測定機器　：　電離箱式サーベイメータ
型　名　：
SER　No.：

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	放射性ガスモニタ校正装置	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	・清掃されていること ・異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．排気系 (1) フード排気ファンの動作確認	・正常に動作すること ・風量9.4(m/s)以上	良・否（　）	良・否（　）	＊フード排気風量率測定記録参照
(2) 電磁弁の動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(3) リングブロアの動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(4) 吸気及び排気換気扇の動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(5) フード風速測定	風速0.5(m/s)以上	良・否（　）	良・否（　）	
3．測定部 (1) 基準電離箱の外観確認	異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 可搬型ガスモニタの動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	＊点検整備技術要領書参照
4．校正用ガスループの動作確認試験 (1) 真空ポンプの動作確認	マノメータの指示値が 000～001 TORRであること	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 循環ポンプの動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 電磁弁の動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(4) GM時ＰＵＳＨスイッチの動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(5) 校正用ガスループの漏洩試験	マノメータの指示値が 000～010 TORRであること	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	インターロックシステム	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．ドアーロック動作の確認				
(1) 準備室コントロール	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 照射室コントロール	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 表示灯等の各確認	点灯及び回転点灯すること	良・否（　）	良・否（　）	
2．ドアーロック解除動作の確認				
(1) 準備室コントロール	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 照射室コントロール	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 表示灯等の各確認	消灯及び回転停止消灯すること	良・否（　）	良・否（　）	
3．非常時のドアーロック解除動作の確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	自動校正台システム	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	・清掃されていること ・異常のないこと	良・否（　）	良・否（　）	
2．操作盤の表示確認 (1) 表示ランプの確認	ランプ切れのないこと	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 動作ランプ表示の確認	動作表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
3．台車トラバース機能動作確認	・正常に動作すること ・動作表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
4．校正台動作確認 (1) テーブル上下移動動作確認	正常に動作すること	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 手動運転モードの動作確認	・正常に動作すること ・動作表示が正常であること ・回転灯が回転点灯すること	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 自動運転モードの動作確認	・正常に動作すること ・動作表示が正常であること	良・否（　）	良・否（　）	
5．停止精度検査	台車を2000㎜, 2500㎜, 3000㎜, 4000㎜, 5000㎜ に設定し、各々の停止時の距離誤差が± 1㎜以内であること	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

検査名（総合検査）

管理区域境界における線量当量率測定	承認		年月日	
	調査		点検者名	

1．測定条件

測定場所	別添管理区域境界における線量当量率測定点図参照	
測定線種	γ 線	n 線
使用測定器	電離箱式サーベイメータ	中性子線用サーベイメータ
測定器型式		
測定器 SERNo.		
バックグラウンド値		
特記事項	照射装置が照射状態における測定である	

2．測定結果

定点番号	1cm線量当量率（μSv／h）						
	^{137}Cs照射装置	γ線照射装置	低エネルギーγ線照射装置	中性子線照射装置		^{137}Cs照射装置及び中性子線照射装置	
	γ 線	γ 線	γ 線	γ 線	n 線	γ 線	n 線
①							
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

点検場所	計測機器校正施設	別添（有・無）	管理区域境界における線量当量測定点図

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （AM－8301M・BM）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	定電圧低圧電源 （AM－８３０１M）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （AM－８３M０１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.5(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.5(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下 + 24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （AM－８３M０２）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内				
	+ 24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		0.6(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内				
	+ 24(V)				
	無負荷時	AC：90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC：90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)				
	無負荷時	AC：90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC：90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源 （AM－8.3M02）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.6(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5. リップル電圧測定	10(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （AM－82MR74－2435）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±1.0(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内			
	6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	6(V) 1.5(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内 6(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.5(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.5(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	5(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	定電圧低圧電源 （AA－８５１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電圧変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	定電圧低圧電源 （ＡＡ－８５１）	機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC： 90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC： 90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC： 90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC： 90(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	定電圧低圧電源 （E－５０１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	1000(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源 （E－５０１）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．垂下特性試験	負荷100(%)を越える値にて、垂下現象が始まること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （E－５０２）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 5.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 6(V) 5.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源 （E－５０２）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	5.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	5.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		- 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．垂下特性試験	負荷100(%)を越える値にて、垂下現象が始まること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （D－１０１A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内 + 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	定電圧低圧電源 （D－１０１A）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．垂下特性試験	負荷100(%)を越える値にて垂下現象が始まること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （D－３０９A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC ：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC ：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC ：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC ：110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源 （D－３０９）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	＋12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	－12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．垂下特性試験	負荷100(%)を越える値にて垂下現象が始まること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	低圧電源 （D－１３６A）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	±0.5(%)以内	6(V)	(V)	(V)	
		- 6(V)	(V)	(V)	
3．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下	6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		- 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源（BM－１２０）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 5.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 6(V) 5.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±1.0(%)以内 負荷変動　：　±1.0(%)以内 + 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源 （BM－１２０）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	5.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	5.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		- 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	低圧電源 （１４０Ｓ／８４６）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動 ±24(V) 及び±12(V) ： ±0.1(%)以内 ＋5(V)　：　±0.2(%)以内			
	＋24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	＋24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	－24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	－24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	＋12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	＋12(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	－12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	－12(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	＋5(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	＋5(V) 5.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動 ±24(V) 及び±12(V) ： ±0.1(%)以内 ＋5(V)　：　±0.2(%)以内 ＋24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	低圧電源 （１４０Ｓ／８４６）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	－24(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC : 90(V)	(V)	(V)	
	＋12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC : 90(V)	(V)	(V)	
	－12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC : 90(V)	(V)	(V)	
	＋ 5(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	5.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC : 90(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	＋24(V) ： 3(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
	－24(V) ： 3(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
	＋12(V) ： 3(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
	－12(V) ： 3(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
	＋ 5(V) ： 5(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （７０１－４）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.1(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.1(%)以内 負荷変動　：　±0.1(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	定電圧低圧電源 （７０１－４）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．過負荷保護回路	負荷150(%)を越える値にて、垂下現象が始まること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	定電圧低圧電源 （N－２２０１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±1.0(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 24(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 24(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 12(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	- 12(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+ 6(V) 0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±1.0(%)以内 負荷変動　：　±2.0(%)以内			
	+ 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	定電圧低圧電源 （N－２２０１）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	30(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	定電圧低圧電源 （D－２５１，（D－１０１））	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	出力偏差　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	-24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	-24(V) 1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	+12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	+12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 2.0(A)負荷時	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動　：　±0.5(%)以内 負荷変動　：　±0.5(%)以内			
	+24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	-24(V)			
	無負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：90(V)	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	定電圧低圧電源 （D－２５１，（D－１０１））	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	+ 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)				
	無負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
	2.0(A)負荷時	AC : 90(V)	(V)	(V)	
		AC :110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	10(mVp-p)以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．垂下特性試験	負荷100(%)を越える値にて垂下現象が始まること。		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	1．5KV高圧電源 （AM−81M52B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．出力電圧の確認	フルスケールの±2.5(%)以内 (100μA 負荷時)			
	ダイヤル目盛			
	0(V)	(V)	(V)	
	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
3．負荷変動の測定	フルスケールの±0.1(%)以内 (1000(V)時)			
	無負荷時	(V)	(V)	
	100(μA)負荷時	(V)	(V)	
4．リップル電圧測定	1000(V) 時 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	高圧電源 （AM－８２M５２B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	-1000(V)±2(%)以内		(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 -1000(V)時				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	100(μA)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	-1000(V)時 50(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	1．5KV高圧電源 （AM－8251）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±0.5(%)以内 (100μA 負荷時) ダイヤル目盛				
		0(V)	(V)	(V)	
		500(V)	(V)	(V)	
		1000(V)	(V)	(V)	
		1500(V)	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：フルスケールの±0.5(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.5(%)以内 1000(V) 時				
	無負荷時	AC： 90(V)	(V)	(V)	
		AC：100(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
	100(μA)負荷時	AC： 90(V)	(V)	(V)	
		AC：100(V)	(V)	(V)	
		AC：110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	1000(V) 時 100(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	3KV高圧電源 （AM－8253B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±0.5(%)以内 (1mA負荷時) ダイヤル目盛			
	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
	3000(V)	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：フルスケールの±0.5(%)以内 負荷変動：フルスケールの±0.5(%)以内 2000(V) 時			
	無負荷時 AC： 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
	1(mA)負荷時 AC： 90(V)	(V)	(V)	
	1(mA)負荷時 AC：100(V)	(V)	(V)	
	1(mA)負荷時 AC：110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	2000(V) 時 100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	高圧電源 （AA－8251）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±0.4(%)以内 (200μA 負荷時)				
		メータ目盛 0	(V)	(V)	
		500	(V)	(V)	
		1000	(V)	(V)	
		1500	(V)	(V)	
		2000	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.4(%)以内 負荷変動：±0.4(%)以内 1000(V)時				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	200(μA)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧	1000(V)時 100(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	5KV高圧電源 （E－503）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	フルスケール±0.75(%)以内 (500μA 負荷時) ダイヤル目盛			
	100(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
	4000(V)	(V)	(V)	
	5000(V)	(V)	(V)	
3．負荷変動の測定	±0.05(%)以下 4000(V)時			
	無負荷時	(V)	(V)	
	3(mA)負荷時	(V)	(V)	
4．リップル電圧測定	4000(V) 時 10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	1KV高圧電源 （E－504）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	フルスケール±0.75(%)以内 （ 3mA負荷時） ダイヤル目盛			
	0(V)	(V)	(V)	
	500(V)	(V)	(V)	
	800(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
3．負荷変動の測定	±0.05(%)以下 800(V)時			
	無負荷時	(V)	(V)	
	3(mA)負荷時	(V)	(V)	
4．リップル電圧測定	800(V)時 10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	高圧電源 （D－１１２）	承認		年月日	
機器No	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±0.5(%)以内 （1mA負荷時） メータ目盛			
	0	(V)	(V)	
	500	(V)	(V)	
	1000	(V)	(V)	
	1500	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 1000(V)時			
	無負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
	1mA 負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	1mA 負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	1mA 負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧	1000(V)時 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	高圧電源 （D－１１３）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±0.5(%)以内 (1mA負荷時) メータ目盛 600	(V)	(V)	
	1000	(V)	(V)	
	2000	(V)	(V)	
	3000	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 2500(V)時			
	無負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
	1mA 負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	1mA 負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	1mA 負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧	2500(V)時 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	2KV高圧電源 （D－152A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	フルスケールの±1.0(%)以内 （1mA負荷時） ダイヤル目盛			
	0(V)	(V)	(V)	
	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
3．負荷変動の測定	フルスケールの±0.2(%)以内 1500(V) 時			
	無負荷時	(V)	(V)	
	1(mA)負荷時	(V)	(V)	
4．リップル電圧測定	1500(V) 時 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	2KV高圧電源 （714－1B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±3.0(%)以内 (2mA負荷時) メータ指示 0	(V)	(V)	
	500	(V)	(V)	
	1000	(V)	(V)	
	2000	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.1(%)以内 1000(V)時			
	無負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
	2mA 負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	2mA 負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	2mA 負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧	1000(V)時 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	高圧電源 （AM－82M52C）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	-1000(V)±2(%)以内		(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内 -1000(V)時				
	無負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
	100(μA)負荷時	AC: 90(V)	(V)	(V)	
		AC:100(V)	(V)	(V)	
		AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧測定	-1000(V)時 50(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	2KV高圧電源 （714－1F）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．出力電圧の確認	フルスケールの±0.5(%)以内 (5mA負荷時) メータ指示 0	(V)	(V)	
	500	(V)	(V)	
	1000	(V)	(V)	
	2000	(V)	(V)	
4．電源変動の測定	電源変動：±0.1(%)以内 負荷変動：±0.1(%)以内 1000(V)時			
	無負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	無負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
	5mA 負荷時 AC: 90(V)	(V)	(V)	
	5mA 負荷時 AC:100(V)	(V)	(V)	
	5mA 負荷時 AC:110(V)	(V)	(V)	
5．リップル電圧	1000(V)時 10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	線形増幅器 （AA－1102）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．COARSE GAIN点検	±1(dB)以内			
	GAIN　RANGE			
	1　6(dB)	(dB)	(dB)	
	2　12(dB)	(dB)	(dB)	
	4　18(dB)	(dB)	(dB)	
	8　24(dB)	(dB)	(dB)	
	16　30(dB)	(dB)	(dB)	
	32　36(dB)	(dB)	(dB)	
	64　42(dB)	(dB)	(dB)	
3．FINE GAIN点検	9.5 ±0.5(dB)以内	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	正出力	(V)	(V)	
	負出力	(V)	(V)	
5．波形整形確認	SHAPING　0.4	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING　0.8	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING　1.6	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	線形増幅器 （D－１０２）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．COARSE GAIN点検	±2(dB)以内 出力電圧：(5V 一定)			
	GAIN / RANGE			
	1 / 6(dB)	(dB)	(dB)	
	2 / 12(dB)	(dB)	(dB)	
	4 / 18(dB)	(dB)	(dB)	
	8 / 24(dB)	(dB)	(dB)	
	16 / 30(dB)	(dB)	(dB)	
	32 / 36(dB)	(dB)	(dB)	
	64 / 42(dB)	(dB)	(dB)	
	128 / 48(dB)	(dB)	(dB)	
	256 / 54(dB)	(dB)	(dB)	
3．FAIN GAIN	可変範囲　：約6 ～14(dB)	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	10(V)以上	(V)	(V)	
5．パルス整形確認	1)外部パルス	良・否（　　）	良・否（　　）	
	2)ＤＩＦＦ可変 TIME CONSTANT：10(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TIME CONSTANT：1(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TIME CONSTANT：0.5(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TIME CONSTANT：0.1(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	3)ＩＮＴ可変 TIME CONSTANT：10(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TIME CONSTANT：1(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TIME CONSTANT：0.5(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TIME CONSTANT：0.1(μsec)	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	線形増幅器 （D－１２９A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．COARSE GAIN 点検				

COARSE GAIN	利得	設定値	点検値
2	6(dB)	(dB)	(dB)
4	12(dB)	(dB)	(dB)
8	18(dB)	(dB)	(dB)
１６	24(dB)	(dB)	(dB)
３２	30(dB)	(dB)	(dB)
６４	36(dB)	(dB)	(dB)
１２８	42(dB)	(dB)	(dB)
２５６	48(dB)	(dB)	(dB)
５１２	54(dB)	(dB)	(dB)

3．FINE GAIN 点検	可変範囲 6 ～18(dB)	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧	10(V)以上	(V)	(V)	
5．雑音の測定	入力換算雑音 10(μVRMS) 以下	(μV)	(μV)	
6．ＰＺ調整	適正補正	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	線形増幅器 （D－１３０）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．COARSE GAIN点検	±2(dB)以内 出力電圧：(5V 一定)			

COARSE GAIN	利得	設定値	点検値
2	0(dB)	(dB)	(dB)
5	8(dB)	(dB)	(dB)
10	14(dB)	(dB)	(dB)
20	20(dB)	(dB)	(dB)
50	28(dB)	(dB)	(dB)
100	34(dB)	(dB)	(dB)
200	40(dB)	(dB)	(dB)
500	48(dB)	(dB)	(dB)
1000	54(dB)	(dB)	(dB)

3．FAIN GAIN	可変範囲　：　約9.5(dB)	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	10(V)以上	(V)	(V)	
5．パルス整形確認	SHAPING TIME　：　0.2	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING TIME　：　0.5	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING TIME　：　1.0	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING TIME　：　2.0	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING TIME　：　5.0	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SHAPING TIME　：　10.0	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	線形増幅器 （E－５１１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．COARSE GAIN 点検	±2(dB)以内			

COARSE GAIN	利得	設定値	点検値
2	6(dB)	(dB)	(dB)
4	12(dB)	(dB)	(dB)
8	18(dB)	(dB)	(dB)
１６	24(dB)	(dB)	(dB)
３２	30(dB)	(dB)	(dB)
６４	36(dB)	(dB)	(dB)
１２８	42(dB)	(dB)	(dB)
２５６	48(dB)	(dB)	(dB)
５１２	54(dB)	(dB)	(dB)

3．FINE GAIN 点検	可変範囲 約6 ～18(dB)	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	10(V)以上	(V)	(V)	
5．ＰＺ調整	適正補正	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	線形増幅器 （MPS－1221A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．COARSE GAIN 点検	±2(dB)			

GAIN	利得		
1	0(dB)	(dB)	(dB)
2	6(dB)	(dB)	(dB)
4	12(dB)	(dB)	(dB)
8	18(dB)	(dB)	(dB)
16	24(dB)	(dB)	(dB)
32	30(dB)	(dB)	(dB)
64	36(dB)	(dB)	(dB)
128	42(dB)	(dB)	(dB)
256	48(dB)	(dB)	(dB)
512	54(dB)	(dB)	(dB)

3．FINE GAIN 点検	可変範囲 約 9(dB)	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	10(V)以上	(V)	(V)	
5．波形整形確認	パルスアンダーシュートの除去	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	前置増幅器 （PAM－1025R）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度測定	利得　約1.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の確認	-0.2(V)	(V)	(V)	
	-0.4(V)	(V)	(V)	
	-0.6(V)	(V)	(V)	
	-0.8(V)	(V)	(V)	
	-1.0(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力電圧の確認		(V)	(V)	
3．ディスクリレベルの測定	-100±10(mV)	(mV)	(mV)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	前置増幅器 （AA－1109）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．利得の測定	入力 / 出力 -10(mV) / -200(mV)以上 -50(mV) / -1000(mV)以上 -100(mV) / -2000(mV)以上	 (mV) (mV) (mV)	 (mV) (mV) (mV)	
3．雑音の測定	入力換算 5(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．最大出力電圧の測定	無負荷	(V)	(V)	
5．出力直線性	-10(mV) -20(mV) -30(mV)	(mV) (mV) (mV)	(mV) (mV) (mV)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	前置増幅器 （RU－１１６）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．利得の測定	入力値(mV) / 出力値(mV) -100 / 4000 - 50 / 2000 - 10 / 400	 (mV) (mV) (mV)	 (mV) (mV) (mV)	
3．雑音の測定	5(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．最大出力電圧の測定	無負荷時　：　6(V)以上 75（Ω）負荷　：　3(V)以上	(V) (V)	(V) (V)	
5．出力直線性	非直線性±3(%)以内 -10(mV) -20(mV) -30(mV)	 (mV) (mV) (mV)	 (mV) (mV) (mV)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	増幅波高分析器 （AM－１２M０１BR）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器試験				
2.1 ベースライン調整	0±0.01(V) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 PZ. ADJ	適正補償	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.3 増幅度確認	GAIN：　0.00～5.00（目盛） ATT ： 20～26(dB)±2(dB) 以内	(dB)	(dB)	
2.4 直線性確認	±0.3(V)以内 GAIN：　5.00（目盛）			
	IN：-100(mV) / OUT：-2(V)	(V)	(V)	
	IN：-200(mV) / OUT：-4(V)	(V)	(V)	
	IN：-300(mV) / OUT：-6(V)	(V)	(V)	
2.5 最大無歪電圧測定	-10(V)以上	(V)	(V)	
2.6 ノイズ測定	（入力オープン GAIN:5.00） 100(mVp-p)以内	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．波高分析器試験				
3.1 ディスクリレベル測定	各　±0.1(V)以内　6.0(目盛)	(V)	(V)	
	3.0(目盛)	(V)	(V)	
	1.0(目盛)	(V)	(V)	
	0.5(目盛)	(V)	(V)	
3.2 分解能	パルス間隔　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．3(MeV)ＣＵＴ動作確認	-6(V) ±0.1(V)以内	(V)	(V)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	増幅波高分析器 （AM－１２M０１CM）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．増幅器試験				
2.1 ベースライン調整	±0.01(V) 以内	良・否（　）	良・否（　）	
2.2 PZ. ADJ	適正補償	良・否（　）	良・否（　）	
2.3 増幅度確認	GAIN： 0.00～5.00（目盛） ATT ： 20～26(dB)±2(dB) 以内	(dB)	(dB)	
2.4 直線性確認	GAIN： 5.00～0.00（目盛）			
	IN: -100(mV) / OUT: -2(V)	(V)	(V)	
	IN: -200(mV) / OUT: -4(V)	(V)	(V)	
	IN: -300(mV) / OUT: -6(V)	(V)	(V)	
2.5 最大無歪電圧測定	-10(V)以上	(V)	(V)	
2.6 ノイズ測定	（入力オープン GAIN:5.00） 100(mVp-p)以内	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．波高分析器試験				
3.1 ディスクリレベル測定	各 ±0.1(V)以内 6.0(目盛)	(V)	(V)	
	3.0(目盛)	(V)	(V)	
	1.0(目盛)	(V)	(V)	
	0.5(目盛)	(V)	(V)	
3.2 分解能	パルス間隔 1(μsec)以内	良・否（　）	良・否（　）	
4．3(MeV)CUT動作確認	-6(V) ±0.1(V)以内	(V)	(V)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	増幅波高分析器 （AM－１２M０１DM）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器試験 2.1 ベースライン調整	±0.01(V) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 ＰＺ．ＡＤＪ	適正補償	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.3 増幅度確認	GAIN：　0.00～5.00（目盛） ATT ： 20～26(dB)±2(dB) 以内	(dB)	(dB)	
2.4 直線性確認	GAIN：　5.00～0.00（目盛）			
	ＩＮ：-100(mV)　ＯＵＴ：-2(V)	(V)	(V)	
	ＩＮ：-200(mV)　ＯＵＴ：-4(V)	(V)	(V)	
	ＩＮ：-300(mV)　ＯＵＴ：-6(V)	(V)	(V)	
2.5 最大無歪電圧測定	-10(V)以上	(V)	(V)	
2.6 ノイズ測定	（入力オープン GAIN:5.00） 100(mVp-p)以内	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．波高分析器試験 3.1 ディスクリレベル測定	各　±0.1(V)以内　6.0(目盛)	(V)	(V)	
	3.0(目盛)	(V)	(V)	
	1.0(目盛)	(V)	(V)	
	0.5(目盛)	(V)	(V)	
3.2 分解能	パルス間隔　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．3(MeV)ＣＵＴ動作確認	-6(V) ±0.1(V)以内	(V)	(V)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	増幅波高分析器 （AM－１２０３R）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器試験 2.1 増幅度確認	GAIN：　0.00～5.00（目盛） ATT ： 20～26(dB)±2(dB) 以内	(dB)	(dB)	
2.2 直線性確認	±0.3(V)以内 GAIN：　5.00（目盛）			
	IN / OUT			
	-100(mV) / 2 (V)	(V)	(V)	
	-200(mV) / 4 (V)	(V)	(V)	
	-300(mV) / 6 (V)	(V)	(V)	
2.3 最大無歪電圧測定	10(V)以上	(V)	(V)	
2.4 ノイズ測定	（入力オープン GAIN:5.00） 100(mVp-p)以内	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．波高分析器試験 3.1 ディスクリレベル測定	各　±0.1(V)以内 6.0(目盛)	(V)	(V)	
	3.0(目盛)	(V)	(V)	
	1.0(目盛)	(V)	(V)	
	0.5(目盛)	(V)	(V)	
3.2 分解能	パルス間隔　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	増幅波高分析器 （AM－１２０２M）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器試験				
2.1 出力波形の確認	RC	良・否（　　）	良・否（　　）	
	DL	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 増幅度確認	±２(dB)以下			
(1) RC	COARSE GAIN 1　60(dB)	(dB)	(dB)	
	1/5　46(dB)	(dB)	(dB)	
	1/10　40(dB)	(dB)	(dB)	
	1/50　26(dB)	(dB)	(dB)	
	FINE 5.00～0.00　20(dB)	(dB)	(dB)	
(2) DL	COARSE GAIN 1　60(dB)	(dB)	(dB)	
	1/5　46(dB)	(dB)	(dB)	
	1/10　40(dB)	(dB)	(dB)	
	1/50　26(dB)	(dB)	(dB)	
	FINE 5.00～0.00　20(dB)	(dB)	(dB)	
2.3 直線性測定	フルスケール±3(%)以内			
	入力 60(dB)　出力 -1.0	(V)	(V)	
	48(dB)　-4.0	(V)	(V)	
	40(dB)　-10.0	(V)	(V)	
2.4 最大無歪電圧測定	-10.0(V)以上 RC	(V)	(V)	
	DL	(V)	(V)	
2.5 ノイズ測定	(入力オープン利得最大) 100(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	アンプディスクリ （AM－１２０２M）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3．波高分析器試験 3.1 ＬＬＤダイヤル	±0.1(V)以内	7.0（目盛）	(V)	(V)	
		5.0（目盛）	(V)	(V)	
		3.0（目盛）	(V)	(V)	
		1.0（目盛）	(V)	(V)	
		0.5（目盛）	(V)	(V)	
3.2 ＵＬＤダイヤル	±0.1(V)以内	7.0（目盛）	(V)	(V)	
		5.0（目盛）	(V)	(V)	
		3.0（目盛）	(V)	(V)	
		1.0（目盛）	(V)	(V)	
		0.5（目盛）	(V)	(V)	
3.3 ΔＥダイヤル	フルスケール　1(%)以内				
	LLD 1.00	ULD 1.00	(V)	(V)	
	LLD 1.00	ULD 2.00	(V)	(V)	
	LLD 1.00	ULD 4.00	(V)	(V)	
	LLD 1.00	ULD 8.00	(V)	(V)	
3.4 分解能測定	パルス間隔　1(μsec)以内	INT MODE	(μsec)	(μsec)	
		DIFF MODE	(μsec)	(μsec)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	エネルギー補償モジュール （AM－１１５２U）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．内部出力電圧調整	6±0.006(V)以内	(V)	(V)	
	100± 0.1(mV)以内	(mV)	(mV)	
3．ＦＧ　ＯＵＴ波形確認	パルス波高 6±0.3(V)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	パルス幅 40± 8(msec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．通過率の確認				

入力波高	通過率規格		
-6 (V)	103 ～ 97 (%)	(%)	(%)
-3 (V)	69.93 ～65.86(%)	(%)	(%)
-1 (V)	17.42 ～16.40(%)	(%)	(%)
-0.4 (V)	3.525 ～3.319(%)	(%)	(%)
-0.12(V)	1.174 ～0.960(%)	(%)	(%)
-0.1 (V)	1.290 ～1.056(%)	(%)	(%)
-0.095(V)	0 (%)	(%)	(%)

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	線量変換器 （RU729）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．BLR点検	IN PUT　0(V)の時	(V)	(V)	
	IN PUT　5(V)の時	(V)	(V)	
3．FUNC OUT 波形確認	周期：1.6±0.2(msec) 以内	(msec)	(msec)	
	振幅：約 0～ -5(V)	(V)	(V)	
4．通過率の確認				

入力波高 (V)	通過率規格 (%)		
5.000	97.00～103.00	(%)	(%)
2.500	66.96～ 71.10	(%)	(%)
0.833	16.40～ 17.42	(%)	(%)
0.500	6.34～ 6.74	(%)	(%)
0.333	3.32～ 3.52	(%)	(%)
0.250	2.26～ 2.40	(%)	(%)
0.083	1.05～ 1.29	(%)	(%)

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	スケーラモジュール（AM−5301M）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリレベル設定	-100±10(mV)以内	(mV)	(mV)	
3．PHインバータ入力点検	入力　-3(V)	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．計数動作確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．READ　OUT出力確認	正常に動作すること。 IC　7	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IC　8	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IC　9	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IC　10	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IC　11	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IC　12	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．RESET確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．計数停止確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．PC　OUT確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．計数分解能確認	分解能：1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	カウンタモジュール（D－１１０）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力感度測定	計数開始電圧 1±0.2(V)以内	(V)	(V)	
	-1±0.2(V)以内	(V)	(V)	
3．プリセット動作	10 ： 10 ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	100 ： 100 ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	1K ： 1K ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	10K ： 10K ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
4．オーバーフロー信号間の間隔	20(msec/div)にて 5(div)	(div)	(div)	
5．外部ゲート信号	計数開始電圧 3±0.2(V)以内	(V)	(V)	
6．分解能測定	0.2(μsec)以下	(μsec)	(μsec)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	スケーラモジュール（NFS21022）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリレベル設定及び直線性 2.1 03U031 AMP GAIN 調整	5(V)　(3.00)	(目盛)	(目盛)	
2.2 直線性減数	フルスケールの±2(%)以内 4(V)　(2.40)	(目盛)	(目盛)	
	3(V)　(1.80)	(目盛)	(目盛)	
	2(V)　(1.20)	(目盛)	(目盛)	
	1(V)　(0.60)	(目盛)	(目盛)	
	0.5(V)　(0.30)	(目盛)	(目盛)	
	0.1(V)　(0.06)	(目盛)	(目盛)	
3．分解能点検	パルス間隔　1(μsec)以下	(μsec)	(μsec)	
4．コントロール点検	正常に動作すること。 RESET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	COUNT 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	STOP 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	EXT RESET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	EXT COUNT 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	EXT STOP 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．プリセット カウント点検	プリセットカウント 10 (C)	(C)	(C)	
	800000 (C)	(C)	(C)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	タイマーモジュール （AM－5353B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．クロックパルス発生の確認	S-3 SEC ：1000(cps)	良・否（　）	良・否（　）	
	S-3 MIN ：1000(cpm)	良・否（　）	良・否（　）	
3．スケーラBの確認	J4-8 ： 100(cps)	良・否（　）	良・否（　）	
	J4-L ： 10(cps)	良・否（　）	良・否（　）	
	J4-R ： 1(cps)	良・否（　）	良・否（　）	
4．制御回路確認 4.1 FREE確認	正常に動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	
4.2 PTの確認	8888 設定	良・否（　）	良・否（　）	
4.3 PCの確認	10K 設定	良・否（　）	良・否（　）	
4.4 PCTの確認		良・否（　）	良・否（　）	
4.5 AUTOの確認		良・否（　）	良・否（　）	
4.6 REPEAT確認		良・否（　）	良・否（　）	
4.7 STOP確認		良・否（　）	良・否（　）	
4.8 RESET確認		良・否（　）	良・否（　）	
4.9 TEST確認	1000(cps)	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	タイマモジュール （D－１１１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作	0.01 ： 1 ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	0.3 ： 30 ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	10 ： 1000 ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	300 ：30000 ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
3．クロックパルスの確認 3.1 100(Hz) の分周	タイマ ： 100(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	カウンタ： 100000(ｶｳﾝﾄ)±0.5(%)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
3.2 10/6(Hz)の分周	タイマ ： 10(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	カウンタ： 600000(ｶｳﾝﾄ)±0.5(%)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
4．操作モードの確認	ディスプレイ ON	良・否（　　）	良・否（　　）	
	OFF	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	タイマモジュール （NFS13022）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．コントロール点検	正常に動作すること。			
	IN START 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IN STOP 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	IN RESET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	EXT START 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	EXT STOP 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	EXT RESET 動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．プリセットタイマ点検	プリセットタイマ			
	1（秒）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	100（秒）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1（分）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	10（分）	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．時間精度確認	ＳＥＣ設定： 100 ± 0.05(秒) 以内	(秒)	(秒)	
	ＭＩＮ設定： 1 ± 0.0005(分) 以内	(分)	(分)	
5．時間読み出し信号確認	表示とＢＣＤ ＯＵＴが一致すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	タイマーモジュール （AM－5351）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．クロックパルス発生の確認	×1　（1000 CPM）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	×10　（100 CPM）	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．制御回路確認				
3.1 FREE確認		良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 PTの確認	4MIN	良・否（　　）	良・否（　　）	
	10MIN	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.3 PCの確認	1K カウント	良・否（　　）	良・否（　　）	
	10K カウント	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.4 PCTの確認	1MIN	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1K カウント	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.5 STOPの確認		良・否（　　）	良・否（　　）	
3.6 RESET の確認		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	スケーラアンドタイマー （AM－５２０１M）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作確認	プリセットタイム　10(sec)		(sec)	(sec)	
3．クロックパルス確認	0.1(sec)ﾌﾟﾘｾｯﾄ	CH1 :　100	(COUNT)	(COUNT)	
		CH2 :100000±1(%)	(COUNT)	(COUNT)	
	0.1(min)ﾌﾟﾘｾｯﾄ	CH1 :　10	(COUNT)	(COUNT)	
		CH2 :600000±1(%)	(COUNT)	(COUNT)	
4．入力感度測定	CH1	POS: 1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
		NEG:-1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
	CH2	POS: 1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
		NEG:-1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
5．INTERVAL測定	約１秒～約10秒連続可変		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．計数分解能確認	1(μsec)以内	CH1	(μsec)	(μsec)	
		CH2	(μsec)	(μsec)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	スケーラアンドタイマー （AM－５２M０２M）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作確認	プリセットタイム　10(sec)		(sec)	(sec)	
3．クロックパルス確認	0.1(sec)プリセット	CH1 :　100	(COUNT)	(COUNT)	
		CH2 :100000±1(%)	(COUNT)	(COUNT)	
	0.1(min)プリセット	CH1 :　10	(COUNT)	(COUNT)	
		CH2 :600000±1(%)	(COUNT)	(COUNT)	
4．入力感度測定	CH1	POS: 1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
		NEG:-1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
	CH2	POS: 1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
		NEG:-1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
5．INTERVAL測定	約１秒～約10秒連続可変		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．計数分解能確認	1(μsec)以内	CH1	(μsec)	(μsec)	
		CH2	(μsec)	(μsec)	

設置場所	排水モニタ　（No.　）	点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	スケーラアンドタイマー （AM－52MR74－2710）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作確認	プリセットタイム　10(sec)		(sec)	(sec)	
3．クロックパルス確認	0.1(sec)プリセット	CH1 :　100	(COUNT)	(COUNT)	
		CH2 :100000±1(%)	(COUNT)	(COUNT)	
	0.1(min)プリセット	CH1 :　10	(COUNT)	(COUNT)	
		CH2 :600000±1(%)	(COUNT)	(COUNT)	
4．入力感度測定	CH1	POS: 1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
		NEG:-1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
	CH2	POS: 1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
		NEG:-1±0.1(V)以内	(V)	(V)	
5．INTERVAL測定	約1秒～約10秒連続可変		良・否（　　）	良・否（　　）	
6．計数分解能確認	1(μsec)以内	CH1	(μsec)	(μsec)	
		CH2	(μsec)	(μsec)	

設置場所	排水モニタ　（No.　）	点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	カウンタ・タイマ （AA－5252）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作確認	プリセット　タイム 10(sec)	(sec)	(sec)	
3．クロックパルス確認	0.1(sec)プリセット CH1：　100	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	CH2：100000±1(%)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	0.1(min)プリセット CH1：　10	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
	CH2：600000±1(%)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
4．入力感度測定	CH2 POS：0.5～1.0(V)以内	(V)	(V)	
	NEG：0.5～1.0(V)以内	(V)	(V)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ディアルカウンタ／タイマ（E－５４１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力感度測定	2 ±0.1(V)以内			
	チャンネルA	(V)	(V)	
	チャンネルB	(V)	(V)	
3．ゲート動作確認	正常に動作すること。			
	チャンネルA 開	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルA 閉	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルB 開	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルB 閉	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．プリセット動作確認 4.1 タイマー動作	チャンネルB： 10(sec)設定	(sec)	(sec)	
4.2 プリセットCOUNT 動作	チャンネルB： 100000(COUNT)設定	(COUNT)	(COUNT)	
4.3 プリセットSEC 動作	入力周波数：10(Kcps)設定 タイマー　：10(sec)設定 チャンネルA： 100000(COUNT)±0.5(%)以内 チャンネルB：　10(sec)	(COUNT)	(COUNT)	
4.4 プリセットMIN 動作	入力周波数：10(Kcps)設定 タイマー　：1(min)設定 チャンネルA： 600000(COUNT)±0.5(%)以内	(COUNT)	(COUNT)	
5．計数分解能確認	0.1(μsec)以内			
	チャンネルA	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルB	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ディアルカウンタ／タイマ（D－１１０A）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プリセット動作	10(sec) ± 1(ｶｳﾝﾄ)	(sec)	(sec)	
3．ゲート動作確認	正常に動作すること。 チャンネルA ゲート開	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルA ゲート閉	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルB ゲート開	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルB ゲート閉	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．クロックパルス確認	a)プリセット(A) A：100000 B ﾀｲﾏ 0.1(sec) B：000100			
	±0.5(%) b)プリセット(B) A：100000 B ﾀｲﾏ 0.1(sec) B：000100			
	±0.5(%) c)プリセット(C) A：600000 C ﾀｲﾏ 0.1(sec) B：000010			
5．入力感度測定	2.0(V)以上 チャンネルA	(V)	(V)	
	チャンネルB	(V)	(V)	
6．計数分解能確認	0.1(μsec)以内 チャンネルA	良・否（　　）	良・否（　　）	
	チャンネルB	良・否（　　）	良・否（　　）	

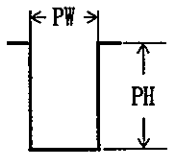
設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	波高分析モジュール （AM－１１M０１R）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲 2.1 ＬＬＤ		0.5（目盛）	(V)	(V)	
		3.0（目盛）	(V)	(V)	
		5.0（目盛）	(V)	(V)	
		7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.2 ＵＬＤ		0.5（目盛）	(V)	(V)	
		3.0（目盛）	(V)	(V)	
		5.0（目盛）	(V)	(V)	
		7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.3 MODE SW ΔE ΔE（DIFF） LLD：1.00（目盛）	ULD：1.00(目盛)		～　(V)	～　(V)	
	ULD：2.00(目盛)		～　(V)	～　(V)	
	ULD：4.00(目盛)		～　(V)	～　(V)	
	ULD：8.00(目盛)		～　(V)	～　(V)	
3．分解能	300(nsec) 以内	ＬＬＤ	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ＵＬＤ	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ΔＥ	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．出力波形の確認		PW	(μsec)	(μsec)	
		PH	(V)	(V)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	シングルチャンネル波高分析器 （AA－1153）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認 2.1 MODE SW INT	0.5（目盛）	(V)	(V)	
	3.0（目盛）	(V)	(V)	
	5.0（目盛）	(V)	(V)	
	7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.2 MODE SW DIFF (LL目盛:1.00)	1.00（目盛）	(V)	(V)	
	2.00（目盛）	(V)	(V)	
	4.00（目盛）	(V)	(V)	
	8.00（目盛）	(V)	(V)	
3．分解能	1(μsec)以内　INT	良・否（　　）	良・否（　　）	
	1(μsec)以内　DIFF	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．DELAY確認	1(μsec)以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．WALK調整		良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	シングルチャンネル波高分析器 （D－１０４）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認 2.1 MODE SW OFF	±0.1(V)以内	LLD目盛 0.5（目盛）	(V)	(V)	
		3.0（目盛）	(V)	(V)	
		5.0（目盛）	(V)	(V)	
		7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.2 MODE SW Emax	±0.1(V)以内	ULD目盛 0.5（目盛）	(V)	(V)	
		3.0（目盛）	(V)	(V)	
		5.0（目盛）	(V)	(V)	
		7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.3 MODE SW ΔE LLD:1.00	各±0.05(V)以内	ULD ： 1.00(目盛)	(V)	(V)	
		ULD ： 2.00(目盛)	(V)	(V)	
		ULD ： 4.00(目盛)	(V)	(V)	
		ULD ： 8.00(目盛)	(V)	(V)	
3．分解能		ＯＦＦ	良・否（　　）	良・否（　　）	
		Ｅｍａｘ	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ΔＥ	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	シングルチャンネル波高分析器 （D－５２１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ベースライン	フルスケールの±1(%)以内 0.5（目盛）	(V)	(V)	
	3.0（目盛）	(V)	(V)	
	5.0（目盛）	(V)	(V)	
	7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.2 ウインド	フルスケールの±1(%)以内 （ベースライン 1.00(目盛)） 1.00(目盛)	(V)	(V)	
	2.00(目盛)	(V)	(V)	
	4.00(目盛)	(V)	(V)	
	8.00(目盛)	(V)	(V)	
3．タイムウォーク調整	10±1(mV) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．分解能	ベースライン　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ウインド　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	シングルチャンネル波高分析器 （E－５２１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ベースライン	フルスケールの±1(%)以内 0.5（目盛）	(V)	(V)	
	3.0（目盛）	(V)	(V)	
	5.0（目盛）	(V)	(V)	
	7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.2 ウインド	フルスケールの±1(%)以内 （ベースライン 1.00(目盛)） 1.00(目盛)	(V)	(V)	
	2.00(目盛)	(V)	(V)	
	4.00(目盛)	(V)	(V)	
	8.00(目盛)	(V)	(V)	
3．タイムウォーク調整	10±1(mV) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．分解能	ベースライン　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ウインド　1(μsec)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	波高分析器 （NFM01122－A）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ベースライン リニアティ	フルスケールの±0.5(%)以内 BESE LINE ﾀﾞｲﾔﾙ 800(目盛)	(V)	(V)	
	600(目盛)	(V)	(V)	
	400(目盛)	(V)	(V)	
	200(目盛)	(V)	(V)	
	100(目盛)	(V)	(V)	
3．ウインドー幅精度 3.1 WINDOW AMP GAIN ×1	フルスケールの±3(%)以内 WINDOW ﾀﾞｲﾔﾙ 1.0(目盛)	(V)	(V)	
	2.0(目盛)	(V)	(V)	
	4.0(目盛)	(V)	(V)	
3.2 WINDOW AMP GAIN ×5	フルスケールの±1(%)以内 WINDOW ﾀﾞｲﾔﾙ 1.0(目盛)	(V)	(V)	
	2.0(目盛)	(V)	(V)	
	4.0(目盛)	(V)	(V)	
4．ダブルパルス分解能	パルス間隔 3(μsec)以下	(μsec)	(μsec)	
5．出力パルス	パルス幅　：0.5 ～2(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	パルス波高：5(V)以上	(V)	(V)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	シングルチャンネル波高分析器（７０６－１Ｃ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力動作範囲の確認 2.1 ＬＬＤダイヤル	±0.1(V)以内 0.5（目盛）	(V)	(V)	
	3.0（目盛）	(V)	(V)	
	5.0（目盛）	(V)	(V)	
	7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.2 ＵＬＤダイヤル	±0.1(V)以内 0.5（目盛）	(V)	(V)	
	3.0（目盛）	(V)	(V)	
	5.0（目盛）	(V)	(V)	
	7.0（目盛）	(V)	(V)	
2.3 ΔＥ　ダイヤル	フルスケールの±5(%)以内 (LLD ﾀﾞｲﾔﾙ　1.00(目盛)) 1.00(目盛)	(V)	(V)	
	2.00(目盛)	(V)	(V)	
	4.00(目盛)	(V)	(V)	
	8.00(目盛)	(V)	(V)	
3．分解能	1(μsec)以内 ＩＮＴ　ＭＯＤＥ	(μsec)	(μsec)	
	ＵＬＤ　ＭＯＤＥ	(μsec)	(μsec)	
	ΔＥ　ＭＯＤＥ	(μsec)	(μsec)	
4．ＯＵＴ　ＰＵＴ ＤＥＬＡＹ確認	約0.2 ～1.0(μsec)	(μsec)	(μsec)	

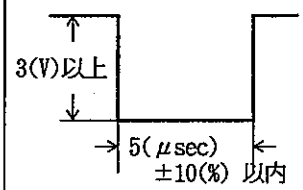
設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	入力選択モジュール （AM－０１０１BM）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力切換動作確認	正常に動作すること。			
	GM	良・否（　　）	良・否（　　）	
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	SCINT	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．TEST出力信号の確認				
	出力波高	良・否（　　）	良・否（　　）	
	出力　幅	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	入力選択モジュール（AM－0102）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリレベル設定	-100±10(mV)以内		CH 1	(mV)	(mV)	
			CH 2	(mV)	(mV)	
3．出力信号の確認						
	CH 1	(正)	出力電圧	(V)	(V)	
			パルス幅	(μsec)	(μsec)	
		(負)	出力電圧	(V)	(V)	
			パルス幅	(μsec)	(μsec)	
	CH 2	(正)	出力電圧	(V)	(V)	
			パルス幅	(μsec)	(μsec)	
		(負)	出力電圧	(V)	(V)	
			パルス幅	(μsec)	(μsec)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	入力選択モジュール （AM－0101）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．GM入力点検	入力感度（負 100 mV　以上）	(mV)	(mV)	
	SIG OUT 出力波高値	(V)	(V)	
3．SCINT IN　入力点検	入力負 10 (V) SIG OUT 出力波高分値	(mV)	(mV)	
4．PHA IN　入力点検	入力負 3 (V) SIG OUT 出力波高分値	(V)	(V)	
5．テスト信号入力点検	入力感度　負 3 (V)以上	(V)	(V)	
	SIG OUT 出力波高分値	(V)	(V)	
	SIG OUT 出力波形 （立上り 0.5μS 以内）	(μS)	(μS)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	チェック端子モジュール（AM－01M05）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．インターフェース精度	各入力に対し　±2%以内					
	レンジ	入力(V)	出力			
	LO	0.06	49～51 (mV)	(mV)	(mV)	
		0.12	98～102 (mV)	(mV)	(mV)	
		1.20	0.98～1.02 (V)	(V)	(V)	
		12.0	9.8～10.2 (V)	(V)	(V)	
	MED	0.12	98～102 (mV)	(mV)	(mV)	
		1.20	0.98～1.02 (V)	(V)	(V)	
		12.0	9.8～10.2 (V)	(V)	(V)	
	HI	0.12	98～102 (mV)	(mV)	(mV)	
		1.20	0.98～1.02 (V)	(V)	(V)	
		12.0	9.8～10.2 (V)	(V)	(V)	

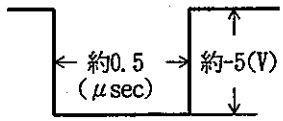
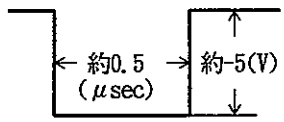
設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	チェック端子モジュール （AM－91MR74－2435）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．HV出力の確認	600(V)入力時	(V)	(V)	
3．DISCR OUT出力の確認		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．D．R OUT出力の確認		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－03M29）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの破損などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．テレメータ出力回路 2.1 内部電源確認　*1	5± 0.25(V)	(V)	(V)	*1) PC板 AMC-6112 (CW) (J104)
2.2 出力波形確認　*2	CH－1 (J-1 5番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	*2) 75(Ω) 終端にて
	PW 1±0.1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	CH－2 (J-1 6番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 1±0.1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	CH－3 (J-1 7番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 1±0.1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
3．高圧出力監視回路　*3 3.1 CH－1 (J102)	正常に動作すること。			*3) PC板 AMC-7101D
	①：HV 500(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	②：HV 1000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	③：HV 2000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 CH－2 (J103)	正常に動作すること。			
	①：HV 500(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	②：HV 1000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	③：HV 2000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．トラブル監視回路　*4 4.1 テスト確認	正常に動作すること。 TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	*4) PC板AMC-7102C (J101)
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.2 LVトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－０３M２９BM）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．テレメータ出力回路*1 2.1 内部電源確認	5± 0.25(V)	(V)	(V)	*1) PC板 AMC-6112 (EW) (J104)
	-12± 0.6 (V)	(V)	(V)	
2.2 出力波形確認　*2	CH－1 (J-1 5番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	*2) 75(Ω) 終端にて
	PW 1±0.1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	CH－2 (J-1 6番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 1±0.1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	CH－3 (J-1 7番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 1±0.1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
3．高圧出力監視回路　*3 3.1 CH－1 (J102)	正常に動作すること。			*3) PC板 AMC-7101E
	①：HV 500(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	②：HV 1000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	③：HV 2000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 CH－2 (J103)	正常に動作すること。			
	①：HV 500(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	②：HV 1000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	③：HV 2000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．トラブル監視回路　*4 4.1 テスト確認	正常に動作すること。			*4) PC板AMC-7108BR (J101)
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.2 LVトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－０３M２９BUM）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．テレメータ出力回路*1 2.1 内部電源確認	5± 0.25(V)	(V)	(V)	*1) PC板 AMC-6112 (FU) (J104)
	-12± 0.6 (V)	(V)	(V)	
2.2 出力波形確認 *2				*2) 75(Ω) 終端にて
	CH－1 (J-1 5番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 5±0.5(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	CH－2 (J-1 6番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 5±0.5(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	CH－3 (J-1 7番) 波高値 5± 0.5 (V)	(V)	(V)	
	PW 5±0.5(μsec)	(μsec)	(μsec)	
3．高圧出力監視回路 *3 3.1 CH－1 (J102)	正常に動作すること。			*3) PC板 AMC-7101E
	①：HV 500(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	②：HV 1000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	③：HV 2000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 CH－2 (J103)	正常に動作すること。			
	①：HV 500(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	②：HV 1000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
	③：HV 2000(V)時	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．トラブル監視回路 *4 4.1 テスト確認	正常に動作すること。			*4) PC板AMC-7108BR (J101)
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.2 LVトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	テレメータ出力モジュール （AM－06MR74－2253）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．トラブル監視回路 *1 2.1 ＬＶ－１トラブル （J103, UN3）	±24(V), ±12(V), 6(V), AC, 24(V)(U)のいずれか又は、複数が断 端子(J-1)　21 出力 ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	*1) AMC-7118BR
2.2 ＬＶ－２トラブル （J104, UN4）	±24(V), ±12(V), 6(V), AC, 24(V)(U)のいずれか又は、複数が断 端子(J-1)　22 出力 ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.4 ＬＶ－３トラブル （J105, UN5）	±24(V), ±12(V), 6(V), AC, 24(V)(U)のいずれか又は、複数が断 端子(J-1)　23 出力 ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.4 テスト確認	ＴＥＳＴ 端子(J-1)　12 出力 ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＲＥＳＥＴ 端子(J-1)　12 解除 ランプ消灯	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．高圧出力監視回路 *2 3.1 ＨＶ－１	J101, UN1 端子(J-1)　24 出力 ＨＶ 1000(V)時 マルチダイヤル 0.9 ～ 1.10 以外	良・否（　　）	良・否（　　）	*2) AMC-7101E
3.2 ＨＶ－２	J102, UN2 端子(J-1)　25 出力 ＨＶ 1000(V)時 マルチダイヤル 0.9 ～ 1.10 以外	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－06MR74－2253）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
4．出力波形確認 *3	No.1 県用出力			*3) AMC-6103BW, J106
	波高値 5±1(V)	(V)	(V)	
	PW 5±1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	No.2 安管棟用出力			
	波高値 5±1(V)	(V)	(V)	
	PW 5±1(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	No.3 安管棟用出力			
	波高値 5±1(V)	(V)	(V)	
	PW 5±1(μsec)	(μsec)	(μsec)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－０３M２２R３）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．トラブル監視回路 *1 2.1 テスト確認	正常に動作すること。			* AMC-7102CR
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 LVトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．高圧出力監視回路 *2	正常に動作すること。 1100(V)	良・否（　　）	良・否（　　）	*2 AMC-7101C
4．V/F 変換回路の確認*3	フルスケール±0.1(%)以内			*3 AMC-6115R3

レンジ	入力電圧(V)	出力(Hz)		
Lo	0.105	1×10^{1} ±0.5	(Hz)	(Hz)
	10.5	1×10^{3} ±1	(Hz)	(Hz)
Med	1.05	1×10^{4} ±100	(Hz)	(Hz)
Hi	10.5	1×10^{4} ±10	(Hz)	(Hz)

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	テレメータ出力モジュール （AM－０３M２２BR２）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．トラブル監視回路 *1 2.1 テスト確認	正常に動作すること。			* AMC-7118BR
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 ＬＶトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．高圧出力監視回路 *2	正常に動作すること。 1100(V)	良・否（　　）	良・否（　　）	*2 AMC-7101E
4．V/F 変換回路の確認*3	フルスケール±0.1(%)以内			*3 AMC-6112EW

レンジ	入力電圧 (V)	出力 (Hz)		
Lo	0.105	1×10^{1} ±0.5	(Hz)	(Hz)
	10.5	1×10^{3} ±1	(Hz)	(Hz)
Med	1.05	1×10^{4} ±100	(Hz)	(Hz)
Hi	10.5	1×10^{4} ±10	(Hz)	(Hz)

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－０３M２２BVR２）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．トラブル監視回路 *1 2.1 テスト確認	正常に動作すること。			* AMC-7118BM
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 LVトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．高圧出力監視回路 *2	正常に動作すること。 1100(V)	良・否（　　）	良・否（　　）	*2 AMC-7101E
4．V/F 変換回路の確認*3	フルスケール±0.1(%)以内			*3 AMC-6115DVS

レンジ	入力電圧(V)	出力(Hz)		
Lo	0.0873	1×10^{1} ±0.5	(Hz)	(Hz)
	8.73	1×10^{3} ±1	(Hz)	(Hz)
Med	0.873	1×10^{4} ±100	(Hz)	(Hz)
Hi	8.73	1×10^{4} ±10	(Hz)	(Hz)

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	テレメータ出力モジュール （AM－０３M２２BVR４）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．トラブル監視回路 *1 2.1 テスト確認	正常に動作すること。			* AMC-7118C
	TEST	良・否（　　）	良・否（　　）	
	RESET	良・否（　　）	良・否（　　）	
2.2 LVトラブル	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．高圧出力監視回路 *2	正常に動作すること。 1100(V)	良・否（　　）	良・否（　　）	*2 AMC-7101E
4．V/F 変換回路の確認*3	フルスケール±0.1(%)以内			*3 AMC-6127

レンジ	入力電圧(V)	出力(Hz)		
Lo	0.0873	1×10^{1} ±0.5	(Hz)	(Hz)
	8.73	1×10^{3} ±1	(Hz)	(Hz)
Med	0.873	1×10^{4} ±100	(Hz)	(Hz)
Hi	8.73	1×10^{4} ±10	(Hz)	(Hz)

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ライズタイムツーハイトコンバーター（AA－3207）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．ディスクリ点検	±2(%)以内 LOWER：1.00(目盛)　UPPER：2.00(目盛)	(V)	(V)	
	LOWER：1.00(目盛)　UPPER：4.00(目盛)	(V)	(V)	
	LOWER：1.00(目盛)　UPPER：8.00(目盛)	(V)	(V)	
3．WALK調整	後線の変動がないこと	良・否（　）	良・否（　）	
4．ピックオフ点検	±0.5(%)以内 LOWER：4.00(目盛)　UPPER：9.00(目盛)	良・否（　）	良・否（　）	
	LOWER：2.00(目盛)　UPPER：8.00(目盛)	良・否（　）	良・否（　）	
	LOWER：1.00(目盛)　UPPER：6.00(目盛)	良・否（　）	良・否（　）	
5．レンジ確認	レンジ 0.1(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.2(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.5(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	1.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	2.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	5.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	10.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ライズタイムツーハイトコンバーター（７２３－１Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．ディスクリ点検	±2(%)以内 LOWER / UPPER 1.00(目盛) / 2.00(目盛) 1.00(目盛) / 4.00(目盛) 1.00(目盛) / 8.00(目盛)	(V) (V) (V)	(V) (V) (V)	
3．WALK調整	後線の変動がないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
4．ピックオフ点検	±0.5(%)以内 LOWER / UPPER 4.00(目盛) / 9.00(目盛) 2.00(目盛) / 8.00(目盛) 1.00(目盛) / 6.00(目盛)	良・否（　） 良・否（　） 良・否（　）	良・否（　） 良・否（　） 良・否（　）	
5．レンジ確認	レンジ 0.1(μsec) 0.2(μsec) 0.5(μsec) 1.0(μsec) 2.0(μsec) 5.0(μsec) 10.0(μsec)	良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　）	良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　） 良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	警報表示モジュール （AM－93MR74－2253）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．プリセット動作確認	RM1（No.1系 Hiｱﾗｰﾑ）	良・否（　）	良・否（　）	
	RM2（No.2系 Hiｱﾗｰﾑ）	良・否（　）	良・否（　）	
	LV1（No.1系）	良・否（　）	良・否（　）	
	LV2（No.2系）	良・否（　）	良・否（　）	
	LV3（共通部）	良・否（　）	良・否（　）	
	HV1（No.1系）	良・否（　）	良・否（　）	
	HV2（No.2系）	良・否（　）	良・否（　）	
	LEAKAGE（漏水）	良・否（　）	良・否（　）	
	SAMPLING（ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ部異常）	良・否（　）	良・否（　）	
3．状態表示動作確認	放出中表示	良・否（　）	良・否（　）	
	BG測定中表示	良・否（　）	良・否（　）	
4．リセット信号出力確認	端子(J_1-35)　L－Hi BUZZER　STOP	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ハンディスケーラ（TDC－104）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	1000(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	+12(V)： 11.76～ 12.24(V)	(V)	(V)	
	-12(V)：-11.76～-12.24(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V)： 4.80～ 5.20(V)	(V)	(V)	
3.2 電源変動の測定				
	+ 12(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	+ 12(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧測定	100(mVp-p)以下 + 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源試験 4.1 電圧設定精度の確認 （負荷電流：50μA）	フルスケールの±1(%)以内			
	ダイヤル設定			
	1.0 500(V)	(V)	(V)	
	2.0 1000(V)	(V)	(V)	
	3.0 1500(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	ハンディスケーラ（TDC－104）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4.2 電圧変動の測定	1000(V)時：950～1050(V)以内				
	AC：90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		50(μA)負荷時	(V)	(V)	
	AC：100(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		50(μA)負荷時	(V)	(V)	
	AC：110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		50(μA)負荷時	(V)	(V)	
4.3 リップル電圧測定	1000(V) 時：100(mVp-p)以内		(mVp-p)	(mVp-p)	
5．計数部試験 5.1 入力感度	SCINT：-10±1(mV)		(mV)	(mV)	
	GM：-100±10(mV)		(mV)	(mV)	
5.2 波形選別出力波形確認	波形：-4.0～-6.0(V)		(V)	(V)	
	パルス幅：0.5～1.5(μsec)		(μsec)	(μsec)	
5.3 クロックパルス確認	TEST：3000(cpm)		(cpm)	(cpm)	
5.4 プリセット動作確認	正常に動作すると。	PT動作：1(min)	良・否（　）	良・否（　）	
		PT動作：5(min)	良・否（　）	良・否（　）	
5.5 表示確認	正常に表示すること。		良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ベーシックスケーラ（TDC－１０５）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	1000(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	+12(V)： 11.50～ 12.50(V)	(V)	(V)	
	-12(V)：-11.50～-12.50(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V)： 4.80～ 5.20(V)	(V)	(V)	
3.2 電源変動の測定	±2(%)以内			
	+ 12(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	+ 12(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
4．高圧電源試験 4.1 電圧設定精度の確認 （負荷電流：25μA）	フルスケールの±1(%)以内			
	出力表示			
	1000 1000(V)	(V)	(V)	
	2000 2000(V)	(V)	(V)	
	3000 3000(V)	(V)	(V)	
4.2 電圧変動の測定	±0.5(%)以内			
	2000(V)時 AC： 90(V)	(V)	(V)	
	2000(V)時 AC：100(V)	(V)	(V)	
	2000(V)時 AC：110(V)	(V)	(V)	
4.3 リップル電圧測定	2000(V)時 100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	ベーシックスケーラ（TDC－105）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5. 計数部試験 5.1 AMP GAIN	SCINT：約 30(倍)	良・否（　）	良・否（　）	
	GM　：約 3(倍)	良・否（　）	良・否（　）	
5.2 入力感度	SCINT：－10± 1(mV)	(mV)	(mV)	
	GM　：-100±10(mV)	(mV)	(mV)	
5.3 PHS OUT波形確認	波形　：　-4.0～ -6.0(V)	(V)	(V)	
	パルス幅：0.5～1.5(μsec)	(μsec)	(μsec)	
5.4 クロックパルス確認	TEST：1000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5.5 プリセット動作確認	正常に動作すること。 PT動作：1(min)	良・否（　）	良・否（　）	
	PT動作：5(min)	良・否（　）	良・否（　）	
5.6 表示確認	正常に表示すること。	良・否（　）	良・否（　）	
6. HV LIMIT動作の確認（1000V）	ダイヤル目盛：100±3 以内	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	スケーラ （TDC－513）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．絶縁試験	1000(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	+ 12(V)： 11.5 ～ 12.5(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)：-11.5 ～-12.5(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V)： 4.75 ～ 5.25(V)	(V)	(V)	
3.2 電源変動の測定	100(V)時出力電圧に対し ±0.1(V)以内			
	+ 12(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	+ 12(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC ： 90(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC ：110(V)	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧の測定	各 250(mVp-p)以下 + 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源試験 4.1 高圧設定精度の確認	負荷電流 50(μA)時 300(V) ： 285～ 315(V)	(V)	(V)	
	500(V) ： 485～ 515(V)	(V)	(V)	
	1000(V) ： 985～ 1015(V)	(V)	(V)	
	1500(V) ：1485～ 1515(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	スケーラ（TDC－513）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
4.2 電圧負荷変動の確認	100(V)時出力電圧に対し 電圧変動：±1.5(V)以内 負荷変動：±7.5(V)以内			
	AC：90(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC：90(V) 50(μA)負荷時	(V)	(V)	
	AC：100(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC：100(V) 50(μA)負荷時	(V)	(V)	
	AC：110(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC：110(V) 50(μA)負荷時	(V)	(V)	
4.3 リップル電圧の測定	1000(V)時(50(μA)負荷時) 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．計数部試験 5.1 入力感度	SCINT：-100 ±10(mV)	(mV)	(mV)	
	GM ：-100 ±10(mV)	(mV)	(mV)	
5.2 条件設定モード確認 (1) モード切換動作	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
(2) 測定条件切替動作	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
(3) 設定変更動作	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
5.3 測定モード表示確認	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
5.4 測定モード表示確認	測定時間：1.0(min)	(min)	(min)	
	計数値 ：1000± 1(counts)	(counts)	(counts)	
5.5 表示確認	正常に表示すること	良・否（ ）	良・否（ ）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ユニバーサルスケーラ（TDC－511）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2. 絶縁試験	500(V)メガーにて 50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧出力電圧の確認	24(V): 23.00 ～ 25.00(V)	(V)	(V)	
	-24(V):-23.00 ～-25.00(V)	(V)	(V)	
	12(V): 11.50 ～ 12.50(V)	(V)	(V)	
	-12(V):-11.50 ～-12.50(V)	(V)	(V)	
4．高圧電源部試験 4.1 高圧設定精度の確認	100(V) : 90 ～ 110(V)	(V)	(V)	
	1000(V) : 990 ～ 1010(V)	(V)	(V)	
	2000(V) : 1990 ～ 2010(V)	(V)	(V)	
	3000(V) : 2990 ～ 3010(V)	(V)	(V)	
4.2 HVリミット設定動作の確認	設定値1000(V)にて	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．リニアアンプ部試験	Gauss : 59 ～ 61(dB)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	DL : 59 ～ 61(dB)	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．総合直線性	LL目盛			
	8.0 79～81(%)	(%)	(%)	
	6.0 59～61(%)	(%)	(%)	
	4.0 39～41(%)	(%)	(%)	
	2.0 19～21(%)	(%)	(%)	
7．機能検査	表示器動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	時計動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	計数動作（PT）	良・否（　　）	良・否（　　）	
	計数動作（PC）	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	ユニバーサルスケーラ（TDC－511）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
	データメモリ	良・否（　）	良・否（　）	
	自己診断機能 AMP／SCA	良・否（　）	良・否（　）	
	SCALER	良・否（　）	良・否（　）	
	DISPLAY	良・否（　）	良・否（　）	
	ROM	良・否（　）	良・否（　）	

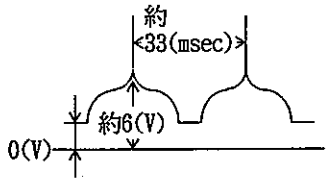
設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ユニバーサルスケーラ （MAR－２０２USI）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源部試験	＋24±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	－24±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	＋15±0.6(V)以内	(V)	(V)	
	－15±0.6(V)以内	(V)	(V)	
	＋12±0.5(V)以内	(V)	(V)	
	－12±0.5(V)以内	(V)	(V)	
4．高圧電源部試験 4.1 高圧設定精度の確認	100 ± 10(V)	(V)	(V)	
	1000 ± 10(V)	(V)	(V)	
	2000 ± 10(V)	(V)	(V)	
	3000 ± 10(V)	(V)	(V)	
4.2 HVリミット設定動作の確認	設定値1000(V) にて	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．リニアアンプ部試験	Gauss（59 ～ 61dB）	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．総合直線性	±1.0(%)以内 80(%)	(%)	(%)	
	60(%)	(%)	(%)	
	40(%)	(%)	(%)	
	20(%)	(%)	(%)	
7．エネルギー補償部試験 7.1 FG　OUT波形確認	下図の波形であること。  	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	ユニバーサルスケーラ （MAR－202USI）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
7.2 通過率の確認				
	入力波高 (V) / 通過率 (%)			
	-6 / 103 ～ 97	(%)	(%)	
	-3 / 69.93 ～ 65.86	(%)	(%)	
	-1 / 17.42 ～ 16.40	(%)	(%)	
	-0.4 / 3.525 ～ 3.319	(%)	(%)	
	-0.12 / 1.174 ～ 0.960	(%)	(%)	
	-0.1 / 1.290 ～ 1.056	(%)	(%)	
	-0.095 / 0	(%)	(%)	
8．機能検査	表示器動作	良・否（　）	良・否（　）	
	時計動作	良・否（　）	良・否（　）	
	計数動作　PT	良・否（　）	良・否（　）	
	自己診断機能 SCALER	良・否（　）	良・否（　）	
	DISPLAY	良・否（　）	良・否（　）	
	PRINTER	良・否（　）	良・否（　）	
	ROM	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	スミヤカウンタスケーラ（TDC－R14－215）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源部試験 3.1 出力電圧の確認	±2(%)以内			
	+ 12(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V)	(V)	(V)	
3.2 電源変動の測定	±2(%)以内			
	+ 12(V) AC : 90(V)	(V)	(V)	
	+ 12(V) AC :110(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC : 90(V)	(V)	(V)	
	- 12(V) AC :110(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC : 90(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) AC :110(V)	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧測定	100(mVp-p)以下			
	+ 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源試験 4.1 高圧設定精度の確認 （負荷電流 100μA）	フルスケールの±1(%)以内			＊電圧値＝ ﾀﾞｲﾔﾙ指示値/2×1000 (V)
	ﾀﾞｲﾔﾙ指示値 / 電圧値			
	0 / 0(V)	(V)	(V)	
	1.00 / 500(V)	(V)	(V)	
	2.00 / 1000(V)	(V)	(V)	
	3.00 / 1500(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	スミヤカウンタスケーラ（TDC－R14－215）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4.2 電圧変動の測定	1000(V) 時：950 ～1050(V)				
	AC：90(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		100(μA)負荷時	(V)	(V)	
	AC：100(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		100(μA)負荷時	(V)	(V)	
	AC：110(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		100(μA)負荷時	(V)	(V)	
4.3 リップル電圧測定	1000(V) 時：100(mVp-p)以内		(mVp-p)	(mVp-p)	
5．計数部試験 5.1 ディスクリミネータ確認	可変範囲：-0.3 ～-1.5(V) 以上		(V)	(V)	
	ディスクリ設定値：-0.35(V)		(V)	(V)	
5.2 クロックパルス確認（TEST）	3000(cpm)		(cpm)	(cpm)	
5.3 プリセット動作確認	正常に動作すること。 PT動作 ： 1(min)		良・否（ ）	良・否（ ）	
	PT動作 ： 5(min)		良・否（ ）	良・否（ ）	
5.4 表示確認	正常に表示すること。		良・否（ ）	良・否（ ）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	GM／SCINTI COUNTER (603A)	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．高圧電源部試験				
3.1 電圧設定精度の確認（負荷電流： 1mA）	フルスケールの±1(%)以内			
	ﾀﾞｲﾔﾙ設定 5.0 / 500(V)	(V)	(V)	
	ﾀﾞｲﾔﾙ設定 10.0 / 1000(V)	(V)	(V)	
	ﾀﾞｲﾔﾙ設定 5.0 / 1500(V)	(V)	(V)	
	ﾀﾞｲﾔﾙ設定 10.0 / 2000(V)	(V)	(V)	
3.2 電圧変動の測定	フルスケールの±1(%)以内 500(V)時			
	AC : 90(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC : 90(V) 1(mA)負荷時	(V)	(V)	
	AC :100(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC :100(V) 1(mA)負荷時	(V)	(V)	
	AC :110(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC :110(V) 1(mA)負荷時	(V)	(V)	
	1500(V)時			
	AC : 90(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC : 90(V) 1(mA)負荷時	(V)	(V)	
	AC :100(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC :100(V) 1(mA)負荷時	(V)	(V)	
	AC :110(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	AC :110(V) 1(mA)負荷時	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧測定	1500(V)時 100(mVp-p)以内	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	GM／SCINTI COUNTER（603A）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
4. 計数部 4.1 増幅部 (1) 増幅度確認	20±2(dB) 以内	(db)	(db)	
(2) 直線性測定（GAIN最大）	入力 10 (mV)	(V)	(V)	
	50 (mV)	(V)	(V)	
	100 (mV)	(V)	(V)	
	200 (mV)	(V)	(V)	
(3) 最大無歪電圧測定	10(V)以上	(V)	(V)	
(4) ノイズ測定	入力オープン利得最大において 100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.2 ディスクリ (1) ダイヤル目盛試験	7.0 (目盛)	(V)	(V)	
	5.0 (目盛)	(V)	(V)	
	3.0 (目盛)	(V)	(V)	
	0.5 (目盛)	(V)	(V)	
(2) 分解能測定	パルス間隔 2(μsec)以内	(μsec)	(μsec)	
4.3 スケーラ・タイマ (1) クロックパルス確認	TEST 6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
(2) プリセット動作確認	正常に動作すること。 PT動作：1(min)	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
	PT動作：5(min)	良・否 (　　)	良・否 (　　)	
(3) 表示確認	正常に表示すること。	良・否 (　　)	良・否 (　　)	

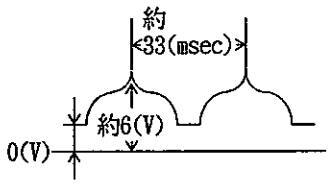
設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	フィールドモニタ （MAR－２０２－WS１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	500(V)メガにて50(MΩ)以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源部試験	＋24±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	－24±1.0(V)以内	(V)	(V)	
	＋15±0.6(V)以内	(V)	(V)	
	－15±0.6(V)以内	(V)	(V)	
	＋12±0.5(V)以内	(V)	(V)	
	－12±0.5(V)以内	(V)	(V)	
4．高圧電源部試験 4.1 高圧設定精度の確認	100 ± 10(V)	(V)	(V)	
	1000 ± 10(V)	(V)	(V)	
	2000 ± 10(V)	(V)	(V)	
	3000 ± 10(V)	(V)	(V)	
4.2 HVリミット設定動作の確認	設定値1000(V) にて	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．リニアアンプ部試験	Gauss（59 ～ 61dB）	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．総合直線性	±1.0(%)以内 80(%)	(%)	(%)	
	60(%)	(%)	(%)	
	40(%)	(%)	(%)	
	20(%)	(%)	(%)	
7．エネルギー補償部試験 7.1 FG　OUT波形確認	下図の波形であること。  	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	フィールドモニタ （MAR－202－WS1）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
7.2 通過率の確認				

入力波高 (V)	通過率 (%)	設定値	点検値
-6	103 ～ 97	(%)	(%)
-3	68.79 ～ 64.79	(%)	(%)
-1	16.17 ～ 15.23	(%)	(%)
-0.4	3.325 ～ 3.131	(%)	(%)
-0.17	1.726 ～ 0.930	(%)	(%)
-0.1	2.647 ～ 1.425	(%)	(%)
-0.095	0	(%)	(%)

8．機能検査		設定値	点検値
表示器動作		良・否（　）	良・否（　）
時計動作		良・否（　）	良・否（　）
計数動作	PT	良・否（　）	良・否（　）
	PC	良・否（　）	良・否（　）
データメモリ		良・否（　）	良・否（　）
自己診断機能	SCALER	良・否（　）	良・否（　）
	DISPLAY	良・否（　）	良・否（　）
	PRINTER	良・否（　）	良・否（　）
	ROM	良・否（　）	良・否（　）

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	マルチモードアンプリファイヤー（７０４－３Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．COARSE GAIN点検	GAIN			
	1	(dB)	(dB)	
	2	(dB)	(dB)	
	5	(dB)	(dB)	
	10	(dB)	(dB)	
	20	(dB)	(dB)	
	50	(dB)	(dB)	
3．FINE GAIN点検	9.5 ±0.5(dB) 以内	(dB)	(dB)	
4．無歪最大出力電圧点検	10(V)以上	(V)	(V)	
5．波形整形確認 5.1 1st DIFF	DL(0.8μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	OUT (OFF)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.1(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.2(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.5(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	1.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	2.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	5.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	10.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
5.2 INT	OUT (OFF)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.1(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.2(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	0.5(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	
	1.0(μsec)	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	マルチモードアンプリファイヤー（７０４－３Ｂ）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5.3 2st DIFF	5.0(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	10.0(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	DL(0.8μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	OUT (OFF)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	0.1(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	0.2(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	0.5(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	1.0(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	2.0(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	5.0(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	10.0(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	0.1(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	0.2(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	0.5(μsec)	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．ＰＺ(ﾎﾞｰﾙｾﾞﾛｷｬﾝｾﾙ)点検		良・否（ ）	良・否（ ）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	リニアアンプ（７０４－４Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ 良 ）	良・否（ 良 ）	
2．COARSE GAIN点検				
	GAIN			
	1			
	2			
	4			
	8			
	16			
	32			
	64			
3．FINE GAIN点検	9.5±2.0(dB) 以内			
4．無歪最大出力電圧点検	10V 以上			
5．波形整形確認				
	SHAPING (0.4 μS)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	SHAPING (0.8 μS)	良・否（ ）	良・否（ ）	
	SHAPING (1.6 μS)	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．PZ(ポールゼロキャンセル)点検		良・否（ ）	良・否（ ）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	サムディレイアンプ（７１９－１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ＧＡＩＮ点検 2.1 IN PUT GAIN ADJ (FRONT PANEL)	±2(%)以内 IN PUT 1(V)	(V)	(V)	
2.2 IN PUT 1 直線性 (REAR PANEL)	IN PUT 1(V)	(V)	(V)	
	2(V)	(V)	(V)	
	4(V)	(V)	(V)	
2.3 IN PUT 2 直線性 (REAR PANEL)	IN PUT 1(V)	(V)	(V)	
	2(V)	(V)	(V)	
	4(V)	(V)	(V)	
2.4 サム動作の確認	IN PUT(F) (1) (2)			
	1(V) 1(V) 1(V)	(V)	(V)	
	2(V) 2(V) 2(V)	(V)	(V)	
	3(V) 3(V) 3(V)	(V)	(V)	
3．最大無歪出力電圧の確認	±10(V) 以上	(V)	(V)	
4．ディレイ時間の確認	0.25(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	0.50(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	1.00(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	1.00(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	2.00(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	2.00(μsec)	(μsec)	(μsec)	
	6.75(μsec)	(μsec)	(μsec)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	パーソナルチェッカー（PSC－501）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．充電機能の確認 2.1 CHARGEランプの確認（赤色）	正常に点灯すること。	良・否（　　）	合・否（　　）	
2.1 CHARGEランプの確認（緑色）	正常に点灯すること。	良・否（　　）	合・否（　　）	
3．動作確認 3.1 計数音の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	合・否（　　）	
3.2 計数ランプの確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	合・否（　　）	
4．自然計数率の測定	１ｃｐｍ以内	ｃｐｍ	ｃｐｍ	
5．α効率の測定	１０％／２π以上	％	％	
6．感度分布の確認	異常のないこと。	良・否（　　）	合・否（　　）	
7．充電値の交換	充電池を交換後パーソナルチェッカーが正常に動作すること。	良・否（　　）	合・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（　　）

機器名	充電器 （CHG－R74－4414）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．充電器 （CHG-R74-4414）	赤又は、緑のCHARGEランプが点灯しパーソナルチェッカーが充電できること。	良・否（　）	良・否（　）	
3．動作試験器 （TDC-R74-4414） 3.1 ﾁｪｯｶｰｼｰｹﾝｽ動作の確認 ・ﾁｪｯｸ中ﾗﾝﾌﾟ 確認	ﾁｪｯｸ中ﾗﾝﾌﾟ が点灯する事	良・否（　）	良・否（　）	
・計数動作確認 設定範囲以内	OKランプ（緑）点灯	良・否（　）	良・否（　）	
設定範囲以外	NGランプ（赤）点灯	良・否（　）	良・否（　）	
3.2 出力信号確認 （PHS　OUT）	CMOSレベル	良・否（　）	良・否（　）	

項目	基準	測定値	偏差	使用機器
4．内部線源の確認	2．36kBq±10%以内	(kBq)	%	型名： SER ：

設置場所	Pu－3	点検場所	計測機器校正施設

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	線量率計 （AM－２３M２１R３）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前確認						
	リニア	2.5(μGy/h)レンジ				
		2.0(V)入力	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
			記録計	(mV)	(mV)	
	ログ－１	Ｌｏレンジ				
		1.0(V)入力	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
			記録計	(mV)	(mV)	
	ログ－２	ＭＥＤレンジ				
		1.0(V)入力	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
			記録計	(mV)	(mV)	
		Ｈｉレンジ				
		1.0(V)入力	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
			記録計	(mV)	(mV)	
3．レンジ切換回路の調整	正常に動作すること。		+11.0(V)	良・否（　　）	良・否（　　）	
			+90(mV)	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．非直線性の確認 4.1 リニア (1)　0.25(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ	指示値： フルスケール±3(%)以内 記録計：±0.3(mV)以内					
	入力値 0.061 (V)	0.05(μGy/h)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		2.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 0.182 (V)	0.15(μGy/h)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		6.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 0.303 (V)	0.25(μGy/h)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		10.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	線量率計 （AM－２３M２１R３）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
(2) 0.5(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ						
	入力値 0.121 (V)	0.1(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 0.363 (V)	0.3(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		6.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 0.605 (V)	0.5(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		10.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
(3) 1(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ						
	入力値 0.242 (V)	0.2(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 0.726 (V)	0.6(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		6.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 1.21 (V)	1.0(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		10.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
(4) 2.5(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ						
	入力値 0.605 (V)	0.5(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 1.815 (V)	1.5(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		6.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 3.025 (V)	2.5(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		10.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
(5) 5(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ						
	入力値 1.21 (V)	1(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 3.63 (V)	3(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		6.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 6.05 (V)	5(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		10.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	線量率計 （AM－２３M２１R３）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
(6) 10(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ						
	入力値 2.42 (V)	2(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 7.26 (V)	6(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		6.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 9.68 (V)	8(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		8.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
4-2 ログー１ (1) ＬＯレンジ	指示値：±0.16(dec)以内 記録計：　±0.4(mV)以内					
	入力値 0.0121 (V)	0.01(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		0.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 0.121 (V)	0.1(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.50(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 1.21 (V)	1(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		5.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
(2) ＭＥＤレンジ						
	入力値 0.121 (V)	10(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		7.50(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 1.21 (V)	10^2(μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		10.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
4-3 ログー２ (1) ＭＥＤレンジ	指示値：±0.16(dec)以内 記録計：　±0.4(mV)以内					
	入力値 0.121 (V)	0.01(mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		0.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 1.21 (V)	0.1(mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		2.50(mV)	記録計	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	線量率計 （AM－２３M２１R３）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
(2) Hiレンジ						
	入力値 0.121 (V)	1(mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		5.00(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 1.21 (V)	10(mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		7.50(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
	入力値 9.68 (V)	80(mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		9.90(mV)	記録計	(mV)	(mV)	
5．ログ－１・２レンジ信号出力確認	正常に動作すること。 ログ－１レンジ 24(V) ～0(V)			良・否（　　）	良・否（　　）	
	ログ－２レンジ 24(V) ～0(V)			良・否（　　）	良・否（　　）	
6．時定数測定	FAST 30±9(sec)以内			(sec)	(sec)	
	SLOW 300±90(sec)以内			(sec)	(sec)	
7．アラーム動作確認	Hi ALARM ランプ点灯			良・否（　　）	良・否（　　）	
	LO ALARM ランプ点灯			良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	デジタル線量率計 （AM－４２MR７４－２４３５）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±4(%)±1digit以内 記録計：±0.5(mV) 以内			
	500(cpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	500(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	5(Kcpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	5(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	50(Kcpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	50(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	500(Kcpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	500(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV)以内			
	フルスケール 出力			
	10^{-1}レンジ 約 1(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{0} レンジ 約 2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{1} レンジ 約 3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{2} レンジ 約 4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{3} レンジ 約 5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{4} レンジ 約 6(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
6．アラーム動作確認	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	デジタル線量率計 （AM－４２M０３R）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±4(%)±1digit以内 記録計：±0.2(mV) 以内			
	500(cpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	500(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	5(Kcpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	5(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	50(Kcpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	50(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	500(Kcpm) 指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
	500(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV)以内			
	フルスケール／出力			
	10^{-1}レンジ／約 1(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{0} レンジ／約 2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{1} レンジ／約 3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{2} レンジ／約 4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{3} レンジ／約 5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{4} レンジ／約 6(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
6．アラーム動作確認	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	デジタル線量率計 （AM－４２M０３R－U３）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±4(%)±1digit以内 記録計：±0.5(mV) 以内				
	500(cpm)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	(mV)	(mV)	
	5(Kcpm)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	(mV)	(mV)	
	50(Kcpm)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	(mV)	(mV)	
	500(Kcpm)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）	
		記録計	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV)以内				
	フルスケール	出力			
	10^{-1}レンジ	約 1(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{0} レンジ	約 2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{1} レンジ	約 3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{2} レンジ	約 4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{3} レンジ	約 5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{4} レンジ	約 6(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ		(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ		(sec)	(sec)	
6．アラーム動作確認	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯		良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	デジタル線量率計 （AM－２２MR７４－３８５７）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±2(%)±1digit以内 記録計：±0.3(mV)以内			

×10^{-2} μGy/h

レンジ	入力		設 定 値	点 検 値
Ｌｏ	0.6(V)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）
		記録値	(mV)	(mV)
	6.0(V)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）
		記録値	(mV)	(mV)
ＭＥＤ	0.3(V)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）
		記録値	(mV)	(mV)
	0.6(V)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）
		記録値	(mV)	(mV)
	0.9(V)	指示値	（μGy/h）	（μGy/h）
		記録値	(mV)	(mV)

×10^{-2}mGy/h

レンジ	入力		設 定 値	点 検 値
ＭＥＤ	3.0(V)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)
		記録値	(mV)	(mV)
	6.0(V)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)
		記録値	(mV)	(mV)
	9.0(V)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)
		記録値	(mV)	(mV)

点検整備記録書

機器名	デジタル線量率計 （AM－２２MR７４－３８５７）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
	×10^{-2}mGy/h レンジ：Hi　入力：0.6(V)　指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
	入力：0.6(V)　記録値	(mV)	(mV)	
	入力：6.0(V)　指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
	入力：6.0(V)　記録値	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV)以内			
	フルスケール（×10^{-2}）：25 レンジ　出力：2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{2} レンジ　3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{3} レンジ　4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{4} レンジ　5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{5} レンジ　6(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{6} レンジ　7(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{7} レンジ　8(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
6．アラーム動作確認	ＨＶ及びＬＯ ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	デジタル線量率計 （AM－４２MR７４－３８５７）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±1(%)±1digit以内 記録計：±0.2(mV)以内					
	×10^{-2} μGy/h					
	入力値 6.0 ×10^{1} (cps)	52.4 (μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		5.24(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	6.0 ×10^{2} (cps)	524 (μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		5.24(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	6.0 ×10^{3} (cps)	5240 (μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		5.24(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	×10^{-2}mGy/h					
	入力値 6.0 ×10^{1} (cps)	52.4 (mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		5.24(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	6.0 ×10^{2} (cps)	524 (mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		5.24(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	6.0 ×10^{3} (cps)	5240 (mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		5.24(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	デジタル線量率計 （AM－42MR74－3857）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV) 以内			
	フルスケール($\times 10^{-2}$) / 出力			
	25 レンジ / 2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{2} レンジ / 3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{3} レンジ / 4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{4} レンジ / 5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{5} レンジ / 6(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{6} レンジ / 7(mV)	(mV)	(mV)	
	10^{7} レンジ / 8(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
6．アラーム動作確認	Ｈｉ及びＬｏ ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	対数線量率計 （AM－43MR74－1670－1）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準			設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。			良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリ電圧の確認	-1±0.2(V)以内			(V)	(V)	
3．レートメータ非直線性の測定	指示値：±0.16(ﾃﾞｶｰﾄﾞ)以内 記録計：±0.5(mV)以内					
（μGy/h)レンジ	入力値 10^1 (cps)	8.7×10^{-2} (μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		2.44(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	入力値 10^2 (cps)	8.7×10^{-1} (μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		4.94(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	入力値 10^4 (cps)	8.7×10^{1} (μGy/h)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		9.94(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
(mGy/h)レンジ	入力値 10^1 (cps)	8.7×10^{-2} (mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		2.44(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	入力値 10^2 (cps)	8.7×10^{-1} (mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		4.94(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
	入力値 10^4 (cps)	8.7×10^{1} (mGy/h)	指示値	(mGy/h)	(mGy/h)	
		9.94(mV)	記録値	(mV)	(mV)	
4．自動切換動作の確認	8.7×10^{-2}(μGy/h) （FAST → SLOW）			良・否（　　）	良・否（　　）	
5．アラーム動作確認	Hi ALARMランプ点灯			良・否（　　）	良・否（　　）	
	Lo ALARMランプ点灯			良・否（　　）	良・否（	
6．CAL確認	±0.16(dec)以内 Hi メータ指示			(μGy/h)	(μGy/h)	
	Lo メータ指示			(μGy/h)	(μGy/h)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	線量率計（RU738B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみコネクタの接触などにに異常のないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリ電圧の確認			(V)	(V)	
3．非直線性の確認 レンジF1E2	（フルスケール） 指示値：　±3(%)以内 記録計：　±0.03(V)以内				
	入力値				
	0 (cpm)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		記録計	(mV)	(mV)	
	1×10^{3}(cpm)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		記録計	(mV)	(mV)	
	2×10^{3}(cpm)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		記録計	(mV)	(mV)	
	5×10^{3}(cpm)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		記録計	(mV)	(mV)	
	1×10^{4}(cpm)	指示値	(μGy/h)	(μGy/h)	
		記録計	(mV)	(mV)	
4．レンジ出力電圧確認	各　1.5(%)以内				
	レンジ設定	出力電圧			
	1×10^{-9}	0.050(V)	(V)	(V)	
	3×10^{-5}	0.275(V)	(V)	(V)	
	1×10^{0}	0.500(V)	(V)	(V)	
	3×10^{5}	0.775(V)	(V)	(V)	
	3×10^{9}	0.975(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	計数率計 （RU738B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5．内部設定確認	HH設定値	U：	U：	
	H設定値	H：	H：	
	L設定値	L：	L：	
	換算定数	C：	C：	
	レーコダ出力	γ：	γ：	
	ディスクリ電圧	d：	d：	

設置場所	モニタリング車	点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	デジタル計数率計 （AM－４２M０３R－M２）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設　定　値	点　検　値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±1(%)±1digit以内 記録計：±0.5(mV)以内			
	5（cpm） 指示値	(cpm)	(cpm)	
	5（cpm） 記録計	(mV)	(mV)	
	50（cpm） 指示値	(cpm)	(cpm)	
	50（cpm） 記録計	(mV)	(mV)	
	500（cpm） 指示値	(cpm)	(cpm)	
	500（cpm） 記録計	(mV)	(mV)	
	5(Kcpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	5(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	50(Kcpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	50(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	500(Kcpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	500(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV)以内			
	フルスケール 出力			
	10^1 レンジ 1(mV)	(mV)	(mV)	
	10^2 レンジ 2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^3 レンジ 3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^4 レンジ 4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^5 レンジ 5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^6 レンジ 6(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ	(sec)	(sec)	

点検整備記録書

機器名	デジタル計数率計 （AM－42M03R－M2）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．アラーム動作確認	Ｈｉ及びＬｏ ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	デジタル計数率計 （AM－42MR74－2253）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．レートメータ非直線性の測定	指示値：±1(%)±1digit以内 記録計：±0.5(mV)以内			
	5（cpm） 指示値	(cpm)	(cpm)	
	5（cpm） 記録計	(mV)	(mV)	
	50（cpm） 指示値	(cpm)	(cpm)	
	50（cpm） 記録計	(mV)	(mV)	
	500（cpm） 指示値	(cpm)	(cpm)	
	500（cpm） 記録計	(mV)	(mV)	
	5(Kcpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	5(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	50(Kcpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	50(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	500(Kcpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	500(Kcpm) 記録計	(mV)	(mV)	
3．テスト動作確認	TROUBLE が点灯しないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．レンジマーカー出力測定	±0.4(mV)以内			
	フルスケール / 出力			
	10^1 レンジ 1(mV)	(mV)	(mV)	
	10^2 レンジ 2(mV)	(mV)	(mV)	
	10^3 レンジ 3(mV)	(mV)	(mV)	
	10^4 レンジ 4(mV)	(mV)	(mV)	
	10^5 レンジ 5(mV)	(mV)	(mV)	
	10^6 レンジ 6(mV)	(mV)	(mV)	
5．時定数測定	各レンジ±30(%)以内 10(sec)レンジ	(sec)	(sec)	
	100(sec)レンジ	(sec)	(sec)	

点検整備記録書

機器名	デジタル計数率計 （AM－42MR74－2253）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．アラーム動作確認	Hi及びLo ランプ点灯	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	対数計数率計 （AM－４３M０６DU）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリレベル設定	-1±0.2(V)以内	(V)	(V)	
3．レートメータ非直線の測定	指示値　： ±0.16(dec)以内 記録計出力：± 0.5(mV)以内			
	×1 レンジ			
	10^5(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^5(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	10^3(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^3(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	10 (cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10 (cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	×10レンジ			
	10^6(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^6(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	10^4(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^4(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	10^2(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^2(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	×100 レンジ			
	10^7(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^7(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	10^5(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^5(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	
	10^3(cpm) 指示値	(cpm)	(cpm)	
	10^3(cpm) 記録計	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	対数計数率計 （AM－４３M０６DU））	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．アラーム動作確認	Ｈｉ及びＬｏ　ランプ点灯		良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ＣＡＬ値確認					
	×1　レンジ	Hiメータ指示	(cpm)	(cpm)	
		Loメータ指示	(cpm)	(cpm)	
	×10　レンジ	Hiメータ指示	(cpm)	(cpm)	
		Loメータ指示	(cpm)	(cpm)	
	×100 レンジ	Hiメータ指示	(cpm)	(cpm)	
		Loメータ指示	(cpm)	(cpm)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	計数率計 （RU738B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．ディスクリ電圧の確認		(V)	(V)	
3．非直線性の確認	指示値：　±0.12(dec)以内 記録計：　±0.03(V)以内			

入力値		設定値	点検値
1×10^{1}(cpm)	指示値	(cpm)	(cpm)
	記録計	(mV)	(mV)
1×10^{2}(cpm)	指示値	(cpm)	(cpm)
	記録計	(mV)	(mV)
1×10^{3}(cpm)	指示値	(cpm)	(cpm)
	記録計	(mV)	(mV)
1×10^{4}(cpm)	指示値	(cpm)	(cpm)
	記録計	(mV)	(mV)
1×10^{5}(cpm)	指示値	(cpm)	(cpm)
	記録計	(mV)	(mV)

4．レンジ出力電圧確認　　各　±1.5(%)以内

レンジ設定	出力電圧	設定値	点検値
1×10^{-9}	0.05 (V)	(V)	(V)
1×10^{-5}	0.25 (V)	(V)	(V)
1×10^{0}	0.50 (V)	(V)	(V)
1×10^{5}	0.75 (V)	(V)	(V)
1×10^{9}	0.95 (V)	(V)	(V)

点検整備記録書

機器名	計数率計 （RU738B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5．内部設定確認	HH設定値	U：	U：	
	H設定値	H：	H：	
	L設定値V)	L：	L：	
	換算定数	C：	C：	
	レーコダ出力	γ：	γ：	
	ディスクリ電圧	d：	d：	

設置場所	モニタリング車	点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	自動試料交換装置 （SC－756 ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．動作確認	MANUAL 動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
	AUTO 動作	良・否（ ）	良・否（ ）	
3．低圧電源	24(V) ： 23.52～24.48(V)	(V)	(V)	
	5(V) ： 4.90～ 5.10(V)	(V)	(V)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	波形弁別 （AM－１３M０１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力波形確認	α系 波高値（V）	（V）	（V）	
	パルス幅（μsec）	（μsec）	（μsec）	
	β系 波高値（V）	（V）	（V）	
	パルス幅（μsec）	（μsec）	（μsec）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	コインシデンス （31R74－3180）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．GATE WIDTH 確認	ダイヤル設定値	（目盛）	（目盛）	
3．最小入力電圧確認		(V)	(V)	
4．コインシデンス動作確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	加温コントローラ （AM－06M02M）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準			設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。			良・否（ 良 ）	良・否（ 良 ）	
2．温度変換回路試験 （UN_2）	FS±0.1V以内					
	(°C)	(Ω)	(V)			
	10	103.97	4.0	(V)	(V)	
	30	111.88	6.0	(V)	(V)	
3．記録計用出力確認 （UN_1）	FS±0.1mV 以内					
	接続抵抗 (Ω)	出力電圧 (mV)				
	103．97	4．0		(mV)	(mV)	
	111．88	6．0		(mV)	(mV)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	加温コントローラ （AM－06M03M）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ 良 ）	良・否（ 良 ）	
2．温度変換回路試験 （UN_2）	FS±0.1V以内 （℃）／（Ω）／（V） 10／103.97／4.0 30／111.88／6.0	（V） （V）	（V） （V）	
3．記録計用出力確認 （UN_1）	FS±0.1mV 以内 接続抵抗（Ω）／出力電圧（mV） 103．97／4．0 111．88／6．0	（mV） （mV）	（mV） （mV）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	加温コントローラ（TC－3）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ 良 ）	良・否（ 良 ）	
2．温度変換回路試験（UN_2）	FS±0.1V以内			
	（°C） （Ω） （V）			
	10 103.97 4.0	（V）	（V）	
	30 111.88 6.0	（V）	（V）	
3．記録計用出力確認（UN_1）	FS±0.1mV 以内			
	接続抵抗（Ω） 出力電圧（mV）			
	103．97 4．0	（mV）	（mV）	
	111．88 6．0	（mV）	（mV）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	加温コントローラ（TC－4 ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ 良 ）	良・否（ 良 ）	
2．温度変換回路試験（UN_2）	FS±0.1V以内			
	（°C）／（Ω）／（V）			
	10／103.97／4.0	（V）	（V）	
	30／111.88／6.0	（V）	（V）	
3．記録計用出力確認（UN_1）	FS±0.1mV 以内			
	接続抵抗（Ω）／出力電圧（mV）			
	103．97／4．0	（mV）	（mV）	
	111．88／6．0	（mV）	（mV）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	リニアゲート （７１０－１）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．直線性点検	フルスケールの±10(%) 以内 入力電圧 3.0(V)	(V)	(V)	
	5.0(V)	(V)	(V)	
	10.0(V)	(V)	(V)	
3．ゲート幅測定	約0.5 ～ 10.0(μsec)	(μsec)	(μsec)	
4．ペディスタルの測定	1(mV)以内	(mV)	(mV)	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置（電源部）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源	24(V)U：約23(V) ～約30(V)	(V)	(V)	
	24(V)：　23.52(V)～24.48(V)	(V)	(V)	
	-24(V):-23.52(V)～-24.48(V)	(V)	(V)	
	12(V)：　11.76(V)～12.24(V)	(V)	(V)	
	12(V):-11.76(V)～-12.24(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 α検出器用高圧電源（AMC-8151）	フルスケールの±10(%)以内			
	ダイヤル			
	1.0(目盛)　500(V)	(V)	(V)	
	2.0(目盛)　1000(V)	(V)	(V)	
	3.0(目盛)　1500(V)	(V)	(V)	
3.2 β検出器用高圧電源（AMC-8153）	ダイヤル			
	0.5(目盛)　500(V)	(V)	(V)	
	1.0(目盛)　1000(V)	(V)	(V)	
	3.0(目盛)　3000(V)	(V)	(V)	
4．総合消費電力測定	動作状態時	(A)	(A)	
	静止状態時	(A)	(A)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	多試料同時放射能測定装置（電源部） （ＪＤＣ－Ｒ７４－３４９３）	承認		年月日	
機器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源	+24(V)： 23.5 ～ 24.5 (V)	(V)	(V)	
	+15(V)： 14.8 ～ 15.2 (V)	(V)	(V)	
	-15(V)：-14.8 ～-15.2 (V)	(V)	(V)	
	+ 5(V)： 4.8 ～ 5.2 (V)	(V)	(V)	
3．高圧電源	ＨＶ出力電圧：±30(V)以内 チェック端子電圧： ±0.03(V)以内			
	1.0(目盛) 500(V)	(V)	(V)	
	1.0(目盛) 0.5(V)	(V)	(V)	
	2.0(目盛) 1000(V)	(V)	(V)	
	2.0(目盛) 1.0(V)	(V)	(V)	
	3.0(目盛) 1500(V)	(V)	(V)	
	3.0(目盛) 1.5(V)	(V)	(V)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	記録計 （ER186－　　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃・注油	清掃されていること、BM出力ギヤ，伝達ギヤ，大及び小プーリ，指示部，主軸打点機構に注油すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．記録機構 1）インキング部	ペン先の磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）切換スイッチ	汚れ、接点に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損が無いこと。 スリップギヤに磨耗が無いこと。 BMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5）スライド部	スライド抵抗、ブラシの磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの磨耗がないこと。 SMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと。 スリップギヤに磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．指示試験	±0．5%以内			

入力	目盛	指示精度	指示精度
mV	%		
0.0	0	(%)	(%)
2.5	25	(%)	(%)
5.0	50	(%)	(%)
7.5	75	(%)	(%)
10.0	100	(%)	(%)

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	記録計 （ER187－　　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃・注油	清掃されていること、BM出力ギヤ、伝達ギア、大及び小プーリ，指示部，主軸打点機構に注油すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．記録機構 1）インキング部	ペン先の磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）切換スイッチ	汚れ、接点に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損が無いこと。 スリップギヤに磨耗が無いこと。 BMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5）スライド部	スライド抵抗、ブラシの磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの磨耗がないこと。 SMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと。 スリップギヤに磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．指示試験	±0．5%以内			

入力	目盛	指示精度	指示精度
mV	%		
0.0	0	(%)	(%)
2.5	25	(%)	(%)
5.0	50	(%)	(%)
7.5	75	(%)	(%)
10.0	100	(%)	(%)

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	記録計 （４３７０）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃・注油	清掃されていること、BM出力ギヤ、伝達ギア、大及び小プーリ，指示部，主軸打点機構に注油すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．記録機構 1）打点記録部	記録状態に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損が無いこと。 スリップギヤに磨耗が無いこと。 BMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの磨耗がないこと。 SMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと。 スリップギヤに磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．指示試験	±０．５%以内			

入力	目盛	設定値	点検値
mV	%	指示精度	指示精度
0.0	0	(%)	(%)
2.5	25	(%)	(%)
5.0	50	(%)	(%)
7.5	75	(%)	(%)
10.0	100	(%)	(%)

5．機能試験	設定値どおり動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	記録計 （4266）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃・注油	清掃されていること、BM出力ギヤ、伝達ギア、大及び小プーリ，指示部，主軸打点機構に注油すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．記録機構 1）打点記録部	記録状態に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損が無いこと。 スリップギヤに磨耗が無いこと。 BMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの磨耗がないこと。 SMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと。 スリップギヤに磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．指示試験	±0．5%以内			

入力	目盛	設定値	点検値
mV	%	指示精度	指示精度
0.0	0	(%)	(%)
2.5	25	(%)	(%)
5.0	50	(%)	(%)
7.5	75	(%)	(%)
10.0	100	(%)	(%)

5．機能試験	設定値どおり動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	記録計 （４２７６）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃・注油	清掃されていること、BM出力ギヤ、伝達ギア、大及び小プーリ，指示部，主軸打点機構に注油すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．記録機構 1）打点記録部	記録状態に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損が無いこと。 スリップギヤに磨耗が無いこと。 BMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの磨耗がないこと。 SMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと。 スリップギヤに磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．指示試験	±０．５%以内			

入力	目盛	設定値	点検値
mV	%	指示精度	指示精度
0.0	0	(%)	(%)
2.5	25	(%)	(%)
5.0	50	(%)	(%)
7.5	75	(%)	(%)
10.0	100	(%)	(%)

5．機能試験	設定値どおり動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	記録計 （４２７７）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃・注油	清掃されていること、BM出力ギヤ、伝達ギア、大及び小プーリ，指示部，主軸打点機構に注油すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．記録機構 1）打点記録部	記録状態に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3）平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損が無いこと。 スリップギヤに磨耗が無いこと。 BMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．記録紙送り機構構 1）チャート送り部	紙送りスイッチ、ギヤの磨耗がないこと。 SMの回転に異常がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2）チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がないこと。 スリップギヤに磨耗がないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．指示試験	±０．５%以内			

入　力	目　盛		
mV	%	指示精度	指示精度
0.0	0	(%)	(%)
2.5	25	(%)	(%)
5.0	50	(%)	(%)
7.5	75	(%)	(%)
10.0	100	(%)	(%)

5．機能試験	設定値どおり動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点 検 整 備 記 録 書

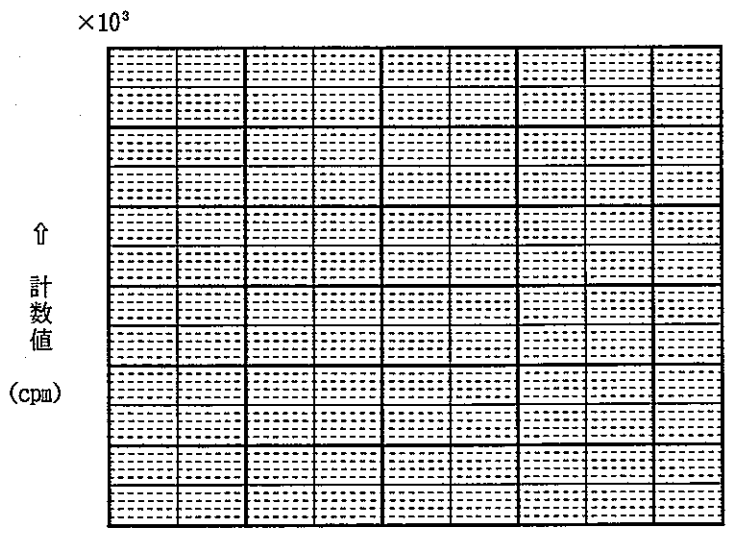
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ＺｎＳシンチレーション検出器 （ ＺＤ－４５１ ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得：約 1.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－ 0.10(V)	(V)	(V)	
	－ 0.15(V)	(V)	(V)	
	－ 0.20(V)	(V)	(V)	
	－ 0.25(V)	(V)	(V)	
	－ 0.30(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値 ： 0.5 (cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添 (有・無)	

点 検 整 備 記 録 書

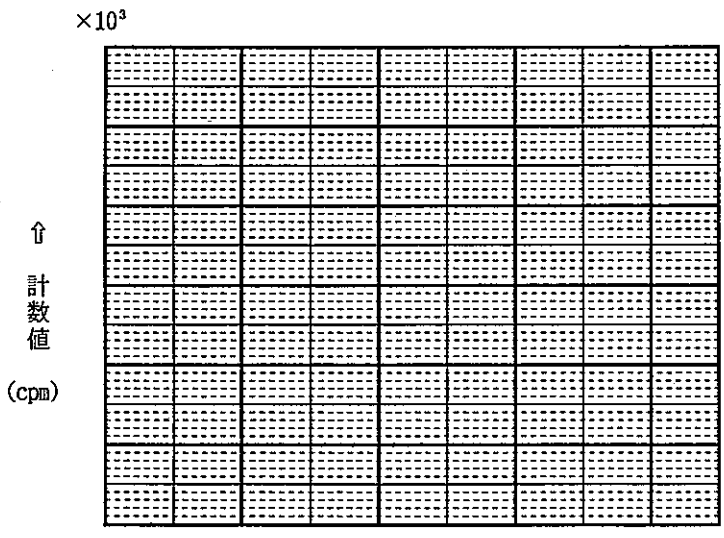
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ＺｎＳシンチレーション検出器 （ ＺＤ－４５３ ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得：約 10.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－ 0.10(V)	(V)	(V)	
	－ 0.15(V)	(V)	(V)	
	－ 0.20(V)	(V)	(V)	
	－ 0.25(V)	(V)	(V)	
	－ 0.30(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値 ： 0.5（cpm）以下			
	プラトー領域:150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

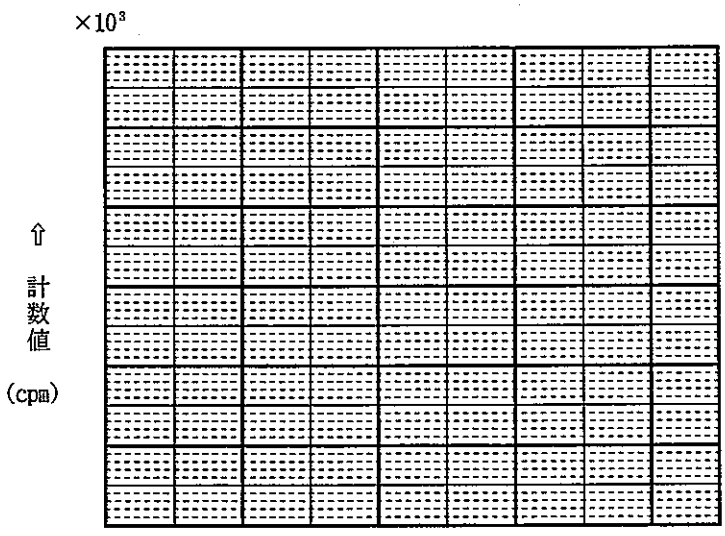
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ＺｎＳシンチレーション検出器 （ＺＤＳ－４５１　）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得：約　1.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－0.10(V)	(V)	(V)	
	－0.15(V)	(V)	(V)	
	－0.20(V)	(V)	(V)	
	－0.25(V)	(V)	(V)	
	－0.30(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値：0.5 (cpm)以下			
	プラトー領域:150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

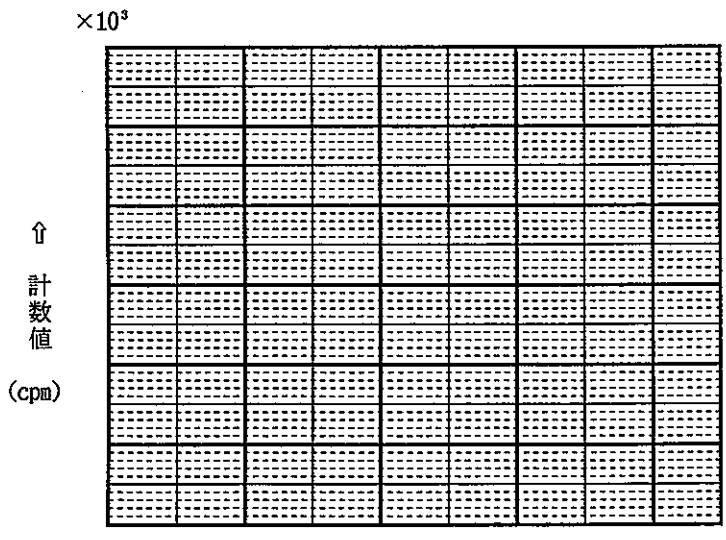
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ＺｎＳシンチレーション検出器（ＺＤＳ－４５３　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得：約 10.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－0.10(V)	(V)	(V)	
	－0.15(V)	(V)	(V)	
	－0.20(V)	(V)	(V)	
	－0.25(V)	(V)	(V)	
	－0.30(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	BG値： 0.5 (cpm)以下			
	プラトー領域:150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

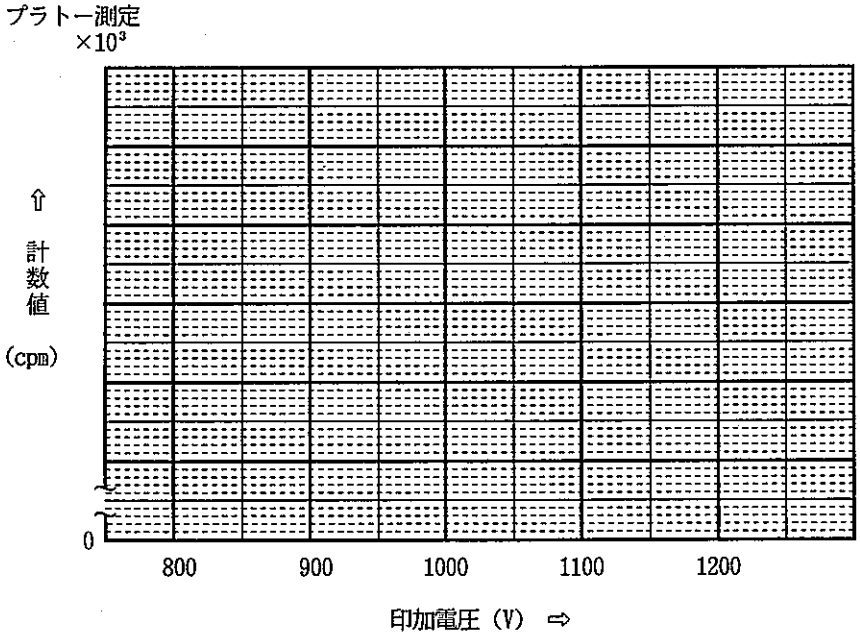
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ＺｎＳシンチレーション検出器 （ＺＤ－Ｒ７４－３４９３）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値　：1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)
850	
900	
950	
1000	
1050	
1100	
1150	
1200	
1250	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

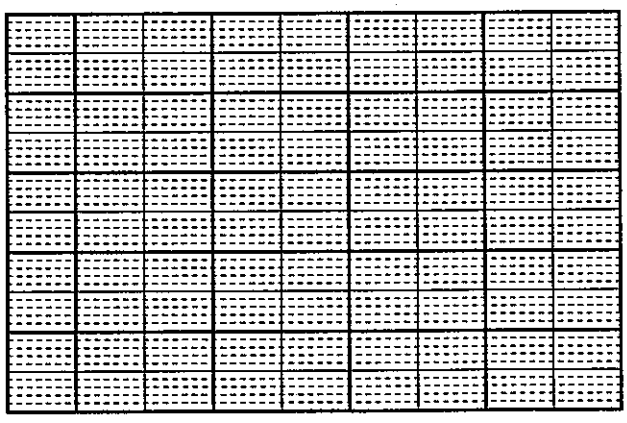
検査名（単体検査）

機 器 名	ＺｎＳシンチレーション検出器 （ＺＤ－４５１ＦＵ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2 1 増幅度の測定	利得：約　1.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	- 0.10(V)	(V)	(V)	
	- 0.15(V)	(V)	(V)	
	- 0.20(V)	(V)	(V)	
	- 0.25(V)	(V)	(V)	
	- 0.30(V)	(V)	(V)	
2.　最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値：0.5(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定

$\times 10^3$



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

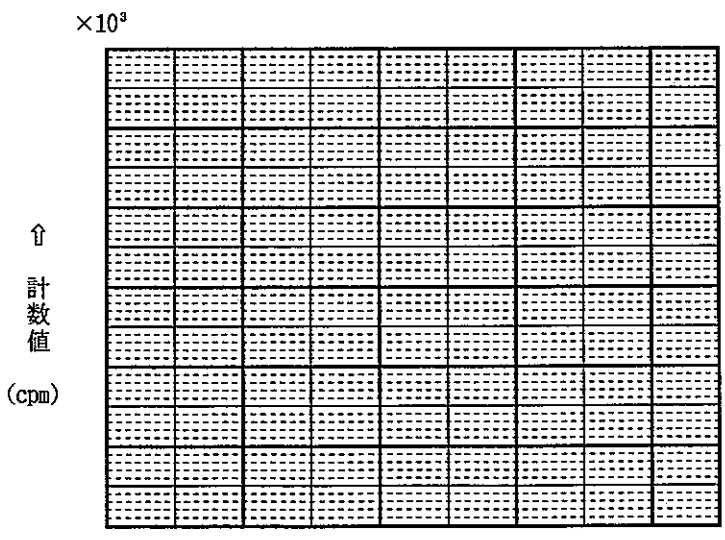
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ＺｎＳシンチレーション検出器（２２３）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得：約　1.0(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－0.10(V)	(V)	(V)	
	－0.15(V)	(V)	(V)	
	－0.20(V)	(V)	(V)	
	－0.25(V)	(V)	(V)	
	－0.30(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値：0.5(cpm)以下			
	プラトー領域:150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

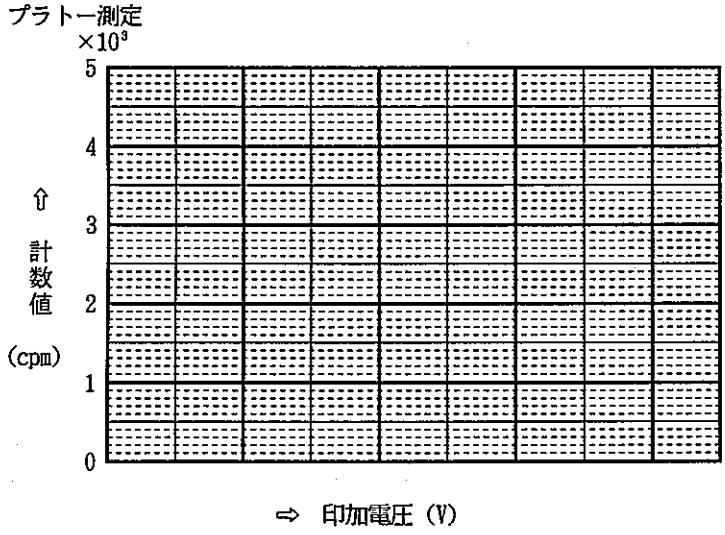
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （GP－14V）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	BG値：　40(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

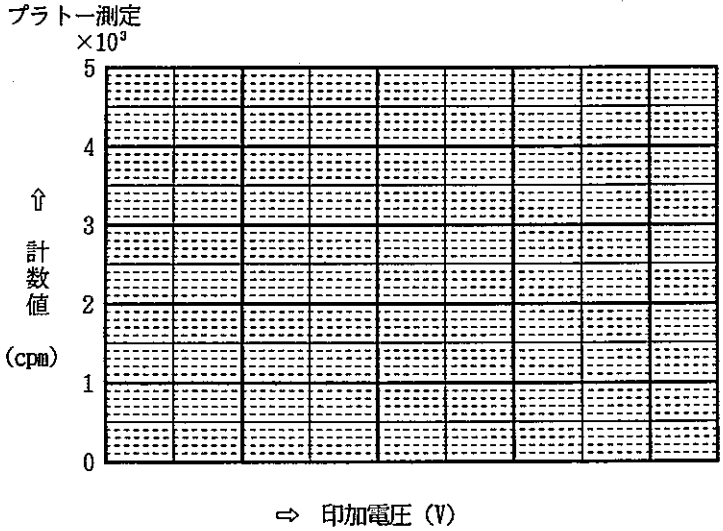
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （GP－1027）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	BG値：　35(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

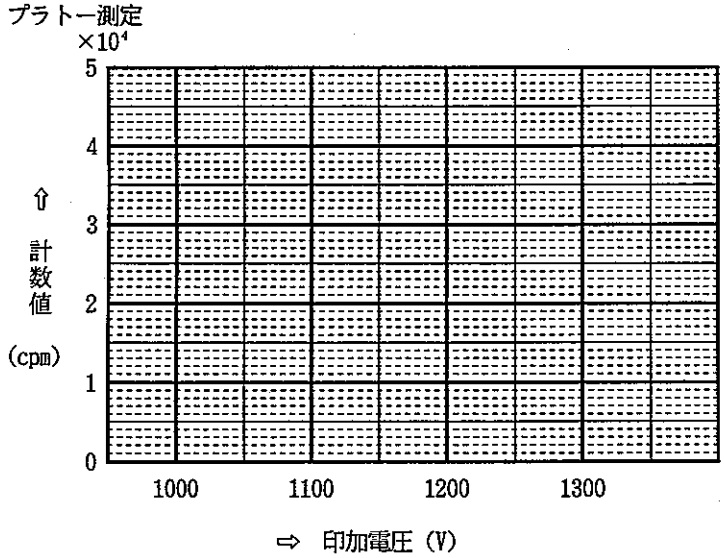
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （GP－１０１）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	BG値：40(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜：10(%/100V)以内	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)
１０５０	
１１００	
１１５０	
１２００	
１２５０	
１３００	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

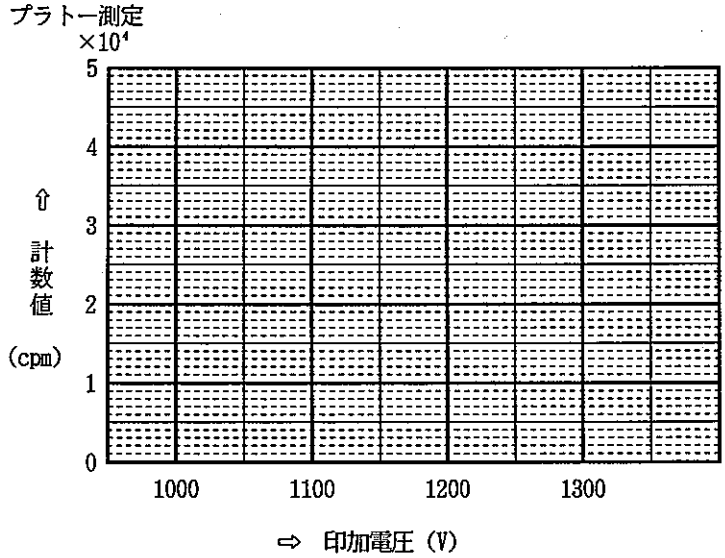
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （GP－14V）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	BG値：40(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜：10(%/100V)以内	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

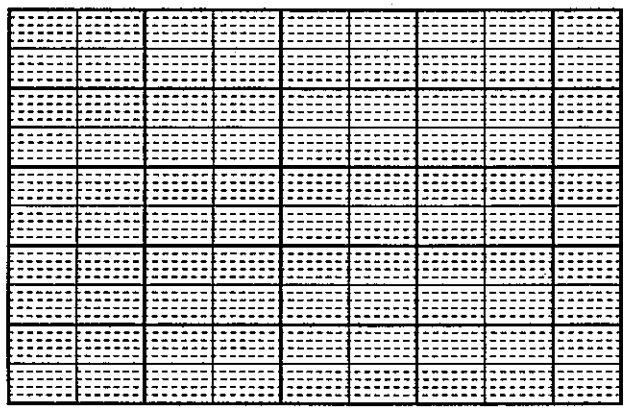
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （２１４）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値　：40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定
×10^3



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

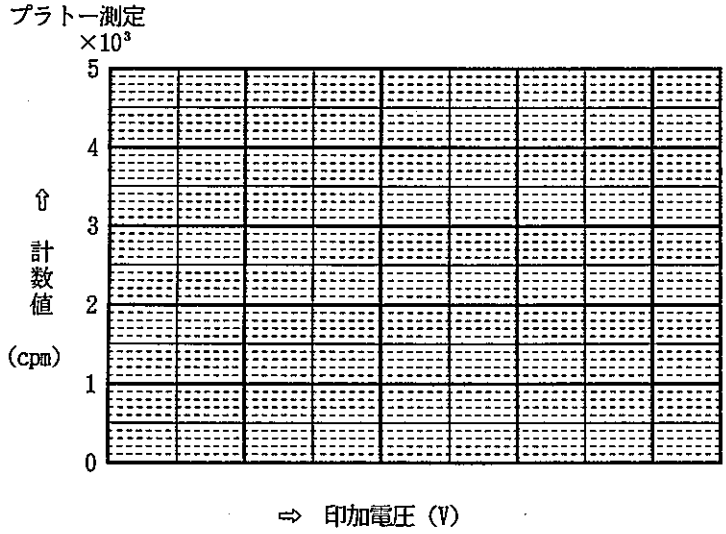
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （GP－１０２７）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧　(V)	(V)	(V)	
	BG値　(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

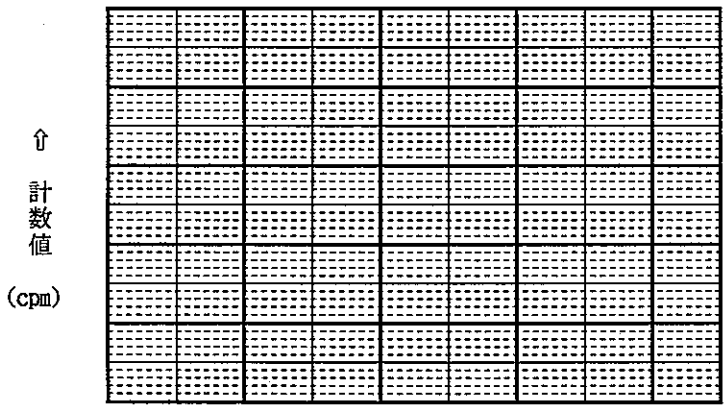
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	βダストモニタ検出器 （GM－５００４）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値: 40(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定
×10^3



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添 (有・無)	

点 検 整 備 記 録 書

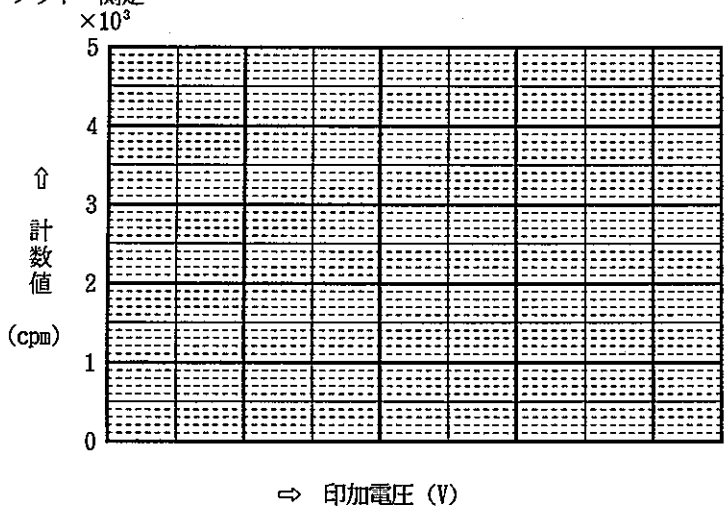
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	GM管検出器 （GP－１０２７）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧　(V)	(V)	(V)	
	ＢＧ値　(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:　150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

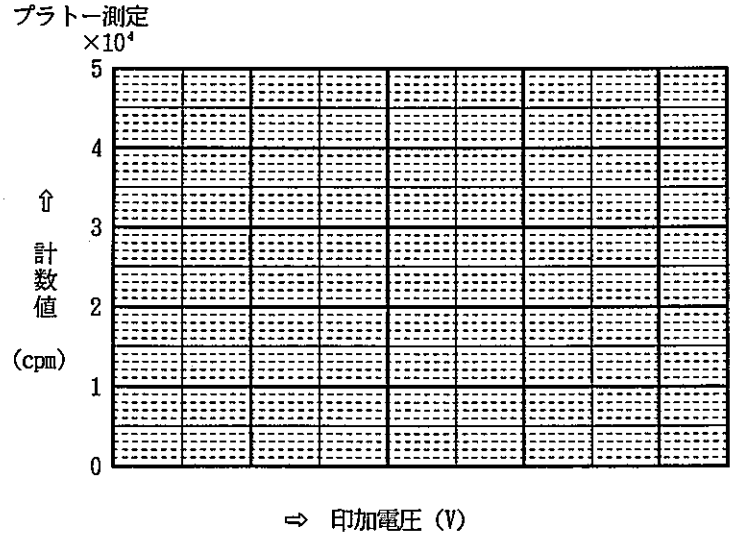
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	NaI(Tl)シンチレーション検出器 （2"φ×2"ℓ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのっゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得	（倍）	（倍）	
2.2 直線性の測定	－0.1（V）	（V）	（V）	
	－0.2（V）	（V）	（V）	
	－0.4（V）	（V）	（V）	
	－0.8（V）	（V）	（V）	
	－1.0（V）	（V）	（V）	
2.3 最大出力の確認		（V）	（V）	
3．プラトー測定	設定電圧	（V）	（V）	*1）但し、総合試験時 設定電圧（　　V）
	BG値	（cpm）	（cpm）	
	プラトー領域:300(V)以上	（V）	（V）	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	（%/100V）	（%/100V）	
4．エネルギー分解能測定	^{137}Cs 線源にて12(%) 以下	（%）	（%）	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

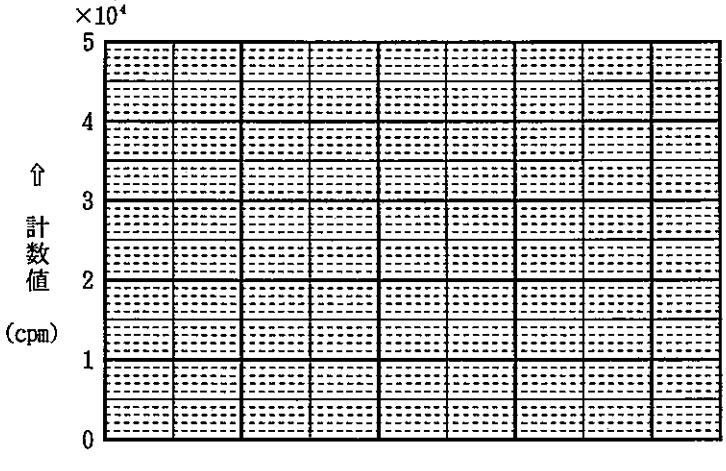
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	NaI(Tl)シンチレーション検出器 （2″φ×2″ℓ）(ND-1201B)	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのっゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利得	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－0.1 (V)	(V)	(V)	
	－0.2 (V)	(V)	(V)	
	－0.4 (V)	(V)	(V)	
	－0.8 (V)	(V)	(V)	
	－1.0 (V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	*1) 但し、総合試験時 設定電圧(　　V)
	BG値	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:300(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．エネルギー分解能測定	^{137}Cs 線源にて10(%) 以下	(%)	(%)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

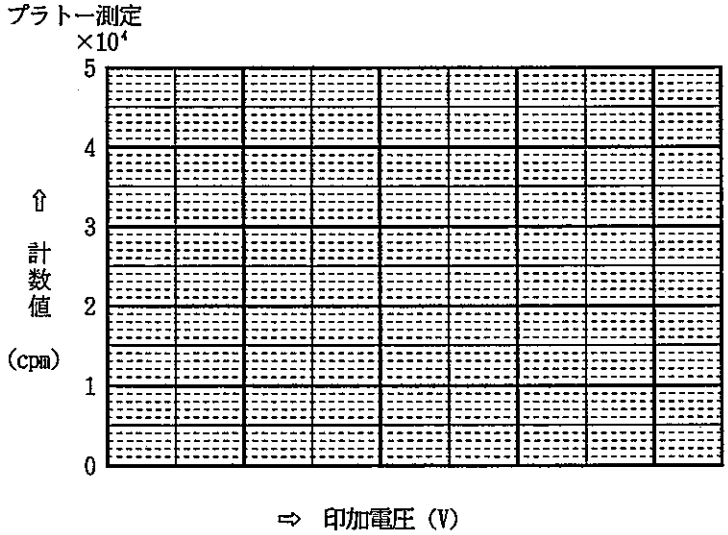
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	NaI(Tl)シンチレーション検出器 （ 2 " φ × 2 " ℓ ） （ND－４７１CV）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利 得	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－ 0.1 (V)	(V)	(V)	
	－ 0.2 (V)	(V)	(V)	
	－ 0.4 (V)	(V)	(V)	
	－ 0.8 (V)	(V)	(V)	
	－ 1.0 (V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧 (V)	(V)	(V)	*1) 但し、総合試験時 設定電圧（ V） GAIN ： 20(%) DISCR ： 1.0(%)
	ＢＧ値 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:300(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．エネルギー分解能測定	^{137}Cs 線源にて12(%) 以下	(%)	(%)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs:3.7×10⁴(Bq)
点 検 場 所		別添（有・無）	無

点 検 整 備 記 録 書

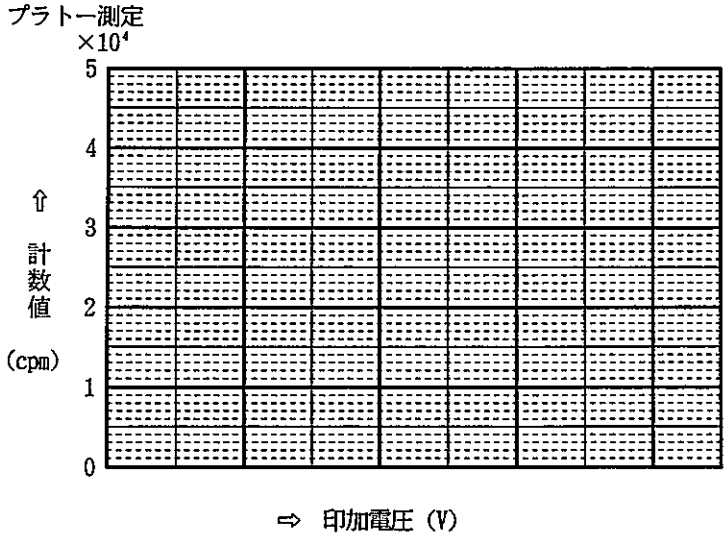
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	3 " φ球形 NaI(Tl) シンチレーション検出器 (ND－371C)	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ねじのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．増幅器部 2.1 増幅度の測定	利 得	(倍)	(倍)	
2.2 直線性の測定	－ 0.1 (V)	(V)	(V)	
	－ 0.2 (V)	(V)	(V)	
	－ 0.4 (V)	(V)	(V)	
	－ 0.8 (V)	(V)	(V)	
	－ 1.0 (V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定	設定電圧 (V)	(V)	(V)	*1) 但し、総合試験時 設定電圧(V) GAIN : 20(%) DISCR : 1.0(%)
	BG値 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:300(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
4．エネルギー分解能測定	^{137}Cs 線源にて12(%) 以下	(%)	(%)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs:3.7×10⁴(Bq)
点 検 場 所		別添 (有・無)	無

点 検 整 備 記 録 書

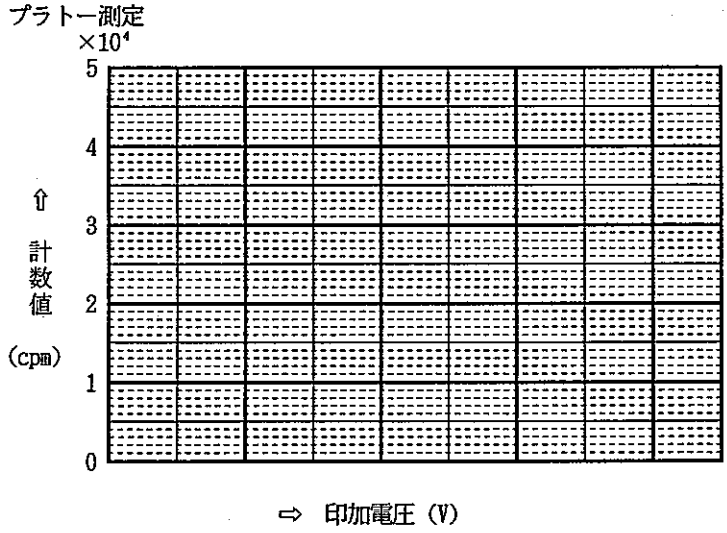
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	NaI(Tl)シンチレーション検出器 S－1227（ヨウ素モニタ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのっゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	*1) 但し、総合試験時 設定電圧(　　V)
	ＢＧ値	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:300(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
3．エネルギー分解能測定	^{137}Cs 線源にて12(%) 以下	(%)	(%)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

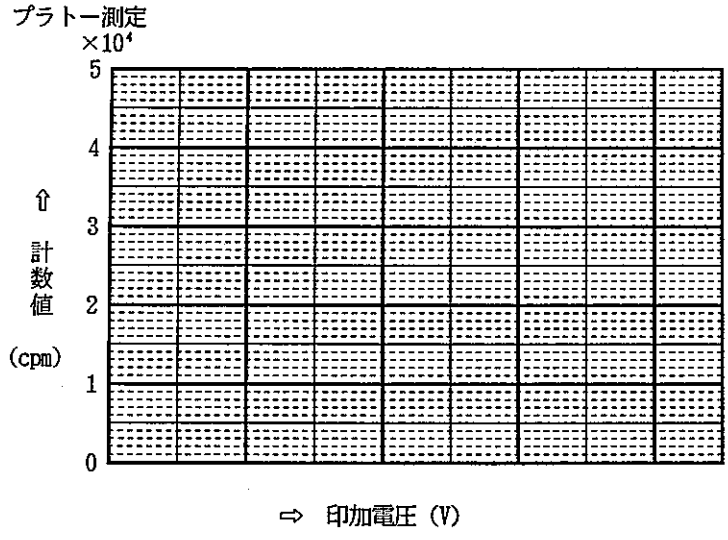
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	NaI(Tl)シンチレーション検出器 S－１２２７（空間γ線量率モニタ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのっゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	設定電圧	(V)	(V)	*1) 但し、総合試験時 設定電圧(　　V)
	ＢＧ値	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域:300(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜:10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
3．エネルギー分解能測定	^{137}Cs 線源にて12(%) 以下	(%)	(%)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

検査名（単体検査）

機 器 名	NaI(Tl)シンチレーション検出器 （SP－10AR292）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのっゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．エネルギー分解能測定	^{241}Am線源（60KeV）	(%)	(%)	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

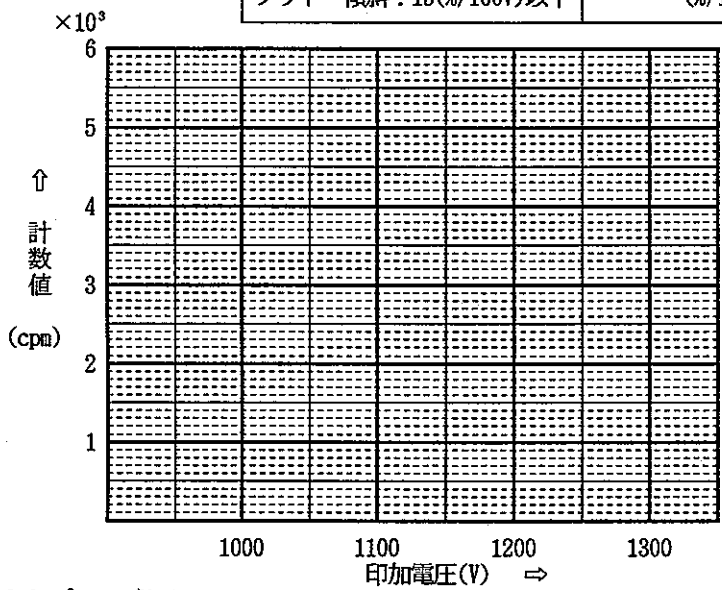
機器名	βガス検出器 （BD－23）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	

2．プラトー測定

2.1 プローブNo.1

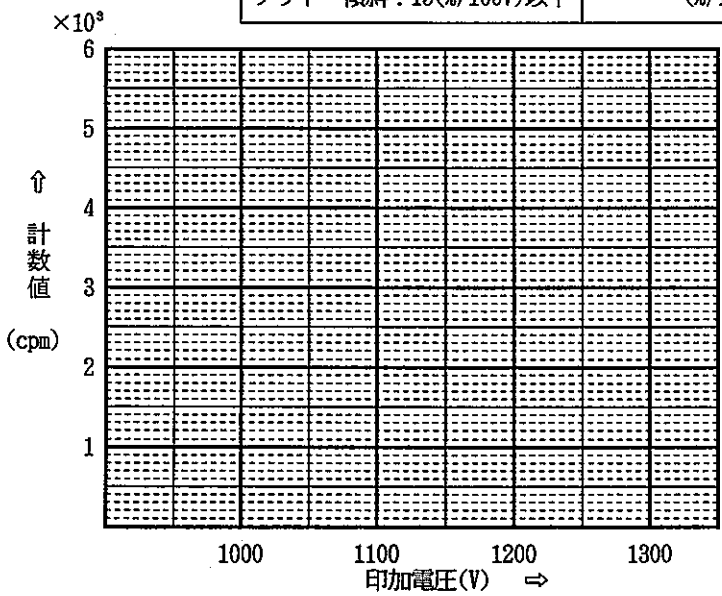
プラトー領域：150(V)以上	(V)
プラトー傾斜：15(%/100V)以下	(%/100V)



印加電圧(V)	計数値(cpm)

2.2 プローブNo.2

プラトー領域：150(V)以上	(V)
プラトー傾斜：15(%/100V)以下	(%/100V)



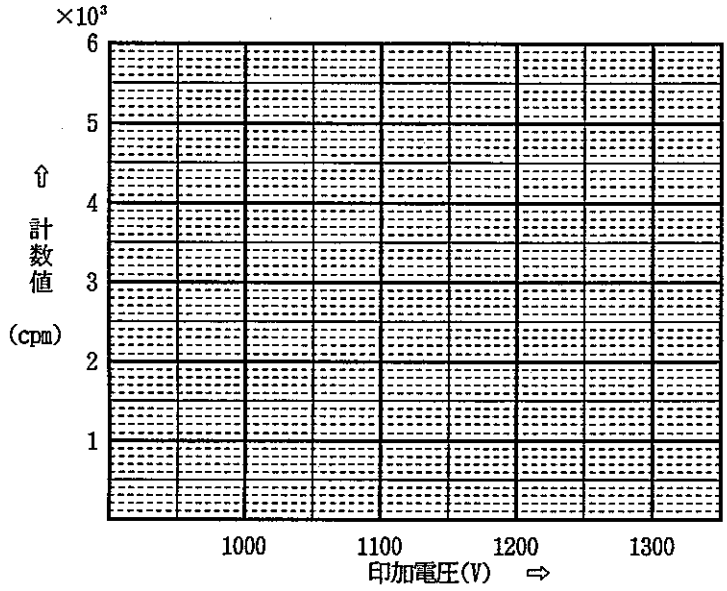
印加電圧(V)	計数値(cpm)

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	βガス検出器 （BD－23）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考

2.2 プローブNo.1，2



印加電圧(V)	計数値(cpm)

設定電圧	(V)
設定電圧時のB．G値	(cpm)
プラトー領域：150(V)以上	(V)
プラトー傾斜：15(%/100V)以下	(%/100V)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs: 3.7×10^{4}(Bq)
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ＺｎＳ＋プラスチックシンチレーション検出器（ＺＰＤ－１０１Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

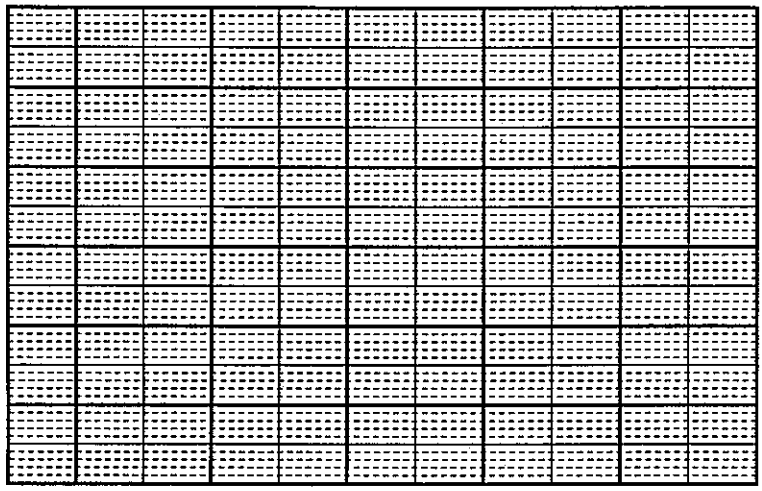
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅器部 2.1 増幅度測定	利得：約 10(倍)	(倍)	(倍)	
2.2 直線性測定	－0.1(V)	(V)	(V)	
	－0.2(V)	(V)	(V)	
	－0.3(V)	(V)	(V)	
	－0.4(V)	(V)	(V)	
	－0.5(V)	(V)	(V)	
2.3 最大出力の確認		(V)	(V)	
3．プラトー測定 3.1 α系	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値：1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域：100(V)以上			
	プラトー傾斜：10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
3.2 β系	設定電圧	(V)	(V)	
	ＢＧ値：50(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
	プラトー領域：100(V)以上			
	プラトー傾斜：10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

点検整備記録書

機器名	Ｚｎｓ＋プラスチックシンチレーション検出器　（ＺＰＤ－１０１Ｂ）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

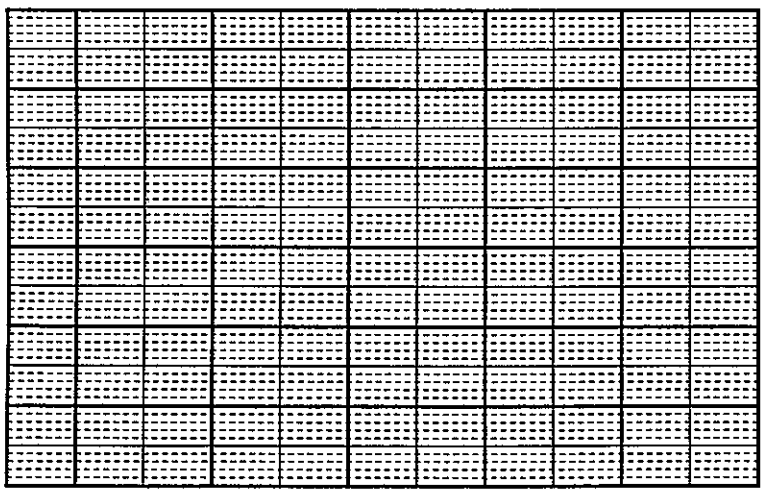
項目	基準	設定値	点検値	備考

3.1 α系プラトー測定
×10³



印加電圧(V)	計数値(cpm)

3.2 β系プラトー測定
×10³



印加電圧(V)	計数値(cpm)

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

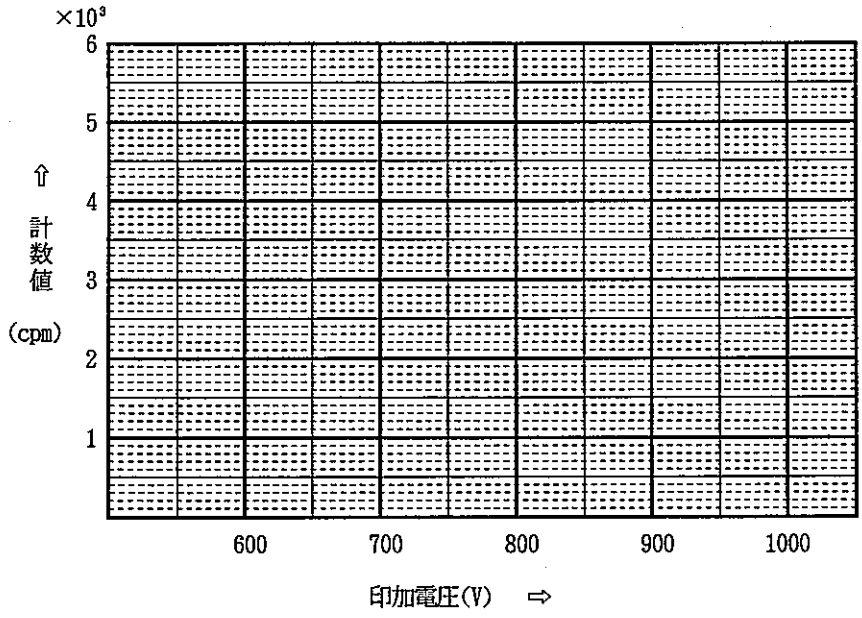
管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置検出器（ZD－LBC－453）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．プラトー測定 2.1 Ｚｎｓ（Ａｇ）シンチレーション検出器	プラトー領域 150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜 10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
2.2 ガスフロー検出器	プラトー領域 150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜 10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

2.1 Ｚｎｓ（Ａｇ）シンチレーション検出器プラトー測定



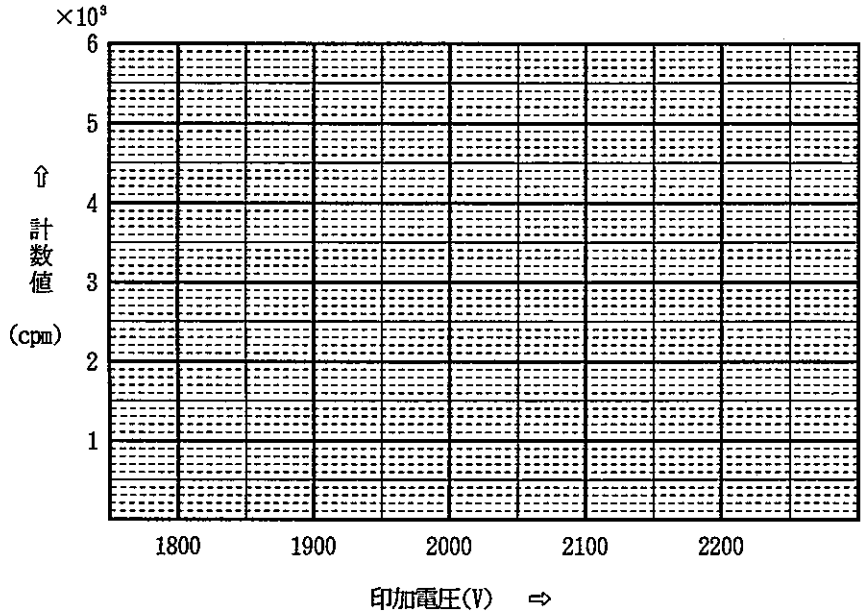
印加電圧(V)	計数値(cpm)
550	
600	
650	
700	
750	
800	
850	
900	
950	
1000	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	α・β低バックグラウンド多サンプル自動測定装置器検出器（ＺＤ－ＬＢＣ－４５３）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考

2.2 ガスフロー検出器プラトー測定



印加電圧(V)	計数値(cpm)
１８００	
１８５０	
１９００	
１９５０	
２０００	
２０５０	
２１００	
２１５０	

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	自動試料交換測定装置 （SC－511）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

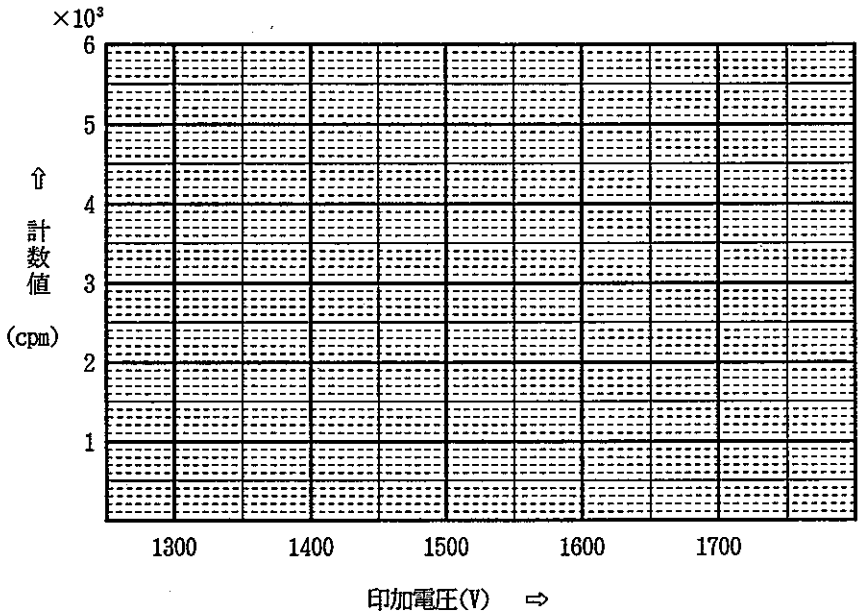
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	清掃され、部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源	24(V)	(V)	(V)	
	5(V)	(V)	(V)	
3．機能検査	試料交換動作　(MANUAL) (AUTO)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	サイクル動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
	オートブレイク	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．総合消費電力測定	動作状態時 (1.5A 以下／AC 100V)	良・否（　　）	良・否（　　）	
	静止状態時 (1.5A 以下／AC 100V)	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．プラトー特性 5.1 α領域	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜 10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5.2 α＋β領域	プラトー領域：100(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜 10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

点検整備記録書

機器名	自動試料交換装置 （SC－511）	機器No.	TAG. No. SER. No.

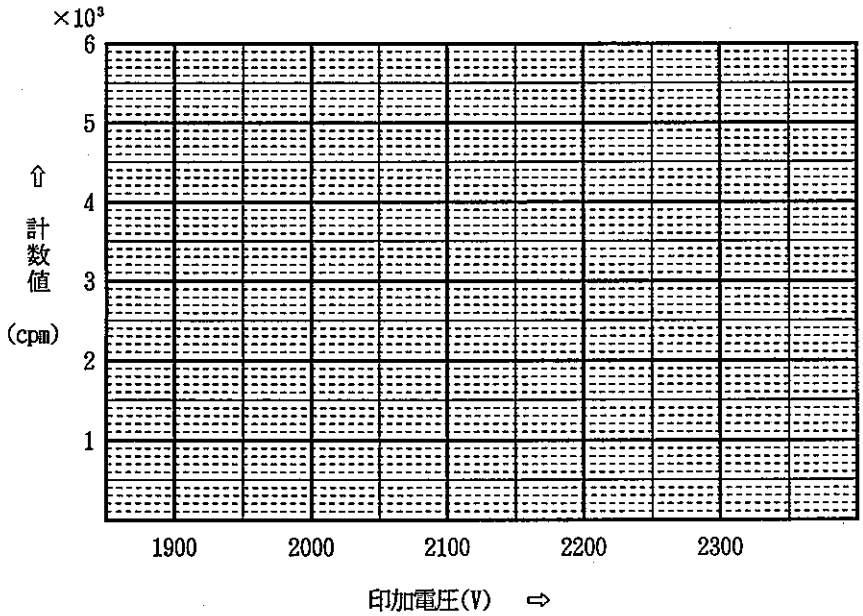
項目	基準	設定値	点検値	備考

5.1 α領域プラトー測定



印加電圧(V)	計数値(cpm)
1300	
1350	
1400	
1450	
1500	
1550	
1600	
1650	
1700	
1750	

5.2 α＋β領域プラトー測定



印加電圧(V)	計数値(cpm)
1900	
1950	
2000	
2050	
2100	
2150	
2200	
2250	
2300	
2350	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

PNC PN8523 98-861 (4)

2

社内資料

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第IV分冊：サーベイメータ類

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

T
PNC TN8520 96-001 (4)

社内資料

本資料は　年　月　日付けで登録区分、
変更する。 '13.6.20
[技術情報室]

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅳ分冊：サーベイメータ類

動力炉・核燃料開発事業団
東　海　事　業　所

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184　茨城県那珂郡東海村大字村松4番地49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部　技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki, 319-1184
Japan

ⓒ 核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2001

放射線管理用機器点検整備技術要領書

第Ⅳ分冊：サーベイメータ類

1．点検整備技術要領書一覧

2．点検整備構成表

3．点検項目及び点検頻度

4．点検整備技術要領書

5．点検整備記録書

1．　点検整備技術要領書一覧

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	出入管理モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α線ハンドフットクローズモニタ	MBR－22C	アロカ	全施設共通	
2	α線ハンドフットクローズモニタ	MBR－42	アロカ	全施設共通	
3	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ	MBR-74-2111	アロカ	全施設共通	
4	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ	MBR－14U	アロカ	全施設共通	
5	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ	MBR－28	アロカ	全施設共通	
6	β（γ）線フットモニタ	MBR－21C	アロカ	全施設共通	
7	α線フットモニタ	MBR－41	アロカ	全施設共通	
8	α線フットモニタ	MBR－44	アロカ	全施設共通	
9	γ線ハンドフットクローズモニタ	MH－105	JREC	再処理施設	
10					

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ZnS（Ag）α線サーベイメータ	TCS-215共通	アロカ	全施設共通	
	ZnS（Ag）α線サーベイメータ（γ感度）	TCS-215共通	アロカ	全施設共通	
2	ZnS（Ag）α線サーベイメータ	PAC-1SAGA	エバーライン	全施設共通	
3	エアプロポーショナルα線サーベイメータ	TPS－203	アロカ	全施設共通	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	出入管理用モニタ		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ゲートモニタ	MGM-221B	JREC	CB、TVF施設	
2	ゲートモニタ	MGM-221B	JREC	Z 施設	
3	ゲートモニタ	MGM-111A	JREC	CPF施設	
4	ゲートモニタ	MGM-111A	JREC	J 施設	
5	ゲートモニタ頭部機構	———	JREC	Z 施設	
6	ゲートモニタ頭部機構	———	JREC	CB、TVF施設	
7	ゲートモニタ扉部機構	———	JREC	CB、TVF、Z 施設	
8					
9					
10					

点検種別		点検機種			
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	GM管式サーベイメータ	TGS－111	アロカ	全施設共通	
2	GM管式サーベイメータ	TGS－113	アロカ	全施設共通	
3	GM管式サーベイメータ	TGS－123B TGS－123C	アロカ	全施設共通	
4	GM管式サーベイメータ	TGS－133	アロカ	全施設共通	
5	GM管式サーベイメータ	TGS－136	アロカ	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	電離箱式サーベイメータ	808, 808A, 808DDE, 808BC/65, 808BC/20	ネスコ	全施設共通	
2	電離箱式サーベイメータ	808DMW	ネスコ	全施設共通	
3	電離箱式サーベイメータ	AE-133, AE-133L AE-133Λ', AE-133V／Λ,	応用技研	全施設共通	
4	電離箱式サーベイメータ	AE-133H AE-133H／Λ,	応用技研	全施設共通	
5	電離箱式サーベイメータ	ICS－151	アロカ	全施設共通	
6	電離箱式サーベイメータ	ICS－151U	アロカ	全施設共通	
7	電離箱式サーベイメータ	ICS－311	アロカ	全施設共通	
8	低エネルギーγ線サーベイメータ	ICS-R74-2158	アロカ	全施設共通	
9	低エネルギーγ線サーベイメータ	ICS-R74-2591	アロカ	全施設共通	
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	遠隔操作型γ線サーベイメータ	6112B	AUTOMESS	全施設共通	
2	遠隔操作型γ線サーベイメータ	6112D	AUTOMESS	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	中性子線用サーベイメータ	2202D	ｽﾀﾂﾞ・ﾋｯｸ	全施設共通	
2	中性子線用サーベイメータ	NSN10001	富士電機	全施設共通	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-121C(Sv)	アロカ	全施設共通	
2	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-121C(Gy)	アロカ	全施設共通	
3	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-121CU	アロカ	全施設共通	
4	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-131(Sv)	アロカ	全施設共通	
5	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-131(Gy)	アロカ	全施設共通	
6	ガンマ線用サーベイメータ	TSC-161	アロカ	全施設共通	
7	ガンマ線用サーベイメータ	TSC-166	アロカ	全施設共通	
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	ポータブルカウンタ	PRS-1	エバーライン	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	サーベイメータ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	α線スペクトル型サーベイメータ	TSM-R74タイプ	アロカ	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別		点検機種			
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	個人被爆線量計		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	警報付ポケット線量計	NRQ2	富士電機	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	個人被爆線量計		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	警報付ポケット線量計	NRQ4	富士電機	全施設共通	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	移動式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	可搬型α線ダストモニタ	モジュール型	応用光研	Pu－3	
2	可搬型α線ダストモニタ	モジュール型	アロカ	CPF	
3	可搬型α線ダストモニタ	MDR－303	アロカ	全施設共通	
4	可搬型α線ダストモニタ	MDR－504	アロカ	全施設共通	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	移動式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	可搬型β線ダストモニタ	RM352	東芝	再処理施設	
2	可搬型β線ダストモニタ	S－1305	応用光研	全施設共通	
3	可搬型β線ダストモニタ	モジュール型	アロカ	CPF	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	移動式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	γ線エリアモニタ	808M-DDE	ネスコ	全施設共通	
2	γ線エリアモニタ	808MAⅡ	ネスコ	全施設共通	
3	γ線エリアモニタ	808MD	ネスコ	全施設共通	
4	γ線エリアモニタ	MAR-R21-802	アロカ	全施設共通	
5	γ線エリアモニタ	MAR-303u	アロカ	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	移動式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	可搬型ヨウ素モニタ	925シンチ	SEIKO EG&G	再処理	
2	可搬型ヨウ素モニタ	JDC-R74-2779	アロカ	再処理	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	点検機種	移動式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	可搬型ダストモニタ	S－1757	応用光研	全施設共通	
2	可搬型ダストモニタ	MDR－304	アロカ	全施設共通	
3	可搬型ダストモニタ	MDR-R74-3015	アロカ	全施設共通	
4	可搬型α・β線ダストモニタ	MDR-R74-3119 MDR-R74-4633	アロカ	全施設共通	
5	ダストサンプラ	DSM-304B	アロカ	全施設共通	
6	記録計	4266,14365	横河	全施設共通	
7					
8					
9					
10					

点検種別	総合検査	点検機種	移動式モニタ類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	線量率表示器	DIM－201	日環研	全施設共通	
2	半導体ポータブルエリアモニタ	MAR－751	アロカ	全施設共通	
3	半導体ポータブルエリアモニタ	MAR－761B	アロカ	全施設共通	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	点検機種	低圧電源		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	低圧電源	701－4	応用光研	全施設共通	
2	低圧電源	ES－160	JREC	CPF，J棟	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別	回路試験	点検機種	高圧電源		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	高圧電源	ES－150	JREC	CPF，J棟	
2	高圧電源	ES－150B	JREC	CPF	
3	高圧電源	D－112A	NAIG	CB，TVF施設	
4	高圧電源	714－1B	応用光研	全施設共通	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	点検機種	モジュール類		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	リニアアンプ	７０４－１Ｃ	応用光研	全施設共通	
2	スケーラ&タイマ	７１１－５Ｂ	応用光研	全施設共通	
3	コンシデンス	ＥＳ－１３１	ＪＲＥＣ	ＣＰＦ，Ｊ棟	
4	コンシデンス	ＥＳ－１３１	ＪＲＥＣ	ＣＢ，ＴＶＦ施設	
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検種別		点検機種			
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

点検整備技術要領書一覧

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施.設名	整理番号
1	Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ZD-1005,-451FU	アロカ	全施設共通	
2	Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ZD-1005B	アロカ	全施設共通	
3	Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	ZD-1005BW	アロカ	全施設共通	
4	Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	S-1082	応用光研	全施設共通	
5	Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器	S-1766	応用光研	全施設共通	
6	GM管検出器	GP-103BU	アロカ	全施設共通	
7	GM管検出器	S-1080	応用光研	全施設共通	
8	GM管検出器	S-1202	応用光研	全施設共通	
9	GM管検出器	S-1767	応用光研	全施設共通	
10	外部GM管検出器	S-1749	応用光研	全施設共通	

点検種別	回路試験	点検機種	検出器		
No	点検機器	型式	メーカー名	施設名	整理番号
1	SSD検出器	S-1081	応用光研	全施設共通	
2	ゲートモニタ検出器	ES-121	JREC	CPF，J棟	
3	ゲートモニタ検出器	ES-121A	JREC	CB,TVF,Z施設	
4	ゲートモニタ頭部検出器	ES-691	JREC	CB，TVF施設	
5	ヨウ素モニタ検出器	2φ×5㎜²	応用光研	全施設共通	
6					
7					
8					
9					
10					

2. 点検整備構成表

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	ハンドフットクローズモニタ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α線ハンドフットクローズモニタ	MBR-22C	アロカ			2回／年
	α線ハンドフットクローズモニタ	MBR-42	アロカ			2回／年
	β（γ）ハンドフットクローズモニタ	MBR-R74-2111	アロカ			2回／年
	β（γ）ハンドフットクローズモニタ	MBR-14U	アロカ			2回／年
	β（γ）ハンドフットクローズモニタ	MBR-28	アロカ			2回／年
	α線フットモニタ	MBR-21C	アロカ			2回／年
	α線フットモニタ	MBR-41	アロカ			2回／年
	β（γ）ハンドフットクローズモニタ	MBR-44	アロカ			2回／年
	γ線ハンドフットクローズモニタ	MH-105	JREC			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	サーベイメータ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α線シンチサーベイ	TGS-215 共通	アロカ			2回／年
	α線シンチサーベイ（γ感度）	TGS-215 共通	アロカ			2回／年
	α線シンチサーベイ	PAC-1SAGA	アロカ			2回／年
	α線シンチサーベイ	TPS-203	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	ゲートモニタ		施設名	再処理工場（CB，TVF施設）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ゲートモニタ	MGM-221B	JREC			2回／年
回路試験	高圧電源	D－112A	東芝			2回／年
	コインシデンス	ES－131	JREC			2回／年
	検出器	ES-121A	JREC			2回／年
	頭部検出器	ES-691	JREC			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	ゲートモニタ		施 設 名	再処理工場（Z施設）		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ゲートモニタ	MGM-221B	JREC			2回／年
回路試験	低圧電源	ES-160	JREC			2回／年
	高圧電源	ES-150A	JREC			2回／年
	コインシデンス	ES-131	JREC			2回／年
	検出器	ES-121	JREC			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	ゲートモニタ		施設名	再処理工場（ＣＰＦ施設）		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ゲートモニタ	MGM-111A	ＪＲＥＣ			２回／年
回路試験	低圧電源	ＥＳ－１６０	ＪＲＥＣ			２回／年
	高圧電源	ＥＳ－１５０	ＪＲＥＣ			２回／年
	高圧電源	ＥＳ－１５０Ｂ	ＪＲＥＣ			２回／年
	コインシデンス	ＥＳ－１３１	ＪＲＥＣ			２回／年
	検出器	ＥＳ－１２１	ＪＲＥＣ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	ゲートモニタ		施 設 名	再処理工場（J棟）		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ゲートモニタ	MGM-111A	JREC			2回／年
回路試験	低圧電源	ES-160	JREC			2回／年
	高圧電源	ES-150	JREC			2回／年
	コインシデンス	ES-131	JREC			2回／年
	検出器	ES-121	JREC			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	サーベイメータ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	GM管式サーベイメータ	TGS-111	アロカ			2回／年
	GM管式サーベイメータ	TGS-113	アロカ			2回／年
	GM管式サーベイメータ	TGS-123B TGS-123C	アロカ			2回／年
	GM管式サーベイメータ	TGS-133	アロカ			2回／年
	GM管式サーベイメータ	TGS-136	アロカ			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	サーベイメータ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	電離箱式サーベイメータ	808，808A 808DDE 808BG/65 808BG/20	ネスコ			2回／年
	電離箱式サーベイメータ	808DMW	ネスコ			2回／年
	電離箱式サーベイメータ	AE133，AE133L AE-133A， AE-133V/A，	応用技研			2回／年
	電離箱式サーベイメータ	AE-133H AE-133H/A，	応用技研			2回／年
	電離箱式サーベイメータ	ICS-151	アロカ			2回／年
	電離箱式サーベイメータ	ICS-151U	アロカ			2回／年
	電離箱式サーベイメータ	ICS-311	アロカ			2回／年
	低ｴﾈﾙｷﾞｰ γ線サーベイメータ	ICS-R74-2158	アロカ			2回／年
	低ｴﾈﾙｷﾞｰ γ線サーベイメータ	ICS-R74-2591	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	サーベイメータ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	遠隔操作型γ線サーベイメータ	6112B	AUTOMESS			2回／年
	遠隔操作型γ線サーベイメータ	6112D	AUTOMESS			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	サーベイメータ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	中性子線用サーベイメータ	２２０２Ｄ	ｽﾀﾞｽﾞ･ﾋﾞｯｸ			２回／年
	中性子線用サーベイメータ	ＮＳＮ１０００１	富士電機			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	サーベイメータ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-121C(Sv)	アロカ			2回／年
	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-121C(Gy)	アロカ			2回／年
	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-121CU	アロカ			2回／年
	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-131 (Sv)	アロカ			2回／年
	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-131 (Gy)	アロカ			2回／年
	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-161	アロカ			2回／年
	ガンマ線用サーベイメータ	TCS-166	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	サーベイメータ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ポータブルカウンタ	ＰＲＳ－１	ｴﾊﾞｰﾗｲﾝ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	サーベイメータ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	α線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 型ｻｰﾍﾞｲﾒｰﾀ	TSM-R74ﾀｲﾌﾟ	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	個人被爆線量計		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	警報付ポケット線量計	NRQ2	富士電機			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	個人被爆線量計		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	警報付ポケット線量計	NRQ4	富士電機			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型α線ダストモニタ		施 設 名	Ｐｕ－3施設		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型α線ダストモニタ	モジュール型	応用光研			2 回／年
回路試験	低圧電源	７０１－６	応用光研			2 回／年
	高圧電源	７１４－１Ｃ	応用光研			2 回／年
	ＬＡ＆ＳＣＡ	７０４－１Ｃ	応用光研			2 回／年
	ログレートメータ	Ｓ－１９０２	応用光研			2 回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	Ｓ－１７６６	応用光研			2 回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	可搬型α線ダストモニタ		施　設　名	CPF施設		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型α線ダストモニタ	モジュール型	アロカ			2回／年
回路試験	低圧電源	844	ORTEC			2回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			2回／年
	リニアレートメータ	AM-43M10	アロカ			2回／年
	警報モジュール	AM91M01R	アロカ			2回／年
	プリアンプ	PAM-1024	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-1005B	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型α線ダストモニタ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型α線ダストモニタ	MDR-303	アロカ			2回／年
回路試験	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-1005 ZD-451FU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	可搬型α線ダストモニタ		施　設　名	全施設共通		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型α線ダストモニタ	ＭＤＲ－５０４	アロカ			２回／年
回路試験	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-1005BW	アロカ			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型β線ダストモニタ		施 設 名	再処理施設		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型β線ダストモニタ	RM352	東 芝			2回／年
回路試験	GM管検出器	――	東 芝			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型β線ダストモニタ		施 設 名	再処理施設		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型β線ダストモニタ	S－1305	応用光研			2回／年
回路試験	外部GM管検出器	S－1749	応用光研			2回／年

点検整備構成表

改訂　平成8年3月

装置名	可搬型β線ダストモニタ		施設名	CPF施設		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型β線ダストモニタ	モジュール型	アロカ			2回／年
回路試験	低圧電源	844	ORTEC			2回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			2回／年
	ログレートメータ	AM-43M06	アロカ			2回／年
	警報モジュール	AM91M01R	アロカ			2回／年
	プリアンプ	PAM-1025	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-103U	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	ダストサンプラ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	ダストサンプラ	DSM-304B	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	記録計		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	記録計	4266	横河			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	γ線エリアモニタ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	γ線エリアモニタ	808M-DDE 808M	ネスコ			2回／年
	γ線エリアモニタ	808MD	ネスコ			2回／年
	γ線エリアモニタ	MAR-R21-802	アロカ			2回／年
	γ線エリアモニタ	MAR-303u	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	γ線エリアモニタ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	γ線エリアモニタ	808MAⅡ	ネスコ			2回／年
回路試験	レートメータ	――	ネスコ			2回／年
	記録計	――	ネスコ			2回／年
	電離箱式検出器	1000cc	ネスコ			2回／年
	電離箱式検出器	200cc	ネスコ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型ヨウ素モニタ		施 設 名	再処理施設		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型ヨウ素モニタ	９２５シンチ	SEIKO EG			２回／年
回路試験	アンプ&バイアスサプライ	９２５シンチ	ORTEC			２回／年
	カウンタ／タイマ	ＵＴ－０２	SEIKO EG			２回／年
	ヨウ素モニタ検出器	2φ×2mm^t 2φ×5mm^t	ORTEC			２回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装　置　名	可搬型ヨウ素モニタ		施　設　名	再処理施設		
検査区分	機　　器　　名	型　　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型ヨウ素モニタ	JDC-R74-2779	アロカ			2回／年
回路試験	計数装置	TDC-511	アロカ			2回／年
	自動試料交換装置	SC-R74-2779	アロカ			2回／年
	増幅波高選別ユニット	EDP-111	アロカ			2回／年
	NaI(Tl)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ND-R74-2779	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	可搬型ダストモニタ		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型ダストモニタ	S－1757	応用光研			2回／年
回路試験	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	S－1766	応用光研			2回／年
	GM管検出器	S－1767	応用光研			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型ダストモニタ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型ダストモニタ	MDR-304	アロカ			2回／年
回路試験	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-1005B	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-103BU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	可搬型ダストモニタ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機 器 名	型 名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型ダストモニタ	MDR-R74-3015	アロカ			2回／年
回路試験	低圧電源	AM-8301BM	アロカ			2回／年
	高圧電源	AM-8251	アロカ			2回／年
	増幅波高分析器	AM-1202M	アロカ			2回／年
	リニアレートメータ	AM-43M10C	アロカ			2回／年
	警報モジュール	AM91M01	アロカ			2回／年
	プリアンプ	PAM-1025	アロカ			2回／年
	ZnS(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器	ZD-1005BW	アロカ			2回／年
	GM管検出器	GP-103BU	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	可搬型ダストモニタ		施設名	CPF施設		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	可搬型α・β線ダストモニタ	MDR-R74-3119 MDR-R74-4633	アロカ			2回／年
回路試験	ダストモニタ指示計	MDR-504	アロカ			2回／年
	α・β分離プリアンプ	PAM-R17-2483	アロカ			2回／年
	α・β同時検出器	ZPD-101V	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装 置 名	半導体ポータブルエリアモニタ		施 設 名	全施設共通		
検査区分	機　器　名	型　名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	半導体ポータブルエリアモニタ	MAR-751	アロカ			2回／年
	半導体ポータブルエリアモニタ	MAR-761B	アロカ			2回／年

点 検 整 備 構 成 表

改訂　平成8年3月

装置名	線量率表示器		施設名	全施設共通		
検査区分	機器名	型名	メーカ名	要領書番号	記録書番号	実施頻度
総合検査	線量率表示器	DIM-201	日環研			2回／年
回路試験	外部半導体検出器	SBD-R17-3039	日環研			2回／年

3．　点検項目及び点検頻度

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通				1／4
点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．α線ハンドフットクローズモニタ（MBR-22C）	①目視点検・清掃			○		○	
	②ＡＣ電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源モジュール			○		○	
	④高圧電源モジュール			○		○	
	⑤検出部			○		○	
	⑥測定部調整			○		○	
	⑦検出器			○		○	
	⑧動作プロウラムの確認			○		○	
	⑨警報設定値			○		○	
2．α線ハンドフットクローズモニタ（MBR-42）	①目視点検・清掃			○		○	
	②ＡＣ電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤検出部			○		○	
	⑥設定機能確認			○		○	
	⑦表示機能確認			○		○	
	⑧測定時間			○		○	
	⑨保守機能確認			○		○	
	⑩アラーム機能			○		○	
	⑪検出器			○		○	
	⑫レジスタの動作確認			○		○	
	⑬動作シーケンスの確認			○		○	
	⑭自己診断機能の確認			○		○	
3．β（γ）ハンドフットクローズモニタ（MBR-R74-2111）	①目視点検・清掃			○		○	
	②ＡＣ電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤検出部			○		○	
	⑥設定機能確認			○		○	
	⑦表示機能の確認			○		○	
	⑧測定時間			○		○	
	⑨保守機能確認			○		○	
	⑩アラーム機能			○		○	
	⑪使用ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器判定			○		○	
	⑫検出器			○		○	
	⑬レジスタの動作確認			○		○	
	⑭動作シーケンスの確認			○		○	
	⑮自己診断機能の確認			○		○	
4．β（γ）ハンドフットクローズモニタ（MBR-14U）	①目視点検・清掃			○		○	
	②ＡＣ電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源モジュール			○		○	
	④高圧電源モジュール			○		○	
	⑤測定部			○		○	
	⑥設定機能確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／4

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
	④エネルギー直線性確認			○		○	
	⑤感度試験			○		○	
	⑥使用GM管の判定			○		○	
	⑦検出器			○		○	
	⑧動作プロラムも確認			○		○	
	⑨警報設定値			○		○	
5．β（γ）線フットモニタ (MBR-28)	①目視点検・清掃			○		○	
	②AC電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源モジュール			○		○	
	④高圧電源モジュール			○		○	
	⑤測定部			○		○	
	⑥使用GM管の判定			○		○	
	⑦検出器			○		○	
	⑧動作プログラムの確認			○		○	
	⑨警報設定値			○		○	
6．α線フットモニタ (MBR-21C)	①目視点検・清掃			○		○	
	②AC電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源モジュール			○		○	
	④高圧電源モジュール			○		○	
	⑤検出部			○		○	
	⑥測定部調整			○		○	
	⑦検出器			○		○	
	⑧動作プログラムの確認			○		○	
	⑨警報設定値			○		○	
7．α線フットモニタ (MBR-41)	①目視点検・清掃			○		○	
	②AC電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤検出部			○		○	
	⑥設定機能確認			○		○	
	⑦表示機能の確認			○		○	
	⑧測定時間			○		○	
	⑨保守機能確認			○		○	
	⑩アラーム機能			○		○	
	⑪検出器			○		○	
	⑫レジスタの動作確認			○		○	
	⑬動作シーケンスの確認			○		○	
	⑭自己診断機能確認 低圧電源モジュール			○		○	
8．β（γ）線ハンドフットクローズモニタ (MBR-44)	①目視点検・清掃			○		○	
	②AC電源絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤検出部			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通				3／4
点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
	⑥設定機能確認			○		○	
	⑦表示機能の確認			○		○	
	⑧測定時間			○		○	
	⑨保守機能確認			○		○	
	⑩アラーム機能			○		○	
	⑪使用ＧＭ管の判定			○		○	
	⑫検出器			○		○	
	⑬レジスタの動作確認			○		○	
	⑭動作シーケンスの確認			○		○	
	⑮自己診断機能の確認			○		○	
9．γ線ハンドフットクローズモニタ	①目視点検・清掃						
	②ＡＣ電源絶縁試験						
	③低圧電源出力電圧						
	④高圧電源						
	⑤制御ユニット設定機能確認						
	⑥制御ユニット表示機能確認						
	⑦測定部						
	⑧検出器						
	⑨表示部動作の確認						
	⑩アラーム設定値						
10．αシンチサーベイ（TSC-215）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④アンプゲインの確認			○		○	
	⑤検出部入力感度			○		○	
	⑥アンプアウト波高			○		○	
	⑦実数効率測定			○		○	
	⑧計数効率			○		○	
	⑨指示調整			○		○	
	⑩計数音の確認			○		○	
	⑪計数チェック			○		○	
	⑫ノイズの確認			○		○	
	⑬γ感度の確認			○		○	
11．αシンチサーベイγ感度低減化対策分（TSC-215）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④アンプゲインの確認			○		○	
	⑤検出部入力感度			○		○	
	⑥アンプアウト波高			○		○	
	⑦γ感度低減化の為のﾌｫﾄﾏﾙ 判定			○		○	
	⑧実数効率測定			○		○	
	⑨計数効率			○		○	
	⑩指示調整			○		○	
	⑪計数音の確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	4／4

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
	⑫計数チェック			○		○	
	⑬ノイズの確認			○		○	
12. αシンチサーベイ (PAC-1SAGA)	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④実数効率測定			○		○	
	⑤検出部入力感度			○		○	
	⑥計数効率			○		○	
	⑦指示調整			○		○	
	⑧計数音の確認			○		○	
	⑨計数チェック			○		○	
	⑩ノイズの確認			○		○	
	⑪γ感度の確認			○		○	
13. ｴｱﾌﾛﾎﾟｰｼｮﾅﾙα線サーベイメータ (TPS-203)	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④検出器入力感度			○		○	
	⑤指示調整			○		○	
	⑥実数効率測定			○		○	
	⑦計数音の確認			○		○	
	⑧ノイズの確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．α線フットモニタ（MBR－21c）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④検出部			○		○	
	⑤測定部調整			○		○	
	⑥総合特性試験			○		○	
2．α線フットモニタ（MBR－41）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④検出部			○		○	
	⑤測定機能確認			○		○	
	⑥表示機能確認			○		○	
	⑦測定時間			○		○	
	⑧保守機能確認			○		○	
	⑨アラーム機能			○		○	
	⑩検出器			○		○	
	⑪レジスタの動作確認			○		○	
	⑫動作シーケンスの確認			○		○	
	⑬自己診断機能確認			○		○	
3．α線ハンドフットクローズモニタ（MBR－22c）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源モジュール			○		○	
	③高圧電源モジュール			○		○	
	④検出部			○		○	
	⑤測定部調整			○		○	
	⑥検出器			○		○	
	⑦動作プログラムの確認			○		○	
	⑧警報設定値			○		○	
4．α線ハンドフットクローズモニタ（MBR－42）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源モジュール			○		○	
	③高圧電源モジュール			○		○	
	④検出部			○		○	
	⑤設定機能確認			○		○	
	⑥表示機能確認			○		○	
	⑦測定時間精度			○		○	
	⑧保守機能確認			○		○	
	⑨アラーム機能			○		○	
	⑩検出器			○		○	
	⑪レジスタの動作確認			○		○	
	⑫動作シーケンスの確認			○		○	
	⑬自己診断機能確認			○		○	
5．β（γ）線フットモニタ（MBR－28）	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④測定部			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
	⑤使用GM管の判定			○		○	
	⑥総合特性試験			○		○	
6．β（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－14u）（MBR－44）(MBR-R74-2111)	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源モジュール			○		○	
	③高圧電源モジュール			○		○	
	④検出部			○		○	
	⑤設定機能確認			○		○	
	⑥表示機能確認			○		○	
	⑦測定時間精度			○		○	
	⑧保守機能確認			○		○	
	⑨アラーム機能			○		○	
	⑩使用GM管の判定			○		○	
	⑪検出器			○		○	
	⑫レジスタの動作確認			○		○	
	⑬動作シーケンスの確認			○		○	
	⑭自己診断機能確認			○		○	
7．αシンチサーベイ	①目視点検・清掃			○		○	
	②外観確認			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤実数効率測定			○		○	
	⑥検出部入力感度			○		○	
	⑦計数効率測定			○		○	
	⑧計数音の確認			○		○	
	⑨ノイズの確認			○		○	
8．エアプロαシンチサーベイ	①目視点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④検出部入力感度			○		○	
	⑤指示調整			○		○	
	⑥実数効率測定			○		○	
	⑦計数音の確認			○		○	
	⑧ノイズの確認			○		○	
9．γ線ハンドフットクローズモニタ（MH－105）	①目視点検・清掃			○		○	
	②AC電圧絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤制御ユニット設定機能試験			○		○	
	⑥制御ユニット表示機能試験			○		○	
	⑦測定部			○		○	
	⑧検出器			○		○	
	⑨表示部動作試験			○		○	
	⑩アラーム設定値			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	再処理ＣＢ・Ｚ施設	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．ゲートモニタ（ＭＧＭ－２２１Ｂ）	①点検・清掃			○		○	
	②バックグラウンド指示値の確認			○		○	
	③点検前設定値の確認			○		○	
	④高圧電源設定値の確認			○		○	
	⑤低圧電源の確認			○		○	
	⑥電圧モニタ動作の確認			○		○	
	⑦バックグラウンドの確認			○		○	
	⑧β線検出効率の測定			○		○	
	⑨β線検出感度の測定			○		○	
	⑩計算式の確認			○		○	
	⑪各警報動作の確認			○		○	
	⑫関連動作の確認			○		○	
	⑬指示精度試験			○		○	
	⑭表示器テスト動作の確認			○		○	
	⑮ブザーテスト動作の確認			○		○	
	⑯ﾃﾞｰﾀ 設定ﾊﾟﾈﾙﾓｰﾄﾞ表示ﾗﾝﾌﾟ の確認			○		○	
	⑰P/C ｹﾞｰﾄﾓﾆﾀ伝送内容の確認			○		○	
	⑱非常時全扉開動作			○		○	
2．ゲートモニタ（ＭＧＭ－１１１Ａ）	①点検・清掃			○		○	
	②バックグラウンド指示値の確認			○		○	
	③点検前設定値の確認			○		○	
	④高圧電源設定値の確認			○		○	
	⑤低圧電源の確認			○		○	
	⑥バックグラウンドの確認			○		○	
	⑦β線検出効率の測定			○		○	
	⑧β線検出感度の測定			○		○	
	⑨計算式の確認			○		○	
	⑩各警報動作の確認			○		○	
	⑪関連動作の確認			○		○	
	⑫点検プログラム動作の確認			○		○	
	⑬指示精度試験			○		○	
	⑭警報設定誤差試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．GM管式サーベイメータ（TGS-111）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤ノイズチェック			○		○	
	⑥入力感度試験			○		○	
	⑦時定数測定			○		○	
	⑧指示調整			○		○	
	⑨バックグラウンドの測定			○		○	
	⑩線源校正			○		○	
	⑪計数音チェック			○		○	
	⑫総合判定			○		○	
2．GM管式サーベイメータ（TGS-113）（TGS-123B/C）（TGS-133）（TGS-136）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤ノイズチェック			○		○	
	⑥アンプゲイン調整			○		○	
	⑦ディスクリ設定			○		○	
	⑧波高選別回路の波形観測			○		○	
	⑨指示調整			○		○	
	⑩時定数			○		○	
	⑪計数効率			○		○	
	⑫バックグラウンドの測定			○		○	
	⑬計数音回路の良・否			○		○	
	⑭ＡＣ電源部の良・否			* ○		* ○	*TGS-113のみ
	⑮総合判定			○		○	*TGS-113以外は総合判定は⑭項に繰り上がる

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．電離箱式サーベイメータ (808BG/65,20) (808/808A) (808DDE) (AE-133) (AE-133H) (AE-133Λ$_1$) (AE-133HΛ$_1$) (ICS-151) (ICS-151U) (ICS-311)	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③零点調整			○		○	
	④ドリフトチェック			○		○	
	⑤ノイズチェック			○		○	
	⑥バックグラウンドの確認			○		○	
	⑦線源校正			○		○	
	⑧総合判定			○		○	
2．電離箱式サーベイメータ (808DMW)	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③BL調整			○		○	
	④ノイズチェック			○		○	
	⑤線源校正			○		○	
	⑥メモリー機能の確認			○		○	
	⑦表示部の良・否			○		○	
	⑧レンジ切換動作の良・否			○		○	
	⑨総合判定			○		○	
3．低エネルギーγ線サーベイメータ (ICS-R74-2158) (ICS-R74-2591)	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③検出器印加電圧			○		○	
	④零点調整			○		○	
	⑤ドリフトチェック			○		○	
	⑥ノイズチェック			○		○	
	⑦バックグラウンドの確認			○		○	
	⑧線源校正			○		○	
	⑨総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．中性子線用サーベイメータ（２２０２D）	①点検・清掃			○		○	
	②メータ零点のチェック			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④ディスクリレベルの測定			○		○	
	⑤波高選別回路波形チェック			○		○	
	⑥指示調整			○		○	
	⑦プラトー測定			○		○	
	⑧高圧電源			○		○	
	⑨γ線感度試験			○		○	
	⑩ドリフトチェック			○		○	
	⑪ノイズチェック			○		○	
	⑫線源校正			○		○	
	⑬総合判定			○		○	
2．中性子線用サーベイメータ（NSN10001）	①点検・清掃			○		○	
	②充電機能			○		○	
	③電源機能			○		○	
	④出力機能			○		○	
	⑤高圧電源			○		○	
	⑥ノイズチェック			○		○	
	⑦バックグラウンドの測定			○		○	
	⑧線源校正			○		○	
	⑨γ線感度			○		○	
	⑩総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．遠隔操作型γ線サーベイメータ（6112B）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤入力感度測定			○		○	
	⑥ノイズチェック			○		○	
	⑦線源校正			○		○	
	⑧X線照射による直線性の確認			○		○	
	⑨バックグラウンドの測定			○		○	
	⑩計数音チェック			○		○	
	⑪総合判定			○		○	
2．遠隔操作型γ線サーベイメータ（6112D）	①点検・清掃			○		○	
	②表示器の確認			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤プラトー測定			○		○	
	⑥出力波高の確認			○		○	
	⑦ノイズチェック			○		○	
	⑧線源校正			○		○	
	⑨X線照射による直線性の確認			○		○	
	⑩バックグラウンドの測定			○		○	
	⑪計数音チェック			○		○	
	⑫総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．ガンマ線用サーベイメータ (TCS-121C)(Sv) (TCS-121C)(Gy) (TCS-121CU)	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④検出部			○		○	
	⑤利得調整			○		○	
	⑥ディスクリ調整			○		○	
	⑦指示調整			○		○	
	⑧ノイズチェック			○		○	
	⑨線源校正			○		○	
	⑩バックグラウンドの確認			○		○	
	⑪総合判定			○		○	
2．ガンマ線用サーベイメータ (TCS-131)(Sv) (TCS-131)(Gy)	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④ディスクリ調整			○		○	
	⑤指示精度			○		○	
	⑥ノイズチェック			○		○	
	⑦分解能出力			○		○	
	⑧線源校正			○		○	
	⑨カットエネルギー			○		○	
	⑩バックグラウンドの確認			○		○	
	⑪モニタ音の調整			○		○	
	⑫総合判定			○		○	
3．ガンマ線用サーベイメータ （TCS-161） （TCS-166）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③アンプアウト波高値の確認			○		○	
	④通過率の確認			○		○	
	⑤検出部			○		○	
	⑥高圧電源			○		○	
	⑦指示精度			○		○	
	⑧ノイズチェック			○		○	
	⑨バックグラウンドの確認			○		○	
	⑩線源校正			○		○	
	⑪時定数			○		○	
	⑫総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．γ線エリアモニタ（808M/-DDE）（808MD）	①点検・清掃			○		○	
	②電源部			○		○	
	③測定部			○		○	
	④ドリフトチェック			○		○	
	⑤ノイズチェック			○		○	
	⑥バックグラウンドの確認			○		○	
	⑦線源校正			○		○	
	⑧警報試験			○		○	
	⑨総合判定			○		○	
2．γ線エリアモニタ（808MAⅡ）	①点検・清掃			○		○	
	②電源部			○		○	
	③測定部			○		○	
	④ドリフトチェック			○		○	
	⑤ノイズチェック			○		○	
	⑥バックグラウンドの確認			○		○	
	⑦線源校正			○		○	
	⑧警報試験			○		○	
	⑨記録計			○		○	
	⑩総合判定			○		○	
3．γ線エリアモニタ（MAR-R21-802）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④ドーズレートメータ零点の確認			○		○	
	⑤警報動作の確認			○		○	
	⑥ドリフト試験			○		○	
	⑦バックグラウンドの確認			○		○	
	⑧線源校正			○		○	
	⑨総合判定			○		○	
4．γ線エリアモニタ（MAR-303u）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④入力感度測定			○		○	
	⑤指示精度測定			○		○	
	⑥記録計出力			○		○	
	⑦窒息防止の確認			○		○	
	⑧表示部の確認			○		○	
	⑨プラトー測定			○		○	
	⑩ノイズチェック			○		○	
	⑪バックグラウンドの確認			○		○	
	⑫線源校正			○		○	
	⑬総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	再処理				1／1
点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．ヨウ素モニタ（JDC-R74-2779）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁抵抗			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤計数動作の確認			○		○	
	⑥リニアアンプ増幅度			○		○	
	⑦総合直線性			○		○	
	⑧プラトー測定			○		○	
	⑨校正試験			○		○	
	⑩測定モードの確認			○		○	
	⑪総合動作			○		○	
	⑫総合判定			○		○	
2．ヨウ素モニタ（SEIKO EG&G製）	①点検・清掃			○		○	
	②点検前測定モードの確認			○		○	
	③エネルギー分解能測定			○		○	
	④バックグラウンドの測定			○		○	
	⑤検出器効率の測定			○		○	
	⑥測定モードの確認			○		○	
	⑦総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．ポータブルカウンタ（ＰＲＳ－１）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④測定部			○		○	
	⑤プラトー測定			○		○	
	⑥総合特性			○		○	
	⑦総合判定			○		○	
2．線量率表示器（ＤＩＭ－２０１）	①点検・清掃			○		○	
	②電源部			○		○	
	③機能試験			○		○	
	④本体パルス計数試験			○		○	
	⑤パルス出力の確認			○		○	
	⑥線源校正			○		○	
	⑦ノイズチェック			○		○	
	⑧総合判定			○		○	
3．半導体ポータブルエリアモニタ（ＭＡＲ－７５１）（ＭＡＲ－７６１Ｂ）	①点検・清掃			○		○	
	②電源部			○		○	
	③指示部			○		○	
	④パルス出力の確認			○		○	
	⑤警報動作の確認			○		○	
	⑥表示輝度の確認			○		○	
	⑦線源校正			○		○	
	⑧レコーダ出力の確認			○		○	
	⑨ノイズチェック			○		○	
	⑩総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
5．α線スペクトル型サーベイメータ（TSM-R74型ﾀｲﾌﾟ）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③低圧及びバイアス電源			○		○	
	④アンプゲインの確認			○		○	
	⑤指示精度の確認			○		○	
	⑥分解能測定			○		○	
	⑦エネルギー直線性			○		○	
	⑧計数効率			○		○	
	⑨計数回路音の良・否			○		○	
	⑩表示部の良・否			○		○	
	⑪総合判定			○		○	
6．警報付ポケット線量計（NRQ－2）（NRQ－4）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③表示動作の確認			○		○	
	④警報動作の確認			○		○	
	⑤線源校正			○		○	
	⑥データ交信動作の確認			○		○	
	⑦線量パルス出力			○		○	
	⑧ノイズチェック			○		○	
	⑨総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．可搬型α線ダストモニタ（ＭＤＲ－３０３）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁抵抗			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤前置増幅器部			○		○	
	⑥計数率計部			○		○	
	⑦校正試験（Zns(Ag)ｼﾝﾁ検出器）			○		○	
	⑧警報動作			○		○	
	⑨総合判定			○		○	
2．可搬型α線ダストモニタ（ＭＤＲ－５０４）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④アンプ・ディスクリ部			○		○	
	⑤指示精度			○		○	
	⑥プラトー測定			○		○	
	⑦バックグラウンド測定			○		○	
	⑧計数効率			○		○	
	⑨警報動作の確認			○		○	
	⑩LCD 表示切換ｽｲｯﾁ動作の確認			○		○	
	⑪測定モードの確認			○		○	
	⑫総合判定			○		○	
3．可搬型α線ダストモニタ（応用光研社製）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤リニアアンプ部			○		○	
	⑥ＳＣＡ部			○		○	
	⑦リニア・ログレートメータ			○		○	
	⑧Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ・SSD 検出器			○		○	
	⑨総合検査			○		○	
	⑩測定モードの確認			○		○	
	⑪総合判定			○		○	
4．可搬型α線ダストモニタ（アロカ社製）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤前置増幅器			○		○	
	⑥リニアカウントレートメータ			○		○	
	⑦警報動作			○		○	
	⑧Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器			○		○	
	⑨総合検査			○		○	
	⑩測定モードの確認			○		○	
	⑪総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．可搬型β線ダストモニタ（RM－352）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤指示精度			○		○	
	⑥テスト回路指示確認			○		○	
	⑦ディスクリレベル			○		○	
	⑧校正試験			○		○	
	⑨警報動作試験			○		○	
	⑩総合判定			○		○	
2．可搬型β線ダストモニタ（S－1305）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤入力感度			○		○	
	⑥ディスクリ設定			○		○	
	⑦指示調整			○		○	
	⑧時定数			○		○	
	⑨警報設定ダイヤルの確認			○		○	
	⑩警報出力の確認			○		○	
	⑪計数効率			○		○	
	⑫バックグラウンドの測定			○		○	
	⑬総合判定			○		○	
3．可搬型β線ダストモニタ（アロカ社製）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤前置増幅器			○		○	
	⑥ログレートメータ			○		○	
	⑦警報動作			○		○	
	⑧GM管検出器			○		○	
	⑨総合検査			○		○	
	⑩測定モードの確認			○		○	
	⑪総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．可搬型ダストモニタ（S－1757）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤リニアアンプ部			○		○	
	⑥ディスクリ部			○		○	
	⑦計数率計部			○		○	
	⑧校正試験（GM管・・Zns ｼﾝﾁ）			○		○	
	⑨警報動作			○		○	
	⑩総合判定			○		○	
2．可搬型ダストモニタ（MDR－304）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤前置増幅器			○		○	
	⑥計数率計部			○		○	
	⑦校正試験（GM管・・Zns ｼﾝﾁ）			○		○	
	⑧警報動作			○		○	
	⑨総合判定			○		○	
3．可搬型ダストモニタ（MDR-R74-3015）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁試験			○		○	
	③低圧電源			○		○	
	④高圧電源			○		○	
	⑤前置増幅器			○		○	
	⑥直線増幅波高分析器			○		○	
	⑦リニアカウントレートメータ			○		○	
	⑧警報動作			○		○	
	⑨校正試験（GM管・・Zns ｼﾝﾁ）			○		○	
	⑩総合検査			○		○	
	⑪総合判定			○		○	
4．可搬型ダストモニタ（MDR-R74-3119）（MDR-R74-4633）	①点検・清掃			○		○	
	②低圧電源			○		○	
	③高圧電源			○		○	
	④アンプ・ディスクリ部			○		○	
	⑤指示精度			○		○	
	⑥プラトー測定			○		○	
	⑦記録計			○		○	
	⑧バックグラウンドの測定			○		○	
	⑨計数効率			○		○	
	⑩α・β分離能力			○		○	
	⑪警報動作の確認			○		○	
	⑫ＬＣＤ表示切換ｽｲｯﾁ動作の確認			○		○	
	⑬測定モードの確認			○		○	
	⑭総合判定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	総合検査	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
5．ダストサンプラ（DSM-304B）	①点検・清掃			○		○	
	②絶縁抵抗試験			○		○	
	③手動制御動作試験			○		○	
	④保護機能確認			○		○	
	⑤警報リセット確認			○		○	
	⑥吸引流量確認			○		○	
6．記録計（4266）	①点検清掃・注油			○		○	
	②記録機構確認			○		○	
	③記録紙送り機構確認			○		○	
	④指示試験			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	施設	再処理、CPF、J棟	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．低圧電源（ES－160）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認			○		○	
	③リップルノイズの測定			○		○	
2．高圧電源（ES－150）（ES-150B）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧範囲の確認			○		○	
	③出力精度の確認			○		○	
	④負荷変動の測定			○		○	
	⑤リップルノイズの測定			○		○	
3．高圧電源（D－112A）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧範囲の確認			○		○	
	③出力精度の確認			○		○	
	④負荷変動の測定			○		○	
4．検出器（ES－121）	①点検・清掃			○		○	
	②LA out出力波高値及び雑音の確認			○		○	
	③DISC out出力			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
5．検出器（ES-121A）	①点検・清掃			○		○	
	②LA out出力波高値及び雑音の確認			○		○	
	③DISC Levelの確認			○		○	
	④DISC out出力			○		○	
	⑤プラトー測定			○		○	
6．検出器（ES-691）	①点検・清掃			○		○	
	②AMP out 出力波高値及び雑音の確認			○		○	
	③DISC Levelの確認			○		○	
	④コインシデンス出力の確認			○		○	
	⑤プラトー測定			○		○	
7．コインシデンス（ES－131）	①点検・清掃			○		○	
	②最小入力電圧			○		○	
	③出力パルス波形の確認			○		○	
	④コインシデンスの動作確認			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	施設	再処理	1／1

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．低圧電源（７０１－４）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電圧変動の測定			○		○	
	④リップルノイズの測定			○		○	
2．高圧電源（７１４－１Ｂ）	①点検・清掃			○		○	
	②出力電圧の確認			○		○	
	③電圧設定精度の確認			○		○	
	④負荷変動			○		○	
	⑤リップルノイズの測定			○		○	
3．リニアアンプ（７０４－１Ｃ）	①点検・清掃			○		○	
	②リニアアンプ部			○		○	
	③ＳＣＡ部			○		○	
	④分解能の測定			○		○	
4．スケーラ・タイマモジュール（７１１－５Ｂ）	①点検・清掃			○		○	
	②プリセット動作の確認			○		○	
	③計数動作の確認			○		○	
	④クロックパルスの確認			○		○	
	⑤操作モードの確認ディスプレイ			○		○	
5．よう素モニタ検出器	①点検・清掃			○		○	
	②増幅部			○		○	
	③エネルギー分解能の測定			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	施設	全施設共通	1／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
1．Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器（ＺＤ－１００５）（ZD-451FU）（ZD-1005B）（ZD-1005BW）	①点検・清掃			○		○	
	②プリアンプ点検			○		○	
	③検出器出力波形の確認			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤バックグラウンドの測定			○		○	
	⑥計数効率			○		○	
2．Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器（Ｓ－１０８２）	①点検・清掃			○		○	
	②プリアンプ			○		○	
	③検出器出力波形			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤バックグラウンドの測定			○		○	
	⑥計数効率			○		○	
	⑦測定条件			○		○	
3．Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器（Ｓ－１７６６）	①点検・清掃			○		○	
	②プリアンプ			○		○	
	③検出器出力波形			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤バックグラウンドの測定			○		○	
	⑥計数効率			○		○	
4．ＧＭ管検出器（ＧＰ－１０３ＢＵ）	①点検・清掃			○		○	
	②検出器出力波形			○		○	
	③プラトー測定			○		○	
	④バックグラウンドの測定			○		○	
	⑤計数効率			○		○	
5．ＧＭ管検出器（Ｓ－１０８０）（Ｓ－１２０２）	①点検・清掃			○		○	
	②プラトー測定			○		○	
	③バックグラウンドの測定			○		○	
	④計数効率			○		○	
6．ＧＭ管検出器（Ｓ－１７６７）	①点検・清掃			○		○	
	②プリアンプ			○		○	
	③検出器出力波形			○		○	
	④プラトー測定			○		○	
	⑤バックグラウンドの測定			○		○	
	⑥計数効率			○		○	
7．外部ＧＭ管検出器（Ｓ－１７４９）	①点検・清掃			○		○	
	②プラトー測定			○		○	
	③バックグラウンドの測定			○		○	
	④計数効率			○		○	
	⑤外観チェック			○		○	

点検項目及び点検頻度

改訂　平成8年3月

点検種別	回路試験	施設	全施設共通	2／2

点検機器	点検項目	点検頻度					備考
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1ヶ年	受入時	
2．ＳＳＤ検出器（Ｓ－１０８１）	①点検・清掃			○		○	
	②プリアンプ			○		○	
	③分解能			○		○	
	④バックグラウンドの測定			○		○	
	⑤計数効率			○		○	
	⑥測定条件			○		○	

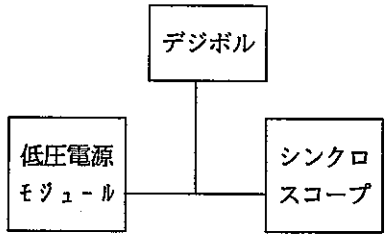
4. 点検整備技術要領書

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

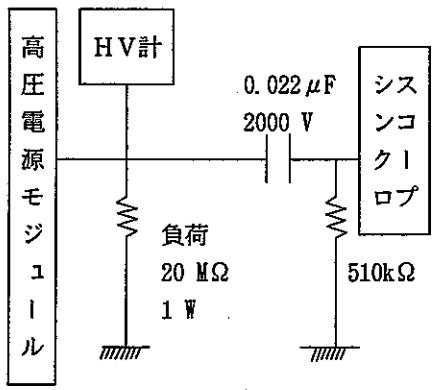
改訂　平成8年3月

機器名	α線ハンドフットクローズモニタ	型　名	MBR－22C	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．AC電源絶縁試験	低圧電源モジュールの電源スイッチをONにし、ACプラグインとGND間に500Vメガーを接続し絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
3.1　ランプチェック	モジュール前面に付いている電源スイッチをONにし、パイロットランプが点灯することを確認する。	ランプが点灯すること	
3.2　出力電圧	使用状態で、下記接続にて各出力電圧を測定する。  	＋24(V) ±0.2(V) －24(V) ±0.2(V) ＋ 6(V) ±0.2(V)	
3.3　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	30(mVp-p) 以下	
3.4　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

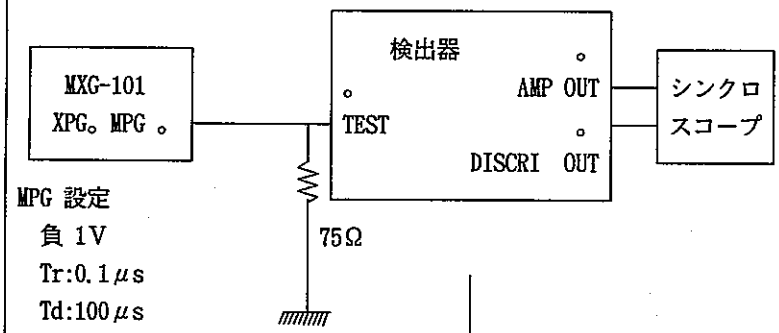
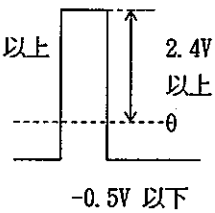
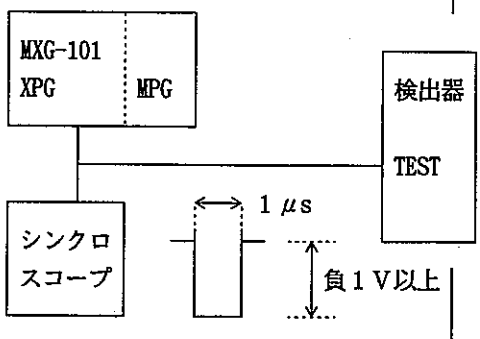
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．高圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
4.1　検出器印加電圧	検出器に印加されている電圧を設定ダイヤル及び出力電圧について確認する。	計数効率を考慮して設定する	別添１（検出器印加電圧設定要領）参照
4.2　出力設定精度	出力設定ダイヤルに対する出力電圧の誤差を５００Ｖ，１０００Ｖ，１５００Ｖの各点について測定する。	±9(V)以内	
4.3　負荷変動	下記接続にて、最大設定値における無負荷と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  負荷変動（V）＝　負荷－無負荷	±5(V)以内	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	100(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
5．検出部			
5.1　増幅器雑音	検出器に含まれる雑音を、前置増幅器のAMP OUT 端子より、シンクロスコープにて測定する。	50(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2　増幅器信号	高圧を切って、下記の接続方法にて、各部位検出器プリアンプのAMP OUT 波形を測定する。 	1.0(V)以上	使用測定器 MXG-101
5.3　入力感度	上項の接続方法にて、（但し、シンクロスコープ接続は DISCRI OUT に変えること）MPG の出力電圧を負10mVから徐々に上げてゆき、DISCRI OUT波形が現れる時のMPG 出力電圧を読み取る。	-72(mV) 以下	
5.4　検出部出力波形	前項の際に、DISCRI OUT波形が右図のように出力していることを確認する。	2.4(V) 以上 	
5.5　検出部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
6．測定部調整			
6.1　指示調整	コントロールモジュールの測定時間を60秒にし、XPG 出力を下記波形に設定し、6 ×10²（cpm）を入力し計数させ、表示部より確認する。 	6 ×10²(C/M)±10(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.2　内蔵テスト信号	コントロールモジュールの測定時間を60秒、スケーラモジュールのTEST・USE オペレートスイッチをTESTにし、内蔵信号にて表示部より確認する。	3 ×10³(C/M)±10(%) 以内	
6.3　測定時間	コントロールモジュールの測定時間を10秒にし、ストップウォッチにて測定する。	10±1(sec)以内	
6.4　警報動作	警報を設定し、計数値が設定値と同じか或いは越えた時に警報を発することを確認する。	正常に動作すること	
6.5　測定部の良否	以上の結果から総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
7．検出器			
7.1　ＢＧの測定	使用状態においてＢ．Ｇを１分間測定し、10秒換算にして求める。	3(C/10 sec) 以下	
7.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数のないこと	
7.3　計数効率の測定	使用状態にて *規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める。 $\text{計数効率}(\%) = \dfrac{\text{カウント（cpm）}\times 100}{\text{規定線源（dpm）面積補正値}}$	8(%) 以上	*U_3O_8　協－1501 61200(dpm) 面積補正値 Ｈ）45641(dpm) Ｆ）50690(dpm) Ｃ）20520(dpm)
7.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないと	
8．動作プログラムの確認	プログラムの流れが正常であることを確認する。	正常に動作すること	
8.1　定常動作			別添2 測定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ図（定常動作）参照
1)READY ランプ表示動作			

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

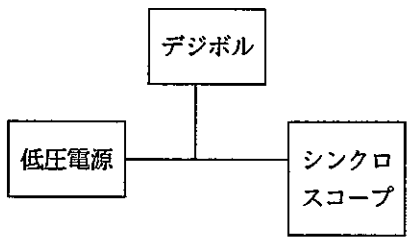
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2)COUNTER IN OPERATION　ランプ表示動作 3)ＯＫランプ表示動作			
8.2　アラーム動作 1)CONTAMINATION ランプ表示動作 2)アラーム赤ランプ表示動作 3)アラーム吹鳴動作			別添3 測定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ図（アラーム動作）参照
9．警報設定値	点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	点検前の *設定値であること	＊設定値一覧表を参照

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

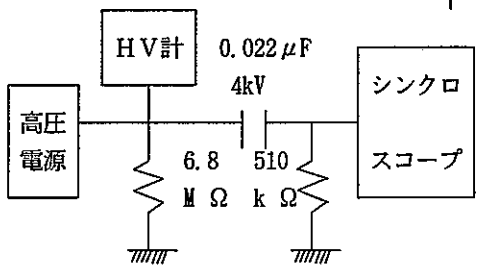
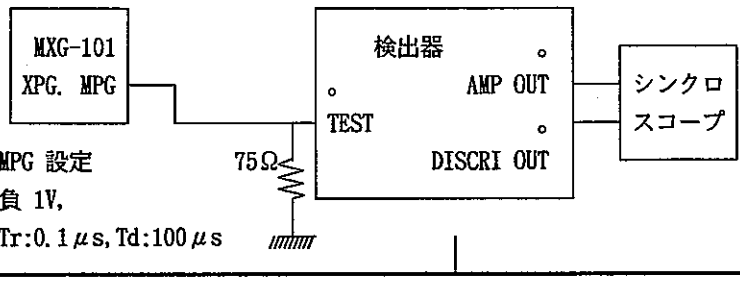
改訂　平成8年3月

機器名	α線ハンドフットクローズモニタ	型　名	MBR－42	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグインとＧＮＤ間に500Vメガーを接続し、絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ）以上	
3．低圧電源 3.1　出力電圧	電源スイッチをONにし、前面パネルの低圧チェック端子に下記接続をし、使用状態における各出力電圧を測定する。  	＋24(V)　±1.00(V) －24(V)　±1.00(V) ＋　5(V)　±0.15(V) ＋12(V)　±0.30(V)	
3.2　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープで測定する。	200(mVp-p)以下	
3.3　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．高圧電源 4.1　検出器印加電圧	検出器に印加されている電圧を設定ダイヤル及び出力電圧について確認する。	計数効率を考慮して設定する	別添1　（検出器印加電圧設定要領）参照

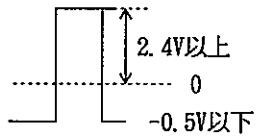
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2　出力設定精度	パネル面の各設定ダイヤルに対する出力電圧を測定する。 設定ダイヤル ／ 出力電圧（V） 0．5 ／ 500 1．0 ／ 1000 1．5 ／ 1500 2．0 ／ 2000	出力電圧　±30(V) 以内	
4.3　負荷変動	下記の接続方法にて、設定ダイヤル2.0における無負荷時と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。 	±10(V) 以内 負荷変動(V) ＝負荷－無負荷	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	200(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
5．検出部			
5.1　増幅器雑音	検出器に含まれる雑音を、前置増幅器のAMP OUT 端子より、シンクロスコープにて測定する。	50(mVp-p) 以下	
5.2　増幅器信号	高圧を切って、下記の接続方法にて、各部位検出器プリアンプのAMP OUT 波形を測定する。 	1.0(V)以上	使用測定器 MXG-101

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3　入力感度	上項の接続方法にて、（但し，シンクロスコープ接続は DISCRI OUT に変えること）MPG の出力電圧を負10mVから徐々に上げてゆき、 DISCRI OUT 波形が現れる時のMPG出力電圧を読み取る。	-72(mV) 以下	
5.4　検出部出力波形	前項の際に、 DISCRI OUT 波形が右図のように出力していることを確認する。	2.4(V) 以上  	
5.5　検出部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
6．設定機能の確認 6.1　時刻の設定 6.2　測定時間の設定 6.3　アラームレベルの設定 6.4　アラーム表示時間の設定 6.5　点検条件の設定 6.6　計数表示出力ON/OFFの設定	別添のテンキー操作方法により各設定条件が設定可能であることを確認する。	各設定条件が設定可能であること	
7．表示機能の確認 7.1　時刻の表示 7.2　測定時間の表示 7.3　アラームレベルの表示 7.4　アラーム表示時間の表示 7.5　計数表示出力ON/OFFの表示 7.6　レジスタの表示 7.7　計数表示	別添のテンキー操作方法により各測定条件等の表示ができることを確認する。	各設定条件等の表示ができること	
8．測定時間	測定状態において測定時間を10秒に設定し、ストップウォッチを使用して測定時間を測定する。	10±1(sec)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

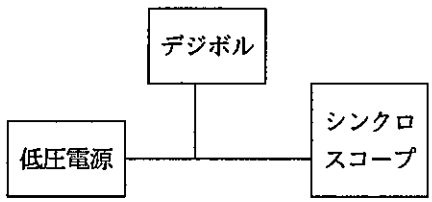
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．保守機能確認 9.1　ランプテスト 9.2　点検動作 9.3　ＢＧ測定動作 9.4　効率測定動作	別添のテンキー操作方法により、各テスト機能が正常に動作することを確認する。	各保守機能が確認できること	
１０．アラーム機能 10.1　アラーム動作試験	別添のテンキー操作方法により各アラーム機能が正常に動作することを確認する。	各アラーム機能が確認できること	
10.2　アラーム設定値	点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	点検前の* 設定値であること	＊設定値一覧表を参照
１１．検出器			
11.1　ＢＧの測定	使用状態においてＢＧを１分間測定し、10秒換算にして求める。	3(C/10sec)以下	
11.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数がないこと	
11.3　計数効率の測定	使用状態において、* 規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める $\text{計数効率（\%）} = \dfrac{\text{カウント(cpm)} \times 100}{\text{規定線源(dpm)} \times \text{面積補正値}}$	8(%)以上	*U_3O_8 協－1501 61200(dpm) 面積補正値 H）46136(dpm) F）50446(dpm) C）20520(dpm)
11.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
１２．レジスタの動作確認	数回測定し、又アラームも発生させてみる。測定回数、アラーム回数をそれぞれカウンタにより積算すること。また手動でリセットできること。	正常に動作すること	
１３．動作シーケンスの確認	別添の動作シーケンス図通りであることを確認する。	正常に動作すること	
１４．自己診断機能確認	別添に記載されたように動作すること	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

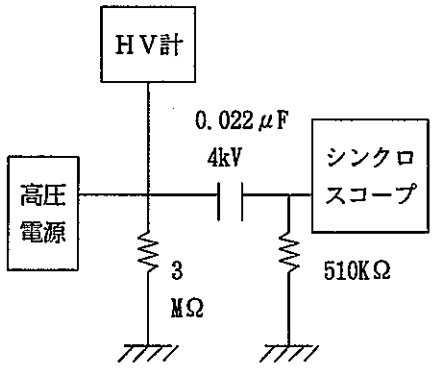
改訂　平成8年3月

機器名	β(γ)線ハンドフットクロスモニタ	型　名	MBR-R74-2111	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグインとＧＮＤ間に 500Ｖメガーを接続し、絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源 3.1　出力電圧	電源スイッチをONにし、前面パネルの低圧チェック端子に下記接続をし、使用状態における各出力電圧を測定する。 	＋24V　±0.72(V) －24V　±0.72(V) ＋ 5V　±0.15(V) ＋12V　±0.60(V)	
3.2　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープで測定する。	＋24V　50(mVp-p) 以下 －24V　50(mVp-p) 以下 ＋ 5V　200(mVp-p)以下 ＋12V　200(mVp-p)以下	
3.3　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．高圧電源 4.1　検出器印加電圧	検出器に印加する電圧はプラトーの中心としてダイヤルと出力電圧について確認する。	設定ダイヤル　±30(V) 以内 手足系　2100(V) ＊衣服系　目安値 900(V)	＊プラトー特性試験により、印加電圧を設定

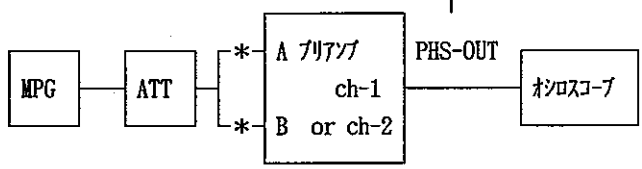
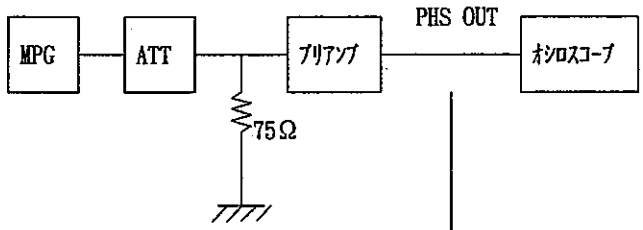
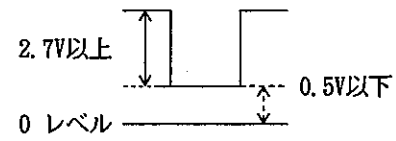
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2　出力設定精度	パネル面の各設定ダイヤルに対する出力電圧を測定する。 設定ダイヤル / 出力電圧（V） 0．5 / 500 1．0 / 1000 1．5 / 1500 2．0 / 2000 2．5 / 2500	出力電圧　±30(V) 以内	
4.3　負荷変動	下記の接続方法にて、設定ダイヤル2.5における無負荷時と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  負荷変動(V) ＝（負荷）－（無負荷）	±10(V) 以内	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	100(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．検出部 5.1　入力感度	高圧を切って、下記の測定方法にて各部位検出器プリアンプ入力端子へ接続し、ATTを45dBから下げてゆき、オシロスコープに出力が現れるときの入力電圧をATT より読み取り測定する。 ＜測定方法＞ 手足系  ＊接続ケーブルは短く、 同じ長さにて。 MPG設定 RISE TIME ;FAST DECAY TIME;1μsec POLARITY ;－ PULSE HEIGHT;0.5(V) 衣服系  MPG設定 RISE TIME ;FAST DECAY TIME;10 μsec POLARITY ;－ PULSE HEIGHT;1.0(V)	手足系 4.16(mV)～6.01(mV) 衣服系 9.50(mV)～10.5(mV)	
5.2検出部出力波形	前項の際に、PHS OUT 出力波形をオシロスコープにて測定する。  	2.7(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3　検出部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
6．設定機能試験 6.1　時刻の設定 6.2　測定時間の設定 6.3　衣服測定時定数の設定 6.4　アラームレベルの設定 6.5　アラーム表示時間の設定 6.6　ＢＧ減算ON/OFFの設定 6.7　点検条件の設定 6.8　計数表示出力ON/OFFの設定	別添のテンキー操作方法により各測定条件が設定可能であることを確認する。	各設定条件が設定可能であること	
7．表示機能確認 7.1　時刻の表示 7.2　測定時間の表示 7.3　アラームレベルの表示 7.4　アラーム表示時間の表示 7.5　衣服測定時定数の表示 7.6　計数表示出力ON/OFFの表示 7.7　ＢＧ減算ON/OFFの表示 7.8　レジスタの表示 7.9　計数表示	別添のテンキー操作方法により各測定条件等の表示ができることを確認する。	各設定条件等の表示ができること	
8．測定時間	テンキー操作により測定時間設定を10秒にして測定時間をストップウオッチにて測定する。	10±1(sec)以内	
9．保守機能確認 9.1　ランプテスト 9.2　点検動作 9.3　ＢＧ測定動作 9.4　効率測定動作	別添のテンキー操作方法により各テスト機能が正常に動作することを確認する。	各保守機能が確認できること	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

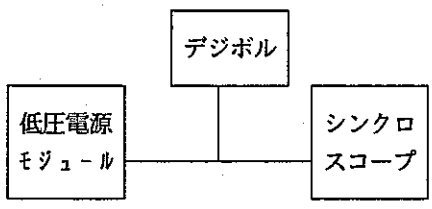
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１０．アラーム機能 10.1　アラーム動作試験 10.2　アラーム設定値	別添のテンキー操作方法により各アラーム機能が正常に動作することを確認する。 点検前のアラーム設定値に設定されていることを確認する。	各アラーム機能が確認できること 点検前の設定値であること	
１１．使用プラスチックシンチレーション検出器の判定	* 規定線源を使用して高圧印加電圧と計数との関係を測定する。	手足系 プラトー領域　400V以上 プラトー傾斜　5%/100V以下 BG 値　手 1250cpm以下 足 2500cpm以下 衣服系 プラトー領域　100V以上 プラトー傾斜　10%/100V以下 BG 値　250cpm以下	＊U_3O_8　協一714 30400(dpm) 面積補正値 C）10640(dpm)
１２．検出器			
12.1　ＢＧの測定	使用状態において手・足及び衣服のＢＧを計数値から読み取る。	アラーム設定値以下であること	
12.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数がないこと	
12.3　計数効率の測定	使用状態において* 規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める。 $\text{計数効率(\%)} = \dfrac{\text{計数値（ｃｐｍ）}\times 100}{\text{規定線源（ｄｐｍ）}}$ 〔C）部は面積補正値〕	効率20(%) 以上	
12.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
１３　レジスタの動作確認	数回測定し、又アラームも発生させてみる。測定回数、アラーム回数をそれぞれカウンタにより積算すること。また手動でリセットできること	正常に動作すること	
１４．動作シーケンスの確認	別添動作シーケンス図通りであることを確認する。	正常に動作すること	
１５．自己診断機能確認	別添に記載されたように動作すること	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

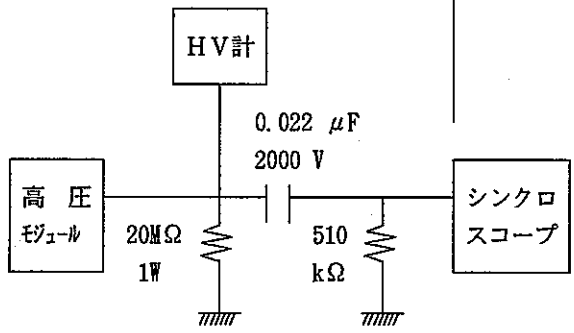
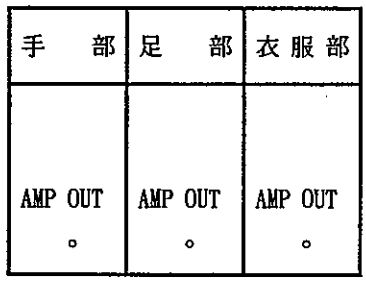
改訂　平成8年3月

機器名	β(γ)線ハンドフットクロスモニタ	型　名	MBR－14u	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	低圧電源モジュールの電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグインとＧＮＤ間に500Vメガーを接続し絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
3.1　ランプチェック	モジュール前面に付いている電源スイッチをＯＮにし、パイロットランプが点灯することを確認する。	ランプが点灯すること	
3.2　出力電圧	使用状態で、下記接続にて各出力電圧を測定する。  	+24(V) ±0.2(V) −24(V) ±0.2(V) + 6(V) ±0.2(V)	
3.3　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	30(mVp-p) 以下	
3.4　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．高圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
4.1　検出器印加電圧	検出器に印加する電圧はプラトーの中心としてダイヤルと出力電圧について確認する。	700(V)±50(V) 以内	

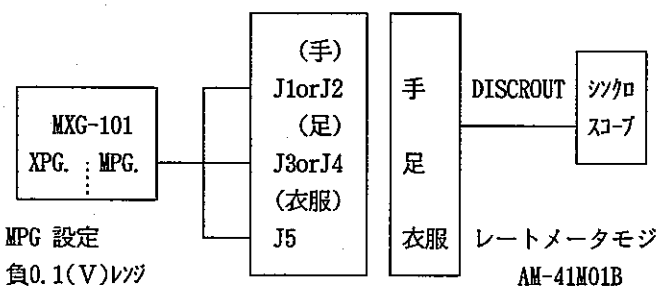
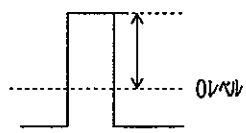
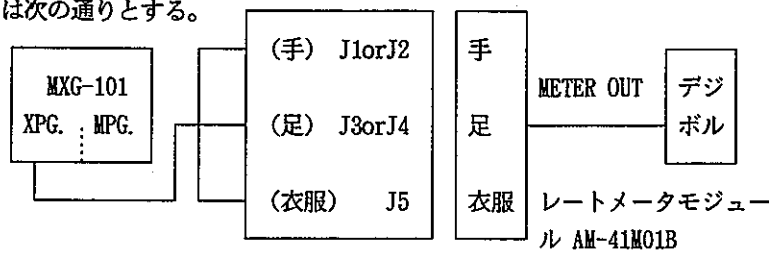
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2　出力設定精度	出力設定ダイヤルに対する出力電圧の誤差を５００Ｖ，１０００Ｖ，１５００Ｖの各点について測定する。	±9(V)以内	
4.3　負荷変動	下記接続にて、最大設定値における無負荷と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  負荷変動（V）＝　負荷－無負荷	±5(V)以内	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	100(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
5．測定部			
5.1　前置増幅器雑音	使用状態において、レートメータモジュールのAMP OUT 端子にシンクロスコープを接続し測定する。 左から  レートメータモジュール ＡＭ－４１Ｍ０１Ｂ	20(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2　前置増幅器出力	使用状態において、 *規定線源を計数させる。この時のレートメータモジュールのAMP OUT 端子での波形を測定する。	0.6(V)以上	＊U_3O_8　協－714 30400(dpm) 面積補正値 H）22671(dpm) F）25179(dpm) U_3O_8　協－1317 面積補正値 C）　9260(dpm) 使用測定器 MXG-101
5.3　入力感度	高圧を切り、下記接続にて各検出器に対応する入力端子にMPG から-40mV を入力し、徐々に上げてゆきレートメータモジュールのDISCRI OUTに出力が現れる時の入力電圧をMPG より読み取る。 ＊本体裏側  MPG 設定 負0.1(V)レンジ Tr:0.1μs Td:100μs レートメータモジュール AM-41M01B	-50(mV) ±10(mV)以内	
5.4　検出部出力波形	前項の際に、DISCRI OUT波形が右図のように出力していることをシンクロスコープにて測定する。	2.4(V)以上  -0.5以下	
5.5　メータ出力電圧精度	下記接続にて、1k及び10k レンジについてのMETER OUT の電圧を測定する。測定点は次の通りとする。  レートメータモジュール AM-41M01B	±0.05(V) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	<table><tr><th>レンジ</th><th>入力（cpm ）</th><th>出力電圧（V）</th><th>メータ指示値</th></tr><tr><td rowspan="3">1k</td><td>300</td><td>0．30</td><td>300</td></tr><tr><td>600</td><td>0．60</td><td>600</td></tr><tr><td>900</td><td>0．90</td><td>900</td></tr><tr><td rowspan="3">10k</td><td>3000</td><td>0．30</td><td>3000</td></tr><tr><td>6000</td><td>0．60</td><td>6000</td></tr><tr><td>9000</td><td>0．90</td><td>9000</td></tr></table>		
5.6　メータ指示精度	前項においてメータ指示も合わせて読みとる。	±10(%) 以内	
5.7　時定数	前項の接続にて、レートメータモジュールの時定数を3 秒および10秒に選び、各時定数に対してメータ指示がフルスケールになるようにパルス信号を入力し、信号を切ったときから、指示値がフルスケールの37%に達するまでの時間をストップウォッチにて測定する。	3±1(sec) 10±2(sec)	
5.8　内蔵テスト信号	レートメータモジュールのオペレートスイッチをTESTにし、カウンターを DISCRI OUT に接続して計数値を読む。	3 ×10^3(cpm)±1(%)	
5.9　測定時間	コントロールモジュールの測定時間を10秒にし、ストップウォッチにて測定する。	10±1(sec)以内	
5.10 警報動作	警報設定値を３０，６０%の値に設定し１K及び１０Kレンジにおいて、計数値が設定値に対し、規格内に入った時警報を発することを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.11 測定部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
6．使用ＧＭ管の判定 プラトー試験	^{90}Sr(チェックソース) 17K を使用して高圧印加電圧と計数との関係を測定する。	プラトー領域　150(V)以上 プラトー傾斜　10(%)/100(V)以下 Ｂ．Ｇ値　80(cpm) 以下	^{90}Ｓｒ (ﾁｪｯｸｰｽｿｰｽ) R-303102 17K
7．検出器			
7.1　ＢＧの測定	使用状態において手・足及び衣服のＢ．Ｇを指示値から読み取る。	手足系　各400(cpm)以下 衣服系　100(cpm)以下	測定時間を60secとして行う。
7.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数がないこと	
7.3　計数効率の測定	使用状態にて、＊規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める。	5(%)以上	
	計数効率（%）＝ $\dfrac{\text{メータ指示値}-\text{B.G.(cpm)} \times 100\ (\%)}{\text{規定線源(dpm) 面積補正値}}$		
7.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
8．動作プログラムの確認	プログラムの流れが正常であることを確認する。	正常に動作すること	
8.1　定常動作 1)READY ランプ表示動作 2)COUNTER IN OPERATION　ランプ表示動作 3)ＯＫランプ表示動作			別添1 測定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ図（定常動作）参照

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

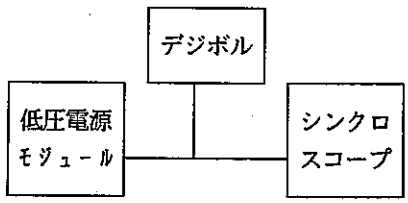
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8.2　アラーム動作 1)CONTAMINATION ランプ表示動作 2)アラーム赤ランプ表示動作 3)アラーム吹鳴動作			別添2 測定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ図（アラーム動作）参照
9．警報設定値	点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	点検前の設定値であること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

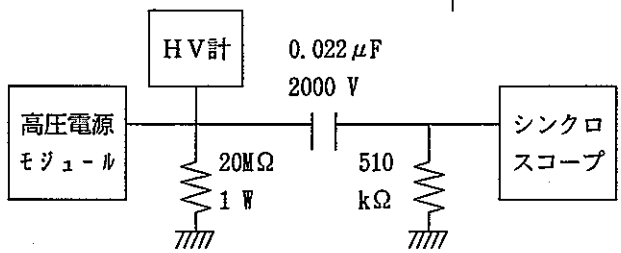
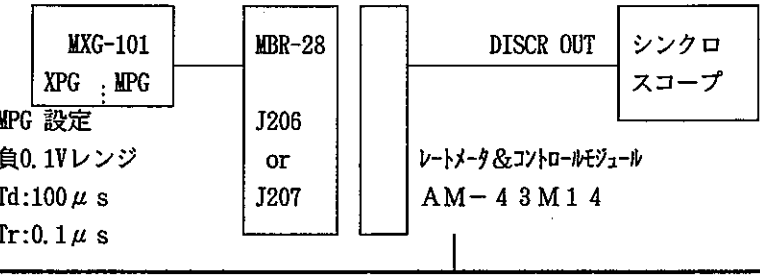
改訂　平成8年3月

機器名	β（γ）線フットモニタ	型　名	MBR－28	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損等を点検する。マイラ膜の汚れがひどい時には交換する。	1)清掃されていること 2)部品の破損等のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜の破損のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	低圧電源モジュールの電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグラインとＧＮＤ間に500Vメガーを接続し絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
3.1　ランプチェック	モジュール前面に付いている電源スイッチをＯＮにし、パイロットランプが点灯することを確認する。	ランプが点灯すること	
3.2　出力電圧	使用状態で、下記接続にて各出力電圧を測定する。 	＋24(V) ±0.2(V) －24(V) ±0.2(V) ＋ 6(V) ±0.2(V)	
3.3　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	30(mVp-p) 以下	
3.4　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．高圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
4.1　検出器印加電圧	検出器に印加する電圧はプラトーの中心としてダイヤルと出力電圧について確認する。	700(V)±50(V) 以内	
4.2　出力設定精度	出力設定ダイヤルに対する出力電圧の誤差を500V,1000V,1500Vの各点について測定する。	±9(V)以内	

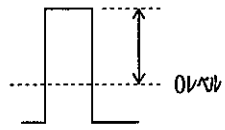
点検整備技術要領書

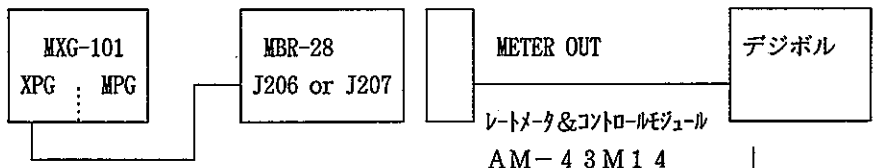
整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3　負荷変動	下記接続にて、最大設定値における無負荷と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  負荷変動（V）＝　負荷－無負荷	±5(V)以内	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	100(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
5．測定部			
5.1　前置増幅器雑音	使用状態において、レートメータ＆コントロールモジュールのAMP OUT 端子にシンクロスコープを接続し測定する。	20(mVp-p) 以下	
5.2　前置増幅器出力	使用状態において、 *規定線源を計数する。この時のレートメータ＆コントロールモジュールのAMP OUT 端子での波形を測定する。	0.6(V)以上	*U_3O_8 協－714 30400(dpm) 面積補正値 25179(dpm)
5.3　入力感度	高圧を切り、下記接続にて検出器入力端子にMPG から-40mV を入力し、徐々に上げてゆきレートメータ＆コントロールモジュールのDISCRI OUTに出力が現れる時の入力電圧をMPG より読み取る。 ＊本体裏側  	－50±10(mV)以内	使用測定器 MXG-101

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.4　検出部出力波形	前項の際に、DISCRI OUT波形が右図のように出力していることをシンクロスコープにて測定する。	2.4(V)以上  -0.5V以上	
5.5　メータ出力電圧精度	下記接続にて、1kおよび10k レンジについてのMETER OUT の電圧を測定する。測定点は、次の通りとする。	±0.05(V) 以内	



レンジ	入力（cpm ）	出力電圧（V）	メータ指示値
1ｋ	３００	０．３０	３００
	６００	０．６０	６００
	９００	０．９０	９００
10ｋ	３０００	０．３０	３０００
	６０００	０．６０	６０００
	９０００	０．９０	９０００

5.6　メータ指示精度	前項において、メータ指示も合わせて読み取る。	±10(%) 以内	
5.7　時定数	前項の接続にて、レートメータ&コントロールモジュールの時定数を 3秒および10秒に選び、各時定数に対してメータ指示がフルスケールになるようにパルス信号を入力し、信号を切った時から、指示値がフルスケールの37%に達するまでの時間をストップウオッチにて測定する。	3±1(sec) 10±2(sec)	
5.8　内蔵テスト信号	レートメータ&コントロールモジュール のオペレートスイッチをTESTにし、カウンタをDISCRI OUTに接続して計数値を読む。	3000(cpm) ±1(%)	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.9　測定時間	レートメータ＆コントロールモジュールの測定時間を10秒にし、ストップウオッチにて測定する。	10±1(sec)以内	
5.10 警報動作	警報設定を３０，６０（%）の値に設定し１K及び１０Kレンジにおいて計数値が設定値に対して規格内に入った時、警報を発することを確認する。	正常に動作すること	
5.11 測定部の良否	以上の結果より総合的に判断する	各項目について異常のないこと	
6．使用GM管の判定 プラトー試験	^{90}Sr （チェックソース）17K を使用して高圧印加電圧と計数との関係を測定する。	プラトー領域 150(V) 以上 プラトー傾斜 10(%)/100(V) 以下 B．G値　　80(cpm)以下	^{90}Sr （ﾁｪｯｸｿｰｽ） R-303102 17K
7．検出器			
7.1　BGの測定	使用状態においてB．Gを指示値から読み取る。	400(cpm)以下	
7.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数がないこと	
7.3　計数効率の測定	使用状態において、* 規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める。 計数効率（%）＝ (メータ指示値−B.G.(cpm) ×１００（%）) / (規定線源(dpm) 面積補正値)	5(%)以上	
7.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
8．動作プログラムの確認	プログラムの流れが正常であることを確認する。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

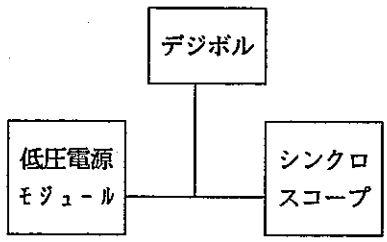
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8.1　定常動作 1)READY ランプ表示動作 2)COUNTER IN OPERATION　ランプ表示動作 3)ＯＫランプ表示動作			別添1 測定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ図　参照
8.2　アラーム動作 1)CONTAMINATION ランプ表示動作 2)アラーム赤ランプ表示動作 3)アラーム吹鳴動作			別添1 参照
9．警報設定値	点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	点検前の設定値であること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

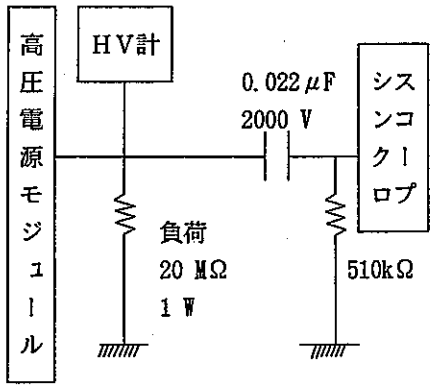
改訂　平成8年3月

機器名	α線フットモニタ	型　名	MBR－21C	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	低圧電源モジュールの電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグラインとＧＮＤ間に500Vメガーを接続し絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ			
3.1　ランプチェック	モジュール前面に付いている電源スイッチをＯＮにし、パイロットランプが点灯することを確認する。	ランプが点灯すること	
3.2　出力電圧	使用状態で、下記接続にて各出力電圧を測定する。  	＋24(V) ±0.2(V) －24(V) ±0.2(V) ＋ 6(V) ±0.2(V)	
3.3　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	30(mVp-p) 以下	
3.4　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

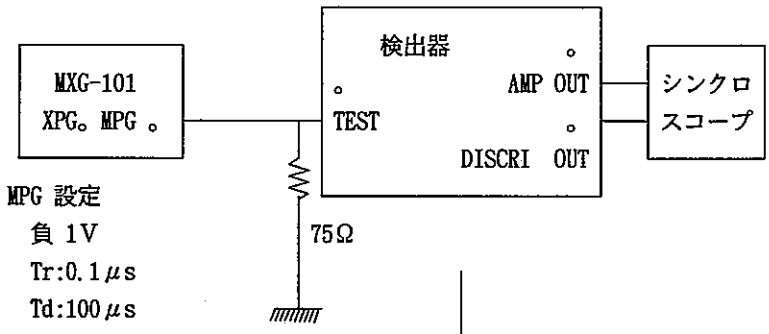
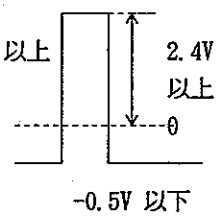
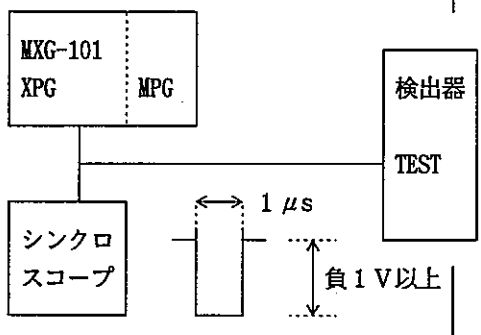
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．高圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ 4.1　検出器印加電圧	検出器に印加されている電圧を設定ダイヤル及び出力電圧について確認する。	計数効率を考慮して設定する	別添１（検出器印加電圧設定要領）参照
4.2　出力設定精度	出力設定ダイヤルに対する出力電圧の誤差を５００Ｖ，１０００Ｖ，１５００Ｖの各点について測定する。	±9(V)以内	
4.3　負荷変動	下記接続にて、最大設定値における無負荷と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  負荷変動（V）＝　負荷－無負荷	±5(V)以内	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	100(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
5．検出部 5.1　増幅器雑音	検出器に含まれる雑音を、前置増幅器のAMP OUT 端子より、シンクロスコープにて測定する。	50(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.2　増幅器信号	高圧を切って、下記の接続方法にて、各部位検出器プリアンプのAMP OUT 波形を測定する。  	1.0(V)以上	使用測定器 MXG-101
5.3　入力感度	上項の接続方法にて、（但し、シンクロスコープ接続は DISCRI OUT に変えること）MPG の出力電圧を負10mVから徐々に上げてゆき、DISCRI OUT波形が現れる時のMPG 出力電圧を読み取る。	-72(mV) 以下	
5.4　検出部出力波形	前項の際に、DISCRI OUT波形が右図のように出力していることを確認する。	2.4(V) 以上  -0.5V 以下	
5.5　検出部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
6．測定部調整			
6.1　指示調整	スケーラタイマモジュールの測定時間を60秒にし、XPG 出力を下記波形に設定し、6 ×10²（cpm）を入力し計数させ、表示部より確認する。  	6 ×10²(C/M)±10(%) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.2　内蔵テスト信号	スケーラタイマモジュールの測定時間を60秒、TEST・USE オペートスイッチをTESTにし、内蔵信号にて表示部より確認する。	3×10^{2}(C/M)±10(%) 以内	
6.3　測定時間	スケーラタイマモジュールの *測定時間を10秒または 5秒にし、ストップウォッチにて測定する。	10±1(sec)以内 5±1(sec)以内	＊10秒：Pu-con Pu-3 再処理 5秒：Pu-1 Pu-2 URI
6.4　警報動作	警報を設定し、計数値が設定値と同じか或いは越えた時に警報を発することを確認する。	正常に動作すること	
6.5　測定部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
7．検出器			
7.1　ＢＧの測定	使用状態においてＢ．Ｇを１分間測定し、10秒換算にして求める。	3(C/10 sec) 以下	
7.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数のないこと	
7.3　計数効率の測定	使用状態にて *規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める。 $\text{計数効率}(\%) = \dfrac{\text{カウント (cpm)}\times 100}{\text{規定線源 (dpm)面積補正値}}$	8(%)以上	＊U_3O_8　協－1501 61200(dpm) 面積補正値 50690(dpm)
7.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないと	
8．動作プログラムの確認	プログラムの流れが正常であることを確認する。	正常に動作すること	
8.1　定常動作			別添2 測定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの流れ図　参照
1)READY ランプ表示動作			

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

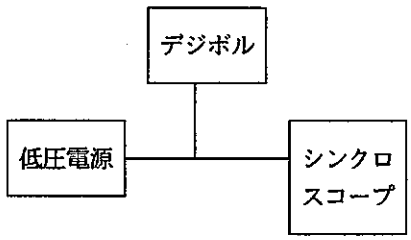
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
2)COUNTER IN OPERATION　ランプ表示動作 3)ＯＫランプ表示動作			
8.2　アラーム動作			別添2 参照
1)CONTAMINATION ランプ表示動作 2)アラーム赤ランプ表示動作 3)アラーム吹鳴動作			
9．警報設定値	点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	点検前の *設定値であること	＊設定値一覧表を参照

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

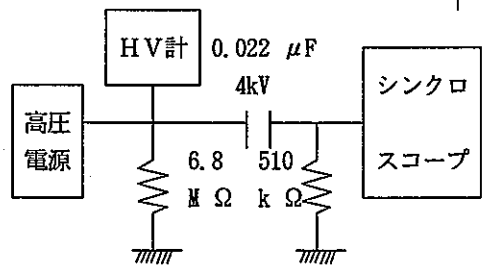
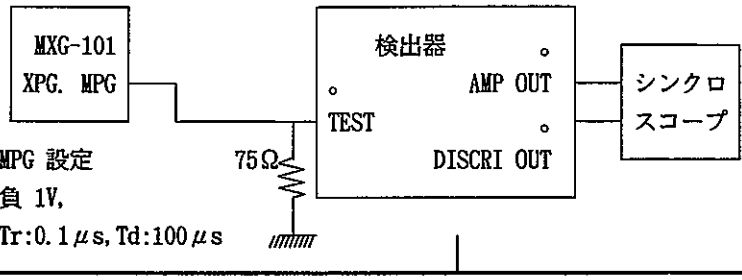
改訂　平成8年3月

機器名	α線フットモニタ	型　名	MBR－41	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグインとＧＮＤ間に500Vメガーを接続し、絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源 3.1　出力電圧	電源スイッチをONにし、前面パネルの低圧チェック端子に下記接続をし、使用状態における各出力電圧を測定する。  	＋24(V) ±1.00(V) －24(V) ±1.00(V) ＋ 5(V) ±0.15(V) ＋12(V) ±0.30(V)	
3.2　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープで測定する。	200(mVp-p)以下	
3.3　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．高圧電源 4.1　検出器印加電圧	検出器に印加されている電圧を設定ダイヤル及び出力電圧について確認する。	計数効率を考慮して設定する	別添1　(検出器印加電圧設定要領)参照

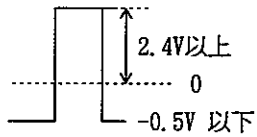
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2　出力設定精度	パネル面の各設定ダイヤルに対する出力電圧を測定する。 設定ダイヤル ／ 出力電圧（V） 0．5 ／ 500 1．0 ／ 1000 1．5 ／ 1500 2．0 ／ 2000	出力電圧　±30(V) 以内	
4.3　負荷変動	下記の接続方法にて、設定ダイヤル2.0における無負荷時と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  	±10(V) 以内 負荷変動(V) ＝負荷－無負荷	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	200(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
5．検出部			
5.1　増幅器雑音	検出器に含まれる雑音を、前置増幅器のAMP OUT 端子より、シンクロスコープにて測定する。	50(mVp-p) 以下	
5.2　増幅器信号	高圧を切って、下記の接続方法にて、各部位検出器プリアンプのAMP OUT 波形を測定する。  	1.0(V)以上	使用測定器 MXG-101

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.3　入力感度	上項の接続方法にて、（但し，シンクロスコープ接続は DISCRI OUT に変えること）MPG の出力電圧を負10mVから徐々に上げてゆき、 DISCRI OUT 波形が現れる時のMPG出力電圧を読み取る。	-72(mV) 以下	
5.4　検出部出力波形	前項の際に、 DISCRI OUT 波形が右図のように出力していることを確認する。	2.4(V) 以上  	
5.5　検出部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
6．設定機能の確認 6.1　時刻の設定 6.2　測定時間の設定 6.3　アラームレベルの設定 6.4　アラーム表示時間の設定 6.5　点検条件の設定 6.6　計数表示出力ON/OFFの設定	別添のテンキー操作方法により各設定条件が設定可能であることを確認する。	各設定条件が設定可能であること	
7．表示機能の確認 7.1　時刻の表示 7.2　測定時間の表示 7.3　アラームレベルの表示 7.4　アラーム表示時間の表示 7.5　計数表示出力ON/OFFの表示 7.6　レジスタの表示 7.7　計数表示	別添のテンキー操作方法により各測定条件等の表示ができることを確認する。	各設定条件等の表示ができること	
8．測定時間	測定状態において *測定時間を、10秒または 5秒に設定し、ストッウォッチを使用して測定する。	10±1(SEC)以内 5±1(SEC)以内	* 10秒：Pu-con　Pu-3 再処理 5秒：Pu-1　Pu-2 PWTF　URI

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

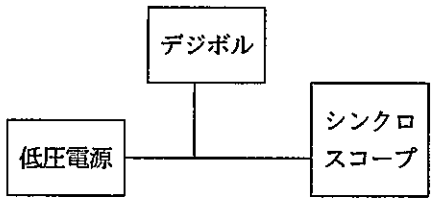
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．保守機能確認 9.1　ランプテスト 9.2　点検動作 9.3　ＢＧ測定動作 9.4　効率測定動作	別添のテンキー操作方法により、各テスト機能が正常に動作することを確認する。	各保守機能が確認できること	
１０．アラーム機能 10.1　アラーム動作試験	別添のテンキー操作方法により各アラーム機能が正常に動作することを確認する。	各アラーム機能が確認できること	
10.2　アラーム設定値	点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	点検前の* 設定値であること	＊設定値一覧表を参照
１１．検出器 11.1　ＢＧの測定	使用状態においてＢＧを１分間測定し、10秒換算にして求める。	3(C/10sec)以下	
11.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数がないこと	
11.3　計数効率の測定	使用状態において、* 規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める $\text{計数効率（%）} = \dfrac{\text{カウント(cpm)} \times 100}{\text{規定線源(dpm)　面積補正値}}$	8(%)以上	*U_3O_8 協－1501 61200(dpm) 面積補正値 50446(dpm)
11.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
１２．レジスタの動作確認	数回測定し、又アラームも発生させてみる。測定回数、アラーム回数をそれぞれカウンタにより積算すること。また手動でリセットできること。	正常に動作すること	
１３．動作シーケンスの確認	別添の動作シーケンス図通りであることを確認する。	正常に動作すること	
１４．自己診断機能確認	別添に記載されたように動作すること	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

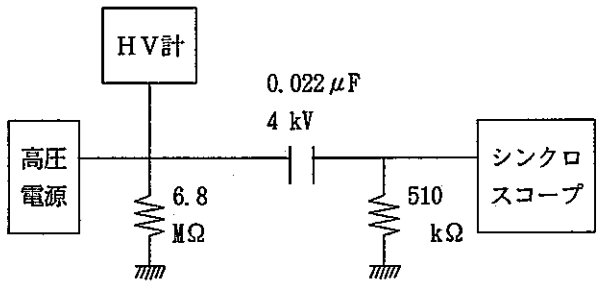
改訂　平成8年3月

機器名	β(γ)線ハンドフットクロスモニタ	型　名	MBR－44	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
2．ＡＣ電源絶縁試験	電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグインとＧＮＤ間に500Vメガーを接続し、絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
3．低圧電源 3.1　出力電圧	電源スイッチをONにし、前面パネルの低圧チェック端子に下記接続をし、使用状態における各出力電圧を測定する。  	＋24(V)　±1.00(V) －24(V)　±1.00(V) ＋ 5(V)　±0.15(V) ＋12(V)　±0.30(V)	
3.2　リップル電圧	上項接続にて、使用状態における各リップル電圧をシンクロスコープで測定する。	200(mVp-p)以下	
3.3　低圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．高圧電源 4.1　検出器印加電圧	検出器に印加する電圧はプラトーの中心としてダイヤルと出力電圧について確認する。	700(V)±50(V) 以内	

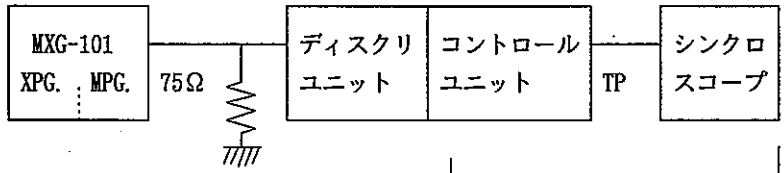
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2　出力設定精度	パネル面の各設定ダイヤルに対する出力電圧を測定する。 設定ダイヤル ／ 出力電圧（V） 0．5 ／ 500 1．0 ／ 1000 1．5 ／ 1500 2．0 ／ 2000	出力電圧　±30(V) 以内	
4.3　負荷変動	下記の接続方法にて、設定ダイヤル2.0における無負荷時と全負荷時の出力電圧の変化を測定する。  負荷変動(V) ＝（負荷）－（無負荷）	±10(V) 以内	
4.4　リップル電圧	前項の際、全負荷時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。	200(mVp-p)以下	
4.5　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
5．検出部			
5.1　入力感度	高圧を切り、下記接続にてMPG より各検出器に対応する入力端子に－270(mV) を入力し徐々に上げてゆき、コントロールユニット内の各検出器に対応するＴＰ端子に出力波形が現れる時の入力電圧をMPG より読み取る。	-300(mV)±30(mV)以内	使用測定器 MXG-101

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	 負1(V)レンジにて Td　100 μsec Tr　　1 μsec 部　位 ／ TP. NO. 左　手 ／ TP. 1 右　手 ／ TP. 3 左　足 ／ TP. 5 右　足 ／ TP. 6 衣　服 ／ TP. 7		
5.2　検出部出力波形	前項の際に、ＴＰ出力信号をシンクロスコープにて測定する。	3.0(V)以上	
5.3　検出部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
6．設定機能試験 6.1　時刻の設定 6.2　測定時間の設定 6.3　衣服測定時定数の設定 6.4　アラームレベルの設定 6.5　アラーム表示時間の設定 6.6　ＢＧ減算ON/OFFの設定 6.7　点検条件の設定 6.8　計数表示出力	別添のテンキー操作方法により各測定条件が設定可能であることを確認する。	各設定条件が設定可能であること	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．表示機能確認 7.1　時刻の表示 7.2　測定時間の表示 7.3　アラームレベルの表示 7.4　アラーム表示時間の表示 7.5　衣服測定時定数の表示 7.6　計数表示出力ON/OFFの表示 7.7　ＢＧ減算ON/OFFの表示 7.8　レジスタの表示 7.9　計数表示	別添のテンキー操作方法により各測定条件等の表示ができることを確認する。	各設定条件等の表示ができること	
8．測定時間	テンキー操作により測定時間設定を10秒にして測定時間をストップウォッチにて測定する。	10±1(sec)以内	
9．保守機能確認 9.1　ランプテスト 9.2　点検動作 9.3　ＢＧ測定動作 9.4　効率測定動作	別添のテンキー操作方法により各テスト機能が正常に動作することを確認する。	各保守機能が確認できること	
１０．アラーム機能 10.1　アラーム動作試験 10.2　アラーム設定値	別添のテンキー操作方法により各アラーム機能が正常に動作することを確認する。 点検前の警報設定値に設定されていることを確認する。	各アラーム機能が確認できること 点検前の設定値であること	
１１．使用ＧＭ管の判定	^{90}Sr（チェックソース）17K を使用して高圧印加電圧と計数との関係を測定する。	プラトー領域　150(V)以上 プラトー傾斜　10(%)/100(V) BG 値　80(cpm)以下	R-303102 ^{90}Sr（チェックソース）17K

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

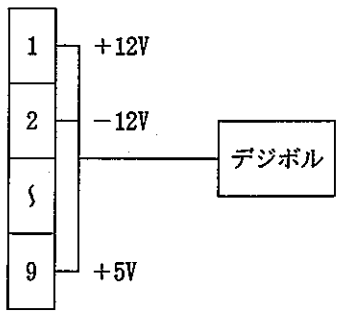
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１２．検出器			
12.1　ＢＧの測定	使用状態において手・足及び衣服のＢＧを計数値から読み取る。	アラーム設定値以下であること	
12.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数がないこと	
12.3　計数効率の測定	使用状態において、＊規定線源を各検出器に密着させ、次式から計数効率を求める。 計数効率(%) ＝ カウント（ｃｐｍ）×１００ ／ 規定線源（ｄｐｍ）面積補正値	効率 5(%) 以上	＊ U_3O_8協-714 30400(dpm) 面積補正値 Ｈ）19855(dpm) Ｆ）25058(dpm) 協－1317 Ｃ）9260(dpm)
12.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
１３　レジスタの動作確認	数回測定し、又アラームも発生させてみる。測定回数、アラーム回数をそれぞれカウンタにより積算すること。また手動でリセットできること	正常に動作すること	
１４．動作シーケンスの確認	別添動作シーケンス図通りであることを確認する。	正常に動作すること	
１５．自己診断機能確認	別添に記載されたように動作すること	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

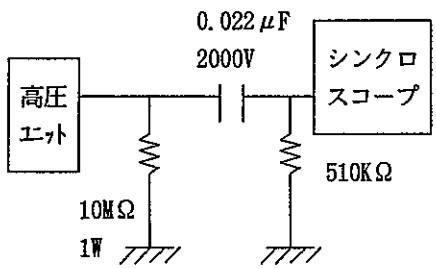
改訂　平成８年３月

機器名	γ 線ハンドフットクロスモニタ	型　名	MH－１０５	メーカ名	ＪＲＥＣ㈱
検査名	総合検査	施設名	再処理施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、各検出器のマイラ膜の破損などを点検する。特にマイラ膜の汚れがひどい時には交換のこと。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)マイラ膜に破損等のないこと	
２．ＡＣ電源絶縁試験	電源スイッチをＯＮにし、ＡＣプラグインとＧＮＤ間に 500Ｖメガーを接続し、絶縁抵抗を測定する。	50(MΩ) 以上	
３．低圧電源出力電圧	電源スイッチをONにし、正面ハモニカ端子に下記接続をし各出力電圧を測定する。  ﾊﾓﾆｶ端子	+12(V)　±0.2(V) −12(V)　±0.2(V) + 5(V)　±0.2(V)	
４．高圧電源 4.1　検出器印加電圧	検出器に印加されている電圧をＨ・Ｖ OUT CHECK 端子より測定する。	検出感度及びＢＧ値を考慮して印加電圧を設定する 目安値　800(V)	
4.2　高圧出力可変範囲	高圧出力調整用ボリュームを可変し、その出力電圧が基準値を満足し、可変することを確認する。	500V以下～1000V 以上可変が可能であること	

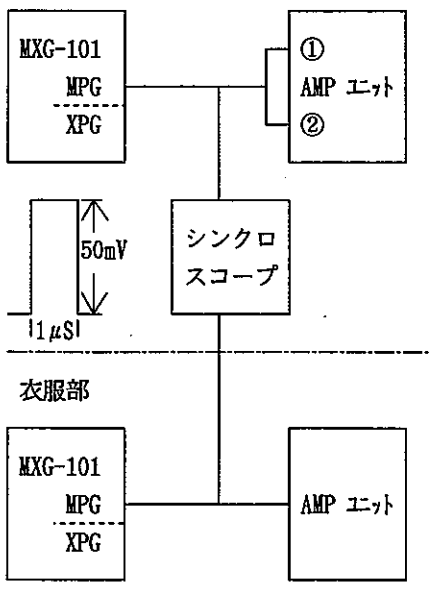
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.3　リップル電圧	下記接続にて、出力1000Ｖ時におけるリップル電圧をシンクロスコープで測定する。  	100(mVp-p)以下	
4.4　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
5．制御ユニット 設定機能試験			
5.1　アラームレベルの設定	別添の操作方法により各測定条件が設定可能であることを確認する。	各設定条件が設定可能であること	
5.2　測定時間の設定			
5.3　衣服測定時定数の設定			
5.4　判定表示時間の設定			
6．制御ユニット 表示機能試験			
6.1　経過時間の表示	別添の操作方法により各測定条件等の表示ができることを確認する。	各設定条件等の表示ができること	
6.2　ＢＧ減算測定値の表示			
6.3　ＢＧ値の表示			
6.4　アラームレベルの表示			

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.5　測定時間の表示			
6.6　衣服測定時定数の表示			
6.7　判定表示時間の表示			
6.8　使用回数の表示			
6.9　アラーム発生回数の表示			
7．測定部			
7.1　指示調整	電源スイッチを切り、高圧ユニットの「HV IN SVPPLY」ならび、各部位ＡＭＰユニットの「SIG IN」①②からコネクタを抜き「校正」スイッチを「入」にし、再び電源スイッチを入れ各部位ＢＧ値が０であることを確認したのち、下記測定方法にてＸＰＧより10,100,1000,6000cps をそれぞれ入力し、計数を開始させ表示値から読み取る 〔測定方法〕 手・足部  	10　± 1(cps) 以内 100 ± 1(cps) 以内 1000±10(cps) 以内 6000±60(cps) 以内	使用測定器 ＭＸＧ－１０１

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7.2　アラーム動作試験	前項の測定方法にてアラーム設定値を10, 30, 60cpsにそれぞれ設定し、ＸＰＧよりアラーム設定値と同数パルスを入力し、測定用手部スイッチにて計数させ、アラームブザーが基準値内で吹鳴することを確認する。	±１(cps) 以内	
7.3　測定時間動作試験	使用状態にて10, 30, 60秒各時間を設定し、手部スイッチにて測定を開始させストップウオッチにて測定する。	±0.6(sec)以内	
7.4　測定部の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
8．検出器			
8.1　ＢＧの測定	使用状態において手・足及び衣服のＢＧを計数値から読み取る。	アラーム設定値以下であること	
8.2　ノイズの有無	異常計数の有無を確認する。	異常計数のないこと	
8.3　検出器感度試験	使用状態において* 規定線源を各検出器の中央グリッド面にて照射させ、次式から検出感度を求める。 検出感度(%) ＝ $\dfrac{3\sqrt{\dfrac{\text{ＢＧ値}}{\text{１０秒}}\times\text{規定線源強度}}}{\text{計数値} - \text{Ｂ・Ｇ値}}$	手足部 3.7 × 10^2Bq以下 衣服部 1.9 × 10^2Bq以下	^{60}ＣＯ 3.7KBq (0.1μci)
8.4　検出器の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
9．表示部動作の確認	動作シーケンスに従い正常に表示ならび動作することを確認する。	正常に動作すること	
9.1　READT 表示動作			
9.2　液晶測定時間表示動作			

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9.3 COUNTER IN OPERETION表示動作			
9.4 測定部位表示動作			
9.5 OK表示動作			
9.6 CONTAMI NATION表示動作			
9.7 汚染部位表示動作			
9.8 BZ RESET動作			
10. アラーム設定値	点検前のアラーム設定値に設定されていることを確認する。	点検前の設定値であること	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

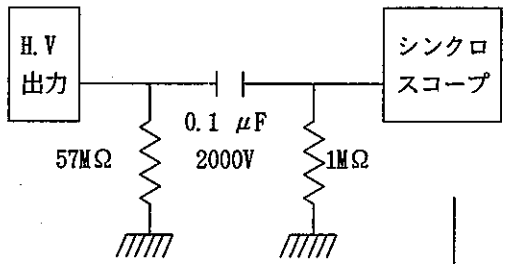
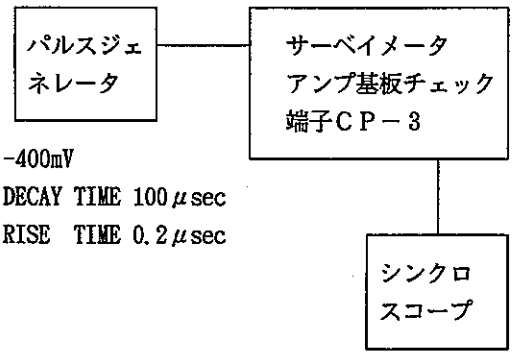
改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳ（Ａｇ）α線サーベイメータ	型　名	ＴＣＳ－２１５共通	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損，ネジのゆるみ，検出系の接触不良を点検する。マイラ膜に汚れ又は破損等があるときは交換する。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみのないこと 4)接触不良のないこと 5)マイラ膜に破損等のないこと	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＯＮにし、ＢＡＴＴチェックボタンを押し指針がグリーンベルト内に入ることを確認する。 スイッチＯＮの状態で、電池電圧を測定する。	グリーンベルト内であること 5.0(V)以上	
2.2　電圧範囲	バッテリケースから電池を取り出し、安定化電圧を用いて、指針がグリーンベルトの下限を示した時の値を測定する。	4.5 ± 0.5(V)	
2.3　安定化出力電圧	上記の状態で，チェック端子ＣＰ－２、ＣＰ－３から安定化出力電圧が正常に出力していることを確認する。	5.0 ～7.0(V)　(CP-3) −4.5 ～−7.0(V) (CP-2)	
2.4　低圧電源の良否	バッテリーケース等に破損、腐食等のないこと。また以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	検出器をつないだ状態で、ＨＶ測定器にて高圧を測定する。 （入力インピーダンス1000 MΩ以上の測定器を使用のこと。）	実数効率及びγ感度を考慮して印加電圧を設定する。 なお、目安として、購入時の印加電圧を参考とする	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を下記の接続にて測定する。 設定ＨＶ　１０００Ｖ ダミロード　５７ＭΩ 	100(mVp-p)以下	
3.3　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．アンプゲイン調整	本体ＰＣ板Ｊ１０，Ｊ１１間の接続をはずしＪ１０より下記の接続にてアンプアウト出力を確認する。 	6 倍～7 倍	
5．検出部入力感度	上記の接続にてパルスジェネレータ入力波高を *－３００（ｍＶ）に下げシンクロスコープを本体チェック端子ＣＰ－１に接続し、ＤＩＳＣＲ　ＡＤＪ　ＲＶを可変させ波形が消えるぎりぎりの所に調整する。	*－300(mV) ±10% 以内	＊Ｂタイプのみ －100(mV) ±10% 以内

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アンプアウト波高	検出器に規定線源を装着した時のアンプアウト波高をAMP OUT 端子ＣＰ－３にて測定する。	3.5(V)以上	
7．実数効率	下記の接続にて、×１０のレンジでパルスジェネレータより18000cpmを供給し、レンジ用ＲＶ、メータＣＡＬ　ＲＶにてメータ値を18000cpmに調整する。 パルスジェネレータ ― 502P 3KV ― H.V OUT　サーベイメータ 調整が終了したら検出器を接続し、規定線源* を検出器に密着させ、次式から実数効率を求める。 実数効率（%）＝ メータ値（ｃｐｍ）×１００ ／ 規定線源（ｄｐｍ）面積補正値	10(%) 以上	＊U_3O_8　協－1531 37800(dpm) 面積補正値 32886(dpm)
8．計数効率	×１００のレンジで、規定線源を検出面に密着させ、メータの振れが規定線源の値になるようにレンジ用ＲＶ、メータＣＡＬＲＶにて調整する。	100(%)に設定	
9．指示調整	８項の接続にて×１００のレンジでパルジェネより18000cpmを供給し、* 指示値を確認する。 ＊指示値＝ 計数効率(100%) ／ 実数効率（%） ×18000（cpm） 次に、パルジェネの周波数を上記の値の１／１００、１／１０、１０倍とした時、メータの指示値が、×100 レンジで18000 cpm を供給した時の指示値の１／１００、１／１０、１０倍となるように、それぞれ×１、×１０、×１Ｋの各レンジＲＶを調整する。	指示値の±10% 以内	Ｅタイプ、Ｆタイプはmin^{-1}表示あり

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１０．計数音の確認	前項において、×１レンジにてパルスジェネレータより６０ｃｐｍを供給し、スピーカーの計数音が６０音／ｍｉｎであることを確認する。	正常に動作すること	
１１．計数チェック	検出面に規定線源を当ててむらなく計数することを確認する。	正常に動作すること	
１２．ノイズの確認	測定状態においてノイズのないことを確認する。	3（cpm）以下	
１３．γ感度の確認	＊^{60}Ｃｏ（１０ｍＲ／ｈ）で計数しないこと。	γ感度のないこと	＊Co-60 Co6/502 R-102032 3.7MBq(100μCi)

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

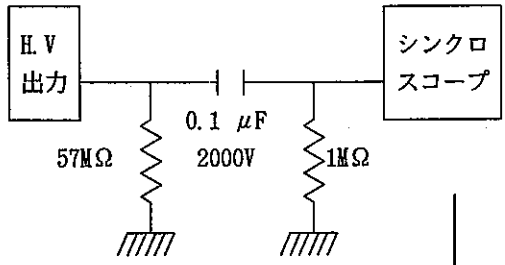
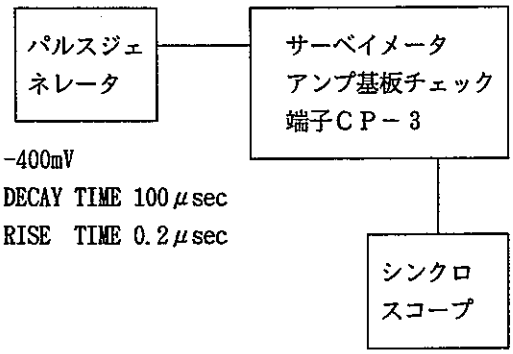
改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳ（Ａｇ）α線サーベイメータ	型　名	ＴＣＳ－２１５共通	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査		（γ）感度低減化対策分	施設名	Ｐｕ―３

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損，ネジのゆるみ，検出系の接触不良を点検する。マイラ膜に汚れ又は破損等があるときは交換する。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみのないこと 4)接触不良のないこと 5)マイラ膜に破損等のないこと	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＯＮにし、ＢＡＴＴチェックボタンを押し指針がグリーンベルト内に入ることを確認する。 スイッチＯＮの状態で、電池電圧を測定する。	グリーンベルト内であること 5.0(V)以上	
2.2　電圧範囲	バッテリケースから電池を取り出し、安定化電圧を用いて、指針がグリーンベルトの下限を示した時の値を測定する。	4.5 ± 0.5(V)	
2.3　安定化出力電圧	上記の状態で，チェック端子ＣＰ－２、ＣＰ－３から安定化出力電圧が正常に出力していることを確認する。	5.0 ～7.0(V)　(CP-3)	
2.4　低圧電源の良否	バッテリーケース等に破損、腐食等のないこと。また以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	検出器に印加する電圧はプラトーの開始電圧とし、検出器をつないだ状態でＨＶ測定器にて高圧を測定する。 （入力インピーダンス1000 MΩ以上の測定器を使用のこと。）	プラトー特性試験により印加電圧を設定し、実数効率及びγ感度についても考慮すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を下記の接続にて測定する。 設定ＨＶ　１０００Ｖ ダミロード　５７ＭΩ  	100(mVp-p)以下	
3.3　高圧電源の良否	以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
4．アンプゲイン調整	本体ＰＣ板Ｊ１０，Ｊ１１間の接続をはずしＪ１０より下記の接続にてアンプアウト出力を確認する。  	6 倍～7 倍	
5．検出部入力感度	上記の接続にてパルスジェネレータ入力波高を下げシンクロスコープを本体チェック端子ＣＰ－１に接続し、ＤＩＳＣＲ　ＡＤＪ　ＲＶを可変させ波形が消えるぎりぎりの所に調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アンプアウト波高	検出器に規定線源を装着した時のアンプアウト波高をAMP OUT 端子ＣＰ－３にて測定する。	3.5(V)以上	
7．γ感度低減化の為のフォトマルの判定			
7.1　プラトー特性試験	規定線源* を使用して高圧印加電圧と計数との関係を測定する。	プラトー領域 150(V) 以上	
7.2　γ感度の確認	^{241}Ａｍ（１ｍＳＶ）で異常計数のないこと。 ※ 7.1, 7.2 項のいずれかで否となる場合には、フォトマルを交換すること。	γ感度のないこと	
8．実数効率	下記の接続にて、×１０のレンジでパルスジェネレータより18000cpmを供給し、レンジ用ＲＶ、メータＣＡＬ　ＲＶにてメータ値を18000cpmに調整する。 パルスジェネレータ ―― 502P 3KV ―― H.V OUT　サーベイメータ 調整が終了したら検出器を接続し、規定線源* を検出器に密着させ、次式から実数効率を求める。 実数効率（%）＝ メータ値（ｃｐｍ）×１００ ／ 規定線源（ｄｐｍ）面積補正値	10(%) 以上	＊U_3O_8　協－1531 37800(dpm) 面積補正値 32886(dpm)

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．計数効率	×１００のレンジで、規定線源を検出面に密着させ、メータの振れが規定線源の値になるようにレンジ用ＲＶ、メータＣＡＬＲＶにて調整する。	100(%)に設定	
１０．指示調整	８項の接続にて×１００のレンジでパルジェネより18000cpmを供給し、＊指示値を確認する。 ＊指示値＝ 計数効率(100%) / 実数効率（%） ×18000（cpm） 次に、パルジェネの周波数を上記の値の１／１００、１／１０、１０倍とした時、メータの指示値が、×100 レンジで18000 cpm を供給した時の指示値の１／１００、１／１０、１０倍となるように、それぞれ×１、×１０、×１Ｋの各レンジＲＶを調整する。	指示値の±10% 以内	Ｅタイプ、Ｆタイプはｍｉｎ$^{-1}$表示あり
１１．計数音の確認	前項において、×１レンジにてパルスジェネレータより６０ｃｐｍを供給し、スピーカーの計数音が６０音／ｍｉｎであることを確認する。	正常に動作すること	
１２．計数チェック	検出面に規定線源を当ててむらなく計数することを確認する。	正常に動作すること	
１３．ノイズの点検	測定状態においてノイズのないことを確認する。	３（ｃｐｍ）以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	ＺｎＳ（Ａｇ）α線サーベイメータ	型　名	ＰＡＣ－１ＳＡＧＡ	メーカ名	エバーライン
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	本体外部、内部の清掃及び部品の破損，ネジのゆるみ，検出系の接触不良を点検する。マイラ膜に汚れ又は破損等があるときは交換する。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみがないこと 4)接触不良のないこと 5)マイラ膜に破損等のないこと	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＯＮにし、ＢＡＴＴチェックボタンを押し指針がグリーンベルト内に入ることを確認する。 スイッチＯＮの状態で、電池電圧を測定する。	グリーンベルト内であること 5.5(V) 以上	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り出し、安定化電圧を用いて指針がグリーンベルトの下限を示した時の値を測定する。	5.0±0.5(V)以内	
2.3　低圧電源の良否	バッテリーケース等に破損，腐食等のないこと。また以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧接栓にＨＶ測定器を接続し、無負荷時及び負荷時（検出器をつないだ状態）の高圧電圧を測定する。 （入力インピーダンス 1000MΩ以上の測定器を使用のこと。）	1240±50(V) 以内（R-268） （無負荷時）	
3.2　リップル電圧	負荷時のＨＶに含まれているリップル電圧を *ＡＭＰ入口部にて測定する。	30(mVp-p) 以下	*C2 0.001μF と R6 12kΩの間にて測定する。

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.3　負荷変動率	4.1 項の値より下記の式で算出する。 $\frac{\text{（無負荷）－（負荷）}}{\text{（無負荷）}} \times 100\ (\%)$	±4(%)以内	
3.4　高圧電源の良否	以上の結果から総合的に判断する。	各項目について異常がないこと	
4．実数効率	下記の接続によって×１０のレンジで、パルジェネより１８０００cpm を供給し、レンジ用ＲＶにて、メータ値を１８０００cpm に調整する。 パルジェネ（負出力）―┤├―測定器本体 0.0022μF 2.5kwV 調整が終了したら検出器を接続し、＊規定線源を検出器に密着させ次式から実数効率を求める。 $\text{実数効率(\%)} = \frac{\text{メータ値(cpm)} \times 100}{\text{規定線源(dpm) 面積補正値}}$	10(%) 以上	＊U_3O_8　協－1531 37800(dpm) 面積補正値 30618(dpm)
5．検出部入力感度	５の調整が終了後、以下の条件を満足するように、ＤＩＳＣＲＩ　ＡＤＪ　ＡＣ－３を調整する。 １）ノイズを計数しないこと(3cpm 以下) ２）^{*60}Co(10mR/h) を照射しても計数しないこと。 ３）規定線源に対して検出面が平均に計数すること。 ４）パルジェネの波高を変化させて、計数を始めた時のパルジェネの出力値をシンクロスコープで測定し、その値が-100(mV)以下であること。 調整した場合は、再度実数効率を測定する。	-100(mV) 以下	*Co-60　Co6/502 R-102032 3.7MBq(100μCi)

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

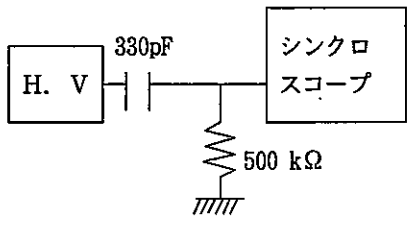
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．計数効率	×１００のレンジで規定線源を検出面に密着させ、メータの振れが規定線源の値になるように、レンジ用ＲＶにて調整する。	100(%)に設定	
7．指示調整	５項の接続にて×１００のレンジでパルジェネより18000cpmを供給し、＊指示値を確認する。 ＊指示値＝ $\frac{\text{計数効率（100%）}}{\text{実数効率（%）}}$ ×18000（cpm） 次に、パルジェネの周波数を上記の値の１／１００、１／１０，１０倍とした時、メータの指示値が、×100 レンジで18000 cpm を供給した時の指示値の１／１００、１／１０、１０倍となるように、それぞれ×１、×１０、×１Ｋの各レンジＲＶを調整する。	指示値の±10(%) 以内	
8．計数音の確認	前項において、×１レンジにて、パルスジェネレータより６０ｃｐｍを供給し、スピーカーの計数音が６０音／ｍｉｎであることを確認する。	正常に動作すること	
9．計数チェック	検出面に規定線源を当ててむらなく計数することを確認する。	正常に動作すること	
１０．ノイズの点検	測定状態においてノイズがでていないことを計数音にて確認する。	3(cpm)以下	
１１．γ感度の確認	^{60}Ｃｏ（10 mR/h)で計数しないこと。	γ感度のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

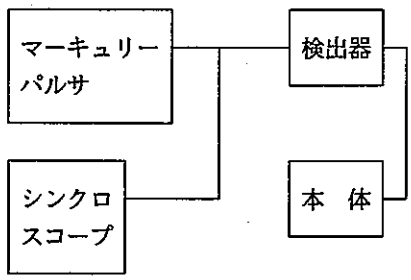
改訂　平成8年3月

機器名	エアプロα線サーベイメータ	型　名	TPS－203	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．目視点検・清掃	装置内部、外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜の破損、コネクタ部の接触不良を点検する。	1)清掃されていること 2)部品の破損のないこと 3)ネジのゆるみのないこと 4)マイラ膜の破損のないこと 5)接触不良のないこと	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＯＮにし、ＢＡＴＴ位置に切り換えて指針がグリーンベルト内に入ることを確認する。 スイッチＯＮの状態で、電池電圧を測定する。	グリーンベルト内であること 5.0(V)以上	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り出し、安定化電源を用いて指針がグリーンベルト内の下限を示した時の値を測定する。	4.6 ±0.2(V)	
2.3　低圧電源の良否	バッテリーケース等に破損，腐食等のないこと。また、以上の結果より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	
3．高圧電源			
3.1　検出器	ＨＶ測定器にて高圧電圧を測定する。	1900±50(V)	
3.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を下記の接続にて測定する。  	20(mVp-p)　以下	
3.3　高圧電源の良否	以上の結果から総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．検出部入力感度	下記の接続にてマーキュリーパルサを可変させてメータ指針が振れ始まる点で測定する。 前置増幅器 TEST端子  	-25(mV) ±5(mV)	
5．指示調整	指示調整は検出器の実数効率が１０（%）としてメータ指示を１００（%）になるように調整する。なお、５項の接続にて入力はパルスジェネレータにておこなう。	各レンジともF.S ±10(%)以内	
	（注）５．６項の測定、調整を行う際は、高圧電源ユニットを抜いてから行うこと。コンデンサの充電を放電させてから行う。		
6．実数効率測定	*規定線源を使用し、次式から検出器の実数効率をもとめる。 $\text{実数効率(\%)} = \frac{\text{メータ指示値}\times 1/10(\text{cpm})}{\text{*規定線源(dpm)}} \times 100$	8(%) 以上	＊U_3O_8　協－778 25440(dpm) 面積補正値 11406(dpm)

レンジ	入力	メータ指示値	調整箇所
×100	6000cpm	60000cpm	RV5
×10	600cpm	6000cpm	RV4
×1	60cpm	600cpm	RV3

整理番号		3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．計数音の確認	規定線源を用いて計数させ、スピーカから計数音が発することを確認する。	正常に動作すること	
8．ノイズの確認	測定状態においてノイズのないことを確認する。	3(cpm)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／9

改訂　平成8年3月

機器名	ゲートモニタ	型　名	MGM－221B	メーカ名	JREC
検査名	総合検査	施設名	再処理（CB・TVF施設）		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	ゲート本体，監視盤等の外部・内部の清掃及び部品・膜の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品・膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．バックグラウンド指示値の確認	点検前の各部位のバックグラウンド指示値を記録する。	250(cps)以下	
3．点検前の設定値の確認	点検前の各部位の設定値をデータ及びデータ処理部より確認する。 3.1 測定時間　⇨　10秒設定 3.2 検出効率　⇨　前回の設定値であること 3.3 標準偏差の倍率 ⇨　倍率　K＝5設定 3.4 汚染レベル　⇨　読み値 3.5 P.P 警報レベル (1)　測定時自動　⇨　読み値 (2)　BG時自動　⇨　読み値 3.6 検出器汚染レベル　⇨　読み値		
4．高圧電源の確認	高圧電源の設定値を確認する。	900(V)±1(%)以内	
5．低圧電源の確認 5.1 出力電圧	低圧電源の下記出力電圧をデジボルにて測定する。 PS1：+5(V) ±12(V) PS2：+12(V) PS3：±12(V)	各電圧の±5(%)以内	
5.2 リップル電圧	上記の電圧におけるリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
6．電圧モニタ動作の確認			
6.1 設定電圧の確認	PS3 の低圧電源を調整用トリマ抵抗(+12V:VR3,-12V:VR4) により徐々に下げていき、異常信号が出た時の電圧をデジボルにより測定する。 高圧電源を調整用トリマ抵抗(HV_1:VR1, HV_2:VR2)により徐々に下げていき，異常信号が出た時の電圧を高圧用デジボルにより測定する。	+12(V)：+11.4(V)±5(%) -12(V)：-11.4(V)±5(%) 900(V)時： 810(V)±1.0(%)	
6.2 異常信号動作の確認	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」通り動作すること。	
7．指示精度試験	データ設定パネルのモード「校正測定時間」を10秒に設定し、次にモードを「計数テスト」にし、「点検」スイッチを「入」にしたら、各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレータを用いて、2×10^1、2×10^2、2×10^3 とそれぞれ入力し、「スタート」ボタンを押し、表示器に表示された計数値（グロス値）を記録する。	入力値の±1(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内	
8．バックグラウンドの確認	各部の回路試験終了後、正常に動作させバックグラウンド値を測定し記録する。	250(cps)以下	
9．β線検出効率の測定	下記手順にてβ線検出効率の測定を行う。 ① データ設定パネルのモード「校正測定時間」を10秒に設定する。 ② モードを「計数テスト」にする。 ③ 「点検」スイッチを「入」にする。 ④ 各部位の検出器に線源をあて「スタート」ボタンを押す。 ⑤ 表示器に計数値（グロス値）が表示される。 この測定を検出器の上、中、下の3回行ない、その平均値を部位の計数値とする。尚。部位11の両足裏は左、右の上・中・下の6回測定し、その平均値を部位11の計数値とする。	効率：15(%)以上 定数：6.6 以下	使用線源：U_3O_8 （協－715） β線換算値 567(cps)

点検整備技術要領書

整理番号		3／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	下記式より各部位の計数効率及び定数を算出する。 $計数効率 = \frac{計数値 - B.G値}{線源値}$ $定数 = \frac{1}{計数効率}$		
10. β線検出感度の測定	9項目のβ線検出効率の測定と同時にβ線検出感度を下記式で算出する。 $Ai = \left\{ 3\sqrt{Bi/T}/(Ni-Bi) \right\} \times \frac{Co}{Vi}$ Ai：β線検出感度 Bi：バックグラウンド値(cps) T：測定時間(10sec) Ni：線源による計数値(cps) Vi：各部位の検出面積 Co：β線放射能強度567(Bq)	0.37(Bq/cm²)以上	＊各部位の検出面積 V_1 ：720(cm²) V_2 ：720(cm²) V_3 ：140(cm²) V_4 ：140(cm²) V_5 ：140(cm²) V_6 ：140(cm²) V_7 ：590(cm²) V_8 ：720(cm²) V_9 ：720(cm²) V_{10} ：720(cm²) V_{11} ：280(cm²)
11. 計算式の確認	ゲートモニタで計算したβ線検出感度値と、計算で求めた値の差を確認する。	±30(%)以内	
12. 各警報動作の確認 12.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	下記手順にて警報設定誤差試験を行う。 ① 各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタより100(cps)を入力する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変する。 ④ 測定動作において汚染警報が発生する時のパルスジェネレタ入力値を確認する。	116 ±1 (cps) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	警報設定値は次の式より算出する $AL=B\cdot G+K\sqrt{\frac{B\cdot G}{T}}$ AL: 警報設定値(cps) K :標準偏差の倍数5 T :測定時間10秒 B･G:バックグラウンド値(cps)		
(2) 警報動作の確認	別添の「汚染警報動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「汚染警報動作シーケンス表」通り動作すること。	
12.2 P.P警報 (測定時自動)			
(1) 警報設定誤差試験	下記手順にて警報設定誤差試験を行う。 ① 各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタより100(cps)を入力する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変する。 ④ 測定動作においてP．P警報が発生する時のパルスジェネレタ入力値を確認する。 警報設定値は次の式より算出する $AL=B\cdot G+K$ AL：警報設定値(cps) K：標準偏差の位数30 T：測定時間10秒 B･G:バックグラウンド値(cps)	ＣＢ施設： 164±1(cps)以内 ＴＶＦ施設： 195±1(cps)以内	＊点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし0（接続しない）に設定する。
(2) 警報動作の確認	別添の「P．P警報（測定時自動）動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「P．P警報（測定時自動）動作シーケンス表」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
12.3 P．P警報 （B．G時自動） (1) 警報設定誤差試験	下記手順にて警報設定誤差試験を行う。 ① 各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタより100(cps)を入力する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変する。 ④ 測定動作においてP．P警報が発生する時のパルスジェネレタ入力値を確認する。 警報設定値は次の式より算出する。 AL＝B･G+K AL：警報設定値(cps) K：標準偏差の倍数20(TVF:30) T：測定時間1秒 B･G:バックグラウンド値(cps)	ＣＢ施設： 300±1(cps)以内 ＴＶＦ施設： 400±1(cps)以内	点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし「0」（接続しない）に設定する。
(2) 警報動作の確認	別添の「P．P警報（ＢＧ時自動）動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「P．P警報（ＢＧ時自動）動作シーケンス表」通り動作すること。	
12.4 検出器汚染動作の確認	下記手順にて警報動作試験を行う。 ① 部位11のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタを接続する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変し、検出器汚染警報を発生させる。 ④ 別添の「検出器汚染動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「検出器汚染動作シーケンス表」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		6／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
12.5　故障警報動作の確認			
(1)　計数率０ｃｐｓ時の動作確認	部位８のコインシデンスの入力コネクタを抜くことにより、計数率0(cps)にし測定した時、別添の「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作する。	別添の「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	
(2)　計数率１０００００ｃｐｓ時の動作確認	部位８のコインシデンスＩＮにパルスジェネレータにより、計数率10^4(cps)を入力し測定した時、別添の「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作する。	別添の「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	
(3)　ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作確認	ゲートＡ制御部、ゲートＢ制御部、頭部検出器制御部のＪ３コネクタをそれぞれ抜き、別添の「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	別添の「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケス表」通りに動作すること。	
13.　関連動作の確認			
13.1　ゲート開閉動作の確認			
(1)　監視パネル　スイッチ	監視パネルの手動開閉スイッチにより、ゲートの開閉動作を確認する。	正常に動作すること	
(2)　データ設定パネル　スイッチ	データ設定パネルの手動開閉スイッチによりゲートの開閉動作を確認する。	正常に動作すること	
13.2　頭検出器駆動部			
(1)　動作の確認	データ設定パネルの頭手動スイッチにて頭検出器の上昇、下降動作がスムーズに行なわれ、異常音がないこと	正常に動作すること	
(2)　停止位置の確認	頭検出器の上限、下限の高さを測定する。	測定値	
13.3　測定動作の確認（光電スイッチ）	手部、頭部、人体部の各々の光電スイッチが動作することを確認する。	正常に動作すること	
13.4　正常測定動作の確認	別添の「正常測定シーケンス表(1)」により動作を確認する。この動作確認をゲートＡ・Ｂ両方行う。	別添の「正常測定シーケンス表(1)」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		7／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
13.5　一回目汚染再測定後正常測定動作の確認	別添の「正常測定シーケンス表(2)」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「正常測定シーケンス表(2)」通り動作すること。	
13.6　汚染測定動作の確認			
(1)　汚染時ゲート駆動選択自動	データ設定パネルの汚染時ゲート駆動選択の設定が「0」になっていることを確認後、別添の「汚染測定シーケンス表(1)」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「汚染測定シーケンス表(1)」通り動作すること。	
(2)　汚染時ゲート駆動選択手動	データ設定パネルの汚染時ゲート駆動選択の設定が「1」になっていることを確認後、別添の「汚染測定シーケンス表(2)」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「汚染測定シーケンス表(2)」通り動作すること。	
13.7　P.P 警報測定動作の確認	別添の「P.P 警報シーケンス表（測定時）」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「P.P 警報シーケンス表（測定時）」通り動作すること。	点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし「0」（接続しない）に設定する。
13.8　通過異常動作の確認			
(1)　ゲート開後通過信号なし	別添の「通過異常動作(1)シーケンス表」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「通過異常動作(1)シーケンス表」通り動作すること。	
(2)　測定終了後通過信号なし	別添の「通過異常動作(2)シーケンス表」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「通過異常動作(2)シーケンス表」通り動作すること。	
13.9　不正通過動作の確認	ゲートのこじ開け等による正常通過方法以外の方法にてゲート通過する事を試み、別添の「不正通過動作シーケンス表」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「不正通過動作シーケンス表」通り動作すること	点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし「0」（接続しない）に設定する。

点検整備技術要領書

整理番号		8／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
14. 積算値リセット動作の確認	データ設定パネルにて、モードを「積算値リセット」にし点検「スタート」スイッチを押すことにより、入域者数、退域者数、測定回数、警報回数、部位警報回数、最高汚染値が「0」にクリアされることをデータ設定パネル及びデータ処理部(CRT)F2 にて確認する。	正常に動作すること	この点検を行う時は，放管員に連絡してから行うこと。
15. 表示器テスト動作の確認	データ設定パネルにて、点検「入」にし、モードを「ランプテスト」にした後、点検「スタート」スイッチを押すことにより、ゲートモニタ全ての表示器が5秒間点灯することを確認する。	全ての表示器が点灯すること。	
16. ブザーテスト動作の確認	データ設定パネルにて、点検「入」にし、モードを「ブザーテスト」にした後、点検「スタート」スイッチを押すことにより5秒間ブザーが吹鳴すること及び監視パネルの点検中ランプが点灯すること。	点検中ランプ点灯及びブザーが吹鳴すること。	
17. データ設定パネルモード表示ランプの確認	データ設定パネルのモード表示ランプのNo1,2,4,6,7,8 のランプが点灯していること、またNo3,5 が消灯していることを確認する。	正常に動作すること。	
18. PC/ ゲートモニタ伝送内容の確認	データ設定部とデータ処理部が下記の内容と同じであることを確認する。 (1) 効率　V_1～V_{11} (2) 測定時間　10秒 (3) 標準偏差の倍数　K＝5.0 (4) B.G 計数率（自動） (5) 汚染警報レベル（自動） (6) 測定時P.P 警報レベル（自動） (7) ホストコンピュータ（接続） (8) 頭部検出器（自動） (9) 汚染時ゲート（手動）	同じなこと	

点検整備技術要領書

整理番号		9／9

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
19. 非常時全扉開閉動作	再処理ＣＢ施設更衣室裏にある分岐ボックスの端子ＴＢ；54,55 を短絡させ、臨界警報の信号と同様な信号を入力することにより全ゲートが開くことを確認する。 また、臨界警報吹鳴試験の時、全ゲートが開くことを確認する。	ゲートが開くこと。	

正常測定シーケンス表 (1)				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常なし」		扉開	「測定中」消灯	
		通過		
消灯		扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

正常測定シーケンス表　(2)				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
	通　過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常なし」		扉　開	「測定中」消灯	
消　灯		通　過		
		扉　閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

汚染測定シーケンス表　　扉手動「開」の時　1/2

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
	通　過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」ブザー 「警報部位」			「測定中」消灯 「汚染警報」ランプ 警報ブザー プリント	
「汚染値」 「汚染部位」				
汚染部位が2箇所以上の時の汚染値表示要求				

汚染測定シーケンス表　　扉手動「開」の時　2/2				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
「汚染値」 「汚染部位」				
			汚染警報リセット	
			「汚染警報」消灯 ブザー停止	
			ゲートA手動「開」	
	扉開			
	通過		ゲートA手動「閉」	
	扉閉			
	「使用可能」	「使用可能」		

汚染測定シーケンス表　データ設定盤「999」の時　1/2

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」ブザー 「警報部位」			「測定中」消灯 「汚染警報」ランプ 警報ブザー プリント	
「汚染値」 「汚染部位」				
汚染部位が2箇所以上の時の汚染値表示要求				

汚染測定シーケンス表　データ設定盤「999」の時　2/2

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
「汚染値」 「汚染部位」				
			汚染警報リセット	
			「汚染警報」消灯 ブザー停止	
	扉開			
	通過			
	扉閉			
	「使用可能」	「使用可能」		

ゲート非通過動作(1)　シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
			「故障」ﾗﾝﾌﾟ･ﾌﾞｻﾞｰ	
			故障警報リセット	
			「故障」ランプ消灯 ブザー停止	
				ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
	扉　閉		〔「故障」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 ブザー停止〕	
	「使用可能」	「使用可能」		

ゲート非通過動作(2)シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常なし」		扉開	「測定中」消灯	
				ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
			「故障」ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ	
			故障警報リセット	
			「故障」ランプ消灯 ブザー停止	
				ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
		扉閉	「故障」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 ブザー停止	
	「使用可能」	「使用可能」		

計数率0 cps時シーケンス表(1/2)				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」 もしくは「0 cps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用 して下さい」		
	扉　開			
	通　過			
「測定可」	「他のゲートを使用 して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットし て下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」 「警報部位」			「測定中」消灯 「汚染警報」ランプ 警報ブザー プリント	
			故障警報リセット	
			「故障警報」消灯 ブザー停止	

計数率0cps時シーケンス表(2/2)

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
			ｹﾞｰﾄA(B)手動「開」	
	扉　開	(扉　開)		
	通　過	(通　過)	ｹﾞｰﾄA(B)手動「閉」	
	扉　閉	(扉　開)		
	「しばらくお待ち下さい」	「しばらくお待ち下さい」		
				CPUの電源を断し，再び投入する。
	「使用可能」	「使用可能」		

ゲート非通過動作(3)－ａシーケンス表				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉閉			
				測定者がいない時，開扉スイッチ信号「OK」より3分後に「使用可能」となる。

ゲート非通過動作(3)－ｂシーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
				測定を中止する。
「測定可」			「測定中」消灯	
				測定者が退去してしまった時，開扉スイッチ信号「OK」より3分後に「使用可能」とする。

非常開スイッチ動作シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
開ボタン押す				
	扉開	扉開		
	「他のゲートを使用して下さい」	「他のゲートを使用して下さい」		
	通過	（通過）		（通過なき場合は25秒後）
	扉閉	扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

計数率10^4cps時シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」 又は「10^4cps以上」	
開ボタン押す				
	扉開	扉開		
	「他のゲートを使用して下さい」	「他のゲートを使用して下さい」		
	通過	(通過)		
	扉閉	扉閉		
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」 「警報部位」			「測定中」消灯 「故障警報」ランプ 故障ブザー・プリント	高圧電源「断」
			故障警報リセット	
			「故障警報」消灯 ブザー停止	

P・P測定シーケンス表				①測定中
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
.開ボタン押す				
	扉開	扉開		
	「他のゲートを使用して下さい」	「他のゲートを使用して下さい」		
	通過	(通過)		
	扉閉	扉閉		
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」表示・ブザー 「汚染部位」ランプ 「汚染量」表示 〔汚染が2ケ所以上の時は汚染量表示要求〕			「測定中」消灯 「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「測定cps」 BG異常ランプ	
			手動ゲート開閉及び非常開スイッチによりリセット	
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ランプ 「汚染量」表示 消灯			「警報ランプ」消灯 「警報ブザー」停止 「故障ランプ」消灯 「故障ブザー」停止	
	通過	(通過)		
	扉閉	扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

P・P測定シーケンス表				②BG変動
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
ブザー			「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「プリント」 BG異常ランプ	
			手動ゲート開閉及び非常開スイッチによりリセット	
ブザー停止			「警報ランプ」消灯 「警報ブザー」停止 「故障ランプ」消灯 「故障ブザー」停止 BG異常ランプ消灯	
	通過	(通過)		
	扉閉	扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

警報動作シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
				中央演算処理ユニットのスイッチをONにし「RESET」ボタン押す
「測定可左右センサーを指でふさいで下さい」 「異常なしお通り下さい」 「異常お待ち下さい」 「汚染量CONTAMINATION」 「再測定リセットして下さい」 「汚染部位①～⑧」	「使用可能」 「他のゲートを使用して下さい」 「しばらくお待ち下さい」	「使用可能」 「他のゲートを使用して下さい」 「しばらくお待ち下さい」	「警報ランプ・ブザー 「故障ランプ・ブザー 「測定中ランプ」 「プリント中ランプ①～④」	ランプ・ブザーが点灯、消灯を5回繰り返す
	「使用可能」	「使用可能」	「B.G cps」	

点検整備技術要領書

整理番号		1／8

改訂　平成8年3月

機器名	ゲートモニタ	型　名	MGM－221B	メーカ名	JREC
検査名	総合検査	施設名	再処理（Z施設）		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	ゲート本体，監視盤等の外部・内部の清掃及び部品・膜の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品・膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．バックグラウンド指示値の確認	点検前の各部位のバックグラウンド指示値を記録する。	250(cps)以下	
3．点検前の設定値の確認	点検前の各部位の設定値をデータ及びデータ処理部より確認する。 3.1 測定時間　⇨　10秒設定 3.2 検出効率　⇨　前回の設定値であること 3.3 標準偏差の倍率 ⇨　倍率　K＝3設定 3.4 汚染レベル　⇨　読み値 3.5 P.P 警報レベル (1)　測定時自動　⇨　読み値 (2)　BG時自動　⇨　読み値		
4．高圧電源の確認	高圧電源のチェック端子の出力電圧を、デジタルボルトメータにて測定する。		
5．低圧電源の確認 5.1 出力電圧	低圧電源の下記出力電圧をデジボルにて測定する。 PS1：+5(V) ±12(V) PS2：+12(V) PS3：±12(V)	各電圧の±5(%)以内	
5.2 リップル電圧	上記の電圧におけるリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。		

点検整備技術要領書

整理番号		2／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
6．電圧モニタ動作の確認			
6.1 設定電圧の確認	PS3 の低圧電源を調整用トリマ抵抗(+12V:VR3,-12V:VR4) により徐々に下げていき、異常信号が出た時の電圧をデジボルにより測定する。 高圧電源を調整用トリマ抵抗(HV_1:VR1, HV_2:VR2)により徐々に下げていき，異常信号が出た時の電圧を高圧用デジボルにより測定する。	+12(V)：+11.4(V)±5(%) -12(V)：-11.4(V)±5(%) 900(V)時： 810(V)±1.0(%)	
6.2 異常信号動作の確認	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」通り動作すること。	
7．指示精度試験	データ設定パネルのモード「校正測定時間」を10秒に設定し、次にモードを「計数テスト」にし、「点検」スイッチを「入」にしたら、各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレータを用いて、2×10^1 、2×10^2 、2×10^3 とそれぞれ入力し、「スタート」ボタンを押し、表示器に表示された計数値（グロス値）を記録する。	入力値の±1(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内	
8．バックグラウンドの確認	各部の回路試験終了後、正常に動作させバックグラウンド値を測定し記録する。	250(cps)以下	
9．β線検出効率の測定	下記手順にてβ線検出効率の測定を行う。 ① データ設定パネルのモード「校正測定時間」を10秒に設定する。 ② モードを「計数テスト」にする。 ③ 「点検」スイッチを「入」にする。 ④ 各部位の検出器に線源をあて「スタート」ボタンを押す。 ⑤ 表示器に計数値（グロス値）が表示される。 この測定を検出器の上、中、下の３回行ない、その平均値を部位の計数値とする。尚。部位11の両足裏は左、右の上・中・下の６回測定し、その平均値を部位11の計数値とする。	効率：15(%)以上 定数：6.6 以下	使用線源：U_3O_8 （協－715） β線換算値 567(cps)

点検整備技術要領書

整理番号		3／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	下記式より各部位の計数効率及び定数を算出する。 $計数効率 = \frac{計数値 - B.G値}{線源値}$ $定数 = \frac{1}{計数効率}$		
10. β線検出感度の測定	9項目のβ線検出効率の測定と同時にβ線検出感度を下記式で算出する。 $Ai = \left\{ 3\sqrt{Bi/T} \Big/ (Ni-Bi) \right\} \times \frac{Co}{Vi}$ Ai：β線検出感度 Bi：バックグラウンド値(cps) T：測定時間(10sec) Ni：線源による計数値(cps) Vi：各部位の検出面積 Co：β線放射能強度567(Bq)	0.37(Bq/cm²)以上	＊各部位の検出面積 V_1 ：720(cm²) V_2 ：720(cm²) V_3 ：140(cm²) V_4 ：140(cm²) V_5 ：140(cm²) V_6 ：140(cm²) V_7 ：590(cm²) V_8 ：720(cm²) V_9 ：720(cm²) V_{10} ：720(cm²) V_{11} ：280(cm²)
11. 計算式の確認	ゲートモニタで計算したβ線検出感度値と、計算で求めた値の差を確認する。	±30(%)以内	
12. 各警報動作の確認 12.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	下記手順にて警報設定誤差試験を行う。 ① 各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタより100(cps)を入力する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変する。 ④ 測定動作において汚染警報が発生する時のパルスジェネレタ入力値を確認する。	110 ±1 (cps) 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	警報設定値は次の式より算出する $AL=B\cdot G+K\sqrt{\frac{B\cdot G}{T}}$ AL: 警報設定値(cps) K :標準偏差の倍数5 T :測定時間10秒 B･G:バックグラウンド値(cps)		
(2) 警報動作の確認	別添の「汚染警報動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「汚染警報動作シーケンス表」通り動作すること。	
12.2 P.P警報 (測定時自動)			
(1) 警報設定誤差試験	下記手順にて警報設定誤差試験を行う。 ① 各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタより100(cps)を入力する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変する。 ④ 測定動作においてＰ．Ｐ警報が発生する時のパルスジェネレタ入力値を確認する。 警報設定値は次の式より算出する $AL=B\cdot G+K$ AL：警報設定値(cps) K：標準偏差の位数30 T：測定時間10秒 B･G:バックグラウンド値(cps)	164±1(cps)以内	＊点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし0（接続しない）に設定する。
(2) 警報動作の確認	別添の「Ｐ．Ｐ警報（測定時自動）動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「Ｐ．Ｐ警報（測定時自動）動作シーケンス表」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
12.3 P．P警報 （B．G時自動） (1) 警報設定誤差試験	下記手順にて警報設定誤差試験を行う。 ① 各部位のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタより100(cps)を入力する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変する。 ④ 測定動作においてP．P警報が発生する時のパルスジェネレタ入力値を確認する。 警報設定値は次の式より算出する。 AL＝B･G+K AL：警報設定値(cps) K：標準偏差の倍数20 T：測定時間1秒 B･G:バックグラウンド値(cps)	300 ±1(cps)以内	点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし「0」（接続しない）に設定する。
(2) 警報動作の確認	別添の「P．P警報（BG時自動）動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「P．P警報（BG時自動）動作シーケンス表」通り動作すること。	
12.4 検出器汚染動作の確認	下記手順にて警報動作試験を行う。 ① 部位11のコインシデンスＩＮにパルスジェネレタを接続する。 ② データ設定パネルのモードを「イニシャル　スタート」にし「スタート」ボタンを押す。 ③ ゲート表示部が「使用可能」になったら、パルスジェネレタ入力値を可変し、検出器汚染警報を発生させる。 ④ 別添の「検出器汚染動作シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「検出器汚染動作シーケンス表」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		6／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
12.5　故障警報動作の確認			
(1)　計数率０ｃｐｓ時の動作確認	部位８のコインシデンスの入力コネクタを抜くことにより、計数率0(cps)にし測定した時、別添の「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作する。	別添の「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	
(2)　計数率１０００００ｃｐｓ時の動作確認	部位８のコインシデンスＩＮにパルスジェネレータにより、計数率10^4(cps)を入力し測定した時、別添の「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作する。	別添の「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	
(3)　ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作確認	ゲートＡ制御部、ゲートＢ制御部、頭部検出器制御部のＪ３コネクタをそれぞれ抜き、別添の「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	別添の「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケンス表」通りに動作すること。	
13.　関連動作の確認			
13.1　ゲート開閉動作の確認	監視パネルの手動開閉スイッチにより、ゲートの開閉動作を確認する。	手動によりゲート開閉されること。	
13.2　頭検出器駆動部			
(1)　動作の確認	データ設定パネルの頭手動スイッチにて頭検出器の上昇、下降動作がスムーズに行なわれ、異常音がないこと	正常に動作すること	
(2)　停止位置の確認	頭検出器の上限、下限の高さを測定する。	測定値	
13.3　測定動作の確認（光電スイッチ）	手部、頭部、人体部の各々の光電スイッチが動作することを確認する。	正常に動作すること	
13.4　正常測定動作の確認	別添の「正常測定シーケンス表(1)」により動作を確認する。この動作確認をゲートＡ・Ｂ両方行う。	別添の「正常測定シーケンス表(1)」通り動作すること。	
13.5　一回目汚染再測定後正常測定動作の確認	別添の「正常測定シーケンス表(2)」により動作を確認する。この動作確認をゲートＡ・Ｂ両方行う。	別添の「正常測定シーケンス表(2)」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		7／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
13.6　汚染測定動作の確認			
(1)　汚染時ゲート駆動選択自動	データ設定パネルの汚染時ゲート駆動選択の設定が「0」になっていることを確認後、別添の「汚染測定シーケンス表(1)」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「汚染測定シーケンス表(1)」通り動作すること。	
(2)　汚染時ゲート駆動選択手動	データ設定パネルの汚染時ゲート駆動選択の設定が「1」になっていることを確認後、別添の「汚染測定シーケンス表(2)」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「汚染測定シーケンス表(2)」通り動作すること。	
13.7　P.P 警報測定動作の確認	別添の「P.P 警報シーケンス表（測定時）」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「P.P 警報シーケンス表（測定時）」通り動作すること。	点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし「0」（接続しない）に設定する。
13.8　通過異常動作の確認			
(1)　ゲート開後通過信号なし	別添の「通過異常動作(1)シーケンス表」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「通過異常動作(1)シーケンス表」通り動作すること。	
(2)　測定終了後通過信号なし	別添の「通過異常動作(2)シーケンス表」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「通過異常動作(2)シーケンス表」通り動作すること。	
13.9　不正通過動作の確認	ゲートのこじ開け等による正常通過方法以外の方法にてゲート通過する事を試み、別添の「不正通過動作シーケンス表」により動作を確認する。この動作確認をゲートA・B両方行う。	別添の「不正通過動作シーケンス表」通り動作すること。	点検前データ設定パネルにおいてモードを「ホストコンピュータ接続選択」にし「0」（接続しない）に設定する。

点検整備技術要領書

整理番号		8／8

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
14. 積算値リセット動作の確認	データ設定パネルにて、モードを「積算値リセット」にし点検「スタート」スイッチを押すことにより、入域者数、退域者数、測定回数、警報回数、部位警報回数、最高汚染値が「0」にクリアされることをデータ設定パネル及びデータ処理部(CRT)F2 にて確認する。	正常に動作すること	この点検を行う時は，放管員に連絡してから行うこと。
15. 表示器テスト動作の確認	データ設定パネルにて、点検「入」にし、モードを「ランプテスト」にした後、点検「スタート」スイッチを押すことにより、ゲートモニタ全ての表示器が5秒間点灯することを確認する。	全ての表示器が点灯すること。	
16. ブザーテスト動作の確認	データ設定パネルにて、点検「入」にし、モードを「ブザーテスト」にした後、点検「スタート」スイッチを押すことにより5秒間ブザーが吹鳴すること及び監視パネルの点検中ランプが点灯すること。	点検中ランプ点灯及びブザーが吹鳴すること。	
17. データ設定パネルモード表示ランプの確認	データ設定パネルのモード表示ランプのNo.1,2,4,6,7,8 のランプが点灯していること、またNo.3,5 が消灯していることを確認する。	正常に動作すること。	
18. PC/ ゲートモニタ伝送内容の確認	データ設定部とデータ処理部が下記の内容と同じであることを確認する。 (1) 効率　V_1～V_{11} (2) 測定時間　10秒 (3) 標準偏差の倍数　K＝5.0 (4) B.G 計数率（自動） (5) 汚染警報レベル（自動） (6) 測定時P.P 警報レベル（自動） (7) ホストコンピュータ（接続） (8) 頭部検出器（自動） (9) 汚染時ゲート（手動）	同じであること	

正常測定シーケンス表 (1)				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常なし」		扉開	「測定中」消灯	
		通過		
消灯		扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

正常測定シーケンス表　(2)				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
	通　過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常なし」		扉　開	「測定中」消灯	
消　灯		通　過		
		扉　閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

汚染測定シーケンス表　　扉手動「開」の時　1/2				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
	通　過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」ブザー 「警報部位」			「測定中」消灯 「汚染警報」ランプ 警報ブザー プリント	
「汚染値」 「汚染部位」				
汚染部位が2箇所以上の時の汚染値表示要求				

汚染測定シーケンス表　　扉手動「開」の時　2/2				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
「汚染値」 「汚染部位」				
			汚染警報リセット	
			「汚染警報」消灯 ブザー停止	
			ゲートA手動「開」	
	扉開			
	通過		ゲートA手動「閉」	
	扉閉			
	「使用可能」	「使用可能」		

汚染測定シーケンス表　データ設定盤「999」の時　1/2				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」ブザー 「警報部位」			「測定中」消灯 「汚染警報」ランプ 警報ブザー プリント	
「汚染値」 「汚染部位」				
汚染部位が2箇所以上の時の汚染値表示要求				

汚染測定シーケンス表　データ設定盤「999」の時　2/2

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
「汚染値」 「汚染部位」				
			汚染警報リセット	
			「汚染警報」消灯 ブザー停止	
	扉開			
	通過			
	扉閉			
	「使用可能」	「使用可能」		

ゲート非通過動作(1)　シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
			「故障」ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ	
			故障警報リセット	
			「故障」ランプ消灯 ブザー停止	
				ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
	扉　閉		（「故障」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 ブザー停止）	
	「使用可能」	「使用可能」		

ゲート非通過動作(2)シーケンス表				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常なし」		扉開	「測定中」消灯	
				ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
			「故障」ﾗﾝﾌﾟ･ﾌﾞｻﾞｰ	
			故障警報リセット	
			「故障」ランプ消灯 ブザー停止	
				ｹﾞｰﾄ非通過で15秒後
		扉閉	「故障」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 ブザー停止	
	「使用可能」	「使用可能」		

計数率0cps時シーケンス表(1/2)				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」 もしくは「0cps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」 「警報部位」			「測定中」消灯 「汚染警報」ランプ 警報ブザー プリント	
			故障警報リセット	
			「故障警報」消灯 ブザー停止	

計数率０cps時シーケンス表(2/2)

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
			ｹﾞｰﾄ A(B)手動「開」	
	扉　開	(扉　開)		
	通　過	(通　過)	ｹﾞｰﾄ A(B)手動「閉」	
	扉　閉	(扉　開)		
	「しばらくお待ち下さい」	「しばらくお待ち下さい」		
				CPUの電源を断し，再び投入する。
	「使用可能」	「使用可能」		

ゲート非通過動作(3)－ａシーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉　開			
	通　過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉　閉			
				測定者がいない時，開扉スイッチ信号「OK」より3分後に「使用可能」となる。

ゲート非通過動作(3)－ｂシーケンス表				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
	開扉スイッチON			
	開扉ｽｲｯﾁ信号「OK」	「他のゲートを使用して下さい」		
	扉開			
	通過			
「測定可」	「他のゲートを使用して下さい」			
	扉閉			
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
				測定を中止する。
「測定可」			「測定中」消灯	
				測定者が退去してしまった時，開扉スイッチ信号「OK」より3分後に「使用可能」とする。

非常開スイッチ動作シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
開ボタン押す				
	扉　開	扉　開		
	「他のゲートを使用して下さい」	「他のゲートを使用して下さい」		
	通　過	（通　過）		（通過なき場合は25秒後）
	扉　閉	扉　閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

計数率10^4cps時シーケンス表

モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」 又は「10^4cps以上」	
開ボタン押す				
	扉開	扉開		
	「他のゲートを使用して下さい」	「他のゲートを使用して下さい」		
	通過	（通過）		
	扉閉	扉閉		
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「警報部位」 「再測定リセットして下さい」			「測定中」消灯	
再測定要求				
「測定可」				
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」 「警報部位」			「測定中」消灯 「故障警報」ランプ 故障ブザー・プリント	高圧電源「断」
			故障警報リセット	
			「故障警報」消灯 ブザー停止	

P・P測定シーケンス表				①測定中
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
開ボタン押す				
	扉開	扉開		
	「他のゲートを使用して下さい」	「他のゲートを使用して下さい」		
	通過	(通過)		
	扉閉	扉閉		
測定開始				
「測定中」			「測定中」 「測定cps」	
「異常」表示・ブザー 「汚染部位」ランプ 「汚染量」表示 〔汚染が2ケ所以上の時は汚染量表示要求〕			「測定中」消灯 「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「測定cps」 BG異常ランプ	
			手動ゲート開閉及び非常開スイッチによりリセット	
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ランプ 「汚染量」表示 消灯			「警報ランプ」消灯 「警報ブザー」停止 「故障ランプ」消灯 「故障ブザー」停止	
	通過	(通過)		
	扉閉	扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

P・P測定シーケンス表				②BG変動
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
ブザー			「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「プリント」 BG異常ランプ	
			手動ゲート開閉及び非常開スイッチによりリセット	
ブザー停止			「警報ランプ」消灯 「警報ブザー」停止 「故障ランプ」消灯 「故障ブザー」停止 BG異常ランプ消灯	
	通過	（通過）		
	扉閉	扉閉		
	「使用可能」	「使用可能」		

警報動作シーケンス表				
モニタ部	ゲートA	ゲートB	監視盤	備考
	「使用可能」	「使用可能」	「B.Gcps」	
				中央演算処理ユニットのスイッチをONにし「RESET」ボタン押す
「測定可左右センサーを指でふさいで下さい」 「異常なし お通り下さい」 「異常 お待ち下さい」 「汚染量 CONTAMINATION」 「再測定リセットして下さい」 「汚染部位①～⑧」	「使用可能」 「他のゲートを使用して下さい」 「しばらく お待ち下さい」	「使用可能」 「他のゲートを使用して下さい」 「しばらく お待ち下さい」	「警報ランプ・ブザー 「故障ランプ・ブザー 「測定中ランプ」 「プリント中 ランプ①～④」	ランプ・ブザーが点灯、消灯を5回繰り返す
	「使用可能」	「使用可能」	「B.G cps 」	

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

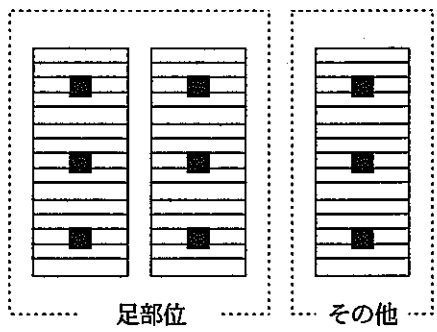
改訂　平成8年3月

機器名	ゲートモニタ	型　名	MGM－111A	メーカ名	JREC
検査名	総合試験	施設名	CPF施設		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	ゲート本体、監視盤等の外部・内部の清掃及び部品・膜の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品・膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．バックグラウンドの確認	点検前の各部位のBGを5回測定しその平均値を記録する。	250(cps)以下	
3．点検前の測定値の確認	点検前の各部位の設定値をプリントアウトで確認する。	① 年月日 時　分 ② 測定時間　：　10秒 ③ Bq換算定数 前回の設定値であること ④ アラームレベル自動変更用定数 K＝3 ⑤ ALARM値 W＝0 ⑥ 固定BG値 n＝0	
4．高圧電源の確認	高圧電源の設定値を確認する。	900(V)	
5．低圧電源 PuP-12-5型の確認			
5.1 出力電圧の確認	動作状態でモニタ本体Bスタンドにある低圧電源（PuP-12-5）の出力電圧をデジボルにて測定する。	＋12±0.5(V) －12±0.5(V)	
5.2 リップル電圧の確認	上記の電圧におけるリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 測定点 〔 ＋12V　2番端子 G　3-4番端子 〕 〔 －12V　4番端子 G　2-3番端子 〕	50m(Vp-p)以下	
6．バックグラウンドの確認	各部の回路試験終了後、正常に動作させBG値を3回測定し、その平均値を記録する。	250(cps)以下	

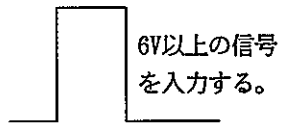
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
6．指示精度試験	各部位のコインシデンスINにパルスジェネレータを用いて 2×10^{1}, 2×10^{2}, 2×10^{3}(cps)を入力し監視盤の計数表示部より指示精度を確認する。	入力値の±1(digit)以内	715 129 強度
7．バックグラウンドの確認	各部の回路試験終了後、正常に動作させBG値を3回測定し、その平均値を記録する。	250(cps)以下	
8．β線検出器効率の測定	各部位の検出器の上・中・下の下図に示す位置にU_3O_8の線源* をあて3回測定し、足部位については左右6回測定する。その平均値を記録用紙に記録する。この記録値より下記の式で定数を算出する。 次にここで算出した定数を中央演算処理ユニットデータ設値にて設定する。 $\text{計数効率}=\dfrac{\text{計数値}-\text{BG値}}{\text{標準線源値}}$ $\text{定　　数}=\dfrac{1}{\text{計数効率}}$ 〈凡　例〉 ■　線源の位置  	効　率　15(%)以上 定　数　6.6以下	＊使用線源 U_3O_8　協　715 管理NoR204129 β線放射能強度 543dps
9．β線検出感度の測定	7項目のβ線検出効率の測定と同時にβ線検出感度の下記の式で算出する。 $Ai=\left\{\dfrac{K\sqrt{Bi/T}}{(Ni-Bi)}\right\}\times\dfrac{1.47\times10^{-2}}{Vi}$ Ai：β線検出感度	3.7×1.0^{-1}(Bq/cm²)以上	＊各部位の検出面積 手部位：140(cm²) 足部位：280(cm²) その他の部位 ：720(cm²)

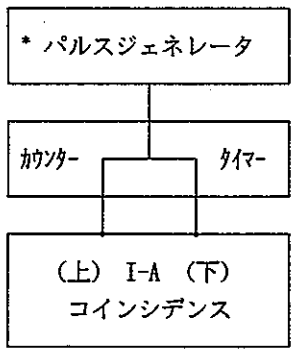
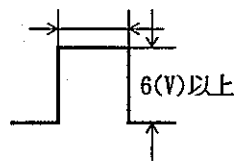
点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	K：警報レベル値を決めるための標準偏差値（K＝3） Ni：線源による平均計数率（cps） Bi：バックグランドの平均計数率（cps） T：測定時間 Vi：各部位の検出面積 1.47×10^{-2}：β線放射能強度（μci）		
10. 計算式の確認	7項目のβ線検出効率の測定と同じ位置に線源をあて，汚染測定を行なわない、プリンターアウト値とU_3O_8線源* の^{238}Uβ線放射能値と比較する。	±30%以内	
11. 各警報動作の確認 11.1 汚染警報動作の確認 (1) 警報設定誤差試験	部位5のコインシデンスINにパルスジェネレータ（A）より100(cps)を入力し、次にパルスジェネレータ（B）より警報トリップレベルのパルス数（9cps）を投入させ警報設定値の確認を行う。 警報設定値(cps)は次式より求める。 AL：警報設定値（cps） K：警報レベル値を決めるため標準偏差値3 T：測定時間（10sec） BG：バックグランド計数値（cps）	警報設定値 ±5(%)以内(104～114cps) ＊　2μsec±20(%)  JIS10(%)よりきびしい値，5(%)で点検を行う。	
(2) 汚染警報動作の確認	各部位に線源をあて、汚染警報を発生させて別添「汚染シーケンス表」による動作を確認する。	別添の「汚染測定シーケンス表」通りに動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
11.2　固定アラーム (1)　警報設定誤差試験	中央演算処理ユニットにて部位5のアラームレベルを300cpsにセットする。次に部位5のコインシデンス入力よりパルスジェネレータを用いて300cpsを入力し測定を行う。 （下図参照）  	設定値±5%以内 (285～315cps) ＊　2 μsec±20%  	
(2)　固定アラーム動作の確認	11.2(1)項の試験にて、アラームが吹鳴することを確認する。	正常に動作すること。	
11.3　故障警報動作の確認			
(1)　計数率の0(cps)時の動作確認	部位5のコインシデンスの入力コネクタを抜くことにより計数率0(cps)にし測定した時別添の「計数率0(cps)時シーケンス表」により動作の確認を行う。	別添の「計数率0(cps)時シーケンス表」通りに動作すること。	
(2)　計数率10^4(cps)時の動作確認	部位5のコインシデンスの入力に10^4(cps)以上のパルスを入力し測定した時別添の「計数10^4(cps)時シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「計数率10^4(cps)時シーケンス表」通りに動作すること。	
11.4　BG変動監視動作の確認	部位5のコインシデンスにパルスジェネレータより100(cps)を入力しておき入力を3倍以上にした時警報盤のBG異常ランプ及びAスタンド表示パネルの汚染部位表示ランプ5が点灯することを確認する。また、100(cps)から1/3にした時も同様にランプが点灯することを確認する。	警報盤のBG異常ランプが点灯すること，またAスタンド表示パネルの汚染部位ランプ5が点灯すること。	3倍以上にした時はP・P 警報か吹鳴する

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
11.5　入退エラー警報動作の確認	入口ゲートから退出した時及び出口ゲートより２人以上退出した時に監視盤の入退エラー警報が吹鳴することを確認する。 また、リセットボタンを押すことにより警報がリセットされることを確認する。	・入退エラー警報が吹鳴すること。 ・リセットができること。	
12. 関連動作の確認			
12.1　ゲートの開閉動作の確認	警報盤の手動開閉スイッチによりゲートの開閉状態を確認する。	手動によりゲート開閉されること。	
12.2　正常測定	別添の「正常測定シーケンス表－１」により動作を確認する。	別添「正常測定シーケンス表－１」通り動作すること。	
12.3　一回目汚染再測定後正常	別添の「正常測定シーケンス表－２」により動作を確認する。	別添「正常測定シーケンス表－２」通り動作すること。	
12.4　汚染測定動作	別添の「汚染測定シーケンス表」により動作を確認する。	別添「汚染測定シーケンス表」通り動作すること。	
12.5　測定終了後ゲート通過信号無し	測定が終了しゲートが開の状態で測定者の通過が無い時15±５秒で測定可に自動復帰することを確認する。	15±５秒で測定可に自動復帰すること。	
12.6　設定値プリント動作の確認	監視盤の「設定値プリント」押ボタンを押すことにより下記のデータがプリントされることを確認する。 a　年月日 b　測定時間 c　μci換算用定数 d　アラームレベル自動変更用定数 e　Ｐ・Ｐレベル値 f　固定バック計数値	正常に動作すること。	
12.7　モニタプリント動作の確認	監視盤の「モニタプリント」押ボタンを押すことにより下記のデータがプリントされることを確認する。 a　ゲート番号 b　年月日 c　時間，分 d　入域者数 e　退域者数	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	f　測定回数 g　警報回数 h　各部位ごとの警報回数及び最高μci換算値		
12.8　カウンタリセット動作の確認	中央演算処理ユニットの「RESET」ボタンを押すことにより10.7項目のモニタプリント動作が正常に行われることを確認する、次に監視盤の「モニタプリント」押ボタンを押すことによりデータをプリントさせデータがリセットされることを確認する。	正常に動作すること。	
13. 点検プログラム動作の確認			
13.1　点検プリント	中央演算処理ユニットの「点検中」スイッチをONにし監視盤の「モニタプリント」押ボタンを押すことにより下記の項目がプリントアウトされること。 a　ゲート番号 b　年月日，時分 c　各部位の5回の計数率とその平均値 d　各部位の荷重平均BGの計数率 ・　検出限界計数率 ・　検出限界μci値 ・　検出限界μci値／cm²値	正常に動作すること。	
13.2　カウンタ点検	中央演算処理ユニットの「点検中」スイッチをONにしデータ設定盤のファンクションスイッチを測定時間の位置にセット監視盤の「故障リセット」を押すことによりデジスイッチにセットされている回数だけ監視盤のBG表示及び平均値σ値がプリントアウトされることを確認する。	正常に動作すること。	
13.3　警報の点検	中央演算処理ユニットの「点検中」スイッチをONにし「RESET」ボタンを押すことにより、別添の「警報動作シーケンス表」通り動作すること。	別添の「警報動作シーケンス表」通り動作すること。	

正常測定シーケンス表　(1)					
Aスタンド表示パネル	出口ゲート		監視盤	中央演算処理ユニット	備考
「測定可」	施錠		「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「異常なし」	解錠		「測定中」消灯 「測定cps」		
	通過			出口ゲート通過	
「測定可」	施錠		「BGcps」		

正常測定シーケンス表　(2)　（1回目汚染再測定後正常）

Aスタンド表示パネル	出口ゲート		監視盤	中央演算処理ユニット	備考
「測定可」	施　錠		「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「汚染部位」ランプ 「再測定リセットして下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」		
再測定要求					
「測定可」			「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「異常なし」	解　錠		「測定中」消灯 「測定cps」	正常測定	
	通　過			出口ゲート通過	
「測定可」	施　錠		「BGcps」		

汚染測定シーケンス表　（3）					
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート		監視盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備考
「測定可」	施錠		「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「再測定リセット して下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」		
再測定要求				再測定要求	
「測定可」			「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「異常」表示.ﾌﾞｻﾞｰ 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「汚染量」　表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」 「警報ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「プリント」	汚染測定 プリント表示中 出力ランプ	
			警報リセット		
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 「汚染量」表示 消灯			警報ランプ　消灯 ブサー　停止		
「測定可」			「BGcps」		

計数率0cps時シーケンス表 (4)					
Aスタンド表示パネル	出口ゲート		監視盤	中央演算処理ユニット	備考
「測定可」	施錠		「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「汚染部位」ランプ 「再測定リセットして下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」		0cps計数
再測定要求				再測定要求	
「測定可」			「BGcps」		
測定開始					
「測定中」			「測定中」		
「異常」表示、ブザー 「汚染部位」ランプ 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」 「故障ランプ・ブザー」 「プリント」	故障警報 プリント表示中 出力ランプ	
			故障リセット		
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ランプ 消灯 「汚染量」表示 消灯			故障ランプ 消灯 ブサー 停止		
「測定可」			「BGcps」		

計数率10^4cps時シーケンス表　(5)					
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート		監　視　盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備　　考
「測定可」	施　　錠		「BGcps」		
測 定 開 始					
「測定中」			「測定中」		
「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「再測定リセット して下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」		10^4cps以上計数
再測定要求				再測定要求	
「測定可」			「BGcps」		
測 定 開 始					
「測定中」			「測定中」		
「異常」表示.ﾌﾞｻﾞｰ 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）			「測定中」消灯 「測定cps」 「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「プリント」	故 障 警 報 プリント表示中 出力ランプ	高圧電源「断」
			故障リセット		
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 「汚染量」表示 消灯			故障ランプ　消灯 ブサー　停止		
「測定可」			「BGcps」		

警報動作シーケンス表　(6)				
Aスタンド表示パネル	出口ゲート	監　視　盤	中央演算処理ユニット	備　　考
「測定可」	施　　錠	「BGcps」		
			スイッチをONにし「RESET」ボタン押す	
「測定可左右センサを指でふさいで下さい」 「測定中そのまま動かないで下さい」 「異常なし、お通り下さい」 「異常、お待ち下さい」 「汚染量CONTAMINATION 」 「再測定リセットして下さい」 「汚染部位①～⑧」		「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「測定中ランプ」 「入退エラーランプ・ブザー」	「プリント中ランプ①～④」	
「測定可」	施　　錠	「BGcps」		

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

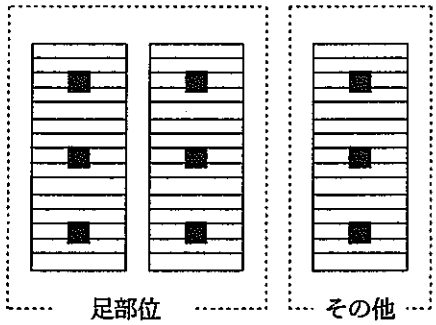
改訂　平成8年3月

機器名	ゲートモニタ	型　名	MGM－１１１A	メーカ名	ＪREC
検査名	総合試験	施設名	Ｊ棟		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	ゲート本体、監視番等の外部・内部の清掃及び部品・膜の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品・膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．バックグラウンド指示値の確認	点検前の各部位のBGを5回測定しその平均値を記録する。	250cps以下	
3．点検前の測定値の確認	点検前の各部位の設定値をプリントアウトで確認する。 年月日　時　分 3.1 測定時間　：10 秒 3.2 換算定数（λ）：前回の設定値であること。 3.3 ｱﾗｰﾑﾚﾍﾞﾙ 自動変更用定数（K）：2 3.4 固定アラーム値（W）：0 3.5 固定ＢＧ値（n）：0		
4．高圧電源の確認	高圧電源の設定値を確認する。	1000(V)	
5．低圧電源 PuP-12-5型の確認			
5.1 出力電圧の確認	動作状態でモニタ本体Ｂスタンドにある低圧電源（PuP-12-5）の出力電圧をデジボルにて測定する。	＋12±0.5(V) －12±0.5(V)	
5.2 リップル電圧の確認	上記の電圧におけるリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。 測定点 ｛ ＋12V　2 番端子 G　3-4 番端子 ｝ ｛ －12V　4 番端子 G　2-3 番端子 ｝	50m(Vp-p)以下	
6．指示精度試験	各部位のコインシデンスINにパルスジェネレータを用いて2×10^1、2×10^2、2×10^3 cps を入力し監視盤の計数表示部より指示精度を確認する。	入力値の±1(digit)以内	

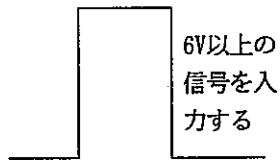
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
7．バックグラウンドの測定	各部の回路試験終了後、正常に動作させBG値を5回測定し、その平均値を記録する。	250(cps)以下	
8．β線検出器効率の測定	各部位の検出器の上・中・下の下図に示す位置にU_3O_8の線源* をあて3回測定し、足部位については左右6回測定する。 その平均値を記録用紙に記録する。この記録値より下記の式で定数を算出する。 次にここで算出した定数をデータ設定盤にて設定する。 $\text{計数効率}=\frac{\text{計数値}-\text{BG値}}{\text{標準線源値}}$ $\text{定　　数}=\frac{1}{\text{計数効率}}$ ＊線源の位置 〈凡　例〉 ■線源の位置  	効　率　15（%）以上 定　数　6.6以下	＊　使用線源 U_3O_8　協-715 管理No.R204129 β線放射能強度 543dps
9．β線検出感度の測定	7項目のβ線検出効率の測定と同時にβ線検出感度を下記の式で算出する。 $Ai=\left\{\frac{K\sqrt{Bi/T}}{(Ni-Bi)}\right\}\times\frac{1.47\times10^{-2}}{Vi}$ Ai：β線検出感度 K：警報レベル値を決めるための標準偏差値（K＝2） Ni：線源による平均計数率（cps）	3.7×10^{-1}(Bq/cm²)以上	＊各部位の検出面積 手部　：140(cm²) 足部　：280(cm²) その他：720(cm²)

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	Bi：バックグランドの平均 計数率（cps） T：測定時間 Vi：各部位の検出面積 1.47×10^{-2}：β線放射能強度（μci）		
10. 計算式の確認	7項目のβ線検出効率の測定と同じ位置に線源をあて、汚染測定を行なわない、プリンターアウト値とU_3O_8線源* の^{238}Uβ線放射能値と比較する。	±30(%)以内	
11. 各警報動作の確認			
11.1 汚染警報			
(1) 警報設定誤差試験	部位5のコインシデンスINにパルスジェネレータ（A）より100(cps)を入力し、次にパルスジェネレータ（B）より警報トリップレベルのパルス数（6cps）を投入させ警報設定値の確認を行う。 警報設定値(cps)は次式より求める。 $\frac{K\times BG\times T}{T}$ AL：警報設定値（cps） K：警報レベル値を決めるため標準偏差値2 T：測定時間（10sec） BG：バックグランド計数値（cps）	警報設定値 ±5(%)以内(101～111cps) ＊　2（μsec）±20(%)  	
(2) 汚染警報動作の確認	各部位に線源をあて、汚染警報を発生させて別添「汚染シーケンス表」による動作を確認する。	別添の「汚染測定シーケンス表」通りに動作すること。	
11.2 P・P動作の確認	各部位にP・P警報設定値以上の線源をあてP・P警報を発報させ動作を確認する。 (1) 測定時 (2) BG監視時	別添の「P・P測定シーケンス表(1)測定時」通りに作動すること。 別添の「P・P測定シーケンス表(2)BG監視時」通りに作動すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
11.3　故障警報動作の確認			
(1)　計数率の0(cps)時の動作確認	部位5のコインシデンスの入力コネクタを抜くことにより計数率0(cps)にし測定した時別添の「計数率0(cps)時シーケンス表」により動作の確認を行う。	別添の「計数率0(cps)時シーケンス表」通りに動作すること。	
(2)　計数率10^4(cps)時の動作確認	部位5のコインシデンスの入力に10(cps)以上のパルスを入力し測定した時添の「計数10^4(cps)時シーケンス表」により動作を確認する。	別添の「計数率10^4(cps)時シーケンス表」通りに動作すること。	
11.4　ＢＧ変動監視動作の確認	部位5のコインシデンスにパルスジェネレータより100(cps)を入力しておき入力を3倍以上にした時警報盤のBG異常ランプ及びAスタン表示ドパネルの汚染部位表示ランプ5が点灯することを確認する。また、100(cps)から1/3 にした時も同様にランプが点灯することを確認する。	警報盤のBG異常ランプが点灯すること、またＡスタンド表示パネルの汚染部位ランプ5が点灯すること。	3倍以上にした時はP・P 警報が吹鳴する
11.5　入退エラー警報動作の確認	入口ゲートから退出した時及び出口ゲートより2人以上退出した時に監視盤・警報盤の入退エラー警報が吹鳴することを確認する。 また、リセットボタンを押すことにより警報がリセットされることを確認する。	入退エラー警報が吹鳴すること。 リセットができること。	
12.　関連動作の確認			
12.1　ゲートの開閉動作の確認	警報盤の手動開閉スイッチによりゲートの開閉状態を確認する。	手動によりゲート開閉されること。	
12.2　正常測定	別添の「正常測定シーケンス表－1」により動作を確認する。	別添「正常測定シーケンス表－1」通り動作すること。	
12.3　一回目汚染再測定後正常	別添の「正常測定シーケンス表－2」により動作を確認する。	別添「正常測定シーケンス表－2」通り動作すること。	
12.4　汚染測定動作	別添の「汚染測定シーケンス表」により動作を確認する。	別添「汚染測定シーケンス表」通り動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
12.5　測定終了後ゲート通過信号無し	測定が終了しゲートが開の状態で測定者の通過が無い時15±５秒で測定可に自動復帰することを確認する。	15±５秒で測定可に自動復帰すること。	
12.6　設定値プリント動作の確認	監視盤の「設定値プリント」押ボタンを押すことにより右記のデータがプリントされることを確認する。 a　年月日 b　測定時間 c　μci換算用定数 d　アラームレベル自動変更用定数 e　Ｐ・Ｐレベル値 f　固定バック計数値	正常に動作すること。	
12.7　モニタプリント動作の確認	監視盤の「モニタプリント」押ボタンを押すことにより下記のデータがプリントされることを確認する。 a　ゲート番号 b　年月日 c　時間，分 d　入域者数 e　退域者数 f　測定回数 g　警報回数 h　各部位ごとの警報回数及び最高μci換算値	正常に動作すること。	
12.8　カウンタリセット動作の確認	中央演算処理ユニットの「RESET」ボタンを押すことにより10.7項目のモニタプリント動作が正常に行われることを確認する、次に監視盤の「モニタプリント」押ボタンを押すことによりデータをプリントさせデータがリセットされることを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
13. 点検プログラム動作の確認			
13.1　点検プリント	中央演算処理ユニットの「点検中」スイッチをONにし監視盤の「モニタプリント」押ボタンを押すことにより下記の項目がプリントアウトされること。 a　ゲート番号 b　年月日，時分 c　各部位の5回の計数率とその平均値 d　各部位の荷重平均BGの計数率 ・　検出限界計数率 ・　検出限界μci値 ・　検出限界μci値／cm^2値	正常に動作すること。	
13.2　カウンタ点検	中央演算処理ユニットの「点検中」スイッチをONにしデータ設定盤のファンクションスイッチを測定時間の位置にセット監視盤の「故障リセット」を押すことによりデジスイッチにセットされている回数だけ監視盤のBG表示及び平均値σ値がプリントアウトされることを確認する。	正常に動作すること。	
13.3　警報の点検	中央演算処理ユニットの「点検中」スイッチをONにし「RESET」ボタンを押すことにより、別添の「警報動作シーケンス表」通り動作することを確認する。	別添の「警報動作シーケンス表」通り動作すること。	

正常測定シーケンス表 (1)					
Aスタンド表示パネル	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ユニット	備考
「測定可」	施錠	「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「異常なし」	解錠	「測定中」消灯 「測定cps」			
	通過			出口ゲート通過	
「測定可」	施錠	「BGcps」			

正常測定シーケンス表　(2)　（1回目汚染再測定後正常）

Aスタンド表示パネル	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ユニット	備考
「測定可」	施錠	「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「汚染部位」ランプ 「再測定リセットして下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」			
再測定要求				再測定要求	
「測定可」		「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「異常なし」	解錠	「測定中」消灯 「測定cps」			
	通過			出口ゲート通過	
「測定可」	施錠	「BGcps」			

P・P測定シーケンス表（3）					①測定中
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備考
「測定可」	施錠	「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「異常」表示.ﾌﾞｻﾞｰ 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「警報ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「測定cps」 BG異常ランプ	「警報ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」	P・P警報	
		手動ゲート開閉によりリセット			
「異常」表示消灯 ﾌﾞｻﾞｰ 停止 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ消灯 「汚染量」表示消灯		「警報ﾗﾝﾌﾟ」消灯 「警報ﾌﾞｻﾞｰ」停止 「故障ﾌﾞｻﾞｰ」消灯 「故障ﾌﾞｻﾞｰ」停止			
「測定可」	施錠	「BGcps」			

P・P測定シーケンス表（4）					②BG変動
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備考
「測定可」	施錠	「BGcps」			
ブザー		「警報ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「プリント」 BG異常ランプ	「警報ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」	P・P警報 プリンタ表示中 出力ランプ	
		手動ゲート開閉により リセット			
ブザー停止		「警報ﾗﾝﾌﾟ」消灯 「警報ﾌﾞｻﾞｰ」停止 「故障ﾗﾝﾌﾟ」消灯 「故障ﾌﾞｻﾞｰ」停止 BG異常ランプ消灯	「警報ﾗﾝﾌﾟ」消灯 「警報ﾌﾞｻﾞｰ」停止 「故障ﾗﾝﾌﾟ」消灯 「故障ﾌﾞｻﾞｰ」停止		
「測定可」		「BGcps」			

計数率0cps 時シーケンス表 （5）					
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート	監 視 盤	警 報 盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備 考
「測定可」	施 錠	「BGcps」			
測 定 開 始					
「測定中」		「測定中」			
「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「再測定リセット して下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」			0cps計数
再測定要求				再測定要求	
「測定可」		「BGcps」			
測 定 開 始					
「測定中」		「測定中」			
「異常」表示・ﾌﾞｻﾞｰ 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」 「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「プリント」	「故障ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」	故障警報 プリント表示中 出力ランプ	
		故障リセット			
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 「汚染量」表示 消灯		故障ランプ 消灯 ブサー 停止	故障ランプ 消灯 ブサー 停止		
「測定可」		「BGcps」			

計数率10^4cps時シーケンス表　(6)

Aスタンド表示パネル	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ユニット	備考
「測定可」	施錠	「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「汚染部位」ランプ 「再測定リセットして下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」			10^4cps以上計数
再測定要求				再測定要求	
「測定可」		「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「異常」表示・ブザー 「汚染部位」ランプ 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」 「故障ランプ・ブザー」 「プリント」	「故障ランプ・ブザー」	故障警報プリント表示中出力ランプ	高圧電源「断」
		故障リセット			
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ランプ消灯 「汚染量」表示消灯			故障ランプ　消灯 ブサー　停止		
「測定可」		「BGcps」			

汚染測定シーケンス表　（7）					
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備考
「測定可」	施錠	「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 「再測定リセット して下さい」 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」			
再測定要求				再測定要求	
「測定可」		「BGcps」			
測定開始					
「測定中」		「測定中」			
「異常」表示・ﾌﾞｻﾞｰ 「汚染部位」表示 「汚染量」表示 （汚染が2ヶ所以上の時は汚染量表示要求）		「測定中」消灯 「測定cps」 「警報ﾗﾝﾌﾟ・ﾌﾞｻﾞｰ」 「プリント」	「警報ﾗﾝﾌﾟﾌﾞｻﾞｰ」	汚染測定 プリンタ表示中 出力ランプ	
		警報リセット			
「異常」表示消灯 ブザー停止 「汚染部位」ﾗﾝﾌﾟ 消灯 「汚染量」表示 消灯		警報ランプ　消灯 ブサー　停止	「警報ﾗﾝﾌﾟ」消灯 「警報ﾗﾝﾌﾟ」停止		
「測定可」		「BGcps」			

警報動作シーケンス表　(8)					
Aｽﾀﾝﾄﾞ表示ﾊﾟﾈﾙ	出口ゲート	監視盤	警報盤	中央演算処理ﾕﾆｯﾄ	備考
「測定可」	施　錠	「BGcps」			
				スイッチをONにし「RESET」ボタンを押す	
「測定可左右センサーを指でふさいで下さい」 「測定中そのまま動かさないで下さい」 「異常なし、お通り下さい」 「異常、お待ち下さい」 「汚染量CONTAMINATION 」 「再測定リセットして下さい」 「汚染部位①～⑧」		「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「測定中ランプ」 「入退エラーランプ・ブザー」	「警報ランプ・ブザー」 「故障ランプ・ブザー」 「入退エラーランプ・ブザー」	「プリント中ランプ①～④」	
「測定可」	施　錠	「BGcps」			

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	ゲートモニタ頭部機構	型　名	――――	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	総合試験	施設名	Ｚ施設		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．外観検査			
1.1　汚れ・キズ	頭部検出器の各機構部の清掃及び部品の破損・キズ等がないことを点検する。	破損・キズ等がないこと。	
1.2　昇降動作	頭部検出器の上下動作時、ガタツキ・異音等がないことを確認する。	ガタツキ・異音等がないこと。	
1.3　頭部ケースと前後フレーム	頭部検出器の上下動作時、頭部ケースと前後フレームがスムーズに動作することを確認する。	干渉のないこと。	
1.4　頭部ケースとサイドカバー	頭部検出器の上下動作時、頭部ケースとサイド化粧カバーがスムーズに動作することを確認する。	引掛かりのないこと。	
1.5　ケース・カバーの取付けネジ	頭部検出器カバー等の取付けネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
2．機構検査			
2.1　ギア（上部）			
(1)　ボルト・ネジ	頭部検出器内の各取付けネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(2)　ギアの噛み合い	頭部検出器を上下させた時、ギアとギアのズレを測定し基準値以内であることを確認する。	ズレ：3（㎜）以内	
(3)　ギア歯の摩耗	目視にて、ギアの摩耗を確認する。	摩耗のないこと。	
(4)　グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.2　台形ネジシャフト・ナット			
(1)　シャフト・ナットの動作	頭部検出器を上下させた時、動作がスムーズであることを確認する。	動作がスムーズであること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
(2) ネジ・ナットのガタ	頭部検出器を上下させた時、ネジ・ナットにガタ・緩みがないことを確認する。	ガタ・緩みがないこと。	
(3) ネジシャフトのキズ	目視にて、ネジシャフトにキズ等がないことを確認する。	キズのないこと。	
(4) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.3 モータ			
(1) モータの異音・発熱	頭部検出器の上下動作時、異音・発熱等がないことを確認する。	異音・発熱がないこと。	
(2) 駆動電流の測定	頭部検出器の上下動作時、モータの電流値をクランプメータにて、測定する。	上昇及び下降時 0.9(A) 以下	
(3) 過負荷試験	頭部機構部に２Ｋｇの重りを装着し、上下動作がスムーズであることを確認する。	異常のないこと。	
(4) ブレーキ試験	点検モードにて、手動で頭部機構部を上下させ、途中でスイッチ断にした時すぐに停止することを確認する。	スイッチ断にてすぐに停止すること。	
2.4 ｼｬﾌﾄ・ﾘﾝｸ ・ﾎﾞｰﾙﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ			
(1) シャフトの変形	目視にて、シャフトに変形等がないことを確認する。	変形のないこと。	
(2) 摩耗	目視にて、シャフト等に摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(3) ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ の動作	頭部検出器の上下動作時、動作がスムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズなこと。	
(4) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.5 ケースウエイト			
(1) ｽﾌﾟﾛｹｯﾄ・ﾁｪｰﾝ動作	頭部検出器の上下動作時、異音・接触等がなく、スムーズに動作することを確認する。	スムーズに動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
(2) 取付けネジ・E（Ω）リング	目視にて、取付けネジ・E（Ω）リングの取付けネジに緩みがないことを確認する	緩みのないこと。	
(3) ﾁｪｰﾝ連結金具	目視にて、ﾁｪｰﾝ連結金具が正常に装着されていることを確認する。	装着状況の良いこと。	
(4) ｳｴｲﾄ固定ネジ	目視にて、ｳｴｰﾄ固定ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(5) 支柱・ストッパ	目視にて、支柱・ストッパに変形・緩みがないことを確認する。	変形・緩みのないこと。	
(6) 支柱とウエイトの動作	頭部検出器の上下動作時、動作がスムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズなこと。	
(7) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.6 ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ・光電ｾﾝｻｰ			
(1) ｱｸﾁｭｴｰﾀ 部	目視にて、ｱｸﾁｭｴｰﾀ 部に変形・破損がないことを確認する。	変形・破損がないこと。	
(2) スイッチ部	目視にて、スイッチ部に変形・破損がないことを確認する。	変形・破損がないこと。	
(3) アームとの関連動作	頭部検出器の上下動作時、動作がスムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズなこと。	
(4) 取付けネジ	目視にて、取付けネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(5) 光電ｾﾝｻｰとドグ	頭部検出器の上下動作時、動作がスムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズなこと。	
(6) ドグの形状	目視にて、ドグの形状に変形・破損がないことを確認する。	変形・破損がないこと。	
(7) 上上限ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ	頭部機構部が上限停止状態にて、さらに上昇させ、停止することを確認する。	上上限にて停止すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
(8) 下下限ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ	頭部機構部が下限停止状態にて、さらに下降させ、停止することを確認する。	下下限にて停止すること。	
2.7 頭検知光電ｾﾝｻｰ			
(1) 投・受光器の光軸	頭検知光電ｾﾝｻｰの光軸のズレがないことを確認する。	ズレがないこと。	
(2) 受光器ゲイン	頭検知光電ｾﾝｻｰの受光器についているＬＥＤ（緑）が点灯していることを確認する	緑ＬＥＤ点灯のこと。	
3．寸法検査			
3.1 上下ストローク	頭部収納ケースと前後フレームの隙間を	前回点検値と相違ないこと	
(1) 上限位置	頭部機構部の上限及び上上限停止状態にてゲートモニタ本体足部からの寸法を測定する。	上限位置　：2000±20(mm) 上上限位置：2010±20(mm)	
(2) 下限位置	頭部機構部の下限及び下下限停止状態にてゲートモニタ本体足部からの寸法を測定する。	下限位置　：1600±20(mm) 下下限位置：1590±20(mm)	
4．その他			
4.1 配線材	頭部機構部内の配線材が整理されていることを確認する。	整理されていること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	ゲートモニタ頭部機構	型　名	――――	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	総合試験	施設名	ＣＢ，ＴＶＦ施設		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．外観検査			
1.1　汚れ・キズ	頭部検出器の各機構部の清掃及び部品の破損・キズ等がないことを点検する。	破損・キズ等がないこと。	
1.2　昇降動作	頭部検出器の上下動作時、ガタツキ・異音等がないことを確認する。	ガタツキ・異音等がないこと。	
1.3　頭部ケースと前後フレーム	頭部検出器の上下動作時、頭部ケースと前後フレームがスムーズに動作することを確認する。	干渉のないこと。	
1.4　頭部ケースとサイドカバー	頭部検出器の上下動作時、頭部ケースとサイド化粧カバーがスムーズに動作することを確認する。	引掛かりのないこと。	
2．機構検査			
2.1　モータ・減速機・リニアヘッド			
(1)　モータの異音・発熱	頭部検出器の上下動作時、異音・発熱等がないことを確認する。	異音・発熱がないこと。	
(2)　減速機・ﾘﾆｱﾍｯﾄﾞ	頭部検出器を上下させた時、動作がスムーズであることを確認する。	動作がスムーズであること	
(3)　ﾘﾆｱﾍｯﾄﾞ・ｼｬﾌﾄ	目視にて、ﾘﾆｱﾍｯﾄﾞ・ｼｬﾌﾄにキズ等がないことを確認する。	キズのないこと。	
(4)　ボルト・ネジ	目視にて、ボルト・ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(5)　グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.2　ｼｬﾌﾄ・ﾘﾝｸ　・ｺﾝﾛｯﾄ			
(1)　ｼｬﾌﾄの変形	目視にて、シャフトに変形等がないことを確認する。	変形のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
(2) 摩耗	目視にて、シャフト等に摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(3) キー・E（Ω）リング	目視にて、キー・E（Ω）リングが正常に装着されていることを確認する。	装着状況の良いこと。	
2.3 ギア（上部）			
(1) ギアの噛み合い	目視にて、ギアの噛み合いが適正であることを確認する。	適正であること。	
(2) ギア歯の摩耗	目視にて、ギア歯に摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(3) ボルト・ネジ	目視にて、ボルト・ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(4) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.4 パンタグラフ			
(1) こすれ・摩耗	目視にて、ﾊﾟﾝﾀｸﾞﾗﾌに摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(2) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.5 ギア（下部）			
(1) ギアの噛み合い	目視にて、ギアの噛み合いが適正であることを確認する。	適正であること。	
(2) ギア歯の摩耗	目視にて、ギア歯に摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(3) ボルト・ネジ	目視にて、ボルト・ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(4) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.6 スプリング			
(1) 定期交換	1回／年の頻度で交換を実施すること。	1回／年交換すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
(2) キズ・変形	目視にて、スプリングにキズ・変形等がないことを確認する。	キズ・変形のないこと。	
(3) 引掛部のグリス	各引掛部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.7 ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ			
(1) ｱｸﾁｭｴｰﾀ 部	目視にて、ｱｸﾁｭｴｰﾀ 部に変形・破損がないことを確認する。	変形・破損がないこと。	
(2) スイッチ部	目視にて、スイッチ部に変形・破損がないことを確認する。	変形・破損がないこと。	
(3) アームとの関連動作	頭部検出器の上下動作時、動作がスムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズなこと。	
(4) 取付けネジ	目視にて、取付けネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(5) 上上限ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ	頭部機構部が上限停止状態にて、さらに上昇させ、停止することを確認する。	上上限にて停止すること。	
(6) 下下限ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ	頭部機構部が下限停止状態にて、さらに下降させ、停止することを確認する。	下下限にて停止すること。	
3．寸法検査			
3.1 上下ストローク			
(1) 上限位置	頭部機構部の上限及び上上限停止状態にてゲートモニタ本体足部からの寸法を測定する。	上限位置　：2000±20(mm) 上上限位置：2010±20(mm)	
(2) 下限位置	頭部機構部の下限及び下下限停止状態にてゲートモニタ本体足部からの寸法を測定する。	下限位置　：1600±20(mm) 下下限位置：1590±20(mm)	
4．その他			
4.1 配線材	頭部機構部内の配線材が整理されていることを確認する。	整理されていること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	ゲートモニタ扉部機構	型　名	――――	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	総合試験	施設名	ＣＢ，ＴＶＦ，Ｚ施設		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．外観検査			
1.1　汚れ・キズ	扉部機構部の各機構部の清掃及び部品の破損・キズ等がないことを点検する。	破損・キズ等がないこと。	
1.2　開閉動作	扉部機構部の開閉動作時、ガタツキ・異音等がないことを確認する。	ガタツキ・異音等がないこと。	
1.3　シャフト	扉部機構部の開閉動作時、シャフトの曲がりがなく、スムーズに動作することを確認する。	変形がなく、動作がスムーズであること。	
2．機構検査			
2.1　ﾓｰﾀ・ﾄﾙｸﾘﾐｯﾀ部			
(1)　モータの異音・発熱	扉部機構部の開閉動作時、異音・発熱等がないことを確認する。	異音・発熱がないこと。	
(2)　取付けボルト	目視にて、取付けボルトに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(3)　ギアの噛み合い	目視にて、ギアの噛み合いが適正であることを確認する。	適正であること。	
(4)　ギア歯の摩耗	目視にて、ギア歯に摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(5)　グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.2　ﾘﾐｯﾄｽｲｯﾁ部			
(1)　本体の動作	扉部機構部の開閉動作時、スムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズであること。	
(2)　取付けボルト	目視にて、取付けボルトに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

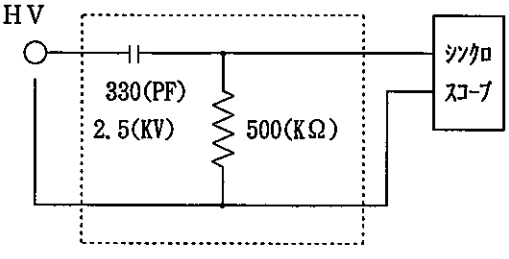
項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
(3) カムとの関連動作	目視にて、カムとリミットスイッチが正常に動作することを確認する。	異常のないこと。	
(4) カム位置	目視にて、カムの位置が適正な位置にあることを確認する。	適正であること。	
(5) カム固定ネジ	目視にて、固定ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(6) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	
2.3 アブソーバ部			
(1) 本体の動作	扉部機構部の開閉動作時、スムーズに動作することを確認する。	動作がスムーズであること	
(2) アーム位置	目視にて、アームの位置が適正な位置にあることを確認する。	適正であること。	
(3) 取付けネジ	目視にて、取付ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
2.4 扉駆動上下ｷｬﾘｱ部			
(1) ギアの噛み合い	目視にて、ギアの噛み合いが適正であることを確認する。	適正であること。	
(2) ギア歯の摩耗	目視にて、ギア歯に摩耗がないことを確認する。	摩耗のないこと。	
(3) 取付けネジ	目視にて、取付ネジに緩みがないことを確認する。	緩みのないこと。	
(4) グリス	各機構部のグリスの塗布状況を確認し、少なければグリスを追加塗布する。	十分塗布されていること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

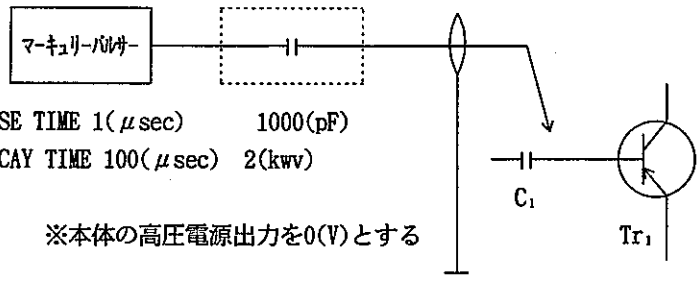
改訂　平成8年3月

機器名	GM管式サーベイメータ	型　名	TGS－111	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定する。	ＢＡＴＴ線内であること。 4.5～6.9(V)以内	
2.2　電圧範囲	本体から、バッテリーケースから電池を取り出し、安定化電源を用いてメータ指針がＢＡＴＴ線内の下限の時の電圧を測定する。	4.0±0.5(V)以内	
2.3　安定化出力電圧	上記の状態で、チェック端子ＣＰ－３が-3(V) 出ていることを確認する。基準外の時は、調整用ボリューム(VR4)で調整する。	-3(V) ±10(%)以内	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧接栓に高圧用デジボルを接続、高圧電圧を測定し、プラトー領域内にあることを確認する。設定されていない場合は、HV調整ボリュームでプラトー領域の下端より1/3付近の電圧に設定する。基準外の時は、ＨＶ調整用ボリュームで調整する。	750(V)±50(V)以内	
3.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を下記の接続にて測定する。  シールドＢｏｘ	100(mVp-p)以下	

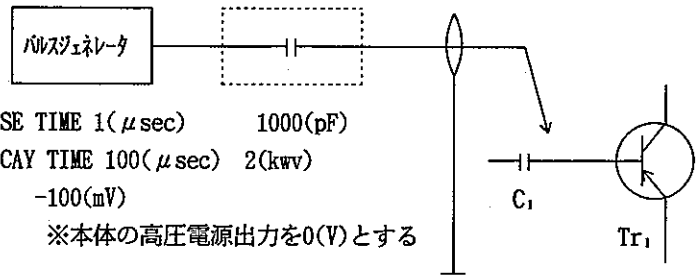
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．プラトー測定	GM管をサーベイ本体に取り付けた状態で高圧電源回路ＶＲ１を可変し、増巾計数率計&モニタ回路基板ＣＰ２に規定のスケーラ、タイマーを接続する。チェック線源を使用し、600(V)から50(V) 毎に850(V)まで１分間測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め15(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V)}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{90}Sr
5．ノイズチェック	検出部を本体から取り外し、測定状態（×300cpm･1.5μSv/h）においてノイズがないことを確認する。 また、接続ケーブルからノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと	
6．入力感度測定	 RISE TIME 1(μsec)　　1000(pF) DECAY TIME 100(μsec)　2(kwv) ※本体の高圧電源出力を0(V)とする		
	上記の接続でサーベイメータ本体のレンジを3(Kcpm) に設定し、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰの出力を可変させ、 -50～-100(mV)の範囲内で計数を始めるこを確認する。	-50～-100(mV)	
7．時定数測定	６項の接続でメータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにしたときから指示がフルスケールの 37(%)になるまでの時間をストップウォッチで測定する。	3 ×10^4(cpm)レンジ 3(sec) :2.1～4.5(sec) 3 ×10^2(cpm)レンジ 10(sec): 7～15(sec)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8．指示調整	 RISE TIME 1(μsec)　　1000(pF) DECAY TIME 100(μsec)　2(kwv) -100(mV) ※本体の高圧電源出力を0(V)とする		
	上記の接続にて、各レンジごとに入力に対応するメータ指示が得られるよう確認調整をする。	フルスケールの±5(%)以内	
	尚指示調整をする場合はＣＡＬボリュームを中間の位置にしておき、低いレンジの方から調整すること。		
9．バックグラウンド測定	×300(cpm)(1.5μSv/h) レンジを使用して線源等の影響のない場所で測定する。	(0.5μSv/h) 以下	
10．線源校正			
10.1　校正定数	^{137}Cs 線源を使用し、×3(Kcpm)(15μSv/h) レンジは最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%) 付近で校正する。 その他のレンジは、80(%) 付近の一点校正で行う。 $$校正定数=\frac{線量当量率}{測定値-B.G値}$$ ×3(Kcpm)(15μSv/h) レンジにおける校正定数は、原点を通る３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも 1±0.3 以内	※実効中心は検出器表面から５１mm

レ　ン　ジ	ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ 入力	調整箇所	時　定　数
30(Kcpm)	2.0×10^{4}(cpm)	ＲＶ1	3(SEC)
3(Kcpm)	2.0×10^{3}(cpm)	ＲＶ2	3(SEC)
300(cpm)	2.0×10^{2}(cpm)	ＲＶ3	10(SEC)

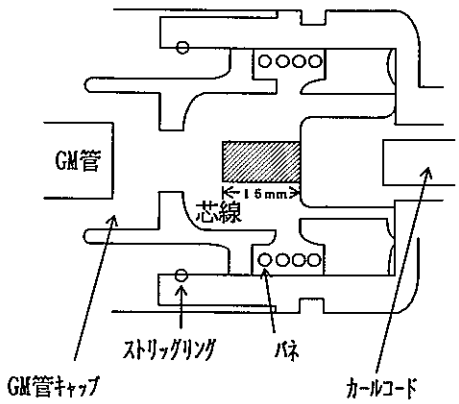
点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
10.2　直線性	10.1項における×3(Kcpm)(15μSv/h) レンジの測定値の直線性を求める。 $直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$ 又は $直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$	基準値±20(%)又は最大目盛値±6(%)以内	
11. 計数音チェック	チェック線源を用いて計数させ、スピーカから計数音が発することを確認する。	正常に動作すること	＊チェック線源 ^{90}Sr
12. 総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

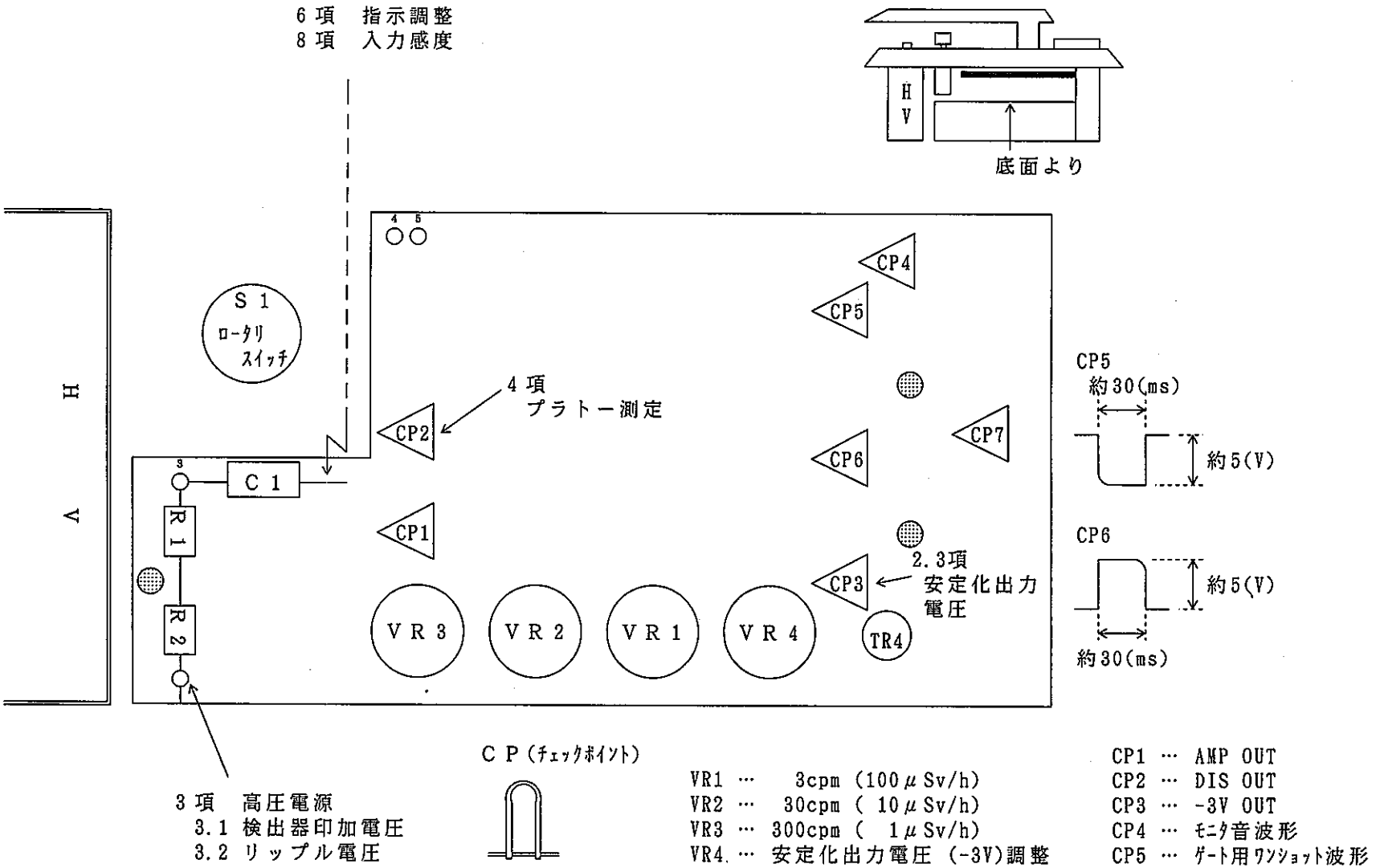
点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
カールコードの配線方法	 カールコード締付部より被覆の長さは15(㎜)とし、芯線に柔軟性をもたせるようにすること。		

整理番号	
	6／6

GM管式サーベイメータ　TGS－111



VR1 …　3cpm（100μSv/h）
VR2 …　30cpm（10μSv/h）
VR3 …　300cpm（1μSv/h）
VR4 …　安定化出力電圧（-3V）調整

CP1 …　AMP OUT
CP2 …　DIS OUT
CP3 …　-3V OUT
CP4 …　ﾓﾆﾀ音波形
CP5 …　ｹﾞｰﾄ用ﾜﾝｼｮｯﾄ波形
CP6 …　ｹﾞｰﾄ用ﾜﾝｼｮｯﾄ波形
CP7 …　3kHz OUT

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

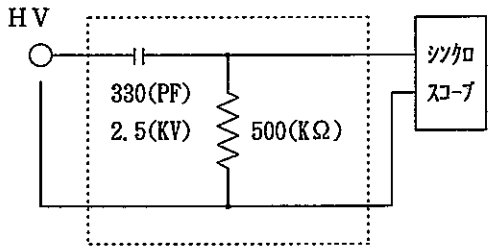
改訂　平成８年３月

機器名	GM管式サーベイメータ	型　名	TGS－113	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部、内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定する。	ＢＡＴＴ線内であること。 4.5～6.9(V)	
2.2　電圧範囲	本体からバッテリーパックを取り出し、安定化電源を用いてメータの指針がBATT線内の下限時の電圧を測定する。	4.0±0.5(V)以内	
2.3　安定化出力電圧	上記の状態で、チェック端子ＣＰ－５が-3(V)出ていることを確認する。 基準外の時は、-3(V) ＡＤＪで調整する。	-3.0(V)±10(%) 以内	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧接栓に高圧用デジボルを接続、高圧電圧を測定し、プラトー領域内にあることを確認する。設定されていない場合は、HV調整ボリュームでプラトー領域の下端より1/3付近の電圧に設定する。 ＨＶレンジ位置でメータ指針がＨＶ線内にあることを確認する。設定されていない場合は、ＨＶメータ調整用ボリュームで調整する。	1100±100(V)以内	

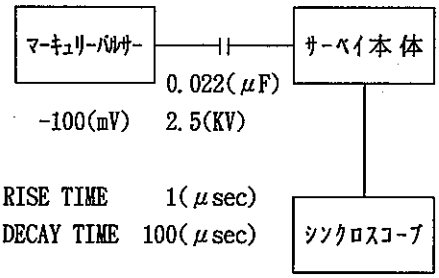
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を下記の接続にて測定する。  シールドＢｏｘ	100(mVp-p)以下	
4．プラトー測定	ＧＭ管を本体から取り外し、規定のスケーラ、タイマー、ＨＶ、チェック線源を使用し、 1000(V)から 50(V)毎に 1250(V)まで１分間測定する。プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域も基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{90}Sr
5．ノイズチェック	検出部を本体から取り出し測定状態(100レンジ）においてノイズがないことを確認する。 また、検出器を接続し、ケーブルからのノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと	
6．アンプゲイン調整	図－１の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)をサーベイ本体に入力し、アンプアウト出力-300(mV)を確認する。	-300(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 (図－1) 設定されていない場合は、ＧＡＩＮ　ＡＤＪで調整する。		
7．ディスクリ設定	上記の接続でシンクロスコープをディクリアウトに接続し、マーキュリーパルサー出力を変化させる。マーキュリーパルサー出力が-100(mV)の時にディスクリアウトに波形が出るか消えるかの状態であることを確認する。設定がずれている時は、ＤＩＳＣＲＩＡＤＪで調整する。	-100(mV)	
8．波高選別回路波形観測	上記の状態でディスクリアウトにシンクロを接続し、波高が2(V)以上あることを確認する。	2.0(V)以上	
9．指示調整	パルスジェネレータにて、計数を始めるレベルより若干高めのパルスを入力し、各レンジごとに入力に対応するメータ指示が得られるよう確認調整する。 レンジ / 調整箇所 / 時定数 100(cpm) / RV_1 / 30(SEC) 300(cpm) / RV_2 / 10(SEC) 1(Kcpm) / RV_3 / 3(SEC) 3(Kcpm) / RV_4 / 3(SEC)	各レンジとも フルスケール±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	10(Kcpm) ＲＶ₅ 3(SEC) 30(Kcpm) ＲＶ₆ 3(SEC)		
10. 時定数	パルスジェネレータにて、メータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにしたときから指示がフルスケールの37(%)になる迄の時間をストップウォッチで測定する。	3 (SEC) 2.1～4.5(sec) 10(SEC) 7 ～15 (sec) 30(SEC) 21～45 (sec)	
11. 計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで次式から効率を求める。 $効率(\%) = \frac{メータ指示値(cpm) - B.G(cpm)}{規定線源(dpm)} \times 100(\%)$	15(%)以上	規定線源 U_3O_8 協－１３２０
12. バックグラウンドの測定	最小レンジ(100ﾚﾝｼﾞ)を使用し、線源等の影響のない場所でＢＧ測定する。	100(cpm)以下	
13. 計数音回路の良・否	規定線源を用いて計数させ、スピーカから計数音が発することを確認する。	正常に動作すること	
14. ＡＣ電源の良・否	エリミネータを使用の場合には、-6(V) 出力電圧を測定する。	出力電圧 -6±0.3(V)以内	
15. 総合判定	各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

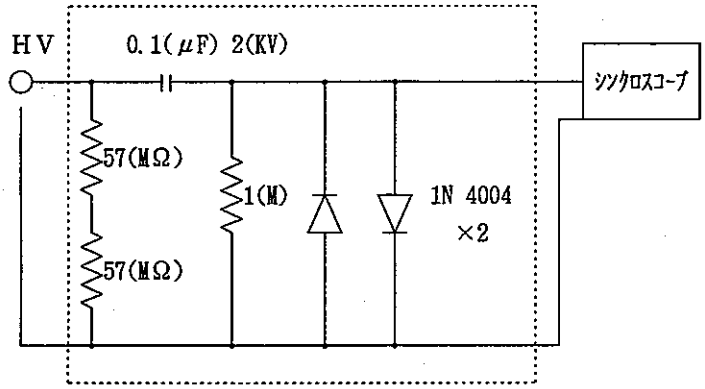
改訂　平成8年3月

機器名	GM管式サーベイメータ	型　名	TGS-123B、TGS-123C	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内にあることを確認する。 電池電圧を測定し記録する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 5.0～6.9(V)	
2.2　電圧範囲	本体からバッテリーパックを取り出し、安定化電源を用いてメータの指針がBATT線内の下限のときの電圧を測定する。	4.5±0.5(V)以内	
2.3　安定化出力電圧	安定化電源を+6(V)の電圧にして、ＣＰ$_2$，ＣＰ$_3$の出力電圧を測定する。	ＣＰ$_2$:10.0～11.0(V)以内 ＣＰ$_3$:2.50±0.10(V)以内	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧接栓に高圧用デジボルを接続、高圧電圧を測定し、プラトー領域内にあることを確認する。設定されていない場合は、HV調整ボリュームでプラトー領域の下端より1/3付近の電圧に設定する。 レンジＨＶ位置でメータ指針がＨＶ線内にあることを確認する。 設定されていない場合は、ＨＶメータ調整用ボリュームで調整する。	1100±100(V)以内	

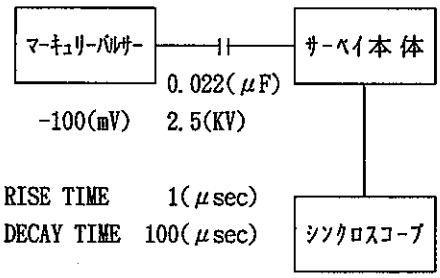
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を下記の接続にて測定する。	100(mVp-p)以下	
	 シルードＢｏｘ		
4．プラトー測定	ＧＭ管を本体から取り外し、規定のスケーラ、タイマー、ＨＶ、チェック線源を使用し、 1000(V)から 50(V)毎に 1250(V)まで１分間測定する。プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(C_n+100(V))-(C_n-50(V))}{C_n}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times 100(\%)$ （C_n：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{90}Sr
5．ノイズチェック	検出部を本体から取り出し測定状態（×100 レンジ）においてノイズがないことを確認する。 また、検出器を接続し、ケーブルからのノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．アンプゲイン調整	下記の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)をサーベイ本体に入力し、アンプアウト出力（CP_4）250～350(mV) を確認する。  	250～350(mV)	
7．ディスクリ設定	上記の接続でシンクロスコープをディクリアウト（CP_5）、に接続し、マーキュリーパルサー出力を変化させる。マーキュリーパルサー出力が-100(mV)の時がディスクリアウトに波形が出るか消えるかの状態であることを確認する。設定がずれている時は、ディスクリ調整用ボリューム（RV_1）で調整する。	-100(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	上記の状態でディスクリアウト（CP_5）にシンクロスコープを接続し、波高が-6.6(V)以上あることを確認する。	-6.6(V)以上	
9．指示調整	パルスジェネレータにて、計数を始めるレベルより若干高めのパルスを入力させ、各レンジごとに入力に対応するメータ指示が得られるよう確認調整する。	各レンジとも フルスケール±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10. 時定数	パルスジェネレータにて、メータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにした時から指示がフルスケールの37(%)になる迄の時間をストップウォッチで測定する。 レンジ / 調整箇所 / 時定数 100(cpm) / RV_2 / 30(SEC) 300(cpm) / RV_3 / 10(SEC) 1(Kcpm) / RV_4 / 3(SEC) 3(Kcpm) / RV_5 / 3(SEC) 10(Kcpm) / RV_6 / 3(SEC) 30(Kcpm) / RV_7 / 3(SEC) 100(Kcpm) / RV_8 / 3(SEC)	30（SEC） 21～45（sec） 10（SEC） 7～15（sec） 3（SEC） 2.1～4.5(sec)	
11. 計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで次式から効率を求める。 $効率(\%) = \frac{メータ指示値(cpm) - B.G(cpm)}{規定線源（dpm）} \times 100(\%)$	15(%)以上	規定線源 U_3O_8 協-1320
12. バックグラウンドの測定	最小レンジ（100ﾚﾝｼﾞ）を使用し、線源等の影響のない場所でＢＧ測定する。	100(cpm)以下	
13. 計数音回路の良・否	規定線源を用いて計数させ、スピーカから計数音が発することを確認する。	正しく動作すること	
14. 総合判定	各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

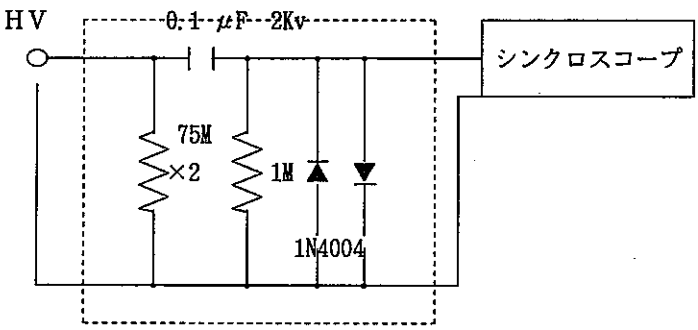
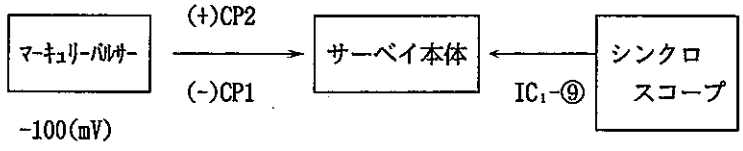
改訂　平成8年3月

機器名	GM管式サーベイメータ	型　名	TGS－133	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　出力電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 4.8～ 6.9(V)	
2.2　電圧範囲	ＢＡＴＴ接続プラグＪ４を外し、安定化電源を用いてメータの指針が、ＢＡＴＴ線内の下限の時の電圧を測定する。	4.5±0.3(V)以内	
2.3　安定化出力電圧	ＵＳＥレンジにし、安定化電源を＋6(V)の電圧にして、ＵＮ１（メインボード）P_1 の㉔、①、⑥の出力電圧を測定する。	P_1－㉔：4.50±0.40(V)以内 P_1－①：4.00±0.35(V)以内 P_1－⑥：-4.00±0.35(V)以内	
3．高圧電源			
3.1　出力電圧	高圧接栓に規定の測定器を接続し、高圧電圧を測定し、プラトー領域内にあることを確認する。 基準外の時は、ＨＶ調整ボリューム（ＲＶ４）で、プラトー領域内の下端より 1/3 付近の電圧に設定する。 レンジスイッチをＨＶの位置で、メータ指針が赤線内にあることを確認する。赤線外の場合は、ＨＶメータ調整用ボリューム（ＲＶ5)で調整する。	1100±100(V) メータ指針がＨＶ線内にあること。	
3.2　リップル電圧	図－１の接続にて、ＨＶに含まれているリップル電圧を測定する。	100(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

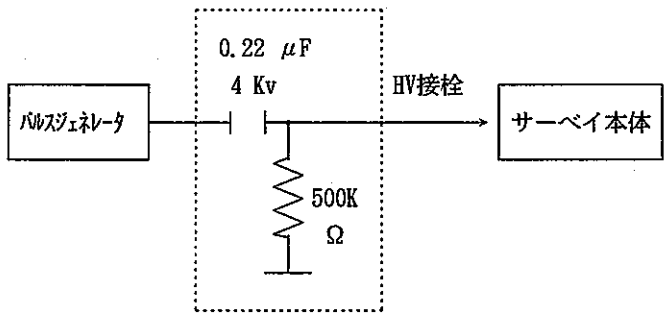
整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 シールドＢｏＸ 図－１		
4．プラトー測定	ＧＭ管を本体から取り外し、規定のスケラー、タイマー、ＨＶモジュル、チェック線源を使用し、1000(V) から50(V) 毎に1250(V) まで１分測定する。プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域も基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{90}Sr
5．ノイズチェック	検出器を本体から取り外し測定状態(100レンジ）において、ノイズがないことを確認する。 また、検出器を接続し、ケーブルからノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと。	
6．アンプゲインの確認	図－２の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)をサーベイ本体に入力し、ＩＣ₁ －⑨ピンのパルス波高が-200～-300(mV)であることを確認する。  -100(mV) EISE TIME　1（μsec) DECAY TIME　100(μsec)　　図－２	-200～-300(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．ディスクリ設定	図－２の接続で、シンクロスコープをＣＰ$_3$に接続し、マーキュリーパルサー出力を変化させ、変形が出るか消えるかの状態の時の、パルス波高を測定する。 設定がずれている場合は、DISCR １１Ｊ(RV_1）にて設定する。	-100(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	図－２の状態で、ＣＰ$_4$にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。	-3.6(V)以上	
9．指示調整	図－３の接続にて、レンジを100(Kcpm)に設定し、パルスジェネレータにて、計数を始めるレベルより若干高めのパルス出力電圧で60(Kcpm)を入力し、メータ指示が60(Kcpm)になるよにＲＶ$_3$を調整し、次に各レンジ毎に入力に対してのメータ指示を確認する。	各レンジとも フルスケルの３(%)以内	



シールドＢｏＸ

図－３

レンジ	入　力	時定数
100(cpm)	60 (cpm)	30(sec)
300(cpm)	180 (cpm)	10(sec)
1(Kcpm)	600 (cpm)	3(sec)
3(Kcpm)	1.8(Kcpm)	3(sec)
10(Kcpm)	6(Kcpm)	3(sec)

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	<table><tr><td>30(Kcpm)</td><td>18(Kcpm)</td><td>3(sec)</td></tr><tr><td>100(Kcpm)</td><td>60(Kcpm)</td><td>3(sec)</td></tr></table>		
10. 時定数	図－３の接続で、メータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにした時から指示が、フルスケールの37(%) になるまでの時間をストップウォッチで測定する。	3(sec)：2.1～4.5(sec) 10(sec)：　7～15(sec) 30(sec)：　21～45(sec)	
11. 計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで、下記式から効率を求める。 $効率 = \frac{メータ指示値(cpm) - ＢＧ値(cpm)}{規定線源値(dpm)} \times 100(\%)$	15(%)以上	規定線源 U_3O_8 協－１３２０
12. バックグラウンドの測定	最小レンジ(100ﾚﾝｼﾞ)を使用し、線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	100(cpm) 以下	
13. 計数音回路の良・否	規定線源を用いて計数させ、スピーカから計数音が発することを確認する。	正常に動作すること。	
14. 総合判定	各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

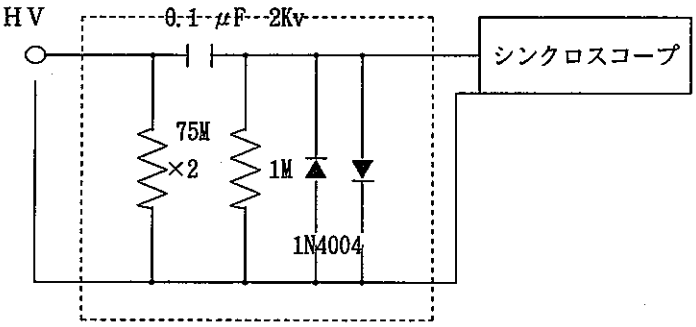
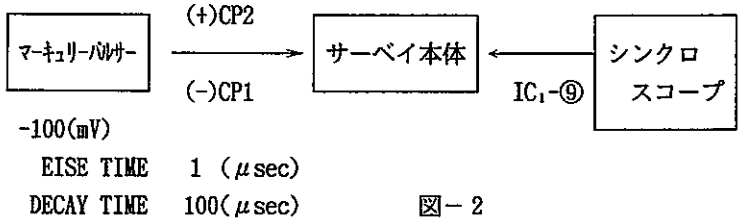
改訂　平成8年3月

機器名	GM管式サーベイメータ	型　名	TGS－136	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1 出力電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 4.8～ 6.9(V)	
2.2 電圧範囲	ＢＡＴＴ接続プラグＪ４を外し、安定化電源を用いてメータの指針が、ＢＡＴＴ線内の下限時の電圧を測定する。	4.5±0.3(V)以内	
2.3 安定化出力電圧	ＵＳＥレンジにし、安定化電源を＋6(V)の電圧にして、ＵＮ１（メインボード）のP_1の㉔、①、⑥の出力電圧を測定する。	P_1－㉔：4.50±0.40(V)以内 P_1－①：4.00±0.35(V)以内 P_1－⑥：-4.00±0.35(V)以内	
3．高圧電源			
3.1 出力電圧	高圧接栓に規定の測定器を接続し、高圧電圧を測定し、プラトー領域内にあることを確認する。 基準外の時は、ＨＶ調整ボリューム（ＲＶ４）で、プラトー領域内の下端より1/3付近の電圧に設定する。 レンジスイッチをＨＶの位置で、メータ指針が赤線内にあることを確認する。赤線外の場合は、ＨＶメータ調整用ボリューム（ＲＶ5)で調整する。	1100±100(V) メータ指針がＨＶ線内にあること。	
3.2 リップル電圧	図－１の接続にて、ＨＶに含まれているリップル電圧を測定する。	100(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

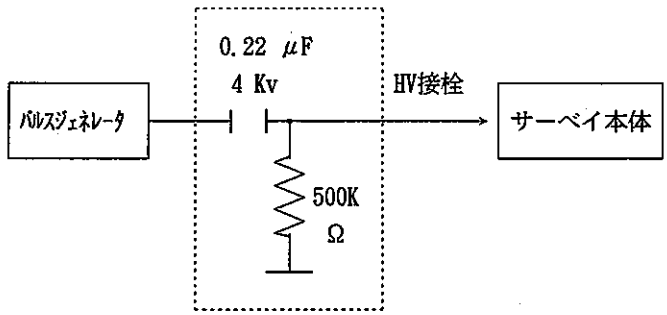
整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	 シルードＢｏＸ 図－１		
4．プラトー測定	ＧＭ管を本体から取り外し、規定のスケラー、タイマー、ＨＶモジュル、チェック線源を使用し、1000(V) から50(V) 毎に1250(V)まで1 分測定する。プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域も基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{90}Ｓｒ
5．ノイズチェック	検出器を本体から取り外し測定状態(100レンジ）において、ノイズがないことを確認する。 また、検出器を接続し、ケーブルからノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと。	
6．アンプゲインの確認	図－２の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)をサーベイ本体に入力し、ＩＣ$_1$ －⑨ピンのパルス波高が-200～-300(mV)であることを確認する。  -100(mV) EISE TIME　1（μsec) DECAY TIME　100(μsec)　　図－２	-200～-300(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．ディスクリ設定	図－2の接続で、シンクロスコープをCP$_3$に接続し、マーキュリーパルサー出力を変化させ、変形が出るか消えるかの状態の時の、パルス波高を測定する。 設定がずれている場合は、ＤＩＳＣＲＡＤＪ(RV$_1$）にて設定する。	-100(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	図－2の状態で、ＣＰ$_4$にシンクロスコープを接続し、波形を観測する。	-3.6(V)以上	
9．指示調整 9.1 メータ指示	レート／スケーラ切換スイッチをレートにし、図－3の接続にて、レンジを100(Kcpm）に設定し、パルスジネレータにて、計数を始めるレベルより若干高めのパルス出力電圧で60(Kcpm)を入力し、メータ指示が60(Kcpm)になるようにＲＶ$_3$を調整し、次に各レンジ毎に入力に対してのメータ指示を確認する。	各レンジとも フルスケルの3(%)以内	



シールドＢｏＸ

図－3

レンジ	入　力	時定数
100(cpm)	60 (cpm)	30(sec)
300(cpm)	180 (cpm)	10(sec)
1(Kcpm)	600 (cpm)	3(sec)
3(Kcpm)	1.8(Kcpm)	3(sec)

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	<table><tr><td>10(Kcpm)</td><td>6(Kcpm)</td><td>3(sec)</td></tr><tr><td>30(Kcpm)</td><td>18(Kcpm)</td><td>3(sec)</td></tr><tr><td>100(Kcpm)</td><td>60(Kcpm)</td><td>3(sec)</td></tr></table>		
9.2 デジタル指示	9.1 項において、デジタル値も合わせて確認する。	デジタル値 メータ指示値±3(%)以内	
10. 時定数	図－3の接続で、メータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにした時から指示が、フルスケールの３７(%) になるまでの時間をストップウォッチで測定する。	3(sec)：2.1～4.5(sec) 10(sec)：　7～15(sec) 30(sec)：　21～45(sec)	
11. スケーラモードの確認			
11.1 計数精度	9項の接続にて、レート／スケーラ切換スイッチをスケーラにし、プリセットタイム（Ｐ．Ｔ）を0.1(min)に設定し、パルスジネレータで 6(Kcpm)を入力しＲＥＳＥＴスイッチを押し計数を開始させ、計数値が600(ｶｳﾝﾄ) を指示することを確認する。	600 ±6(ｶｳﾝﾄ)以内	
11.2 測定時間	11.1項の方法にて、プリセットタイム（Ｐ．Ｔ）を1.0(min)に設定し、計数が60秒で終了することをストップウオッチにて測定する。	60±1(sec)以内	
11.3 カウント表示動作の確認	11.1項の際に、計数中にカウント表示が点滅することを確認する。	正常に動作すること。	
11.4 オーバーフロー動作の確認	11.1項の方法にて、プリセットタイム（Ｐ．Ｔ）を10(min) に設定し、パルスジネジネレータで10^5(cpm)を入力し計数を開始させ、1999×1000(ｶｳﾝﾄ)以上になった時、オーバーフローランプが点灯することを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
12. 計数効率	規定線源を用いて計数させ、指示値を読んで、下記式から効率を求める。 $\text{効率} = \frac{\text{指示値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{規定線源値(dpm)}} \times 100(\%)$	15(%)以上	規定線源 U_3O_8 協－１３２０
13. バックグラウンドの測定	最小レンジ(100ﾚﾝｼﾞ)を使用し、線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	100(cpm) 以下	
14. 計数音回路の良・否	規定線源を用いて計数させ、スピーカから計数音が発することを確認する。	正常に動作すること。	
15. 総合判定	各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	808 、808A、808DDE 808BG/65、808BG/25	メーカ名	ネスコ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 9.0～13.9(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り出し、安定化電源を用いて、メータ指針がBATT範囲の下限を示したときの電圧を測定する。	9.0(V)以上	
3．零点調整	スイッチをＵＳＥに切換え後、約5分間ウォーミングアップをする。 レンジスイッチを 10(mSv/h) にして、指針が零点を示していることを確認する。零点がずれている場合は、ＺＥＲＯ調ボリュームで調整する。 又各レンジにおいても零点を示していることを確認する。 但し×10、×100(μSv/h) の低レンジでは、ＢＧの影響のため零点を示さなくても良い。	零点調整がなされていること	
4．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±2(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
6．バックグラウンドの確認	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所でＢＧ測定する。	0.3(μSv/h)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1校正定数	規定線源(^{137}Cs）を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%) 付近で校正する。 $$校正定数=\frac{線量当量率}{測定値-BG値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り3点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを抽き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも 1±0.3以内	
7.2　直線性	7.1項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性=\frac{基準値-測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は $$直線性=\frac{基準値-測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%)又は、最大目盛値±5(%)以内	基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	８０８DMW	メーカ名	ネスコ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 ＋、－側それぞれのバッテリーケース端子で電池電圧をデジボルにて測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 +B：5.5～6.9 -B：-5.5～-6.9	
2.2　電圧範囲	＋側のバッテリーケースから電池を取り出し、安定化電源を接続し、電圧を徐々に下げていき、ＢＡＴＴが表示されたときの電圧を測定する。	+B：5.0±0.1(V)	＊－側の電池は取り出さないこと。
3．ＢＬ調整	スイッチをＯＮにして5分間ウォーミングアップする。レンジを×100(μSv/h) レンジにして表示が零付近になるようにＢＧ調整ボリュームを用いて調整する。 但し、指示値前の－は固定レンジということを表し、零より小さい値はすべて零と表示されることに注意する。	零付近に調整がなされていること。	
4．ノイズチェック	使用状態においてノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
5．線源校正			
5.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大指示値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$	各レンジとも 1±0.3 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	各レンジにおける校正定数は原点を通り、3点（測定点）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きにより求める。		
5.2 直線性	5.1項における各測定値の直線性を求める。 $直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times100(\%)$ 又は $直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大指示値}\times100(\%)$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛±5(%)以内	＊基準値は 5.1項で描いた直線上の点
5.3 オートレンジの動作確認	オートレンジにおいて、5(μSv/h)、50(μSv/h)、500(μSv/h)、5(mSv/h)、50(mSv/h)付近の照射を行い、自動的にレンジが切換わることを確認する。	自動的に切換わること	
6．メモリー機能の確認	設定データ及びモードE・測定用スイッチで記憶させた測定値が正常にプリンタで出力されることを確認する。	データが正常に出力されること	＊設定データ及びモードCの設定方法は別添参照のこと。
7．表示部の良・否	BATT、OVER、－、測定値及び各表示ランプが正常に表示及び点灯されることを確認する。	正常に表示及び点灯すること	
8．レンジ切換動作の良・否	レンジ切換動作が正常であることを確認する。	正常に動作すること	
9．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	AE-133, Λ$_1$, V/Λ , L	メーカ名	応用技研㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 +B：10.0～20.7(V) -B：-10.0～-20.7(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて、メータ指針がＢＡＴＴ範囲の下限を示したときの値を測定する。	10.0(V)以上	
2.3　検出器印加電圧	デジボルにてバッテリーケースの端子で検出器印加電圧を測定する。	-22.5～-25.9(V)	
3．零点調整	レンジをＲＥＳＥＴの位置にしてPOWERスイッチをＯＮにし、10分間位ウォーミングアップをする。指針が零点を示していることを確認し、各レンジにおいても零点を示していることを確認する。 但し、×3、×10の低レンジでは、ＢＧの影響のため零点を示さなくても良い。 零点がずれている場合は、ＺＥＲＯ　ＡＤＪＵＳＴにより調整する。	零点調整がなされていること	
4．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±2(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態においてノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
6．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所でＢＧ測定する。	0.3(μSv/h)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも １±0.3以内	
7.2　直線性	7.１項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	基準値は7.１項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	AE-133H 、AE-133HA	メーカ名	応用技研㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 +B：10.0～20.7(V) -B：-10.0～-20.7(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を＋Ｂ部に接続しメータ指針がＢＡＴＴ範囲の下限を示したときの値を測定する。	10.0(V)以上	
2.3　検出器印加電圧	デジボルにてバッテリーケースの端子検出器印加電圧を測定する。	-22.5～-25.9(V)	
3．零点調整	レンジをＲＥＳＥＴの位置にしてPOWERスイッチをＯＮにし、10分間位ウォーミングアップをする。指針が零点を示していることを確認し、各レンジにおいても零点を示していることを確認する。 但し、×0.2 の低レンジでは、ＢＧの影響のため零点を示さなくても良い。 零点がずれている場合は、ZERO ADJUSTにより調整する。	零点調整がなされていること	
4．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±2(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態においてノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
6．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所でＢＧ測定する。	0.005(mSv/h)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも 1±0.3 以内	
7.2　直線性	7.１項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	基準値は7.１項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	ＩＣＳ－１５１	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 +B：　5.5～ 6.9(V) -B：-5.5～-6.9(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて＋Ｂ－ＢＡＴＴ、－Ｂ－ＢＡＴＴの各々に接続して、ＢＡＴＴ範囲の下限を示した時の値を測定する。	+B：　5±0.5(V)以内 -B：-5±0.5(V)以内	
3．零点調整	スイッチをＵＳＥに切換え、約10分間位ウォーミングアップをする。レンジスイッチを零にして、指針が零点を示していることを確認し、次に各レンジに切換えても零点を示していることを確認する。 但し、×10、×100(μSv/h) 等の低レンジでは、ＢＧの影響ため零点を示さなくても良い。 零点がずれている場合は、零調ボリュームで調整する。 但し、×10、×100(μSv/h) レンジでは行わない。	零点調整がなされていること	
4．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±2(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
6．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所でＢＧ測定する。	0.3(μSv/h) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$\text{校正定数} = \frac{\text{線量当量率}}{\text{測定値－ＢＧ値}}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも １±0.3以内	
7.2　直線性	7.1項における各測定値の直線性を求める。 $$\text{直線性} = \frac{\text{基準値－測定値}}{\text{基準値}} \times 100(\%)$$ 又は $$\text{直線性} = \frac{\text{基準値－測定値}}{\text{最大目盛値}} \times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	基準値は 7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	ＩＣＳ－１５１Ｕ	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 +B：　5.5～ 6.9(V) -B：-5.5～-6.9(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて＋Ｂ－ＢＡＴＴ、－Ｂ－ＢＡＴＴの各々に接続して、ＢＡＴＴ範囲の下限を示した時の値を測定する。	+B：　5±0.5(V)以内 -B：-5±0.5(V)以内	
3．零点調整	スイッチをＵＳＥに切換え、約10分間位ウォーミングアップをする。レンジスイッチを零にして、指針が零点を示していることを確認し、次に各レンジに切換えても零点を示していることを確認する。 但し、×10、×100(μSv/h) 等の低レンジでは、ＢＧの影響ため零点を示さなくても良い。 零点がずれている場合は、零調ボリュームで調整する。 但し、×10、×100(μSv/h) レンジでは行わない。	零点調整がなされていること	
4．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±2(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
6．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所でＢＧ測定する。	0.3(μSv/h) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも 1±0.3 以内	＊10(μSv)レンジでは、1.8(mSv/h)の場で、下記の示す時間で照射する。 4秒　⇨　2(μSv) 10秒　⇨　5(μSv) 16秒　⇨　8(μSv)
7.2　直線性	7.1項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	電離箱式サーベイメータ	型　名	ＩＣＳ－３１１	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	メータ指針がＢＡＴＴ線内にあること。 +B：5.0(V)以上 -B：-5.0(V)以上	
2.2　電圧範囲	本体からバッテリーソケットを取り外し、安定化電源を用いてＪ５（－Ｂ側）、Ｊ６（＋Ｂ側）の各々に接続して、ＢＡＴＴ範囲下限を示した時の値を測定する。	+B：5.0±0.5(V) -B：-5.0±0.5(V)	＊Ｊ５①ピン（－） ②ピン(GND) Ｊ６①ピン（＋） ②ピン(GND)
3．零点調整	スイッチをＵＳＥに切換え、約5分間位ウォーミングアップをする。レンジスイッチを零にして、指針が零点を示していることを確認し、次に各レンジに切換えても零点を示していることを確認する。 但し、×10（μSv/h）レンジでは、フルスケールに対し-1(%)～+3(%)以内にあること。 零点がずれている場合は、零調ボリュームで調整する。	零点調整がなされていること	
4．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±2(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
6．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所でＢＧ測定する。	0.3(μSv/h) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも １±0.3以内	＊3(μSv)レンジでは、0.9(mSv/h)の場で、下記に示す時間で照射する。 2秒　⇨0.5(μSv) 6秒　⇨1.5(μSv) 10秒　⇨2.5(μSv) ＊ 10(μSv)レンジでは、1.8(mSv/h)の場で、下記に示す時間で照射する。 4秒　⇨　2(μSv) 10秒　⇨　5(μSv) 16秒　⇨　8(μSv)
7.2　直線性	7.１項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	＊基準値は7.１項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	低エネルギーγ線サーベイメータ	型　名	ICS-R74-2158	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 4.5～6.9(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いてＢＡＴＴ端子に接続して、ＢＡＴＴ範囲の下限を示した時の値を測定する。	4.5(V)以上	
2.3　出力電圧	2.2 項の状態にて、コネクタのピン番号A、Bより、出力電圧を測定する。	24.0±1.0(V)以内	
3．検出器印加電圧	デジボルにて、コネクタのピン番号Ｉ，Ｊより、検出器印加電圧を測定する。	-60.0(V)以上	
4．零点調整	スイッチをＵＳＥに切換え、約5分間位ウォーミングアップをする。レンジスイッチを零にして、指針が零点を示していることを確認する。 零点がずれている場合は、零調整ボリュームで調整する。	零点調整がなされていること。	＊零レンジの時、電池の消耗が大きいので、零チェックの時間をできるだけ短くする。
5．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±3(%)以内	
6．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
7．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所で、バックグラウンドを測定する。	0.1(mSv/h)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

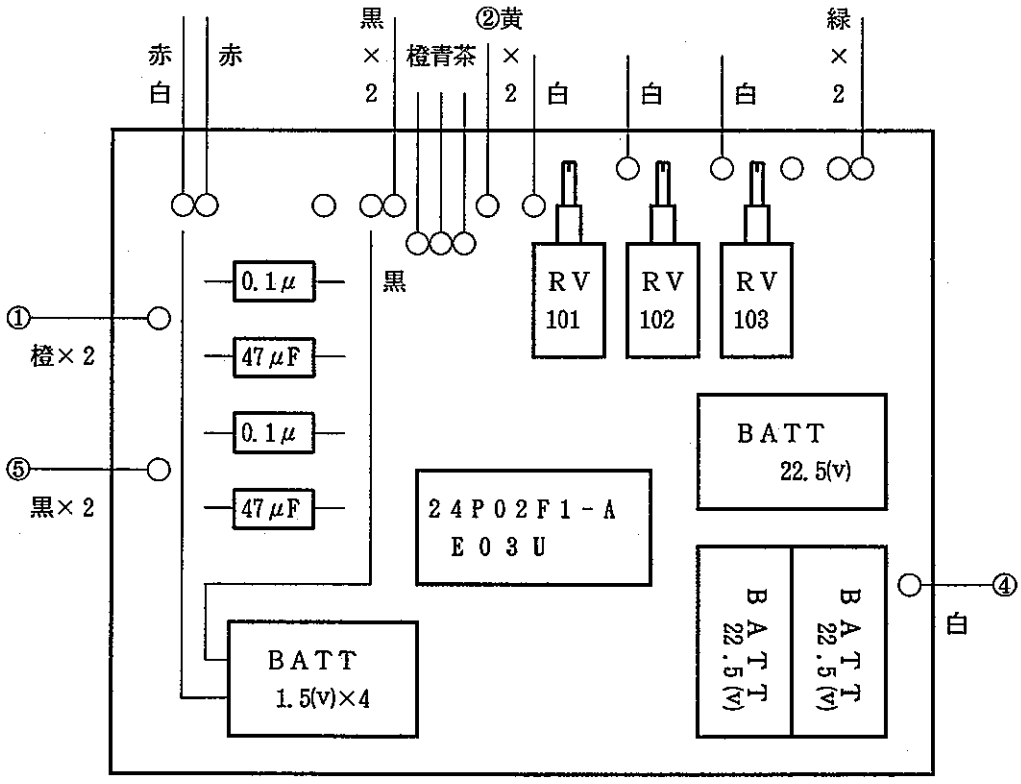
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8．線源校正 8.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも １±0.3以内	
8.2　直線性	8.1項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	基準値は8.１項で描いた直線上の点
9．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	低エネルギーγ線サーベイメータ	型　名	ICS-R74-2591	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	本体外部が清掃され、部品の破損及びねじのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 4.5～6.9(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いてＢＡＴＴ端子に接続して、ＢＡＴＴ範囲の下限を示した時の値を測定する。	4.5(V)以上	
2.3　出力電圧			

図－1

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	2.2項の状態で、図－1の①番（＋）、②番（－）より、出力電圧を測定する。	24.0±1.0(V)以内	
3．検出器印加電圧	デジボルにて、図－1の④番（＋）、⑤番（－）より、検出器印加電圧を測定する。	-60.0(V)以上	
4．零点調整	スイッチをＵＳＥに切換え、約5分間位ウォーミングアップをする。レンジスイッチを零にして、指針が零点を示していることを確認する。 零点がずれている場合は、零調整ボリュームで調整する。	零点調整がなされていること。	＊零レンジの時、電池の消耗が大きいので、零チェックの時間をできるだけ短くする。
5．ドリフトチェック	使用状態において、各レンジでのドリフト状態を確認する。	最大目盛値±3(%)以内	
6．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと	
7．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所で、バックグラウンドを測定する。	0.1(mSv/h)以下	
8．線源校正 8.1　校正定数	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジについて最大目盛値の20(%)、50(%)、80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り、3点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより求める。	各レンジとも 1±0.3以内	
8.2　直線性	8.1項における各測定値の直線性を求める。	各レンジとも 基準値±10(%) 又は、最大目盛値±5(%)以内	基準値は8.1項で描いた直線上の点

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

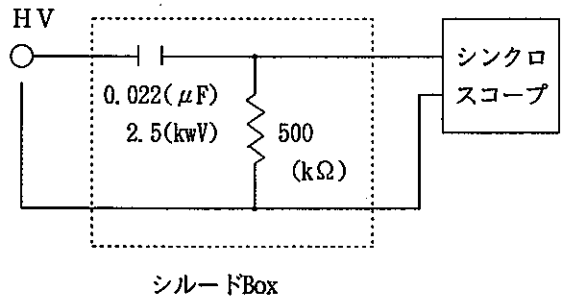
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	直線性＝ (基準値－測定値)／基準値 ×100(%) 又は 直線性＝ (基準値－測定値)／最大目盛値 ×100(%)		
8.3　オートレンジの動作確認	オートレンジにおいて、0.5、5 、50(mSv/h) 付近の照射を行い、自動的にレンジが切換わることを確認する。	自動的に切換わること。	＊メータ指示及びレンジランプが切換わこと。
9．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

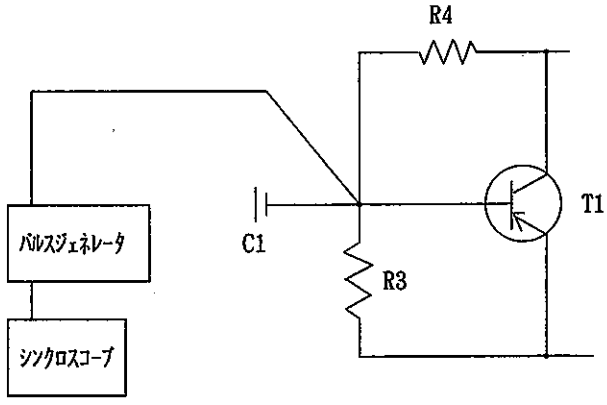
改訂　平成8年3月

機器名	遠隔操作型γ線サーベイメータ	型　名	6112B	メーカ名	AUTOMESS
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチを［B］にして、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 4.5～6.9(V)以内	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、（バッテリーケースの破損、腐食がないことを確認する）安定化電源を用いて、メータ指針がＢＡＴＴ範囲の下限を示した時の値を測定する。	4.0±0.5(V)以内	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧電圧を高圧用デジボルにて測定し、プラトー領域内にあることを確認する。 設定されていない場合は、調整ボリューム（Ｐ1）で調整する。	-550±50(V)以内	
3.2　リップル電圧	リップル電圧を下記の接続にて、測定する。  シルードBox	250(mVp-p)以下	
4．プラトー測定			
4.1　高レンジ	GM管を本体から取り外し、規定のスケーラ、タイマー、H・V、チェック線源を使用し、400(V)から50(V)毎に700(V)まで1分測定する。	プラトー領域 100(V)以上 プラトー傾斜 30(%/100V)以下	

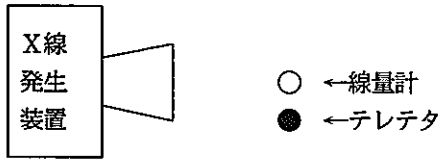
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	プラトー傾斜は下記式より求め、30(%/100V)以下ならプラトー傾斜も基準を満たす。 $\frac{(Cn+50(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{100(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧の計数値）		
4.2　低レンジ	プラトー傾斜は下記式より求め、10(%/100V)以下ならプラトー傾斜も基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-100(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{200(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧の計数値）	プラトー領域 200(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	
5．入力感度測定	検出器基板内Ｃ１の後に、パルスジェネレータを接続し、次にパルスジェネの出力を変化させ、メータの指針が振れ始める時点の、パルスジェネの出力をシンクロスコープで測定する。 接続は下図参照  	-700(mV)以下	
6．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジ毎に計算値とメータ指示値が１：１になる様、調整用ボリュームで調整する。 レンジ / 校正点(mSv/h) / 調整ﾎﾞﾘｭｰﾑ 0．02 / 0.007 / Ｐ５ 0．5 / 0．2 / Ｐ４ ２０ / 3 / ２０ / 7 / Ｐ３ ２０ / １０ / ５００ / ７０ / Ｐ６	各レンジとも 1.0 ±0.1 以内	
8．Ｘ線照射による直線性の確認	Ｘ線発生装置で任意の３点を照射し、Ｌｏｇ－Ｌｏｇのグラフより直線性を確認する。 調整は調整ボリューム（Ｐ２）にて行う。 Ｘ線使用条件  Ｘ線発生装置設定条件 管電圧　：　250(Kv) 管電流　：　任意設定 フィルター Ａｌ　：　1.98×2 Ｃｕ　：　1.01，0.49，0.205 効エネルギー：　124(KeV)	直線性がとれていること。	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．バックグラウンドの測定	0.02(mSv/h) レンジを使用し、線源等の影響のない場所において測定する。	0.0003(mSv/h) 以下	
10. 計数音チェック	本体にスピーカボックスを取りつけて計数させた時、計数音が発することを確認する。	正常に動作すること。	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

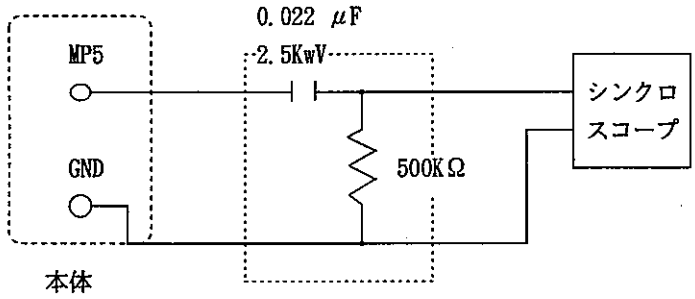
改訂　平成8年3月

機器名	遠隔操作型γ線サーベイメータ	型　名	6112D	メーカ名	AUTOMESS
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．表示器の確認	スイッチを「B」にして、時定数を16秒にした時、［888.8Volt］又は［88.88VoLt］を表示すること。	正常に動作すること。	
3．低圧電源			
3.1　電池電圧	時定数を1秒か4秒にした時、デジタル表示器に電圧を表示すること。 電池電圧をデジボルにて測定する。	電圧を表示すること。 4.5～6.9(V)以内	
3.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、（バッテリーケースの破損、腐食がないことを確認する）安定化電源を用いて電圧を可変させ、Sv/hレンジにて［Volt］の表示が現れる時の、安定化電源の電圧を測定する。	4.0±0.5(V)以内	
4．高圧電源			
4.1　検出器印可電圧	高圧電圧を高圧用デジボルにて、チェック端子（MP5）とGND間で測定し、プラトー領域内にあることを確定する。 規格外の時は、調整ボリューム（P1）で、チェック端子（MP7）が-13.0(V)、チェック端子（MP6）が6.8 ±0.2(V)になる様に調整する。	-540±10(V)以内	
4.2　リップル電圧	リップル電圧を図－1の接続にて、測定し、下記式より求める。 $\frac{\text{リップル電圧}}{\text{検出器印可電圧}} \times 100(\%)$	検出器印可電圧の1(%)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 （図－１）		
5．プラトー測定 5.1　高レンジ	ＧＭ管を本体から取り外し、規定のスケーラ、タイマー、Ｈ・Ｖ、チェック線源を使用し、400(V)から50(V)毎に700(V)まで１分測定する。 プラトー傾斜は下記式より求め、30(%/100V)以下ならプラトー領域も基準を満たす。 $\frac{(Cn+50(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{100(V)} \times 100\ (\%)$ （Ｃｎ：使用電圧の計数値）	プラトー領域 100(V)以上 プラトー傾斜 30(%/100V)以下	
5.2　低レンジ	3.1項同様に測定する。 プラトー傾斜は下記式より求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域も基準を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-100(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{200(V)} \times 100\ (\%)$ （Ｃｎ：使用電圧の計数値）	プラトー領域 200(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	
6．出力波高の確認	^{137}Ｃｓ線源を使用し、検出器からの出力信号をアンプアウト端子（ＭＰ１）にて、測定する。	約2.7(V)	

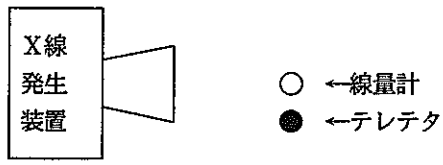
点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．ノイズチェック	使用状態いおいて、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	
8．線源校正	規定線源(^{137}Ｃｓ）を使用し、各レンジ毎に計算値とデジタル表示値が１：１になる様、調整様ボリュームで調整する。 校正点 Sv/hﾚﾝｼﾞ　50(mSv/h) (mSv/hﾚﾝｼﾞ) mSv/hﾚﾝｼﾞ　0.1(mSv/h) (μSv/hﾚﾝｼﾞ)　1(mSv/h) 8(mSv/h) mSv ﾚﾝｼﾞ　80(mSv/h)の場で36秒照射で0.8(mSv) 調整 mSv/hﾚﾝｼﾞ （μSv/hﾚﾝｼﾞ) ① 0.1(mSv/h)場において、0.1(mSv/h)付近に調整ボリューム（Ｐ３）で調整する。 ② 8(mSv/h)場において、8(mSv/h)付近に調整ボリューム（Ｐ７）で調整する。 ③ 上記の調整後、0.01(mSv/h) 及び1(mSv/h)場において、指示値を確認する。 Sv/hﾚﾝｼﾞ (mSv/hﾚﾝｼﾞ) ① 調整ボリューム（Ｐ９）で時計方向一杯に廻す。 ② 0.1(Sv/h) 場において、0.1(Sv/h)付近に調整ボリューム（Ｐ５）で調整する。	各レンジとも 1.0±0.1以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

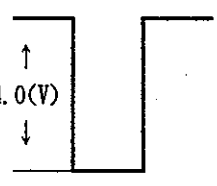
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	③　8(Sv/h)場において 8(Sv/h)付近に調整ボリューム（P2 ）で調整する。 ④　2 (Sv/h)の場において、2.05(Sv/h)付近に調整ボリューム（P 7）で調整する。 ⑤ 2.5(Sv/h)、2 (Sv/h)及び2.5(Sv/h)の場において、デジタル表示値を確認する。		
9．X線照射による直線性の確認	X線発生装置で任意の 3 点を照射し、Ｌｏｇ－Ｌｏｇのグラフより直線性を確認する。 指示値が極端に違ったり、又直線性が取れていない場合は調整する。 X線使用条件  管電圧　：　250(KV) 管電流　：　任意設定 フィルター ＡＩ　：　1.98×2 Ｃｕ　：　1.01，0.49，　0.205 実効エネルギー：　124(KeV)		＊Sv/hﾚﾝｼﾞ（mSv/hﾚﾝｼﾞ）の線源校正から始める。
10. バツクグラウンドの測定	mSv/h ﾚﾝｼﾞ(μSv/hﾚﾝｼﾞ)を使用し、線源等の影響のない場所において測定する。	0.0003(mSv/h) 以下 [0.3(μSv)以下]	
11. 計数音チェック	本体にスピーカボックスを取りつけて計数させた時、計数音が発することを確認する。	正常に動作すること。	
12. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目より総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

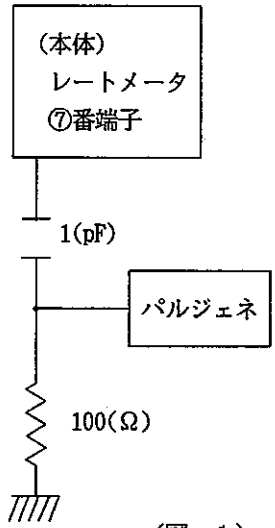
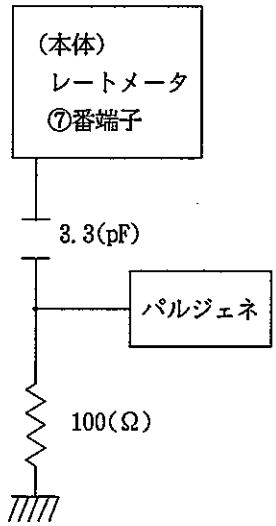
改訂　平成8年3月

機器名	中性子線用サーベイメータ	型　名	２２０２Ｄ	メーカ名	スタズビック
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．メータ零点のチェック	電源スイッチをＯＦＦの状態で、メータの指示が１（μSv/h）であることを確認する。づれている時は、メータの調整箇所により調整する。	1(μSv/h)	
3．低圧電源 3.1　電池電圧	ＢＡＴＴスイッチを押し、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 デジボルにて、レートメータ基板の④番、②番端子と、ＧＮＤ間の電池電圧を測定する。	ＢＡＴＴ線内にあること。 ④番端子：7.5～8.6(V)以内 ②番端子：-6.0～-6.9(V)以内	
3.2　電圧範囲	電源スイッチをＯＦＦにし、安定化電源をＥＸＴ端子の①番端子（＋）、②番端子（－）に接続し、電源スイッチをＥＸＴレンジに切換え、次にＢＡＴＴスイッチを押しながら電圧を徐々に可変し、メータ指針がＢＡＴＴ線内の下限を示した時の電圧を測定する。	7.5(V)以上	
4．ディスクリレベルの測定	レートメータ基板のR18とＧＮＤ間の電圧を、デジボルにて測定する。 基準外の時は、R16にて調整する。	-1.0～-4.0(V)	＊プラトー特性及び線源校正より判断し、規格外ならば調整する。
5．波高選別回路波形チェック	図－１の接続にて、パルジェネから 30(cps)、入力波高を-500(mv)、パルス幅１（μsec)のパルスを入力し、本体表面のＯＵＴ出力端子でのパルス波形をシンクロスコープで確認する。 基準外の時は、R25にて調整する。		＊レートメータ基板の⑧番端子（ＨＶ）の配線を外して行うこと。

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	旧型  新型  （図－１）		
6．指示調整	５項の接続にて、入力波高を-500(mV)で下記周波数を入力させ、規定のメータ指示値になるよう調整する。	±0.2(dec)以内	

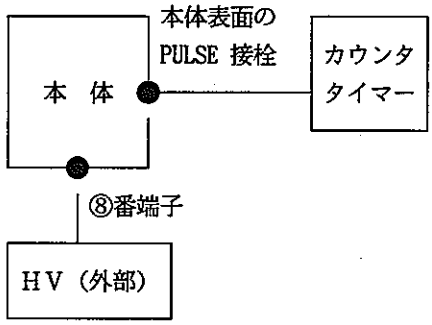
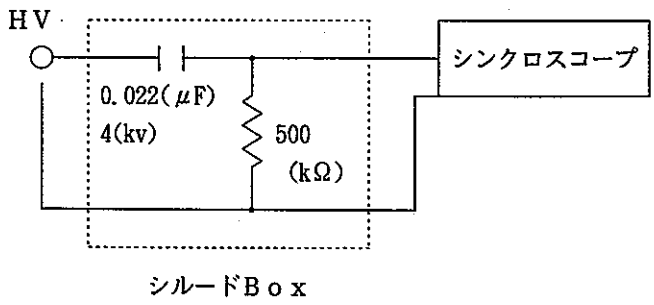
周波数 (cps)	メータ指示値 (μSv/h)	調　整	
		2202D 型	2202型
3	9×10^{0}	ＲＶ３７	ＲＶ３３
30	9×10^{1}	――	――
300	9×10^{2}	――	――
3000	9×10^{3}	ＲＶ３８	ＲＶ３４

＊3.3(cps) ←→10(μSv/h)

又、10^{5}(μSv/h) 指示値の時、デジボルにて、レコーダ出力端子の電圧を測定する。 基準外の時は、ＲＶ40にて調整する。	2.0±0.1(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．プラトー測定			＊レートメータ基板の⑧番端子の配線を外し、⑧番端子に外部からのＨＶを接続する。
	上記の接続にて、^{241}Ａｍ－Ｂｅの線源を使用し、計数開始電圧から約500(V)上まで、50(V)毎に１分測定する。 測定した結果プラトー曲線が描かれていることを確認する。	測定結果異常のないこと。	＊ウォーミングアップは、５分以上行う。
8．高圧電圧			
8.1　検出器印加電圧	高圧用デジボルを用いて、ＨＶ基板の⑲番端子の電圧を測定し、プラトー領域内にあることを確認する。 ＨＶ調整は、スイッチS_1にて３段階に可変できる。又、微調整は、R_7にて調整する。	各スイッチの電圧 設定電圧のスイッチ番号	＊各スイッチの電圧 ① 2125(v)付近 2300(v)付近 ② 2200(v)付近 2400(v)付近 ③ 2275(v)付近 2500(v)付近
8.2　リップル電圧	リップル電圧を下記の接続にて、測定する。  シールドＢｏｘ	50(mVp-p) 以下	
9．γ線感度試験	^{137}Ｃｓ線源を使用し、100(mSv/h)付近の場にて、３分間照射し計数しないことを確認する。	γ線感度のないこと。 （計数しないこと。）	＊ウォーミングアップは、五分間以上行う。

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

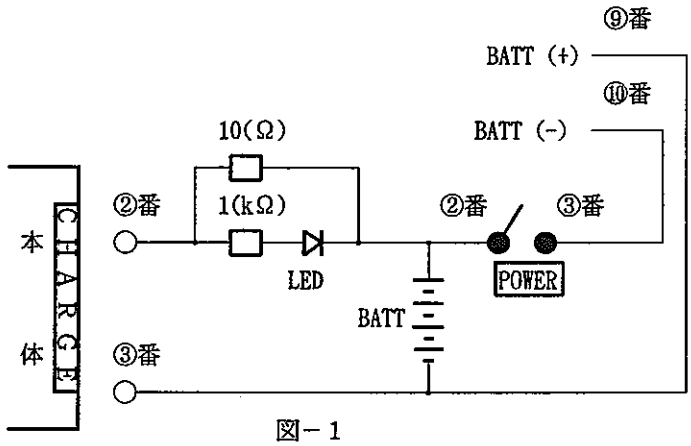
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10. ドリフトチェック	使用状態において、ドリフト状態を確認する。	フルスケールの±5(%)以内	
11. ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	
12. 線源校正			
12.1 校正定数	^{241}Am－Be、^{252}Cf線源を使用し、下記校正点にて校正し、原点を通る点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより校正定数を求める。 校正点 ^{241}Am－Be線源 5(μSv/h) 10(μSv/h) 30(μSv/h) 70(μSv/h) ^{252}Cf線源 100(μSv/h) 700(μSv/h) $$\text{校正定数}=\frac{\text{線量当量率（μSv/h）}}{\text{測定値（μSv/h）－BG値（μSv/h）}}$$	1±0.3以内	＊校正定数及び線量当量換算係数は、^{241}Am-Be線源にて求める。
12.2 中性子感度	^{241}Am－Be線源における、中性子感度（cps/μSv/h）を求める。 $$\text{線量当量換算係数}=\frac{\text{測定値(cps)－BG値(cps)}}{\text{線量当量率（μSv/h）}}$$		＊各校正点の平均値により求める。
13. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

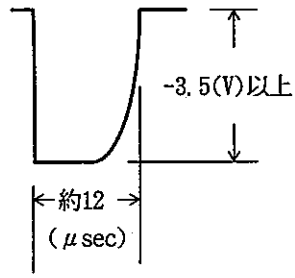
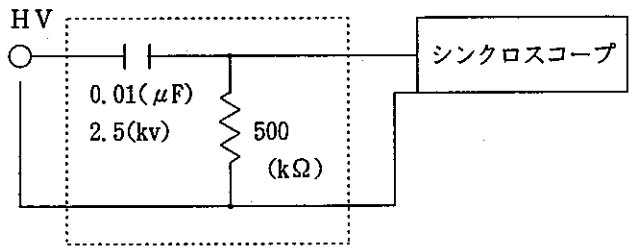
改訂　平成8年3月

機器名	中性子線用サーベイメータ	型　名	NSN10001	メーカ名	富士電機㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。 シリカゲルの色の状態が、青いことを確認する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。 シリカゲルの色が青いこと	
2．充電機能 2.1　充電池電圧	 図－1		
	電源スイッチ端子②番においての充電池電圧を、デジボルにて測定する。 10.0(V)以下の場合は、十分充電する。 充電しても10.0(V)未満の場合は、充電池を交換する。	10.0(V)以上	
2.2　電池電圧低下検出機能	充電池を取り外し、安定化電源の（+）側をＰＯＷＥＲスイッチの端子③番、(-)側をＣＨＡＲＧＥの③番に接続し、電圧を徐々に下げていき、ＬＣＤ表示パネルの“batt”が点滅した時の電圧を測定する。	8.5±0.2(V)以内	
3．電源機能	電源スイッチをＯＮにし、ディジタル処理ユニット（07μ520)側のコネクター端子③番（Ｌ２　２次側電圧）及び④番（Ｌ３２次側電圧）の電圧を測定する。	Ｌ２側：5.10±0.05(V)以内 Ｌ3 側：-4.90±0.05(V)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／6

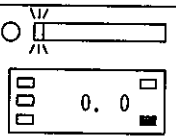
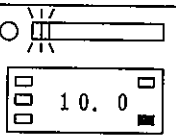
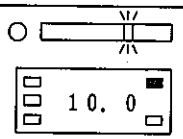
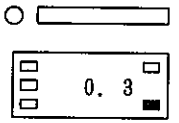
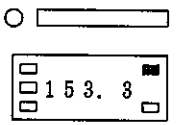
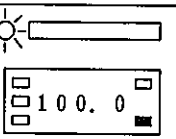
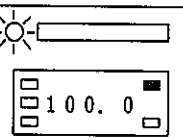
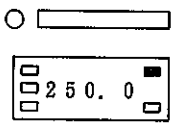
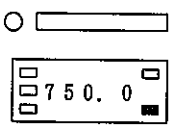
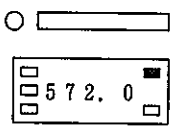
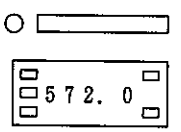
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．出力機能確認	^{241}Am－Be又は、^{252}Cf線源により、出力信号端子からの波形をシンクロスコープで観測する。		
5．高圧電源			
5.1　検出器印加電圧	高圧電源端子（R９ターミナル）に高圧用デジボルを接続し、検出器印加電圧を測定する。	1300±50(V)以内	
5.2　リップル電圧	ＨＶに含まれているリップル電圧を、下記の接続にて測定する。  シルードＢｏｘ		
6．ノイズチェック	線源等の影響のない場所にて測定し、指示値が0.1(μSv/h)以下であること。	0.1(μSv/h)以下	
7．バックグラウンドの測定	出力信号端子にカウンター・タイマーを接続し、線源等の影響のない場所で５分間測定し、0.02(cps）以下であることを確認する。	0.02(cps)以下	
8．線源校正			
8.1　校正定数	^{241}Am－Be、^{252}Cf線源を使用し、次の校正点にて校正し、原点を通る点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きより校正定数を求める。	1±0.3以内	＊校正定数、中性子感度は、^{241}Am－Ｂｅ線源にて求める。

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	校正点 ^{241}Ａｍ－Ｂｅ線源 5(μSv/h) 10(μSv/h) 30(μSv/h) 70(μSv/h) ^{252}Ｃｆ線源 100(μSv/h) 700(μSv/h) $\text{校正定数} = \dfrac{\text{線量当量率（μSv/h）}}{\text{測定値（μSv/h）} - \text{ＢＧ値（μSv/h）}}$		
8.2　中性子感度	^{241}Ａｍ－Ｂｅ線源における、中性子感度（cps/μSv/h）を求める。 $\text{中性子感度} = \dfrac{\text{測定値(cps)} - \text{ＢＧ値(cps)}}{\text{線量当量率（μSv/h）}}$	4.5(cps/μSv/h) ±20(%)以内	＊各校正点の平均値により求める。
9．γ線感度	^{137}Ｃｓ線源を使用し、100(mSv/h)付近の場にて、３分間照射し0.2(μSv/h) 以下であることを確認する。	0.2(μSv/h) 以下	
10. 総合判定	表示操作機能（別添参照）が異常のないこと、又、本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

別添　　操作説明表　1

	操　　作	Mode	機　能	表　　示		備　　考
A	POWER SW ON	SURVEY	初期設定 ↓ 線量率測定			・電源投入Vの初期設定 Mode ： SURVEY 積算線量 ： 0.0 μremh^{-1} TIMER： 01.00
B	SURVEY	SURVEY	線量率測定	 表示値10 μremh^{-1}の場合	 表示値10mremh^{-1}の場合	・μremh^{-1} ← → mremh^{-1}の単位切換は自動切換とする。 ・電源投入後はSURVEY Key On 不要
C	INT	INT	積算状態表示	 積算値10 μremh^{-1}の場合	 積算値153.3mremh^{-1}の場合	
D	INT → START hr-SET	INT START	積算線量測定 開始	 100 μrem の場合	 100mrem の場合	・積算状態表示Mode又は、残時間表示Modeで、本Key を押すとプリセットタイマスタートと同時に積算を開始、タイマUPで積算終了。 ・ただし、プリセットタイマの設定値が○○. ○○の場合作動しない。
E	INT → STOP m-SET	INT STOP	積算線量測定 停止	 250 μremhでstop中	 750mrem でstop中	・積算状態表示Mode又は、残時間表示Modeで、本Key を押すとプリセットタイマカウントダウンと積算動作を一時停止しD項操作にて再び開始する。
F	INT + STOP m-SET	INT RESET	積算線量値 及び 残時間クリア	 572mrem クリア	⇨  クリア後0.0 μrem	・積算状態表示Modeにあいて、本操作を行うと積算値及び残時間はクリアされる。

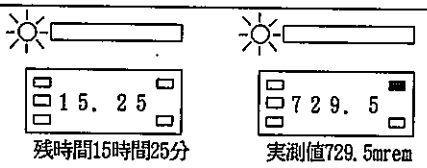
注）INT Mode 用 LED  ： 点灯　→ 操作順序を示す。

SURVEY Mode Level LED  ： 点灯　＋ 同時操作を示す。

別添　　操作説明表　2

	操　　作	Mode	機　能	表　　示	備　　考
G	TIMER	TIMER	時間プリセット	○ 72. 45 72 時間45分設定　○ 00. 35 35 分設定	・実測値表示Mode（INT, SURVEY共）からTIMER Key を1 回押すと本Modeに移す ・本Mode中、時／分識別点は、フリッカ状態になる。
H	START hr－SET	TIMER 時間設定	プリセットタイマ （時）設定	○ 95. 00 95時間設定　○ 02. 00 02時間設定	・TIMER Mode中に本Key を押すと 0～99時間まで 1Hourきざみで設定できる。 ・F項の操作で前面のプリセット値をクリアしないと新たな設定は出来ない（表示はするがK項操作で入力されない）
I	STOP m－SET	TIMER 分設定	プリセットタイマ （分）設定	○ 00. 55 55 分設定　○ 00. 05 05分設定	・TIMER Mode中に本Key を押すと 0～55分まで5分きざみで設定できる。 ・F項の操作で前面のプリセット値をクリアしないと新たな設定は出来ない（表示はするがK項操作で入力されない）
J	LIGHT RESET	TIMER 時分リセット	プリセットタイマ Reset	○ 89. 50 89 時間50分Reset　○ 00. 00 Reset後00時間00分	・TIMER Mode中に本Key を押すと設定時間が Resetされて00時間00分になる。
K	TIMER ↓ TIMER	残時間表示	残時間表示 プリセット値確認	☼ 572. 0 残時間1時間25分で積算中　○ 00. 00 積算終了	・実測値表示Mode（INT, SURVEY共）からTIMER Key を2回押すと残時間表示がされる。 ・H, I項でプリセットした値は本操作で入力される。
L	LIGHT RESET	LIGHT	LIGHT用 LEDの点灯		・Timer 時分リセットMode以外で本key を押すとLCD照明用LEDがつく。

別添　　操作説明表　3

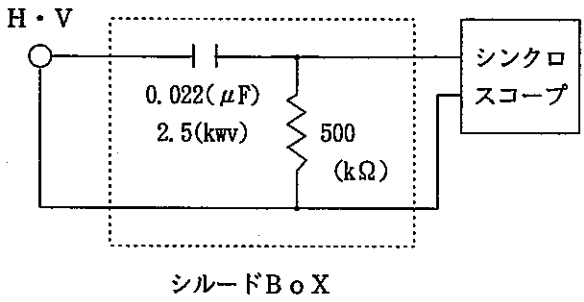
	操　　作	Mode	機　能	表　　示	備　　考
M	TIMER ← TIMER ↓ ↗ TIMER	実測値表示	実測値表示	 残時間15時間25分　実測値729.5mrem	・実測値表示Mode（INT,SURVEY共）から3回TIMER Key を押すと再び実測値表示Modeにもどる。
N					
O					
P					
Q					
R					

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	TCS-121C(SV)	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 7.7(V)以上	
2.2　電池範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて、7.7(V)を印加した場合、指示計の針が赤と緑の境界線の所を指示していることを確認する。指示していない場合は、ＲＶ301 で調整する。	7.7(V)	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧用デジボルにて、検出器印加電圧を測定する。	1000±50(V)以内	
3.2　リップル電圧	下記図の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにより測定する。  	50(mVp-p)以下	
4．検出部チェック			
4.1　検出器出力	^{137}Ｃｓ線源を使用し、コンデンサ(C_6)の後でシンクロスコープにて、^{137}Ｃｓピークの波形を測定する。 基準外の時は、ＲＶ１にて調整する。	^{137} Ｃｓ出力 -80～ -1000(mV)	＊調整ＲＶ１がないものは、R53をショートする。

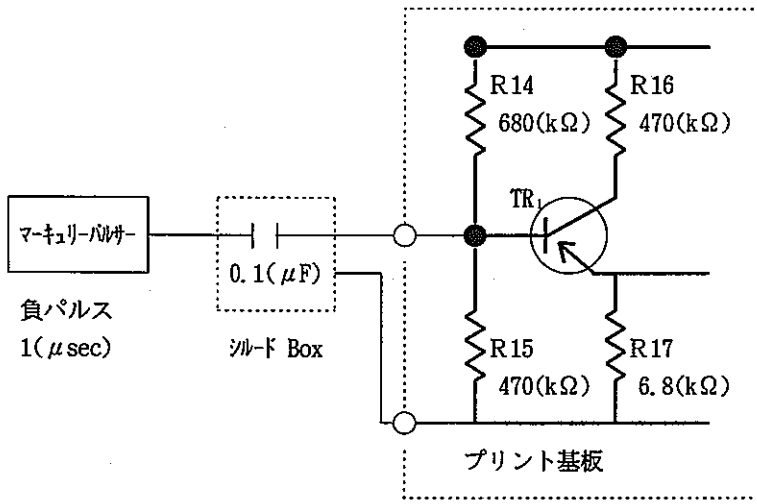
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4.2 分解能出力	^{137} Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 次に、^{133} Ｂａ、^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーが直線上に乗ることを確認する。 次に、下記式により分解能を求める。 $\frac{^{137}\text{Cs エネルギー}(662\text{keV}) - ^{133}\text{Ba エネルギー}(356\text{keV})}{^{137}\text{Cs ピーク}(\quad\text{ch}) - ^{133}\text{Ba ピーク}(\quad\text{Ch})} \times \frac{^{137}\text{Cs FWHM}(\quad\text{ch})}{^{137}\text{Cs エネルギー}(662\text{keV})} \times 100(\%)$	^{137} Ｃｓ分解能 12(%) 以下	
5．利得調整	^{137}Ｃｓ線源を使用して計数させ、シンクロスコープにて、ＡＭＰ－ＯＵＴの出力（Ｔｒ－４のエミッタ）が -1.6(V)になるようＲＶ２で調整する。	AMP-OUT出力：-1.6(V)	
6．ディスクリ調整	本器サーベイメータのカットエネルギーは、100(keV)に調整する。 ５項において、^{137}Ｃｓのエネルギー662(keV)の出力を -1.6(V)に調整したので100(keV)の出力は、1.6(V)×［100(keV)÷662(keV)］≒ 240(mV)となるので、ディスクリ設定を 240(mV)にすると、カットエネルギーは100(keV)となる。 図－１の接続にて、パルス出力を可変させＡＭＰ－ＯＵＴ出力を -1.6(V)に調整してﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ出力の電圧（E_1）を読む。 E_1 ×［100(keV)÷662(keV)］の電圧にパルス電圧を設定した時、ＡＭＰ－ＯＵＴ出力が-240(mV)であることを確認する。 この状態でＴＲ－６のコレクタ出力をシンクロスコープで確認し、波形が出る時点に設定されていることを確認する。	カットエネルギー 100(keV)にて-240(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 (図－1)		＊抵抗値が変更されている場合もある。
7．指示調整	6項の接続にて、マーキュリーパルサーをパルスジェネレータに変えて、パルスジェネレータのパルス波高をメータの振れ始めより若干高めで入力し、下記表の周波数にて、各レンジの指示値を確認する。	フルスケールに対し ±10(%)以内	＊ＲＶ９（ＣＡＬ１Ｂ）は、総合的なメータ指示を見て判断し調整する。
8．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	

レンジ（μSv/h）	入力信号（Kcpm）	指示値（μSv/h）	調整箇所
0．25	2	0．155	ＲＶ８
0．5	4．5	0．35	ＲＶ７
2．5	20	1．55	ＲＶ６
5	45	3．5	ＲＶ５
25	200	15．5	ＲＶ４

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．線源校正 9.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜よりもとめる。	１±0.3以内	＊ ^{137}Ｃｓ線源に対する換算定数は、1.03とする。
9.2　直線性	9.１項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は、 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	基準値は、9.１項で描いた直線上の点
10. バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	0.1(μSv/h) 以下	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

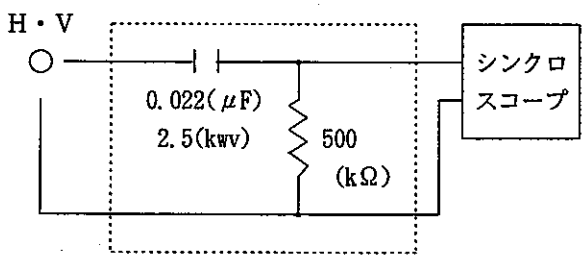
点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	TCS-121C(Gy)	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 7.7(V)以上	
2.2　電池範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて、7.7(V)を印加した場合、指示計の針が赤と緑の境界線の所を指示していることを確認する。指示していない場合は、ＲＶ301で調整する。 次に、安定化電源を9.1(V)にセットし、指針がＢＡＴＴ線内にあることを確認する。	7.7(V)	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧用デジボルにて、検出器印加電圧を測定する。	1000±50(V)以内	
3.2　リップル電圧	下記図の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにより測定する。	50(mVp-p)以下	



シールドＢｏＸ

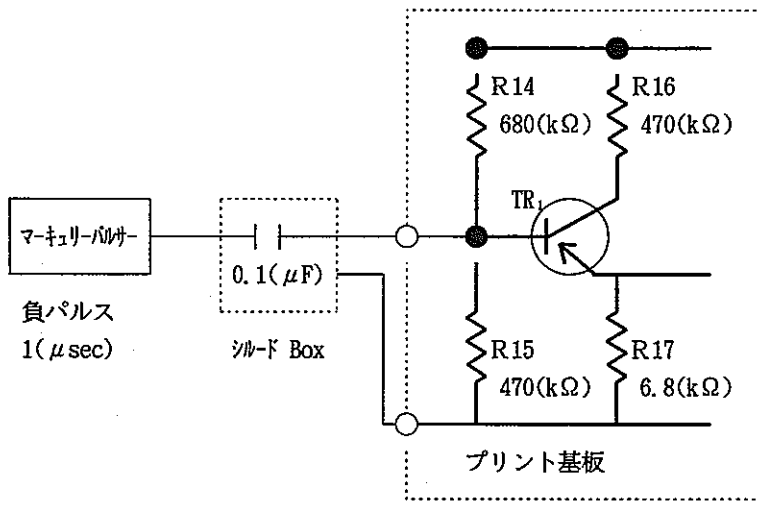
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．検出部チェック 4.1　検出器出力	^{137}Ｃｓ線源を使用し、コンデンサ(C_6)の後でシンクロスコープにて、^{137}ＣｓピークのＡ波形を測定する。 基準外の時は、ＲＶ１にて調整する。	^{137}Ｃｓ出力 -80～-1000(mV)	＊調整ＲＶ１がないものは、R53をショートする。
4.2　分解能出力	^{137}Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 次に、^{133}Ｂａ、^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーが直線上に乗ることを確認する。 次に、下記式により分解能を求める。 $\frac{^{137}\text{Cs エネルギー}(662\text{keV}) - ^{133}\text{Ba エネルギー}(356\text{keV})}{^{137}\text{Cs ピーク}(\quad\text{ch}) - ^{133}\text{Ba ピーク}(\quad\text{Ch})} \times (\quad\text{ch}) \div (662\text{keV}) \times 100(\%)$	^{137}Ｃｓ分解能 12(%) 以下	
5．利得調整	^{137}Ｃｓ線源を使用して計数させ、シンクロスコープにて、ＡＭＰ－ＯＵＴの出力（Ｔｒ－４のエミッタ）が -1.6(V)になるようＲＶ２で調整する。	AMP-OUT 出力-1.6(V)	
6．ディスクリ調整	本器サーベイメータのカットエネルギーは、100(keV)に調整する。 ５項において、^{137}Ｃｓのエネルギー662(keV)の出力を -1.6(V)に調整したので100(keV)の出力は、1.6(V)×［100(keV)÷662(keV)］≒ 240(mV)となるので、ディスクリ設定を 240(mV)にすると、カットエネルギーは100(keV)となる。 図－１の接続にて、パルス出力を可変させＡＭＰ－ＯＵＴ出力を -1.6(V)に調整してﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ出力の電圧（E_1）を読む。 E_1 × ［100(keV)÷662(keV)］の電圧にパルス電圧を設定した時、ＡＭＰ－ＯＵＴ出力が-240(mV)であることを確認する。 この状態でＴＲ－６のコレクタ出力をシンクロスコープで確認し、波形が出る時点	カットエネルギー 100(keV)にて-240(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	に設定されていることを確認する。		
	 (図－1)		＊抵抗値が変更されている場合もある。
7．指示調整	6項の接続にて、マーキュリーパルサーをパルスジェネレータに変えて、パルスジェネレータのパルス波高をメータの振れ始めより若干高めで入力し、下記表の周波数にて、各レンジの指示値を確認する。	フルスケールに対し±10(%) 以内	＊ＲＶ９（ＣＡＬ１Ｂ）は、総合的なメータ指示を見て判断し調整する。
8．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	

レンジ（μGy/h）	入力信号（Kcpm）	指示値（μGy/h）	調整箇所
0．２５	2	0．１４５	ＲＶ８
0．５	4．５	0．３３	ＲＶ７
2．５	２０	1．４５	ＲＶ６
5	４５	3．３	ＲＶ５
２５	２００	１４．５	ＲＶ４

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

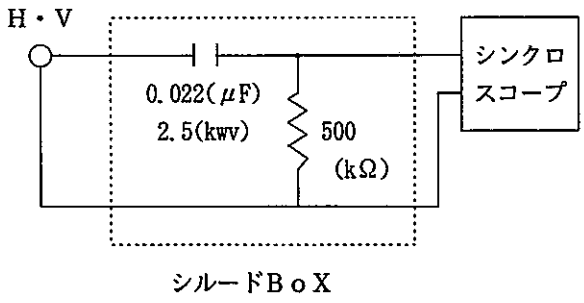
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．線源校正 9.1　校正定数	^{226}Ｒａ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜よりもとめる。	１±0.3以内	＊ ^{226}Ｒａ線源に対する換算定数は、0.87とする。
9.2　直線性	9.１項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は、 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	基準値は、9.１項で描いた直線上の点
10. バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	0.1(μGy/h) 以下	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	ＴＣＳ－１２１ＣＵ	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 7.7(V)以上	
2.2　電池範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて、7.7(V)を印加した場合、指示計の針が赤と緑の境界線の所を指示していることを確認する。指示していない場合は、ＲＶ301 で調整する。	7.7(V)	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	高圧用デジボルにて、検出器印加電圧を測定する。	1000±50(V)以内	
3.2　リップル電圧	下記図の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにより測定する。  シルードＢｏＸ	50(mVp-p)以下	
4．検出部チェック			
4.1　検出器出力	^{137}Ｃｓ線源を使用し、コンデンサ(C_6)の後でシンクロスコープにて、^{137}ＣｓピークのＳ波形を測定する。 基準外の時は、ＲＶ１にて調整する。	^{137} Ｃｓ出力 -80～ -1000(mV)	＊調整ＲＶ１がないものは、R53をショートする。

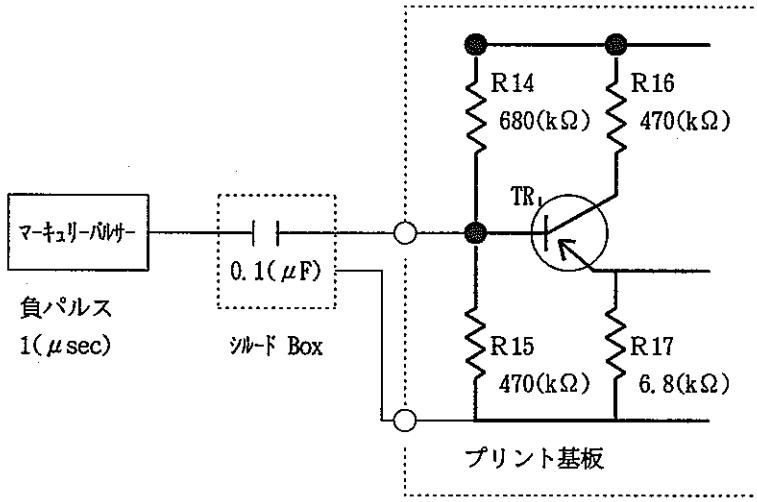
点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4.2　分解能出力	^{137}Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 次に、^{133} Ｂａ，^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーが直線上に乗ることを確認する。 次に、下記式により分解能を求める。 $\frac{^{137}\text{Cs エネルギー (662keV)} - ^{133}\text{Ba エネルギー (356keV)}}{^{137}\text{Cs ピーク (　　ch)} - ^{133}\text{Ba ピーク (　　Ch)}} \times \frac{^{137}\text{Cs FWHM (　　ch)}}{^{137}\text{Cs エネルギー (662keV)}} \times 100(\%)$	^{137}Ｃｓ分解能 12(%) 以下	
5．利得調整	^{137}Ｃｓ線源を使用して計数させ、シンクロスコープにて、ＡＭＰ－ＯＵＴの出力（Ｔｒ－４のエミッタ）が -3.2(V)になるようＲＶ２で調整する。	AMP-OUT出力：-3.2(V)	
6．ディスクリ調整	本器サーベイメータのカットエネルギーは、 50(keV)に調整する。 ５項において、 ^{137}Ｃｓのエネルギー662(keV)の出力を -3.2(V)に調整したので50(keV) の出力は、3.2(V)×［ 50(keV)÷662(keV)］≒ 240(mV)となるので、ディスクリ設定を 240(mV)にすると、カットエネルギーは 50(keV)となる。 図－１の接続にて、パルス出力を可変させＡＭＰ－ＯＵＴ出力を -3.2(V)に調整してﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ出力の電圧（E_1)を読む。 E_1 ×［ 50(keV)÷662(keV)］の電圧にパルス電圧を設定した時、ＡＭＰ－ＯＵＴ出力が-240(mV)であることを確認する。 この状態でＴＲ－６のコレクタ出力をシンクロスコープで確認し、波形が出る時点に設定されていることを確認する。	カットエネルギー 50(keV)にて-240(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	 (図－1)		＊抵抗値が変更されている場合もある。
7．指示調整	6項の接続にて、マーキュリーパルサーをパルスジェネレータに変えて、パルスジェネレータのパルス波高をメータの振れ始めより若干高めで入力し、下記表の周波数にて、各レンジの指示値を確認する。	フルスケールに対し±10(%) 以内	＊ＲＶ９（ＣＡＬ１Ｂ）は、総合的なメータ指示を見て判断し調整する。
8．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	

レンジ（μSv/h）	入力信号（Kcpm）	指示値（μSv/h）	調整箇所
０．２５	３	０．１７３	ＲＶ８
０．５	４．５	０．２６	ＲＶ７
２．５	３０	１．７３	ＲＶ６
５	４５	２．６	ＲＶ５
２５	３００	１７．３	ＲＶ４

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
9．線源校正 9.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 各レンジにおける校正定数は、原点を通り３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜よりもとめる。	１±0.3以内	＊ ^{137}Ｃｓ線源に対する換算定数は、1.03とする。
9.2　直線性	9.１項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は、 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	基準値は、9.１項で描いた直線上の点
10. バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	0.1(μSv/h) 以下	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

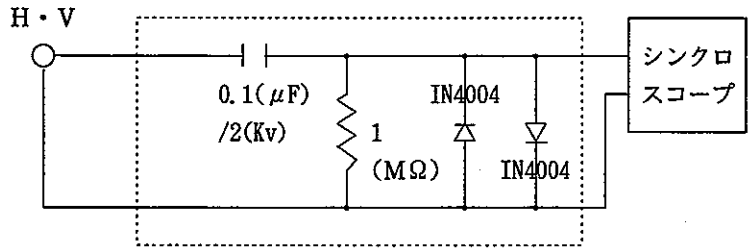
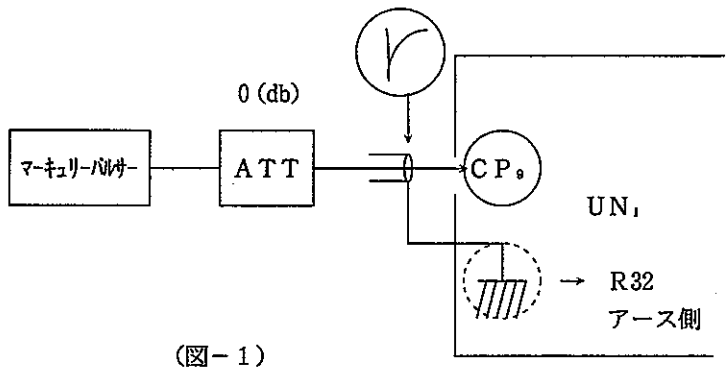
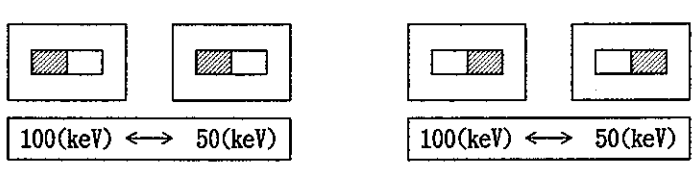
改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	TCS-131(SV)	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 4.5(V)以上	
2.2　電池範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて4.5(V)を印加した場合、指針がＢＡＴＴ線内の下端を指示していることを確認する。 指示していない場合は、UN_1 のRV_{11}で調整する。	4.5(V)	
2.3　低圧出力電圧	安定化電源を用いて、4.5(V)を印加した時、UN_1 の下記測定箇所にて出力電圧を測定する。 4(V)電源　：　CP_6 －GND間 -3.6(V)電源　：　CP_7 －GND間	4.00±0.25(V)以内 -3.60±0.25(V)以内	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	U_2 内の１点端子に高圧用デジボルを接続し、検出器印加電圧を測定する。 基準外の時は、UN_2 のRV_1 にて調整する。 ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＨＶとし、メータの指針がＨＶ線内にあることを確認する。 線外の時は、UN_2 のRV_2 にて調整する。	750 ±5(V)以内	
3.2　リップル電圧	P_1 を外し、U_2 内の１点端子に図－１の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

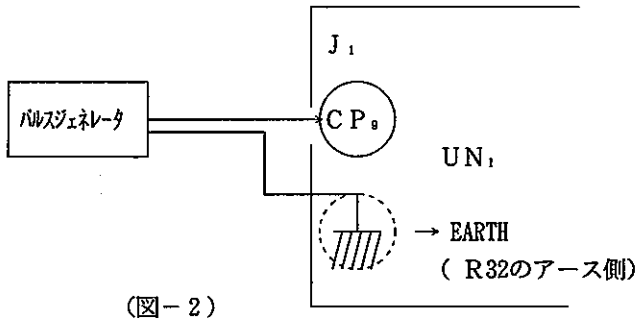
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．ディスクリ調整	 シルードＢｏＸ （図－１）  （図－１） ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰの設定 RANGE / RISE TIME / DECAY TIME / POLARITY 10(V) / 0.2(μsec) / 500(μsec) / (-) エネルギー設定 100(keV)の設定　50(keV)の設定 		＊基板上に75Ωがついている為、ＡＴＴの出力でターミネートする必要がない。

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	カットエネルギーを100(keV)に設定し、UN₁ のJ₂ 接続プラグを取り外し、図－1の様に接続し、又、CP₁，CP₂ にシンクロスコープを接続する。次に、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾙｻｰの出力を変化させ、CP₂ に波形が出た時点のCP₁ の出力電圧を測定する。 基準外の時は、RV₃で調整する。	240(mV)	入力信号 パルス波高 ：－4(v)
5．指示調整	 （図－2）		
	ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ の設定 FUNCTION: C/M PULSE WIDTH: 約 5(μsec) AMP L₁ TUDE: 1(v) POLALITY: (-)		
	図－2の接続にて、ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀの設定を上記の様に設定し、表－1、表－2に基づきﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀの入力信号を加え、各レンジ毎に入力に対応するメータ指示が得られる様確認調整する。	フルスケールに対し ±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	表－1　カットエネルギー100(keV) レンジ（μSv/h）／入力信号（kcpm）／メータ指示（μSv/h）／調整箇所 0．3／2／0．16／RV_8 1／7．5／0．6／RV_7 3／20／1．6／RV_6 10／75／6．0／RV_5 30／200／16．0／RV_4 表－2　カットエネルギー50(keV) レンジ（μSv/h）／入力信号（kcpm）／メータ指示（μSv/h）／調整箇所 0．3／3／0．22／ 1／7．5／0．55／ 3／30／2．2／ 10／75／5．5／ 30／300／22．0／RV_9		＊カットエネルギー50(keV)における指示調整は、30（μSv/h）レンジ（RV_9）のみで行う。
6．ノイズチェック	使用状態においてノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	
7．分解能測定	^{137}Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 カットエネルギー　：100(keV)設定 ^{137}Ｃｓピーク電圧：1.6(V) 測定端子　　：CP_1 ピークカウント数　：約10^4 カウント	^{137}Ｃｓ分解能 12(%) 以下	＊調整 RV_1(100KeV)

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	次に、^{133} Ｂａ、^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーが直線上に乗ることを確認する。 次に、下記式により分解能を求める。 付^{137}Cs ｴﾈﾙｷﾞｰ　^{133}Ba ｴﾈﾙｷﾞｰ (662keV) － (356keV) / (^{137}Cs ﾋﾟｰｸ － ^{133}Ba ﾋﾟｰｸ) × (^{137}Cs FWHM ch) ÷ (^{137}Cs ｴﾈﾙｷﾞｰ 662keV) ×100(%) (ch) － (Ch)		
8．線源校正 8.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 校正定数＝ 線量当量率 / 測定値－ＢＧ値 各レンジにおける校正定数は、原点を通る３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜より求める。 但し、最初にカットエネルギー100(keV)において、15(μSv/h) 照射時30(μSv/h)レンジに指示値を15(μSv/h) にあわせる、調整はRV_1で行う。 又、カットエネルギー50(keV) においては、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰを使用し、アンプゲインをカットエネルギー100(keV)の２倍になるようRV_2 を調整後、照射試験を行う。	１±0.3以内	＊^{137} Ｃｓ線源に対する換算定数は、1.03とする。
8.2　直線性	8.１項における各測定値の直線性を求める。 直線性＝ (基準値 － 測定値) / 基準値 ×100(%)	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	＊基準値は、8.１項で描いた直線上の点

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	又は、 $\text{直線性} = \frac{\text{基準値} - \text{測定値}}{\text{最大目盛値}} \times 100(\%)$		
9．カットエネルギー 9.1　カットエネルギーの確認	^{241}Am線源を使用し、UN$_1$内S$_1$，S$_2$を切り換え、（カットエネルギー100(keV)、カットエネルギー50(keV)）計数の変化より、カットエネルギーを確認する。	カットされていること。	
9.2　カットエネルギー指示確認	ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＣ．Ｅ．にすることによりカットエネルギー表示が設定通りであることを確認する。	メータ指示が正常であること。	＊カットエネルギーの設定は、ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＯＦＦにしてから行う。
10．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	カットエネルギー100(keV)又、カットエネルギー50(keV)とも 0.1(μSv/h) 以下	
11．モニタ音の確認	使用状態において、モニタ音がすることを確認する。	モニタ音が聞こえること。	
12．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／6

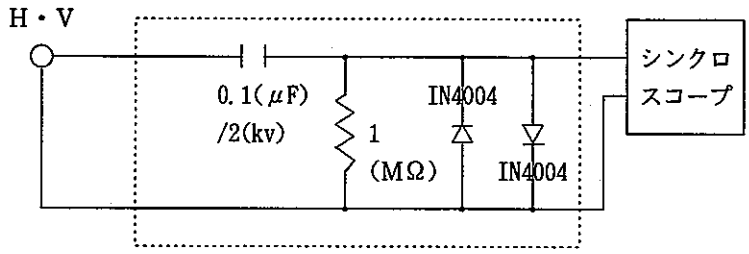
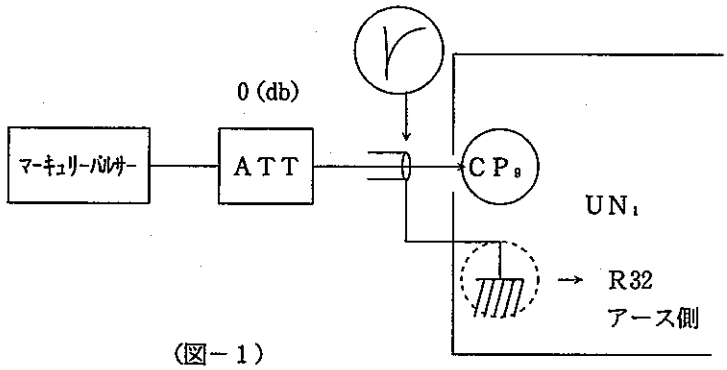
改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	TCS－131（Gy）	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルで測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 4.5(V)以上	
2.2　電池範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて4.5(V)を印加した場合、指針がＢＡＴＴ線内の下端を指示していることを確認する。 指示していない場合は、UN_1 のRV_{11}で調整する。	4.5(V)	
2.3　低圧出力電圧	安定化電源を用いて、4.5(V)を印加した時、UN_1 の下記測定箇所にて出力電圧を測定する。 4(V)電源　：　CP_6 －GND間 -3.6(V)電源　：　CP_7 －GND間	4.00±0.25(V)以内 -3.60±0.25(V)以内	
3．高圧電源			
3.1　検出器印加電圧	U_2 内の１点端子に高圧用デジボルを接続し、検出器印加電圧を測定する。 基準外の時は、UN_2 のRV_1 にて調整する。 ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＨＶとし、メータの指針がＨＶ線内にあることを確認する。 線外の時は、UN_2 のRV_2 にて調整する。	750 ±5(V)以内	
3.2　リップル電圧	P_1 を外し、U_2 内の１点端子に図－１の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	

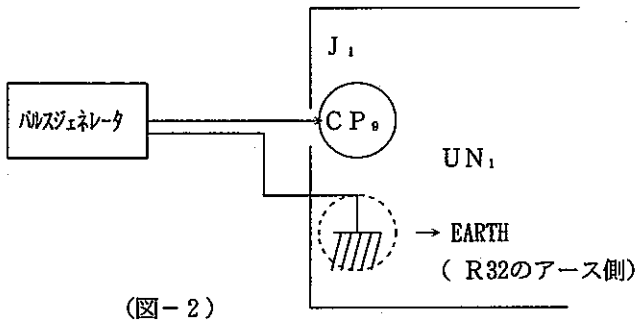
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．ディスクリ調整	 シルードＢｏＸ （図－１）  （図－１） ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰの設定 RANGE / RISE TIME / DECAY TIME / POLARITY 10(v) / 0.2(μsec) / 500(μsec) / (-) エネルギー設定 100(keV)の設定　S₁ S₂　100(keV) ⟷ 50(keV) 50(keV)の設定　S₁ S₂　100(keV) ⟷ 50(keV)		＊基板上に75Ωがついている為、ＡＴＴの出力でターミネートする必要がない。

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	カットエネルギーを100(keV)に設定し、UN₁ のJ₂ 接続プラグを取り外し、図－1の様に接続し、又、CP₁，CP₂ にシンクロスコープを接続する。次に、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰの出力を変化させ、CP₂ に波形が出た時点のCP₁ の出力電圧を測定する。 基準外の時は、RV₃ で調整する。	240(mV)	入力信号 パルス波高 ：－4(v)
5．指示精度	 （図－2）		
	ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ の設定 FUNCTION: C/M　PULSE WIDTH: 約 5(μsec)　AMP L₁ TUDE: 1(v)　POLALITY: (-)		
	図－2の接続にて、ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ の設定を上記の様に設定し、表－1、表－2に基づきﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ の入力信号を加え、各レンジ毎に入力に対応するメータ指示が得られる様確認調整する。	フルスケールに対し ±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	表－1　カットエネルギー100(keV) レンジ（μGy/h）／入力信号（kcpm）／メータ指示（μGy/h）／調整箇所 0．3／2／0．15／RV_8 1／7．5／0．56／RV_7 3／20／1．5／RV_6 10／75／5．6／RV_5 30／200／15．0／RV_4 表－2　カットエネルギー50(keV) レンジ（μGy/h）／入力信号（kcpm）／メータ指示（μGy/h）／調整箇所 0．3／3／0．207／ 1／7．5／0．52／ 3／30／2．07／ 10／75／5．2／ 30／300／20．7／RV_9		＊カットエネルギー50(keV)における指示調整は、30（μSv/h）レンジ（RV_9）のみで行う。
6．ノイズチェック	使用状態においてノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	
7．分解能測定	^{137}Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 カットエネルギー　：100(keV)設定 ^{137}Ｃｓピーク電圧：1.6(V) 測定端子　　：CP_1 ピークカウント数　：約10^4 カウント	^{137} Ｃｓ分解能 12(%) 以下	＊調整 RV_1(100KeV)

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	次に、^{133} Ｂａ，^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーが直線上に乗ることを確認する。 次に、下記式により分解能を求める。 付^{137}Cs ｴﾈﾙｷﾞｰ　^{133}Ba ｴﾈﾙｷﾞｰ (662keV) － (356keV)　^{137}Cs FWHM　^{137}Csｴﾈﾙｷﾞｰ ―――――― × (ch) ÷ (662keV) ×100(%) ^{137}Cs ﾋﾟｰｸ　^{133}Ba ﾋﾟｰｸ (ch) － (Ch)		
8．線源校正 8.1 校正定数	^{226}Ｒａ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 線量当量率 校正定数＝ ―――――― 測定値－ＢＧ値 各レンジにおける校正定数は、原点を通る3点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜より求める。 但し、最初にカットエネルギー100(keV)において、15（μGy/h）照射時30(μGy/h)レンジに指示値を15（μGy/h）にあわせる、調整はＲＶ$_1$で行う。 又、カットエネルギー50(keV)においては、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾙｻｰを使用し、アンプゲインををカットエネルギー100(keV)のアンプゲインの2倍になるようＲＶ$_2$を調整後、照射試験を行う。	1±0.3以内	＊ ^{226}Ｒａ線源に対する換算定数は、0.87とする。
8.2　直線性	8.1項における各測定値の直線性を求める。 基準値　－　測定値 直線性＝ ―――――― ×100(%) 基準値	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	＊基準値は、8.1項で描いた直線上の点

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

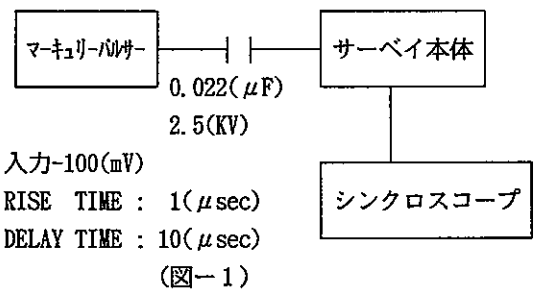
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	又は、 $直線性＝\frac{基準値 - 測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$		
9．カットエネルギー 9.1　カットエネルギーの確認	^{241}Am線源を使用し、UN，内S_1，S_2を切り換え、（カットエネルギー100(keV)、カットエネルギー50(keV)）計数の変化より、カットエネルギーを確認する。	カットされていること。	
9.2　カットエネルギー指示確認	ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをC．E．にすることによりカットエネルギー表示が設定通りであることを確認する。	メータ指示が正常であること。	＊カットエネルギーの設定は、ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＯＦＦにしてから行う。
10．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	カットエネルギー100(keV) 又、カットエネルギー50(keV) とも 0.1(μGy/h) 以下	
11．モニタ音の確認	使用状態において、モニタ音がすることを確認する。	モニタ音が聞こえること。	
12．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

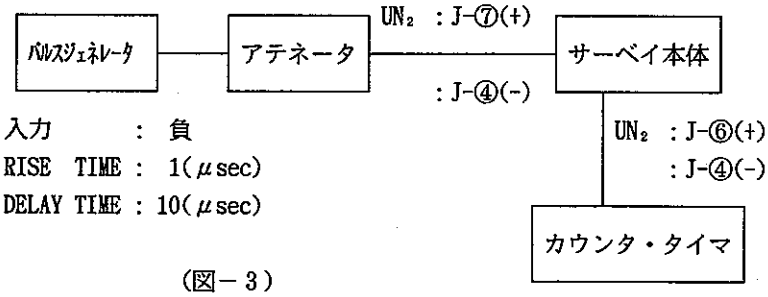
改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	TCS－161	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 5.0～6.9(V)	
2.2　電池範囲	メインボード（ＵＮ４）Ｊ４の１番ピン（＋）、４番ピン（－）に安定化電源を接続し、メータの指針がＢＡＴＴ線内の下限になる様電圧を調整し、その時の電圧をデジボルにて測定する。	4.5±0.3(V)以内	
2.3　安定化出力電圧	安定化電源を＋6(V)にして、メインボード（ＵＮ４）の＋5(V)電源（Ｐ１－⑧），＋4(V)電源（Ｐ１—①），－3(V)電源（Ｐ１—⑥）、をデジボルにて測定する。	＋5(V)電源：5.0 ±0.5(V)以内 ＋4(V)電源 ：4.0 ±0.35(V)以内 －3(V)電源 ：-3.0±0.3(V)以内	＊Ｐ１プラグのハンダ部にて測定する。 ＊ＧＮＤ(P1 －㉒)
3．アンプアウト波高値の確認	 入力-100(mV) RISE　TIME：　1(μsec) DELAY TIME：10(μsec) （図－１）		
	図－１の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)をサーベイ本体に入力し、波高分析部(UN_2)のJ_1- ⑦番ピン(AMP OUT)と④番ピン(A.GND) 間のパルス波高値をシンクロスコープにて測定する。	入力値-100(mV)にて 出力値約800(mV)	

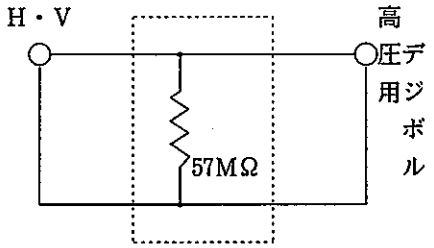
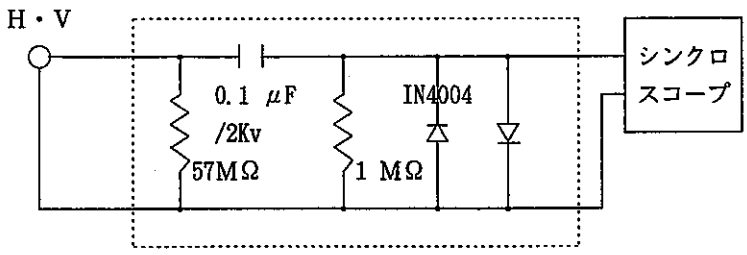
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．通過率の確認	 入力　　：負 RISE TIME：1(μsec) DELAY TIME：10(μsec) （図－3）		
	図－3の接続にて、パルスジェネレータのダイヤル目盛を 600目盛に設定し、波高分析部（UN_2）のJ_1－⑦番ピン(AMP OUT) と④番ピン(A.GND) 間のパルス波高値を3(V)になる様にアテネータにより調整してから、UN_2 のJ_1－⑥番ピン(SIG) と④番ピン(A.GND) をカウンタ・タイマに接続し、各々のパルス波高値の計数値を確認する。 下記式により通過率を求める。 $$通過率=\frac{計数値}{3000(cpm)}\times 100(\%)$$	3(V)　：約 98.8(%) 2.75(V)　：約100.0(%) 1(V)　：約 56.1(%) 30(mV)　：約　0(%)	
5．検出器			
5.1　検出器出力	^{137}Ｃｓ線源を使用し、波高分析部(UN_2) $J_1$⑦番ピン(AMP OUT) と④番ピン(A.GND) 間のパルス波高値をシンクロスコープにより測定する。 調整はメインボード（ＵＮ４）のＲＶ₄にて調整する。	700(mV) ±10(%)	
5.2　分解能出力	^{137}Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 次に、^{133}Ｂａ，^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーとピークチャンネルが相関関係にあることを確認する。	^{137}Ｃｓ分解能 12(%) 以下 MCA にて ^{137}Ｃｓのピークチャンネルを 662ch付近に設定し、^{133}Ｂａが 356ch、付近に、又^{22}Ｎａが 511ch付近にあること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	次に、下記式により分解能を求める。 $\frac{^{137}Cs\ エネルギー(662keV) - ^{133}Ba\ エネルギー(356keV)}{^{137}Cs\ ピーク(\quad ch) - ^{133}Ba\ ピーク(\quad Ch)} \times \frac{^{137}Cs\ FWHM(\quad ch)}{^{137}Cs\ エネルギー(662keV)} \times 100(\%)$		
6．高圧電源 6.1　検出器印加電圧	検出器を取り外し、高圧接栓と高圧用デジボルを下記図の様に接続し、高圧電圧を測定する。 ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＨＶとし、メータ指針がＨＶ線内にあることを確認する。 線外の時は、UN_4 のＲＶ$_5$ にて調整する。  シールドＢｏＸ	5.1項検出器出力の基準値に相当する印加電圧	
6.2　リップル電圧	下記図の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにより測定する。  シールドＢｏＸ		

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．指示精度	メインボード（UN4）のJ1に接続のプラグ（P1）を取り外し、P11の⑥番ピン（信号）、⑤番ピン（GND）にパルスジェネレータを接続する。 次に 30(μSv/h) レンジに設定し、30(kcpm)を入力を加えた時、LCD表示値及びメータ指示値を 15(μSv/h) 付近に調整（RV3）した後、各レンジの指示値を確認する。	LCD表示 ±3(%) ±1(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内 メータ指示 フルスケールの±3(%) 以内	＊入力信号 パルス波高 ：4(V) パルス幅 ：約5（μsec）

LCD表示

レンジ（μSv/h）	入力信号（cpm）	指示値（μSv/h）
30	30k	14.54 ～ 15.46
10	12k	5.81 ～ 6.19
3	3k	1.45 ～ 1.56
1	1．2k	0.58 ～ 0.62
0．3	300	0.14 ～ 0.16

メータ指示

レンジ（μSv/h）	入力信号（cpm）	指示値（μSv/h）
30	30k	14.1 ～ 15.9
10	12k	5.7 ～ 6.3
3	3k	1.41 ～ 1.59
1	1．2k	0.57 ～ 0.63
0．3	300	0.141～ 0.159

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

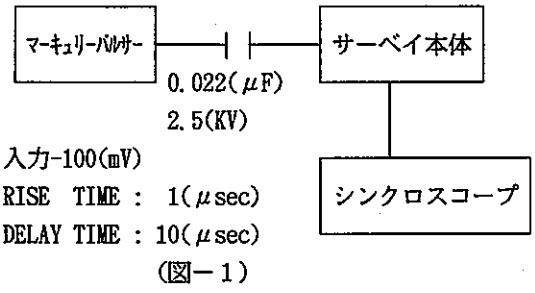
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．ノイズチェック	検出器を本体から取り外し、測定状態にてノイズのないことを確認する。又、検出器を接続し、ケーブルからノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと。	
9．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	0.1(μSv/h)以下	
10．線源校正 10.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$	１±0.3以内	＊測定値は、ＬＣＤ表示値とする。
	各レンジにおける校正定数は、原点を通り３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜よりもとめる。	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	＊基準値は、10.1項で描いた直線上の点
10.2　直線性	10.1項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値　－　測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は、 $$直線性＝\frac{基準値　－　測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$		
11．時定数	７項の接続でメータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにした時から指示がフルスケールの37(%) になるまでの時間をストップウォッチで測定する。	3(sec)：　2.4～ 3.6 10(sec)：　8.0～12.0 30(sec)：24.0～36.0	
12．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

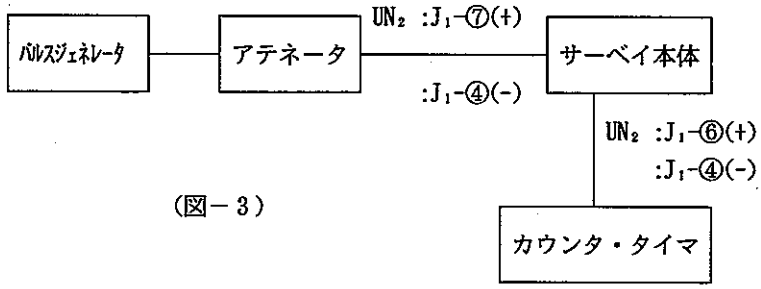
改訂　平成8年3月

機器名	ガンマ線用サーベイメータ	型　名	TCS－166	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴにし、メータ指針がＢＡＴＴ線内に入ることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定すること。	ＢＡＴＴ線内であること。 5.0 ～6.9(V)	
2.2　電池範囲	メインボード（ＵＮ４）Ｊ４の１番ピン（＋）、４番ピン（－）に安定化電源を接続し、メータの指針がＢＡＴＴ線内の下限になる様電圧を調整し、その時の電圧をデジボルにて測定する。	4.5 ±0.3(V)以内	
2.3　安定化出力電圧	安定化電源を＋6(V)にして、メインボード(ＵＮ４)の＋5(V)電源(Ｐ１－⑧),＋4(V)電源（Ｐ１－①),－3(V)電源（Ｐ１－⑥）、をデジボルにて測定する。	＋5(V)電源：5.0 ±0.5(V)以内 ＋4(V)電源 ：4.0 ±0.35(V)以内 －3(V)電源 ：-3.0±0.3(V)以内	＊Ｐ１プラグのハンダ部にて測定する。 ＊ＧＮＤ(P1 －㉒)
3．アンプアウト波高値の確認	 入力-100(mV) RISE　TIME：　1(μsec) DELAY TIME：10(μsec) （図－１）		
	図－１の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)をサーベイ本体に入力し、波高分析部(UN_2) のJ_1- ⑦番ピン(AMP OUT)と④番ピン(A.GND) 間のパルス波高値をシンクロスコープにて測定する。	入力値-100(mV)にて 出力値約800(mV)	

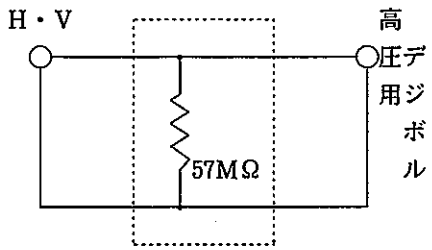
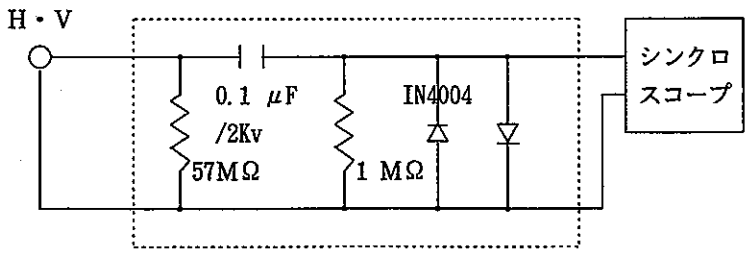
点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．通過率の確認	 （図－３）		
	図－３の接続にて、パルスジェネレータのダイヤル目盛を 600目盛に設定し、波高分析部（UN_2）のJ_1－⑦番ピン(AMP OUT) と④番ピン(A.GND) 間のパルス波高値を3(V)になる様にアテネータにより調整してから、UN_2のJ_1－⑥番ピン(SIG)と④番ピン(A.GND)をカウンタ・タイマに接続し、各々のパルス波高値の計数値を確認する。 下記式により通過率を求める。 $$通過率=\frac{計数値}{3000(cpm)}\times 100(\%)$$	3(V)　：　約 98.8(%) 2.75(V)　：　約100.0(%) 1(V)　：　約 56.1(%) 30(mV)　：　約　0(%)	
5．検出器			
5.1　検出器出力	^{137}Ｃｓ線源を使用し、波高分析部(UN_2) $J_1$⑦番ピン(AMP OUT) と④番ピン(A.GND) 間のパルス波高値をシンクロスコープにより測定する。 調整はメインボード（ＵＮ４）のＲＶ₄にて調整する。	700(mV) ±10(%)	
5.2　分解能出力	^{137}Ｃｓ線源を用いて、ＭＣＡにてスペクトルを測定する。 次に、^{133}Ｂａ，^{22}Ｎａ(511keV)線源を用いて、各々のスペクトルを測定する。 上記で測定したスペクトルにより、各々のエネルギーとピークチャンネルが相関関係にあることを確認する。	^{137}Ｃｓ分解能 12(%) 以下 MAC にて ^{137}Ｃｓのピークチャンネルを 662ch付近に設定し、^{133}Ｂａが 356ch付近に、又 ^{22}Ｎａが 511ch付近にあること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	次に、下記式により分解能を求める。 $\frac{(^{137}Cs\ エネルギー(662keV) - ^{133}Ba\ エネルギー(356keV))}{(^{137}Cs\ ピーク\ ch) - (^{133}Ba\ ピーク\ Ch)} \times (^{137}Cs\ FWHM\ ch) \div (^{137}Cs\ エネルギー(662keV)) \times 100(\%)$		
6．高圧電源 6.1　検出器印加電圧	検出器を取り外し、高圧接栓と高圧用デジボルを下記図の様に接続し、高圧電圧を測定する。 ＦＵＮＣＴＩＯＮスイッチをＨＶとし、メータ指針はＨＶ線内にあることを確認する。 線外の時は、UN_4 のＲＶ$_5$ にて調整する。  シールドＢｏＸ	5.1項検出器出力の基準値に相当する印加電圧	
6.2　リップル電圧	下記図の接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにより測定する。  シールドＢｏＸ	10(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．指示精度	メインボード（ＵＮ４）のＪ１に接続のプラグ（Ｐ１）を取り外し、Ｐ11の⑥番ピン（信号）、⑤番ピン（ＧＮＤ）にパルスジェネレータを接続する。 次に 30(μGy/h) レンジに設定し、30(kcpm)を入力を加えた時、ＬＣＤ表示値及びメータ指示値を 15(μGy/h) 付近に調整（ＲＶ３）した後、各レンジの指示値を確認する。	ＬＣＤ表示 ±３(%) ±1(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内 メータ指示 フルスケールの±３(%) 以内	＊入力信号 パルス波高 ：４(V) パルス幅 ：約５（μsec）

ＬＣＤ表示

レンジ (μGy/h)	入力信号 (cpm)	指示値 (μGy/h)
３０	３０ｋ	14.54 ～ 15.46
１０	１２ｋ	5.81 ～ 6.19
３	３ｋ	1.45 ～ 1.56
１	１．２ｋ	0.58 ～ 0.62
０．３	３００	0.14 ～ 0.16

メータ指示

レンジ (μGy/h)	入力信号 (cpm)	指示値 (μGy/h)
３０	３０ｋ	14.1 ～ 15.9
１０	１２ｋ	5.7 ～ 6.3
３	３ｋ	1.41 ～ 1.59
１	１．２ｋ	0.57 ～ 0.63
０．３	３００	0.141～ 0.159

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．ノイズチェック	検出器を本体から取り外し、測定状態にてノイズのないことを確認する。又、検出器を接続し、ケーブルからノイズ（接触不良）等がないこと。	ノイズのないこと。	
9．バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源等の影響がない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	0.1(μGy/h)以下	
10．線源校正 10.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%)，50(%)，80(%)付近で校正する。 校正定数＝ 線量当量率 ／ 測定値－ＢＧ値	1 ±0.3 以内	＊測定値は、ＬＣＤ表示値とする。
	各レンジにおける校正定数は、原点を通り3点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾斜よりもとめる。	各レンジとも 基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内	＊基準値は、10.1項で描いた直線上の点
10.2　直線性	10.1項における各測定値の直線性を求める。 直線性＝ (基準値 － 測定値) ／ 基準値 ×100(%) 又は、 直線性＝ (基準値 － 測定値) ／ 最大目盛値 ×100(%)		
11．時定数	7項の接続でメータをフルスケールまで振らせておき、入力をＯＦＦにした時から指示がフルスケールの37(%) になるまでの時間をストップウォッチで測定する。	3(sec)：2.4～3.6 10(sec)：8.0～12.0 30(sec)：24.0～36.0	
12．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

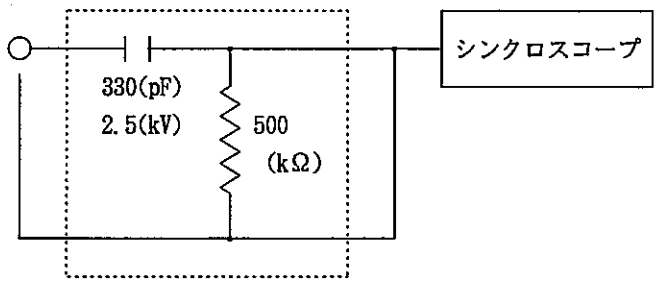
点検整備技術要領書

整理番号		1／6

改訂　平成8年3月

機器名	ポータブルカウンタ	型　名	ＰＲＳ－１	メーカ名	エバーライン
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

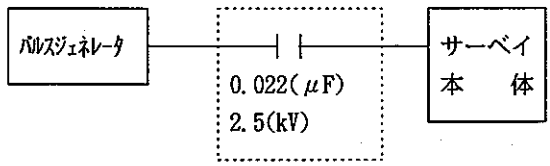
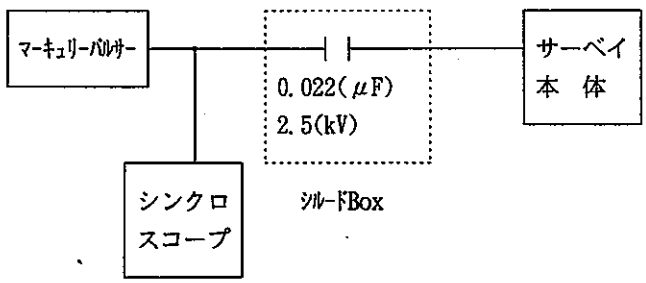
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	スイッチをＢＡＴＴに切換え、ＢＡＴＴ ＯＫの表示であることを確認する。 電池電圧をデジボルにて測定する。	ＢＡＴＴ　ＯＫであること。 5.3～8.6(V)	
2.2　電圧範囲	バッテリーケースから電池を取り外し、安定化電源を用いて、ＢＡＴＴ　ＯＫ表示がでる時点の電圧をデジボルにて測定する。	5.3(V)以上	
3．高圧電源			
3.1　検出器印可電圧	高圧接栓に高圧用デジボルを接続し、下記測定点の電圧を測定する。 測定点は、500(V)，800(V)，1000(V)，1200(V)，1500(V) とする。基準外の時は、V515，V516にて調整する。	各電圧±5(%)以内	＊ＰＳ－２－２型は、ＨＶ１、２とあるので両方行う。
3.2　リップル電圧	最大出力電圧時のリップル電圧を、下記接続にてシンクロスコープにて測定する。	30(mVp-p)以下	



シールドＢｏｘ

点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．測定部 4.1　指示調整 (1)　ＲＡＴＥ表示	 シールドＢｏｘ		
	上記の接続にて、ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀ より下記周波数を入力し、各レンジの指示値を確認する。 入力周波数　　各レンジ 6.0 ×10²(cpm) → Ａレンジ 6.0 ×10³(cpm) → Ｂレンジ 6.0 ×10⁴(cpm) → Ｃレンジ 6.0 ×10⁵(cpm) → Ｄレンジ	入力周波数±5(%)以内	
(2)　積算表示	(1)項の接続にて、ﾊﾟﾙｽｼﾞｪﾈﾚｰﾀより600(cpm)入力し、 0.5分、1 分、2 分、3 分レンジの指示値を確認する。	周波数±5(%)以内	
(3)　Store, Increment動作の確認	(2) 項の方法にて、内部機能スイッチをStore にし、設定時間終了後に表示されることを確認する。次に、Increment にし、連続的に加算表示されることを確認する。	正常に動作すること。	＊通常はIncrementで使用する。
4.2　Gross 動作の確認（THRESHダイヤルの直線性）			
	ウィンドスイッチをGross にし、上記の接続にて、THRESHダイヤルを各々に設定し、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾞﾙｻｰから電圧を印加していった時	直線性がとれていること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	サーベイメータのスケーラが計数始める時のﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰの電圧をシンクロスコープで読みとり記録する。 THRESHダイヤル設定目盛は、100，300，500，700，900の5 点とする。		
4.3　ＰＨＰ動作の確認（WINDOWダイヤルの直線性）	ウィンドスイッチをＰＨＰにし、4.2項の接続にて、WINDOWダイヤルを各々に設定し、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰから電圧を印加していった時サーベイメータのスケーラが計数始める時のパルジェネの電圧をシンクロスコープで読みとり記録する。 WINDOWダイヤル設定目盛は、100，300，500，700，900の５点とする。	直線性がとれていること。	
5．プラトー測定			
5.1　ＺｎＳ（Ａｇ）シンチレーション検出器	ＺｎＳ（Ａｇ）シンチレーション検出器を本体に取りつけ規定の線源を使用し、1100(V) から50(V) 毎に1400(V) まで1 分間測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊規定線源 ^{230}Ｔｈ線源
5.2　ＧＭ管検出器	ＧＭ管検出器を本体に取りつけ規定の線源を使用し、計数開始電圧を確認し、600(V) から50(V) に900(V)まで１分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、15(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V)}{Cn}\times\frac{100(v)}{150(v)}\times100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%/100V)以下	＊規定線源 ^{90}Ｓｒ線源

点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．総合特性 6.1　計数効率測定 (1)　ＺｎＳ（Ａｇ）シンチレーション検出器	5.1項で決定した使用電圧を印加し、規定線源を用いて計数効率と定数を求める。 $\text{計数効率} = \frac{\text{スケーラ指示値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源値(dpm)}} \times 100(\%)$ $\text{定数} = \frac{100(\%)}{\text{計数効率(\%)}}$	計数効率：10(%) 以上 定数　　：10以下	＊規定線源 U_3O_8線源
(2)　ＧＭ管検出器	5.3項で決定した使用電圧を印加し、規定線源を用いて計数効率と定数を求める。 $\text{計数効率} = \frac{\text{スケーラ指示値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{規定線源値(dpm)}} \times 100(\%)$ $\text{定数} = \frac{100(\%)}{\text{計数効率(\%)}}$	計数効率：10(%) 以上 定数　　：10以下	＊規定線源 U_3O_8線源
6.2　キャリブレーション　ＩＮ－ＯＵＴ動作及びスケーラ (1)　ＺｎＳ（Ａｇ）シンチレーション検出器	6.1(1)項で求めた校正定数をキャリブレーションボード上のキャリブレーション調整用スイッチにて設定し、キャリブレーションＩＮ－ＯＵＴスイッチをＩＮにする。次に規定線源を用いて１分測定する。その測定値と線源値が等しいことを確認する。 又、キャリブレーションＩＮ－ＯＵＴスイッチをＯＵＴにして、上記と同様に行い校正定数の効果がないことを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
(2) GM管検出器	6.1(3)項で求めた校正定数をキャリブレーションボード上のキャリブレーション調整用スイッチにて設定し、キャリブレーションＩＮ－ＯＵＴスイッチをＩＮにする。次に規定線源を用いて１分測定する。その測定値と線源値が等しいことを確認する。 又、キャリブレーションＩＮ－ＯＵＴスイッチをＯＵＴにして、上記と同様に行い校正定数の効果がないことを確認する。	正常に動作すること。	
6.3 単位表示の確認	サーベイ本体内の８つのレンジスイッチの表示を１つづつＯＮにし、その表示がスケーラに表示されることを確認する。 ８ツの表示 ① 小数点以下第一位 ② 小数点以下第二位 ③ 小数点以下第三位 ④ ＣＰＳ ⑤ Ｒ／ｈｒ ⑥ ｍＲ／ｈｒ ⑦ ＣＰＭ ⑧ ｍＲＥＭ／ｈｒ	正常に動作すること。	＊このスイッチはレートメータとしてだけ生かされて全てのスイッチをＯＦＦ若しくはＯＰＥＮにしておくと全く表示されない。
6.4 バックグラウンドの確認			
(1) ＺｎＳ（Ａｇ）シンチレーション検出器	線源等の影響のない場所にて、バックグラウンドを測定する。	3(cpm)以下	
(2) GM管検出器	線源等の影響のない場所にて、バックグラウンドを測定する。	30(cpm)以下	
6.5 感度分布チェック	使用状態にて規定線源を使用し、むらなく計数することを確認する。	各検出器とも 正常に動作すること。	
6.6 計数音回路の確認	使用状態にて規定線源を使用し、スピーカから計数音が発することを確認する。	計数音が発すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

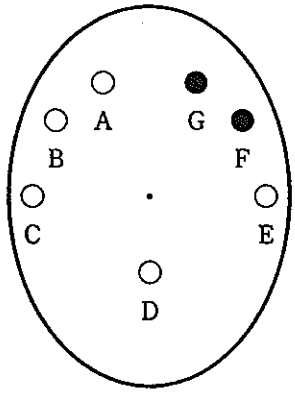
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.7　ライトの点灯確認	ライトボタンを押すことによりライトが点灯することを確認する。	ライトが点灯すること。	
7．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

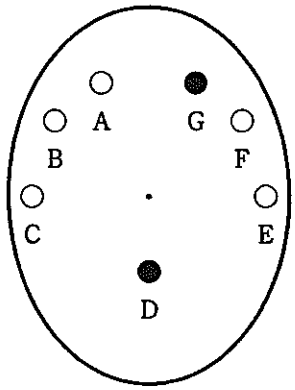
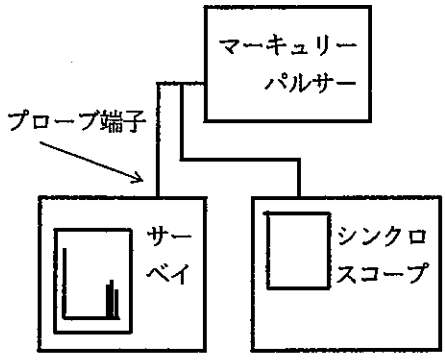
改訂　平成8年3月

機器名	α線スペクトル型サーベイメータ	型　名	TSM－R74タイプ	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損・ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外・内部が清掃され部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源（電池使用）			
2.1　電池電圧	MODEスイッチをNORMALに設定し、CRT上に画面表示があらわれ、又BATT. DOWNの表示がでないことを確認する。	画面表示があらわれること	
	バッテリーパックを取り出し電池電圧をデジボルにて測定する。	4.5～6.9（V）	
2.2　電圧範囲	本体からバッテリーパックを取り出し、安定化電源を用いて、BATT.DOWN 表示がでる直前の電圧を測定する。又、BATTﾒｰﾀ の指針が緑線内の下限にあることも確認する。	4.5（V）以上	
3．低圧及びバイアス電源（ACアダプタ使用）			
3.1 低圧電源の測定	PROBE端子のF－G間を測定する。  PROBEコネクタ （パネルより目視）	4．0±0．5（V）	

点検整備技術要領書

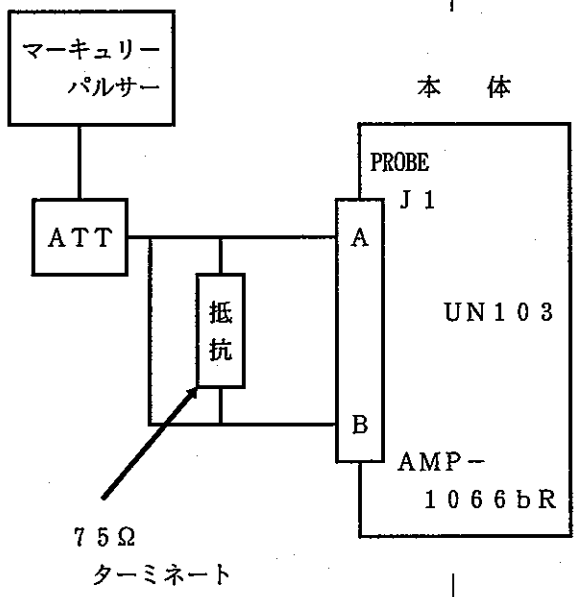
整理番号		2／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3.2　バイアス電源の測定	ＰＲＯＢＥ端子のＤ－Ｇ間を測定する。  ＰＲＯＢＥコネクタ （パネルより目視）	２７０８型 約50（Ｖ） ３０４７型 －約100（Ｖ）	
4．アンプゲインの確認	以下の接続で、マーキュリーパルサーの出力を上げていき、αスペクトル型サーベイメータの 240ｃｈにピークを合わせ、その時の出力電圧をシンクロスコープにて測定する。 240ｃｈ電圧（２Ｖ） ――――――― マーキュリーパルサー出力電圧  	7～10倍	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．指示精度の確認	マーキュリーパルサーの信号（50ｃｐｓ）を入力し、ｔｏｔａｌ　ＲＯＩ　1，2，3の計数値及び計数率を確認する。	入力値の±１％以内 （50ｃｐｓ±１％）	検出器ＳＢＤ－Ｒ７４－３０４７をＰＲＯＢＥ端子から外して行う。



設定

・ＡＴＴ	：	４０ｄＢ
・ＲＡＮＧＥ	：	１０Ｖ
・RESET TIME	：	１μｓｅｃ
・DECAY TIME	：	１０μｓｅｃ
・POLARITY	：	ＮＥＧ
・モード	：	ＮＯＲＭＡＲ
・ＲＯＩ１	：	全て50to200CH
・ＲＯＩ２	：	全て50to200CH
・ＲＯＩ３	：	全て50to200CH
・Ｐ．Ｔ	：	６０ｓｅｃ

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6．分解能測定	^{241}Am線源を用いて測定を行いＦＷＨＭを求める。 次にＭｉｘα線源を用いて測定を行い、^{244}Cm及び^{237}Ｎｐのチャンネルよりチャンネル当たりのエネルギーを求め、分解能を確認する。 分解能は以下の式により求める。 （^{244}Cmのエネルギー）－（^{237}Ｎｐのエネルギー） ――――――――――――――――― （^{244}CmのピークＣＨ）－（^{237}ＮｐのピークＣＨ） ＝ｘ（ｋｅｖ／ＣＨ） ｘ（ｋｅｖ／ＣＨ）×ＦＷＨＭ＝分解能（ｋｅｖ）	４００ｋｅＶ以下 空気中ａｔ４ｍｍ（注）	（注）プローブ側面と面一
7．エネルギー直線性	Ｎｐ－Ａｍ－ＣｍのＭｉｘ線源を使用しエネルギーとＣＨの関係の直線が３点とも直線上にあることを確認すること。	３点が直線上にあること	
8．計数効率			
8.1　バックグランドの測定	放射線の影響のない環境のもとで測定する。 Ｐ・Ｔ：５分	１（ｃｐｓ）以下	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8.2 効率測定	分解能測定時に求めた結果を用いて0CHにおけるエネルギーを求める。		
	E_0 =（^{237}Npエネルギー）－（x・ ^{237}Npチャンネル）		E_0 ：POS （E_0 ＋2）
	次に、（E_0 ＋2）MeVに相当するチャンネルを求める。 $(E_0+2)\ CH = \frac{(E_0+2)}{x}$		E_0 ：NEG （2－E_0）
	ROI. 1に（E_0 ＋2）CHから240CHまでの値を設定し、^{241}Am線源を用いて効率を測定する。 $\eta = \frac{n}{\phi \cdot A} \times 100$ η：効率（%） n：正味計数率（cps） ϕ：規定線源の単位当たりの放出率 （1／（sec・cm^2）） A：入射窓面積（cm^2）	20（%）以上	^{237}Npのエネルギ ：4．788MeV ^{241}Amのエネルギ ：5．486MeV ^{244}Cmのエネルギ ：5．805MeV
9．計数回路音の良・否	規定線源を用いて計数させスピーカーから計数音が発生することを確認する。	正常に動作すること （1音／1count）	
10. 表示部の良・否	メータ類、スイッチ類が正常に作動するこちを確認する。	正常に動作すること。	
11. 総合判定	本体外観に破損のないこと及び各項目により総合的に判定する。	各項目について異常ないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／8

改訂　平成8年3月

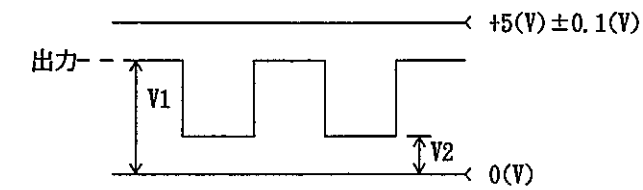
機器名	警報付ポケット線量計	型　名	NRQ2	メーカ名	富士電機㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　電池電圧	デジボルを充電池（アカ(+)、クロ(-)）に接続し、電池電圧を測定する。	4.9(V)以上	
2.2　電圧低下検出機能の確認	充電池を取り外し、低圧電源を充電池接続ピンに接続して、“ＢＡＴＴ”表示が点滅した電圧を測定する。またそのとき、断続警報が5回発生することを確認する。	正常に動作すること 4.3～4.9(V)	＊外部電源電圧は4.0～5.0(v)の範囲以内とすること。
3．表示機能の確認	テストモードに設定し、(AL TIME)スイッチを押すと表示が切り換わることを確認する。また、照明ライトが点灯することも確認する。	正常に動作すること	＊別添1参照 ただし、電池電圧は電圧計の読み値±0.2(V)以内とする。
4．警報動作の確認 4.1　警報設定値超過	テストモードに設定し、線量値が“A.L”値に達したときの警報動作を確認する。 条件　“A.L”値　0.1(mSv) 警報発生時間　1分 線　源　^{137}Ｃｓ	正常に動作すること	
4.2　使用時間設定値超過	テストモードに設定し、“ＴＩＭＥ”値が0：00（時：分）に達したときの警報動作を確認する。 条件　“ＴＩＭＥ”値　0:01 警報発生時間　1分	正常に動作すること	

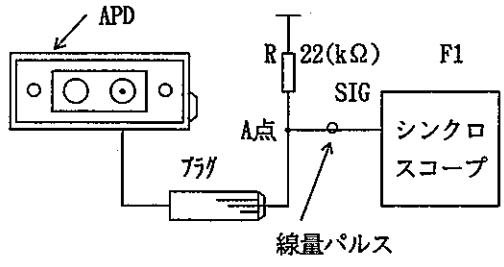
点検整備技術要領書

整理番号		2／8

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．線源校正			
5.1　線量精度	^{137}Ｃｓ線源を使用し、6(mSv/h)の場で10分照射を行い、指示値により積算精度を確認する。 別添２・３操作フローチャートに添い設定を行う。	1(mSv)±15(%)以内	
5.2　校正定数	校正定数は、下記式にて求める。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$		
6．データ交信動作の確認	設定器にセットし、データ交信動作が正常に行なえることを確認する。 ①設定　データ設定ができること ②入域　入域操作ができること ③退域　退域操作ができること	正常に動作すること	 ＊別添２参照 ＊別添３参照 ＊別添４参照
7．線量パルス出力	下図のように接続し、ＡＰＤに ^{137}Ｃｓを照射し、線量パルスをＡ点にてシンクロスコープを接続し、線量パルスを観測する。	V_1 ＝4.0(V)以上 V_2 ＝1.0(V)以下	＊安定化電源の側をレムマスタＱ本体のケースに接続する



+5(V)±0.1(V)　図１



点検整備技術要領書

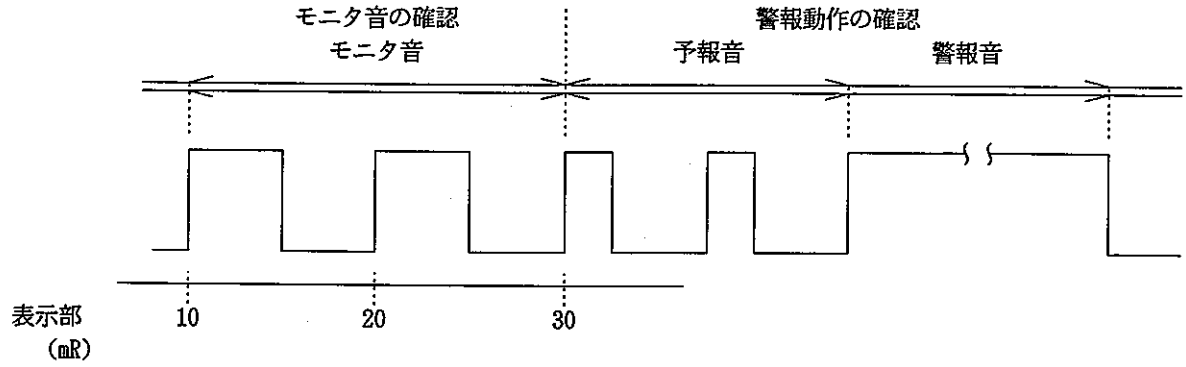
整理番号		3／8

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	
9．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

《 別添１ 》 テストモードONのとき

テストモードONにすると線量値が通常の 100倍の値で表示される。

5.6 項を同時に確認する。



表示スイッチ	表　　示	フ リ ッ カ ー 動 作
	A	
OFF－ON 確認する →	積 算 値	しない （注１）
OFF－ON	警報設定値	する （注２）
OFF－ON	個人コード 上３桁	消灯 フリッカ
	↓消灯	
OFF－ON	中３桁	
	↓消灯	
OFF－ON	下３桁	
	↓消灯	
OFF－ON	８８８８	する
OFF－ON	↓消灯 Aにもどる	

（注１）積算値の表示のとき、警報発生中またはスタンバイ解除後はフリッカーします。

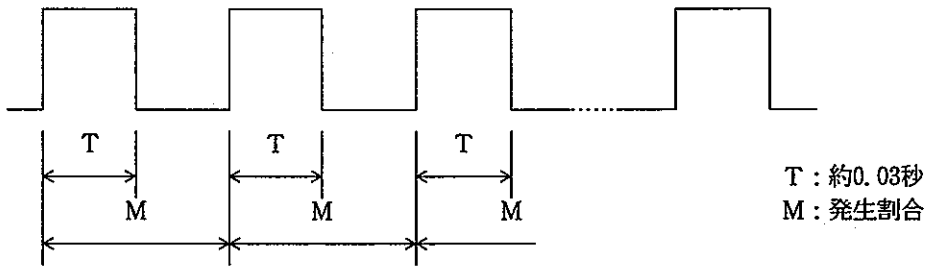
（注２）設定スイッチで設定値を変えるごとに、変更した設定値が表示されます。

点検整備技術要領書

整理番号		5／8

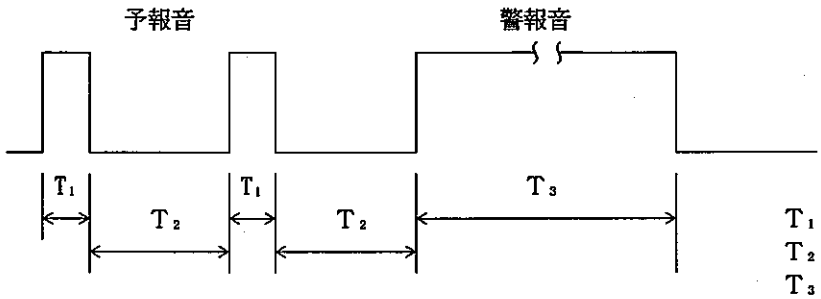
《 別添１ 》

◎ モニタ音の確認

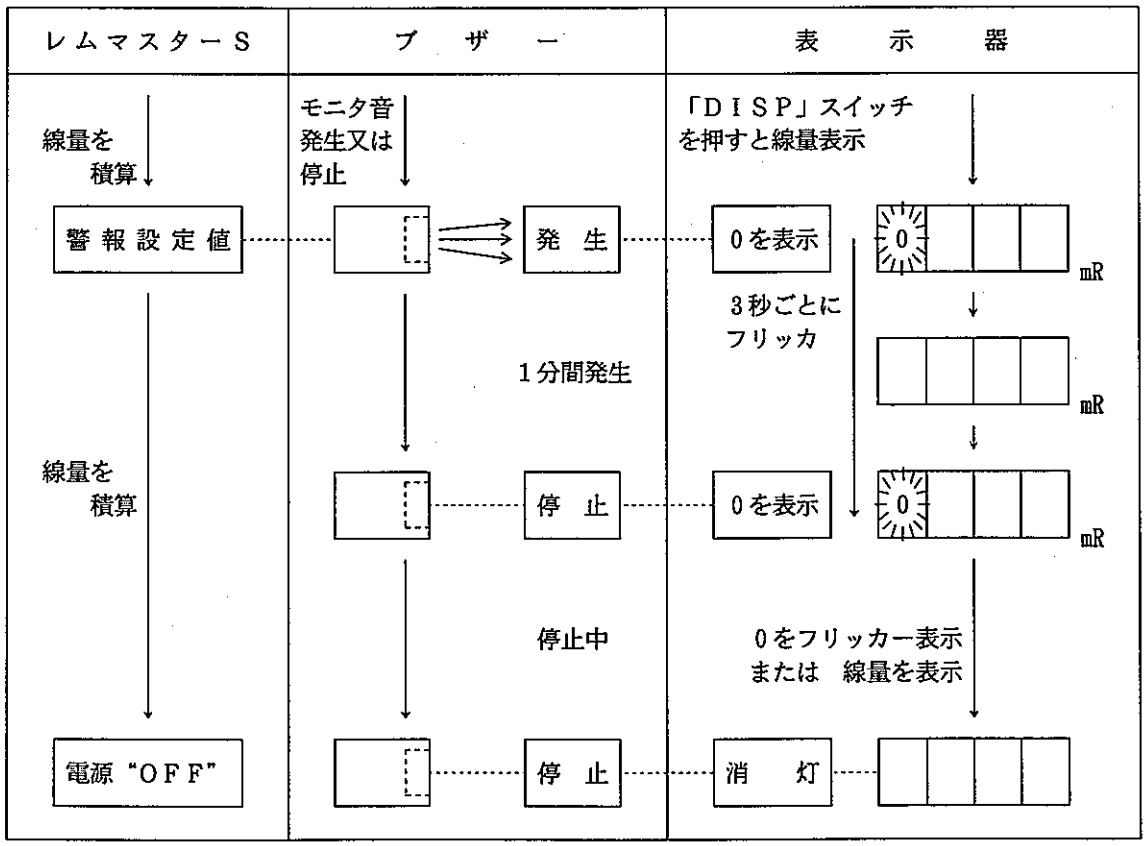


T：約0.03秒
M：発生割合

◎ 警報動作の確認

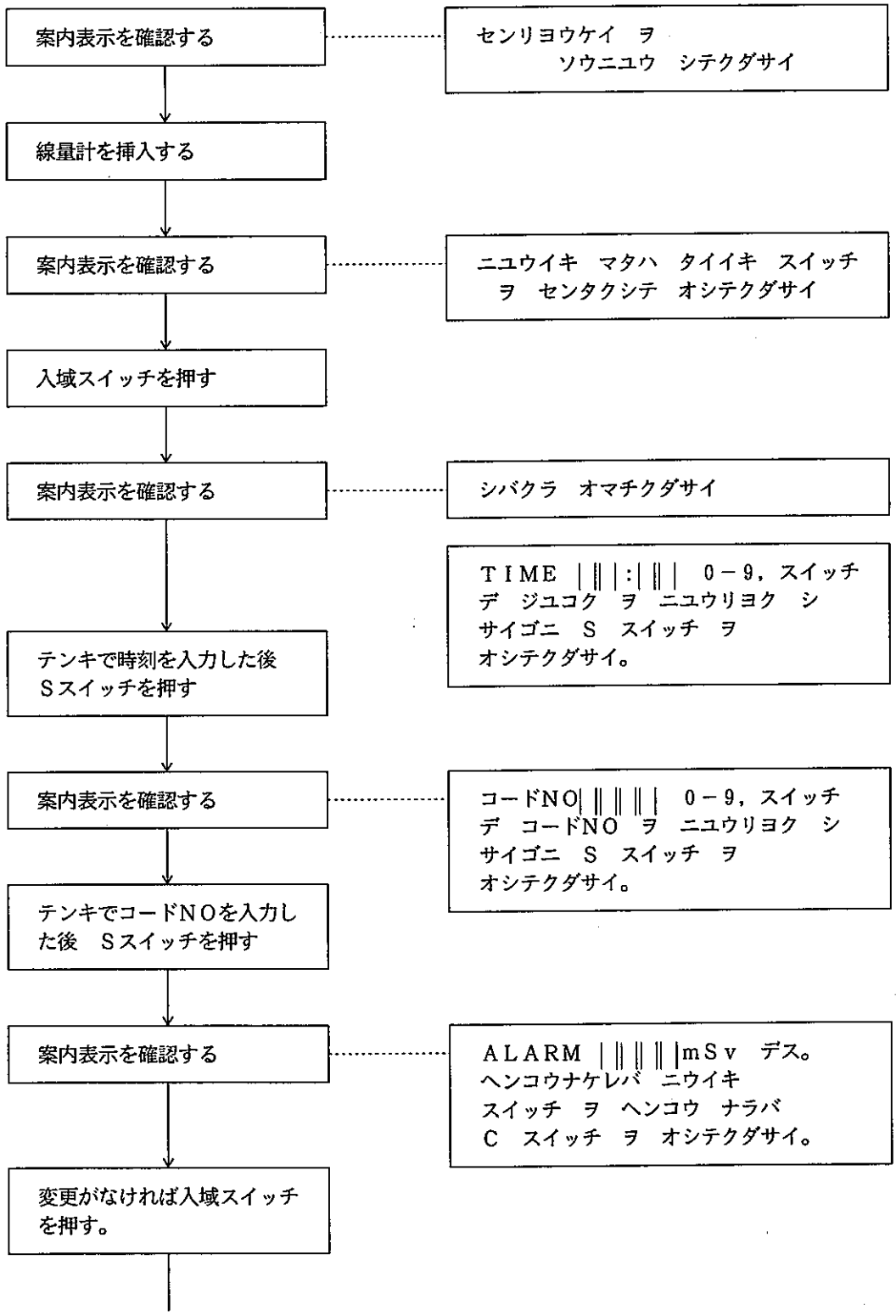


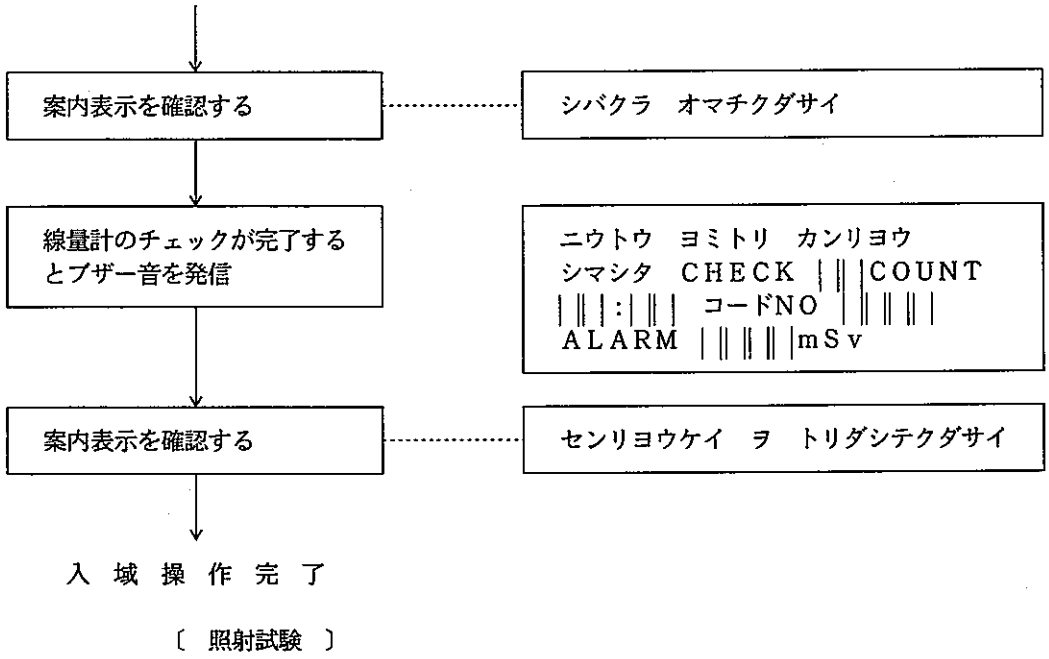
T₁：約0.03秒
T₂：約1.5秒
T₃：60秒±8秒



《 別添２ 》　操作フローチャート

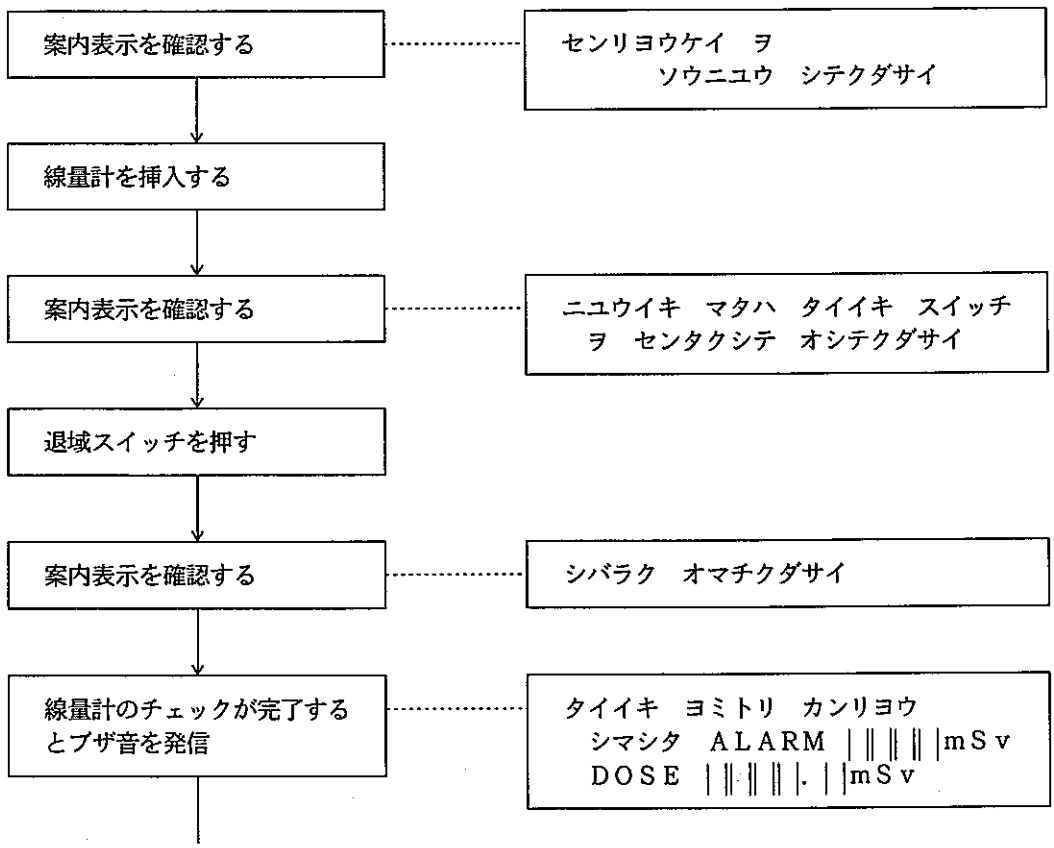
《 入 域 》（校正前）

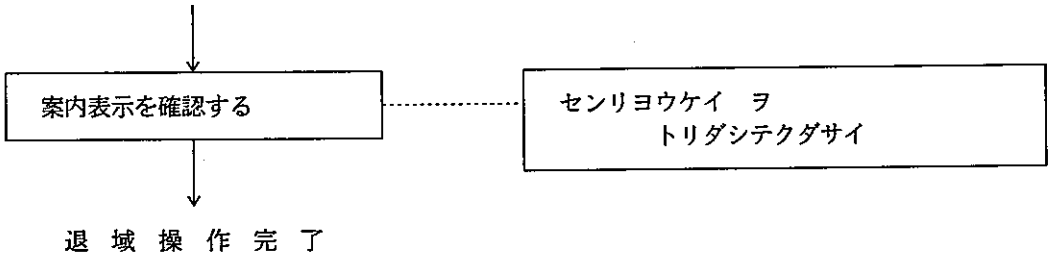



案内表示を確認する
シバクラ　オマチクダサイ
線量計のチェックが完了する
とブザー音を発信
ニウトウ　ヨミトリ　カンリヨウ
シマシタ　CHECK　COUNT
:　コードNO
ALARM　mSv
案内表示を確認する
センリヨウケイ　ヲ　トリダシテクダサイ
入 域 操 作 完 了

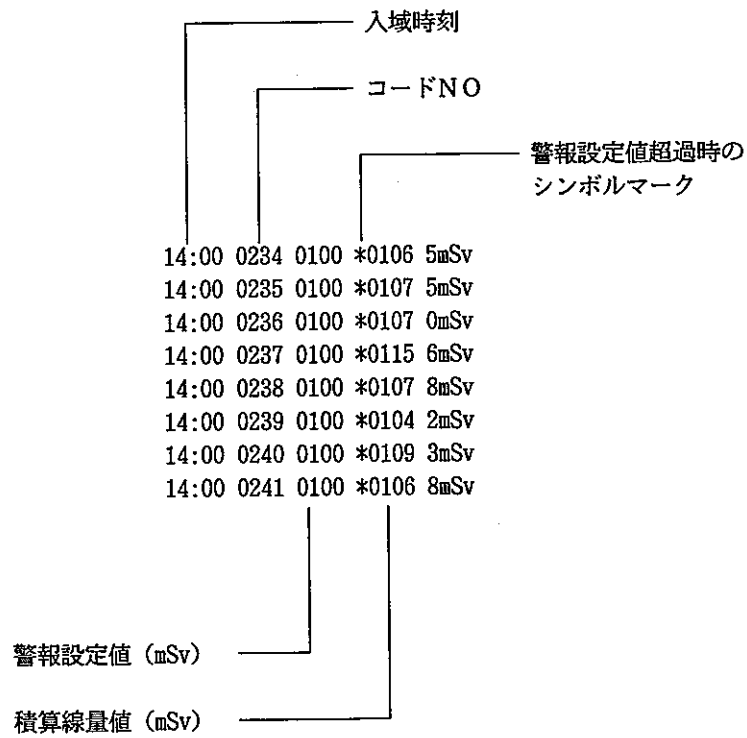
〔 照射試験 〕

《 退 域 》（校正後）


案内表示を確認する
センリヨウケイ　ヲ
ソウニユウ　シテクダサイ
線量計を挿入する
案内表示を確認する
ニユウイキ　マタハ　タイイキ　スイッチ
ヲ　センタクシテ　オシテクダサイ
退域スイッチを押す
案内表示を確認する
シバラク　オマチクダサイ
線量計のチェックが完了する
とブザ音を発信
タイイキ　ヨミトリ　カンリヨウ
シマシタ　ALARM　mSv
DOSE　mSv



退域操作時にデータがプリントアウトされる。（プリンタ使用時）



（レムマスターＳ本体は小数点以下は表示せず）

1）コードＮＯを入力するときは、本体現場ＮＯを入力する

2）警報設定値は　　（mSv）とする。

点検整備技術要領書

整理番号		1／8

改訂　平成8年3月

機器名	警報付ポケット線量計	型　名	NRQ4	メーカ名	富士電機㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　電池電圧	デジボルを充電池（アカ(+)、クロ(-)）に接続し、電池電圧を測定する。	4.9(V)以上	
2.2　電圧低下検出機能の確認	充電池を取り外し、低圧電源を充電池接続ピンに接続して、“ＢＡＴＴ”表示が点滅した電圧を測定する。またそのとき、断続警報が5回発生することを確認する。	正常に動作すること 4.3～4.9(V)	＊外部電源電圧は4.0～5.0(V)の範囲以内とすること。
3．表示機能の確認	テストモードに設定し、AL TIME スイッチを押すと表示が切り換わることを確認する。また、照明ライトが点灯することも確認する。	正常に動作すること	＊別添1参照 ただし、電池電圧は電圧計の読み値±0.2(V)以内とする。
4．警報動作の確認			
4.1　警報設定値超過	テストモードに設定し、線量値が“A.L”値に達したときの警報動作を確認する。 条件　“A.L”値　0.1(mSv) 警報発生時間　1分 線　源　^{137}Cs	正常に動作すること	
4.2　使用時間設定値超過	テストモードに設定し、“ＴＩＭＥ”値が0：00（時：分）に達したときの警報動作を確認する。 条件　“ＴＩＭＥ”値　0:01 警報発生時間　1分	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／8

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．線源校正 5.1　線量精度	^{137}Ｃｓ線源を使用し、6(mSv/h)の場で10分照射を行い、指示値により積算精度を確認する。 別添２・３操作フローチャートに添い設定を行う。	1(mSv)±15(%)以内	
5.2　校正定数	校正定数は、下記式にて求める。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$		
6．データ交信動作の確認	設定器にセットし、データ交信動作が正常に行なえることを確認する。 ①設定　データ設定ができること ②入域　入域操作ができること ③退域　退域操作ができること	正常に動作すること	＊別添２参照 ＊別添３参照 ＊別添４参照
7．線量パルス出力	下図のように接続し、ＡＰＤに ^{137}Ｃｓを照射し、線量パルスをA点にてシンクロスコープを接続し、線量パルスを観測する。	V_1 ＝4.0(V)以上 V_2 ＝1.0(V)以下	＊安定化電源の側をレムマスタＱ本体のケースに接続する

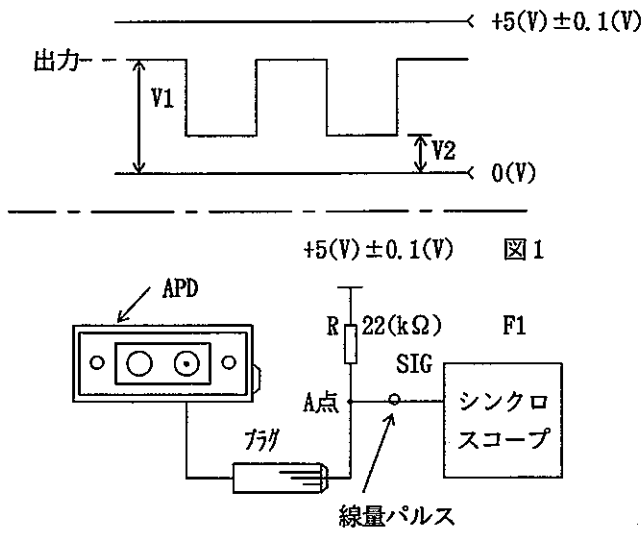


図１

点検整備技術要領書

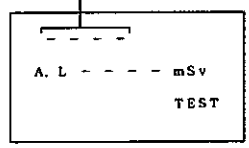
整理番号		3／8

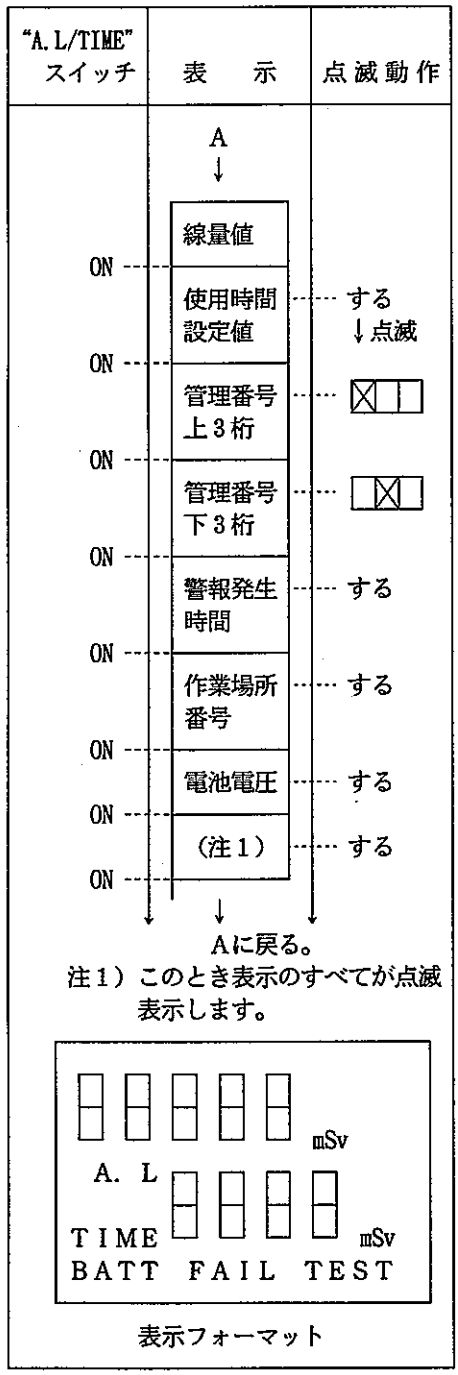
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
8．ノイズチェック	使用状態において、ノイズのないことを確認する。	ノイズのないこと。	
9．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

（ 別添1 ）

巻末付記１ ：テストモード１機能表

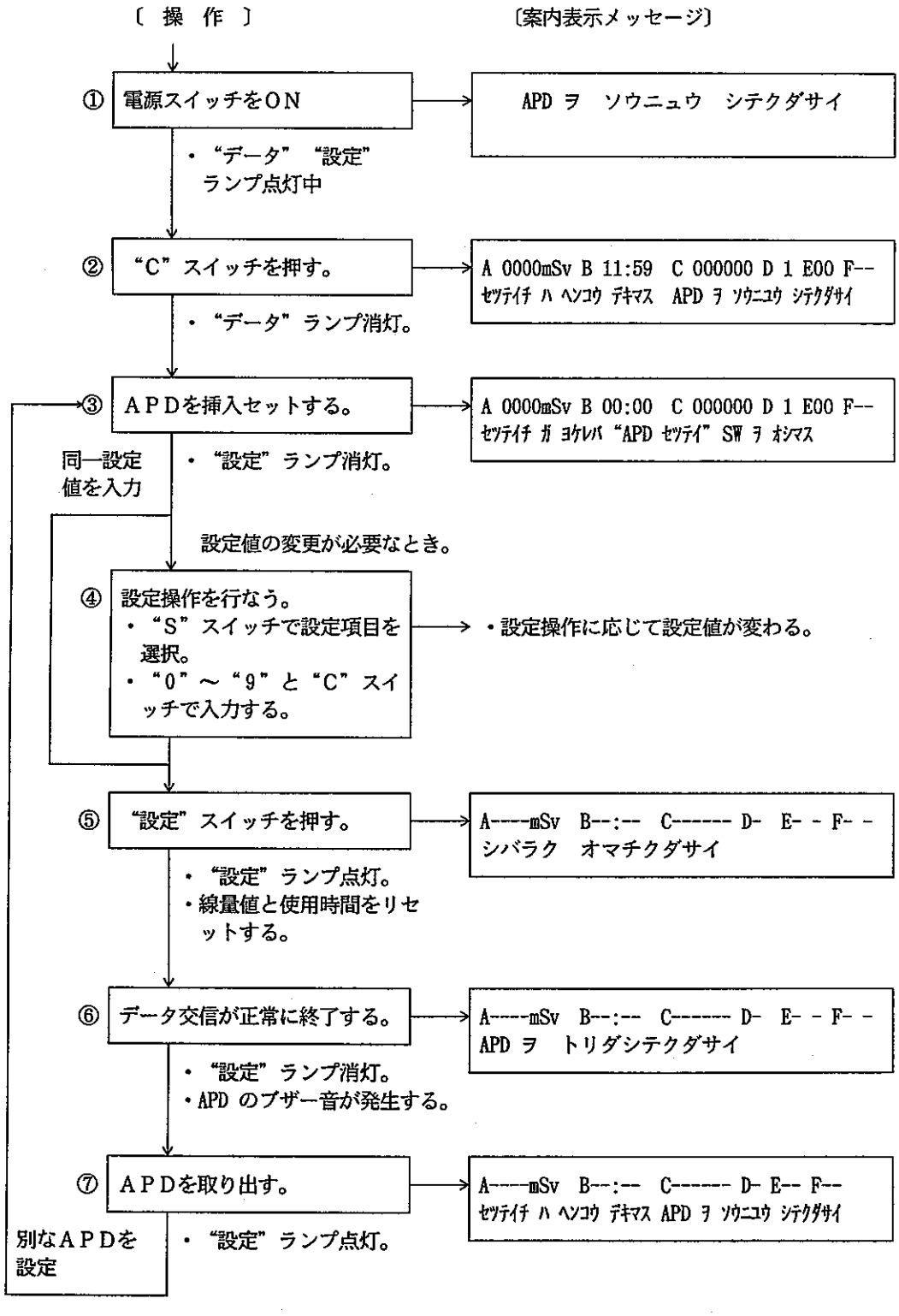
No.	項　目	機　能　内　容	備　考
1	切換方法	レムマスタQ内部の“ＴＥＳＴ”接点を押し、ブザー音が１回発した後に離します。	ブザー音はテストモード１になったことを知らせます。
2	通常モードへの復帰	１項の切換方法と同じです。	
3	切換え後の状態	(1) 計数感度 通常モードと比較して 100倍化されます。 (2) 表　示 項　目 / 内　容 線量値 / 切換え前の表示値から積算表示します。 使用時間 / 切換え前の表示値から積算表示します。 警報設定値 / 切換え前と同じ値 “ＴＥＳＴ” / 点灯中	
4	積算動作	(1) 線源を近づけると積算し、警報設定値に達すると警報音を10秒間発生する。 (2) 警報発生後0(mSv)にリセットされ、再び積算していきます。	(1) 警報音を発生中は表示“A.L”がフリッカします。
5	外部設定とデータ交信	通常モードと同じです。	
6	電池電圧低下検出	(1) スタンバイの予告警報を行った後にスタンバイ状態になります。 (2) スタンバイの解除方法は通常モードと同じです。	

No.	項　目	機　能　内　容	備　考
7	"A.L／TIME" スイッチによる表示	スイッチを押すごとに、線量値の表示部分に各々のデータを順次表示します。	警報設定値と使用時間の表示は、通常モードと同じです。 表示値はゼロサプレスで表示します。 ここに表示されます。 



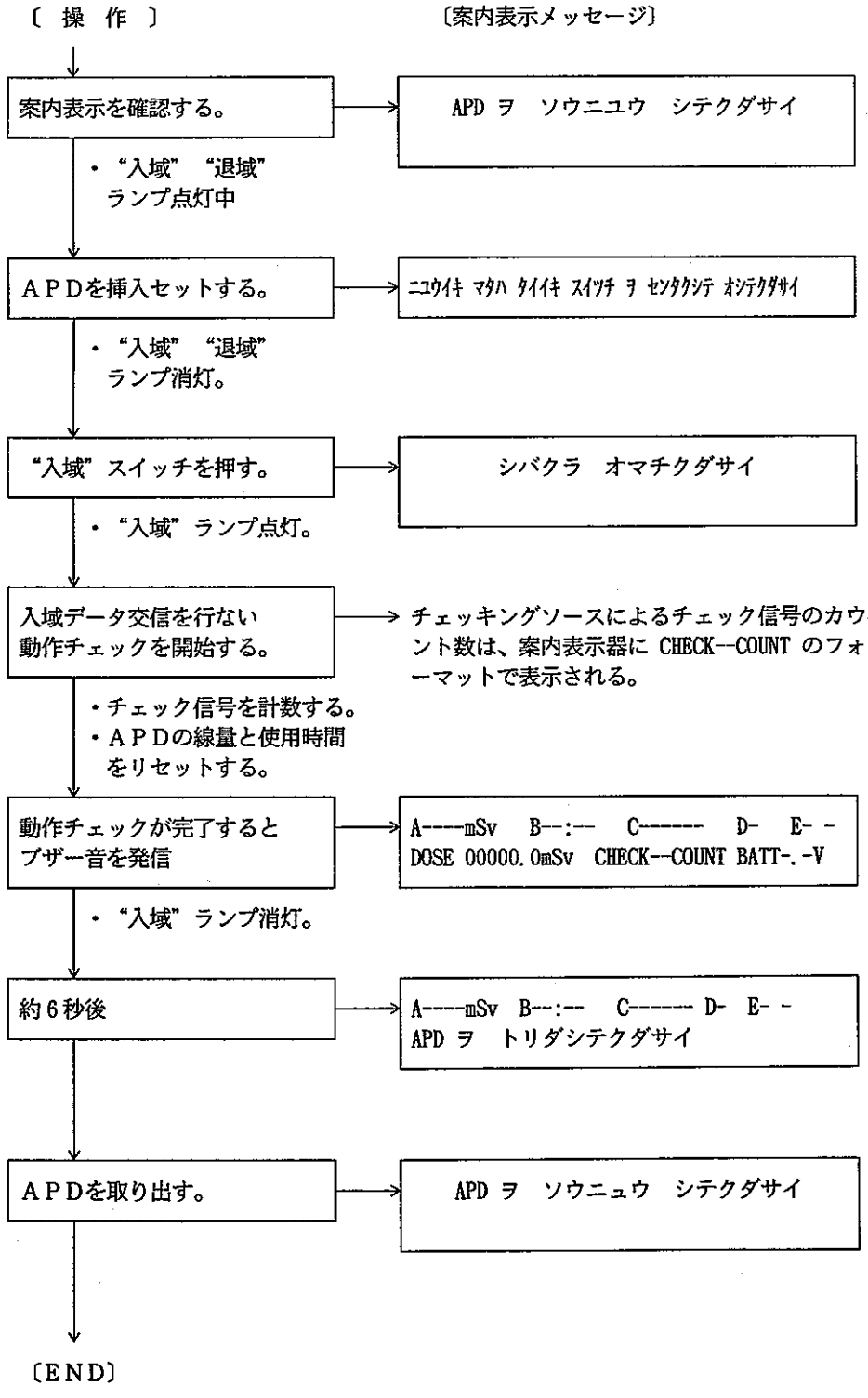
（ 別添２ ）

連続設定モードフローチャート



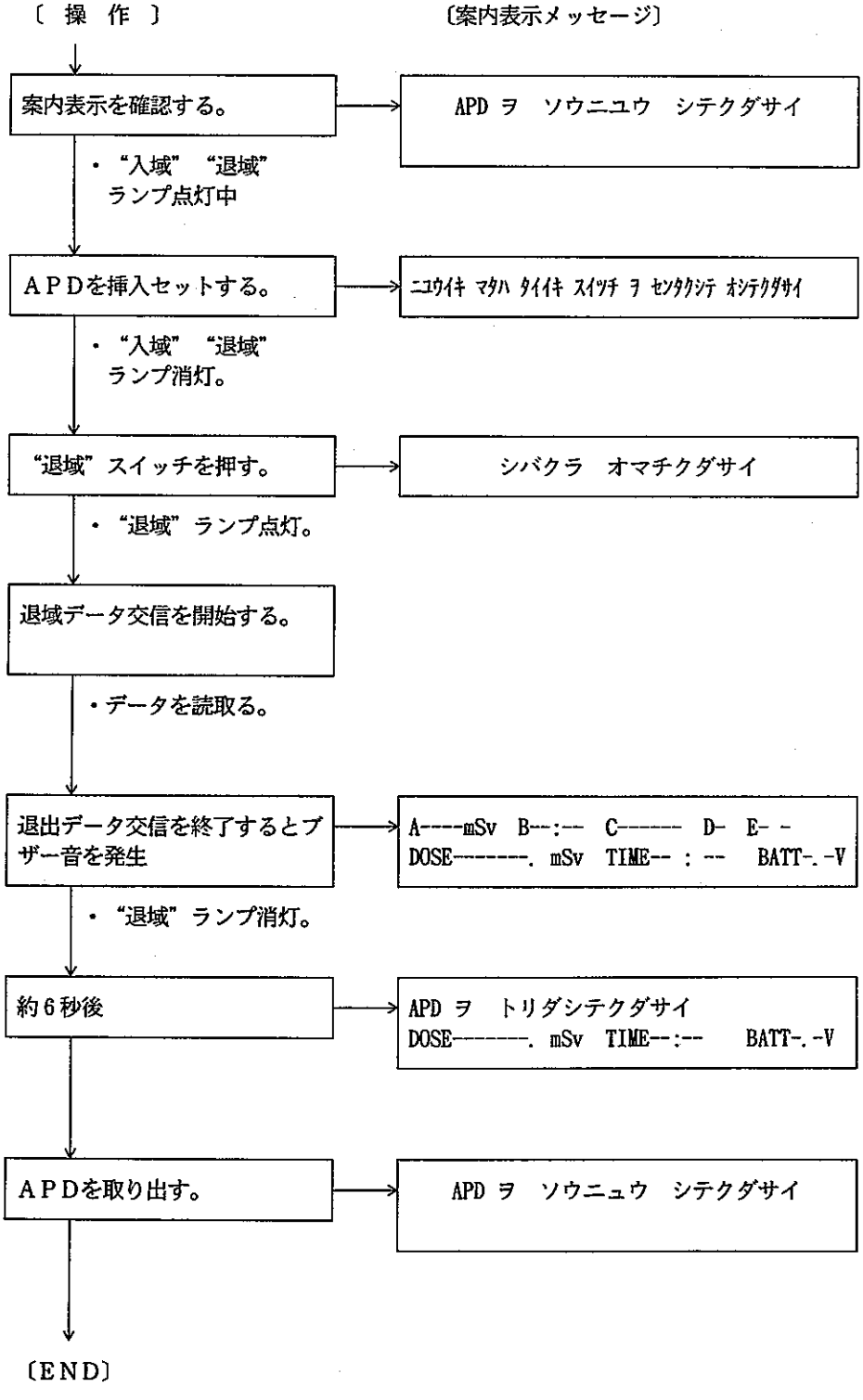
（ 別添3 ）

入域操作フローチャート



（ 別添4 ）

退域操作フローチャート



点検整備技術要領書

整理番号		1／6

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型α線ダストモニタ	型　名	モジュール型	メーカ名	応用光研㈱
検査名	総合検査	施設名	Ｐｕ－３		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁試験	ＰＯＷＥＲスイッチをＯＮにし、1000(V)メガにてＡＣ－ＧＮＤ間で測定する。	50（MΩ）以上	
3．低圧電源			
3.1　出力電圧の負荷変動率	チェック端子にデジボルを接続し、各々の出力電圧を測定し、次に±24(V) に0.5A ±12(V) に1.0Aの負荷をかけた時の出力電圧を測定を測定する。	出力電圧精度 ±0.5(%)以内 負荷変動率 無負荷時電圧の ±0.2(%)以内	
3.2　出力電圧の電源変動率	スライダックを用いて、ＡＣ100(V)±10(%) 変動にて、上記試験と同じに負荷をかけた時の、各々の出力電圧を測定する。 変動率＝ (110(V)時の電圧 － 90(V)時の電圧) / 100(V)時の電圧	ＡＣ100(V)負荷時出力電圧の±0.05(%)以内	
3.3　リップル電圧測定	負荷時における各々のリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	各電圧とも 3(mVp-p)以下	
4．高圧電源			
4.1　出力電圧	高圧出力コネクタに高圧デジボルを接続し、出力電圧を測定する。あわせてその時のメータ指示を目視にて読む。	デジボル値 フルスケールの±1(%)以内 メータ指示値 フルスケールの±2.5(%)以内	
4.2　出力電圧の負荷変動率	高圧電圧コネクタに高圧デジボルを接続し、出力電圧を1500(V)に設定した時の、無負荷時及び0.5(mA) の負荷時の出力電圧を測定し、その変動率を求める。	無負荷時の ±0.1(%)以内	

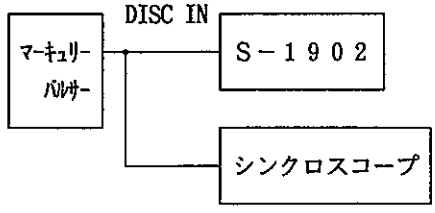
点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4.3　リップル電圧測定	出力電圧を1500(V)に設定し、0.5(mA)負荷時のリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	
5．リニアアンプ部			
5.1　利得の測定	1)　ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰより入力に信号［FINEGAIN×1に40(mV)、FINE GAIN×2に20(mV)］を加えた時、下記のCOARSE GAINレンジにて出力電圧をシンクロスコープで測定する。COARSE GAIN 8，16，32，64，128，256		
	2)　1)項と同様に行い、入力極性正と負の最大出力電圧をシンクロスコープで測定する。	正：10(V)以上 負：-10(V)以上	
5.2　雑音の測定	ＣＯＡＲＳＥ　ＧＡＩＮを256，ＦＩＮＥ　ＧＡＩＮを×１にして、出力パルスが10(V)なる様にﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰを調整する。次に入力を外しＲＭＳボルトメータで測定する。 入力等価雑音＝ $\frac{\text{RMSメータ読み値}}{\text{最大利得}}$	入力換算雑音 20(μVRMS) 以下	
6．ＳＣＡ部			
6.1　入力動作の範囲の確認			
(1) MODE・INT COARSE GAIN×8 FINE　GAIN×1	シングルチャンネル波高分析器のＬＬＤ目盛を下記のごとく設定し、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰから電圧を印加していった時、ＳＣＡ出力でカウンタが計数し始める点の電圧、又、入力電圧10(v)の時の動作目盛を確認する。 その時の、ＡＭＰ　ＯＵＴでＳＣＡ入力電圧を測定しながら行う。 シングルチャンネル波高分析器目盛 50（目盛）、300(目盛）、500(目盛） 700(目盛）、900(目盛）、	フルスケールの±0.5(%)以内	

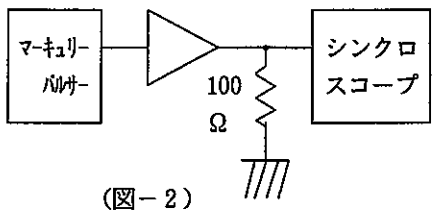
点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
(2) MODE・DIFF COARSE GAIN×8 FINE　GAIN×1	(1)項同様、シングルチャンネル波高分析器の目盛とＡＭＰ　ＯＵＴ出力電圧の対応を確認する。	フルスケールの±0.5(%)以内	
(3) MODE・DIFF (ΔE) COARSE GAIN×8 FINE　GAIN×1	ＵＬＤ目盛を 500に設定し、ＬＬＤ目盛を下記の様にする。次にﾏｰｷｭﾘｰﾊﾙｻｰの出力を可変してカウンタの計数する範囲を確認する。 ＬＬＤ目盛 400(目盛)、600(目盛)、800(目盛)	フルスケールの±1.0(%)以内 アップ出力波高値 4.0(V)～4.5(V) 6.0(V)～6.5(V) 8.0(V)～8.5(V) の範囲でカウンタが計数すること。	
6.2　分解能測定	ダブルパルス発生器を下記の様に設定し、ＡＭＰの入力に加え、ＳＣＡ出力をカウンタに接続する。始めにダブルパルス間隔を十分大きくとり、計数を測定する。次に、徐々にパルス間隔をせばめ計数値が始めの計数値の半分となる点を求める。この時のパルス間隔をシンクロスコープで測定し分解時間とする。 ＭＯＤＥスイッチはＩＮＴ、ＤＩＦＦについて行う。 ダブルパルス発生器 繰り返し　50(KHz) パルス幅　100(nsec) 立上がり、立下り　5(nsec) ＭＯＤＥ　ダブルパルス パルス間隔　300(nsec)	1.0(μsec)　以下	
7．ログレートメータ 7.1　入力ディスクリレベルの確認	 (図－１) DISC/GMスイッチをＤＩＳＣにする。		

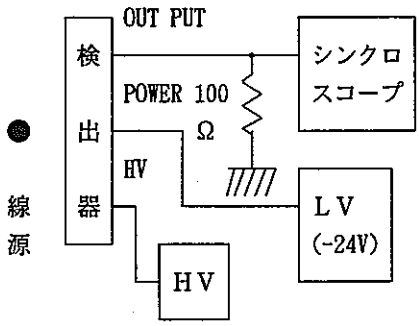
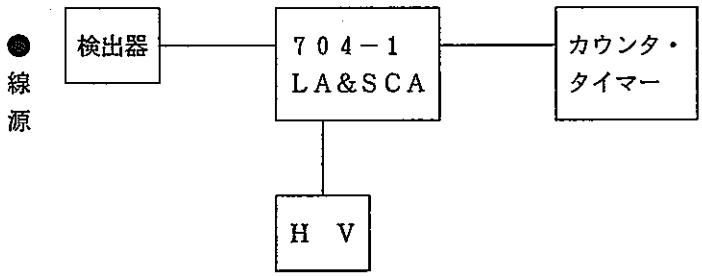
点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	図－１の様に接続し、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾞﾙﾌﾞｻｰの入力電圧を可変してメータ指針が振れ始める時点の水銀ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾞﾙﾌﾞｻｰ入力電圧を、シンクロスコープにて読む。	最小レベル　±2(V)以上	
7.2　非直線性の確認	パルスジェネレータをレートメータのＩＮ　ＰＵＴに接続し、周波数を可変して、その時のレートメータ指示値を読む。	基準値の ±0.1(dec)以内	
7.3　レコーダ出力電圧の確認	7.3項の点検時に合わせ、レコーダ出力電圧をデジボルにて測定する。	フルスケールの±2(%)以内	
7.4　警報設定ダイヤルの確認	パルジェネをレートメータのIN　PUTに接続し、警報設定を各々の設定値にし、パルジェネからの周波数を可変し、アラーム吹鳴した時点のメータ指示値を読む。		
8．Ｚｎｓ（Ａｇ）シンチレーション検出器 8.1　プリアンプ	プリアンプ  （図－２）		
	図－２の様に接続し、入力電圧から利得を求める。 次に、入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を測定する。 また、入力電圧を飽和する直前まで上げていき、その時の出力波高を測定する。	0.95（倍） 最大無ひずみ電圧 -10(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8.2　検出器出力波形	 （図－２） 図－２の様に接続し、シンクロスコープにて出力波形を観測する。		
8.3　プラトー測定	 （図－３） 図－３の様に接続し、規定の線源を用いて、500(V)から50(V) 毎に900(V)まで１分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\dfrac{(Cn+100\,(v)) - (Cn-50(v))}{Cn} \times \dfrac{100(v)}{150(v)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．総合検査			
9.1　バックグラウンドの測定	最小レンジにて、線源等の影響等のない場所で、バックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
9.2　計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで、下記式から効率を求める。 尚、カウンタを取り付け、その値を参考とする。 効率＝ (メータ指示値(cpm) － ＢＧ値(cpm)) / 規定線源(dpm) ×100(%)	10(%)以上	
9.3　警報動作の確認	計数値がアラーム設定値以上になった時、警報動作が下記表の様に、正常に動作すること。	正常に動作すること。	
10. 測定モードの確認	各モージュルの測定モードを確認する。	設定電圧、リニアアンプ、シングルチャンネル波高分析器、レートメータの測定モードを確認する。	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

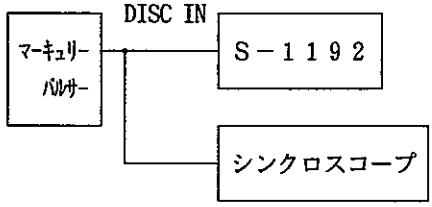
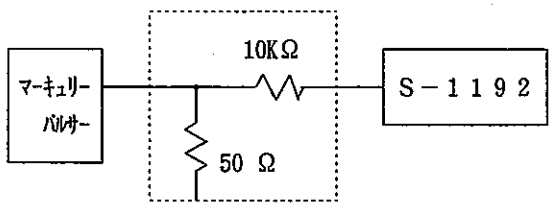
指　示　　動　作	ランプ	ブザー
正常時	ＯＦＦ	ＯＦＦ
アラームレベル以上	ＯＮ	ＯＮ
アラームレベル以上でリセットボタンを押す	ＯＮ	ＯＦＦ
アラームレベル以上からアラームレベル以下となる	ＯＮ	ＯＦＦ
アラームレベル以下に復帰した状態でリセットボタンを押す	ＯＦＦ	ＯＦＦ
本装置の電源がＯＦＦとなっている。（故障時）	ＯＦＦ	ＯＦＦ

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	リニアレートメータ	型　名	S－1192	メーカ名	応用光研㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．入力ディスクリ設定確認	 （図－1） DISC/GMスイッチをＤＩＳＣにする。 図-1の様に接続し、後面パネルＤＩＳＣレベルチェック端子にて、ＤＩＳＣレベル（デジボル直読）を0.5(V)，1.0(V)，1.5(V)，2.0(V)に設定し、ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰの入力電圧を可変し、メータ指針が振れ始める時点の、パルス電圧をシンクロスコープにて測定する。		
3．GM入力感度	 シルードBOX （図－2） DISC/GMスイッチをＧＭにする。 図－2の様に接続し、ＤＩＳＣレベルを0.1(V)相当に設定し、メータ指針が振れ始め時点の、パルス電圧をシンクロスコープにて測定する。	10（μＡ）以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	下記式にて、電流入力AMP利得を求める。 電流入力AMP利得（μA）＝ パルサ出力波高値(V) ／ 10KΩ		
4.1　レートメータ指示値の確認	パルスジェネレータをレートメータのDISC　INに接続し、周波数を可変して、その時のレートメータ指示値を読む。 格外の時は、下記調整箇所にて行う。 レンジ　調整箇所 30　RV13 100　RV12 300　RV11 1K　RV10 3K　RV9 10K　RV8 30K　RV7 100K　RV6 300K　RV5 出力電圧　RV4	フルスケールの±2.5(%)以内	
4.2　レーコダ出力電圧の確認	3.1）項の点検時に合わせ、レコーダ出力電圧をデジボルにて測定する。	フルスケールの±2(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／7

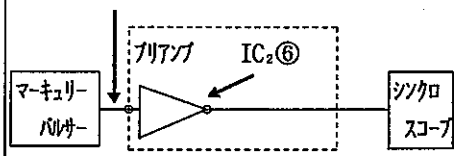
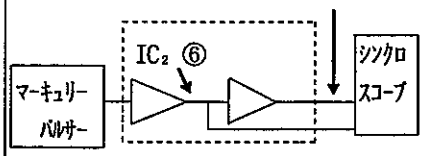
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型α線ダストモニタ	型　名	モジュール型	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	ＣＰＦ		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁試験	POWERスイッチをONの状態にて、500(V)メガにてAC-GND間で測定する。	50(MΩ)以上	
3．低圧電源点検			
3.1　出力電圧測定	チェック用端子にデジボルを接続し、±24，±12v 各々の無負荷時及び0.5A（+24v,−24v)1A（+12v,−12v)負荷時の出力電圧を測定する。	無負荷時±0.5(%)以内 負荷変動率±0.1(%)以内	
3.2　出力電圧の電源変動	AC100V±10(%) 変動にて上記試験と同じことをする。尚、変動率は負荷時とする。	AC100(V)負荷時出力電圧±0.1(%)以内	
3.3　リップルノイズの測定	負荷時におけるリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	各電圧とも3(mVp-p)以下	
4．高圧電源			
4.1　出力電圧	高圧出力端子に負荷電流が1500(V) で100(μA)となる様なダミーロードを接続し、出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	負荷電圧100(μA)時の出力可変範囲0～1500(V)	
4.2　電圧設定精度の確認	高電圧出力端子に高圧用デジボルを接続し、メータ目盛と出力電圧を比較する。0(V),500(V),1000(V),1500(V)以上4点を比較する。基準外の場合はボリュームにて調整する。 電圧調整　　RV_2(10KΩ) メータ指示調整　RV_1(50KΩ) 出力偏差 $\frac{\text{設定電圧}-\text{デジボル値}}{\text{設定電圧}} \times 100$	メータ指示誤差 フルスケールの ±2.5(%)以内 出力偏差 フルスケールの ±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4.3　電源変動試験及び負荷変動試験	スライダックスを用いてAC入力電圧を100(V)±10(%) 変化させた時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。 電源変動率 $\frac{\text{AC90(V)(100V)入力時の出力電圧}-\text{AC100(V)入力時の出力電圧}}{\text{AC100(V)入力時の出力電圧}}\times 100$	出力電圧1500(V) ±0.5(%)以内	
	4.1項にて接続したダミーロードを取りはずし、無負荷電圧を測定し、負荷変動率を求める。 負荷変動率 $\frac{\text{無負荷出力電圧}-\text{全負荷出力電圧}}{\text{無負荷出力電圧}}\times 100$		
4.4 リップル電圧測定	出力電圧を1500(V) にてダミーロードを接続し、シンクロスコープにてリップル電圧を測定する。	100(mVp-p)以下	
5．前置増幅器 (PAM-1024) 5.1 増幅器部 (1)　増幅度測定	INPUT　PAM-1024  (図-1) 図-1の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。		
(2)　直線性の測定	入力電圧を除々に増していきながら出力波高をシンクロスコープにて測定する。		
(3)　最大無ひずみ電圧	5.1 (2)項のとき飽和する直前の出力波高をシンロスコープにて測定する。	-9(V)以上	
5.2 ディスクリレベの測定	INPUT　PAM-1024　　OUTPUT  (図-2)	-100(mv)±10(mv)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	図-2の様に接続し、 OUT PUTに出力が出てくるときの IC2の⑥番ピンの電圧をシンクロスコープにて測定する。		
6．リニアカウントレートメータ（AM-43M10）			
6.1　ディスクレベルの確認	UN①53番ピン(PHS IN)に水銀パルサより負電圧を入力し、UN①４番ピンにて設定値をシンクロスコープで測定する。	-1±0.2(V)以内	
6.2　CAL指示値の確認	レンジ10ｋにて CALにし、レートメータ指示値を読む。 ずれている場合は、レートメータモジュール表面のRV_1にて調整する。	$3.0\times10^3\pm500$(cpm)以内	
6.3　レートメータ直線性の確認			
(1)　レートメータ指示の確認	OPERATE スイッチをONにしてUN①53番ピン×パルスジェネレータの信号を入力し、各レンジのレートメータ指示値の直線性を測定する。	レートメータ指示 フルスケールの ±10(%)以内	

レンジ	入力信号 (cpm)	レートメータ指示 (cpm)	調整点
×30	１０	１０	UN① RV_1
	２０	２０	
	３０	３０	
×100	３０	３０	UN① RV_2
	６０	６０	
	９０	９０	
×300	１００	１００	UN① RV_3
	２００	２００	
	３００	３００	
× 1K	0.3K	0.3 K	UN① RV_8
	0.6K	0.6 K	
	0.9K	0.9 K	
×10K	1　K	1.0 K	UN① RV_9
	2　K	2.0 K	
	3　K	3.0 K	

点検整備技術要領書

整理番号		4／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力信号 (cpm)	レートメータ指示 (cpm)	調整点
×10K	3　K	3.0 K	UN① RV_{10}
	6　K	6.0 K	
	9　K	9.0 K	
×30K	10K	10.0 K	UN① RV_{11}
	20K	20.0 K	
	30K	30.0 K	
×100K	30K	30.0 K	UN① RV_{12}
	60K	60.0 K	
	90K	90.0 K	

(2)　レコーダ出力電圧の確認

6.3(1)項と同時にデジボルをRV_2-②、アース間に接続して各レンジのレコーダ出力電圧を測定する。

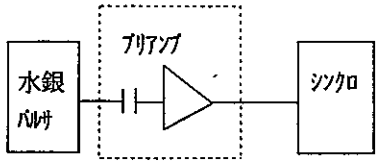
ずれている場合は、CAL値(3000cpm)を合わせてから各レンジにわたりレートメート指示及びレコーダ出力電圧を調整する。

レコーダ出力電圧
±1(mV)以内

レンジ	入力信号 (cpm)	レートメータ指示 (mv)	調整点
× 30	10	3.3	ﾚｰﾄﾒｰﾀﾓｼﾞｭｰﾙ裏面RV_2
	20	6.6	
	30	10.0	
×100	30	3.0	〃
	60	6.0	
	90	9.0	
×300	100	3.3	〃
	200	6.6	
	300	10.0	
×1 K	0.3 K	3.0	〃
	0.6K	6.0	
	0.9K	9.0	
×3 K	1	3.3	〃
	2	6.6	
	3K	10.0	
×10K	3K	3.0	〃
	6K	6.0	
	9K	9.0	

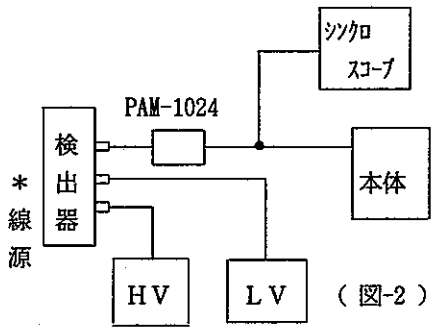
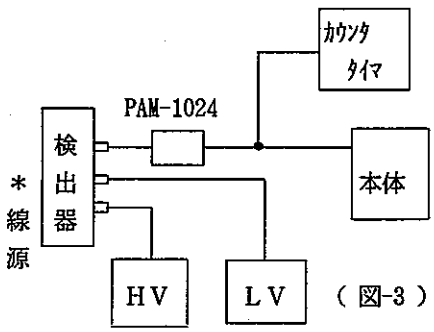
点検整備技術要領書

整理番号		5／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	<table><tr><th>レンジ</th><th>入力信号 (cpm)</th><th>レートメータ指示 (mv)</th><th>調整点</th></tr><tr><td rowspan="3">×30K</td><td>10K</td><td>3.3</td><td rowspan="3">ﾚｰﾄﾒｰﾀﾓｼﾞｭｰﾙ 裏面RV_2</td></tr><tr><td>20K</td><td>6.6</td></tr><tr><td>30K</td><td>10.0</td></tr><tr><td rowspan="3">×100K</td><td>30K</td><td>3.0</td><td rowspan="3">〃</td></tr><tr><td>60K</td><td>6.0</td></tr><tr><td>90K</td><td>9.0</td></tr></table>		
6.4　時定数測定	レートメータをフルスケールに振らしておき、入力をOFF にして指示が100(%)から37(%) になるまでの時間をストップウオッチにて測定する。	×100 レンジにて 1(sec)±20(%)以内 10(sec)±20(%)以内 100(sec)±20(%)以内	
7．警報動作			
7.1　警報動作の確認	①　正常時において、警報ランプが消灯し、ブザーが停止していること。 ②　警報設定値以上の時、警報ランプが点滅し、ブザーが吹鳴すること。 ③　アラームモジュールのブザーストップスイッチを押すと、ブザーが停止すること。 ④　レートメータモジュールのリセットスイッチを押すと、警報ランプが消灯すること。	正常に動作すること	
7.2　接点出力確認		正常に動作すること。	
8．ZnS(Ag) シンチレーション検出器 (ZD-1005)			
8.1　プリアンプ点検 (1)　増幅度	 （ 図-1 ）		
	図-1の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。	約0.95倍	

点検整備技術要領書

整理番号		6／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
(2) 直線性	入力電圧を徐々に増していきながら、出力波高をシンクロスコープにて測定する。	フルスケールの±5(%)以内	
(3) 最大無ひずみ電圧	8.1(2)項のときに飽和する直前の出力波高をシンクロスコープにて測定する。	MAX -10(V)以上	
8.2 検出器出力波形	 (図-2)		
	図-2の様に接続してシンクロで出力波形を測定する。	波高値(V) 半値幅(μS)	本体への信号は切らない。
8.3 プラトー測定	 (図-3)		
	図-3の様に接続し、規定の線源を用いて、500(V)から50(V) 毎に900(V)まで１分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100)-(Cn-50)}{Cn} \times \frac{100}{150} \times 100$ (Cn: 使用電圧での計数値)	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	規程線源 ^{230}Th

点検整備技術要領書

整理番号		7/7

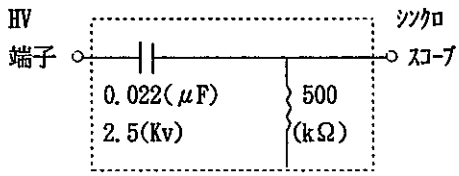
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
9．総合検査			
9.1　バックグラウンドの測定	最小レンジにて、線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
9.2　計数効率	規定線源を用いて、計数させ、メータ指示値を読んで、次式から効率を求める。 効率(%)=$\frac{\text{メータ指示値(cpm)-BG(cpm)}}{\text{規定線源(dpm)}}$ ×100(%)	10(%) 以上	
9.3　警報動作確認	計数値がアラーム設定値以上になったとき、警報動作が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること。	
10. 測定モードの確認	各モジュール測定モードを確認する。 H・Vモジュール レートメータジュール	設定電圧 警報設定値 測定レンジ 時定数	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合判定する。	各項目について異常がないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1/3

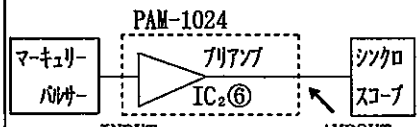
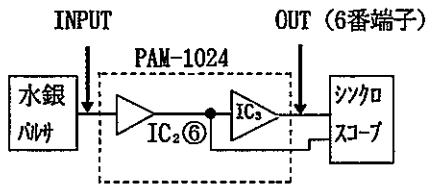
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型α線ダストモニタ	型　名	MDR－303	メーカ名	アロカ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ナジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2　低圧電源点検			
2.1　出力電圧測定	前面扉内チェック用端子にデジボルを接続し、出力電圧を測定する。	±24(V)±1.0(V) ±15(V)±0.7(V) －12(V)±0.6(V)	
2.2　リップル電圧の測定	上記のチェック用端子の各々のリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	50(mVp-p)以下	
3．高圧電源点検			
3.1　出力電圧測定	前面扉内のHVチェック用端子に高圧用デジボルを接続し出力設定ダイヤルに対する出力電圧を500(V)，1000(V)，1500(V) の各点を測定する。(検出器を接続し測定する)	±15(V) 以内	
3.2　リップル電圧	出力電圧を最大設定にし、下記の接続にて、リップル電圧を測定する。  シールドBOX	100(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2/3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．前置増幅器部 4.1　アンプゲイン	 （図-1）		
	図-1のようにマーキュリーパルサーを接栓パネル部のIN PUTへ接続し、シンクロスコープを前面扉内のAMPOUTチェック端子へ接続する。次に、マーキュリーパルサーの入力電圧とAMPOUTの出力電圧から増幅度を求める。	約15倍	
4.2　アンプ雑音	前面扉内AMPOUTチェック端子にシンクロスコープを接続しアンプ雑音を測定する。	50(mVp-p) 以下	
4.3　ディスクリレベル	 （図-2）		
	図-2の様に接続し、OUT(6 番端子）に出力が出てくる時のIC₂ の⑥番ピンの電圧を読む。規格外の時RV₁ にて調整する。	-100(mV)±10(mv)	＊ IC₂ ⑥番ピンは前面扉内AMPOUT端子と同じ。
5　計数率計部 5.1　ディスクリレベル	TEST-USEスイッチをTESTにしマーキュリーパルサーより負電圧を入力し、メータが振れ始める時点の入力波高値を測定する。	-1±0.2(V)以内	
5.2　ディスクリ出力波高	6.1項の接続にて入力波高をディスクリレベルより若干高めのパルスを入力させ、前面扉内 DISCRチェック端子からディスクリ出力波高を測定する。	−2.4(V)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5.3　メータ指示精度	前面扉内TEST-USEスイッチをTESTにし、TEST SIGコネクタにパルスジェネレータを接続し信号を計数を始めるレベルより若干高めのパルスを入力し、各レンジごと入力に対応するメータ指示が得られる様に確認調整する。 測定レンジ / 入力ﾊﾟﾙｽ(cpm) / 調整箇所 ３０ / １８ / ＲＶ　６ １００ / ６０ / 5 ３００ / １８０ / 4 １Ｋ / 0.6 Ｋ / 5 ３Ｋ / 1.8 Ｋ / 3 １０Ｋ / 6.0 Ｋ / 2 ３０Ｋ / １８Ｋ / 3	各レンジとも フルスケールの±3(%)以内	
5.4　レコーダ出力	30(Kcpm)レンジにて入力パルス30(Kcpm)を入力した時のレコーダ出力値を測定する。この時、レートメータがフルスケールを指示していることを確認する。	10±2(mV)	
5.5　時定数	レートメータをフルスケールに振らしておき入力をOFF にして指示が100(%)から37(%)になるまでの時間を測定する。	各レンジとも±30(%)以内	
6．校正試験	点検整備技術要領書ZmS(Ag) シンケレーション検出器ZD-1005B(アロカ) 及びZD-1005B(アロカ) 及びZD-451F 参照		
7．警報動作	・アラーム設定針以上に指示針を振らせるとALARM ランプが点灯し、ブザーが吹鳴すること。 ・BUZZER REST スイッチを押しブザーが停止すること。 ・BUZZER REST 後、指示針がアラーム設定以下になると、自動解除になること。	正常に動作すること。	
8　総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと	

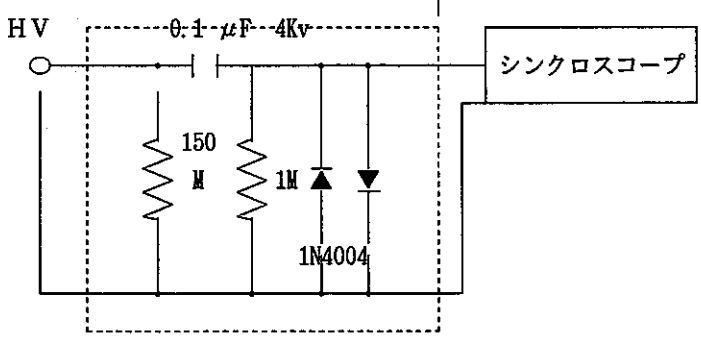
点検整備技術要領書

整理番号		1／4

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型α線ダストモニタ	型　名	MDR－504	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

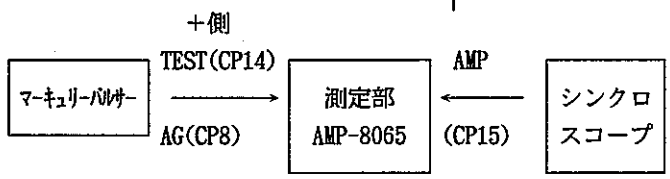
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみ等を点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　出力電圧	コントロールユニット（AMP－0075）の5(V)，12(V)，VDのチェック端子にデジボルを接続し、各々の出力電圧を測定する。	5 ±0.2(V)以内 12±0.4(V)以内 VD：5 ±0.2(V)以内	
2.2　リップル電圧	2.1項で点検したチェック端子にシンクロスコープを接続し、各々のリップル電圧を測定する。	150(mVp-p)以内	
3．高圧電源			
3.1　出力電圧	検出器を取り外し、高圧接栓に規定のデジボルを接続し、500(V)，1000(V)，1500(V)の出力電圧を測定する。	±3(%)以内	
3.2　リップル電圧	高圧電源を1500(V) に設定し、下記の接続にて、リップル電圧を測定する。	100(mVp-p)以内	



シールドＢｏＸ

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
4．アンプディスクリ部 4.1 アンプゲイン	高圧&アンプディスクリユニット（AMP－8065）のディップスイッチDS2の1番をOFFにし、2番をONにし、下記の接続にて、マーキュリーパルサー-100（mV）を入力し、AMP（CP15）チェック端子からのパルス波高が、250(mV)～350（mV）であることを確認する。  RISE TIME　0.1(μsec) DECAY TIME　100(μsec)	2.5 ～3.5(倍)	
4.2　ディスクリ設定	上記の接続で、シンクロスコープをSIG（CP16）に接続し、マーキュリーパルサーの出力を変化させ、波形が出るか消えるかの状態の時の、パルス波高を測定する。調整はRV4（LL）にて行う。	－100 ±10(mV)	
5．指示精度 5.1　表示器	高圧&アンプディスクリユニット（AMP-8065）のSIG-PHS 切り換えスイッチをPHSに切り換え、パルスジェネレータをPHS IN接栓に接続し、パルスジェネレータ出力を60(cpm),600(cpm),6000(cpm)に変化させた時の、指示を計数率表示器により確認する。	±3(%)以内	
5.2　記録形	5.1項の方法にて、記録形の指示を確認する。 ログ　：　CH1 リニア　：　CH2	ログ出力 フルスケールの ±0.15（デカート）以内 リニア出力 フルスケールの ±3（%）以内	＊QUT PUT 端子 ③番：ログ ④番：GND ⑤番：リニア

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．プラトー測定	高圧&アンプディスクリユニットのＳＩＧ(CP16))を規定のカウンタ・タイマーに接続し、チェック線源を使用し、600(V)から50(V) 毎に1000(V)まで１分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、5(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	
7．バックグラウンドの確認	線源の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
8．計数効率	基準線源を用いて計数させ、計数率表示器の表示値を読んで、下記式より効率を求める。	5(%)以上	
9．警報動作の確認	下記事項が正常に動作すること。 (1) 警報レベル以上に測定値がなると「ＡＬＡＲＭ」ランプが点灯し、数字表示が点滅し、ブザーが吹鳴すること。 (2) ブザーリセットスイッチを押すと、ブザーの吹鳴が停止すること。 (3) 警報解除はブザーリセット後、測定値が警報レベル以下となると自動解除すること。	正常に動作すること。	
10. ＬＣＤ表示切り換えスイッチ動作の確認	下記事項が正常に動作すること。 (1) 警報レベルの設定が、任意の値に設定できること。 (2) 高圧電圧の設定が500(V)～1500(V)の間で、任意の値に設定できること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

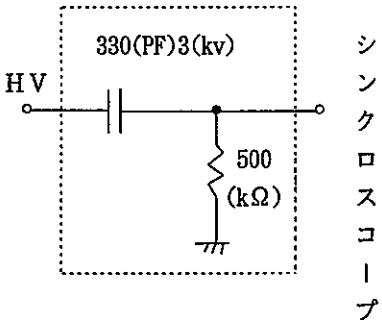
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	(3) 標準偏差の設定が1(%) ～20(%) の間で、任意の値に設定できること。 (4) ＴＥＳＴ動作が、下記の通り異常なく実行されること。 (ROM CHECK　　OK) ↓ (RAM CHECK　　OK) ↓ (COUNTER　　OK) 異常時には、 (ROM CHECK　　NG) と表示され、ブザーが吹鳴する。 (5) 電源表示が、下記の通りなされること。 主電源　[12V　　12.1V] ↓ (SELECT SW) ﾃﾞｼﾞﾀﾙ系　[5 V　　4.9 V] ↓ (SELECT SW) 検出系用 [5 V det　　5.0 V] ↓ (SELECT SW) 検出器用 [HV　　650 V]		
11. 測定モードの確認	各設定の測定モードを確認する。	使用電圧、警報設定値、標準偏差設定値の測定モードを確認する。	
12. 総合判定	以上の結果より、総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1/3

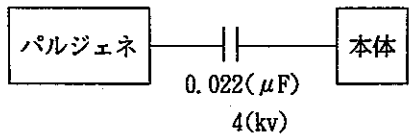
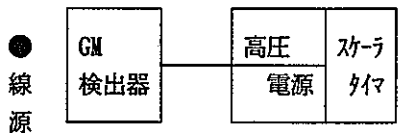
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型β線ダストモニタ	型　名	RM352	メーカ名	㈱東芝
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁試験	POWER スイッチをONの状態にて、1000(V)メガにてAC-GND間で測定する。	50(MΩ)以上	
3．低圧電源点検			
3.1　出力電圧測定	チェック端子にデジボルを接続し、各々の出力電圧を測定する。	出力電圧±5(%)以内	
3.2　リップル電圧	チェック用端子にシンクロスコープを接続し、各々のリップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	
4．高圧電源			
4.1　出力電圧	前面ロータリスイッチを高圧にしメータ指示を0(V),500(V),1000(V),1500(V) に設定した時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。調整は高圧設定ボリュームにて行う。	メータ指示値の ±2.5(%)以内	
4.2　リップル電圧	1500(V) 時におけるリップル電圧を下記治具を使用しシンクロスコープにて測定する。  	100(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．指示精度	前面ロータリスイッチを測定にしパルスジェネレータをGM管入力に接続し周波数を可変してその時のメータ指示を目視して確認する。又、フルスケールでレコーダ出力電圧を測定する。ただし、高圧電源は最小にしておくこと。  	指示計 基準周波数±0.2(dec)以内 レコーダ出力10(mV)	
6．テスト回路指示確認	前面ロータリスイッチをテストにしその時のメータ指示値を確認する。調整はVR_{104}(プリアンプレートメータ基板）にて行う。	1.0×10^{3}(cpm)±0.2(dec)以内	
7．ディスクリレベル	前面ディスクリチェック端子にデジボルを接続しディスクリレベルが0.2(V)であることを確認する。調整はディスクリ設定ボリュームにて行う。	0.2(V)	
8．校正試験 8.1　プラトー試験	下記の接続にて規定線源を用いて計数開始電圧及び高圧電源を50(V) 毎上げていき各電圧での計数値をスケーラタイマにて測定する。  	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%)/100(V)以下	
8.2 効率測定	検出器をサンプリングヘットに固定し高圧電源を使用電圧に設定しバックグラウンド及び規定線源を用いて計数効率を測定する。	BG　：100(cpm)以下 効率：10(%)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

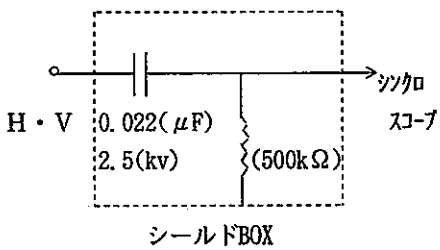
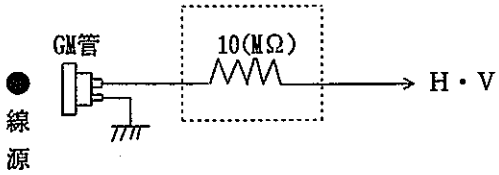
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．警報動作試験 9.1　警報設定精度	低レベル設定値を10^2(×1)、10^4(×100)に設定しパルスジェネレータを除々に減少させ動作中ランプが消灯する時の指示を確認する。また、高レベル設定値10^4(×1)，10^6(×100)に設定しパルスジェネレータを除々に増加させ警報音が発生下時の指示を確認する。		
9.2　警報動作確認	低レベル設定値以下で、動作中ランプが消灯し高レベル設定値以上で高レベルランプが点灯しブザーが吹鳴することを確認する。	正常に動作すること	
9.3　リセット動作確認	下記の様にリセット動作することを確認する。 (1)　低レベル以下の指示値の時に動作中ランプが消灯しリセットボタンを押しても消灯していること。 (2)　低レベル以上高レベル以下の指示値の時リセットボタンを押し動作中ランプが点灯すること。 (3)　高レベル以上の指示値の時リセットスイッチを押してブザーが停止しレベル高ランプが点灯していること。 (4)　高レベル以下の指示値の時リセットボタンを押しレベル高ランプが消灯すること。	正常に動作すること	
10．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

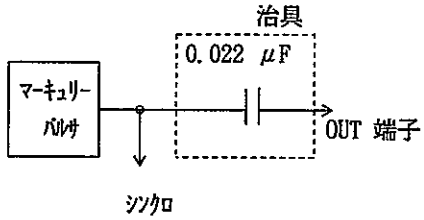
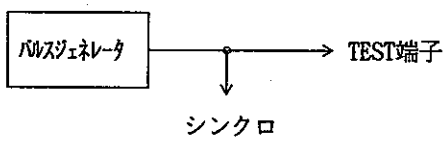
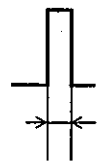
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型β線ダストモニタ	型　名	S－1305	メーカ名	応用光研㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　出力電圧の確認	本体カバーを取外し、チェック用端子にデジボルを接続し出力電圧を測定する。	15±0.1(V) -15±0.1(V)	
3.　高圧電源 3.1　検出器印加電圧	RANGE スイッチをＨＶ CHECKにしメータの指針が赤線内にあることを確認する。また、サンプリングヘッドＨ・Ｖ端子に高圧用デジボルを接続し、高圧電圧を測定し、基準電圧内及びプラトー領域内であることを確認する。基準電圧外の場合はVR1 にて調整する。	680 ～730(V)	
3.2　リップル電圧	上記の方法でＨ・Ｖに含まれるリップル電圧を、下記治具を用いてシンクロスコープにて測定する。  シールドBOX		
4．プラトー測定	サンプリングヘッドのカバーをはずしGM管高圧端子をはずしたのち、下記接続により高圧電圧を入力し規定のスケーラ、タイマ、チェック線源を使用して600(V)から850(V)まで50(V) 毎に1分間測定する。  	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 15(%/100V)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

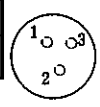
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．入力感度	下記接続にてマーキュリーパルサからサンプリングヘッドOUT 端子に入力しアンプアウトに波高1(V)の信号が出る時の入力値を確認する。 	-3～-6(mv)	＊ GM管接続ピンははずしておく。 入力パルスの条件 極性: 負 RISE:100sec DECAY:5μsec
6．ディスクリ設定	下記の接続にてレートメータが振れ始まる時のパルスジェネレータ出力をシンクロにて確認する。ずれている場合はディスクリVRで調整する。 	1.0 ±0.1(V)	 2μsec
7．指示調整	TEST端子からディスクリレベルより若干高めのパルスを入力させて各レンジごとに対応するメータ指示及び記録計指示が得られるよう確認、調整する。	指示計 フルスケールの±3(%)以内 記録計 フルスケールの±5(%)以内	
8．時定数	6項の接続でメータをフルスケールまで振らせてをおき、入力をOFF にした時から指示がフルスケールの37(%) になるまでの時間をストップウオッチで測定する。	60(SEC) 48～72(SEC) 30(SEC) 24～36(SEC) 10(SEC) 8～12(SEC)	

レンジ	調整箇所	時定数
300 cpm	VR11	60 SEC
1K 〃	VR10	30 〃
3K 〃	VR 9	10 〃
10K 〃	VR 8	10 〃
30K 〃	VR 7	10 〃
100K 〃	VR 6	10 〃

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
9．警報設定ダイヤルの確認	6項の接続にて RANGEを1Kcpmにし、アアラームレベルをフルスケールの20%, 60%, 80%, にしてパルスを入力し、アラームランプが点灯した時のメータ指示値を読む。	フルスケールの±5(%)以内	
10. 警報出力の確認 10.1 警報ランプの確認	6項の接続で下記の動作を確認すること。 (1) アラームレベル以上でランプが点灯すること。 (2) アラームレベル以上の間は押釦を押しても点灯していること。 (3) アラームレベル以下になったら、押釦を押して消灯すること。	正常に動作すること。	
10.2 アラームコネクタの確認	リアパネルアラームコネクタの動作を確認する。 コネクタービン番号 1 3 2 （閉 / 開） 非警報時 ①−② ①−③ 警報時 ①−③ ①−②	正常に動作すること。	
11. 計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで効率を求める。 $効率=\frac{測定値\ (cpm)-B\cdot G\ 値\ (cpm)}{規定線源(dpm)}\times 100(\%)$	24(%) 以上	＊線源治具を使用すること。
12. バックグラウンドの測定	最小レンジを使用し、線源のない場所でバックグラウンドを測定する。	100(cpm)以下	
13. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	



点検整備技術要領書

整理番号		1/6

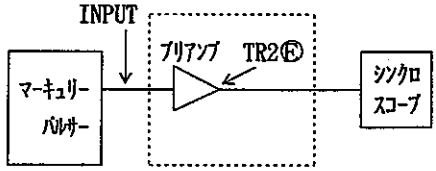
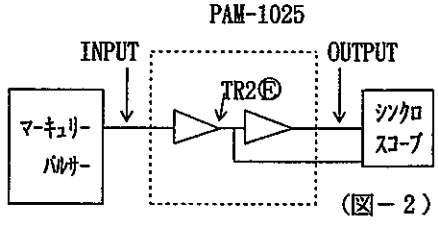
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型βダストモニタ	型　名	モジュール型	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	ＣＰＦ		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと	
2．絶縁試験	POWER スイッチをONの状態にて、500(V)メガにてAC-GND間で測定する。	50(MΩ)以上	
3．低圧電源			
3.1　出力電圧	チェック用端子にデジボルを接続し、±24V,±12V 各々の無負荷時及び0.5A(+24V,-24V)1A(+12V,-12V)負荷時の出力電圧を測定する。	出力電圧精度 ±0.5(%)以内 負荷変動率 無負荷時電圧の ±0.1(%)以内	
3.2　出力電圧の電源変動	AC100V±10(%) 変動にて上記試験と同じことをする。尚変動率は、負荷時とする。	AC100(V)負荷時出力電圧の±0.1(%)以内	
3.3　リップルノイズの測定	負荷時におけるリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	各電圧とも3(mVp-p)以下	
4．高圧電源			
4.1　出力電圧	高電圧出力端子に負荷電流が1500(V) で100(μA)となる様なダミーロードを接続し、出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	負荷電圧100(μA)時の出力可変範囲　0～1500(V)	
4.2　電圧設定精度の確認	高電圧出力端子に高圧用デジボルを接続し、メータ目盛と出力電圧を比較する。 0(V).500(V),1000(V),1500(V) 以上4点を比較する。基準外の場合はボリュームにて調整する。 電圧調整　RV_2(10KΩ) メータ指示調整　RV_1(50KΩ) 出力偏差 $\frac{\text{設定電圧}-\text{デジボル値}}{\text{設定電圧}}\times 100$	メータ指示誤差 フルスケールの ±2.5(%)以内 出力偏差 フルスケールの ±0.5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4.3　電源変動試験及び負荷変動試験	スライダックを用いてＡＣ入力電圧を100(V)±10(%) 変化させた時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。 電源変動率 $\frac{\text{AC90(V)(110V) 入力時の出力電圧} - \text{AC100(V)入力時の出力電圧}}{\text{AC100(V) 入力時の出力電圧}} \times 100$	出力電圧 1500(V) ±0.5(%)以内	
	4.1項にて接続したダミーロードを取りはずし、無負荷電圧を測定し、負荷変動率を求める。 負荷変動率 $\frac{\text{無負荷出力電圧} - \text{全負荷出力電圧}}{\text{無負荷出力電圧}} \times 100$		
4.4　リップル電圧測定	出力電圧を1500(V) にてダミーロードを接続し、シンクロスコープにてリップル電圧測定する。	100(mVp-p)以下	
5．前置増幅器 (PAM-1025)			
5.1　増幅器部 (1)　増幅度測定	PAU-1025  (図－１)		
	図－１の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。	約0.95倍	
(2)　直線性の測定	入力電圧を徐々に増していきながら出力波高をシンクロスコープにて測定する。		
(3)　最大無ひずみ電圧	5.1(2)項のとき飽和する直前の出力を波高シンクロスコープにて測定する。	-1(V)以上	
5.2　ディスクリレベルの測定	PAM-1025  (図－２)	-100(mV)±10(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／6

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	図－2の様に接続し、 IC3の⑦番ピンに出力が出てくるときの TR2のエミッタの電圧をシンクロスコープにて測定する。		
6．ログレトレートメータ　(AM-43M06D)			
6.1　ディスクリレベルの確認	UN②のCP3 にマーキュリーパルサーより負電圧を入力し、UN②のディスクリアウト端子(X) にて、設定値をシンクロスコープで測定する。 ずれている場合は、RV7 にて調整する。	-1±0.2(V)以内	
6.2 CAL指示値の確認	キャリブレーションスイッチを(Lo)側にしたとき、メータ指示が 60(cpm)を表示することを確認する。 また、キャリブレーションスイッチを(Hi)側にしたとき、メータ指示が6000(cpm)を表示することを確認する。 ずれている場合は、キャリブレーション（校正）用可変抵抗器にて調整する。	(Lo)：　60(cpm) (Hi)：　6000(cpm) URI：　3000(cpm)	
6.3　レートメータ直線性の確認	OPERATEスイッチをONにしてUN②の CP3 にパルスジェネレータの信号を入力し、各レンジのレートメータ指示値の直線性を測定する。 同時にデジボルをREC 出力端子(3番,4番)に接続して、各レンジの記録計の出力電圧を測定する。 × 1レンジ　基準値10 (cpm) 記録計 (mV) 10^2 (cpm) (mV) 10^3 (cpm) (mV) 10^4 (cpm) (mV) 10^5 (cpm) (mV) ×10レンジ　基準値10^2 (cpm) 記録計 (mV)	基準値 ±0.24デガート以内 記録計 ±1(mV)以内	

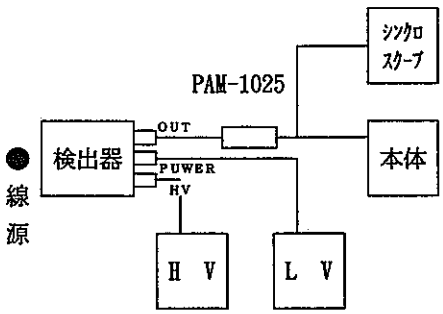
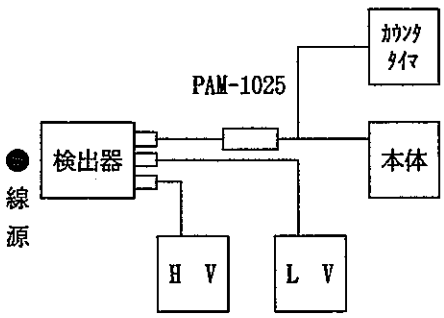
点検整備技術要領書

整理番号		4／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	10^3 (cpm) (mV) 10^4 (cpm) (mV) 10^5 (cpm) (mV) 10^5 (cpm) (mV) × 100レンジ　基準値10^3 (cpm) 記録計　(mV) 10^4 (cpm) (mV) 10^5 (cpm) (mV) 10^6 (cpm) (mV) 10^7 (cpm) (mV)		
6.4　時定数の確認	時定数切換スイッチを切換えたとき、正常に切換ることを確認する。	正常に動作すること。	
7．警報動作			
7.1　警報系試験	警報レベル設定ツマミにより警報設定値を設定し、各レンジにおける警報を測定する。	警報設定値 ±0.2(dec)以下 × 1レンジ： 2.0×10^2(cpm) ×10レンジ： 2.0×10^4(cpm) × 100レンジ： 2.0×10^6(cpm)	
7.2　警報動作の確認	以下の様に、動作することを確認する。 ① 正常時において、警報ランプが消灯しブザーが停止していること。 ② 警報設定値以上の時、警報ランプが点滅し、ブザーが吹鳴すること。 ③ アラームモジュールのブザー・ストップスイッチを押すと、ブザーが停止すること。 ④ レートメータモジュールのリセットスイッチを押すと、警報ランプが消灯すること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7.2　接点出力確認	警報レベルを越えた時、ALARM 接点出力が切換ることを確認する。	正常に動作すること。	正常時 緑，ダイダイ色 ……ON 警報時 緑，赤……ON U_3O_8
8．GM管検出器 (GP-103U)			
8.1　検出器出力波形	 (図－1) 図－1の様に接続し、シンクロで出力波形を測定する。	波高値(V) 半値幅(μS)	規定線源 U_3O_8 本体への信号は切らない。
8.2　プラト測定	 (図－2) 図－2の様に接続し、規定の線源を用いて、600(V)から50(V) 毎に900(V)まで1分測定する。 プラトー領域は下記式で求め，10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ (Cn: 使用電圧での計数値)	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	規定線源 ^{90}Sr

点検整備技術要領書

整理番号		6／6

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
9．総合検査			
9.1　バックグラウンドの測定	最少レンジを使用し、線源等の影響のない場所にて、バックグラウンドを測定する。	100(cpm)以下	
9.2　計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで次式から効率を求める。 効率＝$\frac{\text{メータ指示値(cpm)-B.G値(cpm)}}{\text{規定線源(dpm)}}$ ×100(%)	25(%)以上	規定線源 U_3O_8
9.3　警報動作確認	計数値がアラーム設定値以上になったとき、警報動作が正常に動作することを確認する。	正常に動作すること。	
10. 測定モードの確認	各モジュール測定モードを確認する。 H.Vモジュール レートメータモジュール	設定電源 警報設定値 測定レンジ 時定数	
11. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常がないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型γ線エリアモニタ	型　名	808M 808MDDE	メーカ名	ネスコ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．電源部			
2.1　AC入力時の低圧出力	POWERスイッチをONにする。 AC電源入力時の低圧出力を、DETECTORコネクタのA・B間とC・B、間の電圧を、デジボルにて測定する。	POWERランプが点灯すること。 A・B（GND）間 12±0.5(V)以内 C、B（GND）間 -12±0.5(V)以内	
2.2　検出器印可電圧	2.1項の状態で、DETECTORコネクタのDとGND間の電圧を、デジボルにて測定する。	D・GND間 -50±3(V)以内	
3．測定部			
3.1線量当量率基準点照合	検出器にあるCOARSEとFINE GAIN の2つのトリマポテンションメータにて、1(μSv/h) にセットする。この時感度スイッチをDISCHARGE にするか、モジュールのCOMPAR ISONスイッチをMANUALにする。	1(μSv/h)	
3.2　線量当量率基準点照合動作確認	3.1項で設定した線量当量率基準点照合をMANUALで確認する。その時基準照合ランプが点検することを確認する。	正常に動作すること。	
4．ドリフトチェック	使用状態において、ドリフトがないこと。	最大目盛値±3(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態において、ノイズがないこと。	ノイズのないこと。	
6．バックグラウンドの測定	線源等の影響がない場所で、バックグラウンドの測定をする。	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正	^{137}Ｃｓ線源を使用し、5(μSv/h)，50（μSv/h），500(μSv/h) の照射の場にて、線源校正を行う。	±0.24(dec)以内	
8．警報動作	7項の線源校正時に、5(μSv/h)，50（μSv/h），500(μSv/h) の3点に警報値を設定し、上記の警報設定値になったら、赤色ランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。	赤色ランプが点灯し、ブザーが吹鳴すること。 警報設定値±0.24(dec) 以内	
9．総合判定	本体外観に破損等がないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型γ線エリアモニタ	型　名	８０８MAⅡ	メーカ名	ネスコ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．電源部			
2.1　ＡＣ入力時の低圧出力	ＰＯＷＥＲスイッチをＯＮにする。 ＡＣ電源入力時の低圧出力をDETECTORコネクタのＣ・Ｂ間とＤ・Ｂ間をデジボルにて測定する。	ＰＯＷＥＲランプが点灯すること。 Ｃ・Ｂ間：15±0.5(V)以内 Ｄ・Ｂ間： -15±0.5(V)以内	
2.2　検出器印可電圧	ＡＣ電源入力時の検出器印可電圧をDETECTORコネクタのＮ・Ｂ間を高圧用デジボルにて測定する。	Ｎ・ＧＮＤ間： -250±15(V)以内	
3．測定部			
3.1　バツクグラウンドレベルの補正	検出器(200cc) を接続し、レンジ切換スイッチを100(mSv/h)レンジにし、0.1(mSv/h)指示することを確認する。ずれている場合はＴＲＩＭにて調整する。 又、検出器(1000cc)を接続し、レンジ切換スイッチを1(mSv/h)レンジにし、0.001(mSv/h)指示することを確認する。ずれている場合はＴＲＩＭにて調整する。ＴＲＩＭで調整出来ない場合は、検出器のＢＡＬを用いて行う。	検出器(200cc) 0.1(mSv/h) 検出器(1000cc) 0.001(mSv/h)	＊レンジ切換毎にＴＲＩＭにてバックグラウンドレベルの補正を行う。
3.2　ＣＡＬ指示値の確認	ＣＡＬスイッチをＯＮにした時、メータ指示かＣＡＬ値を指示することを確認する。 づれている場合は、ＣＡＬスイッチをＯＮにしたまま、ＣＡＬ　ＡＤＪにて調整する。	正常に動作すること。	
4．ドリフトチェック	使用状態において、ドリフトがないこと。	検出器200(cc) 、1000(cc)とも 最大目盛値±3(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．ノイズチェック	使用状態にて、ノイズがないこと。	検出器200(cc)，1000(cc)ともノイズがないこと。	
6．バックグラウンドの測定	線源等の影響がない場所で、バックグラウンドの測定をする。	検出器200(cc)，1000(cc)とも読み値	
7．線源校正	^{137}Ｃｓ線源を使用して、下記校正点にて、線源校正を行う。 検出器(200cc) 100(mSv/h)レンジ 0.5(mSv/h)，5(mSv/h)，50(mSv/h)， 1000(mSv/h)レンジ 5(mSv/h)，50(mSv/h)，500(mSv/h)， 検出器(1000cc) 1(mSv/h)レンジ 0.005(mSv/h)，0.05(mSv/h)， 0.5(mSv/h) 10(mSv/h) レンジ 0.05(mSv/h)，0.5(mSv/h)，5(mSv/h)	各レンジとも ±0.24(dec)以内	
8．警報動作			
8.1　設定動作	アラームレベルを50に設定し、メータ指示がフルスケールの50(%) の時、ブザーが吹鳴し、アラームランプが点灯すること。	正常に動作すること。	
8.2　警報動作の確認	8.1項の状態から、メータ指示がアラームレベル以下になってもアラーム状態が保持すること。又、リセットスイッチを押すことにより、正常状態に復帰すること。	正常に動作すること。	
9．記録計			
9.1　チャート送り	チャート送りが、正常に動作することを確認する。	正常に動作すること。	
9.2　指示値の確認	標準電圧発生装置を用いて、0(mV)，2.5(mV)，5.0(mV)，7.5(mV)，10.0(mV)を入力し、記録計の指示値を確認する。		
10．総合判定	本体外観に破損等がないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型γ線エリアモニタ	型　名	808MD	メーカ名	ネスコ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．電源部 2.1　AC入力時の低圧出力	POWERスイッチをONにする。 AC電源入力時の低圧出力を、DETECTORコネクタのA・B間とC・B間の電圧を、デジボルにて測定する。	POWERランプが点灯すること。 A・B（GND）間 15±0.5(V)以内 C、B（GND）間 -15±0.5(V)以内	
2.2　検出器印加電圧	2.1項の状態で、DETECTORコネクタのDとGND間の電圧を、高圧用デジボルにて測定する。	D・GND間 -200±12(V)以内	
3．測定部 3.1　線量当量率基準点照合	検出器にあるBALANCE のトリマポテンションメータにて、0(μSv/h) にセットする。この時本体のCOMPARISONスイッチをMANUALにする。	0(μSv/h)	
3.2　線量当量率基準点照合動作確認	3.1項で設定した線量当量率基準点照合をMANUALで確認する。その時基準照合ランプが点灯することを確認する。	正常に動作すること。	
4．ドリフトチェック	使用状態において、ドリフトがないこと。	最大目盛値±3(%)以内	
5．ノイズチェック	使用状態において、ノイズがないこと。	ノイズのないこと。	
6．バックグラウンドの測定	線源等の影響がない場所で、バックグラウンドの測定をする。	5(μSv/h)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、300(μSv/h),600(μSv/h),800(μSv/h) の照射の場にて、線源校正を行う。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きにより求める。	１±0.3以内	
7.2　直線性	7.1項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は、 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	基準値±10(%) 以内　又は、最大目盛値±5(%)以内	＊基準値は、7.1項で描いた直線上の点
8．警報動作	7.1項の線源校正時に、300(μSv/h) 600(μSv/h)，800(μSv/h) の３点に警報値を設定し、上記の警報設定値になったら、赤色ランプが点灯し、ブザーが吹鳴することを確認する。	赤色ランプが点灯し、ブザーが吹鳴すること。 警報設定値±30(%)以内	
9．総合判定	本体外観に破損等がないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

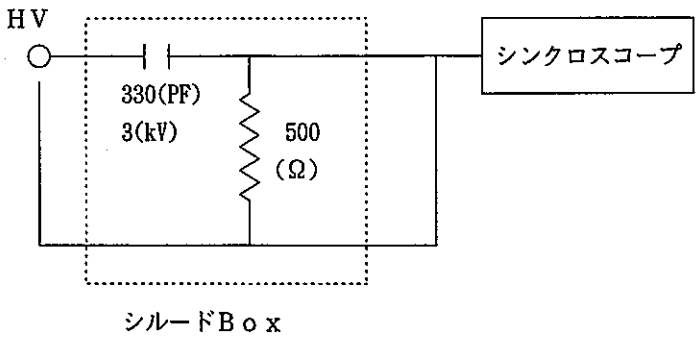
点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	可搬型γ線エリアモニタ	型　名	ＭＡＲ－Ｒ２１－８０２	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源			
2.1　ランプチェック	電源スイッチをＯＮにし、パイロットランプが点灯することを確認する。	ランプが点灯すること。	
2.2　出力電圧	使用状態にて、各出力電圧をヒューズ端子にてデジボルを使用し測定する。	±24±0.2(V)	
2.3　リップル電圧	2.2項の各出力電圧のリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	20(mVp-p)以下	
3.　高圧電源			
3.1　出力電圧	電源スイッチをＯＮにし、高圧出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	340±50(V)以内	
3.2　リップル電圧	下記接続にて、リップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	10(mVp-p)以下	
4．ドーズレートメータ零点の確認	ＵＳＥ－ＺＥＲＯ切換スイッチをＺＥＲＯにし、メヒタ指示が零を指示すること。 尚、指示がずれている場合は、ＺＥＲＯ調整用ボリュームにて調整する。	正常に動作すること	



点検整備技術要領書

整理番号		2／2

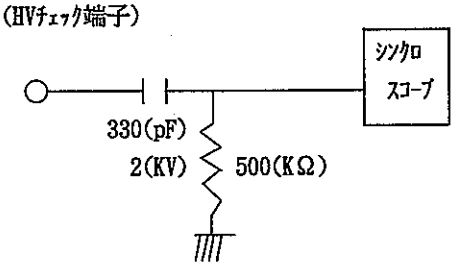
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．ドリフトチェック	使用状態において、ドリフトがないこと。	ドリフトがないこと。	
6．バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所で、バックグラウンドの測定をする。	0.002(mSv/h)以下	
7．線源校正 7.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を使用し、各レンジについて、最大目盛値の20(%),50(%),80(%) 付近で校正する。 $$校正定数＝\frac{線量当量率}{測定値－ＢＧ値}$$ 校正定数は、原点を通り３点（測定値）に最も近い所を通る直線のグラフを描き、その直線の傾きにより求める。	各レンジとも １±0.3以内	
7.2　直線性	7.1項における各測定値の直線性を求める。 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{基準値}\times 100(\%)$$ 又は、 $$直線性＝\frac{基準値－測定値}{最大目盛値}\times 100(\%)$$	各レンジとも 基準値±10(%) 以内　又は、最大目盛値を±5(%)以内	＊基準値は、7.1項で描いた直線上の点
8．警報動作の確認	アラーム設定指針を任意に設定した時、トリップ動作により警報ランプの点灯、リセット、ブザー吹鳴動作を確認する。	正常に動作すること。	
9．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成８年３月

機器名	γ線モニタ（GM管式）	型　名	ＭＡＲ－３０３ｕ	メーカ名	アロカ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
２．低圧電源点検 ２.１　出力電圧測定	デジボルにて、前面の各チェック端子の出力電圧を測定する。	-12(V)±0.3(V)以内 + 5(V)±0.3(V)以内 - 6(V)±0.6(V)以内	
２.２　リップル電圧	シンクロスコープで各チェック端子のリップル電圧を測定する。	+12(V)150(mVp-p)以下 + 5(V)250(mVp-p)以下 - 6(V)150(mVp-p)以下	
３．高圧電源点検 ３.１　出力電圧測定	GM管の接続ピンをはずし、HVチェック端子において高圧用デジボルを接続し、出力電圧を測定する。	500(V)±10(%) 以内 600(V)±10(%) 以内 700(V)±10(%) 以内	
３.２　リップル電圧	GM管の接続ピンをはずし、HV最大出力時に図-1の様に接続して測定する。  (図-1)	100(mVp-p)以下	
４．入力感度測定	TEST-USE切換スイッチをTESTにし図-2の接続にてマーキュリーパルサーの波高を可変させ、波形が出るか消えるかの状態の時のパルス波高を測定する。設定がずれている場合はDISCR 調整用ボリュームRV₂で調整する。	-500(mV)±10 (%)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	TEST SIG端子　DISCR  (図-2)		
5．指示精度測定	TEST-USE切換スイッチをTESTにしTEST SIG端子よりパルジェネの信号を入れ、入力に対応するOPアンプ OUT出力電圧及びメータ指示が得られる様確認調整する。 入力信号 / A_2-⑥ / メータ指示 1(CPS) / 1.25(V) / 1(μSv/h) 10(CPS) / 2.50(V) / 10(μSv/h) 100(CPS) / 3.75(V) / 100(μSv/h) 1000(CPS) / 5.00(V) / 1000(μSv/h) 設定がずれている場合は、SHIEFADJ（平行移動)GAIN ADJ(傾き）用ボリュームでOPアンプ出力電圧を調整し、RV_3 でメーター指示を調整する。	±0.24デガート以内	
6．記録計出力	上記試験時において，メータフルスケール時の電圧をデジボルにて測定する。設定がずれている場合は、RV_4にて調整する。	フルスケールの 10(mv)±3(%)以内	
7．窒息防止の確認	GM管の接続ピンをはずし、AMC-4006内、R37 300(KΩ)とアース間に標準電圧発生器を接続し徐々に電圧を上げていき$A_3$⑦に出力して来る時の入力電圧をデジボルにて測定する。設定がずれている場合は、RV5 にて調整する。	2.0 ～2.1(V)以内 (6.6～7μA)	
8．表示部の確認 8.1　OPERATE ランプの動作の確認	POWERスイッチONにてランプが点灯すること。	正常に動作すること	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8.2 ALARM ランプの動作	メータ警報設定値以上の指示又はGM管窒息防止回路動作時に点灯すること。尚、ALARM ランプ点灯時にBUZZERが吹鳴しBUZZER RESETにて停止することも確認する。	正常に動作すること	
9．プラトー測定	GM管を本体に取付けたままR_2と⑦Ⓚ間に接続されているポリエチレン線の⑦Ⓚ側をはずし外部から高圧を印可して DISCR OUT の信号をスケールで計数させる。400(V)から50(V) 毎に700(V)まで１分測定する。プラトー傾斜は下記式で求め、15(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times 100(\%)$ (Cn:使用電圧での計数値)	プラトー領域 150(V)以上 プラトー領域 15(%/100)以下	規定線源 ^{90}Sr
10．ノイズチェック	使用状態においてノイズがないこと。	ノイズのないこと	
11．バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所にて、 POWERスイッチをONにしてから30分間ウオーミングアップ後、バックグラウンドを測定する。	0.5(μSv/h) 以下	
12．線源校正	^{137}Cs線源を使用し、1(μSv/h),10(μSv/h),100(μSv/h),1000 (μSv/h) の校正点において線源校正を行う。	±0.24デガート以内	
13．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目において異常のないこと	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型ヨウ素モニタ	型　名	――――	メーカ名	ｾｲｺｰEG&G
検査名	総合試験	施設名	再処理施設		

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の内部・外部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみがないことを点検する。	本体の内部・外部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみがないこと。	
2．点検前測定モードの確認	点検を始める前、下記の設定を確認する。 ①高圧設定値　：　0.80（ﾀﾞｲﾔﾙ値） ②リニアアンプ＆ＳＣＡユニット ・COARSE.G, FINE.G ・ LLD表示値,　ULD表示値 ③スケーラ＆タイマユニット ・プリセット値	前回の設定値であること	
3．エネルギー分解能測定	検出器単体試験と同様の方法にて、エネルギー分解能測定を行う。	分解能：40(%) 以下 直線性：直線上に乗ること	
4．バックグラウンドの測定	3項で求めた設定にて、線源等の影響がない状態に於いて、10分間バックグラウンドの測定を行う。	30(cpm) 以下	
5．検出器効率の測定	上記の設定にて、^{129}I線源を用いて10分間測定し、下記式より効率を求める。 $\frac{Ns-Nb}{A} \times 100(\%)$ Ｎｓ　：　計数値（cpm） Ｎｂ　：　バックラウンド値（cpm） Ａ　　：　線源放射能（dpm）	2(%) 以上	
6．測定モードの確認	点検後、下記の設定を確認する。 ①高圧設定値　：　0.80（ﾀﾞｲﾔﾙ値） ②リニアアンプ＆ＳＣＡユニット ・COARSE.G, FINE.G ・ LLD表示値,　ULD表示値 ③スケーラ＆タイマユニット ・プリセット値	前回の設定値であること	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
7．総合判定	本体外観に破損等がないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／11

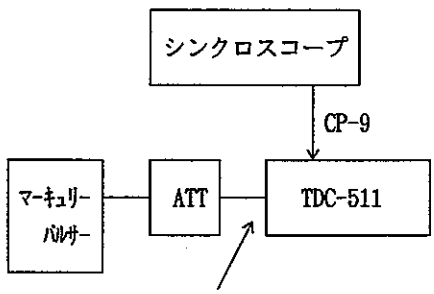
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型ヨウ素モニタ	型　名	JDC-R74-2779	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁試験	POWERスイッチをONの状態にて、500(V)メガにてAC-GND間で測定する。	50(MΩ)以上	
3．低圧電源 3.1　出力電圧	計数装置(TDC-511) のV&HVコントロール回路(AMP-80226) のチェック端子にデジボルにて出力電圧を測定する。±24(V),±15(V) (GNDをCP6)＋5(V)(GND をCP7)又、自動試料交換装置(SC-R74-2779) の+24(V),+5(V) の出力電圧をデジボルにて測定する。	TDC-511 CP1: 24 ±1(V) CP2:-24 ±1(V) CP3: 15 ±0.6(V) CP4:-15 ±0.6(V) CP5:　5 ±0.2(V) SC-R74-2779 TJI(+)とTJ2(-) 24 ±1.2(V) TJ3(+)とTJ4(-) 5 ±1(V)	
3.2　リップル電圧	上記の各電圧のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	TDC-511 ±24(V),±15(V), 10(mVp-p)以下 5(V) 20(mVp-p)以下 SC-R74-2779 24(V) 300(mVp-p)以下 5(V) 200(mVp-p)以下	
4．高圧電源 4.1　出力電圧	HVコネクタに高圧用デジボルを接続して、HVを100(V),1000(V),2000(V),3000 (V) に設定し、各々の出力電圧を測定する。	設定値±10(V)	
4.2　リップル電圧	出力電圧1000(V) 時における、リップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	100(mVp-p)以下	

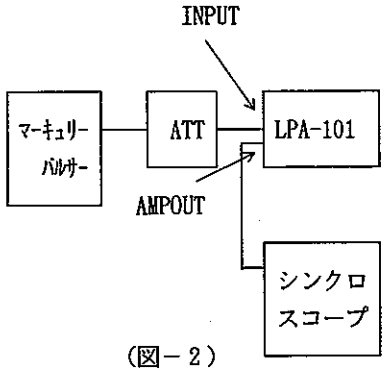
点検整備技術要領書

整理番号		2／11

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．計数動作の確認	パルスジェネレータにより（1Kcpm）を入力し、PT=1.0min にて計数させ、時間、計数表示を読み取る。 TDC-511 設定 Input　:Pre Polarity:Pos In Polarity:Pos out SCA　:INT LL　:10.0%	設定時間（1分）で計数ストップすること。 PT=1.0(min) にて1000±2カウント以内	
6．リニアアンプ増幅度 6.1 ^{129}I用アンプ	 （図－1） マーキュリーパルサー設定条件 Tr:FAST Td:500μs TDC-511 設定条件 DETECTOR:PROP INPut:Amp Shaping:Gauss 又はDL Gain:1000 Polarity:Pos IN Polarity:Pos out マーキュリーパルサー出力を-10(V)としTDC-511 のGainを1000に設定した時、アンプ出力(CP-9)の波高が10.0(V) となる様にATT を合わせ時のATT の値を読む。 SHAPING がGauss,DLの各条件で増幅度を確認する。		

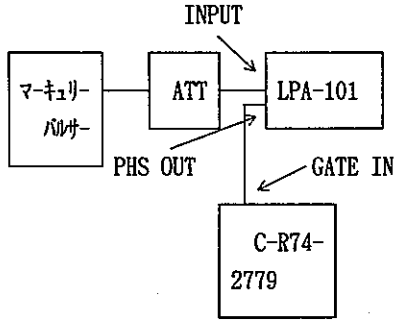
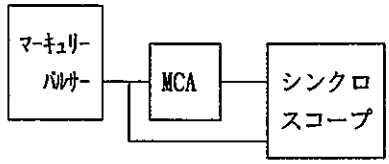
点検整備技術要領書

整理番号		3／11

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6.2 ^{131}Iアンプ用	 （図－２） マーキュリーパルサー設定条件 Tr:FAST Td:10 μs LPA-101 設定条件 COARSE:1/0.1 FINE :10.0 マーキュリーパルサー出力を-10(V)とし、LPA-101 の Gain を1000倍と設定した時、Amp OUT 波高が10.0(V) なるように ATTを合わせた時のATT の値を読む。		
7．総合直線性 7.1 ^{129}I用	図－１の接続にて、LLD=100%、マーキュリーパルサーのパルスハイトダイヤルを10.0として計数開始するようATT ダイヤル、マーキュリーパルサのノーマライズを調整する。 マーキュリーパルサーのパルスハイトダイヤルを、2.0,4.0,6.0,8.0 として計数開始するLLDレベルを調べる。 マーキュリーパルサー設定条件 Tr:FAST Td:500μs TDC-511 設定条件 DETECTOR:PROP InPut : Pre(H.V) Shaping : Gauss Gain :100 Polarity: Pos In Polarity: Pos OUT SCA : INT	レベルのずれが±1(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		4／11

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
7.2 ^{131}I用	 図－3 マーキュリーパルサー設定条件 Tr:FAST Td:500μs LPA-101 設定条件 PHA MODE:INT COARSE　: 1 FINE　　:10.0 LL=10.0 、マーキュリーパルサーのパルスハイトダイヤルを、10.0として計数開始するようにATT ダイヤル、マーキュリーパルサーのノーマルライズを調整する。 マーキュリーパルサーのパルスハイトダイヤルを、2.0,4.0,6.0,8.0 として計数開始する。LLレベルを調べる。	レベルのずれが±1(%)以内	
8．プラトー測定	γ線源を使用し、H・Vを500(V)から50(V) 毎に900(V)まで1分間測定する。		
9．校正試験	(MCA の電圧直線性の確認)  (図－4) 図－4の接続で、マーキュリーパルサーからの出力波高値(8.0V,7.0V,6.0V,5.0V,		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	4.0V,3.0V,2.0V,1.0V)をシンクロスコープにて測定し、それぞれのMCA のCH数を求め、電圧直線性を求める。 （スペクトル測定） ^{129}I用 TDC-511のAMP OUT からの出力を MCAに接続し、規定のγ線源を用いて MCAにて、スペクトルを観測しながらリニアアンプを調整し、^{129}Iのピークを3.0(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{241}Am のγ線源を用いてスペクトル測定を行なう。 求められたスペクトルよりエネルギー直線性及びSCA のULD,LLD を求める。但しULD,LLD の電圧値は先に測定した、電圧直線性より求める。又、直線性はグラフより確認し、直線上に乗っていること。 （ULD 及びLLD の設定） ULD ：（^{129}Iのピーク CH数）＋（半値幅のCH数） LLD ：（^{129}Iのピーク CH数）－（半値幅のCH数） ^{131}I用 LPA-101 のAMP OUT からの出力を MCAに接続し規定のγ線源を用いて、 MCAにてスペクトルを観測しながらリニアアンプを調整し、MOCK-Iのピークを3.6(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に^{22}Na, ^{137}Cs線源を用いて、それぞれのスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルよりエネルギー直線性及びSCA の ULD, LLD の電圧値は先に測定した、電圧直線性より求める。 又は直線性はグラフより確認し、直線上に乗っていること。 （ULD 及びLLD の設定） エネルギー直線性のグラフよりMOCK-Iのエネルギー360(Kev)±10(%) のところのCH数を求め、ULD,LLD とする。		

点検整備技術要領書

整理番号		6／11

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
9.1　バックグラウンドの測定	線源等の影響がない状態において、10分間バックグラウンドの測定を行う。	^{129}I 40(cpm) 以下 ^{131}I 50(cpm) 以下	
9.2　効　　率	^{129}I線源及びMOCK-I線源を用いて、10分間測定し、下記式より効率を求める。 $\frac{Ns-Nb}{A}\times 100(\%)$ Ns: 計算値(cpm) Nb: バックグランド値(cpm) A：線源放射能(dpm)	^{129}I 2(%)以上 ^{131}I 3(%)以上	
9.3　エネルギー分解能	^{129}I用スペクトル測定にて、求められたスペクトルよりエネルギー分解能を下記式より求める。 分解能 $= \frac{\frac{(^{241}\text{Am のｴﾈﾙｷﾞｰ})-(^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{241}\text{Am のﾋﾟｰｸ CH})-(^{129}\text{Iのﾋﾟｰｸ CH})}\times\left(\begin{array}{l}^{129}\text{Iのピークの}\\ \text{半値幅のCH数}\end{array}\right)}{^{129}\text{Iのエネルギー}}\times 100(\%)$ ^{241}Am: 59.5(Kev) ^{129}I : 30.0(Kev)	^{129}I分解能 :35(%)以下	
10. 測定モードの確認	各装置の測定モードを確認する	使用電圧 LPA-101 Cain COARSE FINE PHA MODE:DVAL L.L U.L TDC-511 PHA MODE:DUAL L.L U.L	

点検整備技術要領書

整理番号		7／11

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
11. 総合動作	自己診断（別添－1）及び試料交換動作（別添－2）が正常に動作すること。又H・Vリミットを1000(V) に設定しH・Vを上げていき、1000(V) 以上上がらないことを確認する。	正常に作動すること。	
12. 総合判定	本体外観等に破損のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

別添－1

ＴＥＳＴ；自己診断

1） Setup Menuの 目番号13(TEST)を選択すると自己診断項目の選択画面となります。

カーソル→

```
TEST MODE
[1] Amp/SCA   TEST
 2  SCALER    TEST
 3  DISPLAY   TEST
 4  PRINTER   TEST
 5  ROM       TEST
```

[↓]、[↑]スイッチを操作して項目を選択し、[YES]スイッチを押すと選択された項目の自己診断を実行します。[NO]スイッチを押すと次の項目へ移ります。カーソルが５の位置で[↓]or[NO]を押すとSetap Menuの画面に戻ます。

自己診断の結果異常があった場合、ERROR を表示するとともに、[YES]スイッチを押すまでブザー（アラーム音）を発生します。

自己診断の結果正常であれば、約１秒間ブザーが鳴り自己診断終了を表示した後、自己診断項目の選択画面に戻ります。（注１参照）

（注１）DISPLAY TEST,PRINTER TEST を行う場合は表示または印字の内容を目視で判断して下さい。

DISPLAY TESTではテストパターン表示終了後ただちに自己診断項目の選択画面に戻ります。

① Amp/SCA TEST: 内部テスト信号によりAmp GAIN DISCRI LEVEL の動作を確認します。

GAIN(Pre, リニヤ)	±20%
SCA	±15%
テストパルス分解能	3% (GAIN=80にて)

② SCALER TEST ： 内部テスト信号によりスケーラの計数動作を確認します。

③ DISPLAY TEST: テストパターンを表示することによって表示器動作を確認します。

④ PRINTER TEST: テストパターンを印字することによってPRINTER の動作を確認します。

⑤ ROM TEST　: ROM の内容を確認します。

2） 自己診断動作例(Amp/SCA TEST)

① 上記状態で YES スイッチを押すと自己診断状態となります。

```
TEST MODE
1 Amp/SCA TEST
      SELF TEST
```

② 自己診断の結果異常があった場合、下記の表示となりアラーム音が発生します。
この状態で YES スイッチを押しますとアラーム音は停止し、自己診断項目の選択画面に戻ります。

```
TEST MODE
1 Amp/SCA TEST
      SELF TEST ERROR
                              EXIT:Yes  SW
```

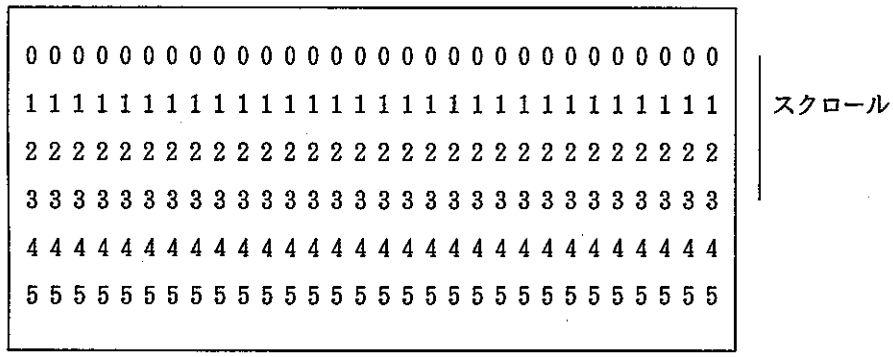
③ 自己診断の結果正常であれば下記の表示を行った後自己診断項目の選択画面に戻ります。

```
TEST MODE
1 Amp/SCA TEST
      SELF TEST Completed
```

3） ラストパターン

① DISPLAY TEST（正常な場合）

同一行 同一文字にて0～9，：，；，＜，＝，＞，？，@，A～Zの数字、記号、文字をスクロールしながら表示します。



② PRINTER TEST（正常な場合）

別添－2

使用方法

1） MANUAL測定

① POWER スイッチをONとし、電源を供給します。 POWER ランプ及び STOP ランプが点灯します。

チェンジャーが基準状態（試料送り台はエレベータ位置、エレベータはDOWN ENDにある状態）にない場合はチェンジャーは動作を開始し、基準状態となります。

② MANUAL 選択スイッチを押します。 STOP ランプが消灯し、 MANUAL ランプが点灯します。

③ この状態で SAMPLE SET スイッチを押すごとに、試料容器が１個ずつ検出部へおくり込まれます。また、試料交換中は SAMPLE SET ランプが点灯し、試料容器が検出部へおくり込まれると MEASURE ランプが点灯します。

MEASURE ランプが点灯で測定可能状態ですので、スケーラの START STOP スイッチを押して測定を行って下さい。

④ 動作を停止　　合は、 STOP スイッチを押して下さい。 STOP スイッチを押すと、 STOP ランプが点灯し、検出部にある試料容器を廃棄ボックスへ廃棄し MANUAL ランプが消灯し動作停止します。

2） AUTO測定

① AUTO BREAK動作を行う場合は AUTO BREAK スイッチをONに設定して下さい。

② AUTO スイッチを押して下さい。

AUTO ランプ及び READY ランプが点灯します。

③ スケーラの START STOP スイッチを押して下さい。 READY ランプが消灯します。

④ 最初の試料が検出部に送り込まれ、測定を開始します。

⑤ 測定時間がPRESET TIME に達すると測定を終了し、演算結果をプリントアウトします。

⑥ プリントアウト終了後、試料の交換を行い、２番目の試料の測定を開始します。

⑦ PRESET TIME ごとにプリントアウトし、試料を交換し測定を繰り返します。

⑧ 最後の試料の測定が終了すると廃棄ボックスに試料を廃棄し、測定が終了します。

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型ヨウ素モニタ	型　名	モジュール型	メーカ名	応用光研㈱
検査名	総合検査	施設名	再処理		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと	
2．点検前測定モードの確認	点検を始める前、以下の設定を確認する。 ① 高圧設定値： 350（目盛） ② リニアアンプ&SCAモジュール ・ COARSE.G, FINE.G ・ IN PUT ・ LLD 目盛、ULD/△E MOOD ・ INT/DIFF MOOD, ULD/△E MOOD ③ スケーラ&タイマモジュール ・ FUNCTION		
3．エネルギー分解能測定	検出器単体検査と同様の方法にて、エネルギー分解能測定を行う。	分解能：40(%)以下 直線性：直線上に乗ること	
4．バックグラウンドの測定	3項で求めた設定にて、線源等の影響がない状態に於いて、10分間バックグラウンドの測定を行う。	30(cpm)以下	
5．検出器効率の測定	上記の設定にて、^{129}I線源を用いて10分間測定し、下記式より効率を求める。 $\frac{Ns-Nb}{A}\times 100(\%)$ Ｎａ：計数値（cpm） Ｎｂ：バックグラウンド値（cpm） Ａ　：線源放射能（dpm）	2(%)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6. 測定モードの確認	点検後の、以下の設定を確認する。 ① 高圧設計値：350(目盛) ② リニアアンプ＆ＳＣＡモジュール ・ COARSE.G, FINE.G ・ IN PUT ・ LLD 目盛、ULD/△目盛 ・ INT/DIFF MOOD, ULD/△E MOOD ③ スケーラ&タイマモジュール ・ FUNCTION		
7．総合判定	本体外観に破損等がないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1/3

改訂　平成8年3月

機器名	可搬型ダストモニタ	型　名	S－1757	メーカ名	応用光研㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁試験	POWER スイッチをONの状態にて、1000(V)メガにて、AC-GND間で測定する。	50(MΩ)以上	
3．低圧電源			
3.1　出力電圧	定圧電源回路(PC5) のチェック端子にデジボルを接続し、出力電圧を測定する。	＋24(V):＋24(V) ±1.0(V) －24(V):－24(V) ±1.0(V) ＋12(V):＋12(V) ±0.5(V) －12(V):－12(V) ±0.5(V)	
3.2　リップル電圧	3.1項で点検したチェック端子にシンクロスコープを接続し、各々のリップル電圧を測定する。	5(mVp-p)以下	
4．高圧電源			
4.1　出力電圧	測定部の後面のH･VOUT端子に高圧用デジボルを接続し、出力電圧を測定する。又、その時のメータ指示値を読む。 出力電圧＝(ダイヤル目盛×100 ＋500)(V)	メータ指示 フルスケールの±2.5(%)以内 出力電圧 ±15(V)以内	
4.2　出力電圧の負荷変動率	出力電圧を1500(V) に設定し、無負荷時と0.5(mA) 負荷時の電圧変化を測定する。	±0.2(%)以内	
4.3　リップル電圧	出力電圧1500(V),0.5(mA) 負荷時のリップル電圧をシンクロスコープにて測定する。	0.5(mA) 負荷時 50(mVp-p) 以下	
5．リニア・アンプ部			
5.1　利得の測定	1)測定部の後面のINPUT 端子へ、マーキュリーパルサーを用いて信号を入力 (FINE GAIN×1 に40(mV),FINE GAIN×2 に20(mV)) した時下記のCOARSE GAIN レンジにて、AMPOUTからの出力をシンクロスコープにて測定する。 COARSE GAIN 8,16,32,64,128,256	最大出力電圧の±5(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	2) 1) 項と同様に行い、入力極性正と負の最大出力電圧をシンクロスコープで測定する。	正:10(V)以上 負:-10(V)以上	
5.2　雑音の測定	COARSE GAIN を256 、FINE GAIN を×１にして、出力パルスが10(V) になる様にマーキュリーパルサーを調整する。次に入力を外しRMS ボルトメータで測定する。 入力等価雑音(μVRMS) ＝ RMSメータの読み(mV) ／ 最大利得	入力等価雑音 20(μVRMS) 以下	
6．ディスクリ部			
6.1　入力動作範囲の確認	測定部のCOARSE GAIN ×8,FINE GAIN ×１として、DISC目盛を下記のごとく設定し、マーキュリーパルサーから電圧を印加していった時、DISC OUTでカウンタが計数し始める点の電圧、又、入力電圧10(V) の時の動作目盛を確認する。 その時、AMP PUT でSCA 入力電圧を測定しながら行う。 DISC目盛 50(目盛),300(目盛),500(目盛), 700(目盛),900(目盛)	フルスールの±5(%)以内	
6.2　分解能の測定	ダブルパルス発生器を下記の様に設定し、AMP の入力に加え、SCA 出力をカウンタに接続する。始めにダブルパルス間隔を十分大きくとり、計数を測定する。次に、徐々にパルス間隔をせばめ計数値が始めの計数値の半分となる点を求める。この時のパルス間隔をシンクロスコープで測定し分解時間とする。 MODEスイッチはLLD,ULD について行う。 ダブルパルス発生器 繰り返し　50(KHz) パルス幅　100(nsec) 立上がり、立下り　5(nsec) MODE　ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾟﾙｽ パルス間隔　300(nsec)	1.5(μsec)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

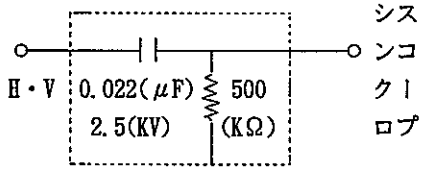
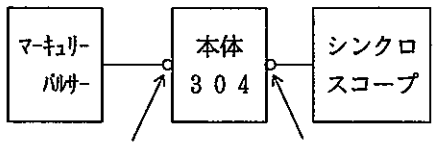
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.3　出力波形の確認	DISC OUTの波形を測定する。	パルス波高　約4(V) パルス幅　約0.5(μSec)	
7．計数率計部	INPUT 端子に、パルスジェネレータから周波数を入力し、周波数を各々の値に可変した時のレートメータ指示値及びレコーダ指示値を目視にして読む。	指示計・記録計とも ±0.24(dec)以内	
8．校正試験	点検整備技術要領書ZnS(Ag) シンチレーション検出器S-1766及び、GM検出器S-1767参照		
9．警報動作	・アラーム設定値以上に指示針を振らせるとALARM(RESET)スイッチが赤色に点灯しブザーが吹鳴すること。 ・指示針がアラーム設定値以下になっても、警報が吹鳴し、ALARM(RESET)スイッチが点灯すること。 ・ALARM(RESET)スイッチを押すことにより、警報が解除され、ALARM(RESET)スイッチが消灯すること。	正常に動作すること。	
10. 総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

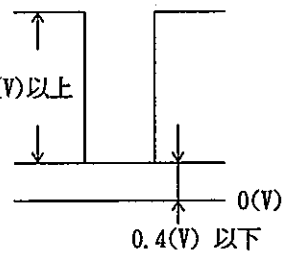
改訂　平成８年３月

機器名	可搬型ダストモニタ	型　名	ＭＤＲ－３０４	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
２．低圧電源 ２.１　出力電源の測定	前面扉内チェック用端子にデジボルを接続し、出力電圧を測定する。	±0.6(V)	
２.２　リップル電圧の測定	上記のチェック用端子の各々のリップル電圧を測定する。	50(mVp-p)以下	
３．高圧電源 ３.１　出力電源の測定	前面扉内のHVチェック用端子に高圧用デジボルを接続し、出力設定ダイヤルに対する出力電圧を500(V),1000(V),1500(V)の各点を測定する。	±15(V)以内	
３.２　リップル電圧の測定	出力電圧を最大設定にし、下記の接続にて、リップル電圧を測定する。  シルードBOX	100(mVp-p)以下	
４　前置増幅器部 ４.１　アンプゲイン	 左側面のSCINT　　チェック端子 （図－１）		

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	入力設定 RISE TIME　50(nS) DECY TIME　100(μS) 波高値　100(mV) スイッチをSCINT にし、図－１の様に、マーキュリーパルサーを接続し、シンクロスコープを前面扉チェック端子パネルのAMP OUTへ接続する。 マーキュリーパルサー圧の入圧電圧とAMP OUTの出力電圧から増幅度を求める。	約15倍	
4.2　アンプ雑音	前面扉チェック端子パネルのAMPOUTにシンクロスコープを接続し、アンプ雑音を測定する。	50(mVp-p) 以下	
5．計数率計部			
5.1　ディスクリレベル	スイッチをTESTにし、前面扉チェック端子パネルのTEST-SIGから、水銀パルサにて負電圧を入力し、チェック端子パネルのDISCR から接続したシンクロスコープにて、入力波高が出始める時の入力波高値を測定する。	-200±10(mV)	入力設定 RISE TIME 0.1(μSec) DECY TIME 100(μSec) 調整　RV_1
5.2　ディスクリ出力波高	6.1項の接続にて、入力波高をディスクリレベルより若干高めのパルスを入力させディスクリ出力波高を測定する。		
5.3　メータ指示精度	スイッチをTESTにし、TEST-SIG端子にパルスジェネレータを接続し、ディスクリレベルより若干高めのパルスを入力し、各入力に対応するメータ指示を確認する。	±0.24デガード	10(cpm) 5.8～17 10^2(cpm) 5.8×10～1.7×10^2 10^3(cpm) 5.8×10^2～1.7×10^3 10^4(cpm) 5.8×10^3～1.7×10^4

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5.4　レコーダ指示精度	6.3項の時、同時にレコーダの裏の端子をデジボルにより出力電圧及びレコーダ指示を確認する。	±0.24(dec)	
6．校正試験	点検整備技術要領書ZnS(Ag) シンチレーション検出器ZD-1005B（アロカ）GM検出器GP-103BU（アロカ）参照。		
7．警報動作	・アラーム設定値以上に指示針を振らせること、ALARM ランプが点灯し、ブザーが吹鳴すること。 ・BUZZER REST スイッチを押しブザーが停止すること。 ・BUZZER REST 後、指示針がアラーム設定針以下になると、自動解除になること。	正常に動作すること。	
8．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／7

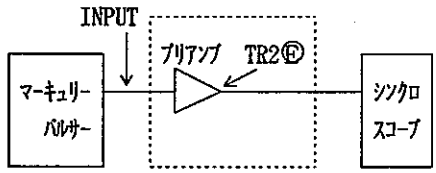
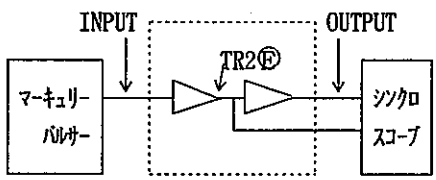
改訂　平成8年3月

機器名	可搬型ダストモニタ	型　名	MDR-R74-3015	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁試験	POWER スイッチをONの状態にて、500(V)メガにてAC-GND間で測定する。	50(MΩ)以上	
3．低圧電源			
3.1 出力電圧	低圧電源各端子にデジボルを接続し、出力電圧を測定する。	各出力電圧 ±3(%)以内	
3.2 出力電圧の負荷変動	低圧電源各端子にデジボルを接続し,0.5(A)(±24(V),±12(V))2.0A(+6(V)) 負荷時の出力電圧を測定する。	無負荷時の±2(%)以内 ± 24(V) ± 12(V) 無負荷時の±1(%)以内 + 6(V)	
3.3 出力電圧の電源変動	スライダックを用いてAC100(V)±10(%)変動し、上記試験と同じことをする。尚、変動率は、負荷時とする。	±0.1(%)以内	
3.4 リップルノイズの測定	負荷時におけるリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	各電圧とも 30(mVp-p) 以下	
4．高圧電源			
4.1 出力電源	高電圧出力端子に負荷電流が1500(V) で100(μA)となる様なダミーロードを接続し,出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	α線用、β線用とも 負荷電圧100(μA)時の出力	
4.2 電圧設定精度の確認	出力端子に高圧用デジボルを接続し、メータ指示値、出力電圧を測定する。 0(V),500(V),1000(V),1500(V) 以上4点を測定する。基準外の場合はボリュームにて調整する。 電圧調整　　RV_2(10KΩ) メータ指示調整　　RV_1(50KΩ)	α線用、β線用とも メータ指示値 フルスケールの ±1(%)以内 デジボル値 フルスケールの ±1(%)以内	

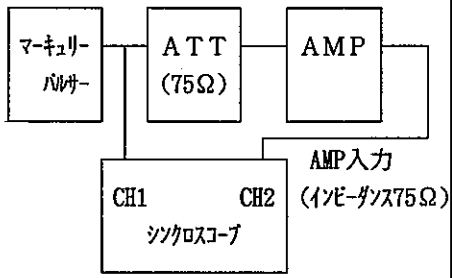
点検整備技術要領書

整理番号		2／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4.3 電源電圧の変動	高電圧出力端子に負荷電流が1500(V) で100(μA)となる様なダミーロードを接続してから、スライダックを用いてAC100(V) ±10(%) 変化させた時の出力電圧を高圧用デジボルトにて測定する。	α線用、β線用とも100(μA)負荷時の1500(V)±0.5(%)以内	
4.4 リップル電圧測定	高電圧出力端子に負荷電流が1500(V) で100(μA)となる様なダミーロドを接続し、シンクスコープにて、リップル電圧を測定する。	50(mVP-P)以下	
5. 前置増幅器 (PAM-1025)			
5.1 増幅器部 (1) 増幅度測定	PAM-1025  (図－1) 図－1の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。	約0.95倍	
(2) 直線性の測定	入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を測定する。		
(3) 最大無ひずみ電圧	また(2) 項の時飽和する直前の出力波高を測定する。	-1(V)以上	
5.2 ディスクリレベルの測定	PAM-1025  (図－2) 図－2の様に接続し、IC3 の⑦番ピンに出力が出てくる時のTR2 のエミッタの電圧を測定する。	-100(mV)±10(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		3／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6．直線増幅波高分析器 6.1 増幅度の確認	 （図－３） 図－３の接続にてマーキュリーパルサー出力を10(V) GAIN(1)FINE ダイヤル(0.00)にした場合、増幅器出力が5(V)となる時のアッテネータの読みを記録する。 以下各レンジにおいて増幅度を確認する。尚FINEダイヤル(0.00 ～5.00) を可変し増幅等を確認する。 MODE DL についても同様にする。 MODE RC GAIN　ATT 1　60(dB) 1/5　46(dB) 1/10　40(dB) 1/50　26(dB) FINE 0.00～5.00に可変　6(dB) MODE DL GAIN　ATT 1　60(dB) 1/5　46(dB) 1/10　40(dB) 1/50　26(dB) FINE 0.00～5.00に可変　6(dB)	各レンジに対して ±2(dB)以内	
6.2 波形分析器 (1) LLD	シングルチャンネル波高分析器のLLD 目盛を各測点に設定し、マーキュリーパルサーからの出力電圧を可変した場合にレートメータに指示する時点を確認し、直線性を見る。		

点検整備技術要領書

整理番号		4／7

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	MPG　10.0～0.0(負) INPUT ＝ PHS IN PHA MODE ＝ INT 測定点 (LLD ダイヤル目盛) (9.0,8.0,5.0,3.0,1.0)		
(2) ULD	シングルチャンネル波高分析器のULD 目盛を各測定点に設定し、マーキュリーパルサーからの出力電圧を可変した場合にレートメータの指示が下がる時点を確認し、直線性を見る。 PHA MODE ＝ DUAL LLD ＝ 0.2 測定点 (ULD ダイヤル目盛) (9.0,8.0,5.0,3.0,1.0)		
(3) ΔE	上記の方法にて精度を確認する。 PHA MODE ＝ DIFF LLD ＝ 1(V) 測定点 (2.0,4.0,6.0,8.0,10.0)		
7. リニアカウントレートメータ (AM-43M10)			
7.1 ディスクリヘベルの確認	UN①53番ピン(PHS IN)にMPG より負電圧を入力し、UN①4番ピンにて設定値をシンクロスコープで測定する。	α線用、β線用とも -1±0.2(V)以内	
7.2 CAL指示値の確認	レンジOKにてCAL にし、レートメータ指示値を読む。 ずれている場合は、レートメータモジュール表面のRV1 にて調整する。	α線用，β線用とも 3000±500(CPM)以内	
7.3 レートメータ指示値の確認	OPERATE スイッチをONにして、パルスジェネレータの信号を入力し、各レンジのレートメータ指示値を確認する。		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考

レンジ	入力信号 (cpm)	レートメータ指示 (cpm)	調整点
×30	10	10	UN① RV_1
	20	20	
	30	30	
×100	30	30	UN① RV_2
	60	60	
	90	90	
×300	100	100	UN① RV_3
	200	200	
	300	300	
×1K	0.3K	0.3K	UN① RV_8
	0.6K	0.6K	
	0.9K	0.9K	
×3K	1K	1.0K	UN① RV_9
	2K	2.0K	
	3K	3.0K	
×10K	3K	3.0K	UN① RV_{10}
	6K	6.0K	
	9K	9.0K	
×30K	10K	10.0K	UN① RV_{11}
	20K	20.0K	
	30K	30.0K	
×100K	30K	30.0K	UN① RV_{12}
	60K	60.0K	
	90K	90.0K	

7.4 レコーダの確認

7.3 項の点検に合わせて、各レンジのレコーダ指示を確認する。

ずれている場合は、CAL 値(3000cpm) を合わせてから各レンジにわたりレートメータ指示及びレコード指示を調整する。

レンジ	入力信号 (cpm)	レコード出力電圧 (cpm)	調整点
×30	10	10	レートメータモジュール裏面 RV_2
	20	20	
	30	30	
×100	30	30	〃
	60	60	
	90	90	

点検整備技術要領書

整理番号		6／7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考

×300	100	100	レートメータモジュール裏面RV₂
	200	200	
	300	300	
×1K	0.3K	0.30	〃
	0.6K	0.60	
	0.9K	0.90	
×3K	1K	1.0K	〃
	2K	2.0K	
	3K	3.0K	
×10K	3K	3.0K	〃
	6K	6.0K	
	9K	9.0K	
×30K	10K	10.0K	〃
	20K	20.0K	
	30K	30.0K	
×100K	30K	30.0K	〃
	60K	60.0K	
	90K	90.0K	

7.5 時定数測定

レートメータをパルスジェネレータにてフルスケールまで振らしから、次にパルスジェネレータをOFF にしフルスケールから37(%) になるまでの時間をストップウォッチで測定する。

α線用，β線用とも
×100Kレンジにて
1(Sec)±30(%)以内
10(Sec)±30(%)以内
100(Sec)±30(%)以内

8．警報動作

8.1 警報動作の確認

① 正常時において、警報ランプが消灯し，ブザーが停止していること。
② 警報設定値以上の時、警報ランプが点滅し，ブザーが吹鳴すること。
③ アラームモジュールのブザーストップスイッチを押すと、ブザーが停止すること。
④ レートメータモジュールのリセットスイッチを押すと、警報ランプが消灯すること。

正常に作動すること。

8.2 接点出力の確認

警報レベルを越えた時ALARM接点出力が，切換ることを確認する。

正常に作動すること。

9．校正試験

点検整備記録書Zns(Ag) シンチレーション検出器ZD-1005BW，GM管検出器GP-103BU参照。

点検整備技術要領書

整理番号		7/7

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10. 総合検査 10.1 バックグランドの測定	最小レンジにて、線源等の影響のない場所でバックグランドを測定する。	Zns(Ag)シンチレーション検出器　：　1(cpm)以下 GM検出器：　100(cpm)以下	
10.2 計数効率	規定の線源を用いて測定し、その計数値より、下記式にて効率を求める。 効率＝$\frac{\text{計数値}-\text{B.G}}{\text{線源値}}\times 100(\%)$	Zns(Ag) シンチレーション検出器　：　10(%)以上 GM検出器：　25(%)以上	
11. 総合判定	本体外観に破損等にないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目につて異常のないこと。	

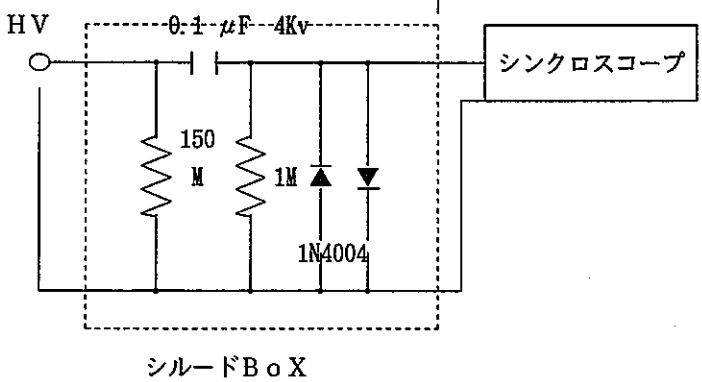
点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成8年3月

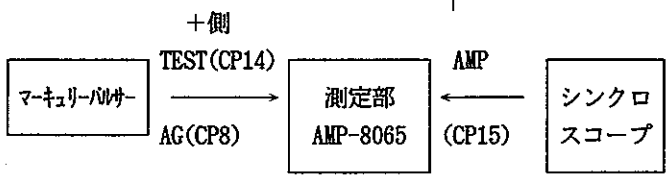
機器名	可搬型α・β線ダストモニタ	型　名	MDR-R74-3119	メーカ名	アロカ
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損、ネジのゆるみ等を点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源 2.1　出力電圧	コントロールユニット（AMP-0075）のの5(V)，12(V)4，ＶＤのチェック端子にデジボルを接続し、各々の出力電圧を測定する。	α線用、β線用共 5 ±0.2(V)以内 12±0.2(V)以内 ＶＤ：5 ±0.2(V)以内	
2.2　リップル電圧	2.1項で点検したチェック端子にシンクロスコープを接続し、各々のリップル電圧を測定する。	α線用、β線用共 150(mVp-p)以内	
3．高圧電源 3.1　出力電圧	検出器を取り外し、高圧接栓に規定のデジボルを接続し、500(V)，1000(V)，1200(V)出力電圧を測定する。	α線用、β線用共 ±3(%)以内	
3.2　リップル電圧	高圧電源を1500(V) に設定し、下記の接続にて、リップル電圧を測定する。	α線用、β線用共 100(mVp-p)以内	



点検整備技術要領書

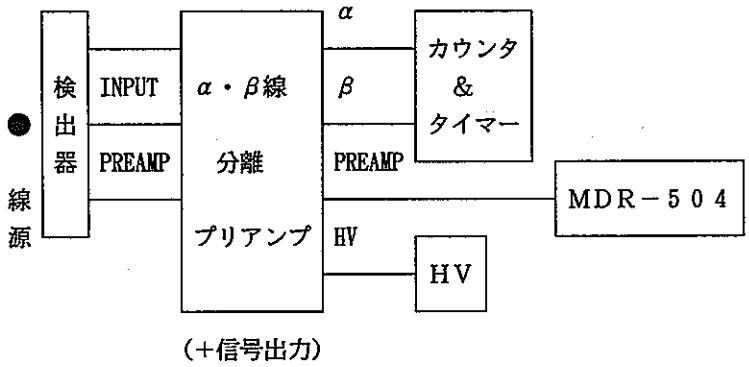
整理番号		2／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．アンプディスクリ部 4.1　アンプゲイン	高圧＆アンプディスクリユニット(AM-8065) のディップスイッチ DS2の１番をＯＦＦにし、２番をＯＮにし、下記の接続にて、マーキュリーパルサー出力-100(mV)を入力し、AMP(CP-15)チェック端子からのパルス波高が、250(mV)～350(mV)であることを確認する。  RISE　TIME　0.1(μsec) DECAY TIME　100(μsec)	α線用、β線用共 2.5 ～3.5(倍)	
4.2　ディスクリ設定	上記の接続で、シンクロスコープをSIG(CP16) に接続し、マーキュリーパルサー出力を変化させ、波形が出るか消えるかの状態の時の、パルス波高を測定する。 調整はRV4(LL) にて行う。	α線用、β線用とも ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ出力が -100±10(mV)	
5．指示精度 5.1　表示器	高圧＆アンプディスクリユニット(AMP-8065)の SIG-PHS切り換えスイッチをＰＨＳに切り換え、パルスジェネレータをPHS IN接栓に接続し、パルスジェネレータ出力を60(cpm),600(cpm), 6000(cpm) にに変化させた時の、指示を計数率表示器により確認する。	α線用、β線用とも ±3(%)以内	
5.2　記録形	5.1項の方法にて、記録形の指示を確認する。 α線用 ログ：ＣＨ１　　リニア：ＣＨ２ β線用 ログ：ＣＨ３　　リニア：ＣＨ４	ログ出力 フルスケールの ±0.15（デカート）以内 リニア出力 フルスケールの ±３（%）以内	

点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
6．プラトー測定	下記接続にて、α線及びβ線チェック線源を使用し、500(V)から50(V)毎に1000(V)まで1分測定する。尚、β線においては計数が倍以上になるまでとする。	α線・β線のプラトー曲線の平滑な所に使用電圧があること。	α線チェック線源 ^{230}Th β線チェック線源 ^{90}Sr
7．記録計 7.1　チャート送りの確認	チャート送りが、正常に動作することを確認する。	正常に動作すること。	
8．バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	α線 1(cpm)以下 β線 100(cpm)以下	
9．計数効率	基準線源を用いて計数させ、計数率表示器の表示値を読んで、下記式より効率を求める。 $\text{効率} = \dfrac{\text{表示値(cpm)} - \text{BG値(cpm)}}{\text{基準線源値(dpm)}} \times 100(\%)$	α線 5(%)以上 β線 20(%)以上	基準線源 U_3O_8 (CPF：協－1322)
10．α・β分離能力	6項のプラトー測定と同じ接続にて、α・β計数への混入比を確認する。		



点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
10.1　α線計数への混入比	^{90}Ｓｒ線源を使用し10分測定し、その計数値(ｶｳﾝﾀ)により、下記式より求める。 尚、ＢＧ値もカウンタにより測定する。 $\frac{\text{α線計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{β線計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}$	0.01(%)以下	
10.2　β線計数への混入比	^{241}Ａｍ線源を使用し、10分測定しその計数値(ｶｳﾝﾀ)により、下記式より求める。 尚、ＢＧ値もカウンタにより測定する。 $\frac{\text{β線計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}{\text{α線計数値(cpm)} - \text{ＢＧ値(cpm)}}$	1.0(%)以下	
11. 警報動作の確認	下記事項が正常に動作すること。 (1) 警報レベル以上に測定値がなると「ＡＬＡＲＭ」ランプが点灯し、数字表示が点滅し、ブザーが吹鳴すること。 (2) ブザーリセットスイッチを押すと、ブザーの吹鳴が停止すること。 (3) 警報解除はブザーリセット後、測定値が警報レベル以下となると自動解除すること。	α線用、β線用とも正常に動作すること。	
12. ＬＣＤ表示切り換えスイッチ動作の確認	下記事項が正常に動作すること。 (1) 警報レベルの設定が、任意の値に設定できること。 (2) 高圧電圧の設定が500 (V)～1200(V)の間で、任意の値に設定できること。 (3) 標準偏差の設定が１(%) ～20(%) の間で、任意の値に設定できること。	α線用、β線用とも正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	(4) ＴＥＳＴ動作が、下記の通り異常なく実行されること。 （ROM CHECK　　OK） ↓ （RAM CHECK　　OK） ↓ （COUNTER　　OK） 異常時には、 （ROM CHECK　　NG） と表示され、ブザーが吹鳴する。 (5) 電源表示が、下記の通りなされること。 主電源　[12V　　12.1V] ↓ (SELECT SW) ﾃﾞｼﾞﾀﾙ系　[5 V　　4.9 V] ↓ (SELECT SW) 検出系用 [5 V det　　5.0 V] ↓ (SELECT SW) 検出器用 [HV　　650 V]		
13. 測定モードの確認	各設定の測定モードを確認する。	使用電圧、警報設定値、標準偏差設定値の測定モードを確認する。	
14. 総合判定	以上の結果より、総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

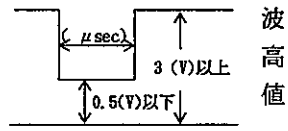
改訂　平成8年3月

機器名	線量率表示器	型　名	ＤＩＭ－２０１	メーカ名	日環研
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の内部・外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．電源部			
2.1　電池電圧	電池電圧を測定する。	5.0(V)～6.7(V)	
2.2　電源切換動作	AC電源にて正常に動作することを確認する。	正常に動作すること。	
3．機能試験	線源を用いて放射線を入射し、動作表示ランプが点滅すること及び計数することを確認する。		＊サンプリング測定時間 Hレンジ　6秒 Lレンジ　60秒
3.1　RANGE 切替動作の確認	測定中[RANG]を切換えると、下記表示となることを確認する。 Hレンジ→0(mSv/h) Lレンジ→0.0(mSv/h)	正常に動作すること。	
3.2　RESET 動作の確認	測定中の“RESET”ボタンを押し、LCD表示がリセット[0(mSv/h) 又は0.0(mSv/h)]された時点から測定を開始することを確認する。	正常に動作すること。	
4．本体パルス計数試験	以下の要領にて、パルスの試験を行う。 (1) P-12(プラグ) を引き抜く。 (2) P-12の黒リード線の片方を引き抜く。(図-1参照) (3) P-12を元どおり差し込む。 (4) P-12の引き抜いた黒リード線と CP5をワニグチグリップコード等で短絡する。 (5) 本体右横の端子EXT.DET の4と6を短絡して内部検出器を切り離す。 (6) ディプスイッチDS-1の設定をONにする。(図-2参照) (7) POWER スイッチONにし、LCD表示を読む。	Hレンジ 60±1(mSv/h) Lレンジ600±1(mSv/h)	＊図-1.2参照

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．パルス出力の確認	線源を用いて、放射線を入射し、SIGNAL OUTからのパルス出力をシンクロスコープで確認する。	半値幅 約5  	＊図-3参照
6.　線源校正 6.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を用いて、照射を行う。 校正点（ 線量当量率 ） Ｈレンジ　　Ｌレンジ 0.1(mSv//h)　0.01(mSv/h) 1(mSv//h)　0.1(mSv/h) 10(mSv//h)　1(mSv/h) 50(mSv//h)　5(mSv/h) 測定値をグラフに描き、その直線の傾きより校正定数をもとめる。 $校正定数=\frac{基準線量当量率}{測定値-B.G}$	内部、外部検出器とも 各レンジとも 1 ±0.2 以内	＊内部検出器で合わせる。 別添１参照
6.2　直線性	上記における各測定値の直線性を求める。 $直線性=\frac{基準値-測定値}{基準値}\times100(\%)$ 又は, $直線性=\frac{基準値-測定値}{最大目盛値}\times100(\%)$	各レンジとも基準値±10(%)以内又は最大目盛値± 5 (%)以内	＊基準値は6.１項で描いた直線上の点
6.3　ディプスイッチの設定	ディプスイッチDS-3の設定値を読む。		＊別添１参照
7．ノイズチェック	使用状態において LCD表示が0.0(mSv/h)であることを確認する。	ノイズのないこと。	
8．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断す。	各項目について異常のないこと。	

別添１

線源校正後の比較

基準値　１０００（μSv/h）

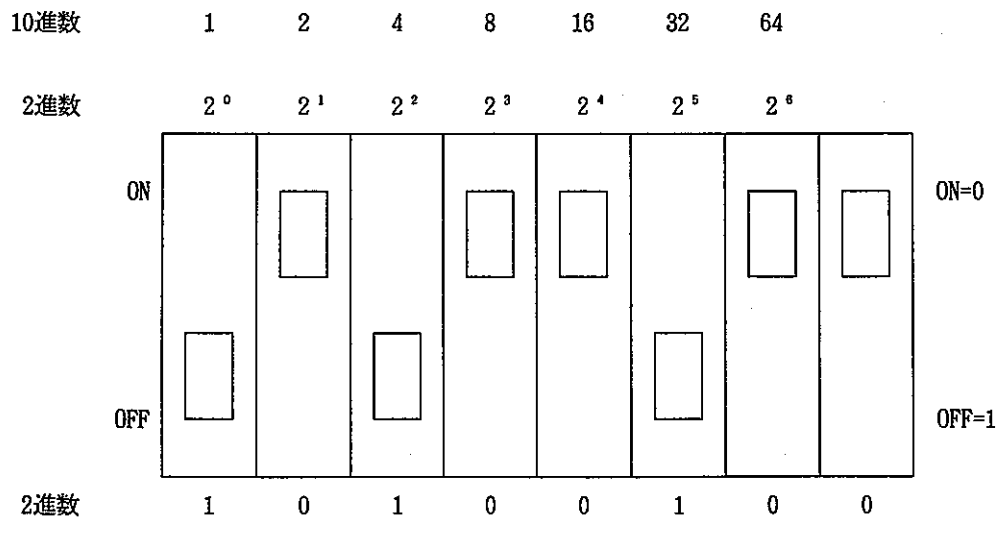
指示値　　８００（μSv/h）

デップスイッチ設定の変更。（ＤＳ－３の位置は図－２の参照）

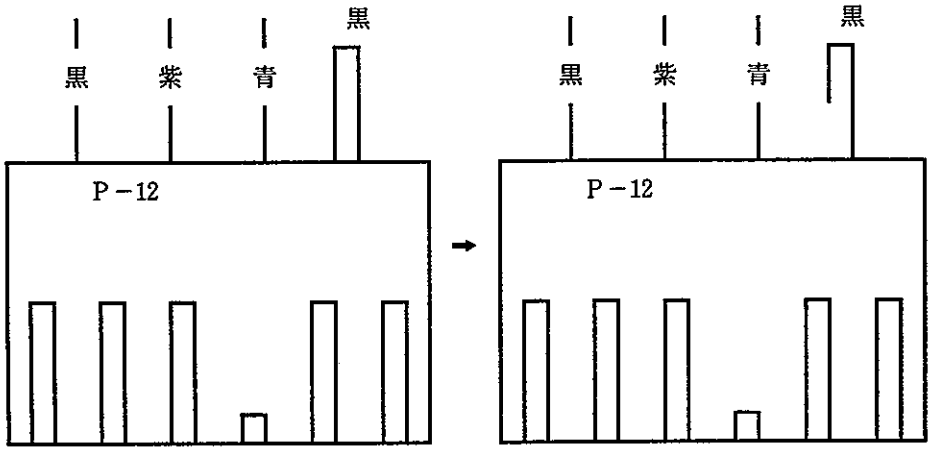
（変更値＋１）＝（２９＋１）×１０００／８００

変更値＝（２９＋１）×１０００／８００－１

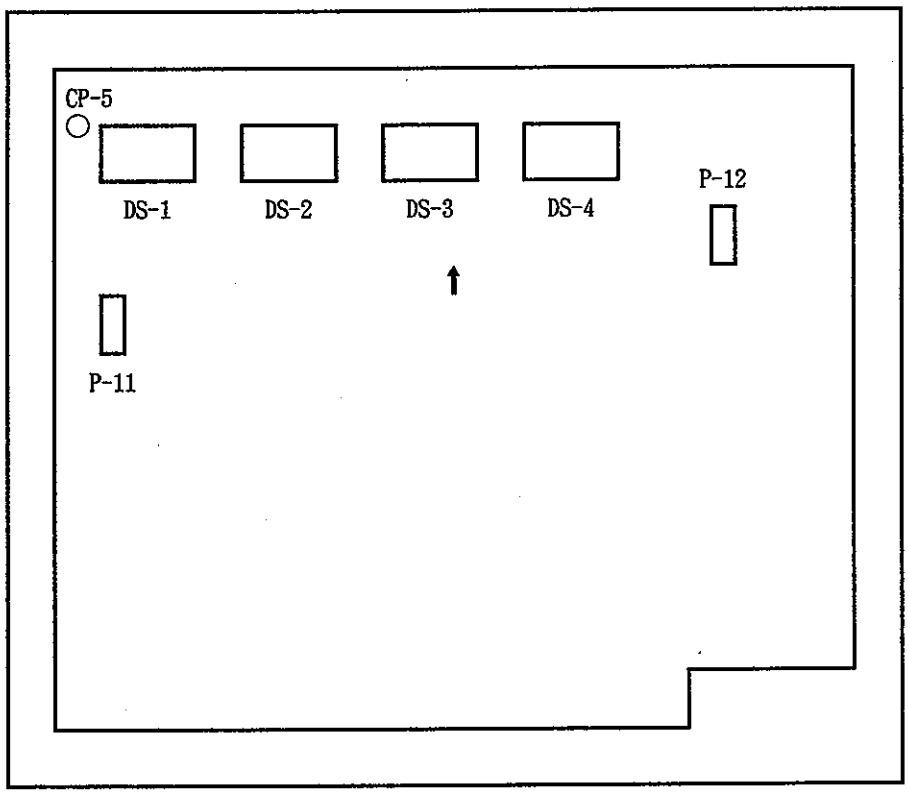
∴変更値＝３７（３６．５）



10進数　　37

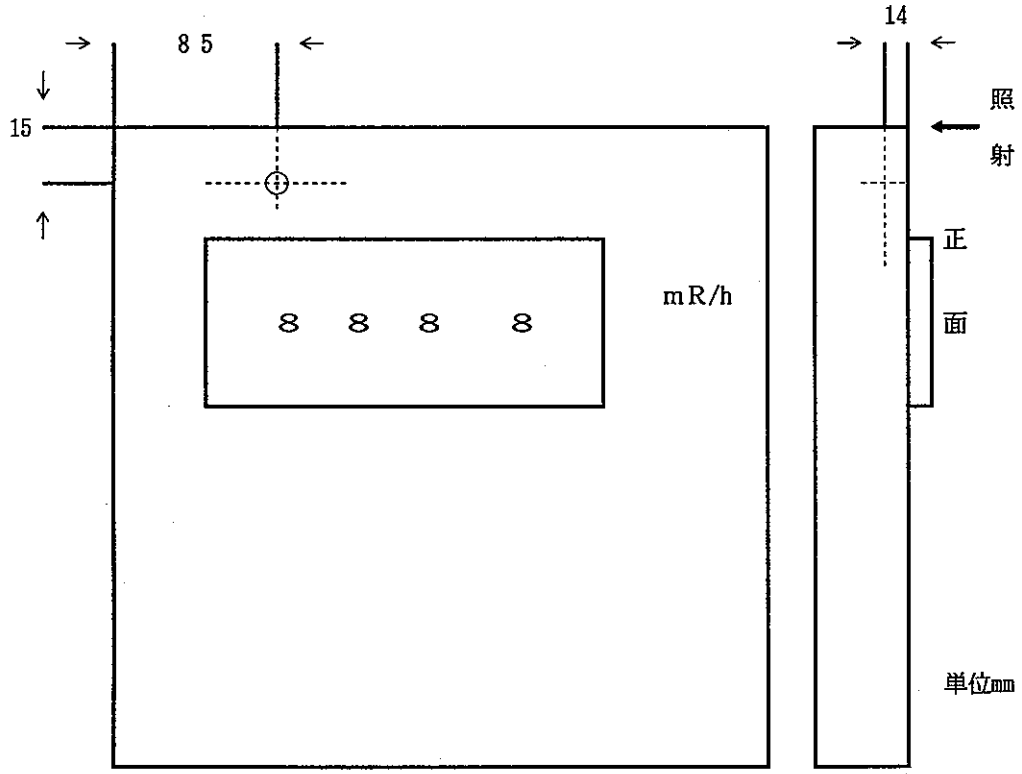


〔 図－1 〕



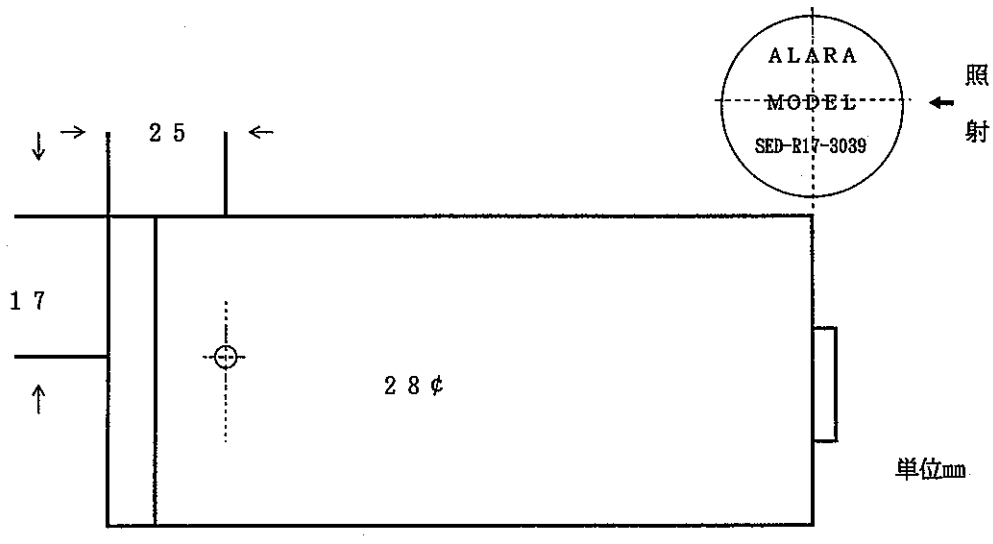
〔 図－2 〕

本体検出器の位置



〔 図－3 〕

外部検出器の位置



点検整備技術要領書

整理番号		1／4

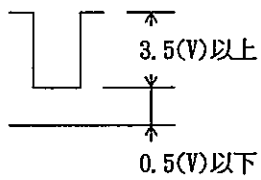
改訂　平成8年3月

機器名	半導体ポータブルエリアモニタ	型　名	MAR－751	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．電源部			
2.1　電池電圧	電池電圧をデジボルにて測定する。	4.8(V)～6.9(V)	
2.2　AC電源電圧	AC電源を使用して、線量率表示回路(AMP-MAR-701d)のCP1チェック端子にデジボルを接続し、電圧を測定する。	5.0 ±0.2(V)	
2.3　バイアス電圧	線量率表示回路(AMP-MAR-701d)のCP3チェック端子にデジボルを接続し、電圧を測定する。	12(V)以上	
2.4　バッテリダウン表示動作の確認	バッテリケースから電池を取り出し、安定化電源を用いてBATTERY DOWNランプが点灯する時の電圧を確認する。	4.3 ～4.8(V)	
2.5　電源の切替動作の確認	AC電源が切れても、電池電源に切替わり動作することを確認する。	正常に動作すること。	
3．指示部			
3.1　指示値の確認	線量率表示回路(AMP-MAR-701d)のディップスイッチDS3Aを2の位置に、DS3Bを9の位置に設定し、次に、検出器コネクタを取り外し、本体側のコネクタの④・⑥番ピンをGND及び⑤番ピンにSIGにてパルスジェネレータを接続し、表－1のとおり入力した時の指示値を確認する。 尚、サンプリングタイムのSLOW及びFASTのそれぞれについて行う。 パルスジェネレータ設定 パルス波高　：約2(V) パルス幅　　：　2(μsec)	SLOW・FASTとも ±15(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／4

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	表－1 パルスジェネレータ / 指示値 3×10^{5}(cpm) / 75(mSv/h) 3×10^{4}(cpm) / 7.5(mSv/h) 3×10^{3}(cpm) / 0.75(mSv/h) 3×10^{2}(cpm) / 0.07(mSv/h)		
3.2　フルスケールオーバ動作の確認	3.1項の接続にて、指示値をパルスジェネレータにてフルスケールまで振らせた時、ＣＦＳ　ＯＶＥＲランプが点灯することを確認する。 点検が終了したら、ディップスイッチ設定値を3.1項の(29)から元の値に戻す。	ＳＬＯＷ・ＦＡＳＴとも正常に動作すること。	
4．パルス出力の確認	3.1項点検時、本体横のパルス出力端子(SIG OUT)にシンクロスコープを接続し、パルス波高を確認する。		
5．警報動作の確認	計数値が警報設定値を超えたら警報ブザーが吹鳴し、警報ランプが点灯すること。 また、設定値以下になったら警報ブザーが停止し、警報ランプが消灯すること。	正常に動作すること。	
6．表示輝度の確認	本体横のBRIGHTNESSスィッチを切換え、下記事項であることを確認する。 (1)　A、ＢともＬＥＤ表示が点灯状態にあること。 (2)　ＢよりＡの方が輝度大であること。 (3)　C、ＤともＬＥＤ表示が点滅状態にあること。 (4)　ＤよりＣの方が輝度大であること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		3／4

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
7．線源校正 7.1　校正定数	^{137}Ｃｓ線源を用いて、照射を行う。 校正点 0.1(mSV/h) 1(mSV/h) 10(mSV/h) 50(mSV/h) 測定値をグラフに描き、その直線の傾きより校正定数を求める。 $\text{校正定数} = \frac{\text{基準線量当量率}}{\text{測定値－B・G値}}$ 基準外の場合は、下記式より計算した値にディップスイッチ設定値を変更する。 $(\text{変更値}+1) = (\text{今までの設定値}+1) \times \frac{(\text{照射値})}{(\text{指示値})}$	各レンジとも１±0.2 以内	＊検出器カバーを取り外した状態にて線源校正を行う。
7.2　直線性	上記における各設定値の直線性を求める。 $\text{直線性} = \frac{\text{基準値－測定値}}{\text{基準値}} \times 100(\%)$ 又は、 $\text{直線性} = \frac{\text{基準値－測定値}}{\text{最大目盛値}} \times 100(\%)$	各レンジとも基準値±10(%)又は最大目盛値±5(%)以内	＊基準値は7.１項で描いた直線上の点
7.3　ディップスイッチの設定	ディップスイッチDS3A、DS3Bの設定値を読む。	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		4／4

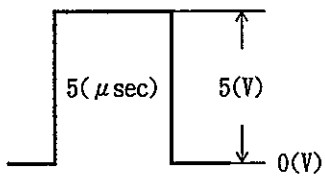
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
8．レコーダ出力の確認	3.1項の接続にて、本体横のレコーダ端子にデジボルを接続し、パルスジェネレータを任意に設定し、ＬＥＤ指示値とレコーダ出力電圧を測定し、下記式の計算値と変わらないことを確認する。 基準外の時はRV_2にて調整する。 レーコダ出力電圧（計算値）$=2.5\times Log_{10}$（ＬＥＤ表示値） 例 例 7　5.　0　0 $2.5\times Log_{10}(7500)=2.5\times 3.875\fallingdotseq 9.69(mV)$	計算値±0.4(mV)	＊サンプリングタイムをＳＬＯＷに設定 ＊計算例 表示値　計算値 7500 ≒ 9.69(mV) 750 ≒ 7.19(mV) 75 ≒ 4.69(mV) 7 ≒ 2.11(mV)
9．ノイズチェック	使用状態においてＬＥＤ表示が0.0(mSV/h)であることを確認する。	ノイズのないこと。	
10．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／5

改訂　平成8年3月

機器名	半導体ポータブルエリアモニタ	型　名	MAR－761B	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．電源部 2.1 低圧電圧	メインボード(AMP-0072)の下記に示す、各々のチェック端子にデジボルを接続し、電圧を測定する。 +12(V)系　：　CP1 、CP3(GND) デジタル系：　CP4 、CP3(GND) 検出器系　：　CP2 、CP3(GND)	+12(V)系：12±0.4(V)以内 ﾃﾞｼﾞﾀﾙ系　：　5±0.2(V)以内 検出器系：　5±0.2(V)以内	
2.2 リップル電圧	2.1 項の各々のチェック端子に、シンクロスコープを接続し、リップル電圧を測定する。	150(mVp-p)以内	
2.3 バイアス電圧	メインボード(AMP-0072)のＣＰ５、ＣＰ６（ＧＮＤ）チェック端子にデジボルを接続し、電圧を測定する。	21±3(V)以内	
3．指示精度	ＬＣＤ表示切換スイッチにて、換算定数の設定値を〔ＣＶ　１．００SV^{-1}／S^{-1}〕にする。次に、検出器コネクタを取り外し、メインボード(AMP-0072)のＣＰ13（ＳＩＧ）にパルスジェネレータを接続し、表－１のとおり入力した時の、指示値を確認する。 パルスジェネレータ設定  	±(1%+1digit)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	表－1 パルスジェネレータ　指示値 0.6(cps)　0.6（μSv/h） 6(cps)　6（μSv/h） 60(cps)　60（μSv/h） 600(cps)　600（μSv/h） 1000(cps)　OVER FLOW 999 で点滅		
4．記録計出力	3項の同様な方法にて、出力信号接栓の③ピン（＋）、④ピン（－）にデジボルを接続し、下記の表－2の様にパルスジェネレータから入力した時の、出力電圧を測定する。 表－2 パルスジェネレータ　出力電圧 0.6(cps)　0.16～0.22(V) 6(cps)　0.41～0.47(V) 60(cps)　0.66～0.72(V) 600(cps)　0.91～0.97(V) 1000(cps)　0.97～1.03(V) レーコダ出力電圧（計算値）＝2.5×Log_{10}（ＬＥＤ表示値）	±0.03(V)以内	

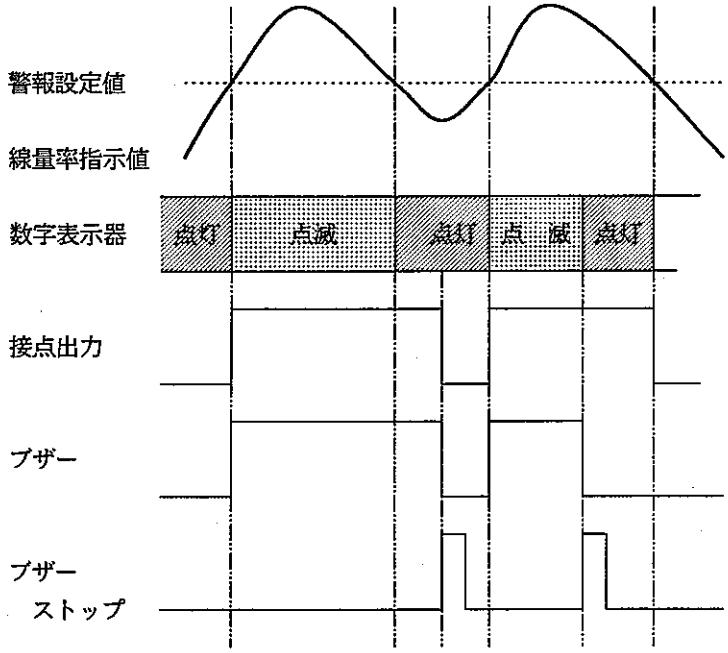
点検整備技術要領書

整理番号		3／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
5．線源校正 5.1 校正定数	^{137}Ｃｓ線源を用いて、照射を行う。 校正点 0.1(mSV/h) 1(mSV/h) 10(mSV/h) 50(mSV/h) 測定値をグラフに描き、その直線の傾きより校正定数を求める。 $\text{校正定数} = \frac{\text{基準線量当量率}}{\text{測定値－Ｂ・Ｇ値}}$ 基準外の場合は、下記式より計算した値に換算定数を変更する。 $\text{（変更値）} = \frac{\text{（照射値）}}{\text{（指示値）}} \times \text{（変更前換算定数）}$　　μＳＶ／ｈ／S^{-1}	各レンジとも１±0.2 以内	
5.2 直線性	上記における各設定値の直線性を求める。 $\text{直線性} = \frac{\text{基準値－測定値}}{\text{基準値}} \times 100(\%)$ 又は、 $\text{直線性} = \frac{\text{基準値－測定値}}{\text{最大目盛値}} \times 100(\%)$	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	＊基準値は5.1項で描いた直線上の点
5.3 ディップスイッチの設定	ＬＣＤ表示切換スイッチにて、換算定数の設定値を確認する。	読み値	

点検整備技術要領書

整理番号		4／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6．警報動作の確認	下記の警報シーケンスにしたがって動作することを確認する。 警報シーケンス  	正常に動作すること。	
7．ＬＣＤ表示切り換えスイッチ動作の確認	以下事項が、正常に動作することを確認する。 (1) 警報レベルの設定が、任意の値に設定できること。 (2) 換算定数の設定が、任意の値に設定できること。 (3) 標準偏差の設定が1(%)～20(%) の間で、任意の値に設定できること。 (4) ＴＥＳＴ動作が、下記の通り異常なく実行されること。 （ROM　CHECK　　OK） ⇩ （RAM　CHECK　　OK） ⇩ （COUNTER　　OK）	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		5／5

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
	異常時には、 （ROM　CHECK　　NG） と表示され、ブザーが吹鳴する。 (5) 電圧表示が、下記の通りなされること。 主電源　〔１２Ｖ　　１２Ｖ〕 ⇩ (SELECT SW) デジタル系　〔 ５Ｖ　　４．９Ｖ〕 ⇩ (SELECT SW) 検出器用　〔 ５Ｖ ｄｅｔ　５Ｖ〕 ⇩ (SELECT SW) 検出器用　〔ｂｉａｓ　２１．０Ｖ〕		
8．ノイズチェック	使用状態においてＬＥＤ表示が0.0(μSV/h) であることを確認する。	ノイズのないこと。	
9．総合判定	本体外観に破損等のないこと及び各項目により総合的に判断する。	各項目について異常のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

改訂　平成8年3月

機器名	アンプ&バイアスサプライ	型　名	９２５シンチ	メーカ名	ＯＲＴＥＣ
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．低圧電源の確認 2.1　出力電圧の確認	デジタルマルチメータにて内部基板の各部の端子を測定する。 ＋24(V)：IC(U 7) の 3番ﾋﾟﾝ －24(V)：IC(U26) の 2番ﾋﾟﾝ ＋12(V)：IC(U28) の 3番ﾋﾟﾝ －12(V)：IC(U27) の 2番ﾋﾟﾝ ＋ 5(V)：IC(U13) の 3番ﾋﾟﾝ	 ＋24(V)：±1.0(V)以内 －24(V)：±1.0(V)以内 ＋12(V)：±1.0(V)以内 －12(V)：±1.0(V)以内 ＋ 5(V)：±0.8(V)以内	
3．高圧電源の確認 3.1　表示値の確認	BIASﾀﾞｲﾔﾙ設定値に対する表示値を確認する。 BIASﾀﾞｲﾔﾙ 0.50 1.00 2.00	 0.50 ±0.02(kV)以内 1.00 ±0.02(kV)以内 2.00 ±0.03(kV)以内	
3.2　出力電圧の確認	BIASﾀﾞｲﾔﾙ設定値に対する出力電圧（無負荷時）を高圧ボルトメータにて測定する。 極　性　BIASﾀﾞｲﾔﾙ POS　0.50 POS　1.00 POS　2.00	 500(V)±20(V)以内 1000(V)±20(V)以内 2000(V)±30(V)以内	
3.3　負荷変動の確認	BIASﾀﾞｲﾔﾙを2.00(2kV) に設定し、無負荷時及び1(mA) 負荷時の出力電圧の変化を確認する。	無負荷時の出力電圧に対して±0.5(kV)以下	
3.4　リップルノイズの確認	BIASﾀﾞｲﾔﾙを2.00(2kV) に設定し、1(mA) 負荷時のリップルノイズをオシロスコープにて確認する。	25(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．増幅機能の確認	パルスジェネレータをLIN. INに接続し、AMP のOUT/INの増幅度を確認する。ただし内部のプリアンプ選SWはOUT 状態とする。		
4.1　コースゲインの確認	ファインゲインを10.00 に設定し、コースゲインを下記のように可変したときの増幅度を測定する。 ｺｰｽｹﾞｲﾝ　増幅度 ×2　20 ×4　40 ×10　100 ×20　200 ×50　500 ×100　1000	 20±10(%)以内 40±10(%)以内 100±10(%)以内 200±10(%)以内 500±10(%)以内 1000±10(%)以内	
4.2　ファインゲインの確認	コースゲインを×2 に設定し、ファインゲインを2.5 及び12.5に設定した時の増幅度を測定する。 ﾌｧｲﾝｹﾞｲﾝ　増幅度 2.5　5 12.5　25	 5±10(%)以内 25±10(%)以内	
5．ＳＣＡ機能の確認	ディスプレイをLLD 又はULD に設定し、SCA のLLD 又はULD ボリュームにてディスプレイ値を可変させAMP. OUT 及びSCA. OUTに接続したオシロスコープにより出力を確認する。 ＊パルスジェネレータをLIN. INに接続しAMP. OUT 波高をコースゲイン及びファインゲインにて調整する。		

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
6.1　LLD 動作の確認	LLD 表示値を下記のように設定し、AMP. OUT の波高を徐々に上げていき、SCA. OUT 波形が出力される位置のAMP. OUT 波高値を測定する。 LLD 表示値　AMP. OUT 波高値 1.00　1.00(V) 5.00　5.00(V) 9.00　9.00(V)	 1.0±0.1(V)以内 5.0±0.1(V)以内 9.0±0.2(V)以内	
6.2　ULD 動作の確認	ULD 表示値を下記のように設定し、AMP. OUT の波高を徐々に上げていき、SCA. OUT 波形が消える位置のAMP. OUT 波高値を測定する。 ULD 表示値　AMP. OUT 波高値 1.00　1.00(V) 5.00　5.00(V) 9.00　9.00(V)	 1.0±0.1(V)以内 5.0±0.1(V)以内 9.0±0.2(V)以内	
7．レートメータ機能の確認	パルスジェネレータによりLIN. INに 1×10^4(cps)入力時、ディスプレイ表示を「RATE」に設定した時の計数率を確認する。 ＊入力波高値はSCA のウィンドウ幅内にあること。	10.0±0.3(kcps)	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	カウンタ／タイマ	型　名	ＵＴ－０２	メーカ名	SEIKO EG&G
検査名	回路試験	施設名	再処理		

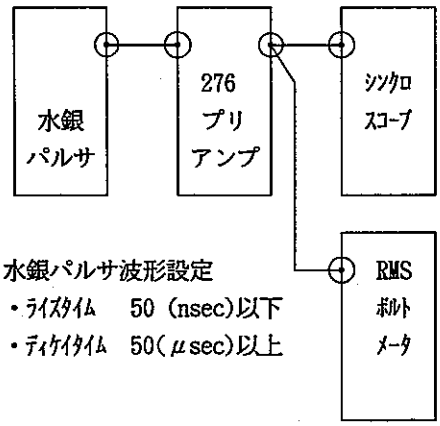
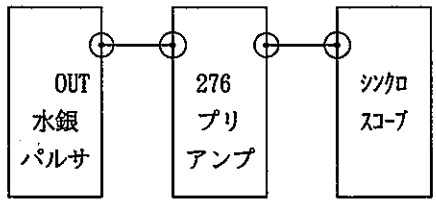
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．計数及びプリセット動作の確認	50Hz(50cps) で出力されるパルスジェネレータを使用し、裏面入力コネクタに入力させ、プリセットを1(min)にSET をする。SET されたプリセット値で計数動作を完了したら、表示されているカウント値を確認する。 プリセット値(表示値)　カウント値 1　1 ×10¹ 10　1 ×10³ 100　1 ×10⁵	 1 ×10¹ ±0.5(%)以内 1 ×10³ ±0.5(%)以内 1 ×10⁵ ±0.5(%)以内	
3．操作ＳＷの確認			
3.1　START/STOP.SW	このSWが消灯時に押すことにより、計数動作が開始され、再度押すことにより計数動作が停止することを確認する。又、計数中は、LED が点灯していること。	正常に動作すること。	
3.2　RESET.SW	表示されているカウント及びプリセット値がクリアできること。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

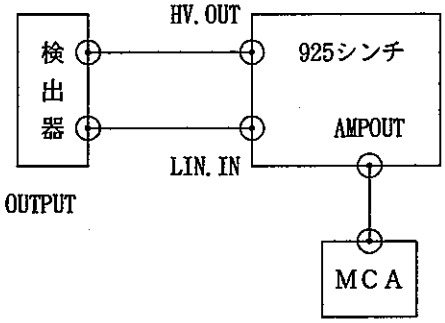
改訂　平成８年３月

機器名	ヨウ素モニタ検出器	型　名	２７６	メーカ名	ＯＲＴＥＣ
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
１．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
２．前置増幅器 ２.１　増幅度及び雑音測定	SIG. OUT　TEST　OUTPUT  水銀パルサ波形設定 ・ﾗｲｽﾞﾀｲﾑ　50（nsec)以下 ・ﾃｨｹｲﾀｲﾑ　50(μsec)以上		
	1)　正入力1.0(V)を加えた時の出力波高をシンクロスコープで測定し、増幅度を求める。	増幅度 0.85（倍）±6(%)以内	
	2)　無入力状態時の出力を、R.M.S ﾎﾞﾙﾄﾒｰﾀにて測定する。	入力換算雑音 100(μVRMS)以下	
２.２　直線性の確認	SIG. OUT　TEST　OUTPUT  		
	1)　正入力100(mV),1(V),10(V)を入力した時の、出力波高値を測定する。	入力 100(mV)時 ＋85（mV)± 5（mV) 1（V)時 ＋850(mV)±50（mV) 10（V)時 ＋8.5（V)±0.5(mV)	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
3．エネルギー分解能測定	スペクトル測定 POS. HV  上記の接続で、^{129}I線源を用いて、 MCAにてスペクトルを観測しながら、コース及びファインゲインにて、ピークを2.5(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に、 ^{241}Am線源を用いてスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ、ＬＬＤを求める。但し、ＵＬＤ、ＬＬＤの電圧値を先に測定した電圧直線性より求める。	40(%)以下	
	分解能の求め方 $\frac{(^{241}\text{Am}\text{のｴﾈﾙｷﾞｰ}) - (^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{241}\text{Am}\text{のﾋﾟｰｸ CH}) - (^{129}\text{Iのﾋﾟｰｸ CH})} \times (^{129}\text{I半値幅のCH数}) \div (^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ}) \times 100(\%)$ ^{241}Am線源のｴﾈﾙｷﾞｰ ： 59.5(KeV) ^{129}Ｉ線源のｴﾈﾙｷﾞｰ ： 30.0(KeV) 直線性はグラフより確認する。		
	ＵＬＤ及びＬＬＤの設定 ＵＬＤ： （^{129}Ｉのﾋﾟｰｸ CH数）＋（半値幅のCH数） ＬＬＤ： （^{129}Ｉのﾋﾟｰｸ CH数）－（半値幅のCH数）		
4．ﾘﾆｱｱﾝﾌﾟ&SCAﾕﾆｯﾄ設定	以下の設定値を確認する。 ①高圧設定値　：　0.80(ﾀﾞｲﾔﾙ値) ②COARSE. G, FINE. G及び LLD, ULD設定値		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	ダストサンプラ	型　名	ＤＳＭ－３０４Ｂ	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．絶縁抵抗試験	DC500Vメガーにて ＡＣライン、アース間の絶縁抵抗を測定する。	5(MΩ)以上	
3．手動制御動作確認	ポンプコントローラＳＷを「手動」にし運転ＳＷを押す。 ⇩ 運転ランプが点灯し、集塵すること。 次に、停止ＳＷを押す。 ⇩ 停止ランプが点灯し、停止すること。	正常に動作すること。	
4．保護機能確認	流量バルブを絞めていき、流量が60(Nℓ/min) 付近で流量低ランプが点灯し、ポンプ停止と共に停止ランプが点灯すること。 また、その時ブザーが吹鳴すること。	正常に動作すること。	
5．警報リセット確認	警報が動作中、警報リセットＳＷを押すことにより、ブザーが停止し、警報ランプが消灯することを確認する。	ブザーが停止し、各警報ランプが消灯すること。	
6．吸引流量確認	ろ紙(HE-40T)を装着し、流量調整バルブ全開にてポンプを駆動させ、マスフロー流量計の値を読む。	100(Nℓ/min)以上	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	記録計	型　名	4266，14365	メーカ名	横河㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検清掃・注油	本体の外部・内部の清掃及びBM出力ｷｬﾌﾟ、伝達ｷｬﾌﾟ、大及び小ﾌﾟｰﾘ 、指示部、主軸打点機構に注油する。	部品の破損、ネジのゆるみコネクタの接触などに、異常がなく、各部に注油されていること。	
2．記録機構確認			
2.1　打点記録部	記録紙を装着し、正常に打点することを確認する。	正常に動作すること。	
2.2　指示部	プーリ、くり糸、網帯シャフト部に摩耗がないことを確認する。	異常のないこと。	
2.3　平衡部	増幅部、電子部品に変色、焼損がないこと。また、スリップギアに摩耗がなく、BMの回転に異常がないことを確認する。	異常のないこと。	
3．記録紙送り機構確認			
3.1　チャート送り部	紙送りスイッチ、ギアの摩耗がなく、SMの回転に異常がないことを確認する。	異常のないこと。	
3.2　チャートガイド部	スプロケットの回転に異常がなく、スリップギアに摩耗がないことを確認する。	異常のないこと。	
4．指示試験	記録計裏面にある入力端子に電圧電流発生器を接続し、下記の校正点での指示値を確認する。 入力電圧(V)　校正点(%) 0.0　0 0.2　20 0.4　40 0.6　60 0.8　80 1.0　100	±0.5(%)F.S 以内	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	７０１－４	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．出力電圧確認	パネル面チェック端子にディジボルを接続し、各出力電圧を負荷及び無負荷にて測定する。 基準外の場合は、基板内のバリオームにて調整する。 ±24(V)　1(A) ±12(V)　2(A)	±0.5(%)以内	
3．電流電圧変動			
3.1　AC 90(V)	スライダックを用いてAC入力電圧を90(V)にした時の±24(V),±12(V)(無負荷時）の出力電圧をデジボルにて測定する。	電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内	
3.2　AC110(V)	同様にAC入力電圧110(V)にした時の出力電圧を測定する。		
4．リップルノイズ測定	±24(V),±12(V) 端子に全負荷時状態でシンクロスコープを用いリップル電圧を測定する。	10(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	７１４－１Ｂ	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．出力電圧の確認	負荷電流3(mA)時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	0～2000(V)±2(%)以内	
3．電圧設定精度の確認	出力に高圧用デジボルトを接続し、負荷電流3(mA)時のダイヤル目盛と出力電圧を比較する。 測定点は下記の通りとする。 500(V)　1000(V) 1500(V)　2000(V)	フルスケールの±2(%)以内	
4．負荷変動	出力電圧を1000(V) に設定し、無負荷時と3(mA)負荷時の電圧変化を測定する。同様に出力電圧2000(V) でも測定する。	フルスケールの±0.5(%)以内	
5．リップルノイズ	出力電圧1000(V)，2000(V)，3(mA) 負荷時のリップルノイズをシンクロスコープにて測定する。	50(mVp-p) 以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	リニアアンプ	型　名	７０４－１Ｃ	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．リニアアンプ			
2.1　利得の測定	1)　水銀パルサより入力に信号(FINE GAIN×1に40(mV), FINE GAIN×2に20(mV))を加えた時、下記のCOARSE GAIN レンジにて出力をシンクロスコープにて測定する。 COARSE GAIN 8, 16, 32, 64, 128, 256		
	2)　1)項と同様に行い最大出力電圧を測定する。	10(V) 以上	
2.2　雑音測定	COARSE GAIN を 256に、また FINE GAIN を×1にして出力パルスが10(V) になる様に水銀パルサを調整する。次に入力を外しRMS ボルトメータで測定する。	入力換算雑音 3.5(mVp-p)以下	
3．S-ch部 入力動作範囲の確認			
3.1　MODE. INT COARSE.G×8 FINE.G　×1	シングルチャンネル波高分析器の LLD目盛を下記のごとく設定し、水銀パルス発生器から電圧を印加していった時 SCA出力でカウンタが計数し始める点の電圧、又、入力電圧10(V) の時の動作目盛を確認する。その時、AMP OUT で SCA入力電圧を測定しながら行う。 シングルチャンネル波高分析器目盛 50（目盛),　300(目盛),　500(目盛) 700（目盛),　900(目盛)	フルスケールの ±1.0(%)以内	
3.2　MODE.DIFF(ULD) COARSE.G×8 FINE.G　×1	3.1項同様、シングルチャンネル波高分析器の目盛とAMP OUT 出力電圧の対応を確認する。	フルスケールの ±1.0(%)以内	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
3.3　MODE.DIFF(ΔE)) COARSE.G× 8 FINE.G　× 1	ULD 目盛を 500に設定し、 LLD目盛を下記の様にする。次に水銀パルスの出力を可変して、カウンタの計数する範囲を確認する。 LLD設定目盛 400(目盛)，　600(目盛)，　800(目盛)	フルスケールの 1.0(%)以内 アンプ出力波高値 4.0(V)～4.5(V) 6.0(V)～6.5(V) 8.0(V)～8.5(V) の範囲でカウンタが計数すること。	
4．分解能測定 COARSE.G　× 8 FINE.G　　× 1	ダブルパルス発生器を下記の様に設定し、アンプの入力に加える。 SCA 出力をカウンタに接続し計数値を測定する。MODEスイッチはLLD，ULDについて行う。 ダブルパルス発生器 繰返し　50 (kHz) パルス幅　100 (μsec) 立上り、立下り　5 (μsec) MODE　ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾟﾙｽ パルス間隔　300 (μsec)	1.5(μsec)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	スケーラ・タイマモジュール	型　名	７１１－５Ｂ	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プリセット動作の確認	カウンタ／タイマのch-1(ﾀｲﾏ) に於いて下記の様にセットし、各プリセットダイヤルについて確認する。 FUNCTION　NOR PRESET　ON 時間切換 SW　0.1sec にしゲート切換スイッチ「START 」にした時の表示を確認する。 プリセットダイヤル 1×10^0, 1×10^1, 1×10^2 1×10^3, 1×10^4	1×10^0　1 ｶｳﾝﾄ 1×10^1　10 ｶｳﾝﾄ 1×10^2　100 ｶｳﾝﾄ 1×10^3　1000 ｶｳﾝﾄ 1×10^4　10000 ｶｳﾝﾄ	
3．計数動作の確認	1) ch-1 カウンタ 入力より10. 10^3. 10^5 (cpm)の周波数を入れch-1のプリセットタイムを1(MIN)に設定し、計数を測定する。 2) ch-2 カウンタ ch1.2. カウンタ同一周波数を1)項同様に入れch-1カウンタのプリセットタイムを入力周波数と同じにし計数を測定する。	±0.5(%)以内	
4．クロックパルスの確認			
4.1　10 (Hz) の分周	パルス発生器より10^4CPSをch-2に入力し時間切換SW「0.1sec」プリセットダイヤル「1×10^2 」に設定したときのカウンタ表示を確認する。	±0.5(%)以内 ch-1　100 ｶｳﾝﾄ ch-2　100000 ｶｳﾝﾄ	
4.2　1/6(Hz) の分周	1)項同様で時間切換SW「0.1MIN」に設定したときのカウンタ表示を確認する。	ch-1　10 ｶｳﾝﾄ ch-2　60000 ｶｳﾝﾄ	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

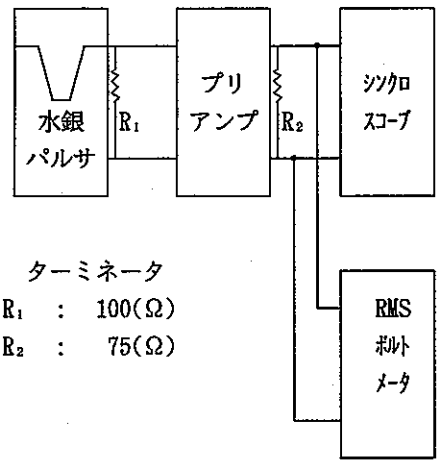
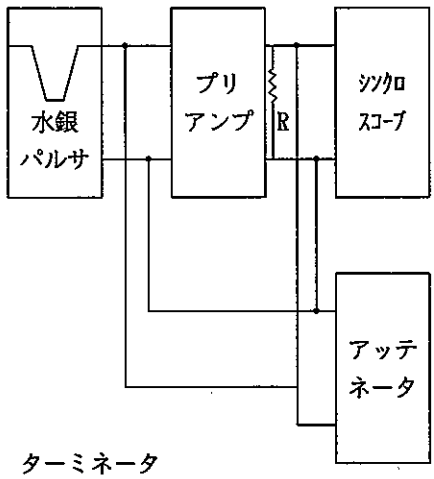
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．操作モードの確認	リサイクルタイムのツマミを任意にセットし、一定周期でディスプレイ動作が行われることを確認する。 又、FUNCTION SW を NORにした時表示がホールドされることを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

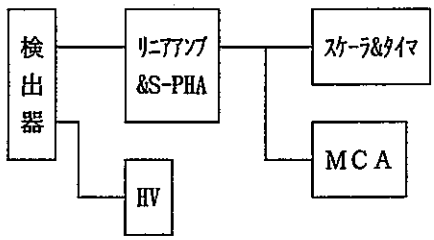
改訂　平成8年3月

機器名	ヨウ素モニタ検出器	型　名	S－1063－2型	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	再処理		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．前置増幅器 2.1　増幅度及び雑音測定	 ターミネータ R_1　：　100(Ω) R_2　：　75(Ω) 1)　負入力100(mV) を加えた時の出力波高をシンクロスコープで測定する。 2)　利得を最大に設定し、無入力状態の時、出力をRMS ボルトメータにて測定する。	増幅等15倍以上 ・最小利得 0.5倍以下 ・最大利得 15 倍以上 入力換算雑音 300(μVRMS) 以下	ターミネータ R_1, R_2は使用しない。
2.2　直線性の確認	 ターミネータ R　：　100(Ω)		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点　検　整　備　要　領	点検整備基準	備　　考
	1)　利得は最大に設定し、水銀パルサーから5(V)を加え、出力が飽和する直前にアッテネータFINE GAIN を調整し、これを測定する。 2)　入力電圧1(V),2(V),3(V),4(V),5(V)とした時の出力波高を測定する。	最大出力 5(V)以上	
3．エネルギー分解能測定	スペクトル測定  上記の接続で、^{129}I線源を用いて、 MCAにてスペクトルを観測しながら、リニアアンプにて、ピークを2.5(V)に合わせスペクトル測定を行う。 次に、 ^{241}Am線源を用いてスペクトル測定を行う。 求められたスペクトルより分解能エネルギー直線性及びＳ－ＰＨＡのＵＬＤ、ＬＬＤを求める。但し、ＵＬＤ、ＬＬＤの電圧値を先に測定した電圧直線性より求める。		
	分解能の求め方 $\frac{(^{241}\text{Amのｴﾈﾙｷﾞｰ}) - (^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ})}{(^{241}\text{Amのﾋﾟｰｸ CH}) - (^{129}\text{Iのﾋﾟｰｸ CH})} \times (^{129}\text{I半値幅のCH数}) \div (^{129}\text{Iのｴﾈﾙｷﾞｰ}) \times 100(\%)$ ^{241}Am線源のｴﾈﾙｷﾞｰ　：　59.5(KeV) ^{129}Ｉ線源のｴﾈﾙｷﾞｰ　：　30.0(KeV) 直線性はグラフより確認する。 ＵＬＤ及びＬＬＤの設定 ＵＬＤ：　(^{129}Ｉのﾋﾟｰｸ CH数) ＋ (半値幅のCH数) ＬＬＤ：　(^{241}Amのﾋﾟｰｸ CH数) － (半値幅のCH数)		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	低圧電源	型　名	ＥＳ－１６０	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	ＣＰＦ、Ｊ棟		

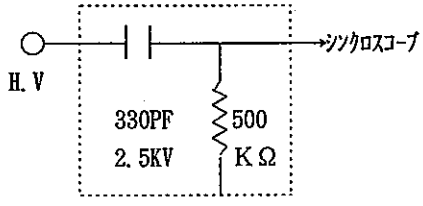
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．出力電圧の確認	チェック端子にデジボルを接続し、±12(V),±24(V)の出力電圧を測定する。（高圧電源モジュール実装のままで行なう。）	±24(V)　：± 5(%)以内 ±12(V)　：± 5(%)以内	
3．リップルノイズの測定	チェック端子にシンクロスコープを接続し、±12(V),±24(V) の出力電圧を測定する。（高圧電源モジュール実装のままで行なう。）	±24(V)　：　(mVp-p)以下 ±12(V)　：　(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	ＥＳ－１５０	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	ＣＰＦ－№１、Ｊ棟		

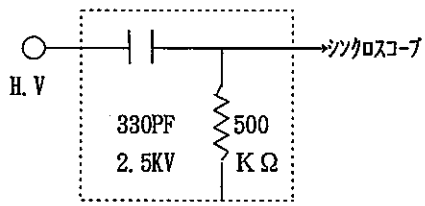
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．出力電圧範囲の確認	負荷電流 3(mA)時の出力電圧範囲を高圧用デジボルにて測定する。	0～2000(V)±2(%)以内	
3．出力設定精度の確認	出力設定ダイヤルを下記の値にした時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。 出力設定ダイヤル　：　設定電圧 250　：　500(V) 500　：　1000(V) 750　：　1500(V) 1,000　：　2000(V)	フルスケールの±2(%)以内	
4．負荷変動の測定	最大出力電圧時において無負荷時と負荷電流3mA流した時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	無負荷時の±1.0(%)以内	
5．リップル電圧の測定	最大出力電圧時において無負荷時と負荷電流３(mA)流した時のリップル電圧をシンクロスコープで測定する。  シールドBOX	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	ＥＳ－１５０Ｂ	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	ＣＰＦ－№２		

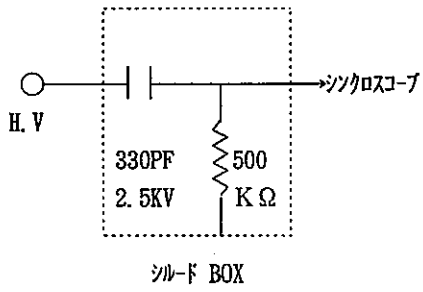
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．出力電圧範囲の確認	負荷電流 1.5(mA)時の出力電圧範囲を高圧用デジボルにて測定する。	0～2,000(V)±2(%)以内	
3．出力設定精度の確認	出力設定ダイヤルを下記の値にした時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。 出力設定ダイヤル　：　設定電圧 250　：　500(V) 500　：　1000(V) 750　：　1500(V) 1,000　：　2000(V)	フルスケールの±2(%)以内	
4．負荷変動の測定	最大出力電圧時において無負荷時と負荷電流 1.5(mA)流した時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	無負荷時の±1.0(%)以内	
5．リップル電圧の測定	最大出力電圧時において無負荷時と負荷電流1.5mA流した時のリップル電圧をシンクロスコープで測定する。  シールドBOX	50(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	高圧電源	型　名	D－１１２A	メーカ名	東芝
検査名	回路試験	施設名	再処理ＣＢ施設		

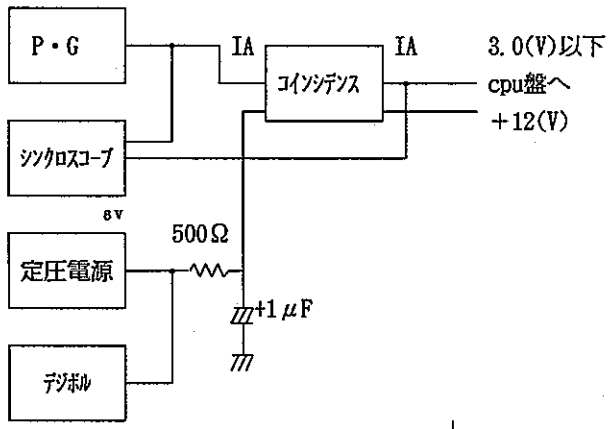
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．出力精定精度の確認	出力電圧スイッチにより下記の値に設定した時の電圧を高圧用デジボルで測定する。 出力設定デイヤル　　設定電圧 5　：　500(V) 10　：　1,000(V) 14＋ﾍﾘﾎｯﾄﾀﾞｲﾔﾙ100　：　1,500(V)	各電圧±1(%)以内	
3．負荷変動の測定	最大出力電圧時において無負荷時と負荷電流5(mA)流した時の出力電圧を高圧用デジボルにて測定する。	無負荷時の±0.1(%)以内	
4．リップル電圧の測定	最大出力電圧時において無負荷時と負荷電流5(mA)流した時のリップル電圧をシンクロスコープで測定する。  	3.0(mVp-p)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	コインシデンス	型　名	ＥＳ－１３１	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	ＣＰＦ、Ｊ棟、Ｚ施設		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
２．最小入力電圧	 上図の状態でＰ・Ｇの出力を徐々に上げてゆき出力にパルスが表われた時のＰ・Ｇ波高値をシンクロスコープにて測定する。 次にＰ・Ｇと電圧電源の出力を逆にし同様に行なう。 上記と同様にI-B, Ⅱ-A, Ⅱ-Bについても行なう。		
３．出力パルス波形の確認	２の項目の測定時に出力パルス波形を確認する。	パルス波高：3.0(V)以上 パルス幅　： 2.0(μsec)±20%	
４．コインシデンス動作の確認	①　Ｐ・Ｇより最小入力電圧より大きい波高値のパルスを I-Aの２つの入力に接続し,I-Aの出力パルスが表われることを確認する。 ②　①の項において入力の片側の接続をはずした時,I-Aの出力にパルスが表われないことを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

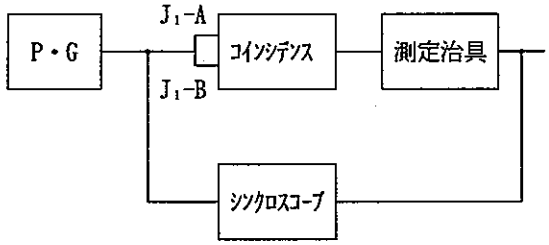
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	③　②の状態から①の状態にもどし②で行った反対側の入力をはずした時 I-Aの出力にパルスが、表われないことを確認する。 ④　①から③までをI-B, Ⅱ-A, Ⅱ-Bについても行う。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	コインシデンス	型　名	ＥＳ－１３１	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	再処理ＣＢ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．最小入力電圧	 上図の状態でＰ・Ｇの出力を徐々に上げてゆき出力にパルスが表われた時のＰ・Ｇ波高値をシンクロスコープにて測定する。 次にＰ・Ｇと電圧電源の出力を逆にし同様に行なう。 上記と同様にJ_2、J_3、J_4、J_5、J_6についても行なう。	3.0(V)以下	
3．出力パルス波形の確認	２項目の測定時に出力パルス波形を確認する。	パルス波高：4.5(V)以上 パルス幅　： 5.0(μsec)±50%	
4．コインシデンス動作の確認	①　Ｐ・Ｇより最小入力電圧より大きい波高値のパルスをJ_1-A,Bの２つの入力に接続し、J_1の出力パルスが表われることを確認する。 ②　①の項において入力の片側の接続をはずした時、J_1の出力にパルスが表われないことを確認する。 ③　②の状態から①の状態にもどし②で行った反対側の入力をはずした時、J_1の出力にパルスが、表われないことを確認する。	正常に動作すること。	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

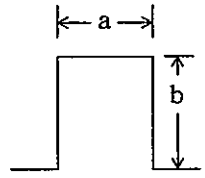
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	④ ①から③までをJ_2、 J_3 、J_4、J_5、J_6についても行なう。		

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	検出器	型　名	ＥＳ－１２１	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	ＣＰＦ、Ｊ棟、Ｚ施設		

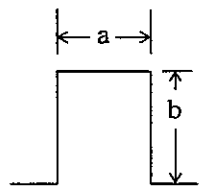
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び膜の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	清掃され、膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．ＬＡ out 出力波高値及び雑音の確認	ＬＡ out よりシンクロスコープにて出力波高値及び雑音レベルを確認する。	1)　出力波高値 13(V)以上 2)　雑音レベル 100(mVp-p)以下	
3．DISC out出力波高値の確認	DISC outよりシンクロスコープにて出力波形を確認する。	 a ：2(μsec)±20(%) b ：6(V)±10(%)	
4．プラトー測定	各部位に^{90}Sr線源をあて高圧電源を 600(V)から50(V)毎に1100(V)まで測定する。 前回のプラトー測定結果と比較してプラトーの良・否を判断する。	前回の測定結果と比較	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	検出器	型　名	ＥＳ－１２１Ａ	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	再処理ＣＢ施設		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び膜の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	清掃され、膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．L A out 出力波高値及び雑音の確認	L A out よりシンクロスコープにて出力波高値及び雑音レベルを確認する。	出力波高値：10(V)以上 雑音レベル： 100(mVp-p)以下	
3．DISC Levelの確認	DISC Levelよりデジボルにて出力電圧を測定する。		
4．DISC out出力波高値の確認	DISC outよりシンクロスコープにて出力波形を確認する。	 a：2(μsec)±20(%) b：6(V)±10(%)	
5．プラトー測定	各部位に^{90}Sr線源をあて高圧電源を 600(V)から50(V)毎に1100(V)まで測定する。 前回のプラトー測定結果と比較してプラトーの良・否を判断する。	前回の測定結果と比較	

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	頭部検出器	型　名	ＥＳ－６９１	メーカ名	ＪＲＥＣ
検査名	回路試験	施設名	再処理ＣＢ施設		

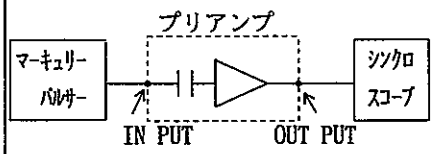
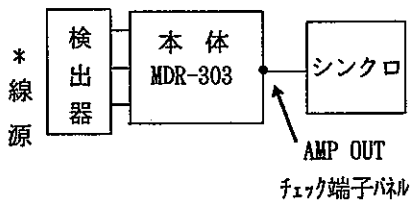
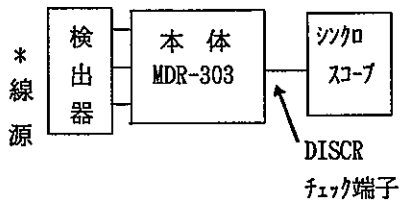
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	検出器の清掃及び膜の破損、ネジのゆるみなどを点検する。	清掃され、膜の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．AMP out 出力波高値及び雑音の確認	頭部検出器の増幅器の SIG接栓にシンクロスコープを接続し、出力波高とリップル電圧を測定する。	波高値：8(V)以上 雑音　：150(mVp-p)以下	
3．DISC Levelの確認	頭部検出器の増幅器のDISC Level端子にデジボルを接続し、出力電圧を測定する。		
4．コインシデンス出力の確認	コインシデンスユニット２の J5Aに入力しているケーブルを、シンクロスコープに接続し、出力波形を確認する。	パルス波高：4.5(V) 以上 パルス幅　： 5(μsec)± 20(%)	
5．プラトー測定	各部位に^{90}Sr線源をあて高圧電源を 600(V)から50(V)毎に1100(V)まで測定する。 前回のプラトー測定結果と比較してプラトーの良・否を判定する。	前回の測定結果と比較	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成８年３月

機器名	Zns(Ag) シンチレーション検出器	型　名	ZD-1005, ZD-451F	メーカ名	アロカ㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．アリアンプ点検 2.1　増幅度	 （図-1）		
	図-1の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。	約0.95倍	
2.2　直線性	入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を測定する。		
2.3　無ひずみ電圧	2.2 項の時に、飽和する直前の出力波高を測定する。	MAX -10(V)以上	
3．検出器出力波形の確認	 （図-2）		規定線源 U_3O_8
	図-2の様に接続してシンクロスコープで出力波形を測定する。	波高値　(V) 半高値　(μS)	
4．プラトー測定	 （図-3）		

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

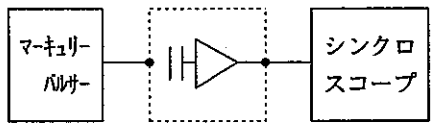
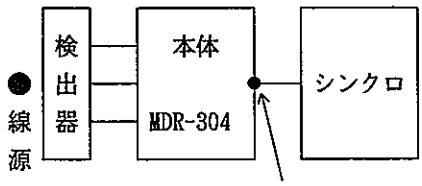
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	図-3の様に接続し、規定の線源を用いて500(V)から、50(V) 毎に900(V)まで１分則定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ (Cn: 使用電圧での計数値)	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	規定線源 ^{230}Th
5．バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所でバックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
6．計数効率	規定線源を用いて、計数させ、メータ指示値を読んで次式から効率を求める。 効率= $\frac{\text{メータ指示値(cpm)} - \text{B.G 値(cpm)}}{\text{規定線源(dpm)}} \times 100(\%)$	10(%) 以上	規定線源 U_3O_8 カウンタを取り付け、その値を参考値とする。

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

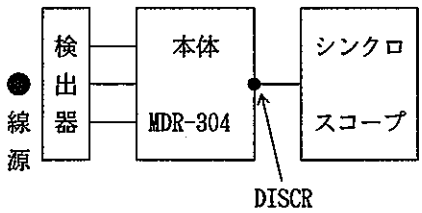
改訂　平成8年3月

機器名	Zns(Ag) シンチレーション検出器	型　名	ＺＤ－１００５Ｂ	メーカ名	アロカ㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プリアンプ点検 2.1　増幅度	プリアンプ  INPUT　　OUTPUT （図－１） 図－１の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。	約0.95倍	
2.2　直線性	入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を測定する。		
2.3　無ひずみ電圧	2.2項の時に、飽和する直前の出力波高を測定する。	最大出力：-5(V)以上	
3．検出器出力波形の確認	 AMP OUT チェック端子パネル （図－２） 図－２の様に接続してシンクロで出力波形を測定する。	波高値　　(V) 半値幅　　（μS）	規定線源 U_3U_8

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

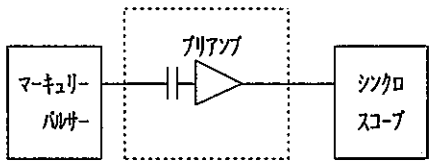
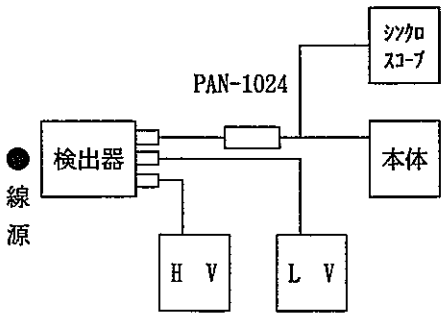
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．プラトー測定	 （図－3）　　ﾁｪｯｸ 端子 図－3の様に接続し、規定の線源を用いて、600(V)から50(V) 毎に900(V)まで1 分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め，10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ （Cn：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	規定線源 ^{230}Th
5. バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所でバックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
6. 計数効率	規定線源を用いて、計数させ、メータ指示値を読んで次式から効率を求める。 効率＝$\frac{\text{メータ指示値(cpm)-B.G 値(cpm)}}{\text{規定線源(dpn)}} \times 100(\%)$	10(%) 以上	規定線源 U_3O_8 カウンタを取り付け，その値を参考値とする。

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

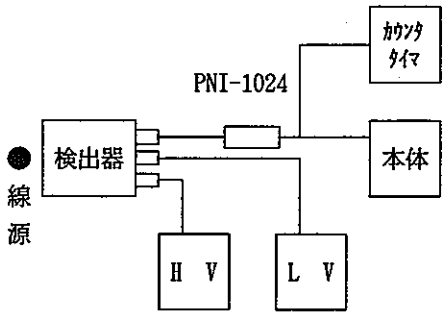
改訂　平成８年３月

機器名	ZnS(Ag) シンチレーション検出器	型　名	ＺＤ－１００５ＢＷ	メーカ名	アロカ㈱
検査名	総合検査	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プリアンプ点検 2.1 増幅度	PAM-1024  （図－１） 図－１の様に接続し、入力電圧と出力電圧から増幅度を求める。	約0.95倍	
2.2 直線性	入力電圧を除々に増していきながら出力波高を測定する。	±5(%)以内	
2.3 最大無ひずみ電圧	2.2 項のときに飽和する直前の出力波高を測定する。	MAX -10(V)以上	
3．検出器出力波形の確認	 （図－２） 図－２の様に接続して、シンクロスコープで出力波形を測定する。		規定線源 U_3O_8

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

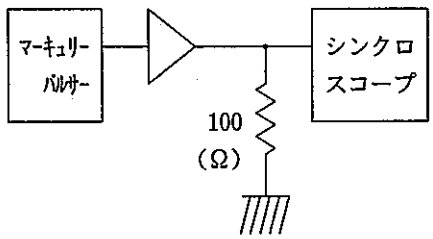
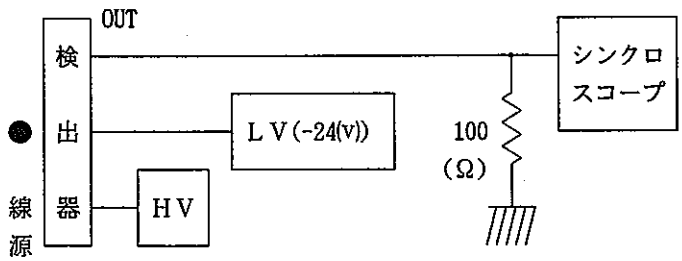
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．プラトー測定	 （図－３） 図－３の様に接続し、規定の線源を用いて、500(V)から50(V) 毎に900(V)まで１分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め，10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times100(\%)$ （Cn：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以上	規定線源 ^{230}Th
5．バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所でバックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
6．計数効率	規定線源を用いて、計数させ、メータ指示値を読んで，次式から効率を求める。 効率$=\frac{\text{メータ指示値(cpm)}-\text{B.G値(cpm)}}{\text{規定線源(dpm)}}\times100(\%)$	10(%)以上	規定線源 U_3O_8 カウンタを取り付け，その値を参考値とする。

点検整備技術要領書

整理番号		1／3

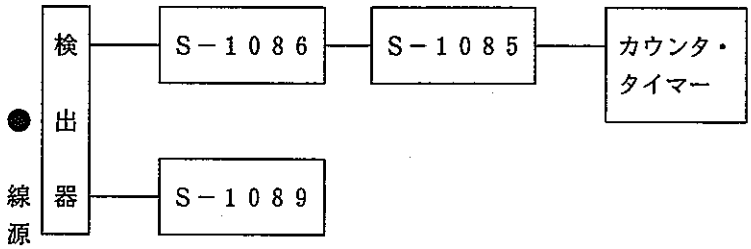
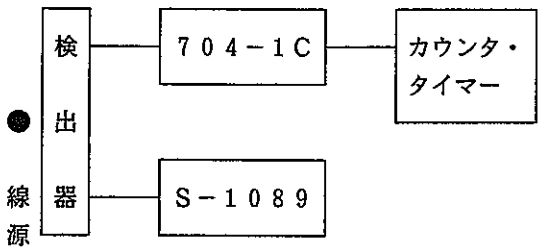
改訂　平成８年３月

機器名	Zns(Ag) シンチレーション検出器	型　名	S－１０８２	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
１．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
２．検出器出力波形	プリアンプ  (図－１) 図－１の様に接続し、入力電圧と出力電圧から利得を求める。次に、入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を求める。 又、入力電圧を飽和する直前まで上げていき、その時の出力波高を測定する。	約0.95倍 最大無ひずみ電圧 -10(V)以上	
３．検出器出力波形	 (図－２) 図－２の様に接続し、シンクロスコープにて出力波形を観測する。	出力波形が出ていること。	＊線源 U_3O_8

点検整備技術要領書

整理番号		2／3

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．プラトー測定	 （図－3） 測定条件 LA　NEG INPUT: UNIP (S-1086)　SHAPIG　: 0.4(μsec) GAIN　: コース 2 ファイン 4.0 RESTORER : OUT SCA　LLD(DISC レベル) : 1(V) (S-1085)　INT/DIFF　: INT SCA　: OUT  （図－4） 測定条件 LA　GAIN：コース 16 ファイン 2.0 SCA　LLD：0.5(v) 図－3又、図－4の様に接続し、チェック線源を用いて、500(V)から50(V) 毎に900(V)まで1分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{230}Th

点検整備技術要領書

整理番号		3／3

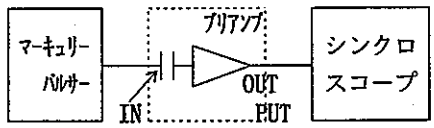
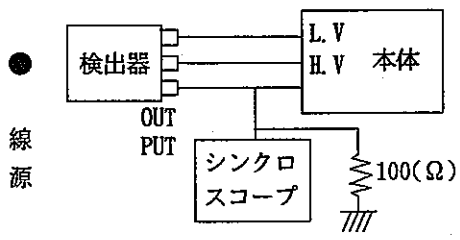
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	$\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）		
5．バックグラウンドの測定	最小レンジにて線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	1(cpm)以下	
6．計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで、次式から効率を求める。尚、カウンタ・タイマーを取付け、その値を参考とする。 効率＝$\frac{メータ指示値(cpm)-ＢＧ値(cpm)}{規定線源(dpm)} \times 100(\%)$	10(%)以上	＊規定線源 U_3O_8
7．測定条件	各モージュルの測定条件を確認する。	リニアアンプ及びシングルチャンネルの測定条件を確認する。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

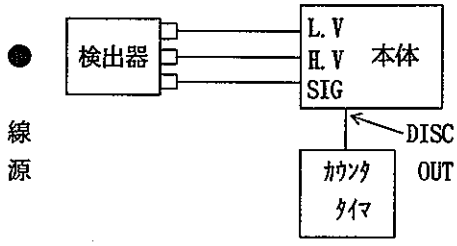
改訂　平成8年3月

機器名	ZnS(Ag) シンチレーション検出器	型　名	S－1766	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プリアンプ			
2.1　増幅度	 （図－1） 図－1の様に接続し、入力電圧（ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ）と出力電圧（シンクロスコープ）との比から増幅度を求める。	約0.95倍	
2.2　直線性	入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を測定する。	最大出力電圧±5(%)以内	
2.3　最大無ひずみ電圧	2.2項のときに、飽和する直前の出力波高を測定する。	MAX -10(V)以上	
3．検出器出力波形	 （図－2） 図－2の様に接続して、シンクロスコープで出力波形を測定する。		規定線源 ^{230}Th

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

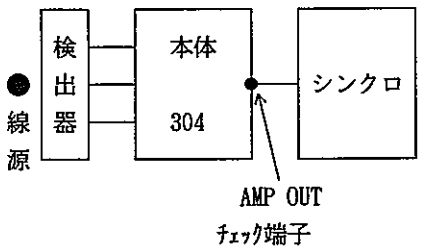
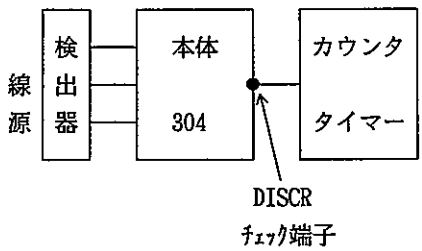
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．プラトー測定	 （図－３） 図－３の様に接続し、規定の線源を用いて測定する。プラトー傾斜は次式で求める。 $\frac{(Cn\text{-}100V)-(Cn\text{-}50V)}{Cn} \times \frac{100V}{150V} \times 100(\%)$ （Cn:使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V) 以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	
5. バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	1(cpm)以下	
6. 計数効率	規定線源を用いて、測定する。	10(%) 以上	規定線源 U_3O_8

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	GP－103BU	メーカ名	アロカ㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．検出器出力波形の確認	 （図－1） 図－1の様に接続してシンクロで出力波形を測定する。	波高値　　(V) 半値幅　　(μS)	規定線源 U_3U_8
3．プラトー測定	 （図－2） 図－2の様に接続し、規定の線源を用いて、600（V）から50(V) 毎に900(V)まで1分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め，10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ (Cn:使用電圧での計数値)	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	規定線源 ^{90}Sr
4．バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所でバックグラウンドを測定する。	100(cpm)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

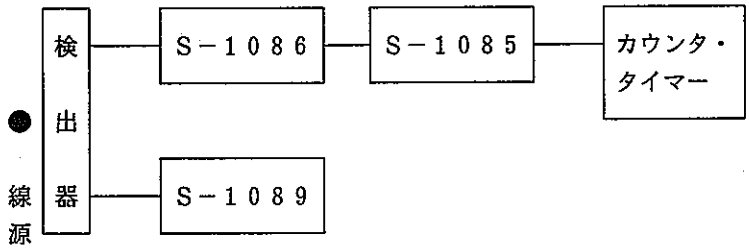
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
5．計数効率	規定線源を用いて、計数させ、メータ指示値を読んで、下式から効率を求める。 効率＝ $\frac{\text{メータ指示値(cpm)-B.G 値(cpm)}}{\text{規定線源(dpn)}}$ ×100(%)	25(%) 以上	規定線源 U_3U_8 カウンタを取り付け、その値を参考値とする。

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	S－1080	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プラトー測定	 上記の接続にて、チェック線源を用いて、600(V)から 50(V)毎に900(V)まで1分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊チェック線源 ^{90}Sr
3．バックグラウンドの測定	最小レンジにて線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	100(cpm)以下	
4．計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで、次式から効率を求める。尚、カウンタ・タイマーを取付け、その値を参考とする。	25(%)以上	＊規定線源 U_3O_8

$$\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn}\times\frac{100(V)}{150(V)}\times 100(\%)$$

（Cn：使用電圧での計数値）

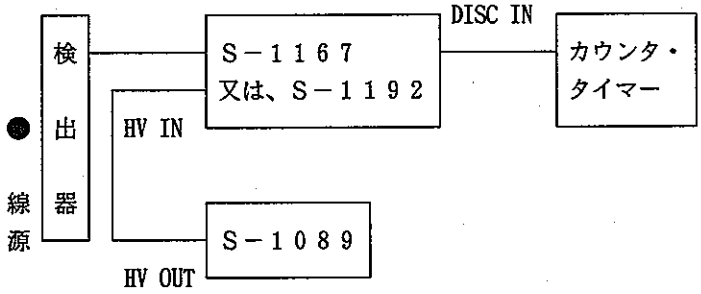
$$効率=\frac{メータ指示値(cpm)-BG値(cpm)}{規定線源(dpm)}\times 100(\%)$$

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	S－1202	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プラトー測定	 測定条件 ① カウンタレートレーコダ（S－1167）カウントレートメータ（S－1192）のモジュール内部のＤＩＳＣ　ＩＮ－ＯＵＴスイッチをＯＵＴ側に倒す。 ② S－1167、S－1192モジュール背面のＤＩＳＣ　ＩＮにカウンタ・タイマーを接続する。 ③ ディスクリレベルはチェック端子にて200(mV) に合わせる。（入力波高値約400(mV) に相当）　尚、S－1192の時は、0.5(V)に合わせる。 上記の接続にて、チェック線源を用いて、600(V)から50(V)毎に900(V)まで1分測定する。 プラトー傾斜は下記式で求め、10(%/100V)以下ならプラトー領域を満たす。 $\frac{(Cn+100(V))-(Cn-50(V))}{Cn} \times \frac{100(V)}{150(V)} \times 100(\%)$ （Ｃｎ：使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V)以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	＊規定線源 ^{90}Sr

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

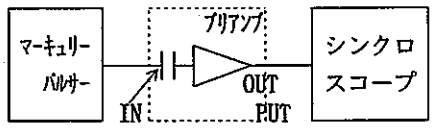
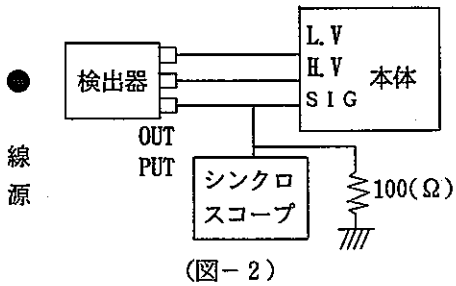
項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
3．バックグラウンドの測定	最小レンジにて線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	100(cpm)以下	
4．計数効率	規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで、次式から効率を求める。尚、カウンタ・タイマーを取付け、その値を参考とする。 $効率＝\frac{メータ指示値(cpm)－BG値(cpm)}{規定線源(dpm)}\times 100(\%)$	25(%)以上	＊規定線源 U_3O_8

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

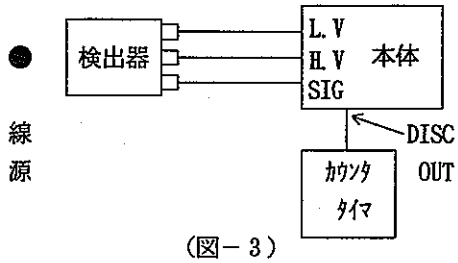
改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	S－1767	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プリアンプ			
2.1　増幅度	 (図－1) 図－1の様に接続し、入力電圧（ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ）と出力電圧（シンクロスコープ）との比から増幅度を求める。	約0.95倍	
2.2　直線性	入力電圧を徐々に増していきながら出力波高を測定する。	最大出力電圧±5(%)以内	
2.3　最大無ひずみ電圧	2.2項のときに、飽和する直前の出力波高を測定する。	MAX -10(V)以上	
3．検出器出力波形	 (図－2) 図－2の様に接続して、シンクロスコープで出力波形を測定する。		規定線源 ^{90}Sr

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
4．プラトー測定	 線源 （図－３）		
	図－３の様に接続し、規定の線源を用いて測定する。プラトー傾斜は次式で求める。 $\frac{(Cn\text{-}100V)-(Cn\text{-}50V)}{Cn} \times \frac{100V}{150V} \times 100(\%)$ （Cn:使用電圧での計数値）	プラトー領域 150(V) 以上 プラトー傾斜 10(%/100V)以下	
5. バックグラウンドの測定	線源等の影響のない場所にて、バックグラウンドの測定をする。	100(cpm)以下	
6. 計数効率	規定線源を用いて、測定する。	10(%) 以上	規定線源 U_3O_8

点検整備技術要領書

整理番号		1／1

改訂　平成8年3月

機器名	GM管検出器	型　名	S－1749	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

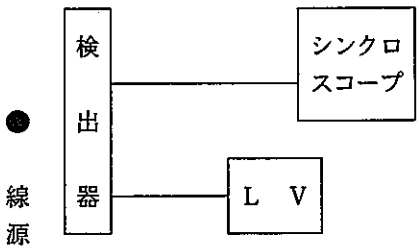
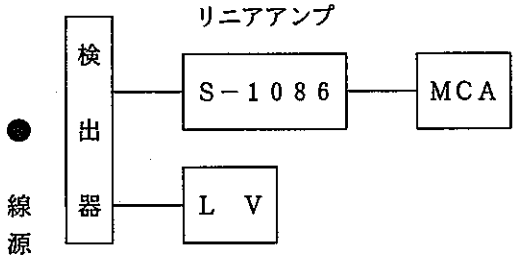
項　　目	点検整備要領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．プラトー測定	外部GM管検出器に、規定のスケーラ、タイマ、HV、チェック線源を使用し、600(V)から50(V) 毎に900(V)まで1分測定をする。プラトー傾斜は下記式で求め、15(%/100) 以下ならプラトー領域の基準を満たす。 $\frac{(Cn-100V)-(Cn+50V)}{Cn} \times \frac{100V}{150V} \times 100(\%)$ （Cn：使用電圧での計数値）	プラトー領域： 150(V) 以上 プラトー傾斜： 15(%/100V)以下	チェック線源 ^{90}Sr
3．バックグラウンドの測定	外部GM管検出器からのケーブルをGM.INに接続し、INT／EXTスイッチをEXTにしてから、最小レンジを使用し、線源等の影響のない場所でバックグラウンドを測定する。	100(cpm)以下	
4．計数効率	外部GM管検出器からのケーブルをGM.INに接続し、INT／EXTスイッチをEXTにしてから、規定線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで下記式にて効率を求める。 $効率=\frac{測定値(cpm)-BG値(cpm)}{規定線源値(dpm)} \times 100(\%)$	24(%)以上	規定線源 U_3O_8
5．外観チェック	外部GM管検出器の外観に破損等がないことを確認する。	破損等のないこと。	

点検整備技術要領書

整理番号		1／2

改訂　平成8年3月

機器名	ＳＳＤ検出器	型　名	Ｓ－１０８１	メーカ名	応用光研㈱
検査名	回路試験	施設名	全施設共通		

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃及び部品の破損ネジのゆるみなどを点検する。	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	
2．検出器出力波形	 （図－１） 図－１の様に接続し、シンクロスコープで出力波形を観測する。又、^{241}Ａｍ線源による出力波形を観測し、１（Ｍｅｖ）当たりの出力を求める。	出力波形がでてること。	
3．分解能	 （図－２） 図－２の様に接続し、Ｍｉｘ－α線源を用いて、一（ＣＨ）当たりのエネルギーを求めたのち ^{241}Ａｍ線源の分解能を求める。 $\frac{^{244}\text{Cm}(5.81\text{Mev}) - ^{241}\text{Am}(5.49\text{Mev})}{^{244}\text{Cm}\text{チャンネル} - ^{241}\text{Am}\text{チャンネル}} = \text{A(kev/ch)}$	^{241}Ａｍ線源分解能 500(kev)以下	

点検整備技術要領書

整理番号		2／2

項　　目	点 検 整 備 要 領	点検整備基準	備　　考
	^{241}Ａｍ分解能(kev) ＝Ａ(kev/ch)× ^{241}Ａｍ半値幅		
4．バツクグラウンドの測定	測定条件 ＬＡ　NEGINPUT : UNIP (S-1086)　SHAPING : 0.4(μsec) GAIN : コース 2 : ファイン 4.0 RESTORER : OUT ＳＣＡ　LLD(DISC レベル) : 1(V) (S-1085)　INT/DIFF : INT 上記の測定条件で、最小レンジにて、線源等の影響のない場所で、バックグラウンドを測定する。	10(cpm)以下	
5．計数効率	４項と同じ測定条件にて、規定の線源を用いて計数させ、メータ指示値を読んで、下記式にて効率を求める。尚、カウンタ・タイマーを取付け、その値を参考値とする。 効率＝ (メータ指示値(cpm) －ＢＧ値(cpm)) / 規定線源(dpm) ×100(%)	10(%)以上	＊規定線源 U_3O_8
6．測定条件	各モージュルの測定条件を確認する。	リニアアンプ及びシングルチャンネルの測定条件を確認する。	

5. 点検整備記録書

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11CAB01

検査名（総合検査）

機器名	α線ハンドフットクロズモニタ（MBR－22C）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜に破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2 ＡＣ電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ				
3.1 ランプチェック	ランプが点灯すること	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
3.2 出力電圧	+24(V) ±0.2(V)	(V)	(V)	
	-24(V) ±0.2(V)	－ (V)	－ (V)	
	+ 6(V) ±0.2(V)	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧	30(mVp-p) 以下			
	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3.4 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ				
4.1 検出器印加電圧	計数効率を考慮して設定する。			
	手足系	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	±9(V)以内			
	手足系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	衣服系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
4.3 負荷変動	±5(V)以内			
	手足系	－ (V)	－ (V)	
	衣服系	－ (V)	－ (V)	
4.4 リップル電圧	100(mVp-p)以下			
	手足系	(mVp-p)	(mVp-p)	
	衣服系	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと			
	手足系	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
	衣服系	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．検出部				
5.1 増幅器雑音	50(mVp-p) 以下			
	手系 右甲	(mVp-p)	(mVp-p)	
	右掌	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左甲	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左掌	(mVp-p)	(mVp-p)	
	足系 右	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左	(mVp-p)	(mVp-p)	

機　器　名	α線ハンドフットクローズモニタ (MBR－22C)	機 器 NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
5.2 増幅器信号	1.0(V)以上			
	手 系 右甲	(V)	(V)	
	右掌	(V)	(V)	
	左甲	(V)	(V)	
	左掌	(V)	(V)	
	足 系 右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
5.3 入力感度	-72(mV) 以下			
	手 系 右甲	- (mV)	- (mV)	
	右掌	- (mV)	- (mV)	
	左甲	- (mV)	- (mV)	
	左掌	- (mV)	- (mV)	
	足 系 右	- (mV)	- (mV)	
	左	- (mV)	- (mV)	
5.4 検出部出力波形	2.4(V)以上			
	手 系 右甲	(V)	(V)	
	右掌	(V)	(V)	
	左甲	(V)	(V)	
	左掌	(V)	(V)	
	足 系 右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
5.5 検出部の良否	各項目について異常のないこと			
	手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	足 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
6．測定部調整				
6.1 指示調整	600(C/M)±10(%) 以内			
	手 系	(C/M)	(C/M)	
	足 系	(C/M)	(C/M)	
	衣服系	(C/M)	(C/M)	
6.2 内蔵テスト信号	3000(C/M) ±10(%) 以内			
	手 系	(C/M)	(C/M)	
	足 系	(C/M)	(C/M)	
	衣服系	(C/M)	(C/M)	
6.3 測定時間	10±1(sec)以内			
	手足系	(sec)	(sec)	
6.4 警報動作	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
6.5 測定部の良否	各項目に異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
7．検出器				
7.1 ＢＧの測定	3(C/10sec)以下			
	手 系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	足 系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	衣服系	(C/10sec)	(C/10sec)	
7.2 ノイズの有無	異常計数のないこと			
	手 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	足 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	衣服系	有・無 ( )	有・無 ( )	

機　器　名	α線ハンドフットクローズモニタ (MBR－22C)	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設　定　値	点　検　値	備　考
7.3 計数効率の測定	8（%）以上			
	手系 右甲	(%)	(%)	
	右掌	(%)	(%)	
	左甲	(%)	(%)	
	左掌	(%)	(%)	
	足系 右	(%)	(%)	
	左	(%)	(%)	
	衣服系	(%)	(%)	
7.4 検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
8．動作プログラムの確認	正常に動作すること			
8.1 定常動作				
1)READY ランプ表示動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
2)COUNTER IN OPERATIONランプ表示動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
3)ＯＫランプ表示動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
8.2 アラーム動作				
1)CONTAMINATION ランプ表示動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
2)アラーム赤ランプ表示動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
3)アラーム吹鳴動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
9．警報設定値	点検前の設定値であること			
	手系	(C)	(C)	
	足系	(C)	(C)	
	衣服系	(C)	(C)	

備　考

欠測時間	／	:　～　:
欠測時間	／	:　～　:

設置場所		使用線源	U_3O_8　協-1501, 61200(dpm)
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α線ハンドフットクローズモニタ（MBR－42）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜の破損のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．AC電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源				
3.1 出力電圧	+24(V) ±1.00(V)	(V)	(V)	
	-24(V) ±1.00(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) ±0.15(V)	(V)	(V)	
	+12(V) ±0.30(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	200(mVp-p)以下			
	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3.3 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源				
4.1 検出器印加電圧	計数効率を考慮して設定する。			
	手・足 系	(V)	(V)	
	衣 服 系	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	±30(V) 以内			
	手・足 系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
	衣 服 系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
4.3 負荷変動	±10(V) 以内			
	手・足 系	(V)	(V)	
	衣 服 系	(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	200(mVp-p)以下			
	手・足・系	(mVp-p)	(mVp-p)	
	衣 服 系	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．検出部				
5.1 増幅器雑音	50(mVp-p) 以下			
	手 系 右甲	(mVp-p)	(mVp-p)	
	右掌	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左甲	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左掌	(mVp-p)	(mVp-p)	
	足 系 右	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左	(mVp-p)	(mVp-p)	

機　器　名	α線ハンドフットクローズモニタ（MBR－42）	機 器 NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　考
5.2 増幅器信号	1.0(V)以上			
	手　系　右甲	(V)	(V)	
	右掌	(V)	(V)	
	左甲	(V)	(V)	
	左掌	(V)	(V)	
	足　系　右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
5.3 入力感度	-72(mV) 以下			
	手　系　右甲	(mV)	(mV)	
	右掌	(mV)	(mV)	
	左甲	(mV)	(mV)	
	左掌	(mV)	(mV)	
	足　系　右	(mV)	(mV)	
	左	(mV)	(mV)	
5.4 検出部出力波形	2.4(V) 以上			
	手　系　右甲	(V)	(V)	
	右掌	(V)	(V)	
	左甲	(V)	(V)	
	左掌	(V)	(V)	
	足　系　右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
	衣服　系	(V)	(V)	
5.5 検出部の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6．設定機能確認	各設定条件が設定可能であること			
6.1 時刻の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.2 測定時間の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.3 アラームレベルの設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.4 アラーム表示時間の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.5 点検条件の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.6 計数表示出力ON/OFFの設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7．表示機能確認	各設定条件等の表示ができること			
7.1 時刻の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7.2 測定時間の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7.3 アラームレベルの表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7.4 アラーム表示時間の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7.5 計数表示出力ON/OFFの設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7.6 レジスタの表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
7.7 計数表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	

機　器　名	α線ハンドフットクローズモニタ（MBR－42）	機 器 NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
8．測定時間	10±1(sec)以内	(sec)	(sec)	
9，保守機能確認	各保守機能が正常に動作すること			
9.1 ランプテスト		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.2 点検動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.3 ＢＧ測定動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.4 効率測定動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
10．アラーム機能	各アラーム機能が確認できること			
10.1 アラーム動作試験	正常に動作すること			
	右 手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	左 手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	右 足	良・否 ( )	良・否 ( )	
	左 足	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣 服	良・否 ( )	良・否 ( )	
10.2 アラーム設定値	点検前の設定値であること			
	右 手 系	(C)	(C)	
	左 手 系	(C)	(C)	
	右 足	(C)	(C)	
	左 足	(C)	(C)	
	衣 服	(C)	(C)	
11．検出器				
11.1 ＢＧの測定	3(C/10sec)以下			
	右 手 系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左 手 系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	右 足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左 足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	衣 服	(C/10sec)	(C/10sec)	
11.2 ノイズの有無	異常計数のないこと			
	右 手 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	左 手 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	右 足	有・無 ( )	有・無 ( )	
	左 足	有・無 ( )	有・無 ( )	
	衣 服	有・無 ( )	有・無 ( )	
11.3 計数効率の測定	8(%)以上			
	手 系 右甲	(%)	(%)	
	右掌	(%)	(%)	
	左甲	(%)	(%)	
	左掌	(%)	(%)	
	足 系 右	(%)	(%)	
	左	(%)	(%)	
	衣服系	(%)	(%)	
11.4 検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
12．レジスタの動作確認	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
13．動作シーケンスの確認	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
14．自己診断機能確認	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	

機　器　名	α線ハンドフットクローズモニタ (MBR－42)	機 器 NO.	TAG. NO. SER. NO.

備　考

欠測時間	／	:　～　:	
欠測時間	／	:　～　:	
設置場所		使用線源	U_3O_8　協－1501 61200(dpm)
点検場所		別添　(有・無)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－R74－2111）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜に破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．AC電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源				
3.1 出力電圧	+24(V) ±0.72(V)	(V)	(V)	
	-24(V) ±0.72(V)	(V)	(V)	
	+5(V) ±0.15(V)	(V)	(V)	
	+12(V) ±0.60(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	+24(V) 50(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V) 50(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V) 200(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12(V) 200(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
3.3 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源				
4.1 検出器印加電圧	±30(V) 以内			
	手・足・系 2100(V)	(V)	(V)	
	衣服系 目安値 900(V)	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	±30(V) 以内			
	手・足・系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
	2500(V)	(V)	(V)	
	衣服系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
	2500(V)	(V)	(V)	
4.3 負荷変動	±10(V) 以内			
	手・足・系	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	100(mVp-p)以下			
	手・足・系	(mVpp-p)	(mVp-p)	
	衣服系	(mVpp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．検出部				
5.1 入力感度	4.16(mV)～6.01(mV)以内			
	手系 右上	(mV)	(mV)	
	右下	(mV)	(mV)	
	左上	(mV)	(mV)	
	左下	(mV)	(mV)	

機　器　名	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－R74－2111）	機 器 N O .	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
	足 系　右	(mV)	(mV)	
	左	(mV)	(mV)	
	-9.50(mV) ～10.5(mV)以内			
	衣服系	(mV)	(mV)	
5.2 検出部出力波形	2.7(V)以上			
	手 系　右 上	(V)	(V)	
	右 下	(V)	(V)	
	左 上	(V)	(V)	
	左 下	(V)	(V)	
	足 系　右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
5.3 検出部の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
6．設定機能確認	各設定条件が設定可能であること			
6.1 時刻の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.2 測定時間の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.3 衣服測定時定数の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.4 アラームレベルの設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.5 アラーム表示時間の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.6 BG減算動作ON/OFFの設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.7 点検条件の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.8 計数表示出力ON/OFFの設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
7．表示機能確認	各測定条件等の表示ができること			
7.1 時刻の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.2 測定時間の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.3 アラームレベルの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.4 アラーム表示時間の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.5 衣服部測定時定数の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.6 計数表示出力ON/OFFの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.7 BG減算動作ON/OFFの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.8 レジスタの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.9 計数表示		良・否 ( )	良・否 ( )	

機　器　名	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－R74－2111）	機 器 N O .	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
8．測定時間	10±1(sec)以内	(sec)	(sec)	
9．保守機能確認	正常に動作すること			
9.1 ランプテスト		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.2 点検動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.3 BG測定動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.4 効率測定動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
１０．アラーム機能				
10.1 アラーム動作試験	正常に動作すること			
	右 手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	左 手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	右 足	良・否 ( )	良・否 ( )	
	左 足	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣 服	良・否 ( )	良・否 ( )	
10.2 アラーム設定値	点検前の設定値であること			
	右 手 系	(C)	(C)	
	左 手 系	(C)	(C)	
	右 足	(C)	(C)	
	左 足	(C)	(C)	
	衣 服	(C/M)	(C/M)	
１１．使用プラスチックシンチレーション検出器の判定	手足系 プラトー領域 400(V) 以上 プラトー傾斜 5(%)/100V 以下 B．G 手 1250cpm 以下 足 2500cpm 以下			
	手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	足 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系 プラトー領域 100(V) 以上 プラトー傾斜 10(%)/100V 以下 B．G 250cpm 以下			
	衣 服 系	良・否 ( )	良・否 ( )	

機　器　名	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－R74－2111）	機　器　N　O　.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設　定　値	点　検　値	備　考
12．検出器				
12.1　BGの測定	アラーム設定値以下であること			
	右　手　系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左　手　系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	右　足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左　足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	衣　服	(C/M)	(C/M)	
12.2　ノイズの有無	異常計数のないこと	有・無　(　)	有・無　(　)	
	右　手　系	有・無　(　)	有・無　(　)	
	左　手　系	有・無　(　)	有・無　(　)	
	右　足　系	有・無　(　)	有・無　(　)	
	左　足　系	有・無　(　)	有・無　(　)	
	衣　服			
12.3　計数効率の測定	20(%)　以上			
	手　系　右上	(%)	(%)	
	右下	(%)	(%)	
	左上	(%)	(%)	
	左下	(%)	(%)	
	足　系　右	(%)	(%)	
	左	(%)	(%)	
	衣服	(%)	(%)	
12.4　検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否　(　)	良・否　(　)	
13．レジスタの動作確認	正常に動作すること	良・否　(　)	良・否　(　)	
14．動作シーケンスの確認	正常に動作すること	良・否　(　)	良・否　(　)	
15．自己診断機能確認	正常に動作すること	良・否　(　)	良・否　(　)	

備考

欠　測　時　間	／	:　～　:
欠　測　時　間	／	:　～　:

設　置　場　所	計測機器校正施設	使　用　線　源	U_3O_8　協-714，30400(dpm)
点　検　場　所	計測機器校正施設	別添　(有・無)	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	β（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－14u）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. - SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜に破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．AC電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源モジュール 3.1 ランプチェック	ランプが点灯すること	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
3.2 出力電圧	+24(V) ±0.2(V) -24(V) ±0.2(V) + 6(V) ±0.2(V)	(V) (V) (V)	(V) (V) (V)	
3.3 リップル電圧	30(mVp-p) 以下 +24(V) -24(V) + 6(V)	 (mVp-p) (mVp-p) (mVp-p)	 (mVp-p) (mVp-p) (mVp-p)	
3.4 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源モジュール 4.1 検出器印加電圧	700 ±50(V) 以内 手・足・系 衣服系	 (V) (V)	 (V) (V)	
4.2 出力設定精度	± 9(V) 以内 手・足・系 500(V) 1000(V) 1500(V) 衣服系 500(V) 1000(V) 1500(V)	 (V) (V) (V) (V) (V) (V)	 (V) (V) (V) (V) (V) (V)	
4.3 負荷変動	±5(V) 以内 手・足・系 衣服系	 (V) (V)	 (V) (V)	
4.4 リップル電圧	100(mVp-p)以下 手・足・系 衣服系	 (mVp-p) (mVp-p)	 (mVp-p) (mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．測定部 5.1 前置増幅器雑音	20(mVp-p) 以下 手系 足系 衣服系	 (mVp-p) (mVp-p) (mVp-p)	 (mVp-p) (mVp-p) (mVp-p)	
5.2 前置増幅器出力	0.6(V)以上 手系 足系 衣服系	 (V) (V) (V)	 (V) (V) (V)	

機　器　名	β(γ)線ハンドフットクローズモニタ (MBR－14u)	機 器 NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
5.3 入力感度	-50(mV) ±10(mV)以内			
	手 系	(mV)	(mV)	
	足 系	(mV)	(mV)	
	衣服系	(mV)	(mV)	
5.4 波高弁別出力	2.4(V)以上			
	手 系	(V)	(V)	
	足 系	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
5.5 メータ出力電圧精度	±0.05(V) 以内			
	手系 300(cpm) 0.3 (V)	(V)	(V)	
	600(cpm) 0.6 (V)	(V)	(V)	
	900(cpm) 0.9 (V)	(V)	(V)	
	3000(cpm) 0.3 (V)	(V)	(V)	
	6000(cpm) 0.6 (V)	(V)	(V)	
	9000(cpm) 0.9 (V)	(V)	(V)	
	足系 300(cpm) 0.3 (V)	(V)	(V)	
	600(cpm) 0.6 (V)	(V)	(V)	
	900(cpm) 0.9 (V)	(V)	(V)	
	3000(cpm) 0.3 (V)	(V)	(V)	
	6000(cpm) 0.6 (V)	(V)	(V)	
	9000(cpm) 0.9 (V)	(V)	(V)	
	衣服系 300(cpm) 0.3 (V)	(V)	(V)	
	600(cpm) 0.6 (V)	(V)	(V)	
	900(cpm) 0.9 (V)	(V)	(V)	
	3000(cpm) 0.3 (V)	(V)	(V)	
	6000(cpm) 0.6 (V)	(V)	(V)	
	9000(cpm) 0.9 (V)	(V)	(V)	
5.6 メータ指示精度	±10(%) 以内			
	手系 300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	900(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	3000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	9000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	足系 300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	900(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	3000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	9000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	衣服系 300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	900(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	3000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	9000(cpm)	(cpm)	(cpm)	

機　器　名	β(γ)線ハンドフットクローズモニタ (MBR－14u)	機 器 NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
5.7 時定数	3± 1(sec) 10± 2(sec)			
	手 系	(sec) (sec)	(sec) (sec)	
	足 系	(sec) (sec)	(sec) (sec)	
	衣服系	(sec) (sec)	(sec) (sec)	
5.8 内蔵テスト信号	3000(cpm) ±1(%)	(cpm)	(cpm)	
	手 系	(cpm)	(cpm)	
	足 系	(cpm)	(cpm)	
	衣服系			
5.9 測定時間	10 ± 1(sec)	(sec)	(sec)	
5.10 警報動作	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
5.11 測定部の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
6．使用GM管の判定	プラトー領域 150(V) 以上 プラトー傾斜 10(%)/100V 以下 B．G 80(cpm) 以下			
	手 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	足 系	良・否 ( )	良・否 ( )	
	衣服系	良・否 ( )	良・否 ( )	
7．検出器 7.1 BGの測定	400(cpm)以下			
	手 系	(cpm)	(cpm)	
	足 系	(cpm)	(cpm)	
	100(cpm) 以下			
	衣服系	(cpm)	(cpm)	
7.2 ノイズの有無	異常計数のないこと			
	手 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	足 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	衣服系	有・無 ( )	有・無 ( )	
7.3 計数効率の測定	5(%) 以上			
	手 系 右上	(%)	(%)	
	右下	(%)	(%)	
	左上	(%)	(%)	
	左下	(%)	(%)	

機　器　名	β(γ)線ハンドフットクローズモニタ (MBR－14u)	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
	足系　右	(%)	(%)	
	左	(%)	(%)	
	衣服系	(%)	(%)	
7.4 検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
8．動作プログラムの確認	正常に動作すること			
8.1 定常動作				
1)READY ランプ表示動作	手足系 衣服系	良・否 ( ) 良・否 ( )	良・否 ( ) 良・否 ( )	
2)COUNTER IN OPERATION	手足系 衣服系	良・否 ( ) 良・否 ( )	良・否 ( ) 良・否 ( )	
3)ＯＫランプ表示動作	手足系 衣服系	良・否 ( ) 良・否 ( )	良・否 ( ) 良・否 ( )	
8.2 アラーム動作				
1)CONTAMINATION ランプ表示動作	手足系	良・否 ( )	良・否 ( )	
2)アラーム赤ランプ表示動作	手足系 衣服系	良・否 ( ) 良・否 ( )	良・否 ( ) 良・否 ( )	
3)アラーム吹鳴動作	手足系 衣服系	良・否 ( ) 良・否 ( )	良・否 ( ) 良・否 ( )	
9．警報設定値	点検前の設定値であること			
	手　系	(cpm)	(cpm)	
	足　系	(cpm)	(cpm)	
	衣服系	(cpm)	(cpm)	

備　考

欠測時間（ﾌﾗﾄｰ測定）	／	:　～　:	
欠測時間（総合試験）	／	:　～　:	
使用線源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸｿｰｽ), U_3O_8協-714, 30400(dpm) U_3O_8協-1317, 9260(dpm)		
別添（有・無）	グラフ		

設置場所	
点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	β（γ）線フットモニタ （MBR－２８）	承 認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. － SER. No. R	調 査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜に破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．ＡＣ電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ				
3.1 ランプチェック	ランプが点灯すること	良・否 (良)	良・否 (良)	
3.2 出力電圧	+24(V) ±0.2(V)	(V)	(V)	
	-24(V) ±0.2(V)	- (V)	- (V)	
	+ 6(V) ±0.2(V)	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧	30(mVp-p) 以下			
	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3.4 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4 高圧電源ﾓｼﾞｭｰﾙ				
4.1 検出器印加電圧	700(V)±50(V) 以内	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	±9(V)以内			
	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
4.3 全負荷変動	±5(V)以内	(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．測定部				
5.1 前置増幅器雑音	20(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
5.2 前置増幅器信号	0.6(V)以上	(V)	(V)	
5.3 入力感度	-50 ±10(mV)以内	(mV)	(mV)	
5.4 波高弁別出力	2.4(V)以上	(V)	(V)	
5.5 メータ出力電圧精度	±0.05(V) 以内			
	1Kﾚﾝｼﾞ 300(cpm) 0.3(V)	(V)	(V)	
	600(cpm) 0.6(V)	(V)	(V)	
	900(cpm) 0.9(V)	(V)	(V)	
	10Kﾚﾝｼﾞ 3000(cpm) 0.3(V)	(V)	(V)	
	6000(cpm) 0.6(V)	(V)	(V)	
	9000(cpm) 0.9(V)	(V)	(V)	
5.6 メータ指示精度	±10(%) 以内			
	1Kﾚﾝｼﾞ 300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	900(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10Kﾚﾝｼﾞ 3000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	9000(cpm)	(cpm)	(cpm)	

機　器　名	β（γ）線フットモニタ （MBR－２８）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
5.7 時定数	3±1(sec)	(sec)	(sec)	
	10±2(sec)	(sec)	(sec)	
5.8 内蔵テスト信号	3000(cpm) ± 1%	(cpm)	(cpm)	
5.9 測定時間	10±1(sec)以内	(sec)	(sec)	
5.10 警報動作	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
5.11 測定部の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
6．使用ＧＭ管の判定	プラトー領域　150(V)以上 プラトー傾斜　(10%/100V)以下 Ｂ．Ｇ　80(cpm)以下	良・否 ( )	良・否 ( )	
7．検出器				
7.1 ＢＧの測定	400(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
7.2 ノイズの有無	異常計数のないこと	有・無 ( )	有・無 ( )	
7.3 計数効率の測定	5(%)以上			
	右　足	(%)	(%)	
	左　足	(%)	(%)	
7.4 検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
8．動作プログラムの確認	正常に動作すること			
8.1 定常動作				
1)READY ランプ表示動作	正常に動作すること	良・否 ( )	良・否 ( )	
2)COUNTER IN OPERATIONランプ表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
3)ＯＫランプ表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
8.2 アラーム動作				
1)CONTAMINATION ランプ表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
2)アラーム赤ランプ表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
3)アラーム吹鳴動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9．警報設定値	点検前の設定値であること	(cpm)	(cpm)	

備　考

欠測時間（ﾌﾟﾗﾄｰ測定）	／	:　～　:
欠測時間（総合試験）	／	:　～　:

設置場所		使用線源	^{90}Sr（ﾁｪｯｸｿｰｽ），U_3O_8 協- 714，30400(dpm)
点検場所		別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α線フットモニタ（MBR－21C）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜の破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．AC電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源モジュール				
3.1 ランプチェック	ランプが点灯すること	良・否 （ ）	良・否 ）	
3.2 出力電圧	+24(V) ±0.2(V) -24(V) ±0.2(V) + 6(V) ±0.2(V)	(V) (V) (V)	(V) (V) (V)	
3.3 リップル電圧	30(mVp-p) 以下 +24(V) -24(V) + 6(V)	 (mVp-p) (mVp-p) (mVp-p)	 (mVp-p) (mVp-p) (mVp-p)	
3.4 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源モジュール				
4.1 検出器印加電圧	計数効率を考慮して設定する	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	± 9(V) 以内 500(V) 1000(V) 1500(V)	 (V) (V) (V)	 (V) (V) (V)	
4.3 全負荷変動	±5(V) 以内	(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．検出部	50(mVp-p) 以下			
5.1 増幅器雑音	右 足 左 足	(mVp-p) (mVp-p)	(mVp-p) (mVp-p)	
5.2 増幅器信号	1.0(V)以上 右 足 左 足	 (V) (V)	 (V) (V)	
5.3 入力感度	－72(mV)以下 右 足 左 足	 (mV) (mV)	 (mV) (mV)	
5.4 検出部出力波形	2.4(V)以上 右 足 左 足	 (V) (V)	 (V) (V)	
5.5 検出部の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	

機　器　名	α線フットモニタ（MBR－21C）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
6．測定部調整				
6.1　指示調整	600(C/M)±10% 以内	(C/M)	600 (C/M)	
6.2　内蔵テスト信号	300(C/M)±10% 以内	(C/M)	300 (C/M)	
6.3　測定時間	10±1(sec),5±1(sec)以内(註1)	(sec)	(sec)	
6.4　測定部の良否	各項目について異常のないこと	良・否　(　)	良・否　(　)	
7．検出器				
7.1　BGの測定	3(C/10sec)以下	(C/10sec)	(C/10sec)	
7.2　ノイズの有無	異常計数のないこと	有・無　(　)	有・無　(　)	
7.3　計数効率の測定	8(%)以上			
	右　足	(%)	(%)	
	左　足	(%)	(%)	
7.4　検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否　(　)	良・否　(良)	
8．動作プログラムの確認	正常に動作すること			
8.1　定常動作				
1)READY ランプ表示動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
2)COUNTER IN OPERATIONランプ表示動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
3)OKランプ表示動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
8.2　アラーム動作				
1)CONTAMINATION ランプ表示動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
2)アラーム赤ランプ表示動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
3)アラーム吹鳴動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
9．警報設定値	点検前の設定値であること	(C)	(C)	

備　考

（註1）再処理、Pu-con　は10秒に設定
　　Pu-1,Pu-2,URI　は　5秒に設定

欠測時間	／	:　～　:
欠測時間	／	:　～　:

設置場所		使用線源	U_3O_8　協-1501,61200(dpm)
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	α線フットモニタ（MBR－41）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜の破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．AC電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源				
3.1 出力電圧	+24(V) ±1.00(V)	(V)	(V)	
	-24(V) ±1.00(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) ±0.15(V)	(V)	(V)	
	+12(V) ±0.30(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	200(mVp-p)以下			
	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3.3 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源				
4.1 検出器印加電圧	計数効率を考慮して設定する。	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	±30(V) 以内			
	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
4.3 負荷変動	±10(V) 以内	(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	200(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．検出部				
5.1 増幅器雑音	50(mVp-p) 以下			
	右 足	(mVp-p)	(mVp-p)	
	左 足	(mVp-p)	(mVp-p)	
5.2 増幅器信号	1.0(V)以上			
	右 足	(V)	(V)	
	左 足	(V)	(V)	
5.3 入力感度	-72(mV) 以下			
	右 足	(mV)	(mV)	
	左 足	(mV)	(mV)	
5.4 検出部出力波形	2.4(V)以上			
	右 足	(V)	(V)	
	左 足	(V)	(V)	
5.5 検出部の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	

機　器　名	α線フットモニタ（MBR－41）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
6．設定機能確認	各設定条件が設定可能であること			
6.1 時刻の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.2 測定時間の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.3 アラームレベルの設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.4 アラーム表示時間の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.5 点検条件の設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
6.6 計数表示出力ON/OFFの設定		良・否 ( )	良・否 ( )	
7．表示機能確認	各設定条件等の表示ができること			
7.1 時刻の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.2 測定時間の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.3 アラームレベルの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.4 アラーム表示時間の表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.5 計数表示出力ON/OFFの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.6 レジスタの表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
7.7 計数表示		良・否 ( )	良・否 ( )	
8．測定時間	10±1(SEC),5±1(SEC)以内(註1)	(SEC)	(SEC)	
9．保守機能確認	各保守機能が正常に動作すること			
9.1 ランプテスト		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.2 点検動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.3 BG測定動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.4 効率測定動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
10．アラーム機能	各アラーム機能が確認できること			
10.1 アラーム動作試験	正常に動作すること 右　足 左　足	 良・否 ( ) 良・否 ( )	 良・否 ( ) 良・否 ( )	
10.2 アラーム設定値	点検前の設定値であること 右　足 左　足	 (C) (C)	 (C) (C)	
11．検出器				
11.1 BGの測定	3(C/10sec)以下 右　足 左　足	 (C/10sec) (C/10sec)	 (C/10sec) (C/10sec)	

機　器　名	α線フットモニタ（MBR－41）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
11.2　ノイズの有無	異常計数のないこと 右　足 左　足	 有・無　（ ） 有・無　（ ）	 有・無　（ ） 有・無　（ ）	
11.3　計数効率の測定	8(%)以上 右　足 左　足	 (%) (%)	 (%) (%)	
11.4　検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
12．レジスタの動作確認	正常に動作すること	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
13．動作シーケンスの確認	正常に動作すること	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
14．自己診断機能確認	正常に動作すること	良・否　（ ）	良・否　（ ）	

備　考

（註1）　Pu-con, 再処理, Pu-3 は10秒に設定
Pu-1, Pu-2, PWTF, URI は　5秒に設定

欠測時間	／	:　～　:
欠測時間	／	:　～　:

設置場所		使用線源	U_3O_8　協－1501, 61200(dpm)
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	β・（γ）線ハンドフットクローズモニタ（MBR－44）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜に破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．AC電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源				
3.1 出力電圧	+24(V) ±1.00(V)	(V)	(V)	
	-24(V) ±1.00(V)	(V)	(V)	
	+ 5(V) ±0.15(V)	(V)	(V)	
	+12(V) ±0.30(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	200(mVp-p)以下			
	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3.3 低圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4．高圧電源				
4.1 検出器印加電圧	700 ±50(V) 以内			
	手・足・系	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
4.2 出力設定精度	±30(V) 以内			
	手・足・系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
	衣服系 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
	2000(V)	(V)	(V)	
4.3 負荷変動	±10(V) 以内			
	手・足・系	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	200(mVp-p)以下			
	手・足・系	(mVp-p)	(mVp-p)	
	衣服系	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.5 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．検出部				
5.1 入力感度	－300 ±30(mV)以内			
	手系 右	(mV)	(mV)	
	左	(mV)	(mV)	
	足系 右	(mV)	(mV)	
	左	(mV)	(mV)	
	衣服系	(mV)	(mV)	

機　器　名	β（γ）線ハンドフットクロズモニタ（MBR－44）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
5.2 検出部出力波形	3.0(V)以上			
	手系　右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
	足系　右	(V)	(V)	
	左	(V)	(V)	
	衣服系	(V)	(V)	
5.3 検出部の良否	各項目について異常のないこと	良・否　(　)	良・否　(　)	
6．設定機能確認	各設定条件が設定可能であること			
6.1 時刻の設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.2 測定時間の設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.3 衣服測定時定数の設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.4 アラームレベルの設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.5 アラーム表示時間の設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.6 BG減算動作ON/OFFの設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.7 点検条件の設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
6.8 計数表示出力ON/OFF の設定		良・否　(　)	良・否　(　)	
7．表示機能確認	各設定条件等の表示ができること			
7.1 時刻の表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.2 測定時間の表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.3 アラームレベルの表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.4 アラーム表示時間の表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.5 衣服部測定時定数の表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.6 計数表示出力ON/OFFの表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.7 BG減算動作ON/OFFの表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.8 レジスタの表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
7.9 計数表示		良・否　(　)	良・否　(　)	
8．測定時間	10±1(sec)以内	(sec)	(sec)	
9．保守機能確認	各保守機能が正常に動作すること			
9.1 ランプテスト		良・否　(　)	良・否　(　)	
9.2 点検動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
9.3 BG測定動作		良・否　(　)	良・否　(　)	
9.4 効率測定動作		良・否　(　)	良・否　(　)	

機　器　名	β（γ）線ハンドフットクロズモニタ（MBR－44）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
10．アラーム機能				
10.1　アラーム動作試験	正常に動作すること			
	右手系	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
	左手系	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
	右足	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
	左足	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
	衣服	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
10.2　アラーム設定値	点検前の設定値であること			
	右手系	(C)	(C)	
	左手系	(C)	(C)	
	右足	(C)	(C)	
	左足	(C)	(C)	
	衣服	(C/M)	(C/M)	
11．使用GM管の判定	プラトー領域　150(V)　以上 プラトー傾斜　10(%)/100V 以下 B．G　80(cpm)　以下			
	手系	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
	足系	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
	衣服	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
12．検出器 12.1　BGの測定	アラーム設定値以下であること			
	右手系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左手系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	右足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	衣服	(C/M)	(C/M)	
12.2　ノイズの有無	異常計数のないこと			
	右手系	有・無　（ ）	有・無　（ ）	
	左手系	有・無　（ ）	有・無　（ ）	

機　器　名	β（γ）線ハンドフットクロズモニタ（MBR－４４）	機　器　NO.	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設定値	点検値	備　考
	右　足	有・無　（ ）	有・無　（ ）	
	左　足	有・無　（ ）	有・無　（ ）	
	衣　服	有・無　（ ）	有・無　（ ）	
12.3　計数効率の測定	5(%)　以上			
	手　系　右上	(%)	(%)	
	右下	(%)	(%)	
	左上	(%)	(%)	
	左下	(%)	(%)	
	足　系　右	(%)	(%)	
	左	(%)	(%)	
	衣服	(%)	(%)	
	各項目について異常のないこと	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
１３．レジスタの動作確認	正常に動作すること	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
１４．動作シーケンスの確認	正常に動作すること	良・否　（ ）	良・否　（ ）	
１５．自己診断機能確認	正常に動作すること	良・否　（ ）	良・否　（ ）	

備　考

欠測時間（プラト-測定）	／	:　～　:	
欠測時間（総合試験）	／	:　～　:	
使用線源	^{90}Sr(チェックソース), U_3O_8協-714, 30400(dpm) U_3O_8協-1317, 9260(dpm)		
別添（有・無）	グラフ		

設置場所	
点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	γ線ハンドフットクローズモニタ（MH－１０５）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、マイラ膜に破損等のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
2．ＡＣ電源絶縁試験	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源出力電圧	+12(V) ±0.2(V) -12(V) ±0.2(V) +5(V) ±0.2(V)	(V) (V) (V)	(V) (V) (V)	
4．高圧電源				
4.1 検出器印加電圧	800±10(V)以内	(V)	(V)	
4.2 高圧出力可変範囲	500(V)以下～10000(V)以上可変可能であること	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
4.3 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.4 高圧電源の良否	各項目について異常のないこと	良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5．制御ユニット設定機能確認	各設定条件が設定可能であること			
5.1 アラームレベルの設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5.2 測定時間の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5.3 衣服測定時定数の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
5.4 判定時間の設定		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6．制御ユニット表示機能確認	各測定条件等の表示ができること			
6.1 経過時間の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.2 Ｂ・Ｇ減算測定値		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.3 Ｂ・Ｇ値の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.4 アラームレベルの表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.5 測定時間の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.6 衣服部測定時定数の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.7 判定時間の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.8 使用回数の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	
6.9 アラーム発生回数の表示		良・否 （ ）	良・否 （ ）	

機　器　名	γ線ハンドフットクローズモニタ（MH－１０５）	機 器 Ｎ Ｏ ．	TAG. NO. SER. NO.

項　目	基　準	設 定 値	点 検 値	備　考
7．測定部				
7.1　指示調整	右手　10± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	100± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	1000±10(cps)	(cps)	(cps)	
	6000±60(cps)	(cps)	(cps)	
	左手　10± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	100± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	1000±10(cps)	(cps)	(cps)	
	6000±60(cps)	(cps)	(cps)	
	足　10± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	100± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	1000±10(cps)	(cps)	(cps)	
	6000±60(cps)	(cps)	(cps)	
	衣服　10± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	100± 1(cps)	(cps)	(cps)	
	1000±10(cps)	(cps)	(cps)	
	6000±60(cps)	(cps)	(cps)	
7.2　アラーム動作試験	±1(cps)			
	右手　10(cps)	(cps)	(cps)	
	30(cps)	(cps)	(cps)	
	60(cps)	(cps)	(cps)	
	左手　10(cps)	(cps)	(cps)	
	30(cps)	(cps)	(cps)	
	60(cps)	(cps)	(cps)	
	足　10(cps)	(cps)	(cps)	
	30(cps)	(cps)	(cps)	
	60(cps)	(cps)	(cps)	
	衣服　10(cps)	(cps)	(cps)	
	30(cps)	(cps)	(cps)	
	60(cps)	(cps)	(cps)	

機　器　名	γ線ハンドフットクローズモニタ（MH－１０５）	機 器 Ｎ Ｏ ．	TAG. NO. SER. NO.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　考
7.3 測定時間動作試験	±0.6(sec)			
	10(sec)	(sec)	(sec)	
	30(sec)	(sec)	(sec)	
	60(sec)	(sec)	(sec)	
7.4 測定部の良・否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
8．検出器				
8.1 ＢＧの測定	アラーム設定値以下であること			
	右 手 系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左 手 系	(C/10sec)	(C/10sec)	
	右 足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	左 足	(C/10sec)	(C/10sec)	
	衣 服	(CPS)	(CPS)	
8.2 ノイズの有無	異常計数のないこと	有・無 ( )	有・無 ( )	
	右 手 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	左 手 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	右 足 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	左 足 系	有・無 ( )	有・無 ( )	
	衣 服			
8.3 検出感度試験	手足系 3.7 × 10^2Bq以下			
	衣服系 1.9 × 10^2Bq以下			
	右 手 系	(Bq)	(Bq)	
	左 手 系	(Bq)	(Bq)	
	足 系	(Bq)	(Bq)	
	衣 服	(Bq)	(Bq)	
8.4 検出器の良否	各項目について異常のないこと	良・否 ( )	良・否 ( )	
9．表示部動作の確認	正常に動作すること			
9.1 READY 表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.2 液晶測定時間表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.3 COUNTER IN OPERETION表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.4 測定部位表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.5 OK表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.6 CONTAMI NATION表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.7 汚染部位表示動作		良・否 ( )	良・否 ( )	
9.8 BZ RESET動作		良・否 ( )	良・否 ( )	

機　器　名	γ線ハンドフットクローズモニタ（MH－１０５）	機　器　Ｎ　Ｏ　.	TAG. NO. SER. NO.

項　　目	基　　準	設　定　値	点　検　値	備　　考
１０．アラーム設定値	点検前の設定値であること			
	右　手　系	(cps)	(cps)	
	左　手　系	(cps)	(cps)	
	足　　系	(cps)	(cps)	
	衣　　服	(cps)	(cps)	

備　考

欠　測　時　間	0／00	00 ： 00 ～ 00 ： 00
欠　測　時　間	／	： ～ ：

設　置　場　所		使　用　線　源	^{60}Co 3.7KBq (0.1μCi)
点　検　場　所		別添　(有・無)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ＺｎＳ（Ａｇ）α線サーベイメータ（ＴＣＳ－２１５）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、接触不良、マイラ膜に破損等のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1　電池電圧 2.2　電圧範囲 2.3　安定化出力電圧 2.4　低圧電源の良否	 5.0(V)以上 4.5 ±0.5 (V) 5.0 ～7.0 (V) (CP-3) -4.5 ～-7.0 (V)(CP-2) 各項目について異常がないこと	 (V) (V) (V) (V) 良・否（　　）	 (V) (V) (V) (V) 良・否（　　）	
3．高圧電源 3.1　検出器印加電圧 3.2　リップル電圧 3.3　高圧電源の良否	 (註1) 100(mVp-p)以下 各項目について異常がないこと	 (V) (mVp-p) 良・否（　　）	 (V) (mVp-p) 良・否（　　）	
4．アンプゲインの確認	6 倍～7 倍	(倍)	(倍)	
5．検出部入力感度	-300(mV) ±10% 以内 (註2)	(mV)	(mV)	
6．アンプアウト波高	3.5(V)以上	(V)	(V)	
7．実数効率測定	10(%) 以上	(%)	(%)	
8．計数効率	100(%)に設定	(%)	(%)	
9．指示調整（註3） 1.8 E+2 (cpm) 1.8 E+3 (cpm) 1.8 E+4 (cpm) 1.8 E+5 (cpm)	各レンジとも指示値±10(%) 以内	 (cpm) (cpm) (cpm) (cpm)	 (cpm) (cpm) (cpm) (cpm)	
１０．計数音の確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
１１．計数チェック	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
１２．ノイズの確認	3(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
１３．γ感度の確認	γ感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

備　考

註1 実数効率及びγ感度を考慮して印加電圧を設定する。
註2 Ｂタイプのみ検出部入力感度は－１００（ｍＶ）±１０％以内。
註3 Ｅタイプ、Ｆタイプはメータ表示がmin^{-1}表示とｃｐｍ表示の２種類あり。

設置場所		使用線源	U_3O_8　協－1531，37800(dpm)　面積補正値 32886(dpm)
点検場所			Co-60　Co6/502　R-102032，3.7MBq(100 μCi)
別添（有・無）			

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	ＺｎＳ（Ａｇ）α線サーベイメータ （ＴＣＳ－２１５）　γ感度低減化対策分	承 認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調 査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、接触不良、マイラ膜に破損等のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1　電池電圧 2.2　電圧範囲 2.3　安定化出力電圧 2.4　低圧電源の良否	 5.0(V)以上 4.5 ±0.5 (V) 5.0 ～7.0 (V) (CP-3) -4.5 ～-7.0 (V)(CP-2) 各項目について異常がないこと	 (V) (V) (V) (V) 良・否（　　）	 (V) (V) (V) (V) 良・否（　　）	
3．高圧電源 3.1　検出器印加電圧 3.2　リップル電圧 3.3　高圧電源の良否	 プラトーの開始電圧に設定 100(mVp-p)以下 各項目について異常がないこと	 (V) (mVp-p) 良・否（　　）	 (V) (mVp-p) 良・否（　　）	
4．アンプゲインの確認	6 倍～7 倍	(倍)	(倍)	
5．検出部入力感度	-300(mV) ±10% 以内	(mV)	(mV)	
6．アンプアウト波高	3.5(V)以上	(V)	(V)	
7．γ感度低減化の為のフォトマルの判定 7.1　プラトー特性試験 7.2　γ感度の確認	 プラトー領域　150V　　以上 プラトー傾斜 10(%)/100V 以下 γ感度のないこと	 良・否（　　） 良・否（　　）	 良・否（　　） 良・否（　　）	
8．実数効率測定	10(%) 以上	(%)	(%)	
9．計数効率	100(%)に設定	(%)	(%)	
10．指示調整　(註1) 1.8 E+2 (cpm) 1.8 E+3 (cpm) 1.8 E+4 (cpm) 1.8 E+5 (cpm)	 各レンジとも指示値±10(%) 以内	 (cpm) (cpm) (cpm) (cpm)	 (cpm) (cpm) (cpm) (cpm)	
11．計数音の確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
12．計数チェック	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
13．ノイズの確認	3(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	

註1　Eタイプ、Fタイプはメータ表示 min^{-1}とcpm の表示の２種類あり。

設 置 場 所		使 用 線 源	U_3O_8　協一1531，37800(dpm)　面積補正値 32886(dpm)
点 検 場 所			^{241}Am
別添（有・無）			

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	ZnS（Ag）α線サーベイメータ（PAC－1SAGA）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、接触不良、マイラ膜に破損等のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1　電池電圧 2.2　電圧範囲 2.3　低圧電源の良否	 5.5（V）以上 5.0 ±0.5(V)以内 各項目について異常がないこと	 (V) (V) 良・否（　　）	 (V) (V) 良・否（　　）	
3．高圧電源 3.1　検出器印加電圧 3.2　リップル電圧 3.3　負荷変動率 3.4　高圧電源の良否	 1240±50(V) 以内 30(mVp-p) 以下 ±4(%)以内 各項目について異常がないこと	 (V) (mVp-p) 良・否（　　） 良・否（　　）	 (V) (mVp-p) 良・否（　　） 良・否（　　）	
4．実数効率測定	10(%) 以上	(%)	(%)	
5．検出部入力感度	-100(mV) 以下	(mV)	(mV)	
6．計数効率	100(%)に設定	(%)	(%)	
7．指示調整 1.8 E+2 (cpm) 1.8 E+3 (cpm) 1.8 E+4 (cpm) 1.8 E+5 (cpm)	各レンジとも指示値±10(%) 以内	 (cpm) (cpm) (cpm) (cpm)	 (cpm) (cpm) (cpm) (cpm)	
8．計数音の確認	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．計数チェック	正常に動作すること	良・否（　　）	良・否（　　）	
10．ノイズの確認	3（cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
11．γ感度の確認	γ感度のないこと	良・否（　　）	良・否（　　）	

備　考

設置場所		使用線源	U_3O_8　協－1531、37800(dpm)，面積補正値 30618(dpm)
点検場所			Co-60　Co6/502　R-102032，3.7MBq(100μCi)
別添（有・無）			

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	エアプロポーショナルα線サーベイメータ（TPS－203）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. － SER. No. R	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．目視点検・清掃	清掃されており、部品の破損、ネジのゆるみ、接触不良、マイラ膜に破損等のないこと	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧 2.2 電圧範囲 2.3 低圧電源の良否	 5.0(V)以上 4.6 ±0.2(V) 各項目について異常がないこと	 (V) (V) 良・否（ ）	 (V) (V) 良・否（ ）	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧 3.2 リップル電圧 3.3 高圧電源の良否	 1900±50(V) 20(mVp-p) 以下 各項目について異常がないこと	 (V) (mVp-p) 良・否（ ）	 (V) (mVp-p) 良・否（ ）	
4．検出器入力感度	-25(mV)±5(mV)	－ (mV)	－ (mV)	
5．指示調整 6.0 E+1 (cpm) 6.0 E+2 (cpm) 6.0 E+3 (cpm)	 各レンジともF.S ±10(%) 以内	 (cpm) (cpm) (cpm)	 (cpm) (cpm) (cpm)	
6．実数効率測定	8(%)以上	(%)	(%)	
7．計数音の確認	正常に動作すること	良・否（ ）	良・否（ ）	
8．ノイズの確認	3(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	

備考

設置場所		使用線源	U_3O_8 協－778 25440(dpm) 面積補正値 11406(dpm)
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11CAF01

検査名（総合検査）

機器名	ゲートモニタ（MGM－221B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．バックグウラウンド指示値の確認	250(cps)以下	V1	(cps)	(cps)	
		V2	(cps)	(cps)	
		V3	(cps)	(cps)	
		V4	(cps)	(cps)	
		V5	(cps)	(cps)	
		V6	(cps)	(cps)	
		V7	(cps)	(cps)	
		V8	(cps)	(cps)	
		V9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
3．点検前設定値の確認 3.1 測定時間	10秒		(秒)	(秒)	
3.2 検出効率の逆数	前回の設定値であること。 λ=	V1	λ=	λ=	
		V2	λ=	λ=	
		V3	λ=	λ=	
		V4	λ=	λ=	
		V5	λ=	λ=	
		V6	λ=	λ=	
		V7	λ=	λ=	
		V8	λ=	λ=	
		V9	λ=	λ=	
		V10	λ=	λ=	
		V11	λ=	λ=	
3.3 標準偏差の倍率	倍率：K＝5				

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.4 汚染レベル	自動汚染レベル：読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
3.5 P．P警報レベル (1) 測定時自動	読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) ＢＧ時自動	読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.6 検出器汚染レベル	読み値	V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
4．高圧電源の確認	900(V)±1(%)以内	HV1	(V)	(V)	
		HV2	(V)	(V)	
5．低圧電源の確認 5.1 出力電圧	±5(%)以内	PS1 + 5(V)	(V)	(V)	
		+12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
		PS2 +12(V)	(V)	(V)	
		PS3 +12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
5.2 リップル電圧	50(mVp-p)以下	PS1 + 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		PS2 +12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		PS3 +12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．電圧モニタ動作の確認 6.1 設定電圧の確認	+12(V)：+11.4(V)±5(%) -12(V)：-11.4(V)±5(%) PS3 +12(V)	(V)	(V)	
	-12(V)	(V)	(V)	
	900(V)：810(V)±1.0(%) HV 1	(V)	(V)	
	HV 2	(V)	(V)	
6.2 異常信号動作の確認	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」通り動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	
7．指示精度試験	入力値の±1(デジット) 以内			
	V 1 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 2 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 3 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 4 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 5 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 6 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 7 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	V 8	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 9	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V10	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V11	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
8．バックグランドの確認	250(cps)以下				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
9．β線検出効率の測定	計数効率：15(%) 以上 換算定数：6.6 以下 (λ)				使用線源： U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) ＮＥＴ計数値 (cps)
		V 1 効率	(%)	(%)	
		V 1 λ			
		V 2 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 2 λ			

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	V 4	効率	(%)	(%)	NET計数値 (cps)
		λ			
	V 5	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 6	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 7	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 8	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 9	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V10	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V11	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V11	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
10. β線検出感度の測定	0.37(Bq/cm²)以上	V 1	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	使用線源: U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) 検出面積(cm²) 720 (cm²)
		V 2	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 3	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 4	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 5	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 6	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 7	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	590 (cm²)
		V 8	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 9	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V10	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V11	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	280 (cm²)

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
11. 計算式の確認	±30(%) 以内				ゲートモニタ計算値
		V 1	(%)	(%)	(Bq)
		V 2	(%)	(%)	(Bq)
		V 3	(%)	(%)	(Bq)
		V 4	(%)	(%)	(Bq)
		V 5	(%)	(%)	(Bq)
		V 6	(%)	(%)	(Bq)
		V 7	(%)	(%)	(Bq)
		V 8	(%)	(%)	(Bq)
		V 9	(%)	(%)	(Bq)
		V10	(%)	(%)	(Bq)
		V11	(%)	(%)	(Bq)
12. 各警報動作の確認 12.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	116 ±1(cps)以内				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「汚染警報動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.2 P. P警報 (測定時自動) (1) 警報設定誤差試験	164 ±1(cps)以内				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	1点検値	備考
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「P．P警報作（測定時自動）シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.3 P．P警報（BG時自動）					
(1) 警報設定誤差試験	300 ±1(cps)以内	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「P．P警報作（BG時自動）シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.4 検出器汚染動作の確認	「検出器汚染動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.5 故障警報動作の確認					
(1) 計数率０ｃｐｓ時の動作確認	「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 計数率１００００ｃｐｓ時の動作確認	「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(3) ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作確認」	「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
13. 関連動作の確認					
13.1 ゲート開閉動作の確認					
(1) 監視パネルスイッチ	正常に動作すること。	ゲートA	良・否（　　）	良・否（　　）	
		ゲートB	良・否（　　）	良・否（　　）	
(2) データ設定パネルスイッチ	正常に動作すること。	ゲートA・B	良・否（　　）	良・否（　　）	
13.2 頭検出器駆動部					
(1) 動作の確認	正常に動作すること。		良・否（　　）	良・否（　　）	
(2) 停止位置の確認	測定値	上限	（mm）	（mm）	
		下限	（mm）	（mm）	
13.3 測定動作の確認（光電スイッチ）	正常に動作すること。	手部	良・否（　　）	良・否（　　）	
		頭部	良・否（　　）	良・否（　　）	
		人体部	良・否（　　）	良・否（　　）	
13.4 正常測定動作の確認	「正常測定シーケンス表(1)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		退域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
13.5 一回目汚染再測定後正常動作の確認	「正常測定シーケンス表(2)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		退域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
13.6 汚染測定動作の確認					
(1) 汚染時ゲート駆動選択自動	「汚染測定シーケンス表(1)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		退域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
(2) 汚染時ゲート駆動選択手動	「汚染測定シーケンス表(2)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		退域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
13.7 P．P警報測定動作の確認	「P．P警報測定動作シーケンス表（測定時）」通り動作すること。				
		入域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	
		退域動作	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
13.8 通過異常動作の確認 (1) ゲート開後通過信号なし	「通過異常動作シーケンス表(1)」通り動作すること。			
	入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
	退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 測定終了後通過信号なし	「通過異常動作シーケンス表(2)」通り動作すること。			
	入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
	退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.9 不正通過動作の確認	「不正通過動作シーケンス表」通り動作すること。			
	入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
	退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
14. 積算値リセット動作の確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
15. 表示器テスト動作の確認	全ての表示器が点灯すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
16. ブザーテスト動作の確認	点検中ランプ点灯及びブザーが吹鳴すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
17. データ設定パネルモード表示ランプの確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
18. ＰＣ／ゲートモニタ電送内容の確認	データ設定部とＰＣ部のデータが同じであること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
19. 非常時全扉開動作	ゲートが開くこと。	良・否(　　)	良・否(　　)	

設置場所	再処理（ＣＢ施設）	使用線源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-715
点検場所	再処理（ＣＢ施設）	別添（有・無）	有：検出器等

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11CAF01

検査名（総合検査）

機 器 名	ゲートモニタ（MGM－221B）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．バックグウラウンド指示値の確認	250(cps)以下	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
3．点検前設定値の確認 3.1 測定時間	10秒		(秒)	(秒)	
3.2 検出効率の逆数	前回の設定値であること。 λ＝				
		V 1	λ＝	λ＝	
		V 2	λ＝	λ＝	
		V 3	λ＝	λ＝	
		V 4	λ＝	λ＝	
		V 5	λ＝	λ＝	
		V 6	λ＝	λ＝	
		V 7	λ＝	λ＝	
		V 8	λ＝	λ＝	
		V 9	λ＝	λ＝	
		V10	λ＝	λ＝	
		V11	λ＝	λ＝	
3.3 標準偏差の倍率	倍率：K＝5				

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.4 汚染レベル	自動汚染レベル：読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
3.5 P．P警報レベル (1) 測定時自動	読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) ＢG時自動	読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM−221B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.6 検出器汚染レベル	読み値	V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
4. 高圧電源の確認	900(V)±1(%)以内	HV1	(V)	(V)	
		HV2	(V)	(V)	
5. 低圧電源の確認 5.1 出力電圧	±5(%)以内	PS1 + 5(V)	(V)	(V)	
		+12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
		PS2 +12(V)	(V)	(V)	
		PS3 +12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
5.2 リップル電圧		PS1 + 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		PS2 +12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		PS3 +12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．電圧モニタ動作の確認 6.1 設定電圧の確認	+12(V)：+11.4(V)±5(%) -12(V)：-11.4(V)±5(%) PS3 +12(V)	(V)	(V)	
	-12(V)	(V)	(V)	
	900(V)：810(V)±1.0(%) HV 1	(V)	(V)	
	HV 2	(V)	(V)	
6.2 異常信号動作の確認	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」通り動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	
7．指示精度試験	入力値の±1(デジット) 以内			
	V 1 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 2 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 3 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 4 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 5 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 6 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 7 2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
	2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	V 8	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 9	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V10	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V11	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
8．バックグランドの確認	250(cps)以下	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
9．β線検出効率の測定	計数効率：15(%) 以上 換算定数：6.6 以下 (λ)				使用線源： U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) ＮＥＴ計数値 (cps)
		V 1 効率	(%)	(%)	
		V 1 λ			
		V 2 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 2 λ			

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
					NET計数値 (cps)
	V 4	効率	(%)	(%)	
		λ			
	V 5	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 6	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 7	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 8	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V 9	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V10	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V11	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
	V11	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			

項目	基準		設定値	点検値	備考
10. β線検出感度の測定	0.37(Bq/cm²)以上				使用線源: U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) 検出面積(cm²)
		V 1	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 2	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 3	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 4	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 5	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 6	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 7	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	590 (cm²)
		V 8	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 9	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V10	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V11	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	280 (cm²)

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM−221B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
11. 計算式の確認	±30(%) 以内				ゲートモニタ計算値
		V1	(%)	(%)	(Bq)
		V2	(%)	(%)	(Bq)
		V3	(%)	(%)	(Bq)
		V4	(%)	(%)	(Bq)
		V5	(%)	(%)	(Bq)
		V6	(%)	(%)	(Bq)
		V7	(%)	(%)	(Bq)
		V8	(%)	(%)	(Bq)
		V9	(%)	(%)	(Bq)
		V10	(%)	(%)	(Bq)
		V11	(%)	(%)	(Bq)
12. 各警報動作の確認 12.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	116 ±1(cps)以内				
		V1	(cps)	(cps)	
		V2	(cps)	(cps)	
		V3	(cps)	(cps)	
		V4	(cps)	(cps)	
		V5	(cps)	(cps)	
		V6	(cps)	(cps)	
		V7	(cps)	(cps)	
		V8	(cps)	(cps)	
		V9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「汚染警報動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否( )	良・否( )	
12.2 P. P警報 (測定時自動) (1) 警報設定誤差試験	195 ±1(cps)以内				
		V1	(cps)	(cps)	
		V2	(cps)	(cps)	
		V3	(cps)	(cps)	
		V4	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	1点検値	備考
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「P．P警報作（測定時自動）シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.3 P．P警報（BG時自動） (1) 警報設定誤差試験	400 ±1(cps)以内	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「P．P警報作（BG時自動）シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.4 検出器汚染動作の確認	「検出器汚染動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.5 故障警報動作の確認 (1) 計数率０ｃｐｓ時の動作確認	「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 計数率１００００ｃｐｓ時の動作確認	「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(3) ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作確認」	「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
13. 関連動作の確認					
13.1 ゲート開閉動作の確認					
(1) 監視パネルスイッチ	正常に動作すること。	ゲートA	良・否(　　)	良・否(　　)	
		ゲートB	良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) データ設定パネルスイッチ	正常に動作すること。	ゲートA・B	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.2 頭検出器駆動部					
(1) 動作の確認	正常に動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 停止位置の確認	測定値	上限	(mm)	(mm)	
		下限	(mm)	(mm)	
13.3 測定動作の確認（光電スイッチ）	正常に動作すること。	手部	良・否(　　)	良・否(　　)	
		頭部	良・否(　　)	良・否(　　)	
		人体部	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.4 正常測定動作の確認	「正常測定シーケンス表(1)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
		退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.5 一回目汚染再測定後正常動作の確認	「正常測定シーケンス表(2)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
		退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.6 汚染測定動作の確認					
(1) 汚染時ゲート駆動選択自動	「汚染測定シーケンス表(1)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
		退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 汚染時ゲート駆動選択手動	「汚染測定シーケンス表(2)」通り動作すること。				
		入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
		退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.7 P．P警報測定動作の確認	「P．P警報測定動作シーケンス表（測定時）」通り動作すること。				
		入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
		退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
13.8 通過異常動作の確認 (1) ゲート開後通過信号なし	「通過異常動作シーケンス表(1)」通り動作すること。			
	入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
	退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 測定終了後通過信号なし	「通過異常動作シーケンス表(2)」通り動作すること。			
	入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
	退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.9 不正通過動作の確認	「不正通過動作シーケンス表」通り動作すること。			
	入域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
	退域動作	良・否(　　)	良・否(　　)	
14. 積算値リセット動作の確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
15. 表示器テスト動作の確認	全ての表示器が点灯すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
16. ブザーテスト動作の確認	点検中ランプ点灯及びブザーが吹鳴すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
17. データ設定パネルモード表示ランプの確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
18. ＰＣ／ゲートモニタ電送内容の確認	データ設定部とＰＣ部のデータが同じであること。	良・否(　　)	良・否(　　)	

設置場所	再処理（ＴＶＦ施設）	使用線源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-715
点検場所	再処理（ＴＶＦ施設）	別添（有・無）	有：検出器等

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11CAF01

検査名（総合検査）

機器名	ゲートモニタ（MGM－221B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．バックグウラウンド指示値の確認	250(cps)以下	V1	(cps)	(cps)	
		V2	(cps)	(cps)	
		V3	(cps)	(cps)	
		V4	(cps)	(cps)	
		V5	(cps)	(cps)	
		V6	(cps)	(cps)	
		V7	(cps)	(cps)	
		V8	(cps)	(cps)	
		V9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
3．点検前設定値の確認 3.1 測定時間	10秒		(秒)	(秒)	
3.2 検出効率の逆数	前回の設定値であること。 λ=				
		V1	λ=	λ=	
		V2	λ=	λ=	
		V3	λ=	λ=	
		V4	λ=	λ=	
		V5	λ=	λ=	
		V6	λ=	λ=	
		V7	λ=	λ=	
		V8	λ=	λ=	
		V9	λ=	λ=	
		V10	λ=	λ=	
		V11	λ=	λ=	
3.3 標準偏差の倍率	倍率：K＝3				

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.4 汚染レベル	自動汚染レベル：読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
3.5 P．P警報レベル (1) 測定時自動	読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) ＢＧ時自動	読み値				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
4．高圧電源設定値の確認		チェック出力	(mV)	(mV)	
5．低圧電源の確認 5.1 出力電圧	±5(%)以内				
	PS1	+ 5(V)	(V)	(V)	
		+12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
	PS2	+12(V)	(V)	(V)	
	PS3	+12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
5.2 リップル電圧					
	PS1	+ 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	PS2	+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	PS3	+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
6．電圧モニタ動作の確認 6.1 設定電圧の確認	+12(V)：+11.4(V)±5(%) -12(V)：-11.4(V)±5(%)				
	PS3	+12(V)	(V)	(V)	
		-12(V)	(V)	(V)	
	900(V)：810(V)±1.0(%)				
		HV 1	(V)	(V)	
		HV 2	(V)	(V)	
6.2 異常信号動作の確認	別添の「電圧モニタ動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否（　　）	良・否（　　）	
7．指示精度試験	入力値の±1(デジット) 以内				
	V 1	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ (MGM－２２１B)	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	V 2	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 3	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 4	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 5	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 6	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 7	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 8	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 9	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V10	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V11	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
8．バックグランドの確認	250(cps)以下				
		V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
9．β線検出効率の測定	計数効率：15(%) 以上 換算定数：6.6 以下 （λ）				使用線源： U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) ＮＥＴ計数値
		V 1 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 1 λ			
		V 2 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 2 λ			
		V 3 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 3 λ			
		V 4 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 4 λ			
		V 5 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 5 λ			
		V 6 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 6 λ			
		V 7 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 7 λ			
		V 8 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 8 λ			
		V 9 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 9 λ			

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	V10	効率	(%)	(%)	NET計数値 (cps)
		λ			
	V11	効率	(%)	(%)	(cps)
		λ			
10. β線検出感度の測定	0.37(Bq/cm²)以上				使用線源： U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) 検出面積(cm²)
		V 1	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720(cm²)
		V 2	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720(cm²)
		V 3	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720(cm²)
		V 4	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140(cm²)
		V 5	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140(cm²)
		V 6	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140(cm²)
		V 7	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	590(cm²)
		V 8	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720(cm²)
		V 9	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720(cm²)
		V10	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720(cm²)
		V11	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	280(cm²)
11. 計算式の確認	±30(%) 以内				ゲートモニタ計算値
		V 1	(%)	(%)	(Bq)
		V 2	(%)	(%)	(Bq)
		V 3	(%)	(%)	(Bq)
		V 4	(%)	(%)	(Bq)
		V 5	(%)	(%)	(Bq)
		V 6	(%)	(%)	(Bq)
		V 7	(%)	(%)	(Bq)
		V 8	(%)	(%)	(Bq)
		V 9	(%)	(%)	(Bq)
		V10	(%)	(%)	(Bq)
		V11	(%)	(%)	(Bq)

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	1点検値	備考
12. 各警報動作の確認 12.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	109 ±1(cps)以内	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「汚染警報動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.2 P．P警報 （測定時自動） (1) 警報設定誤差試験	163 ±1(cps)以内	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「P．P警報作（測定時自動）シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
12.3 P．P警報（BG時自動） (1) 警報設定誤差試験	163 ±1(cps)以内	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
		V 9	(cps)	(cps)	
		V10	(cps)	(cps)	
		V11	(cps)	(cps)	
(2) 警報動作の確認	「P．P警報作（BG時自動）シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.4 検出器汚染動作の確認	「検出器汚染動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
12.5 故障警報動作の確認					
(1) 計数率０ｃｐｓ時の動作確認	「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 計数率１０００ｃｐｓ時の動作確認	「計数率１０００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(3) ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作確認」	「ゲート駆動部及び頭駆動部故障時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
13. 関連動作の確認 13.1 ゲート開閉動作の確認 (1) 監視パネルスイッチ	正常に動作すること。	ゲートA	良・否(　　)	良・否(　　)	
		ゲートB	良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) データ設定パネルスイッチ	正常に動作すること。	ゲートA・B	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.2 頭検出器駆動部 (1) 動作の確認	正常に動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
(2) 停止位置の確認	測定値	上限	(㎜)	(㎜)	
		下限	(㎜)	(㎜)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
13.3 測定動作の確認（光電スイッチ）	正常に動作すること。	手部	良・否(　)	良・否(　)	
		頭部	良・否(　)	良・否(　)	
		人体部	良・否(　)	良・否(　)	
13.4 正常測定動作の確認	「正常測定シーケンス表(1)」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
13.5 一回目汚染再測定後正常動作の確認	「正常測定シーケンス表(2)」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
13.6 汚染測定動作の確認 (1) 汚染時ゲート駆動選択自動	「汚染測定シーケンス表(1)」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
(2) 汚染時ゲート駆動選択手動	「汚染測定シーケンス表(2)」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
13.7 P．P警報測定動作の確認	「P．P警報測定動作シーケンス表（測定時）」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
13.8 通過異常動作の確認 (1) ゲート開後通過信号なし	「通過異常動作シーケンス表(1)」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
(2) 測定終了後通過信号なし	「通過異常動作シーケンス表(2)」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	
13.9 不正通過動作の確認	「不正通過動作シーケンス表」通り動作すること。	入域動作	良・否(　)	良・否(　)	
		退域動作	良・否(　)	良・否(　)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
14. 積算値リセット動作の確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
15. 表示器テスト動作の確認	全ての表示器が点灯すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
16. ブザーテスト動作の確認	点検中ランプ点灯及びブザーが吹鳴すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
17. データ設定パネルモード表示ランプの確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
18. ＰＣ／ゲートモニタ電送内容の確認	データ設定部とＰＣ部のデータが同じであること。	良・否(　　)	良・否(　　)	

設置場所	再処理（Z施設：G－２１８）	使用線源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-715
点検場所	再処理（Z施設：G－２１８）	別添（有・無）	有：検出器等

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ゲートモニタ頭部機構	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1. 外観検査				
1.1 汚れ・キズ	汚れ・キズ等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.2 昇降動作	ガタツキ・異音のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.3 頭部ケースと前後フレーム	干渉のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.4 頭部ケースとサイドカバー	引掛かりのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2. 機構検査				
2.1 モータ・減速機・リニアヘッド				
(1) モータの異音・発熱	異音・発熱のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 減速機・リニアヘッド	動作がスムーズなこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) リニアヘッド シャフト	シャフトにキズのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) ボルト・ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(5) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.2 シャフト・リンク・コンロット				
(1) シャフトの変形等	変形等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 磨耗等	磨耗等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) キー・Ω(E) リング	装着状況の良いこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.3 ギヤ（上部）				
(1) ギヤの噛み合い	適正なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) ギヤ歯の磨耗	磨耗のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) ボルト・ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.4 パンタグラフ				
(1) こすれ・磨耗	磨耗のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.5 ギヤ（下部）				
(1) ギヤの噛み合い	適正なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) ギヤ歯の磨耗	磨耗のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ頭部機構	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
(3) ボルト・ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.6 スプリング (1) 定期交換	定期交換の実施	有・無（　）	有・無（　）	
(2) キズ・変形	キズ・変形のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 引掛け部のグリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.7 リミットスイッチ (1) アクチュエータ部	変形、破損のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) スイッチ部	変形、破損のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) アームとの連動動作	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) 取付ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(5) 上上限リミットスイッチ	上昇停止状態で正常動作のこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(6) 下下限リミットスイッチ	下昇停止状態で正常動作のこと。	良・否（　）	良・否（　）	
3．寸法検査 3.1 上下ストローク (1) 上限位置	2000±20(mm)以内	(mm)	(mm)	
(2) 下限位置	1600±20(mm)以内	(mm)	(mm)	
4．その他 4.1 配線材	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ゲートモニタ頭部機構	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1. 外観検査				
1.1 汚れ・キズ	汚れ・キズ等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.2 昇降動作	ガタツキ・異音のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.3 頭部ケースと前後フレーム	干渉のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.4 頭部ケースとサイドカバー	引掛かりのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.5 ケース・カバーの取付ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．機構検査				
2.1 ギヤ（上部）				
(1) ボルト・ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) ギヤの噛み合い	ズレ：3(㎜)以内	良・否（　）	良・否（　）	
(3) ギヤ歯の磨耗	磨耗のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.2 台形ネジシャフト・ナット				
(1) シャフト・ナットの動作	動作がスムーズなこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) ネジ・ナットのガタ	ガタ・緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) ネジシャフトのキズ	キズのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.3 モータ				
(1) モータの異音・発熱	異音・発熱のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 駆動電流の測定	上昇時	(A)	(A)	
	下降時	(A)	(A)	
(3) 過負荷試験	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) ブレーキ試験	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.4 シャフト・リンク・ボールベアリング				
(1) シャフトの変形等	変形等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 磨耗等	磨耗等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) ベアリングの動作	動作がスムーズなこと。	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ頭部機構	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
(4) グリス	充分なこと。		良・否（　）	良・否（　）	
2.5 ケースウエイト (1) スプロケット・チェーン動作	動作がスムーズなこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(2) 取付ネジ・E（Ω）リング	装着状況の良いこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(3) チェーンの連結金具	装着状況の良いこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(4) ウエイト固定ネジ	緩みのないこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(5) 支柱・ストッパ	変形・緩みのないこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(6) 支柱とウエイトの動作	動作がスムーズなこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(7) グリス	充分なこと。		良・否（　）	良・否（　）	
2.6 リミットスイッチ・光電センサー (1) アクチュエータ部	変形。破損のないこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(2) スイッチ部	変形。破損のないこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(3) アームとの連動動作	動作がスムーズなこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(4) 取付ネジ	緩みのないこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(5) 光電センサーとドグ	動作がスムーズなこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(6) ドグの形状	変形。破損のないこと。		良・否（　）	良・否（　）	
(7) 上上限リミットスイッチ	上上限で正常動作すること。		良・否（　）	良・否（　）	
(8) 下下限リミットスイッチ	下下限で正常動作すること。		良・否（　）	良・否（　）	
2.7 頭検知光電センサー (1) 投・受光器の光軸	ズレのないこと。	前列	良・否（　）	良・否（　）	
		中列	良・否（　）	良・否（　）	
		後列	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 受光器ゲイン	緑ＬＥＤ点灯のこと。	前列	良・否（　）	良・否（　）	
		中列	良・否（　）	良・否（　）	
		後列	良・否（　）	良・否（　）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ頭部機構	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
3．寸法検査 3.1 上下ストローク (1) 上限位置	2000±20(mm)以内	(mm)	(mm)	
(2) 下限位置	1600±20(mm)以内	(mm)	(mm)	
4．その他 4.1 配線材	異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所	再処理（Z施設：G－218）	点 検 場 所	再処理（Z施設：G－218）

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	ゲートモニタ扉部機構	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1. 外観検査				
1.1 汚れ・キズ	汚れ・キズ等のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.2 開閉動作	ガタッキ・異音のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
1.3 シャフト	シャフト曲がりのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2．機構検査				
2.1 モータ・トルクリミッタ部				
(1) モータの異音等	異音・発熱・変色のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 取付ボルト	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) ギヤの噛み合わせ	適正なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) ギヤ噛の磨耗	磨耗のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(5) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.2 リミットスイッチ部				
(1) 本体の動作	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) 取付ボルト	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) カムとの連動動作	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) カム位置	適正なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(5) カム固定ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(6) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.3 アブソーバ部				
(1) 本体の動作	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) アーム位置	適正なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 取付ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.4 扉駆動上下ギヤ部				
(1) ギヤの噛み合わせ	適正なこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(2) ギヤ噛の磨耗	磨耗のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(3) 取付ネジ	緩みのないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
(4) グリス	充分なこと。	良・否（　）	良・否（　）	

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11CAF03

検査名（総合検査）

機 器 名	ゲートモニタ（MGM－111A）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．バックグウラウンド指示値の確認	250(cps)以下	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
3．点検前設定値の確認	年 月 日		年 月 日	年 月 日	
	時 分		時 分	時 分	
3.1 測定時間	10秒		(秒)	(秒)	
3.2 Bq換算定数	前回の設定値であること。 λ=	V 1	λ=	λ=	
		V 2	λ=	λ=	
		V 3	λ=	λ=	
		V 4	λ=	λ=	
		V 5	λ=	λ=	
		V 6	λ=	λ=	
		V 7	λ=	λ=	
		V 8	λ=	λ=	
3.3 アラームレベル自動変更用定数	K＝3	V 1			
		V 2			
		V 3			
		V 4			
		V 5			

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ （MGM－１１１A）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
3.4 固定アラーム値	W＝0	V 6			
		V 7			
		V 8			
		V 1			
		V 2			
		V 3			
		V 4			
		V 5			
		V 6			
		V 7			
		V 8			
3.5 固定ＢＧ値	n＝0	V 1			
		V 2			
		V 3			
		V 4			
		V 5			
		V 6			
		V 7			
		V 8			
4．高圧電源の確認	900(V)	HV1	(V)	(V)	
		HV2	(V)	(V)	
5．低圧電源の確認 (Pup-12-3)					
5.1 出力電圧	12(V)±0.5(V)		(V)	(V)	
	-12(V)±0.5(V)		(V)	(V)	
5.2 リップル電圧	50(mVp-p)以下	12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－１１１A）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
6．指示精度試験	入力値の±1(デジット) 以内				
	V 1	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 2	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 3	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 4	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 5	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 6	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 7	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 8	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
7．バックグランドの確認	250(cps)以下	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ （MGM－１１１A）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
8．β線検出効率の測定	計数効率：15(%) 以上 換算定数：6.6 以下 （λ）				使用線源： U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) ＮＥＴ計数値 (cps)
		V 1 効率	(%)	(%)	
		V 1 λ			
		V 2 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 2 λ			
		V 3 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 3 λ			
		V 4 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 4 λ			
		V 5 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 5 λ			
		V 6 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 6 λ			
		V 7 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 7 λ			
		V 8 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 8 λ			
9．β線検出感度の測定	0.37(Bq/cm²)以上				使用線源： U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) 検出面積(cm²)
		V 1	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 2	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 3	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 4	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 5	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 6	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 7	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 8	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	280 (cm²)

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ（MGM－１１１A）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
10. 計算式の確認	±30(%) 以内				ゲートモニタ計算値
		V 1	(%)	(%)	(Bq)
		V 2	(%)	(%)	(Bq)
		V 3	(%)	(%)	(Bq)
		V 4	(%)	(%)	(Bq)
		V 5	(%)	(%)	(Bq)
		V 6	(%)	(%)	(Bq)
		V 7	(%)	(%)	(Bq)
		V 8	(%)	(%)	(Bq)
11. 各警報動作の確認 11.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	警報設定値±5(%)以内 (104～114cps)		(cps)	(cps)	
(2) 汚染警報動作の確認	「汚染測定シーケンス表」通り動作すること。	V 1	良・否( )	良・否( )	
		V 2	良・否( )	良・否( )	
		V 3	良・否( )	良・否( )	
		V 4	良・否( )	良・否( )	
		V 5	良・否( )	良・否( )	
		V 6	良・否( )	良・否( )	
		V 7	良・否( )	良・否( )	
		V 8	良・否( )	良・否( )	
11.2 固定アラーム (1) 警報設定誤差試験	警報設定値±5(%)以内 (285～315cps)		(cps)	(cps)	
(2) 固定アラーム動作の確認	正常に動作すること。		良・否( )	良・否( )	
11.3 故障警報 (1) 計数率０ｃｐｓ時の動作確認	「計数率０ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否( )	良・否( )	
(2) 計数率１００００ｃｐｓ時の動作確認	「計数率１００００ｃｐｓ時の動作シーケンス表」通り動作すること。		良・否( )	良・否( )	
11.4 ＢＧ変動検視動作の確認	監視盤のＢＧ異常ランプ及びＡスタンド表示パネルの汚染部位５ランプが点灯すること。		良・否( )	良・否( )	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ （MGM－２２１B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	1点検値	備考
11.5 入退エラー警報動作の確認	・入退エラー警報ランプ点検、ブザーが吹鳴すること。 ・リセットができること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12. 関連動作の確認				
12.1 ゲート開閉動作の確認	手動によりゲート開閉ができること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.2 正常測定	「正常測定シーケンス表－１」通りに動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.3 一回目汚染再測定後正常	「正常測定シーケンス表－２」通りに動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.4 汚染測定動作	「汚染測定シーケンス表」通りに動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.5 測定終了後ゲート通過信号無し	１５±５秒で測定可に自動復帰すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.6 設定値プリント動作の確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.7 モニタプリント動作の確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
12.8 カウンタリセット動作の確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
13. 点検プログラム動作の確認				
13.1 点検プリント	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.2 カウンタ点検	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.3 警報動作の点検	「警報動作シーケンス表」通りに動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	

設置場所	CPF	使用線源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-715
点検場所	CPF	別添（有・無）	有：検出器等

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11CAF04

検査名（総合検査）

機器名	ゲートモニタ	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否(　　)	良・否(　　)	
2．バックグウラウンド指示値の確認	250(cps)以下	V1	(cps)	(cps)	
		V2	(cps)	(cps)	
		V3	(cps)	(cps)	
		V4	(cps)	(cps)	
		V5	(cps)	(cps)	
		V6	(cps)	(cps)	
		V7	(cps)	(cps)	
		V8	(cps)	(cps)	
3．点検前設定値の確認	年月日		年月日	年月日	
	時分		時分	時分	
3.1 測定時間	10秒		(秒)	(秒)	
3.2 Bq換算定数	前回の設定値であること。 λ=				
		V1	λ=	λ=	
		V2	λ=	λ=	
		V3	λ=	λ=	
		V4	λ=	λ=	
		V5	λ=	λ=	
		V6	λ=	λ=	
		V7	λ=	λ=	
		V8	λ=	λ=	
3.3 アラームレベル自動変更用定数	K＝2	V1			
		V2			
		V3			
		V4			
		V5			

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
3.4 固定アラーム値	W＝0	V 6			
		V 7			
		V 8			
		V 1			
		V 2			
		V 3			
		V 4			
		V 5			
		V 6			
		V 7			
		V 8			
3.5 固定ＢＧ値	n＝0	V 1			
		V 2			
		V 3			
		V 4			
		V 5			
		V 6			
		V 7			
		V 8			
4．高圧電源の確認	1000(V)	HV1	(V)	(V)	
		HV2	(V)	(V)	
5．低圧電源の確認 (Pup-12-3)					
5.1 出力電圧	12(V)±0.5(V)		(V)	(V)	
	-12(V)±0.5(V)		(V)	(V)	
5.2 リップル電圧	50(mVp-p)以下	12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
6．指示精度試験	入力値の±1(デジット) 以内				
	V 1	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 2	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 3	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 4	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 5	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 6	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 7	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
	V 8	2×10^{1}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{2}(cps)	(cps)	(cps)	
		2×10^{3}(cps)	(cps)	(cps)	
7．バックグランドの確認	250(cps)以下	V 1	(cps)	(cps)	
		V 2	(cps)	(cps)	
		V 3	(cps)	(cps)	
		V 4	(cps)	(cps)	
		V 5	(cps)	(cps)	
		V 6	(cps)	(cps)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	ゲートモニタ	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
		V 7	(cps)	(cps)	
		V 8	(cps)	(cps)	
8．β線検出効率の測定	計数効率：15(%) 以上 換算定数：6.6 以下 （λ）				使用線源: U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) ＮＥＴ計数値
		V 1 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 1 λ			
		V 2 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 2 λ			
		V 3 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 3 λ			
		V 4 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 4 λ			
		V 5 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 5 λ			
		V 6 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 6 λ			
		V 7 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 7 λ			
		V 8 効率	(%)	(%)	(cps)
		V 8 λ			
9．β線検出感度の測定	0.37(Bq/cm²)以上				使用線源: U_3O_8(協-715) β線換算値(567cps) 検出面積(cm²)
		V 1	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 2	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 3	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	140 (cm²)
		V 4	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 5	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 6	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 7	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	720 (cm²)
		V 8	(Bq/cm²)	(Bq/cm²)	280 (cm²)

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
10. 計算式の確認	±30(%) 以内				ゲートモニタ計算値
		V1	(%)	(%)	(Bq)
		V2	(%)	(%)	(Bq)
		V3	(%)	(%)	(Bq)
		V4	(%)	(%)	(Bq)
		V5	(%)	(%)	(Bq)
		V6	(%)	(%)	(Bq)
		V7	(%)	(%)	(Bq)
		V8	(%)	(%)	(Bq)
11. 各警報動作の確認 11.1 汚染警報 (1) 警報設定誤差試験	警報設定値±5(%)以内 (101～111cps)		(cps)	(cps)	
(2) 汚染警報動作の確認	「汚染測定シーケンス表」通り動作すること。	V1	良・否( )	良・否( )	
		V2	良・否( )	良・否( )	
		V3	良・否( )	良・否( )	
		V4	良・否( )	良・否( )	
		V5	良・否( )	良・否( )	
		V6	良・否( )	良・否( )	
		V7	良・否( )	良・否( )	
		V8	良・否( )	良・否( )	
11.2 P．P警報動作 (1) 測定時	「P．P測定シーケンス(1)測定時」通り動作すること。	V1	良・否( )	良・否( )	
		V2	良・否( )	良・否( )	
		V3	良・否( )	良・否( )	
		V4	良・否( )	良・否( )	
		V5	良・否( )	良・否( )	
		V6	良・否( )	良・否( )	
		V7	良・否( )	良・否( )	
		V8	良・否( )	良・否( )	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
(2) BG監視時	「P．P測定シーケンス(2)BG監視時」通り動作すること。			
	V1	良・否( )	良・否( )	
	V2	良・否( )	良・否( )	
	V3	良・否( )	良・否( )	
	V4	良・否( )	良・否( )	
	V5	良・否( )	良・否( )	
	V6	良・否( )	良・否( )	
	V7	良・否( )	良・否( )	
	V8	良・否( )	良・否( )	
11.3 故障警報 (1) 計数率0cps時の動作確認	「計数率0cps時の動作シーケンス表」通り動作すること。	良・否( )	良・否( )	
(2) 計数率10000cps時の動作確認	「計数率10000cps時の動作シーケンス表」通り動作すること。	良・否( )	良・否( )	
11.4 BG変動検視動作の確認	監視盤のBG異常ランプ及びAスタンド表示パネルの汚染部位5ランプが点灯すること。	良・否( )	良・否( )	
11.5 入退エラー警報動作の確認	・入退エラー警報ランプ点灯、ブザーが吹鳴すること。	良・否( )	良・否( )	
12. 関連動作の確認 12.1 ゲート開閉動作の確認	手動によりゲート開閉ができること。	良・否( )	良・否( )	
12.2 正常動作	「正常測定シーケンス表－1」通りに動作すること。	良・否( )	良・否( )	
12.3 一回目汚染再測定後正常	「正常測定シーケンス表－2」通りに動作すること。	良・否( )	良・否( )	
12.4 汚染測定動作	「汚染測定シーケンス表」通りに動作すること。	良・否( )	良・否( )	
12.5 測定終了後ゲート通過信号無し	15±5秒で測定可に自動復帰すること。	良・否( )	良・否( )	
12.6 設定値プリント動作の確認	正常に動作すること。	良・否( )	良・否( )	
12.7 モニタプリント動作の確認	正常に動作すること。	良・否( )	良・否( )	
12.8 カウンタリセット動作の確認	正常に動作すること。	良・否( )	良・否( )	

点検整備記録書

機器名	ゲートモニタ	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	1点検値	備考
13. 点検プログラム動作の確認				
13.1 点検プリント	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.2 カウンタ点検	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
13.3 警報動作の点検	「警報動作シーケンス表」通りに動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	

設置場所	ウラン共通（J棟）	使用線源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-715
点検場所	ウラン共通（J棟）	別添（有・無）	有：検出器等

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAD02

検査名（総合検査）

機器名	GM管式サーベイメータ（TGS－111）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

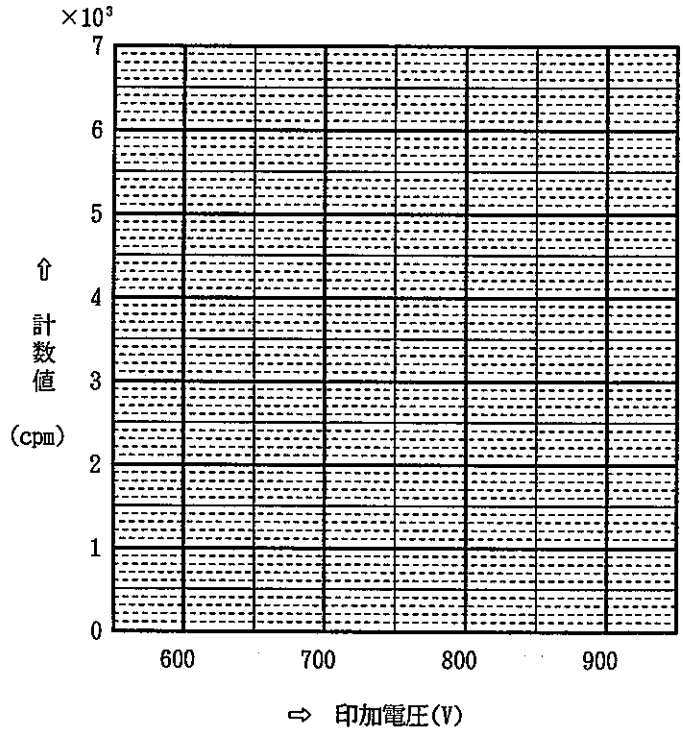
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.0±0.5(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	-3.0(V)±10(%)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	750±50(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
4.2 プラトー傾斜	15(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．入力感度測定	-50(mV) ～-100(mV)	(mV)	(mV)	
7．時定数測定 3×10^4(cpm)レンジ	3(sec) ： 2.1～4.5(sec)	(sec)	(sec)	
3×10^2(cpm)レンジ	10(sec) ： 7 ～ 15(sec)	(sec)	(sec)	
8．指示調整 2×10^2(cpm)	フルスケールの±5(%)以内	(cpm)	(cpm)	
2×10^3(cpm)		(cpm)	(cpm)	
2×10^4(cpm)		(cpm)	(cpm)	
9．バックグラウンドの測定	0.5(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
10．線源校正 10.1 校正定数 1.5(μSv/h) レンジ	各レンジとも1±0.3 以内			
15(μSv/h) レンジ				
150(μSv/h) レンジ				
10.2 直線性	基準値±20(%) 又は、最大目盛値±6(%)以内 15(μSv/h) レンジ	良・否（　　）	良・否（　　）	基準値は10.1項で描いた直線上の点
11．計数音チェック	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	GM管式サーベイメータ（TGS－111）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
12. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
	計数開始
600	
650	
700	
750	
800	
850	
900	

使用電圧　：　　(V)

設置場所	核燃料サイクル工学研修室	使用線源	^{137}Cs:5.55(MBq),7.4(GBq)、^{90}Sr(チェック ソース)
点検場所	校　正　室	別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAD03

検査名（総合検査）

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－113）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

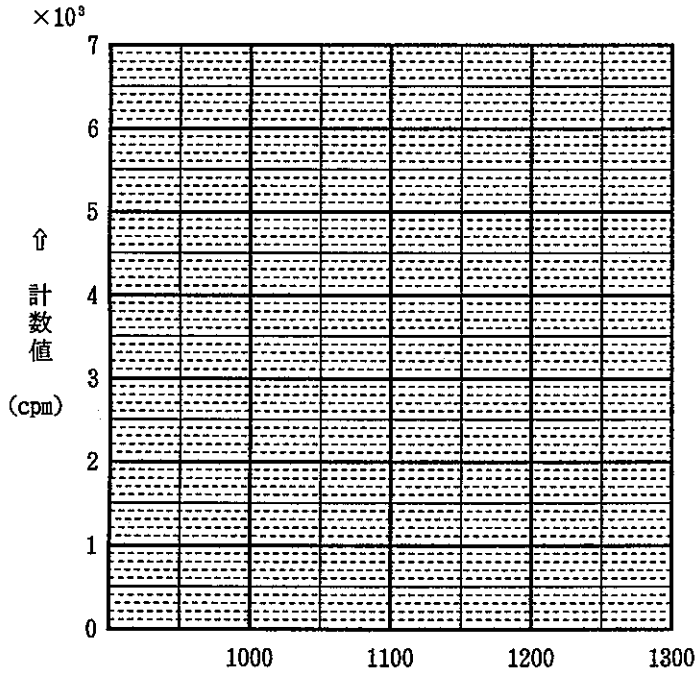
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.0±0.5(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	-3.0(V)±10(%)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1100±100(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
4.2 プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．アンプゲイン調整	-300(mV)	(mV)	(mV)	
7．ディスクリ設定	-100(mV)	(mV)	(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	2.0(V)以上	(V)	(V)	
9．指示調整	各レンジとも フルスケールの±5(%)以内			
6.0 ×10¹(cpm)		×10¹(cpm)	×10¹(cpm)	
1.8 ×10²(cpm)		×10²(cpm)	×10²(cpm)	
6.0 ×10²(cpm)		×10²(cpm)	×10²(cpm)	
1.8 ×10³(cpm)		×10³(cpm)	×10³(cpm)	
6.0 ×10³(cpm)		×10³(cpm)	×10³(cpm)	
1.8 ×10⁴(cpm)		×10⁴(cpm)	×10⁴(cpm)	
10. 時定数 3(sec)	2.1～4.5(sec)	(sec)	(sec)	
10(sec)	7～15 (sec)	(sec)	(sec)	
30(sec)	21～45 (sec)	(sec)	(sec)	
11. 計数効率	15(%) 以上	(%)	(%)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－113）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
12. バックグラウンドの測定	100(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
13. 計数音回路の良・否	正常に動作すること。	良・否 ( )	良・否 ( )	
14. ＡＣ電源部の良・否	出力電圧 -6±0.3(V)以内	(V)	(V)	
15. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否 ( )		

プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
	計数開始
１０００	
１０５０	
１１００	
１１５０	
１２００	
１２５０	

使用電圧 ： (V)

設 置 場 所		使 用 線 源	⁹⁰Ｓｒ（ﾁｪｯｸ ｿｰｽ）、協－1320
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAD04

検査名（総合検査）

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－123B）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

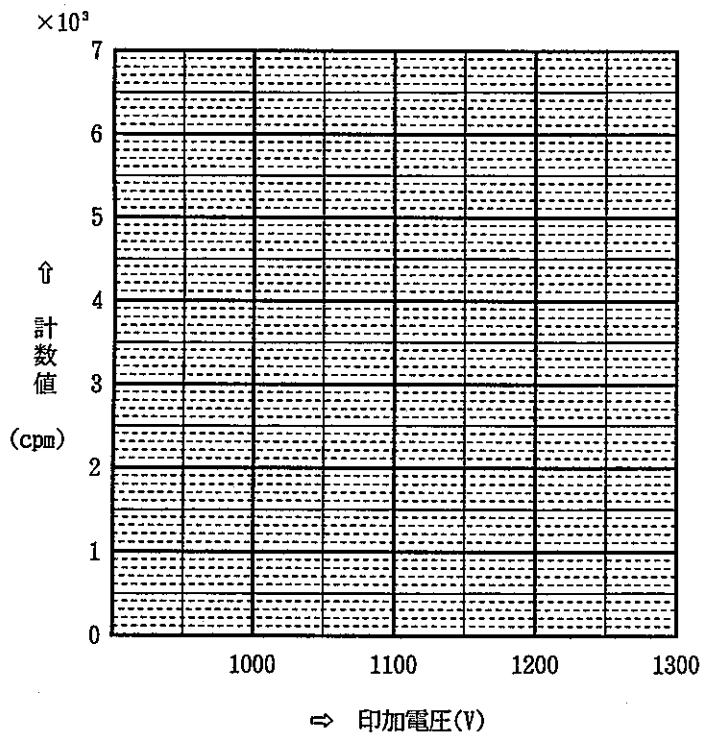
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	5.0～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.0±0.5(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	CP_2 ：10.0～11.0(V)	(V)	(V)	
	CP_3 ：2.50±0.10(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1100±100(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
4.2 プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．アンプゲイン	出力 250～350(mV)	(mV)	(mV)	
7．ディスクリ設定	-100(mV)	(mV)	(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	-6.6(V)以上	(V)	(V)	
9．指示調整	各レンジとも フルスケールの±5(%)以内			
6.0 ×10^1(cpm)		×10^1(cpm)	×10^1(cpm)	
1.8 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
6.0 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
1.8 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
6.0 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
1.8 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
6.0 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
10．時定数 3(sec)	2.1～4.5(sec)	(sec)	(sec)	
10(sec)	7～15 (sec)	(sec)	(sec)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－123B）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
30(sec)	21～45 (sec)	(sec)	(sec)	
11. 計数効率	15(%) 以上	(%)	(%)	
12. バックグラウンドの測定	100(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
13. 計数音回路の良・否	正常に動作すること。	良・否 ( )	良・否 ( )	
14. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否 ( )		

プラトー測定



印加電圧(V)	計数率(cpm)
	計数開始
1000	
1050	
1100	
1150	
1200	
1250	

使用電圧 : (V)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{90}Sr (チェック ソース) 、協－1320
点 検 場 所		別添 (有・無)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAD05

検査名（総合検査）

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－123C）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

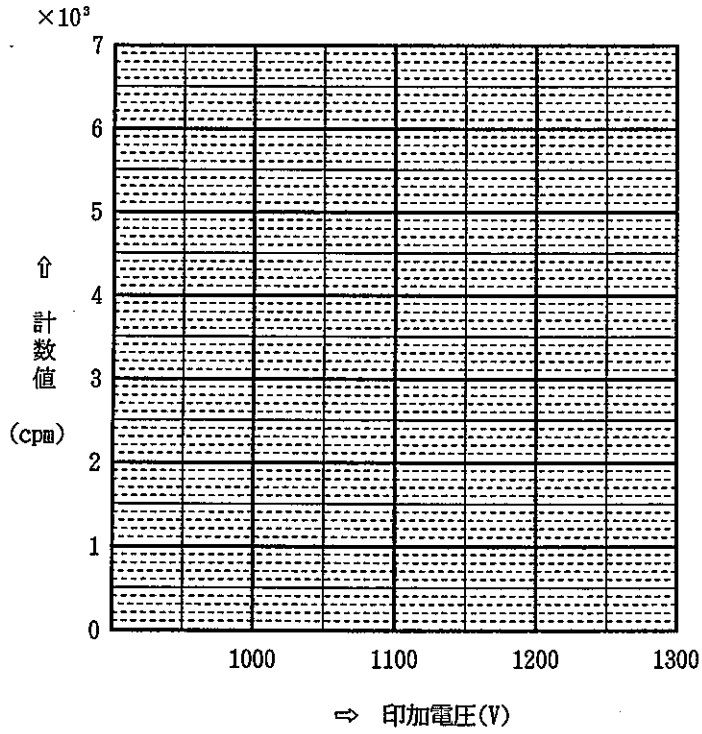
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	5.0～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5±0.5(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	CP_2 ：10.0～11.0(V)	(V)	(V)	
	CP_3 ：2.50±0.10(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1100±100(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
4.2 プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．アンプゲイン	出力 250～350(mV)	(mV)	(mV)	
7．ディスクリ設定	-100(mV)	(mV)	(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	-6.6(V)以上	(V)	(V)	
9．指示調整	各レンジとも フルスケールの±5(%)以内			
6.0 ×10^1(cpm)		×10^1(cpm)	×10^1(cpm)	
1.8 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
6.0 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
1.8 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
6.0 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
1.8 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
6.0 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
10．時定数 3(sec)	2.1～4.5(sec)	(sec)	(sec)	
10(sec)	7～15 (sec)	(sec)	(sec)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－123C）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
30(sec)	21～45（sec）	（sec）	（sec）	
11. 計数効率	15(%) 以上	(%)	(%)	
12. バックグラウンドの測定	100（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	
13. 計数音回路の良・否	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
14. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
	計数開始
1000	
1050	
1100	
1150	
1200	
1250	

使用電圧 ： (V)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{90}Sr（ﾁｪｯｸ ｿｰｽ）、協－1320
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAD06

検査名（総合検査）

機器名	GM管式サーベイメータ（TGS－133）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

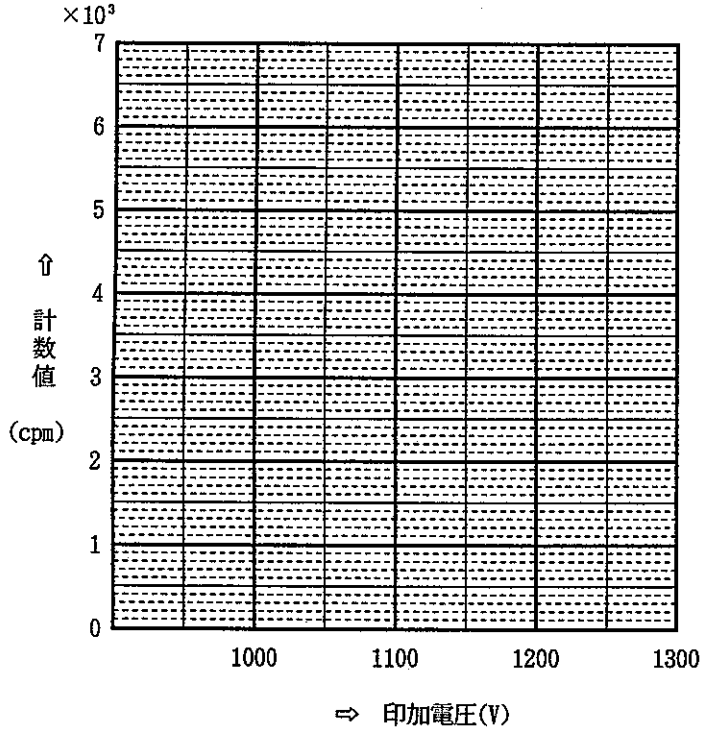
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.8～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5±0.3(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	P_1㉔ ： 4.50±0.40(V)	(V)	(V)	
	$P_1$① ： 4.00±0.35(V)	(V)	(V)	
	$P_1$⑥ ： -4.00±0.35(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1100±100(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
4.2 プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．アンプゲインの確認	出力-200～-300(mV)	(mV)	(mV)	
7．ディスクリ設定	-100(mV)	(mV)	(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	-3.6(V)以上	(V)	(V)	
9．指示調整	各レンジともフルスケールの±3(%)以内			
6.0 ×10^1(cpm)		×10^1(cpm)	×10^1(cpm)	
1.8 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
6.0 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
1.8 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
6.0 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
1.8 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
6.0 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
10．時定数 3(sec)	2.1～4.5(sec)	(sec)	(sec)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	GM管式サーベイメータ（TGS－133）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
10(sec)	7～15 (sec)	(sec)	(sec)	
30(sec)	21～45 (sec)	(sec)	(sec)	
11. 計数効率	15(%)以上	(%)	(%)	
12. バックグラウンドの測定	100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
13. 計数音回路の良・否	正常に動作すること。	良・否 ( )	良・否 ( )	
14. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否 ( )		

プラトー測定



印加電圧(V)	計数率(cpm)
	計数開始
1000	
1050	
1100	
1150	
1200	
1250	

使用電圧 : (V)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{90}Sr (ﾁｪｯｸ ｿｰｽ) 、協－1320
点 検 場 所		別添 (有・無)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAD07

検査名（総合検査）

機器名	GM管式サーベイメータ（TGS－136）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.8～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5±0.3(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	P_1㉔　：　4.50±0.40(V)	(V)	(V)	
	$P_1$①　：　4.00±0.35(V)	(V)	(V)	
	$P_1$⑥　：　-4.00±0.35(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1100±100(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 プラトー領域	150(V)以上	(V)	(V)	
4.2 プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．アンプゲインの確認	出力-200～-300(mV)	(mV)	(mV)	
7．ディスクリ設定	-100(mV)	(mV)	(mV)	
8．波高選別回路の波形観測	-3.6(V)以上	(V)	(V)	
9．指示調整 9.1 メータ指示	各レンジとも フルスケールの±3(%)以内			
6.0 ×10^1(cpm)		×10^1(cpm)	×10^1(cpm)	
1.8 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
6.0 ×10^2(cpm)		×10^2(cpm)	×10^2(cpm)	
1.8 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
6.0 ×10^3(cpm)		×10^3(cpm)	×10^3(cpm)	
1.8 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	
6.0 ×10^4(cpm)		×10^4(cpm)	×10^4(cpm)	

点検整備記録書

機器名	GM管式サーベイメータ（TGS－133）	機器No.	TAG. No. SER. No.

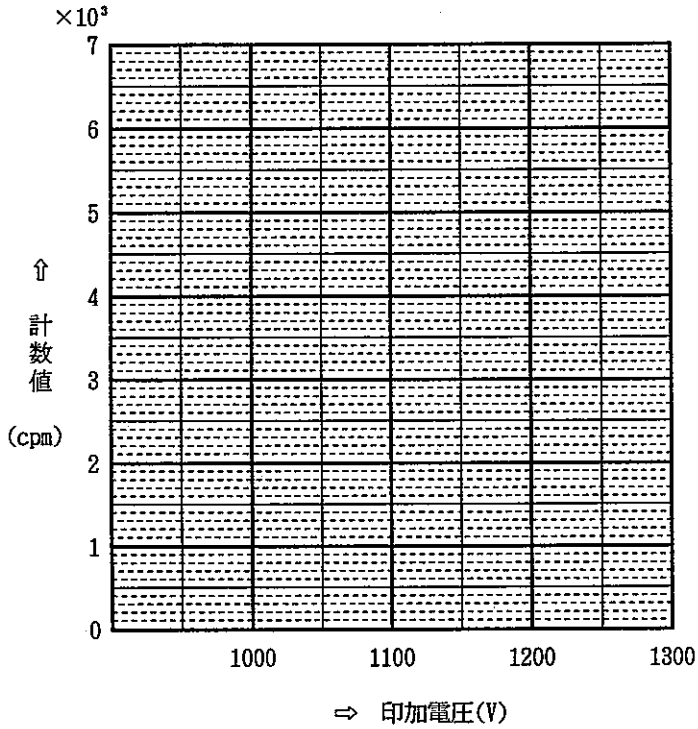
項目	基準	設定値	点検値	備考
9.2 デジタル指示	各レンジとも メータ指示値±3(%)以内			
6.0 ×10¹(cpm)		(cpm)	(cpm)	
1.8 ×10²(cpm)		(cpm)	(cpm)	
6.0 ×10²(cpm)		(cpm)	(cpm)	
1.8 ×10³(cpm)		(cpm)	(cpm)	
6.0 ×10³(cpm)		×10³(cpm)	×10³(cpm)	
1.8 ×10⁴(cpm)		×10³(cpm)	×10³(cpm)	
6.0 ×10⁴(cpm)		×10³(cpm)	×10³(cpm)	
10. 時定数 3(sec)	2.1～4.5(sec)	(sec)	(sec)	
10(sec)	7～15 (sec)	(sec)	(sec)	
30(sec)	21～45 (sec)	(sec)	(sec)	
11. スケーラモードの確認 11.1 計数精度	600 ±6(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	(ｶｳﾝﾄ)	
11.2 測定時間	6 ±1(sec)以内	(sec)	(sec)	
11.3 ｶｳﾝﾄ表示動作の確認	正常に動作すること。	良・否 ( )	良・否 ( )	
11.4 ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ 動作の確認	正常に動作すること。	良・否 ( )	良・否 ( )	
12. 計数効率	15(%)以上	(%)	(%)	
13. バックグラウンドの測定	100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
14. 計数音回路の良・否	正常に動作すること。	良・否 ( )	良・否 ( )	
15. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否 ( )		

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	GM管式サーベイメータ （TGS－133）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考

プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
	計数開始
1000	
1050	
1100	
1150	
1200	
1250	

使用電圧 ： (V)

設 置 場 所		使 用 線 源	^{90}Sr（ﾁｪｯｸ ｿｰｽ）、協－1320
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE01

検査名（総合検査）

機器名	電離箱式サーベイメータ（808　　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	9.0～13.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	9.0(V)以上	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの確認	0.3(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数 10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
100(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	* 基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

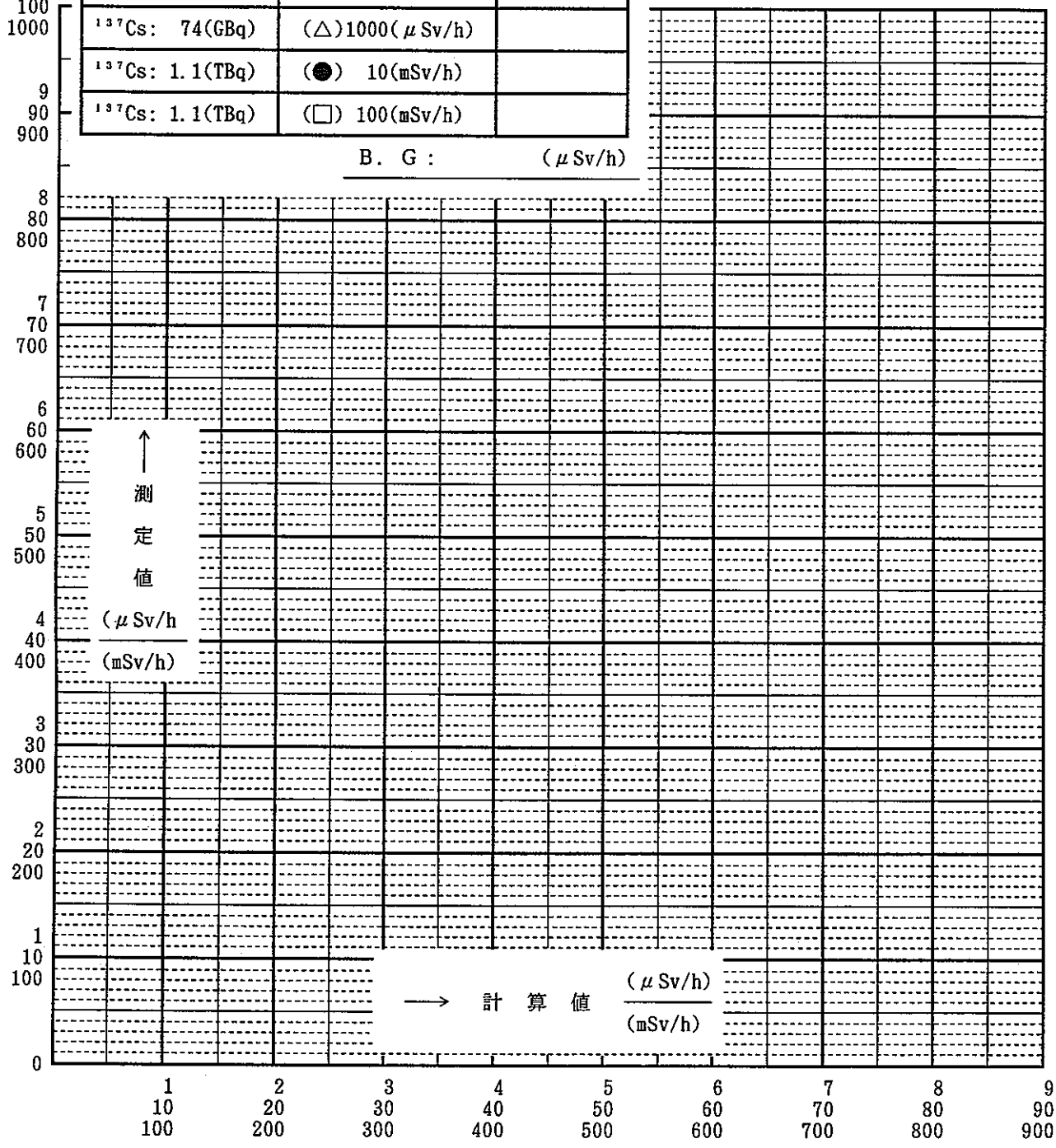
設置場所		使用線源	^{137}Cs: 555(MBq), 7.4(GBq), 74(GBq), 1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×) 10(μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○) 100(μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△)1000(μSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●) 10(mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(□) 100(mSv/h)	

B. G : (μSv/h)



点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE02

検査名（総合検査）

機器名	電離箱式サーベイメータ（808DMW）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B： 5.5～6.9(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.5～-6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B： 5.0±0.1(V)	(V)	(V)	
3．BL調整	零付近に調整がなされていること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
5．線源校正 5.1 校正定数 10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
100(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
5.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
5.3 オートレンジの動作確認	自動的に切換わること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．メモリー機能の確認	データが正常に出力されること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．表示部の良・否	正常に表示及び点灯すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
8．レンジ切換動作の良・否	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

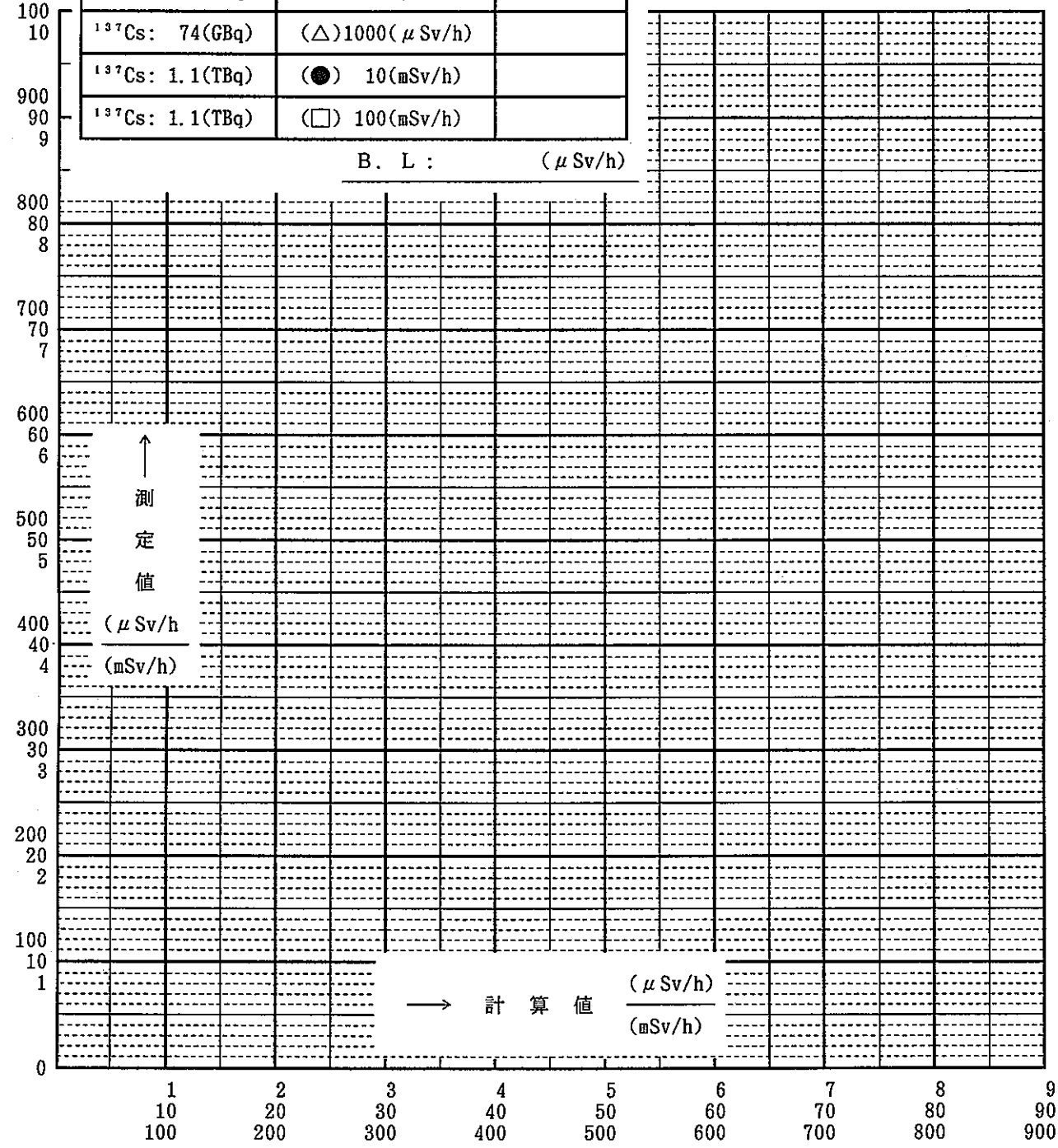
設置場所		使用線源	^{137}Cs: 555(MBq),7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ（ 808DMW ）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×) 10(μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○) 100(μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△)1000(μSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●) 10(mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(□) 100(mSv/h)	

B. L : (μSv/h)



点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE03

検査名（総合検査）

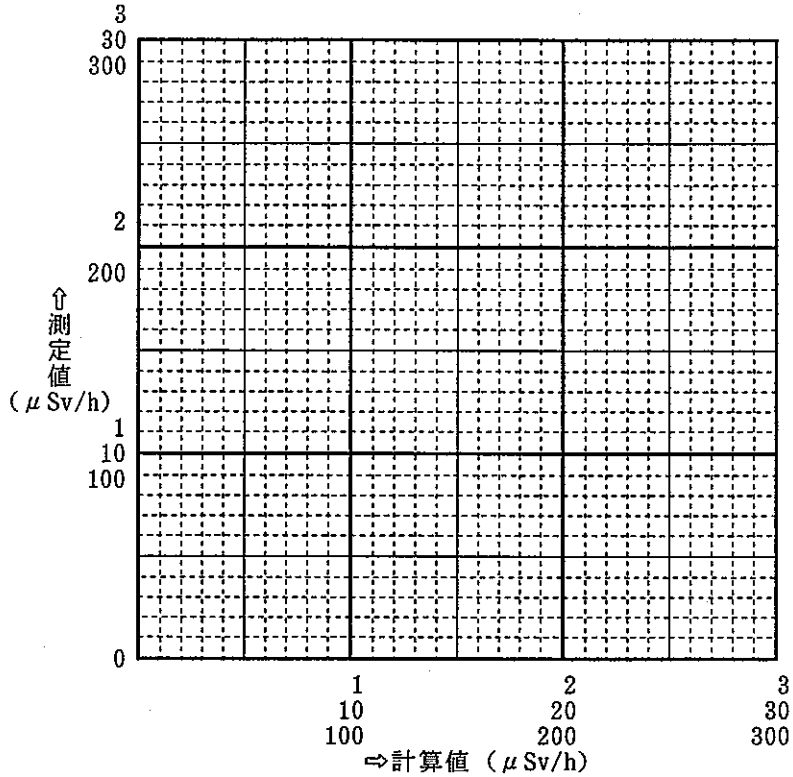
機器名	電離箱式サーベイメータ（AE－133　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B：10.0 ～ 20.7(V)	(V)	(V)	
	－B：-10.0 ～ -20.7(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B：10.0(V)以上	(V)	(V)	
2.3 検出器印加電圧	-22.5～-25.9(V)	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの確認	0.3(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数 3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
300(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs：555(MBq),7.4(GBq),74(GBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

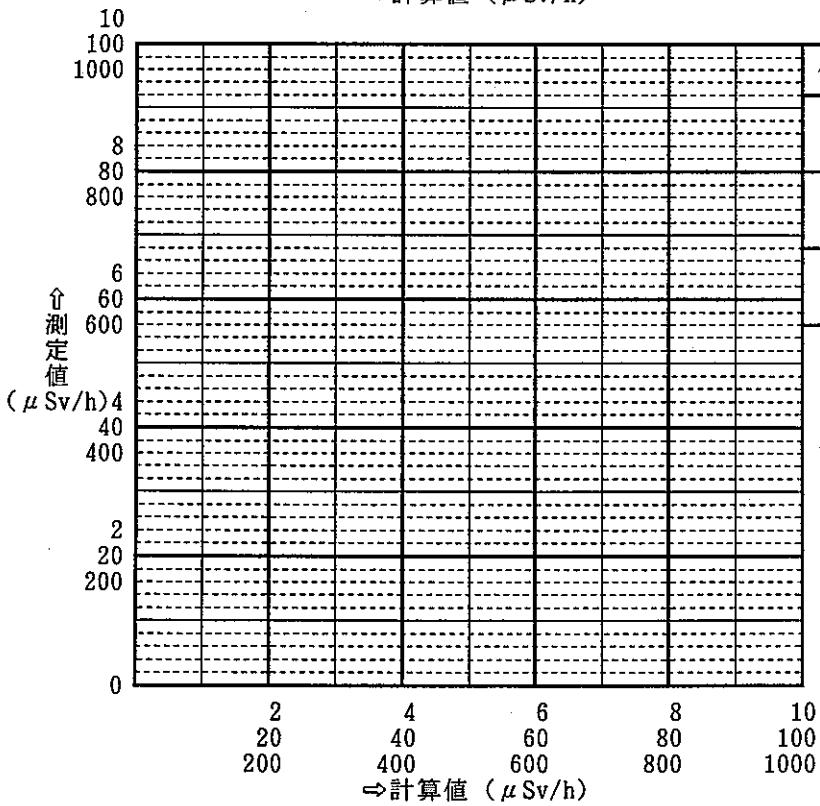
電離箱式サーベイメータ（　　）

SER. No.



使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×):3 (μSv/h)	
^{137}Cs: 0.56(GBq)	(○):30 (μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(△):300 (μSv/h)	

B. G：　　(μSv/h)



使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×):10 (μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○):100 (μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△):1000 (μSv/h)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE04

検査名（総合検査）

機器名	電離箱式サーベイメータ（AE－133H　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B：10.0 ～ 20.7(V)	(V)	(V)	
	－B：-10.0 ～ -20.7(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B：10.0(V)以上	(V)	(V)	
2.3 検出器印加電圧	-22.5～-25.9(V)	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの確認	0.005(mSv/h)以下	(mSv/h)	(mSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数 0.2(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
2(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
20(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
200(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

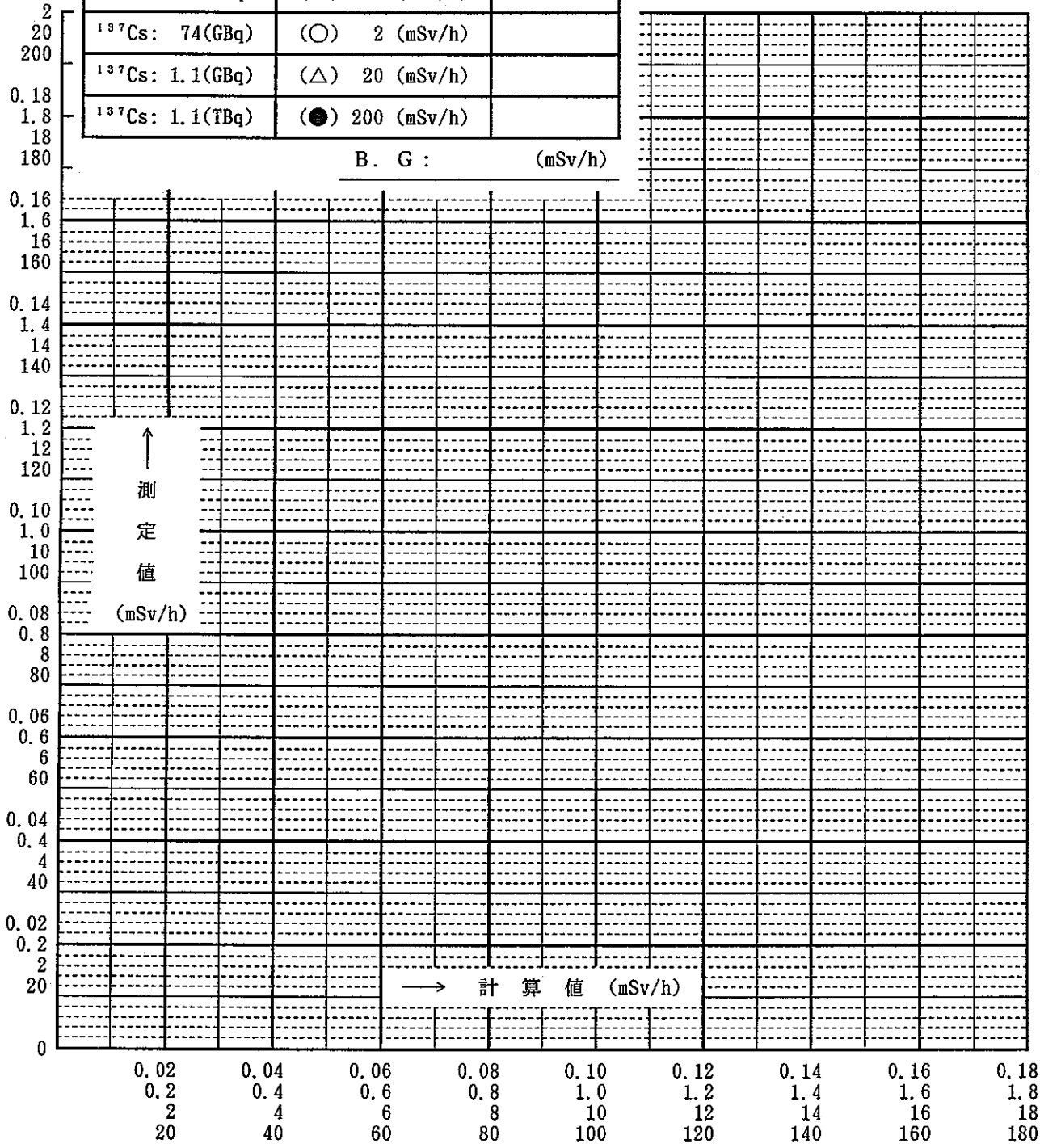
設置場所		使用線源	^{137}Cs：7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ（AE-133H）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(×) 0.2 (mSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(○) 2 (mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(GBq)	(△) 20 (mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●) 200 (mSv/h)	

B. G : (mSv/h)



点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAE05

検査名（総合検査）

機 器 名	電離箱式サーベイメータ（ICS－151）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B： 5.5～ 6.9(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.5～-6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B： 5.0± 0.5(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.0± 0.5(V)	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．バックグラウンドの確認	0.3(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数 10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

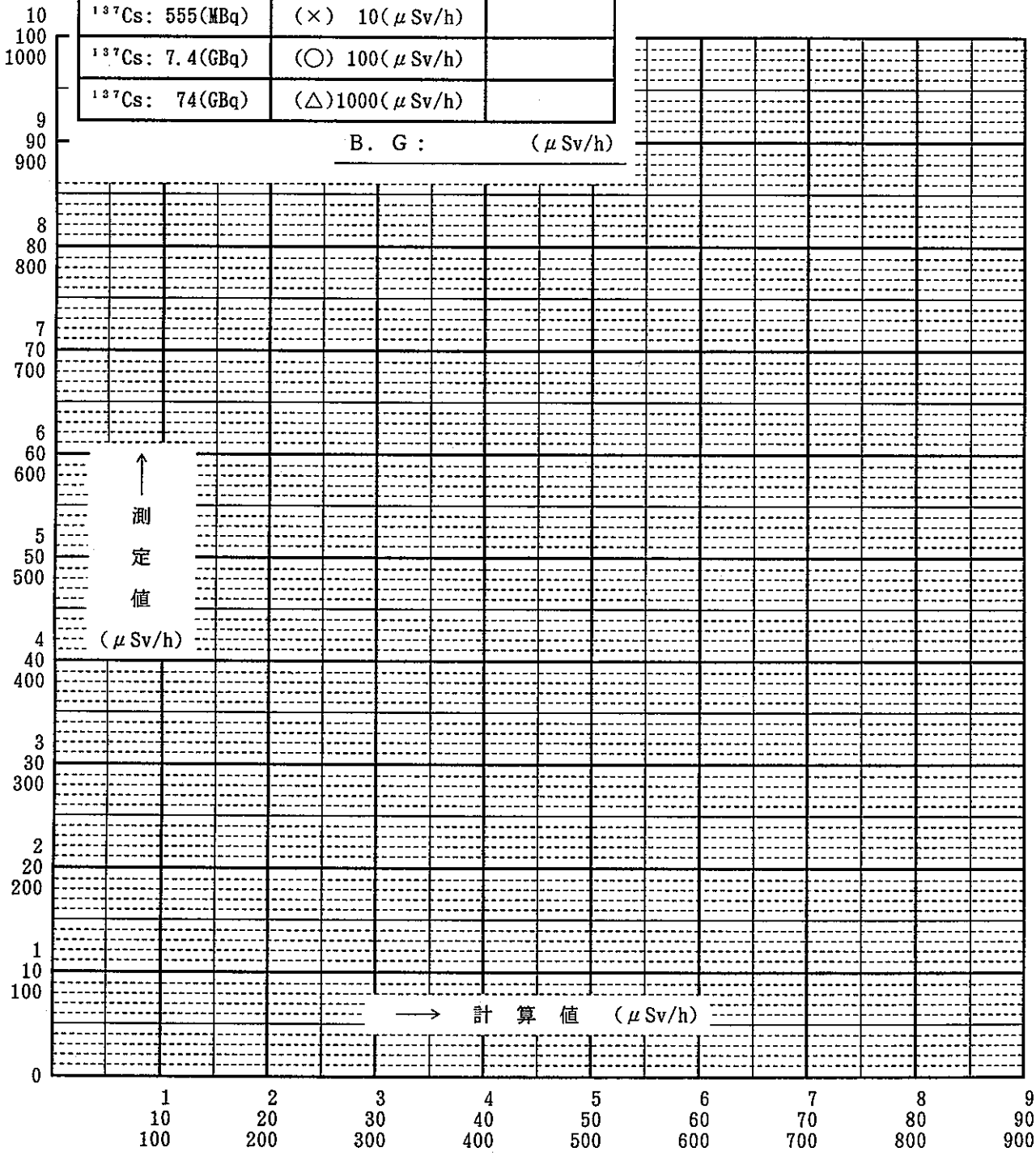
設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs ： 555(MBq),7.4(GBq),74(GBq)
点 検 場 所	校 正 室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ（ICS－151）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×) 10(μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○) 100(μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△)1000(μSv/h)	

B. G : (μSv/h)



点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE06

検査名（総合検査）

機器名	電離箱式サーベイメータ（ICS－151U）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B： 5.5～ 6.9(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.5～-6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B： 5.0± 0.5(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.0± 0.5(V)	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．バックグラウンドの確認	0.3(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数 10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

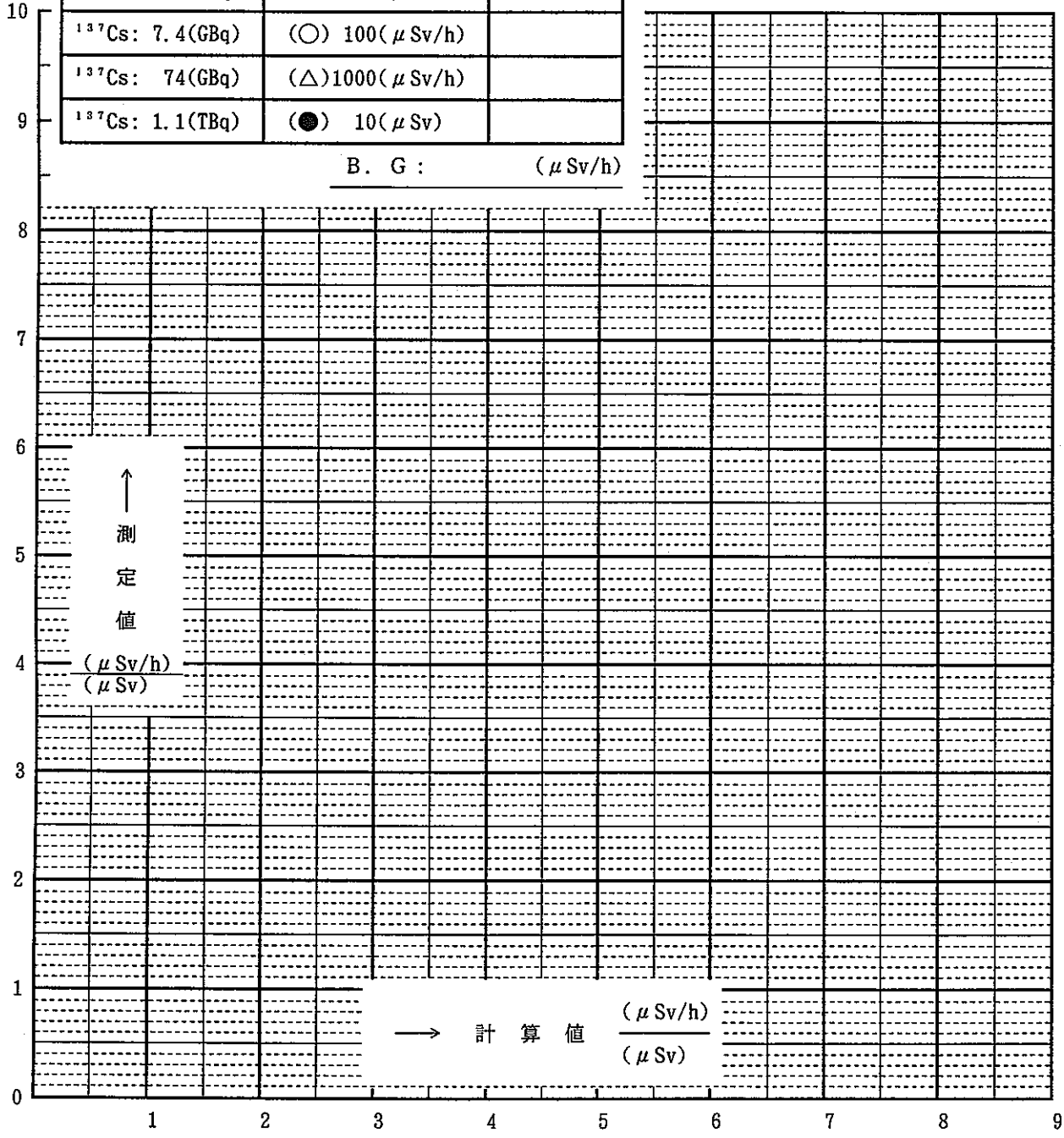
設置場所		使用線源	^{137}Cs: 555(MBq),7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ（ICS-151U）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×) 10(μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○) 100(μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△)1000(μSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●) 10(μSv)	

B. G : (μSv/h)



点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE06

検査名（総合検査）

機器名	電離箱式サーベイメータ（ICS－151U）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B：5.5～6.9(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.5～-6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B：5.0± 0.5(V)	(V)	(V)	
	－B：-5.0± 0.5(V)	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの確認	0.3(μSv/h) 以下	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．線源校正 7.1 校正定数 10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10000(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

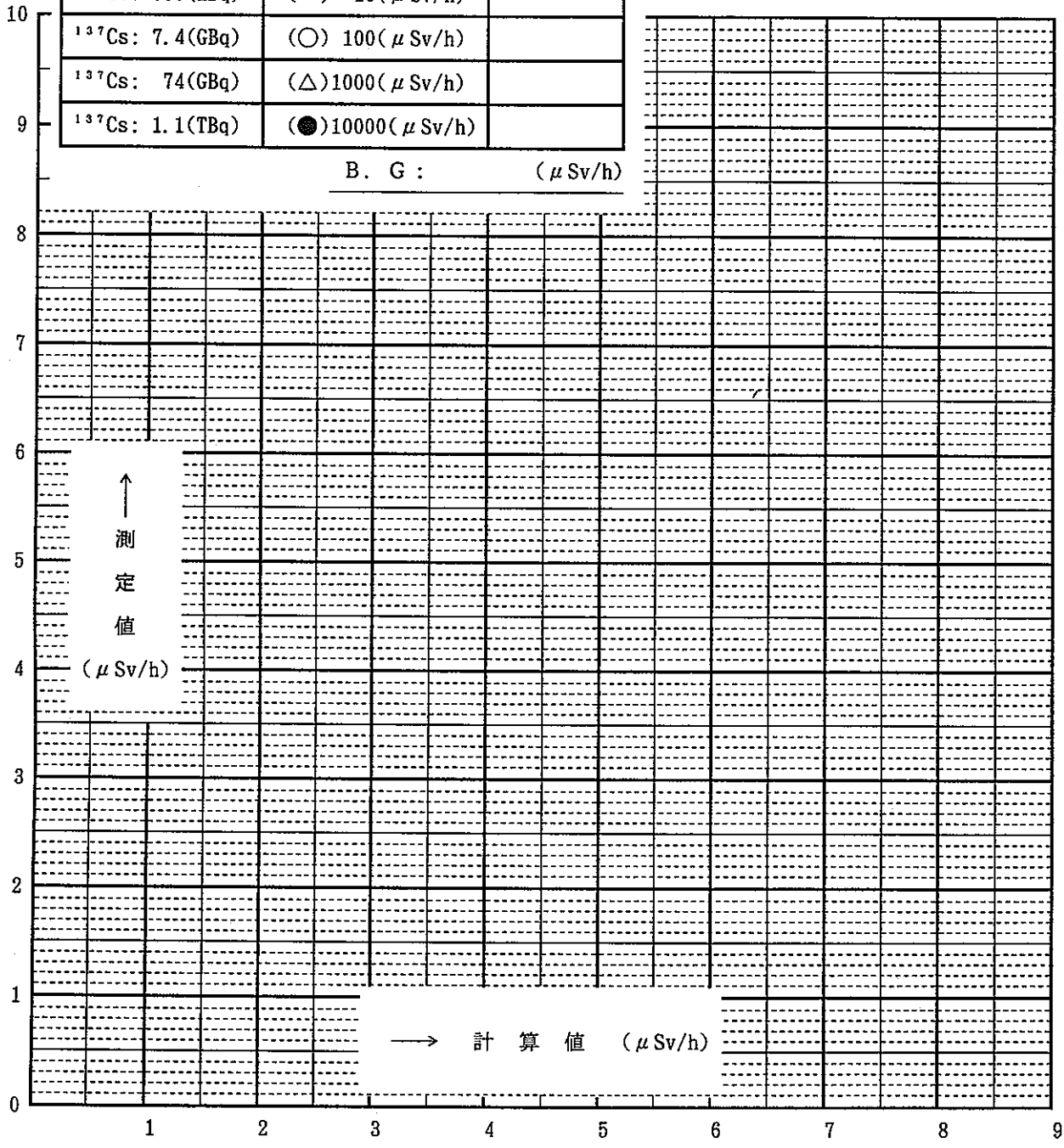
設置場所		使用線源	^{137}Cs: 555(MBq),7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ（ICS-151U）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×) 10(μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○) 100(μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△)1000(μSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●)10000(μSv/h)	

B. G : (μSv/h)



点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAE07

検査名（総合検査）

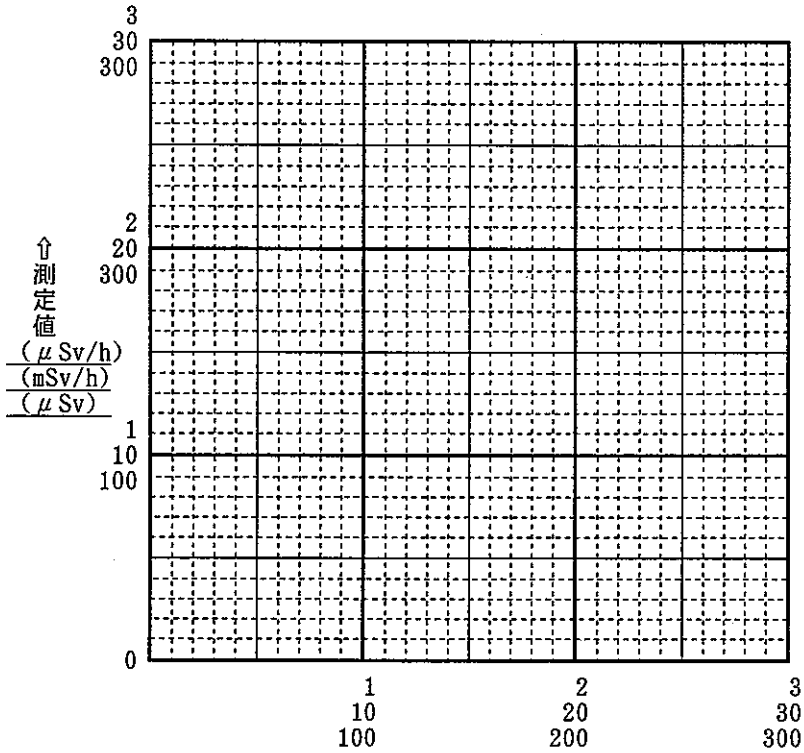
機 器 名	電離箱式サーベイメータ（ICS－311）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体外部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	＋B： 5.0(V)以上	(V)	(V)	
	－B：-5.0(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	＋B： 5.0±0.5(V)以内	(V)	(V)	
	－B：-5.0±0.5(V)以内	(V)	(V)	
3．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±2(%) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6．バックグラウンドの確認	0.3(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数 10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも1±0.3 以内			
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
100(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
300(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(mSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(μSv)ﾚﾝｼﾞ				
10(μSv)ﾚﾝｼﾞ				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs: 555(MBq), 7.4(GBq), 74(GBq), 1.11(TBq)
点 検 場 所	校 正 室	別添（有・無）	グラフ

電離箱式サーベイメータ（　　）

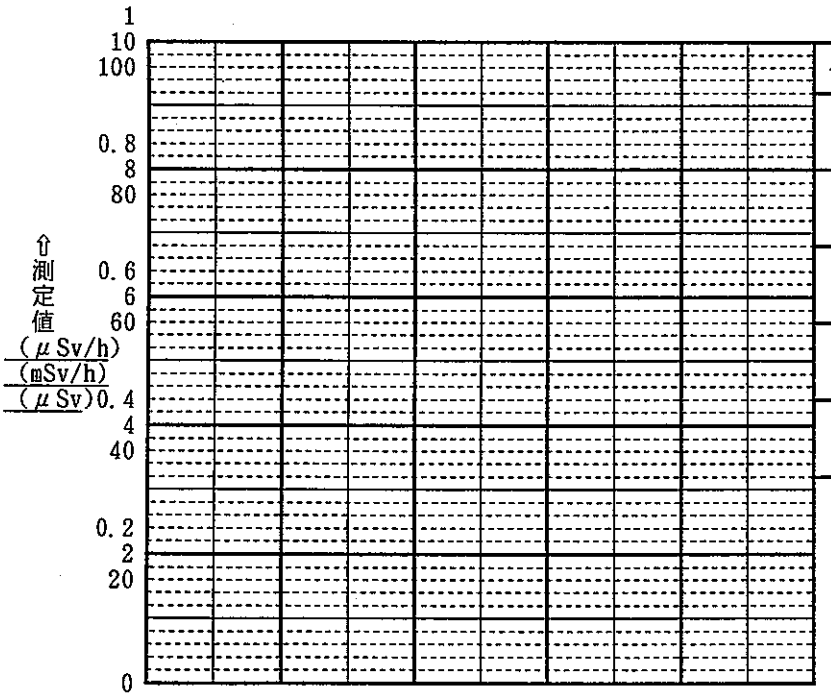
SER. No



使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×): 30 (μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○):300 (μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△): 3 (mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●): 3 (μSv)	

B. G :　　(μSv/h)

1 2 3
10 20 30 ⇨計算値 (μSv/h) (mSv/h) (μSv)
100 200 300



使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 555(MBq)	(×):10 (μSv/h)	
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(○):100 (μSv/h)	
^{137}Cs: 74(GBq)	(△): 1 (mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(●): 10 (mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(□): 10 (μSv)	

0.2 0.4 0.6 0.8 1
2 4 6 8 10 ⇨計算値 (μSv/h) (mSv/h) (μSv)
20 40 60 80 100

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE09

検査名（総合検査）

機器名	低エネルギーγ線サーベイメータ（ICS－R74－2158）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5 ～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5(V)以上	(V)	(V)	
2.3 出力電圧	24.0± 1.0(V)	(V)	(V)	
3．検出器印加電圧	-60.0(V)以上	(V)	(V)	
4．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ドリフトチェック	最大目盛値±3(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．バックグラウンドの確認	0.1(mSv/h)以下	(mSv/h)	(mSv/h)	
8．線源校正 8.1 校正定数 1(mSv/h)レンジ	各レンジとも1 ±0.3 以内			
10(mSv/h)レンジ				
100(mSv/h)レンジ				
8.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は8.1項で描いた直線上の点
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

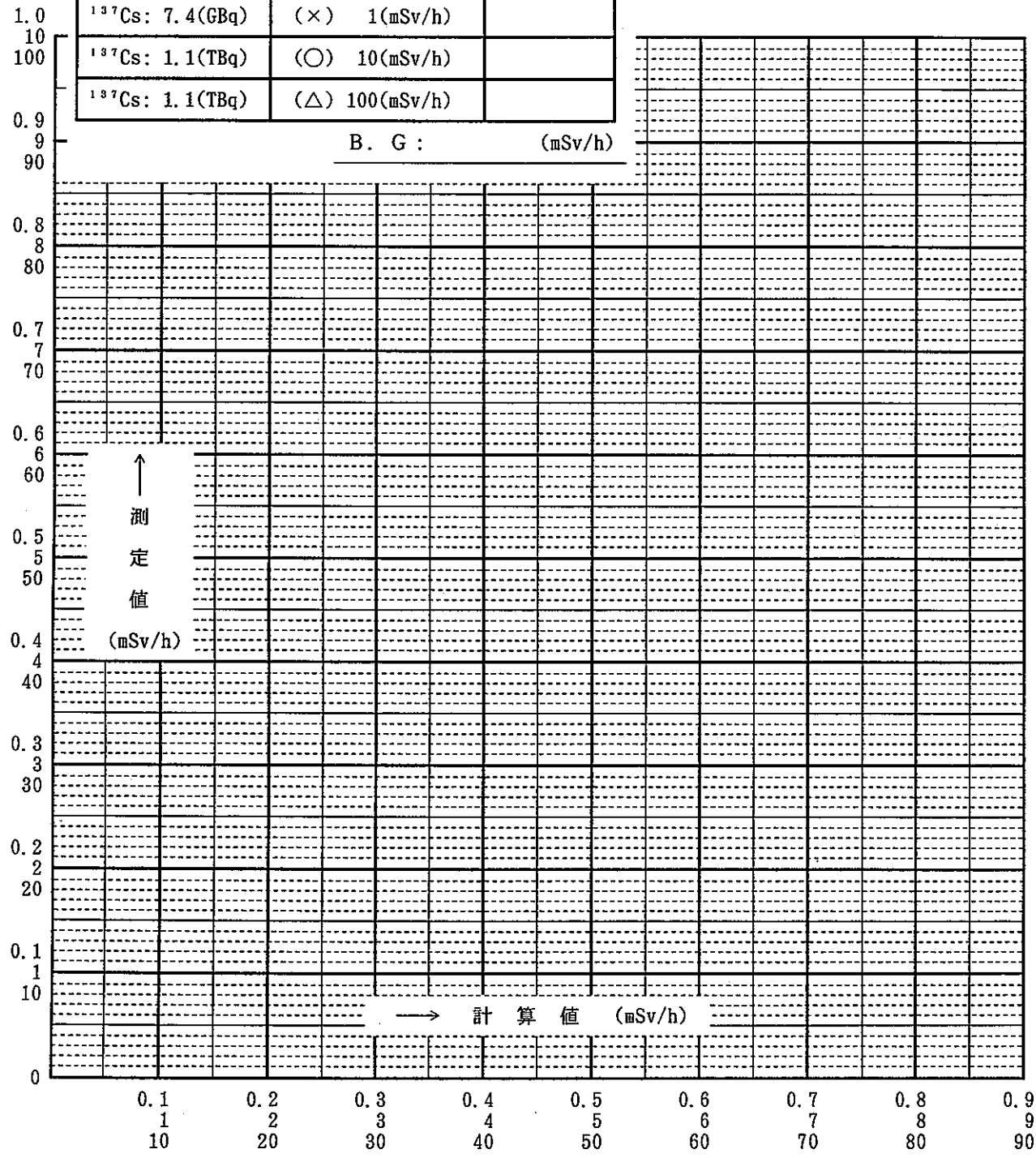
設置場所		使用線源	^{137}Cs :74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

低エネルギーγ線サーベイメータ（　　）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(×) 1(mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(○) 10(mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(△) 100(mSv/h)	

B. G：　　(mSv/h)



点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAE10

検査名（総合検査）

機器名	低エネルギーγ線サーベイメータ（ICS−R74−2591）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5 ～ 6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5(V)以上	(V)	(V)	
2.3 出力電圧	24.0±1.0(V)	(V)	(V)	
3．検出器印加電圧	-60.0(V)以上	(V)	(V)	
4．零点調整	零点調整がなされていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ドリフトチェック	最大目盛値±3(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．バックグラウンドの確認	0.1(mSv/h)以下	(mSv/h)	(mSv/h)	
8．線源校正 8.1 校正定数 1(mSv/h)レンジ	各レンジとも1±0.3 以内			
10(mSv/h)レンジ				
100(mSv/h)レンジ				
8.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は8.1項で描いた直線上の点
8.3 オートレンジの動作確認	自動的に切換わること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

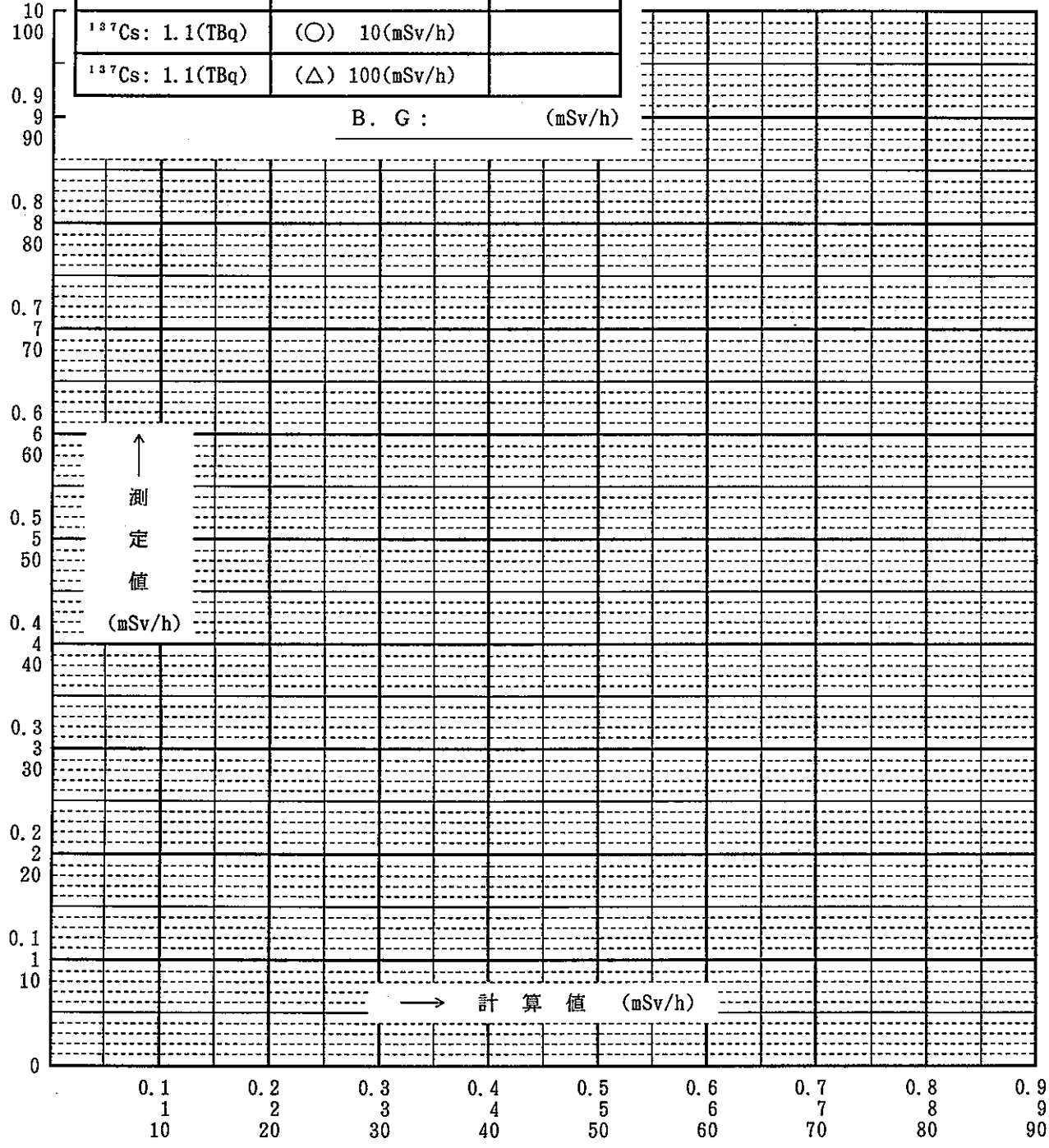
設置場所		使用線源	^{137}Cs :74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

低エネルギーγ線サーベイメータ　（　　）

SER. No.

使用線源	レンジ	校正定数
^{137}Cs: 7.4(GBq)	(×) 1(mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(○) 10(mSv/h)	
^{137}Cs: 1.1(TBq)	(△) 100(mSv/h)	

B. G :　　(mSv/h)



点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAF01

検査名（総合検査）

機器名	遠隔操作型γ線サーベイメータ（6112B）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

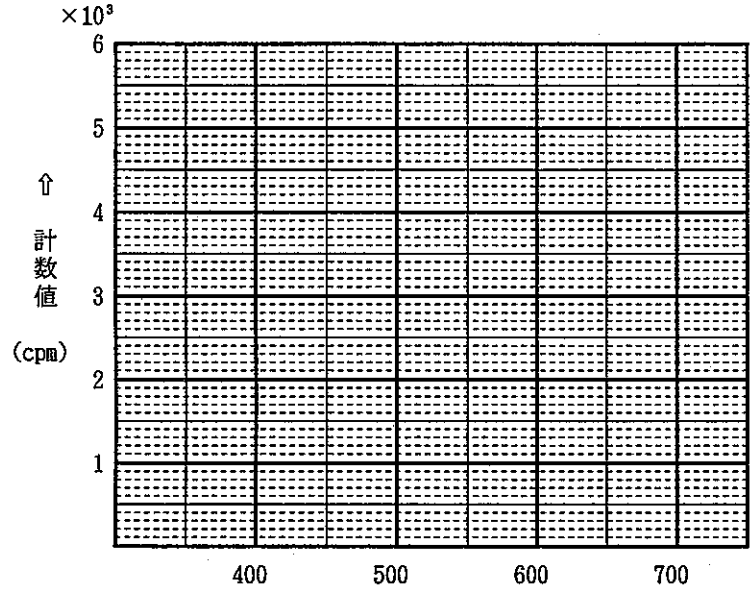
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5 ～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.0 ±0.5(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	-550±50(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	250(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定 4.1 高レンジ (1)プラトー領域	100(V)以上	(V)	(V)	
(2)プラトー傾斜	30(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
4.2 低レンジ (1)プラトー領域	200(V)以上	(V)	(V)	
(2)プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．入力感度測定	-700(mV)以下	(mV)	(mV)	
6．ノイズチェック	ノイズがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．線源校正 0.02(mSv/h) レンジ	各レンジとも1.0 ±0.1 以内			
0.5(mSv/h) レンジ				
20(mSv/h) レンジ				
500(mSv/h) レンジ				
8．X線照射による直線性の確認	直線性がとれていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．バックグラウンドの測定	0.0003(mSv/h) 以下	(mSv/h)	(mSv/h)	
10．計数音チェック	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
11．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	遠隔操作型γ線サーベイメータ（６１１２Ｂ）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

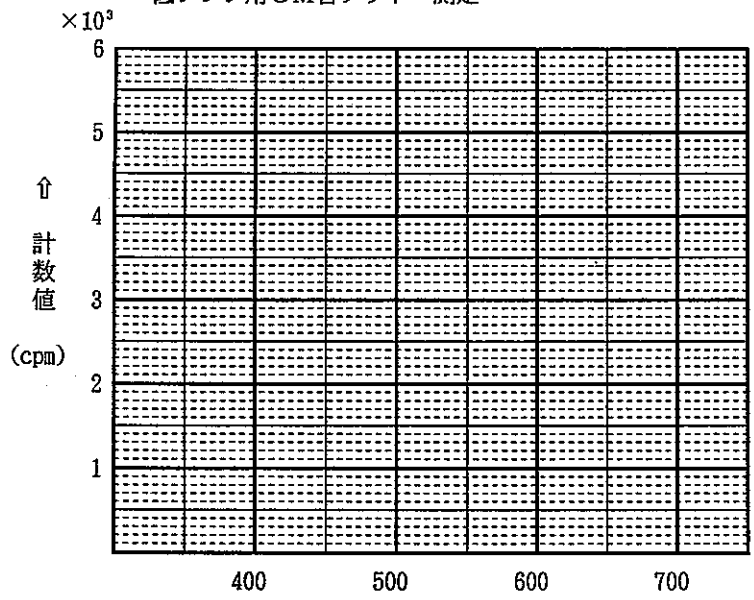
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考

高レンジ用ＧＭ管プラトー測定



印加電圧(v)	計数値(cpm)
	計数開始電圧
４００	
４５０	
５００	
５５０	
６００	
６５０	
７００	

低レンジ用ＧＭ管プラトー測定



印加電圧(v)	計数値(cpm)
	計数開始電圧
４００	
４５０	
５００	
５５０	
６００	
６５０	
７００	

出力波形の測定、高レンジ用ＧＭ管
^{137}Ｃｓ照射時　　良・否（　　）
Ｘ線照射時　　良・否（　　）

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Ｃｓ線源、Ｘ線
点 検 場 所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAF02

検査名（総合検査）

機器名	遠隔操作型γ線サーベイメータ（6112D）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

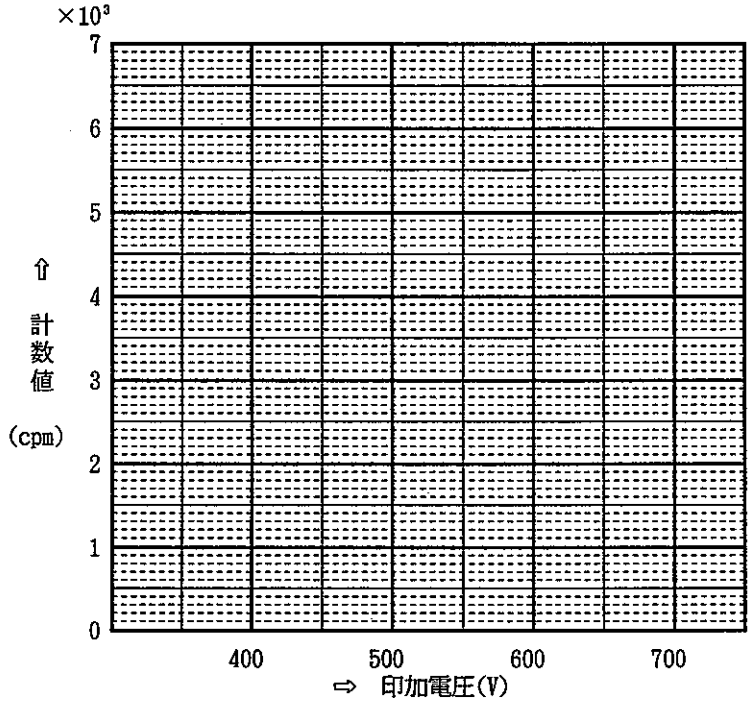
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．表示器の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．低圧電源 3.1 電池電圧	4.5 ～6.9(V)	(V)	(V)	
3.2 電圧範囲	4.0 ±0.5(V)	(V)	(V)	
4．高圧電源 4.1 検出器印加電圧	-525±25(V)	(V)	(V)	
4.2 リップル電圧	5(Vp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．プラトー測定 5.1 高レンジ (1)プラトー領域	100(V)以上	(V)	(V)	
(2)プラトー傾斜	30(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5.2 低レンジ (1)プラトー領域	200(V)以上	(V)	(V)	
(2)プラトー傾斜	10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
6．出力波高の確認	約2.7(V)	(V)	(V)	
7．ノイズチェック	ノイズがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．線源校正 (Sv/h)レンジ	各レンジとも1.0 ±0.1 以内			
(mSv/h)レンジ				
(mSv)レンジ				
9．X線照射による直線性の確認	直線性がとれていること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
10．バックグラウンドの測定	0.0003(mSv/h) 以下	(mSv/h)	(mSv/h)	
11．計数音チェック	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
12．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	遠隔操作型γ線サーベイメータ（６１１２Ｄ）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

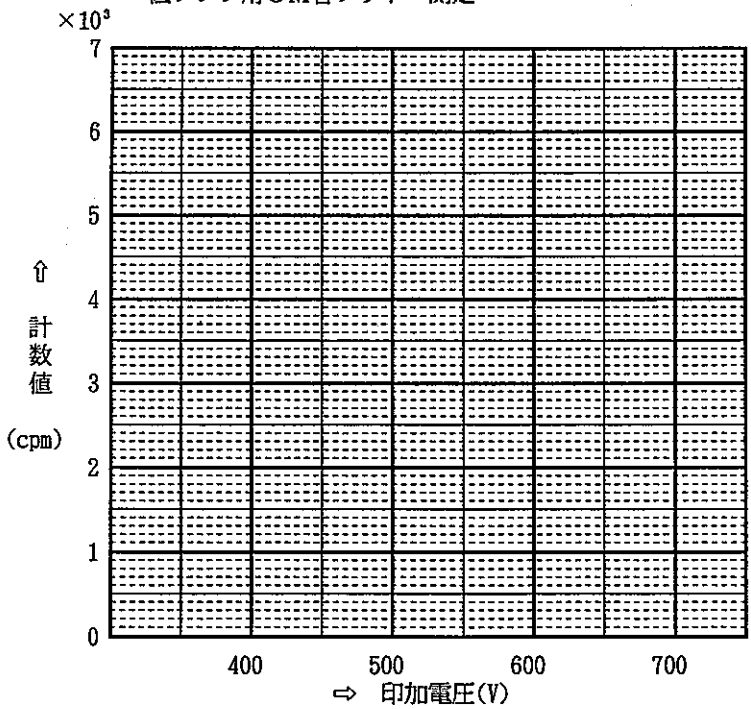
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考

高レンジ用ＧＭ管プラトー測定



印加電圧(v)	計数値(cpm)
	計数開始電圧
４００	
４５０	
５００	
５５０	
６００	
６５０	
７００	

低レンジ用ＧＭ管プラトー測定



印加電圧(v)	計数値(cpm)
	計数開始電圧
４００	
４５０	
５００	
５５０	
６００	
６５０	
７００	

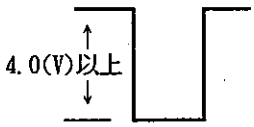
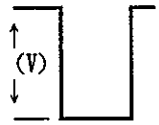
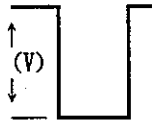
設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Ｃｓ線源、Ｘ線
点 検 場 所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	１１ＤＡＧ０１

検査名（総合検査）

機 器 名	中性子線用サーベイメータ（２２０２Ｄ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ．No. ＳＥＲ．No.	調査		点検者名	

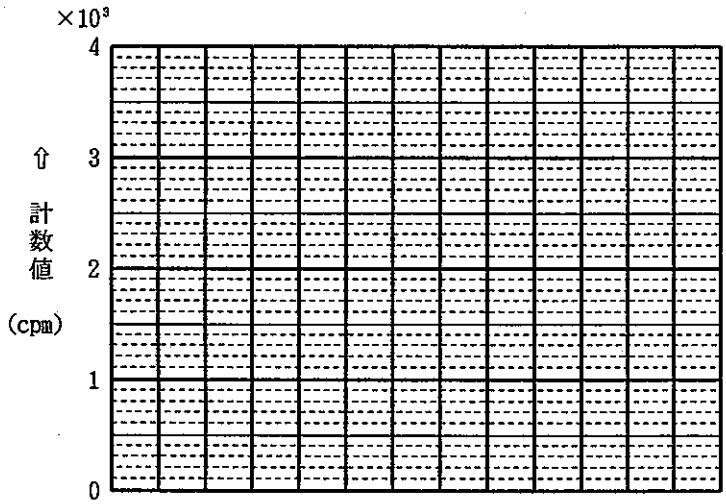
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．メータ零点のチェック	1(μSv/h)	（μSv/h）	（μSv/h）	
3．低圧電源 3.1 電池電圧	４番端子 ： 7.5 ～ 8.6(V)	(V)	(V)	
	２番端子 ： -6.0 ～-6.9(V)	(V)	(V)	
3.2 電圧範囲	7.5(V)以上	(V)	(V)	
4．ディスクリレベルの測定	-1.0～-4.0(V)	(V)	(V)	
5．波高選別回路波形チェック				
6．指示調整	±0.2(dec)以内 (3.3(cps)／10(μSv/h)) 入力周波数 メータ指示値 3×10^{0}(cps)： 9×10^{0}(μSv/h)	$\times10^{0}$(μSv/h)	$\times10^{0}$(μSv/h)	
	3×10^{1}(cps)： 9×10^{1}(μSv/h)	$\times10^{1}$(μSv/h)	$\times10^{1}$(μSv/h)	
	3×10^{2}(cps)： 9×10^{2}(μSv/h)	$\times10^{2}$(μSv/h)	$\times10^{2}$(μSv/h)	
	3×10^{3}(cps)： 9×10^{3}(μSv/h)	$\times10^{3}$(μSv/h)	$\times10^{3}$(μSv/h)	
	レコーダ出力 2.0 ±0.1(V)以内	(V)	(V)	
7．プラトー測定	測定結果異常のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
8．高圧電源 8.1 検出器印加電圧	①番スイッチ電圧	(V)	(V)	
	②番スイッチ電圧	(V)	(V)	
	③番スイッチ電圧	(V)	(V)	
	設定電圧のスイッチ番号			
8.2 リップル電圧	50(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
9．γ線感度試験	γ線感度のないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
10．ドリフトチェック	フルスケールの±5(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	

点検整備記録書

機器名	中性子線用サーベイメータ（２２０２Ｄ）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
11. ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
12. 線源校正 12.1 校正定数	1 ±0.3 以内			
12.2 線量当量換算係数		(cps/μSv/h)	(cps/μSv/h)	
13. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

プラトー測定



印加電圧(V)	計数値(cpm)
	計数開始電圧
ＢＧ値	

設置場所		使用線源	^{241}Am-Be(37GBq), ^{252}Cf(1GBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAG02

検査名（総合検査）

機器名	中性子線用サーベイメータ（NSN10001）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。 シリカゲルの色が青いこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．充電機能 2.1 充電池電圧	10.0(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電池電圧低下検出機能	8.5±0.2(V)以内	(V)	(V)	
3．電源機能	L2　：　5.10±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
	L3　：　-4.90±0.05(V) 以内	(V)	(V)	
4．出力機能	パルス波高 -3.5(V)以上	(V)	(V)	
	パルス幅　　約12(μsec)	(μsec)	(μsec)	
5．高圧電源 5.1 検出器印加電圧	1300±50(V)以内	(V)	(V)	
5.2 リップル電圧		(mVp-p)	(mVp-p)	
6．ノイズチェック	0.1(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．バックグラウンドの測定	0.02(cps) 以下	(cps)	(cps)	
8．線源校正 8.1 校正定数	1 ±0.3 以内			
8.2 中性子感度	4.5(cps/μSv/h) ±20(%)以内	(cps/μSv/h)	(cps/μSv/h)	
9．γ線感度	0.2(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
10．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	

設置場所		使用線源	^{241}Am-Be(37GBq), ^{252}Cf(1GBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAH01

検査名（総合検査）

機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－121C）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	7.7(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	7.7(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1000±50(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．検出部 4.1 検出器出力	^{137}Cs出力　-80 ～-1000(mV)	(mV)	(mV)	
4.2 分解能出力	$\frac{^{137}\text{Cs エネルギー (662KeV)} - ^{133}\text{Ba エネルギー (356KeV)}}{^{137}\text{Cs ピーク (　　ch)} - ^{133}\text{Ba ピーク (　　ch)}} \times ^{137}\text{Cs FWHM (　　ch)} \div ^{137}\text{Cs エネルギー (662KeV)} \times 100(\%)$			
	^{137}Cs 分解能　12(%) 以下	(%)	(%)	
5．利得調整	AMP　OUT出力　-1.6(V)	(V)	(V)	
6．ディスクリ調整	カットエネルギー -100(KeV)にて -240(mV)	(mV)	(mV)	
7．指示調整 0.25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	2(Kcpm)にて　0.155(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
0.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	4.5(Kcpm) にて　0.35(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
2.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	20(Kcpm)にて　1.55(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	45(Kcpm)にて　3.5(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	200(Kcpm) にて　15.5(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．線源校正 9.1 校正定数 0.25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも 1±0.3 以内			
0.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
2.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				

点検整備記録書

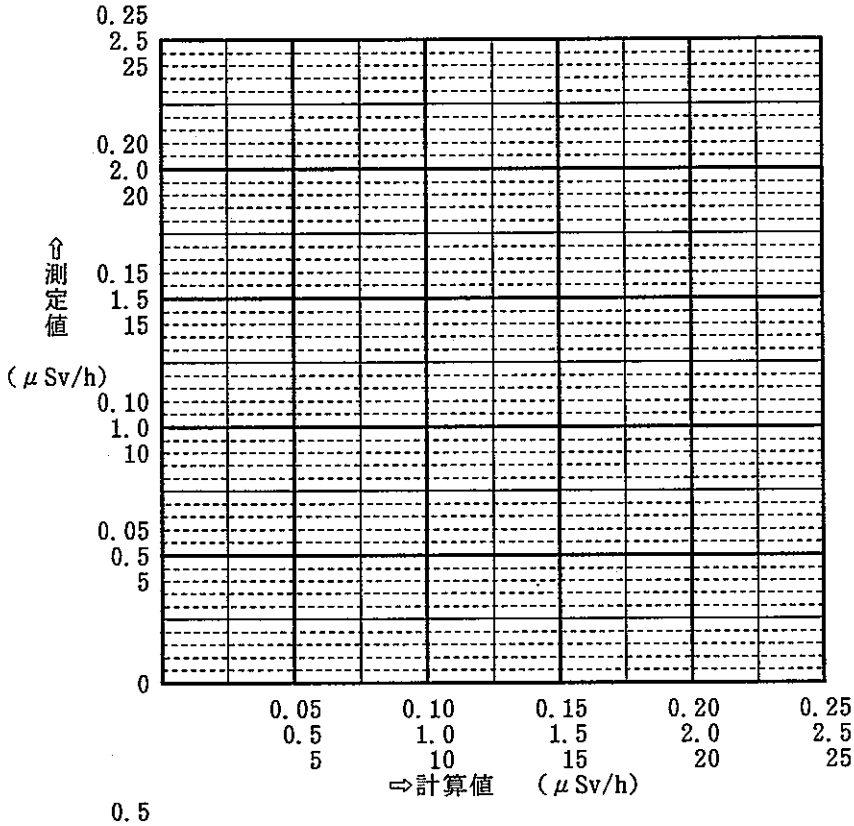
機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－121C）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ 9.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値±6(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は9.1項で描いた直線上の点
10. バックグラウンドの確認	0.1(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
11. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs:3.7(MBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

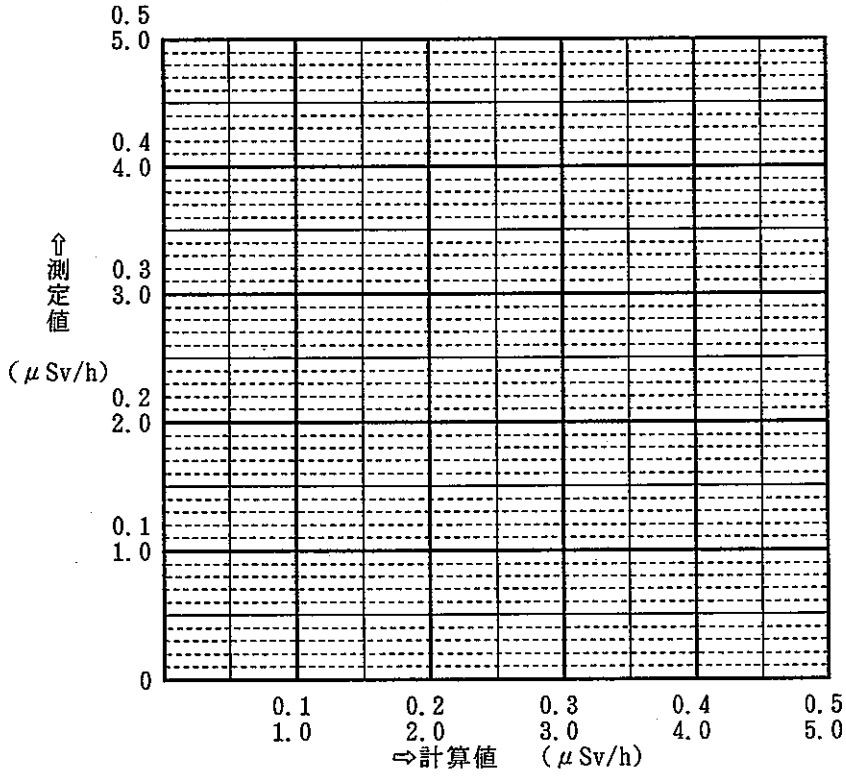
ガンマ線用サーベイメータ　（　　）

SER. No



レンジ	校正定数
(×):0.25 (μSv/h)	
(○):2.5 (μSv/h)	
(△): 25 (μSv/h)	
使用線源	

B. G :　　(μSv/h)



レンジ	校正定数
(×):0.5 (μSv/h)	
(○):5.0 (μSv/h)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAH02

検査名（総合検査）

機 器 名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－121C）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	7.7(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	7.7(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1000±50(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	50(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．検出部 4.1 検出器出力	^{137}Cs出力 -80 ～-1000(mV)	(mV)	(mV)	
4.2 分解能出力	$\frac{^{137}\text{Cs エネルギー (662KeV)} - ^{133}\text{Ba エネルギー (356KeV)}}{^{137}\text{Cs ピーク (ch)} - ^{133}\text{Ba ピーク (ch)}} \times ^{137}\text{Cs FWHM (ch)} \div ^{137}\text{Cs エネルギー (662KeV)} \times 100(\%)$			
	^{137}Cs 分解能 12(%) 以下	(%)	(%)	
5．利得調整	AMP OUT出力 -1.6(V)	(V)	(V)	
6．ディスクリ調整	カットエネルギー -100(KeV)にて -240(mV)	(mV)	(mV)	
7．指示調整 0.25(μGy/h)レンジ	2(Kcpm)にて 0.145(μGy/h)レンジ	(μGy/h)	(μGy/h)	
0.5(μGy/h)レンジ	4.5(Kcpm) にて 0.33(μGy/h)レンジ	(μGy/h)	(μGy/h)	
2.5(μGy/h)レンジ	20(Kcpm)にて 1.45(μGy/h)レンジ	(μGy/h)	(μGy/h)	
5(μGy/h)レンジ	45(Kcpm)にて 3.3(μGy/h)レンジ	(μGy/h)	(μGy/h)	
25(μGy/h)レンジ	200(Kcpm) にて 14.5(μGy/h)レンジ	(μGy/h)	(μGy/h)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．線源校正 9.1 校正定数 0.25(μGy/h)レンジ	各レンジとも 1±0.3 以内			
0.5(μGy/h)レンジ				
2.5(μGy/h)レンジ				
5(μGy/h)レンジ				

点検整備記録書

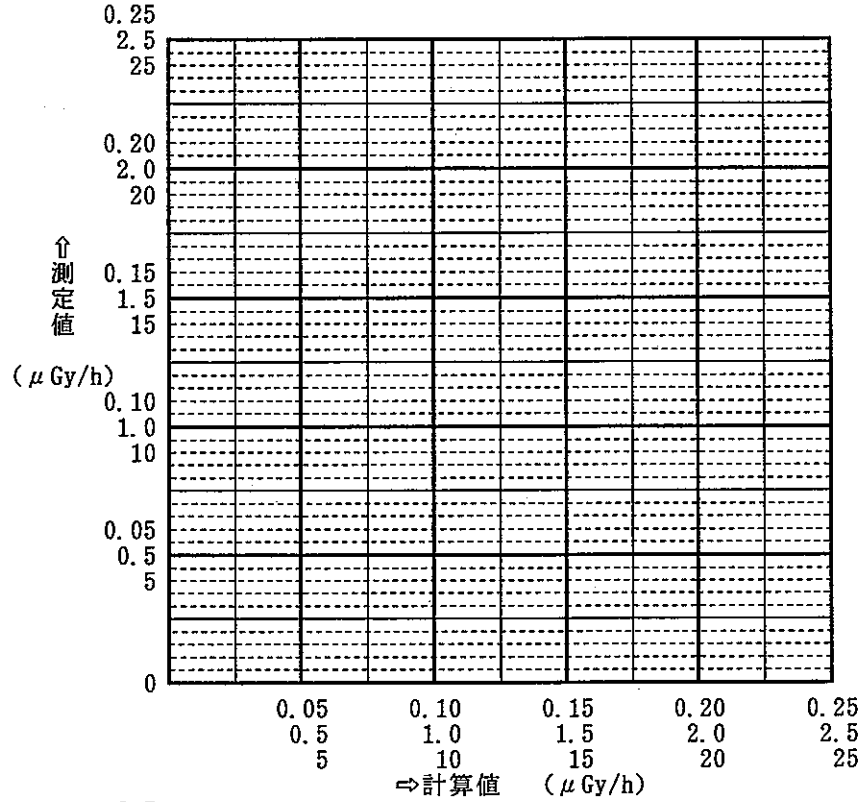
機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－121C）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
25(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ 9.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値±6(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は9.1項で描いた直線上の点
10. バックグラウンドの確認	0.1(μGy/h) 以下	(μGy/h)	(μGy/h)	
11. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

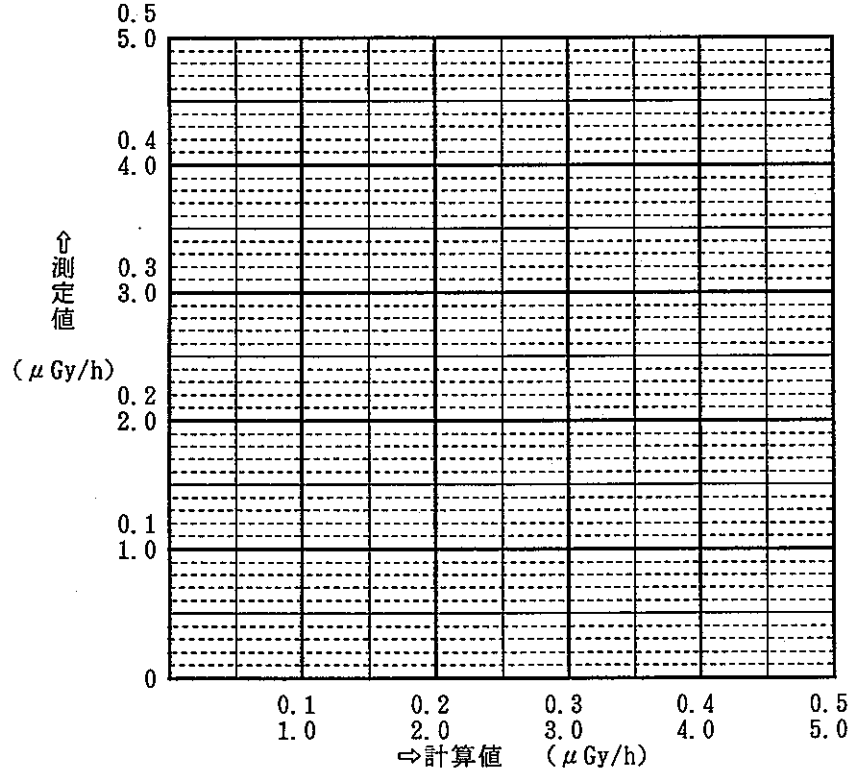
ガンマ線用サーベイメータ　（　　）

SER. No



レ　ン　ジ	校正定数
(×):0.25 (μGy/h)	
(○):2.5 (μGy/h)	
(△): 25 (μGy/h)	
使用線源	

B. G :　　(μGy/h)



レ　ン　ジ	校正定数
(×):0.5 (μGy/h)	
(○):5.0 (μGy/h)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAH03

検査名（総合検査）

機 器 名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－121CU）	承認		年 月 日	
機 器 No	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	7.7(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	7.7(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	1000±50(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	50(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．検出部 4.1 検出器出力	^{137}Cs出力 -80 ～-1000(mV)	(mV)	(mV)	
4.2 分解能出力	$\frac{^{137}\text{Cs エネルギー (662KeV)} - ^{133}\text{Ba エネルギー (356KeV)}}{^{137}\text{Cs ピーク (ch)} - ^{133}\text{Ba ピーク (ch)}} \times (\quad \text{ch}) \div (662\text{KeV}) \times 100(\%)$			
	^{137}Cs 分解能 12(%) 以下	(%)	(%)	
5．利得調整	AMP OUT出力 -3.2(V)	(V)	(V)	
6．ディスクリ調整	カットエネルギー -50(KeV)にて -240(mV)	(mV)	(mV)	
7．指示調整 0.25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	3(Kcpm)にて 0.173(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
0.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	4.5(Kcpm) にて 0.26(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
2.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	30(Kcpm)にて 1.73(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	45(Kcpm)にて 2.6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	300(Kcpm) にて 17.3(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．線源校正 9.1 校正定数 0.25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも 1±0.3 以内			
0.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
2.5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
5(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				

点検整備記録書

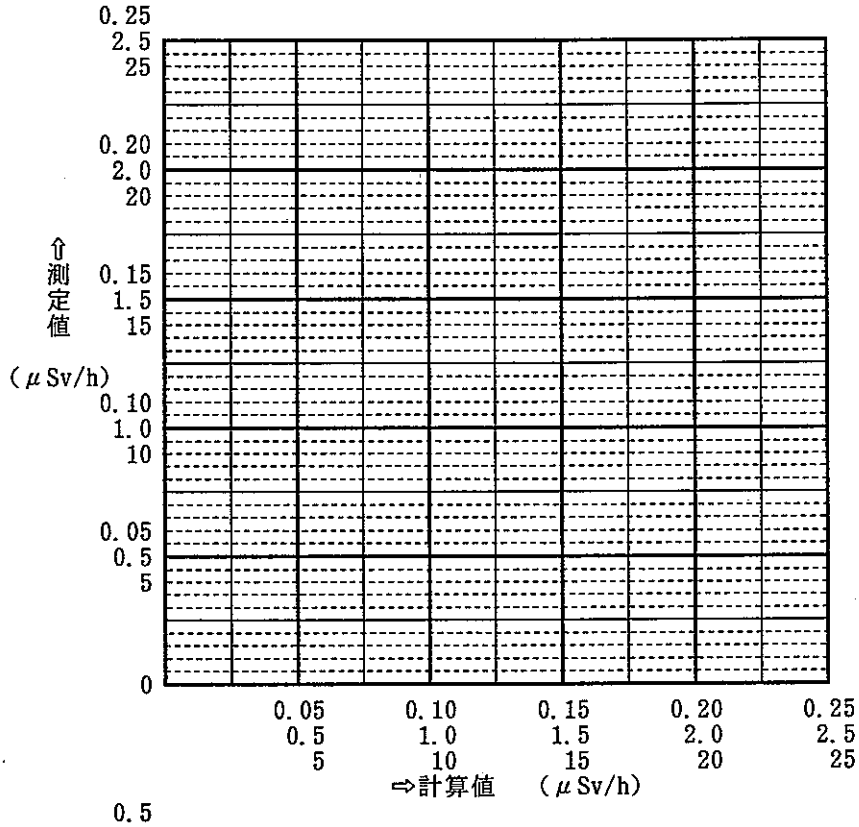
機器名	ガンマ線用サーベイメータ（ＴＣＳ－１２１ＣＵ）	機器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
25(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ 9.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値±6(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は9.1項で描いた直線上の点
10. バックグラウンドの確認	0.1(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
11. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs:3.7(MBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

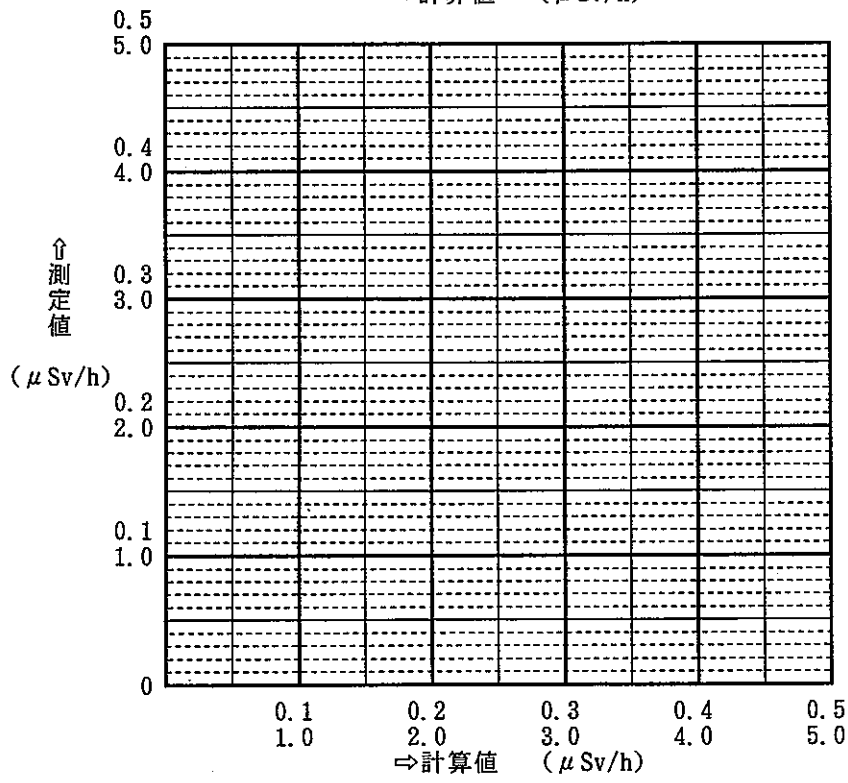
ガンマ線用サーベイメータ　（　　）

SER. No



レ　ン　ジ	校正定数
(×):0.25 (μSv/h)	
(○):2.5 (μSv/h)	
(△): 25 (μSv/h)	
使用線源	

B. G :　　(μSv/h)



レ　ン　ジ	校正定数
(×):0.5 (μSv/h)	
(○):5.0 (μSv/h)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAH04

検査名（総合検査）

機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－131）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	4.00±0.25(V)	(V)	(V)	
	-3.60±0.25(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	750 ±5(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	10(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．ディスクリ調整	カットエネルギー　-240(mV)	(mV)	(mV)	
5．指示精度	フルスケールの±5(%)以内 カットエネルギー　100(KeV)			
0.3(μSv/h)レンジ	2(Kcpm)にて　0.16(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
1(μSv/h)レンジ	7.5(Kcpm) にて　0.6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
3(μSv/h)レンジ	20(Kcpm)にて　1.6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
10(μSv/h)レンジ	75(Kcpm)にて　6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
30(μSv/h)レンジ	200(Kcpm) にて　16(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	カットエネルギー　50(KeV)			
0.3(μSv/h)レンジ	3(Kcpm)にて　0.22(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
1(μSv/h)レンジ	7.5(Kcpm) にて　0.55(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
3(μSv/h)レンジ	30(Kcpm)にて　2.2(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
10(μSv/h)レンジ	75(Kcpm)にて　5.5(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
30(μSv/h)レンジ	300(Kcpm) にて　22(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
6．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．分解能出力	$\frac{^{137}Cs\ エネルギー\ (662KeV) - ^{133}Ba\ エネルギー\ (356KeV)}{^{137}Cs\ ピーク\ (\quad ch) - ^{133}Ba\ ピーク\ (\quad ch)} \times (^{137}Cs\ FWHM\ (\quad ch) \div (^{137}Cs\ エネルギー\ (662KeV) \times 100(\%)$			
	^{137}Cs 分解能　12(%) 以下	(%)	(%)	

点 検 整 備 記 録 書

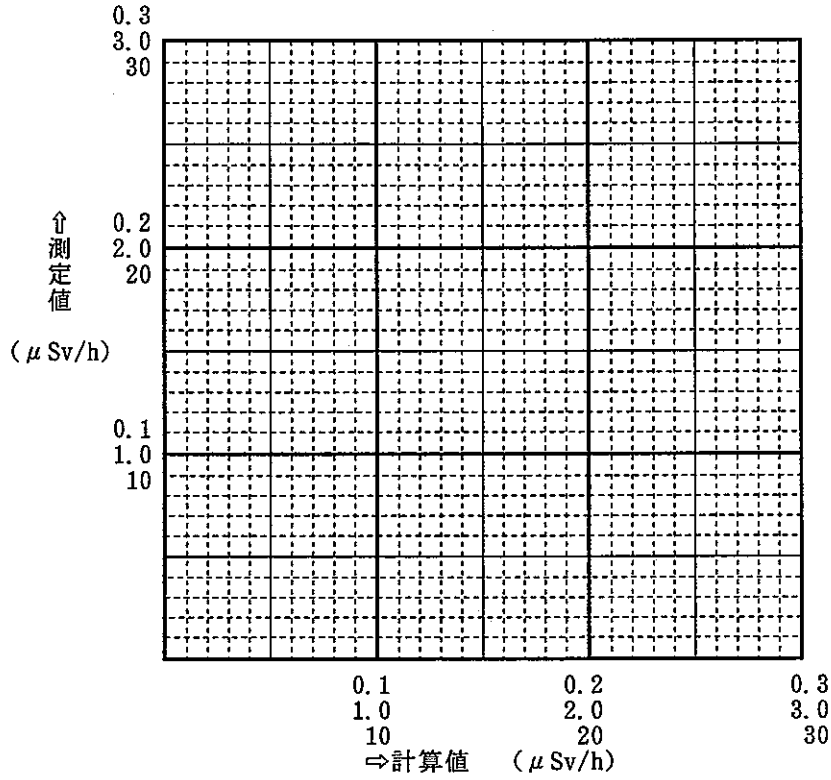
機 器 名	ガンマ線用サーベイメータ（ＴＣＳ－１３１）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
8．線源校正 8.1 校正定数 カットエネルギー100(KeV)設定 0.3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも 1 ±0.3 以内			
1(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
カットエネルギー50(KeV)設定 0.3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
1(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
8.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値れ±6(%)以内 カットエネルギー 100(KeV)	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は8.1項で描いた直線上の点
	カットエネルギー 50(KeV)	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．カットエネルギー 9.1 カットエネルギーの確認	カットされること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9.2 カットエネルギーの指示確認	メータ指示が正常であること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
10. バックグラウンドの確認	0.1(μSv/h) 以下 カットエネルギー 100(KeV)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	カットエネルギー 50(KeV)	(μSv/h)	(μSv/h)	
11. モニタ音の調整	モニタ音が聞こえること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
12. 総合判定	各項目について異常がないこと。	良・否（ ）		

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs:3.7(MBq)
点 検 場 所	校正室	別添（有・無）	グラフ

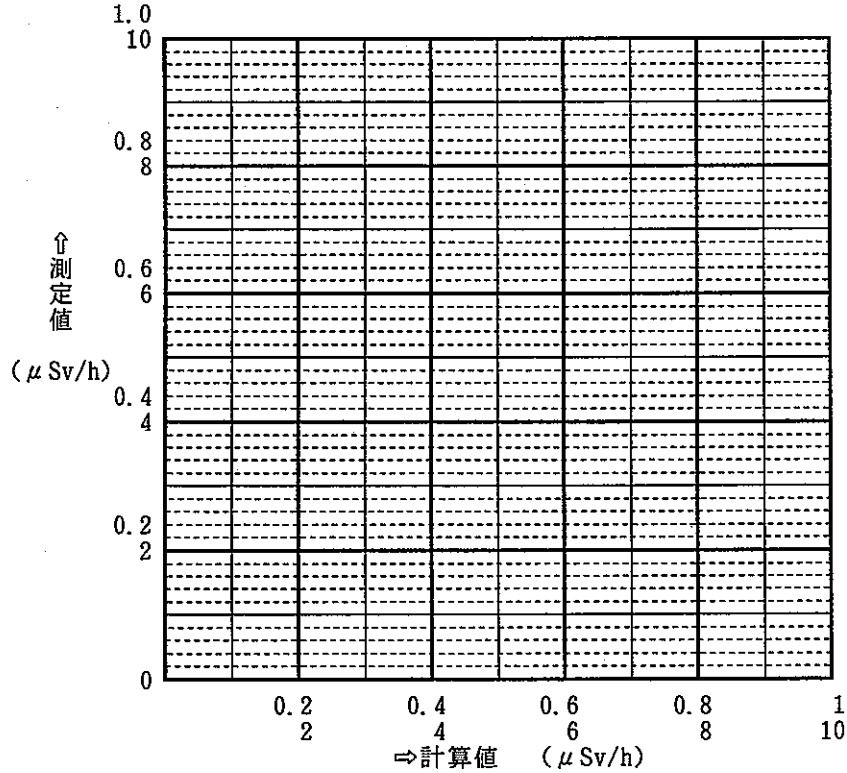
ガンマ線用サーベイメータ（　　）

SER. No



レンジ	校正定数
(×):0.3 (μSv/h)	
(○):3.0 (μSv/h)	
(△): 30 (μSv/h)	
使用線源	

B. G :　　(μSv/h)



レンジ	校正定数
(×):1.0 (μSv/h)	
(○): 10 (μSv/h)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAH05

検査名（総合検査）

機 器 名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－131）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	4.00±0.25(V)	(V)	(V)	
	-3.60±0.25(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	750 ± 5(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．ディスクリ調整	カットエネルギー 240(mV)	(mV)	(mV)	
5．指示精度	フルスケールの±5(%)以内 カットエネルギー 100(KeV)			
0.3(μGy/h)レンジ	2(Kcpm)にて 0.15(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
1(μGy/h)レンジ	7.5(Kcpm) にて 0.56(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
3(μGy/h)レンジ	20(Kcpm)にて 1.5(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
10(μGy/h)レンジ	75(Kcpm)にて 5.6(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
30(μGy/h)レンジ	200(Kcpm) にて 15(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
	カットエネルギー 50(KeV)			
0.3(μGy/h)レンジ	3(Kcpm)にて 0.207(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
1(μGy/h)レンジ	7.5(Kcpm) にて 0.52(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
3(μGy/h)レンジ	30(Kcpm)にて 2.07(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
10(μGy/h)レンジ	75(Kcpm)にて 5.2(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
30(μGy/h)レンジ	300(Kcpm) にて 20.7(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
6．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．分解能出力	$\frac{^{137}Cs\ エネルギー(662KeV) - ^{133}Ba\ エネルギー(356KeV)}{^{137}Cs\ ピーク(\quad ch) - ^{133}Ba\ ピーク(\quad ch)} \times (\quad ch) \div (662KeV) \times 100(\%)$			
	^{137}Cs 分解能 12(%) 以下	(%)	(%)	

点検整備記録書

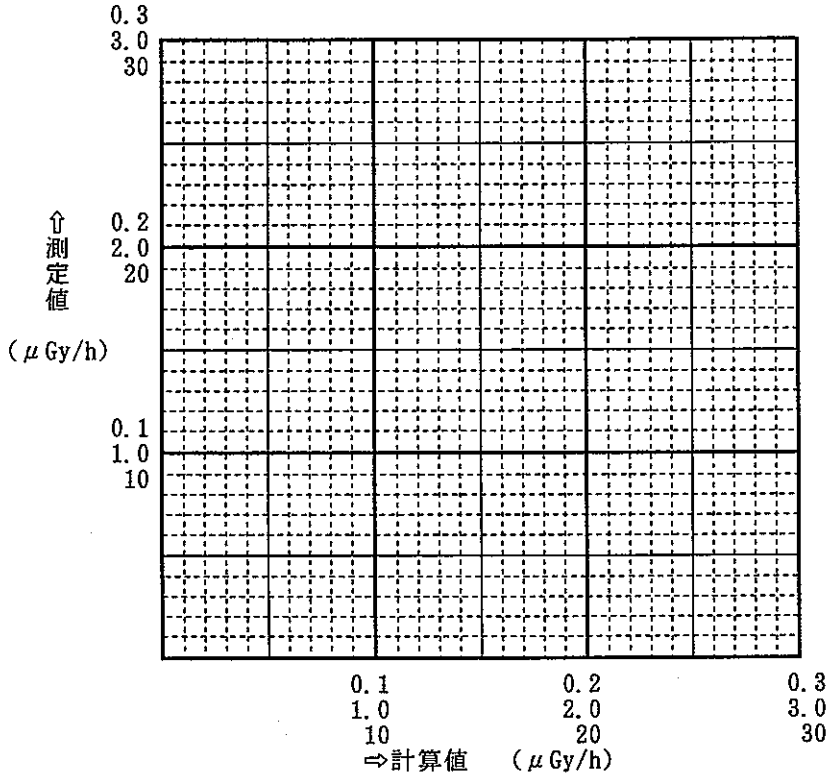
機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－131）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
8．線源校正 8.1 校正定数 カットエネルギー100(KeV)設定 0.3(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも 1 ±0.3 以内			
1(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
30(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
カットエネルギー50(KeV)設定 0.3(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
1(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
30(μGy/h)ﾚﾝｼﾞ				
8.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値れ±6(%)以内 カットエネルギー 100(KeV)	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は8.1項で描いた直線上の点
	カットエネルギー 50(KeV)	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．カットエネルギー 9.1 カットエネルギーの確認	カットされること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9.2 カットエネルギーの指示確認	メータ指示が正常であること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
10．バックグラウンドの確認	0.1(μGy/h) 以下 カットエネルギー 100(KeV)	（μGy/h）	（μGy/h）	
	カットエネルギー 50(KeV)	（μGy/h）	（μGy/h）	
11．モニタ音の調整	モニタ音が聞こえること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
12．総合判定	各項目について異常がないこと。	良・否（ ）		

設置場所	環境安全課	使用線源	^{226}Ra:4.07(MBq),37(MBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

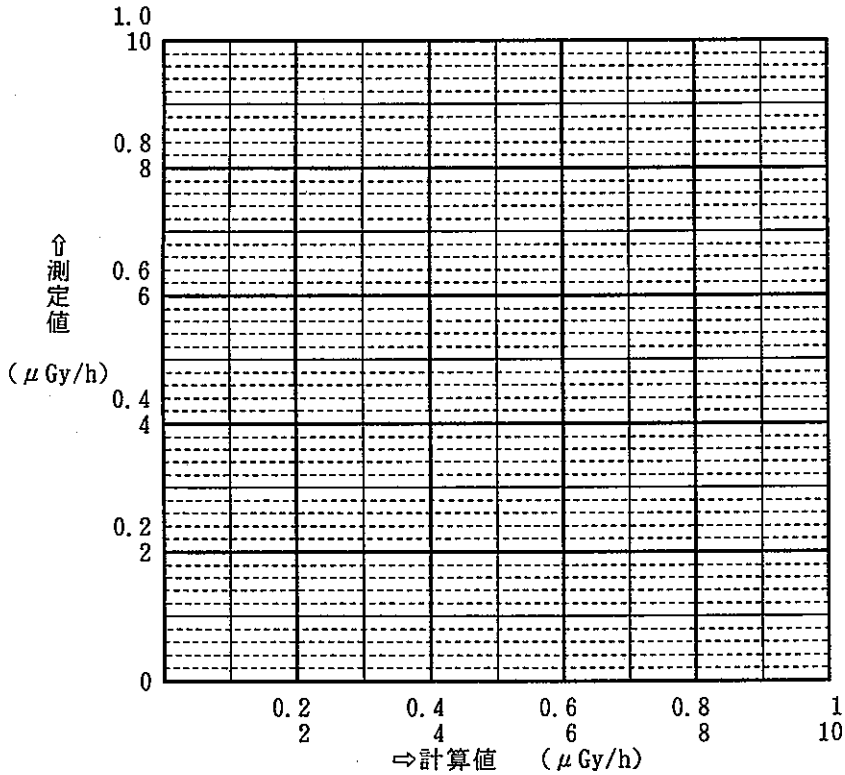
ガンマ線用サーベイメータ（　　）

SER. No



レンジ	校正定数
(×):0.3 (μGy/h)	
(○):3.0 (μGy/h)	
(△): 30 (μGy/h)	
使用線源	

B. G :　　(μGy/h)



レンジ	校正定数
(×):1.0 (μGy/h)	
(○): 10 (μGy/h)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAH06

検査名（総合検査）

機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－161）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	5.0 ～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5 ±0.3(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	P1－⑧ピン　：5.0 ±0.5(V)	(V)	(V)	
	P1－①ピン　：4.0 ±0.35(V)	(V)	(V)	
	P1－⑥ピン　：-3.0±0.3(V)	(V)	(V)	
3．アンプアウト波高値の確認	入力値 -100(mV) にて 出力値　約800(mV)	(mV)	(mV)	
4．通過率の確認	3(V)　：　約 98.8(%)	(%)	(%)	
	2.75(V)　：　約100.0(%)	(%)	(%)	
	1(V)　：　約 56.1(%)	(%)	(%)	
	30(mV)　：　約　0(%)	(%)	(%)	
5．検出部 5.1 検出器出力	^{137}Cs 出力　700(mV)±10(%)	(mV)	(mV)	
5.2 分解能出力	$\frac{^{137}\text{Cs エネルギー}(662\text{KeV}) - ^{133}\text{Ba エネルギー}(356\text{KeV})}{^{137}\text{Cs ピーク}(\quad\text{ch}) - ^{133}\text{Ba ピーク}(\quad\text{ch})} \times (^{137}\text{Cs FWHM}(\quad\text{ch}) \div ^{137}\text{Cs エネルギー}(662\text{KeV}) \times 100(\%)$			
	各々のエネルギーとピークチャンネルが相関関係にあること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
	^{137}Cs 分解能　12(%) 以下	(%)	(%)	
6．高圧電源 6.1 検出器印加電圧	5.1項検出器出力の基準値に相当する印加電圧	(V)	(V)	
6.2 リップル電圧	10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

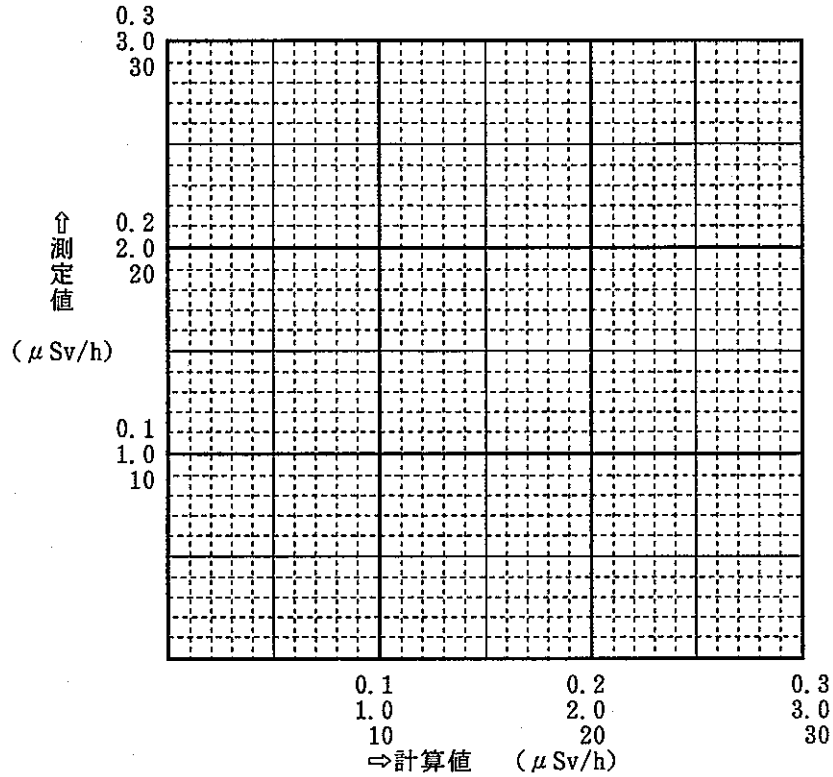
機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－161）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
7．指示精度 7.1 LCD表示 0.3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	±3(%)±1(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内 300(cpm)にて　0.15(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
1(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	1.2(Kcpm) にて　0.6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	3(Kcpm)にて　1.5(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	12(Kcpm)にて　6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	30(Kcpm)にて　15(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
7.2 メータ指示 0.3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	フルスケールの±3(%)以内 300(cpm)にて　0.15(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
1(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	1.2(Kcpm) にて　0.6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	3(Kcpm)にて　1.5(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	12(Kcpm)にて　6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	30(Kcpm)にて　15(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．バックグラウンドの確認	0.1(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
10．線源校正 10.1 校正定数 0.3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ	各レンジとも　1 ±0.3 以内			
1(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
3(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
30(μSv/h)ﾚﾝｼﾞ				
10.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値±6(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は10.1項で描いた直線上の点
11．時定数	3(sec)　：　2.4～ 3.6(sec)	(sec)	(sec)	
	10(sec)　：　8.0～12.0(sec)	(sec)	(sec)	
	30(sec)　：　24.0～36.0(sec)	(sec)	(sec)	
12．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs:3.7(MBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

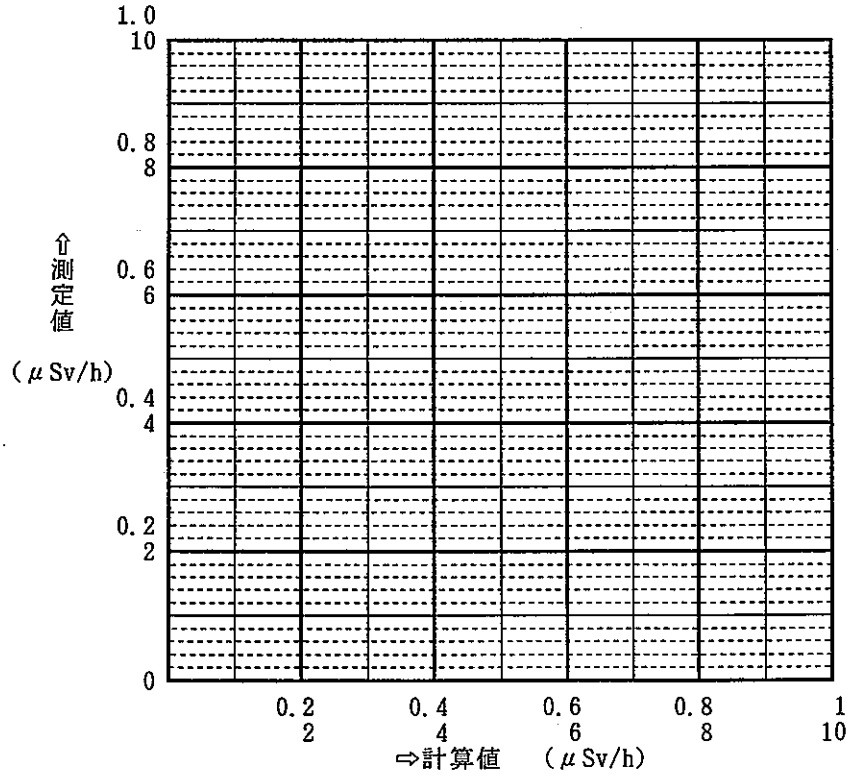
ガンマ線用サーベイメータ（　　）

SER. No



レンジ	校正定数
(×):0.3 (μSv/h)	
(○):3.0 (μSv/h)	
(△): 30 (μSv/h)	
使用線源	

B. G :　　(μSv/h)



レンジ	校正定数
(×):1.0 (μSv/h)	
(○): 10 (μSv/h)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAH07

検査名（総合検査）

機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－166）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	5.0 ～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5 ±0.3(V)	(V)	(V)	
2.3 安定化出力電圧	P1－⑧ピン　：5.0 ±0.5(V)	(V)	(V)	
	P1－①ピン　：4.0 ±0.35(V)	(V)	(V)	
	P1－⑥ピン　：-3.0±0.3(V)	(V)	(V)	
3．アンプアウト波高値の確認	入力値 -100(mV) にて 出力値　約800(mV)	(mV)	(mV)	
4．通過率の確認	3(V)　：　約 98.8(%)	(%)	(%)	
	2.75(V)　：　約100.0(%)	(%)	(%)	
	1(V)　：　約 56.1(%)	(%)	(%)	
	30(mV)：　約　0(%)	(%)	(%)	
5．検出部 5.1 検出器出力	^{137}Cs 出力　700(mV)±10(%)	(mV)	(mV)	
5.2 分解能出力	$\frac{^{137}\text{Cs エネルギー (662KeV)} - ^{133}\text{Ba エネルギー (356KeV)}}{^{137}\text{Cs ピーク (　　ch)} - ^{133}\text{Ba ピーク (　　ch)}} \times (\quad ch) \div (662KeV) \times 100(\%)$			
	各々のエネルギーとピークチャンネルが相関関係にあること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
	^{137}Cs 分解能　12(%) 以下	(%)	(%)	
6．高圧電源 6.1 検出器印加電圧	5.1項検出器出力の基準値に相当する印加電圧	(V)	(V)	
6.2 リップル電圧	10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

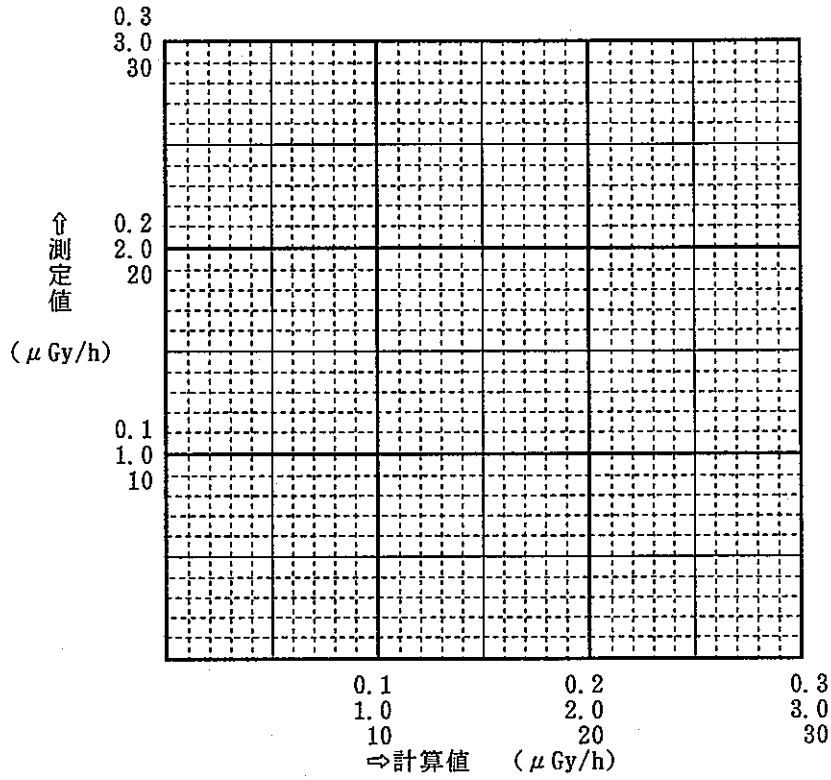
機器名	ガンマ線用サーベイメータ（TCS－166）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
7．指示精度 7.1 LCD表示 0.3(μGy/h)レンジ	±3(%)±1(ﾃﾞｼﾞｯﾄ)以内 300(cpm)にて 0.15(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
1(μGy/h)レンジ	1.2(Kcpm) にて 0.6(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
3(μGy/h)レンジ	3(Kcpm)にて 1.5(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
10(μGy/h)レンジ	12(Kcpm)にて 6(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
30(μGy/h)レンジ	30(Kcpm)にて 15(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
7.2 メータ指示 0.3(μGy/h)レンジ	フルスケールの±3(%)以内 300(cpm)にて 0.15(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
1(μGy/h)レンジ	1.2(Kcpm) にて 0.6(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
3(μGy/h)レンジ	3(Kcpm)にて 1.5(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
10(μGy/h)レンジ	12(Kcpm)にて 6(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
30(μGy/h)レンジ	30(Kcpm)にて 15(μGy/h)	(μGy/h)	(μGy/h)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．バックグラウンドの確認	0.1(μGy/h) 以下	(μGy/h)	(μGy/h)	
10．線源校正 10.1 校正定数 0.3(μGy/h)レンジ	各レンジとも 1 ±0.3 以内			
1(μGy/h)レンジ				
3(μGy/h)レンジ				
10(μGy/h)レンジ				
30(μGy/h)レンジ				
10.2 直線性	各レンジとも基準値±20(%) 又は最大目盛値±6(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は10.1項で描いた直線上の点
11．時定数	3(sec) ： 2.4 ～ 3.6(sec)	(sec)	(sec)	
	10(sec) ： 8.0 ～12.0(sec)	(sec)	(sec)	
	30(sec) ： 24.0 ～36.0(sec)	(sec)	(sec)	
12．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

設置場所	環境安全課	使用線源	^{137}Cs:3.7(MBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

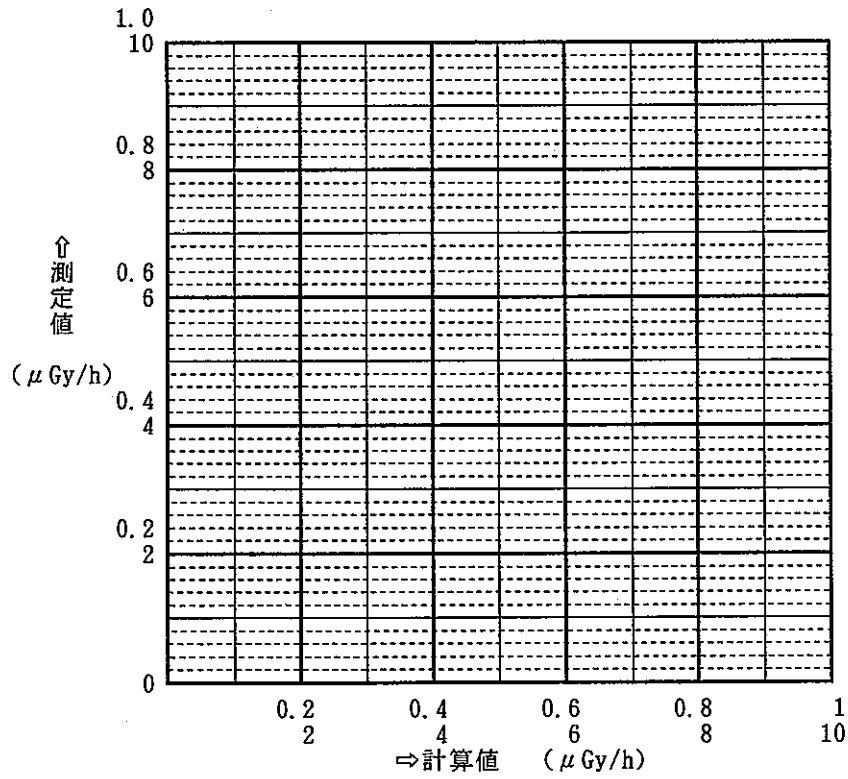
ガンマ線用サーベイメータ（　　）

SER. No



レンジ	校正定数
(×):0.3 (μGy/h)	
(○):3.0 (μGy/h)	
(△): 30 (μGy/h)	
使用線源	

B. G :　　（μGy/h）



レンジ	校正定数
(×):1.0 (μGy/h)	
(○): 10 (μGy/h)	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11DAJ01

検査名（総合検査）

機 器 名	非常用サーベイキット（PRS－1）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	5.3～ 8.6(V)	(V)	(V)	
2.2 電源範囲	5.3(V)以上	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 出力電圧	各電圧±5(%) 500(V)	(V)	(V)	
	800(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1200(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	30(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．測定部 4.1 指示調整 (1) ＲＡＴＥ表示	各レンジ入力周波数±5(%) Aレンジ 6.0×10²(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Bレンジ 6.0×10³(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Cレンジ 6.0×10⁴(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	Dレンジ 6.0×10⁵(cpm)	(cpm)	(cpm)	
(2) 積算表示	各レンジ入力周波数±5(%) 0.5 分間測定 300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1.0 分間測定 600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	2.0 分間測定 1200(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	5.0 分間測定 3000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
(3) Store Increment 動作の確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
4.2 Gross 動作の確認 (1) THRESHダイヤルの直線性	直線性がとれていること	良・否（ ）	良・否（ ）	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	非常用サーベイキット（ＰＲＳ－１）	機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
4.3 ＰＨＡ動作の確認 (1) WINDOWダイヤルの直線性	直線性がとれていること	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．プラトー測定 5.1 Zns(Ag) シンチレーション検出器	検出器印加電圧	(V)	(V)	
	プラトー領域　：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー領域　：10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5.2 ＧＭ管検出器	検出器印加電圧	(V)	(V)	
	プラトー領域　：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー領域　：15(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
6．総合特性 6.1 計数効率測定 (1) Zns(Ag) シンチレーション検出器	効率　：　10(%) 以上	(%)	(%)	
	定数　：　10以下			
(2) NaI(Tl) シンチレーション検出器	定数			
(3) ＧＭ管検出器	効率　：　10(%) 以上	(%)	(%)	
	定数　：　10以下			
6.2 ｷｬﾘﾌﾞﾚｰｼｮﾝ IN-OUT動作 Buｽｹｰﾗｰ 動作の確認 (1) Zns(Ag) シンチレーション検出器	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
(2) NaI(Tl) シンチレーション検出器	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
(3) ＧＭ管検出器	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6.3 単位表示の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6.4 バックグラウンドの確認 (1) Zns(Ag) シンチレーション検出器	3(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	非常用サーベイキット（ＰＲＳ－１）	機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
(2) NaI(Tl) シンチレーション検出器	180(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
(3) ＧＭ管検出器	30(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
6.5 感度分布チェック (1) Zns(Ag) シンチレーション検出器	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
(2) NaI(Tl) シンチレーション検出器	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
(3) ＧＭ管検出器	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6.6 計数音回路の確認	計数音を発すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
6.7 ライト点灯の確認	ライトが点灯すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11DAM01

検査名（総合検査）

機器名	αスペクトル型サーベイメータ（TSM−R74タイプ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

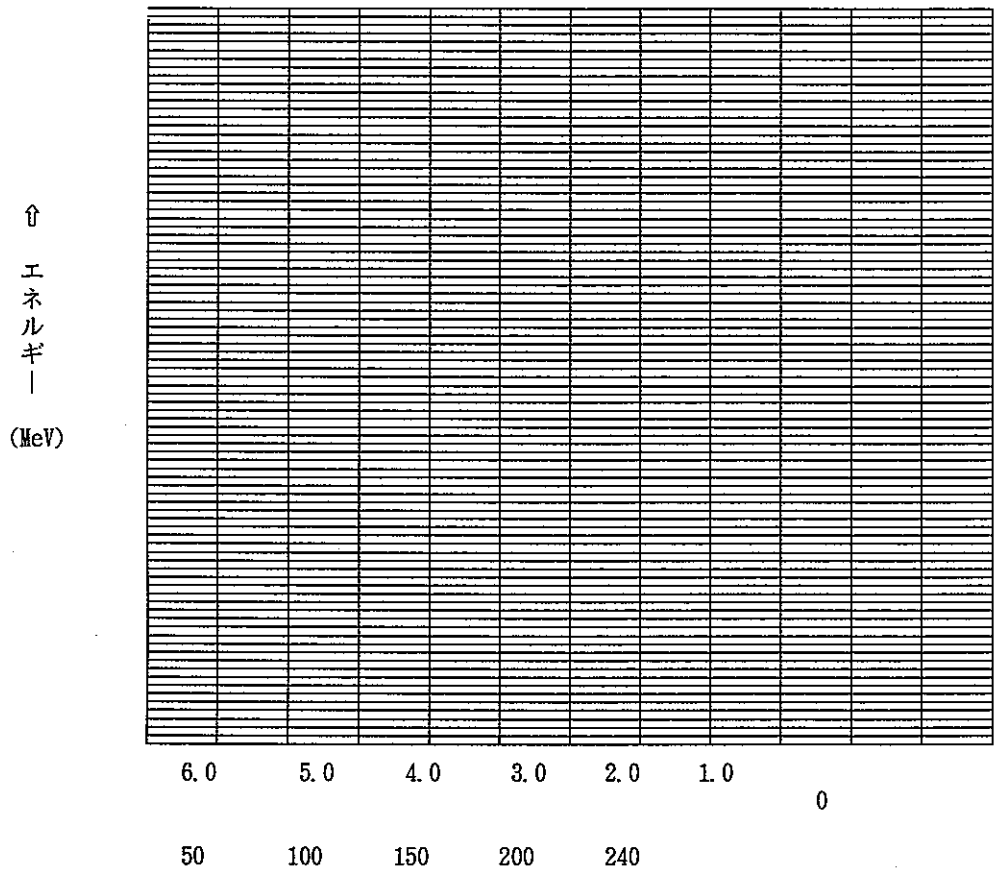
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.5 ～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧範囲	4.5 (V) 以上	(V)	(V)	
3．低圧及びバイアス電源 3.1 低圧電源の測定	4.0± 0.5(V)	(V)	(v)	
3.2 バイアス電源の測定	2708型　約-50(V) 3047型　約-100(V)	(V)	(v)	
4．アンプゲインの確認	ﾏｰｷｭﾘｰﾊﾟﾙｻｰ出力電圧	(mV)	(mV)	
	7～10倍	(倍)	(倍)	
5．指示精度の確認	50(cps) ±1(%) ROI，1	(cps)	(cps)	
	ROI，2	(cps)	(cps)	
	ROI，3	(cps)	(cps)	
6．分解能測定 6.1 FWHM測定	^{241}Am 線源のFWHM	(ch)	(ch)	
6.2 分解能の測定	$\frac{^{244}\text{Cm}\ \text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}\ (5.805\text{Mev}) - ^{239}\text{Pu}\ \text{ｴﾈﾙｷﾞｰ}\ (5.157\text{Mev})}{^{244}\text{Cm}\ \text{ﾋﾟｰｸ ch}\ (\quad\text{ch}) - ^{239}\text{Pu}\ \text{ﾋﾟｰｸ ch}\ (\quad\text{ch})} \times (\quad\text{ch})$	^{241}Am FWHM		
	^{241}Am 分解能：400(Kev) 以下	(Kev)	(Kev)	
7．エネルギー直線性	3点が直線上にあること。	良・否（　　）	良・否（　　）	グラフ参照
8．計数効率 8.1 バックグラウンドの測定	1(cps) 以下	(cps)	(cps)	
8.2 効率測定	20(%) 以上	(%)	(%)	
9．計数回路音の良・否	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
10．表示部の良・否	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
11．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

点検整備記録書

機器名	αスペクトル型サーベイメータ （TSM−R74タイプ）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

エネルギー直線性



設置場所		使用線源	Mixα線源、^{241}Am線源
点検場所		別添（有・(無)）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11EAB04

検査名（総合検査）

機器名	警報付ポケット線量計 （レムマスタ　NRQ2）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.9(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧低下検出機能の確認	4.3 ～ 4.9(V)	(V)	(V)	
3．表示動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．警報動作の確認 4.1 警報設定値超過	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.2 使用時間設定値超過	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．線源校正 5.1 線量精度	1(mSv)±15(%) 以内	(mSv)	(mSv)	
5.2 校正定数				
6．データ交信動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．線量パルス出力	V1 ：4.0(V)以上	(V)	(V)	
	V2 ：1.0(V)以下	(V)	(V)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs線源：1.1(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11EAC01

検査名（総合検査）

機器名	警報付ポケット線量計 （レムマスタ　NRQ4）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 電池電圧	4.9(V)以上	(V)	(V)	
2.2 電圧低下検出機能の確認	4.3 ～ 4.9(V)	(V)	(V)	
3．表示動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．警報動作の確認 4.1 警報設定値超過	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4.2 使用時間設定値超過	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．線源校正 5.1 線量精度	1(mSv)±15(%) 以内	(mSv)	(mSv)	
5.2 校正定数				
6．データ交信動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．線量パルス出力	V1 ：4.0(V)以上	(V)	(V)	
	V2 ：1.0(V)以下	(V)	(V)	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs線源：1.1(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAA03

検査名（総合検査）

機器名	可搬型α線ダストモニタ（応用光研㈱）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁抵抗	50（MΩ）以上	（MΩ）	（MΩ）	
3．低圧電源 3.1 出力電圧	出力電圧精度：±0.5(%)以内 負荷変動率　：無負荷時電圧の±0.2(%)以内 24(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	12(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
3.2 出力電圧の電源変動	ＡＣ100(v)負荷時出力電圧の±0.05(%) 以内 24(V)0.5(A) 負荷時　AC90(V)時	(V)	(V)	
	AC110(V)時	(V)	(V)	
	変動率	(%)	(%)	
	-24(V)0.5(A) 負荷時　AC90(V)時	(V)	(V)	
	AC110(V)時	(V)	(V)	
	変動率	(%)	(%)	
	12(V)1.0(A) 負荷時　AC90(V)時	(V)	(V)	
	AC110(V)時	(V)	(V)	
	変動率	(%)	(%)	
	-12(V)1.0(A) 負荷時　AC90(V)時	(V)	(V)	
	AC110(V)時	(V)	(V)	
	変動率	(%)	(%)	
3.3 リップル電圧測定	各電圧とも　3(mVp-p)以下 24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ (応用光研㈱)	機 器 No.	TAG. SER.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源 (　　) 4.1 出力電圧	メータ指示値：フルスケールの±2.5(%)以内 デジボル指示値：フルスケールの±1(%)以内 0～1000(v)				
	0(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	200(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	400(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	700(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	1000(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	500～1500(V)				
	500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	700(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	900(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	1100(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
	1500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル指示値	(V)	(V)	
4.2 出力電圧の負荷変動	無負荷時の±0.1(%)以内 負荷0.5(mA)		(%)	(%)	

点検整備記録書

機器名	可搬型α線ダストモニタ (応用光研㈱)	機器No.	TAG. SER.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4.3 リップル電圧測定	10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
5．リニアアンプ部 (７０４－１C) 5.1 利得の測定 (1) 直線性	×1	8	(mV)	(mV)	
		16	(mV)	(mV)	
		32	(V)	(V)	
		64	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
	×2	8	(mV)	(mV)	
		16	(mV)	(mV)	
		32	(V)	(V)	
		64	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
(2) 最大出力電圧	正 ： 10(V)以上		(V)	(V)	
	負 ： 10(V)以上		(V)	(V)	
5.2 雑音の測定	入力換算雑音 20(μVRMS)以下		(μVRMS)	(μVRMS)	
6．ＳＣＡ部 (　　) 6.1 入力動作範囲の確認 (1) LLD モード	フルスケールの±0.5(%)以内 ダイヤル目盛	50目盛	(V)	(V)	
		300目盛	(V)	(V)	
		500目盛	(V)	(V)	
		700目盛	(V)	(V)	
		900目盛	(V)	(V)	
(2) ULD モード	フルスケールの±0.5(%)以内 ダイヤル目盛	50目盛	(V)	(V)	
		300目盛	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ （応用光研㈱）	機 器 No.	TAG. SER.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
(3) ULD モード E0.5(v)	フルスケールの±1.0(%)以内 ダイヤル目盛	500目盛	(V)	(V)	
		700目盛	(V)	(V)	
		900目盛	(V)	(V)	
		400目盛	(V)	(V)	
		600目盛	(V)	(V)	
		800目盛	(V)	(V)	
6.2 分解能の測定	1.5(μsec)以下	ＩＮＴ	(nsec)	(nsec)	
		ＤＩＦＦ	(nsec)	(nsec)	
7．ログレートメータ (S-1902) 7.1 入力レベルの確認	2(V)以上		(V)	(V)	
7.2 非直線性の測定	基準値の±0.1(dec)以内 入力×1	基準値 4.5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	入力×100	基準値 450(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^6(cpm)	(cpm)	(cpm)	
7.3 レコーダ出力電圧の確認	フルスケールの±2(%)以内 入力×1	基準値 4.5(cpm)	(mV)	(mV)	
		10 (cpm)	(mV)	(mV)	
		10^2(cpm)	(mV)	(mV)	
		10^3(cpm)	(mV)	(mV)	
		10^4(cpm)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	可搬型α線ダストモニタ (応用光研㈱)	機器No.	TAG. No. SER. No.

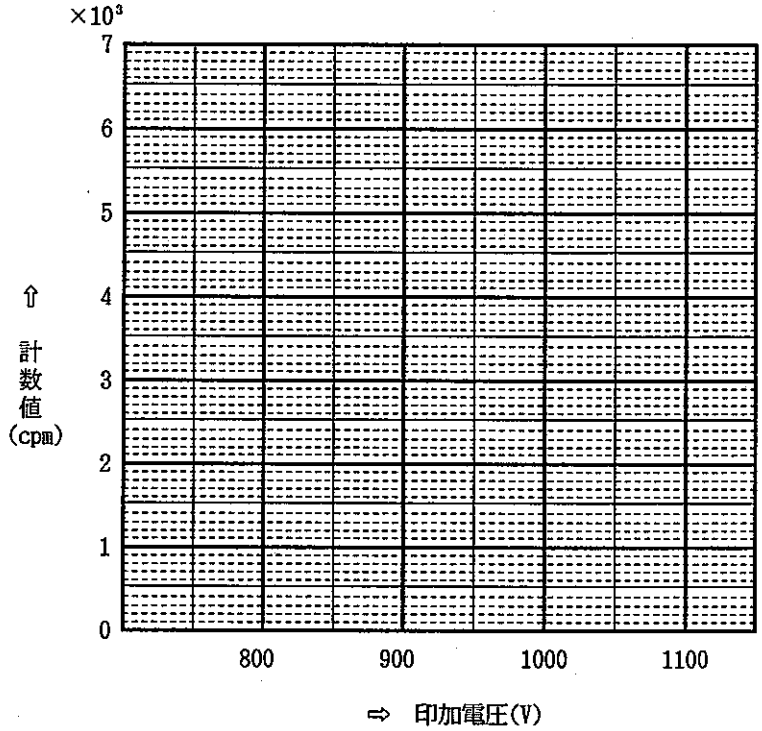
項目	基準		設定値	点検値	備考
7.4 警報設定値	入力×100	基準値 450(cpm)	(mV)	(mV)	
		10^3(cpm)	(mV)	(mV)	
		10^4 cpm)	(mV)	(mV)	
		10^5(cpm)	(mV)	(mV)	
		10^6(cpm)	(mV)	(mV)	
	×1	10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	×100	10^3(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		10^5(cpm)	(cpm)	(cpm)	
8. Zns(Ag)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ 検出器 (S-1766)					
8.1 プリアンプ	増幅度　約0.95（倍）		(倍)	(倍)	
	入力	-1(V)	(V)	(V)	
		-2(V)	(V)	(V)	
		-4(V)	(V)	(V)	
		-6(V)	(V)	(V)	
		-8(V)	(V)	(V)	
		-10(V)	(V)	(V)	
	最大無ひずみ電圧 -10(V)以上		(V)	(V)	
8.2 検出器出力波形			良・否（　　）	良・否（　　）	
8.3 プラトー測定	プラトー領域 :150(V)以上		(V)	(V)	
	プラトー傾斜 :10(%/100V)以上		(%/100V)	(%/100V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ （応用光研㈱）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考

プラトー測定



印加電圧(v)	計数値(cpm)
800	
850	
900	
950	
1000	
1050	
1100	
BG値	

使用電圧 ： (V)

9．総合検査 9.1 バックグラウンドの測定	1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
9.2 計数効率	10(%)以上	(%)	(%)	
9.3 警報動作確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
10. 測定モードの確認	設定電圧	(目盛)	(目盛)	
	リニアアンプ			
	コースゲイン	(目盛)	(目盛)	
	ファインゲイン	(目盛)	(目盛)	
	入力極性	POS・NEG( )	POS・NEG( )	
	シングルチャンネル波高分析器			
	ＬＬＤ	(目盛)	(目盛)	
	ＵＬＤ	(目盛)	(目盛)	
	モード	INT・DIFF( )	INT・DIFF( )	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ (応用光研㈱)	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
	レートメータ 警報設定値	(cpm)	(cpm)	
	測定値	(cpm)	(cpm)	
11. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否 (　　)		

構成機器リスト	

設 置 場 所	Pu－1	使 用 線 源	^{230}Th(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-1197
点 検 場 所	校正室	別添 (有・無)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAA04

検査名（総合検査）

機器名	カウントレートメータモジュール（S－1192）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．入力ディスクリ設定確認	設定電圧	0.5(V)	(V)	(V)	
		1.5(V)	(V)	(V)	
		1.5(V)	(V)	(V)	
		2.0(V)	(V)	(V)	
3．GM入力感度測定	10(μA)以下		(μA)	(μA)	
4．レートメータ直線性の確認					
4.1 レートメータ直線性の確認	フルスケールの±2.5(%)以内				
	30レンジ	10(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		20(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		30(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	100レンジ	30(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		60(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		90(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	300レンジ	100(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		200(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1Kレンジ	0.3(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		0.6(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		0.9(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
	3Kレンジ	1(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		2(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		3(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
	10Kレンジ	3(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		6(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		9(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	

点検整備記録書

機器名	カウントレートメータモジュール（S－1192）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4.2 レコーダ出力電圧の確認	30Kレンジ	10(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		20(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		30(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
	100Kレンジ	30(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		60(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		90(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
	300Kレンジ	100(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		200(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
		300(kcpm)	(kcpm)	(kcpm)	
	フルスケールの±2(%)以内				
	30レンジ	10(cpm)	(mV)	(mV)	
		20(cpm)	(mV)	(mV)	
		30(cpm)	(mV)	(mV)	
	100レンジ	30(cpm)	(mV)	(mV)	
		60(cpm)	(mV)	(mV)	
		90(cpm)	(mV)	(mV)	
	300レンジ	100(cpm)	(mV)	(mV)	
		200(cpm)	(mV)	(mV)	
		300(cpm)	(mV)	(mV)	
	1Kレンジ	0.3(kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.6(kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.9(kcpm)	(mV)	(mV)	
	3Kレンジ	1(kcpm)	(mV)	(mV)	
		2(kcpm)	(mV)	(mV)	
		3(kcpm)	(mV)	(mV)	
	10Kレンジ	3(kcpm)	(mV)	(mV)	
		6(kcpm)	(mV)	(mV)	
		9(kcpm)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	カウントレートメータモジュール （S－1192）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	30Kレンジ	10(kcpm)	(mV)	(mV)	
		20(kcpm)	(mV)	(mV)	
		30(kcpm)	(mV)	(mV)	
	100Kレンジ	30(kcpm)	(mV)	(mV)	
		60(kcpm)	(mV)	(mV)	
		90(kcpm)	(mV)	(mV)	
	300Kレンジ	100(kcpm)	(mV)	(mV)	
		200(kcpm)	(mV)	(mV)	
		300(kcpm)	(mV)	(mV)	
5．総合判定	各項目について異常のないこと。		良・否（　　）		

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11GAA05

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ（アロカ㈱）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁抵抗	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源 （　　） 3.1 出力電圧	出力電圧精度：±0.5(%)以内 負荷変動率　：無負荷時電圧の±0.1(%)以内			
	±24(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	±24(V)　0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)　0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	±12(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	±12(V)　1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)　1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
3.2 出力電圧の電源変動	AC100(V)負荷時出力電圧の±0.1(%)以内 入力電圧90(V) 時 +24(V)0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	+12(V)1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	入力電圧110(V)時 +24(V)0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-24(V)0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	+12(V)1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V)1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧測定	各電圧とも3(mVp-p) 以下 +24	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-12	(mVp-p)	(mVp-p)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ （アロカ㈱）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
4．高圧電源 4.1 出力電圧	負圧電圧100(μA)時の出力可変範囲	～　(V)	～　(V)	
4.2 電圧設定精度の確認	メータ指示誤差： フルスケールの±2.5(%)以内 出力偏差　： フルスケールの±0.5(%)以内 0(V)　メータ指示値	(V)	(V)	
	メータ指示誤差	(%)	(%)	
	デジボル値	(V)	(V)	
	出力偏差	(%)	(%)	
	500(V)　メータ指示値	(V)	(V)	
	メータ指示誤差	(%)	(%)	
	デジボル値	(V)	(V)	
	出力偏差	(%)	(%)	
	1000(V)　メータ指示値	(V)	(V)	
	メータ指示誤差	(%)	(%)	
	デジボル値	(V)	(V)	
	出力偏差	(%)	(%)	
	1500(V)　メータ指示値	(V)	(V)	
	メータ指示誤差	(%)	(%)	
	デジボル値	(V)	(V)	
	出力偏差	(%)	(%)	
4.3 電源変動試験及び負荷変動試験	出力電圧1500(V)　±0.5(%)以内 入力電圧100(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	負荷時	(V)	(V)	
	負荷変動率	(%)	(%)	
	入力電圧 90(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	電源変動率	(%)	(%)	
	入力電圧110(V)　無負荷時	(V)	(V)	
	電源変動率	(%)	(%)	
4.4 リップル電圧測定	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
5.　前置増巾器 (PAM-1024) 5.1 増巾器部 (1)　増巾度測定		(倍)	(倍)	

点検整備記録書

機器名	可搬型α線ダストモニタ（アロカ㈱）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
(2) 直線性の測定	-100(mV)	(V)	(V)	
	-200(mV)	(V)	(V)	
	-300(mV)	(V)	(V)	
	-400(mV)	(V)	(V)	
	-500(mV)	(V)	(V)	
(3) 最大無ひずみ電圧 (PAM-1024)	-9(V)以上	(V)	(V)	
5.2 ディスクリレベルの測定	-100(mV)±10(mV)	(mV)	(mV)	
6. リニアカウントレートメータ (AM-43M10) 6.1 ディスクリレベルの確認	-1±0.2(V)以内	(V)	(V)	
6.2 CAL値指示の確認	3.0×10^3±500(cpm)以内	(cpm)	(cpm)	
6.3 レートメータ直線性の確認 (1) レートメータ指示値の確認	フルスケールの±10(%)以内			
× 30	10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	20 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	30 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
×100	30 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	60 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	90 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
×300	100 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	200 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	300 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
× 1K	0.3 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	0.6 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	0.9 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
× 3K	1 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	2 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	3 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
× 10K	3 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	6 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	9 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	

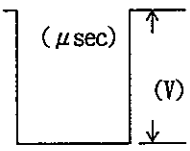
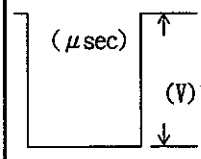
点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ （アロカ㈱）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
	× 30K	10 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		20 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		30 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	×100K	30 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		60 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		90 (Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
(2) レコーダ出力電圧の確認(AM-43M10)	±1(mV) 以内				
	× 30	10 (cpm)	(mV)	(mV)	
		20 (cpm)	(mV)	(mV)	
		30 (cpm)	(mV)	(mV)	
	×100	30 (cpm)	(mV)	(mV)	
		60 (cpm)	(mV)	(mV)	
		90 (cpm)	(mV)	(mV)	
	×300	100 (cpm)	(mV)	(mV)	
		200 (cpm)	(mV)	(mV)	
		300 (cpm)	(mV)	(mV)	
	× 1K	0.3 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.6 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.9 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
	× 3K	1 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		2 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		3 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
	× 10K	3 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		6 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		9 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
	× 30K	10 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		20 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		30 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
	×100K	30 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		60 (Kcpm)	(mV)	(mV)	
		90 (Kcpm)	(mV)	(mV)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ （アロカ㈱）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

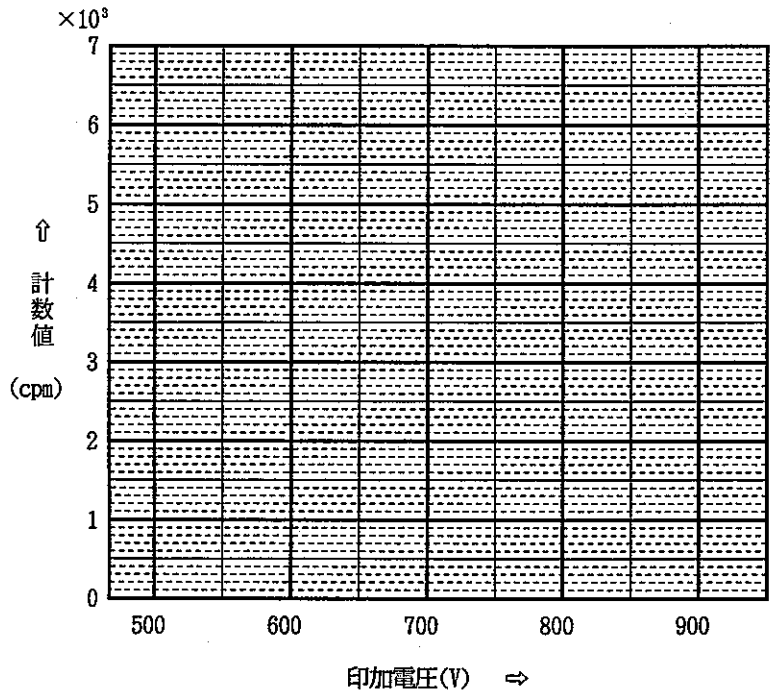
項 目	基 準			設 定 値	点 検 値	備 考
6.4 時定数測定	×100Kレンジにて 1(sec)±20(%) 以内			(sec)	(sec)	
	10(sec)±20(%) 以内			(sec)	(sec)	
	100(sec)±20(%) 以内			(sec)	(sec)	
7. 警報動作 7.1 警報動作の確認	正常に動作すること。					
	正常時	警報ランプ	消灯	良・否( )	良・否( )	
		ブザー	停止	良・否( )	良・否( )	
	正常	警報ランプ	点滅	良・否( )	良・否( )	
	→異常時	ブザー	吹鳴	良・否( )	良・否( )	
	ｱﾗｰﾑﾓｼﾞｭｰﾙ ﾌﾞｻﾞｰｽﾄｯﾌﾟ ｽｲｯﾁ押	警報ランプ	点滅	良・否( )	良・否( )	
		ブザー	停止	良・否( )	良・否( )	
	ﾚｰﾄﾒｰﾀﾓｼﾞｭｰﾙﾘｾｯﾄｽｲｯﾁ押	警報ランプ	消灯	良・否( )	良・否( )	
		ブザー	停止	良・否( )	良・否( )	
7.2 接点出力確認	正常に動作すること。			良・否( )	良・否( )	
8．ZnS(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器 (ZD-1005) 8.1 プリアンプ点検 (1) 増幅度	約0.95倍			(倍)	(倍)	
(2) 直線性	フルスケールの±5(%) 以内 入力 -1(V)			(V)	(V)	
	-2(V)			(V)	(V)	
	-4(V)			(V)	(V)	
	-6(V)			(V)	(V)	
	-8(V)			(V)	(V)	
	-10(V)			(V)	(V)	
(3) 最大無ひずみ電圧	MAX -10(V)以上			(V)	(V)	
8.2 検出器出力波形	前回の測定結果と比較し相違のないこと。					

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ （アロカ㈱）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
8.3 プラトー測定 圧	プラトー領域： 150(V) 以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜： 10(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値（cpm）

使用電圧：　　(V)

9．総合検査 9.1 バンクグラウンドの測定	1(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
9.2 計数効率	10(%)以上	(%)	(%)	
9.3 警報動作確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
10. 測定モードの確認	使用電圧	(目盛)	(目盛)	
	警報設定値	(cpm)	(cpm)	
	測定レンジ	(cpm)	(cpm)	
	時定数	(sec)	(sec)	
11. 総合判定	各項目について異常がないこと。	良・否(　　)		

点検整備記録書

機器名	可搬型α線ダストモニタ （アロカ㈱）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
構成機器リスト				

設置場所	CPF	使用線源	^{230}Th(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-1322
点検場所	校正室	別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	11GAA06

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ（MDR－303）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源				
2.1 出力電源	±1.0(V)			
	+ 24(V)	(V)	(V)	
	- 24(V)	(V)	(V)	
	+ 15(V)	(V)	(V)	
	- 15(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)	(V)	(V)	
2.2 リップル電圧	50(mVp-p) 以下			
	+ 24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 15(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 15(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．高圧電源				
3.1 出力電圧	±15(V)	(V)	(V)	
	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．前置増幅器部				
4.1 アンプゲイン	約15（倍）	(倍)	(倍)	
4.2 アンプ雑音	50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4.3 ディスクリレベル	-100(mV)±10(mV)	(mV)	(mV)	
5．計数率計部				
5.1 ディスクリレベル	-1±0.2(V)以内	(V)	(V)	
5.2 ディスクリ出力波高	-2.4(V)以上	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ（MDR－３０３）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
5.3 メータ指示精度	各レンジとも フルスケールの±3(%)以内				
	測定ﾚﾝｼﾞ	入力ﾊﾟﾙｽ(cpm)			
	30	18	(cpm)	(cpm)	
	100	60	(cpm)	(cpm)	
	300	180	(cpm)	(cpm)	
	1K	0.6K	(kcpm)	(kcpm)	
	3K	1.8K	(kcpm)	(kcpm)	
	10K	6K	(kcpm)	(kcpm)	
	30K	18K	(kcpm)	(kcpm)	
5.4 レコーダ出力	10±2(mV)		(mV)	(mV)	
5.5 時定数	各レンジとも±30(%) 以内 1(sec)： 0.7～ 1.3(sec)		(sec)	(sec)	
	10(sec)： 7.0～ 13.0(sec)		(sec)	(sec)	
	100(sec)：70.0～130.0(sec)		(sec)	(sec)	
	500(sec)：350.0～650.0(sec)		(sec)	(sec)	
6．校正試験	点検整備記録書　Zns(Ag) ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ検出器参照				
7．警報動作	正常に動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
8．総合判定	各項目について異常のないこと。		良・否（　　）		

設 置 場 所	Ｐ ｕ － ２	使 用 線 源	――――――
点 検 場 所	校　正　室	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAA07

検査名（総合検査）

機器名	可搬型α線ダストモニタ（MDR－504）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

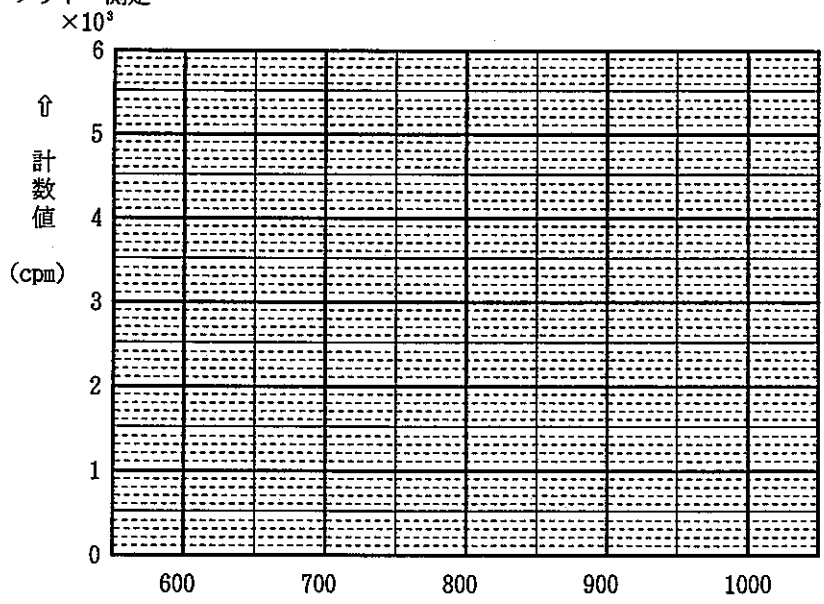
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 出力電圧	5 ±0.2(V)	(V)	(V)	
	12 ±0.4(V)	(V)	(V)	
	（VD）5 ±0.2(V)	(V)	(V)	
2.2 リップル電圧	150(mVp-p)以内 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	（VD） 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．高圧電源 3.1 出力電圧	±3(%)以内 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	1500(V)時　100 (mVp-p)以内	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．アンプ・ディスクリ部 4.1 アンプゲイン	2.5 ～3.5(倍)	(倍)	(倍)	
4.2 ディスクリレベル	-100±10(mV)	(mV)	(mV)	
5．指示精度 5.1 表示器	±3(%)以内 60(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5.2 記録計	リニア出力 フルスーケルの±3(%) 以内 ログ出力 フルスーケルの±0.15(dec) 以内 60(cpm) リニア	(mV)	(mV)	
	60(cpm) ログ	(mV)	(mV)	
	600(cpm) リニア	(mV)	(mV)	
	600(cpm) ログ	(mV)	(mV)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α線ダストモニタ（MDR－５０４）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準		設 定 値	点 検 値	備 考
	6000(cpm)	リニア	(mV)	(mV)	
		ログ	(mV)	(mV)	
6．プラトー測定 6.1 プラトー領域	150(V)以上		(V)	(V)	
6.2 プラトー傾斜	10(%/100V)以下		(%/100V)	(%/100V)	
7．バックグラウンド測定	1(cpm) 以下		(cpm)	(cpm)	
8．計数効率	5(%) 以上		(%)	(%)	
9．警報動作の確認	正常に動作すること。		良・否 ( )	良・否 ( )	
10．ＬＣＤ表示切換スイッチ動作の確認	正常に動作すること。		良・否 ( )	良・否 ( )	
11．測定モードの確認		使用電圧	(V)	(V)	
		警報設定値	(cpm)	(cpm)	
		標準偏差の設定値	(%)	(%)	
12．総合判定	各項目について異常のないこと。		良・否 ( )		

プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
６００	
６５０	
７００	
７５０	
８００	
８５０	
９００	
９５０	
１０００	

使用電圧: (V)

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添 (有・(無))	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAB01

検査名（総合検査）

機器名	可搬型β線ダストモニタ（東芝）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁試験	1000(V) メガにて50(MΩ) 以上		(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源 3.1 出力電圧	出力電圧±5(%)以内				
	+5 (V)		(V)	(V)	
	+12 (V)		(V)	(V)	
	-12 (V)		(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	50(mVp-p) 以下				
	+5 (V)		(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12 (V)		(mVp-p)	(mVp-p)	
	-12 (V)		(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源 4.1 出力電圧	メータ指示値±2.5(%)以内				
	0 (V)		(V)	(V)	
	500 (V)		(V)	(V)	
	1000 (V)		(V)	(V)	
	1500 (V)		(V)	(V)	
4.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
5．指示精度	指示計 基準周波数±0.2(dec)以内				
	×1 レンジ	10 指示計	(cpm)	(cpm)	
		10 記録計	(cpm)	(cpm)	
		10^2 指示計	(cpm)	(cpm)	
		10^2 記録計	(cpm)	(cpm)	
		10^3 指示計	(cpm)	(cpm)	
		10^3 記録計	(cpm)	(cpm)	
		10^4 指示計	(cpm)	(cpm)	
		10^4 記録計	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	可搬型β線ダストモニタ（東芝）	機器No.	TAG. No. SER. No.

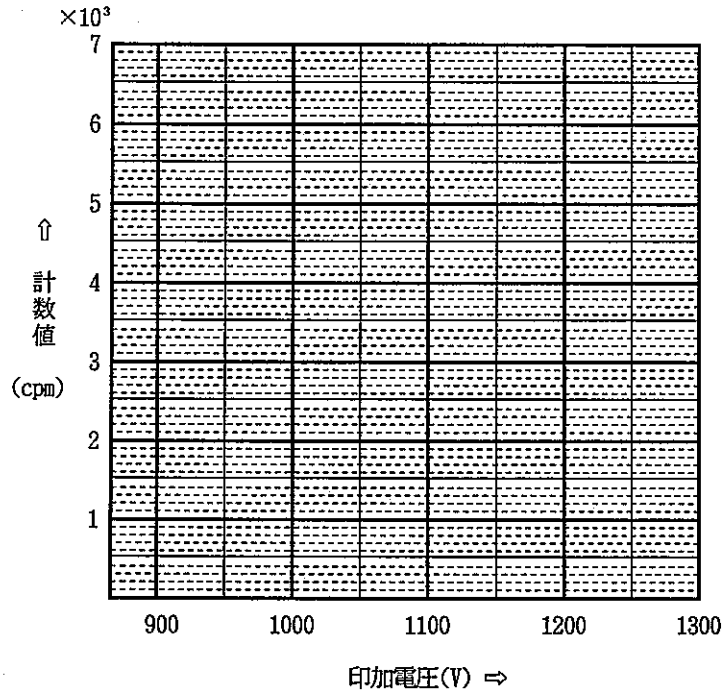
項目	基準			設定値	点検値	備考
	×1000レンジ	10^3	指示計	(cpm)	(cpm)	
			記録計	(cpm)	(cpm)	
		10^4	指示計	(cpm)	(cpm)	
			記録計	(cpm)	(cpm)	
		10^5	指示計	(cpm)	(cpm)	
			記録計	(cpm)	(cpm)	
		10^6	指示計	(cpm)	(cpm)	
			記録計	(cpm)	(cpm)	
	レコーダー出力電圧			(mv)	(mv)	
6．テスト回路指示確認	1.0×10^3(cpm)±0.2(dec)以内			(cpm)	(cpm)	
7．ディスクリレベル	0.2(V)			(V)	(V)	
8．校正試験 8.1 プラトー測定	プラトー領域：150(V)以上			(V)	(V)	
	プラトー傾斜：15(%/100V)以下			(%/100V)	(%/100V)	
8.2 バックグラウンドの測定	100(cpm)以下			(cpm)	(cpm)	
8.3 効率測定	10(%) 以上			(%)	(%)	
9．警報動作試験 9.1 警報設定精度	低レベル	10^2（×1）		(cpm)	(cpm)	
		10^4（×100）		(cpm)	(cpm)	
	高レベル	10^4（×1）		(cpm)	(cpm)	
		10^6（×100）		(cpm)	(cpm)	
9.2 警報動作試験	正常に動作すること。			良・否（　　）	良・否（　　）	
9.3 リセット動作確認	正常に動作すること。			良・否（　　）	良・否（　　）	
10．総合判定	各項目について異常のないこと。			良・否（　　）		

点検整備記録書

機器名	可搬型β線ダストモニタ（東芝）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値(cpm)
	計数開始

使用電圧：　　(V)

設置場所	再処理	使用線源	^{90}Sr(チェック ソース)、協-1315
点検場所	再処理	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAB04

検査名（総合検査）

機器名	可搬型β線ダストモニタ（S－1305）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

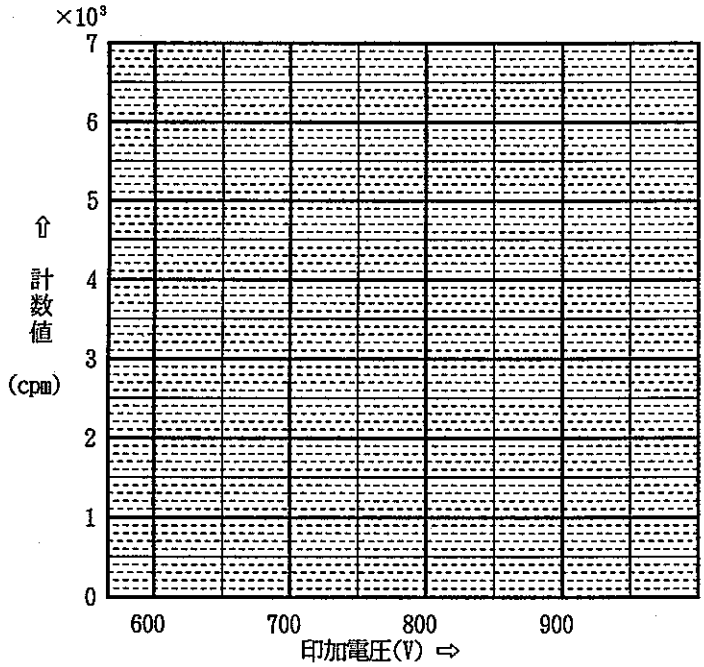
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 出力電圧の測定	15±0.1 (V)	(V)	(V)	
	-15±0.1 (V)	(V)	(V)	
3．高圧電源 3.1 検出器印加電圧	680～730(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧		(mVp-p)	(mVp-p)	
4．プラトー測定	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜：15(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
5．入力感度	-3 ～ -6(mV)	(mV)	(mV)	
6．ディスクリ設定	1.0±0.1(V)以内	(V)	(V)	
7．指示調整	メータ指示値：フルスケールの±3%以内 記録計　：フルスケールの±5%以内 (入力値)			
	1.8×10^{2} (cpm) メータ値	(cpm)	(cpm)	
	1.8×10^{2} (cpm) 記録計	(cpm)	(cpm)	
	6×10^{2} (cpm) メータ値	(cpm)	(cpm)	
	6×10^{2} (cpm) 記録計	(cpm)	(cpm)	
	1.8×10^{3} (cpm) メータ値	(cpm)	(cpm)	
	1.8×10^{3} (cpm) 記録計	(cpm)	(cpm)	
	6×10^{3} (cpm) メータ値	(cpm)	(cpm)	
	6×10^{3} (cpm) 記録計	(cpm)	(cpm)	
	1.8×10^{4} (cpm) メータ値	(cpm)	(cpm)	
	1.8×10^{4} (cpm) 記録計	(cpm)	(cpm)	
	6×10^{4} (cpm) メータ値	(cpm)	(cpm)	
	6×10^{4} (cpm) 記録計	(cpm)	(cpm)	
8．時定数 10 (sec)	8～12 (sec)	(sec)	(sec)	
30 (sec)	24～36 (sec)	(sec)	(sec)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型β線ダストモニタ（S－1305）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
60（sec）	48～72（sec）	（sec）	（sec）	
9．警報設定ダイヤルの確認	フルスケールの±5(%)以内 2.00	（cpm）	（cpm）	
	6.00	（cpm）	（cpm）	
	8.00	（cpm）	（cpm）	
10. 警報出力の確認 10.1 警報ランプの確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
10.2 アラームコネクタの確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
11. 計数効率	24(%)以上	（%）	（%）	
12. ﾊﾞｯｸｸﾞﾗﾝﾄﾞの測定	100(cpm)以下	（cpm）	（cpm）	
13. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)
	開始電圧
600	
650	
700	
750	
800	
850	
900	
B.G	

使用電圧 （V）

構成機器リスト

設 置 場 所	再処理	使 用 線 源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-1322
点 検 場 所	再処理	別添（有・無）	

点検整備記録書

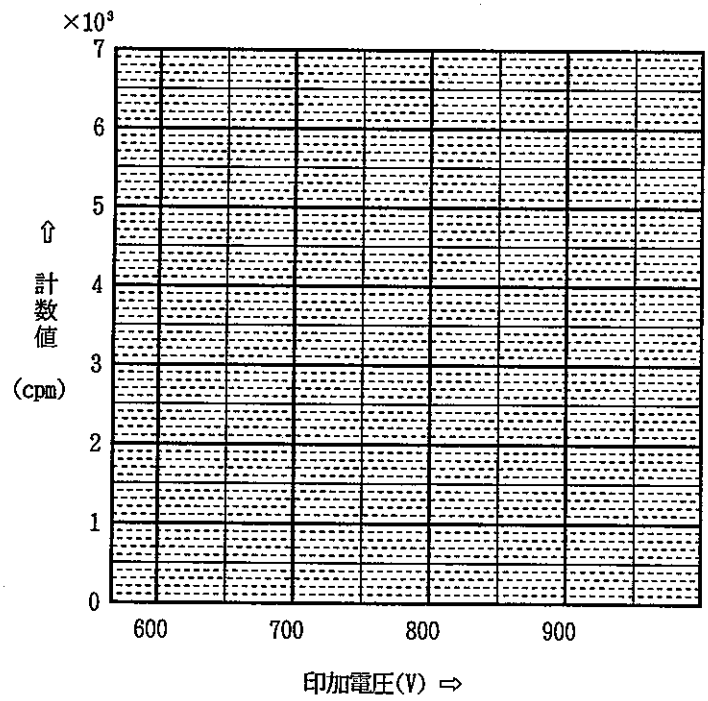
管理番号	
整理番号	14OAB05

検査名（回路試験）

機器名	外部GM管検出器（S－1749）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．プラトー測定	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜：15(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
3．バックグラウンドの測定	100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
4．計数効率	24(%)以上	(%)	(%)	
5．外観チェック	破損のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)
	開始電圧
600	
650	
700	
750	
800	
850	
900	
B.G	

使用電圧　　(V)

設置場所	再処理	使用線源	^{90}Sr(チェック ソース)、協-1322
点検場所	再処理	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAB06

検査名（総合検査）

機器名	可搬型β線ダストモニタ（アロカ㈱）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁抵抗	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源 （　　） 3.1 出力電圧	出力電圧精度　±0.5(%)以内 負荷変動率　無負荷時電圧の±0.1(%)以内 +24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	-24(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	0.5(A)負荷時	(V)	(V)	
	+12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	1.0(A)負荷時	(V)	(V)	
3.2 出力電圧の電源変動	AC100(V)負荷時出力電圧の±0.1(%)以内 入力電圧90(V) 以内 +24(V) 0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	+24(V) 0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	入力電圧110(V)時 +24(V) 0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	+24(V) 0.5(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
	-12(V) 1.0(A) 負荷時	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧測定	各電圧とも3(mVp-p)以下 +24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	可搬型β線ダストモニタ（アロカ㈱）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4．高圧電源 4.1 出力電圧	負荷電圧100(μA)時の出力可変範囲		～ (V)	～ (V)	
4.2 電圧設定精度の確認	メータ指示誤差： フルスケールの±2.5(%)以内 出力偏差 ： フルスケールの±0.5(%)以内				
	0(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		メータ指示誤差	(%)	(%)	
		デジボル値	(V)	(V)	
		出力偏差	(%)	(%)	
	500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		メータ指示誤差	(%)	(%)	
		デジボル値	(V)	(V)	
		出力偏差	(%)	(%)	
	1000(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		メータ指示誤差	(%)	(%)	
		デジボル値	(V)	(V)	
		出力偏差	(%)	(%)	
	1500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		メータ指示誤差	(%)	(%)	
		デジボル値	(V)	(V)	
		出力偏差	(%)	(%)	
4.3 電源変動試験及び負荷変動試験	出力電圧 1500(V)±0.5(%)以内 入力電圧 100(V)	無負荷時	(V)	(V)	
		負荷時	(V)	(V)	
		負荷変動率	(%)	(%)	
	入力電圧 90(V)	負荷時	(V)	(V)	
		電源変動率	(%)	(%)	
	入力電圧 110(V)	負荷時	(V)	(V)	
		電源変動率	(%)	(%)	
4.4 リップル電圧測定	100(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	可搬型β線ダストモニタ （アロカ㈱）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5．前置増巾器 (PAM-1025) 5.1 増巾器部 (1) 増巾度測定	約0.95倍	(倍)	(倍)	
(2) 直線性の測定	-0.2(V)	(V)	(V)	
	-0.4(V)	(V)	(V)	
	-0.6(V)	(V)	(V)	
	-0.8(V)	(V)	(V)	
	-1.0(V)	(V)	(V)	
(3) 最大無ひずみ電圧	-1.0(V) 以上	(V)	(V)	
5.2 ディスクリレベルの設定	-100(mV)±10(mV)	(mV)	(mV)	
6．ログレートメータ (AM-43M06C) 6.1 ディスクリレベル確認	-1.0±0.2(V)以内	(V)	(V)	
6.2 ＣＡＬ値指示の確認	(Lo) 60cpm	(cpm)	(cpm)	
	(Hi) 6000cpm	(cpm)	(cpm)	
6.3 レートメータ直線性の確認	基準値±0.24デガード以内 記録計±1(mV) 以内 × 1レンジ 基準値 10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	記録計 0 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^2 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	2.5 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	5.0 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^4 (cpm)	(mV)	(mV)	
	7.5 (mV)	(cpm)	(cpm)	
	10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10.0 (mV)	(mV)	(mV)	
	×10レンジ 基準値 10^2 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	記録計 0 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	2.5 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^4 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	5.0 (mV)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	可搬型β線ダストモニタ（アロカ㈱）	機器No.	TAG. No. SER. No.

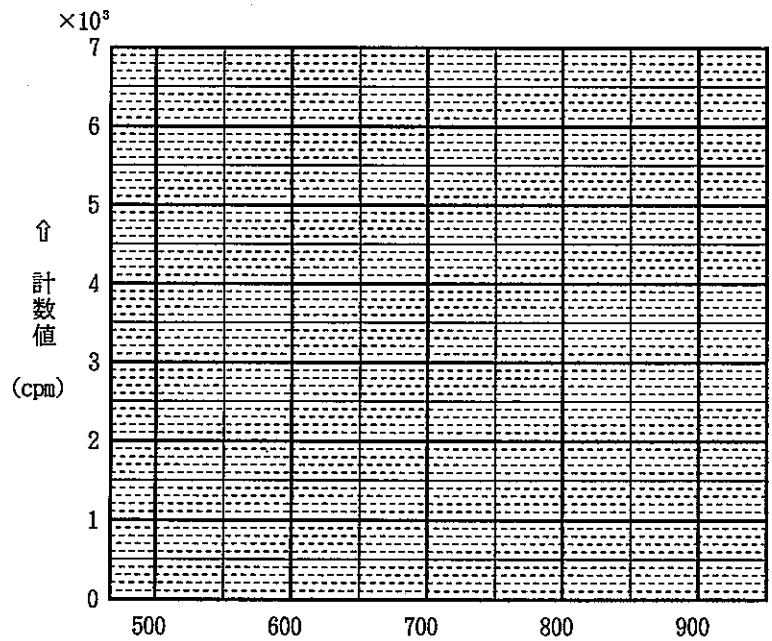
項目	基準	設定値	点検値	備考
	10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	7.5 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^6 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10.0 (mV)	(mV)	(mV)	
	×100 レンジ基準値 10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	記録計 0 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^4 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	2.5 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	5.0 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^6 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	7.5 (mV)	(mV)	(mV)	
	10^7 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10.0 (mV)	(mV)	(mV)	
6.4 時定数の確認	正常に動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	
7. 警報動作 7.1 警報系試験	警報設定値±0.2(dec)以下 × 1レンジ 2.0 ×10^2(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	×10レンジ 2.0 ×10^4(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	×100レンジ 2.0 ×10^6(cpm)	(cpm)	(cpm)	
7.2 警報動作の確認	正常に動作すること。			
	正常時 / 警報ランプ / 消灯	良・否（　）	良・否（　）	
	正常時 / ブザー / 停止	良・否（　）	良・否（　）	
	正常→異常時 / 警報ランプ / 点滅	良・否（　）	良・否（　）	
	正常→異常時 / ブザー / 吹鳴	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームモジュール ブザーストップ スイッチ押 / 警報ランプ / 点滅	良・否（　）	良・否（　）	
	アラームモジュール ブザーストップ スイッチ押 / ブザー / 停止	良・否（　）	良・否（　）	
	レートメータモジュール リセット スイッチ押 / 警報ランプ / 消灯	良・否（　）	良・否（　）	
	レートメータモジュール リセット スイッチ押 / ブザー / 停止	良・否（　）	良・否（　）	
7.3 接点出力確認	正常に動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	

点検整備記録書

機器名	可搬型β線ダストモニタ（アロカ㈱）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
8. GM管検出器 (GP-103) 8.1 検出器出力波形	前回の測定結果と比較し相違のないこと。	(μSec) ↑ (V) ↓	(μSec) ↑ (V) ↓	
8.2 プラトー測定	プラトー領域：150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜：10(%/100V) 以上	(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧 (V)	計数値 (cpm)
	開始電圧

使用電圧： (V)

9. 総合検査 9.1 バックグラウンド測定	100(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
9.2 計数効率	25(%)以上	(%)	(%)	
9.3 警報動作確認	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型β線ダストモニタ （アロカ㈱）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
10. 測定モードの確認	使用電圧	（目盛）	（目盛）	
	警報設定値	（cpm）	（cpm）	
	測定レンジ	（cpm）	（cpm）	
	時定数	（Sec）	（Sec）	
11. 総合判定	各項目について異常がないこと。	良・否（ ）		

構成機器リスト	

設 置 場 所	CPF	使 用 線 源	^{90}Sr(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-1322
点 検 場 所	校正室	別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAC01

検査名（総合検査）

機器名	γ線エリアモニタ（808M　　）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源部 2.1 AC入力時の低圧出力	+12±0.5(V)	(V)	(V)	
	−12±0.5(V)	(V)	(V)	
2.2 検出器印可電圧	−50±3(V)	(V)	(V)	
3．測定部 3.1 線量当量率基準点照合	1(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
3.2 線量当量率基準点照合動作	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±3(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの測定	読み値	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正	±0.24(dec) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．警報試験 8.1 設定精度 5(μSv/h)	±0.24(dec) 以内	(μSv/h)	(μSv/h)	
50(μSv/h)		(μSv/h)	(μSv/h)	
500(μSv/h)		(μSv/h)	(μSv/h)	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

検出器
TAG. No：＿＿＿＿＿＿＿＿
SER. No：＿＿＿＿＿＿＿＿

設置場所		使用線源	^{137}Cs線源：555(MBq),7.4(GBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAC04

検査名（総合検査）

機器名	γ線エリアモニタ（808MD）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源部 2.1 AC入力時の低圧出力	＋15±0.5(V)	(V)	(V)	
	−15±0.5(V)	(V)	(V)	
2.2 検出器印可電圧	−200±12(V)	(V)	(V)	
3．測定部 3.1 線量当量率基準点照合	0(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
3.2 線量当量率基準点照合動作	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±3(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの測定	5(μSv/h) 以下	(μSv/h)	(μSv/h)	
7．線源校正 7.1 校正定数	1±0.3 以内			
7.2 直線正	基準値±10(%) 以内又は、最大目盛値± 5(%) 以内	良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
8．警報試験 8.1 設定精度 300(μSv/h)	±30(%) 以内	(μSv/h)	(μSv/h)	
600(μSv/h)		(μSv/h)	(μSv/h)	
800(μSv/h)		(μSv/h)	(μSv/h)	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

検出器　TAG. No：＿＿＿＿＿＿＿＿

SER. No：＿＿＿＿＿＿＿＿

設置場所		使用線源	^{137}Cs線源: 74(GBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAC02

検査名（総合検査）

機器名	γ線エリアモニタ（808MA）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源部 2.1 AC入力時の低圧出力	＋15±0.5(V)	(V)	(V)	
	−15±0.5(V)	(V)	(V)	
2.2 検出器印可電圧	−200 ±12(V)	(V)	(V)	
3．測定部 3.1 線量当量率基準点照合	0.01(mSv/h)	(mSv/h)	(mSv/h)	
3.2 線量当量率基準点照合動作	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．ドリフトチェック	最大目盛値±3(%)以内	良・否（　　）	良・否（　　）	
5．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．バックグラウンドの測定	読み値	(mSv/h)	(mSv/h)	
7．線源校正	各レンジとも±0.24(dec) 以内 10(mSv/h)レンジ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	100(mSv/h)レンジ	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．警報試験（設定精度） 0.05(mSv/h)	±0.24(dec) 以内	(mSv/h)	(mSv/h)	
0.5(mSv/h)		(mSv/h)	(mSv/h)	
5(mSv/h)		(mSv/h)	(mSv/h)	
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

検出器

SER. No.：

SER. No.：

SER. No.：

設置場所		使用線源	^{137}Cs：7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAC07

検査名（総合検査）

機器名	γ線エリアモニタ（MAR－R21－802）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（ ）	良・否（ ）	
2．低圧電源 3.1 ランプチェック	ランプが点灯すること。		良・否（ ）	良・否（ ）	
3.2 出力電圧	±24±0.2(V)	+24(V)	(V)	(V)	
		-24(V)	(V)	(V)	
3.3 リップル電圧	20(mVp-p) 以下	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．高圧電源 4.1 出力電圧	340±50(V)		(V)	(V)	
4.2 リップル電圧	10(mVp-p)以下		(mVp-p)	(mVp-p)	
4．ドーズレートメータ零点の確認	正常に動作すること。		良・否（ ）	良・否（ ）	
5．警報動作の確認	正常に動作すること。		良・否（ ）	良・否（ ）	
6．ドリフト試験	ドリフトのないこと。		良・否（ ）	良・否（ ）	
7．バックグラウンドの確認	0.002(mSv/h)以下		(mSv/h)	(mSv/h)	
8．線源校正 8.1 校正定数	各レンジとも1±0.3 以内	0.1(mSv/h)			
		0.3(mSv/h)			
		1(mSv/h)			
		3(mSv/h)			
		10(mSv/h)			
		30(mSv/h)			
		100(mSv/h)			
8.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 以内又は最大目盛値±5(%)以内		良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は8.1項で描いた直線上の点

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	γ線エリアモニタ （MAR－R21－802）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
9．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

設 置 場 所		使 用 線 源	^{137}Cs： 7.4(GBq), 74(GBq), 1.11(TBq)
点 検 場 所	校 正 室	別添（有・無）	グ ラ フ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	11GAF03

検査名（総合検査）

機器名	可搬型γ線モニタ（GM管式MAR－303u）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

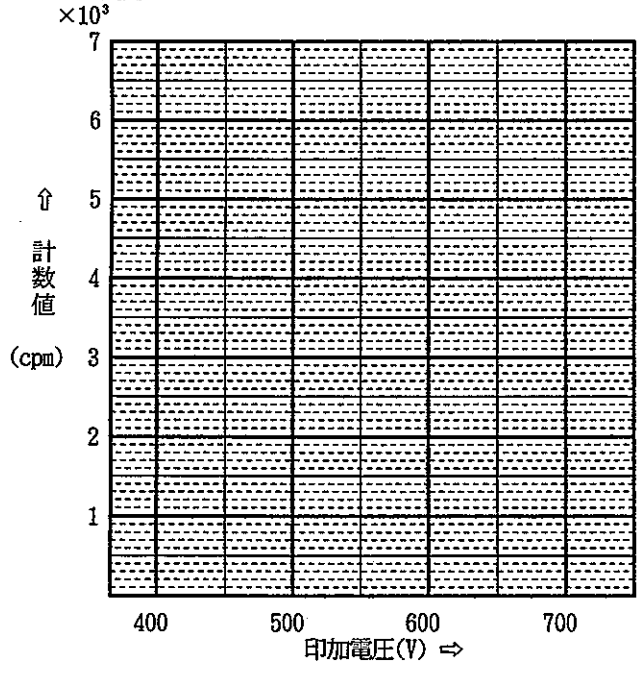
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 出力電源	+12(V) ±0.3(V)以内	(V)	(V)	
	+ 5(V) ±0.3(V)以内	(V)	(V)	
	- 6(V) ±0.6(V)以内	(V)	(V)	
2.2 リップル電圧	+12(V):150(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	+ 5(V):250(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 6(V):150(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．電圧電流 3.1 出力電圧	±10(%) 以内 500(V)	(V)	(V)	
	600(V)	(V)	(V)	
	700(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．入力感度測定	-500(mV)±10(%) 以内	(mV)	(mV)	
5．指示精度測定	±0.24(dec) 以内 入力信号 1(cps) / OPアンプ A_2－⑥ 1.25(v) / メーター指示 1(μsv/h)	(V)	(V)	
	10(cps) / 2.50(v) / 10(μsv/h)	(μsv/h)	(μsv/h)	
	100(cps) / 3.75(v) / 100(μsv/h)	(V)	(V)	
	1000(cps) / 5.00(v) / 1000(μsv/h)	(μsv/h)	(μsv/h)	
		(V)	(V)	
		(μsv/h)	(μsv/h)	
6．記録計出力	フルスケールの10(mV)±3(%)以内	(mV)	(mV)	
7．窒息防止の確認	2.0 ～2.1(V)以内	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型γ線モニタ （GM管式MAR－３０３u）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
8．表示部の確認 8.1 OPERATE ランプの動作確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
8.2 ALARM ランプの動作確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
9．プラトー測定	プラトー領域： 150(V)以上	(V)	(V)	
	プラトー傾斜： 15(%/100V)以下	(%/100V)	(%/100V)	
10. ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
11. バックグランドの測定	0.5(μsv/h) 以下	(μsv/h)	(μsv/h)	
12. 線源校正	±0.24(dec) 以内	良・否（ ）	良・否（ ）	
13. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値(cpm)
	開始電圧

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	ダストサンプラ （DSM－３０４B）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1. 点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2. 絶縁抵抗試験	5（MΩ）以上	良・否（　　）	良・否（　　）	
3. 手動制御動作確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4. 保護機能確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
5. 警報リセット確認	ブザーが停止し、各警報ランプが消灯すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6. 吸引流量確認	１００（Nℓ/min）以上	良・否（　　）	良・否（　　）	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	記録計 （4266，14365）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1. 点検清掃・注油	部品の破損、ネジのゆるみ、コネクタの接触などに、異常がなく、各部に注油されていること。	良・否（　）	良・否（　）	
2．絶縁抵抗試験 2.1 打点記録部	正常に動作すること。	良・否（　）	良・否（　）	
2.2 指示部	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
2.3 平衡部	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
3．記録計紙送り機構確認 3.1 チャート送り部	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
3.2 チャートガイド部	異常のないこと。	良・否（　）	良・否（　）	
4．指示試験	±0.5(%)F.S 以内			

入力電圧（V）	校正点（%）	設定値	点検値
0.0	0	(%)	(%)
0.2	20	(%)	(%)
0.4	40	(%)	(%)
0.6	60	(%)	(%)
0.8	80	(%)	(%)
1.0	100	(%)	(%)

設置場所		点検場所	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型ヨウ素モニタ （モジュール型）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．点検前測定モードの確認	高圧電源	（目盛）	（目盛）	
	COARSE. GAIN			
	FINE. GAIN			
	INPUT MODE	POS, NEG（ ）	POS, NEG（ ）	
	LLD	（目盛）	（目盛）	
	ULD	（目盛）	（目盛）	
	INT/ΔIFF			
	ΔE/ULD			
	FUNCTION MODE			
3．エネルギー分解能測定	40(%) 以下	(%)	(%)	
4．バックグラウンドの測定	30(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
5．検出器効率の測定	2(%)以上	(%)	(%)	
6．測定モードの確認	高圧電源	（目盛）	（目盛）	
	COARSE. GAIN			
	FINE. GAIN			
	INPUT MODE	POS, NEG（ ）	POS, NEG（ ）	
	LLD	（目盛）	（目盛）	
	ULD	（目盛）	（目盛）	
	INT/DIFF			
	ΔE/ULD			
	FUNCTION MODE			
7．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

設 置 場 所		使 用 線 源	
点 検 場 所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（回路試験）

機器名	低圧電源 （７０１－４）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	±0.5(%)以内			
	+24(V) 無負荷時	+ (V)	+ (V)	
	+24(V) 1A負荷時	+ (V)	+ (V)	
	-24(V) 無負荷時	- (V)	- (V)	
	-24(V) 1A負荷時	- (V)	- (V)	
	+12(V) 無負荷時	+ (V)	+ (V)	
	+12(V) 2A負荷時	+ (V)	+ (V)	
	-12(V) 無負荷時	- (V)	- (V)	
	-12(V) 2A負荷時	- (V)	- (V)	
3．電圧変動の測定 3.1 入力電圧AC:90(V)	電源変動：±0.5(%)以内 負荷変動：±0.5(%)以内			
	+24(V) 無負荷時	+ (V)	+ (V)	
	+24(V) 1A負荷時	+ (V)	+ (V)	
	-24(V) 無負荷時	- (V)	- (V)	
	-24(V) 1A負荷時	- (V)	- (V)	
	+12(V) 無負荷時	+ (V)	+ (V)	
	+12(V) 2A負荷時	+ (V)	+ (V)	
	-12(V) 無負荷時	- (V)	- (V)	
	-12(V) 2A負荷時	- (V)	- (V)	

点検整備記録書

機器名	低圧電源 （７０１－４）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.2 入力電圧AC:110(V)					
	+24(V)	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
		1A負荷時	+ (V)	+ (V)	
	-24(V)	無負荷時	- (V)	- (V)	
		1A負荷時	- (V)	- (V)	
	+12(V)	無負荷時	+ (V)	+ (V)	
		2A負荷時	+ (V)	+ (V)	
	-12(V)	無負荷時	- (V)	- (V)	
		2A負荷時	- (V)	- (V)	
4．リップルノイズの測定	10(mVp-p)以下	+24 (V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24 (V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12 (V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12 (V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（回路試験）

機器名	高圧電源 （７１４－１Ｂ）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．出力電圧の確認	負荷電流3(mA) 時の出力可変範囲 0～2000(V)±2(%)以内	～　(V)	～　(V)	
3．電圧設定精度の確認	フルスケールの±2(%)以内			
	500 (V)	(V)	(V)	
	1000 (V)	(V)	(V)	
	1500 (V)	(V)	(V)	
	2000 (V)	(V)	(V)	
4．負荷変動	フルスケールの±0.5(%)以内			
	1000(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	1000(V) 負荷3(mA) 時	(V)	(V)	
	2000(V) 無負荷時	(V)	(V)	
	2000(V) 負荷3(mA) 時	(V)	(V)	
5．リップルノイズ	50(mVp-p)以下 負荷3(mA) 時 1000(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	2000(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	

設置場所		点検場所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（回路試験）

機器名	リニアアンプ（７０４－１Ｃ）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準		設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
2．リニアアンプ部 2.1 利得の測定	×1	8	(mV)	(mV)	
		16	(V)	(V)	
		32	(V)	(V)	
		64	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
	×2	8	(mV)	(mV)	
		16	(V)	(V)	
		32	(V)	(V)	
		64	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
	2）最大出力電圧	正10(V) 以上	(V)	(V)	
		負10(V) 以上	(V)	(V)	
2.2 雑音の測定	入力換算雑音	3.5(mVRMS) 以下	(mVRMS)	(mVRMS)	
3．ＳＣＡ部 3.1 入力動作範囲の確認 ＬＬＤモード	フルスケールの±1.0(%)以内 ダイヤル目盛	900(目盛)	(V)	(V)	
		700(目盛)	(V)	(V)	
		500(目盛)	(V)	(V)	
		300(目盛)	(V)	(V)	
		50(目盛)	(V)	(V)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	リニアアンプ （７０４－１Ｃ）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
ＵＬＤモード E max	フルスケールの±1.0(%)以内 ダイヤル目盛	900(目盛)	(V)	(V)	
		700(目盛)	(V)	(V)	
		500(目盛)	(V)	(V)	
		300(目盛)	(V)	(V)	
		50(目盛)	(V)	(V)	
ＵＬＤモード ΔE 0.5V	フルスケールの±1.0(%)以内 ダイヤル目盛	800(目盛)	(V)	(V)	
		600(目盛)	(V)	(V)	
		400(目盛)	(V)	(V)	
4．分解能の測定	1.5(μsec)以下	INT	(nsec)	(nsec)	
		DIFF	(nsec)	(nsec)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

管理番号	
整理番号	

点 検 整 備 記 録 書

検査名（回路試験）

機 器 名	スケーラ・タイマモジュール（７１１－５Ｂ）	承認		年 月 日	
機 器 No	TAG. No SER. No	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否(　　)	良・否(　　)	
2．プリセット動作の確認	1 : 1 ±1ｶｳﾝﾄ			
	10 : 10 ±1ｶｳﾝﾄ			
	100 : 100 ±1ｶｳﾝﾄ			
	1000 : 1000 ±1ｶｳﾝﾄ			
	10000 :10000 ±1ｶｳﾝﾄ			
3．計数動作の確認 ch-1 カウンタ	±0.5(%)以内 1×10^1 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1×10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1×10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
ch-2 カウンタ	1×10^1 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1×10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1×10^5 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
4．クロックパルスの確認	±0.5(%)以内			
10HZの分周	ch-1 100			
	ch-2 100000			
1/6HZの分周	ch-1 10			
	ch-2 60000			
5．操作モードの確認ディスプレイ	正常に動作すること。			
	ON	良・否(　　)	良・否(　　)	
	OFF	良・否(　　)	良・否(　　)	

設 置 場 所		点 検 場 所	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（回路試験）

機器名	ヨウ素モニタ検出器 （2φ×2㎜t，2φ×5㎜t）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．増幅部 2.1 増幅度及び雑音測定	最小利得	（倍）	（倍）	
	最大利得で15倍以上	（倍）	（倍）	
	300（μVRMS）以下	（μVRMS）	（μVRMS）	
2.2 直線性の確認	1.0（V）	（V）	（V）	
	2.0（V）	（V）	（V）	
	3.0（V）	（V）	（V）	
	4.0（V）	（V）	（V）	
	最大出力　5.0（V）以上	（V）	（V）	
3．エネルギー分解能の測定	40(%)以下	（%）	（%）	

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	可搬型ヨウ素モニタ （JDC－R74－2779）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

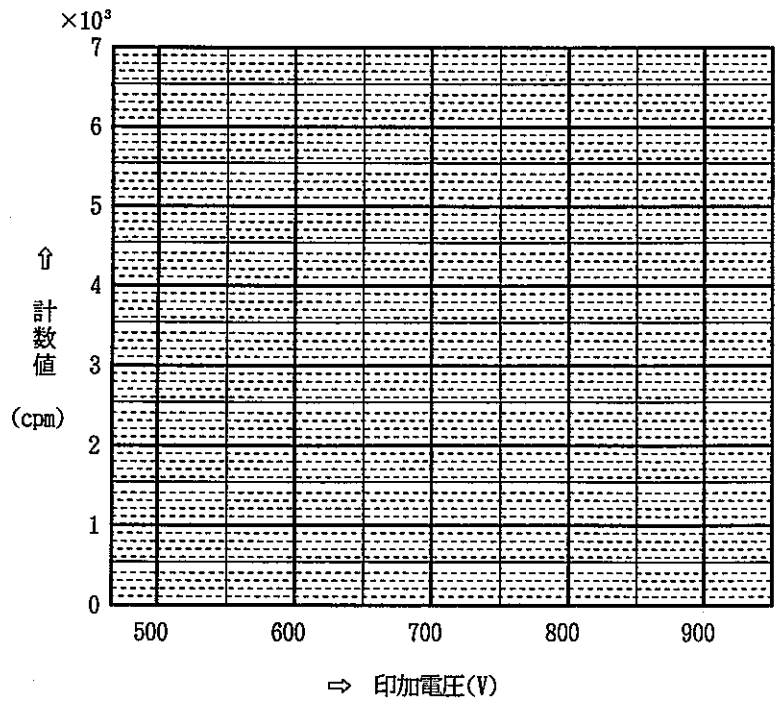
項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁抵抗	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源 3.1 出力電圧	TDC-511 +24(V)±1 (V)	(V)	(V)	
	TDC-511 -24(V)±1 (V)	(V)	(V)	
	TDC-511 +15(V)±0.6(V)	(V)	(V)	
	TDC-511 -15(V)±0.6(V)	(V)	(V)	
	TDC-511 + 5(V)±0.2(V)	(V)	(V)	
	SC-R74-2779 +24(V)±1.2(V)	(V)	(V)	
	SC-R74-2779 + 5(V)±1 (V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	TDC-511 +24(V):10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	TDC-511 -24(V):10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	TDC-511 +15(V):10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	TDC-511 -15(V):10(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	TDC-511 + 5(V):20(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	SC-R74-2779 +24(V):300(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
	SC-R74-2779 + 5(V):200(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源 4.1 出力電圧	設定値±10(V) 100 (V)	(V)	(V)	
	1000 (V)	(V)	(V)	
	2000 (V)	(V)	(V)	
	3000 (V)	(V)	(V)	
4.2 リップル電圧	1000(V) 時 100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．計数動作の確認	PT=1.0min にて 1000±2 カウント以内	(カウント)	(カウント)	
6．リニアアンプ増幅度 6.1 ^{129}I アンプ用	^{129}I SHAPING : Gauss	(dB)	(dB)	
	: DL	(dB)	(dB)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ヨウ素モニタ（ＪＤＣ－Ｒ７４－２７７９）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
6.2 ^{131}Ｉアンプ用	^{131}Ｉ	LPA-101	(dB)	(dB)	
7．総合直線性 7.1 ^{129}Ｉ用	^{129}Ｉ				
	MPG	LL			
	8.0	79～81(%)	(%)	(%)	
	6.0	59～61(%)	(%)	(%)	
	4.0	39～41(%)	(%)	(%)	
	2.0	19～21(%)	(%)	(%)	
7.2 ^{131}Ｉ用	^{131}Ｉ				
	MPG	LL	ダイヤル値	ダイヤル値	
	8.0	7.9～8.1(%)	(%)	(%)	
	6.0	5.9～6.1(%)	(%)	(%)	
	4.0	3.9～4.1(%)	(%)	(%)	
	2.0	1.9～2.1(%)	(%)	(%)	
8．プラトー測定	プラトー領域		(V)	(V)	
	プラトー領域		(%/100V)	(%/100V)	

プラトー測定



印加電圧（V）	計数値（cpm）

点検整備記録書

機器名	可搬型ヨウ素モニタ（ＪＤＣ－Ｒ７４－２７７９）	機器 No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
9．校正試験 9.1 バックグラウンドの測定	^{129}I 40(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	線源 ^{129}I (Bq) 線源 MOCK-I (Bq)
	^{131}I 50(cpm) 以下	(cpm)	(cpm)	
9.2 効率	^{129}I 2(%) 以上	(%)	(%)	
	^{131}I 3(%) 以上	(%)	(%)	
9.3 エネルギー分解能	^{129}I 分解能 35(%) 以下	(%)	(%)	
10. 測定モードの確認	使用電圧	(V)	(V)	
	LPA-101設定 Gain COARSE			
	FINE			
	PHA MODE:DUAL L.L			
	U.L			
	TDC-511設定 PHA MODE:DUAL L.L			
	U.L			
11. 総合動作	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
12. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

設置場所		使用線源	
点検場所		別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型ダストモニタ（S－1757）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁抵抗	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源 3.1 出力電圧	24(V) : 24±1.0(V)	(V)	(V)	
	-24(V) :-24±1.0(V)	(V)	(V)	
	12(V) : 12±0.5(V)	(V)	(V)	
	-12(V) : 12±0.5(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	5(mVp-p)以下 24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源 4.1 出力電圧	メータ指示： フルスケールの±2.5(%)以内	メータ指示値	メータ指示値	
	出力電圧　：±15(V) 以内	デジボルメータ値	デジボルメータ値	
	500(V)	(V)	(V)	
		(V)	(V)	
	700(V)	(V)	(V)	
		(V)	(V)	
	900(V)	(V)	(V)	
		(V)	(V)	
	1100(V)	(V)	(V)	
		(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
		(V)	(V)	
4.2 負荷変動	±0.2(%)以内	(%)	(%)	
4.3 リップル電圧	0.5(mA) 負荷時 50(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型ダストモニタ（S－１７５７）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項　　目	基　　準		設 定 値	点 検 値	備　　考
5．リニア・アンプ部 5.1 利得の測定	最大出力電圧±5(%)以内				
	×1	8	(mV)	(mV)	
		16	(V)	(V)	
		32	(V)	(V)	
		64	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
	×2	8	(mV)	(mV)	
		16	(V)	(V)	
		32	(V)	(V)	
		64	(V)	(V)	
		128	(V)	(V)	
		256	(V)	(V)	
	最大出力電圧	10(V) 以上	(V)	(V)	
		-10(V) 以上	(V)	(V)	
5.2　雑音の測定	入力等価雑音 20(μVRMS) 以下		(μVRMS)	(μVRMS)	
6．ディスクリ部 6.1 入力動作範囲の確認	フルスケールの±0.5(%)以内 ダイヤル目盛	50	(V)	(V)	
		300	(V)	(V)	
		500	(V)	(V)	
		700	(V)	(V)	
		900	(V)	(V)	
6.2 分解能の測定	1.5(μsec)以下		(μsec)	(μsec)	
6.3 出力波形の確認	パルス波高：約 4(V)		(V)	(V)	
	パルス幅　：約 0.5(μsec)		(μsec)	(μsec)	
7．計数率計部	指示計、記録計とも ±0.24（デカード）以内				
	×10¹	指示計	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ（S－１７５７）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
	$\times 10^2$	指示計	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
	$\times 10^3$	指示計	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
	$\times 10^4$	指示計	(cpm)	(cpm)	
		記録計	(cpm)	(cpm)	
8．校正試験	点検設備記録書 ZnS(Ag)シンチレーション検出器（S-1766），GM管検出器（S-1767）参照				
9．警報動作	正常に動作すること。		良・否(　　)	良・否(　　)	
10．総合判定	各項目について異常のないこと。		良・否(　　)		

構成機器リスト	

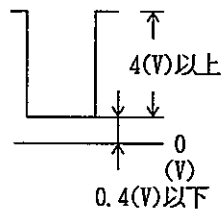
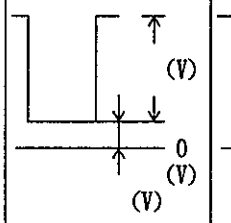
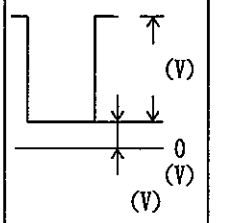
設置場所	Ｐｕ－３	使用線源	
点検場所	校　正　室	別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型ダストモニタ（MDR－３０４）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 出力電圧	±0.6(V)以内 + 12(V)	(V)	(V)	
	- 12(V)	(V)	(V)	
2.2 リップル電圧	50(mVp-p) 以下 + 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	- 12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．高圧電源 3.1 出力電圧	±15(V) 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	100(mVp-p)以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．前置増幅部 4.1 アンプゲイン	約15（倍）	(倍)	(倍)	
4.2 アンプ雑音	50(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．計数率計部 5.1 ディスクリレベル	-200±10(mV)	(mV)	(mV)	
5.2 ディスクリレベル出力波高				
5.3 メータ指示精度	±0.24(dec) 以内 10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10^2 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10^4 (cpm)	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ（MDR－３０４）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
5.4 記録計指示精度	±0.24(dec) 以内			
	10 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10^2 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10^3 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
	10^4 (cpm)	(cpm)	(cpm)	
6．校正試験	点検整備記録書 ZnS(Ag)シンチレーション検出器 (ZD-1005B)，GM管検出器(GP-103BU)参照			
7．警報動作	正常に動作すること。	良・否(　　)	良・否(　　)	
8．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否(　　)		

構成機器リスト	

設置場所	ＰＷＴＦ	使用線源	^{90}Sr・^{230}Th(ﾁｪｯｸ ｿｰｽ)、協-1197
点検場所	校正室	別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型ダストモニタ （MDR－R７４－３０１５）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．絶縁抵抗	50(MΩ) 以上	(MΩ)	(MΩ)	
3．低圧電源 3.1 出力電圧	±3(%)以内 +24(V)	(V)	(V)	
	-24(V)	(V)	(V)	
	+12(V)	(V)	(V)	
	-12(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)	(V)	(V)	
3.2 出力電圧の負荷変動	無負荷時の±2(%)以内 0.5A負荷時 +24(V)	(V)	(V)	
	-24(V)	(V)	(V)	
	+12(V)	(V)	(V)	
	-12(V)	(V)	(V)	
	無負荷時の±1(%)以内 2.0A負荷時 + 6(V)	(V)	(V)	
3.3 出力電圧の電源変動	±0.1(%)以内 入力電圧90(V) 時 +24(V)	(V)	(V)	
	-24(V)	(V)	(V)	
	+12(V)	(V)	(V)	
	-12(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)	(V)	(V)	
	入力電圧110(V)時 +24(V)	(V)	(V)	
	-24(V)	(V)	(V)	
	+12(V)	(V)	(V)	
	-12(V)	(V)	(V)	
	+ 6(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ（MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
3.4 リップル電圧	30(mVp-p) 以下 0.5A負荷時	+24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-24(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		+12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
		-12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	2.0A負荷時	+ 6(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．高圧電源 4.1 出力電圧の確認	負荷電圧100(μA)時の出力可変範囲				
		α線用	～ (V)	～ (V)	
		β線用	～ (V)	～ (V)	
4.2 電圧設定精度の確認	メータ時指示値： フルスケールの±1(%)以内 デジボル値： フルスケールの±1(%)以内				
(1) α線用	0(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
	500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
	1000(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
	1500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
(2) β線用	0(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
	500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
	1000(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
	1500(V)	メータ指示値	(V)	(V)	
		デジボル値	(V)	(V)	
4.3 電源電圧の変動 (1) α線用	100(μA)負荷時の 1500(V) ±0.5(%)以内 入力電圧	100(V)	(V)	(V)	
	入力電圧	90(V)	(V)	(V)	
	入力電圧	110(V)	(V)	(V)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ （MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
(2) β線用	入力電圧 100(V)		(V)	(V)	
	入力電圧 90(V)		(V)	(V)	
	入力電圧 110(V)		(V)	(V)	
4.4 リップル電圧	1500(V),100(μA)負荷時 50(mVp-p) 以下				
		α線用	(mVp-p)	(mVp-p)	
		β線用	(mVp-p)	(mVp-p)	
5．前置増幅器 (PAM-1025) 5.1 増幅器部 (1) 増幅度測定	約0.95倍		(倍)	(倍)	
(2) 直線性の測定		-0.2(V)	(V)	(V)	
		-0.4(V)	(V)	(V)	
		-0.6(V)	(V)	(V)	
		-0.8(V)	(V)	(V)	
		-1.0(V)	(V)	(V)	
(3) 最大無ひずみ電圧	-1.0(V) 以上		(V)	(V)	
5.2 ディスクリレベルの確認	-100±10(mV)		(mV)	(mV)	
6．直線増幅波高分析器 6.1 増幅度の確認 (1) MODE RC	各レンジに対して±2(db)以内				
	GAIN 1	ATT 60(dB)	(dB)	(dB)	
	1/5	46(dB)	(dB)	(dB)	
	1/10	40(dB)	(dB)	(dB)	
	1/50	26(dB)	(dB)	(dB)	
	FINE	6(dB) 可変	(dB)	(dB)	
(2) MODE DL	GAIN	ATT			
	1	60(dB)	(dB)	(dB)	
	1/5	46(dB)	(dB)	(dB)	
	1/10	40(dB)	(dB)	(dB)	
	1/50	26(dB)	(dB)	(dB)	
	FINE	6(dB) 可変	(dB)	(dB)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ（MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
6.2 波形分析器					
(1) LLD		9.0	(V)	(V)	
		8.0	(V)	(V)	
		5.0	(V)	(V)	
		3.0	(V)	(V)	
		1.0	(V)	(V)	
(2) ULD		9.0	(V)	(V)	
		8.0	(V)	(V)	
		5.0	(V)	(V)	
		3.0	(V)	(V)	
		1.0	(V)	(V)	
(3) ΔE	LLD=1(V) ULD 可変	2.0	(V)	(V)	
		4.0	(V)	(V)	
		6.0	(V)	(V)	
		8.0	(V)	(V)	
		10.0	(V)	(V)	
7. リニアカウントレートメータ					
7.1 ディスクリレベルの確認	-1.0±0.2(V)以内				
		α線用	(V)	(V)	
		β線用	(V)	(V)	
7.2 CAL値指示の確認	3000±500(cpm)以内				
		α線用	(cpm)	(cpm)	
		β線用	(cpm)	(cpm)	
7.3 レートメータ指示値の確認					
(1) α線用	30レンジ	10(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		20(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		30(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	100レンジ	30(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		60(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		90(cpm)	(cpm)	(cpm)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ （MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
(2) β線用	300レンジ	100(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		200(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1Kレンジ	0.3(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		0.6(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		0.9(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	3Kレンジ	1.0(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		2.0(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		3.0(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	10Kレンジ	3.0(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		6.0(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		9.0(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	30Kレンジ	10(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		20(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		30(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	100Kレンジ	30(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		60(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		90(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	30レンジ	10(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		20(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		30(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	100レンジ	30(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		60(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		90(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	300レンジ	100(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		200(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		300(cpm)	(cpm)	(cpm)	
	1Kレンジ	0.3(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		0.6(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		0.9(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ（MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
7.4 レコーダの確認 (1) α線用	3Kレンジ	1(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		2(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		3(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	10Kレンジ	3(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		6(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		9(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	30Kレンジ	10(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		20(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		30(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	100Kレンジ	30(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		60(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
		90(Kcpm)	(Kcpm)	(Kcpm)	
	30 レンジ	10(cpm)	(mV)	(mV)	
		20(cpm)	(mV)	(mV)	
		30(cpm)	(mV)	(mV)	
	100 レンジ	30(cpm)	(mV)	(mV)	
		60(cpm)	(mV)	(mV)	
		90(cpm)	(mV)	(mV)	
	300レンジ	100(cpm)	(mV)	(mV)	
		200(cpm)	(mV)	(mV)	
		300(cpm)	(mV)	(mV)	
	1Kレンジ	0.3(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.6(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.9(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	3Kレンジ	1(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		2(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		3(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	10Kレンジ	3(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		6(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		9(Kcpm)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ （MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
(2) β線用	30Kレンジ	10(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		20(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		30(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	100Kレンジ	30(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		60(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		90(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	30Kレンジ	10(cpm)	(mV)	(mV)	
		20(cpm)	(mV)	(mV)	
		30(cpm)	(mV)	(mV)	
	100Kレンジ	30(cpm)	(mV)	(mV)	
		60(cpm)	(mV)	(mV)	
		90(cpm)	(mV)	(mV)	
	300レンジ	100(cpm)	(mV)	(mV)	
		200(cpm)	(mV)	(mV)	
		300(cpm)	(mV)	(mV)	
	1Kレンジ	0.3(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.6(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		0.9(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	3Kレンジ	1(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		2(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		3(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	10Kレンジ	3(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		6(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		9(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	30Kレンジ	10(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		20(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		30(Kcpm)	(mV)	(mV)	
	100Kレンジ	30(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		60(Kcpm)	(mV)	(mV)	
		90(Kcpm)	(mV)	(mV)	

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ（MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準			設定値	点検値	備考
7.5 時定数測定	×100Kレンジにて ±30(%)					
	α線用		1(sec)	(sec)	(sec)	
			10(sec)	(sec)	(sec)	
			100(sec)	(sec)	(sec)	
	β線用		1(sec)	(sec)	(sec)	
			10(sec)	(sec)	(sec)	
			100(sec)	(sec)	(sec)	
8．警報動作 8.1 警報動作の確認	正常に動作すること。					
	正常時	警報ランプ	消灯	良・否(　　)	良・否(　　)	
		ブザー	停止	良・否(　　)	良・否(　　)	
	正常→異常時	警報ランプ	点滅	良・否(　　)	良・否(　　)	
		ブザー	吹鳴	良・否(　　)	良・否(　　)	
	ｱﾗｰﾑﾓｼﾞｭｰﾙﾌﾞｻﾞｰｽﾄｯﾌﾟｽｲｯﾁ押	警報ランプ	点滅	良・否(　　)	良・否(　　)	
		ブザー	停止	良・否(　　)	良・否(　　)	
	ﾚｰﾄﾒｰﾀﾓｼﾞｭｰﾙﾘｾｯﾄｽｲｯﾁ押	警報ランプ	消灯	良・否(　　)	良・否(　　)	
		ブザー	停止	良・否(　　)	良・否(　　)	
8.2 接点出力の確認	正常に動作すること。			良・否(　　)	良・否(　　)	
9．校正試験	点検設備記録書Zns(Ag) シンチレーション検出器(ZD-1005BW),GM管検出器(GP-103BU)参照					
10．総合検査 10.1 バックグラウンドの測定 (1) ZnS(Ag) シンチレーション検出器	1(cpm)以下			(cpm)	(cpm)	
(2) GM管検出器	100(cpm)以下			(cpm)	(cpm)	
10.2 計数効率 (1) ZnS(Ag) シンチレーション検出器	10(%)以上			(%)	(%)	
(2) GM管検出器	25(%)以上			(%)	(%)	
11．総合判定	各項目について異常のないこと。			良・否(　　)		

点検整備記録書

機器名	可搬型ダストモニタ （MDR－R74－3015）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考

構成機器リスト	

設置場所	管理－I	使用線源	^{230}Th, ^{90}Sr(チェック ソース)、協-1197
点検場所		別添（有・無）	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	可搬型α・β線ダストモニタ (MDR-R74-3119,4633)	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源 2.1 出力電圧 (1) α線用	5 ±0.2(V)	(V)	(V)	
	12 ±0.4(V)	(V)	(V)	
	(VD) 5 ±0.2(V)	(V)	(V)	
(2) β線用	5 ±0.2(V)	(V)	(V)	
	12 ±0.4(V)	(V)	(V)	
	(VD) 5 ±0.2(V)	(V)	(V)	
2.2 リップル電圧 (1) α線用	150(mVp-p)以内 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	(VD) 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
(2) β線用	5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	12(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
	(VD) 5(V)	(mVp-p)	(mVp-p)	
3．高圧電源 3.1 出力電圧 (1) α線用	±3(%)以内 500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
(2) β線用	500(V)	(V)	(V)	
	1000(V)	(V)	(V)	
	1500(V)	(V)	(V)	
3.2 リップル電圧	1500(V)時 100(mVp-p)以内 α線用	(mVp-p)	(mVp-p)	
	β線用	(mVp-p)	(mVp-p)	

点検整備記録書

機器名	可搬型α・β線ダストモニタ (MDR-R74-3119,4633)	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
4. アンプ・ディスクリ部					
4.1 アンプゲイン	2.5 ～3.5 (倍)	α線用	(倍)	(倍)	
		β線用	(倍)	(倍)	
4.2 ディスクリレベル	-100±10(mV)	α線用	(mV)	(mV)	
		β線用	(mV)	(mV)	
5. 指示精度					
5.1 表示器の確認 (1) α線用	±3(%)以内	60(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
(2) β線用		60(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		600(cpm)	(cpm)	(cpm)	
		6000(cpm)	(cpm)	(cpm)	
5.2 レコーダ出力電圧の確認 (1) α線用	リニア出力 フルスケールの±3(%)以内 ログ出力 フルスケールの ±0.15 (デカート) 以内	60(cpm) リニア	(cpm)	(cpm)	
		60(cpm) ログ	(cpm)	(cpm)	
		600(cpm) リニア	(cpm)	(cpm)	
		600(cpm) ログ	(cpm)	(cpm)	
		6000(cpm) リニア	(cpm)	(cpm)	
		6000(cpm) ログ	(cpm)	(cpm)	
(2) β線用		60(cpm) リニア	(cpm)	(cpm)	
		60(cpm) ログ	(cpm)	(cpm)	
		600(cpm) リニア	(cpm)	(cpm)	
		600(cpm) ログ	(cpm)	(cpm)	
		6000(cpm) リニア	(cpm)	(cpm)	
		6000(cpm) ログ	(cpm)	(cpm)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	可搬型α・β線ダストモニタ (MDR-R74-3119,4633)	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

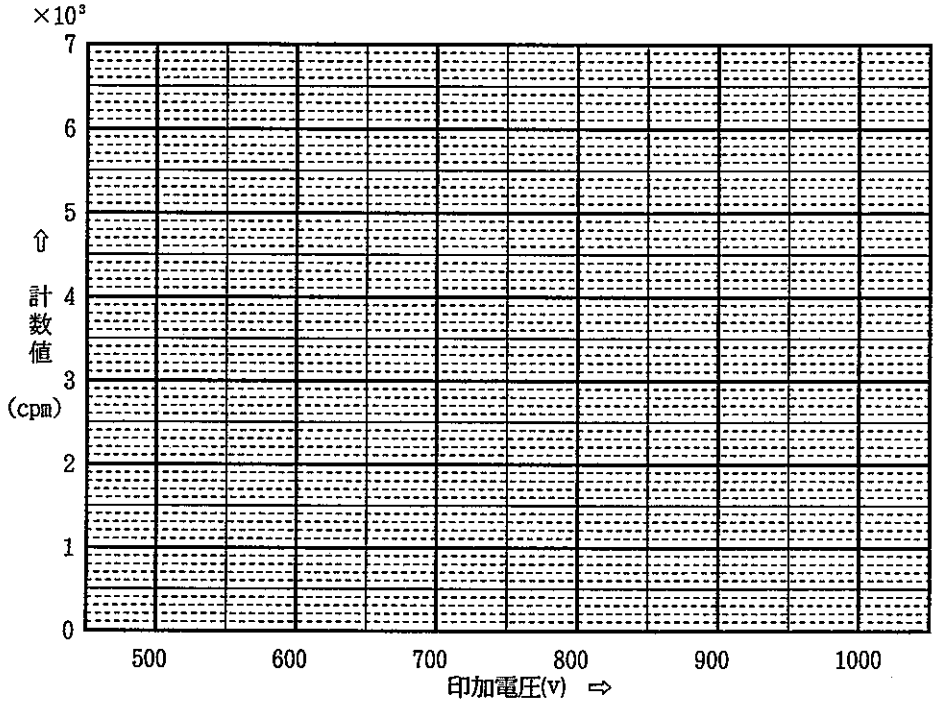
項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
6．プラトー測定	使用電圧が、α線プラトー・β線プラトー曲線の平滑な所にあること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
7．記録計 7.1 チャート送りの確認	正常に動作すること。	良・否（ ）	良・否（ ）	
8．バックグラウンドの測定 8.1 α線	1（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	
8.2 β線	１００（cpm）以下	（cpm）	（cpm）	
9．計数効率 9.1 α線	5（%）以上	（%）	（%）	
9.2 β線	２０（%）以上	（%）	（%）	
10. α・β分離能力 10.1 α計数への混入比	0.01(%) 以下	（%）	（%）	
10.2 β計数への混入比	1.0(%) 以下	（%）	（%）	
11. 警報動作の確認	正常に動作すること。 α線用	良・否（ ）	良・否（ ）	
	β線用	良・否（ ）	良・否（ ）	
12. ＬＣＤ表示切換スイッチ動作の確認	正常に動作すること。 α線用	良・否（ ）	良・否（ ）	
	β線用	良・否（ ）	良・否（ ）	
13. 測定モードの確認 13.1 α線用	使用電圧	（V）	（V）	
	警報設定値	（cpm）	（cpm）	
	標準偏差の設定値	（%）	（%）	
13.1 β線用	使用電圧	（V）	（V）	
	警報設定値	（cpm）	（cpm）	
	標準偏差の設定値	（%）	（%）	
14. 総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（ ）		

点検整備記録書

機器名	可搬型α・β線ダストモニタ (MDR-R74-3119,4633)	機器No.	TAG. No. SER. No.

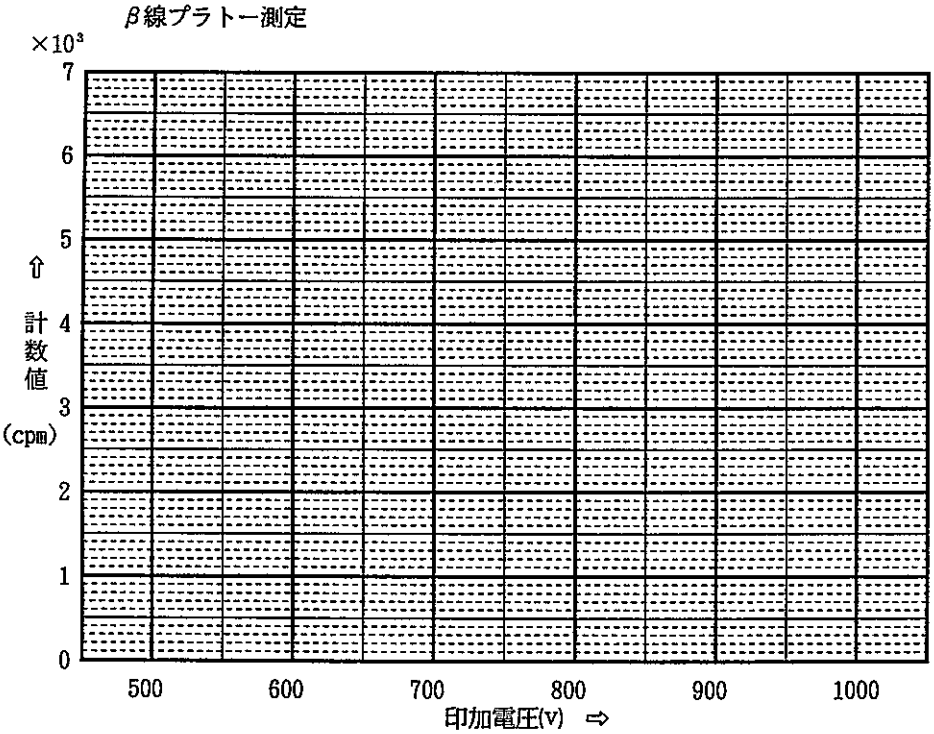
項目	基準	設定値	点検値	備考

α線プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
500	
550	
600	
650	
700	
750	
800	
850	
900	
950	
1000	

β線プラトー測定



印加電圧(v)	計数率(cpm)
500	
550	
600	
650	
700	
750	
800	
850	

設置場所		使用線源	^{90}Sr・^{230}Th (チェックソース), ^{241}Am , 協－1322
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機器名	線量率表示器 （ＤＩＭ－２０１）	承認		年月日	
機器No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源部 2.1 電池電圧	5.0～6.7(V)	(V)	(V)	
2.2 電圧切替え動作	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．機能試験 3.1 RANGE 切替え動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 REST動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．本体パルス計数試験	H レンジ　60±1(mSv/h)	(mSv/h)	(mSv/h)	
	L レンジ　600±1(mSv/h)	(mSv/h)	(mSv/h)	
5．パルス出力の確認	半値幅 約5 (μsec) 3(V) 以上 0.5(V) 以下 波高値	(μsec) (V) (V)	(μsec) (V) (V)	
6．線源校正 6.1 校正定数 (1) 内部検出器	各レンジとも1±0.3 以内 H レンジ			
	L レンジ			
(2) 外部検出器	H レンジ			
	L レンジ			
6.2 直線性	各レンジとも 基準値±10(%) 以内又は最大目盛値±5(%) 以内 内部検出器	良・否（　　）	良・否（　　）	
	外部検出器	良・否（　　）	良・否（　　）	
6.3 ディプスイッチの設定値		（　　）	（　　）	
7．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．総合判定	各項について異常のないこと。	良・否（　　）		

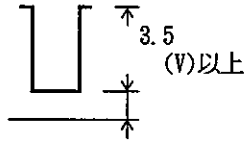
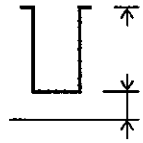
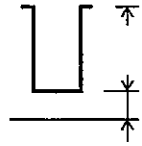
設置場所	再処理	使用線源	^{137}Cs:7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	半導体ポータブルエリアモニタ（MAR－751）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．電源部 2.1 電池電圧	4.8 ～6.9(V)	(V)	(V)	
2.2 ＡＣ電源電圧	5.0 ±0.2(V)	(V)	(V)	
2.3 バイアス電圧	12(V)以上	(V)	(V)	
2.4 バッテリダウン表示動作の確認	4.3 ～4.8(V)	(V)	(V)	
2.5 電源の切替動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3．指示部 3.1 指示値の確認	±15(%) 以内			
(1) ＳＬＯＷ	3×10^{2}(cpm)にて 0.07(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
	3×10^{3}(cpm)にて 0.75(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
	3×10^{4}(cpm)にて 7.5(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
	3×10^{5}(cpm)にて 75(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
(2) ＦＡＳＴ	3×10^{2}(cpm)にて 0.07(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
	3×10^{3}(cpm)にて 0.75(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
	3×10^{4}(cpm)にて 7.5(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
	3×10^{5}(cpm)にて 75(mSV/h)	(mSV/h)	(mSV/h)	
3.2 フルスケールオーバ動作の確認	正常に動作すること。 ＳＬＯＷ	良・否（　　）	良・否（　　）	
	ＦＡＳＴ	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．パルス出力の確認	 0.5(V)以下	 (V)	 (V)	
5．警報動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
6．表示輝度の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

点検整備記録書

機器名	半導体ポータブルエリアモニタ（MAR－７５１）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準		設定値	点検値	備考
7．線源校正 7.1 校正定数	各レンジとも１±0.3以内 SLOW				
	FAST				
7.2 直線性	各レンジとも基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内		良・否（　　）	良・否（　　）	＊基準値は7.1項で描いた直線上の点
7.3 ディップスイッチの設定	読み値		（　　）	（　　）	
8．レコーダ出力の確認	計算値(2.5×Log_{10}(LED 表示値))±0.4(mV)				
	ＬＥＤ指示値	計算値			
	(mSV/h)	(mV)	(mV)	(mV)	
	(mSV/h)	(mV)	(mV)	(mV)	
	(mSV/h)	(mV)	(mV)	(mV)	
	(mSV/h)	(mV)	(mV)	(mV)	
9．ノイズチェック	ノイズのないこと。		良・否（　　）	良・否（　　）	
10．総合判定	各項目について異常のないこと。		良・否（　　）		

設置場所		使用線源	^{137}Cs：7.4(GBq),74(GBq),1.11(TBq)
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	半導体ポータブルエリアモニタ（MAR－７６１B）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
1．点検・清掃	本体の外部・内部が清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（ ）	良・否（ ）	
2．電源部 2.1 低圧電源	+12（V）系 ：12±0.4(V)以内	(V)	(V)	
	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ系（+5V）：5±0.2(V)以内	(V)	(V)	
	検出器系（VD）：5±0.2(V)以内	(V)	(V)	
2.2 リップル電圧	150(mVp-p)以内 +12（V）系	(mVp-p)	(mVp-p)	
	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ系（+5V）	(mVp-p)	(mVp-p)	
	検出器系（VD）	(mVp-p)	(mVp-p)	
2.3 バイアス電圧	21±3(V)以内	(V)	(V)	
3．指示精度	±(1%1+digit) 0.6(cps)にて 0.6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	6(cps)にて 6(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	60(cps)にて 60(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	600(cps)にて 600(μSv/h)	(μSv/h)	(μSv/h)	
	1000(cps)にて OVER FLOW 999で点滅	良・否（ ）	良・否（ ）	
4．記録計出力	±0.03(V)以内 0.6(cps)にて 0.16～0.22(V)	(V)	(V)	
	6(cps)にて 0.41～0.47(V)	(V)	(V)	
	60(cps)にて 0.66～0.72(V)	(V)	(V)	
	600(cps)にて 0.91～0.97(V)	(V)	(V)	
	1000(cps)にて 0.97～1.03(V)	(V)	(V)	
5．線源校正 5.1 校正定数	1 ±0.3 以内	（ ）	（ ）	
5.2 直線性	基準値±10(%) 又は最大目盛値±5(%)以内	良・否（ ）	良・否（ ）	＊基準値は5.1項で描いた直線上の点
5.3 換算定数の設定	読み値	(μSv/h/S^{-1})	(μSv/h/S^{-1})	

点検整備記録書

機器名	半導体ポータブルエリアモニタ（MAR－761B）	機器No.	TAG. No. SER. No.

項目	基準	設定値	点検値	備考
6．警報動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
7．LCD表示切換スイッチ動作の確認	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
8．ノイズチェック	ノイズのないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
10．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）		

設置場所		使用線源	
点検場所	校正室	別添（有・無）	グラフ

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（総合検査）

機 器 名	可搬型ヨウ素モニタ	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．点検前測定モードの確認	高圧電源設定値　0.80(ﾀﾞｲﾔﾙ)	（目盛）	（目盛）	
	ﾘﾆｱｱﾝﾌﾟ&SCAﾕﾆｯﾄ　COARSE.G			
	FINE.G			
	LLD			
	ULD			
	ｽｹｰﾗ&ﾀｲﾏ　ﾌﾟﾘｾｯﾄ値			
3．エネルギー分解能測定	分解能　：　40(%)以下	(%)	(%)	
	直線性　：　直線上に乗ること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
4．バックグラウンドの測定	30(cpm)以下	(cpm)	(cpm)	
5．検出効率の測定	2 (%)以上	(%)	(%)	
6．測定モードの確認	高圧電源設定値　0.80(ﾀﾞｲﾔﾙ)	（目盛）	（目盛）	
	ﾘﾆｱｱﾝﾌﾟ&SCAﾕﾆｯﾄ　COARSE.G			
	FINE.G			
	LLD			
	ULD			
	ｽｹｰﾗ&ﾀｲﾏ　ﾌﾟﾘｾｯﾄ値			
7．総合判定	各項目について異常のないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	アンプ&バイアスサプライ （９２５シンチ）	承認		年 月 日	
機 器 No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．低圧電源の確認 2.1 出力電圧の確認	U 7-3　+24(V)±1.0(V)	(V)	(V)	
	U26-2　−24(V)±1.0(V)	(V)	(V)	
	U28-3　+12(V)±1.0(V)	(V)	(V)	
	U27-2　−12(V)±1.0(V)	(V)	(V)	
	U13-3　+ 5(V)±0.8(V)	(V)	(V)	
3．高圧電源の確認 3.1 表示値の確認	BIASﾀﾞｲｱﾙ 0.50　0.50 ±0.02(kV)	(kV)	(kV)	
	1.00　1.00 ±0.02(kV)	(kV)	(kV)	
	2.00　2.00 ±0.03(kV)	(kV)	(kV)	
3.2 出力電圧の確認	BIASﾀﾞｲｱﾙ 0.50　500(V)± 20(V)	(kV)	(kV)	
	1.00　1000(V)± 20(V)	(kV)	(kV)	
	2.00　2000(V)± 30(V)	(kV)	(kV)	
3.3 負荷変動の確認	負荷 1(mA) 無負荷時出力電圧(2000V) に対し±0.5(kV)	(kV)	(kV)	
3.4 リップルノイズの確認	BIASﾀﾞｲｱﾙ 2.00　負荷 1(mA)時 25(mVp-p) 以下	(mVp-p)	(mVp-p)	
4．増幅機能の確認 4.1 ｺｰｽﾞｹﾞｲﾝの確認	ｺｰｽﾞｹﾞｲﾝ × 2　増幅度 20±10(%)	(倍)	(倍)	
	× 4　40±10(%)	(倍)	(倍)	
	× 10　100±10(%)	(倍)	(倍)	
	× 20　200±10(%)	(倍)	(倍)	
	× 50　500±10(%)	(倍)	(倍)	
	×100　1000±10(%)	(倍)	(倍)	

点 検 整 備 記 録 書

機 器 名	アンプ&バイアスサプライ （９２５シンチ）	機 器 No.	TAG. No. SER. No.

項 目	基 準	設 定 値	点 検 値	備 考
4.2 ﾌｧｲﾝｹﾞｲﾝ の確認	ﾌｧｲﾝｹﾞｲﾝ 2.5 増幅度 5±10(%)	(倍)	(倍)	
	12.5 25±10(%)	(倍)	(倍)	
5．ＳＣＡ機能の確認				
5.1 LLD 動作の確認	LLD 表示 / AMP.OUT 波高値 1.00 / 1.00 1.0±0.1(V)	(V)	(V)	
	5.00 / 5.00 5.0±0.1(V)	(V)	(V)	
	9.00 / 9.00 9.0±0.2(V)	(V)	(V)	
5.2 ULD 動作の確認	ULD 表示 / AMP.OUT 波高値 1.00 / 1.00 1.0±0.1(V)	(V)	(V)	
	5.00 / 5.00 5.0±0.1(V)	(V)	(V)	
	9.00 / 9.00 9.0±0.2(V)	(V)	(V)	
6．ﾚｰﾄﾒｰﾀ機能の確認	10.0±0.3(kcps)	(kcps)	(kcps)	

点検整備記録書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機器名	カウンタ／タイマ（UT－02）	承認		年月日	
機器No.	TAG. No. SER. No.	調査		点検者名	

項目	基準	設定値	点検値	備考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．計数及びプリセット動作の確認	プリセット値 1	（カウント）	（カウント）	
	カウント値 1×10^{1} ±0.5(%)	（カウント）	（カウント）	
	プリセット値 10	（カウント）	（カウント）	
	カウント値 1×10^{3} ±0.5(%)	（カウント）	（カウント）	
	プリセット値 100	（カウント）	（カウント）	
	カウント値 1×10^{6} ±0.5(%)	（カウント）	（カウント）	
3．操作SWの確認 3.1 START/STOP.SW	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	
3.2 RESET.SW	正常に動作すること。	良・否（　　）	良・否（　　）	

点 検 整 備 記 録 書

管理番号	
整理番号	

検査名（単体検査）

機 器 名	ヨウ素モニタ検出器 （２７６）	承認		年 月 日	
機 器 No.	ＴＡＧ. No. ＳＥＲ. No.	調査		点検者名	

項　　目	基　　準	設 定 値	点 検 値	備　　考
1．点検清掃	本体の外部・内部の清掃され、部品の破損及びネジのゆるみがないこと。	良・否（　　）	良・否（　　）	
2．前置増幅器 2.1 増幅度及び雑音測定	増幅度　0.85(倍)±6(%)	(倍)	(倍)	
	入力換算雑音　100(μVRMS) 以下	(μVRMS)	(μVRMS)	
2.2 直線性の確認	入力			
	100(mV)時　+85(mV)± 5 (mV)	(mV)	(mV)	
	1(mV)時　+850(V)± 50 (mV)	(V)	(V)	
	10(mV)時　+8.5(V)±0.5 (mV)	(V)	(V)	
3．エネルギー分解能測定	分解能　：　40(%)以下	(%)	(%)	
4．ﾘﾆｱｱﾝﾌﾟ&SCAﾕﾆｯﾄ設定	高圧電源設定値　0.8(ﾀﾞｲﾔﾙ)	(目盛)	(目盛)	
	ﾘﾆｱｱﾝﾌﾟ&SCAﾕﾆｯﾄ　COARSE.G			
	FINE.G			
	LLD			
	ULD			